社会人野球
日本選手権大会

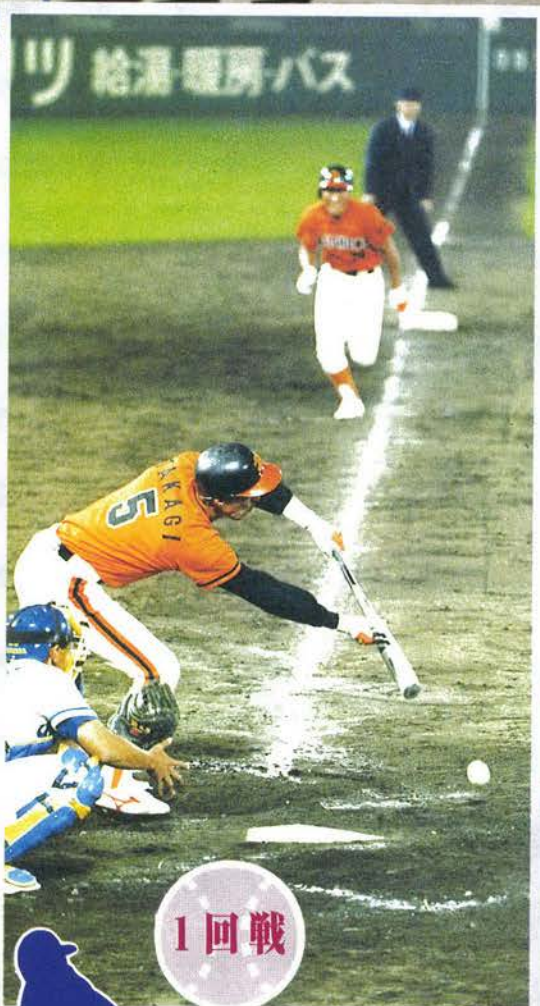
20年史

日本野球連盟　毎日新聞社

優勝チームに贈られるダイヤモンド旗(上)と佐伯達夫杯(下左)。下右は準優勝トロフィー

▲第20回大会開会式に勢ぞろいした選手たち。ダイヤモンド旗を返還するのは前年優勝・東芝の葛城弘樹主将。

▲神戸国際会館で行われた前夜祭に集合した出場26チームのマスコットガールが勢ぞろい。



1回戦

▲大昭和製紙北海道－四国銀行　十二回表大昭和北海道一死一、三塁、高木が決勝のスクイズを決める。

1回戦

◀JA岩手県経済連－日本石油　七回裏日本石油二死一、二塁、徳永が左越えにダメ押しの3ランを放つ。

第20回記念大会

写真に見る20年の歩み

準々決勝

▲河合楽器－NTT東北　六回裏NTT無死満塁から三瓶が左越え三塁打を放って、3者が相次いで生還。

準々決勝

▲NTT関西－日本通運　八回裏日通無死二、三塁で、中田が右中間に2点三塁打。

準決勝

▲NTT東北－日産自動車　一回裏日産無死二塁、青柳が二塁から日置を迎え入れる右前打を放つ。

優勝戦

▲住友金属－日産自動車　六回裏住友金属二死二塁、中西の三遊間安打で二塁から山田生還、6点目。

優勝戦

◀日産自動車を完封したエース尾山に集まる住友金属ナイン

写真に見る

第１回大会

▲〔第１回大会１回戦〕三菱重工神戸－盛岡鉄道管理局　試合終了後、三宅球審から第１試合第１球の記念ボールを受け取る盛岡鉄道管理局・佐藤繁投手

第２回大会

▲〔第２回大会１回戦〕ＴＤＫ－丸善石油　秋田からやって来たナマハゲも登場したＴＤＫの応援席

第４回大会

〔第４回大会第２回戦〕住友金属－北海道拓殖銀行　九回裏住友金属一死一、二塁、西村が三塁左を抜くサヨナラ安打を放ち、二塁から森が生還

第３回大会

▲〔第３回大会優勝戦〕新日鉄名古屋－日鉱佐賀関の最後の打者を打ち取り、優勝を決めた新日鉄名古屋。水谷啓投手のところに駆け寄って喜びを分かちあう

20年の歩み

第5回大会

▲〔第5回大会優勝戦〕東京ガス－北海道拓殖銀行　九回表北海道拓殖銀行一死一、三塁、丸山の右犠飛で三塁から髙岡がホームイン、決勝点を挙げる

第6回大会

▲〔第6回大会準決勝〕電電九州－松下電器　七回表、松下電器の鍛治舎が左越えにソロホーマー、これが決勝点となった（捕手・川越）

第7回大会

▲〔第7回大会準々決勝〕日本生命－松下電器　九回裏松下電器二死二、三塁、木原が逆転サヨナラ3ランを放ち、ナインに迎えられる

第8回大会

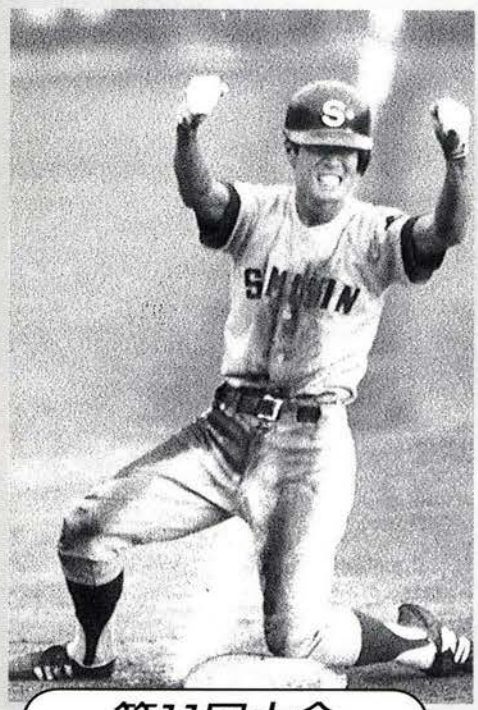
▲〔第8回大会優勝戦〕富士重工業－大昭和製紙北海道　四回裏大昭和製紙北海道二死二塁、大野の右前打で二塁からホームをつくも、本塁寸前タッチアウト（捕手・増本）

第９回大会

▲〔第９回大会１回戦〕王子製紙春日井－三菱重工広島　３回表王子製紙春日井二死一、三塁、山際が左中間に２点タイムリーを放つ

第10回記念大会

▲〔第10回大会〕住友金属－東芝府中　十二回裏住友金属二死満塁、サヨナラ安打を放った筒井（手前左から２人目）に駆け寄り、大喜びの住友金属ナイン



第11回大会

▲〔第11回大会準決勝〕住友金属－松下電器　九回表住友金属二死一、二塁．代打・松原が逆転の右中間三塁打を放ち、三塁塁上でガッツポーズ

第12回大会

◀〔第12回大会１回戦〕本田技研鈴鹿―四国銀行　七回表本田技研鈴鹿無死、趙が左越えにダメ押しの本塁打。跳び上がって大喜び（投手・橋谷）

写真に見る20年の歩み

第13回大会

▲〔第13回大会２回戦〕三菱重工神戸－ＮＴＴ東海　六回裏ＮＴＴ東海二死二塁、中西の左前打で森田が決勝のホームイン

第14回大会

▲〔第14回大会優勝戦〕　初出場で強豪・熊谷組を降した中山製鋼。ナインの初優勝の喜びがグラウンドではじけた

第15回記念大会

▲〔第15回大会〕本田技研熊本－東芝　史上初の都市対抗に続く〝夏秋連覇〟を成し遂げた東芝、ナインは喜びを爆発させた

第16回大会

▲第16回大会１回戦〕大昭和製紙北海道－住友金属　一回表住友金属二死一、二塁、佐藤の中前打で二塁から畑山が生還し、先取点。Ｖに向けての第一歩を踏み出した

写真に見る20年の歩み

第17回大会

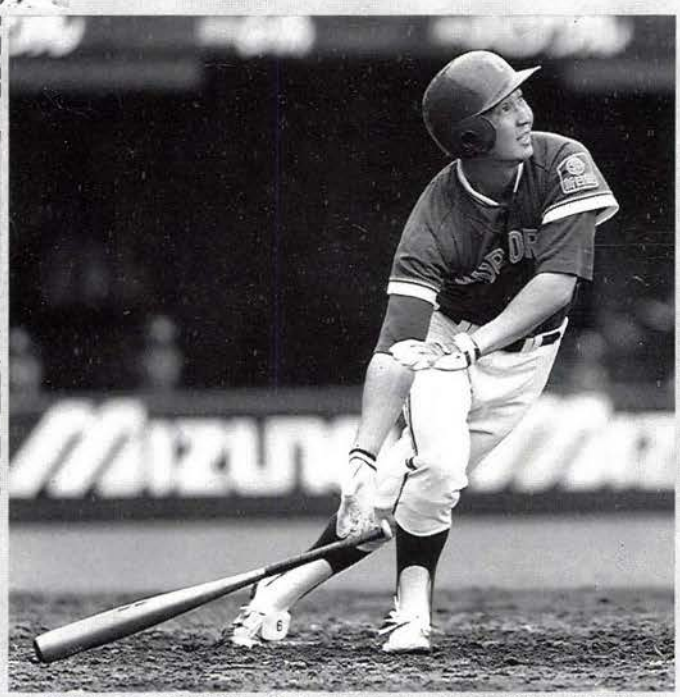
▲〔第17回大会優勝戦〕　日本生命初優勝。ナインは踊りあがって喜ぶ

第18回大会

▲〔18回大会１回戦〕新日鉄室蘭－三菱重工長崎　四回表三菱重工長崎二死一、三塁、洲加本が左中間に３ラン、鈴木コーチに迎えられる

第19回大会

▲〔第19回大会準決勝〕東芝－日本石油　六回裏東芝二死二塁、葛城が左前タイムリーを放ち、二塁から松原が勝ち越しのホームイン



▲〔第19回大会準決勝〕東芝－日本石油　六回裏東芝二死二塁、葛城が左前タイムリーを放ち、二塁から松原が勝ち越しのホームイン

目　次

ダイヤモンド旗――――グラビア
写真に見る20年の歩み――――グラビア
ごあいさつ――――2
　日本野球連盟会長　飯田庸太郎
　毎日新聞社社長　小池唯夫
大会小史――――3
座談会――――4
第1回大会――――8
第2回大会――――18
第3回大会――――28
第4回大会――――38
第5回大会――――48
第6回大会――――58
第7回大会――――68
第8回大会――――78
第9回大会――――88
第10回大会――――98
第11回大会――――108
第12回大会――――118
第13回大会――――128
第14回大会――――138
第15回大会――――148
第16回大会――――158
第17回大会――――168
第18回大会――――178
第19回大会――――188
第20回大会――――198
煌(きら)めくダイヤ　20年の軌跡――――208
海外遠征――――210
出場チームと成績一覧――――212
大会記録――――214
本塁打一覧――――216
三賞受賞選手一覧――――219
日本野球連盟加盟チーム一覧――――220
あとがき――――230

寄　稿

四国地区野球連盟会長
　稲原幸雄――― 23
九州地区野球連盟理事長
　福嶋一雄――― 33
日本野球連盟副会長(会長代行)
　山本英一郎――― 43
日本野球連盟常任理事
　松永怜一――― 63
日本野球連盟理事
　川島勝司――― 73
東海地区野球連盟専務理事
　服部力――― 143
中国地区野球連盟専務理事
　池田立人――― 193
東北地区野球連盟会長
　長沢正夫――― 203

ごあいさつ

更なる飛躍を

財団法人 日本野球連盟

会長 **飯田 庸太郎**

（三菱重工業株式会社 取締役会長）

第20回社会人野球日本選手権大会を記念して、日本選手権大会20年史を刊行する運びとなりましたことは、誠に喜びに堪えません。

日本選手権大会は、昭和49年10月に第１回大会を阪神甲子園球場で開催、55年の第７回から大阪球場、平成２年の第17回からグリーンスタジアム神戸に会場を移し年々発展の一途をたどってまいりました。

故佐伯達夫氏の志を受け本大会が社会人野球の日本一、そしてアマチュア野球の王座を目指す大会として都市対抗野球大会とともに、社会人野球の柱のひとつとなる意義ある大会に発展したことを思うと感きわまるものがあります。

ここに関係各位のこれまでのご支援、ご協力に対し感謝申し上げますとともに、本大会の更なる飛躍を祈念して20年史刊行のご挨拶と致します。

野球の発展を願って

毎日新聞社

社長 **小 池 唯 夫**

（財団法人日本野球連盟 相談役）

都市対抗大会と並ぶ社会人野球の二本柱、日本選手権大会が、20歳の成人式を迎えました。選手の補強制度をとる都市対抗と異なり、日本選手権は単独チームで日本一を争う大会です。歴史こそ浅くとも、大会がチームのシーズン目標となるまでに成長したことは、主催者の一員として大きな喜びを感じています。

かつてはわが国スポーツの王者に君臨していた野球も、近年サッカーを始めとする他の競技の発展にその地位が揺らぎ始めている、と言われています。しかし野球界はプロ、アマチュアが手をたずさえて、野球復権に向け新たな一歩を踏み出しました。

アマチュア野球の技術的中核を担うのは、社会人野球です。日本選手権の20年を機会として、改めて社会人を中心とする野球の発展を願い、関係各位とともに頑張っていきたいと思います。

産業構造の変化で誕生した日本選手権

「立派な大会になるかどうかは、選手諸君の試合態度で決まる。どうか思い切りプレーして、この大会の基礎を築いてほしい」。1974年(昭和49年)10月28日、阪神甲子園球場で誕生した日本選手権の開会式で佐伯達夫大会委員長(前日本高校野球連盟会長、故人)は、こう挨拶した。念願の"選手権開催"が実現した安どと将来への熱い期待がこめられていた。

その数年前から「単独チームで争う選手権大会を」という声が高まり、日本社会人野球協会(現日本野球連盟)で検討していた。夏に都市対抗、秋に産業対抗と、社会人野球の二本柱といえる大会は、いずれも選手の補強制度をとっていた。

設備投資、技術革新によって高度成長を果たしてきた日本経済に陰りがみえ、産業構造に変化がきたしはじめると、鉄鋼、鉄道、炭鉱、自動車、百貨店・商業といった部門で争う産業対抗は、部門の区分けがあいまいな面が現れ、各地から選手を補強するのが難しく、チーム編成が困難な部門も出てきた。この大会自体「単独チームでやっては」という意向もあったが、73年の第23回大会を最後に発展的解消。改めて日本選手権が"甲子園"でスタートすることになった。

選手権の開催にあたっては「地方の持ち回り」「東京で固定して」「いや、関西で」と、さまざまな意見が交わされたが、日本社会人野球協会の副会長であり、近畿社会人連盟会長だった佐伯氏の非常な骨折りがあった。

「大阪は、明治の末ごろから大正の中ごろまで実業団の野球が盛んだった。いまでこそ高校野球だが、歴史をたどると社会人野球とのつながりの方が深い」と、関西での大会開催を胸に収めて、地方連盟やチーム側の要望に耳を傾け、殊に近畿連盟に加盟するチームのやる気を待った。オイルショックの影響も加わり、各地で開かれる大会への出場を自粛するところも出る状況にあったが、甲子園球場の協力も得、機運が熟して開催が決まると、チームを持つ会社を個別に訪問して首脳陣を説き、大会運営の援助を求めた。「アマチュア野球の全体像を捕らえて、どうしても大会を成功させたい、という執念を感じた」と、小松博日本高校野球連盟副会長(当時、毎日新聞大阪本社事業部長)は述懐している。

74年秋、大会の幕が開けられた。全国9地区連盟の予選を経た22代表(近畿5、関東3、その他の地区各2)が、野球場と最高位を表現する"ダイヤモンド旗"を目指した。三協精機が記念すべき第1回大会を制し、大塚喜代美投手が3試合連続完封で勝利に貢献した。大塚投手は神奈川・桐蔭学園高時代の71年、夏の甲子園で優勝を経験していた。野球人なら一度はあこがれ、夢みた甲子園での開催は、経験者にはかつての感激を呼び戻させ、初めての者には"夢が実現"の喜びを与えることになった。

5連投の宮田典計(鐘淵化学)4連投の森繁和(住友金属)と、強力な投手を持ったチームが覇者に名を連ねた後、第5回大会(78年)でダイヤモンド旗は津軽海峡を渡った。北海道拓殖銀行が、その夏の都市対抗で三振奪取の記録を作った東京ガスの松沼博久投手から四球に好走塁を絡めて決勝点を奪い、高岡茂夫二塁手が野手で初めて最高殊勲選手に選ばれた。

近畿地区同士の優勝戦で、住友金属が松下電器の初Vの夢を砕いたのが、甲子園を舞台とした最後の試合。この第6回大会から金属バットが登場、第2回大会の15本塁打に倍する26本が飛び交った。この記録も年ごとの打撃力向上で塗り替えられ、DH(指名打者)制度が採用された第15回大会(88年)には四国銀行が4試合で16本も打つなど75本の大会記録が残された。

〔第1回大会・開会式〕　澄んだ秋空の下、全国から勝ち進んだ22チーム、500余の選手が力強く入場行進。仕掛花火を合図に各チーム名を書いた風船がマンモス球場に飛びかった。

第7回大会(80年)に限って5月の開催。夏に後楽園球場を中心に世界アマチュア選手権が開かれるため、都市対抗が秋に、日本選手権が代表選手選考を兼ねて初夏に行われた。舞台も大阪球場に移って、以後、第16回大会まで同球場で開かれ、関西での社会人野球への関心が次第に高まった。

関東、近畿地区の代表が各1チーム増枠になった翌8回大会で富士重工業が優勝し、前年、中国路(日本鋼管福山)に翻ったダイヤモンド旗は初めて関東の地に。淡白な戦いぶりだった関東勢が、これを機に競って地力を発揮し、第20回大会(93年)まで優勝4度、準優勝8度と常に優勝戦線に踏み留まるようになった。この間に住友金属が高橋修二投手の大会史ただ一人の連続MVPに輝く奮投で2連覇(第10、11回)したのをはじめ、初陣のヤマハ発動機(第9回)が創部2年目で強豪・日本通運を、中山製鋼(第14回)が若い力の結集で古豪・熊谷組を破った優勝戦、第15回大会で東芝が75長短打で51点(5試合)を奪い、都市対抗に続く優勝を遂げたのは印象深い。80年春に大会生みの親の一人である佐伯氏が死去、功績を讃え、第10回大会に佐伯達夫杯が作られた。

大阪球場の閉鎖で、第17回大会(90年)からグリーンスタジアム神戸が戦いの場になった。関東、東海地区の代表枠が増え、計26チームが出場。両翼99・1㍍、中堅122㍍の広い球場に本塁打の数は減ったが、二、三塁打が増え、スピード野球が繰り広げられた。日本生命、日本石油、東芝と社会人野球を代表するチームの優勝が続き、大阪球場の最後を締めくくった住友金属が記念の第20回大会で6度目の頂点を極めた。

元毎日新聞社運動部記者
笹尾勝彦

ダイヤモンド旗二十年に想う

大会創設時の思い出を語り合う出席者たち

座談会

㊟…出　席　者…㊟

㈶日本野球連盟会長代行
山本英一郎

日本野球連盟近畿地区連盟副会長
五十嵐義臣

日本野球連盟近畿地区連盟専務理事
河合　貞雄

㈶日本高等学校野球連盟副会長
（元毎日新聞大阪本社事業部長）
小松　博

単独チームで日本一を争う社会人野球日本選手権大会が、その歴史の第一歩を記したのは1974年10月28日。場所は阪神甲子園球場だった。第７回からは、当時南海ホークスの本拠地大阪球場へ、第17回からはグリーンスタジアム神戸へと舞台を移しながら、東京ドームでの夏の都市対抗と並ぶ社会人の二大大会へと成長していった。創設から現在まで、20年にわたり、大会の発展に尽くされた４人の方々に、発足までの苦労や大会の思い出などを語ってもらった。

（司会　鳥居宏司・毎日新聞大阪本社運動部長）

＝平成６年２月14日毎日新聞大阪本社で、年齢は当時＝

――まず、大会誕生までのいきさつをお聞かせ願えませんか。

山本　プロ野球シーズン終了後、東京・後楽園球場で毎年、産業別対抗野球大会を開いていたのですが、昭和40年代に入って時代の流れで炭鉱、鉄道、繊維などの産業が変革を迫られるようになり、大会自体を見直さなければならない時期がやってきたんです。産業別対抗野球の使命は達成された、発展的に解消して新しい大会をつくろうという気運が高まってきたんですよ。日本選手権が始まる３、４年前、各企業を対象にして産業別対抗野球のあり方などについてアンケートを取ったんですが、「このままじゃあダメだ」という声が強かった。

五十嵐　そう。産業別対抗野球を別の形にして続けてほしい、という声は強かったですよ。都市対抗は他のチームからの補強制度がある。各企業からは単独チームによる大会をやりたいという声が上がっていました。これが、現在の日本選手権に結びついていくのですが、関東で都市対抗野球を開いているのだから、新しい大会をやるなら、有力企業もある関西で、という発想は、関東の連盟からはきらわれました。

山本　産業別対抗野球を日本選手権に切り替えるためにはずいぶん勇気が必要でしたよ。各企業の人たちにも産業別には愛着をもっていましたからね。当時、日本社会人野球協会の最高顧問をされ、近畿社会人野球連盟の会長でもあった佐伯達夫さん（前・日本高校野球連盟会長）に社会人野球大会の関西での開催について説明、理解を求めたんですが、慎重な人だからすぐにはウンと言ってくれなかった。でも、われわれの考えに賛成してもらってからの佐伯さんの「日本選手権創設」に向けての動きは早く、実にエネルギッシュでしたよ。

小松　あのころ私は毎日新聞大阪本社の事業部長でした。なって２年目くらいの時、佐伯さんに「甲子園で社会人野球の日本選手権を開く構想を持っている。ついては各企業の上層部の人たちに協力をお願いしなければいかん。初めが大切や」と言われ、企業回りのお供をしたんですが、「それで体がもちますのか」と思うくらい精力的に動かれました。日本生命、松下電器、大阪ガス、住友金属、新日鉄広畑など７、８社だったと記憶しています。会われるのは各企業の常務クラス以上の人。佐伯さんの力は大きかったですよ。

河合　その通りです。常務など企業の偉い人は野球にそんなに詳しくない。でも佐伯さんに、「協力してくれ」と言われると断り切れなかった。佐伯さんは、財界の方とのつながりも持っておられましたから「佐伯さんが言われるのなら仕方ない」という感じだったですね。都市対抗が補強制度を取り入れているので、日本選手権は単独チームでやりたい、という考えには各企業とも賛成してくれました。

山本　関西の企業が本気で支えてくれないと大会はできない。佐伯さんには「関西はオレがまとめなければいかん」という使命感に燃えておられましたね。

小松　全国から関西へ来てもらうわけだから、出場する企業にできるだけ負担をかけたくない、という思いが根底にあり、どうすれば企業負担を軽減できるか、もいろいろ考えておられました。

日本野球連盟副会長
（会長代行）
山本英一郎氏（74）

台北一中時代に甲子園に２度出場。慶大に進んで外野手として活躍。その後、アマ野球の審判員も務めた。現在、国際野球連盟副会長。

河合　結局、産業別対抗は昭和48年の第23回で幕を閉じ、翌49年から日本選手権に姿を変えるわけですが、その間に空白の期間はなく、スムーズに移行できた、と思っています。

――いよいよ第１回大会、ということになりますが、出場チームは22、甲子園球場でのスタートでしたね。

五十嵐　甲子園球場を使うことになったのは、高校野球を通じて佐伯さんと甲子園はなじみが深かったこ

と、球場については無料で使わせてもらえるという条件があったこと、が大きな理由でした。

小松　きちんと球場使用料を払ったのでは甲子園での開催は無理。無料というのは確かに魅力でしたね。でも、器が大きな球場だったうえ、お客さんが少なかったので、甲子園での大会は寂しすぎる、という印象はありましたね。

五十嵐　それに、あのころはプロ野球シーズンが終わってからの11月開催。ベンチに炭火を置いてましたが、そんなことをするようじゃあダメです。季節的にも寒すぎました。甲子園で大会を始めて３、４年も経たないうちに関係者の間からは、「甲子園は広すぎる」という声が出てきました。

山本　球場の使用料についても、使用料自体は無料でしたが、清掃費とか、ガードマン費などの名目で費用を支払うようになってきたので、甲子園で大会を開くメリットが少なくなり、「それなら甲子園にこだわらなくても」ということになった。それで、第７回大会から会場を大阪球場へ移すことにしたんです。佐伯さんの反対もありませんでした。

五十嵐　会場を大阪球場に移してからはお客さんが増えました。大阪市内の交通の便のいいところにあるので、一般のお客さんが見に来てくれるようになったんです。一度、秋ではなく、５月に大会を開いたことがありましたが、この時はお客さんが多かったですよ。大会の開催時期が観客動員数に大きな影響を与えることがよくわかりました。

山本　屋外でのスポーツの催しは、時期をいつにするか、で大会の盛り上がりが大きく違ってきます。

――第17回大会からはさらに大阪球場からグリーンスタジアム神戸に会場を移すことになるわけですが……。

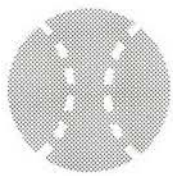
五十嵐　大阪球場を本拠地にしていたプロ野球の南海ホークスが、ダイエーホークスとして福岡に移転したことで球場の手入れが十分にされなくなったこと、球場周辺の再開発問題が浮上して、近い将来、球場が使えなくなる恐れがでてきたこと、などで新たな会場探しの必要が出てきたわけです。そして決まったのが神戸市のグリーンスタジアム神戸での開催でした。

河合　グリーンスタジアム神戸が出来て間もないころで、神戸市が大会の誘致に積極的でした。球場の使用料なども含め、好条件で誘ってもらったことや、当時はまだオリックス・ブルーウェーブの本拠地になる前で、毎年10月10日の開幕がＯＫ、秋のいい時期に大会を定着させることが出来るようになることが、わたしたちにとっては有難かった。それで、神戸での開催を決めたんです。

日本野球連盟
近畿地区連盟副会長
五十嵐義臣氏(82)

旧制富山中時代は遊撃手。京大を経て京都大丸へ。大丸の野球部長としてチームを支えた。1949年、日本社会人野球協会(現日本野球連盟)発足と同時に理事就任。

山本　当時の日本野球連盟兵庫県支部長、井上信一さんがうまく神戸市との橋渡し役を果たしてくれましたし、宮崎辰雄市長(当時)にもよくやっていただきました。日本選手権を全国持ち回りでやったら、という意見もありましたが、大会を盛り上げていくためにはやはり、会場を固定させた方がいいと思うんですよ。



――出場チーム数についてはベースになるものがあったんでしょうか。

日本野球連盟
近畿地区連盟専務理事
河合　貞雄氏(62)

慶大で左腕投手として活躍し1954年、住友金属入社。58年から７年間にわたって監督、総監督を務めた。現在、住友金属野球部顧問。

五十嵐　第１回大会から大阪球場に移った第７回大会まで22、第８回大会から現在の24になりましたが、産業別対抗の出場チームは最多の時で24。この数字がひとつのメドになりました。

河合　各地区の代表数については、センバツ高校野球と同様、アンバランスにはなりますが、近畿からの出場チームを増やしました。観客動員のこともありましたのでね。

山本　北海道から九州まで全国に９地区連盟。最低２チームずつ出そうということで18チーム。残りを地元の近畿、強豪がひしめく関東に振り分けることにしたんです。第１回大会は近畿５、関東は３でしたが、現在は近畿６、関東５です。大会がスタートして間もないころは関東勢の不振が目立ちましたが、最近は関東勢が健闘。「関東の出場枠を増やしてほしい」という声が出てきました。各チームがこの日本選手権をこれまで以上に重視するようになってきたわけで、東の都市対抗、西の日本選手権という意識が定着してきたのではないかと思いますよ。

――では、この日本選手権をより素晴らしい大会にするためにはどうすればいいのか。最後に、アマ野球のあり方も含めてお話しいただきたいのですが。

五十嵐　もっともっと多くの人に社会人野球に目を向けてもらう努力をしなければならないと思っています。毎年、小、中、高校と野球に親しんできた沢山の生徒が卒業します。その後、プロ、大学、社会人などで野球を続けることが出来るのはわずか。大半の人たちは「野球をやりたい」と願いながら野球から離れざるをえない環境に置かれるのではないでしょうか。彼等が学校を卒業してからもプレーを続けることができる“受け皿づくり”をなんとか進められないものだろうか、と思っています。日本選手権をより盛んにするためには、やはり企業に努力してもらうことが欠かせないと思います。

河合　第20回大会では、各チームのマネージャーなど若い人たちを中心にして委員会を結成。大会をよりレベルアップさせるための知恵を出してもらいました。それがロゴマークの作成、入場行進の一部手直しなどに結びつき、予想以上の成果をあげました。これからも若い人たちの意見を採り入れながら、都市対抗とは違った良さをどんどん出していきたいと思います。さらに、社会人野球のメッカとなる専属球場を持ちたい、という大きな夢も頭に描いています。「継続は力なり」をモットーに、地道な努力をしていくつもりです。

山本　社会人野球と企業は切り離せない関係にあるわけですが、野球人口の拡大、という意味からも企業はもっと地域と密着する必要があるのではないでしょうか。例えば、日曜日にグラウンドの外野部分だけでも開放するのもひとつの方法。そうすれば地域とのつながりも出来、チームの支えになってくれるはずです。それともうひとつ。大会をより盛り上げていくためには、出場企業がメリットを感じるものにしていかなければならないと思ってます。また、日本選手権については、予選方法を、都市対抗とは違うやり方にすることを考えてみる必要があると思います。大会をより発展させるためには、“二番せんじ”のイメージをぬぐい去らなければなりませんからね。

日本高校野球連盟副会長
（元毎日新聞大阪本社事業部長）
小松　博氏（71）

横浜専門学校（現神奈川大）から1943年、毎日新聞社入社。69年から、大阪本社事業部長。78年、日本高等学校野球連盟副会長に就任した。

小松　私はマスコミへのお願いですが、日本選手権についてよりキメの細かい報道をお願いしたいと思います。試合の結果を伝えるだけでなく、いろいろな面での工夫も必要でしょう。まだまだ、球場へ足を運んでくれるお客さんの数は満足できるものではありませんが、以前に比べると大会への関心は高まってきているように思います。企業についても同様です。新聞について言うなら大会に参加する企業が「これなら宣伝費として安い」というような報道、地域の人たちにも活動を十分理解してもらえるような紙面づくりを期待しています。

第1回大会

1974年(昭和49年)10月28日▶11月4日　阪神甲子園球場

優勝＝三協精機

新調ダイヤモンド旗、三協精機へ。

記念すべき第1回大会は1974年10月28日、22チーム、500選手が出場して、日本晴れの阪神甲子園球場で開幕、選手たちは大阪、神戸、京都3市の合同消防音楽隊が演奏する「ワシントン・ポスト・マーチ」に乗り、神戸山手女子高生徒のプラカードの先導で力強く行進した。

大会は新しい目標に向かって精進した三協精機が、新調のダイヤモンド旗をつかんで閉幕したが、三協にとっては創部17年目の快挙だった。補強による都市対抗野球の優勝旗"黒獅子旗"が夢物語だった三協は、光沢毅監督の好さい配が光った。準優勝の日本鋼管福山は主戦・田村を中心にまとまりがあった。三協に比べてもそん色なく、気鋭の戦い方は小気味よかった。これまで社会人野球の目標は都市対抗一本だったこともあり、一部のチームには新しい舞台に戸惑いもあったが、おおむね調整にぬかりはなかった。競り合いの連続で、体力の消耗の激しい夏と違って投手力上位だったといえる。だが、決して打力が振るわなかったわけではなく、連日のように豪快な本塁打が飛び出した。パワフルな打力はやはり社会人ならではの魅力があり、練り上げられた守りの素晴らしさも大会を盛り上げた。プロをしのぐほどの技量も再三見受けられた。中でも印象深かったのが、ナイターで行われた2回戦の大昭和製紙北海道ー住友金属戦だった。12回も渡り合った中山(大昭和製紙北海道)、山中、宮崎(住金)の好投、美技の応酬は社会人野球の高水準を象徴するもので、ファンをたん能させた。

地域の格差も感じられず、社会人野球の全国大会に縁の薄かった西日本のファンの新たな認識と関心を呼び、多くのチームに希望を与えた大会の意義は大きい。

ダイヤモンド旗を持って場内を一周する優勝の三協精機ナイン。

大会審判　▷**委員長**　山本英一郎▷**副委員長**　小西正一、郷司裕▷**委員**　八木昌男、大村一彦、高橋良夫、桐田立名、三輪武、中西明、松南二郎、国賀敏男、永野元玄、三宅享次、小林加寿男、元橋一登、達摩省一、市村博、戸田直佑、小森幹夫、中村孝太郎、高塚昌倶、本郷良直、相沢孝行、清沢忠彦、片岡成夫、原田謹爾、日野賢導、藤尾泰三、上杉正、岡本好二、武村政雄、津田進

▽10月28日

第1試合＝1回戦（午前10時7分開始）

三菱重工神戸	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3
盛岡鉄道管理局	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

▶審判（球審）三宅（塁審）国賀、小森、中村

【三菱神戸】打安点振球
③9友　藤　6 1 0 0 0
⑥　川　辺　5 0 0 0 0 1
⑧　井　上　6 0 4 0 0 0
④　山　谷　本　4 1 0 0 2 0 2
4　時　下　4 0 0 3 1 0 2
⑤　深　田　3 1 1 0 1 3 0
⑦　東　　5 2 1 1 2 0 0
⑨　勝　　2 1 0 0 0 0 0
R9　吉　田　2 0 0 0 0 0 0
RH9　金　蔵　1 0 0 0 0 0 0
H9　浜　片　0 0 0 0 0 0 0
H　仲　　1 0 0 0 0 0 0
3　藤　井　0 0 1 1 0 0 0
②　竹　中　0 6 1 1 0 0 0
①　増　岡　5 2 1 0 1 0 1
　犠　併　残
　1　2　9　46 8 3 5 7

【盛　鉄　局】打安点振球
④　新　沼　5 1 0 1 1 0
⑥　赤　平　6 0 0 1 1 0
⑧　斉　藤　5 0 0 1 0 0
③　小田島隆　5 1 0 0 0 0
②　鈴　木　5 0 0 0 0 0
⑨　松　田　5 3 0 0 1 0
⑦　上　条　5 0 0 0 2 0
⑤　佐々木春　5 0 0 0 1 0
①　佐藤繁　5 1 0 0 0 0
1H　堀　江　3 1 0 0 1 0
H　及　川　1 0 0 0 0 0
　犠　併　残
　1　2　4　46 6 1 8 0

回 安振球責
増　岡　14 6 8 0 0

回 安振球責
佐藤繁　4⅓ 3 1 2 1
堀　江　9⅔ 5 4 5 2

▷犠打＝三1（東）盛1（新沼）▷盗塁＝三2（深田2）盛1（松田）▷失策＝三1（増岡）盛1（堀江）▷試合時間＝2時間58分

第2試合＝1回戦（午後1時26分開始）

日本鋼管福山	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
新日鉄室蘭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判（球審）小林（塁審）大村、戸田、市村

【鋼管福山】打安点振球
⑨　篠　井　2 1 0 0 1
⑥　沢　田　4 0 0 1 0
③　山　内　4 2 0 1 0 0
⑤　清　水　4 0 0 0 0 0
⑦　岡　本　4 2 1 1 0
⑧　森　下　4 1 0 0 0
④　深　草　4 0 0 0 0
②　今久留主　4 1 1 1 0
①　田　村　3 0 0 2 1
　犠　併　残
　1　0　7　33 7 2 6 2

【新日室蘭】打安点振球
⑥　五鬼田　4 0 0 0 0
⑤　大　塚　3 0 0 0 1 0
H　島　尻　3 0 0 1 1 0
③　寺　本　4 1 0 0 1 0
⑦　柴　田　3 0 0 0 1 0
④　荒　野　3 1 0 1 1 0
⑨　小松崎　2 0 0 0 0 1
H9　安　西　2 0 0 0 0 0
②　後　藤　2 0 0 0 0 0
⑧　前　原　2 0 0 0 1 0
H8　木　下　2 0 0 1 1 0
①　財　前　1 0 0 0 0 0
1　浜　師　1 0 0 0 1 0
H　小林八　1 0 0 1 1 0
1　土　屋　0 0 0 0 0 0
　犠　併　残
　1　0　3　28 2 0 4 1

回 安振球責
田　村　9 2 4 1 0

回 安振球責
財　前　4 4 1 2 1
浜　師　4 3 4 0 1
土　屋　1 0 1 0 0

▷本塁打＝岡本1号（浜師）▷二塁打＝山内▷犠打＝鋼1（篠井）新1（後藤）▷盗塁＝新1（寺本）▷試合時間＝2時間7分

全力で振ったら入った

㊤…大会第1号本塁打を放ったのは鋼管福山・岡本左翼手(23)。「第1回大会第1号のホームランをボクが……」。打ったのが信じられないといわんばかり。1点を取って先行していたとはいえ、六回のこのホームランは福山の勝利を決定づける貴重なものだった。「好きなインコースだったので思い切って振っただけ。てっきり切れると思いました。一塁ベースをけったところで三塁塁審が腕を回していたので入ったのがわかりました」。

第3試合＝1回戦（午後3時54分開始）

新日鉄八幡	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
電電東京	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2

▶審判（球審）高橋（塁審）元橋、達摩、清沢（外審）津田、藤尾

【新日八幡】打安点振球
⑤　門　川　4 2 0 1 1
④　米　村　4 2 1 1 1
⑥　玉　井　4 1 1 1 0 0
⑦　工　藤　3 1 1 1 0 0
③　下　村　3 0 0 1 0
⑧　山田誠　4 1 0 1 0
⑨　榎　園　4 2 1 0 0
9　草　野　0 0 0 0 0
②　沢　熊　4 1 0 0 0
①　萩　野　3 0 0 1 0
　犠　併　残
　3　0　7　33 10 4 5 2

【電電東京】打安点振球
⑨　上　田　4 1 0 0 0
⑥　上　柏　4 0 0 2 0
④　原　科　4 2 0 1 0
③　大　島　4 0 0 1 0
⑧　富　永　4 1 0 0 0
⑤　橋　爪　3 2 0 0 0
⑦　山　崎　4 1 1 0 0
②　新　井　4 1 1 0 0
　森　　1 0 0 0 0
H1　沢　松　1 0 0 1 0
1　内　田　0 1 0 0 0
HR1　小矢治　0 1 0 0 0
1　渡　辺　0 0 0 0 0
　犠　併　残
　1　2　6　34 9 2 5 0

回 安振球責
萩　野　9 9 5 0 2

回 安振球責
森　　5 7 4 1 3
内　田　3 3 0 1 1
渡　辺　1 0 1 0 0

▷三塁打＝玉井、山崎▷二塁打＝榎園2、米村、原科▷犠打＝八3（工藤、下村、萩野）電1（橋爪）▷盗塁＝電1（上田）▷失策＝電1（内田）▷暴投＝萩野▷ボーク＝森▷試合時間＝2時間34分

▽10月29日

第1試合＝1回戦（午前9時30分開始）

電電四国	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
T　D　K	0	0	0	0	0	1	1	2	X	4

▶審判（球審）三輪（塁審）八木、岡本、片岡

【電電四国】打安点振球
⑦　幸　田　4 1 1 1 0
④　景　浦　3 0 0 0 1
⑤　浦　下　4 0 0 1 0
⑧　福　谷　4 0 0 1 0
⑨　武　田　3 0 0 0 0
②　斎　藤　2 0 0 0 1
⑥　高　橋　3 1 0 0 0
③　菊　池　2 1 0 0 0
①　横　松　1 0 0 0 0
1　小　原　0 0 0 0 0
H　北　岡　1 0 0 0 0
1　大　本　0 0 0 0 0
　犠　併　残
　2　0　3　27 3 1 3 2

【T　D　K】打安点振球
⑥　鈴　木　4 1 0 0 1
⑦　佐々木吉　4 1 0 0 0
⑨　倉　石　3 0 0 0 1
①　浅　井　4 1 0 0 0
②　吉　村　3 0 0 0 0
⑤　北　林　3 1 0 1 1
④　斎　藤　2 1 1 0 0
　岡　本　1 1 1 0 0
R　湊　　0 0 0 0 0
4　宮　本　1 1 0 0 0
③　阿　部　3 0 0 0 1
⑧　金　原　3 1 1 0 1
　犠　併　残
　1　0　9　31 8 2 1 5

回 安振球責
横　松　6 7 1 3 2
小　原　1 0 0 0 0
大　本　1 1 0 2 0

回 安振球責
浅　井　9 3 3 2 1

▷本塁打＝金原1号（横松）▷二塁打＝浅井▷犠打＝四2（菊池、横松）T1（吉村）▷盗塁＝T1（佐々木吉）▷失策＝四1（幸田）▷試合時間＝2時間17分

第2試合＝1回戦（午後0時20分開始）

鐘淵化学	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
西濃運輸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判（球審）元橋（塁審）大村、上杉、原田

【鐘淵化学】打安点振球
⑧9外　囿　4 0 0 2 0
⑥　岡　田　4 0 0 1 0
③　長　嶋　4 3 0 0 0
⑨7桑　原　4 1 1 1 0
⑤　藤　村　4 1 1 0 0
⑦　川　内　2 1 0 1 0
8　星　尾　1 0 0 1 0
④　佐　藤　3 1 0 1 0
②　三　瀬　3 0 0 1 0
①　宮　田　3 0 0 1 0
　犠　併　残
　1　0　4　32 7 2 9 0

【西濃運輸】打安点振球
③　中　井　4 0 0 0 0
⑤　長　島　4 1 0 0 0
⑨　加　野　4 0 0 0 0
⑧　細　川　3 1 0 2 0
⑦　林　　3 0 0 1 0
⑥　祖父江　3 1 0 0 0
④　青　木　2 0 0 0 0
H　小　林　1 0 0 0 0
H4　山　極　0 0 0 0 0
②　今　村　2 0 0 2 0
H2　中島務　1 0 0 0 0
①　早　川　1 0 0 0 0
1　柴　田　1 0 0 0 0
H　中島隆　1 1 0 0 0
1　宮　本　0 0 0 0 0
　犠　併　残
　0　0　3　30 4 0 5 0

回 安振球責
宮　田　9 4 5 0 0

回 安振球責
早　川　4 6 1 0 2
柴　田　4 1 7 0 0
宮　本　1 0 1 0 0

▷二塁打＝長嶋、藤村、中島隆▷犠打＝鐘1（川内）▷試合時間＝1時間55分

第3試合＝1回戦（午後2時38分開始）

電電九州	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
大昭和製紙北海道	0	1	1	0	1	1	0	0	X	4

▶審判（球審）三宅（塁審）達摩、小林、日野

【電電九州】打安点振球
⑨　大　庭　4 1 1 0 0
④　今　井　4 0 0 2 0
⑧　中　嶋　4 2 1 0 0
8　村　里　0 0 0 0 0
③　杉　坂　4 0 0 2 0
⑦　榎　園　2 0 0 0 0
7　黒　木　2 1 0 1 0
⑥　谷　田　4 2 0 1 0
②　川　越　4 2 0 0 0
⑤　江　口　4 1 0 0 0
①　錦　野　1 0 0 1 0
1　長　嶺　1 0 0 1 0
H　福　永　1 0 0 1 0
1　伊　達　0 0 0 0 0
　犠　併　残
　0　0　6　35 9 2 9 0

【大　昭　和】打安点振球
⑨　浜　井　5 1 1 1 0
⑦　山　本　4 3 0 1 0
⑤　斎　藤　3 1 1 0 1
③　高　梨　4 0 0 3 0
⑧　我喜屋　3 2 1 0 1
②　村　上　2 0 0 1 2
⑥　角　田　4 1 0 1 0
④　仲　本　3 1 1 1 1
①　中　山　1 0 0 0 0
　犠　併　残
　3　0　9　29 9 4 8 5

回 安振球責
錦　野　4⅓ 7 4 1 3
長　嶺　2⅔ 1 4 3 1
伊　達　1　1 0 1 0

回 安振球責
中　山　9 9 9 0 2

▷本塁打＝我喜屋1号（錦野）▷二塁打＝我喜屋、山本▷犠打＝大3（中山3）▷盗塁＝大3（山本、我喜屋、村上）▷試合時間＝2時間15分

▽10月30日

第1試合＝2回戦（午前9時29分開始）

国鉄四国	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
本田技研鈴鹿	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

▶審判＝（球審）高橋（塁審）松南、日野、清沢

【国鉄四国】打安点振球
⑥　都　築　4 0 0 0 0
⑤　藤井嘉　4 1 0 0 0
⑧　中　石　3 0 0 0 1
⑨　塚　本　3 1 2 0 1
②　橋　本　4 2 0 0 0
⑦　中　西　4 1 0 0 0
④　藤井博　3 0 0 0 0
③　湊　谷　3 0 0 1 0
①　落　合　3 0 0 2 0
　犠　併　残
　0　0　4　31 5 2 3 2

【本田技研】打安点振球
⑧　安　田　4 0 0 0 0
⑥　有　働　2 0 0 1 1
H　黄　　1 0 0 0 0
⑦　高　橋　4 0 0 0 0
③　山　本　2 1 1 1 2
②　藤　田　3 0 0 0 0
⑨　田　中　3 1 0 0 0
⑤　上　田　3 0 0 0 0
④　松　尾　3 0 0 0 0
①　菊　田　2 0 0 1 0
H　羅　本　1 0 0 0 0
1　前　村　0 0 0 0 0
　犠　併　残
　0　0　3　28 2 1 3 3

回 安振球責
落　合　9 2 3 3 1

回 安振球責
菊　田　8 5 3 0 2
前　村　1 0 0 2 0

▷本塁打＝塚本1号②（菊田）山本（落合）▷二塁打＝田中▷試合時間＝1時間58分

今、語る思い出
20歳のダイヤモンド旗

三協精機＝優勝

大塚　喜代美投手
（現ライト工業名古屋支店管理部係長、40歳）

（第20回記念　毎日新聞連載企画から）

日本鋼管福山相手に九回二死までノーヒット・ノーランだった優勝戦より、初戦（二回戦）の松下電器戦の方が印象深い。

松下の投手は快速球の山口高志さん（現オリックスコーチ）。5カ月前の大阪大会で対戦、17三振を奪われた。二回まで6三振を喫した末の降雨ノーゲーム。翌日は山口さんと投げ合いになったが、覚えたばかりのシンカーが驚くほど決まった。打線も好機を生かして山口さんを攻略し、完封勝利を飾ることが出来た。

次の準々決勝は、その年の都市対抗優勝の大昭和北海道を2安打完封。この自信が、準決勝を休んで臨んだ決勝で生きた。甲子園では、桐蔭学園3年の夏に全国優勝。そのせいもあって投げやすいマウンドだった。

日本選手権に優勝してプロから誘われたが「もっと実績を残してからでも遅くない」と考えた。翌年のシーズン開幕となるスポニチ大会でも、無失点を継続。だが決勝で左足を傷めたのが、野球人生の分かれ目になった。

三協精機の休部に伴い79年、日本鋼管（現ＮＫＫ）へ。巨大な会社より自分を生かせる職場を、と82年に特殊土木のライト工業（本社・東京）へ移り、軟式の全国大会で優勝も味わった。85年に現役を引退し、今は仕事一筋。栄光の野球人生を歩んだ代償は、思い切りボールを投げられない「痛む肩」。私が高校と社会人で日本一になったことを、野球をやっている中学1年の長男に信じてもらえないのは残念だ。

▽10月31日

第1試合＝2回戦(午前9時27分開始)

チーム				計
三協精機	000	000	400	4
松下電器	000	000	000	0

▶審判(球審)郷司(塁審)戸田、小森、相沢

【三協精機】		打	安	点	振	球
④	内田	3	1	0	1	1
⑥	幡野	3	1	0	0	0
⑧	豊国	3	0	0	1	1
⑨	白川	3	0	0	1	0
R	佐々	0	0	0	0	0
9	橋本	1	0	0	0	0
③	鈴木	4	0	1	0	0
②	古川	4	1	0	1	0
⑦	星山	3	1	3	1	1
⑤	柳瀬	2	1	0	1	1
R	佐藤	0	0	0	0	0
5	寺坂	1	1	0	0	0
①	大塚	4	0	0	2	0
犠併残	1 0 5	31	6	4	8	4

【松下電器】		打	安	点	振	球
⑥	山口円	4	0	0	2	0
⑤	石井	4	1	0	0	0
⑧	浜田	4	0	0	1	0
③	松下	4	2	0	0	0
⑦	西越	4	0	0	1	0
④	坂口	4	1	0	0	0
⑨	堀江	3	2	0	0	0
②	木原	1	0	0	0	0
H2	高橋	1	1	0	0	0
①	山口高	2	0	0	0	0
1	福井	0	0	0	0	0
H	石本	1	0	0	1	0
1	福間	0	0	0	0	0
犠併残	1 0 6	32	7	0	5	0

投手	回	安	振	球	責
大塚	9	7	5	0	0
山口高	6⅔	5	6	2	0
福井	1⅓	0	1	2	0
福間	1	1	1	0	0

▷本塁打＝星山1号③(山口高)▷二塁打＝柳瀬▷犠打＝三1(幡野)松1(木原)▷盗塁＝松1(松下)▷失策＝松2(山口円、松下)▷試合時間＝2時間23分

4年ぶり踏んだマウンド

㊙…雨中の競り合い九回を投げ抜いた国鉄四国落合は、汗と雨にぬれて顔もユニホームもびっしょり。落合にとって甲子園のマウンドは鳴門高時代、1970年の"センバツ"以来4年ぶりのことだった。「なつかしいですね。ここのマウンドは投げやすい。あのときは準決勝まで進んだが、相手校はどこだったかな」とまだ興奮がさめないのか思い出せない。当時、鳴門のエースだった落合は東北、中京、三田学園に投げ勝ち準優勝した北陽に6点を許して涙をのんでいる。この日は2－3から山本を空振りの三振に切ってとりゲームセット。「きょうの調子は、立ちあがりボールは走っていたがストライクが入らず、あまり良くはなかった。本田は左打者が多いので捨身のピッチングでした」。

第2試合＝2回戦(午後0時12分開始)

チーム				計
三菱重工神戸	000	020	000	2
電電関東	010	000	000	1

▶審判＝(球審)高橋(塁審)原田、市村、武村

【三菱神戸】		打	安	点	振	球
⑥	川辺	1	0	0	1	1
H	米村	1	1	0	0	0
6	森	1	0	0	0	0
⑦	東	4	1	0	0	1
⑧	井上	5	0	0	1	0
④	山谷	3	1	2	0	1
4	時本	1	0	0	0	0
⑤	深田	3	0	0	0	1
⑨	金蔵	1	0	0	1	1
9	吉田	2	0	0	0	0
③	藤井	4	3	0	0	0
②	竹中	4	2	0	0	0
①	増岡	3	1	0	0	0
犠併残	2 0 11	33	9	2	3	5

【電電関東】		打	安	点	振	球
⑥	神田	3	0	0	1	1
⑦	江沢	3	0	0	0	0
③	慶野	4	1	0	1	0
⑧	岩野	2	0	0	2	2
⑤	千葉	4	0	0	0	0
②	佐藤	4	2	0	0	0
⑨	宮崎	1	0	0	1	0
H	柊野	1	0	0	0	0
④	園田	3	0	0	0	0
H	尾崎	1	1	0	0	0
①	中後	2	1	0	1	0
H	久保田	1	0	0	0	0
1	白倉	0	0	0	0	0
H	坂田	1	0	0	0	0
犠併残	3 2 8	30	5	0	6	3

投手	回	安	振	球	責
増岡	9	5	6	3	0
中後	7	6	3	5	2
白倉	2	3	0	0	0

▷三塁打＝慶野▷二塁打＝東▷犠打＝三2(森、増岡)電3(江沢、宮崎2)▷失策＝三1(増岡)電2(神田、慶野)▷試合時間＝2時間18分

第3試合＝2回戦(午後2時56分開始)

チーム				計
日本鋼管福山	000	020	000	2
日本生命	000	000	001	1

▶審判＝(球審)三宅(塁審)岡本、中村、津田(外審)高塚、清沢

【鋼管福山】		打	安	点	振	球
⑨	篠井	3	0	0	1	1
⑥	沢田	4	0	0	2	0
③	山内	4	0	0	3	0
⑤	清水	4	0	0	1	0
⑦	岡本	3	1	1	0	0
⑧	森下	3	2	0	1	0
④	深草	3	0	0	0	0
②	今久留主	2	0	1	1	0
①	田村	3	1	0	1	0
犠併残	1 2 2	29	4	2	10	1

【日本生命】		打	安	点	振	球
⑤	鈴木憲	4	2	0	0	0
④	田草川	3	0	0	0	0
⑦	山内	4	0	0	1	0
③	中井	4	1	0	0	0
⑨	西田	4	1	1	0	0
②	佐竹	2	0	0	0	2
⑥	赤井	3	0	0	1	0
①	岡田	1	0	0	1	0
H	月原	1	0	0	0	0
1	利光	0	0	0	0	0
H	野村	1	0	0	0	0
1	小弓場	0	0	0	0	0
⑧	新名	3	2	0	0	0
犠併残	1 0 5	30	6	1	3	2

投手	回	安	振	球	責
田村	9	6	3	2	1
岡田	5	2	4	1	2
利光	2	1	3	0	0
小弓場	2	1	3	0	0

▷本塁打＝岡本2号(岡田)中井1号(田村)▷三塁打＝森下▷犠打＝鋼1(今久留主)日1(田草川)▷盗塁＝日2(佐竹、新名)▷失策＝日1(岡田)▷試合時間＝2時間17分

〔2回戦〕新日鉄八幡―電電信越　六回裏電電信越一死三塁、佐藤幸のスクイズが成功し、三塁から湖口が生還し2点目。

▽11月1日

第1試合＝2回戦(午前7時58分開始)

チーム				計
新日鉄八幡	000	001	000	1
電電信越	000	002	01X	3

▶審判＝(球審)小林(塁審)原田、高塚、津田

【新日八幡】		打	安	点	振	球
⑤	門川	4	1	0	1	0
④	米村	3	0	0	0	0
⑥	玉井	3	0	0	1	1
⑦	工藤	4	1	0	1	0
③	下村	3	0	0	1	0
H	出水	1	0	0	0	0
⑧	山田誠	2	0	0	2	0
H8	草野	2	0	0	1	0
⑨	榎園	3	2	0	1	0
②	沢熊	3	0	0	1	0
①	萩野	3	1	0	0	0
R	浜田	0	0	0	0	0
1	大段	0	0	0	0	0
犠併残	1 0 5	31	5	0	9	1

【電電信越】		打	安	点	振	球
⑤	佐藤昭	4	0	0	1	0
⑧	中牧	4	1	0	1	0
⑦	岩本	3	2	0	0	1
③	佐藤治	4	1	0	1	0
④	湖口	4	2	2	0	0
⑥	佐藤幸	3	1	1	0	0
⑨	伏見	4	1	0	1	0
②	大石	3	1	0	2	0
①	佐藤公	2	0	0	0	0
犠併残	2 1 7	31	9	3	6	1

投手	回	安	振	球	責
萩野	7	7	6	0	2
大段	1	2	0	1	1
佐藤公	9	5	9	1	1

▷三塁打＝湖口▷二塁打＝門川▷犠打＝新1(米村)電2(佐藤幸、佐藤公)▷失策＝新1(門川)電1(佐藤昭)▷試合時間＝2時間27分

「迫力がなかったなァ」

㊙…勝利投手となった電電信越の佐藤公はケロリとしていた。「都市対抗の準優勝チームと聞いていたんで……。しかし迫力なかったなあ」。国士舘大学から今年電電公社に入った。大学時代にはリーグの最優秀投手に選ばれている。「学生時代に覚えたフォークボールが試合で使えるようになりピッチングに幅が出来た。つぎの試合もやってみますか」と欲をチラリ。

第2試合＝2回戦(午前10時52分開始)

チーム				計
T D K	000	000	000	0
三菱重工広島	000	001	20X	3

▶審判＝

【T D K】		打	安	点	振	球
⑥	鈴木	3	1	0	0	1
⑧	佐々木吉	2	0	0	0	2
⑦1	浅井	4	2	0	1	0
③	岡本	3	1	0	1	1
3	児玉	0	0	0	0	0
⑨	倉石	3	0	0	2	0
H	阿部	1	0	0	0	0
9	佐々木功	0	0	0	0	0
②	吉村	2	0	0	1	1
H	石黒	1	0	0	1	0
⑤	北林	2	0	0	0	2
④	宮本	2	0	0	0	0
H	桜庭	1	0	0	0	0
①	田村巧	1	0	0	0	0
1	野村	2	1	0	0	0
7	金原	0	0	0	0	0
犠併残	1 3 8	27	5	0	6	7

【三菱広島】		打	安	点	振	球
⑨	伊藤	3	2	0	0	1
⑥	酒井	3	3	0	0	0
⑧	荒谷	4	1	1	0	0
⑤	佐々木	3	1	1	0	1
③	吉川	3	2	1	0	1
⑦	中村	4	0	0	1	0
④	吉本	4	0	0	0	0
②	山村	3	0	0	2	1
①	若松	2	1	0	0	1
犠併残	1 2 8	29	10	3	3	5

投手	回	安	振	球	責
田村巧	2⅓	2	1	2	0
野村	4	8	0	3	3
浅井	1⅔	0	2	0	0
若松	9	5	6	7	0

▷本塁打＝吉川1号(野村)▷二塁打＝浅井、荒谷▷犠打＝T1(宮本)三1(酒井)▷暴投＝野村▷試合時間＝2時間45分

第3試合＝2回戦(午後1時59分開始)

チーム				計
日立製作所	000	100	043	8
鐘淵化学	011	010	021	6

▶審判＝(球審)三宅(塁審)国賀、小林、上杉

【日立】		打	安	点	振	球
⑧	山田	4	1	0	0	1
⑨	四至本	4	1	1	0	0
⑤	櫛田	4	2	2	1	0
⑦	小野寺	5	2	3	1	0
③	岡安	5	1	1	0	0
②	内田	4	2	1	0	0
⑥	森村	3	0	0	0	1
①	細淵	2	1	0	1	0
H	松本	1	0	0	1	0
1	小永吉	1	0	0	0	0
④	橋本	2	1	0	0	0
H	幸田	0	0	0	0	1
R	緑川	0	0	0	0	0
4	加藤	1	1	0	0	0
犠併残	2 0 6	36	12	8	4	3

【鐘淵化学】		打	安	点	振	球
⑧9	外園	4	2	1	0	0
8	春日	1	0	0	0	0
⑥	岡田	3	1	0	0	0
③	長嶋	4	1	1	1	0
⑨7	桑原	3	1	1	0	0
⑥	藤村	4	2	0	0	0
⑦	川内	2	0	0	0	0
89	星尾	1	0	0	1	0
④	佐藤	4	1	0	0	0
②	三瀬	4	1	1	0	0
①	宮田	1	0	0	1	0
1	藤本	1	0	0	1	0
1	光内	1	0	0	0	0
1	園	0	0	0	0	0
H	末永	1	1	1	0	0
犠併残	3 2 4	34	10	5	4	0

投手	回	安	振	球	責
細淵	6	7	3	0	2
小永吉	3	3	1	0	1
宮田	4⅓	3	3	2	1
藤本	2	2	0	0	0
光内	1	5	1	1	4
園	1⅔	2	0	0	0

▷本塁打＝外園1号(細淵)小野寺1号②(園)末永1号(小永吉)▷三塁打＝長嶋▷二塁打＝外園、山田▷犠打＝日2(四至本、櫛田)鐘3(岡田、桑原、川内)▷失策＝日2(森村2)鐘2(岡田、星尾)▷試合時間＝2時間40分

第4試合＝2回戦(午後5時1分開始)

チーム					計
大昭和製紙北海道	000	000	000	002	2
住友金属	000	000	000	000	0

▶審判＝(球審)郷司(塁審)達摩、中村、武村(外審)高塚、片岡

【大昭和】		打	安	点	振	球
⑨	浜井	6	1	0	3	0
⑦	山本	4	2	0	0	2
⑤	斎藤	5	2	0	1	1
③	高梨	4	1	2	0	2
⑧	我喜屋	6	0	0	2	0
②	村上	5	4	0	0	0
⑥	角田	5	0	0	1	0
④	仲本	4	0	0	1	1
①	中山	5	0	0	2	0
犠併残	0 1 12	44	10	2	10	6

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑨	宇山	4	1	0	1	1
⑧	三好	4	0	0	1	0
②	中村	4	0	0	2	1
③	谷口	4	0	0	1	1
⑦	京田	4	1	0	0	1
⑥	林	5	1	0	1	0
⑤	高瀬	5	0	0	1	0
④	清水	1	0	0	0	1
H	鈴木	1	0	0	0	0
4	都築	1	0	0	0	0
①	山中	2	0	0	0	0
1	宮崎	2	0	0	0	0
犠併残	1 0 7	37	3	0	7	5

投手	回	安	振	球	責
中山	12	3	7	5	0
山中	5⅔	5	4	4	0
宮崎	6⅓	5	6	2	2

▷三塁打＝山本▷二塁打＝村上▷犠打＝住1(三好)▷盗塁＝大2(山本、斎藤)住2(宇山、清水)▷失策＝大1(斎藤)▷試合時間＝3時間11分

スタミナには自信

㊙…大昭和北海道の中山投手がまた好投、延長12回を投げ抜いて住友金属を3安打に抑えて完封勝ちした。昨年の都市対抗の1回戦で住友金属と対戦して以来、引分け再試合を含めて33回無失点に抑えきってしまった。「疲れなどちっとも感じなかった。普段からよく投げ込んでますからね。体は小さいがスタミナと敏しょうさには自信があるんです」。

▽11月2日

第1試合＝準々決勝(午前7時58分開始)

三菱重工神戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国鉄四国	0	0	0	0	0	0	0	0	1

▶審判＝

【三菱神戸】

	打	安	点	振	球
⑥ 川辺	4	1	0	2	0
⑦ 東	4	0	0	0	0
⑧ 井上	4	1	0	2	0
④ 山谷本	4	0	0	2	0
4 時深田	0	0	0	0	0
⑤ 深田	3	1	0	0	0
③ 藤井	3	1	0	0	0
⑨ 勝	2	0	0	0	0
9 吉田	0	0	0	0	0
② 竹中	2	0	0	1	1
① 増岡	3	0	0	0	0

犠	併	残
1	1	4

	回	安	振	球	責
増岡	8⅔	4	9	0	1

【国鉄四国】

	打	安	点	振	球
⑥ 都築	4	1	0	1	0
⑤ 藤井嘉	4	1	1	1	1
⑧ 中石	3	0	0	1	1
⑨ 塚本	3	2	0	1	1
② 橋本	3	2	0	1	1
⑦ 中西	3	0	0	0	0
⑦ 藤井博	3	0	0	2	0
③ 湊谷	3	0	0	0	0
① 落合	3	0	0	2	0

犠	併	残
1	1	2

	回	安	振	球	責
落合	9	4	7	1	0

▷二塁打＝井上、藤井嘉▷犠打＝三1(勝)国1(橋本)▷盗塁＝三2(川辺、深田)国1(都築)▷試合時間＝1時間44分

自分でも信じられぬ

㊐…「手ごたえがあった。うれしいですね」。九回の土壇場で右中間突破のサヨナラ二塁打を放った国鉄四国の藤井嘉彦三塁手は、それでも信じられないといった顔。勝木監督からは「外角にマトをしぼれ」といわれていたそうだが「増岡さんはいいピッチャーです。打てる気はしなかった」と本音をはいた。173センチ、60キロと小柄。そこで「ただジャストミートだけを心がけている」と打の"伏兵"は準決勝に静かな闘志を燃やしていた。

第2試合＝準々決勝(午前10時18分開始)

日本鋼管福山	1	1	0	0	0	0	0	0	4
電電信越	0	0	1	0	0	0	0	0	3

▶審判＝(球審)小林(塁審)小西、高塚、相沢

【鋼管福山】

	打	安	点	振	球
⑨ 篠井	7	0	0	0	0
⑥ 沢田	5	1	1	1	1
③ 山内	6	0	0	1	0
⑤ 清水	7	2	1	0	1
⑦ 岡本	5	1	0	1	1
⑧ 森下	4	1	0	0	2
④ 深草	5	1	0	0	0
② 今久留主	6	2	1	1	0
① 田村	6	2	1	1	0

犠	併	残
3	0	9

	回	安	振	球	責
田村	15	9	8	0	3

【電電信越】

	打	安	点	振	球
⑤ 佐藤昭	5	1	0	0	0
⑧ 中牧	6	1	0	0	0
⑦ 岩本	6	2	0	1	0
佐藤治	6	1	1	2	0
④ 湖口	6	2	1	1	0
⑥ 佐藤幸	5	1	0	1	0
⑨ 伏見	6	0	0	1	0
② 大石	6	0	0	2	0
佐藤公	5	0	1	0	0
佐藤篠	0	1	0	0	0
沢原	0	1	0	0	0
柳志田	0	1	0	0	0
菊池	1	0	0	0	0
麻和川	1	0	0	0	0
湯関	1	0	0	0	0
根	1	0	0	0	0

犠	併	残
2	1	6

	回	安	振	球	責
佐藤公	3	2	0	1	1
柳沢	4	1	3	1	0
菊池	2	2	0	1	1
湯川	6	5	1	1	1

【鋼管福山】

	打	安	点	振	球
⑨ 篠井	5	3	1	0	0
⑥ 沢田	4	1	0	0	0
③ 山内	4	1	0	0	1
⑤ 清水	3	3	4	0	1
⑦ 岡本	3	1	0	0	1
7 竹野	1	0	0	0	0
⑧ 森下	5	1	1	1	0
④ 深草	4	3	1	0	0
4 落合	1	0	0	1	0
② 今久留主	4	0	0	0	0
① 田村	4	0	0	0	0
1 山根	0	0	0	0	0

犠	併	残
3	1	8

	回	安	振	球	責
田村	7	4	6	1	0
山根	2	2	1	1	0

【電電信越】

	打	安	点	振	球
⑤ 佐藤昭	5	1	0	0	0
⑧ 中牧	6	1	0	0	0
⑦ 岩本	6	2	0	1	0
佐藤治	6	1	1	2	0
④ 湖口	6	2	1	1	0
⑥ 佐藤幸	5	1	0	1	0
⑨ 伏見	6	0	0	1	0
② 大石	6	0	0	2	0
佐藤公	5	0	1	0	0
佐藤篠	0	1	0	0	0
沢原	0	1	0	0	0
柳志田	0	1	0	0	0
菊池	1	0	0	0	0
麻和川	1	0	0	0	0
湯関	1	0	0	0	0
根	1	0	0	0	0

犠	併	残
2	1	6

	回	安	振	球	責
落合	4⅓	9	1	1	5
橋詰	3⅔	4	0	2	1
佐野	1	0	1	0	0

▷本塁打＝田村1号(菊池)▷二塁打＝田村、沢田▷犠打＝鋼3(沢田、山内、深草)電2(佐藤昭、佐藤幸)▷盗塁＝鋼2(岡本、森下)電1(篠原)▷失策＝鋼1(山内)電2(岩本、湖口)▷捕逸＝大石▷試合時間＝4時間1分

第3試合＝準々決勝(午後2時35分開始)

三菱重工広島	0	0	0	0	1	0	1	0	2
日立製作所	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判＝(球審)三宅

【三菱広島】

	打	安	点	振	球
⑨ 伊藤	3	0	0	0	1
⑥ 酒井	4	2	0	0	1
⑧ 荒谷	4	0	0	2	0
⑤ 佐々木	4	2	0	1	0
③ 吉川	4	1	0	0	0
⑦ 中村	1	1	0	0	0
H 千代西尾	1	1	0	0	0
7 古吉川	2	1	1	1	0
④ 吉本	4	1	0	1	0
② 山村	3	0	1	0	0
① 近藤	3	1	0	1	0

犠	併	残
1	2	6

	回	安	振	球	責
近藤	9	6	2	3	0

【日立製作】

	打	安	点	振	球
⑧ 山田	4	1	0	0	0
⑨ 四至本	3	1	0	0	0
⑤6 櫛田	4	1	0	0	0
⑦ 小野寺	4	0	0	0	1
③ 岡安	3	1	0	0	1
② 内田	3	2	1	0	1
⑥ 森村	2	1	0	0	0
H1 田細淵	1	0	0	0	0
H 衣鳩	1	0	0	0	0
① 木鈴	0	0	0	0	0
H1 松本	1	0	0	0	0
H 高田	1	0	0	0	0
H5 加藤	1	0	0	0	0
④ 橋本	3	1	0	0	0

犠	併	残
1	3	7

	回	安	振	球	責
鈴木	2	2	1	1	0
高田	5	7	2	0	2
細淵	2	0	2	1	0

▷本塁打＝古川1号(高田)▷二塁打＝吉本▷犠打＝三1(山村)日1(四至本)▷盗塁＝三1(酒井)▷試合時間＝2時間17分

第4試合＝準々決勝(午後5時8分開始)

大昭和製紙北海道	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三協精機	0	0	0	0	0	1	1	0	2

▶審判＝(球審)高橋(塁審)八木、小林、中村

【大昭和】

	打	安	点	振	球
⑨ 浜井	4	1	0	1	0
⑦ 山本	3	0	0	0	0
⑤ 斎藤	4	0	0	0	0
③ 高梨	1	0	0	0	3
⑧ 我喜屋	4	0	0	1	0
② 村上	3	1	0	0	0
⑥ 角田	3	0	0	1	0
④ 仲本	2	0	0	1	0
H 高森	1	0	0	1	0
4 佐藤義	0	0	0	0	0
① 中山	2	0	0	1	0
1 加藤	0	0	0	0	0
H 大塩	0	0	0	0	1

犠	併	残
1	1	5

	回	安	振	球	責
中山	7	5	5	0	2
加藤	1	0	1	1	0

【三協精機】

	打	安	点	振	球
④ 内田	4	1	0	0	0
⑥ 幡野	3	0	0	1	0
⑧ 中島	0	0	0	0	0
8 豊国	2	0	0	0	1
③ 鈴木	4	1	1	1	0
⑨ 伊藤	0	0	0	0	0
9 白川	3	0	0	1	0
H9 橋本	1	0	0	0	0
② 古川	3	1	0	0	0
⑦ 星山	3	1	0	1	0
⑤ 柳瀬	0	0	0	0	0
H 佐々	1	0	0	1	0
5 寺坂	2	0	0	0	0
① 大塚	3	1	1	1	0

犠	併	残
2	1	6

	回	安	振	球	責
大塚	9	2	6	4	0

▷三塁打＝鈴木▷二塁打＝星山▷犠打＝大1(山本)三2(幡野、豊国)▷失策＝大3(山本、斎藤、角田)▷試合時間＝2時間20分

▽11月3日

準決勝＝第1試合(午前9時58分開始)

日本鋼管福山	1	0	2	1	2	3	0	0	9
国鉄四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判＝

【鋼管福山】

	打	安	点	振	球
⑨ 篠井	5	3	1	0	0
⑥ 沢田	4	1	1	0	0
③ 山内	4	1	0	0	1
⑤ 清水	3	3	4	0	1
⑦ 岡本	3	1	0	0	1
7 竹野	1	0	0	0	0
⑧ 森下	5	1	1	1	0
④ 深草	4	3	1	0	0
4 落合	1	0	0	1	0
② 今久留主	4	0	0	0	0
① 田村	4	0	0	0	0
1 山根	0	0	0	0	0

犠	併	残
3	1	8

	回	安	振	球	責
田村	7	4	6	1	0
山根	2	2	1	1	0

【国鉄四国】

	打	安	点	振	球
⑥ 都築	3	0	0	1	1
⑤ 藤井嘉	4	2	0	1	0
⑧ 中石	4	1	0	0	0
⑨ 塚本	4	1	0	2	0
② 橋本	4	2	0	0	0
⑦ 中西	2	0	0	0	0
H7 増井	2	0	0	0	0
④ 藤井博	1	0	0	1	1
H4 清水	2	0	0	0	0
③ 湊谷	3	0	0	1	0
① 落合	3	0	0	1	0
1 橋詰	0	0	0	0	0
H 岡田	1	0	0	0	0
1 佐野	0	0	0	0	0

犠	併	残
1	0	7

	回	安	振	球	責
落合	4⅓	9	1	1	5
橋詰	3⅔	4	0	2	1
佐野	1	0	1	0	0

▷三塁打＝篠井▷二塁打＝篠井2、藤井嘉、清水2、塚本▷犠打＝鋼3(沢田、清水、今久留主)国1(橋詰)▷失策＝国2(中石、湊谷)▷試合時間＝2時間19分

鋼管福山、打線爆発。

日本鋼管福山の快勝。立ち上がりから積極的なバッティングで、国鉄の投手をとらえた。一回、先頭の篠井は落合の初球を左中間二塁打。沢田が送り、山内も歩いた一、三塁に清水の右邪飛で先制。この先制で鋼管は勢いに乗り、落合は浮足だった。

連投の落合は、疲れからか身上のコントロールが甘く、球の切れも鈍かった。余裕の出た鋼管は三回、沢田、山内、清水の3連続短長打で2点。四回は篠井の三塁打で加点した。

五回。一死から清水、岡本が連打し、一、二塁となったところで、国鉄は橋詰を救援に送ったが球威不足。森下、深草が痛打を浴びせて6点差。六回には相手守備の乱れなどで3点を奪い、勝利を決定づけた。

大量点をバックに鋼管・田村は悠々と投げた。前日、十五回を投げており、幾分セーブ気味だったが、外角スライダー、内角シュートを投げ分け、国鉄に付け入るすきを与えなかった。鋼管は八回から田村を下げて山根をマウンドに送るゆとりを見せて完封勝ち。

〔準決勝〕三菱重工広島―三協精機　四回裏三協精機一死一、二塁、金野の左前打で二塁から古川が勝ち越しの生還。

準決勝＝第2試合(午後0時50分開始)

三菱重工広島	1	0	0	0	0	0	0	0	1
三協精機	0	0	1	1	0	0	0	1	3

▶審判＝(球審)中西(塁審)中村、大村、津田

【三菱広島】

	打	安	点	振	球
⑨ 伊藤	3	0	0	0	1
⑥ 酒井	4	2	0	0	0
⑧ 荒谷	3	0	0	2	0
⑤ 佐々木	4	2	1	0	0
③ 吉川	4	1	0	0	0
⑦④ 古吉川	3	0	0	0	0
②⑦ 吉本	3	0	0	1	0
H 千代西尾	1	0	0	0	0
⑤ 山村	2	1	0	0	0
H2 井上	1	0	0	0	0
①1 近藤	2	1	0	0	1

犠	併	残
0	0	4

	回	安	振	球	責
若松	4⅓	6	4	2	1
近藤	3⅔	3	5	0	0

【三協精機】

	打	安	点	振	球
④ 内田	3	2	0	0	1
⑧ 中島	0	0	0	1	0
8 9 橋本	2	1	1	0	0
⑥ 幡野	4	1	0	0	1
③ 鈴木	3	0	0	1	1
② 古川	4	0	0	0	0
⑦ 星山	4	2	0	0	1
⑨ 金野	3	2	0	0	0
9 佐々	3	0	0	1	0
R 豊国	0	0	0	0	0
9 8 柳瀬	2	0	0	0	0
⑤ 寺坂	1	0	0	2	0
5 ① 樋江井	3	1	0	0	1

犠	併	残
2	2	7

	回	安	振	球	責
樋江井	9	7	5	1	1

▷二塁打＝佐々木、橋本、酒井▽犠打＝協2(橋本2)▷盗塁＝協3(星山、金野、佐々)▷失策＝菱2(酒井、若松)▷試合時間＝2時間11分

三協、ジリジリと逆転

三協精機は松下と大昭和、三菱重工広島はＴＤＫと日立に完封で勝ち進んできた無失点同士。三菱は若松、三協は初登板の樋江井と両左腕でスタートしたが、ともに早い回で相手に得点を与えた。しかし、三協は樋江井が二回から立ち直り、攻撃力で三菱をしのいで競り勝ち、優勝戦へ進出した。

先手を取ったのは三菱。初回、四球の伊藤は酒井の投前バントが正面を突いて二封されたが、二死から佐々木はバットを折りながらも左翼へ力ではね返す二塁打を放ち、酒井の快走で先取点を挙げた。

しかし三協はあわてず、三回にはね返した。この回一死後、樋江井が左前安打、内田の投手左へのバントは内野安打となったうえ、若松の一塁悪送球を誘って二、三塁。橋本の大きな中犠飛で樋江井が還った。試合を振り出しに戻した三協は四回、死球を足場に星山、金野の連打で逆転。五回は四球の内田をバントで送ったあと、若松を救援した右の近藤から幡野が遊撃を緩いゴロで襲う内野安打。三塁をわずかにオーバーランした走者を刺そうとした野手の三塁悪送球にも恵まれて3点目を拾った。

三協は主導権を奪ったものの、六回以降は近藤の速球と落ちる変化球に決定打が出ず、追加点は挙げられずじまい。しかし二回以後、シュートと切れのいいカーブで要所を締めくくった樋江井の力投で逃げきった。

▽11月4日

優勝戦（午後0時55分開始）

日本鋼管福山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三協精機	1	1	2	0	0	0	0	0	X	4

▶審判＝（球審）三宅（塁審）中西、市村、上杉

【鋼管福山】打安点振球

⑨	篠井	3	0	0	0	1
⑥	沢田	4	1	0	0	0
③	山内	4	0	0	0	0
⑤	清水	3	0	0	0	0
⑦	岡本	3	0	0	0	0
⑧	森下	3	0	0	0	0
④	深草	3	0	0	1	0
②	今久留主	3	0	0	0	0
①	田村	2	0	0	1	0
H	落合	0	0	0	0	1

犠 併 残
0 1 3

回	安	振	球	責
田村	8	6	3	1

【三協精機】打安点振球

④	内田	4	2	0	0	0
⑥	幡野	3	1	0	1	0
⑧	豊国	3	1	1	0	0
③	鈴木	4	1	2	0	0
②	古川	3	0	0	0	1
⑨	白川	3	0	0	1	0
⑦	星山	1	0	0	0	0
7	橋本	2	1	0	0	0
⑤	佐藤	1	0	0	0	0
H	佐々	1	0	0	0	0
5	寺坂	0	0	0	0	0
①	大塚	3	0	0	1	0

犠 併 残
3 0 4

回	安	振	球	責
大塚	9	1	2	0

▷三塁打＝鈴木 ▷二塁打＝内田 ▷犠打＝協3（幡野、豊国、佐藤）▷盗塁＝協2（内田、古川）▷失策＝鋼4（沢田3、今久留主）協1（大塚）▷試合時間＝2時間1分

三協速攻、前半に4点

三協精機・大塚、日本鋼管福山・田村と予想通りの先発だったが、三協の速攻が功を奏した。

三協は一回、先頭の内田が2－1と追い込まれながら、三塁線突破の二塁打、幡野は手堅く送り、豊国は中犠飛。先取点は田村の投げた7球目にもう転がり込んだ。二回は無安打での追い打ち。先頭・古川が四球からの一死後二盗、星山の遊ゴロを野手が悪送球する間に古川が還った。

鋼管の頼みのエース・田村は、スタミナに自信があるとはいえ、やはり5連投となると、疲れは隠せなかった。球の切れがいまひとつの上、コースも甘い。三協はリードの余勢をかった三回、一気に田村をとらえた。一死後、幡野の中前打を口火に豊国は三遊間を破って一、二塁。ここで四番・鈴木は期待通り、右中間に2点三塁打。

田村は四回から立ち直ったが、打線の援護を支えにした下手投げの大塚は終始マイペースの投球を崩さなかった。間合いを十分に取り、内角シュート、さらに外角へスライダーと巧みな配球で鋼管打線を抑え、九回二死まで、わずか2四球の走者を許しただけで無安打無得点。しかしあと一人と迫った快記録は、惜しくも122球目を沢田に投手強襲打され、逃がした。

監督談話

三協精機・光沢毅監督　大塚が実によく投げてくれた。足の負傷もあり、五回まで頑張ってくれればいいと思っていたのだが、最後までよかった。打線も打ったし、考え通りの試合が出来た。

日本鋼管福山・山田茂利監督　欲が出て優勝を意識、選手の足が地につかず、失策で自滅してしまった。ノーヒット・ノーランをやられていたら、これまでの苦労が水の泡になるところだった。明日からまたやり直す。

両手に結婚と優勝

三協精機・鈴木

①…右中間に痛烈な三塁打を放ち、ダメ押しの2点をたたき出した三協の鈴木一塁手は「速くもないストレートが真ん中に入ってきた。夢中で打ち、走りました」。この打の殊勲者鈴木選手は17日にフィアンセの小井戸育美さん(25)との結婚式を控え、いわば優勝と両手に花。しかし、優勝チームは27日から豪州遠征のスケジュールがあるため「20日からのヨーロッパ新婚旅行は流れますが、豪州遠征から帰ってから出直します」とうれしい"強行日程"を披露した。

〔優勝戦〕日本鋼管福山－三協精機　九回表、安打1本を許しただけで最後の打者・山内（右）を遊ゴロに打ちとって完封勝利を飾った三協精機の大塚投手。

Vに花〝快刀〟、1安打に断つ

熱球

21歳の若者が、初めての選手権大会優勝戦で、とてつもない記録を目指して投げた。三協精機の大塚投手。立ち上がり際どいコースを突いた球がわずかに決まらず、日本鋼管福山の先頭打者に四球を与えてしまったが、その後は下手からの好球で鋼管福山の打者を退けていった。

九回。大塚は"無安打無得点試合"の記録をはっきりと意識してマウンドに上がった。「こんなチャンスはめったにない。二回ごろいい当たりをされてヒットを許したように思っていたが、あとで調べたらそうじゃなかったのでいけるなと思った。それが七回ごろだった」。

まず捕邪飛で一歩前進。続く代打・落合に2－3後の7球目を選ばれ、2つ目の四球。さらに一番で前日大当たりの篠井を迎え、また制球をちょっと乱した。松下電器の山口高、大昭和製紙北海道の中山両投手に投げ勝った自信にあふれながらも"記録"に挑む大塚はやはり緊張して力んでいた。これは仕方がないことだろう。が、篠井を二飛に抑えた。もう目前だ。優勝争いの場で、こんな記録で勝つなんて大したものだ、と思った。1971年夏の高校野球選手権で、大塚は桐蔭学園（神奈川）のマウンドを守り、初陣のチームに優勝をもたらしている。大塚の甲子園のマウンドにはいつも強運がついて回っているに違いない。

最後の打者になるかも知れない沢田を迎えた。1球目ファウル。2球目は外角に高い球。捕手が飛び上がってようやく取った。3球目、沢田は打った。マウンドの前ではね上がった打球に大塚はジャンプしてグラブをさし出した。打球はそれをはじいて、勢いよく走ってきた二塁手の内田の前。「内田さんに任せたらアウトだったでしょうね。しかし自分でとれる範囲と思ったので…。仕方ありません。またチャンスを作って狙いますよ」。無念さをのみ込んだ顔は、さわやかだった。"記録"は逃がしたが、右足の負傷をこらえ、1安打に抑える鮮やかな投球は第1回大会の優勝投手の印象を強烈にした。

雲がおおった甲子園のグラウンドで、マウンドのあたりだけが光って見えた。大塚の強運だけでなく、光沢監督、村上コーチたちの運の強さが固まったせいに違いない。　（笹尾　勝彦）

“無敗の光沢”宙に舞う

甲子園のマンモスグラウンドに記念の第１回優勝の足跡を残したのは、寒い北国からやってきた三協精機（長野県諏訪郡下諏訪町）だった。“リバイバル甲子園”そんな表現に似つかわしいほど監督、コーチ、選手合わせて28人のうち15人までが、かつて、この高校野球のメッカで投げ、スパイクで黒土をはね上げた選手たち。そして、この大会にも、高校生だったあの春、夏の日のように、ひたむきに打ち、走った三協ナインだった。

「監督さん、胴上げ」――感激に声をつまらせてだれかがどなるように叫んだ瞬間、身長161㌢、小柄な光沢毅監督の体が、どっと駆け集まった選手たちにかかえられ、二度、三度、宙に踊った。

ちょうど20年前の春のセンバツ、無名の長野県・飯田長姫高の主戦投手として、だれも予想しなかった全国優勝をなしとげた“小さな大投手”は、若者のようにほおを染めた。「懐かしい甲子園ということで選手もやりやすかったよう」と、いまは38歳の光沢監督。紙テープと拍手のアラシの中で、続いて胴上げされた村上唯三郎コーチは、1959年夏の大会優勝の西条高の一塁手だった。そして最高殊勲選手賞の大塚投手は、1971年夏優勝の桐蔭学園のエース。この“甲子園無敗トリオ”を中心にまとまった三協は、やはり強かった。

第一回大会の優勝は三協精機。秋の甲子園に光沢監督が舞った。

「きょうは優勝ということで、ものすごく意識しました。だが、大会屈指といわれる山口高投手、中山投手（大昭和製紙北海道）に負けまいと思った」と大塚投手。もう初氷が張った故郷の信州に、三協ナインは春を持ち帰った。

第１回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　大塚喜代美投手**（三協精機）「最高にうれしい」。桐蔭学園高（神奈川）卒、1971年夏の甲子園優勝投手。翌年三協入社、都市対抗に３年連続出場、下手投げの技巧派。172㌢、67㌔、21歳。チームは豪州に遠征するが大塚は13日、キューバにむかう全日本チームに参加する。

◇**敢闘賞　田村忠義投手**（日本鋼管福山）「満足な投球が出来たのは初戦の新日鉄室蘭戦だけ」。1967年広陵高（広島）卒、日本鋼管（川崎）入社。川崎時代は控えに甘んじていたが、69年10月福山に移ってからエースに成長。今年は三菱重工三原の補強選手で都市対抗のマウンドに立ち活躍した。178㌢、78㌔、26歳。

◇**首位打者賞　酒井信芳内野手**（三菱重工広島）＝10打数７安打、７割。「初めての全国大会でベスト４進出の上、賞が取れてうれしい」。広島商高から東洋大に進み、入社２年目。スイッチヒッターの器用な選手。164㌢、64㌔、24歳。

◇**大会優秀選手**

【投手】大塚喜代美（三協精機）田村忠義（日本鋼管福山）中山俊之（大昭和製紙北海道）落合登（国鉄四国）増岡義教（三菱重工神戸）萩野友康（新日鉄八幡）宮田真（鐘淵化学）**【捕手】**村上忠則（大昭和製紙北海道）古川義弘（三協精機）**【一塁手】**鈴木一比古（三協精機）吉川丈一（三菱重工広島）**【二塁手】**内田俊雄（三協精機）湖口一幸（電電信越）**【三塁手】**清水由則（日本鋼管福山）佐々木幸治（三菱重工広島）**【遊撃手】**幡野正秋（三協精機）酒井信芳（三菱重工広島）**【外野手】**星山和久（三協精機）岡本道夫、森下政秋、篠井文衛（以上日本鋼管福山）山本和則（大昭和製紙北海道）

大阪こそアマ野球のふるさと

―― 初の大会に望む　佐伯達夫大会委員長（写真）――

大阪で社会人野球の選手権をやりたい、というのは私の長い間の念願。それが実現の運びとなり、ホッとしたというのがいまの気持ちです。こんどの話が出たとき、チームからぜひ甲子園で、という声が強く出ましてね。高校時代の球歴にかかわらず、甲子園はアマチュアの野球人にとってはいつまでもあこがれの球場なんでしょう。

ところで、大阪での“選手権”の開幕はむしろ遅すぎた、と思うんです。若い人はご存じないだろうが、大阪は明治の末ごろ実業団野球が盛んで、一番多いときは80もチームがあった。大会も開かれ大正の中ごろまではつづいていたが、その後いつの間にか消滅してしまった。いまでこそ大阪といえば高校野球ですが、歴史をたどると、むしろ社会人野球とのつながりの方が深いわけです。古くからの商工都市だし、大企業も多い。

現にいまでも強いチームはたくさんあるのに、これといった大会がなかった。こういう大会はもっと早くからあってしかるべきで、やっとか……。

私は体が弱かったが、野球をやったおかげで健康になったし、野球によって得た精神的なものがその後の人生の中で役立っている。スポーツが健康のほかに人格、人間形成に寄与する効果は大きい。選手諸君は野球をやることによって企業に貢献、会社も野球をバックアップすることで社員の士気を高める。両者にとって大きなプラス。ここらあたりが社会人野球のあり方でしょう。

社会人野球といえば長い歴史を誇る都市対抗野球がある。違うのはこの大会は選手権という名のとおり、選手の補強制度のないこと。優勝すれば名実ともに“日本一”です。こんなところに都市対抗にはない魅力があり、意義もあると思う。それだけに一人でも多くのファンに見てもらい、大会を成功させたい。

（1974年10月23日付　毎日新聞朝刊）

第1回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月12日から　4日間　　札幌中島球場

東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽一回戦　オール青森１－０八戸市水道部、きものセンターク２－０三菱製紙八戸▽**敗者復活戦**　三菱製紙八戸３－２八戸市水道部▽**準決勝**　オール青森ク３－１きものセンターク、三菱製紙八戸３－２自衛隊青森▽**決勝**　三菱製紙八戸11－１オール青森（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**▽一回戦　谷村新興１－０水沢駒形、小野田セメント１－０一関三星、岩手銀行４－１東京製綱、盛岡鉄道管理局３－２オール釜石▽**準々決勝**　新日鉄釜石４－１小野田セメント、オール不来方７－４谷村新興、岩手銀行７－０大船渡工ＯＢ、盛岡鉄道管理局12－０全久慈▽**準決勝**　岩手銀行３－０盛岡鉄道管理局、新日鉄釜石７－０オール不来方（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　新日鉄釜石２－０岩手銀行▽**三位決定戦**　盛岡鉄道管理局３－０オール不来方（勝者は第二次予選へ）

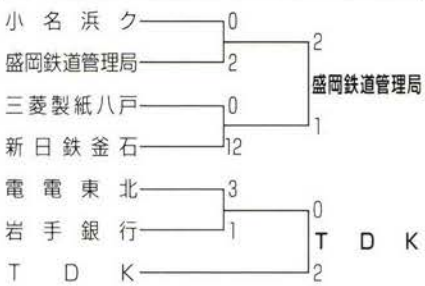
◇**秋田**▽一回戦　秋田銀行（不戦勝）秋田経大校友ク、秋田相互銀行５－２東北肥料▽**準決勝**　ＴＤＫ６－０秋田相互銀行、秋田鉄道管理局１－０秋田銀行▽**決勝**　ＴＤＫ２－１秋田鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**宮城**▽一回戦　石巻ハリケーン４－２亘理ク、電電東北５－１鳳山ク、日和ク13－０オノヤク▽**準決勝**　石巻ハリケーン５－４日和ク、電電東北２－１仙台鉄道管理局▽**決勝**　電電東北11－２石巻ハリケーン（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽一回戦　小名浜ク７－２学石ＯＢ、会津若松ク１－０川俣ク、二本松レンジャーズ９－０原田ク、塙ク７－６オール郡山、オール常交10－０ＳＧク、いわきク13－５双高ＯＢク、福島ク７－１飯塚病院ク▽二回戦　小名浜ク７－０自衛隊福島、会津若松ク５－０二本松レンジャーズ、オール常交８－７塙ク、いわきク10－０福島ク▽**準決勝**　小名浜ク７－６会津若松ク、いわきク５－４オール常交▽**決勝**　小名浜ク５－２いわきク（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月29日から　3日間　　岩手県営球場



関東大会

▶一次予選

◇**群馬**▽一回戦　富士重工業１－０高崎鉄道管理局▽**決勝**　富士重工業７－１全前橋（勝者は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽一回戦　日本通運16－０全浦和、本田技研７－１エーザイ▽**決勝**　日本通運３－２本田技研（勝者は第二次予選へ）

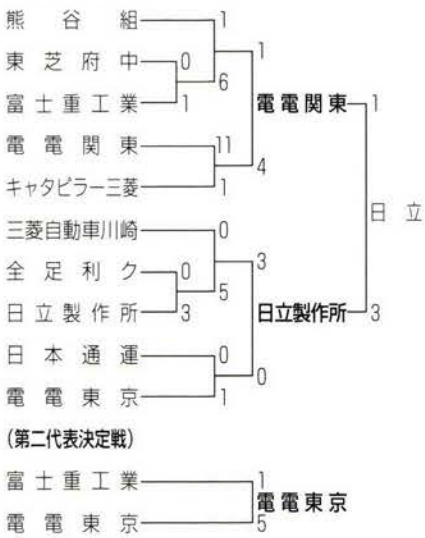
◇**東京**▽一回戦　リッカー４－３日立化成、電電東京５－２チャイルド、ティアック７－１東京ガス、熊谷組３－２鷺宮製作所▽**準決勝**　電電東京３－０リッカー、熊谷組４－１ティアック（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　熊谷組４－３電電東京

◇**多摩**▽**代表決定戦**　東芝府中５－０全調布（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽一回戦　東芝２－０日本石油、キャタピラー三菱３－０三菱重工横浜、日産自動車１－０日本鋼管、三菱自動車川崎３－１いすゞ自動車▽**準決勝**　キャタピラー三菱２－１東芝、三菱自動車川崎７－２日産自動車（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　三菱自動車川崎３－１キャタピラー三菱

▶二次予選

9月20日から　4日間　　群馬県営敷島球場



（第二代表決定戦）

中部大会

▶一次予選

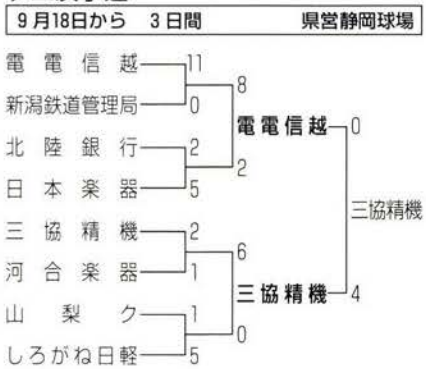
◇**新潟**▽一回戦　平和ク４－３小千谷ク▽**準々決勝**　新津ク６－１長商ク、新潟鉄道管理局９－２平和ク、白根野球団４－３新潟コンマーシャル、新潟ク５－４渡辺ク▽**準決勝**　新潟鉄道管理局９－３新津ク、白根野球団４－３新潟ク▽**決勝**　新潟鉄道管理局６－３白根野球団（勝者は第二次予選へ）

◇**静岡**▽一回戦　しろがね日経６－２全沼津ク、河合楽器８－０清水ク、大昭和製紙８－１清水タイガース▽**準決勝**　日本楽器４－０しろがね日経、河合楽器３－２大昭和製紙（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　河合楽器３－２日本楽器▽**三位決定戦**　しろがね日経７－４大昭和製紙（勝者は第二次予選へ）

◇**富山**▽**三回戦制**　北陸銀行４－３電電富山、電電富山８－７北陸銀行、北陸銀行６－３電電富山（北陸銀行は第二次予選へ）

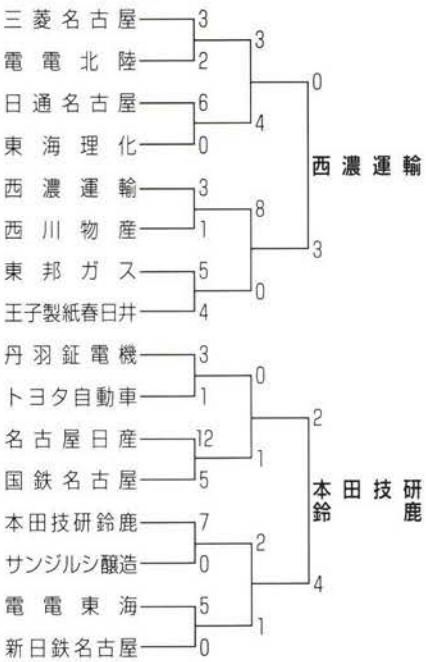
▶二次予選

9月18日から　3日間　　県営静岡球場



東海・北陸大会

9月11日から　8日間　　愛知県営熱田球場



近畿大会

▶一次予選

◇**京都**▽一回戦　三菱自動車京都７－０丸勝、第一紙行６－０洛友ク、日本新薬８－１ユニチカ、辻和７－２京都信用金庫、大丸20－０北桑ク▽**準々決勝**　三菱自動車京都５－０第一紙行、日本新薬７－０京都市役所、辻和３－０高島屋京都、大丸８－０スワロン（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本新薬２－１三菱自動車京都、大丸４－１辻和▽**決勝**　日本新薬２－０大丸▽**三位決定戦**　三菱自動車京都５－２辻和

◇**大阪**▽一回戦　デュプロ印刷機９－２旭化成▽**準々決勝**　電電近畿２－０大阪高島屋、新日鉄堺３－０全三和銀行、日本生命２－１デュプロ印刷機、松下電器８－０大阪ペーシェンス（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本生命１－０松下電器、電電近畿５－１新日鉄堺▽**決勝**　電電近畿２－１日本生命▽**三位決定戦**　松下電器８－１新日鉄堺▽**敗者復活一回戦**　大阪高島屋４－１旭化成▽**同二回戦**　大阪高島屋７－４大阪ペーシェンス、デュプロ印刷機５－２全三和銀行▽**第五代表決定戦**　デュプロ印刷機４－０大阪高島屋（勝者は第二次予選へ）

◇**兵庫**▽一回戦　鐘淵化学７－４小西酒造、石川島播磨重工業３－１新日鉄広畑、三菱重工神戸２－０川崎製鉄神戸、川崎重工９－８神戸製鋼▽**準決勝**　鐘淵化学３－１石川島播磨重工業、川崎重工２－２三菱重工神戸＝引き分け再試合、三菱重工神戸３－１川崎重工（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　鐘淵化学１－０三菱重工神戸▽**三位決定戦**　川崎重工３－２石川島播磨重工業（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月18日から　6日間　　西京極球場

中国大会

▶一次予選

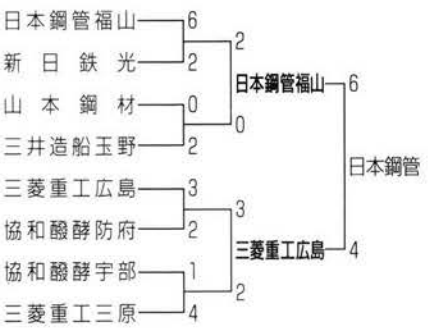
◇**岡山**▽リーグ戦　三菱自動車水島11－０川崎製鉄水島、三井造船玉野11－６三菱自動車水島、三井造船玉野２－１川鉄水島（三井造船玉野は第二次予選へ）

◇**広島**▽一回戦　日本鋼管福山９－１東洋工業、山本鋼材５－４電電中国、常石鉄工０－０三菱重工広島＝引き分け再試合、三菱重工広島４－０常石鉄工、三菱重工三原10－０広島マツダ（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本鋼管福山４－０山本鋼材、三菱重工三原６－２三菱重工広島▽**決勝**　三菱重工三原４－３日本鋼管福山

◇**山口**▽一回戦　協和醗酵防府12－２オール周南、東洋紡10－０田辺製薬、新日鉄光７－２協和醗酵宇部▽**代表決定戦**　協和醗酵防府６－２東洋紡、新日鉄光８－０航空自衛隊防府（勝者は第二次予選へ）▽**敗者復活一回戦**　田辺製薬（不戦勝）オール周南▽**同二回戦**　協和醗酵宇部12－２田辺製薬、東洋紡12－４航空自衛隊防府▽**第三代表決定戦**　協和醗酵宇部７－４東洋紡（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月10日から　3日間　　倉敷市営球場

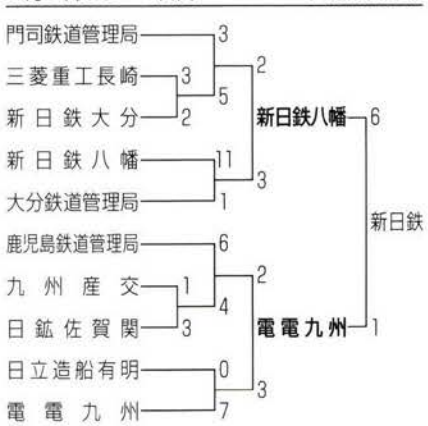


四国大会

9月15日から　4日間　　高松中央球場

九州大会

9月21日から　4日間　　大分県営球場



第1回大会出場選手等一覧（○は主将）

新日本製鐵室蘭

監督		田畑　義秋	41	赤穂高
投手		小林　忠	27	島田商高
〃		丹下　勇	26	北海高
〃		須貝　一美	26	室蘭大谷高
〃		財前　純二	26	佐倉高
〃		土屋　隆幸	25	市川高
〃		浜師　勝彦	21	伊達高
〃		古池　憲宝	20	北見工高
捕手		大宮　建治	28	富士工高
〃		後藤　哲夫	26	興譲館高
〃		小林八守雄	23	北海高
〃		小杉　康雄	20	砂川南高
内野	○	朝倉　年明	27	北海高
〃		寺本　収	27	尼崎北高
〃		安西　秀親	25	道産業短大
〃		荒野　悟	25	登別大谷高
〃		五鬼田義夫	24	銚子商高
〃		大塚　邦弘	21	北海高
〃		神坂　明	19	札幌商高
〃		辻　清貴	19	室蘭工高
外野		小松崎　良行	25	岩瀬高
〃		柴田　武明	25	中央大
〃		前原三喜生	24	千葉工高
〃		木下邦裕	23	室蘭大谷高
〃		島尻　均	20	北見柏陽高
〃		岡田　仁	19	室蘭工高

大昭和製紙北海道

監督		安藤　喜春	33	沼津東高
投手		松崎　隆	23	一宮商高
〃		中山　俊之	22	道産業短大
〃		川瀬　隆俊	22	木古内高
〃		高橋　孝行	22	中央大
〃		加藤　英美	21	室蘭大谷高
〃		望月　保雄	21	富士宮北高
〃		小磯　健次	19	安積商高
捕手		村上　忠則	24	津名高
〃		高森　雅明	24	室蘭清水丘高
〃		板倉　年克	22	道産業短大
〃		三上　誠一	19	室蘭大谷高
〃		伊藤　隆博	18	札幌商高
内野		高梨　英夫	31	大多喜高
〃		池ケ谷　勝	30	立教大
〃		斉藤　勲	28	柳井商工高
〃		角田　憲二	27	早稲田大
〃		仲本　広明	23	沖縄興南高
〃		佐藤　義夫	22	神奈川大
〃		佐藤　徳二	21	五所川原農林高
〃		有野　清美	20	旭川大高
外野	○	浜井　順丈	26	芝浦工業大
〃		山本　和則	24	北海高
〃		大塩　順三	24	登別大谷高
〃		我喜屋　優	23	沖縄興南高
〃		高田　行夫	20	道産業短大

盛岡鉄道管理局

監督		渡辺　学	31	花巻北高
投手		後藤　尚男	18	岩谷堂農林高
〃		千田　武	19	水沢商高
〃		堀江　定夫	24	福岡高
〃		佐藤　繁	22	一関工高
〃		末永　善博	19	東北高
〃		小田島十三男	21	花巻商高
捕手		櫛桁　孝男	19	久慈農林高
〃		鈴木　克二	23	高田高
〃		福島　正博	22	釜石北高
〃		中岫　睦雄	18	三本木高
内野	○	新沼　秀雄	27	高田高
〃		佐藤　嘉明	19	黒沢尻工高
〃		赤平　繁夫	25	黒沢尻北高
〃		佐々木春樹	20	大曲農高
〃		小田島隆雄	23	花巻商高
〃		桂　寿宏	18	十和田高
外野		渡辺　学	31	花巻北高
〃		及川　一夫	23	黒沢尻工高
〃		上條　寿一	22	三本木農高
〃		法領田守男	18	盛岡商高
〃		松田　修一	21	花巻商高
〃		佐々木勝信	18	住田高
〃		斎藤　憲	26	一関一高
〃		渡辺　学	31	花巻北高

T D K

監督		野村　稔	30	榛原高
投手		野村　稔	30	榛原高
〃		浅井　治彦	27	専修大
〃		石森　隆	20	東北高
〃		田村　巧	23	亜細亜大
〃		伊東　正弘	18	木更津中央高
捕手		岡本　隆	27	早稲田大
〃		桜庭　吉昭	25	金足農高
〃		吉村　好嗣	22	大阪学院大
〃		田村　正孝	18	西仙北高
内野		石黒　孝昭	26	由利工高
〃		斎藤　浄	24	本荘高
〃		児玉　徹	24	本荘高
〃		鈴木　昭光	25	金足農高
〃		阿部　正英	21	金足農高
〃		北林　哲夫	22	東洋大
〃		伊藤　辰雄	22	専修大
〃	○	宮本　方明	25	和歌山工高
外野		佐々木吉一	26	金足農高
〃		倉石　茂樹	24	東洋大
〃		佐々木　功	20	大曲農高
〃		金原　晴夫	23	名古屋商科大
〃		進藤　均	19	大曲農高
〃		幸林　実	19	北陽高
〃		湊　康二	19	金足農高
〃		秋葉　弘	19	木更津中央高

日立製作所

監督		神田　昌男	39	宇都宮工高
投手		細淵　守男	24	粟野高
〃		小永吉　弘	22	東海大
〃		山崎　清夫	21	作新学院高
〃		鈴木　昭仁	23	大東文化大
〃		高田　新次	27	東海大
〃		赤津　宏二	22	駒沢大
捕手		内田　睦夫	28	東海大
〃		常田　昭夫	19	日大桜丘高
〃		衣旭　辰男	22	波崎高
〃		武藤　一雄	20	甲府商高
内野		森村　佳也	27	芝浦工大
〃		櫛田　博通	22	湯本高
〃		橋本　公雄	26	明治大
〃		岡安　豊	26	日大三高
〃		加藤　功造	25	関東学院大
〃		高部　次郎	19	水戸工高
外野		宮崎　努	22	日本大
〃		四至本　博	24	中央大
〃		緑川　和典	23	東海大
〃		斉藤　良夫	19	酒田商高
〃		幸田　互	21	弘前実高
〃		板垣　武宏	21	前橋工高
〃		松本　仁	22	宇都宮工高
〃		小野寺重之	26	明治大
〃	○	山田　智干	28	御所工高

電電関東

監督		佐藤　文夫	32	駒沢大
投手		中後　政行	21	安房水産高
〃		小曽根修治	20	日大三高
〃		近藤　澄貴	23	福岡大
〃		白倉　吉蔵	23	峡北高
捕手		板井　秀治	19	北富士工高
〃		菅嶋　雄二	23	明治学院大
〃		佐藤　文夫	32	駒沢大
〃		市川　重之	19	木更津中央高
内野		慶野　茂	21	甲府工高
〃		神田　利克	25	駒沢大
〃		佐々木晴夫	26	千葉商大
〃		入江　太問	23	福岡大
〃		千葉　清	24	日本大
〃		尾崎　等	22	甲府工高
〃		仁田　操	19	成東高
〃		園田　正司	25	東洋大
外野		宮崎　久男	24	佼成学園高
〃		久保田栄三	24	東洋大
〃		江沢　寛	24	木更津中央高
〃		坂田　秀雄	23	東海大
〃		岩野　昇	24	駒沢大
〃	○	柊野　一隆	26	福岡大

電電東京

監督		佐久間芳克	36	日大三高
投手		内田　正美	26	東洋大
〃		本多　詳治	22	南宇和高
〃		森　二郎	25	駒沢大
〃		戸田　国秀	19	熊本工高
〃		渡辺　節朗	27	日本大
〃		竹田　義高	24	鎮西高
捕手		大和田　広	25	竜ケ崎一高
〃		新井　公一	24	桐生工高
〃		安藤　陸	18	九州工高
〃		赤坂　正昭	23	大阪商大
〃		桜井　陽一	26	拓殖大
内野		斉藤　秀樹	24	亜細亜大
〃		上柏　徳治	26	亜細亜大
〃		橋爪　昭二	24	国士舘大
〃		原科　政市	23	駒沢大
〃		小川　利之	21	竜ケ崎一高
〃		原川　勤	24	駒沢大
〃		大島　守	23	国士舘大
〃		片山　満雄	25	国士舘大
外野	○	上田美智夫	27	亜細亜大
〃		富永　重善	30	立教大
〃		矢治　達夫	22	帝京大
〃		沢松　卓朗	23	近畿大
〃		山崎　春夫	22	亜細亜大

三協精機

監督		光沢　毅	38	明治大
投手		橘江井　忠臣	21	中京高
〃		福田　義之	23	神奈川大
〃		大塚喜代美	21	桐蔭学園高
〃		中島　昭男	20	松商学園高
〃		上田　芳央	23	明治大
〃		小山　良春	22	日本大
〃		平田　恒夫	18	中京商高
〃		伊藤　弘利	20	大同工高
捕手		織田　康裕	24	神奈川大
〃		金野　満	25	明治大
〃		古川　義弘	26	明治大
内野		寺坂　好明	27	明治大
〃		佐藤　広美	22	明治大
〃	○	内田　俊雄	27	亜細亜大
〃		幡野　正秋	28	神奈川大
〃		鈴木一比古	26	明治大
〃		柳瀬　整	26	東洋大
〃		徳久　正俊	23	近畿大
〃		大竹　順一	19	中京高
外野		星山　和久	23	中京大
〃		白川不三夫	24	東洋大
〃		佐々弘雄	27	中京大
〃		橋本　昭	27	関西高
〃		小根森末男	23	亜細亜大
〃		豊国　利一	24	日本体育大

電電信越

監督		関　美喜男	37	穂高高
投手		佐藤　公弘	22	国士舘大
〃		湯川　忠司	25	駒沢大
〃		小山　利和	25	篠ノ井旭高
〃		笠井　一男	19	長岡商高
〃		山本　庸夫	22	長野商高
〃		柳沢　敏幸	24	小諸商高
〃		杉山　峰生	20	千葉商高
〃		菊池　保	23	亜細亜大
捕手		関根　武雄	28	日本大
〃		山下　和男	19	上武一高
〃		大石　久夫	22	専修大
内野		湖口　一幸	24	駒沢大
〃		佐藤　治	24	丸子実高
〃		佐藤　昭義	26	静岡高
〃		志田　洋文	24	亜細亜大
〃		柳瀬　尚文	22	国士舘大
〃		佐藤　幸三	25	愛知工大
〃		藤森　国彦	18	松商学園高
外野	○	中牧　盛登	25	大町高
〃		麻和　公明	20	松商学園
〃		伏見　昇三	24	関東学院大
〃		藤沢　勉	19	塚原高
〃		岩本　謙	25	愛知工大
〃		篠原　芳和	22	日本大
〃		加藤　保	29	日本大

西濃運輸

監督		柴垣　旭延	32	中央大
投手		柴田　昌邦	29	愛知学院大
〃		早川　実	24	福岡電波高
〃		松田　修二	22	岐阜南高
〃		片江　剛	19	神崎高
〃		宮本　好宣	23	同志社大
〃		比屋根吉信	22	大阪体育大
〃		武者　朗	18	中条工高
捕手		今村　信彦	28	享栄高
〃		広浦　教雄	24	佐野高
〃		中島　務	24	東洋大
内野		祖父江伸介	29	愛知大
〃		中井　元二	26	荏原高
〃		長島　真司	25	亜細亜大
〃		青木　義久	25	神奈川大
〃		中島　隆利	23	神奈川大
〃		浜野　敏郎	23	神奈川大
〃		木村　敬三	22	名商大
〃		西村　雅文	18	亀谷高
〃		山極　憲三	25	東海大
外野		細川　昌俊	26	東洋大
〃		小林　秀敏	24	大阪経済大
〃	○	林　伸男	27	中京大
〃		加野　悦男	23	中京大
〃		兼近　孝雪	23	荏原高
〃		小椋　清俊	21	岐阜短大付高

本田技研鈴鹿

監督		大塚　勝秋	30	法政大
投手		中野　恒雄	25	大阪学院大
〃		山田　伸剛	24	法政大
〃		前村　泰正	23	法政大
〃		中田　健	20	三重海星高
〃		菊田　逸治	25	大東文化大
捕手		藤田　進	24	大東文化大
〃		土井　信幸	23	法政大
〃		三浦　敏男	21	浪商高
内野		岩田　哲二	22	八代第一高
〃		有働　幸男	23	愛知学院大
〃		松尾　薫	24	小倉工高
〃	○	上田　良二	25	神奈川大
〃		藤村　哲也	27	法政大
〃		大喜　量生	22	鳴門高
〃		山本　功児	23	法政大
〃		羅本　新二	20	中京商高
外野		田中　猛夫	23	愛知学院大
〃		安田　広輝	25	法政大
〃		窪田　健志	22	鹿児島商高
〃		黄　秋夫	23	同志社大
〃		高橋　隆	24	法政大
〃		古田　典博	24	愛知学院大

日本生命

監督		浜野正之助	34	関西大
投手		小嶋　健郎	27	近畿大
〃		利光　高明	26	徳島商高
〃		西川　雅雄	24	東海大
〃		岡田　和久	23	近畿大
〃		梶原　幸次	19	報徳学園高
〃		小弓場　保	31	橋本高
捕手		佐竹　政和	26	関西大
〃		佐藤　雅春	23	中央大
〃		野村　茂	21	PL学園高
内野	○	山内　輝彦	27	近畿大
〃		鈴木　憲行	26	掛川西高
〃		中　光史	24	同志社大
〃		鈴木たつ男	24	中京大
〃		高木　滋夫	23	東海大
〃		加藤　順二	23	東海大
〃		赤井　淳二	22	近畿大
〃		西本　正夫	22	中央大
〃		村越　英之	19	津久見高
〃		田草川伸生	27	日本大
外野		西田　安男	26	近畿大
〃		松村研ノ介	24	近畿大
〃		月原　真司	24	明治大
〃		新名　隆	22	明治大
〃		中井　順二	22	同志社大
〃		友　正二	18	津久見高

松下電器

監督	高木太三郎	42	関西	大
投手	福間 納	23	大田	高
〃	久保 邦史	21	水島工	高
〃	長谷部 優	24	慶応	大
〃	福井 保夫	22	津山商	高
〃	山本 昌樹	21	鳥取西	高
〃	山口 高志	24	関西	大
〃	多田 純一	20	鳴門工	高
捕手	木原 弘人	23	慶応	大
〃	高橋 寛	23	江津工	高
〃	後藤田 務	20	鴨島商	高
〃	野並 厚夫	20	大方商	高
内野	山口 円	24	関西	大
〃	○松下 勝実	25	慶応	大
〃	川田 雄平	25	慶応	大
〃	坂口 雅久	23	立教	大
〃	石井 賢吾	24	立教	大
〃	米田 浩二	23	浪商	高
〃	北川 智章	21	戸畑商	高
外野	西越 高章	22	大田	高
〃	石本 和彦	23	浪商	高
〃	鍛治舎 巧	23	早稲田	大
〃	浜田 雄次	20	徳島商	高
〃	堀江 隆樹	23	立教	大

住友金属

監督	松永 怜一	43	法政	大
投手	小田 雄一	24	早稲田	大
〃	川端 理史	25	東海	大
〃	山中 正竹	27	法政	大
〃	○山本 堯一	27	慶応	大
〃	宮崎 寛	25	鹿島	高
〃	人見 康雄	25	大阪府立大	
捕手	中村 裕二	25	法政	大
〃	松隈 憲治	20	柳川商	高
〃	中崎 至	21	笠田	高
〃	山口 誠	19	鹿児島電子工	高
内野	谷口 剛	26	東海	大
〃	清水 長寿	23	早稲田	大
〃	林 正広	22	向陽	高
〃	大川 利勝	25	大分商	高
〃	高瀬 逸夫	25	臼田林工	高
〃	宇野 秀信	20	大分商	高
〃	都築 義晴	22	和歌山工	高
〃	浜田 知治	19	小倉商	高
外野	鈴木 士郎	25	法政	大
〃	京田 憲治	27	立教	大
〃	宇山 秀明	23	慶応	大
〃	川上 謙治	21	市和歌山商	高
〃	三好 一幸	22	東海大相模	高

三菱重工神戸

監督	礒野 伸也	35	神戸	大
投手	増岡 義教	25	同志社	大
〃	川相 実	22	興譲館	高
〃	庄司 富夫	18	安来	高
〃	瀬川 俊一	19	飾磨	高
捕手	米村 広志	24	近畿	大
〃	竹中 円	23	萩	高
〃	仲 隆司	22	報徳学園	高
内野	深田 修平	25	法政	大
〃	時本 勝己	22	三田学園	高
〃	藤井 大	22	村野工	高
〃	友藤 芳己	22	村野工	高
〃	川辺 邦好	20	育英	高
〃	山谷 健二	20	岡山東商	高
〃	佐藤 浩三	19	徳島商	高
〃	森 昌三	19	坂出商	高
外野	○勝 順一	26	関西学院	大
〃	東 茂	24	同志社	大
〃	井上 美春	23	市和歌山商	高
〃	浜片 和好	22	大阪商	大
〃	金蔵 博久	21	九州工	高
〃	吉田 隆行	20	岡山東商	高
〃	山本登美雄	19	育英	高

鐘淵化学

監督	大河賢二郎	29	大阪商	大
投手	渡辺 博	24	岐阜南	高
〃	藤本富美夫	20	中津商	高
〃	光内 数喜	27	芝浦工	大
〃	桝田 拓	19	高知工	高
〃	園 博	24	小倉南	高
〃	宮田 真	20	社	高
捕手	稲葉 智啓	23	小倉工	高
〃	米田 司	19	奈良商	高
〃	三瀬 和義	23	津久見	高
内野	岡田理三郎	28	専修	大
〃	末永 成典	23	中津工	高
〃	猪俣 健	19	日南工	高
〃	桑村 進次	20	八幡工	高
〃	○佐藤 治夫	27	法政	大
〃	藤村 正美	25	法政	大
〃	長嶋 顕彦	22	比叡山	高
外野	斉藤 忠	24	法政	大
〃	川内 幸男	24	関西	大
〃	春日祥之輔	21	中津工	高
〃	外園 郁夫	22	鹿児島商工	高
〃	星尾 好則	24	岡山東商	高
〃	桑原 秀範	28	法政	大
〃	中下 賢志	19	呉港	高
〃	大河賢二郎	29	大阪商	大

日本鋼管福山

監督	山田 茂利	34	明治	大
投手	○田村 忠義	26	広陵	高
〃	田部 憲三	24	会津若松第一	高
〃	佐古井雄二	19	桜宮	高
〃	川辺 司	19	関西	高
〃	山根 和夫	19	勝山	高
〃	光井 良和	19	広陵	高
捕手	今久留主邦明	23	明治	大
〃	藤山 澄夫	19	八代東	高
内野	深草 真敏	27	日本	大
〃	清水 由則	26	広陵	高
〃	山内 明	26	盈進	高
〃	沢田 止男	25	八代東	高
〃	吉兼 昌司	21	岩国	高
〃	落合 敏睦	21	広陵	高
〃	佐々木 悟	20	福山工	高
〃	佐名木睦夫	19	盈進	高
外野	篠井 文衛	27	尼崎	高
〃	森下 政秋	24	大阪学院	大
〃	岡本 道夫	23	東洋	大
〃	竹野 道彦	21	盈進	高
〃	野村 茂	20	高水	高

三菱重工広島

監督	松野 道夫	33	立教	大
投手	永野 毅	20	都城農	高
〃	近藤 実	25	福岡工	大
〃	中井 政夫	23	広島商	高
〃	若松 実	25	芝浦工	大
捕手	井上 敏之	21	山陽	高
〃	山村 幸紀	22	広島商	高
〃	千代西尾文人	23	米子商	高
内野	酒井 信芳	24	東洋	大
〃	菊次 一雄	22	筑紫工	高
〃	吉川 丈一	21	都城農	高
〃	仙田 泰章	21	米子工	高
〃	吉本 宏一	23	東洋	大
〃	秦野 義治	22	大分東明	高
〃	佐々木幸治	23	法政	大
〃	富士野誠示	21	西脇工	高
外野	古川 達雄	23	米子商	高
〃	荒谷 稔	21	広島商	高
〃	○伊藤 順三	25	八幡	大
〃	中村 文人	24	国士舘	大
〃	岡崎 照光	19	熊本第一工	高

電電四国

監督	松本 敏捷	38	近畿	大
投手	横松 英雄	27	関東学院	大
〃	三宮 芳広	26	福岡工	大
〃	大本 則夫	23	近畿	大
〃	小原 慶司	21	穴吹	高
〃	米田 潔	21	新田	高
〃	辻 仁志	21	三瓶	高
〃	小綿 康之	19	鳴門商	高
捕手	斉藤 晃	27	亜細亜	大
〃	千谷 修	25	松山商	大
〃	藤田 博之	19	鳴門商	高
内野	浦下 勝英	29	国士舘	大
〃	河野 隆志	25	松山商	高
〃	景浦 隆男	25	中央	大
〃	松崎 邦雄	25	関西	大
〃	高橋 竜夫	23	亜細亜	大
〃	山下 恭一	23	同志社	大
〃	田淵 修三	23	帝京	大
〃	松岡 清英	22	近畿	大
〃	安部 秀矢	21	鶴崎工	高
外野	○福谷 祥	28	中央	大
〃	武田 喬之	29	高知工	高
〃	菊池 哲秋	25	八幡浜	高
〃	幸田 優	25	駒沢	大
〃	北岡 敏男	22	高知	高
〃	楠本 正晴	19	鳴門商	高

国鉄四国

監督	勝木 善之	37	津田	高
投手	○高倉 史典	25	丸亀商	高
〃	落合 登	21	鳴門	高
〃	逢坂 玉貴	21	琴平	高
〃	橋詰 良夫	20	須崎	高
〃	新名 昌俊	22	尽誠	高
〃	寅丸 雄司	18	丸亀商	高
捕手	西内 健一	20	鳴門	高
〃	橋本 太郎	23	丸亀商	高
〃	竹内 健二	18	坂出商	高
内野	藤井 嘉彦	22	坂出工	高
〃	藤井 博之	21	坂出商	高
〃	都築 郁夫	22	坂出工	高
〃	清水 敏朗	20	宇和島東	高
〃	佐野 晃	22	鳴門	高
〃	六車 正照	22	津田	高
〃	湊谷 和広	18	高松商	高
〃	八木 一美	18	高松東	高
外野	塚本 巧	22	津田	高
〃	中石 喜清	21	坂出工	高
〃	岡田 政彦	21	坂出工	高
〃	四宮 哲雄	22	高松商	高
〃	増井五十三	18	中村	高

新日本製鐵八幡

監督	後藤 晃吾	33	明治	大
投手	萩野 友康	23	慶応	大
〃	大段 明	25	明治	大
〃	村上 茂徳	19	京都	高
〃	五十嵐 廉	22	唐津商	高
〃	米満 正広	20	門司工	高
捕手	永富 立雄	21	直方学園	高
〃	大河原 栄	20	早鞆	高
〃	沢熊 竜己	20	下関商	高
内野	米村 節生	23	折尾	高
〃	○玉井 義明	27	専修	大
〃	門川 純	26	立教	大
〃	出水 要吉	24	天理	高
〃	下村 肇	21	大濠	高
〃	浜田幸之助	19	小倉南	高
〃	山田 吉雅	18	小倉	高
外野	奥村 純一	20	門司工	高
〃	工藤 博義	19	折尾	高
〃	榎園 一己	23	照国	高
〃	池田 雄一	18	東海大二	高
〃	草野 博	21	長崎商	高
〃	山田 誠二	27	明治	大
〃	瀬藤 宣彦	30	小倉	高

電電九州

監督	柴田 忠和	34	天草	高
投手	伊達 義城	29	宮崎本庄	高
〃	長嶺 俊一	24	宮崎本庄	高
〃	錦野 和明	24	熊本	大
〃	菊川 良正	23	東海大二	高
〃	大坪 義則	23	愛知工	大
〃	城野 洋	19	柳川商	高
捕手	川越 雄一	24	国士舘	大
〃	田上 匠	18	鎮西	高
〃	永園 敏博	24	川内	高
内野	○今井 敬二	24	門司工	高
〃	谷田 久良	24	明治学院	大
〃	杉坂 敬二	23	九州工	高
〃	江口 正光	23	八幡	大
〃	道副 直	19	諫早	高
〃	吉本 幸夫	18	熊本工	高
〃	勝山 晋一	18	東海大二	高
外野	大庭 信行	25	国士舘	大
〃	中嶋 春久	23	国士舘	大
〃	榎園 繁敏	23	東京農	大
〃	森中 弘憲	22	九州工	高
〃	黒木 哲	21	延岡商	高
〃	村里 好樹	21	熊本工	高
〃	福永 俊彦	20	東海大二	高

不運乗り越え希望再び

―涙流した野球部解散―

倒産、野球部解散……。選手にとってある日突然、ユニホームが着られなくなることは大きなショックだ。日立製作所の新しいエース細淵守男投手(24)をはじめ西濃運輸の宮本好宣投手(24)、山極憲三内野手(24)、兼近孝雪外野手(24)らは、そんな不運を一度ならず二度まで味わわされている。いずれも日拓観光、エアロマスターのレギュラーだった。

6月、エアロマスターの倒産は野球部員にとって寝耳に水だった。昨年は、初めて踏んだ後楽園での産業対抗野球で初優勝、暮れには韓国、ハワイ遠征、そして今年5月大阪大会に初優勝した矢先に野球部解散。3年前、プロ野球に進出したため野球部を解体した日拓観光につづいての不運に多くの選手は野球への情熱を失った。

そのなかでエース細淵は、十指に余る企業、プロ球団から誘いがかかったが、結局、実家(埼玉県)に近い、日立製作所を選んだ。6月の末だった。登録手続き上、チームがせっかく後楽園へ出場というのにベンチに入ることもできなかった。ただ一人、目標を甲子園第1回日本選手権に絞って精進。

9月20日から始まった関東予選ではいきなり先発をまかされた。2回戦での三菱自動車川崎、代表決定をかけた電電東京の強豪相手に2試合連続の完封勝ちという好投、電電関東との決勝戦でも見事な火消し役を務めて最高殊勲選手賞を獲得した。

細淵は「二度も悲しい思いをしましたが、日拓、エアロで多くの友ができました。その友のためにも甲子園では力いっぱい投げたいと思っています」と意欲満々。

「思いきり暴れるぞ」

先輩の口ききもあって西濃運輸で野球人生の再スタートを切った兼近、宮本、山極の3選手も同じ思い。早くもレギュラーの座を占めて選手権出場に一役も二役もかった。このほか、打力のいい川内幸男外野手(エアロ→鐘化)、森下政秋外野手(エアロ→鋼管福山)、投手陣を好リードの竹中円捕手(クラレ=昨年秋解散→三菱神戸)下手投げのホープ・園博投手(クラレ→鐘化)ら、一球に力を入れ、一振りに気合を入れる移籍組が、甲子園をわかせてくれるだろう。

第2回大会

1975年(昭和50年)11月2日▶11月10日　阪神甲子園球場

優勝＝鐘淵化学 ――― (初優勝)

鐘化チームワークのV

地元兵庫の鐘淵化学が「ダイヤモンド旗」を握った。地区予選は敗者復活戦の末、5番目の代表に滑り込み。前評判は決して高くない、"伏兵"の全国制覇だった。若いエース・宮田の力投が優勝の原動力に違いないが、彼を盛り立てた打線の援護を見逃せない。素晴らしい破壊力で、新鋭とベテランの歯車がかみ合った見事な粘りと集中力の優勝だった。

東日本勢総崩れの中で、惜しくも優勝は逃がしたが、北海道拓殖銀行の健闘は讃えられる。本格派・山口とベテラン・千藤両投手が大黒柱として活躍、冬の訪れが早く、練習量が少ないという北海道チームのハンディを、不屈の練習で打ち破った。

「東高西低」の予想を覆し、「西高東低」の終盤戦を盛り上げた近畿勢の活躍が目立った。ベスト4に3チームが顔をそろえ、前年はベスト8へすらわずか1チームという不振をばん回、地元の面目を保った。"地元大会"といわれるほどの近畿勢の活躍に対して、連覇を狙った三協精機と、日本鋼管福山、大昭和製紙北海道の「3強」の敗退はふがいなかった。三協はエース・大塚の不調が災いして波に乗り切れず、打力を看板にした日本鋼管福山、大昭和製紙北海道はともに持ち味の片鱗すら見せられなかった。それに比べ三菱重工広島のきびきびした試合展開は目を引いた。

出場22チームのうち、全国大会初出場で注目を集めた新日鉄光、秋田相互銀行に初戦の壁は厚かった。21試合中、10試合が完封試合。「投手力上位」を裏付ける半面、前回を上回る15本塁打が記録された。一発に泣いたチームが多かったことの証明でもある。

〔優勝戦〕北海道拓殖銀行－鐘淵化学　三回裏、鐘淵化学二死二塁から岡田の中前打で外圏が生還し、貴重な1点を挙げた。

大会審判

▷**委員長**　山本英一郎▷**副委員長**　小西正一、郷司裕▷**委員**　八木昌男、大村一彦、高橋良夫、三輪武、中西明、松南二郎、永野元玄、三宅享次、小林加寿男、元橋一登、達摩省一、市村博、戸田直佑、中村孝太郎、高橋昌倶、本郷良直、相沢孝行、清沢忠彦、原田謹爾、磯野伸也、日野賢導、片岡成夫、上杉正、藤尾泰三、武村政雄、岡本好二、橘谷健、津田進、布施勝久、岸野金治

▽11月2日

第1試合＝1回戦(午前10時8分開始)

鷺宮製作所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新日鉄堺	0	0	0	0	1	0	0	0	1

▶審判(球審)中西(塁審)達摩、津田、原田

【鷺　宮】打安点振球
⑨ 新　美 4 0 0 0 1
⑥ 中　本 2 1 0 0 2
⑦ 渡　辺 4 0 0 1 0
③ 手　塚 4 2 0 0 0
⑧ 梅　原 4 0 0 1 0
⑤ 益　田 4 1 0 0 0
④ 高　橋 4 1 0 0 0
② 吉　田 4 1 0 0 0
① 山本良 2 0 0 1 0
H 有　本 1 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 10 3 3 6 0 3 3

【新日鉄堺】打安点振球
⑧ 藤本公 4 0 0 0 0
④ 中　嶋 4 0 0 1 0
⑨ 石　井 4 1 0 0 0
③ 汐　崎 4 1 0 0 0
⑦ 横　田 2 0 0 1 1
⑥ 浜　中 3 1 0 0 0
② 出　口 3 1 1 0 0
① 中　尾 1 1 0 0 1
1 川　口 1 0 0 0 0
⑤ 水　本 3 1 0 1 0
犠 併 残
0 0 6 2 9 5 1 3 2

回 安振球責
山本良 8 5 3 2 1

回 安振球責
尾　西 6⅔ 5 3 3 0
中　川 2⅓ 1 0 0 0

▷本塁打＝中出1号(山本良)▷犠打＝鷺1(山本良)▷盗塁＝鷺1(吉田)▷失策＝新1(水本)▷試合時間＝1時間58分

大会1号は決勝本塁打

⑩…新日鉄堺は四回まで3安打散発と、鷺宮製作所の山本良投手の制球のいい球に抑え込まれた。が、五回、先頭の打席にはいった中出はファウル、ボールのあと左翼ポールぎりぎりに入る大会第1号ホーマーを放った。二歩、三歩と走りかけてから中出は立ち止まって打球の行方を追った。「ファウルにならないでくれ」と中出は念じたという。中出は「押され気味だったので何とか……」と、この打席に得点へのきっかけになることをやろうとファイトを燃やしていた。外角攻めにあっていたからホームベース近くに立ち、内角に投げさせようとしたねらいも当たった。「相手捕手との読み合いに勝ちました」と中出。

第2試合＝1回戦(午後0時34分開始)

丸善石油	0	0	0	0	0	0	1	2	0
T　D　K	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)三宅(塁審)小林、松南、高塚

【丸　善】打安点振球
⑧ 窪　田 4 0 0 0 0
⑨ 松　元 4 2 1 0 0
③ 山　下 4 1 0 0 0
② 永　田 4 1 0 0 0
⑦ 上　田 4 1 0 0 0
④ 福　永 4 1 1 0 0
⑤ 神　崎 4 2 0 0 0
① 古　賀 2 0 0 0 1
⑥ 水　中 3 1 0 0 0
犠 併 残
1 1 5 3 3 9 2 0 1

【T　D　K】打安点振球
⑧ 湊　3 1 0 0 0
⑤ 北　林 3 0 0 0 1
⑨ 倉　石 4 1 0 0 0
① 浅　井 4 1 1 0 0
⑦ 田村巧 3 0 0 0 0
佐々木吉 1 0 0 0 0
③ 阿　部 3 1 0 0 0
④ 宮　本 3 0 0 0 0
② 吉　村 3 0 0 1 0
2 田村正 0 0 0 0 0
⑥ 伊　藤 2 1 0 0 0
H 6 佐藤昭 1 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 5 3 0 5 0 2 1

回 安振球責
古　賀 9 5 2 1 0

回 安振球責
浅　井 9 9 0 1 2

▷本塁打＝福永1号(浅井)▷三塁打＝湊▷二塁打＝上田▷犠打＝丸1(古賀)T1(湊)▷盗塁＝丸3(松元2、永田)▷失策＝T1(伊藤)▷捕逸＝吉村▷試合時間＝2時間22分

第3試合＝1回戦(午後3時20分開始)

日通名古屋	0	0	0	1	0	0	1	0	2
三菱重工広島	0	0	1	0	0	0	0	0	3

▶審判(球審)布施(塁審)元橋、日野、片岡(外審)大村、上杉

【日　通】打安点振球
⑦ 深　谷 3 0 0 0 2
⑧ 前　橋 4 1 1 1 0
③ 田　島 3 0 0 0 1
⑨ 伊　藤 4 0 0 1 0
⑥ 野　津 4 0 0 2 0
⑤ 矢　田 4 2 0 0 1
② 鈴木浩 1 0 0 1 1
H 2 小笠原 2 1 0 0 0
④ 岩　田 2 0 0 0 0
H 4 岡　本 1 0 0 0 0
① 平　沢 4 2 0 1 0
犠 併 残
1 1 8 3 2 6 1 6 4

【三菱広島】打安点振球
⑨ 伊　藤 3 0 0 1 1
⑧ 井上伸 4 0 0 2 0
② 大　森 4 0 0 0 0
⑤ 佐々木 4 0 0 1 0
⑦ 古　川 2 0 0 0 0
H 7 仙　田 1 0 0 0 0
中　村 0 0 0 0 0
井上敏 0 0 0 0 1
R 財　津 0 0 0 0 0
③ 吉　本 4 1 1 0 0
④ 富士野 3 0 0 0 1
荒　谷 0 0 1 1 0
H ① 若　松 0 1 1 0 0
1 近　藤 3 1 1 0 0
⑥ 酒　井 3 1 0 1 0
犠 併 残
0 0 6 3 2 5 3 6 3

回 安振球責
平　沢 8⅔ 5 6 3 3

回 安振球責
若　松 4⅔ 2 6 4 0
近　藤 4⅓ 4 0 0 1

▷本塁打＝若松1号(平沢)前橋1号(近藤)▷三塁打＝大森▷犠打＝日1(岡本)▷盗塁＝三3(古川、吉本、酒井)▷失策＝日2(野津2)三1(吉本)▷試合時間＝2時間30分

▽11月3日

第1試合＝1回戦(午前9時26分開始)

日本通運	0	0	0	0	0	0	0	1	1
伊豫銀行	1	0	0	1	0	1	0	0	3

▶審判(球審)小林(塁審)三輪、高塚、松南

【日本通運】打安点振球
⑧ 望　月 4 0 0 2 0
④ 草　野 3 1 0 2 1
⑤ 関　東 4 1 0 1 0
③ 石　井 4 2 1 1 0
⑦ 大田垣 4 0 0 1 0
⑨ 磯　崎 3 0 0 0 0
② 光　野 1 0 0 0 0
H 1 阿　部 1 0 0 0 0
1 俊　野 0 0 0 0 0
H 1 板　倉 1 0 0 1 0
1 永　島 0 0 0 0 0
① 村　上 1 0 0 0 0
2 福　井 2 1 0 1 0
⑥ 清　塚 2 0 0 2 0
H 河　田 1 0 0 1 0
犠 併 残
0 0 4 3 1 5 1 1 2 1

【伊豫銀行】打安点振球
④ 末　広 3 0 0 2 1
⑥ 森　4 1 1 0 0
⑧ 寺　尾 3 0 0 0 1
③ 平　岡 3 1 0 2 1
R 渡　部 0 0 0 0 0
3 近　藤 0 0 0 0 0
⑤ 岡　添 4 0 0 2 0
⑨ 持　主 3 1 1 0 0
② 沢　井 3 1 1 0 0
① 大　野 3 0 0 1 0
⑦ 鈴　木 3 1 0 0 0
犠 併 残
0 0 5 2 9 5 3 7 3

回 安振球責
村　上 4 3 3 2 2
俊　野 3 2 4 0 1
永　島 1 0 0 1 0

回 安振球責
大　野 9 5 12 1 1

▷本塁打＝持主1号(俊野)▷三塁打＝森▷二塁打＝石井▷盗塁＝日1(石井)伊1(寺尾)▷試合時間＝2時間18分

第2試合＝1回戦(午後0時12分開始)

西濃運輸	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鐘淵化学	0	1	0	0	0	0	0	0	1

▶審判(球審)布施(塁審)大村、相沢、市村

【西濃運輸】打安点振球
⑧ 小　椋 4 1 0 0 0
⑤ 中　井 4 0 0 0 0
③ 林　3 1 0 0 1
⑦ 細　川 4 0 0 1 0
⑨ 加　野 2 0 0 0 0
H 9 小　林 1 0 0 0 0
② 中島務 3 1 0 0 0
R 西　村 0 0 0 0 0
2 広　浦 0 0 0 0 0
⑥ 山　極 3 1 0 0 0
① 早　川 2 0 0 0 0
H 中島隆 1 0 0 1 0
1 松　田 0 0 0 0 0
④ 青　木 3 0 0 1 0
犠 併 残
0 1 4 3 0 4 0 3 1

【鐘淵化学】打安点振球
⑧ 外　囿 4 1 0 1 0
⑥ 岡　田 3 0 0 2 0
③ 長　嶋 3 0 0 2 0
⑤ 藤　村 3 1 0 0 0
⑦ 川　内 1 0 0 0 1
④ 佐　藤 3 1 1 0 0
② 三　瀬 3 0 0 2 0
① 宮　田 3 0 0 2 0
⑨ 末　永 3 1 0 1 0
犠 併 残
1 0 3 2 6 4 1 1 0 1

回 安振球責
早　川 7 3 9 1 1
松　田 1 1 1 0 0

回 安振球責
宮　田 9 4 3 1 0

▷二塁打＝藤村、佐藤▷犠打＝鐘1(川内)▷盗塁＝鐘1(外囿)▷失策＝鐘1(宮田)▷試合時間＝1時間43分

第3試合＝1回戦(午後2時24分開始)

新日鉄光	0	0	0	0	0	0	1	0	1
大昭和製紙北海道	0	1	0	0	0	1	0	0	2

▶審判(球審)中西(塁審)八木、清沢、橘谷(外審)市村、相沢

【新日鉄光】打安点振球
⑥ 小　嶋 3 0 0 1 0
④ 木　下 2 0 0 0 2
② 板　東 5 1 0 1 0
③ 田　中 5 1 0 0 0
⑦ 海老本 2 1 0 1 1
⑤ 桑　原 3 1 0 0 1
⑨ 磯　部 3 1 0 2 0
1 白　木 0 0 0 0 0
H 浜　崎 1 0 0 0 0
R 押　川 0 0 0 0 0
1 大　町 0 0 0 0 0
① 児　玉 2 0 0 2 0
H 9 平　家 2 0 1 1 0
⑧ 弓　場 3 1 0 1 1
犠 併 残
4 0 12 3 1 6 1 9 5

【大昭和】打安点振球
⑨ 浜　井 3 0 0 1 1
⑦ 山　本 4 2 0 1 0
⑤ 角　田 3 1 0 0 1
③ 高　梨 3 0 0 1 1
⑧ 我喜屋 3 1 1 1 1
② 村　上 4 2 0 0 0
⑥ 佐　藤 3 0 0 0 0
④ 仲　本 2 0 1 1 0
① 加　藤 1 0 0 0 1
1 望　月 1 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 7 2 7 6 2 5 5

回 安振球責
児　玉 5 3 4 3 1
白　木 2 2 1 1 1
大　町 1 1 0 1 0

回 安振球責
加　藤 6⅓ 3 8 5 0
望　月 2⅔ 3 1 0 1

▷二塁打＝山本▷犠打＝新4(小嶋2、木下、海老本)大1(仲本)▷盗塁＝大1(角田)▷失策＝新1(弓場)大1(仲本)▷暴投＝児玉▷試合時間＝2時間48分

▽11月4日

第1試合＝2回戦(午前9時25分開始)

門司鉄道管理局	0	0	0	0	0	2	0	0	2
北海道拓殖銀行	1	0	0	1	0	1	1	0	4

▶審判

【門鉄局】打安点振球
④ 馬　場 4 0 0 1 0
⑥ 坂　原 4 2 1 0 0
③ 酒　井 2 1 0 0 1
⑨ 宗　広 4 0 0 1 0
⑦ 綿　島 3 0 0 2 0
H 直　村 1 0 0 0 0
⑧ 座　親 2 0 0 0 0
H 8 樋　尾 2 0 0 1 0
② 伊　藤 3 1 0 1 0
① 山　本 0 0 0 0 0
H 山内内 1 0 0 0 0
1 中　島 1 0 0 0 0
H 津　留 1 1 0 0 0
1 山　下 0 0 0 0 0
⑤ 吉　田 3 0 0 1 0
犠 併 残
1 0 4 3 1 5 1 7 1

【拓殖銀行】打安点振球
⑥ 金　谷 4 0 0 1 0
④ 佐藤信 2 2 0 0 2
⑦ 丸　山 3 0 0 0 1
③ 水　谷 4 2 2 1 0
⑨ 葛　西 2 1 0 0 0
9 菅　2 1 1 0 0
② 竹　内 4 0 0 0 0
⑧ 坂佐井 4 1 0 1 0
① 山　口 3 1 1 1 0
1 千　藤 1 0 0 0 0
⑤ 海老名 2 0 0 0 1
犠 併 残
0 1 7 3 1 8 4 4 4

回 安振球責
山　本 2 1 1 1 0
中　島 5 7 3 3 3
山　下 1 0 0 0 0

回 安振球責
山　口 7⅓ 5 6 1 0
千　藤 1⅔ 0 1 0 0

▷本塁打＝菅1号(中島)▷二塁打＝水谷▷犠打＝門1(酒井)▷盗塁＝拓2(佐藤信2)▷失策＝門1(馬場)拓1(海老名)▷試合時間＝2時間21分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

鐘淵化学＝優勝

大河　賢二郎監督

(現香川・尽誠学園高監督、48歳)

(第20回記念 毎日新聞連載企画より)

大会自体については優勝戦の相手も覚えていないほど、記憶は薄れているが、ただ、あのころのがむしゃらな気持ちだけは今もはっきり体にしみこんでいる。監督に就任して2年目。20歳代で名門チームを任されたプレッシャー。オイルショック後の不況で思い通りの補強が出来ないつらさ。若かったし、やり方もわからないから、とにかく無我夢中で取り組んだ。投手陣が毎朝6時ごろから10㌔のランニングをするのに自転車で伴走するのが日課だった。選手の先頭になって引っ張ろうという気持ちで張り切っていた。

大会はとにかく無欲で臨んだが、一回戦で前評判の高かった西濃運輸を破って勢いづいた。5連投をした宮田をはじめ、選手たちが本当によくやってくれた。優勝した瞬間、やっと結果を出せた、という安ど感でいっぱいだった。エリート集団でないチームが優勝出来たことで、選手の素質よりも必死でやれば何とかなる、という思いを強くした。それが14年前、未知の世界だった高校野球の指導者になる際に大きな支えとなった。

第2試合＝2回戦(午後0時15分開始)

河合楽器	000	000	000		0
住友金属	000	000	001		1

▶審判(球審)高橋(塁審)高野、日野、武村

【河合楽器】	打	安	点	振	球
⑤ 青木	4	0	0	0	0
④ 伊藤升	4	0	0	0	0
⑧ 福間	4	0	0	0	0
⑦ 植松	3	2	0	0	0
⑨ 千吉良	3	1	0	0	0
③ 宮本	2	0	0	1	1
⑥ 伊藤周	2	0	0	0	0
H 小島	1	0	0	0	0
6 鈴木	0	0	0	0	0
② 本間	3	0	0	0	0
① 根本	3	0	0	2	0
犠 併 残 0 0 3	29	3	0	3	1

【住友金属】	打	安	点	振	球
⑨ 宇山	4	2	0	1	0
⑧ 三好	4	1	0	1	0
⑥ 林	4	2	1	0	0
③ 谷口	3	0	0	0	0
⑤ 中村	3	0	0	1	0
⑦ 中林	3	0	0	1	0
② 松隈	3	1	0	1	0
④ 清水	2	0	0	1	0
① 人見	2	0	0	1	0
H 田浦	1	0	0	1	0
1 宮崎	0	0	0	0	0
犠 併 残 1 1 5	29	6	1	8	0

	回	安	振	球	責
根本	8	6	8	0	1
人見	8	3	3	1	0
宮崎	1	0	0	0	0

▷犠打＝住1(清水)▷盗塁＝河1(千吉良)住3(宇山2、林)▷失策＝住2(林、中村)▷試合時間＝2時間20分

夢にも思わなかった甲子園

㊥…住友金属の先発、人見康雄投手(26)は京都府立城南高(宇治市)でのクラブ活動歴はなし。大阪府立大に入ってからも、専攻が金属工学、体力的にも技術的にも自信がなかったので、硬式を避け、準硬式野球を選んだ。

「大阪府立大に面白いピッチャーがいる」という新聞記者の話を小耳にはさんだ往年の慶応大のエースで、住金野球団顧問の河合貞雄氏(本社人事部次長)から松永怜一監督に伝えられ、採用が決まった。

この大会の近畿予選の代表決定戦では、今夏の都市対抗のベスト4、大丸を2点に抑えて完投勝ちした。「おかしなものですね。京都府予選の1回戦ボーイだった高校の野球部にさえ入っていなかった私が、こうして出るんですから。」とボールをかたく握りしめた。

第3試合＝2回戦(午後3時開始)

三協精機	001	010	000		2
新日鉄堺	001	000	000		1

▶審判(球審)三宅(塁審)藤尾、上杉、原田(外審)日野、武村

【三協精機】	打	安	点	振	球
⑥ 幡野	4	1	0	1	1
⑨ 倉地	0	0	0	0	0
H9 小根森	2	0	0	0	2
R9 佐々	1	0	0	0	0
⑧ 豊国	3	0	0	0	2
③ 鈴木一	3	2	2	0	1
⑦ 星山	4	1	0	2	0
⑤ 柳瀬	2	1	0	0	0
5 道吉	1	0	0	0	0
② 古川	3	1	0	1	1
① 大塚	3	0	0	3	0
④ 内田	4	0	0	0	0
犠 併 残 2 0 10	30	6	2	7	7

【新日鉄堺】	打	安	点	振	球
⑧ 藤本公	4	0	0	2	0
④ 中嶋	2	0	0	0	0
H9 石井	2	0	0	1	0
⑨ 平山	3	0	0	1	0
4 藤本政	0	0	0	0	0
③ 汐崎	3	0	0	0	0
⑦ 横田	3	0	0	0	0
⑥ 浜崎	3	1	0	1	0
② 中出	3	0	0	1	0
① 尾西	0	0	0	0	0
H 峯本	1	1	1	0	0
1 中川	0	0	0	0	0
H 山尾	1	1	0	0	0
R 高橋	0	0	0	0	0
1 小笹	0	0	0	0	0
H 武友	1	0	0	0	0
⑧ 水本	1	0	0	0	0
H 井口	1	1	0	0	0
R 山道	0	0	0	0	0
犠 併 残 1 1 1	28	4	1	6	0

	回	安	振	球	責
大塚	9	4	6	0	1
尾西	3	2	3	3	1
中川	3	4	3	1	1
小笹	3	0	1	3	0

▷本塁打＝峯本1号(大塚)▷二塁打＝幡野、山尾▷犠打＝三2(柳瀬、大塚)新1(水本)▷盗塁＝三2(小根森、佐々)新1(山道)▷試合時間＝2時間32分

〔2回戦〕三協精機－新日鉄堺　三回表、三協精機二死一、二塁、鈴木の右前打で二塁から小根森先制のホームイン。(捕手中出)

▽11月5日

第1試合＝2回戦(午前9時26分開始)

丸善石油	000	003	000		3
日本生命	000	200	31X		6

▶審判(球審)小林(塁審)清沢、武村、原田

【丸善石油】	打	安	点	振	球
④ 福永	4	1	0	1	0
⑧7 松元	4	1	0	0	0
③ 山下	3	1	3	0	1
② 永田	4	0	0	0	0
⑦ 浦	0	0	0	0	0
8 新崎	2	0	0	0	0
H 河合	1	0	0	0	0
8 蓬田	1	0	0	1	0
⑤ 神崎	3	0	0	0	0
H 上田	1	0	0	0	0
⑨ 寺岡	3	0	0	1	0
① 藤井	3	1	0	1	0
1 古賀	0	0	0	0	0
⑥ 水中	3	0	0	1	0
犠 併 残 0 0 3	32	4	3	5	1

【日本生命】	打	安	点	振	球
④ 赤井	4	2	3	0	0
⑦ 新名	4	2	0	0	0
⑧ 野村	4	1	0	2	0
⑨ 中井	3	1	0	0	0
⑤ 鈴木憲	3	0	0	0	1
② 佐竹	4	1	1	0	0
③ 鈴木た	3	0	0	1	1
① 矢野	2	0	1	0	0
H 西田	1	1	0	0	0
R 村越	0	0	0	0	0
1 西川	0	0	0	0	0
⑥ 井尻	3	2	0	0	0
犠 併 残 1 2 4	31	10	5	3	2

	回	安	振	球	責
藤井	6⅓	7	2	2	4
古賀	1⅔	3	1	0	2
矢野	7	4	3	0	3
西川	2	0	2	1	0

▷本塁打＝山下1号③(矢野)赤井1号③(古賀)▷二塁打＝赤井、井尻、中井▷犠打＝日1(中井)▷盗塁＝日2(鈴憲2)▷失策＝日3(赤井、井尻、西川)▷試合時間＝2時間8分

第2試合＝2回戦(午後0時3分開始)

日本鋼管	000	201	000		3
三菱重工広島	000	320	00X		5

▶審判(球審)高橋(塁審)上杉、藤尾、岡本

【日本鋼管】	打	安	点	振	球
⑧ 島野	4	1	0	0	0
⑥ 内藤	2	0	0	0	1
③ 樋口	4	0	0	0	0
⑦ 前川	4	2	0	0	0
⑤ 樋野	2	0	0	0	2
② 中沢	4	2	0	0	0
④ 斎藤	3	0	0	0	1
⑨ 高尾	3	0	2	0	0
① 上岡	2	0	0	0	0
1 前	0	0	0	0	0
H 六条	1	0	0	0	0
1 梶間	0	0	0	0	0
H 柴田	1	0	0	0	0
犠 併 残 2 0 6	30	5	2	0	4

【三菱広島】	打	安	点	振	球
⑨ 伊藤	4	2	0	0	0
⑧ 荒谷	4	1	1	2	0
② 大森	3	0	0	1	0
⑤ 佐々木	3	2	1	0	1
⑦ 吉川	3	2	0	0	0
R7 井上伸	0	0	0	0	1
③ 吉本	3	1	1	1	0
④ 富士野	2	0	2	0	0
① 若松	2	1	0	0	0
1 近藤	2	1	0	0	0
⑥ 酒井	4	0	0	1	0
犠 併 残 4 2 7	30	10	5	5	2

	回	安	振	球	責
上岡	4	5	4	0	1
前	1	3	0	0	2
梶間	3	2	1	2	0
若松	5	4	0	3	0
近藤	4	1	0	1	0

▷二塁打＝伊藤▷犠打＝鋼2(内藤、高尾)三4(大森、吉本、富士野2)▷盗塁＝鋼1(前川)三1(佐々木)▷失策＝鋼2(上岡、樋野)三2(酒井、吉本)▷試合時間＝2時間14分

絶妙！逆転２点スクイズ

㊥…優勝候補の一角にあげられていた日本鋼管が四回、三菱重工広島の内野の乱れに乗じて2点を先行。しかし「負けてもともと。胸を借りるつもりでいけ」という三菱重工広島・松野監督の言葉に、硬さのほぐれた選手たちは、その裏、思いきりよくバットを振った。佐々木、吉川が安打を連ねた。犠打野選で1点を返した後、投手のけん制悪送球で一死二、三塁として富士野が絶妙のスクイズを一塁線へ決めた。吉川が同点のホームを踏んですぐ吉本も続いた。高校野球でもめったにみられない逆転の2ラン・スクイズに、一塁側スタンドは狂喜した。「いつも練習でやってはいるんですが、本番で成功したのは初めて。吉本の好判断だった」と松野監督は喜びより驚きを先に口にした。ヒーローは「走りだした途端なんだかいけるといった確信めいたものが生まれて……」と照れた。

第3試合＝2回戦(午後2時47分開始)

九州産交	000	100	000		1
伊豫銀行	000	000	000		0

▶審判

【九州産交】	打	安	点	振	球
⑧ 井上新	4	1	0	1	0
⑨ 上田	4	0	0	0	0
⑥ 林	3	0	0	0	0
⑦ 来海	4	0	0	0	0
③ 江口	3	0	0	0	1
⑤ 倉岡	4	0	0	2	0
② 佐伯	3	2	0	0	0
① 末永	2	1	0	0	0
1 小川	0	0	0	0	0
④ 坂東	3	0	0	2	0
犠 併 残 2 1 5	30	4	0	5	1

【伊豫銀行】	打	安	点	振	球
④ 末広	4	1	0	1	0
⑥ 森	3	0	0	1	1
⑧ 寺尾	4	0	0	0	0
③ 平岡	3	1	0	1	1
R 渡部	0	0	0	0	0
⑤ 岡添	2	1	0	0	0
⑨ 持主	3	0	0	0	1
② 沢田	1	0	0	0	0
① 徳永	1	0	0	0	0
H7 鈴木	2	1	0	1	0
⑦ 川中	1	0	0	1	0
H 石川	1	0	0	0	0
1 深川	0	0	0	0	0
H 横内	1	0	0	0	0
1 大野	0	0	0	0	0
犠 併 残 4 1 6	26	4	0	5	3

	回	安	振	球	責
末永	6	4	4	0	0
小川	3	0	1	3	0
徳永	5	3	3	0	0
深川	3	1	1	0	0
大野	1	0	1	1	0

▷犠打＝九2(林、末永)伊4(岡添2、沢田2)▷盗塁＝伊1(森)▷失策＝伊2(平岡、岡添)▷試合時間＝2時間8分

▽11月6日

第1試合＝2回戦(午前9時30分開始)

秋田相互銀行	000	000	301		4
鐘淵化学	000	250	00X		7

▶審判(球審)藤尾(塁審)大村、高橋、原田

【秋田相銀】	打	安	点	振	球
② 山中	4	0	0	2	0
⑥ 藤垣	3	1	0	0	0
H6 金釜	1	0	0	1	0
⑤ 鈴木	4	1	0	1	0
③ 斎藤	4	2	0	1	0
④ 飯塚	4	0	0	0	0
⑨ 佐藤次	4	1	0	1	0
⑦ 渡辺	2	0	0	1	0
H7 伊藤	1	1	3	0	0
① 上野	2	0	0	0	0
1 神成	0	0	0	0	0
H 佐藤道	1	0	0	0	0
1 小畑	0	0	0	0	0
⑧ 高橋	2	0	0	0	0
H8 高田	0	0	0	0	1
犠 併 残 0 1 2	32	6	3	7	1

【鐘淵化学】	打	安	点	振	球
⑧ 外園	4	1	1	0	0
⑥ 岡田	4	3	1	0	0
③ 長嶋	3	2	0	0	1
⑤ 藤村	4	2	2	0	0
⑦ 川内	3	1	1	0	0
④ 佐藤	4	1	2	0	0
② 三瀬	4	0	0	0	0
① 宮田	2	2	0	0	0
1 渡辺	1	1	0	0	0
1 藤本	0	0	0	0	0
H 滝本	1	0	0	0	0
1 光内	0	0	0	0	0
⑨ 末永	3	0	0	0	0
犠 併 残 2 1 5	33	13	7	0	1

	回	安	振	球	責
上野	4⅔	10	0	1	7
神成	1⅓	2	0	0	0
小畑	2	1	0	0	0
宮田	5	2	4	0	0
渡辺	2	2	2	0	0
藤本	1	0	1	1	0
光内	1	2	0	0	1

▷本塁打＝伊藤1号③(渡辺)▷三塁打＝岡田▷二塁打＝長嶋▷犠打＝鐘2(川内、末永)▷盗塁＝鐘3(長嶋2、藤村)▷試合時間＝1時間59分

第2試合＝2回戦(午前11時58分開始)

松下電器	000	000	000	1		1
大昭和製紙北海道	000	000	000	0		0

▶審判

【松下電器】	打	安	点	振	球
⑥ 山口	4	2	1	0	0
⑤ 石井	4	0	0	1	0
③ 松下	4	0	0	0	1
⑨ 鍛治舎	4	0	0	0	0
⑧ 浜田	4	1	0	0	0
⑦ 堀江	4	0	0	0	0
④ 坂口	3	1	0	0	1
② 木原	4	1	0	0	0
① 福間	3	1	0	0	0
犠 併 残 3 1 8	34	6	1	1	2

【大昭和】	打	安	点	振	球
⑨ 浜井	4	1	0	1	0
⑦ 山本	3	1	0	0	1
⑤ 角田	4	1	0	2	0
③ 高梨	3	0	0	1	1
⑧ 我喜屋	4	0	0	0	0
② 村上	4	1	0	0	0
⑥ 佐藤	3	0	0	3	0
H 大塩	1	0	0	0	0
④ 仲本	3	0	0	1	0
H 三上	1	0	0	1	0
① 松崎	2	0	0	2	0
1 加藤	1	0	0	0	0
犠 併 残 0 1 5	33	4	0	11	2

	回	安	振	球	責
福間	10	4	11	2	0
松崎	7⅓	4	1	1	0
加藤	2⅔	2	0	1	1

▷二塁打＝坂口▷犠打＝松3(山口、石井、福間)▷盗塁＝松1(浜田)▷失策＝大2(角田、佐藤)▷試合時間＝2時間9分

よみがえる"エース"福間

147球完封、5年ぶり

㊥…第2試合が始まる前ごろから雨が落ち始めた。ちょうど昨年の第3日、松下電器が出たときも雨だった。三協精機相手に山口投手(阪急)が二回まで5三振を奪いながら、降雨ノーゲームになり翌日の再試合では三協打線に一発を食って敗れたのだ。

山口に代わって松下のマウンドを守る福間は、強打の大昭和製紙北海道を無得点に抑える懸命の投球を展開した。十回、松下に決勝の1点が入り、投手戦もようやくケリがついた。「タマが走っていたし、よく両サイドに散った。大昭和の一発だけを警戒した。うちはここ数年、大きな大会で勝っていないし、応援団が多かったので、どうしても勝ちたかった」。福間は147球を投げ抜いた疲れも見せず、1970年の都市対抗(対九州産交)以来という完封勝利に日焼けした顔をほころばせた。

この勝利がうれしかったわけは、もうひとつあった。ネット裏に、昨年までの仲間、山口と福井(近鉄)が見にきていたからだ。福間は山口が鳴物入りで入社するまでは、松下のエースだった。山口にマウンドを譲ると、外野手に転向、そして2人が抜けた今年、エースにカムバックした。「2人が抜けたことは、いい意味の励みになった。とくに今日は2人が見ていたので、ハッスルしましたよ」と謙虚に話していたが、"山口がいなくなったら松下の投手陣は弱くなった"と言われたくない――の意地が、この日の素晴らしい投球の裏にあった。

第3試合＝準々決勝（午後2時32分開始）

北海道拓殖銀行	0	0	0	0	2	0	0	3	0	5
三協精機	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2

▶審判（球審）中西（塁審）武村、三宅、橘谷

【拓殖銀行】

	打	安	点	振	球
⑥ 金谷	5	0	0	0	0
④ 佐藤信	3	1	0	0	1
⑦ 丸山	4	1	1	0	0
③ 水谷	3	1	0	0	1
⑧9 菅	3	0	1	0	1
② 竹内	4	2	2	0	0
⑨ 葛西	1	0	0	0	0
8 坂佐井	2	1	0	0	0
① 山口	1	0	0	0	0
H1 奥田	1	1	1	0	0
1 千藤	1	0	0	1	0
⑤ 高岡	2	1	1	0	0
5 海老名	2	0	0	0	0

犠 併 残
2 0 5

32 8 5 1 3

【三協精機】

	打	安	点	振	球
④ 内田	5	1	0	0	0
⑧ 豊国	4	3	1	0	0
⑦ 星山	4	0	0	1	0
③ 鈴木一	4	0	0	2	0
⑥ 幡野	3	1	0	0	1
6 武田	0	0	0	0	0
⑨ 倉地	0	0	0	0	0
9 小根森	2	0	0	0	0
H 佐藤	1	1	0	0	0
9 白川	0	0	0	0	0
H 鈴木実	1	0	0	0	0
9 佐々	0	0	0	0	0
② 古川	2	2	1	0	2
⑤ 柳瀬	3	0	0	1	0
H 道吉	1	0	0	1	0
① 大塚	2	0	0	1	0
H 金野	1	0	0	0	0
1 福田	0	0	0	0	0
H 織田	1	0	0	1	0

犠 併 残
0 1 8

34 8 2 7 3

	回	安	振	球	責
山口	4	5	2	0	2
千藤	5	3	5	3	0

	回	安	振	球	責
大塚	6	6	0	0	2
福田	3	2	1	3	0

▷本塁打＝豊国1号（山口）▷三塁打＝幡野▷二塁打＝竹内、高岡▷犠打＝拓2（葛西、千藤）▷盗塁＝三1（古川）▷失策＝三2（幡野、星山）▷試合時間＝2時間46分

▽11月8日

第1試合＝準々決勝（午前9時25分開始）

日本生命	0	0	0	0	0	0	2	1	3
三菱重工広島	0	2	0	0	0	0	0	0	2

▶審判（球審）三宅（塁審）武村、高塚、原田

【日本生命】

	打	安	点	振	球
④ 赤井	4	1	0	1	0
⑦ 新名	4	0	0	1	0
⑧ 野村	4	2	1	0	0
⑨ 中井	4	1	0	0	0
⑤ 鈴木憲	4	1	0	1	0
② 佐竹	4	0	0	0	0
③ 西本	1	0	0	1	0
H 西田	1	0	0	0	0
3 鈴木た	0	0	0	0	1
① 矢野	0	0	0	0	0
H 高木	1	0	0	1	0
1 西川	0	0	0	0	0
1 岡田	1	0	0	0	0
⑥ 井尻	2	1	2	0	1

犠 併 残
1 1 3

30 6 3 5 2

【三菱広島】

	打	安	点	振	球
⑨ 伊藤	5	0	0	1	0
⑧ 荒谷	2	0	0	0	2
② 大森	3	0	0	0	0
⑤ 佐々木	3	1	1	0	1
⑦ 吉川	2	1	0	0	1
7 井上伸	1	0	0	1	0
③ 吉本	4	0	0	1	0
④ 富士野	4	3	0	0	0
① 若松	2	0	0	0	0
1 近藤	1	1	0	0	0
H 井上敏	1	0	0	0	0
⑥ 酒井	4	0	0	0	0

犠 併 残
1 2 8

32 6 1 3 4

	回	安	振	球	責
矢野	2	3	0	0	1
西川	1	1	2	3	0
岡田	6	2	1	1	0

	回	安	振	球	責
若松	4	3	4	1	0
近藤	5	3	1	1	2

▷本塁打＝佐々木1号（矢野）野村1号（近藤）▷二塁打＝鈴木憲▷犠打＝日1（岡田）三1（大森）▷盗塁＝日1（中井）三1（酒井）▷失策＝日2（矢野、井尻）三1（富士野）▷試合時間＝2時間34分

第2試合＝準々決勝（午後0時26分開始）

鐘淵化学	5	0	0	0	0	0	3	1	9
九州産交	0	1	0	0	0	1	0	0	2

▶審判

【鐘淵化学】

	打	安	点	振	球
⑧ 外園	5	2	0	0	0
8 土井	0	0	0	0	0
⑥ 岡田	5	3	1	1	0
③ 長嶋	4	2	1	0	1
⑤ 藤村	5	1	0	0	0
⑦ 川内	3	1	1	0	1
④ 佐藤	4	3	5	0	0
② 三瀬	3	0	0	0	1
① 宮田	4	0	0	2	0
⑨ 末永	4	0	0	0	0

犠 併 残
0 1 4

37 12 8 3 3

【九州産交】

	打	安	点	振	球
⑧ 井上新	4	0	0	0	0
⑨ 上田	4	1	0	0	0
⑤ 林	4	1	0	0	0
⑦ 来海	3	1	0	1	0
③ 江口	3	1	1	0	0
② 佐伯	3	1	1	1	0
⑤ 倉岡	1	0	0	0	0
H 園川	1	0	0	0	0
7 長丸	1	0	0	0	0
① 井上信	0	0	0	0	0
1 末永	1	0	0	1	0
H 山口	1	0	0	0	0
1 小川	0	0	0	0	0
H 古賀	1	0	0	0	0
1 日高	0	0	0	0	0
④ 坂東	1	0	0	1	0
H4 井上広	2	0	0	1	0

犠 併 残
0 3 1

30 5 2 5 0

	回	安	振	球	責
宮田	9	5	5	0	2

	回	安	振	球	責
井上信	⅔	5	0	0	3
末永	6	3	2	2	0
小川	2	2	1	1	3
日高	1	2	0	0	1

▷本塁打＝佐伯1号（宮田）佐藤1号③（小川）▷三塁打＝外園、佐藤▷二塁打＝岡田▷盗塁＝鐘1（藤村）▷失策＝九2（井上信、倉岡）▷試合時間＝2時間1分

第3試合＝準々決勝（午後2時51分開始）

松下電器	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住友金属	0	1	0	0	5	2	2		10

▶審判（球審）中西（塁審）上杉、片岡、日野

【松下電器】

	打	安	点	振	球
⑥ 山口	3	0	0	1	0
⑤ 石松	3	1	0	0	0
③ 松下	3	1	1	0	0
⑨ 鍛治舎	3	1	0	0	1
⑧ 浜田	3	2	0	0	0
⑦④ 堀江口	2	2	0	0	0
② 坂本原	2	0	0	0	0
① 福間	1	0	0	0	0
1 長谷部	0	1	0	0	0
1 久山保	1	0	0	0	0
1 山本	0	0	0	0	0

犠 併 残
0 1 2

23 3 0 4 0

【住友金属】

	打	安	点	振	球
⑨ 宇山	5	4	1	0	0
⑧ 三好	4	1	1	0	0
⑥ 林	5	3	3	0	1
⑤ 中谷村	3	1	1	0	0
③ 中口	3	1	0	0	2
⑦ 中林隈	3	1	4	2	0
② 松隈	4	1	2	3	0
④ 清水橋	3	1	0	0	1
① 高中崎	2	1	0	0	0
R 中宮崎	1	0	0	0	0
H 宮川上	0	0	0	1	0

犠 併 残
2 0 1

33 17 8 4 4

	回	安	振	球	責
福間	4⅔	8	1	0	3
長谷部	⅓	1	1	2	2
久保	1⅓	3	1	2	2
山本	⅔	5	1	0	2

	回	安	振	球	責
高橋	5	2	4	0	0
宮崎	2	1	0	0	0

▷二塁打＝谷口、鍛治舎、清水▷犠打＝住2（三好、谷口）▷盗塁＝住3（宇山、中林、松隈）▷失策＝松1（堀江）▷暴投＝山本▷試合時間＝1時間59分

▽11月9日

第1試合＝準決勝（午前9時56分開始）

北海道拓殖銀行	0	0	0	0	0	0	1	0	1
日本生命	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判（球審）藤尾（塁審）三輪、高塚、松南

【拓殖銀行】

	打	安	点	振	球
⑥ 金谷	4	1	0	0	0
④ 佐藤信	3	0	0	0	1
⑦ 丸山	4	0	0	2	0
③ 水谷	3	1	1	0	0
⑤ 高岡	3	1	1	0	0
② 竹内	3	1	0	0	1
⑨ 菅	3	1	0	0	1
H9 梅田	2	0	0	2	0
① 山口	3	0	0	0	0
1 千藤	0	0	0	0	0
⑧ 坂佐井	3	0	0	0	1

犠 併 残
0 1 2

29 4 1 7 1

【日本生命】

	打	安	点	振	球
④ 赤井	3	0	0	1	1
⑦ 新名	3	0	0	0	0
⑧ 野村	3	0	0	0	0
⑨ 中井	3	1	0	0	0
⑤ 鈴木憲	2	0	0	0	0
② 佐竹	2	0	0	0	0
③ 鈴木た	2	0	0	2	0
H 高西	1	0	0	0	0
3 木本	1	0	0	0	0
① 木光	0	0	0	0	0
H1 利天	0	1	0	0	0
H1 西保	1	0	0	0	0
H1 西田	0	0	0	0	0
H1 西田	1	0	0	0	0
H1 岡野	0	0	0	0	0
H1 河野	1	0	0	0	0
1 矢野	0	0	0	0	0
⑥ 井尻	3	0	0	0	0

犠 併 残
3 0 2

25 1 0 5 1

	回	安	振	球	責
山口	7⅓	1	4	1	0
千藤	1⅔	0	1	0	0

	回	安	振	球	責
利光	3	0	1	0	0
西川	3	2	4	0	0
岡田	2	2	1	1	0
矢野	1	0	1	0	0

▷二塁打＝金谷、高岡▷犠打＝日3（新名、野村、佐竹）▷試合時間＝2時間16分

拓銀快勝、日生、8回やっと初安打

北海道拓殖銀行・山口が素晴らしい投球をした。さほどスピードはなかったが、ストレートは重く、カーブの切れもよかった。八回、鈴木憲に左前に初安打を許し、佐竹のバントで一死二塁となったところで、千藤にマウンドを譲ったが、山口の好投が拓銀の決勝進出の原動力となった。攻めても拓銀が押しまくり、日本生命は防戦一方だった。

拓銀は四回、先頭の金谷が左中間二塁打。ところが、次打者の1球目に捕手・佐竹からのけん制で二塁に刺された。佐竹は五回にも二盗を企てた竹内を刺す強肩ぶり。

七回、拓銀がようやく決勝点を挙げた。佐藤信を塁に置いた二死一塁から水谷が中前安打。高岡も左翼線に適時二塁打を放ち、佐藤信を迎え入れた。日生にとって惜しまれたのは四回。四球と野選でつくった一死二、三塁に中井の左飛でホームを突いた赤井がタッチアウト、併殺で逸機した。それにしてもわずか1安打の日生には勝ち目が乏しく、拓銀の快勝だった。

敗れてサバサバと

㊀…「いやあ、1安打じゃ勝てません。山口君がよかったし、ウチの打者も大振りしすぎました」。敗れた日本生命の山本正隆監督は悔しさを通り越して、むしろサバサバした口ぶり。チャンスは四回と八回の2度。「四回一死二、三塁に点が取れんようでは勝てません。コーチのサインでホームへ突っ込ませたと思うが、ちょっと浅かったですな」と反省しきり。

〔準決勝〕住友金属－鐘淵化学　七回裏、鐘淵化学一死満塁、岡田の右前安打で宮田に続き二塁の末永も三塁ベースを回り、一挙ホームへ。

第2試合＝準決勝（午後0時51分開始）

住友金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鐘淵化学	0	0	0	0	0	1	7	0	X 8

▶審判（球審）中西（塁審）上杉、武村、津田

【住友金属】

	打	安	点	振	球
⑨ 宇山	4	0	0	0	0
⑧ 三好	4	0	0	1	0
⑥ 林	3	0	0	0	1
③ 谷口	4	1	0	0	0
⑤⑦ 中中村	4	2	0	1	0
⑦② 中林隈	4	3	2	0	0
②④ 中松清	3	2	0	0	1
① 水見崎	2	2	0	0	0
1 宮川橋	0	0	0	0	0
1 高川上	0	0	0	0	0
H1 線	1	0	0	0	0

犠 併 残
1 0 6

31 7 0 3 1

【鐘淵化学】

	打	安	点	振	球
⑧ 外園	5	2	1	1	0
⑥ 岡田	4	2	2	2	0
③ 長嶋	4	2	1	1	0
⑤ 藤村	4	2	1	1	0
⑦④ 川内佐	3	2	2	0	0
② 三瀬	4	0	0	1	0
① 宮井	3	0	1	0	1
⑨ 末永	3	1	1	0	1

犠 併 残
0 0 5

34 12 8 2 3

	回	安	振	球	責
人見	5⅔	3	1	1	1
宮崎	⅓	2	0	1	2
川端	⅓	4	0	1	4
高橋	⅔	3	0	0	1
線	1	0	1	0	0

	回	安	振	球	責
宮田	9	7	3	1	0

▷犠打＝住1（清水）▷失策＝住1（中村）鐘1（佐藤）▷試合時間＝2時間32分

鐘化七回、一挙7点

鐘淵化学が七回、持ち前の猛打を爆発させた。川内の四球を口火にこの回無死一、二塁の好機をつかんだ。住金は川端をつぎ込んでの防戦。三瀬の捕前バントで川内は三封されたものの、併殺を狙った三塁手の一塁送球が悪投となって二、三塁にした。そして末永がまず右前適時打、上位に回った打線が火を噴いた。外園（ほかぞの）の中前打が導火線となり、7連打をたたみかけて、一挙7点を挙げた。

試合は前日、派手に打ち合った両チームが、この日の前半は一転して投手戦。鐘化は六回二死後連打で一、二塁の好機をつくった。住友金属はベテラン・宮崎をつぎ込んだが、その代わりはなを長嶋が投手返しの中前適時打。この先制点が鐘化を波に乗せた。住金は松下戦では17安打の猛打を見せたが、宮田の外角への速球、スライダーに打線は沈黙した。八、九回、連打で宮田を揺さぶったが、大量点で余裕をもった宮田だけに攻め切れなかった。

天国から地獄へ

㊁…前日コールド勝ちで意気あがった住金だったが、この日は一転して大敗。天国と地獄ほどの激しい変わりように松永監督も「こうムラがあってはどうにもなりませんなあ」。好投の人見投手が六回二死からつかまった。リリーフの宮崎には「鐘化は初球をねらっている。初球だけは気をつけろ」と指示したそうだ。しかし宮崎の投じた初球を長嶋にタイムリー打されて均衡が崩れ、このあと投手を総動員して防戦一方となった。「あの1球が試合の分かれ目でした。宮田君はいつかは崩せると思ったのに…」と〝1球〟を悔やんでいた。

▽11月10日

優勝戦（午後1時開始）

北海道拓殖銀行	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鐘淵化学	0	0	1	0	0	0	0	X	1

▶審判（球審）三宅（塁審）三輪、藤尾、上杉

【拓殖銀行】	打	安	点	振	球
⑥ 金谷	4	1	0	1	0
④ 佐藤信	2	1	0	0	1
⑦ 丸山	3	0	0	1	1
③ 水谷	4	0	0	0	2
⑤ 高岡	4	0	0	0	0
② 竹内	4	1	0	1	0
⑨ 葛西	2	0	0	2	0
H 1 奥田	1	0	0	0	0
① 千藤	0	0	0	0	0
H 9 山口	2	1	0	1	0
⑧ 梅田	1	0	0	1	0
坂佐井	2	0	0	0	0
犠 併 残					
2 0 6	29	4	0	9	2

【鐘淵化学】	打	安	点	振	球
⑧ 外囿	4	2	0	0	0
⑥ 岡田	4	1	1	2	0
③ 長嶋	3	0	0	1	0
⑤ 藤村	3	0	0	1	0
⑦ 川内	3	2	0	0	0
④ 佐藤	2	0	0	0	0
② 三瀬	3	0	0	1	0
① 宮田	3	0	0	2	0
⑨ 末永	3	0	0	0	0
犠 併 残					
1 0 4	28	5	1	7	0

	回	安	振	球	責
山口	6	3	4	0	1
千藤	2	2	3	0	0

	回	安	振	球	責
宮田	9	4	9	2	0

▷二塁打＝佐藤信、外囿 ▷犠打＝拓2（佐藤信、坂佐井）鐘1（佐藤）▷盗塁＝拓1（竹内）鐘1（川内）▷試合時間＝2時間14分

鐘化・岡田、決勝適時打

打の鐘化か、投の拓銀か。鐘淵化学は1試合平均6点強を奪い、北海道拓殖銀行は3試合中、完封1を含み4失点、山口ー千藤のリレーで乗り切ってきた。ところが試合は鐘化の若きエース・宮田の変化球がさえ、三回の1点を守り切り、拓銀の誇る投手陣に投げ勝った。

宮田は9割以上をブレーキ鋭い大きなカーブを投げ、制球力も見事。徹底したカーブ攻めに意表を突く鋭いシュートで打者を威圧、これに外角低めの直球を交ぜ、拓銀に連打と決定打を許さない。

鐘化は三回二死後、先頭の左打ち・外囿が山口の高めの速球を左中間に強打すると、続く岡田がすかさず初球をたたき、投手の足元を抜いて中前に達する適時打。これで外囿をホームに迎え、先制の1点を奪い、結局これが決勝点となった。宮田は最後まで攻めの投球を展開、ペースを乱さなかった。

拓銀は宮田の多投するカーブに狙いをつけて右打ちを仕掛けたが、ことごとく野手の正面を突いたのは不運だった。

監督談話

北海道拓殖銀行・榊原　靖監督　何度もチャンスがあったが、たたみかけるバッティングが出来なかった。宮田君のカーブにうまくかわされた。ここまでみんよく戦ったので悔いの残らない試合でした。

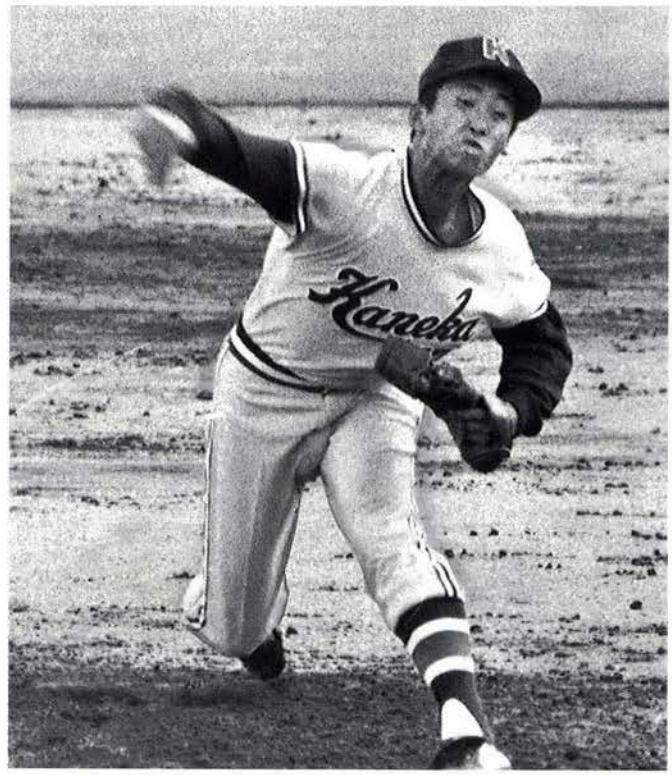
監督ひと

鐘淵化学　大河 賢二郎監督

真っ黒に日焼けした顔。無精ヒゲが伸びたままだ。「選手たちが伸び伸びと実によくやってくれた。宮田が抜群の投球をしてくれたし、この大会にあわせてコーチの岡田がコンディションをうまく持ってきてくれた。力以上の試合でした」。ウソや、はったりのいえない人だ。生まれて初めての胴上げの感想も「もうひとつピンとこなくてすいません」。

だが、決して楽々優勝したわけではない。不況の中での大会だけに会社上層部からは「従業員の士気を高めるためにも絶対優勝しろ」とはっぱをかけられた。それを一人胸にしまいこみ、選手には「シーズン最後の大会だ。それぞれが悔いのないプレーをしろ」と伝えただけだった。名門・高松商で野球がしたくて定時制に。大商大に進み、同大学から鐘化入社第1号でもある。俊足、好打の外野手。2年前まで現役として暴れまわり、コーチ経験もないまま監督になったのは人柄だ。

「選手の持てる力を十分に引き出すのが監督の仕事。みんな楽しくやれるよう努力しよう」と務め、これが見事に実を結んだ。ダイヤモンド旗を先頭にグラウンドを1周したあと、はじけて「うれしいですね」の言葉が出た。そして「今夜は久し振りにどっぷり酔っぱらいたい気持ちです」。飲み出せばウイスキー1本くらいは軽くいける酒豪。いかにもほがらかな酒飲みでもある。「これで選手たちも自信を持ったでしょうから」。来るべきシーズンに向けてファイトを燃やした。当時、鐘淵化学高砂工業所勤労部厚生課勤務。由貴子夫人と一男一女。高松市出身。1945年生まれ。



〔優勝戦〕北海道拓殖銀行ー鐘淵化学　安定感あるピッチングをした鐘淵化学の宮田投手。

宮田（鐘化）仁王立ち、1点死守

熱球

宮田のカーブが拓銀・竹内を二ゴロに仕留めた。打球の行方を腰を落として見据えていた宮田は、竹内が一塁でアウトになった途端、クルリと体を回転させて、バンザイしながら、三塁ベンチからかけ寄ってきた大河監督をはじめとするチームメートの固まりの中に飛び込んでいった。

「1点だけだから最後まで気が抜けなかった」と宮田はいった。だが、本当のところは「終わったら一番初めにだれのところに行ったらいいのかな」。そんな気持ちを六回ごろか抱いていたそうだ。一、三回と拓銀の先制機を踏みつぶし、五、六回と拓銀の反撃機を突っぱねていった。制球のいいカーブを武器に冷静な投球で拓銀を抑えつけた。その底には前年秋の大会でデビューして、好投したのが自信になっていたように思われる。

拓銀が切り札・千藤を後ろに置いていたのと同様、鐘化にもベテラン・光内が、宮田をいつでも助けようとブルペンで投げ続けてきた。しかし成長著しい宮田は最後まで伸び盛りの力を燃焼させながら、マウンドを守り通した。

5連投、41イニングスを投げた宮田。「ずっと落ち着いて投げられました」。疲れたふうもなくいってのけた。21歳の若さである。「監督を憎いと思ったこともあったが、今はありがたい気持ちでいっぱい。僕の力を存分に出しきれたもの」。この宮田がそうだったように、みんなが持てる力を発揮出来たところに鐘化の優勝があった。　（笹尾　勝彦）

第２回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　宮田典計投手**（鐘淵化学）　優勝が決まったら、まっすぐに監督のところへとび込んでいこうと、六回ごろから考えていた。だけど、みんなにつかまってしまって……」５試合をひとりで投げ抜いた若いエースは生まれて初めて大きな大会の優勝の感激を味わったというのに、汗もかかず興奮も見せずに、淡々としていた。「ピンチになっても落ち着いていたし、心配しなかった」というからピッチング同様、心臓の方もいい。「優勝できたのはみんなよくやったのと、ボク自身、精神的に安定したから」だそうだ。兵庫県社高時代は投手のかたわら外野手で四番。社会人になってからは投手専門。入社３年目。昨年のこの大会で一回戦（西濃運輸）完封勝ちした以外は高校、社会人を通じてこれといった成績はない。177㌢、68㌔、21歳。

◇**敢闘賞　山口敏男投手**（北海道拓殖銀行）「賞はうれしいが１点を失ってみんなに申し訳ない。タイムリーを打たれたのはボール気味の内角ストレート、詰まった当たりのようだったが、うまく打たれた。準決勝の時より球の力はあった。長打一発を警戒して投げたが、鐘化の打者のスイングは鋭かった」。右投速球の本格派。キレのよいカーブを巧みにおりまぜての力投は、今大会４試合にいずれも先発、拓銀初の決勝進出の原動力となる活躍をした。都市対抗には３年連続して、電電、新日鉄室蘭に補強されて出場した。北海道・池田高出身、1970年入社。180㌢、84㌔、23歳。

◇**首位打者賞　宇山秀明外野手**（住友金属）　＝（13打数６安打、４割６分２厘）「エッぼくが。こんな賞には縁がないんです。もっとも大学時代（慶大）に一度チャンスがあったんですが、最後の試合（早慶三回戦）ノーヒットで逃がしていますから、うれしいです」。都立大泉高から慶大を経て入社２年目、俊足好打のトップバッター。170㌢、62㌔、26歳。

川内幸男外野手（鐘淵化学）「勝つことばかりで首位打者賞がとれるなんて夢にも思いませんでした。まさか、こんなに打てるとは……。できるだけ野球を続けたいと思っていますが、受賞はいい励みになります」。佐賀県・鹿島高から関大へ。２年まで投手だったが、山口（阪急）のおかげで出番がなく、センスのよさをかわれて打者に転向。エアロマスターから昨春、鐘化入り。典型的な中距離打者で今大会から主軸（五番）を任された。172㌢、70㌔、25歳。

◇**優秀選手**　**【投手】**山口敏男、千藤和久（以上北海道拓殖銀行）宮田典計（鐘淵化学）大塚喜代美（三協精機）福間納（松下電器）末永秋徳（九州産交）**【捕手】**古川義弘（三協精機）松隈憲治（住友金属）**【一塁手】**長嶋顕彦（鐘淵化学）水谷清仁（北海道拓殖銀行）**【二塁手】**佐藤治夫（鐘淵化学）佐藤信治（北海道拓殖銀行）清水長寿（住友金属）**【三塁手】**藤村正美（鐘淵化学）高岡茂夫（北海道拓殖銀行）佐々木幸治（三菱重工広島）**【遊撃手】**岡田理三郎（鐘淵化学）林正宏（住友金属）**【外野手】**宇山秀明、中林秀延（以上住友金属）外園郁夫、川内幸男（以上鐘淵化学）豊国利一（三協精機）野村茂（日本生命）吉川丈一（三菱重工広島）

智・仁・勇兼備の社会人野球を

日本野球連盟
四国地区連盟会長
稲原幸雄
（日本野球連盟 副会長）

都市対抗野球大会は昭和２年夏、神宮球場で第１回をスタートした。当時の出場チームは、オール大阪、オール東京、大連満倶、全京城、全神戸など殆どがクラブチームであった。

この頃は、東京六大学出身のスタープレーヤーを備えた東京クラブが実力、人気ともに抜群で、本大会は名実ともにアマチュア野球大会最高のそれで、当時の野球ファンの人気も大したもので、入場料50銭をポケットマネーから出して連日満員の盛況でした。入場料50銭は当時の物価から見て相当なものでした。

その後、都市対抗野球は神宮球場から後楽園球場に移り、東京ドームの完成を機に大会は東京ドームの雰囲気も素晴らしく、連日満員の盛況を呈した。

一方、昭和26年から、産別大会が開催され球界から注目されたが、昭和48年の第23回で産別大会は中止された。この頃から東の都市対抗に対し、西の選手権大会開催の機運が高まり、各方面から要望されるようになった。

その後、時の移りとともにプロ野球が盛況を呈したり、社会人野球界も国際試合が盛んになってきた。都市対抗野球にも故小野三千麿氏の発案で１チームに５名の補強選手を認めて、よりスケールの大きい野球を目指すこととなって今日に及んでいる。

一方、都市対抗野球とは違って一切補強選手を認めないでチームプロパーで覇を争う選手権大会開催の世論が起きてきた。

当時の日本社会人野球協会最高顧問であり近畿連盟会長佐伯達夫氏は大会開催に先立ち各方面の理解、協力の必要性を痛感せられ佐伯会長自ら小松博氏、富田秀三氏とともに関係各方面を歴訪せられました。佐伯会長の熱気にほだされ各方面が協力を約束され、すべての準備体制が整い、ここに社会人野球日本選手権大会が開催の運びとなり昭和49年、甲子園球場で６年間開催した。

その後、大阪球場に移り、昭和63年には現在のグリーンスタジアム神戸に移り、本大会は年とともに盛況を呈し、東の都市対抗、西の選手権と日本野球連盟の２大大会となりました。ここに第21回大会を迎えることとなり関係各位のご努力に対し心から感謝を捧げるものであります。

顧みて、日本社会人野球協会、日本野球連盟は幾多の名手を日本野球界に送り日本野球界発展に寄与したことなど万人の認めるところであります。

一方、野球がオリンピック出場を目指して、飯田庸太郎会長、山本英一郎副会長のリーダーシップでこれの実現を達成したことなど誠にご同慶の至りであります。

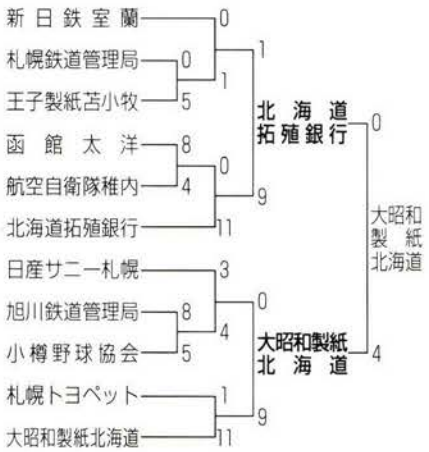
現在、日本野球界は当面諸々の問題に直面しておりますが、我々社会人野球は智、仁、勇を兼備の社会人野球の実現に、心を一つにして努力精進したいものであります。

第2回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月12日から　4日間　　札幌中島球場



東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽一回戦　八戸市水道部10－1きものセンター、自衛隊青森11－10オール青森▽**敗者復活一回戦**　きものセンター7－2オール青森▽**準決勝**　八戸市水道部9－1自衛隊青森、三菱製紙八戸7－6きものセンター▽**決勝**　八戸市水道部10－2三菱製紙八戸（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**　▽一回戦　盛岡鉄道局14－0アイワ、新日鉄釜石3－2小野田セメント、オール不来方5－4東京製綱、オール宮古6－2一戸桜陵ク、谷村新興製作所11－0オール釜石、全久慈4－1岩手銀行、一関三星ク9－2オール花巻▽**準々決勝**　盛岡鉄道管理局7－4一関ユニオン、新日鉄釜石7－2オール不来方、谷村新興製作所5－0オール宮古、全久慈6－3一関三星ク▽**準決勝**　新日鉄釜石5－2盛岡鉄道管理局、谷村新興製作所4－1全久慈▽**決勝**　谷村新興製作所2－1新日鉄釜石（勝者は第二次予選へ）

◇**秋田**▽一回戦　秋田銀行（不戦勝）秋田経大交友ク、ＴＤＫ4－0東北肥料▽**準決勝**　ＴＤＫ7－0秋田鉄道管理局、秋田相互銀行2－1秋田銀行（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ＴＤＫ9－6秋田相互銀行

◇**宮城**▽一回戦　鳳山ク13－3日和ク、仙台鉄道管理局3－1仙商ク、亘理ク10－2古川テクニカル、オノヤク7－6石巻ハリケーン▽**準決勝**　仙台鉄道管理局6－2鳳山ク、亘理ク6－3オノヤク▽**決勝**　仙台鉄道管理局3－2亘理ク（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽一回戦　山形相互銀行2－0日大山形ＯＢ▽**決勝**　山形相互銀行3－2鶴岡ヤンガース（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽一回戦　福島ク3－1原田ク、学石ＯＢク6－0自衛隊福島▽二回戦　須賀川ク16－6飯塚病院ク、ニュー相馬8－3ＳＧク、二本松ク5－1塙ク、いわきク6－5川俣ク、小名浜ク5－4保原ク、福島ク1－0オール常交、オール郡山3－2学石ＯＢク、会津若松ク3－2ヨークベニマル▽**準々決勝**　福島ク5－4須賀川ク、二本松ク8－1ニュー相馬、いわきク12－7オール郡山、小名浜ク8－5会津若松ク▽**準決勝**　福島ク14－10二本松ク、いわきク5－2小名浜ク▽**決勝**　いわきク13－0福島ク（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月27日から　3日間　　秋田市営八橋球場

関東大会

▶一次予選

◇**群馬**▽一回戦　高崎鉄道管理局1－0全前橋、富士重工業13－2伊勢崎レッドソックス▽**決勝**　富士重工業7－2高崎鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽一回戦　日本通運2－1本田技研▽**準決勝**　日本通運（不戦勝）エーザイ、全浦和12－1全大宮▽**決勝**　日本通運7－3全浦和（勝者は第二次予選へ）

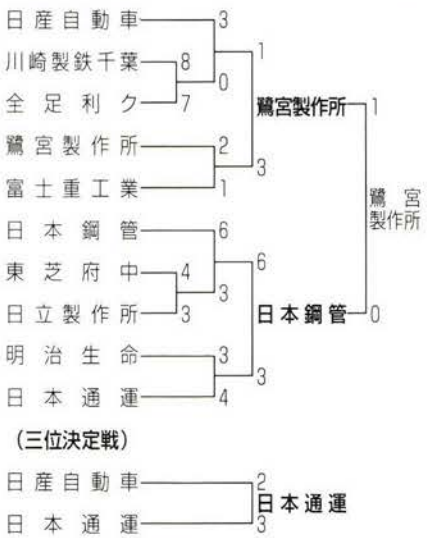
◇**東京**▽一回戦　リッカー4－3熊谷組、鷺宮製作所7－4オール北斗、明治生命3－0東京鉄道管理局、東京ガス7－0アイビーエム▽**準決勝**　鷺宮製作所3－2リッカー、明治生命4－3東京ガス（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　明治生命8－0鷺宮製作所

◇**東京多摩**▽リーグ戦　東芝府中7－3全調布ク、スリーボンド2－1全調布ク、東芝府中3－0スリーボンド（東芝府中は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽一回戦　日産自動車8－6日本石油、三菱自動車川崎4－3キャタピラー三菱、いすゞ自動車9－2三菱重工横浜、日本鋼管6－3東芝▽**準決勝**　日産自動車3－0三菱自動車川崎、日本鋼管3－1いすゞ自動車（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日産自動車4－0日本鋼管

▶二次予選

10月2日から　8日間　　浦和市営球場



中部大会

▶一次予選

◇**山梨**▽一回戦　全山梨市ク6－2山梨ク、桂ク（不戦勝）オール櫛形▽**決勝**　全山梨市ク11－3桂ク（勝者は第二次予選へ）

◇**新潟**▽一回戦　国鉄新潟7－1新津ク、小千谷ク（不戦勝）全新発田▽**準々決勝**　新潟コンマーシャル8－2白根野球団、国鉄新潟1－0平和ク、全飯豊2－0新潟ク、小千谷ク7－0十日町ク▽**準決勝**　国鉄新潟3－2新潟コンマーシャル、全飯豊2－1小千谷ク▽**決勝**　国鉄新潟5－3全飯豊（勝者は第二次予選へ）

◇**静岡**▽一回戦　河合楽器9－2清水タイガース、大昭和製紙8－0清水ク、日軽ク2－0関東自動車工業▽**準決勝**　大昭和製紙2－0河合楽器、日本楽器10－2日軽ク（準決勝出場4チームは第二次予選へ）▽**決勝**　日本楽器5－4大昭和製紙

▶二次予選

10月4日から　3日間　　静岡県営球場

東海・北陸大会

9月10日から　6日間　　愛知県営熱田球場

近畿大会

▶一次予選

◇**京都**▽**一回戦**　三菱自動車京都８－３ユニチカ、京都市役所４－２丸勝、日本新薬７－０京都信用金庫、辻和15－０北桑ク、大丸11－１高島屋京都▽**準々決勝**　三菱自動車京都３－１京都市役所、日本新薬７－０山田静、辻和４－３第一紙行、大丸19－０スワロン（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本新薬７－２三菱自動車京都、大丸７－３辻和▽**決勝**　大丸３－０日本新薬

◇**大阪**▽**一回戦**　住友金属８－５日立造船堺、全三和銀行10－５大阪ペーシェンス▽**準々決勝**　デュプロ３－０大阪高島屋、日本生命４－０全三和銀行、松下電器13－０旭化成、新日鉄堺８－０住友銀行▽**準決勝**　新日鉄堺１－０デュプロ、日本生命２－０松下電器▽**三位決定戦**　松下電器４－０デュプロ▽**決勝**　日本生命２－１新日鉄堺▽**敗者復活一回戦**　大阪高島屋13－４住友銀行、全三和銀行８－６旭化成▽**第五代表決定戦**　大阪高島屋１－０全三和銀行（準決勝進出４チームと大阪高島屋は第二次予選へ）

◇**兵庫**▽**一回戦**　小西酒造３－１三菱重工神戸、川鉄神戸３－２石川島播磨重工業、新日鉄広畑２－１川崎重工、鐘淵化学３－１神戸製鋼▽**準決勝**　小西酒造３－０川鉄神戸、鐘淵化学２－１新日鉄広畑▽**決勝**　小西酒造６－２鐘淵化学（準決勝進出４チームと推薦の三菱重工神戸は第二次予選へ）

▶二次予選

9月30日から　9日間　　高砂市営球場

（敗者復活戦）

中国大会

▶一次予選

◇**岡山**▽**リーグ戦**　三菱自動車水島７－０川鉄水島、三菱自動車水島２－０三井造船玉野、川鉄水島１－０三井造船玉野（三菱自動車水島は第二次予選へ）

◇**広島**▽**一回戦**　日本鋼管福山８－１山本鋼材、広島鉄道管理局３－１東洋工業、三菱重工三原８－１常石鉄工、三菱重工広島７－２広島マツダ▽**準決勝**　日本鋼管福山４－１広島鉄道管理局、三菱重工三原11－３三菱重工広島▽**決勝**　日本鋼管福山８－６三菱重工三原▽**三位決定戦**　三菱重工広島４－０広島鉄道管理局（３位までが第二次予選へ）

◇**山口**▽**リーグ戦**　協和醗酵３－２新日鉄光、東洋紡８－２田辺製薬、協和醗酵８－４東洋紡、新日鉄光６－０田辺製薬、新日鉄光１－０東洋紡、田辺製薬３－１協和醗酵、新日鉄光２－１協和醗酵（新日鉄光、協和醗酵、東洋紡、田辺製薬は第二次予選へ）

▶二次予選

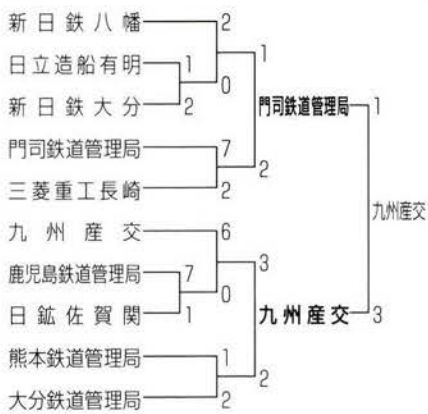
9月20日から　2日間　　徳山球場

四国大会

9月20日から　4日間　　県営徳島球場

九州大会

9月23日から　4日間　　県営熊本球場



第2回大会出場選手等一覧（○は主将）

大昭和製紙北海道

監督	高梨　英夫	33	大多喜高
投手	松崎　隆	25	一宮商高
〃	川瀬　隆俊	24	木古内高
〃	高橋　孝行	24	中央大
〃	加藤　英美	23	室蘭大谷高
〃	望月　保雄	23	富士宮北高
〃	千葉　豊	23	函館大谷高
〃	小磯　健次	21	安積商高
捕手	村上　忠則	26	津名高
〃	高森　雅明	26	室蘭清水丘高
〃	三上　誠一	21	室蘭大谷高
〃	伊藤　隆博	20	札幌商高
〃	樋口　忠雄	19	名寄高
内野	高梨　英夫	33	大多喜高
〃	池ケ谷　勝	32	立教大
〃	斉藤　勲	30	柳井商工高
〃	角田　憲二	29	早稲田大
〃	仲本　広明	25	沖縄興南高
〃	佐藤　義夫	24	神奈川大
〃	菅原　武敏	20	室蘭大谷高
〃	木下　正直	19	旭川竜谷高
外野	○浜井　頌丈	28	芝浦工業大
〃	大塩　順三	26	登別大谷高
〃	山本　和則	26	北海高
〃	我喜屋　優	25	沖縄興南高
〃	高田　行夫	22	北海道産業短大

北海道拓殖銀行

監督	榊原　靖	39	中京大
投手	千葉　和久	27	中京商
〃	山口　敏男	23	池田高
〃	柴田　正明	23	中京大
〃	松田　雅晴	23	駒沢大
〃	井出　圭一	22	愛知工大
〃	内ケ島規司	20	桧山北高
〃	原田　末記	19	中京商高
捕手	近藤　隆夫	28	中京大
〃	竹内　昭文	24	法政大
〃	船木　敏夫	21	函館有斗高
〃	佐藤　祐久	20	釧路江南高
内野	佐藤　信治	30	中京大
〃	水谷　清仁	26	中京大
〃	○高岡　茂夫	25	法政大
〃	金谷　清治	24	江差高
〃	小野　修二	23	早稲田大
〃	海老名敏彦	20	中京高
〃	戸田　吉久	20	三重高
外野	梅田隆比克	27	日本大
〃	葛西　源司	25	四日市高
〃	坂佐井　修	24	駒沢大
〃	丸山　幸雄	23	中央大
〃	奥田　剛央	22	明治大
〃	菅　豊	22	駒沢大

T　D　K

監督	野村　稔	32	榛原高
投手	野村　稔	32	榛原高
〃	浅井　治彦	27	専修大
〃	佐藤　光弘	23	立正大
〃	奥村　正巳	23	名古屋商大
〃	石森　隆	22	東北高
〃	佐々木芳治	22	明治学院大
〃	伊東　正弘	19	木更津中央高
捕手	吉村　好嗣	23	大阪学院大
〃	田村　正孝	20	西仙北高
内野	石黒　孝昭	27	由利工高
〃	宮本　芳明	26	和歌山工高
〃	○佐藤　昭光	24	金足農高
〃	北林　哲夫	23	東洋大
〃	伊藤　辰雄	23	専修大
〃	阿部　正英	22	金足農高
〃	高瀬　正茂	19	白石工高
外野	佐々木吉一	27	金足農高
〃	倉石　茂樹	25	東洋大
〃	田村　巧	24	亜細亜大
〃	金原　晴夫	24	名古屋商大
〃	佐々木　功	21	大曲農高
〃	進藤　均	20	大曲農高
〃	幸林　実	20	北陽高
〃	湊　康二	20	金足農高
〃	秋葉　広	20	木更津中央高

秋田相互銀行

監督	佐藤　伸一	38	秋田商高
投手	小畑　幸悦	19	六郷高
〃	上野　昭一	26	大館商高
〃	神成　春己	20	大館商高
捕手	長谷川　俊	20	大館商高
〃	山中　寛	24	横手高
内野	金釜　清	22	秋田市立高
〃	鈴木　聡	20	角館高
〃	佐藤　道世	22	秋田市立高
〃	藤垣　英明	19	大館商高
〃	飯塚　透	24	横手高
〃	九嶋　敏明	20	大曲高
〃	○斎藤　正人	27	秋田高
外野	高田　義彦	20	十和田高
〃	渡辺　康男	29	横手高
〃	青山　洋一	20	角館高
〃	高橋　保二	24	横手高
〃	佐藤　次男	27	秋田経大付高
〃	伊藤　俊明	22	能代高

鷺宮製作所

監督	有本　勲	31	静岡高
投手	広田　明朗	19	三条商高
〃	川原　正也	20	佐世保工高
〃	池田　弘	21	日南商高
〃	山本　良材	24	拓殖大
〃	黒坂　幸夫	20	糸魚川商高
捕手	坂本　洋和	24	熊本工高
〃	有本　勲	31	静岡高
〃	竹下　雅規	20	佐賀商高
〃	吉田　勉	25	帝京大
内野	益田　芳樹	25	中央大
〃	岩永　藤則	19	筑紫工高
〃	手塚　佳見	25	駒沢大
〃	高橋　英一	25	大東文化大
〃	古葉　淳	21	熊本工高
〃	山本　一人	19	福岡第一高
〃	中本　尚	24	早稲田大
外野	金村　東	26	早稲田大
〃	渡辺　淳二	24	早稲田大
〃	○梅原　昌	28	駒沢大
〃	新美　進	26	神奈川大
〃	上岡　朗	19	前橋工高

日本鋼管

監督	田浦　正昭	34	慶応大
投手	古屋　智史	28	明治大
〃	上岡　誠治	27	慶応大
〃	前　保洋	25	明治大
〃	梶間　健一	23	鉾田一高
〃	佐藤　守	23	早稲田大
〃	木田　勇	21	横浜一商高
〃	堀江　幹雄	20	藤沢商高
捕手	中沢　邦男	25	日本大
〃	中田　順一	25	宇和島東高
内野	○内藤　博	27	横浜一商高
〃	樋野　和寿	24	明治大
〃	柴田　敏広	24	高松一高
〃	斎藤　茂樹	23	明治大
〃	樋口　義一	21	大宮高
〃	磯村　政司	20	銚子商高
外野	六条　誠一	25	高松一高
〃	鈴木　育男	25	駒沢大
〃	高尾　康平	24	明治大
〃	林　竜郎	23	亜細亜大
〃	前川　善裕	23	早稲田大
〃	島野　弘幸	19	武相高

日本通運

監督	初岡　栄治	45	専修大
投手	鈴木　直勝	27	仙台高
〃	青木　朝生	22	飯能高
〃	三浦　均	21	秋田商高
〃	永島　時郎	22	千葉商高
〃	侯野　延夫	26	高松工芸高
〃	村上　之宏	19	高根沢商高
〃	柴崎　良之	21	横浜商高
捕手	八木　孝治	19	静岡学園高
〃	持田　幹雄	25	立教大
〃	光野　茂樹	23	専修大
〃	福井竜太郎	20	川口工高
内野	○板倉　丈二	27	駒沢大
〃	清塚　慎一	22	高崎商高
〃	関東　孝雄	24	仙台育英高
〃	石井由紀夫	24	立正大
〃	草野　誠	23	東洋大
〃	河田　誠	23	東洋大
外野	望月　伸一	23	専修大
〃	磯崎　牧夫	25	相洋高
〃	本間　徳雄	22	川口工高
〃	前田　隆	20	酒田商高
〃	阿部　俊和	22	仙台育英高
〃	大田垣克幸	23	青山学院大
〃	星野　哲	21	川口工高

三協精機

監督	光沢　毅	37	明治大
投手	樋江井忠臣	22	中京高
〃	福田　義之	24	神奈川大
〃	大塚喜代美	22	桐蔭学園高
〃	倉地　敏明	22	鶴見工高
〃	上田　芳央	24	明治大
〃	平田　恒夫	19	中京商高
〃	伊藤　弘利	21	大同工高
捕手	織田　康裕	25	神奈川大
〃	金野　満	26	明治大
〃	古川　義弘	27	明治大
内野	池口　良明	24	立教大
〃	佐藤　広美	23	明治大
〃	○内田　俊雄	28	亜細亜大
〃	幡野　正秋	29	神奈川大
〃	鈴木一比古	27	明治大
〃	柳瀬　整	27	東洋大
〃	道吉　哲夫	22	法政大
〃	武田　稔	23	明治大
〃	清川　春基	23	神奈川大
外野	星山　和久	24	中京大
〃	白川不三夫	25	東洋大
〃	佐々　弘雄	28	中京大
〃	鈴木　実	22	豊南高
〃	小根森末男	24	亜細亜大
〃	豊国　利一	25	日本体育大

河合楽器

監督	久米　孝一	38	明治大
投手	上条庸雄	25	中央大
〃	若林　司	19	静岡自動車工高
〃	海野　純一	21	橘高
〃	岡嶋　敏彦	20	東北高
〃	佐々木昌平	21	松山商高
〃	根本　俊郎	21	宮城水産高
捕手	○市川　秀雄	27	神奈川大
〃	本間　勇	26	駒沢大
〃	横山　隆利	25	岐阜南高
内野	青木　正男	26	中央大
〃	山本宗三郎	23	国士舘大
〃	伊藤　升久	23	中央大
〃	伊藤　周作	25	中央大
〃	鈴木　雅之	23	法政大
〃	伊藤　昭三	26	東京農大
〃	阿部　隆	21	宮城水産高
〃	河野　忠明	20	聖陵高
外野	宮下　一雄	20	静岡自動車工高
〃	福間　節雄	26	神奈川大
〃	千吉良俊次	24	利根商高
〃	宮本　実	26	別府大付高
〃	小島　英一	23	駒沢大
〃	若山　聡	23	愛知工大
〃	森下　信義	19	浜松工高
〃	植松　清春	29	中央大

西濃運輸

監督	柴垣　旭延	33	中央大
投手	木戸　孝明	18	享栄高
〃	武者　朗	19	中条工高
〃	松田　修二	23	岐阜南高
〃	早川　実	25	福岡電波高
〃	片江　剛	20	神埼高
〃	宮本　好宣	24	同志社大
捕手	田村　孝	18	中津商高
〃	中島　務	25	東洋大
〃	広浦　教雄	25	佐野高
内野	祖父江伸介	30	愛知大
〃	木村　敬三	23	名商大
〃	青木　義久	26	神奈川大
〃	西村　雅文	19	竜谷高
〃	中井　元二	27	荏原高
〃	中島　隆利	24	神奈川大
〃	山極　憲三	26	東海大
〃	○林　伸男	28	中京大
〃	江藤　栄	31	専修大
外野	細川　昌俊	27	東洋大
〃	小椋　清俊	22	岐阜短大付高
〃	加野　悦男	24	中京大
〃	小林　秀敏	25	大阪経済大
〃	兼近　孝雪	24	荏原高

日通名古屋

監督	堀田　幸次	30	大垣商高
投手	高田　郁男	21	起工高
〃	望月　修二	25	愛知工大
〃	岡部　美幸	20	三重高
〃	平沢　隆好	22	津島高
〃	須田　政憲	23	享栄高
捕手	小笠原　実	23	享栄高
〃	鈴木　浩一	23	愛知工大
内野	矢田　博美	26	愛知工大
〃	野津　峰雄	23	岐阜南高
〃	田島　正司	24	愛知工大
〃	岩田　好生	20	三重高
〃	岡本　武司	29	名電工高
〃	日比野達美	23	大垣商高
〃	鈴木　松男	24	中京高
〃	安藤　浩三	19	三重高
外野	渡辺　勝也	21	中京高
〃	内山　伸幸	28	名城大
〃	伊藤　修	26	愛知工大
〃	前橋多美雄	23	三重高
〃	○深谷　賢司	28	愛知商高
〃	古田　勝美	24	名城大

新日本製鐵堺

監督	佐藤　紀夫	35	中津工高
投手	一円　敏彦	29	春日出中
〃	中川　善弘	23	和歌山工高
〃	尾西　和夫	22	中津工高
〃	佐野　茂樹	22	PL学園高
〃	小笹　政徳	20	米子商高
〃	平山　正人	19	PL学園高
〃	藤原　淑孝	19	堺商高
捕手	中出　謙二	21	和歌山工高
〃	井口　成年	19	PL学園高
内野	汐崎収二郎	28	新宮高
〃	浜崎　満重	27	八幡工高
〃	水本浩一郎	22	中津工高
〃	田中　和男	22	興国高
〃	中島　寿雄	21	出雲西高
〃	中嶋　一郎	20	興国高
〃	鞍本　喜義	20	御所工高
〃	峯本　達雄	22	新宮高
〃	藤本　政男	19	PL学園高
〃	武友　利澄	19	笠田高
外野	○石井　隆	27	姫路商高
〃	山道　繁夫	24	直方学園高
〃	高橋　健	22	三沢高
〃	横田　定男	22	興国高
〃	藤本　公二	21	興国高
〃	山尾　博	19	生野工高

日本生命

監督	山本　正隆	40	関西学院大
投手	利光　高明	27	徳島商高
〃	西川　雅雄	25	東海大
〃	岡田　和久	24	近畿大
〃	矢野　暢生	22	早稲田大
〃	梶原　幸次	20	報徳学園高
〃	小田　久雪	19	菊池高
捕手	○佐竹　政和	27	関西大
〃	高木　滋夫	24	東海大
〃	佐藤　雅春	24	中央大
〃	池田　勇次	19	報徳学園高
内野	鈴木　憲行	27	掛川西高
〃	鈴木たつ男	25	中京大
〃	赤井　淳二	23	近畿大
〃	西本　正夫	23	中央大
〃	井尻　陽久	22	東海大
〃	河野　敏章	24	東京大
〃	村越　英之	20	津久見高
外野	西田　安男	27	近畿大
〃	新名　隆	23	明治大
〃	中井　順二	23	同志社大
〃	野村　茂	22	PL学園高
〃	天保　晃一	22	早稲田大
〃	友　正二	19	津久見高
〃	末吉　重幸	18	宮崎商高
〃	須見　武弘	30	同志社大

住友金属

監督	松永　怜一	44	法政大
投手	高橋　修二	19	高知高
〃	川端　理史	26	東海大
〃	山中　正竹	28	法政大
〃	人見　康雄	26	大阪府立大
〃	宮崎　寛	26	鹿島高
〃	緑　茂之	19	興国高
捕手	松隈　憲治	21	柳川商高
〃	中崎　至	22	笠田高
〃	山口　誠	20	鹿児島電子工高
内野	田浦　法宏	23	早稲田大
〃	○谷口　剛	27	東海大
〃	清水　長寿	24	早稲田大
〃	林　正宏	24	向陽高
〃	中村　裕二	26	法政大
〃	四田　勝康	19	浪商高
〃	宇野　秀信	21	大分商高
〃	古吟　稔	23	亜細亜大
外野	浜田　知治	20	小倉商高
〃	宇山　秀明	26	慶応大
〃	川上　謙治	22	市和歌山商
〃	三好　一幸	23	東海大相模高
〃	中林　秀延	26	慶応大

松下電器

監督	高木太三郎	43	関西大
投手	福間　納	23	大田高
〃	久保　邦夫	21	水島工高
〃	長谷部　優	24	慶応大
〃	山本　昌樹	21	鳥取西高
〃	多田　純一	20	鳴門工高
捕手	木原　弘人	23	慶応大
〃	野並　厚夫	20	大方商高
〃	高橋　寛	23	江津工高
〃	後藤田　務	20	鴨島商高
内野	山口　円	24	関西大
〃	○松下　勝実	25	慶応大
〃	川田　雄平	25	慶応大
〃	坂口　雅久	23	立教大
〃	石井　賢吾	24	立教大
〃	北川　智章	21	戸畑商高
〃	亀沢　猛	18	大田高
〃	柳井　匡治	18	大田高
〃	平谷　拓	18	田辺商高
外野	鍛治舎巧	23	早稲田大
〃	西越　高章	22	大田高
〃	浜田　雄次	20	徳島商高
〃	堀江　隆樹	23	立教大

鐘淵化学

監督	大河賢二郎	30	大阪商大
投手	渡辺　博	25	岐阜南高
〃	藤本富美夫	21	中津商高
〃	光内　数喜	28	芝浦工大
〃	田中　善孝	19	比叡山高
〃	桝田　拓	20	高知工高
〃	園　博	25	小倉商高
〃	宮田　典計	21	社高
捕手	米田　司	20	奈良商高
〃	村上　省吾	19	益田工高
〃	三瀬　和義	24	津久見高
内野	藤村　正美	26	法政大
〃	岡田理三郎	29	専修大
〃	○佐藤　治夫	28	法政大
〃	田村　光浩	19	高知工高
〃	山内　治樹	19	小倉工高
〃	中下　賢志	20	呉港高
〃	長嶋　顕彦	23	比叡山高
外野	末永　成典	24	中津工高
〃	斉藤　忠	25	法政大
〃	土井　政之	19	市和歌山商高
〃	川内　幸男	25	関西大
〃	滝本　康彦	23	早稲田大
〃	外園　郁夫	22	鹿児島商工高
〃	大河賢二郎	30	大阪商大

三菱重工広島

監督	松野　道夫	34	立教大
投手	永野　毅	21	都城農高
〃	近藤　実	26	福岡工大
〃	中井　政夫	24	広島商高
〃	若松　実	26	芝浦工大
〃	高木　真一	22	早鞆高
捕手	大森　光生	24	明治大
〃	山村　幸紀	23	広島商高
〃	迫田　守昭	30	慶応大
内野	酒井　信芳	25	東洋大
〃	財津　勲	19	熊本第一工高
〃	井上　敏之	22	山陽高
〃	仙田　泰章	22	米子工高
〃	吉本　宏一	24	東洋大
〃	秦野　義治	23	大分東明高
〃	佐々木幸治	24	法政大
〃	米谷　豊	19	宮崎電子工高
外野	吉川　丈一	22	都城農高
〃	古川　達雄	24	米子商高
〃	荒谷　稔	22	広島商高
〃	○伊藤　順三	26	八幡大
〃	富士野誠示	22	西脇工高
〃	中村　文人	25	国士舘大
〃	岡崎　照光	20	熊本第一工高
〃	井上　伸三	23	東洋大

新日本製鐵光

監督	古海　正敏	38	明治大
投手	児玉　克雅	23	浜田高
〃	山本　和男	21	柳井学園高
〃	白木　哲夫	25	八幡工高
〃	大町　定夫	22	柳井商工高
〃	石貫　伸二	19	南筑高
〃	小田　敦祥	19	防府商高
〃	村上　謙二	22	山口水産高
捕手	○板東　充宣	27	立教大
〃	森山　真利	19	日南工高
〃	浜崎　久満	20	久賀高
〃	平山　茂雄	19	南筑高
内野	押川　典生	22	宮崎日大高
〃	桑原　俊貞	24	萩高
〃	佐々木省吾	18	門司工高
〃	木下　英己	31	下関商高
〃	小嶋　文男	22	川越工高
〃	田中　武雄	26	早鞆高
外野	弓場　育男	23	邇摩高
〃	磯部　俊介	24	下関商高
〃	梶原　義幸	19	門司工高
〃	海老本勝美	27	聖光高
〃	村上　学	19	早鞆高
〃	平家　悟	20	八頭高

丸善石油

監督	今村　博	39	関西大
投手	野口　憲次	23	明治学院大
〃	深田　俊次	22	法政大
〃	森　悦二	24	東海大
〃	古賀　正明	26	法政大
〃	藤井栄一郎	24	明治学院大
〃	松元　芳一	22	都城泉ケ丘高
〃	新　孝博	22	初芝高
捕手	永田　博造	28	亀谷大
〃	大西　勝	26	関西学院大
〃	秋葉　秀雄	21	勝浦高
〃	益田　佳明	24	立正大
〃	古井　浩二	21	海南高
内野	山下　隆士	27	慶応大
〃	徳藤　幸三	25	宮崎商高
〃	神崎　直	24	津久見高
〃	浦　勝敏	20	PL学園高
〃	福永　純一	24	亜細亜大
〃	水中　良博	27	駒沢大
〃	河合　泰治	22	日大一高
外野	新崎　貢	25	柳学園高
〃	上田　善行	25	亜細亜大
〃	寺岡　正彦	24	聖橋高
〃	○窪田　欣也	28	亜細亜大
〃	末崎　友己	21	生野工高
〃	角田　栄	20	木更津中央高

伊豫銀行

監督	菅　正昭	33	松山商高
投手	徳永　悦男	28	松山商高
〃	寺尾　正信	24	新居浜商高
〃	大野　茂生	24	松山商高
〃	深川　和正	24	大商大
捕手	沢田　悟	27	駒沢大
〃	石川　昭	25	川之江高
〃	畝中　修徳	20	長浜高
内野	近藤　忠孝	33	新居浜東高
〃	岡田　慶一	31	松山商高
〃	○岡添　健二	27	南宇和高
〃	森　達朗	27	東洋大
〃	末広　定建	24	南宇和高
〃	平岡　孝史	23	松山商高
〃	山下　和規	23	新居浜東高
〃	渡部　道則	21	今治西高
外野	鈴木　義直	26	八幡浜高
〃	横内　洋二	25	川之江高
〃	持主　雅仁	24	大経大
〃	川中　良之	22	宇和島東高

九州産交

監督	西田　宏城	37	九州学院高
投手	日高兼一郎	23	本庄高
〃	末永　秋徳	23	八代第一高
〃	浅田　文夫	26	日本大
〃	井上　信明	30	立命館大
〃	門倉　和博	25	鹿屋高
〃	小川　昌二	28	神奈川大
〃	草野　春男	29	八代第一高
捕手	佐伯　国司	27	東海大二高
〃	山口　末広	20	川内実業高
〃	渡辺　長助	18	八代第一高
内野	倉岡　政美	27	熊本第一工高
〃	井上　広成	22	八幡大
〃	井上　新一	18	八代第一高
〃	長丸　誠一	28	関東学院大
〃	西村登志夫	20	宮崎電子工高
〃	林　幸義	28	熊本工高
〃	坂東　一彦	20	津久見高
〃	中野　祐一	26	中央大
外野	○江口　明信	28	中央大
〃	一ノ瀬弘昭	24	九州産業大
〃	古賀　健次	22	博多工高
〃	上田　信広	27	九州学院高
〃	来海　則雄	27	日本大
〃	園川　武夫	26	宇土高

門司鉄道管理局

監督	滝口　寛	45	明治大
投手	中島　徹	22	九州学院高
〃	永田　清人	18	瓊浦高
〃	松崎　亘利	27	築上中部高
〃	山本　直樹	23	久留米大
〃	前田　正志	21	柳川商高
〃	山下　音明	25	浮羽高
捕手	阿武　克典	18	萩工高
〃	伊藤　健治	23	八幡大
内野	坂原　義則	22	飯塚商高
〃	馬場　光三	26	小倉工高
〃	津留　英二	20	八女工高
〃	畠山　徹治	19	田川工高
〃	直村　盛治	20	大濠高
〃	酒井　義之	27	撫養高
〃	吉田　幸正	20	柳川商高
外野	○宗広　修一	27	鞍手農高
〃	綿島　秀実	21	佐賀工高
〃	山内　勇二	20	田川工高
〃	樋尾　準一	20	九州工高
〃	座親　義郎	22	福岡第一高

初陣中の初陣

夢に見た全国大会

秋田相銀と新日鉄光

「力いっぱいぶつかってみたい」――大会開幕を待ちわびているのが、秋田相互銀行と新日鉄光。初出場組のなかで両チームだけが全国大会に縁のなかっただけに喜びもひとしおだ。

秋田相互銀行の前身は、軟式、準硬式。国体の常連で秋田代表として活躍したものだが、1964年に当時、野球部長でもあった鎌田勝郎常務(54)の「どうせするなら硬式で」というツルのひと声で転進した。同時に専用グラウンドも作って本格的な活動に入ったが、悩みのタネは社会人の"新人"で、しかも採用選手が地元の高校出に限定されているために素材に恵まれず、全国大会出場は夢でしかなかった。

それが18人、出場チーム中もっとも少ない部員で正夢にしたいま、鎌田常務は「ウチにはスターなんていませんが、努力を惜しまなければなんでもできることを実証してくれました。他の行員並みに仕事は午後3時までやり、それから練習でしょう。まず仕事、それから野球というウチの取組み方が本当の社会人野球」と胸を張る。

「いつもの年だと、この時期はシーズン・オフでランニングぐらいですが、今年は目的(選手権出場)があるだけに、練習にもハリがある。出る以上は勝たねば……」と、選手以上に気合たっぷりなのが、新日鉄光の古海正敏監督(38)＝明大出。61年に同好会として発足。年々力をつけていったが、いつもあとひと息のところでライバルの東洋紡、協和醗酵に野望の芽をつみとられた。高校出で固めていることもあって新日鉄グループのなかでもどんじり。それが2年前、かつての前身、八幡製鉄の名内野手として鳴らした古海監督を迎えてチーム力は急上昇。「基本さえしっかりしておれば……」という指導法に狂いはなく、名古屋で開かれた昨年の新日鉄大会では初優勝を果たすなどうんと強くなった。

第3回大会

1976年(昭和51年)10月30日▶11月6日　阪神甲子園球場

優勝＝新日鉄名古屋――――（初優勝）

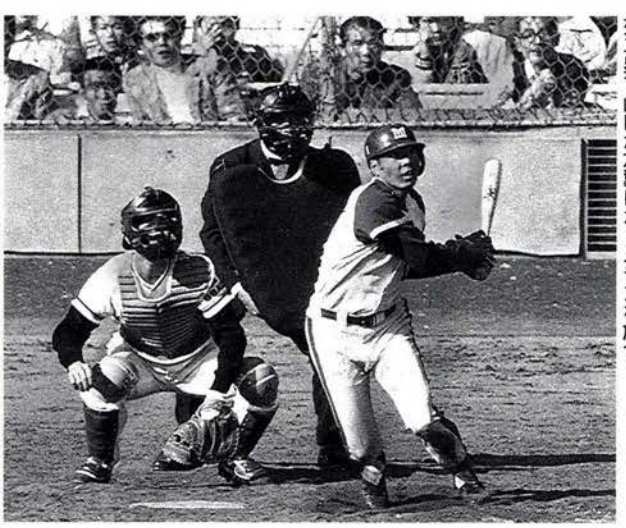
“フレッシュ大会”制した新日鉄名古屋

初陣12チームのフレッシュ大会にふさわしく、初出場の新日鉄名古屋が「ダイヤモンド旗」を手にした。投手上位の戦前の予想通り、新日鉄は左の水谷啓、右の鈴木両エースで4試合を乗り切った。日替わりヒーローが出たのも優勝の大きな要因で、勢いで突っ走った。惜敗したものの日鉱佐賀関は投打のバランスが取れた好チームだった。勝利への執念がすさまじく、本格派・藤沢を中心に永江、渡辺の投手陣、ベテラン湯野に引っ張られる打線は迫力があった。

関東勢が総崩れする中にあって、北海道拓殖銀行の4強は特筆される。都市対抗、前回大会は準優勝と安定した力を誇り、久慈賞投手・千藤を軸にした投手力は味わいがある。ダイヤモンド旗に挑戦する意気込みもにじみ出ていた。冬が長い北海道というハンディにめげず、地道にチーム力を育てている。

5代表を送り込んだ地元近畿勢は、1チームも4強入り出来ず、逆に九州勢の活躍がめざましかった。日鉱佐賀関とともにベスト4に進んだ九州産交は、攻守のバランスが取れた好チーム。この他、初陣の大倉工業、三菱自動車京都、2回目出場の新日鉄光などは持ち前の投手力をフルに発揮した。

1試合チーム2本塁打（大丸）、児玉（新日鉄光）の延長11回14奪三振＝九回13奪三振＝、最少投球数69球（TDK・浅井）21試合中、4試合の延長戦。この大会で新しい記録が誕生した。若い大会は力強く前進している。



〔一回戦〕松下電器―西濃運輸　延長十一回表、松下一死二塁で山口が左翼にホームランを放つ。

大会審判　▷**委員長**＝山本英一郎▷**副委員長**＝小西正一、郷司裕▷**委員**＝八木昌男、大村一彦、高橋良夫、三輪武、中西明、永野元玄、三宅享次、小林加寿男、元橋一登、達摩省一、市村博、戸田直佑、中村孝太郎、高塚昌俱、相沢孝行、清沢忠彦、原田謹爾、片岡成夫、日野賢導、藤尾泰三、上杉正、岡本好二、武村政雄、津田進、橘谷健、岸野金治、樫秀夫、鈴木康夫、広沢渉、木嶋一晃、樫根清一、森武雄

▽10月30日

第1試合＝1回戦(午前10時9分開始)

神戸製鋼	200	004	002	8
新日鉄室蘭	000	000	000	0

▶審判(球審)三宅(塁審)市村、相沢、津田

【神戸製鋼】		打	安	点	振	球
③	大村	5	2	1	0	0
⑧	小林貢	4	1	1	1	0
⑨	中村	5	2	0	1	0
9	明松	0	0	0	0	0
⑦	小林晋	3	1	1	0	2
④	吉田	4	2	1	1	1
⑥	葉坂	5	1	3	1	0
⑤	古賀	4	1	0	0	0
H	土師	1	0	0	0	0
5	平	0	0	0	0	0
②	荒井	3	1	0	0	1
①	登記	4	1	0	3	0
犠併残	1 0 8	38	12	7	7	4

【新日室蘭】		打	安	点	振	球
⑧	岡田	4	0	0	2	0
⑨	前原	4	0	0	0	0
⑦	安西	4	1	0	1	0
⑤	朝倉	4	0	0	0	0
④	荒野	4	0	0	0	0
⑥	五鬼田	3	1	0	0	0
②	後藤	3	0	0	0	0
③	小林	2	0	0	0	0
3	古池	1	0	0	1	0
①	浜師	1	0	0	1	0
H	島尻	1	1	0	0	0
1	竹本	0	0	0	0	0
H	大塚	0	0	0	0	1
1	土屋	0	0	0	0	0
犠併残	0 0 5	31	3	0	5	1

	回	安	振	球	責
登記	9	3	5	1	0
浜師	6	9	5	3	5
竹本	2	1	2	0	0
土屋	1	2	0	1	2

▷二塁打＝中村▷犠打＝神1(小林貢)▷盗塁＝神5(中村、小林晋、吉田2、葉坂)室1(五鬼田)▷失策＝神1(古賀)室1(後藤)▷試合時間＝2時間23分

第2試合＝1回戦(午後1時8分開始)

愛媛相互銀行	000	000	040	4
日本鋼管	001	000	020	3

▶審判(球審)中西(塁審)武村、橘谷、広沢、相沢

【愛媛相互】		打	安	点	振	球
⑦	広川	4	1	0	0	1
⑤	大森	4	0	0	1	0
⑧	池田	3	2	0	1	1
②	高橋	4	1	1	1	0
③	細井	4	1	2	1	0
④	堀本	3	0	0	2	1
⑨	彦坂	4	2	1	0	0
⑥	井上	3	0	0	0	0
①	入山	4	2	0	0	0
犠併残	2 1 7	33	9	4	6	3

【日本鋼管】		打	安	点	振	球
⑨	林	4	3	0	0	0
⑥	内藤	2	1	1	0	0
③	樋口	4	1	2	1	0
⑦	前川	3	1	0	0	1
⑤	樋野	4	0	0	1	0
⑧	秋元	4	0	0	1	0
④	柴田	4	0	0	1	0
②	高野	4	2	0	0	0
①	梶間	2	0	0	0	0
1	上岡	0	0	0	0	0
H	斎藤	0	0	0	0	1
1	木田	0	0	0	0	0
犠併残	2 0 5	31	8	3	4	2

	回	安	振	球	責
入山	9	8	4	2	3
梶間	7⅓	8	6	3	4
上岡	⅔	1	0	0	0
木田	1	0	0	0	0

▷二塁打＝林、池田▷犠打＝愛2(大森、井上)鋼2(内藤2)▷盗塁＝愛1(広川)▷捕逸＝高橋▷試合時間＝2時間20分

ハガネ打線 封じた入山の魔球

㊊…今夏、すい星の如く現れた四国の雄・愛媛相互銀行が、夏の都市対抗の覇者をみごと初戦で倒した。1点を追う八回、それまで「ハガネ打線」を1点に抑える力投をみせていた入山が、自ら右前打で出たのがはじまり。2四球で一死満塁。四番高橋のスクイズは一塁手樋口が前進し、ダイビング・キャッチしようとしたがわずかに及ばず、同点の安打。次に左打ちの細井が遊越えに逆転の2点タイムリー・ヒット。日本鋼管はその裏、さすがの攻めで2点を返し、1点差にしたが、とうとう入山に名を成さしめた。

入山は都市対抗で得意のフォークボールを連発し、準々決勝までチームを進出させたけん引車。

「きょうフォークボールを投げたのは、全体の四分の一ぐらい。調子はよくなかった。まあ七、八分」と入山。ハガネ打線も入山の魔球を打ち込めずに敗退した。

(手塚)

第3試合＝1回戦(午後3時47分開始)

TDK	000	000	000	0
九州産交	000	000	01X	1

▶審判(球審)上杉(塁審)原田、日野、岡本

【TDK】		打	安	点	振	球
⑧	湊	4	0	0	2	0
⑦	田村巧	3	1	0	0	1
⑤	北林	3	0	0	1	1
⑨	倉石	4	0	0	1	0
①	浅井	3	1	0	1	0
③	阿部	3	1	0	0	0
④	宮本	3	1	0	0	0
②	吉村	3	0	0	0	0
⑥	佐藤昭	2	0	0	0	1
犠併残	0 1 4	28	4	0	5	3

【九州産交】		打	安	点	振	球
⑧	井上新	4	2	1	0	0
④	田代	4	1	0	0	0
⑥	林	4	1	0	0	0
⑦	来海	2	0	0	0	0
③	中野	3	0	0	0	0
⑨	古賀	3	0	0	0	0
②	佐伯	3	2	0	0	0
①	門倉	2	0	0	0	0
⑤	坂東	2	0	0	1	0
H	上田	1	1	0	0	0
5	井上広	0	0	0	0	0
犠併残	2 2 5	28	7	1	1	0

	回	安	振	球	責
浅井	8	7	1	0	1
門倉	9	4	5	3	0

▷二塁打＝浅井▷犠打＝産2(来海、門倉)▷盗塁＝産1(井上新)▷試合時間＝1時間43分

▽10月31日

第1試合＝1回戦(午前9時30分開始)

大倉工業	000	000	101	2
住金鹿島	000	000	010	1

▶審判(球審)高橋(球審)高塚、木嶋、岸野

【大倉工業】		打	安	点	振	球
⑨	薦田	4	1	0	0	0
⑥	佐治	3	1	0	1	0
6	小西	0	0	0	0	0
⑧	一坂	2	0	0	1	0
8	鎌田	2	0	0	1	0
③	中井	4	2	2	1	0
⑦	豊富	3	0	0	0	1
④	横田	4	0	0	0	0
⑤	堀家	3	0	0	0	0
②	中原	3	1	0	0	0
①	仁科	3	0	0	0	0
犠併残	1 0 4	31	5	2	4	1

【住金鹿島】		打	安	点	振	球
⑥	宮下	4	0	0	2	0
④	入田	2	0	0	1	2
⑨	鈴木士	4	0	0	0	0
③	高野	3	1	0	0	1
⑧	広野	2	0	0	0	0
②	大木	3	0	0	2	0
⑦	吉田	3	0	0	0	0
⑤	都築	3	1	1	1	0
①	小田	2	0	0	1	1
犠併残	1 0 3	26	2	1	7	4

	回	安	振	球	責
仁科	9	2	7	4	1
小田	9	5	4	1	2

▷本塁打＝中井1号(小田)都築(仁科)▷犠打＝大1(小西)鹿1(広野)▷盗塁＝大1(佐治)▷試合時間＝1時間50分

新妻にうれしい贈り物

㊊…「打った球はフォークでは。真ん中高めに入ってきた。うまくタイミングが合いました」と大倉工業の中井はニッコリ。七回左翼ラッキーゾーンへ今大会第1号。そして、同点で迎えた九回二死三塁で中前に決勝のタイムリー打。この2本の貴重な安打は、初出場で白星を勝ち取った大倉の四番打者の勲章のような輝きを放った。

昨年12月、高校時代の同級生和恵さん(25)と新居をかまえ、ういういしい新婚さん。

第2試合＝1回戦(午前11時49分開始)

松下電器	000	000	000	02	2
西濃運輸	000	000	000	00	0

▶審判(球審)三宅(塁審)藤尾、武村、津田

【松下電器】		打	安	点	振	球
⑥	山口	5	2	2	1	0
④	坂口	5	0	0	0	0
⑧	浜田	5	0	0	0	0
⑨	鍛治舎	4	1	0	0	0
②	木原	3	1	0	0	0
⑦	磯本	2	0	0	0	0
7	堀江	2	0	0	1	0
③	西越	3	0	0	0	0
H3	亀沢	1	0	0	0	0
①	福間	4	1	0	0	0
⑤	平谷	2	0	0	0	0
H5	石井	1	0	0	0	0
犠併残	2 2 4	37	5	2	2	0

【西濃運輸】		打	安	点	振	球
⑧	小椋	5	0	0	0	0
⑥	山極	4	1	0	0	1
③	林	5	0	0	0	0
⑦	細川	3	1	0	1	1
⑤	中島務	3	0	0	0	0
⑨	兼近	3	1	0	0	1
④	中島隆	2	0	0	1	0
H	吉村	1	0	0	0	0
4	江藤	1	0	0	0	0
②	広浦	3	1	0	1	1
①	松田	4	1	0	2	0
犠併残	1 0 6	34	5	0	5	4

	回	安	振	球	責
福間	11	5	5	4	0
松田	11	5	2	0	2

▷本塁打＝山口1号②(松田)▷二塁打＝細川、木原▷犠打＝松2(木原、石井)西1(中島務)▷盗塁＝松1(山口)▷失策＝西1(中島隆)▷試合時間＝2時間20分

第3試合＝1回戦(午後2時34分開始)

日鉱佐賀関	000	000	001	1
日本楽器	000	000	000	0

▶審判(球審)永野(塁審)中西、橘谷、大村

【日鉱】		打	安	点	振	球
④	五十嵐	4	0	0	2	0
⑥	村田	4	0	0	0	0
③	湯野	4	2	1	1	0
⑦	木村	3	0	0	0	1
⑤	井尾	3	0	0	1	0
5	伏原	1	0	0	1	0
⑨	新納	2	0	0	0	0
H	烏丸	1	0	0	0	0
9	青木	0	0	0	0	0
②	斉藤	3	0	0	2	0
①	藤沢	2	0	0	0	0
⑧	鈴木	3	0	0	0	0
犠併残	1 0 4	30	2	1	7	1

【日本楽器】		打	安	点	振	球
⑧	山本	4	0	0	0	0
④	津布久	4	0	0	0	0
⑥	熊木	4	2	0	1	0
⑦	竹崎	2	0	0	1	0
⑤	船見	2	0	0	1	1
⑨	内山	3	0	0	0	0
②	高柳	3	0	0	1	0
③	安芸	2	0	0	1	0
3	金子	1	0	0	0	0
①	立野	3	0	0	1	0
犠併残	1 0 3	28	2	0	6	1

	回	安	振	球	責
藤沢	9	2	6	1	0
立野	9	2	7	1	1

▷本塁打＝湯野1号(立野)▷二塁打＝熊木▷犠打＝鉱1(藤沢)楽1(竹崎)▷失策＝楽3(安芸3)▷試合時間＝1時間48分

▽11月1日

第1試合＝2回戦(午前9時30分開始)

協和醗酵	000	002	000	2
新日鉄名古屋	110	200	50×	9

▶審判(球審)上杉(塁審)市村、日野、岡本

【協和醗酵】		打	安	点	振	球
⑤	松崎	4	1	0	0	0
④	浅田	4	0	0	0	0
⑦	山田	3	0	0	2	1
③	吉用	3	0	0	1	0
H	重田	1	0	0	0	0
2	稲田	0	0	0	0	0
②3	柳原	4	2	2	1	0
⑨	渡辺説	0	0	0	0	0
9	嘉村	2	1	0	0	1
H	中越	1	0	0	0	0
⑥	矢吹	3	0	0	0	0
H	園田	1	0	0	0	0
①	野々村	1	0	0	0	1
H	古嶋	1	0	0	0	0
1	加来	0	0	0	0	0
1	渡辺次	0	0	0	0	0
⑧	安永	3	0	0	0	0
犠併残	0 0 5	31	4	2	4	3

【新日名古屋】		打	安	点	振	球
⑦	金森	3	2	0	0	0
1	鈴木	1	0	0	0	0
⑥	小坂	4	2	0	0	0
H2	永山	1	1	0	0	0
③	西城	5	2	1	0	0
②	吉田雄	5	1	1	0	0
6	水谷洋	0	0	0	0	0
⑧	福島	4	2	2	0	0
⑤	筏	4	2	1	0	0
④	吉田生	1	1	0	0	2
⑨	新美	2	0	0	0	0
H	服部	1	0	0	0	0
9	加藤	1	1	1	0	0
①	水谷啓	1	1	3	0	0
H	古川	1	1	0	0	0
R7	片山	1	0	0	0	0
犠併残	3 1 7	35	16	9	0	2

	回	安	振	球	責
野々村	6	9	0	1	2
加来	1	6	0	1	5
渡辺次	1	1	0	0	0
水谷啓	7	4	2	3	2
鈴木	2	0	2	0	0

▷本塁打＝柳原1号②(水谷啓)▷三塁打＝水谷啓、福島▷二塁打＝西城、福島、吉田雄、加藤▷犠打＝新3(金森、吉田生、水谷啓)▷盗塁＝新2(筏2)▷失策＝協2(浅田、矢吹)新1(筏)▷試合時間＝2時間35分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

日鉱佐賀関＝準優勝

木村　司外野手

(現日鉱金属大阪支社金属営業部主任、42歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

八幡浜高(愛媛)時代から一緒だった投手の藤沢公也(元中日)の右腕に頼ったチームだった。

二回戦の三菱重工神戸戦は、増岡義政投手のパームボールに手も足も出ず、八回までわずか1安打に抑えられていた。2点を追う九回、四球の二死一塁。一回戦で本塁打を放っている湯野さんが敬遠された。「何を！」。四番の私は負けん気が体にみなぎった。

2球ファウルの後に狙っていたパームボール。打球は左翼ラッキーゾーンへ飛び込み、土壇場での逆転3ランとなった。帰り支度をしていたベンチは大騒ぎ。これがなければ二回戦敗退、当然準優勝もなかった。

駒大に進学直後、肩を壊して退学。「温泉治療を兼ねて大分に来ないか」と誘われるまま藤沢のいた日鉱佐賀関に入社して7年目だった。80年に現役を退き、東京勤務を経て85年から大阪で仕事をしている。

都市対抗を含め何本も本塁打を打っているが、野球人生の中でいつまでも忘れられない本塁打がこの一発です。

第2試合＝2回戦(午後0時31分開始)

三菱自動車京都	1	0	1	0	3	0	0	0	5
仙台鉄道管理局	0	0	0	1	0	0	0	0	1

▶審判(球審)原田(塁審)清沢、木嶋、八木

【三菱京都】

		打	安	点	振	球
⑧	千葉	5	2	0	0	0
④	星野	2	0	0	0	3
③	松原	4	1	1	2	1
⑦	吉田	5	2	2	0	0
⑨	高木	4	1	1	0	1
⑤	森谷	5	1	0	0	0
②	奥村	3	2	0	0	1
⑥	中井	3	0	0	0	1
①	浜田	2	0	0	0	2

犠 併 残
0 0 10 3 3 9 4 2 9

【仙鉄局】

		打	安	点	振	球
⑥	及川	4	0	0	2	0
⑤	高橋良	3	1	0	1	1
③	佐藤順	4	1	0	0	0
⑧	今野	4	0	0	2	0
⑨	大内	2	0	0	1	1
H	加藤	1	0	0	0	0
⑦	内海	1	0	0	1	1
7	堀切	1	0	0	0	0
②	阿部	3	1	0	0	0
H	郡山	1	0	0	0	0
①	高橋正	1	0	1	0	0
1	志賀野	1	0	0	0	0
④	高野	2	0	0	0	0
H	馬場	1	0	0	0	0
4	大枝	0	0	0	0	0

犠 併 残
2 1 6 29 3 1 7 3

	回	安	振	球	責
浜田	9	3	7	3	0

	回	安	振	球	責
高橋正	4⅔	6	0	5	5
志賀野	4⅓	3	2	4	0

▷二塁打＝佐藤順、吉田▷犠打＝仙2(内海、高橋正)▷盗塁＝三6(星野3、松原2、奥村)仙1(高橋良)▷失策＝三2(星野、森谷)▷暴投＝浜田▷試合時間＝2時間30分

第3試合＝2回戦(午後3時29分開始)

神戸製鋼	0	0	0	0	1	1	0	0	2
東京ガス	0	1	0	0	0	0	1	0	3

▶審判(球審)高橋(塁審)武村、広沢、岸野(外審)岡本、木嶋

【神戸製鋼】

		打	安	点	振	球
③	大村	6	2	1	0	0
⑧	小林貴	6	2	0	1	0
⑨	中村	3	0	0	0	0
9	明松	1	0	0	1	0
⑦	小林晋	4	0	0	1	2
④	吉田	5	0	0	1	1
⑥	葉坂	6	1	1	1	0
⑤	古賀	2	0	0	0	0
H	土師	1	0	0	0	0
5	平	3	1	0	0	0
②	荒井	4	1	0	0	1
①	登記	3	0	0	1	0

犠 併 残
4 0 8 44 7 2 6 4

【東京ガス】

		打	安	点	振	球
⑧	山本	4	1	0	0	2
⑥	田中	7	1	1	1	0
③	池田	5	0	0	0	1
⑨	渡辺	6	1	0	3	0
⑦	五月女	5	1	0	2	0
⑤	鈴木	4	0	0	2	2
②	玉山	5	1	1	0	1
①	工藤	3	1	0	1	0
H	手塚	0	0	0	0	0
1	松沼	2	1	0	0	0
④	虎見	2	0	0	0	0
H	石川	1	0	0	1	0
4	山東	1	1	0	0	0

犠 併 残
5 0 12 45 8 2 10 6

	回	安	振	球	責
登記	13⅔	8	10	6	1

	回	安	振	球	責
工藤	9	6	1	4	2
松沼	5	1	5	0	0

▷二塁打＝大村、平▷犠打＝神4(中村、明松、登記2)ガ5(山本、五月女、手塚、虎見、山東)▷失策＝神3(大村、葉坂、古賀)▷試合時間＝3時間23分

11月2日

第1試合＝2回戦(午前9時37分開始)

大丸	1	4	0	0	3	3	0		11
愛媛相互銀行	0	0	0	0	1	0	0		1

▶審判(球審)達摩(塁審)戸田、清沢、日野

【大丸】

		打	安	点	振	球
⑨	佐下谷	4	0	0	2	0
9	嶋川	0	0	0	0	0
⑦	檜原	3	3	3	0	1
⑧	長沢	3	2	1	0	1
③	土井池	4	1	2	1	0
④	梅原	4	2	4	0	0
⑤	中島	3	1	0	0	0
5	柏原	1	0	0	0	0
⑥	谷野	4	2	0	2	0
②	田中	3	1	0	1	1
①	岡	4	2	0	1	0

犠 併 残
0 0 4 33 14 10 7 3

【愛媛相銀】

		打	安	点	振	球
⑦	広川	2	1	0	0	0
H	豊田	1	0	0	1	0
⑤	大森	2	0	0	0	0
H	片岡	1	0	0	0	0
5	吉田	0	0	0	0	0
⑧	池田	3	1	0	1	0
②	高橋	3	1	1	0	0
③	細井	3	0	0	0	0
④	堀本	3	0	0	0	0
⑨	彦坂	2	0	0	1	0
H	村瀬	1	0	0	0	0
⑥	井上	2	1	0	0	0
H	竹添	1	1	0	0	0
①	入山	0	0	0	0	0
1	大薮	2	2	0	0	0
1	田川	0	0	0	0	0
H	谷脇	1	0	0	0	0

犠 併 残
1 1 6 27 7 1 3 0

	回	安	振	球	責
岡	7	7	3	0	1

	回	安	振	球	責
入山	2	4	2	3	4
大薮	3⅓	9	2	0	6
田川	1⅔	1	3	0	0

▷本塁打＝檜原1号③(入山)梅原1号③(大薮)▷三塁打＝広川、高橋▷二塁打＝長沢▷犠打＝愛1(広川)▷盗塁＝大1(谷野)▷失策＝愛1(入山)▷試合時間＝2時間10分

〔準々決勝〕新日鉄名古屋－東京ガス　四回表、新日鉄名古屋一死二、三塁、福島の中前安打で三塁の吉田生に続き、西城が二塁から一挙生還。

第2試合＝2回戦(午前0時10分開始)

三協精機	0	0	0	0	0	0	0	0	0
九州産交	0	1	0	0	0	0	0	0×	1

▶審判(球審)三宅(塁審)市村、片岡、藤尾

【三協精機】

		打	安	点	振	球
④	佐藤	4	2	0	0	0
⑦	佐々	1	0	0	1	2
⑥	幡野	4	0	0	0	0
⑧	豊国	3	0	0	1	1
②	古川	4	0	0	0	0
⑨	小根森	4	1	0	1	0
③	白川	4	1	0	0	0
⑤	池口	2	0	0	0	1
H	鈴木実	1	0	0	0	0
①	大塚	3	0	0	1	0
H	樋江井	1	0	0	1	0

犠 併 残
1 0 9 31 4 0 5 4

【九州産交】

		打	安	点	振	球
⑧	井上新	4	1	0	0	0
④	田代	3	0	0	0	0
⑥	林	3	0	0	0	1
⑦	来海	3	1	0	1	0
③	中野	2	1	0	0	0
⑨	谷崎	0	0	0	0	0
9	上田	2	1	0	0	0
②	佐伯	2	1	1	0	0
①	門倉	2	0	0	0	0
⑤	井上広	2	0	0	1	0
H	古賀	1	0	0	0	0
5	坂東	0	0	0	0	0

犠 併 残
5 0 5 24 5 1 2 1

	回	安	振	球	責
大塚	8	5	2	1	0

	回	安	振	球	責
門倉	9	4	5	4	0

▷二塁打＝白川、小根森▷犠打＝三1(佐々)産5(田代、中野、上田、佐伯、門倉)▷盗塁＝三3(佐々2、幡野)▷失策＝産2(林、井上広)▷試合時間＝2時間1分

第3試合＝2回戦(午後2時41分開始)

大倉工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新日鉄光	0	0	0	0	0	0	0	1	1

▶審判(球審)高橋(塁審)元橋、相沢、木嶋(外審)藤尾、戸田

【大倉工業】

		打	安	点	振	球
⑨	鷹田	5	1	0	1	0
⑥	佐治	4	1	0	1	0
5	堀家	0	0	0	0	0
⑧	7一坂	2	1	0	1	3
7	安斎	0	0	0	0	0
③	中井	3	0	0	2	1
⑦	豊富	2	0	0	2	0
8	鎌田	2	0	0	1	0
④	横田	4	0	0	3	0
⑤	和田	2	0	0	0	0
5	6小西	2	0	0	1	0
②	中原	4	0	0	1	0
①	仁科	4	0	0	1	0

犠 併 残
2 0 7 34 3 0 14 4

【新日鉄光】

		打	安	点	振	球
④	木下	4	2	0	1	1
⑧	弓場	4	0	0	2	1
②	板東	3	0	0	2	1
③	吉岡	4	1	0	0	1
⑦	磯部	5	1	1	3	0
⑥	小嶋	4	1	0	0	0
⑤	桑原	3	0	0	0	1
⑨	平家	4	1	0	0	0
①	児玉	4	0	0	1	0

犠 併 残
1 0 9 35 6 1 9 5

	回	安	振	球	責
仁科	10⅓	6	9	5	1

	回	安	振	球	責
児玉	11	3	14	4	0

▷二塁打＝木下▷犠打＝大2(佐治、中井)光1(坂東)▷盗塁＝光2(桑原、平家)▷失策＝大1(佐治)▷試合時間＝2時間54分

虚をつかれた好投・仁科

◎…日もとっぷり暮れた11回裏、一死満塁。好投を続けていた大倉工業の仁科投手を、絶対絶命のピンチに追い込んだ場面で、打席に立ったのは新日鉄光の五番打者磯部だった。磯部は0－2から大きな空振りを2つしたあとの5球目。強攻とにらんだ大倉バッテリーの意表をついて、スリーバント・スクイズを一塁線にころがした。虚をつかれた仁科があわててダッシュ、球をとったとき、三塁走者の木下は、もう決勝のホームを踏んでいた。

「大きな空振りはスクイズをカムフラージュするためじゃないかって？　とんでもない。2ストライクまではヒットをねらっていたんですが、かすりもしなかった」とニガ笑い。

▽11月3日

第1試合＝2回戦(午前9時30分開始)

松下電器	0	0	0	1	0	0	0	0	1
北海道拓殖銀行	1	0	0	0	0	0	0	1	2

▶審判(球審)鈴木(塁審)三輪、高塚、津田

【松下電器】

		打	安	点	振	球
⑥	山口	4	1	0	0	0
④	坂口	2	0	0	0	1
⑧	浜田	2	0	0	1	1
⑨	鍛治舎	4	1	1	0	0
②	木原	4	1	0	1	0
③	西越	4	0	0	1	0
⑦	堀江	4	2	0	1	0
①	福間	4	0	0	1	0
⑤	石井	2	0	0	0	1

犠 併 残
2 0 4 30 5 1 5 3

【拓銀】

		打	安	点	振	球
⑧	梅田	3	1	0	0	1
⑥	金谷	3	0	0	2	0
⑦	丸山	4	1	1	1	0
③	原田	4	1	0	2	0
3	水谷	0	0	0	0	0
④	高岡	3	0	0	0	1
⑨	菅	3	0	0	0	0
H	坂佐井	1	0	0	0	0
②	竹内	4	1	0	0	0
⑤	山中	3	1	1	0	0
①	山口	2	0	0	1	0
1	千藤	1	0	0	0	0

犠 併 残
2 1 4 31 5 2 6 2

	回	安	振	球	責
福間	9⅔	5	6	2	1

	回	安	振	球	責
山口	6	4	3	1	1
千藤	4	1	2	2	0

▷二塁打＝丸山、山中▷犠打＝松2(坂口、浜田)拓2(金谷、山中)▷失策＝松1(浜田)▷捕逸＝木原▷試合時間＝2時間28分

毎晩200本の素振り実る

◎…北海道拓殖銀行の山中は延長10回、捕逸で進塁した高岡を二塁に置いて打席に向かった。西村監督は山中に「バッテリーはいまのパスボールでかなり動揺しているぞ。甘いボールは思い切ってひっぱたけ」と指示した。1－1、3球目は速球。これを見事打って三塁線を抜く決勝二塁打。

今年四月、日大を卒業して入社、夏の都市対抗はヒジの故障もあってもっぱらベンチ。それからの山中は毎晩一人独身寮の庭に出て2～300本の素振り。この練習が実った。

第2試合＝2回戦(午後0時24分開始)

日鉱佐賀関	0	0	0	0	0	0	3		3
三菱重工神戸	1	0	0	0	1	0	0		2

▶審判(球審)上杉(塁審)大村、中村、岸野

【日鉱】

		打	安	点	振	球
④	五十嵐	3	0	0	0	1
⑥	村田	4	0	0	0	0
③	湯野	3	0	0	0	1
⑦	木村	4	1	3	1	0
⑤	井尾	2	0	0	0	0
5	伏原	2	0	0	1	0
⑨	青木	1	0	0	0	0
9	新納	1	0	0	0	0
H	小西	1	0	0	1	0
9	児玉	0	0	0	0	0
②	斎藤	2	1	0	0	0
2	烏丸	1	0	0	0	0
①	藤沢	2	0	0	0	0
1	永江	0	0	0	0	0
H	松瀬	1	0	0	0	0
1	渡辺	0	0	0	0	0
⑧	鈴木	2	0	0	0	1

犠 併 残
0 0 2 29 2 3 3 3

【三菱神戸】

		打	安	点	振	球
⑥	川辺	4	1	0	0	0
④	時本	3	2	1	0	0
③	山谷	4	1	0	0	0
⑤	深田	4	1	1	1	0
⑧	井上	4	0	0	2	0
⑨	友藤	3	1	0	0	0
H	森	1	1	0	0	0
R	渡辺	0	0	0	0	0
⑦	吉田	2	0	0	2	0
H	金蔵	1	0	0	0	0
7	東	1	1	0	0	0
②	竹中	3	0	0	1	0
H	仲	0	0	0	0	0
①	増岡	3	0	0	2	0
1	香川	0	0	0	0	0

犠 併 残
1 0 5 33 8 2 8 0

	回	安	振	球	責
藤沢	6	5	6	0	1
永江	1	0	0	0	0
渡辺	2	3	2	0	0

	回	安	振	球	責
増岡	8⅔	2	3	3	3
香川	1⅓	0	0	0	0

▷本塁打＝木村1号③(増岡)▷二塁打＝山谷▷犠打＝神1(時本)▷盗塁＝神3(深田、井上、友藤)▷失策＝日1(鈴木)▷試合時間＝1時間56分

第3試合＝準々決勝(午後2時45分開始)

新日鉄名古屋	0	0	0	2	1	0	0	1	4
東京ガス	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)中西(塁審)藤尾、片岡、橘谷

【新日名古屋】	打	安	点	振	球
⑥ 小坂	4	1	1	0	0
⑨ 吉田生	3	0	0	0	1
③ 西城	4	1	1	0	0
② 吉田雄	3	1	1	1	0
⑧ 福島	4	3	2	1	0
⑤ 筏	4	0	0	0	0
④ 服部	4	2	0	0	0
⑦ 加藤美	1	0	0	0	1
H 7 新谷啓	1	0	0	0	0
① 水谷啓	2	0	0	0	0
1 鈴木	1	0	0	0	0
犠 併 残					
3 3 5	31	8	4	3	2

【東京ガス】	打	安	点	振	球
⑧ 山本	4	2	0	0	0
⑥ 田中	4	0	0	0	0
③ 池田	3	0	0	0	1
⑨ 渡辺	4	1	0	0	0
⑦ 五月女	4	1	0	0	0
⑤ 鈴木	4	1	0	1	0
② 玉虎	3	1	0	1	1
④ 松見	3	1	0	0	1
① 松沼	1	1	0	0	0
H 1 岡本	1	0	0	0	1
犠 併 残					
0 0 7	31	7	0	2	3

	回	安	振	球	責
水谷啓	7	6	1	2	0
鈴木	2	1	1	1	0
松沼	7	6	2	2	3
岡本	2	2	1	0	1

▷本塁打＝吉田雄1号(岡本)▷三塁打＝服部▷犠打＝名3(吉田雄、加藤、水谷啓)▷失策＝ガ1(池田)▷試合時間＝2時間5分

▽11月4日

第1試合＝準々決勝(午前9時29分開始)

大丸	0	0	0	0	0	1	0	0	1
九州産交	0	0	1	1	0	0	0	0×	2

▶審判(球審)鈴木(塁審)戸田、広沢、岡本

【大丸】	打	安	点	振	球
⑨ 木下	2	0	0	0	1
1 板谷	0	0	0	0	0
H 1 嶋川	1	1	0	0	0
1 岡崎	0	0	0	0	0
⑦ 檜原	3	1	0	2	0
⑧ 長沢	4	1	1	0	0
③ 土井池	3	0	0	0	1
④ 梅原	4	2	0	1	0
⑤ 中島	2	0	0	1	1
H 蒲谷	1	0	0	1	0
5 柏原	1	0	0	0	0
⑥ 谷野	2	0	0	2	0
6 九十九	1	0	0	0	0
② 田中	4	1	0	0	0
① 清原	1	0	0	0	0
H 9 佐下谷	3	1	0	1	0
犠 併 残					
2 1 8	32	7	1	8	2

【九州産交】	打	安	点	振	球
⑧ 井上新	4	2	0	0	0
④ 田代	4	1	1	0	0
⑥ 林	3	0	0	0	0
⑦ 来海	2	0	0	0	1
③ 中野	2	0	0	0	0
⑨ 谷崎	2	0	0	0	0
9 上田	3	1	0	0	0
② 佐伯	3	0	0	2	0
① 門倉	3	1	0	0	0
⑤ 坂東	2	0	0	1	1
犠 併 残					
1 0 3	26	5	1	3	2

	回	安	振	球	責
清原	4	4	2	1	0
板谷	3	1	1	0	0
岡崎	1	0	0	1	0
門倉	9	7	8	2	1

▷本塁打＝長沢1号(門倉)▷二塁打＝梅原▷犠打＝大2(檜原、九十九)産1(中野)▷盗塁＝大1(梅原)産2(井上新、上田)▷失策＝大2(中島、谷野)産1(門倉)▷試合時間＝2時間

産交、敵失絡みで2点

㊐…九州産交は三回二死後、遊ゴロ失の井上新が二盗、田代の左前打で先制。四回も二死から右前打の上田が二盗に成功、つづく佐伯の三ゴロを、三塁手が一塁に悪投し、2点目を拾った。

大丸は再三得点圏に走者を進めたが、六回長沢が左翼に痛烈な大会10号ホーマーを放って1点を返しただけ。産交・門倉は今大会24イニング目(予選を含めると41イニング目)の失点だった。

第2試合＝準々決勝(午前11時57分開始)

新日鉄光	1	0	0	0	0	0	1	0	2
北海道拓殖銀行	0	1	1	0	2	0	0	0×	4

▶審判(球審)三宅(塁審)三輪、木嶋、日野

【新日鉄光】	打	安	点	振	球
④ 木下	4	2	0	0	0
⑧ 弓場	4	2	0	1	0
② 坂東	4	0	0	1	1
③ 吉岡	3	2	1	0	1
⑥ 小嶋	3	0	0	0	1
⑤ 桑原	4	0	0	1	0
⑦ 磯部	1	0	0	1	0
H 7 梶原	2	1	0	1	0
1 山本	1	0	0	0	0
1 大平	0	0	0	0	0
⑨ 家玉	4	1	0	0	1
① 児玉	3	0	0	0	1
H 7 村上	2	1	1	0	0
犠 併 残					
1 0 1	0	3	3	9	2

【拓銀】	打	安	点	振	球
⑧ 梅田	3	1	0	1	2
⑥ 金谷	3	0	0	1	1
⑦ 丸山	3	1	2	1	0
③ 原田	2	0	0	0	1
H 3 水谷	0	0	0	0	0
④ 高岡	4	0	0	0	0
⑨ 菅	4	1	0	2	0
② 竹内	3	1	1	0	1
⑤ 山中	3	0	0	2	0
R 小野	0	0	0	0	0
5 海老名	0	0	0	0	0
① 山口	0	0	0	0	0
1 千藤	2	0	0	0	1
1 松田	1	0	0	1	0
犠 併 残					
4 1 1	0	2	8	4	3

	回	安	振	球	責
児玉	6	4	7	3	2
山本	1	0	1	2	0
大町	1	0	1	1	0
山口	0	2	0	1	0
千藤	6⅓	6	3	3	1
松田	2⅔	1	2	0	0

▷本塁打＝村上1号(千藤)▷三塁打＝梅田▷二塁打＝竹内、丸山▷犠打＝光1(弓場)拓4(金谷、丸山、海老名、千藤)▷盗塁＝拓1(丸山)▷失策＝光2(木下、吉岡)拓2(竹内、山中)▷暴投＝児玉▷妨害出塁者＝木下▷試合時間＝3時間6分

第3試合＝準々決勝(午後3時25分開始)

日鉱佐賀関	0	0	0	0	0	0	1	3	0	4
三菱自動車京都	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

▶審判(球審)上杉(塁審)清沢、武村、相沢

【日鉱】	打	安	点	振	球
④ 五十嵐	4	0	0	2	1
⑥ 村田	5	2	0	0	0
③ 湯野	5	1	2	0	1
⑦ 木村	3	0	0	2	1
② 烏丸	4	1	0	0	1
⑤ 伏原	4	0	1	0	1
⑨ 新納	4	0	1	0	0
① 永鉾	4	2	1	0	0
⑧ 鈴木	4	3	1	0	0
犠 併 残					
0 0 8	37	10	3	8	2

【三菱京都】	打	安	点	振	球
⑧ 千葉	4	1	0	0	0
④ 星野	2	0	0	1	0
⑨ 高木	3	0	1	0	0
⑦ 吉田原	3	0	0	0	1
③ 松谷	3	0	0	0	1
⑤ 森奥	3	0	0	1	0
② 村沢井	2	1	0	0	0
H 6 中司	2	1	0	0	0
H 6 幡浜	2	1	0	0	0
① 田	2	0	0	0	0
1 H 枝	0	0	0	0	0
H 1 橋詰	0	0	0	0	0
1 伊藤	0	0	0	0	0
1 尾曲	0	0	0	0	0
犠 併 残					
3 1 3	27	2	1	3	1

	回	安	振	球	責
永江	9	2	3	1	0
浜田	7	9	6	1	3
枝	1	0	1	1	0
伊藤	⅔	1	1	0	0
尾曲	⅓	0	0	0	0

▷本塁打＝湯野2号②(浜田)▷三塁打＝鈴木▷二塁打＝烏丸、永江、村田▷犠打＝京3(星野2、高木)▷盗塁＝日1(鈴木)▷失策＝日1(五十嵐)京3(松原、中井、伊藤)▷試合時間＝2時間17分

▽11月5日

第1試合＝準決勝(午前9時56分開始)

新日鉄名古屋	1	0	1	0	2	0	0	0	4
九州産交	0	0	0	1	0	0	0	1	2

▶審判(球審)鈴木(塁審)高橋、藤尾、原田

【新日名古屋】	打	安	点	振	球
⑥ 小坂	3	1	0	0	1
⑨ 吉田生	4	0	0	0	0
H 古川	1	0	0	0	0
9 新美	0	0	0	0	0
③ 西城	4	3	2	1	0
② 吉田雄	4	2	2	0	0
⑧ 福島	4	1	0	2	0
⑤ 筏	4	0	0	1	0
④ 服部	4	0	0	1	0
⑦ 加藤	3	0	0	0	0
H 7 金森	1	0	0	0	0
① 鈴木	4	2	0	0	0
犠 併 残					
1 2 7	36	9	4	5	1

【九州産交】	打	安	点	振	球
⑧ 井上新	4	0	0	0	0
④ 田代	4	1	0	0	0
⑥ 林	4	3	1	0	0
⑦ 来海	3	1	0	0	0
③ 中野	4	1	1	1	0
⑨ 谷崎	0	0	0	0	0
9 上田	3	1	0	1	0
1 末永	0	0	0	0	0
H 1 倉岡	1	0	0	0	0
② 小佐伯	4	1	0	0	0
⑤ 坂東	1	0	0	0	0
H 山口	1	0	0	0	0
5 井上広	2	1	0	0	0
① 西谷	0	0	0	0	0
H 江口	0	0	0	0	1
1 有村	0	0	0	0	0
1 門倉	1	1	0	0	0
H 9 古賀	2	0	0	1	0
犠 併 残					
1 0 7	34	10	2	3	1

	回	安	振	球	責
鈴木	9	10	3	1	1
西谷	3	3	3	1	1
有村	1	1	1	0	1
門倉	3	4	1	0	1
末永	1	0	0	0	0
小川	1	1	0	0	0

▷三塁打＝西城▷二塁打＝西城、中野、鈴木2▷犠打＝名1(小坂)産1(来海)▷失策＝名1(西城)産2(田代、坂東)▷盗塁＝産1(井上新)▷捕逸＝佐伯▷試合時間＝2時間21分

新日鉄名古屋、長打で快勝

新日鉄名古屋は主軸打者の活躍と鈴木の好投で快勝した。一回二死から西城、吉田雄の長短打で素早く先制。三回には小坂が四球で出たあと敵失を絡めて一、三塁とし、西城が追加点をたたき出した。1得点だけだったが、送りバントが決められないとみるやヒット・エンド・ランに切り替えるなど、相手の守りを揺さぶった果敢な攻めは、勢いに乗っていることをうかがわせた。

名古屋はさらに五回、鈴木の二塁打をきっかけに無死一、三塁の好機を築いて重盗を仕掛けた。失敗に終わったが、なかなか意欲的な攻め。これが一死からの西城の三塁打と吉田雄の逆越え安打に結びつき、九州産交を突き放す2点が生まれた。

産交は四回、林と中野の短長打で1点、八回には敵失を生かして林の適時打でまた1点を返した。しかし毎回のように走者を出しても、鋭いカーブとシュートで要所を締める鈴木から決定打を奪えなかった。

最高の気分、新日鉄名古屋・西城

㊐…新日鉄名古屋は、前半7安打で4点。立役者は4得点のすべてにからんだのが三番・西城だった。一回は先制点を呼ぶ二死からの二塁打。三回は左前タイムリー。そして五回にはダメ押し点となった右中間三塁打と、西城は勝のすわったバッティングを見せつけた。サイクルヒットの可能性をはらんだ4打席目は、さすがに狙いすぎて三振。「やはり狙ってはダメですね。きょうはスタンドで両親が見ていました。高校時代(三重・海星高)は甲子園出場の夢は果たせませんでしたが、この大会であこがれの舞台に立つ姿を見てもらえて、最高です」。

第2試合＝準決勝(午後0時43分開始)

日鉱佐賀関	1	1	0	0	1	0	0	0	3
北海道拓殖銀行	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)三宅(塁審)達摩、市村、木嶋

【日鉱】	打	安	点	振	球
④ 五十嵐	5	3	1	0	0
⑥ 村田	3	1	0	0	0
③ 湯野	3	1	1	1	0
⑦ 木村	3	2	1	1	0
② 烏丸	4	0	0	1	0
⑨ 新納	4	0	0	0	0
⑤ 伏原	4	3	0	0	0
① 藤沢	2	0	0	1	0
⑧ 鈴木	3	1	0	0	0
犠 併 残					
3 0 7	30	10	3	2	3

【拓銀】	打	安	点	振	球
⑧ 梅田	4	0	0	1	0
⑨ 小野	4	1	0	0	0
⑦ 丸山	4	0	0	1	0
③ 原田	3	0	0	0	0
④ 高岡	3	0	0	0	0
② 竹内	3	0	0	0	0
⑤ 金谷	3	1	0	0	0
⑥ 山中	3	1	0	0	1
⑤ 奥海老名	1	0	0	0	0
H 5 柴田	0	0	0	0	0
① 松田	1	0	0	0	0
1 山口	0	0	0	0	0
1 H 坂井	1	0	0	0	0
H 1 千藤	0	0	0	0	0
H 菅	1	0	0	0	1
犠 併 残					
0 1 3	30	2	0	4	0

	回	安	振	球	責
藤沢	9	2	4	0	0
柴田	2	4	0	1	1
松田	2⅔	4	1	1	1
山口	1⅓	0	0	0	0
千藤	3	2	1	1	0

▷二塁打＝湯野、五十嵐▷犠打＝日3(村田、藤沢2)▷盗塁＝日1(村田)▷失策＝日1(五十嵐)拓2(竹内、柴田)▷打撃妨害出塁者＝鈴木(竹内)▷試合時間＝2時間20分

日鉱・藤沢、速球さえる

㊐…日鉱佐賀関の藤沢が素晴らしい投球で、北海道拓殖銀行につけ入るスキを与えなかった。ストレートが伸び、しかも低めに決まった。制球力がよく、内、外角いっぱいに散らされては、拓銀打線も手の施しようがなかった。

大きなカーブを交ぜて低めの速球で勝負する藤沢に、拓銀は六回までノーヒット。七回一死、小野が藤沢の83球目を一塁前にバントし、一塁ベースへ頭から飛び込んで、やっと初安打とした。八回、金谷が一塁線を破ったのが2本目の安打。これが初めて外野までいった打球だった。藤沢はノーワインドアップで上体をよく曲げ、球に力をつけた完ぺきな投球だった。

日鉱は一回、中前打の五十嵐をバントで送り、湯野の右翼二塁打で先制、二回は五十嵐の右前打で、二塁から鈴木を還すなど、拓銀・柴田を攻めた。

拓銀は藤沢の快投に2安打の完敗だった。

完全試合を逃した藤沢

㊐…日鉱佐賀関の藤沢投手は試合前「拓銀は強豪チーム。堂々と勝負します」と胸を張った。初回、一番の梅田を速球で投ゴロに打ちとると、快腕は面白いようにうなりをあげた。六回まで打者18人に対し三振2、あとは内野ゴロと内野フライに打ちとる"パーフェクト・ペース"。20人目の打者・小野は藤沢の投げた83球目をドラッグ・バントした。一塁手が飛び出しカバーの藤沢にトスしたが、一塁塁審の両手は水平に広がり、スコアボードに「H」のサインが赤々ととともった。

藤沢は「きょうは前半調子がよくなかった。中盤からインコースの速球が決まりだしたのがよかった」という。秋、夏、そして秋と3シーズン続けて決勝進出を夢見た拓銀の野望は、一歩手前で、藤沢の右腕にさえぎられた。

九州対決ならず残念

㊐…「いや残念です。本当は日鉱さんと九州勢同士で優勝戦をやりたかったですねえ」新日鉄名古屋を上回る10安打を放ちながら涙をのんだ九州産交の西田宏城監督は、いかにもあきらめきれない口ぶり。第二試合に登場の日鉱ナインは"お仲間"の戦いぶりに熱心な声援を送っていたが、この大会2ホーマーを放って元気な三番・湯野一塁手は「残念。九州予選の決勝で門倉君に延長十四回、1－2で惜敗したお返しを、ここでしたかったのに…」と無念の表情。

▽11月6日

優勝戦(午後1時開始)

日鉱佐賀関	0	0	0	0	0	0	0	0
新日鉄名古屋	0	0	0	1	0	0	0×	1

▶審判(球審)中西(塁審)鈴木、三輪、達摩

【日鉱】	打	安	点	振	球
④ 五十嵐	4	1	0	1	0
⑥ 村田	3	0	0	0	0
③ 湯野	4	0	0	0	0
⑦ 木村	4	1	0	1	0
② 鳥丸	4	1	0	0	0
⑨ 新納	2	0	0	1	0
H 井尾	0	0	0	0	1
9 青木	0	0	0	0	0
⑤ 伏原	3	1	0	0	0
① 藤沢	2	1	0	0	0
H 岩尾	1	1	0	0	0
1 永江	0	0	0	0	0
⑧ 鈴木	2	0	0	1	1
犠 併 残					
1 2 5	29	6	0	4	2

【新日名古屋】	打	安	点	振	球
⑦ 金森	4	1	0	0	0
⑥ 小坂	3	0	0	1	0
③ 西城	3	0	0	1	0
② 吉田雄	3	2	1	1	0
⑧ 福島	2	1	0	0	0
⑤ 筏	3	0	0	0	0
④ 服部	2	0	0	0	1
⑨ 吉田生	3	1	0	0	0
① 水谷啓	3	0	0	0	0
犠 併 残					
2 2 4	26	5	1	3	1

	回	安	振	球	責
藤沢	7	5	3	1	1
永江	1	0	0	0	0

	回	安	振	球	責
水谷啓	9	6	4	2	0

▷二塁打＝鳥丸 ▷犠打＝日1(村田)名2(小坂、福島) ▷失策＝名1(筏) ▷試合時間＝1時間43分

燃えた新日鉄名古屋、鉄の守りV1

新日鉄名古屋・水谷啓、日鉱佐賀関・藤沢両投手が投げ合い、1点を争う緊迫した展開の中で駒大出の水谷啓が新人らしからぬ堂々とした投球で日鉱を抑えた。水谷啓はカーブ、シュート、スライダーといった変化球に力があり、内外角投げ分けて日鉱打線を苦しめ、走者を出したあとは特に慎重な投球で反撃を断った。

藤沢は水谷啓の球威を上回るスピードで低めを突いたり、カーブを打たせて新日鉄を抑えたが、四回、新日鉄は金森が投手強襲安打し、小坂がバントで送ったあと、二死ながら吉田雄が右前に鮮やかな適時打を放って決勝点を奪った。

日鉱は六回、先頭の鈴木が四球で出たあと、五十嵐がバントを2度失敗して三振、続く村田、湯野が水谷啓の球威に押されて凡退、七回も鳥丸の右中間二塁打と代打・井尾の四球でつかんだ一死一、二塁に伏原が投ゴロ併殺打に倒れたのが痛かった。

監督談話

日鉱佐賀関・吉武勝監督　藤沢は本格派なので連投は苦しかった。1点でよく抑えてくれたが、打てなかったのが痛い。相手は一度のチャンスをものにし、うちは七、八回のチャンスを逸したのが響いた。

監督ひと

新日鉄名古屋　柘植 康之監督

「ピッチャーもバッターもよく頑張ってくれました。何もいうことはありません」。栄光のダイヤモンド旗を先頭に一歩々々踏みしめる甲子園の土。感激家はナインのだれよりも上気していた。

ナインに率先して帽子を取り、両手を高々と上げてスタンドの声援にまず感謝。「気力のあるチームづくりを目標にしてきましたが、それがやっと実を結んだと思うと本当にうれしい」。

東邦高(愛知)を出て当時の富士鉄釜石に入社。1968年、創部間もない現チーム(当時富士鉄名古屋)に転勤し、選手と監督を4年間勤めていったん退部したが、72年、田畑監督(前室蘭監督)のあとを受けて復帰した。

知る人は"鬼監督"と冷やかす。「練習中に走らず歩いた」といってはカミナリを落とし「プレーに元気がない」といってはゲンコツ。それもこれも「気合の入った」チームにしたい一念からだった。

半面、人情味豊かな人だ。「グラウンドを離れたら人間同士。酒も飲めば、一緒にマージャンもやります」。厳しさに耐えられない若者が多くなったといわれる時、スパルタ練習にだれ一人脱落することなくついてきたのは、人間性によるものなのだろう。

「きょうだけはよくやったと褒めてやりたい」。選手に握手を求める手のひらには連日の猛ノックで出来た大きなタコがあった。新日鉄名古屋製鉄所製鉄部調査掛。38歳。

新日鉄名古屋を優勝に導いた水谷啓投手。

絶妙水谷、栄光の魔球

熱球

投手力が優った大会を象徴するように、水谷啓と藤沢が優勝を争うマウンドで譲り合わなかった。藤沢が力のこもった直球を投げ込むと、水谷は多種類の変化球を操った。

連投の藤沢が持ち前の球威を次第になくしていったのに前日、鈴木の完投でちょっぴり休養した水谷啓の変化球は、先制点をたたき出した吉田雄の好リードも加わって、さえた。

外角へのシュート、内角スライダー、それに得意のカーブ、フォークボールが幅42.3㌢、打者のわきの下からひざ頭の上部までの狭い空間のコーナーいっぱいに決まった。「直球のサインを出してもなかなか投げない。カーブに自信を持っているんですよ」と駒大時代からこれで3年目、水谷啓を知り尽くす捕手吉田。

こんな水谷啓の投球に日鉱佐賀関でバンチを誇る湯野も木村もすっかり音をあげていた。「タイミングが全く合わず、早打ちしすぎてしまった」と凡飛球を4つも打ち上げた湯野。「外角ばかり攻められた…。1点取られてからも焦って早いカウントから打ってしまった」と木村。

日鉱佐賀関の長打力さえ封じ込んでしまえばしめたものだった。「一発だけが怖かった。まともに向かってはダメだと、いろんな球を投げたなあ」。

水谷啓はまた精進して"つぎ"を目指すだろう。新日鉄名古屋にとって全国を制覇したこの時が、さらに強いチームへの出発の時である。

(笹尾　勝彦)

◆鉄がダイヤモンドになった◆

初優勝を飾り、ナインから胴上げされる新日鉄名古屋の柘植監督。

初出場優勝を飾った新日鉄名古屋は、創部わずか12年目、一昨年、昨年と都市対抗に出場(いずれも一回戦で敗退)し、最近やっと名前が知れはじめたばかり。しかも、出場選手の中で大学卒はバッテリーの2人だけ、あとはオール高卒という文字通りの"若いチーム"。

筏達男主将の手にガッチリと握られたダイヤモンド旗は7日朝、新幹線で愛知入りするが、愛知県に社会人野球の優勝旗が持ち帰られるのは戦前、戦後を通じてこれが初めて。

チームの平均年齢22.4歳。「ウチはまだ若いチームだが試合に出ていない連中もバッティング・ピッチャーを一生懸命やってくれた。ベンチ組のおかげ。勝利はチームの和です」。柘植監督はまるで高校野球の優勝チームのように"和"をくりかえす。ういういしい、社会人野球らしいチームというネット裏の評価だった。

この大会は社会人野球に甲子園への道を開いたが、新日鉄名古屋の水谷啓昭、鈴木徳義両投手、吉田秀生内野手、金森道正外野手は高校で甲子園の土を踏んだ。大会22チーム、500選手の中でこの4人ほど甲子園の感激をかみしめた者はいなかっただろう。

水谷、鈴木両投手はかつての甲子園のライバル。1971年のセンバツ準々決勝で木更津中央高の鈴木と東邦高の水谷がこの同じマウンドで投手戦を演じた。東邦高を降した木更津中央高は準決勝で敗れ、鈴木投手は翌春、卒業と同時に新日鉄へ。水谷投手は駒沢大を経て今春、新日鉄名古屋へ。「投げやすい甲子園でもう一度投げることができるとは思わなかった。それが優勝まで。私はラッキーです」と水谷投手はほおを紅潮させた。

第３回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　水谷啓昭投手**(新日鉄名古屋)

◇**敢闘賞　藤沢公也投手**(日鉱佐賀関)　「僕が選ばれるなんて…」。今大会で初戦の日本楽器と準決勝の北海道拓殖銀行を、それぞれ２安打完封という素晴らしい投球を披露してチームの大黒柱として活躍した。

◇**首位打者賞**　(３試合以上10打席以上)**福島寿利外野手**(新日鉄名古屋)＝14打数７安打、５割＝　「優勝と首位打者を勝ちとるなんて本当に幸せ者です」。好きな酒もやめて日本一を目指していただけに、真っ黒に日焼けした顔から笑みがこぼれっぱなしだった。

◇**優秀選手**

【投手】水谷啓昭(新日鉄名古屋)藤沢公也(日鉱佐賀関)門倉和博(九州産交)千藤和久(北海道拓殖銀行)児玉克雅(新日鉄光)登記欣也(神戸製鋼)　**【捕手】**吉田秀雄(新日鉄名古屋)佐伯国司(九州産交)竹内昭文(北海道拓殖銀行)　**【一塁手】**西城真寿雄(新日鉄名古屋)湯野清二(日鉱佐賀関)　**【二塁手】**木下英己(新日鉄光)　**【三塁手】**伏原直(日鉱佐賀関)　**【遊撃手】**小坂登(新日鉄名古屋)　**【外野手】**福島寿利、金森道正(以上新日鉄名古屋)井上新一、上田信広(以上九州産交)山本重行(東京ガス)楠原明(大丸)

社会人野球日本選手権に思う

日本野球連盟
九州地区連盟理事長
福嶋一雄
(日本野球連盟理事)

この度、「社会人野球日本選手権20年史」が発刊される運びとなりましたことを、心からお慶び申し上げます。

我が国の社会人野球は、従来都市対抗野球大会とともに、今日の隆盛をみて参りましたが、1974年に産業別野球大会が中止され、新たに「社会人野球日本選手権」として形も内容も一新し、甲子園球場で産声をあげ、幾多の困難に遭遇しながらも、数多くの諸先輩の英知によって切り拓き、本大会が都市対抗野球大会と並んで二大イベントとして発展し、今日に至りましたことは、誠に慶賀に堪えません。

野球に関係する者の一人として思いますことは、夏の「都市対抗野球大会」秋の「社会人野球日本選手権大会」と二大目標が、チームに、選手諸君に与えられることは、誠に意義深いものがあります。

選手諸君が、目標達成のために、創造性を発揮し、自己への限り無き挑戦を続け、弛みなき努力によって、技を磨き、強靱な体力と精神力を養う大きな励みとなることは言うまでもありませんが、本大会で得た勝利の自信は、何にもかえがたい財産となるでしょう。

単独チームによる、実力日本一を競う「社会人野球日本選手権大会」の20年間を回顧いたします時、九州地区野球連盟の加盟チームは、残念ながら準優勝２回の成績を残すのみで、未だ頂点に達していないことです。

是が非でもダイヤモンド旗を九州の地にを合言葉として、加盟チーム300人余の選手諸君は、挑戦を続け、実現に向けて研鑽努力を重ねてくれると期待しております。

終りに社会人野球日本選手権大会の発展に惜しみない努力を傾けてこられた諸先輩、日本野球連盟、主管の近畿地区野球連盟、並びに毎日新聞社に深甚なる謝意と満腔の敬意を表するとともに、本大会が永遠に発展し続けることを念願いたします。

第3回大会 地区大会成績
（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月30日から　3日間　　札幌市営中島球場

東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽一回戦　きものセンターク３－１オール青森、三菱製紙八戸５－１自衛隊青森▽**敗者復活戦**　自衛隊青森４－２オール青森▽**準決勝**　きものセンターク８－４三菱製紙八戸、八戸市水道部２－１自衛隊青森▽**決勝**　八戸市水道部５－１きものセンターク（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**▽一回戦　水沢駒形ク８－６オール不来方、新日鉄釜石（不戦勝）アイワ、全久慈３－２東京製綱、盛岡鉄道管理局８－３一関ユニオン、釜石信金ク８－１オール江刺、岩手銀行16－１オール軽米、オール釜石４－３小野田セメント▽**準々決勝**　新日鉄釜石（不戦勝）水沢駒形ク、盛岡鉄道管理局（不戦勝）全久慈、岩手銀行３－１釜石信金ク、オール釜石３－２一関三星ク▽**準決勝**　盛岡鉄道管理局１－０新日鉄釜石、岩手銀行２－０オール釜石▽**決勝**　盛岡鉄道管理局３－０岩手銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**秋田**▽一回戦　秋田銀行６－４国鉄秋田、東北肥料４－１秋田経大交友ク▽**準決勝**　秋田銀行８－２秋田相互銀行、ＴＤＫ３－２東北肥料▽**決勝**　ＴＤＫ５－４秋田銀行（勝者は第二次予選へ）

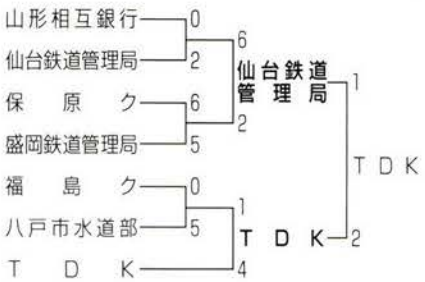
◇**宮城**▽一回戦　仙台鉄道管理局６－１亘理ク、仙商ク３－１石巻ハリケーン、五ツ橋ク（不戦勝）青葉ク▽**準決勝**　仙台鉄道管理局７－０オノヤク、仙商ク５－４五ツ橋ク▽**決勝**　仙台鉄道管理局１－０仙商ク（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽一回戦　鶴岡ヤンガース11－６日大山形ＯＢ▽**決勝**　山形相互銀行３－０鶴岡ヤンガース（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽一回戦　飯塚病院ク６－２二本松ク、ニュー相馬13－３塙ク、小名浜ク５－２自衛隊福島、須賀川ク７－３オール常交、ＳＧク10－８学石ＯＢク、ヨークベニマル３－２いわきク、保原ク７－６全白河ク▽**準々決勝**　福島ク３－２飯塚病院ク、ニュー相馬６－３小名浜ク、須賀川ク６－５ＳＧク、保原ク４－２ヨークベニマル▽**準決勝**　福島ク４－２ニュー相馬、保原ク６－２須賀川ク（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月25日から　2日間　　福島信夫丘球場



関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽一回戦　住友金属鹿島13－３水戸鉄道管理局、日立製作所８－０東日本薬品▽**決勝**　住友金属鹿島11－５日立製作所（勝者は第二次予選へ）

◇**群馬**▽一回戦　高崎鉄道管理局７－０全前橋ク、伊勢崎レッドソックス３－２オール太田ク▽**準決勝**　高崎鉄道管理局10－４伊勢崎レッドソックス▽**決勝**　富士重工業６－１高崎鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽一回戦　日産ディーゼル７－６全大宮、日本通運１－０エーザイ、本田技研２－０全浦和▽**準決勝**　日産ディーゼル10－３飯能高ク、日本通運４－３本田技研▽**決勝**　日本通運８－１日産ディーゼル（勝者は第二次予選へ）

◇**千葉**▽一回戦　三井造船千葉８－７千葉鉄道管理局▽**準決勝**　三井造船千葉２－１川鉄千葉、新日鉄君津14－０ＳＬク▽**決勝**　三井造船千葉３－１新日鉄君津（勝者は第二次予選へ）

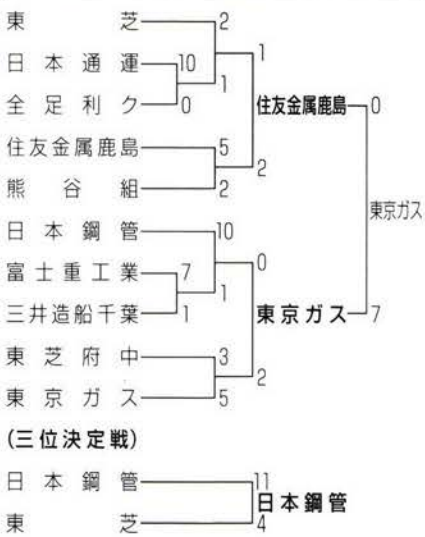
◇**東京**▽一回戦　熊谷組４－０リッカー、明治生命２－０鷺宮製作所、東京鉄道管理局３－０朝日生命、東京ガス７－０オール北斗▽**準決勝**　熊谷組４－２明治生命、東京ガス４－２東京鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　熊谷組６－５東京ガス

◇**東京多摩**▽リーグ戦　スリーボンド８－４全調布ク、東芝府中７－２全調布ク、東芝府中５－１スリーボンド（東芝府中は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽一回戦　東芝５－２日産自動車、日本石油６－２三菱自動車川崎、三菱重工横浜４－１キャタピラー三菱、日本鋼管４－０いすゞ自動車▽**準決勝**　東芝３－２日本石油、日本鋼管12－０三菱重工横浜（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本鋼管３－２東芝

▶二次予選

10月８日から　４日間　　日立市民球場



中部大会

▶一次予選

◇**新潟**▽一回戦　国鉄新潟７－０新潟ク、新津ク４－２ニチエー、平和ク（不戦勝）長岡ク、オール東７－６信濃ク、全飯豊７－６白根野球団▽**準々決勝**　国鉄新潟（不戦勝）長商ク、新潟コンマーシャル８－３新津ク、小千谷ク８－７平和ク、全飯豊５－３オール東▽**準決勝**　国鉄新潟（不戦勝）新潟コンマーシャル、全飯豊５－３小千谷ク▽**決勝**　国鉄新潟５－１全飯豊（勝者は第二次予選へ）

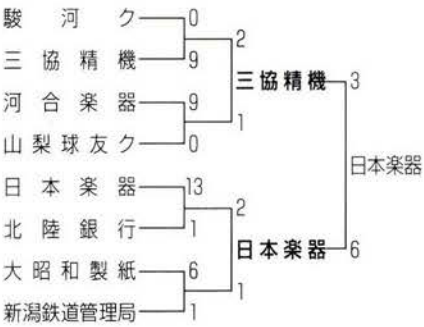
◇**山梨**▽一回戦　オール櫛形５－２山梨ク▽**決勝**　山梨球友ク５－１オール櫛形（勝者は第二次予選へ）

◇**静岡**▽一回戦　大昭和製紙２－０吉原商工ク、河合楽器７－０清豊ク、駿河ク５－４富士ク▽**準決勝**　日本楽器２－０大昭和製紙、河合楽器３－１駿河ク（準決勝出場４チームは第二次予選へ）▽**決勝**　日本楽器３－１河合楽器

◇**富山**▽三回戦制　電電富山２－１北陸銀行、北陸銀行７－２電電富山、北陸銀行11－０電電富山（北陸銀行は第二次予選へ）

▶二次予選

10月2日から　2日間　　静岡県営球場



東海・北陸大会

9月27日から　7日間　　愛知県営熱田球場

近畿大会

▶一次予選

◇**滋賀▽代表決定戦**　東レ2－0全大津（勝者は第二次予選へ）

◇**京都▽一回戦**　大丸3－0京都信用金庫、第一紙行3－2高島屋京都、日本新薬16－0北桑ク、洛友ク4－3キョートビルク、三菱自動車京都13－2山田静、丸勝8－1西京ク、辻和5－4京都市役所、▽**準々決勝**　大丸11－0第一紙行、日本新薬7－0洛友ク、三菱自動車京都4－0丸勝、ユニチカ4－0辻和（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本新薬3－2大丸、三菱自動車京都5－2ユニチカ▽**決勝**　三菱自動車京都1－0日本新薬

◇**大阪▽一回戦**　住友銀行4－3大和銀行、全三和銀行9－0日立造船堺、大阪高島屋5－0旭化成大阪▽**準々決勝**　日本生命9－0住友銀行、新日鉄堺17－0大阪ペーシェンス、全三和銀行3－2デュプロ、松下電器2－1大阪高島屋（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　松下電器8－0全三和銀行、日本生命5－4新日鉄堺▽**決勝**　日本生命1－0松下電器▽**敗者復活一回戦**　住友銀行4－0大阪ペーシェンス、デュプロ6－0大阪高島屋▽**五位決定戦**　デュプロ3－0住友銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**兵庫▽一回戦**　鐘淵化学4－3川鉄神戸、新日鉄広畑4－1神戸製鋼、小西酒造8－5川崎重工、三菱重工神戸3－0石川島播磨重工業▽**準決勝**　鐘淵化学4－3新日鉄広畑、三菱重工神戸2－1小西酒造▽**決勝**　三菱重工神戸4－2鐘淵化学（準決勝進出4チームと推薦の神戸製鋼は第二次予選へ）

▶二次予選

（敗者復活戦）

中国大会

▶一次予選

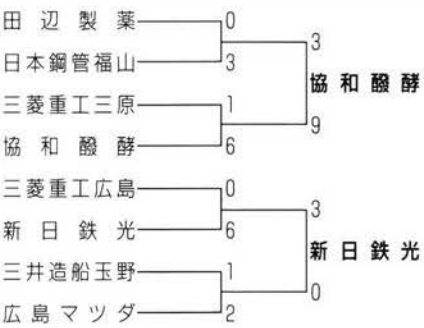
◇**岡山▽リーグ戦**　三井造船玉野2－1川鉄水島、三菱自動車水島6－3川鉄水島、三井造船玉野10－2三菱自動車水島（三井造船玉野は第二次予選へ）

◇**広島▽一回戦**　広島マツダ3－1山本鋼材、日本鋼管福山1－0東洋工業、三菱重工三原9－0国鉄広島、三菱重工広島3－2常石鉄工（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本鋼管福山5－0広島マツダ、三菱重工三原2－0三菱重工広島▽**決勝**　三菱重工三原2－1日本鋼管福山

◇**山口▽リーグ戦**　田辺製薬11－1航空自衛隊防府、協和醗酵3－1東洋紡、新日鉄光14－0航空自衛隊防府、協和醗酵5－0田辺製薬、田辺製薬2－1東洋紡、協和醗酵15－1航空自衛隊防府、協和醗酵2－0東洋紡、新日鉄光7－6田辺製薬、新日鉄光9－1協和醗酵（新日鉄光、協和醗酵、田辺製薬は第二次予選へ）

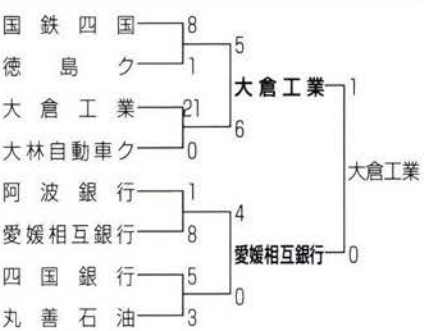
▶二次予選

10月11日から　3日間　　広島市民球場



四国大会

10月3日から　4日間　　安芸市営球場

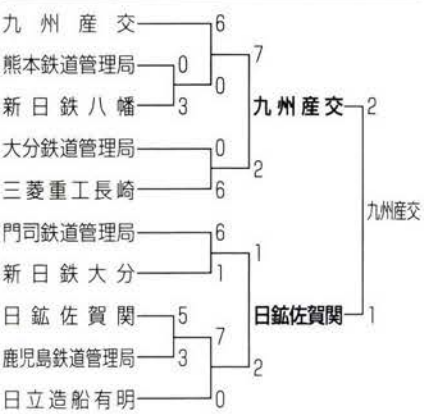


（三位決定戦）

国鉄四国 5 ―― 1 四国銀行

九州大会

10月8日から　3日間　　八幡、大谷球場



第3回大会出場選手等一覧（○は主将）

新日本製鐵室蘭

監督	大宮　建治	29	富士高工高
投手	財前　純二	27	佐　倉　高
〃	土屋　隆幸	26	市　川　高
〃	浜師　勝彦	23	伊　達　高
〃	竹本由紀夫	20	修善寺工高
〃	稲場　孝	20	芦別工高
〃	平山　治	20	札幌啓成高
〃	水本　隆	19	室蘭大谷高
〃	浅川　輝彦	19	韮崎工高
捕手	後藤　哲夫	27	興譲館高
〃	佐野　修二	19	市　川　高
〃	山中　亨寿	20	室蘭大谷高
内野	朝倉　年明	28	北　海　高
〃	○荒野　悟	26	登別大谷高
〃	五鬼田義夫	25	銚子商高
〃	小林八守雄	24	北　海　高
〃	大塚　邦弘	23	北　海　高
〃	古池　憲宝	22	北見工高
〃	辻　清貴	21	室蘭工高
〃	鹿田　和彦	20	旭川竜谷高
外野	安西　秀親	26	道産業短大
〃	前原三喜生	25	千葉工高
〃	木下　邦裕	24	室蘭大谷高
〃	島尻　均	22	北見柏陽高
〃	岡田　仁	21	室蘭工高
〃	神坂　明	21	札幌商高

北海道拓殖銀行

監督	西村　博司	39	明　治　大
投手	千葉　和久	28	中京商高
〃	山口　敏男	24	池　田　高
〃	柴田　正明	24	中　京　大
〃	松田　雅晴	24	駒　沢　大
〃	井出　圭一	23	愛知工大
〃	峰尾　晃	22	関東学院大
〃	原田　末記	20	中京商高
〃	中村　明志	19	札幌商高
〃	鎌田　孝彦	19	帯広三条高
捕手	竹内　昭文	25	法　政　大
〃	船木　敏夫	22	函館有斗高
〃	佐藤　祐久	21	釧路江南高
〃	松井　一敏	19	札幌商高
内野	水谷　清仁	27	中　京　大
〃	○高岡　茂夫	26	法　政　大
〃	金谷　清治	25	江　差　高
〃	小野　修二	24	早稲田大
〃	山中　富雄	22	日　本　大
〃	海老名敏彦	21	中　京　高
外野	梅田隆比克	28	日　本　大
〃	坂佐井　修	25	駒　沢　大
〃	丸山　幸雄	24	中　央　大
〃	奥田　剛央	23	明　治　大
〃	菅　豊	23	駒　沢　大
〃	白髪　良一	36	法　政　大

T　D　K

監督	野村　稔	33	榛　原　高
投手	野村　稔	33	榛　原　高
〃	浅井　治彦	28	専　修　大
〃	佐藤　光弘	24	立　正　大
〃	奥村　正巳	24	名古屋商大
〃	佐々木芳治	23	明治学院大
〃	松嶋　幸雄	22	東　農　大
捕手	吉村　好嗣	24	大阪学院大
〃	田村　正孝	21	西仙北高
内野	宮本　芳明	28	和歌山工高
〃	○佐藤　昭光	25	金足農高
〃	北林　哲夫	24	東　洋　大
〃	伊藤　辰雄	24	専　修　大
〃	阿部　正英	23	金足農高
〃	高瀬　正茂	20	白石工高
外野	倉石　茂樹	26	東　洋　大
〃	金原　晴夫	25	名古屋商大
〃	田村　巧	25	亜細亜大
〃	佐々木　功	22	大曲農高
〃	幸林　実	21	北　陽　高
〃	湊　康二	21	金足農高

仙台鉄道管理局

監督	葛西　広	36	東　北　高
投手	千葉　幸治	20	宮城水産高
〃	鹿野　清二	18	築　館　高
〃	白井　光則	20	岩出山高
〃	志賀野　整	21	黒　川　高
〃	高橋　正己	21	仙台育英高
〃	佐藤　潔	19	小　野　高
捕手	阿部　圭二	20	宮城水産高
〃	加藤　正博	18	福島商高
〃	郡山　公男	19	名　取　高
内野	及川　正次	21	仙台育英高
〃	佐藤　順一	20	東　北　高
〃	木村　照義	20	大河原商高
〃	高野　直人	21	亘　理　高
〃	高橋　良	18	東　北　高
〃	馬場　裕幸	21	亘　理　高
〃	大枝　一雄	19	福島聖光学院
〃	葛　西　広	36	東　北　高
外野	大分　正彦	18	柴田農高
〃	堀切　憲一	20	亘　理　高
〃	勝又　忠則	18	東　北　高
〃	○内海　利彦	24	石巻商高
〃	今野　司	25	若　柳　高
〃	中島　和義	19	一関商工高

住友金属鹿島

監督	伴野貴三郎	34	慶　応　大
投手	中沢袈裟治	19	松　代　高
〃	森　義光	21	白石工高
〃	佐藤　勝弘	21	土浦日大高
〃	藤ケ崎進市	20	土浦日大高
〃	小田　雄一	26	早稲田大
〃	新田　正隆	20	田　村　高
捕手	大木　正行	29	専　修　大
〃	鈴木　信幸	24	米沢工高
〃	斉藤　幸俊	21	白石工高
〃	宮尾　明博	20	松　代　高
内野	都築　義晴	24	和歌山工高
〃	東峰　豊	22	鉾田一高
〃	小田部　智	24	常　北　高
〃	○入田　耕三	28	関西学院大
〃	石毛　英則	24	銚子商高
〃	宮下　栄司	19	大　宮　高
〃	高野　豊人	26	銚子商高
〃	渡辺　行夫	20	小高工高
〃	植田　博之	20	堀　越　高
外野	広野　充	28	早稲田大
〃	元永　繁弘	24	九州工高
〃	前林　一信	25	小見川高
〃	吉田　宏	19	土浦日大高
〃	大高　清治	20	大子一高
〃	鈴木　士郎	27	法　政　大

東京ガス

監督	江口　昇	38	早稲田実高
投手	今井　輝美	20	津久見高
〃	松沼　博久	23	東　洋　大
〃	岩井日出夫	24	大宮工高
〃	岡本　隆義	27	慶　応　大
〃	工藤　真	26	慶　応　大
〃	大塚　文義	24	大　正　大
捕手	玉山　恒夫	24	川口工高
〃	佐野　登	25	早稲田大
〃	湯沢　輝雄	19	鹿沼商工高
〃	内田　和孝	21	与野農工高
内野	○田中　伸樹	27	早稲田大
〃	松田　慶紀	22	立　教　大
〃	山東　孝好	27	明　治　大
〃	虎見　義昭	23	帝　京　高
〃	斉藤　真一	23	帝　京　高
〃	手塚　賢次	22	宇都宮商高
〃	鈴木　明	25	成　東　高
〃	石井　英三	19	取手二高
〃	池田　勝之	21	PL学園高
外野	渡辺　茂	26	上　尾　高
〃	園田　信雄	23	帝　京　高
〃	石川　秀隆	26	明　治　大
〃	五月女　章	22	鹿沼農商高
〃	山本　重行	24	早稲田大

日本鋼管

監督	飯田　修	33	早稲田大
投手	古屋　智史	29	明　治　大
〃	上岡　誠二	28	慶　応　大
〃	前　保洋	26	明　治　大
〃	梶間　健一	23	鉾田一高
〃	佐藤　守	24	早稲田大
〃	木田　勇	22	横浜商大高
〃	堀江　幹雄	21	藤沢商高
捕手	中沢　邦男	26	日　本　大
〃	加藤　育男	22	早稲田大
〃	高野　章	18	横浜商高
内野	○内藤　博	28	横浜商大高
〃	樋野　和寿	25	明　治　大
〃	柴田　敏広	25	高松一高
〃	斉藤　茂樹	24	明　治　大
〃	秋元　英二	22	立　正　大
〃	樋口　義一	21	大宮商高
〃	磯村　政司	21	銚子商高
外野	六条　誠一	26	高松一高
〃	鈴木　育男	26	駒　沢　大
〃	高尾　康平	25	明　治　大
〃	林　竜郎	24	亜細亜大
〃	前川　善裕	24	早稲田大
〃	島野　弘幸	19	武　相　高
〃	藤井清太郎	32	高松一高

日本楽器

監督	村松　啓一	40	浜松北高
投手	岩崎　義典	25	神奈川大
〃	立野　政治	20	PL学園高
〃	藤崎　雄二	25	小松島西高
〃	野林　春美	20	利根商高
〃	森永　悦弘	29	亜細亜大
〃	深沢　恵雄	20	峡　南　高
捕手	高柳　信英	24	国士舘大
〃	伊沢　幸司	25	神奈川工高
〃	菅原　辰夫	24	二松学舎大付高
〃	木島　信秋	24	駒　沢　大
内野	津布久欣司	25	駒　沢　大
〃	石井　淳一	19	浪　商　高
〃	安芸土佐男	23	国士舘大
〃	熊木　建夫	25	駒　沢　大
〃	船見　信幸	29	中　京　大
〃	金子　憲治	25	日　本　大
〃	中村　行利	24	中　央　大
〃	加藤富士男	19	自動車工高
外野	小沢　進	26	掛川西高
〃	富永　邦博	19	熊本工高
〃	佐藤　滋孝	20	DCポリクーソース高
〃	○山本　好宏	28	神奈川大
〃	畑　和夫	25	関東学院大
〃	内山　仁志	23	中　央　大
〃	竹崎　恭二	24	八代工高

三協精機

監督	光沢　毅	39	明　治　大
投手	鈴木　誠	19	能　代　高
〃	樋江井忠臣	24	中　京　高
〃	福田　義之	25	神奈川大
〃	大塚喜代美	23	桐蔭学園高
〃	倉地　敏明	23	鶴見工高
〃	上田　芳央	25	明　治　太
〃	平田　恒夫	20	中京商高
〃	伊藤　弘利	22	大同工高
捕手	織田　康裕	26	神奈川大
〃	中村　昭	19	上　尾　高
〃	古川　義弘	28	明　治　大
〃	小林　文康	21	中京商高
内野	池口　良明	24	立　教　大
〃	佐藤　広美	24	明　治　大
〃	○内田　俊雄	29	亜細亜大
〃	幡野　正秋	30	神奈川大
〃	柳瀬　整	28	東　洋　大
〃	道吉　哲夫	23	法　政　大
〃	大竹　順一	21	中　京　高
外野	白川不三夫	26	東　洋　大
〃	佐々　弘雄	29	中　京　大
〃	鈴木　実	23	豊　南　高
〃	小根森末男	25	亜細亜大
〃	豊国　利一	26	日本体育大
〃	黒木　健次	19	宮崎実高

西濃運輸

監督	柴垣　旭延	34	中　央　大
投手	松田　修二	24	岐阜南高
〃	片江　剛	21	神　崎　高
〃	武者　朗	20	中条工高
〃	木戸　孝明	19	享　栄　高
〃	大島　圭一	22	名古屋学院大
〃	南　敬博	22	帝　京　大
捕手	中島　務	26	東　洋　大
〃	広浦　教雄	26	佐野高
〃	成田　福男	22	立　正　大
〃	田村　孝	19	中津商高
内野	江藤　栄	32	専　修　大
〃	○林　伸男	29	中　京　大
〃	中井　元二	28	日体荏原高
〃	山極　憲三	27	東　海　大
〃	中島　隆利	25	神奈川大
〃	木村　敬三	24	名古屋商大
〃	西村　雅文	20	竜　谷　高
〃	吉村　龍男	22	中　央　大
〃	中沢　和孝	19	二松学舎大付高
外野	細川　昌俊	28	東　洋　大
〃	小林　秀敏	26	大阪経済大
〃	加藤　悦男	25	中　京　大
〃	兼近　孝雪	25	日体荏原高
〃	小椋　清俊	23	岐阜短大付高

新日本製鐵名古屋

監督	柘植　康之	38	東　邦　高
投手	早川　鉄秀	26	向　上　高
〃	鈴木　徳義	23	木更津中央高
〃	清水大三郎	19	鹿児島商工高
〃	吉田　智人	20	東　邦　高
〃	米田　富夫	20	高岡商高
〃	渡辺　剛	20	新居浜商高
〃	水谷　啓昭	23	駒　沢　大
捕手	長田　裕幸	21	明　星　高
〃	永山　茂	22	加治木工高
〃	吉田　秀雄	25	駒　沢　大
〃	長谷場弘明	21	川　内　高
内野	吉田　秀生	23	東　邦　高
〃	○筏　達男	27	鹿児島実高
〃	細川　正光	28	立　教　大
〃	小坂　登	24	木更津中央高
〃	水谷洋次郎	19	三　重　高
〃	服部　俊樹	22	海　星　高
〃	西城真寿雄	27	海　星　高
〃	星野　泰久	21	日大一高
〃	古川　貴	20	三　重　高
外野	金森　道正	21	天　理　高
〃	福島　寿利	25	PL学園高
〃	加藤　雄治	21	岡崎工高
〃	片山　幹敏	21	大　府　高
〃	新美　勝仁	21	東　邦　高

三菱自動車京都

監督	谷尾　和	31	慶　応　大
投手	浜田　政美	22	鳥取城北高
〃	伊藤文比古	22	竜野実高
〃	尾曲　和義	26	東　洋　大
〃	枝　修一	22	福知山商高
〃	谷尾　和	31	慶　応　大
捕手	○奥村　源次	26	東　洋　大
〃	長沢　泰己	20	宮　津　高
〃	熊代　順次	24	御坊商工高
〃	森井　洋一	29	徳島商高
内野	中井　章年	24	高松商高
〃	森谷　昭	21	比叡山高
〃	幡司　豊	19	広島商高
〃	星野　貞義	27	高松商高
〃	橋詰　甚一	21	報徳学園高
〃	竹内　実	19	宮　津　高
〃	松原　正義	21	金沢市工高
〃	久保　清意	19	高知東工高
〃	磯上　順美	27	明　治　大
外野	千葉　明徳	27	帝　京　大
〃	高木　恵三	20	智弁学園高
〃	太田　進	19	高松商高
〃	吉田　啓	23	御坊商工高
〃	中谷良二	30	大　谷　高

大丸

監督	清水 正輝	31	関西学院大
投手	清原 宏	25	同志社大
〃	岡 善夫	24	平田高
〃	本郷 幸司	24	比叡山高
〃	板谷 光芳	26	鴨島商高
〃	上井 正弘	24	比叡山高
〃	岡崎満起男	26	関西大
捕手	田中 昭雄	24	関西大
〃	中西 努	25	同志社大
〃	大城 健	19	興南高
内野	九十九千秋	24	大谷高
〃	長沢 和雄	26	関西大
〃	柏原 豊	24	関西学院大
〃	谷野 昭彦	24	同志社大
〃	梅原 良樹	26	東山高
〃	蒲谷 良充	24	立教大
〃	竹内 利行	26	関西学院大
〃	○土井池憲治	29	立教大
〃	中島 潤一	27	慶応大
〃	西 信夫	23	平安高
外野	楠原 明	26	大分商高
〃	菅田 澄夫	24	松江工高
〃	嶋川義喜代	24	関西大
〃	富永 直利	18	鳴門工高
〃	木下 尚	24	大商大
〃	清水 文雄	24	法政大
〃	佐下谷武司	25	同志社大

松下電器

監督	高木太三郎	45	関西大
投手	福間 納	25	大田高
〃	久保 邦夫	23	水島工高
〃	長谷部 優	26	慶応大
〃	藤井 俊宏	19	福山商高
〃	山本 昌樹	23	鳥取西高
捕手	木原 弘人	25	慶応大
〃	野並 厚夫	22	大方商高
〃	高橋 寛	25	江津工高
〃	大本 二郎	19	倉敷工高
〃	後藤田 務	22	鴨島商高
内野	○山口 円	26	関西大
〃	亀沢 猛	20	大田高
〃	坂口 雅久	25	立教大
〃	石井 賢吾	26	立教大
〃	柳井 匡治	20	大田高
〃	平谷 拓	20	田辺商高
〃	西越 高章	24	大田高
外野	浜田 雄次	22	徳島商高
〃	高鍋 均	19	布施工高
〃	鍛治舎 巧	25	早稲田大
〃	堀江 隆樹	25	立教大
〃	磯本 邦彦	19	佐世保工高

神戸製鋼

監督	清水 一夫	45	中央大
投手	越前 行男	25	専修大
〃	登記 欣也	25	帝京第五高
〃	山本 泰之	23	駒沢大
〃	三善 民康	23	関西大
〃	青木 弘之	21	佐賀学園高
〃	惣水 章光	21	広陵高
捕手	佐野 靖文	25	帝京第五高
〃	原田 貞夫	24	香住高
〃	荒井 信久	23	明治大
内野	吉田 和幸	27	駒沢大
〃	平 俊彦	25	早稲田大
〃	○大村 雅文	25	専修大
〃	古賀 博樹	22	多久工高
〃	岡田 義明	21	山崎高
〃	葉坂 良一	21	育英高
〃	柏原 伸晃	20	小豆島高
外野	明松 光夫	25	早稲田大
〃	小林 晋哉	24	京都産業大
〃	小林 貢	24	姫路商高
〃	土師 利博	24	明治大
〃	中村 正人	23	塩田工高
〃	山崎 博行	21	村野工高
〃	日野 高	21	都島工高
〃	大竹 茂	20	広島商高
〃	村上 宣英	28	都島工高

三菱重工神戸

監督	一岡 四郎	31	同志社大
投手	瀬川 俊一	21	飾磨高
〃	一色 克義	20	京都水産高
〃	増岡 義教	27	同志社大
〃	庄司 富夫	21	安来高
〃	香川 正人	23	早稲田大
捕手	竹中 円	25	萩高
〃	米村 広志	26	近畿大
内野	○深田 修平	27	法政大
〃	森 昌三	21	坂出商高
〃	渡辺 秀一	24	法政大
〃	山谷 健二	22	岡山東商高
〃	佐藤 浩三	22	徳島商高
〃	川辺 邦好	23	育英高
〃	藤井 大	24	村野工高
〃	時本 勝己	25	三田学園高
外野	友藤 芳己	24	村野工高
〃	仲 隆司	24	報徳学園高
〃	金蔵 博久	23	九州工高
〃	浜片 和好	25	大商大
〃	井上 美春	25	市和歌山商
〃	東 茂	26	同志社大
〃	吉田 隆行	22	岡山東商高
〃	勝 順一	28	関西学院大

協和醗酵

監督	磯辺 昭幸	33	下関工高
投手	加来 佐吉	29	中津東高
〃	野々村秀男	22	防府商高
〃	渡辺 次雄	21	南陽工高
〃	渡辺 説男	20	佐伯高
捕手	柳原 信彦	28	柳川商高
〃	園田 精一	26	八代東高
〃	稲田 豊海	19	三池工高
〃	村岡 栄二	18	美祢工高
内野	中越 宗雄	28	飯塚商高
〃	浅田 勉	25	岩国商高
〃	後藤 俊雄	25	鎮西高
〃	矢吹 準二	24	米子南高
〃	松崎 泰治	23	防府商高
〃	嘉村 学	20	早鞆高
〃	古嶋 正人	20	下関商高
〃	安藤 善春	19	下関工高
外野	○山田 孝道	26	防府商高
〃	安永 知紀	23	早鞆高
〃	吉用 哲也	23	中津工高
〃	重田 寿昭	20	多々良高
〃	馬場 堯裕	19	唐津商高

新日本製鐵光

監督	古海 正敏	38	明治大
投手	児玉 克雅	23	浜田高
〃	山本 和男	22	柳井学園高
〃	白本 哲夫	25	八幡工高
〃	大町 定夫	22	柳井商工高
〃	小田 敦祥	19	防府商高
〃	村上 譲二	22	山口水産高
捕手	藤田 博明	18	三池工高
〃	○板東 充宣	27	立教大
〃	森山 真利	19	日南工高
〃	浜崎 久満	20	久賀高
内野	押川 典夫	23	宮崎日大高
〃	桑原 俊貞	24	萩高
〃	佐々木省吾	19	門司工高
〃	木下 英己	32	下関商高
〃	小嶋 文男	23	川越工高
〃	吉岡 武雄	26	早鞆高
〃	平家 悟	20	八頭高
〃	福本 敏郎	18	佐世保工高
外野	弓場 育男	23	邇摩高
〃	石貫 伸二	19	南筑高
〃	磯部 俊介	24	下関商高
〃	梶原 義幸	19	門司工高
〃	海老本勝美	27	聖光高
〃	村上 学	19	早鞆高
〃	岩崎 悦司	20	熊毛北高

大倉工業

監督	網野 久昭	35	坂出商高
投手	藤岡 貞明	20	福岡第一高
〃	矢野 時守	19	丸亀商高
〃	星加 和夫	20	聖陵学園高
〃	仁科 時成	24	山陽高
〃	二神 嘉彦	24	日本大
〃	本多 祥治	24	南宇和高
〃	太田 高義	29	高松高
捕手	和田 恵充	22	松山商大
〃	富原 忠夫	21	徳島工高
〃	中原 正敏	24	東洋大
内野	中井 照也	24	野村高
〃	堀家 正教	20	多度津工高
〃	小西 博久	28	東洋大
〃	浦野 健二	19	多度津工高
〃	佐治 克郎	20	観音寺商高
〃	○横田 幸一	27	同志社大
外野	鎌田 康彦	28	法政大
〃	豊富 孝	22	大阪学院大
〃	一坂 重夫	24	高松一高
〃	柳生 益徳	19	観音寺商高
〃	安斎 正博	26	丸亀商高
〃	鷹田 政治	24	福岡第一高
〃	笠井 裕志	18	徳島商高

愛媛相互銀行

監督	鵜籠 亨	33	近畿大
投手	岡宗 久司	19	高知高
〃	田川 武光	22	松山商高
〃	大薮 孝生	23	近畿大
〃	入山 功	24	松山南高
〃	飯尾 則雄	22	近畿大
〃	片岡 伸輔	20	伊野商高
捕手	豊田 孝司	22	近畿大
〃	高橋 積	24	北宇和高
〃	徳弘 剛	19	伊野商高
内野	堀本 直樹	25	新田高
〃	大森 浅光	25	近畿大
〃	田中 啓司	23	法政大
〃	竹添 雄二	20	伊野商高
〃	○細井 練二	26	東洋大
〃	吉田 雄二	25	大商大
〃	片岡 邦夫	25	福岡工大
〃	井上 仁志	21	八幡浜高
〃	谷脇 俊成	21	伊野商高
外野	広川 恒雄	26	今治南高
〃	近藤 節也	23	福岡工大
〃	彦坂 英生	24	三島高
〃	村瀬 俊二	24	東洋大
〃	池田 正道	25	東洋大

日鉱佐賀関

監督	吉武 勝	36	四日市農高
投手	志摩 輝夫	25	明治大
〃	渡辺 麿史	20	日田林工高
〃	藤沢 公也	24	八幡浜高
〃	永江 健一	29	鹿児島実高
捕手	烏丸 政文	24	指宿商高
〃	斉藤 邦男	24	早稲田大
〃	川野 勉	20	臼杵商高
〃	池部 鉄雄	29	安心院高
内野	井尾 寿彦	24	明治大
〃	五十嵐健二	27	立教大
〃	村田 啓一	25	津久見高
〃	伏原 直	23	広陵高
〃	松瀬 芳樹	25	佐世保工高
〃	小西 克善	28	明治大
〃	湯野 清二	33	八代東高
〃	橋本 孝彦	34	土庄高
外野	木村 司	25	八幡浜高
〃	新納 幸治	20	佐伯鶴城高
〃	岩尾 正義	22	中津工高
〃	児玉 秀文	21	佐伯鶴城高
〃	○鈴木 香	28	駒沢大
〃	青木 正秀	23	佐伯鶴城高

九州産交

監督	西田 宏城	38	九州学院高
投手	日高兼一郎	24	本庄高
〃	磯本 哲也	19	出水学園高
〃	末永 秋徳	23	八代第一高
〃	谷崎 浩二	19	津久見高
〃	有村 謙一	23	東海大
〃	門倉 和博	26	鹿屋高
〃	西谷 美次	23	日本体育大
〃	小川 昌二	29	神奈川大
〃	井上 信明	31	立命館大
捕手	佐伯 国司	28	東海大二高
〃	山口 末広	23	川内実高
〃	渡辺 長助	20	八代第一高
〃	長丸 誠一	29	関東学院大
内野	倉岡 政美	28	熊本第一工高
〃	井上 広成	23	八幡大
〃	田代 文博	22	日本大
〃	林 幸義	29	熊本工高
〃	坂東 一彦	21	津久見高
〃	中野 祐一	27	中央大
外野	井上 新一	20	八代第一高
〃	○江口 明信	29	中央大
〃	岩川 克也	19	鹿児島商高
〃	古賀 健次	23	博多工高
〃	上田 信広	28	九州学院高
〃	来海 則雄	28	日本大

新風吹き込む初陣12チーム

―若い力で復活―

第3回大会を迎えて12の初陣チームが登場する。そのなかから話題のチームをピックアップ……。

「本当に久しぶりの全国大会出場、そのふん囲気にのまれないよう……」と葛西（仙台鉄道管理局）、清水（神戸製鋼）両監督はちょっぴり不安をのぞかせる。

仙台鉄道管理局は戦前からの名門チーム。1927年に始まった第1回都市対抗に出場。以来、42年の第16回大会まで12回の出場を数えている。しかし戦後は51年の産業対抗に出たくらい。昨年チームの若返りを企て、その芽が伸びはじめたときの"全国大会"に平均年齢20歳の若い力をぶつける。

神戸製鋼も54年の都市対抗に出て以来のメーンエベントになる。就任4年目の清水監督のきめ細かく、きびしい練習の成果がようやく実ってきた。しかし清水監督は「甲子園の風の流れ、グラウンドの特徴などをよく話して聞かせねば……」と細心な指導を続けながら「地元」の意地を見せつけようとする。そろって都市対抗場に"あと一つ"のところで泣かされ続けてきたチーム。その発奮の見せどころを、この大会に求めてやってくる。

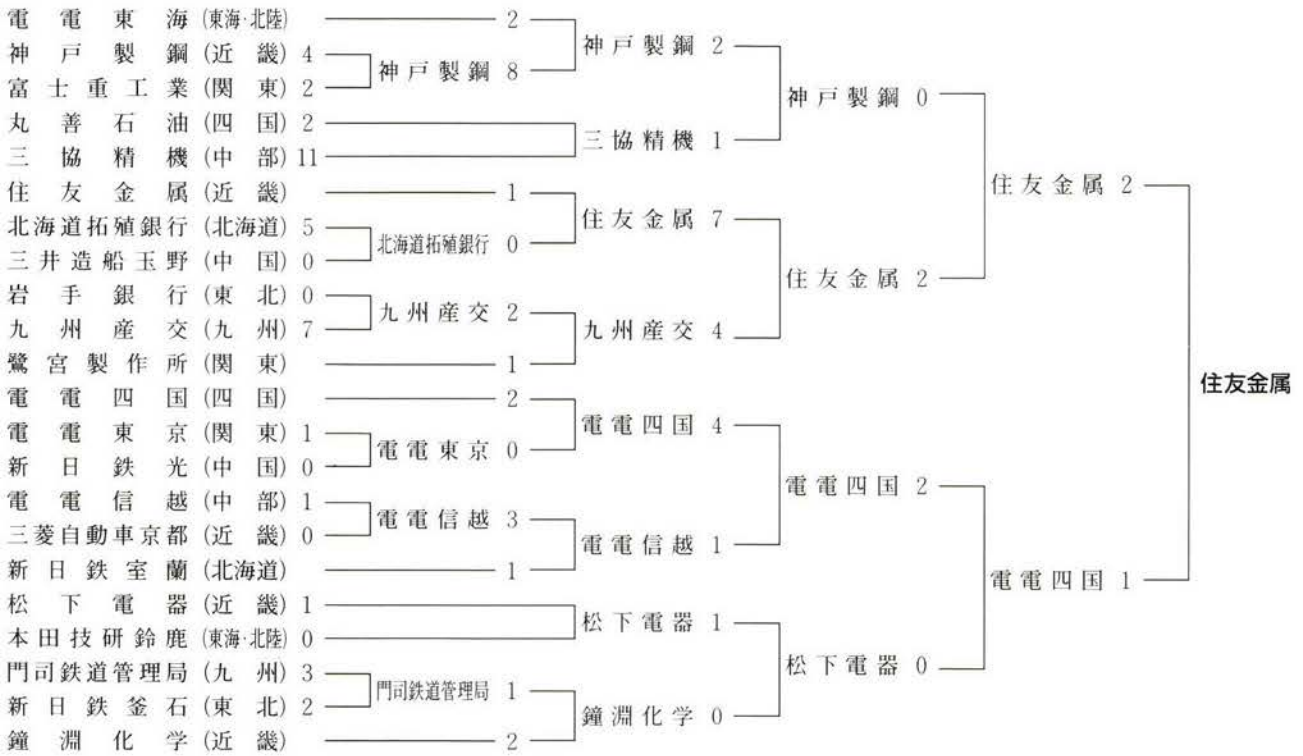
住友金属鹿島は昨年1月に野球部を誕生させたばかりの"新しい顔"である。小川、大木のバッテリーをはじめ、入田、都築両内野手、広野、鈴木両外野手とかつて和歌山製鉄所で活躍した選手が、新チームの要になっている。

「チームづくりに彼らの協力を頼んだのです。退部していた者もいて、なまっていた体を元に戻すのに1年かかった勘定ですね」と伴野監督。今夏の都市対抗予選で退くと、1人に1時間ものノックを課すきつい練習を重ねてきた。「この夏場の練習で力がついたと思います。でも応用問題はまだまだこなせませんが、みんな真面目で一生懸命やりますよ」と伴野監督は自チームの成長度をしっかり感じとっている。この大会で飛躍へのきっかけをつかむことだろう。

第4回大会

1977年(昭和52年)10月23日▶10月30日　阪神甲子園球場

優勝＝住友金属 ――― (初優勝)



戦国大会、光る近畿勢

本格派新人・森(駒大出)を擁した住友金属が実力伯仲の"戦国大会"を制した。大きく割れるカーブを主武器に、速球を交えた力投は、優勝投手にふさわしかった。4連投は若さの勝利でもあった。ベテラン捕手中村の好リード、西村、中村、中原、三好の中軸打者の活躍も森をバックアップした。中でも新人・西村(和歌山・伊都高出)は17打数8安打、4割7分1厘の高打率を残し、リードオフマンとしてチームを引っ張った。惜敗した電電四国は、破壊力には乏しかったが、粘り強い試合運びは印象深かった。

ベスト4に近畿勢が3チーム。さながら地元大会の様相を呈し、終盤、大会は盛り上がった。都市対抗優勝の神戸製鋼はさすがにしたたかだった。登記、山本の両投手、俊足好打の小林貢を一番に、吉田、小林晋、葉坂、大村らが持てる力を発揮した。近畿の第五代表、松下電器、鐘淵化学のほか九州産交、電電信越の活躍も特筆出来る。

惜しかったのは北海道拓殖銀行。投打のバランスがよくとれ、住友金属とがっぷり四つの試合をしたが、エース・千藤が打球を受けて退場するアクシデントに見舞われて、2回戦で退いた。

関東勢は不振だった。都市対抗4強の電電東京が、1回戦に勝っただけで、富士重工業、鷺宮製作所とも初戦敗退、4年間の関東勢のトータルが3勝9敗、まだベスト8入りすらない。

21試合中、10試合が1点差と"戦国大会"にふさわしい好試合の連続で、九州産交ー鷺宮製作所戦の大会新記録となる19回の死闘、門司鉄道管理局・直村の劇的なサヨナラ本塁打(14回)など多くのドラマも生まれた。

(優勝戦)電電四国ー住友金属　一回裏、住友金属一死一、三塁、中村の内野安打で三塁走者の西村が生還して先制。

大会審判　▷**委員長**＝山本英一郎▷**副委員長**＝小西正一、郷司裕▷**委員**＝高橋良夫、三輪武、中西明、三宅享次、小林加寿男、元橋一登、達摩省一、戸田直佑、相沢孝行、清沢忠彦、原田謹爾、片岡成夫、日野賢導、上杉正、武村政雄、津田進、樋秀夫、岸野金治、広沢渉、木嶋一晃、松尾進、森武雄、藤尾泰三、岡本好二、鈴木康夫

▽10月23日

第1試合＝1回戦(午後9時59分開始)

富士重工業	000	020	000		2
神戸製鋼	001	210	00X		4

▶審判(球審)三宅(塁審)元橋、津田、藤尾

【富士重工】	打	安	点	振	球
⑧ 内藤	3	1	0	1	1
⑥ 茂木	3	0	0	1	0
⑨ 蝦沢	4	0	0	1	0
⑤ 長壁	4	0	0	3	0
③ 山本	4	1	0	2	0
⑦ 東野	4	2	1	0	0
④ 富田	4	1	0	1	0
② 村上	4	0	0	1	0
① 三浦	2	1	0	0	1
犠 併 残 1 0 6	32	6	1	10	2

【神戸製鋼】	打	安	点	振	球
⑨ 小林貢	3	1	0	0	1
⑧ 中村	3	1	0	1	0
9 山崎	0	0	0	0	0
④ 吉田	2	1	2	0	1
⑦ 小林晋	4	0	0	0	0
⑥ 葉坂	4	2	0	0	0
③ 大村	2	0	0	0	1
② 荒井	3	0	0	0	0
⑤ 古賀	3	1	2	0	0
① 登記	2	0	0	1	0
1 山本	1	1	0	0	0
犠 併 残 3 0 5	27	7	4	2	3

	回	安	振	球	責
三浦	8	7	2	3	4
登記	5	4	5	2	1
山本	4	2	5	0	0

▷本塁打＝古賀1号②(三浦)東野1号(登記)▷二塁打＝山本(富)葉坂、小林貢、三浦▷犠打＝富1(茂木)神3(中村、吉田、大村)▷盗塁＝富1(東野)神3(小林貢、中村、吉田)▷失策＝神1(小林貢)▷試合時間＝2時間3分

第2試合＝1回戦(午後0時29分開始)

北海道拓殖銀行	001	004	000		5
三井造船玉野	000	000	000		0

▶審判(球審)中西(塁審)三輪、松尾、広沢

【拓殖銀行】	打	安	点	振	球
⑧ 小島	5	2	0	0	0
④ 高岡	5	0	0	0	0
③ 船木	3	1	1	0	0
H3 田伏	2	1	0	0	0
⑦ 丸山	5	2	0	0	0
7 坂佐井	0	0	0	0	0
⑨ 梅田	4	2	1	1	0
② 竹内	4	2	1	0	0
⑤ 大滝	3	0	1	0	0
H 坂田	1	0	0	0	0
5 海老名	0	0	0	0	0
⑥ 金谷	3	1	0	1	0
① 山口	3	1	1	0	0
犠 併 残 2 2 8	38	12	5	2	0

【三井造船】	打	安	点	振	球
④ 藤原健	3	0	0	1	0
H 谷川	1	0	0	0	0
⑧ 藤原伸	3	0	0	1	0
⑤ 荒牧	4	1	0	1	0
③ 田中	2	0	0	1	1
⑨ 石賀	3	0	0	0	0
⑦ 二宮	3	0	0	0	0
⑥ 尾崎	2	0	0	1	1
① 高橋	2	0	0	0	0
② 横田	2	0	0	0	0
H 砂田	1	1	0	0	0
犠 併 残 2 1 3	26	2	0	5	2

	回	安	振	球	責
山口	9	2	5	2	0
高橋	9	12	2	0	3

▷二塁打＝竹内、梅田▷犠打＝拓2(金谷、山口)三2(藤原伸、高橋)▷盗塁＝拓2(小島、高岡)▷失策＝拓1(船木)三4(尾崎2、藤原健、高橋)▷試合時間＝2時間6分

拓銀山口、快挙を逃す

㊐…三井造船最後の打者・荒牧を中飛に仕留めて2安打完封勝ちした拓銀・山口投手は、「惜しかったですね」とノーヒット・ノーランを逃したことを悔しがった。六回まで無安打、もちろん狙っていた。「一昨年も1安打で逃しているので、やってみたかった。でも完封できたのでいいですよ」と自分をなぐさめた。しかし「直球が高めに浮いて四球2はいけません。向こうが悪い球に手を出してくれて助かった」と、自分の評価は辛かった。

第3試合＝1回戦(午後3時2分開始)

九州産交	000	000	151		7
岩手銀行	000	000	000		0

▶審判(球審)高橋(塁審)戸田、片岡、岡本(外審)広沢、松尾

【九州産交】	打	安	点	振	球
④ 田代	5	0	0	0	0
⑥ 林	3	2	0	0	2
⑦ 来海	4	1	0	0	0
⑧ 井上新	5	2	2	1	0
⑨ 江口	2	1	0	0	1
9 上田	0	0	1	0	1
③ 中野	4	2	0	2	1
⑤ 井上広	2	0	0	0	0
H 有村	1	0	0	0	0
5 坂東	1	1	3	0	0
① 西谷	3	0	1	2	0
② 渡辺	3	0	0	0	0
H 山口	1	1	0	0	0
R 久本	0	0	0	0	0
2 松村	0	0	0	0	0
犠 併 残 3 2 8	34	10	7	5	5

【岩手銀行】	打	安	点	振	球
⑥ 小笠原竹	4	0	0	1	0
⑦ 阿部	4	0	0	1	0
⑧ 高橋昭	4	1	0	3	0
⑨ 千田伸	4	1	0	2	0
③ 安保	1	0	0	1	2
① 小笠原敬	3	1	0	1	0
1 及川	0	0	0	0	0
② 伊東	3	0	0	0	0
⑤ 佐々木直	3	1	0	0	0
④ 和田	2	0	0	0	0
H 高橋誠	1	0	0	0	0
R 佐々木俊	0	0	0	0	0
4 水留	0	0	0	0	0
犠 併 残 0 0 4	29	4	0	9	2

	回	安	振	球	責
西谷	9	4	9	2	0
小笠原敬	7⅔	6	2	3	4
及川	1⅓	4	3	2	3

▷本塁打＝井上新1号②(小笠原敬)坂東1号③(及川)▷二塁打＝中野、山口▷犠打＝産3(来海、江口、西谷)▷盗塁＝岩2(高橋昭、千田伸)▷試合時間＝2時間29分

▽10月24日

第1試合＝1回戦(午前9時40分開始)

新日鉄光	000	000	000	00		0
電電東京	000	000	000	01		1

▶審判(球審)小林(塁審)原田、三宅、相沢

【新日鉄光】	打	安	点	振	球
④ 木下	5	0	0	1	0
⑧ 弓場	5	3	0	1	0
② 板東	4	0	0	2	1
⑤ 吉岡	5	1	0	0	0
⑥ 小嶋	4	0	0	0	0
③ 磯部	4	0	0	0	0
⑨ 石貫	4	0	0	1	0
⑦ 岩崎	4	1	0	0	0
① 児玉	4	1	0	1	0
犠 併 残 0 1 7	39	6	0	6	1

【電電東京】	打	安	点	振	球
⑧ 矢治	5	1	1	1	0
⑨ 鈴木	4	0	0	0	0
④ 原科	4	0	0	1	0
③ 大島	4	0	0	2	0
⑦ 青木	4	1	0	0	0
⑤ 橋爪	3	0	0	1	1
⑥ 下町	4	2	0	0	0
① 高根沢	3	0	0	1	0
② 安藤	4	1	0	1	0
犠 併 残 1 0 4	35	5	1	7	1

	回	安	振	球	責
児玉	10⅔	5	7	1	1
高根沢	11	6	6	1	0

▷三塁打＝弓場、岩崎▷二塁打＝矢治▷犠打＝東1(高根沢)▷盗塁＝新2(板東、弓場)▷失策＝東1(下町)▷試合時間＝2時間28分

電電東京・矢治、サヨナラ二塁打

㊐…電電東京は延長十一回二死から安藤が左前打してチャンスを切り開いた。電電にとってこれはわずか4本目の安打。新日鉄光の児玉投手に全く抑え込まれていたが、ここでトップの矢治は左中間を破る殊勲の二塁打を放ち、いいスタートを切っていた安藤は一気に生還、サヨナラのホームを踏んだ。

力のこもった投手戦。電電の高根沢は進境著しい若手投手で、下手からスピードに変化をつけた直、曲球で内、外角をゆさぶり、打たせてとる安定した投球を続けた。

光の児玉投手はスピードあるストレートでぐいぐい押し、高根沢に一歩も譲らなかったが、126球目、ついに力尽きた。

第2試合＝1回戦(午後0時20分開始)

電電信越	000	000	001		1
三菱自動車京都	000	000	000		0

▶審判(球審)上杉(塁審)榧、森、岡本

【電電信越】	打	安	点	振	球
⑨ 田中	4	2	0	0	0
⑤ 西条	3	0	0	0	0
⑧ 篠原	4	1	0	0	0
③ 佐藤治	3	0	0	0	0
⑦ 石賀	4	1	1	0	0
④ 湖口	2	1	0	0	1
⑥ 望月	4	1	0	0	0
② 大石	2	0	0	0	2
① 佐藤公	3	0	0	0	0
犠 併 残 3 1 7	29	6	1	0	3

【三菱京都】	打	安	点	振	球
⑧ 千葉	4	0	0	0	0
④ 星野	4	3	0	1	0
⑥ 森谷	4	1	0	1	0
⑦ 郡	4	0	0	0	0
⑨ 高木	3	0	0	0	0
H 長沢	1	0	0	1	0
③ 橋詰	3	1	0	0	1
② 奥村	4	2	0	1	0
⑤ 中井	2	0	0	0	1
① 枝	3	0	0	0	0
1 浜田	0	0	0	0	0
犠 併 残 0 2 7	32	7	0	4	2

	回	安	振	球	責
佐藤公	9	7	4	2	0
枝	8⅓	6	0	2	1
浜田	⅔	0	0	1	0

▷二塁打＝篠原、石賀▷犠打＝信3(西条、佐藤治、湖口)▷盗塁＝三1(星野)▷失策＝信1(佐藤公)三2(森谷2)▷試合時間＝2時間11分

第3試合＝1回戦(午後2時55分開始)

新日鉄釜石	010	000	001	000	00	2
門司鉄道管理局	100	000	001	000	01	3

▶審判(球審)木嶋(塁審)戸田、日野、松尾(外審)岡本、森

【新日鉄】	打	安	点	振	球
⑧ 三上	7	0	0	1	0
④ 佐々木	6	2	0	0	0
⑦ 小林	5	0	0	1	0
③ 日高	4	1	0	0	2
⑥ 渋谷	4	0	0	1	0
⑤ 佐藤幸	6	1	0	0	0
② 長田	5	3	1	0	1
⑨ 菊池	2	0	0	1	0
H 伊東	1	0	0	0	0
9 平川	0	0	0	0	0
H 早瀬	1	0	0	0	0
9 藤原満	1	0	0	0	0
① 斉藤	5	1	0	2	0
1 黒沢	0	0	0	0	0
H 木川	1	0	0	0	0
1 田中	0	0	0	0	0
犠 併 残 4 0 11	48	8	1	6	3

【門鉄局】	打	安	点	振	球
④ 馬場	5	1	0	1	1
⑥ 坂原	3	0	0	1	2
③ 酒井	5	0	0	2	1
⑨ 樋尾	6	2	1	2	0
⑦ 森光	2	0	0	1	1
H 徳野	1	0	0	0	0
2 小八重	2	0	0	2	0
⑧ 直村	6	2	1	1	0
② 伊藤	3	1	0	1	1
R 川崎	0	0	0	0	0
1 山下	1	0	0	0	0
① 中島	3	0	0	2	0
H7 綿島	2	1	1	0	0
⑤ 吉田	4	1	0	1	0
犠 併 残 2 1 8	43	8	3	14	6

	回	安	振	球	責
斉藤	12⅓	7	13	5	2
黒沢	⅔	0	0	1	0
田中	⅓	1	1	0	1
中島	9	5	3	2	1
山下	5	3	3	1	0

▷本塁打＝直村1号(田中)▷犠打＝新4(小林、渋谷2、藤原満)門2(坂原、吉田)▷盗塁＝新2(佐藤幸、早瀬)門3(馬場、直村、川崎)▷失策＝門4(坂原2、伊藤、吉田)▷暴投＝山下▷試合時間＝3時間43分

▽10月25日

第1試合＝2回戦(午前9時25分開始)

丸善石油	001	001	000		2
三協精機	250	220	00X		11

▶審判(球審)中西(塁審)武村、広沢、原田

【丸善石油】	打	安	点	振	球
⑨7 松元	4	1	0	0	0
⑤ 神崎	4	3	1	0	0
③ 山下	4	0	0	1	0
② 永田	4	0	0	0	0
⑧ 新崎	4	2	1	0	0
④ 福永	4	2	0	0	0
⑥ 徳藤	3	0	0	1	0
H 大西	1	0	0	1	0
⑦ 益田	1	0	0	0	0
H9 寺岡	2	1	0	1	0
① 藤井	0	0	0	0	0
1 野口	1	0	0	0	0
1 新	2	0	0	0	0
犠 併 残 0 0 5	34	9	2	4	0

【三協精機】	打	安	点	振	球
④ 佐藤	4	3	1	0	1
⑦ 横井	3	2	3	0	1
7 佐々	1	1	0	0	0
⑧ 豊国	4	2	2	1	0
⑤ 田中	5	1	3	0	0
③ 樋江井	3	2	2	1	0
3 丸茂	2	0	0	0	0
⑨ 小根森	2	0	0	1	2
9 鈴木実	0	0	0	0	0
⑥ 坂田	3	0	0	0	0
6 幡野	1	0	0	0	0
② 小林	3	2	0	0	0
① 大塚	3	1	0	0	0
犠 併 残 3 2 6	34	14	11	3	4

	回	安	振	球	責
藤井	1⅔	5	0	2	2
野口	1⅓	3	1	1	3
新	5	6	2	1	2
大塚	9	9	4	0	0

▷本塁打＝田中1号③(野口)▷三塁打＝佐藤2▷二塁打＝豊国、樋江井、佐藤、神崎、新崎▷犠打＝三3(豊国、小林、大塚)▷盗塁＝丸2(福永2)三1(豊国)▷失策＝丸2(福永2)三2(田中2)▷暴投＝新▷試合時間＝2時間19分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

電電四国(現NTT四国)＝準優勝

景浦　隆男内野手

(現同チーム監督、44歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

現役最後の大会だった。だから悔いの残らないようにと、とにかく思い切りバットを振った。もっとも力みまくって、打撃はいまひとつだったが。

最も印象深いのはやはり住友金属との優勝戦。成績については満足しているが、一つだけ悔いの残ることがある。同点の十回の守備で、無死二塁になり、選手たちが集まった時、一塁手の菊池さんが「次の打者を歩かせて一、二塁にしてからバントさせて三塁封殺しよう」と提案したが、結局次打者に送りバントをさせた。それを投手の小原の暴投で決勝点を許した。もし、菊池さんの言うようにしていれば、三塁はタッチプレーじゃないから野選を避けられたかもしれない。それが頭にあるから、昨年、監督になってからは延長戦や1点差のそういう場面は必ず塁を埋めるようにしている。

接戦ばかりだったが、粘り強いプレーで勝ち進んだ、あんなチームを作りたいと努力している。いつか優勝してあのチームを超えたいと思っている。

第２試合＝２回戦(午後０時９分開始)

松下電器	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
本田技研鈴鹿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)三宅(塁審)木嶋、片岡、相沢

【松下電器】

		打	安	点	振	球
⑧	7浜田	4	2	1	0	0
④	坂口	4	1	0	1	0
⑥	山口	4	1	1	0	1
③	鍛治舎	4	1	0	1	1
②	木原	4	2	0	0	0
⑨	堀江	4	1	0	0	0
⑦	西越	3	0	0	1	0
H	対中本	1	0	0	0	0
8	磯福間	0	0	0	0	0
①	平谷	3	2	0	0	0

犠	併	残
0	0	6

	回	安	振	球	責
福間	9	5	1	2	0

【本田技研】

		打	安	点	振	球
⑧	金並	4	1	0	2	0
⑥	松尾	4	1	0	2	0
⑦	高橋	4	0	0	2	0
⑤	太田	4	1	0	1	0
③	田中	3	0	0	0	0
⑨	田田	3	1	0	1	0
②	古藤	3	0	0	2	0
④	内前	3	1	0	1	0
①	川村	3	1	0	0	0
H1	有働	1	0	0	0	0
H1	金本	0	0	0	0	0
	羅和	0	0	0	0	0

犠	併	残
1	1	4

	回	安	振	球	責
前村	6	8	3	0	1
金本	2	1	1	0	0
名和	1	1	0	0	0

▷二塁打＝松尾、浜田▷犠打＝本1(羅本)▷盗塁＝松2(平谷2)▷失策＝本1(内川)▷試合時間＝2時間29分

第３試合＝２回戦(午後３時開始)

神戸製鋼	3	0	1	1	0	0	3	0	0	8
電電東海	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2

▶審判(球審)達摩(塁審)三輪、清沢、榧

【神戸製鋼】

		打	安	点	振	球
⑧	小林寛	4	1	0	0	0
⑨	中村	3	2	0	0	0
1	山本	1	0	0	0	0
④	吉三田	4	3	2	0	0
R4	二木	1	0	0	1	0
⑦	小林晋	4	1	0	1	1
⑥	葉坂	3	2	1	0	1
③	大村	3	2	3	0	0
②	荒井	3	1	1	0	1
⑤	古賀	3	1	0	1	1
①	登記	3	1	0	0	0
H9	山崎	1	1	0	0	0

犠	併	残
3	0	5

	回	安	振	球	責
登記	7	5	3	0	1
山本	2	2	2	4	0

【電電東海】

		打	安	点	振	球
⑨	伏見	4	1	0	1	0
⑦	杉本	4	0	0	1	0
④	湯之戸	4	1	1	0	0
⑤	日高	4	2	2	0	0
③	高田	4	0	0	2	0
②	古瀬	4	2	0	0	0
⑥	安藤	1	0	0	1	0
H6	林重	1	0	0	0	0
①	藤村	0	0	0	0	0
1	大場	0	0	0	0	0
1	伊藤司	2	1	0	0	0
	袴田	0	0	0	0	0
H1	稲山	1	0	0	1	0
	杉山	0	0	0	0	0
⑧	林義	3	0	0	0	0

犠	併	残
1	1	4

	回	安	振	球	責
大場	1⅔	5	0	2	3
伊藤司	5⅓	7	2	2	4
袴田	1⅔	3	0	0	0
杉山	1	0	0	0	0

▷三塁打＝大村、古瀬、湯之戸▷二塁打＝葉坂、中村、古賀▷犠打＝神３(小林貴、中村、大村)電１(安藤)▷盗塁＝神４(小林貴、小林晋、大村、荒井)電１(伏見)▷捕逸＝古瀬▷試合時間＝２時間15分

神鋼の大村、大当たり

◎…神戸製鋼の大村は初回、走者を一、二塁において左中間を深々と破る三塁打。三回にも１打点を加え３打数２安打３打点と大活躍。主将にふさわしいけん引車となってチームに勝ちをもたらした。

「都市対抗に優勝したあとカナダ遠征、疲れも加わって打線は僕を含めて湿りっ放し。予選でも投手におんぶしてばっかりでした。それが甲子園にきてからようやく上向いてきました。一回に３点とってベンチにも"これならいける"というムードがぐっと盛り上がり、都市対抗の時のような投打のまとまりが出てきました」

▽10月26日

第１試合＝２回戦(午後９時26分開始)

北海道拓殖銀行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住友金属	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

▶審判(球審)高橋(塁審)戸田、岸野、藤尾

【拓殖銀行】

		打	安	点	振	球
⑧	小島	4	0	0	1	0
④	高岡	3	0	0	0	1
③	船木	4	1	0	1	0
⑦	丸山	4	0	0	1	0
⑨	梅田	4	2	0	0	0
②	竹内	3	0	0	1	0
⑤	大滝	3	0	0	0	0
⑥	大金谷	3	0	0	2	0
①	山口	2	1	0	0	0
1	千藤	0	0	0	0	0
1	柴田	1	0	0	1	0

犠	併	残
0	1	5

	回	安	振	球	責
山口	5⅓	5	3	4	0
千藤	1⅓	1	0	0	0
柴田	1⅔	3	0	1	1

【住友金属】

		打	安	点	振	球
⑧	西村	4	2	1	0	1
④	清水	3	0	0	0	0
⑦	川上	3	1	0	2	0
R9	宇山	3	1	1	0	0
②	中中	2	0	0	0	1
③	原多	2	0	0	0	1
H	高谷	1	0	0	0	0
3	口好	0	0	0	0	0
9	7三森	1	0	0	0	0
①	森	4	2	1	0	1
⑤	古吟	3	1	0	0	1
⑥	飯島	2	1	0	0	1

犠	併	残
3	0	11

	回	安	振	球	責
森	9	4	7	1	0

▷犠打＝住3(清水、古吟、飯島)▷盗塁＝住1(中村)▷失策＝拓1(柴田)▷捕逸＝中村▷試合時間＝2時間43分

〔２回戦〕九州産交－鷺宮製作所　延長十九回表、九州産交無死一、三塁、上田が決勝スクイズを決める。

第２試合＝２回戦(午後０時32分開始)

九州産交	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
鷺宮製作所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

▶審判(球審)鈴木(塁審)武村、森、松尾

【九州産交】

		打	安	点	振	球
④	田代	8	4	0	0	0
⑥	林	7	1	0	1	0
⑦	来海	7	2	0	0	1
⑧	井上新	6	2	0	0	1
⑨	江口	3	0	0	0	1
9	上田	4	1	1	1	0
③	中野	2	0	0	2	0
H3	有村	6	0	0	1	0
⑤	坂東	7	1	0	0	0
①	門倉	6	1	0	0	1
②	松村	5	1	1	0	0
2	渡辺	0	0	0	0	0

犠	併	残
4	3	10

	回	安	振	球	責
門倉	19	14	6	4	1

【鷺宮製作】

		打	安	点	振	球
④	市川	8	2	0	0	0
⑨	新美	7	3	0	1	0
③	松下	5	2	0	0	0
R	米村	0	0	0	0	0
3	手塚	3	0	0	0	0
⑧	梅原	8	1	0	3	0
②	谷口	5	2	0	1	3
⑦	渡辺	7	2	0	1	0
⑤	高橋	7	1	1	0	1
⑥	古葉	5	1	0	0	0
H	古吉田	1	0	0	0	0
6	中本	1	0	0	0	0
①	三谷	6	0	0	0	0

犠	併	残
3	2	12

	回	安	振	球	責
三谷	9	1	3	5	4

▷三塁打＝田代▷二塁打＝松村、高橋▷犠打＝九4(林、井上新、松村２)鷺３(新美、渡辺、三谷)▷盗塁＝九１(井上新)鷺３(市川２、渡辺)▷失策＝鷺４(市川、古葉２、三谷)▷試合時間＝４時間９分

ナガーイ新記録

◎…九州産交と鷺宮製作所が４時間９分をかけて、延長19回を戦い"ナガーイ"大会新記録をつくった。両チームの投手は完投して、門倉(九州産交)は248球、三谷(鷺宮製作所)は222球も投げた。長い戦いを終えたあと産交・西田、鷺宮・有本両監督は「投手が本当によく投げた」と口をそろえながら明暗の区別なく"お疲れ"の表情。

第３試合＝２回戦(午後５時５分開始)

電電東京	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電電四国	0	0	0	0	2	0	0	0	X	2

▶審判(球審)小林(塁審)榧、清沢、津田

【電電東京】

		打	安	点	振	球
⑧	矢治	3	0	0	1	1
⑨	掛川	4	1	0	0	0
④	原科	4	0	0	3	0
③	大島	3	1	0	0	1
⑦	青木	3	1	0	0	0
R7	鈴木	1	0	0	1	0
⑤	橋爪	3	1	0	1	0
⑥	下町	3	0	0	0	0
②	安藤	3	0	0	0	0
①	森	1	0	0	1	0
H	吉本	1	0	0	0	0
1	内田	0	0	0	0	0
H	星	1	0	0	0	0
1	高根沢	0	0	0	0	0

犠	併	残
0	1	5

	回	安	振	球	責
森	5	4	5	2	2
内田	2	4	2	0	0
高根沢	1	0	0	1	0

【電電四国】

		打	安	点	振	球
⑧	玉井	3	1	1	0	1
④	景浦	4	1	0	2	0
⑨	福谷	4	0	0	2	0
③	松岡	3	0	0	1	1
⑦	幸田	2	1	0	0	1
⑥	高橋	4	1	0	0	0
⑤	鎌土	3	2	0	1	0
①	小原	2	1	0	1	0
②	藤本	3	1	1	0	0

犠	併	残
2	0	7

	回	安	振	球	責
小原	9	4	7	2	0

▷三塁打＝藤本▷二塁打＝幸田▷犠打＝四２(幸田、小原)▷盗塁＝東２(矢治、鈴木)四１(高橋)▷捕逸＝藤本▷試合時間＝１時間53分

▽10月27日

第１試合＝２回戦(午後９時27分開始)

電電信越	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3
新日鉄室蘭	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

▶審判(球審)上杉(塁審)達摩、日野、森

【電電信越】

		打	安	点	振	球
⑨	田中	5	0	0	2	0
⑤	西条	4	2	0	1	1
⑧	篠原	4	1	0	2	0
③	佐藤治	5	0	0	0	0
⑦	石賀	5	2	0	1	0
④	湖口	5	3	0	0	0
⑥	望月	3	1	2	0	0
②	大石	5	0	0	3	0
①	佐藤公	4	0	0	3	0

犠	併	残
4	0	6

	回	安	振	球	責
佐藤公	12	7	8	1	1

【新日鉄】

		打	安	点	振	球
⑦	島尻	4	1	0	1	1
⑧9	前原	4	2	0	2	0
④	荒野	4	1	1	0	0
③	古池	5	2	0	1	0
⑤	朝倉	5	0	0	0	0
⑨	安西	3	0	0	1	0
8	岡田	2	0	0	1	0
②	後藤	5	0	0	2	0
⑥	大塚	5	1	0	0	0
①	浜師	3	0	0	0	0

犠	併	残
3	1	7

	回	安	振	球	責
浜師	12	9	12	1	2

▷二塁打＝望月▷犠打＝信４(望月２、篠原、佐藤公)室３(前原、荒野、浜師)▷盗塁＝信１(湖口)室３(古池２、前原)▷失策＝室１(朝倉)▷ボーク＝佐藤公▷試合時間＝３時間６分

信越の望月、決勝二塁打

◎…新日鉄室蘭は初回、荒野の大きな中犠飛で楽々と先制した。先取点を得た室蘭の左腕・浜師は威力のある速球と、大きなカーブで力投したが、電電信越は五回、湖口がバットを折りながらも左前安打、バントで二進のあと、大石の三ゴロを野手が一塁へ低投、湖口が還った。

十二回、信越は一死一、二塁。望月が０－２後の好球を左中間を深々と破る二塁打を放って２者を迎えた。浜師は12三振を奪う力投だったが、カウントを整えようとした好球を望月に狙い打たれた。

第２試合＝２回戦(午後０時54分開始)

門司鉄道管理局	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
鐘淵化学	1	0	0	1	0	0	0	0	X	2

▶審判(球審)鈴木(塁審)武村、広沢、原田

【門鉄局】

		打	安	点	振	球
④	馬場	4	2	0	1	0
⑥	坂原	4	2	0	0	0
⑨	樋尾	4	2	0	1	0
③	前田	2	0	0	2	0
3	酒井	2	1	1	0	0
⑦	金丸	0	0	0	0	0
7	綿島	2	0	0	2	0
H7	森光	2	0	0	0	0
⑧	直村	4	1	0	0	0
②	伊藤	3	0	0	0	0
①	中島	3	1	0	1	0
⑤	吉田	2	1	0	0	0

犠	併	残
1	1	5

	回	安	振	球	責
中島	8	1	2	0	2

【鐘淵化学】

		打	安	点	振	球
⑨	長嶋	4	2	0	0	0
9	滝本	0	0	0	0	0
⑦	土井	3	1	0	0	0
⑧	中村	4	1	0	0	0
③	米田	3	2	0	0	1
⑤	藤村	4	3	1	0	0
②	三瀬	2	0	0	0	0
⑥	大須賀	4	2	0	0	0
④	山内	3	1	0	0	0
4	北森	0	0	0	0	1
①	田中	3	0	1	0	0

犠	併	残
4	0	10

	回	安	振	球	責
田中	9	10	7	0	1

▷二塁打＝長嶋▷犠打＝門１(吉田)鐘４(土井、三瀬２、田中)▷盗塁＝門１(樋尾)鐘２(土井、中村)▷試合時間＝１時間59分

第3試合＝準々決勝（午後3時13分開始）

三協精機	1	0	0	0	0	0	0	0	1
神戸製鋼	0	1	0	0	0	1	0	0	X 2

▶審判（球審）小林（塁審）樋、岸野、岡本（外審）広沢、原田

【三協精機】打安点振球
④ 佐藤 4 2 0 1 0
⑦ 横井 3 1 0 0 0
⑧ 豊国 3 1 1 0 0
⑤ 田中 3 0 0 2 0
6 坂田 0 0 0 0 0
③ 樋江井 3 0 0 2 0
⑨ 小根森 1 0 0 0 0
H 9 佐々木 2 0 0 1 0
⑥ 5 幡野 3 0 0 2 0
② 小林 2 0 0 0 0
H 丸茂 1 0 0 0 0
① 伊藤 2 0 0 0 0
H 鈴木実 1 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 1 28 4 1 8 0

【神戸製鋼】打安点振球
⑧ 小林貴 4 1 0 0 0
⑨ 中村 3 0 0 0 0
H 9 山崎 1 0 0 0 0
④ 吉田 2 0 0 0 0
⑦ 小林晋 3 1 1 1 0
⑥ 葉坂 3 1 0 0 0
③ 大村 3 1 1 0 0
② 荒井 3 1 0 1 0
⑤ 古賀 3 0 0 0 0
① 登記 3 1 0 1 0
犠 併 残
1 0 3 28 6 2 3 0

回 安振球責
伊藤 8 6 3 0 2
回 安振球責
登記 9 4 8 0 1

▷本塁打＝大村1号（伊藤）▷犠打＝三1（横井）神1（吉田）▷盗塁＝神3（小林貴、小林晋、登記）▷失策＝三1（幡野）▷試合時間＝2時間10分

▽10月28日

第1試合＝準々決勝（午前9時26分開始）

九州産交	0	0	0	0	0	0	2	1	1 4
住友金属	2	0	0	1	0	0	2	2	X 7

▶審判（球審）中西（塁審）小林、三輪、森

【九州産交】打安点振球
④ 田代 5 2 1 0 0
⑥ 林 5 1 0 1 0
⑦ 来海 4 1 0 0 0
⑧ 井上新 3 1 1 1 0
⑨ 江口 2 0 0 1 0
H 9 上田 2 1 0 0 0
③ 中野 2 0 0 1 0
H 3 有村 2 0 0 0 0
② 松村 4 2 0 0 0
① 西谷 2 0 0 0 0
H 山口 1 0 0 1 0
1 門倉 0 0 0 0 0
1 末永 0 0 0 0 0
H 井上広 1 1 0 0 0
⑤ 坂東 2 1 2 0 2
犠 併 残
1 0 7 35 10 4 5 2

【住友金属】打安点振球
⑧ 西村 5 2 0 0 0
④ 清水 3 2 0 0 1
⑦ 川上 3 1 2 1 0
② 中村 3 0 1 2 0
③ 中原 4 3 1 0 0
R 宇山口 0 0 0 0 0
3 谷口 0 0 0 0 0
⑨ 三好 3 1 0 0 0
① 森 4 2 2 0 0
⑤ 古吟 2 0 1 0 1
5 松隈 0 0 0 0 0
⑥ 飯島 4 1 0 1 0
犠 併 残
5 1 7 31 12 7 4 2

回 安振球責
西谷 6 5 2 2 2
門倉 1 5 2 0 3
末永 1 2 0 0 0
回 安振球責
森 9 10 5 2 2

▷本塁打＝川上1号②（門倉）▷二塁打＝林、森▷犠打＝産1（井上新）住5（清水、川上、中村、三好、古吟）▷盗塁＝産1（井上新）住2（清水、中原）▷失策＝産4（田代、井上新、松村2）住2（中村、中原）▷試合時間＝2時間17分

第2試合＝準々決勝（午後0時10分開始）

電電信越	0	0	0	1	0	0	0	0	1
電電四国	0	0	0	0	0	4	0	0	X 4

▶審判（球審）高橋（塁審）鈴木、上杉、岸野

【電電信越】打安点振球
⑨ 田中 2 0 0 0 1
H 柴山 1 0 0 0 0
⑤ 西条 3 0 0 0 0
⑧ 篠原 4 0 0 0 0
③ 佐藤治 3 1 1 0 0
⑦ 石賀 3 0 0 0 0
④ 湖口 3 1 0 0 0
⑥ 望月 2 0 0 1 0
② 大石 2 0 0 0 0
H 藤森 1 0 0 0 0
2 城迫 0 0 0 0 0
① 佐藤公 2 0 0 0 0
H 山下 1 0 0 0 0
1 矢野 0 0 0 0 0
犠 併 残
2 0 2 27 2 1 1 1

【電電四国】打安点振球
⑧ 玉井 4 1 3 1 0
④ 景浦 4 1 0 0 0
⑨ 福谷 4 1 1 0 0
③ 松岡 3 0 0 1 0
⑦ 幸田 3 0 0 0 0
⑥ 高橋 3 0 0 0 0
⑤ 鎌土 3 1 0 0 0
① 小綿 1 0 0 1 0
H 菊池哲 1 1 0 0 0
R 北岡 0 0 0 0 0
1 小原 1 0 0 1 0
② 藤本 2 0 0 0 1
犠 併 残
0 0 2 29 5 4 4 1

回 安振球責
佐藤公 7 4 4 1 4
矢野 1 1 0 0 0
回 安振球責
小綿 6 2 1 1 1
小原 3 0 0 0 0

▷二塁打＝玉井、福谷、景浦▷犠打＝信2（西条、望月）▷盗塁＝信1（湖口）▷試合時間＝1時間53分

第3試合＝準々決勝（午後2時29分開始）

鐘淵化学	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松下電器	0	0	0	0	0	0	1	X	1

▶審判（球審）三宅（塁審）達摩、戸田、木嶋

【鐘淵化学】打安点振球
⑨ 長嶋 4 1 0 0 0
⑦ 井土 4 0 0 2 0
⑧ 中村 3 1 0 0 1
⑤ 米藤田 3 0 0 1 0
⑤ 藤村 4 0 0 0 0
② 三瀬 2 1 0 0 2
⑥ 大須賀 4 1 0 1 0
④ 山内 4 2 0 0 0
① 田中 2 0 0 1 0
犠 併 残
2 1 8 30 6 0 5 3

【松下電器】打安点振球
⑦ 8 浜田 4 0 0 1 0
④ 坂口 2 0 0 0 0
⑥ 山口 3 0 0 0 0
③ 鍛治舎 3 0 0 0 0
② 木原 2 0 0 1 1
⑨ 堀江 1 1 0 0 1
⑧ 磯本 2 0 0 0 0
H 7 石西 0 0 0 0 0
井越 0 0 0 0 0
① 福間 3 0 0 0 0
⑤ 平谷 3 1 1 1 0
犠 併 残
2 1 3 23 2 1 3 3

回 安振球責
田中 8 2 3 3 1
回 安振球責
福間 9 6 5 3 0

▷二塁打＝堀江▷犠打＝鐘2（米田、田中）松2（堀江、石井）▷盗塁＝松1（平谷）▷試合時間＝2時間1分

最高の出来だったが

◎…「わずか2安打しか打てない相手に負けるんですからねえ。でも負ける時はこんなものです」好投むなしく敗れ去った鐘淵化学の田中投手はぶ然とした表情。近畿予選で本塁打された松下電器・山口、鍛治舎を徹底してマーク、3打席とも凡退させ「今季最高のピッチング」（大河監督）だったが八回、平谷に適時打され取返しのつかない1点を失った。「真ん中低目に入ってしまった」と田中。「満塁のチャンス（四回）さえ何とかしてくれていたら……」と最後まであきらめきれない口ぶりだった。

▽10月29日

第1試合＝準決勝（午前9時58分開始）

住友金属	0	0	0	0	0	1	0	1	0 2
神戸製鋼	0	0	0	0	0	0	0	0	0 0

▶審判（球審）鈴木（塁審）上杉、木嶋、武村

【住友金属】打安点振球
⑧ 西村 4 3 0 0 0
④ 清水 3 1 0 0 1
⑦ 川上 3 0 0 1 0
H 小川 1 0 0 0 0
7 中林 0 0 0 0 0
② 中村 4 2 2 0 0
③ 中原 4 0 0 1 0
⑨ 三好 4 0 0 0 0
① 森 4 1 0 1 0
⑤ 古吟 0 0 0 0 1
H 高多 1 0 0 1 0
5 松隈 2 2 0 0 0
⑥ 飯島 2 0 0 1 0
犠 併 残
4 0 7 30 8 2 5 2

【神戸製鋼】打安点振球
⑧ 小林貴 4 1 0 0 0
⑨ 山崎 4 2 0 0 0
④ 吉田 3 2 0 0 1
⑦ 小林晋 4 0 0 1 0
⑥ 葉坂 4 0 0 1 0
③ 大村 4 1 0 0 0
② 荒井 4 0 0 0 0
⑤ 古賀 2 0 0 2 0
H 中村 1 0 0 0 0
5 三木 1 1 0 0 0
① 山本 3 1 0 1 0
1 登記 0 0 0 0 0
H 柏原 1 0 0 0 0
犠 併 残
0 0 9 35 8 0 5 1

回 安振球責
森 9 8 5 1 0
回 安振球責
山本 7⅓ 6 4 1 2
登記 1⅔ 2 1 1 0

▷二塁打＝森▷犠打＝住4（清水2、飯島2）▷盗塁＝神1（小林貴）▷失策＝住1（川上）▷試合時間＝2時間32分

住金・中村、決勝打

住友金属・森、神戸製鋼・山本両投手の投げ合いとなった。森はカーブ、山本は速球を武器に白熱した展開になったが、住金が先手を取った。

六回、西村が三遊間突破安打し、清水のバントで二進。二死後、中村が遊撃後方、左前にポトリと落ちる幸運な安打を放ち、西村が先制のホームイン。住金は八回にも先頭・松隈の安打を足場に二死満塁と攻め、神鋼二番手の登記からまたも中村が三遊間安打を放って西村を迎え入れ、貴重な追加点を挙げた。

前半は神鋼ペース。三回二死満塁と攻めたて、五回は二死後、山崎が右前打、吉田とのエンド・ランが成功して一、三塁としながら四番・小林晋がいずれも一ゴロに倒れた。

均衡を破ってからの森はすっかり立ち直った。六、七回を簡単に三者凡退に打ちとるなど危なげない投球だった。それにしても前半、押しに押しながら、ここ一番で一発に欠けた神鋼は不運だった。

第2試合＝準決勝（午後0時58分開始）

松下電器	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電電四国	0	0	0	0	2	0	0	0	X 2

▶審判（球審）三宅（塁審）中西、津田、樋

【松下電器】打安点振球
⑦ 浜田 4 2 0 1 0
④ 坂口 4 1 0 0 0
⑥ 山口 4 1 0 0 0
③ 鍛治舎 4 0 0 0 0
② 木原 4 1 0 0 0
⑨ 堀江 3 1 0 0 0
⑧ 磯本 2 0 0 0 0
① 長谷部 2 0 0 1 0
1 福間 1 0 0 0 0
⑤ 平谷 3 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 5 31 6 0 2 0

【電電四国】打安点振球
⑧ 玉井 3 1 2 0 0
④ 景浦 4 0 0 2 0
⑨ 福谷 4 0 0 2 0
③ 松岡 2 1 0 0 2
⑦ 幸田 1 0 0 0 1
⑥ 高橋 3 1 0 0 0
⑤ 鎌土 2 0 0 0 0
① 小原 3 1 0 2 0
② 藤本 1 0 0 0 2
犠 併 残
3 1 5 23 4 2 6 5

回 安振球責
長谷部 5⅓ 3 4 5 2
福間 2⅔ 1 2 0 0
回 安振球責
小原 9 6 2 0 0

▷二塁打＝山口、浜田▷犠打＝松1（磯本）四3（玉井、幸田、鎌土）▷盗塁＝松1（浜田）四3（幸田、高橋、藤本）▷失策＝松1（鍛治舎）▷試合時間＝1時間47分

電電、五回、長谷部を攻略

電電四国は小原が松下電器に三塁を踏ませない好投を見せ、五回、玉井の遊撃強襲打が不規則安打になる幸運に恵まれて、優勝戦進出を遂げた。

電電は松下・長谷部を攻めたが、二回、松岡の左前打とバントでつかんだ無死一、二塁にサインの違いからか、二塁走者が飛び出して刺される拙攻。三回も一死二塁で藤本が捕手のけん制に刺されるなど、拙い攻めが続いた。五回は左前打の高橋と四球の藤本をバントや盗塁で進め、二死二、三塁の好機。このあと玉井の遊ゴロが不規則安打となって遊撃手の股間を抜け、外野に転がる間に2人がホームを駆け抜けた。

電電の小原はカーブ、シュートを武器に好投。松下は6安打を放って再三得点圏に走者を出したが、後続なく敗れた。特に四、五回の一死二塁、六回の無死二塁などの場面で、小原が速球やシュートを使って後続を断ち、三塁を踏ませなかったのは見事だった。

気負いもなくひょうひょう

――電電四国の小原

◎…電電四国の小原投手は松下電器の最後の打者木原を遊撃フライに打ちとり、マウンドを降りると、帽子をとって藤本捕手に手をさしのべ、がっちり無言の握手。全国大会では初の優勝戦進出を決めた快投の主は、さぞうれしかろうという予想に反し、開口一番「いや疲れましたわ。変化球を投げすぎて、手がしびれてしまい、握力がなくなってしまった」。この日は「変化球でかわしていこう」という作戦だったそうで、シュート、スライダーを多投。これが低めに決まり、松下打線についに連打を許さなかった。

「六回、先頭打者にカーブを二塁打されたときが一番苦しかった。次の打者の痛烈な当たりをライトがとってくれてから"いける"と思った」そうだ。小原投手は「明日は最後やけん、ほおります。自信？投げてみんとわからんねえ。波があるほうやけん」。気負うでもなく、投球と同じようにひょうひょうとしていた。

▽10月30日

優勝戦（午後1時58分開始）

電電四国	0	0	0	0	0	0	1	0	1
住友金属	1	0	0	0	0	0	0	1	2

▶審判（球審）鈴木（塁審）中西、三宅、高橋

【電電四国】

	打	安	点	振	球
⑧ 玉井	5	0	0	1	0
④ 景浦	3	0	0	1	1
⑨ 福谷	4	0	0	0	0
③ 松岡	2	0	0	1	0
3 菊池哲	2	1	0	0	0
⑦ 幸田	3	1	0	1	1
⑥ 高橋	4	1	0	0	0
⑤ 鎌土	4	1	0	2	0
① 小原	3	0	0	1	0
② 藤本	4	1	0	1	0
犠 併 残					
1 1 6	34	5	0	8	2

	回	安	振	球	責
小原	9	4	2	0	2

【住友金属】

	打	安	点	振	球
⑧ 西村	4	1	0	0	0
④ 清水	3	0	0	1	0
⑦ 川上	4	0	0	0	0
② 中村	4	1	1	0	0
③ 中原	4	2	0	0	0
R 宇山	0	0	0	0	0
⑨ 三好	3	0	0	0	0
① 森	3	0	0	1	0
⑤ 松隈	3	0	0	0	0
⑥ 飯島	3	0	0	0	0
犠 併 残					
2 0 4	31	4	1	2	0

	回	安	振	球	責
森	10	5	8	2	1

▷二塁打＝中原 ▷犠打＝四1（小原）住2（清水、三好）▷盗塁＝四3（景浦、菊池哲、鎌土）住1（西村）▷失策＝四1（小原）▷暴投＝森、小原 ▷試合時間＝2時間5分

住金、粘りの栄冠、史上初の延長決戦

暴投で追いつかれた住友金属が、暴投で決勝点を挙げたが、4試合を一人で投げきった森を中心とする粘りの優勝といえる。

住金は一回、先頭の西村が中前打。一死後。西村は二盗し、川上の遊ゴロ野選と中村の一塁頭上に高くはねあがる内野安打で先制のホームイン。住金の森は鋭いカーブを要所で決めて力投した。

電電四国の小原もリキまず森と投げ合った。住金が1点を守りに入ったから、小原の緩急巧みな配球は思うツボ。住金はタイミングが合わず、凡退を繰り返した。

電電は九回二死、幸田、高橋が連打して一、三塁と反撃。あと一人と硬くなった森が鎌土に投げた2球目が暴投となって同点、延長に入った。

住金は十回無死で中原が三塁線を破る二塁打、三好の投前バントが野選を誘って一、三塁。森への初球が外角高く外れ、暴投となって住金が勝った。

監督談話

住友金属・松永怜一監督　大黒柱の森の入社、新人・西村を一番に起用したことも勝因のひとつだが、日ごろの練習が実を結んだと思う。

電電四国・武田喬之監督　無失策できていたのに、立ち上がりに乱れが出て…。選手は硬くなっていた。最後まであきらめずに戦ったが、それ以上に住金が粘り強かった。

監督ひと

住友金属 松永　怜一監督

これまで3試合に勝ったあとも、表情を和らげなかった。やっと笑顔を見せたのはナインにかつぎあげられ、秋空に大きくはねたときだった。

初回に先取点を取ったが、一死満塁に強攻して1点どまり。「強攻せざるを得ない場面だったが、結果的には失敗した。せめて3点取っていれば楽にいけるところだった。しかし暴投のあと、また暴投で決勝点。信じられないことが優勝戦になると出てくるものですね」。勝っても手放しで喜ばないないのはいつもと同じである。

法大で田淵、山本、富田の第二期黄金時代を築いたあと、1971年から住友金属へ。社会人監督となって7年目で初の日本チャンピオンだった。

基本に忠実なプレー、考えるプレーをやかましく説く。練習では「決して妥協しない厳しさ」（中村主将）で選手を鍛えている。「森という好投手に恵まれたことと、先頭打者として4試合とも塁に出た新人・西村が大きかった」。

11月10日からニカラグアで開かれるインタ・コンチネンタル・カップ大会に全日本チームを率いて出場する。

住友金属和歌山製鉄所厚生課参事、法大出、46歳。

〔優勝戦〕電電四国－住友金属　延長十回裏、住友金属無死一、三塁、打者・森の時、暴投で三塁走者の宇山がホームイン。喜びのナインに迎えられる。

あっ、高い！土壇場、幕切れは暴投

熱球

わずかなスキが土壇場でドラマを演出する。ダイヤモンド旗を目前にした両チームは、信じられないような乱れをのぞかせ、"秋の甲子園"を今シーズン最後の興奮に巻き込んだ。

住友金属は一回に1点を奪って九回二死。電電四国の打者をあと一人と追い込んだ。マウンド上の森は、初戦から4連投。それでもまだ投げる力をあましていた。その森に、駒大の先輩・幸田が右前へはじく。高橋も中前打だ。二死一、三塁のピンチでも住金ベンチはまだ静まり返っていた。硬さのほぐれた電電から1点しか奪えず、一死満塁の好機に併殺でつぶしたシーンが「気になって、試合中ずっとナインに悪影響を与えた」と松永監督。反対に三塁側電電ベンチは全員が立ち上がっていた。

打者鎌土の2球目、森の投球は意外にも外角へバウンドする暴投となった。「勝ち急いで、切れのよいシュートを投げようとして肩の力が入った」と116投目の失投を悔いる森。内角シュートを指示していた中村は、意表を突く外角のショートバウンドにミットを当てることも出来なかった。そして幸田が同点のホームを踏んだ。

それでもダイヤモンド旗は揺れもしなかった。振り出しに戻っただけだ。十回裏、今度は住金の中原が左翼線二塁打した。一回、中原が放った投前安打以来、実に27打席目に電電・小原が許したこの日4本目の安打だった。住金はすかさずバントで送る。これが小原の野選を誘って無死一、三塁。打席に森が立った。

その第1球、小原はウエストボールを藤本のミットが追った。その一瞬、投球はミットをかすめてバックネットへ…。

ちらりと三塁走者に目をやった藤本が、投球に視線を戻したとき「マスクの陰になった」のだ。あっけない幕切れ。代走に出ていた宇山が歓喜のホームを踏んだ。このとき初めて住金ベンチがどっと沸いた。胴上げ、握手、歓声。あっけにとられて立ちつくす電電ナイン。ふたつのハプニングが優勝戦の終盤を駆け抜けた。

好リードのベテラン捕手・中村の肩の衰えを突いて走り回り、三回から森を攻めまくった電電。一回、若い捕手藤本の送球の乱れを見逃さず、西村に二盗させて、電電内野陣をかきまわした住金。輝かしいダイヤモンドというより、地味ないぶし銀の旗でも争うように、コツコツと堅実に争った優勝戦は、土壇場の乱れから一気に劇的なドラマへと転換した。

「努力で住金に負けぬ。これまで無失策できたのも練習の成果」と試合前、胸の内を語った電電の武田監督。「今の社会人野球は力の差がない。基本をしっかりやって都市対抗以後も練習を減らさなかった」と住金・松永監督。わずかに好投手森を持つ住金が上回ったが、両チームの努力の跡には優劣をつけることは出来ない。

（西川　治一）

◆ 住金社員一丸、Vに酔う ◆

優勝した住友金属の中村裕二主将が、ダイヤモンド旗を一塁側スタンドへ向かって高々と差し上げた。スタンドを埋めた2,000の住金応援団はウワーとかん声、一人残らず立ち上がって拍手、拍手、拍手。日向方斉会長も、ベテラン社員も、16歳の研修生も。

日曜の夕ぐれの甲子園、第4回大会の閉会式で住友金属はグラウンドの選手とスタンドの社員が一体となって"勝利"をうたい上げた。

この日は日曜日。「いくら住友とはいえ、若い層などでは企業意識が希薄になっているし、予想外の優勝戦進出やし、果たしてどのくらい動員ができるか…」と応援の裏方さんのヤキモキも試合開始前にふっとんだ。ゲーム開始の午後2時には社員たちが一塁側のスタンドを埋め、ネット裏にまではみ出した。約2,000人。

応援席中央には住金和歌山製鉄所研修生が40人。佐賀県の有明中出身で寮生活を送っている原崎和秀君(18)は「寮を出発する時、精一杯応援してこいと言われました。絶対勝ってほしい」と応援の拍手で手のひらは真っ赤、最後は声もかすれていた。

「野球は最後までわかりませんね。暴投で同点にされたと思ったら、十回に暴投でサヨナラ。この浮き沈み、企業も仕事も同じことだ、と今度社員訓示で披露します」と初代野球団長の日向会長も目を細めて、初優勝を喜んだ。

一方、三塁側の電電四国の応援団は、松山市からの遠来組のほか、準決勝から"助っ人"にはせ参じた地元の電電近畿の応援団や「住金強し」の下馬評を見た判官びいきの地元野球ファン約500人。にわか混成部隊の応援だったが"団結"住金とは一味違う迫力で選手を励ました。

第4回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　森繁和投手**(住友金属)　何よりも優勝出来たことが最高の喜び。きょうは調子はよくなかったが、僕なりによくしようと努力しました。4連投？勝ち進んでくるとこうなることは覚悟していました。

◇**敢闘賞　小原慶司投手**(電電四国)　ようここまで残れました。十回の暴投は不運でした。全国大会で賞をもらうのは初めてです。

◇**優秀選手**

【投手】森繁和(住友金属)小原慶司(電電四国)福間納(松下電器)登記欣也(神戸製鋼)佐藤公弘(電電信越)門倉和博(九州産交)
【捕手】木原弘人(松下電器)中村裕二(住友金属)　**【一塁手】**大村雅文(神戸製鋼)　**【二塁手】**吉田和幸(神戸製鋼)湖口一幸(電電信越)田代文博(九州産交)　**【三塁手】**平谷拓(松下電器)鎌土隆志(電電四国)　**【遊撃手】**葉坂良一(神戸製鋼)飯島淳(住友金属)　**【外野手】**西村博己(住友金属)玉井隆彦(電電四国)堀江隆樹、浜田雄次(以上松下電器)小林貢(神戸製鋼)井上新一(九州産交)

野球で世に新風を！

日本野球連盟副会長
(会長代行)
山　本　英一郎

1972、73年の頃、日本の経済構造も戦後の修復を終えて転換期を迎えていた。産業野球界も当然、その影響を受けて炭鉱、国鉄、紡績等、かつては華やかに活動していた部門に大きなかげりが見えてきた。

現在の日本選手権大会の前身、産業別対抗野球大会は51年にスタート、会場は東京の後楽園球場を使用してきた。しかし前述の理由で産業界の盛衰とともに野球界の地盤変化をもたらした。同時に一方で夏の都市対抗野球が企業対抗の色彩を強めてきて、産業別対抗への力入れが弱まってきたのはやむを得ないことだった。

時の社会人野球協会会長は東京ガスの本田弘敏氏であり、副会長を佐伯達夫氏が努められていた。この2人の先輩に、私は次のように進言したのを今でも覚えている。

社会人連盟が49年に発足する前は、関東と関西の両実業団連盟が全国の社会人野球をリードしてきた。しかも東京と大阪は日本経済の中核を成してきた。東京で都市対抗が今日まで成熟してきたのに対抗して、大阪にもう一つの社会人大会があってもよいのではないでしょうか、と。

また時機到来というのか、産業別対抗が往時の勢いを失ったのでこれを発展的に解消して、都市対抗に対し単一チームによる日本選手権を大阪に新設してはいかがでしょうか、と。

佐伯さんが力強く「よっしゃ、やろう」と言われたのが、ちょうど今から20年前だった。

甲子園球場で産声をあげたこの大会も、次の大阪球場を経て、現在のグリーンスタジアム神戸に移ったのは、4年前になる。神戸市が新球場を創る時に、何かふさわしいイベントはないかと言ったのが、時の市長、宮崎さんと助役の笹山さん(現市長)だった。

1988年、ソウルオリンピックの年であり、出場4か国を招いてオリンピックの前哨戦を行った。そして続いてわが日本選手権大会の移転と大学選手権大会の計画を話し合ったのが、ついこの間のような気がする。

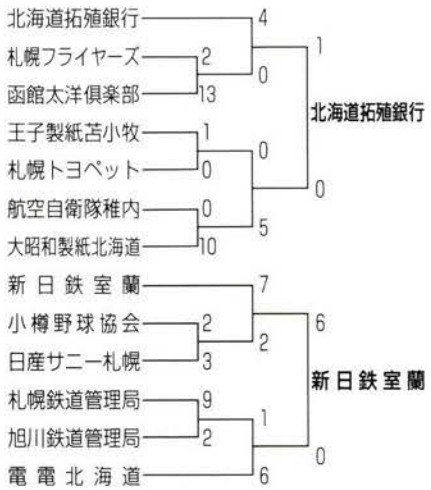
緑に包まれた美しい球場で日本選手権も回を重ねて、第20回大会を迎えた。ダイヤモンド旗と佐伯杯も、歴史の輝きに一段と重みを増してきた。近畿連盟と神戸市のご尽力で、全国の各チームが都市対抗とともに日本選手権にかける意気込みをひしひしと感じられるのは、誠に慶ばしいことである。時あたかも変革と不況の嵐が吹き荒れる今こそ、野球で世に新風を起こそうではありませんか。

第4回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月22日から　4日間　　札幌市営円山球場



東北大会

▶一次予選

◇**青森▽一回戦**　きものセンターク８－１オール青森、三菱製紙八戸４－２自衛隊青森▽**敗者復活戦**　オール青森６－０自衛隊青森▽**準決勝**　きものセンターク３－１三菱製紙八戸、八戸市水道部10－０オール青森▽**決勝**　八戸市水道部10－０きものセンターク（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手▽一回戦**　福高ク４－１一関ユニオンク、新日鉄釜石６－３アイワ▽**二回戦**　岩手銀行（不戦勝）オール江刺、盛岡鉄道管理局４－０釜石信金ク、オール宮古５－２オール不来方、一関三星ク10－１オール釜石、県経済連１－０東京製綱、全久慈（不戦勝）盛友ク、福高ク４－１小野田セメント、新日鉄釜石（不戦勝）一戸桜陵ク▽**準々決勝**　岩手銀行７－０福高ク、盛岡鉄道管理局８－３オール宮古、県経済連１－０一関三星ク、新日鉄釜石10－１全久慈▽**準決勝**　岩手銀行３－２盛岡鉄道管理局、新日鉄釜石５－１県経済連（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　新日鉄釜石６－５岩手銀行

◇**秋田▽一回戦**　秋田相互銀行５－１秋田鉄道管理局、東北肥料４－４秋田経大校友ク＝引き分け再試合、東北肥料12－５秋田経大校友ク▽**準決勝**　秋田銀行10－７秋田相互銀行、ＴＤＫ４－３東北肥料▽**決勝**　ＴＤＫ３－１秋田銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**宮城▽一回戦**　仙商ク（不戦勝）亘ク▽**準決勝**　電電東北２－１東北ク、仙台鉄道管理局２－１仙商ク▽**決勝**　仙台鉄道管理局５－１電電東北（勝者は第二次予選へ）

◇**山形▽代表決定戦**　山形相互銀行４－０鶴岡ヤンガース（勝者は第二次予選へ）

◇**福島▽一回戦**　オール郡山８－７須賀川ク、全白河野球ク８－０ニュー相馬▽**二回戦**　飯塚病院ク４－１オール郡山、二本松ク４－３学石ＯＢ、オール常交（不戦勝）福島ク、小峰ク６－４ＳＧク、全白河ク３－０小名浜ク、ミドリ十字ク３－０原田ク、塙ク１－０自衛隊福島、ヨークベニマル８－０保原ク▽**準々決勝**　飯塚病院７－６二本松ク、オール常交10－４小峰ク、全白河ク５－１ミドリ十字ク、ヨークベニマル10－０塙ク▽**準決勝**　オール常交８－１飯塚病院ク、ヨークベニマル２－１全白河ク▽**決勝**　ヨークベニマル２－０オール常交（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月23日から　2日間　　岩手県営球場

関東大会

▶一次予選

◇**茨城▽一回戦**　住友金属鹿島７－２日立製作所、水戸鉄道管理局５－４東日本薬品▽**決勝**　住友金属鹿島16－０水戸鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**群馬▽一回戦**　全太田８－１伊勢崎レッドソックス、全前橋３－１硬友ク▽**準決勝**　高崎鉄道管理局６－０全太田、富士重工業８－０全前橋▽**決勝**　富士重工業14－３高崎鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**埼玉▽一回戦**　全浦和６－４戸田中央病院、日産ディーゼル10－０飯能高ＯＢク、本田技研５－０エーザイ▽**準決勝**　日本通運７－１全浦和、本田技研８－０日産ディーゼル▽**決勝**　日本通運３－２本田技研（勝者は第二次予選へ）

◇**千葉▽一回戦**　川鉄千葉５－３三井造船千葉▽**準決勝**　電電関東10－１千葉鉄道管理局、川崎千葉９－１新日鉄君津▽**決勝**　川鉄千葉３－１電電関東（勝者は第二次予選へ）

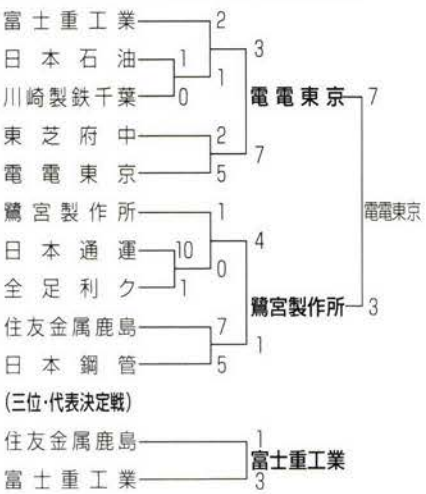
◇**東京▽一回戦**　鷺宮製作所５－３東京ガス、明治生命４－３朝日生命、電電東京２－０東京鉄道管理局、リッカー１－０熊谷組▽**準決勝**　鷺宮製作所６－３明治生命、電電東京６－０リッカー（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　鷺宮製作所２－１電電東京

◇**東京多摩▽一回戦**　東芝府中６－１全調布、全府中４－１オールスリーボンド▽**決勝**　東芝府中10－１全府中（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川▽一回戦**　三菱重工横浜６－０横浜高島屋、いすゞ自動車４－１相模原市役所、清工建設２－０キャタピラー三菱▽**準々決勝**　日産自動車８－４三菱自動車川崎、日本鋼管３－１三菱重工横浜、東芝５－３いすゞ自動車、日本石油６－１清工建設▽**準決勝**　日本鋼管３－１日産自動車、日本石油３－１東芝（勝者は第二次予選へ）▽**三位決定戦**　東芝３－１日産自動車▽**決勝**　日本鋼管５－０日本石油

▶二次予選

10月7日から　4日間　　群馬県営敷島球場



中部大会

▶一次予選

◇**新潟▽一回戦**　オール北越９－０信濃ク、小千谷ク６－１新津ク、全飯豊８－３長商ク、白根ク８－１オール東、新潟コンマーシャル15－２明石ク、長岡ク５－２新潟ク▽**準々決勝**　国鉄新潟９－２オール北越、小千谷ク９－０全飯豊、新潟コンマーシャル９－４白根ク、平和ク４－３長岡ク▽**準決勝**　小千谷ク６－５国鉄新潟、平和ク７－２新潟コンマーシャル▽**決勝**　小千谷ク６－４平和ク（勝者は第二次予選へ）

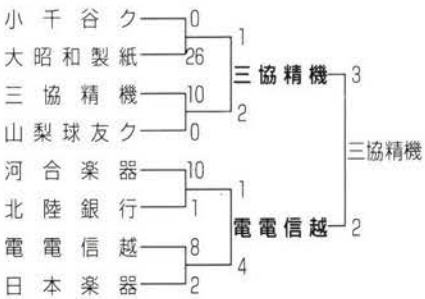
◇**山梨▽一回戦**　山梨ク４－３峡北ク、山梨球友ク６－１オール櫛形▽**決勝**　山梨球友ク９－５山梨ク（勝者は第二次予選へ）

◇**静岡▽一回戦**　清水ク５－３清水タイガース、岳南ク３－１東芝富士、静岡物産ク13－13富士エンゼルス＝引き分け再試合、静岡物産ク７－０富士エンゼルス、駿河ク８－１清豊ク▽**準々決勝**　大昭和製紙13－０清水ク、日本楽器15－０岳南ク、関東自動車工業８－７駿河ク、河合楽器16－１静岡物産ク▽**準決勝**　大昭和製紙６－１日本楽器、河合楽器12－０関東自動車工業（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　大昭和製紙８－０河合楽器▽**第三代表決定戦**　日本楽器７－２関東自動車工業（勝者は第二次予選へ）

◇**富山▽三回戦制**　北陸銀行４－１電電富山、北陸銀行３－０電電富山（北陸銀行は第二次予選へ）

▶二次予選

9月23日から　3日間　諏訪スポーツセンター



東海・北陸大会

9月26日から　8日間　愛知県営熱田球場

近畿大会

▶一次予選

◇**京都**▽一**回戦**　ユニチカ5－1京都市役所、キョートビルク7－3洛友ク、辻和1－0京都信用金庫、大丸8－3第一紙行、三菱自動車6－2西京ク▽**準々決勝**　辻和8－2丸勝、大丸5－3日本新薬、三菱自動車京都10－1高島屋京都、ユニチカ8－3キョートビルク(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　辻和7－0ユニチカ、大丸2－1三菱自動車京都▽**決勝**　大丸2－0辻和

◇**大阪**▽一**回戦**　全三和銀行3－2高島屋、大和銀行3－0住友銀行、電電近畿15－0大阪ペーシェンス▽**準々決勝**　日本生命6－0全三和銀行、新日鉄堺4－0旭化成、松下電器7－0大和銀行、電電近畿6－1デュプロ(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　日本生命7－4新日鉄堺、電電近畿3－2松下電器▽**決勝**　日本生命5－0電電近畿▽**敗者復活一回戦**　全三和銀行16－0旭化成、デュプロ3－1大和銀行▽**第五代表決定戦**　デュプロ6－0全三和銀行(勝者は第二次予選へ)

◇**兵庫**▽一**回戦**　石川島播磨重工業2－1小西酒造、鐘淵化学5－4新日鉄広畑、三菱重工神戸4－2川崎重工神戸、川鉄神戸1－0神戸製鋼▽**準決勝**　鐘淵化学8－1石川島播磨重工業、三菱重工神戸5－2川鉄神戸▽**決勝**　鐘淵化学3－2三菱重工神戸(準決勝進出4チームと推薦の神戸製鋼は第二次予選へ)

▶二次予選

10月6日から　4日間　西京極、皇子山球場

中国大会

▶一次予選

◇**岡山**▽**リーグ戦**　川鉄水島11－1三井造船玉野、川鉄水島5－4三菱自動車水島、三菱自動車水島9－1三井造船玉野(3チームとも第二次予選へ)

◇**広島**▽一**回戦**　常石鉄工5－0山本鋼材▽**準々決勝**　三菱重工広島1－0日本鋼管福山、東洋工業4－3国鉄広島、電電中国6－4広島マツダ、常石鉄工3－1三菱重工三原▽**準決勝**　三菱重工広島4－0常石鉄工、電電中国6－3東洋工業▽**三位決定戦**　常石鉄工1－0東洋工業▽**決勝**　三菱重工広島9－1電電中国(3位までが第二次予選へ)

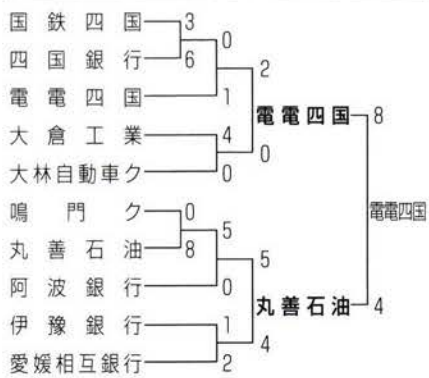
◇**山口**▽一**回戦**　田辺製薬6－0あいけいク▽二**回戦**　新日鉄光2－1協和発酵、田辺製薬4－0全防府▽**決勝**　新日鉄光9－0田辺製薬(新日鉄光と田辺製薬は第二次予選へ)

▶二次予選

9月15日から　3日間　岡山県営球場

四国大会

9月23日から　4日間　高知市野球場



九州大会

9月22日から　4日間　鹿児島県営鴨池球場

第4回大会出場選手等一覧（○は主将）

北海道拓殖銀行

監督	西村　博司	40	明　治	大
投手	千藤　和久	29	中京商	高
〃	山口　敏男	25	池　田	高
〃	柴田　正明	25	中　京	大
〃	松田　雅晴	25	駒　沢	大
〃	峰尾　晃	24	関東学院	大
〃	鎌田　孝彦	20	帯広三条	高
〃	中村　明志	20	札幌商	高
捕手	竹内　昭文	26	法　政	大
〃	船木　敏夫	23	函館有斗	高
〃	西原　卓	22	大　商	大
〃	松井　一敏	20	札幌商	高
内野	○高岡　茂夫	27	法　政	大
〃	金谷　清治	26	江　差	高
〃	山中　富夫	23	日　本	大
〃	海老名敏彦	22	中　京	大
〃	田伏　清美	22	近　畿	大
〃	大滝　敏之	22	駒　沢	大
〃	小川　信吉	22	立　教	大
外野	梅田隆比克	29	日　本	大
〃	坂佐井　修	26	駒　沢	大
〃	丸山　幸雄	25	中　央	大
〃	奥田　剛央	24	明　治	大
〃	小島　和彦	23	慶　応	大
〃	坂田　竹治	22	亜細亜	大
〃	中根　史郎	22	愛知工	大

新日本製鐵室蘭

監督	島津　行高	36	慶　応	大
投手	財前　純二	29	佐　倉	高
〃	土屋　隆幸	28	市　川	高
〃	浜師　勝彦	24	伊　達	高
〃	竹本由紀夫	21	修善寺工	高
〃	稲場　孝	21	芦別工	高
〃	水本　隆	20	室蘭大谷	高
〃	浅川　輝彦	20	韮崎工	高
捕手	後藤　哲夫	29	興譲館	高
〃	小林八守雄	26	北　海	高
〃	山中　亨寿	21	室蘭大谷	高
〃	佐野　修二	20	市　川	高
内野	○朝倉　年明	30	北　海	高
〃	荒野　悟	28	登別大谷	高
〃	大塚　邦弘	24	北　海	高
〃	古池　憲宝	23	北見工	高
〃	神坂　明	22	札幌商	高
〃	鹿田　和彦	21	旭川竜谷	高
〃	野城　利衛	19	札　幌	商
外野	安西　秀親	28	道産業短	大
〃	前原三喜生	27	千　葉	工高
〃	島尻　均	23	北見柏陽	高
〃	岡田　仁	22	室　蘭	工高
〃	堀松　洋伸	19	東　北	高

新日本製鐵釜石

監督	藤原　正己	34	秋田商	高
投手	高橋　千秋	26	秋田市立	高
〃	大湯　康司	19	弘前工	高
〃	大野　修	21	矢　島	高
〃	田中　寿一	25	社	高
〃	黒沢　義文	22	大　槌	高
〃	斉藤　範彰	24	亘　理	高
捕手	佐藤　和良	22	釜石工	高
〃	木川　健一	22	宮古水産	高
〃	長田　裕幸	22	明　星	高
内野	佐々木幸雄	23	花巻商	高
〃	佐藤　幸雄	31	花巻商	高
〃	渋谷　修二	27	帝　京	高
〃	早瀬　修	22	仙台育英	高
〃	平間　徹	19	気仙沼	高
〃	田沢　一仁	19	弘前工	高
〃	藤原　興	23	花巻商	高
〃	松田　裕光	21	気仙沼	高
〃	日高　明彦	26	名電工	高
外野	伊東　昭夫	26	銚子市立	高
〃	平川　澄	19	弘前工	高
〃	○三上　広見	28	黒沢尻工	高
〃	小林　正治	28	成　東	高
〃	菊池　弘之	22	花巻商	高
〃	藤原　満	23	釜石北	高
〃	藤原　正己	34	秋田商	高

岩手銀行

監督	村田　豊	33	日　本	大
投手	浅野　公男	33	東北学院	大
〃	小笠原敬二	27	慶　応	大
〃	滝村　正彦	20	盛岡商	高
〃	三河　勝彦	25	千　厩	高
〃	坂本　修	23	明　治	大
〃	及川　清士	25	岩谷堂	高
〃	升屋　正行	28	宮古商	高
捕手	伊東　孝	24	日　本	大
〃	高橋　誠	24	東北学院	大
〃	向井　一	19	福　岡	高
内野	村田　豊	33	日　本	大
〃	○安保　博夫	28	日　本	大
〃	水留　政志	23	釜石北	高
〃	小笠原竹美	29	法　政	大
〃	佐々木直行	20	高　田	高
〃	大久保芳幸	23	宮古商	高
〃	千田　光春	19	水沢商	高
〃	和田　政喜	20	一関一	高
〃	高橋　勝義	24	東北学院	大
外野	佐々木俊則	25	東北学院	大
〃	福島　佳明	21	盛岡商	高
〃	千田　伸生	28	早稲田	大
〃	高橋　昭一	27	花巻北	高
〃	阿部　真一	22	宮古商	高

電電東京

監督	富永　重善	33	立　教	大
投手	内田　正美	29	東　洋	大
〃	村上　和彦	22	早稲田	大
〃	森　二郎	28	駒　沢	大
〃	佃　和弘	20	熊本工	高
〃	若杉　数好	24	亜細亜	大
〃	竹桝　和也	22	亜細亜	大
〃	高根沢恒夫	22	駒　沢	大
捕手	樋江井秀典	22	名電工	高
〃	新井　公一	27	桐生工	高
〃	安藤　隆	21	九州工	高
〃	赤坂　正昭	26	大阪商	大
内野	下町　強	23	帝　京	大
〃	八谷　文章	18	日田林工	高
〃	○橋爪　昭二	27	国士舘	大
〃	原科　政市	26	駒　沢	大
〃	小川　敏之	24	竜ケ崎一	高
〃	星　達也	24	中　央	大
〃	大島　守	26	国士舘	大
〃	二宮　吉雄	23	拓　殖	大
外野	吉本　功	22	国士舘	大
〃	鈴木　茂樹	22	早稲田	大
〃	矢治　達夫	25	帝　京	大
〃	掛川　浩	22	帝　京	大
〃	江畑　義明	23	関東学院	大
〃	青木　康彰	22	専　修	大

鷺宮製作所

監督	有本　勲	32	静　岡	高
投手	山田　剛	18	山口鴻城	高
〃	河原　文男	20	広田水産	高
〃	広田　明朗	20	三　条	商高
〃	米沢　晴己	22	関東学院	大
〃	三谷　又衛	23	関東学院	大
捕手	有本　勲	32	静　岡	高
〃	谷口顕太郎	23	亜細亜	大
〃	吉田　勉	26	帝　京	大
内野	弓木田　徹	22	法　政	大
〃	古葉　淳	22	熊本工	高
〃	手塚　佳見	26	駒　沢	大
〃	米村　正幸	23	東　海	大
〃	高橋　英一	26	大東文化	大
〃	市川　博之	22	帝　京	大
〃	山本　一人	20	福岡第一	高
〃	中本　尚	25	早稲田	大
〃	松下　新一	22	法　政	大
外野	川島　満士	22	愛知学院	大
〃	渡辺　淳二	25	早稲田	大
〃	梅原　昌	29	駒　沢	大
〃	○新美　進	27	神奈川	大
〃	川原　正也	21	佐世保工	高

富士重工業

監督	木村　一夫	46	日　本	大
投手	谷　良治	19	関東学園	高
〃	木村　宏	23	中　央	大
〃	橋本　敬司	19	熊谷農	高
〃	丸本　隆行	22	桐生工	高
〃	三浦　誠	28	東　洋	大
〃	大阿久文雄	20	栃木工	高
捕手	小島　正人	20	松商学園	高
〃	鏑木　陽一	20	樹　徳	高
〃	船岡　久之	21	高崎商	高
〃	村上　修	29	日大一	高
内野	富田　広己	25	高崎商	高
〃	小間　哲雄	24	駒　沢	大
〃	石原　清忠	19	松商学園	高
〃	柳沢　一美	19	前橋育英	高
〃	長壁亥佐雄	25	高崎商	高
〃	茂木　啓司	29	松商学園	高
〃	斉藤　文彦	21	東農大二	高
〃	関崎　明彦	20	高崎商	高
〃	山本　雄嗣	29	駒　沢	大
外野	○内藤　光夫	28	関東学園	高
〃	蝦沢　道明	26	桐生工	高
〃	東野　幸雄	25	鎌倉学園	高
〃	高橋　利幸	20	関東学園	高
〃	岸　久男	19	東農大二	高
〃	吉沢　康広	19	熊谷商	高

三協精機

監督	光沢　毅	40	明　治	大
投手	白川不三夫	26	東　洋	大
〃	鈴木　誠	19	能　代	高
〃	小嶋　正宣	22	東　洋	大
〃	大塚喜代美	23	桐蔭学園	高
〃	伊藤　弘利	22	大同工	高
〃	平田　恒夫	21	中京商	高
〃	榎本　悦生	18	柳ケ浦	高
捕手	鈴木　勇夫	22	中　京	大
〃	中村　昭	19	上　尾	高
〃	古川　義弘	29	明　治	大
〃	小林　文康	22	中京商	高
内野	青柳　晃	22	法　政	大
〃	佐藤　広美	25	明　治	大
〃	丸茂　恒幸	22	明　治	大
〃	幡野　正秋	31	神奈川	大
〃	坂田　松一	22	亜細亜	大
〃	樋江井忠臣	24	中　京	高
〃	田中　昌宏	22	大　商	大
〃	西岡　茂	18	西　条	高
外野	横井　勲	22	明　治	大
〃	○佐々　弘雄	29	中　京	大
〃	鈴木　実	24	豊　南	高
〃	小根森末男	26	亜細亜	大
〃	豊国　利一	26	日本体育	大
〃	佐々木正行	22	法　政	大

電電信越

監督	関　美喜男	40	穂　高	高
投手	矢野　一雄	23	国士舘	大
〃	佐藤　公弘	25	国士舘	大
〃	鈴木　清吾	22	東　農	大
〃	安藤奈賀男	20	松本工	高
〃	柳沢　敏幸	27	小諸商	高
〃	小尾　純敏	22	日　本	大
〃	鈴木　洋一	23	亜細亜	大
〃	武井　信司	20	長野商	高
捕手	山下　和男	22	上武一	高
〃	城迫　一美	22	専　修	大
〃	大石　久夫	25	専　修	大
内野	湖口　一幸	27	駒　沢	大
〃	○佐藤　治	27	丸子実	高
〃	望月　克己	23	専　修	大
〃	西条　明博	22	専　修	大
〃	柳瀬　尚文	25	国士舘	大
〃	藤森　国彦	21	松商学園	高
〃	大塚　智	19	丸子実	高
外野	中牧　盛登	28	大　町	高
〃	石賀　敏夫	24	日　本	大
〃	八木　勝己	24	日　本	大
〃	田中　良幸	23	国士舘	大
〃	柴山　晋一	23	専　修	大
〃	篠原　芳和	25	日　本	大

電電東海

監督	西松　征雄	33	明　治	大
投手	杉山　和由	20	中　遠	工高
〃	大場　昭男	18	静岡学園	高
〃	中村　修史	18	県岐阜商	高
〃	山口　敏樹	25	福　岡	大
〃	袴田　晃弘	25	専　修	大
〃	小森　三由	21	愛知商	高
〃	伊藤　隆司	25	中　京	大
捕手	薮内　光成	26	ジ・オリオン	高
〃	古瀬　悟	18	県岐阜商	高
〃	伊藤　隆	22	明　治	大
内野	後藤　敏夫	26	中　京	大
〃	湯之戸孝修	23	近　畿	大
〃	林　重樹	21	愛　知	高
〃	安藤　公一	20	享　栄	高
〃	藤村　宏志	24	駒　沢	大
〃	高田　浩二	24	近　畿	大
〃	羽山　晴英	18	静岡学園	高
〃	日高　弘志	23	名　電	高
〃	稲山　正則	23	中　央	大
外野	伏見　昇三	27	関東学院	大
〃	上村　和弘	24	駒　沢	大
〃	○杉本　健一	27	愛　知	大
〃	林　義博	22	愛知学院	大
〃	山口　敏彦	20	享　栄	高
〃	林　博幸	18	福　井	高

本田技研鈴鹿

監督	藤村　哲也	30	法　政	大
投手	名和　克己	29	木更津中央	高
〃	中野　恒雄	28	大阪学院	大
〃	前村　泰正	26	法　政	大
〃	中田　健	23	三重海星	高
〃	大西　芳弘	23	法　政	大
〃	萩　洋	23	同志社	大
〃	金本　誠吉	21	中　京	高
捕手	藤田　進	27	大東文化	大
〃	松田　達男	23	東　海	大
〃	臼井　光広	21	県岐阜商	高
〃	西　茂彦	21	育　英	高
〃	山上　恭浩	19	名商大付	高
内野	松尾　薫	27	小　倉	工高
〃	田中　猛夫	26	愛知学院	大
〃	有働　幸男	26	愛知学院	大
〃	太田　杉晶	25	中　京	大
〃	羅本　新二	23	中京商	高
〃	内川　義久	23	法　政	大
外野	○高橋　隆	27	法　政	大
〃	古田　典博	27	愛知学院	大
〃	窪田　健志	25	鹿児島商	高
〃	全並　和彦	23	愛知学院	大
〃	新谷　守	23	同志社	大
〃	古市　高己	19	明　野	高
〃	山口貴代隆	19	中　京	高

住友金属

監督	松永　怜一	46	法　政	大
投手	木村　仁	19	伊　都	高
〃	川端　理史	28	東　海	大
〃	高橋　修二	21	高　知	高
〃	森　繁和	23	駒　沢	大
〃	古賀　達也	19	佐賀竜谷	高
捕手	○中村　裕二	28	法　政	大
〃	小川　良一	24	駒　沢	大
〃	山口　誠	22	鹿児島電子工	高
〃	中川　豊明	20	江の川	高
内野	古吟　稔	25	亜細亜	大
〃	谷口　剛	29	東　海	大
〃	浜田　知治	22	小倉商	高
〃	清水　長寿	26	早稲田	大
〃	飯島　淳	20	堀　越	高
〃	四田　勝康	21	浪　商	高
〃	田中　祐司	20	鳴　門	高
〃	松隈　憲治	23	柳川商	高
〃	中原　正明	24	東　海	大
外野	宇山　秀明	28	慶　応	大
〃	西村　博巳	19	伊　都	高
〃	高多　倫正	24	慶　応	大
〃	浜崎　拓司	19	和歌山工	高
〃	川上　謙治	24	市和歌山商	高
〃	三好　一幸	25	東海大相模	高
〃	中林　秀延	28	慶　応	大

鐘淵化学

監督	大河賢二郎	32	大阪商大	
投手	渡辺　博	27	岐阜南高	
〃	藤本富美夫	23	中津商高	
〃	辻本　昌広	19	貴島高	
〃	桝田　拓	22	高知工高	
〃	田中　善幸	21	比叡山高	
〃	田村　光浩	21	高知工高	
〃	北原　光広	24	法政大	
捕手	米田　司	22	奈良商高	
〃	村上　省吾	21	益田工高	
〃	○三瀬　和義	26	津久見高	
内野	増本　欣市	23	大阪商大	
〃	北森　哲治	23	慶応大	
〃	大須賀康浩	24	法政大	
〃	佐藤　治夫	30	法政大	
〃	山内　治樹	21	小倉工高	
〃	園　博	27	小倉商高	
〃	長嶋　顕彦	25	比叡山高	
外野	中村　好治	24	専修大	
〃	土井　政之	21	市和歌山商高	
〃	藤村　雅美	28	法政大	
〃	滝本　康彦	25	早稲田大	
〃	大河賢二郎	32	大阪商大	

神戸製鋼

監督	清水　一夫	47	中央大	
投手	越前　行男	27	専修大	
〃	登記　欣也	26	帝京第五高	
〃	山本　泰之	24	駒沢大	
〃	青木　弘之	22	佐賀学園高	
〃	三善　民康	24	関西大	
〃	野間　武久	20	村野工高	
捕手	佐野　靖文	26	帝京第五高	
〃	原田　貞夫	25	香住高	
〃	荒井　信久	24	明治大	
〃	若林　浩	19	都島工高	
内野	吉田　和幸	28	駒沢大	
〃	古賀　博樹	23	多久工高	
〃	平　俊彦	26	早稲田大	
〃	三木　行治	23	大阪商大	
〃	岡田　義明	22	山崎高	
〃	○大村　雅文	26	専修大	
〃	葉坂　良一	22	育英高	
〃	柏原　伸晃	21	小豆島高	
〃	宮本　要	19	洲本実高	
外野	小林　貴	25	姫路商高	
〃	小林　晋哉	25	京都産業大	
〃	中村　正人	24	塩田工高	
〃	山崎　博行	22	村野工高	
〃	日野　高	22	都島工高	
〃	土師　利博	25	明治大	

三菱自動車京都

監督	谷尾　和	32	慶応大	
投手	浜田　政美	23	鳥取城北高	
〃	苗代　与一	18	金沢市工高	
〃	枝　修一	22	福知山商高	
〃	上坂　嘉彦	19	尼崎工高	
捕手	○奥村　源次	26	東洋大	
〃	熊代　順次	25	御坊商工高	
〃	森井　洋一	29	徳島商高	
内野	中井　章年	24	高松商高	
〃	森谷　昭	22	比叡山高	
〃	幡司　豊	20	広島商高	
〃	星野　貞義	28	高松商高	
〃	橋詰　喜一	22	報徳学園高	
〃	竹内　実	19	宮津高	
〃	藤崎　剛	19	藤井寺工高	
〃	磯上　順美	27	明治大	
外野	千葉　明徳	28	帝京大	
〃	高木　恵三	20	智弁学園高	
〃	郡　文章	22	同志社大	
〃	大田　進	20	高松商高	
〃	長沢　泰己	21	宮津高	
〃	吉田　啓	24	御坊商工高	

松下電器

監督	高木太三郎	45	関西大	
投手	福間　納	26	大田高	
〃	久保　邦夫	24	水島工高	
〃	長谷部　優	27	慶応大	
〃	藤井　俊宏	20	福山商高	
〃	吉田　恭之	23	東海大	
〃	原　邦彦	19	岡山東商高	
〃	塚岡　広仁	19	倉敷工高	
捕手	木原　弘人	26	慶応大	
〃	野並　厚夫	23	大方商高	
〃	大本　二郎	20	倉敷工高	
〃	後藤田　務	23	鴨島商高	
内野	○山口　円	27	関西大	
〃	亀沢　猛	21	大田高	
〃	山田　勉	19	大鉄高	
〃	坂口　雅久	26	立教大	
〃	石井　賢吾	27	立教大	
〃	平谷　拓	21	田辺商高	
〃	宮脇　俊也	19	岡山東商高	
〃	鍛治舎　巧	26	早稲田大	
外野	浜田　雄次	23	徳島商高	
〃	高鍋　均	20	布施工高	
〃	西越　高章	25	大田高	
〃	堀江　隆樹	26	立教大	
〃	対中　修平	23	東海大	
〃	磯本　邦彦	20	佐世保工高	

新日本製鐵光

監督	古海　正敏	39	明治大	
投手	児玉　克雅	25	浜田高	
〃	山本　和男	24	柳井学園高	
〃	白木　哲夫	27	八幡工高	
〃	大町　定夫	24	柳井商高	
捕手	藤田　博明	20	三池工高	
〃	○板東　充宣	29	立教大	
〃	平山　茂雄	21	南筑高	
内野	小嶋　文男	25	川越工高	
〃	桑原　俊貞	26	萩高	
〃	内布　昭博	19	東海大二高	
〃	木下　英己	33	下関商高	
〃	佐々木省吾	21	門司工高	
〃	吉岡　武雄	28	早鞆高	
〃	浜崎　久満	22	久賀高	
〃	福本　敏郎	20	佐世保工高	
外野	弓場　育男	25	邇摩高	
〃	磯部　俊介	26	下関商高	
〃	梶原　義幸	21	門司工高	
〃	石貫　伸二	21	南筑高	
〃	村上　学	21	早鞆高	
〃	岩崎　悦司	22	熊毛工高	
〃	石田　卓己	19	宇部工高	
〃	谷山　勝治	29	聖光高	

三井造船玉野

監督	松村　篤明	31	徳島商高	
投手	高橋　義郎	29	大社高	
〃	○橋本　博	26	備南高	
〃	今井　秀昌	26	津山高専	
〃	三好　雅文	24	八幡工高	
捕手	横田　栄治	22	岡山日大高	
〃	井上　祐二	21	岡山日大高	
〃	竹下　武男	21	三井高	
内野	森　進	29	鳴門高	
〃	荒牧　謙三	24	八幡工高	
〃	砂田　一彦	24	宇部工高	
〃	藤原　健男	22	倉敷商高	
〃	田中　弘幸	21	八幡工高	
〃	越久田賢一	21	鳴門高	
〃	尾崎　昭生	21	阿南工高	
外野	松村　篤明	31	徳島商高	
〃	石賀　一行	25	亜細亜大	
〃	藤原　伸一	23	倉敷商高	
〃	谷川　秀喜	22	小倉工高	
〃	二宮　卓志	21	岡山東商高	
〃	三宅　康仁	21	水島工高	

電電四国

監督	武田　喬之	32	高知工高	
投手	横松　英雄	31	関東学院大	
〃	菊池　保	27	亜細亜大	
〃	小原　慶司	25	穴吹高	
〃	南　肇志	24	同志社大	
〃	小綿　康之	22	鳴門商高	
〃	川野　祐二	20	海南高	
〃	滝下　茂信	19	穴吹高	
〃	中村　憤介	19	高知商高	
捕手	藤本　英夫	21	大島高	
〃	谷口　久晴	21	南宇和高	
〃	山田　秀男	19	高知工高	
内野	景浦　隆男	28	中央大	
〃	高橋　竜夫	26	亜細亜大	
〃	田渕　修三	26	帝京大	
〃	松岡　清英	26	近畿大	
〃	本山　義文	24	駒沢大	
〃	鎌土　隆志	21	高知商高	
〃	福嶋　哲也	19	新田高	
外野	福谷　祥	31	中央大	
〃	○菊池　哲秋	29	八幡浜高	
〃	幸田　優	28	駒沢大	
〃	玉井　隆彦	24	国士舘大	
〃	北岡　敏男	25	高知高	
〃	岡田　誠一	20	海南高	
〃	石元　浩三	19	新田高	

丸善石油

監督	平川恵一郎	38	寝屋川高	
投手	鈴木　理	27	成田高	
〃	野口　憲次	25	明治学院大	
〃	深田　俊次	24	法政大	
〃	井上　晋作	22	名張高	
〃	藤井栄一郎	26	明治学院大	
〃	松元　芳一	24	都城泉丘高	
〃	新　孝博	24	初芝高	
捕手	永田　博造	30	龍谷大	
〃	大西　勝	27	関学大	
〃	秋栗　秀雄	22	勝浦高	
内野	○山下　隆士	29	慶応大	
〃	徳藤　幸三	27	宮崎商高	
〃	神崎　直	26	津久見高	
〃	浦　勝敏	22	PL学園高	
〃	福永　純一	26	亜細亜大	
〃	水中　良博	29	駒沢大	
〃	古井　浩二	22	海南高	
外野	益田　佳明	26	立正大	
〃	新崎　貢	27	柳学園高	
〃	寺岡　正彦	26	聖橋高	
〃	末崎　友巳	23	生野工高	
〃	角田　栄	22	木更津中央高	

九州産交

監督	西田　宏城	38	九州学院高	
投手	日高兼一郎	25	本庄高	
〃	磯本　哲也	20	出水学園高	
〃	末永　秋徳	25	八代第一高	
〃	谷崎　浩二	20	津久見高	
〃	有村　謙一	24	東海大	
〃	門倉　和博	27	鹿屋高	
〃	西谷　美次	24	日本体育大	
〃	小川　昌二	30	神奈川大	
捕手	松村　敏明	23	国士舘大	
〃	山口　末広	24	川内実業高	
〃	渡辺　長助	21	八代第一高	
〃	長丸　誠一	30	関東学院大	
内野	伊藤　一生	19	鎮西学園高	
〃	井上　広成	25	八幡大	
〃	田代　文博	24	日本大	
〃	林　幸義	30	熊本工高	
〃	坂東　一彦	23	津久見高	
〃	久本　正則	19	球磨工高	
〃	中野　祐一	28	中央大	
外野	井上　新一	21	八代第一高	
〃	○江口　明信	30	中央大	
〃	岩川　克也	20	鹿児島商高	
〃	上田　信広	29	九州学院高	
〃	来海　則雄	29	日本大	

門司鉄道管理局

監督	滝口　寛	47	明治大	
投手	今井　崇之	19	柳ケ浦高	
〃	中島　徹	24	九州学院高	
〃	山本　直樹	25	久留米大	
〃	山下　音明	27	浮羽高	
捕手	西森　和博	20	門司工高	
〃	○伊藤　健治	26	八幡大	
〃	小八重　浩	19	門司工高	
内野	坂原　義則	25	飯塚商高	
〃	馬場　光三	29	小倉工高	
〃	津留　英二	23	八女工高	
〃	畠山　徹治	22	田川工高	
〃	石崎　敏弘	20	門司工高	
〃	吉田　幸正	22	柳川商高	
〃	金丸　文寿	19	京都高	
〃	前田　正志	24	柳川商高	
〃	酒井　義之	29	撫養高	
外野	徳野　晴美	23	専修大	
〃	川崎　雅雄	21	小倉工高	
〃	綿島　秀実	24	佐賀工高	
〃	直村　盛治	23	大濠高	
〃	森光　章弘	20	柳川商高	
〃	桶尾　準一	23	九州工高	

21年ぶり晴れ舞台

―低迷続いた三井造船玉野―

㊤…中国代表決定戦で、三菱重工広島を仕留めて初出場を決めた一瞬、三井造船玉野の選手たちは躍りあがって喜んだ。それもそのはず、21年ぶりの全国大会出場だった。

一昨年、10年間の監督生活から身を引いた藤原総監督からバトン・タッチされた松村監督は「勝てる相手ではなかった。主戦高橋を中心にチームが結束、無欲、無心の勝利だった。こんなに早く全国大会への壁が破れるとは思わなかった」としみじみ。

初戦の対拓銀 胸を借りる気で

三井造船玉野の低迷は長かった。1956年の都市対抗出場を最後に戦力低下していったのは、補強の不備。補強するにしてもただ漫然とした"部員増"でしかなかったこと。66年には"選手不足"から1年間の休部に追い込まれ、67年ライバルの常勝、クラレ岡山の解散で一気に躍り出たいところだったが相変わらずの無差別補強で浮上できなかった。

「これまでは補強が思うにまかせず苦労した。投打に"柱"を欠いているがエース・高橋と心中するつもりで臨む。しかも初戦の相手は北海道拓殖銀行。胸を借りるつもりで無欲で当たる」と松村監督。会社ぐるみの応援態勢も着々整っており、初出場"三井丸"の門出はファンの注目を集めている。

第5回大会

1978年(昭和53年)10月29日▶11月5日　阪神甲子園球場

優勝＝北海道拓殖銀行 ――――― (初優勝)

1点の攻防、拓銀に栄冠

実力伯仲の"戦国大会"で北海道拓殖銀行が初制覇を飾り"ダイヤモンド旗"は初めて津軽海峡を渡った。

拓銀の優勝への足どりは決して平たんではなかった。「耐える野球」に徹していた。優勝戦までの4試合はまさに苦難の連続。いずれも相手に先手を許したが、じっくり勝機を待ち、相手のスキをついて鮮やかな逆転劇に結びつけていった。特に2回戦、大倉工業(四国)との延長十四回、準々決勝の日産自動車(関東)戦が示すように、粘り強いしたたかな打線は見あげたものだった。

投手陣の不調が、苦戦のすべてだったが、選手が一体となって優勝を目指して選手権に臨んだことが見事に結実したといえる。

優勝こそ逸したが、東京ガスの守りの野球は素晴らしかった。1回戦の三菱重工広島(中国)戦の大会3度目の七回コールド勝ちは別にして、2回戦からは1点差の"耐えてしのぐ"戦いに終始した。準優勝の原動力は松沼投手の右腕。全試合(5試合)に登板、45イニングを一人で投げ抜いた気力は称賛される。174㌢、68㌔の今大会ナンバー・ワン投手は下手からの、伸びのある速球と巧みな変化球で何度となく訪れたピンチを冷静に断ち切ったが、優勝戦では土壇場で惜しくも粘りの拓銀につかまった。

混戦を乗り切ってベスト4に進出した大昭和製紙北海道(北海道)、松下電器(近畿)は予想通りの好チームだった。大昭和はベテラン・高梨がチームをがっちり掌握していた。持ち前の強力打線は不発に終わったものの、トーナメント戦を勝ち抜く、試合根性はさすがだった。

左腕・福間投手に代表される松下は、5代表を送り込んだ近畿勢の中にあって、よく健闘した。粘りの拓銀に惜しくも足元をすくわれはしたが、よく大会を盛り上げた。

ベスト8に松下のほか、神戸製鋼、三菱重工神戸、川崎製鉄神戸の近畿勢が駒を進め、一時は"近畿決勝"の夢も膨らんだ。しかし、松下を除く3チームが意外にあっさりと脱落したのはどうしたことか。好投手・真鍋を擁した川崎製鉄神戸、投手力がいささか不十分だが、日産自動車(関東)、新人・尾藤投手の頑張った大倉工業(四国)の試合ぶりが印象に残る。

大会は予想以上に「投手力上位」の大会だった。5試合完投の松沼のピッチングを筆頭に、本格派・山本泰、登記(神戸製鋼)香川(三菱重工神戸)川瀬(大昭和製紙北海道)、そして福間(松下電器)らが持ち味を出し切って力投した。

(優勝戦)東京ガスを破って優勝、胴上げされる北海道拓殖銀行・西村監督。

大会審判　▷委員長＝山本英一郎▷副委員長＝小西正一、郷司裕▷委員＝高橋良夫、三輪武、中西明、山川脩司、三宅享次、小林加寿男、元橋一登、達摩省一、戸田直佑、中村孝太郎、相沢孝行、清沢忠彦、原田謹爾、片岡成夫、日野賢導、上杉正、武村政雄、津田進、樋秀夫、岸野金治、吉田龍男、清水忠雄、広沢渉、木嶋一晃、松尾進、森武雄、樫根清一、松山守、池田貴義、鶴田泰夫

▽10月29日

第1試合＝1回戦(午前0時11分開始)

川崎製鉄神戸	001	010	000	2
日本楽器	000	000	000	0

▶審判(球審)中西(塁審)高橋、津田、森

【川鉄神戸】		打	安	点	振	球
④	五島	3	1	2	0	0
⑧	山中正	3	1	0	1	1
⑨	上村	3	0	0	0	0
③	米田	4	2	0	1	0
⑤	竹下	4	0	0	1	0
⑥	松川	3	1	0	1	1
⑦	前川	3	1	0	0	0
②	砂川	2	0	0	1	1
①	真鍋	2	0	0	1	1
犠併残	5 0 7	27	6	2	6	4

【日本楽器】		打	安	点	振	球
③	竹崎	3	0	0	0	1
⑦	畑	4	0	0	0	0
④	津布久	4	0	0	0	0
⑨	佐藤	3	1	0	0	1
⑧	内山	4	0	0	0	0
⑤	加藤	3	0	0	0	0
②	高柳	2	0	0	1	0
H	内海	1	1	0	0	0
2	土屋	0	0	0	0	0
①	久保	1	0	0	1	0
1	藤原	1	0	0	0	0
H	金子	1	0	0	0	0
6	鈴木	0	0	0	0	0
⑥	石井	2	1	0	0	0
H	安芸	1	0	0	0	0
1	立野	0	0	0	0	0
犠併残	0 0 5	30	3	0	2	2

	回	安	振	球	責
真鍋	9	3	2	2	0
久保	4⅔	4	1	2	2
藤原	3⅓	2	5	1	0
立野	1	0	0	1	0

▷二塁打＝山中正▷犠打＝川5(五島、上村、前川、砂川、真鍋)▷試合時間＝2時間11分

川鉄神戸・真鍋が完封

㊐…創部26年目の今年、都市対抗、日本選手権と、たて続けにビッグ・イベントに初出場を果たした川崎製鉄神戸。強力打線の日本楽器を相手に、散発3安打、三塁すら踏ませない真鍋の鮮やかなピッチングで、念願の初勝利を挙げた。

入社6年目。今年の都市対抗に出場したのがきっかけで、8月の世界アマチュア野球選手権大会(イタリア)出場の全日本メンバーに選ばれ、一躍脚光を浴びた。

第2試合＝1回戦(午後2時41分開始)

仙台鉄道局	000	000	010	1
電電九州	013	000	11X	6

▶審判(球審)山川(塁審)清沢、広沢、松山(外審)森、津田

【仙鉄局】		打	安	点	振	球
⑧	郡山	1	0	0	0	2
H	高野	1	0	0	0	0
1	木須	0	0	0	0	0
④	高橋良	3	0	0	2	0
H	堀切	1	0	0	1	0
③	佐藤	4	1	0	1	0
⑤	加藤	4	1	0	2	0
⑨	今野	1	0	0	0	1
⑥	及川	3	1	0	1	0
②	阿部	3	1	1	1	0
①	高橋正	2	0	0	1	0
H	大枝	1	1	0	0	0
8	千葉	0	0	0	0	0
⑦	勝又	3	0	0	0	0
犠併残	1 0 3	27	5	1	9	3

【電電九州】		打	安	点	振	球
⑧	小林	3	1	1	0	0
8	松村	0	0	0	0	0
⑦	河野	2	0	0	0	1
7	黒木	1	0	0	0	0
④	今井	2	1	1	0	2
⑨	八重石	4	0	0	0	0
⑤	柴田	2	1	0	0	1
R	平山	0	0	0	0	0
5	橋本	1	0	0	0	0
②	川越	4	1	1	0	0
③	勝山	2	0	0	0	0
H3	柳川	2	1	1	0	0
⑥	岩本	3	0	0	1	0
6	福島	1	0	0	0	0
①	長嶺	3	1	0	1	0
1	錦野	0	0	0	0	0
犠併残	1 1 5	30	6	4	2	4

	回	安	振	球	責
高橋正	7	5	2	4	3
木須	1	1	0	0	0
長嶺	7⅓	5	8	3	1
錦野	1⅔	0	1	0	0

▷本塁打＝川越1号(高橋正)小林1号(高橋正)▷二塁打＝及川▷犠打＝仙1(今野)電1(松村)▷盗塁＝電3(河野、今井、平山)▷失策＝仙3(加藤、及川2)▷試合時間＝2時間16分

第3試合＝1回戦(午後5時20分開始)

三菱重工広島	000	000	0	0
東京ガス	051	301	X	10

▶審判(球審)上杉(塁審)武村、中村、池田(外審)樫根、松山

【三菱広島】		打	安	点	振	球
⑨	伊藤	3	0	0	2	0
⑦	荒谷	3	0	0	0	0
④	金光	3	0	0	2	0
⑤	若松茂	2	0	0	2	0
③	佐々木	2	1	0	0	0
⑧	吉川	2	0	0	0	0
⑥	富士野	2	0	0	1	0
②	大森	2	1	0	1	0
①	村田	0	0	0	0	0
1	若松実	1	0	0	1	0
1	近藤	1	0	0	0	0
犠併残	0 1 0	21	2	0	9	0

【東京ガス】		打	安	点	振	球
⑧	山本	2	0	1	1	1
8	三宅	0	0	0	0	0
⑥	田中	4	2	1	1	0
⑦	五月女	4	2	0	0	0
⑨	渡辺	3	3	3	0	1
③	池田	3	1	0	1	1
②	佐野	3	2	3	1	1
2	玉山	0	0	0	0	0
⑤	岡村	4	1	1	1	0
④	安岡	3	1	1	1	0
①	松沼	3	1	0	0	0
犠併残	1 0 6	29	13	10	6	4

	回	安	振	球	責
村田	1⅔	6	1	0	5
若松実	⅓	1	0	3	1
近藤	4	6	5	1	4
松沼	7	2	9	0	0

▷本塁打＝渡辺1号(村田)▷三塁打＝佐野、田中▷二塁打＝佐々木、安岡、佐野、渡辺▷犠打＝東1(山本)▷盗塁＝東1(山本)▷試合時間＝1時間42分

▽10月30日

第1試合＝1回戦(午前9時31分開始)

電電中国	300	000	000	3
北海道拓殖銀行	000	110	23X	7

▶審判(球審)木嶋(塁審)原田、鶴田、吉田

【電電中国】		打	安	点	振	球
⑨	増永	5	1	0	1	0
④	呉原	2	1	0	1	1
⑥	角屋	3	1	0	1	0
②	城戸	4	3	3	0	0
⑦	山根	4	1	0	2	0
⑤	築地	3	0	0	1	0
③	奥谷	4	0	0	2	0
①	宇根	2	2	0	0	0
1	中原	1	0	0	0	0
H	中田	1	0	0	0	0
⑧	中村	4	2	0	1	0
犠併残	3 1 7	33	11	3	9	1

【拓殖銀行】		打	安	点	振	球
④54	高岡	5	3	2	1	0
⑧	小島	4	1	1	1	0
③	梅田	3	1	0	0	2
⑦	丸山	2	1	1	0	2
⑥46	山本	4	2	3	1	0
②	竹内	3	1	0	0	0
⑤	船木	0	0	0	0	0
6	金谷	2	0	0	0	0
5	坂田	2	1	0	0	0
5	海老名	0	0	0	0	0
⑨	大滝	3	1	0	0	0
①	原田	0	0	0	0	0
1	柴田	1	0	0	1	0
H	奥田	1	0	0	0	0
1	山口	1	0	0	1	0
犠併残	4 1 8	31	11	7	5	4

	回	安	振	球	責
宇根	4⅔	5	3	2	2
中原	3⅓	6	2	2	5
原田	2	5	2	1	3
柴田	5	4	6	0	0
山口	2	2	1	0	0

▷本塁打＝城戸1号③(原田)▷二塁打＝角屋、大滝、山根、高岡▷犠打＝電3(呉原、角屋、築地)拓4(小島、竹内、大滝、柴田)▷盗塁＝拓2(高岡2)▷失策＝電1(角屋)拓2(金谷、柴田)▷試合時間＝3時間2分

第2試合＝1回戦(午後0時59分開始)

日産自動車	000	000	111	3
大丸	100	000	000	1

▶審判(球審)三宅(塁審)戸田、日野、岸野

【日産自動】		打	安	点	振	球
④	渡辺	4	0	0	0	1
⑧	篠宮	3	0	0	1	0
H8	大野	1	0	0	0	1
⑦	小林	5	3	0	0	0
7	萩原	0	0	0	0	0
⑨	羽田	4	1	0	1	0
③	服部	2	0	0	1	0
H	鈴木	1	0	0	0	0
2	町田	1	0	1	0	0
⑥	村田	4	1	0	0	0
⑤	福岡	4	2	0	1	0
②	山本	2	0	0	0	0
H3	岩沢	1	1	1	0	1
①	高木	2	0	0	0	0
H	川口	1	1	1	0	0
1	藤田	1	1	0	0	0
犠併残	0 0 9	36	10	3	4	3

【大丸】		打	安	点	振	球
④3	谷野	4	0	0	2	0
⑥	九十九	4	2	0	1	0
⑨	木下	3	1	0	0	1
⑧	長沢	3	1	1	0	0
⑦	佐下谷	3	1	0	0	1
③	蒲谷	3	0	0	1	0
4	柏原	1	0	0	1	0
②	田中	3	1	0	0	0
H	中西	1	0	0	0	0
⑤	江口	4	0	0	1	0
①	辻内	3	1	0	1	0
1	山元	0	0	0	0	0
H	南	1	0	0	0	0
犠併残	1 0 8	33	7	1	7	2

	回	安	振	球	責
高木	6	5	5	2	1
藤田	3	2	2	0	0
辻内	8⅔	10	4	2	3
山元	⅓	0	0	1	0

▷本塁打＝岩沢1号(辻内)▷二塁打＝小林、長沢、福岡、佐下谷▷犠打＝大1(長沢)▷盗塁＝日2(町田、福岡)▷試合時間＝2時間23分

第3試合＝1回戦(午後3時46分開始)

三協精機	500	000	000	5
日鉱佐賀関	100	000	000	1

▶審判(球審)山川(塁審)森、樫野、清水

【三協精機】		打	安	点	振	球
⑦	横井	2	2	0	0	0
7	佐々	3	1	0	0	0
⑥	榎本	0	0	0	0	0
H6	上川	0	0	0	0	0
6	幡野	3	1	0	1	0
④	佐藤	4	1	0	1	1
⑧	豊国	5	2	0	1	0
⑨	坂田	0	0	0	0	0
H9	佐々木	1	0	1	0	0
H9	鈴木実	2	1	0	0	0
③	樋江井	2	1	3	1	1
H	鈴木勇	1	0	0	0	0
3	丸茂	0	0	0	0	0
⑤	道吉	3	1	0	0	1
②	京極	3	0	0	0	0
①	平田	3	0	0	3	0
1	小嶋	1	0	0	1	0
犠併残	4 0 8	33	10	4	8	3

【日鉱佐賀】		打	安	点	振	球
⑥	村田	4	1	0	0	1
⑤	井尾	2	1	0	0	0
R4	古田	0	0	0	0	0
H	野上	0	0	0	0	1
5	清原	0	0	0	0	0
H	吉近	1	0	0	1	0
⑨	烏丸	3	0	0	1	2
③	湯野	4	1	0	2	0
⑧	木村	4	2	1	1	0
⑦	青木	2	0	0	1	0
7	岩尾	1	0	0	0	0
H7	児玉	1	0	0	1	0
④54	伏原	4	0	0	1	0
②	斉藤	3	1	0	0	1
①	藤沢	1	0	0	0	0
1	藤本	2	1	0	1	0
H	松瀬	1	0	0	0	0
1	落合	0	0	0	0	0
犠併残	1 0 11	33	7	1	9	5

	回	安	振	球	責
平田	6	6	5	3	1
小嶋	3	1	4	2	0
藤沢	3	5	2	3	4
藤本	5	4	5	0	0
落合	1	1	1	0	0

▷本塁打＝樋江井1号③(藤沢)▷犠打＝三4(上川2、佐々木、京極)日1(古田)▷盗塁＝三2(幡野2)日2(村田、木村)▷失策＝日1(藤沢)▷試合時間＝2時間49分

▽10月31日

第1試合＝2回戦(午前9時30分開始)

国鉄四国	000	000	010	1
大昭和製紙北海道	200	000	00X	2

▶審判(球審)上杉(塁審)原田、片岡、松尾

【国鉄四国】		打	安	点	振	球
⑤	藤井嘉	4	1	0	1	0
⑨	岡田	3	1	0	0	1
⑧	中石	4	1	1	3	0
④	藤井博	4	1	0	0	0
⑦	増井	4	0	0	3	0
③	湊谷	4	0	0	0	0
⑥	山本	2	0	0	1	2
②	竹内	2	0	0	1	0
H	谷	1	0	0	1	0
2	大西	1	0	0	0	0
①	落合	2	1	0	0	0
H	津村	1	0	0	1	0
1	佐野	0	0	0	0	0
犠併残	0 1 7	32	5	1	11	3

【大昭和】		打	安	点	振	球
⑦	山本	4	1	0	1	0
④	新木	3	0	0	0	0
⑤	大野	3	1	0	0	1
③	高梨	4	1	2	0	0
⑧	我喜屋	3	1	0	1	0
⑨	浜井	3	0	0	0	0
②	村上	2	1	0	0	1
⑥	佐藤	3	1	0	1	0
①	川瀬	3	0	0	0	0
犠併残	1 0 5	28	6	2	3	2

	回	安	振	球	責
落合	7	6	3	2	2
佐野	1	0	0	0	0
川瀬	9	5	11	3	0

▷本塁打＝高梨1号②(落合)▷二塁打＝中石▷犠打＝大1(新木)▷盗塁＝大1(浜井)▷失策＝大1(佐藤)▷試合時間＝1時間59分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

北海道拓殖銀行＝優勝(現たくぎん)

高岡 茂夫内野手
(現たくぎん札幌事務センター課長、44歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

当時の日本選手権の舞台は甲子園。66年夏、大阪・北陽高が甲子園初出場した時のメンバーだった私には、思い出深い球場である。

日本選手権は、この時4年連続出場で3年ぶりに優勝戦進出を果たした。のちにプロで活躍した松沼博久(元西武)を擁する東京ガスと対戦。うちの山口も好投し0－0のまま九回を迎えた。

先頭の私は四球。バントと内野安打で一死一三塁となって四番の丸山を打席に迎え、スクイズのサインが出た。ところが練習不足でスクイズに失敗。カウント2－1からの4球目を強打したが、浅い右翼ファウルフライ。通常なら突っ込む当たりではなかった。だが1点がほしい。三塁コーチャーボックスにいた西村監督が目で「行け」と指示。死にものぐるいで滑り込んだ私の右足がベースにタッチ、足の遅い私には感激の初優勝決勝点となった。

82年に現役を退き、85年から4年間監督も務めた。今、日本野球連盟の競技力向上地域部会委員。私を育ててくれた野球への恩返しの気持ちでいっぱいだ。

第2試合＝2回戦(午後11時55分開始)

八戸市水道部	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松下電器	0	0	5	0	0	0	0	0	5

▶審判(球審)山川(塁審)元橋、清沢、広沢

【八戸市】

	打	安	点	振	球
④ 佐々木勝	4	1	0	1	0
⑦ 平沢	2	1	0	0	0
7 角金	2	1	0	0	1
H7 高小倉	1	0	0	0	0
⑨ 金見沢	2	1	0	1	0
H 大亀井	4	0	0	2	0
⑧ 岡本	2	1	0	0	1
③ 吉田	2	1	0	0	0
H 階上	2	0	0	0	0
② 汐谷	2	1	0	0	0
⑤ 佐々木郁	2	1	0	0	0
① 山本	1	0	0	0	0
1 古川	0	0	0	0	0
H1 鶴飼	1	1	0	0	0
⑥ 高橋	3	0	0	0	0
犠 併 残					
2 0 5	28	4	0	7	2

【松下電器】

	打	安	点	振	球
⑦ 磯本	3	0	0	0	1
④ 森本	3	1	1	0	0
H4 坂口	1	0	0	0	1
⑥ 山口	3	0	2	0	1
③ 鍛治舎	4	3	2	3	0
⑨ 高鍋	4	3	1	0	0
② 木原	3	1	0	0	0
⑧ 浜田	2	1	0	0	0
H8 堀江	1	0	0	0	1
① 福間	2	1	0	0	0
H1 亀沢	1	0	0	0	0
H1 原	1	0	1	0	0
⑤ 島田	1	0	0	0	1
久保	1	0	0	0	0
平谷	3	0	0	0	1
犠 併 残					
1 0 7	31	8	5	1	4

	回	安	振	球	責
佐々木郁	2⅓	5	0	3	5
山本	1⅔	0	0	0	0
鶴飼	4	3	1	1	0

	回	安	振	球	責
福間	6	3	7	2	0
原	2	1	0	0	0
久保	1	0	0	0	0

▷三塁打＝鍛治舎 ▷二塁打＝森本 ▷犠打＝八2(階上、汐谷)松1(木原) ▷盗塁＝松1(高鍋) ▷失策＝八1(汐谷) ▷試合時間＝2時間7分

最後に攻めた八戸

①…1934年青森林友が都市対抗野球に出て以来の青森県からの"全国大会"出場チームとなった八戸市水道部。一回一死から平沢が左前安打、二回は四球とバント野選で一死二、三塁。さらに三回は無死で佐々木勝が中前安打を放った。この大会に5年連続出場、都市対抗にも20回出場している松下電器を相手に、果敢に攻めた。得点こそ出来なかったが、「選手はやれば出来る、と感じ取ってくれたと思います。ええ、ハダに伝わって来ますよ」と村本監督。

第3試合＝2回戦(午後2時29分開始)

川崎製鉄神戸	0	1	1	0	0	0	0	1	3
富士重工業	0	1	1	0	0	0	0	0	2

▶審判(球審)三宅(塁審)達摩、松山、樫

【川鉄神戸】

	打	安	点	振	球
④ 五島	4	0	0	0	1
⑧ 山中正	3	1	0	0	1
⑨ 上村	3	0	1	0	0
③ 米田	3	1	0	1	1
⑤ 竹下	3	0	0	0	1
⑥ 松川	3	1	1	0	0
⑦ 前川	4	1	0	0	0
② 砂川	3	0	0	1	0
① 真鍋	4	1	1	0	0
犠 併 残					
2 2 7	31	5	3	2	4

【富士重工】

	打	安	点	振	球
⑧ 内藤	4	2	0	0	1
⑥ 茂木	4	1	0	1	0
⑨ 沢壁	3	0	0	1	0
⑤ 長鈴	4	2	0	1	0
③ 木野	3	2	1	0	1
⑦ 斉藤	1	0	0	1	0
④ 小間	4	2	0	0	0
② 村上	3	1	1	0	0
① 三浦	4	1	0	0	0
犠 併 残					
3 0 9	33	11	2	3	2

	回	安	振	球	責
真鍋	9	11	3	2	1

	回	安	振	球	責
三浦	9	5	2	4	2

▷犠打＝川2(上村、砂川)富3(茂木、蝦沢、村上) ▷盗塁＝川1(五島) ▷失策＝川1(松川)富2(茂木、長壁) ▷試合時間＝2時間14分

▽11月1日

1試合＝2回戦(午後9時27分開始)

電電九州	0	0	0	0	0	0	0	0	0
神戸製鋼	0	0	0	1	0	0	1	0	2

▶審判(球審)木嶋(塁審)津田、吉田、樫根

【電電九州】

	打	安	点	振	球
⑧ 小林	4	1	0	0	0
⑦ 河野	2	0	0	1	0
H 黒木	1	0	0	0	0
④ 今井	3	0	0	2	0
H 橋本	1	0	0	1	0
⑨ 八重石	3	1	0	1	0
⑤ 柴田	3	2	0	0	0
② 川越	2	0	0	2	0
③ 勝山	2	0	0	0	0
H 松村	1	0	0	0	0
6 岩本	1	0	0	0	0
⑥ 福島	2	0	0	0	0
H3 柳川	1	0	0	0	0
① 菊川	1	0	0	0	0
1 長嶺	1	0	0	0	0
H1 藤原	1	0	0	0	0
1 錦野	0	0	0	0	0
犠 併 残					
2 0 3	28	4	0	8	0

【神戸製鋼】

	打	安	点	振	球
⑧ 小林	4	2	0	0	0
⑥ 三木	4	2	0	0	2
⑨ 山崎	2	0	1	0	0
③ 大村	3	2	1	0	0
⑦ 中村好	3	0	0	0	0
④ 吉田	3	1	0	1	0
② 荒井	3	1	0	1	0
⑤ 古賀	3	0	0	0	0
① 山本泰	3	0	0	0	0
犠 併 残					
1 1 2	26	5	2	3	1

	回	安	振	球	責
菊川	3⅔	2	3	0	1
長嶺	3⅓	2	0	1	1
錦野	1	1	0	0	0

	回	安	振	球	責
山本泰	9	4	8	0	0

▷本塁打＝大村1号(長嶺) ▷三塁打＝小林(神) ▷犠打＝電2(河野、川越)神1(山崎) ▷盗塁＝神1(三木) ▷試合時間＝1時間40分

〔準決勝〕東京ガス－大昭和製紙北海道　優勝戦進出を決めガッツポーズの東京ガス・松沼投手。

第2試合＝2回戦(午前11時45分開始)

東京ガス	0	0	0	1	1	0	0	0	3
西濃運輸	0	0	0	0	0	1	0	0	2

▶審判(球審)中西(塁審)戸田、武村、池田

【東京ガス】

	打	安	点	振	球
⑧ 山本	5	1	0	2	0
⑥ 田中	5	2	0	0	1
⑦ 五月女	5	0	0	1	0
⑨ 渡辺	4	1	1	0	0
③ 池田	4	1	1	0	0
② 佐野	4	2	1	1	0
⑤ 岡村	4	1	1	0	0
④ 安岡	3	1	1	0	2
① 松沼	2	1	0	0	0
犠 併 残					
4 0 8	37	10	3	4	3

【西濃運輸】

	打	安	点	振	球
⑧ 小椋	6	2	1	1	0
⑥ 山極	5	1	0	2	0
⑦ 細川	5	1	0	1	0
③ 中島隆	3	1	0	1	2
⑤ 林伸	5	1	0	0	0
⑨ 加野	5	2	0	0	1
④ 岩附	2	0	0	0	1
H4 水江	2	0	0	0	1
高中島務	4	4	1	0	1
② 田中	4	4	1	0	1
① 松田	2	0	0	1	0
H 兼近	1	0	0	1	0
H1 片江	0	1	0	0	0
HR 中沢	1	1	0	0	0
R 吉田	0	0	0	0	0
犠 併 残					
3 1 12	40	12	2	9	4

	回	安	振	球	責
松沼	11	12	9	4	2

	回	安	振	球	責
松田	6	6	2	1	2
片江	5	4	2	2	1

▷二塁打＝加野 ▷犠打＝東4(池田、佐野、松沼2)西3(山極、岩附、片江) ▷盗塁＝西2(細川、水江) ▷捕逸＝佐野 ▷試合時間＝2時間50分

第3試合＝2回戦(午後2時57分開始)

大倉工業	0	0	2	0	0	0	0	0	2
北海道拓殖銀行	0	0	0	0	0	1	1	0	3

▶審判(球審)達摩(塁審)高橋、岸野、樫(外審)武村、池田

【大倉工業】

	打	安	点	振	球
⑧ 江口	6	1	0	1	0
④ 堀家	5	1	1	0	1
⑤ 和中田	5	1	1	1	2
③ 井口	5	1	1	3	1
⑦ 豊富	4	1	0	0	1
⑥ 佐治	4	1	0	0	1
⑨ 奥野	1	0	0	1	1
H9 笠井	3	0	0	1	1
② 中原	5	0	0	2	0
① 尾藤	5	0	0	2	0
犠 併 残					
2 1 5	43	5	2	13	4

【拓殖銀行】

	打	安	点	振	球
④ 高岡	5	1	1	1	1
⑧ 小島	5	1	0	3	2
③ 梅田	5	1	1	0	1
⑦ 丸山	2	0	0	1	0
H7 奥山	3	1	0	0	1
⑥ 山本	1	0	0	0	3
R 渡辺	0	0	0	0	0
6 金谷	2	0	0	0	0
⑤ 坂田	6	2	1	0	0
② 竹内	5	2	1	0	1
⑨ 大滝	6	1	0	0	1
① 原田	3	1	0	0	0
1 柴田	1	1	0	0	0
H1 山口	2	0	0	0	1
犠 併 残					
3 1 13	45	9	3	8	9

	回	安	振	球	責
尾藤	13⅔	9	8	9	3

	回	安	振	球	責
原田	3	4	2	3	1
柴田	4	0	4	0	0
山口	7	1	7	1	0

▷三塁打＝坂田 ▷二塁打＝中井、高岡、堀家 ▷犠打＝大2(堀家、豊富)拓3(高岡、梅田、山口) ▷盗塁＝拓2(竹内2) ▷失策＝拓1(大滝) ▷試合時間＝3時間43分

力投もむなしく

①…大倉工業期待の新人、尾藤投手が延長十四回の力投もむなしく、甲子園の初戦を飾れなかった。「負けたのは僕のせいです。簡単に四球を出したりして……。駒大時代の同期生、山本に対して意識過剰になりすぎました」と八回二死から山本に与えた四球が同点の原因になったのを悔やんだ。「まだまだ未熟者です」と帽子のヒサシで目もとを隠したが、立派な投球内容だった。

▽11月2日

第1試合＝2回戦(午前9時30分開始)

王子製紙春日井	0	0	0	0	0	0	2	0	2
日産自動車	0	1	3	0	0	0	0	0X	4

▶審判

【王子製紙】

	打	安	点	振	球
② 佐藤	4	1	0	0	0
⑧ 山内	4	1	0	0	0
③ 溝口	4	1	0	0	0
⑨ 山際	4	1	0	0	0
⑦ 浜口	4	1	1	0	0
⑥ 近藤	3	0	0	0	0
⑤ 浦島	2	2	0	0	1
① 新美	3	0	0	0	0
④ 江村	3	0	0	1	0
犠 併 残					
0 0 3	31	7	1	1	1

【日産自動】

	打	安	点	振	球
④ 渡辺	2	1	0	0	2
⑧ 鈴木	3	2	1	0	1
8 大野	0	0	0	0	0
⑦ 小林	4	1	1	0	0
7 萩原	0	0	0	0	0
⑨ 羽田	4	0	0	2	0
③ 岩沢	3	0	0	0	1
⑥ 村田	3	1	1	0	1
⑤ 福岡	4	2	0	0	0
② 山本	2	1	1	0	0
① 谷井	3	0	0	1	0
1 高木	1	0	0	0	0
犠 併 残					
2 2 8	29	8	4	3	5

	回	安	振	球	責
新美	8	8	3	5	4

	回	安	振	球	責
谷井	6	6	0	0	2
高木	3	1	1	1	0

▷三塁打＝浦島、鈴木 ▷二塁打＝山内、浦島 ▷犠打＝日2(山本2) ▷盗塁＝王2(山際、浦島)日3(渡辺、鈴木、小林) ▷失策＝王2(山際、江村) ▷試合時間＝2時間19分

第2試合＝2回戦(午後0時16分開始)

三協精機	0	0	0	1	0	0	0	0	1
三菱重工神戸	1	0	0	0	0	0	0	2X	3

▶審判(球審)山川(塁審)木嶋、相沢、清水

【三協精機】

	打	安	点	振	球
⑦ 横井	3	1	0	0	0
7 佐々	1	0	0	1	0
⑥ 上川	2	0	0	1	0
6 幡野	2	0	0	1	0
④ 佐藤	3	0	0	1	0
4 青柳	0	0	0	0	0
H 丸茂	1	0	0	0	0
⑧ 豊国	3	1	0	1	0
⑨ 佐々木	2	1	1	0	0
③ 樋江井	3	0	0	1	0
⑤ 道吉	2	1	0	1	1
② 京極	3	0	0	0	0
① 大塚	1	0	0	1	0
1 小嶋	2	0	0	0	0
犠 併 残					
1 0 2	28	4	1	8	1

【三菱神戸】

	打	安	点	振	球
⑦ 中沢	4	0	0	0	0
④ 時本	4	1	0	1	0
⑥ 川辺	4	2	0	0	0
③ 山谷	3	2	1	0	0
⑧ 井上	4	0	0	0	0
⑨ 友藤	4	1	2	0	0
⑤ 深田	4	0	0	1	0
② 竹中	3	2	0	0	0
① 香川	2	0	0	2	1
犠 併 残					
1 1 7	32	8	3	4	1

	回	安	振	球	責
大塚	3⅓	4	3	0	1
小嶋	4⅔	4	1	1	0

	回	安	振	球	責
香川	9	4	8	1	1

▷三塁打＝豊国 ▷二塁打＝川辺、竹中 ▷犠打＝三1(佐々木)神1(山谷) ▷盗塁＝神1(山谷) ▷失策＝三4(佐々、幡野、佐藤2) ▷試合時間＝2時間25分

第3試合＝準々決勝(午後3時6分開始)

川崎製鉄神戸	000	000	000	000	00	0
大昭和北海道	000	000	000	000	01X	1

▶審判

【川崎神戸】		打	安	点	振	球
④	五島	6	0	0	0	0
⑧	山中正	5	3	0	0	1
⑨	上村	5	0	0	3	1
③	米田	6	1	0	0	0
⑤	竹下	5	2	0	0	0
⑥	松川	3	0	0	0	1
⑦	前川	4	0	0	2	1
②	砂川	4	0	0	1	0
①	真鍋	5	0	0	1	0
犠併残	2 0 7	43	6	0	7	4

【大昭和】		打	安	点	振	球
⑦	山本	6	2	0	0	1
④	新木	5	0	0	0	1
⑤	大野	4	0	0	2	0
H	井上	1	1	0	0	0
R	樋口	0	0	0	0	0
5	仲本	0	0	0	0	1
H	渡辺	1	0	0	0	0
③	高梨	5	0	1	1	1
⑧	我喜屋	4	0	0	1	0
H8	原	1	0	0	1	1
⑨	浜井	6	2	0	0	0
②	村上	3	1	0	1	3
⑥	佐藤	6	2	0	0	0
①	川瀬	6	2	0	0	0
犠併残	2 1 16	48	10	1	6	8

	回	安	振	球	責
真鍋	13⅔	10	6	8	0
川瀬	14	6	7	4	0

▷二塁打＝浜井、山中正▷犠打＝川2(松川、砂川)大2(新木、高梨)▷盗塁＝川1(松川)大2(山本、新木)▷失策＝川3(米田、竹下、砂川)大1(高梨)▷試合時間＝3時間25分

ランナーにやられた　真鍋「残念！」

㊞…無念の209球。川崎製鉄神戸の真鍋投手は十四回一死一、三塁になったとき「(高梨を)歩かせて満塁策をとるか」と生田監督に聞かれて「いえ、勝負します」と言い切った。「高梨さんはホームランバッターで、外角でも引っ張ると聞いていたので、外角で勝負した。うちとる自信はあったし、打った瞬間"うちとった"と思った。それが、バットの先っぽの変な当たりなのに、あそこまで力で持っていかれた」「それにしても、あの浅い当たりでホームを突くとは……。スライディングがうまかったですね。ランナーにやられました。きょうは三回ごろから球が走り出し、変化球もよく切れていたので負ける気はしなかったんですが……。本当に残念です」と話す表情はぼう然としていた。

▽11月3日

第1試合＝準々決勝(午前9時30分開始)

神戸製鋼	000	000	000	0
東京ガス	000	001	00X	1

▶審判(球審)上杉(塁審)達摩、相沢、池田

【神戸製鋼】		打	安	点	振	球
⑧	小林	3	0	0	1	1
⑥	三木	3	0	0	2	0
⑨	山崎	3	1	0	0	1
③	大村	4	0	0	1	0
⑦	中村好	3	1	0	0	1
④	吉田	4	0	0	1	0
②	荒井	4	0	0	0	0
⑤	古賀	2	1	0	1	1
①	登記	2	1	0	1	0
犠併残	2 1 7	28	4	0	7	4

【東京ガス】		打	安	点	振	球
⑧9	山本	2	0	0	0	2
⑥	田中	3	1	0	1	0
⑦	五月女	3	1	0	0	1
⑨	渡辺	3	0	0	1	0
8	三宅	1	0	0	0	0
③	池田	4	1	0	0	0
②	佐野	3	0	0	0	0
⑤	岡村	3	0	0	0	0
④	安岡	2	2	0	0	1
①	松沼	3	0	0	0	0
犠併残	1 1 7	27	5	0	2	4

	回	安	振	球	責
登記	8	5	2	4	0
松沼	9	4	7	4	0

▷二塁打＝中村好、山崎▷犠打＝神2(三木、登記)東1(田中)▷盗塁＝神1(山崎)東2(山本、五月女)▷失策＝神1(荒井)東1(佐野)▷試合時間＝2時間3分

第2試合＝準々決勝(午前11時58分開始)

北海道拓殖銀行	001	000	210	000	2	6
日産自動車	002	200	000	000	1	5

▶審判(球審)中西(塁審)武村、片岡、樫根

【拓殖銀行】		打	安	点	振	球
④	高岡	5	2	0	1	1
⑧	小島	5	1	0	0	0
③	梅田	4	0	0	0	1
⑦	丸山	5	0	0	1	0
7	中根	1	1	0	0	0
R	渡辺	0	0	0	0	0
7	奥田	0	0	0	0	0
⑥	山本	6	2	1	1	0
⑤	坂田	5	3	0	1	1
②	竹内	5	2	2	0	1
⑨	大滝	6	0	0	1	0
①	山口	1	1	1	0	0
1	柴田	1	0	0	0	0
H	金谷	1	1	2	0	0
1	原田	1	0	0	0	0
1	松田	1	0	0	0	0
犠併残	2 1 8	47	13	6	5	4

【日産自動】		打	安	点	振	球
④	渡辺	6	3	0	2	1
⑧	大野	6	2	2	1	0
⑦	小林	4	2	0	0	0
7	萩原	1	0	0	0	0
H7	篠宮	1	0	0	1	0
⑨	羽田	5	0	0	2	1
③	岩沢	6	2	0	1	0
⑥	村田	5	0	0	2	0
⑤	福岡	6	2	0	0	0
②	山本	5	3	2	1	0
R	鈴木	0	0	0	0	0
2	町田	0	0	0	0	0
H	山中	1	1	1	0	0
①	藤田	3	1	0	1	0
1	高木	2	1	0	0	0
H	服部	1	0	0	1	0
犠併残	1 1 11	52	17	5	12	2

	回	安	振	球	責
山口	3⅓	4	4	1	3
柴田	2⅔	5	3	0	1
原田	4⅓	7	2	0	0
松田	2⅔	1	3	1	1
藤田	6⅔	6	4	1	3
高木	6⅓	7	1	3	3

▷本塁打＝山中1号(松田)▷三塁打＝竹内▷二塁打＝山本、大野、中根、竹内▷犠打＝拓2(小島、梅田)日1(村田)▷盗塁＝拓1(高岡)日2(福岡、鈴木)▷試合時間＝4時間

第3試合＝準々決勝(午後4時23分開始)

三菱重工神戸	000	010	000	0	1
松下電器	000	100	000	1	2

▶審判(球審)山川(塁審)戸田、松山、鶴田(外審)樫根、池田

【三菱神戸】		打	安	点	振	球
⑦	中沢	4	0	0	2	0
④	時本	4	0	0	2	0
⑥	川辺	4	0	0	1	0
③	山谷	4	1	0	2	0
⑧	井上	3	1	0	0	0
⑨	友藤	2	0	1	0	0
9	東	0	0	0	0	0
⑤	深田	3	0	0	0	0
②	竹中	3	1	0	1	0
①	一色	2	0	0	1	0
1	香川	1	0	0	1	0
犠併残	1 1 0	30	3	1	10	0

【松下電器】		打	安	点	振	球
⑦	磯本	4	2	0	0	1
④	森本	3	0	0	1	1
⑥	山口	5	1	1	1	0
③	鍛治舎	3	1	0	0	1
⑨	高鍋	4	0	0	1	0
②	木原	4	2	1	1	0
⑧	浜田	1	0	0	1	0
H8	堀江	3	0	0	1	0
①	福間	3	0	0	1	0
⑤	平谷	4	1	0	1	0
犠併残	2 1 8	34	7	2	8	3

	回	安	振	球	責
一色	7	5	7	2	0
香川	2⅔	2	1	1	1
福間	10	3	10	0	1

▷三塁打＝井上▷二塁打＝磯本2▷犠打＝三1(友藤)松2(森本、福間)▷盗塁＝松3(磯本、森本、山口)▷失策＝三3(時本2、川辺)▷試合時間＝2時間20分

▽11月4日

第1試合＝準決勝(午前9時58分開始)

東京ガス	000	000	010	1
大昭和製紙北海道	000	000	000	0

▶審判

【東京ガス】		打	安	点	振	球
⑧7	山本	4	1	0	0	0
⑥	田中	3	2	0	0	0
⑦	五月女	3	0	0	1	0
H8	三宅	0	0	0	0	1
⑨	渡辺	3	2	1	0	0
③	池田	3	0	0	0	1
②	佐野	4	3	0	0	0
⑤	岡村	3	1	0	1	0
④	安岡	3	0	0	1	0
①	松沼	4	0	0	1	0
犠併残	4 2 8	30	9	1	4	2

【大昭和】		打	安	点	振	球
⑦	山本	5	0	0	0	0
④	新木	3	1	0	0	1
⑤	大野	3	2	0	0	0
③	高梨	2	1	0	0	2
R	樋口	0	0	0	0	0
3	横川	0	0	0	0	0
⑧	我喜屋	3	0	0	1	0
H	井上	1	0	0	1	0
8	原	0	0	0	0	0
⑨	浜井	4	1	0	0	0
②	村上	3	1	0	0	1
⑥	佐藤	3	0	0	2	0
H	渡辺	1	0	0	0	0
①	川瀬	2	0	0	1	1
1	望月	0	0	0	0	0
H	仲本	1	0	0	0	0
犠併残	1 2 10	31	6	0	5	5

	回	安	振	球	責
松沼	9	6	5	5	0
川瀬	7⅔	8	4	2	1
望月	1⅓	1	0	0	0

▷二塁打＝渡辺、山本(以上東)▷犠打＝東4(田中、渡辺、岡村、安岡)大1(大野)▷盗塁＝東1(三宅)▷失策＝大1(川瀬)▷暴投＝松沼▷試合時間＝2時間23分

渡辺犠飛、貴重な1点

4連投の東京ガス・松沼と3連投の大昭和製紙北海道・川瀬が、ともに持ち味を十分に生かして力投、準決勝にふさわしい投手戦を展開した。松沼は下手投げから伸びのある速球に緩球を混じえて投球に変化をもたせ、カーブ、シュートの切れも申し分がなかった。一方、川瀬も重い速球に切れ味鋭いシュートを効果的に配球して譲らなかった。

しかし、展開は東京ガスが押し気味。その東京ガスは八回、突破口を切り開いて、貴重な先取点を挙げた。

この回、先頭の山本は左翼線を破る二塁打。田中が手堅く三塁に送ったあと、五月女の代打三宅は四球。続く渡辺は川瀬の初球を狙い打って高々と右飛を打ち上げ、山本を迎え入れた。

先手争いの激しかった中盤までは、東京ガスが優勢に攻めた。四回は先頭・田中が安打で出ながら併殺のあと、渡辺が二塁打、そして五回は佐野の安打とバント野選で一死二、三塁とするなど得点にこそならなかったが、勢いに乗っていた。

これに対し大昭和がつかんだチャンスは五、六、七回の一死一、二塁と八回の二死満塁。しかし、いずれも松沼の絶妙のピッチングに抑え込まれて完敗した。

東京ガス、燃える男

㊞…東京ガス躍進の原動力となった松沼投手は、この日、球を散らしながら要所をピシャリと抑える文句のないピッチング。これで4試合完投、3完封。36イニングで失点は対西濃運輸戦の2点だけ。防御率0.5という抜群の成績をあげている。今夏の都市対抗、丸善石油戦で17奪三振の新記録をたて、8月には全東京の主戦投手として訪韓。今度は日本選手権で優勝戦進出という活躍ぶりで、この1年の間に社会人球界を代表する好投手に浮かび上がった。弟の雅之投手は、東洋大の主戦として神宮球場での明治神宮大会に出場しており、この秋は兄弟そろってアマ球界の話題をにぎわしている。「新聞が楽しみです」と兄の博久。弟の雅之投手も東京ガスに入社の予定で、来年は兄弟リレーも見られそう。

第2試合＝準決勝(午後0時50分開始)

松下電器	010	000	000	1
北海道拓殖銀行	000	001	03X	4

▶審判(球審)三宅(塁審)元橋、清沢、松山

【松下電器】		打	安	点	振	球
⑦	磯本	5	0	0	1	0
④	坂口	2	0	0	0	1
⑥	山口	3	2	0	1	1
③	鍛治舎	4	0	0	1	0
⑨	高鍋	4	1	0	0	0
②	木原	4	1	0	1	0
⑧	山田	1	0	0	0	1
8	浜田	1	0	0	0	0
①	長谷部	1	0	1	0	0
1	福間	1	0	0	0	0
H	森本	1	0	0	0	0
⑤	平谷	3	2	0	0	1
犠併残	3 0 9	30	6	1	4	4

【拓殖銀行】		打	安	点	振	球
④	高岡	4	1	0	0	0
⑧	小島	3	1	0	0	1
③	梅田	4	1	1	0	0
⑦	丸山	2	0	0	0	1
H	金谷	1	1	1	0	0
7	奥田	0	0	0	0	0
⑥	山本	3	2	1	0	1
⑤	坂田	4	2	1	0	0
②	竹内	4	0	0	2	0
⑨	大滝	4	0	0	0	0
①	原田	3	0	0	1	0
1	柴田	0	0	0	0	0
犠併残	0 1 7	32	8	4	3	3

	回	安	振	球	責
長谷部	5	2	3	2	0
福間	3	6	0	1	3
原田	6⅓	5	3	3	1
柴田	2⅔	1	1	1	0

▷二塁打＝木原▷犠打＝松3(坂口、山田、長谷部)▷盗塁＝拓3(小島、梅田2)▷失策＝松1(坂口)拓1(小島)▷試合時間＝2時間30分

連投・福間を攻略

北海道拓殖銀行は好投手・松下電器の福間を足で揺さぶったあと、連打を浴びせ、4試合連続逆転勝ちする粘り強さを見せた。

六回から代わったばかりの左腕・福間を攻めて同点に追いついた拓銀は八回、重盗、失策をはさんで4安打を集中し、一気に3点をたたき出した。

この回一死から小島が右前安打、梅田も二ゴロ失で一、二塁としたあと、代打・金谷の1－3後に重盗を決めてチャンスを広げ、金谷が中前へ、山本、坂田が右前に快打を連ねた。拓銀は投手陣の調子がもう一つだが、トップ高岡以下の上位打線の奮起で、強豪の松下を降した。

拓銀は六回、高岡が右前安打、遊ゴロで二進後、梅田が一、二塁間をゴロで抜く渋いヒットを放って同点に持ち込んだ。これで勢いづいた拓銀は、七回一死一、二塁のピンチに柴田を救援にたてて追加点を阻み、逆転に結びつける拓銀ペースに持ち込んだ。

一方、松下は一回の好機は逃したが、二回、手堅い攻めで先手を取った。無死で左中間二塁打の木原を山田がバントで送り、長谷部が投手左へうまいスクイズ・バントを決めて木原を迎え入れた。このあとも四、五回とチャンスが続き、押し気味に試合を進めた松下は、六回からエースの福間をつぎ込んだ。しかし、福間は速球に伸びがないうえ、制球も甘く、拓銀打線を抑え切れなかった。

▽11月5日

優勝戦（午後2時6開始）

北海道拓殖銀行	0	0	0	0	0	0	0	1	1
東京ガス	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判

【拓殖銀行】

		打	安	点	振	球
④	高岡	3	0	0	0	1
⑧	小島	2	1	0	0	1
③	梅田	4	1	0	1	0
⑦	丸山	3	1	1	0	0
⑥	山本	4	1	0	0	0
⑤	坂田	3	1	0	1	0
②	竹内	3	0	0	0	0
①	大山	3	0	0	0	0

犠 併 残
2 0 4

回	安	振	球	責
山口	9	2	3	0

【東京ガス】

		打	安	点	振	球
⑧	7山本	4	1	0	0	0
⑥	中田	2	0	0	0	1
⑦	女月	2	0	0	1	0
H	8三宅	1	0	0	0	1
⑨	渡辺	3	0	0	0	0
③	池田	3	0	0	1	0
②	佐野	3	0	0	0	1
⑤	岡村	3	1	0	0	0
④	安岡	3	0	0	0	1
①	松沼	2	1	0	0	0
H	玉山	1	0	0	0	0

犠 併 残
1 1 1

回	安	振	球	責
松沼	9	4	3	2	1

▷三塁打＝岡村 ▷犠打＝拓2（小島、丸山）東1（田中）▷盗塁＝拓1（竹内）試合時間＝1時間56分

9回、決勝の犠飛
山口が東京ガスを完封

優勝戦を盛り上げた見事な投手戦だった。北海道拓殖銀行は九回、東京ガス・松沼の一瞬のリキみを突き、右犠飛で決勝点を奪った。

速球が走り、カーブも切れて絶好調の松沼は、この回先頭の高岡にリキみすぎから四球。拓銀は、バントで送り、梅田が一塁強襲ゴロの安打で一、三塁。続く丸山は内角へのシュートを右翼線ギリギリに打ちあげるとガスの渡辺右翼手はファウルかと迷ったあと、捕球して本塁に返球。やや三塁寄りにそれ、クロスプレーになったが、高岡がホームベースにタッチして決勝点とした。

それにしても、山口、松沼両投手の投球は素晴らしかった。東京ガスは三回先頭の岡村が山口のカーブを右翼に三塁打しチャンスを作ったが、続く安岡は山口の重い速球を強打して遊ゴロ。さればと松沼に1－2からスクイズを仕掛けたが、拓銀バッテリーに見破られ岡村が三本間に挟殺された。東京ガスは七回にも中前打の山本をバントで二塁へ送ったが、渡辺の深い中飛が中堅手の好守に阻まれた。山口は堅い味方の守備に守られ、力強い投球で東京ガスを2安打完封した。松沼も本来の力強い投球で拓銀打線を抑え、六回竹内が右前打したのが初安打。七回丸山の遊撃手後方へ落ちるポテン安打と山本のヒット・エンド・ランで二死一、三塁としたが、松沼の力投に後続が三振した。

両投手が持ち味を出した力投と、両軍の堅い守りで緊迫した接戦だった。

監督談話

北海道拓殖銀行・西村博司監督　松沼投手のシュートは簡単には打てないのでカーブを狙わせた。高岡は浅いフライだったがよく走ってくれた。山口投手が最後に本来のいいピッチングをしてくれた。

東京ガス・江口昇監督　松沼に申し訳ない。松沼は本当によく投げてくれたのに、打撃が振るわず見殺しにしてしまった。1点さえ取れていれば……。

監督ひと
北海道拓殖銀行　西村　博司監督

「都市対抗に出られなかったので優勝できてうれしさもひとしおです」と、引き締まった表情できっぱり。「スマートで根性がないといわれ、万年2位に甘んじていたが、やっと胸が張れます」。1965年に監督になって70年から勤務の関係で6年間チームを離れたが、76年に復帰、その年、都市対抗準優勝。それから3年、念願の優勝を果たした。

「イタリアでの世界選手権大会に全日本監督で行きましたが、全く何の実績もなかったので選手たちが肩身の狭い思いをさせたくないと、今大会は張り切ってくれました」

いま素晴らしい"熱章"を贈られて「本当によくやってくれました」と声を詰まらせた。再度の胴上げに176㌢、68㌔の体は躍り、優勝の実感を味わっていた。

まじめな性格で、作戦も理にかなっている。「松沼君はちょっとやそっとで打ち崩せる投手ではありません。素晴らしい投手です」と相手を褒めてから「だが3日間連投なので変化球が多いと思い、カーブを狙わせました。うちの打者では、まだ松沼君のシュートを打てませんからね」。敵を知り己を知る"西村野球"は堅実である。

逆転につぐ逆転でここまで勝ち進んできたが「最後になってうち本来の野球が出来ました。それにしても選手の精神力には頭が下がります」とナインをねぎらうまなざしは感涙に潤んでいた。

「42歳のやく年でしたが……」といいながら「さあ足をそろえて行こう」と表彰式へ。拓銀社内でラッキーボーイといわれているのは、復帰以来の好成績から。そしてダイヤモンド旗を握ってやく年を強運でふっ飛ばした。

（田海　金一）

〔優勝戦〕北海道拓殖銀行－東京ガス　優勝の瞬間、竹内捕手と抱き合う拓銀・山口投手。

総力あげて"松沼崩し"

熱球

初め右翼打ちを試みたり、途中バントを仕掛けてみたり、北海道拓殖銀行は頭を絞って、松沼攻略を果たそうとした。しかし、松沼は5連投の疲れを少しも見せず"生きた球"を投げ続けた。都市対抗に出場できなかった無念さを甲子園で晴らそうとする拓銀を相手に、松沼はチームを背負って、ただ一人で立ち向かっている思いがした。

松沼はカーブを狙われているとみるや、速球とシュートを主体の投球に切り替える。七回二死から初めて連打を浴びて一、三塁と迫られても、内角を攻め抜いたあと、外角へ浮き上がる速球を決めて坂田を三振に抑え込んでいる。全く揺らぐことを知らない投球だった。

ところで拓銀は、松沼をどうやって攻め落とそうとしていたのか――。西村監督に聞くとこうだ。

「連投の松沼君はきっと変化球を多くほうって来る。特にカウントを取りに来るカーブを狙え」。だが、この狙いはちゃんと松沼に読み取られてしまった。

それでも拓銀は一向に焦らず夏以降、鍛え込んだ"走力"をつかって松沼の投球にスキをつくろうと励んだ。優勝戦に進むまでの4試合をすべて逆転勝ちしてきた自信がマイペースで松沼攻略に突き進ませた。

松沼の制球がわずかだが乱れ出したのが九回だった。拓銀の先頭打者・高岡への投球がほんのちょっとストライク・ゾーンから外れて四球。「うーん、あれが悪かった。いいコースをついたと思ったが」。試合後、悪びれず松沼はこういったが、拓銀は送りバントのあと、高岡の足と梅田の右翼打ちで、決勝点への舞台をつくった。

「高岡が三塁に走ったのは結果的にエンドランになったが、とにかく走れ、とサインを出していた。"走れ"。これは夏から選手に教え込んできたことの一つです。それがこの大会で実った」と西村監督。

拓銀の"すばしこい野球"が、松沼から決勝の1点をもぎ取った。

（笹尾　勝彦）

ダイヤモンド旗“北の旅”

東京ガス最後の打者の飛球が北海道拓殖銀行、小島中堅手のグラブにおさまった瞬間、三塁側拓銀の応援席は約1,000人の喜びがはじけた。黄色いトンガリ帽子を放り投げて跳びはねる行員、抱き合う女子リーダーたち…。

「よくやってくれた。選手みんなにご苦労さんといってやりたい」。札幌で居ても立ってもいられないと、この日朝、飛行機で駆けつけた同銀行相談役、中原哲男さん(72)の目はうるみがち。「北海道の景気もやっとドン底をはい出したが、それでも明るい話題は少ない。札幌だけじゃなく、道全体がダイヤモンド旗を待ちわびていたんです。道民の気持ちを明るくしてくれました」と周囲の人たちに握手を求めて回った。

準決勝まで200～300人程度だった応援席も、この日は札幌、名古屋、京阪神から同社の行員と取引関係者が大挙押しかけ、内野スタンドはいっぱいにふくれあがった。新幹線で来た名古屋支店の柴田紀美子さん(23)は「甲子園は初めて。本当に来てよかった。感激です」と同僚たちと肩をたたきあった。

10月28日に来阪して9日間、声を限りの応援を繰り広げた12人の女子リーダーの目には涙が光った。「ナイターの延長戦などでカゼ気味の子もいて、全員バテてます。でも応援のかいがあった。これで疲れなんて吹っ飛びました」と荒川年子さん(21)は顔も声もくしゃくしゃ。

興奮した応援席では「もう北海道は野球のへき地じゃあないぞ」「高校野球でもやれるんじゃあないか」とオクターブがあがった。

正念場でエースの本領発揮

山口敏男投手

北海道拓殖銀行

準決勝まで、投手のやりくりで相手の攻撃をかわしてきた投手陣の中から最後に完投投手が生まれた。2安打の完封は、まさにエースの意地をみせたものだ。第2回大会も優勝戦まで進みながら鐘化に敗れており「きょうはなんとしても勝って優勝したかった。野球生活で初めての優勝です。胴上げをされてもまだピンときません。これからゆっくりと味わいます」

「味方が先に点をとるまでは、とがんばった。カーブ、フォークボールでタイミングを外すのが効いた。打たれたのは2本ともカーブでしたが、あとは見逃してくれた。ボンボンと打者を追い込んでいったのがよかったのでしょう」

そんな山口を、西村監督は「山口は気の弱い子で、これまで自分で崩れることがあったが、やっと山口らしいピッチングをしてくれた」と、打の高岡選手とともにその健闘をたたえた。

当時札幌駅前支店第二係勤務。180㌢、85㌔。池田高出身、29歳。

第5回大会表彰選手

▷**最高殊勲選手賞　高岡茂夫二塁手**(北海道拓殖銀行)　まさか僕がこんな大きい賞をもらえるとは思えなかった。優勝は全員の力の結集、私は全員を代表して受賞したのだと考えています。

▷**敢闘賞　松沼博久投手**(東京ガス)

▷**首位打者賞　小林達也外野手**(日産自動車)＝13打数6安打、4割6分2厘

▷**大会優秀選手**

【投手】松沼博久(東京ガス)福間納(松下電器)真鍋義之(川崎製鉄神戸)川瀬隆俊(大昭和北海道)山口敏男(北海道拓殖銀行)　**【捕手】**佐野登(東京ガス)村上忠則(大昭和北海道)木原弘人(松下電器)竹内昭文(北海道拓殖銀行)　**【一塁手】**岩沢建一(日産自動車)　**【二塁手】**高岡茂夫(北海道拓殖銀行)　**【三塁手】**坂田竹治(北海道拓殖銀行)福岡清介(日産自動車)平谷拓(松下電器)　**【遊撃手】**田中伸樹(東京ガス)山本文博(北海道拓殖銀行)　**【外野手】**小林達也(日産自動車)渡辺茂(東京ガス)高鍋均(松下電器)小島和彦(北海道拓殖銀行)

海外3強に“執着心”見た

――大丸・清水監督に聞く――

昭和55年に、世界アマチュア野球選手権大会が日本で開かれる。アジア地区での開催は初めてのこと。“55年”に向かって29日から始まる“秋の甲子園”は、その第一歩になる。対戦相手も既に決まり、代表22チームは最後の仕上げに気合をこめているが、今夏イタリアで行われた世界選手権に、日本社会人野球協会から技術強化委員として派遣された大丸・清水監督は、イタリアで得たものを、甲子園で生かそうとしている。どういう成果が現れるか楽しみだが、世界選手権で得た印象、これからのチームづくりへの教訓などを清水監督に聞いた。

――イタリアの野球事情から。

清水　施設面は思ったより良かった。グラウンドはボローニアでは両翼100メートルで、人工芝になる前の後楽園のように内、外野が芝生。外野の芝がちょっと深かったが、状態は良かった。スタンドは内野だけで七、八千人を収容するのでは。女性ファンが多く、海水着姿で観戦している人もいた。ハッスル・プレーや好プレーには拍手や口笛で応え、無用のけん制球など試合を遅らせるようなプレーにはブーブーいっておこる。ダブルプレーや外野からのノーバウンド返球には(ワンバウンドではダメ)すごく喜んでいた。みんな楽しんで見ていて、試合途中で席を立つ人がいなかった。

――日本はキューバ、米国、韓国についで4位に終わったが。

清水　再来年の世界選手権でもいまの3チームが強敵になるだろうが、技術的には負けていない。パンチ力、スピードの差など多少目についたが、日本の敗因をみるとつまらないプレー(エラー、四球、ボーンヘッド)によるところが多かった。日本は守りからチームづくりをしているが、さらに強固な守りをつくらねばと痛感した。

――3強の印象は。

清水　キューバは、日本に輪をかけた守りのチームだった。二遊間は鉄壁で、バックハンドトスを見せるなど基本が出来ている。強肩で、足の速い選手をそろえていた。米国は打撃のチーム。試合運びは大味なところがあるが、パワーにはびっくりさせられた。韓国は長い冬の間にウエート・トレーニングをみっちりやるそうだ。その面が出てか打球など速かった。守備がもう一つだが、投手力、打力には力強いものがあった。この3チームの“対日本”意識はなかなか強いものがあった。

――世界選手権の前、オランダのハーレムで招待野球があって、日本は“強い”の印象を与えながら本番では4位。強行日程など選手に疲れが出たのも響いたようだが。

清水　全日本に選ばれただけで満足してしまうという精神的な甘さが根本にあったように思う。ガムをかみながらプレーしたり、試合直前、金網越しにサインに応じたり、日本にいたら決してやらないような行動が見られた。そうしたことが、打つにしろ投げるにしろ“一球”への集中力を失わせたようだ。キューバや米国の選手を見ていると、たとえキャッチボールでも、日本ではちょっと肩ならし、といった感じが強いのに、彼らは基本に添い、一球々々を大事にしながら投げ、捕っていた。野球への執着心の差を感じた。

――ガムのことなど、プレー以前のしつけから、というのはさびしいことですが、世界選手権でハダに感じたものを、この甲子園で出したいと……。

清水　これまで自分のチームのことだけでカーッとしてたが、こんどの見聞で、他のチーム、さらには高校や大学の野球など見ることの重要さを感じた。大会へ出て来るチームの顔ぶれを見ると、どの地区も戦力が均衡していて“戦国時代”の印象が強い。大会ではどこが優勝したっておかしくない状態にあると思う。どのチームも都市対抗での反省を生かそうとするだろうし、選手にとっても一度はやりたかった舞台でのプレーだから力がはいると思う。私にしても自分のチームを“しつけ”、全日本に一人でも多く送り出そうと考えているので、外国選手のボールに飛び込んでいく姿勢、投手が精魂こめて投げていたことなど世界選手権で吸収してきたことをこの秋の大会で表現してみたい。

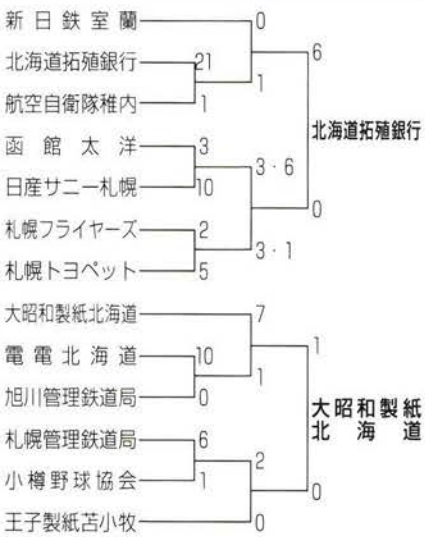
(1975年10月25日付　毎日新聞朝刊)

第5回地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月21日から　4日間　　札幌市営円山球場



東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽**一回戦**　三菱製紙八戸５－４全弘前倶、八戸市水道部11－０自衛隊青森（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　八戸市水道部４－２三菱製紙八戸

◇**岩手**▽**一回戦**　県経済連７－０福高ク▽**二回戦**　岩手銀行７－０水沢駒形ク、盛岡鉄道管理局６－０オール宮古、オール不来方２－１アイワ、小野田セメント４－２一関三星ク、東京製綱７－２オール江刺、釜石野球団６－２県経済連、一関ユニオンク（不戦勝）全久慈、新日鉄釜石10－０盛友ク▽**準々決勝**　岩手銀行３－０小野田セメント、釜石野球団４－１オール不来方、盛岡鉄道管理局２－１東京製綱、新日鉄釜石16－０一関ユニオンク▽**準決勝**　岩手銀行８－１釜石野球団、新日鉄釜石２－１盛岡鉄道管理局▽**決勝**　新日鉄釜石６－３岩手銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**秋田**▽**一回戦**　秋田銀行９－５秋田鉄道管理局、東北肥料６－５秋田経大校友ク▽**準決勝**　ＴＤＫ10－０秋田銀行、秋田相互銀行14－11東北肥料▽**決勝**　ＴＤＫ９－４秋田相互銀行（勝者は第二次予選へ）

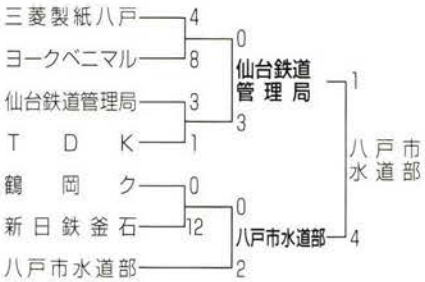
◇**宮城**▽**一回戦**　東北ク９－０仙商ク、、仙台鉄道管理局10－０亘理ク▽**準決勝**　電電東北７－０東北ク、仙台鉄道管理局６－１石巻ハリケーンク▽**決勝**　仙台鉄道管理局３－２電電東北（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽**一回戦**　山形相互銀行４－０日大山形ＯＢ▽**決勝**　鶴岡ク４－２山形相互銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽**一回戦**　自衛隊福島５－４飯塚病院ク、ヨークベニマル10－０小名浜ク、ミドリ十字ク４－１塙ク、双高ＯＢク12－６小峰ク、オール常交４－２原田ク、二本松ク（不戦勝）ニュー相馬、福島硬友ク（不戦勝）学石ＯＢク▽**準々決勝**　ヨークベニマル２－０自衛隊福島、ミドリ十字ク５－２双高ＯＢク、オール常交11－２二本松ク、福島硬友ク４－０保原ク▽**準決勝**　ヨークベニマル３－１ミドリ十字ク、福島硬友ク２－１オール常交▽**決勝**　ヨークベニマル10－０福島硬友ク（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月30日から　2日間　　八戸市営球場



関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽**一回戦**　日立製作所16－０東日本薬品▽**二回戦**　日立製作所11－０鹿島石油、住友金属鹿島13－０水戸鉄道管理局▽**決勝**　日立製作所３－２住友金属鹿島（勝者は第二次予選へ）

◇**群馬**▽**一回戦**　伊勢崎レッドソックス10－１硬友ク、全前橋野球倶３－２オール太田ク▽**準決勝**　富士重工業10－０伊勢崎レッドソックス、高崎鉄道管理局10－３全前橋野球倶▽**決勝**　富士重工業７－３高崎鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽**一回戦**　エーザイ14－12戸田中央総合病院、飯能高ＯＢク３－２全浦和野球団、本田技研８－０日産ディーゼル▽**準決勝**　日本通運６－１エーザイ、本田技研５－０飯能高ＯＢ▽**決勝**　日本通運１－０本田技研（勝者は第二次予選へ）

◇**千葉**▽**一回戦**　三井造船千葉７－１千葉鉄道管理局▽**準決勝**　川鉄千葉５－３三井造船千葉、電電関東４－０新日鉄君津▽**決勝**　川鉄千葉２－０電電関東（勝者は第二次予選へ）

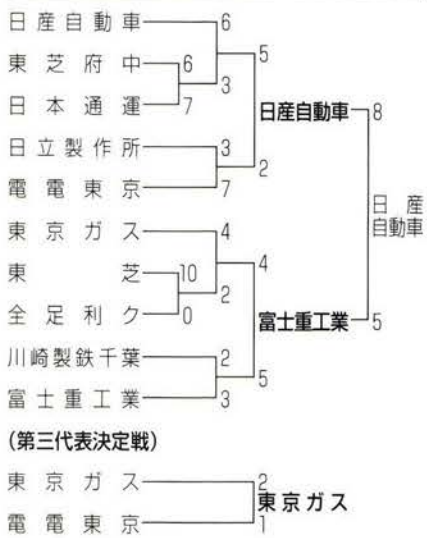
◇**東京**▽**一回戦**　リッカー10－０三井銀行、明治生命11－８日本ＩＢＭ▽**準々決勝**　熊谷組２－０朝日生命、電電東京５－３リッカー、鷺宮製作所６－５東京鉄道管理局、東京ガス８－０明治生命▽**準決勝**　電電東京３－２熊谷組、東京ガス４－１電電東京（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　東京ガス４－０電電東京

◇**東京多摩**▽**一回戦**　全調布ク２－１全府中ク、東芝府中８－２オールスリーボンド▽**決勝**　東芝府中６－０全調布ク（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽**一回戦**　いすゞ自動車12－１横浜ク、三菱重工横浜11－１横浜高島屋、清工建設８－４相模原市役所▽**準々決勝**　日産自動車１－０日本鋼管、いすゞ自動車２－１日本石油、三菱自動車川崎３－１三菱重工横浜、東芝５－４清工建設▽**準決勝**　日産自動車１－０日本石油、東芝７－５三菱自動車川崎（勝者は第二次予選へ）▽**三位決定戦**　いすゞ自動車４－０三菱自動車川崎▽**決勝**　日産自動車７－２東芝

▶二次予選

10月７日から　４日間　　群馬県営球場



（第三代表決定戦）

中部大会

▶一次予選

◇**山梨**▽**一回戦**　峡北ク11－９山梨球友ク、山梨ク11－２オール櫛形▽**決勝**　山梨ク11－10峡北ク（勝者は第二次予選へ）

◇**新潟**▽**予選リーグＡブロック**　ニチエー８－１新潟ク、全飯豊13－３オール東、ニチエー４－３全飯豊▽**同Ｂブロック**　長商ク（不戦勝）明石ク、平和ク18－３吉田ク、平和ク12－４長商ク▽**同Ｃブロック**　三条バンデッド（不戦勝）長岡ク、新潟コンマーシャル12－７オール北越、新潟コンマーシャル12－２三条バンデッド▽**同Ｄブロック**　新津ク３－０小千谷ク、国鉄新潟９－０白根野球団、国鉄新潟10－０新津ク▽**準決勝**　ニチエー13－３平和ク、国鉄新潟５－４新潟コンマーシャル▽**決勝**　国鉄新潟５－２ニチエー（勝者は第二次予選へ）

◇**静岡**▽**一回戦**　清水ク12－１オール沼津、富士ク５－４協和醗酵ク、河合楽器12－０東芝富士ク、吉原商工ク12－３岳南ク、清豊ク１－０静岡物産ク▽**準々決勝**　清水ク４－２関東自動車工業、日本楽器７－０富士ク、河合楽器９－０吉原商工ク、大昭和製紙４－２清豊ク▽**準決勝**　日本楽器12－１清水ク、大昭和製紙７－０河合楽器（勝者は第二次予選へ）▽**第三代表決定戦**　河合楽器８－０

清水ク(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　大昭和製紙３－１日本楽器

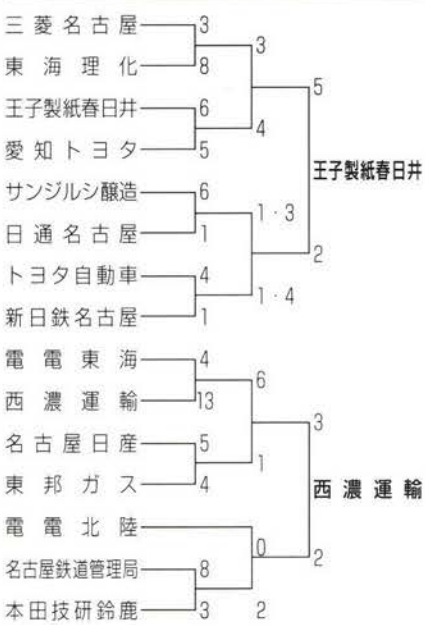
◇**富山**▽**三回戦制**　北陸銀行12－２電電富山、電電富山２－１北陸銀行、電電富山２－０北陸銀行(電電富山は第二次予選へ)

▶二次予選

9月29日から　3日間	静岡県営球場

東海・北陸大会

9月26日から　6日間　　愛知県営熱田球場



近畿大会

▶一次予選

◇**京滋**▽**一回戦**　京都市役所２－１丸勝、全大津９－４高島屋京都、京都信用金庫４－０西京ク、第一紙行９－１キョートビルク▽**準々決勝**　辻和９－１京都市役所、日本新薬13－１全大津、大丸２－１京都信用金庫、三菱自動車京都４－２第一紙行(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　日本新薬６－５辻和、大丸４－２三菱自動車京都▽**決勝**　大丸６－３日本新薬▽**敗者復活一回戦**　京都市役所４－３全大津、第一紙行３－１京都信用金庫▽**第五代表決定戦**　第一紙行６－５京都市役所(勝者は第二次予選へ)

◇**大阪**▽**一回戦**　大阪ガス６－３全三和銀行、大和銀行11－１大阪ペーシェンス、住友銀行２－０大阪高島屋▽**準々決勝**　松下電器３－０大阪ガス、電電近畿５－２デュプロ、新日鉄堺９－０大和銀行、日本生命１－０住友銀行(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　松下電器５－１電電近畿、新日鉄堺２－１日本生命▽**決勝**　松下電器３－２新日鉄堺▽**敗者復活一回戦**　大阪ガス４－１大和銀行、住友銀行３－２デュプロ▽**第五代表決定戦**　大阪ガス３－０住友銀行(勝者は第二次予選へ)

◇**兵庫**▽**一回戦**　川鉄神戸３－２新日鉄広畑、神戸製鋼２－０小西酒造▽**準決勝**　神戸製鋼１－０川鉄神戸、三菱重工神戸２－１川崎重工▽**第四代表決定戦**　新日鉄広畑３－１小西酒造▽**第五代表決定戦**　川崎重工５－４小西酒造▽**決勝**　三菱重工神戸４－３神戸製鋼(三菱重工神戸、神戸製鋼、川鉄神戸、新日鉄広畑、川崎重工は第二次予選へ)

▶二次予選

9月30日から　6日間	高砂市営球場

(第五代表決定戦)

中国大会

▶一次予選

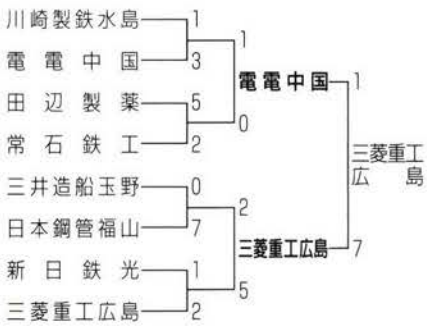
◇**岡山**　▽**リーグ戦**　川鉄水島１－０三菱自動車水島、川鉄水島５－１三井造船玉野、三井造船玉野７－３三菱自動車水島(川鉄水島、三井造船玉野は第二次予選へ)

◇**広島**▽**一回戦**　三菱重工三原２－１広島マツダ▽**準々決勝**　電電中国５－０国鉄広島、日本鋼管福山７－０山本鋼材、常石鉄工５－３三菱重工三原、三菱重工広島７－０東洋工業(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　常石鉄工５－４電電中国、日本鋼管福山10－１三菱重工広島▽**決勝**　日本鋼管福山６－０常石鉄工

◇**山口**▽**一回戦**　協和醗酵２－１航空自衛隊防府▽**準決勝**　田辺製薬５－０協和醗酵、新日鉄光２－１オール防府クラ▽**決勝**　田辺製薬１－０新日鉄光(勝者は第二次予選へ)▽**敗者復活一回戦**　オール防府ク８－５航空自衛隊防府▽**同二回戦**　協和醗酵２－１オール防府ク▽**第二代表決定戦**　新日鉄光１－０協和醗酵(勝者は第二次予選へ)

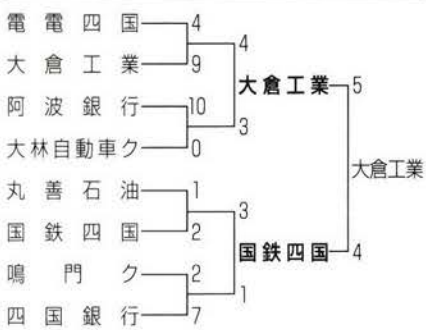
▶二次予選

9月22日から　3日間	徳山市営球場



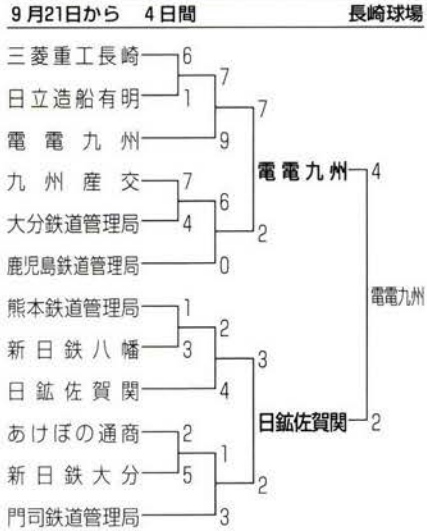
四国大会

9月23日から　4日間　　松山球場



九州大会

9月21日から　4日間　　長崎球場



第5回大会出場選手等一覧（○は主将）

北海道拓殖銀行

監督	西村 博司	41	明 治	大
投手	千藤 和久	30	中 京 商	高
〃	山口 敏男	27	池 田	高
〃	柴田 正明	27	中 京	大
〃	松田 雅晴	27	駒 沢	大
〃	福島 義隆	22	法 政	大
〃	原田 未記	21	中 京 商	高
〃	中村 明志	20	札 幌 商	高
〃	賀集 一	18	旭川竜谷	高
捕手	竹内 昭文	28	法 政	大
〃	後藤 政広	19	北海道工	高
内野	高岡 茂夫	29	法 政	大
〃	金谷 清治	28	江 差	高
〃	船木 敏夫	24	函館有斗	高
〃	田伏 清美	23	近 畿	大
〃	大滝 敏之	23	駒 沢	大
〃	海老名敏彦	23	中 京	高
〃	山本 文博	22	駒 沢	大
〃	高橋 尚登	22	中 京	大
〃	坂田 竹治	23	亜 細 亜	大
外野	○梅田隆比克	30	日 本	大
〃	丸山 幸雄	27	中 央	大
〃	奥田 剛史	26	明 治	大
〃	小島 和彦	24	慶 応	大
〃	中根 史郎	23	愛 知 工	大
〃	渡辺 正彦	19	旭川竜谷	高

大昭和製紙北海道

監督	高梨 英夫	36	大 多 喜	高
投手	松崎 隆	28	一 宮 商	高
〃	川瀬 隆俊	27	木 古 内	高
〃	望月 保雄	26	富士宮北	高
〃	小磯 健次	24	安 積 商	高
〃	道貝 透	19	利 尻	高
〃	小野 等	19	保 原	高
捕手	村上 忠則	29	津 名	高
〃	山口 互	20	一 宮 商	高
〃	今泉 進	20	北 見 工	高
内野	高梨 英夫	36	大 多 喜	高
〃	仲本 広明	28	沖縄興南	高
〃	佐藤 義夫	27	神 奈 川	大
〃	大野 敏彦	26	鴻 城	高
〃	井上 孝一	24	日 本	大
〃	新木 忠力	24	東 農	大
〃	折籠 忠紀	21	北海道日大	高
〃	横川 衛	21	北 見 工	高
外野	○浜井 頌丈	31	芝浦工業	大
〃	山本 和則	29	北 海	高
〃	渡辺 幸三	29	法 政	大
〃	我喜屋 優	28	沖縄興南	高
〃	樋口 忠雄	22	名 寄	高
〃	原 利行	21	北海道日大	高
〃	戸間 孝史	20	北海道日大	高
〃	梁原 修志	19	苫小牧工	高

八戸市水道部

監督	村本 修史	34	八 戸 商	高
投手	晴山 豊	26	光星学院	高
〃	山本 弘己	24	光星学院	高
〃	久慈伊佐男	25	南 部	高
〃	佐々木郁夫	23	八戸水産	高
〃	鶴飼 忠晴	19	光星学院	高
捕手	階上金三郎	27	大東文化	大
〃	金沢美津也	20	七 戸	高
〃	大沢 里志	24	八 戸 商	高
内野	吉田 光敏	24	光星学院	高
〃	高橋 登	23	八戸水産	高
〃	汐谷 忠	22	八戸水産	高
〃	小ケ口典秀	20	光星学院	高
〃	佐々木 勝	24	八戸水産	高
〃	岡本 昇	24	大東文化	大
〃	高西 正志	24	七 戸	高
〃	古川 勲	23	日 本	大
外野	小倉三喜雄	22	三本木農	高
〃	○亀井 博次	25	八戸電波	高
〃	角金 静夫	29	駒 沢	大
〃	金見 幸男	25	七 戸	高
〃	平沢 利弘	22	八 戸 工	高
〃	久保 皓正	38	八 戸	高

仙台鉄道管理局

監督	内海 利彦	27	石 巻 商	高
投手	添田 利幸	19	会 津 工	高
〃	佐藤 潔	22	小 野	高
〃	志賀野 整	24	黒 川	高
〃	高橋 正己	24	仙台育英	高
〃	木須 憲一	20	東 北	高
捕手	阿部 圭二	23	宮城水産	高
〃	高本 勝典	19	船 引	高
〃	木内 正彦	21	柴 田 農	高
内野	○及川 正次	24	仙台育英	高
〃	佐藤 順一	23	東 北	高
〃	高野 直人	24	亘 理	高
〃	高橋 良	21	東 北	高
〃	遠藤 豊	19	名 取	高
〃	大技 一雄	22	福島聖光学院	高
〃	加藤 正博	21	福 島	商
外野	今野 司	28	若 柳	高
〃	堀切 憲一	23	亘 理	高
〃	郡山 公男	22	名 取	高
〃	千葉 幸治	22	宮城水産	高
〃	内海 利彦	27	石 巻 商	高
〃	勝又 忠則	21	東 北	高

日産自動車

監督	倍賞 明	34	日 本	大
投手	谷井 潤一	25	早 稲 田	大
〃	高木 敬	25	芝 浦 工	大
〃	伊藤 正之	23	神奈川工	高
〃	藤田 康夫	28	中 央	大
捕手	町田 宇公	20	横芝敬愛	高
〃	山本 一利	25	弘 前	高
〃	伊東 勝	19	東海大相模	高
内野	川口 和夫	25	早 稲 田	大
〃	渡辺 良	24	東 海	大
〃	山中 秀明	25	亜 細 亜	大
〃	長田 克史	21	市 川	高
〃	岩沢 建一	25	日 本	大
〃	名取 和彦	25	明 治	大
〃	福岡 清介	25	亜 細 亜	大
〃	東 良一	23	東 海	大
〃	村田 隆雄	28	横 浜	高
〃	永嶋 滋之	23	慶 応	大
〃	服部 一男	19	堀 越	高
外野	大野 照男	23	日 大 三	高
〃	篠宮 章	27	中 央	大
〃	○鈴木 雅通	27	明 治	大
〃	羽田 国雄	24	明 治	大
〃	萩原 英一	23	亜 細 亜	大
〃	小林 達也	25	亜 細 亜	大
〃	白鳥 重治	23	早 稲 田	大

富士重工業

監督	木村 一夫	47	日 本	大
投手	谷 良治	20	関東学園	高
〃	橋本 敬司	20	熊谷農	高
〃	丸本 隆行	23	桐生工	高
〃	三浦 誠	29	東 洋	大
〃	大阿久文雄	21	栃木工	高
〃	木村 宏	24	中 央	大
捕手	小島 正人	21	松商学園	高
〃	鏑木 陽一	21	樹 徳	高
〃	千本木順一	19	前 橋 工	高
〃	村上 修	30	日 大 一	高
内野	小間 哲雄	24	駒 沢	大
〃	石原 清忠	20	松商学園	高
〃	柳沢 一美	20	前橋育英	高
〃	長壁亥佐雄	26	高 崎 商	高
〃	茂木 啓司	31	松商学園	高
〃	栗田 優	19	高 崎 商	高
〃	鈴木 秀男	23	日 本	大
外野	○内藤 光夫	29	関東学園	高
〃	斎藤 文彦	22	東農大二	高
〃	蝦沢 道明	27	桐生工	高
〃	松本 修	25	日 本	大
〃	関崎 明彦	21	高 崎 商	高
〃	東野 幸雄	26	鎌倉学園	高
〃	岸 久男	20	東農大二	高
〃	吉沢 康広	20	熊谷商	高

東京ガス

監督	江口 昇	40	早稲田実	高
投手	野中 雅彦	20	川口工	高
〃	大塚 文義	26	大 正	大
〃	松沼 博久	25	東 洋	大
〃	亀谷 真一	18	取手二	高
〃	西村 晋	24	修 徳	高
〃	工藤 真	28	慶 応	大
〃	薗田 信雄	25	帝 京	高
捕手	亀和田公之	18	宇都宮商	高
〃	佐野 登	27	早 稲 田	大
〃	湯沢 輝雄	21	鹿沼商工	高
〃	成島 達也	18	川口工	高
〃	玉山 恒夫	26	川口工	高
内野	田中 伸樹	28	早 稲 田	大
〃	松田 慶紀	24	立 教	大
〃	岡村 猛	22	早 稲 田	大
〃	安岡 直記	23	明 治	大
〃	池田 勝之	23	PL学園	高
〃	小山 敏幸	20	城 西	高
〃	吉田 博一	18	川口工	高
〃	高谷 貴昭	18	取手二	高
外野	渡辺 茂	28	上 尾	高
〃	三宅 康博	22	明 治	大
〃	五月女 章	24	鹿沼農商	高
〃	小川 克也	18	神奈川工	高
〃	○山本 重行	26	早 稲 田	大

三協精機

監督	村上唯三郎	37	早 稲 田	大
投手	白川不三夫	27	東 洋	大
〃	小嶋 正宣	23	東 洋	大
〃	大塚喜代美	24	桐蔭学園	高
〃	平田 恒夫	22	中 京 商	高
〃	鈴木 誠	20	能 代	高
〃	樫本 悦生	19	柳ケ浦	高
捕手	鈴木 勇夫	23	中 京	大
〃	伊藤 元彦	18	三 重	高
〃	京極 昌信	25	亜 細 亜	大
〃	小林 文康	23	中 京 商	高
内野	青柳 暁	23	法 政	大
〃	○佐藤 広美	26	明 治	大
〃	丸茂 恒幸	23	明 治	大
〃	坂田 松一	23	亜 細 亜	大
〃	幡野 正秋	32	神 奈 川	大
〃	道吉 哲夫	25	法 政	大
〃	上川 誠二	18	鵬 島	高
〃	樋江井忠臣	25	中 京 商	高
外野	横井 勲	23	明 治	大
〃	佐々 弘雄	30	中 京	大
〃	鈴木 実	25	豊 南	高
〃	小根森末男	27	亜 細 亜	大
〃	豊国 利一	27	日本体育	大
〃	佐々木正行	23	法 政	大

日本楽器

監督	川島 勝司	35	中 央	大
投手	久保真一郎	23	青山学院	大
〃	山本 操	19	小 笠 農	高
〃	野林 春美	23	利 根 商	高
〃	立野 政治	23	PL学園	高
〃	藤原 仁	23	崇 徳	高
〃	富永 邦博	22	熊 本 工	
〃	戸田 秀明	20	鉾 田 一	高
捕手	高柳 信英	26	国 士 舘	大
〃	木島 信秋	26	駒 沢	大
〃	土屋 正方	24	静 清 工	高
内野	○津布久欣司	27	駒 沢	大
〃	森 慎司	23	立 命 館	大
〃	谷田部高充	24	神 奈 川	大
〃	石井 淳一	22	浪 商	高
〃	加藤富士男	22	自動車工	高
〃	金子 憲治	27	日 本	大
〃	鈴木 清之	23	青山学院	大
〃	竹崎 恭二	26	八 代 工	高
外野	佐藤 滋孝	23	OCポリクーンズ	高
〃	内海 昌之	23	亜 細 亜	大
〃	安芸土佐男	25	国 士 舘	大
〃	伊藤 功	22	小 笠 農	高
〃	山田 和典	21	東海大一	高
〃	畑 和夫	27	関東学院	大
〃	内山 仁志	25	中 央	大

王子製紙春日井

監督	小島 幸和	32	埴 生	高
投手	小林 隆洋	23	鳥 羽	高
〃	初鹿 秀敏	18	小 牧 工	高
〃	小谷 秀夫	19	田 辺 工	高
〃	新美 寿通	21	半 田 工	高
〃	龍神 光美	25	御坊商工	高
〃	倉石 一男	22	小 牧 工	高
〃	平田 広明	18	半 田 工	高
〃	柴田 利男	21	起 工	高
捕手	渡辺 利通	22	春日井商	高
〃	佐藤 敏夫	21	半 田 工	高
〃	平下 稔	19	岐 阜 工	高
〃	柴山 敏夫	22	名古屋市工	高
内野	○溝口 裕生	26	津島商工	高
〃	大橋 正芳	19	田 辺	高
〃	浦島 俊孝	22	名古屋市工	高
〃	江村 武司	22	大 同 工	高
〃	森本 茂	19	海 星	高
〃	竹内 勝	24	函 館 工	高
〃	近藤 岩男	20	吉 原 工	高
〃	土井 茂己	26	半 田 工	高
外野	山際 牧人	22	鳥 羽	高
〃	山内 悟	25	岐 阜 工	高
〃	小林 幸一	24	士 別	高
〃	浜口 善弘	23	御坊商工	高
〃	坂中 佳介	19	大 同	高

西濃運輸

監督	江藤 栄	35	専 修	大
投手	松田 修二	27	岐阜南	高
〃	片江 剛	24	神 崎	高
〃	武者 朗	23	中 条 工	高
〃	清原 健一	23	愛知学院	大
〃	木戸 孝明	22	享 栄	高
〃	白石 義弘	20	北 陽	高
〃	上原 勝男	20	沖縄興南	高
捕手	中島 務	29	東 洋	大
〃	林 教雄	29	佐 野	高
〃	成田 福男	25	立 正	大
〃	沢田 守	24	大東文化	大
内野	林 伸男	32	中 京	大
〃	山極 憲三	30	東 海	大
〃	中島 隆利	28	神 奈 川	大
〃	木村 敬三	27	名古屋商科	大
〃	岩附 勝馬	24	名 城	大
〃	西村 雅文	23	佐賀竜谷	高
〃	高田 淳二	23	駒 沢	大
〃	中沢 和孝	22	二松学舎大付	高
〃	吉田 則昭	19	岐阜西工	高
外野	○細川 昌俊	31	東 洋	大
〃	加野 悦男	28	中 京	大
〃	兼近 孝雪	28	荏 原	高
〃	小椋 清俊	26	岐阜第一	高
〃	水江 正孝	24	福 岡 工	大

川崎製鉄神戸

監督	生田日出男	29	明石南	高
投手	大同 克美	27	山口水産	高
〃	辻本 昌広	20	鵬 島	高
〃	坂本 達哉	19	淀 商	高
〃	森藤 隆生	19	天 理	高
〃	真鍋 義之	23	私 神 港	高
〃	元井 均保	19	県豊岡	高
〃	山中 誠司	19	県伊丹	高
捕手	砂川 恵勝	26	浪 商	高
〃	木村 敏之	21	洲本実	高
〃	吉川 博	29	育 英	高
内野	松川 明弘	24	御影工	高
〃	西尾 隆広	23	興 国	高
〃	来田 拓馬	24	洲本実	高
〃	福本 正行	21	村野工	高
〃	竹下 龍夫	26	興 国	高
〃	五島 卓道	24	早 稲 田	大
〃	土井 誠	21	佐賀工	高
〃	米田 司	23	奈良商	高
外野	○菊池 淳	26	帝京第五	高
〃	前川 典生	24	早 稲 田	大
〃	上村 直好	27	鎮 西	高
〃	山中 正則	21	和歌山工	高
〃	関井 義亘	19	天 理	高
〃	生田日出男	29	明石南	高
〃	浅田 史男	20	南宇和	高

三菱重工神戸

監督	一岡	四郎	32	同志社大
投手	杉野	時三	26	鴨島商高
〃	一色	克義	22	京都水産高
〃	庄司	富夫	23	安来高
〃	香川	正人	25	早稲田大
〃	藤崎	穣	20	中京商高
捕手	竹中	円	27	萩高
〃	藤井	大	26	村野工高
〃	仲	隆司	26	報徳学園高
〃	福島	康徳	23	神戸学院大
内野	深田	修平	29	法政大
〃	伊藤	博文	23	関西学院大
〃	森	昌三	23	坂出商高
〃	渡辺	秀一	26	法政大
〃	山谷	健二	24	岡山東商
〃	古田	久人	19	PL学園高
〃	川辺	邦好	25	育英高
〃	○時本	勝己	27	三田学園高
外野	友藤	芳巳	26	村野工高
〃	金蔵	博久	25	九州工高
〃	井上	美春	27	市和歌山商高
〃	東	茂	28	同志社大
〃	中沢	文哉	23	東京大
〃	吉田	隆行	24	岡山東商高
〃	勝	順一	30	関西学院大

松下電器

監督	下田	鎮男	36	柳川商高
投手	福間	納	27	大田高
〃	久保	邦夫	25	水島工高
〃	長谷部	優	28	慶応大
〃	藤井	俊宏	21	福山商高
〃	吉田	恭之	24	東海大
〃	山本	芳	23	創価大
〃	原	邦彦	20	岡山東商高
〃	塚岡	広仁	20	倉敷工高
捕手	木原	弘人	27	慶応大
〃	大本	二郎	21	倉敷工高
〃	松川	正樹	23	愛知工大
内野	山口	円	28	関西大
〃	亀沢	猛	22	大田高
〃	坂口	雅久	27	立教大
〃	森本	光一	23	立命館大
〃	平谷	拓	22	田辺商高
〃	宮脇	俊也	20	岡山東商高
〃	○鍛治舎	巧	27	早稲田大
〃	対中	修平	24	東海大
〃	島田	行雄	23	近畿大
外野	浜田	雄次	24	徳島商高
〃	山田	勉	20	大鉄高
〃	高鍋	均	21	布施工高
〃	堀江	隆樹	27	立教大
〃	磯本	邦彦	21	佐世保工高

大丸

監督	清水	正輝	33	関西学院大
投手	疋田	豊	18	八代学園高
〃	釘宮	宏之	21	鳴門工高
〃	鹿倉	仁	20	堀越学院高
〃	辻内	修	23	同志社大
〃	岡崎満起男		27	関西大
〃	矢野	実	18	芦屋高
〃	松原	良治	19	西舞鶴高
〃	山元	博	21	比叡山高
捕手	田中	昭雄	26	関西大
〃	吉川	年弘	18	伊香高
〃	中西	努	26	同志社大
内野	柏原	豊	25	関西学院大
〃	富永	直利	20	鳴門工高
〃	九十九千秋		25	大谷高
〃	江口	忠浪	19	高松商高
〃	谷野	昭彦	25	同志社大
〃	土井池憲治		31	立教大
〃	蒲谷	良充	25	立教大
〃	細井	一義	18	加悦谷高
外野	佐下谷武司		26	同志社大
〃	○長沢	和雄	27	関西大
〃	津田	晃男	19	新宮高
〃	南	俊行	19	郡山高
〃	木下	尚	25	大商大

神戸製鋼

監督	清水	一夫	49	中央大
投手	三善	民康	25	関西大
〃	野間	武久	21	村野工高
〃	青木	弘之	23	佐賀学園高
〃	山本	泰之	25	駒沢大
〃	登記	欣也	27	帝京第五高
捕手	原田	貞夫	26	香住高
〃	佐野	靖文	27	帝京第五高
〃	荒井	信久	25	明治大
〃	若林	浩	20	都島工高
内野	村上	宣英	30	都島工高
〃	吉田	和幸	29	駒沢大
〃	古賀	博樹	24	多久工高
〃	宮本	要	20	洲本実高
〃	山本	公裕	20	高松商高
〃	三木	行治	24	大阪商大
〃	岡田	義明	23	山崎高
〃	○大村	雅文	27	専修大
〃	柏原	伸晃	22	小豆島高
外野	小林	賣	26	姫路南高
〃	中村	好治	25	専修大
〃	中村	正人	25	塩田工高
〃	山崎	博行	23	村野工高
〃	日野	高	23	都島工高
〃	土師	利博	26	明治大
〃	河野	正司	28	県兵庫高

三菱重工広島

監督	迫田	守昭	33	慶応大
投手	村田	利明	25	立教大
〃	佃	正樹	23	法政大
〃	近藤	実	29	福岡工大
〃	若松	実	29	芝浦工大
〃	池本	正樹	21	大田高
〃	松岡	信吾	19	八代学院高
捕手	大森	光生	27	明治大
〃	山村	幸紀	26	広島商高
内野	○酒井	信芳	28	東洋大
〃	米谷	豊	22	宮崎電子工高
〃	金光	興二	23	法政大
〃	富士野	誠示	25	西脇工高
〃	若松	茂樹	25	東洋大
〃	佐々木	幸治	27	法政大
外野	古川	達雄	27	米子商高
〃	荒谷	稔	25	広島商高
〃	井上	敏之	25	山陽高
〃	伊藤	順三	29	八幡大
〃	岡崎	照光	23	熊本第一工高
〃	井上	伸三	26	東洋大
〃	吉川	丈一	25	都城農

電電中国

監督	竹井	和彦	33	東洋大
投手	新田	祐生	19	三次高
〃	宇根	洋介	28	近畿大
〃	植木	猛司	20	広島工高
〃	田中	茂	24	日本大
〃	吉村	善治	22	久賀高
〃	○中原	実	29	大商大
捕手	土取	政治	27	大商大
〃	伊藤	憲文	19	瀬戸内高
〃	福田	正博	31	駒沢大
〃	城戸	勉	26	亜細亜大
内野	角屋	孝男	28	国学院大
〃	武田	浩	24	鳥取西高
〃	奥谷	徳行	29	神奈川大
〃	築地	強	24	東海大
〃	呉原	耕三	26	駒沢大
〃	大谷	明憲	26	近畿大
〃	一ノ谷	輝広	22	益田商高
〃	竹井	和彦	33	東洋大
外野	問可	義則	24	亜細亜大
〃	山根	良弘	31	亜細亜大
〃	勝部	成幸	22	出雲高
〃	中田	英二	21	宇部工高
〃	中村	武	23	浜田商高
〃	川崎	勝之	20	笠岡商高
〃	増永	芳紀	25	東洋大

大倉工業

監督	鎌田	康彦	30	法政大
投手	武田	克也	19	多度津工高
〃	星加	和夫	22	聖陵学園高
〃	藤岡	貞明	22	福岡第一高
〃	小松	徹三	19	安芸高
〃	尾藤	福繁	22	駒沢大
〃	本多	詳治	26	南宇和高
捕手	天野	恭弘	23	大阪学院大
〃	中原	正敏	26	東洋大
内野	中井	照也	26	野村高
〃	堀家	正教	22	多度津工高
〃	三好	一正	23	神戸学院大
〃	佐治	克郎	22	観音寺商高
〃	和田	恵充	24	松山商科大
〃	広沢	和男	21	作新学院高
〃	二神	嘉彦	26	日本大
外野	江口	忠孝	22	高松商高
〃	○豊富	孝	24	大阪学院大
〃	阿部	修	22	愛知学院大
〃	奥野	善英	23	神戸学院大
〃	笠井	裕志	20	徳島商高
〃	竹口栄二郎		25	坂出商高
〃	鎌田	康彦	30	法政大

国鉄四国

監督	細川	眞男	37	観音寺商高
投手	佐野	晃	27	鳴門高
〃	○落合	登	25	鳴門高
〃	森田	明裕	19	坂出工高
〃	松浦	建一	18	北宇和高
〃	川城	敏英	18	阿波商高
捕手	大西	勝之	22	丸亀商高
〃	竹内	健二	23	坂出商高
〃	橋本	太郎	28	丸亀商高
内野	藤井	嘉彦	26	坂出工高
〃	藤井	博之	26	坂出商高
〃	津村	浩二	22	志度商高
〃	山本	淳	20	三本松高
〃	湊谷	和広	23	高松商高
〃	上原	良友	21	志度商高
外野	中石	喜清	26	坂出工高
〃	石川	哲男	19	志度商高
〃	谷	幹則	20	志度商高
〃	渋谷	郁一	21	鳴門高
〃	高崎	英典	20	藤井高
〃	増井五十三		23	中村高
〃	岡田	政彦	26	坂出工高

電電九州

監督	広門	正暢	34	九州工高
投手	小島	正	28	亜細亜大
〃	山内	孝徳	21	鎮西高
〃	長嶺	俊一	28	宮崎本庄高
〃	錦野	和明	28	熊本大
〃	菊川	良正	27	東海大二高
捕手	○川越	雄一	28	国士舘大
〃	柴田	克己	24	福岡大
〃	永圖	敏博	28	川内高
内野	福島	和博	25	愛知工大
〃	柳川	正義	19	日田林工高
〃	勝山	晋一	22	東海大二高
〃	今井	敬二	28	門司工高
〃	岩本	正秋	23	福岡大
〃	平山	敏数	22	九州共立大
〃	橋本	栄二	23	東海大
〃	小林	裕一	18	熊本工高
外野	松村	和生	24	福岡大
〃	河野	統治	20	九州学院高
〃	八重石	勝幸	22	京都産業大
〃	鈴木	泰司	23	仏教大
〃	黒木	哲	25	延岡商高
〃	金水	乗政	20	出水学園高
〃	藤原	広喜	22	唐津商高

日鉱佐賀関

監督	吉武	勝	38	四日市農高
投手	藤沢	公也	26	八幡浜高
〃	松永	隆二	19	北松南高
〃	落合	保雄	19	厳木高
〃	藤本富美夫		24	中津商高
〃	永江	健一	31	鹿児島実高
捕手	斉藤	邦男	26	早稲田大
〃	川野	勉	21	臼杵商高
内野	古田	徹	18	津久見高
〃	清原	真二	19	柳ケ浦高
〃	○村田	啓一	27	津久見高
〃	伏原	直	25	広陵高
〃	松瀬	芳樹	27	佐世保工高
〃	井尾	寿彦	25	明治大
〃	湯野	清二	35	八代東高
外野	野上	勝也	19	津久見高
〃	岩尾	正義	24	中津工高
〃	吉近	寿一	24	専修大
〃	児玉	秀文	23	佐伯鶴城高
〃	木村	司	27	八幡浜高
〃	青木	正秀	25	佐伯鶴城高
〃	鳥丸	政文	26	指宿商高

守りに徹して初出場

八戸市水道部

○…「野球やってて良かったな」八戸市水道部の選手たちはいま、心底そう思っている。1971年、硬式野球部に切り替わって8年目。初めて全国大会という晴れ舞台に臨めるのだ。

それまで軟式野球をやっていた。国体の代表決定戦にまで進んだこともあった。71年、八戸市に工場誘致した三菱製紙がチームをつくるという。相手がほしいので「硬式」をやってくれないか、と。「軟式」のままでいたかったが、市としては三菱を誘致した手前もあって「硬式を……」

そして全日本軟式野球の予選を終えたばかりのチームが、硬球に持ち替えて都市対抗の予選に出た。相手はもちろん、三菱製紙八戸だけで、11−7で勝って第二次予選の東北大会に出場した。

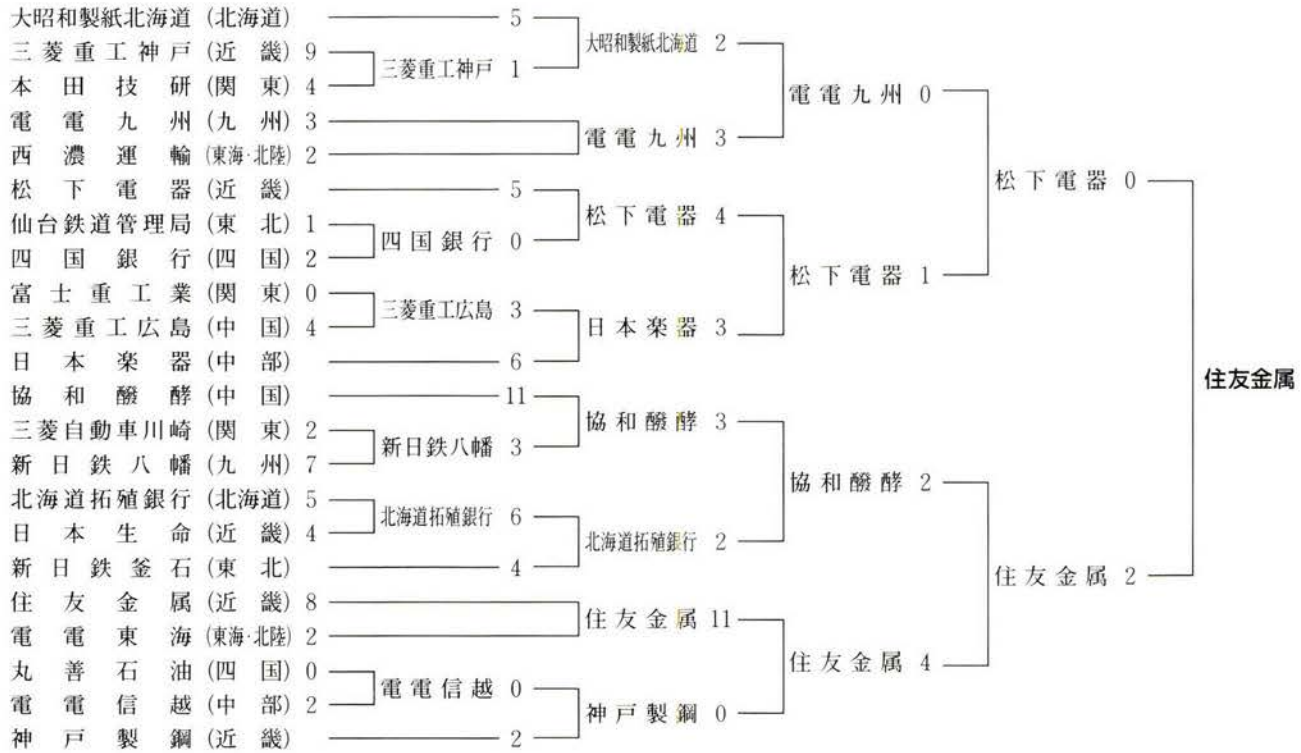
チームづくりの原点は守りを固めることから始まるが軟球から硬球に変わったばかりのチームにはより切実な問題だった。守り中心のチームづくりは以来、このチームの出発点になり、いまも続いている。選手も時を追って高校時代の経験者にスイッチされ、試合に出るだけ、負けても仕方がないというふん囲気のチームが、年ごとに「勝たなければ」の意識を持つチームになっていった。

今年の選手権予選の代表決定戦では強敵・新日鉄釜石を相手にスクイズを見破り、あるいは内野ゴロで本塁をつく走者を刺し……堅い守りでピンチを切り抜け、初の全国大会出場を手にした。

第6回大会

1979年（昭和54年）11月3日▶11月11日　阪神甲子園球場

優勝＝住友金属 ――――（2年ぶり2回目）



住金、歯車かみ合い会心の優勝

北海道拓殖銀行の連覇が成るか、三菱重工広島が都市対抗に続く「二冠」達成をなし遂げるかどうか、が大会の焦点だった。だが両者はもろくも敗れ、史上初の近畿同士の優勝戦となり、住友金属に栄冠が輝いた。

2年ぶりに優勝した住友金属は、準決勝まで3試合で40安打と打ちまくり最後まで勢いを失わなかった。中村コーチの急死がチームの勢いを引き出したとはいえ、「松永野球」が粘りを貫き通した。最高殊勲選手に輝いた4連投のエース・清水長、ベテラン宇山と若い西村ら投打の歯車がかみ合っての会心の勝利だった。

創部27年目、宿願の初タイトルに燃えた松下電器は敗れたとはいえ健闘した。投の原、打の高鍋、磯本、山田が順調に伸び、はつらつプレーで大会を盛り上げた。もちろんチームを引っ張った鍛治舎の存在は忘れられない。

混戦のなかからベスト4に進出した協和醗酵、電電九州の健闘が賛えられる。協和の新人・津田の力投は見事だった。

金属バットの登場で第2回大会の15本を大きく上回る26本塁打が乱れ飛んだ。1試合5盗塁の三菱重工神戸・川辺の俊足ぶりも光った。

〔優勝戦〕松下電器－住友金属　八回裏住友金属二死二塁、西村の右中間三塁打で二塁から田中生還、2点目。

大会審判

▷**委員長**＝山本英一郎▷**副委員長**＝小西正一、郷司裕▷**委員**＝高橋良夫、三輪武、中西明、山川脩司、三宅享次、小林加寿男、元橋一登、達摩省一、戸田直佑、中村孝太郎、相沢孝行、清沢忠彦、原田謹爾、片岡成夫、日野賢導、上杉正、武村政雄、津田進、榧秀夫、岸野金治、吉田龍男、清水忠雄、広沢渉、木嶋一晃、松尾進、森武雄、樫根清一、松山守、池田貴義、鶴田泰夫、谷川俊彦、田中良、坂崎克実、田中美一

▽11月3日

第1試合＝1回戦(午前10時3分開始)

三菱重工神戸	0	1	0	0	0	3	4	1	0	9
本田技研	0	1	0	0	0	0	2	0	1	4

▶審判(球審)中西(塁審)武村、木嶋、坂崎

【三菱神戸】

	打	安	点	振	球
⑨ 友藤	5	1	0	0	1
④ 伊藤	2	1	0	0	0
4 時本	2	1	0	0	0
⑥ 川辺	4	1	1	0	1
③ 山谷	3	1	1	0	2
⑧ 井上	3	0	0	1	2
⑤ 岡田	5	2	3	0	0
② 竹中	4	1	2	0	0
H2福島	1	0	0	0	0
⑦ 中沢	2	0	0	0	0
H7金蔵	1	0	0	0	0
H 古田	1	1	1	0	0
7 吉田	1	1	0	0	0
① 一色	4	0	0	0	0

犠 併 残
2 1 10

	回	安	振	球	責
一色	9	7	2	3	4

【本田技研】

	打	安	点	振	球
⑥ 小屋	4	1	0	0	0
⑦ 河原井	3	0	0	0	0
H7佐藤	1	0	0	0	0
⑧ 雨堤	4	1	0	0	0
③ 田代	4	0	0	1	0
⑤ 岸	4	1	0	0	0
④ 成田	3	0	0	0	0
H 井上光	1	0	0	0	0
中大谷	3	1	1	0	1
② 上久保	2	2	1	0	2
① 中後	2	0	0	1	0
1 小林	0	0	0	0	0
1H 内川	1	1	2	0	0
R 南出	0	0	0	0	0
1 後藤	0	0	0	0	0
1 井上健	0	0	0	0	0
H 若尾	1	0	0	0	0

犠 併 残
0 0 5

	回	安	振	球	責
中後	6⅓	5	1	4	3
小林	⅔	2	0	1	1
後藤	⅔	2	0	1	1
井上健	1⅓	1	0	0	0

▷本塁打＝竹中1号(中後)上久保1号(一色)▷二塁打＝岸、中大谷、友藤、上久保、山谷▷犠打＝三2(時本、一色)▷盗塁＝三6(川辺5、時本)▷失策＝本2(中後2)▷試合時間＝2時間37分

第2試合＝1回戦(午後1時5分開始)

四国銀行	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
仙台鉄道管理局	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

▶審判(球審)三宅(塁審)津田、広沢、田中良

【四国銀行】

	打	安	点	振	球
⑧ 刈谷	4	1	0	2	1
④ 楠瀬	3	0	0	0	1
⑨ 西村	5	1	0	2	0
⑦ 日浦	5	1	0	0	0
③ 乃一田	4	2	0	1	1
② 沖田	3	3	1	0	2
⑥ 浦林	5	1	1	0	0
① 山本	4	0	0	1	0
⑤ 岸野	3	0	0	0	1

犠 併 残
1 2 11

	回	安	振	球	責
山本	10	8	1	4	1

【仙鉄局】

	打	安	点	振	球
⑤ 及川	4	0	0	0	1
④ 高橋良	4	1	0	0	1
③ 佐藤順	5	1	0	0	0
⑨ 堀切	2	0	0	0	0
H 加藤	1	0	0	0	0
8 都山	1	0	0	1	0
⑦ 永沼	4	1	0	0	1
② 阿部	3	1	1	0	0
⑧9 千葉	3	2	0	0	1
⑥ 大枝	3	2	0	0	0
① 高橋正	3	0	0	0	0

犠 併 残
2 2 8

	回	安	振	球	責
高橋正	10	9	6	6	2

▷二塁打＝沖田、千葉、西村▷犠打＝四1(楠瀬)仙2(千葉、高橋正)▷盗塁＝四4(刈谷2、楠瀬、岸野)仙2(及川、佐藤順)▷失策＝仙2(高橋正、永沼)▷試合時間＝2時間34分

あの"イレブン"力投

◎…四国銀行の山本投手は、1974年のセンバツで部員11人の"イレブン池田"が準優勝を飾った時の立役者だった。社会人のユニホームで5年ぶりに踏む甲子園。一回は「緊張しすぎて」連続四球を与え、いきなり無死一、二塁のピンチ。しかし、併殺で切り抜けてから立ち直った。

「山本の調子はもうひとつだったが、悪ければ悪いなりの投球ができるようになったところに成長の跡がある」と麻岡監督も評価するように、山本が一人立ちした今年、四国銀行は27年ぶりに都市対抗へ出場したばかりか、日本選手権へ初出場してぐーんと上昇。「ひとつ勝てて最高です。やっぱり甲子園はいいもんだ」。

第3試合＝1回戦(午後4時1分開始)

富士重工業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
三菱重工広島	0	0	0	0	0	1	0	3	X	4

▶審判(球審)高橋(塁審)三輪、樫根、戸田(外審)池田、松山

【富士重工】

	打	安	点	振	球
③ 鈴木	3	0	0	0	0
⑧ 内藤	3	0	0	0	0
④ 富田	3	0	0	2	0
⑨ 蝦沢	3	0	0	0	0
⑦ 松本	3	2	0	0	0
⑥ 小間	2	0	0	1	0
H6村田	1	0	0	0	0
⑤ 長壁	3	0	0	0	0
① 三浦	2	1	0	0	0
H 湯浅	1	0	0	0	0
② 増岡	2	0	0	0	0

犠 併 残
1 0 0

	回	安	振	球	責
三浦	8	8	5	6	3

【三菱広島】

	打	安	点	振	球
⑨ 吉川	3	0	0	1	1
④ 金光	4	2	0	1	0
③ 佐々木	2	1	0	0	1
⑤ 若松茂	3	0	0	2	0
⑧ 井上敏	3	2	1	0	1
⑦ 富士野	1	1	0	0	1
⑥ 酒井	4	1	1	0	0
② 大森	2	1	1	0	2
① 村田	4	0	0	1	0

犠 併 残
4 1 8

	回	安	振	球	責
村田	9	3	3	0	0

▷二塁打＝佐々木、井上敏▷犠打＝富1(増岡)三4(富士野2、佐々木、若松茂)▷盗塁＝三2(金光2)▷失策＝富1(増岡)▷試合時間＝2時間12分

▽11月4日

第1試合＝1回戦(午前9時26分開始)

新日鉄八幡	1	0	0	0	1	1	0	3		7
三菱自動車川崎	0	0	1	0	0	0	0	1		2

▶審判(球審)達摩(塁審)臼野、松山、清水

【日鉄八幡】

	打	安	点	振	球
⑨8加藤	3	1	1	0	2
④ 本村	3	3	1	0	0
⑦9下村	3	1	2	0	2
③ 徳永	5	2	1	0	0
② 沢熊	5	1	0	0	0
⑤ 丸目	4	1	1	2	0
⑥ 平	4	1	0	3	0
① 村上	4	1	0	1	0
1 大段	0	0	0	0	1
⑧ 奥村	1	0	0	0	1
H7榎園	1	0	0	0	0

犠 併 残
3 2 7

	回	安	振	球	責
村上	7⅔	9	5	4	1
大段	1⅓	2	1	0	1

【三菱川崎】

	打	安	点	振	球
⑨ 潮田	4	1	0	0	1
⑥ 大須賀	5	1	0	1	0
⑧ 小川	2	0	0	2	2
③ 土屋	4	3	1	0	0
⑦ 垣野	4	2	0	2	0
② 高浦	4	1	0	0	0
⑤ 豊田	4	2	0	0	0
④ 松野	2	0	0	0	1
H 米田	1	0	0	0	0
① 小笠原	0	0	0	0	0
H1田所	1	0	0	0	0
1 福家	1	0	0	1	0
H1和田	1	0	0	0	0
1 三宮	0	0	0	0	0
H 小林	1	1	1	0	0

犠 併 残
0 0 9

	回	安	振	球	責
小笠原	2	2	2	1	1
福家	5	5	3	4	3
三宮	2	4	1	0	3

▷本塁打＝加藤1号(三宮)下村1号②(三宮)▷二塁打＝潮田、大須賀、丸目▷犠打＝新3(本村2、奥村)▷盗塁＝新2(沢熊、奥村)三1(大須賀)▷暴投＝福家▷試合時間＝2時間50分

第2試合＝1回戦(午後0時43分開始)

北海道拓殖銀行	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	5
日本生命	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	4

▶審判(球審)中西(塁審)上杉、中村、吉田(外審)木嶋、清水

【拓殖銀行】

	打	安	点	振	球
④ 高岡	5	3	0	1	2
⑧ 小山	5	1	0	2	1
⑥ 山本	6	1	3	2	1
⑨ 梅坂	6	0	0	0	1
⑦ 田藤	6	0	0	0	0
③ 後田	5	0	0	0	0
3 伏辺	5	3	1	0	0
R 渡船	5	0	1	0	0
3 安井	4	0	0	0	0
② 海老名	4	0	0	0	1
⑤ 堀田	4	1	1	1	0
1 柴田	2	0	0	1	0
H 大滝	1	0	0	0	0
1 中村	1	0	0	0	0

犠 併 残
4 1 8

	回	安	振	球	責
堀田	4⅓	3	1	2	0
柴田	6⅔	5	3	1	0
中村	4	4	3	1	2

【日本生命】

	打	安	点	振	球
④ 赤井	5	2	0	0	1
⑨ 西村	5	3	0	1	1
⑤ 花野	5	0	0	1	0
H 井尻	1	0	0	0	0
③ 佐藤	7	3	2	0	0
⑥ 三佐	6	1	1	1	0
② 竹内	6	1	0	0	0
⑦ 楠原	6	1	0	0	1
7 梅田	6	0	0	0	1
① 岡本	1	0	0	0	0
H 西林	0	0	0	0	1
1 林	4	0	0	1	0
⑧ 安西	6	2	0	1	0

犠 併 残
4 1 10

	回	安	振	球	責
岡田	5	5	3	2	2
林	10	4	4	5	3

▷本塁打＝堀田1号(岡田)田伏1号(岡田)山本1号③(林)▷二塁打＝高岡▷犠打＝拓4(小島、安井、海老名、堀田)日4(赤井、西村、花野、三枝)▷盗塁＝拓1(渡辺)▷失策＝拓1(柴田)日1(佐竹)▷試合時間＝4時間7分

▽11月5日

第1試合＝1回戦(午前9時28分開始)

電電信越	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
丸善石油	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)上杉(塁審)樋、池田、鶴田

【電電信越】

	打	安	点	振	球
⑨ 田中	5	0	0	1	0
⑦ 柴山	5	3	0	0	0
⑧ 菅野	4	2	0	0	0
⑤ 西条	5	1	0	0	0
③ 石賀	4	0	0	1	0
④ 藤森	4	1	0	0	1
② 桃井	5	2	1	0	0
⑥ 大塚	4	0	0	1	0
H6望月	0	0	1	0	0
① 鈴木	5	0	0	3	0

犠 併 残
3 1 4

	回	安	振	球	責
鈴木	13	8	1	4	0

【丸善石油】

	打	安	点	振	球
④ 福永	6	2	0	3	0
⑤ 神崎	6	0	0	2	0
⑧ 松元	5	1	0	1	0
R8末崎	0	0	0	0	1
⑦ 佐藤	6	2	0	1	0
⑨ 寺岡	5	1	0	1	0
③ 野口	3	1	0	2	0
H3角田	1	0	0	0	1
⑥ 浜口明	4	1	0	0	1
② 金田	4	0	0	0	1
① 新	5	0	0	4	0
1 藤井	0	0	0	0	0

犠 併 残
0 4 10

	回	安	振	球	責
新	12⅓	8	5	1	2
藤井	⅔	1	1	0	0

▷二塁打＝福永、菅野▷犠打＝信3(菅野、石賀、望月)▷盗塁＝信1(柴山)丸2(佐藤、寺岡)▷試合時間＝2時間49分

第2試合＝2回戦(午後0時42分開始)

電電九州	0	0	0	1	0	1	0	0	1	3
西濃運輸	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2

▶審判(球審)武村(塁審)臼野、片岡、岸野

【電電九州】

	打	安	点	振	球
② 川越	5	1	0	0	0
④ 今井	4	0	0	1	0
⑧ 小林	5	3	0	1	0
⑦ 鈴木	2	0	0	0	0
7 平山	2	0	0	0	0
H7河野	1	0	0	0	0
⑤ 柴田	4	3	3	0	1
⑨ 八重石	3	0	0	0	1
③ 松尾	0	0	0	0	0
3 勝山	4	0	0	1	0
⑥ 福島和	5	1	0	0	0
① 長嶺	3	0	0	1	1
1 山内	1	0	0	0	0

犠 併 残
3 0 9

	回	安	振	球	責
長嶺	8	4	4	1	1
山内	3	1	1	0	0

【西濃運輸】

	打	安	点	振	球
⑧ 小椋	4	1	0	1	1
④ 上原	0	0	0	0	0
4 水江	2	0	0	0	0
H4山極	3	1	2	0	0
⑦ 細川	5	1	0	0	0
⑤3中島隆	4	0	0	0	0
⑨ 加野	4	1	0	0	0
③ 吉井	3	1	0	1	0
5 西村	1	0	0	0	0
② 沢田	1	0	0	0	0
1 松田	0	0	0	0	0
H 紀	1	0	0	0	0
H1白石	1	0	0	0	0
⑥ 岩附	4	0	0	1	0
① 武者	1	0	0	1	0
H2中島務	3	0	0	1	0

犠 併 残
1 0 4

	回	安	振	球	責
武者	5	2	2	3	0
松田	3	4	1	0	2
白石	3	2	1	0	1

▷本塁打＝山極1号②(長嶺)柴田1号(白石)▷三塁打＝加野▷二塁打＝小林、柴田▷犠打＝電3(今井、八重石、勝山)西1(沢田)▷盗塁＝電2(小林、八重石)西1(細川)▷失策＝電1(柴田)西1(岩附)▷試合時間＝2時間36分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

新日鉄八幡＝2回戦敗退
村上 茂徳投手
(現同野球部助監督 38歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画ら)

津田の剛球にぼう然

2回戦で故・津田恒美投手(広島東洋カープ)を擁する協和醗酵と対戦。とにかくめっぽう速かった。

1回戦の三菱自動車川崎戦では七回途中まで投げ、打たれながらも1点に抑え勝ち投手に。翌日の新聞に「サンドバッグのように打たれながらも粘り強い投球」と活字が躍った。

そして2回戦。先発で津田と投げ合う。が、その速球を目の当たりにして完全に自分を見失った。当時はDH制がなく、自らも打席に。が、インコース高めがフッと消えるような速さだった。

「カッと熱くなったんでしょうね」。津田にペースを合わせるように力んだ球は次々にはじき返された。気がついたらベンチに座っていた。四回途中でKO。3対11の大敗だった。

「冷静に熱くなれ」。津田から学んだ教訓は忘れられない。

第3試合＝2回戦(午後3時40分開始)

電電東海	0	0	0	0	0	1	0	0	1		2
住友金属	0	0	0	2	2	0	2	2	X		8

▶審判(球審)元橋(塁審)達摩、相沢、原田(外審)吉田、谷川

【電電東海】

		打	安	点	振	球
⑧	横井	3	1	0	1	0
⑤	末武	4	1	0	0	0
④	湯之戸	3	1	2	2	0
⑦	稲山	4	0	0	0	0
③	高田	4	0	0	1	0
⑨	林博	4	2	0	1	0
②	大石	4	2	0	1	1
H	三浜	1	0	0	1	0
①	井田	2	1	0	0	0
1	杉山	0	0	0	0	0
H	古瀬	1	1	0	0	0
1	中村	0	0	0	0	0
⑥	原	3	0	0	1	0
犠	併	残				
2	0	5	31	7	2	8

【住友金属】

		打	安	点	振	球
⑥	田中	3	1	1	0	1
⑨	山口	3	2	0	0	0
7	高多	0	0	0	0	0
⑤	隈松	0	4	2	2	0
⑧	西村	5	2	2	2	1
③	中原	4	2	2	1	0
⑦9	三好	4	2	1	0	0
④	清水	4	1	1	0	0
②	小川	3	1	0	0	1
①	高橋	3	2	0	0	0
犠	併	残				
5	1	8	33	15	8	12

	回	安	振	球	責
浜田	6	11	0	1	5
杉山	1	2	0	0	1
中村	1	2	1	1	2

	回	安	振	球	責
高橋	9	7	8	1	2

▷本塁打＝湯之戸1号(高橋) ▷二塁打＝西村、横井、宇山、中原、田中、林博 ▷犠打＝電2(横井、湯之戸)住5(田中、宇山2、松隈、高橋) ▷盗塁＝住1(松隈) ▷捕逸＝大石 ▷試合時間＝2時間34分(中断1時間25分)

▽11月6日

第1試合＝2回戦(午前9時28分開始)

三菱重工神戸	0	0	0	0	0	0	0	0	1		1
大昭和製紙北海道	1	0	0	1	0	2	0	1	X		5

▶審判(球審)三宅(塁審)森、松山、相沢

【三菱神戸】

		打	安	点	振	球
⑨	友藤	4	2	0	0	0
④	伊藤	3	1	0	0	0
4	時本	3	2	0	1	0
⑥	川辺	3	3	0	0	1
⑤	岡田	4	1	1	1	0
⑧	井上	4	1	0	2	0
③	山吉	3	0	0	2	0
H	田中	1	0	0	0	0
②	竹金	3	0	0	0	0
⑦	中庄	3	0	0	0	0
①	杉野	3	0	0	0	0
1	古田	0	1	1	0	0
1	一色	2	0	0	0	0
犠	併	残				
1	1	5	31	5	1	6

【大昭和】

		打	安	点	振	球
⑦	山本	4	1	0	1	0
④	仲本	3	0	0	0	0
⑤	大野	3	1	1	1	0
③	高梨	4	2	1	0	0
3	井上	0	0	0	0	0
②	村井	4	4	2	0	0
⑧	我喜屋	2	2	1	0	1
R	8石川	0	0	0	0	0
⑨	横川	4	0	0	0	0
⑥	佐藤	2	0	0	1	0
H	梁原	1	1	0	0	0
6	宝橋	1	0	0	0	0
①	川瀬	4	0	0	0	0
犠	併	残				
3	0	7	32	11	5	3

	回	安	振	球	責
庄司	1⅔	2	0	0	1
杉野	⅓	0	1	0	0
一色	6	9	2	1	4

	回	安	振	球	責
川瀬	9	5	6	1	1

▷本塁打＝高梨1号(一色)村上1号、2号(一色)岡田1号(川瀬) ▷二塁打＝山本 ▷犠打＝三1(伊藤)大3(仲本、大野、我喜屋) ▷失策＝三1(川辺) ▷試合時間＝2時間9分

第2試合＝2回戦(午後0時2分開始)

四国銀行	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
松下電器	1	0	0	0	0	0	0	4	X		5

▶審判(球審)小林(塁審)三輪、清沢、戸田

【四国銀行】

		打	安	点	振	球
⑧	刈谷	4	1	0	0	0
④	楠瀬	4	1	0	1	0
⑨	西村	4	0	0	0	0
⑦	日浦	3	0	0	0	0
③	乃沖	3	0	0	1	0
②	田浦	3	1	0	0	0
⑥	林浦	3	0	0	1	0
①	山本	3	1	0	2	0
⑤	岸野	3	0	0	1	0
犠	併	残				
0	0	3	30	4	0	6

【松下電器】

		打	安	点	振	球
⑦	磯本	2	1	0	0	2
④	坂口	3	0	0	0	0
⑨	高鍋	4	2	2	1	0
③	鍛治舎	4	1	0	0	0
⑧	山田	4	1	3	0	0
⑥	山口	4	1	0	0	0
②	大本	3	0	0	0	0
①	原	3	0	0	0	0
⑤	平谷	3	0	0	0	0
犠	併	残				
1	1	4	30	6	5	12

	回	安	振	球	責
山本	8	6	1	2	5

	回	安	振	球	責
原	9	4	6	0	0

▷本塁打＝山田1号③(山本) ▷二塁打＝高鍋、磯本 ▷犠打＝松1(坂口) ▷盗塁＝松4(磯本2、山口、大本) ▷失策＝四1(岸野) ▷試合時間＝1時間50分

松下快調、四銀二塁踏めず

㊀…松下電器は一回、先頭の磯本が四球で歩いて二盗、坂口がバントで送った一死三塁に、高鍋が中堅越えに二塁打して先制。原は内外角のきわどいところへ速球を決め、ときにカーブを投げて投球の幅を広くした。松下は八回にも磯本の二塁打を生かし、高鍋の安打で加点、鍛治舎の安打が続いた二死一、二塁に山田が左翼へ3点本塁打してダメを押した。

四国銀行は山本が原に見劣りしない投球をみせ四つに組んだが、あまりにも原を打てなかった。安打は4本。結局、二塁を踏めなかった。

裕二はいま、遺影で"秋の甲子園"に

「裕二、甲子園に来たよ」——

2週間前、胃ガンでなくなった住友金属(近畿・和歌山)、中村裕二捕手(30)の遺影が開会式で、恩師の監督の胸に抱かれてダイヤモンドを一周した。裕二は2年前の秋、主将としてダイヤモンド旗を受け、今度も最後まで甲子園に思いをはせて息を引き取った。大柄のガッチリした裕二に突然「ガン」の宣告があったのは8月。7月下旬には門真市(松下電器)の補強選手として都市対抗に出場。

だが、中学校の同級生である妻きよみさん(30)は都市対抗から帰ってきた裕二の顔色の悪さが気になった。「大丈夫だ」と笑う裕二を促して和歌山市内の病院で診察を受けさせると、10日後、松永監督のもとへ悲しい宣告が届いた。

松永監督にとって裕二は法大監督時代以来、10年以上にわたる教え子。住友金属に引っ張ったのも松永さん。

それだけに松永さんは「本人にガンであることを知らせてはならない」と自分に言いきかせ、裕二には「秋の甲子園で一緒にやろう。それまで療養してこい」と、福岡県飯塚市の実家に帰らせた。10月16日、松永さんと選手たちは見舞いに行ったが、病院のベッドの上で裕二は「しっかりしないとダメだ。勝てないぞ」「もう一度ダイヤモンド旗だ」などとうわ言を言っていた。それから4日後、永遠の眠りについた。

第3試合＝2回戦(午後2時23分開始)

日本楽器	1	0	0	0	0	4	0	0	1		6
三菱重工広島	1	0	1	1	0	0	0	0	0		3

▶審判(球審)中西(塁審)樫根、広沢、田中

【日本楽器】

		打	安	点	振	球
⑦	竹崎	5	1	1	0	0
④	津布久	5	2	0	0	0
⑧	内山	5	3	0	1	0
③	武居	5	3	1	0	0
⑨	佐藤	3	1	0	0	0
2	中村	1	0	0	0	0
②	高柳	2	0	0	1	0
H	9畑	2	1	2	0	0
⑥	石井	4	1	0	0	0
⑤	加藤	2	0	0	1	0
H	安芸	1	1	2	0	0
5	伊藤常	1	0	0	1	0
①	久保	1	0	0	1	0
1	藤原	3	0	0	0	0
犠	併	残				
0	1	7	40	13	6	5

【三菱広島】

		打	安	点	振	球
⑨	79伊藤	1	0	0	0	1
H	吉川	1	0	0	0	0
9	井上伸	0	0	0	0	1
④	金光	4	1	0	1	0
③	佐々木	3	1	1	0	0
⑤	若松茂	4	1	1	0	0
⑧	井上敏	4	1	0	0	0
⑦	97富士野	3	1	1	0	0
⑥	酒井	3	0	0	0	0
②	大森	3	0	0	0	0
①	村田	2	0	0	1	0
1	徳勢	1	0	0	1	0
犠	併	残				
1	1	2	29	5	3	3

	回	安	振	球	責
久保	3⅓	5	0	1	3
藤原	5⅔	0	3	1	0

	回	安	振	球	責
村田	6⅓	11	4	0	5
徳勢	2⅔	2	1	0	1

▷本塁打＝竹崎1号(徳勢) ▷二塁打＝佐々木、井上敏、安芸、武居 ▷犠打＝広1(佐々木) ▷盗塁＝日2(石井2)広1(井上伸) ▷失策＝日1(佐藤)広2(若松茂2) ▷試合時間＝2時間30分

▽11月7日

第1試合＝2回戦(午前9時28分開始)

協和醗酵	0	0	1	1'6	3	0	0	0			11
新日鉄八幡	0	0	0	2	0	0	1	0	0		3

▶審判(球審)三宅(塁審)木嶋、原田、松尾

【協和醗酵】

		打	安	点	振	球
④	安永	4	1	1	1	0
⑤	嘉村	5	2	1	0	0
⑧	山田	5	2	2	1	0
③	吉用	4	3	1	0	0
⑨	古嶋	5	3	4	0	0
⑥	浅田	4	0	1	0	0
⑦	藤本	5	1	0	1	0
②	稲田	3	2	0	0	2
①	津田	3	2	0	0	1
犠	併	残				
4	0	7	38	16	10	3

【日鉄八幡】

		打	安	点	振	球
⑨	加藤	4	0	0	0	0
H	田沼	4	0	0	1	0
6	本下	5	1	0	1	0
⑦	村永	5	4	1	0	0
③	徳沢	4	1	2	0	0
⑤	丸目	4	2	2	0	0
①	池平	4	0	0	1	0
6	榎園	3	1	0	0	0
H	浜村	1	0	0	0	0
4	米大	1	0	0	0	1
①	上満	1	0	0	0	0
1	段崎	1	0	0	0	0
1	谷田	1	0	0	0	0
H	5奥村	1	0	0	0	0
⑧	奥	1	4	2	0	0
犠	併	残				
0	0	9	38	11	3	6

	回	安	振	球	責
津田	9	11	6	1	2

	回	安	振	球	責
村上	4⅓	9	1	1	6
米満	1	4	0	1	5
大段	⅔	2	0	0	0
谷	2	0	2	1	0
池田	1	1	0	0	0

▷本塁打＝沢熊1号②(津田)古嶋1号③(米満) ▷二塁打＝徳永、津田、嘉村、本村2、稲田 ▷犠打＝協4(安永、吉用、浅田、津田) ▷盗塁＝協1(安永) ▷試合時間＝2時間45分

第2試合＝2回戦(午後0時36分開始)

新日鉄釜石	0	1	0	1	0	0	1	0	1		4
北海道拓殖銀行	0	0	1	0	0	1	1	3	X		6

▶審判(球審)田中(塁審)上杉、木嶋、樋

【日鉄釜石】

		打	安	点	振	球
⑧	早瀬	4	0	0	1	0
④	伊藤	4	2	0	1	0
⑦	若目	4	0	0	0	0
③	日田	4	1	1	1	0
⑥	三渋	4	1	1	0	0
⑤	谷川	2	0	1	0	1
②	平大	2	0	1	0	0
R	川湯	0	0	0	0	0
①	東藤	2	0	0	0	0
H	斉高	0	0	0	0	0
1	橋沢	1	0	0	0	0
H	田	0	0	0	0	0
犠	併	残				
2	0	5	33	10	4	1

【拓殖銀行】

		打	安	点	振	球
④	高岡	4	1	1	1	0
⑧	小島	3	1	0	1	1
⑥	山本	3	0	0	0	1
⑨	梅田	4	2	2	0	0
⑦	坂後	4	0	0	2	0
③	藤田	3	0	0	0	0
3	竹内	3	1	1	0	1
②	安井	2	0	0	0	0
R	渡辺	0	0	0	0	0
2	海老名	3	1	1	1	0
⑤	山口	3	1	0	0	1
①	柴田	3	1	0	0	1
1	中村	1	0	0	0	0
H	大滝	1	0	0	0	0
1	堀田	0	0	0	0	0
犠	併	残				
0	2	4	30	7	6	4

	回	安	振	球	責
大湯	6	3	6	3	2
斉藤	1⅓	2	0	1	1
高橋	⅔	2	0	0	1

	回	安	振	球	責
山口	3⅔	5	2	0	2
柴田	3⅓	2	1	0	1
中村	1⅓	3	1	0	1
堀田	⅔	0	0	1	0

▷本塁打＝三上1号(山口)高岡1号(大湯)日高1号(中村) ▷二塁打＝海老名、田伏 ▷犠打＝釜2(渋谷2) ▷盗塁＝拓2(小島、山本) ▷失策＝釜1(渋谷)拓2(山本、海老名) ▷試合時間＝2時間28分

第3試合＝2回戦(午後3時28分開始)

電電信越	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
神戸製鋼	0	0	2	0	0	0	0	0	X		2

▶審判(球審)高橋(塁審)森、鶴田、日野(外審)池田、吉田

【電電信越】

		打	安	点	振	球
⑨	田中	3	0	0	2	0
H	城柴	3	1	0	0	0
⑦	迫山	3	1	0	0	0
H	田野	3	1	0	0	0
⑧	菅沢	2	1	0	0	0
H	竹条	2	1	0	0	0
⑤	西賀	2	0	0	0	0
③	石井	4	0	0	0	0
4	藤森	3	0	0	0	0
②	桃井	3	0	0	0	0
⑥	大塚	2	0	0	0	0
H	小尾	1	0	0	0	0
6	望月	1	0	0	0	0
①	安川	1	0	0	0	0
1	北下	1	0	0	0	0
H	山野	1	0	0	0	0
1	矢	0	0	0	0	0
犠	併	残				
1	1	6	32	5	0	7

【神戸製鋼】

		打	安	点	振	球
⑧	小林	3	1	0	0	1
⑥	宮本	4	1	0	0	0
⑨	山崎	3	0	0	0	1
③	大村	4	1	0	1	0
②	荒井	3	1	1	0	1
④	中川	4	2	1	1	0
⑦	中村	3	0	0	1	1
⑤	古賀	4	0	0	2	0
①	山本泰	3	1	0	2	0
犠	併	残				
0	0	9	31	7	2	7

	回	安	振	球	責
安藤	2⅓	6	0	2	2
北川	4⅔	15	2	0	5
矢野	1	0	2	0	0

	回	安	振	球	責
山本泰	9	5	7	0	0

▷二塁打＝石賀、中川 ▷犠打＝信1(菅野) ▷盗塁＝信1(菅野)神4(小林2、中川2) ▷失策＝信1(大塚)神1(中川) ▷試合時間＝2時間20分

▽11月8日

第1試合＝準々決勝(午前8時25分開始)

電電九州	001	000	000 2	3
大昭和製紙北海道	000	100	000 1	2

▶審判(球審)田中(塁審)木嶋、鶴田、池田

【電電九州】		打	安	点	振	球
②	川越	5	1	2	0	0
⑦	松尾	0	0	0	0	0
H7	河野	2	0	0	0	0
7	平山	3	0	0	0	0
⑧	小林	4	0	0	1	0
⑨	八重石	4	0	0	2	0
⑤	柴田	4	0	0	0	0
③	錦野	0	0	0	0	0
3	柳川	2	0	0	0	0
3	勝山	2	1	0	0	0
④	村岡	3	1	0	1	0
⑥	福島和	2	1	0	0	2
①	長嶺	4	1	1	2	0
犠 併 残	1 0 5	35	5	3	6	2

【大昭和】		打	安	点	振	球
⑦	山本	5	3	1	1	0
④	仲本	4	0	0	1	0
H	原	1	0	0	1	0
⑤	大野	4	1	0	2	0
③	高梨	4	0	0	0	0
②	村上	4	1	0	1	0
⑧	我喜屋	4	0	0	1	0
⑨	横川	4	2	1	1	0
R	浜井	0	0	0	0	0
⑥	佐藤	3	0	0	0	0
H	井上	0	0	0	0	1
①	川瀬	3	0	0	1	0
H	石川	1	0	0	0	0
犠 併 残	0 0 6	37	7	2	9	1

	回	安	振	球	責
長嶺	10	7	9	1	2
川瀬	10	5	6	2	1

▷三塁打＝村上▷二塁打＝山本、長嶺▷犠打＝電1(村岡)▷盗塁＝大2(山本2)▷失策＝電2(柴田、福島和)大1(川瀬)▷試合時間＝2時間24分

第2試合＝準々決勝(午前11時15分開始)

日本楽器	200	010	000	3
松下電器	110	000	02X	4

▶審判(球審)三宅(塁審)三輪、広沢、津田

【日本楽器】		打	安	点	振	球
⑦	竹崎	4	0	0	0	0
④	津布久	4	1	0	0	0
⑧	内山	4	2	0	1	0
③	武居	4	0	1	2	0
⑨	佐藤	4	2	1	0	0
②	高柳	4	1	0	0	0
⑥	石井	3	0	0	0	0
H	畑	0	0	0	0	1
⑤	加藤	3	0	0	0	0
H	中村	1	0	0	1	0
①	藤原	1	0	0	0	0
H	内海	1	1	1	0	0
1	久保	1	0	0	0	0
犠 併 残	0 0 5	34	7	3	4	1

【松下電器】		打	安	点	振	球
⑦	藤井	0	0	0	0	0
8	山田	4	1	1	0	0
④	坂口	3	2	0	0	1
⑨	高鍋	4	1	0	1	0
③	鍛治舎	3	2	2	1	1
⑧	塚岡	0	0	0	0	0
7	松川	2	0	0	0	0
H7	磯本	1	0	0	0	0
⑥	山口	3	0	0	0	1
②	木原	3	1	0	0	0
①	原	0	0	0	0	0
H	森本	1	0	0	0	0
1	北口	0	0	0	0	0
H	前嶋	1	0	0	0	0
1	長谷部	0	0	0	0	0
⑤	平谷	2	0	1	0	0
犠 併 残	3 1 5	27	7	4	2	3

	回	安	振	球	責
藤原	4	3	2	2	2
久保	4	4	0	1	2
原	5	6	1	0	2
北口	2	1	0	0	0
長谷部	2	0	3	1	0

▷本塁打＝内海1号(原)山田2号(久保)▷犠打＝松3(磯本、原、平谷)▷盗塁＝松2(坂口2)▷失策＝松2(山口2)▷捕逸＝木原▷試合時間＝2時間14分

第3試合＝準々決勝(午後1時50分開始)

北海道拓殖銀行	010	001	000	2
協和醱酵	000	002	10X	3

▶審判(球審)達摩(塁審)松山、清沢、谷川

【拓殖銀行】		打	安	点	振	球
④	高岡	4	0	0	0	0
⑧	小島	3	1	0	0	1
⑥	山本	3	1	0	0	0
⑨7	梅田	3	2	1	0	1
③	田伏	3	1	1	1	0
⑦	後藤	0	0	0	0	0
7	坂田	2	0	0	0	0
H	船木	1	0	0	1	0
9	大滝	0	0	0	0	0
②	安井	2	1	0	0	1
R	渡辺	0	0	0	0	0
2	竹内	1	0	0	0	0
⑤	海老名	2	0	0	0	0
H	中根	1	0	0	1	0
①	堀田	2	0	0	1	0
1	柴田	0	0	0	0	0
1	山口	0	0	0	0	0
H	水野	1	0	0	1	0
犠 併 残	5 1 7	28	6	2	5	3

【協和醱酵】		打	安	点	振	球
④	安永	3	1	0	0	1
⑤	嘉村	3	1	1	0	1
⑧	山田	2	0	0	0	1
③	吉用	4	1	0	0	0
⑨	古嶋	4	1	0	0	0
⑥	浅田	4	0	0	1	0
⑦	藤本	4	1	0	0	0
②	稲田	1	0	0	0	1
①	津田	3	1	0	0	0
犠 併 残	2 1 7	28	6	1	1	4

	回	安	振	球	責
堀田	5	3	0	3	0
柴田	1⅓	2	0	1	1
山口	1⅔	1	1	0	0
津田	9	6	5	3	2

▷本塁打＝梅田1号(津田)▷犠打＝拓5(山本、田伏、坂田、海老名、柴田)協2(山田、稲田)▷盗塁＝協2(嘉村、古嶋)▷失策＝拓1(山本)協2(安永、浅田)▷試合時間＝2時間20分

協和が逆転金星

「拓銀連覇の夢」アウト！

⑪…前日、16長短打で新日鉄八幡に大勝した協和醱酵が、今度は小技を駆使して前年優勝の北海道拓殖銀行を降した。その技のなかで重要な役割を演じたのが嘉村の足とバットである。

1点差にした六回二死。古嶋が二塁に走り、拓銀の捕手が二塁に送球すると同時に嘉村は本塁にまっしぐら。重盗は協和がよくやる手なのだ。前日も三塁・安永、一塁・嘉村の場面で成功させて協和のペースに持ち込んでいる。「重盗、あるなと思って監督のサインを見たら……。僕が塁にいた時に多いんです」。まんまと同点の本塁を陥れた。

「やって来るな、とわかっていた。送球を投手がカットするように、といったのに」と拓銀の西村監督を嘆かせた嘉村は、七回の一死満塁で投手の左に決勝のスクイズを決めた。「外角の直球。やりやすい球だったのに、正面すぎて"しまった"と思った。そしたら投手の足もとを抜けていった。うれしかったですよ」

3年前に初出場して右翼を守った時は「無我夢中でプレーした」そうだ。ところが6年目の今年は余裕もたっぷりで、相手バッテリーのわずかなスキをついて得意の技を発揮して見せた。「チームもいいムードだし僕も。思いきりやって一番上まで行きたいですね」と若手のリーダー格らしい威勢のよさだった。

第4試合＝準々決勝(午後4時31分開始)

住友金属	000	000	362	11
神戸製鋼	000	000	000	0

▶審判(球審)小林(塁審)上杉、森、岸野(外審)吉田、池田

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑥	田中	4	0	0	0	0
H6	飯島	1	0	0	1	0
⑨	宇山	5	1	0	1	0
⑤	松隈	4	3	1	1	1
⑧	西村	3	1	1	1	2
③	中原	4	1	1	0	0
⑦	三好	4	3	1	0	1
④	清水長	5	3	3	1	0
②	小川	4	3	3	0	0
①	高橋	4	1	1	0	0
犠 併 残	1 0 5	38	16	11	5	4

【神戸製鋼】		打	安	点	振	球
⑧	小林	3	0	0	2	0
H	浦本	1	0	0	1	0
⑥	宮本	3	0	0	0	0
H	岡本	1	0	0	1	0
⑨	山崎	3	0	0	1	0
③	大村	3	0	0	0	0
②	荒井	3	1	0	0	0
④	中川	3	0	0	1	0
⑦	中村	3	1	0	0	0
⑤	古賀	2	0	0	1	0
H	柏原	1	0	0	0	0
5	岡田	0	0	0	0	0
①	三善	2	1	0	0	0
1	山本泰	0	0	0	0	0
1	西山	0	0	0	0	0
H	若林	1	0	0	0	0
犠 併 残	0 1 2	29	3	0	7	0

	回	安	振	球	責
高橋	9	3	7	0	0
三善	6⅔	4	3	1	1
山本泰	1⅔	8	0	2	8
西山	1⅓	4	2	1	2

▷三塁打＝西村、小川▷二塁打＝中村、小川、松隈、三好、荒井、宇山▷犠打＝住1(中原)▷盗塁＝住1(三好)▷暴投＝三善▷試合時間＝2時間25分

▽11月9日

第1試合＝準決勝(午前9時57分開始)

松下電器	000	000	100	1
電電九州	000	000	000	0

▶審判(球審)田中美(塁審)木嶋、樫根、松山

【松下電器】		打	安	点	振	球
⑦	磯本	4	1	0	0	0
④	坂口	4	1	0	0	0
⑨	高鍋	4	0	0	1	0
③	鍛治舎	3	1	1	0	0
⑧	山田	3	0	0	0	0
⑥	山口	3	1	0	0	0
②	木原	3	2	0	0	0
①	長谷部	3	0	0	0	0
⑤	平谷	3	0	0	0	0
犠 併 残	0 1 2	30	6	1	1	0

【電電九州】		打	安	点	振	球
②	川越	4	1	0	1	0
⑨	平山	4	1	0	0	0
⑧	小林	3	0	0	1	0
H	南牟礼	1	1	0	0	0
⑤	柴田	3	1	0	0	0
⑦	鈴木	4	1	0	0	0
④	村岡	2	0	0	1	0
4	今井	2	0	0	0	0
③	勝山	2	0	0	0	1
R	河野	0	0	0	0	0
3	柳川	0	0	0	0	0
⑥	福島和	2	0	0	0	0
①	山内	2	0	0	1	0
H	八重石	0	0	0	0	1
1	長嶺	0	0	0	0	0
犠 併 残	2 1 6	29	5	0	4	2

	回	安	振	球	責
長谷部	9	5	4	2	0
山内	8	5	1	0	1
長嶺	1	1	0	0	0

▷本塁打＝鍛治舎1号(山内)▷犠打＝電2(柴田、福島和)▷盗塁＝松1(山口)電1(小林)▷試合時間＝1時間49分

松下、鍛治舎の1発で決める

電電九州・山内は伸びのある速球を内・外角低めに集め、カーブの切れもよく、松下電器打線は六回まで散発3安打。しかし好投していた山内も七回には制球が甘くなり、この回、先頭の高鍋はやや高めの好球をたたいて右中間へいい当たりのライナー。電電中堅手の好守に阻まれた。続く鍛治舎は「打てる」という感じを持ったのだろう。初球から積極的に打って出た。初球カーブはタイミングが合わずファウルになったが、2球目、真ん中高めの直球を逃さず強振、打球は右翼ラッキーゾーンに飛び込んだ。

電電は四回二死から柴田、鈴木が右翼へ連打、六回は無死から川越が左前打と左腕・長谷部を攻めたが、決定打を欠いた。八回、2四球にバントをはさんで二死一、三塁と長谷部を揺さぶったが、平山は三ゴロ。九回の二死三塁も長谷部のベテランらしい落ち着いた投球にかわされた。

第2試合＝準決勝(午後0時47分開始)

住友金属	002	100	100	4
協和醱酵	002	000	000	2

▶審判(球審)上杉(塁審)森、池田、鶴田

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑥	田中	3	2	3	0	1
⑨	宇山	4	1	0	0	0
⑤	松隈	3	0	0	1	0
⑧	西村	4	1	0	0	0
③	中原	4	0	0	1	0
⑦	三好	4	1	0	0	0
④	清水長	4	2	1	0	0
②	小川	4	1	0	2	0
①	高橋	3	1	0	0	0
1	川端	0	0	0	0	0
犠 併 残	1 1 4	33	9	4	4	1

【協和醱酵】		打	安	点	振	球
④	安永	2	1	1	0	1
⑤	嘉村	2	2	1	0	1
⑧	山田	4	0	0	2	0
③	吉用	3	0	0	1	1
⑨	古嶋	3	0	0	1	1
⑦	藤本	3	1	0	0	0
⑥	浅田	4	2	0	0	0
②	稲田	3	1	0	0	0
①	津田	2	0	0	1	0
H	馬場	1	0	0	0	0
1	前田	0	0	0	0	0
犠 併 残	3 0 5	27	7	2	5	4

	回	安	振	球	責
高橋	7⅓	7	2	4	2
川端	1⅔	0	3	0	0
津田	8	9	4	1	4
前田	1	0	0	0	0

▷本塁打＝田中1号②(津田)▷三塁打＝三好▷二塁打＝高橋、浅田、嘉村、小川▷犠打＝住1(松隈)協3(安永、嘉村、藤本)▷盗塁＝住2(宇山、西村)▷失策＝協1(安永)▷試合時間＝2時間26分

田中が先制2ラン

先手は住友金属。三回一死、右中間二塁打の高橋を置いて田中がフルカウントから内角低め球を左翼へ先制2ラン。しかし協和醱酵もその裏、浅田の左翼線二塁打、稲田の中前打で無死一、三塁。一死後、安永の犠飛でまず1点。嘉村の右中間二塁打で追いついた。

住金は四回二死後、三好が右翼線三塁打。この好機に当たっている清水長が右前適時打して再びリードした。その裏、協和は四球と浅田の安打で二死一、三塁。協和ベンチはここで過去2試合で2度成功させている得意の重盗を試みたが、失敗に終わった。

住金・高橋、協和・津田両投手とも連投の疲れは隠せない。津田は七回、小川、田中の長短打でダメ押しの1点を許し、八回で降板。一方、高橋も八回、一死一、二塁のピンチを迎えて交代。協和は願ってもない反撃機だったが、救援・川端のカーブに山田、吉用の主軸がともに見送り三振に切って取られた。

▽11月11日

優勝戦（午後1時30分開始）

松下電器	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住友金属	0	0	0	0	0	0	1	1	X 2

▶審判（球審）三宅（塁審）中西、田中美、上杉

【松下電器】	打	安	点	振	球
⑦ 磯本	3	1	0	0	1
H 松川	1	0	0	0	0
④ 坂口	3	0	0	1	0
⑨ 高鍋	4	1	0	0	0
③ 鍛治舎	3	2	0	0	1
⑧ 山田	3	1	0	1	0
⑥ 山口	4	0	0	0	0
② 木原	3	0	0	1	1
① 原	3	1	0	0	0
1 長谷部	0	0	0	0	0
H 前嶋	1	1	0	0	0
⑤ 平谷	4	2	0	0	0
犠 併 残					
2 1 10	32	9	0	3	3

【住友金属】	打	安	点	振	球
⑥ 田中	4	3	0	0	0
⑨ 宇山	2	1	0	0	0
⑤ 松隈	4	0	0	0	0
⑧ 西村	4	1	1	1	0
③ 中原	2	0	0	0	1
⑦ 三好	3	1	1	0	0
④ 清水長	2	0	0	0	1
② 小川	3	1	0	0	0
① 高橋	2	0	0	0	0
1 川端	1	0	0	0	0
犠 併 残					
3 1 6	27	7	2	1	2

	回	安	振	球	責
原	7⅔	6	1	2	1
長谷部	1	1	0	0	0

	回	安	振	球	責
高橋	6⅓	6	2	3	0
川端	2⅔	3	1	0	0

▷三塁打＝三好、西村 ▷二塁打＝原 ▷犠打＝松2（坂口、山田）住3（宇山2、中原）▷失策＝松1（山口）▷試合時間＝2時間18分

住金・三好、七回に殊勲の三塁打

松下電器・原は要所で速球を使い、住友金属打線を六回まで3安打、住金の高橋に投げ勝つかに見えた。ところが七回、住金は先頭の西村が遊ゴロ一塁悪送球で生きると、中原が堅実に送って一死二塁。続く三好はファウルで粘った7球目、高めのストレートを捕えて右中間を破る殊勲の三塁打を放ち、待望の1点をもぎ取った。勢いづいた住金は八回にも先頭の田中が二塁内野安打で生き、好投の原を退けた。

住金はここで救援・長谷部に宇山がスリーバントを成功させて田中を二塁に進め、二死後、西村が右中間に三塁打を放ち、2点目。松下初優勝の夢を打ち砕いた。

松下は七回、原の左中間二塁打と平谷の三遊間安打で一死一、三塁の好機をつかんだが、救援の川端が大きく曲がるカーブや、意表をつく速球など技巧を駆使、このピンチを切り抜けて、その後の松下の食い下がりも振り切った。

投手力、守備力、気力とも互角の両者だが、住金の基本に忠実な堅い守りと粘り強い攻撃力が、わずかに松下を上回った。

〔優勝戦〕松下電器－住友金属　松下電器を降し、抱き合って喜ぶ住友金属ナイン。

監督談話

住友金属・松永怜一監督　ユウジ（10月20日に亡くなった中村裕二選手）やったぞ、の気持ちだ。選手たちは墓前に優勝旗を持って来ると誓っていたそうだが、そういう気持ちが「いかんな」と思う私を何度も引っ張ってくれた。猛練習に選手たちはよく耐え、基本の大切さを知って頑張ってくれたのが実った。

松下電器・下田鎮男監督　押していながらどうしても点が取れなかった。四回の二死満塁、七回の一死一、三塁とチャンスがありながら、ここ一番に打てなかった。七回は磯本の時、スクイズも考えたのだが……。原投手の調子は決して悪くなかった。

監督ひと　住友金属　松永 怜一監督

「試合を見てほしい。わたしのやる野球はわたしの精神の表現です」

「わたしは野球を通じて、いい社員を作り上げて行く」

優勝戦前夜の宿舎で、この人はポツリと言った。

翌11日の甲子園。この人が率いる住友金属野球団は、再三のピンチを実に辛抱強く耐え抜いて松下電器を破って優勝した。

1955年、法政大を卒業と同時に法政一高野球部監督（同校体育教官）に就任。堀越学園高監督（64年）を経て、65年から6年間、母校法大の監督として、田淵（西武）山本浩（広島）富田（日本ハム）らを鍛え上げて、6度リーグ優勝させたあと、71年、住金野球団監督に迎えられてことしで9年目。アマ監督歴25年のこの人の「オニ監督」ぶりは、球界ではとっくに有名だ。

法政一高時代、髪をのばしかけた高校生田淵に「お前はきょう限り野球をやめろ」と怒鳴り上げた。

堀越時代は、バットでひっぱたくスパルタ方式にたまりかねた選手たちが、合宿所から集団脱走、大騒ぎになった。

「わたしは、あのときも断じて妥協しなかった。1年生だけ残して、あとはみんな退部させました」

「わたしは、わたしの心をハダで感じてくれる選手だけを自分の手で鍛え上げてきました。野球は勝たないかん」

甘えを許さぬ厳しさは、社会人野球になっても全く変わらない。「お前たちの技術は高校生以下だ」高校、大学時代にそれぞれ実績もあり、誇り高い選手たちにそんな憎まれ口をたたき、徹底的に基本技を反復練習して、大会にのぞんだ結果のこんどの制覇だった。

1931年、福岡県八幡市（現・北九州市）生まれ。「鉄は国家なり」の言葉があり、怜一少年は官営八幡製鉄所から噴き上げる猛煙に「なぜか、無性にあこがれた」という。そして、いま「鉄の野球」で製鉄所野球団を鍛えて日本一に。人間にとって少年期の風土の影響がいかに大きいか、この人の「野球」はついでにそんなことも教えてくれた。

住金和歌山製鉄所労務部副参与。48歳。野球のほかに趣味はないという。　（津田　康）

燃えるバット　またラッキー7

熱球

「中村、やったぞ」「中村さん勝ちましたよ」。松永監督をはじめ住友金属の選手たちは口調こそ静かだったが、みんな胸のうちで優勝の喜びをこう叫んでいるようだった。

またしても七回を住友金属は生かした。一死一、三塁のピンチで高橋を救援した川端が、30歳の老練な味を出し切って、松下電器の若い磯本を二ゴロに抑え、得点を許さなかったその直後のことである。

敵失で出た西村をバントで堅く二塁に進めた後、三好が右中間に三塁打を放った。「中村さんのために何とか。ただそれだけでした。ボールがよく見えました」。外角よりの球に三好のバットは邪念なく振り切れ、均衡を破って優勝に弾みをつける1点となった。

この大会で住友金属は七回に必ず得点している。ラッキー・セブンは住友金属のためにあるようだった。優勝までの4試合に25得点を挙げたが、七回には3分の1に及ぶ7点を取っている。そのどれもが勝利を決定づける貴重な得点だった。この試合も原の力投にチャンスをつかめなかったが「七回には絶対、点が取れるという気持ちだった」と清水長主将。実際、その通りになった。

住友金属がなぜこれまでに七回を生かしきれたのか。10月20日、コーチを兼任してチームを引っ張ってきた中村裕二捕手が病死した。以来、選手たちは「中村さんのために」という気持ちを強く胸に抱いた。七回一死一、三塁の危機をかわした川端投手も「ユウジの墓に優勝旗を持って行ってやりたい一念でした。彼とは同期でしたからね」と言ったが、この「中村のために」というみんなの思いが、七回に一つになって燃え上がったに違いない。中村選手の背番号は"7"だった。

都市対抗予選に敗れてから右狙いに徹したバッティングを重点に、炎天下で厳しい練習をしてきた。選手一人々々の成果が中村選手の死によってチームの和となり、一層大きく結実した。　（笹尾　勝彦）

第６回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞　高橋修二投手(住友金属)　「最高の気分。野球をやっていてよかった」。最高殊勲選手に選ばれた高橋は同僚の祝福を受けながら照れっぱなしだった。本人は受賞を「考えてもみなかった」と言ったが、今大会のピッチングは成長著しく“Ｖ２”の大きな原動力になった。

初戦の電電東海戦は完投、続く神戸製鋼戦は３安打の完封勝ち。準決勝、優勝戦はベテラン川端の助けを借りたものの、４試合連投。「雨で１日休んだので疲れはなかった。きょうは飛ばせるだけ飛ばし、あとは川端さんに任せるつもりだった」と言う。四回、連打とバントで一死二、三塁のピンチに立った時は「ここで点をやると試合の流れがかわる」と得意の内角攻めで踏ん張り、切り抜けた。「コーナーのコントロールはよかったけど、全体に球が高かった。ベンチも一発にびくびくしていたようですよ」と笑った。

高知高時代、1973年の春、夏甲子園へ。センバツはベスト８に残ったが、夏の選手権は１回戦敗退。社会人になっての都市対抗でも森投手(現西武)の陰に隠れ、これといった実績は残せなかった。大舞台での初の“晴れ姿”である。「自信もちょっぴり。課題は低めのコントロール」とか。和歌山製鉄所庶務課勤務。174㌢、68㌔、右投げ右打ち。

◇敢闘選手賞　鍛治舎巧一塁手(松下電器)

◇首位打者賞　清水長寿二塁手(住友金属)15打数７安打、４割６分７厘

◇大会優秀選手

【投手】長嶺俊一(電電九州)原邦彦(松下電器)長谷部優(同)津田恒美(協和醗酵)高橋修二(住友金属)川瀬隆俊(大昭和製紙北海道)川端理史(住友金属)　【捕手】村上忠則(大昭和製紙北海道)木原弘人(松下電器)小川良一(住友金属)　【一塁手】鍛治舎巧(松下電器)田伏清美(北海道拓殖銀行)　【二塁手】坂口雅久(松下電器)安永知紀(協和醗酵)清水長寿(住友金属)　【三塁手】柴田克己(電電九州)松隈憲治(住友金属)嘉村学(協和醗酵)　【遊撃手】田中祐司(住友金属)　【外野手】三好一幸(住友金属)山本和則(大昭和製紙北海道)内山仁志(日本楽器)古嶋正人(協和醗酵)宇山秀明(住友金属)磯本邦彦(松下電器)

優勝モデルのマニュアルづくりと基本の徹底

元住友金属監督
松　永　怜　一
(日本野球連盟常任理事)

単独チーム実力日本一を決める日本選手権大会は、監督にとって、実にやり甲斐のある大会である。コーチ、選手育成の努力が、１年の総決算として顕著に現れるからである。

監督の勝利への基本姿勢を明確にし、選手の力を５、監督の力を３、残りの２は勝負につきものの運、と考える勝利の定義を崩してはならない。優秀なコーチに恵まれた第４回大会初優勝と、病魔におかされ30歳の若さでこの世を去った中村裕二捕手のため、「ダイヤモンド旗を墓前に」と、選手が団結し、その総力を基本の徹底に傾注してもぎ取った第６回大会の２度目の優勝は特に印象に残る。

第４回大会の時だった。新人投手森(西武ライオンズコーチ)の４連投は監督として避けたい。しかし、優勝の機会は滅多にこない。法大監督時代、東京６大学記録の48勝をあげた山中投手が、肩の痛みをひた隠しにして投げ抜いたあの悲壮な姿を思い出したからだ。チームと森の将来を考える時、監督として決断が鈍った。数時間後に迫った優勝戦を前に、小野原コーチを呼び、スタメンを準備させながら先発投手高橋を告げた。その時小野原君は「監督、ここまできたら森で行きましょう。本人も投げると言っています」。いち早く森の気丈な性格を引き出すことに成功した彼は、私の本心を見透かしたかの如く、自信を持って進言した。このコーチの一言が、初優勝の最大要因となったのである。

コーチの役割とは、監督の補佐役であり、監督の意図を把握し、その狙いと特徴を熟知し、監督の目指す野球を実行し、選手に浸透させることにある。コーチは単なるノッカーではないのだ。

私は常々、後進のために実力日本一を決める日本選手権の優勝パターンのマニュアルをつくりたいと思っていた。20周年の記念大会で、早くも６回の優勝を飾ることができたのも、優秀なコーチに恵まれたことと、日本野球のセオリーを忠実に守ったお陰だと思っている。1979年は、金属バットの採用を決定し、社会人野球が国際化に向けて本格的にスタートした年であった。その年の監督研修会の話題は、金属バットの威力とその対策に集中した。基本無視は目に見えていた。今こそ「原点に帰ろう」と、夏以来、来る日も来る日もセンター返しの地味な練習がくり返された。中村君の悲報に接した10月21日、選手全員「基本の徹底と優勝」を霊前に誓い、オープン戦なしで本番に突入した。終わってみれば４試合で47本の安打が面白いようにチャンスに集中し、センターから右方向の打球が35本、本塁打１本の住友らしい優勝であった。

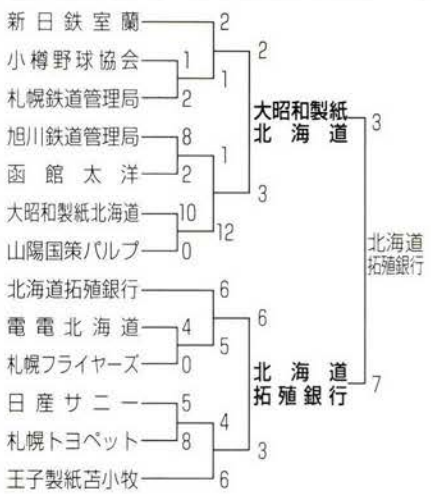
これ程、監督の基本姿勢を明確に打ち出し、個性あふれるチームで臨める大会は他にない。

都市対抗で息切れし、日本選手権の価値観を模索しているチームの指導者に、反省を促すとともに、20周年を契機に、時代の流れにそった優勝モデルのマニュアルづくりに真剣に取り組んでほしい。そのことが日本選手権大会の更なる発展につながると確信してやまない。

第6回大会 地区大会成績
（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月21日から　4日間　　札幌市営円山球場



東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽一**回戦**　全弘前３－０自衛隊青森、八甲ク９－８三菱製紙八戸▽**準決勝**　八甲ク14－13全弘前、八戸市水道部13－３全青森▽**決勝**　八戸市水道部７－１八甲ク（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**▽一**回戦**　雫石ク３－１オール釜石、県経済連７－１オール江刺、一関三星４－２オール不来方、釜石野球団９－２アイワ、盛岡鉄道管理局６－３福高ク、岩手銀行７－１小野田セメント、新日鉄釜石７－０全久慈、東京製綱（不戦勝）一関ユニオン▽**準々決勝**　県経済連12－０雫石ク、新日鉄釜石４－１一関三星、盛岡鉄道管理局３－０釜石野球団、岩手銀行11－２東京製綱▽**準決勝**　新日鉄釜石３－１県経済連、盛岡鉄道管理局７－５岩手銀行▽**決勝**　新日鉄釜石７－０盛岡鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**秋田**▽一**回戦**　秋田鉄道管理局10－８東北肥料、秋田銀行４－３秋田経大校友ク▽**準決勝**　秋田相互銀行９－２秋田鉄道管理局、ＴＤＫ３－２秋田銀行▽**決勝**　秋田相互銀行１－０ＴＤＫ（勝者は第二次予選へ）

◇**宮城**▽一**回戦**　オノヤク（不戦勝）東北ク、仙商ク８－１青葉ク、白山ク９－５石巻ハリケーン▽二**回戦**　オノヤク５－４村田ク、仙商ク４－３白山ク▽**準決勝**　仙台鉄道管理局６－０オノヤク、電電東北９－０仙商ク▽**決勝**　電電東北12－１仙台鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）▽**敗者復活一回戦**　仙商ク８－１オノヤク▽**第二代表決定戦**　仙台鉄道管理局３－２仙商ク（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽**代表決定戦**　鶴岡ク12－０山形相互銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽一**回戦**　保原ク６－２塙ク、矢吹ク10－２二本松ク、ヨークベニマル４－０須賀川ク、ミドリ十字病院ク５－２小名浜ク、小峰ク３－２学石ＯＢク、郡山水産ク（不戦勝）飯塚病院ク、原田ク３－２福島硬友ク▽**準々決勝**　矢吹ク３－２保原ク、郡山水産ク15－１小峰ク、自衛隊福島６－４原田ク、ヨークベニマル12－０ミドリ十字病院ク▽**準決勝**　ヨークベニマル10－２矢吹ク、郡山水産ク８－３自衛隊福島▽**決勝**　ヨークベニマル３－２郡山水産ク（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月22日から　2日間　　八戸球場

関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽一**回戦**　鹿島石油10－５東日本薬品▽**準決勝**　日立製作所20－４水戸鉄道管理局、住友金属鹿島７－４鹿島石油▽**決勝**　住金鹿島７－６日立製作所（勝者は第二次予選へ）

◇**群馬**▽一**回戦**　全前橋13－８全太田、伊勢崎レッドソックス３－２硬友ク▽**準決勝**　富士重工業６－５全前橋、高崎鉄道管理局10－０伊勢崎レッドソックス▽**決勝**　富士重工業３－１高崎鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽一**回戦**　日産ディーゼル８－１飯能高ＯＢク、全浦和６－３エーザイ、本田技研10－２全三郷▽**準決勝**　日本通運６－５日産ディーゼル、本田技研11－７全浦和▽**決勝**　本田技研７－３日本通運（勝者は第二次予選へ）

◇**千葉**▽一**回戦**　川崎製鉄千葉１－０新日鉄君津▽**準決勝**　電電関東８－１千葉鉄道管理局、川鉄千葉８－２三井造船千葉▽**決勝**　電電関東３－２川鉄千葉（勝者は第二次予選へ）

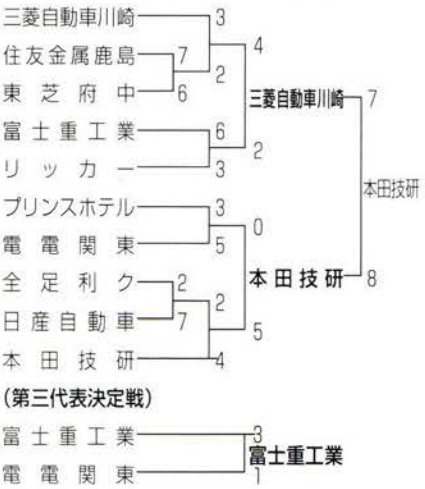
◇**東京**▽一**回戦**　朝日生命14－５日本ＩＢＭ、リッカー５－０鷺宮製作所、三井銀行４－４明治生命＝引き分け再試合、明治生命10－２三井生命▽**準々決勝**　プリンスホテル６－４東京鉄道管理局、朝日生命10－10熊谷組＝日没引き分け再試合、熊谷組８－１朝日生命、リッカー５－４電電東京、東京ガス３－１明治生命▽**準決勝**　プリンスホテル12－４熊谷組、リッカー５－３東京ガス（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　プリンスホテル11－３リッカー

◇**東京多摩**▽一**回戦**　東芝府中22－０全調布、スリーボンド13－２全府中▽**決勝**　東芝府中３－１スリーボンド（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽一**回戦**　清工建設16－１横浜ク、三菱自動車川崎14－１横浜高島屋▽**準々決勝**　東芝10－０三菱重工横浜、日産自動車７－１清工建設、三菱自動車川崎３－０日本石油、日本鋼管２－０いすゞ自動車▽**準決勝**　日産自動車５－４東芝、三菱自動車川崎３－２日本鋼管（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日産自動車１－０三菱自動車川崎▽**三位決定戦**　日本鋼管６－３東芝

▶二次予選

10月４日から　４日間　　群馬県営球場



（第三代表決定戦）

中部大会

▶一次予選

◇**山梨**▽一**回戦**　オール櫛形７－５山梨ク、峡北ク10－９山梨球友ク▽**決勝**　峡北ク10－０オール櫛形（勝者は第二次予選へ）

◇**新潟**▽一**回戦**　新津ク（不戦勝）三条バンデット、小千谷ク11－９オール東、全新発田９－０長商ク、国鉄新潟１－０ニチエー、長岡ク10－６全飯豊、白根野球団３－２吉田ク、オール北越14－３ヤングセブン、新潟ク（不戦勝）オール十日町▽**準々決勝**　小千谷ク６－２新津ク、国鉄新潟12－２全新発田、長岡ク12－11白根野球団、新潟ク８－６オール北越▽**準決勝**　国鉄新潟７－０小千谷ク、長岡ク13－１新潟ク▽**決勝**　国鉄新潟７－０長岡ク（勝者は第二次予選へ）

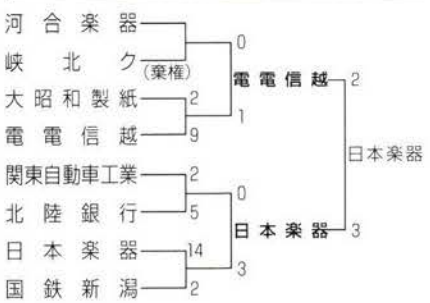
◇**静岡**▽一**回戦**　岳南ク８－１清水タイガース▽**準々決勝**　日本楽器12－０富士エンゼルス、河合楽器15－０岳南ク、大昭和製紙16－１協和醗酵ク、関東自動車工業３－０駿河

ク(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　日本楽器5－4河合楽器、大昭和製紙8－1関東自動車工業▽**決勝**　大昭和製紙5－3日本楽器

◇**富山**▽**三回戦制**　北陸銀行6－4電電富山、電電富山6－0北陸銀行、北陸銀行11－4電電富山(北陸銀行は第二次予選へ)

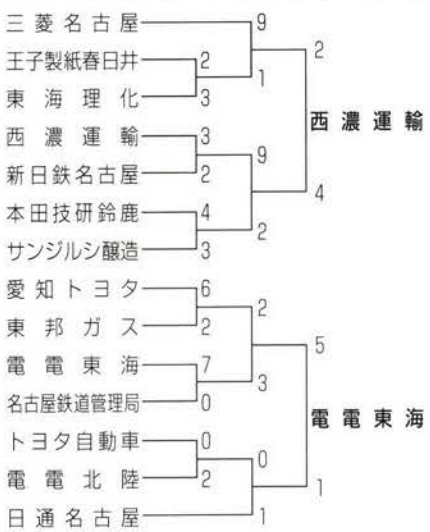
▶二次予選

9月28日から　3日間　　浜松市営球場



東海・北陸大会

9月26日から　6日間　　愛知県営熱田球場



近畿大会

▶一次予選

◇**京滋**▽**一回戦**　西京ク3－0キョートビルク、三菱自動車京都3－1京都市役所、京都信用金庫5－4第一紙行▽**準々決勝**　高島屋京都7－4洛友ク、日本新薬8－0西京ク、大丸7－0京都信用金庫、三菱自動車京都5－0丸勝(勝者と推薦の丸勝は第二次予選へ)▽**準決勝**　日本新薬3－2三菱自動車京都、大丸6－0高島屋京都▽**決勝**　大丸3－1日本新薬

◇**大阪**▽**一回戦**　大阪ガス6－3デュプロ、全三和銀行4－1住友銀行、大和銀行8－2大阪ペーシェンス▽**準々決勝**　松下電器13－0大阪高島屋、大阪ガス11－2電電近畿、新日鉄堺8－2全三和銀行、日本生命10－2大和銀行(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　松下電器3－0大阪ガス、日本生命6－2新日鉄堺▽**決勝**　日本生命2－0松下電器▽**敗者復活一回戦**　電電近畿10－3全三和銀行、大和銀行11－4大阪高島屋▽**第五代表決定戦**　電電近畿5－0大和銀行(勝者は第二次予選へ)

◇**兵庫**▽**一回戦**　小西酒造6－1神戸製鋼、川崎重工2－1川崎製鉄神戸(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　三菱重工神戸5－2新日鉄広畑(勝者は第二次予選へ)、小西酒造3－1川崎重工▽**決勝**　三菱重工神戸3－0小西酒造▽**第四代表決定戦**　川鉄神戸2－0神戸製鋼(勝者は第二次予選へ)▽**第五代表決定戦**　神戸製鋼8－7新日鉄広畑(勝者は第二次予選へ)

▶二次予選

9月28日から　4日間 和歌山住金、紀三井寺球場

(第五代表決定戦)

中国大会

▶一次予選

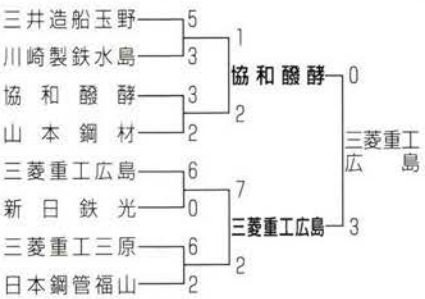
◇**岡山**▽**リーグ戦**　川崎製鉄水島2－0三菱自動車水島、川鉄水島2－1三井造船玉野、三井造船玉野6－1三菱自動車水島(三井造船玉野と川鉄水島は第二次予選へ)

◇**広島**▽**一回戦**　電電中国8－0広島マツダ▽**準々決勝**　日本鋼管福山4－0国鉄広島、三菱重工三原12－1常石鉄工、三菱重工広島3－1電電中国、山本鋼材2－1東洋工業(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　三菱重工広島6－1日本鋼管福山、三菱重工三原4－0山本鋼材▽**決勝**　三菱重工三原4－1三菱重工広島

◇**山口**▽**リーグ戦**　新日鉄光2－1協和醗酵、田辺製薬7－2航空自衛隊防府、協和醗酵5－0航空自衛隊防府、田辺製薬3－0新日鉄光、新日鉄光8－1航空自衛隊防府、協和醗酵6－1田辺製薬(新日鉄光、田辺製薬、協和醗酵が2勝1敗で並び代表決定リーグを行う)▽**代表決定リーグ**　新日鉄光3－2田辺製薬、協和醗酵8－5田辺製薬、新日鉄光12－2協和醗酵(新日鉄光と協和醗酵は第二次予選へ)

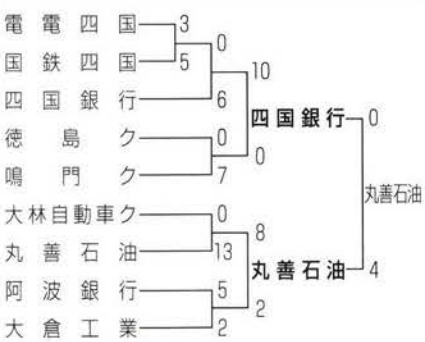
▶二次予選

9月25日から　3日間　　広島市民球場



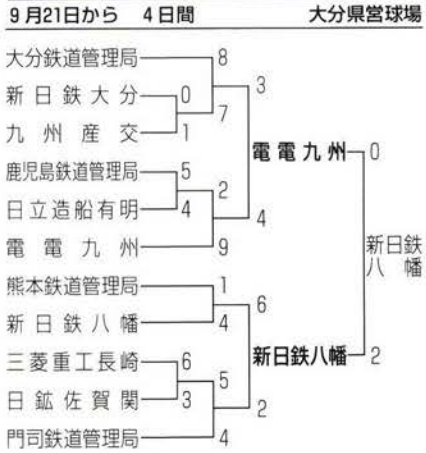
四国大会

9月22日から　4日間　　高松中央球場



九州大会

9月21日から　4日間　　大分県営球場



第6回大会出場選手等一覧（○は主将）

北海道拓殖銀行

監督	西村	博司	42	明治大
投手	山口	敏男	28	池田高
〃	柴田	正明	28	中京大
〃	福島	義隆	24	法政大
〃	堀田	晴一	23	明治大
〃	中村	明志	22	札幌商高
〃	賀集	一	20	旭川竜谷高
〃	千藤	和久	31	中京商高
捕手	竹内	昭文	29	法政大
〃	船木	敏夫	26	函館有斗高
〃	安井	治	22	東海大
〃	後藤	政広	21	北海道工高
内野	○梅田隆比克		31	日本大
〃	高岡	茂夫	29	法政大
〃	海老名敏彦		25	中京高
〃	田伏	清美	25	近畿大
〃	山本	文博	24	駒沢大
〃	水野	雄三	22	明治大
〃	尾崎	公俊	19	札幌商
外野	小島	和彦	26	慶応大
〃	坂田	竹二	25	亜細亜大
〃	大滝	敏之	25	駒沢大
〃	中根	史郎	25	愛工大
〃	佐々木弘一		22	札幌大
〃	渡辺	正彦	21	旭川竜谷高
〃	山田	雅仁	19	東邦高

大昭和製紙北海道

監督	高梨	英夫	36	大多喜高
投手	川瀬	隆俊	27	木古内高
〃	望月	保雄	26	富士宮北高
〃	小磯	健次	24	安積商高
〃	池永	裕臣	19	瀬戸内高
〃	小野	等	19	福島保原高
捕手	村上	忠則	29	津名高
〃	今泉	進	20	北見工高
〃	平	紀陽典	19	日大東北高
〃	樋口	忠雄	22	名寄高
内野	高梨	英夫	36	大多喜高
〃	仲本	広明	28	沖縄興南高
〃	佐藤	義夫	27	神奈川大
〃	大野	敏彦	26	山口鴻城高
〃	井上	孝一	24	日本大
〃	新木	忠力	24	東農大
〃	折霜	忠紀	21	北海道日大高
〃	宝橋	宏之	18	広島竹原高
〃	社	新吾	18	瀬戸内高
外野	○浜井	頌丈	31	芝浦工業大
〃	山本	和則	29	北海高
〃	我喜屋	優	28	沖縄興南高
〃	石川	孝一	22	立正大
〃	原	利行	21	北海道日大高
〃	横川	衛	21	北見工高
〃	梁原	修志	19	苫小牧工高

仙台鉄道管理局

監督	内海	利彦	27	石巻商高
投手	添田	利幸	19	会津工高
〃	佐藤	潔	22	小野高
〃	志賀野	整	24	黒川高
〃	高橋	正己	24	仙台育英高
〃	木須	憲一	20	東北高
〃	太田	敏之	18	塩釜高
〃	稲妻	博司	18	仙台育英高
捕手	阿部	圭二	23	宮城水産高
〃	佐藤	浩昭	18	石巻工高
〃	星	善宏	18	勿来工高
内野	及川	正次	24	仙台育英高
〃	○佐藤	順一	23	東北高
〃	鈴木	昭	18	東北高
〃	高橋	良	21	東北高
〃	遠藤	豊	19	名取高
〃	大枝	一雄	22	福島聖光学院高
〃	加藤	正博	21	福島商高
外野	吾妻	勇治	18	福島聖光学院高
〃	遠藤	弘	18	郡山北高
〃	堀切	憲一	23	巨理高
〃	郡山	公男	22	名取高
〃	千葉	幸治	22	宮城水産高
〃	内海	利彦	27	石巻商高
〃	永沼三千男		18	東北高

新日本製鐵釜石

監督	佐藤	幸雄	33	花巻商高
投手	高橋	千秋	28	秋田市立高
〃	菊池	渡	20	一関修紅高
〃	斉藤	範彰	26	巨理高
〃	黒沢	義文	24	大槌高
〃	大湯	康司	21	弘前工高
捕手	佐藤	和良	24	釜石工高
〃	長田	裕幸	24	明星高
〃	橘	秀俊	20	弘前工高
内野	永野	幸雄	25	花巻商高
〃	佐藤	幸雄	33	花巻商高
〃	渋谷	修二	29	帝京高
〃	田沢	一仁	21	弘前工高
〃	田中	寿一	27	社高
〃	松田	裕光	23	気仙沼高
〃	伊藤	仁	24	東京大
〃	富樫	英則	20	大館商高
〃	○日高	明彦	28	名電工高
外野	早瀬	修	24	仙台育英高
〃	平間	徹	21	気仙沼高
〃	伊東	昭夫	28	銚子市立高
〃	佐々木英広		20	広田水産高
〃	平川	澄	21	弘前工高
〃	三上	広見	30	黒沢尻工高
〃	若槻	弘之	24	花巻商高

本田技研

監督	篠原	一豊	48	立教大
投手	小林	良則	26	東洋大
〃	後藤	祝秀	20	丸亀商高
〃	玉井	雅幸	26	青山学院大
〃	井上	健	20	峡南高
〃	南都	要	23	創価大
〃	高田	光	24	東洋大
〃	本杉	秀光	23	都立四商高
〃	中後	広行	23	天羽高
捕手	中大谷博志		28	智弁学園高
〃	南出	佳史	24	中央大
〃	中山	利行	23	都立四商高
内野	○成田	武男	28	PL学園高
〃	井上	光一	24	東洋大
〃	岸	雅司	24	久賀高
〃	青野	務	19	浜松商高
〃	田代	克業	26	中央大
〃	小屋	俊二	27	大宮工高
〃	内川	一寛	23	法政大
〃	平野	一利	19	川越商高
外野	佐藤	正之	21	拓大一高
〃	雨堤	浩久	25	中央大
〃	上久保一平		20	波崎高
〃	若尾	佳生	23	立教大
〃	鈴木	保彦	19	浜松商高
〃	河原井正雄		25	青山学院大

三菱自動車川崎

監督	池田	善吾	33	芝浦工大
投手	三宮	建男	23	安芸高
〃	星野	恵司	21	赤羽商高
〃	小野田正一		19	銚子商高
〃	丹部	俊文	23	博多工高
〃	福家	雅明	19	天理高
〃	金沢	次男	20	佐竹高
〃	小笠原敏雄		22	太田工高
捕手	○高浦美佐緒		26	法政大
〃	米田	敏之	19	修徳高
〃	平野	逸男	18	佐世保工高
内野	松野	章男	21	帝京高
〃	垣野	多鶴	27	東海大
〃	大須賀康浩		25	法政大
〃	田所	正行	19	日大一高
〃	土屋恵三郎		25	法政大
〃	藤崎	孝	18	吉原工高
〃	豊田	叔秀	25	城西高
外野	佐藤	浩光	18	上尾高
〃	潮田	智信	25	法政二高
〃	小林	美幸	21	修徳高
〃	早川	幸市	18	桐蔭学園高
〃	小川	欣也	20	吉原工高
〃	今野	孝	18	横浜商大高
〃	和田	敏雄	18	日大三高

富士重工業

監督	野中	宏一	34	桐生工高
投手	谷	良治	21	関東学園高
〃	平野	雅芳	22	追浜高
〃	橋本	敬司	21	熊谷農高
〃	丸本	隆行	24	桐生工高
〃	三浦	誠	30	東洋大
〃	大阿久文雄		22	栃木工高
〃	島田	隆	23	中央大
捕手	小島	正人	22	松商学園高
〃	鏑木	陽一	22	樹徳高
〃	増岡	伸幸	23	東洋大
内野	富田	広己	27	高崎商高
〃	小間	哲雄	25	駒沢大
〃	石原	清志	21	松商学園高
〃	長壁亥佐雄		27	高崎商高
〃	鈴木	秀男	24	日本大
〃	村田	博幸	23	日本大
〃	栗田	優	20	高崎商高
外野	高橋	恒夫	33	桐生高
〃	○内藤	光夫	30	関東学園高
〃	蝦沢	道明	28	桐生工高
〃	桧野	武一	23	早稲田大
〃	湯浅	和彦	23	東洋大
〃	松本	修	26	日本大
〃	岸	久男	21	東農大二高

日本楽器

監督	川島	勝司	36	中央大
投手	久保真一郎		24	青山学院大
〃	山本	操	20	小笠農高
〃	戸田	秀明	21	鉾田一高
〃	立野	政治	24	PL学園高
〃	藤原	仁	24	崇徳高
〃	富永	邦博	23	熊本工高
捕手	中村	行利	27	中央大
〃	松永	安弘	20	自動車工高
〃	高柳	信英	21	国士舘大
内野	○津布久欣司		28	駒沢大
〃	森	慎司	24	立命館大
〃	伊藤	常美	23	中京大
〃	石井	淳一	23	浪商高
〃	加藤富士男		23	自動車工高
〃	武居	邦生	23	国士舘大
〃	鈴木	清之	24	青山学院大
〃	田	康二	20	八代工高
〃	内海	昌之	24	亜細亜大
外野	佐藤	滋孝	24	OCポリクーソス高
〃	安芸土佐男		26	国士舘大
〃	伊藤	功	23	小笠農高
〃	井上	一之	23	中央大
〃	畑	和夫	28	関東学院大
〃	内山	仁志	26	中央大
〃	竹崎	恭二	27	八代工高

電電信越

監督	関根	武雄	33	日本大
投手	矢野	一雄	25	国士舘大
〃	大崎	辰也	22	東京経大
〃	鈴木	清吾	24	東京農大
〃	安藤奈賀男		22	松本工高
〃	柳沢	敏幸	29	小諸商高
〃	渡部	和弘	18	高田工高
〃	北川	茂	22	福野高
捕手	山下	和男	24	上武一高
〃	城迫	一美	24	専修大
〃	桃井	進	19	丸子実高
内野	召田	三博	22	専修大
〃	湯沢	秀人	22	中央大
〃	望月	克己	25	専修大
〃	○石賀	敏夫	26	日本大
〃	西条	明博	24	専修大
〃	柳瀬	尚文	27	国士舘大
〃	藤森	国彦	23	松商学園
〃	大塚	智	21	丸子実高
〃	小尾	純敏	24	日本大
外野	菅野	俊之	23	東京農大
〃	竹沢	唯行	22	中央大
〃	田中	良幸	25	国士舘大
〃	柴山	晋一	25	専修大
〃	石田三知夫		18	長野商高

電電東海

監督	杉本	健一	29	愛知工大
投手	杉山	和由	22	中遠工高
〃	大場	昭男	20	静岡学園高
〃	中村	修史	20	県岐阜商高
〃	西	宗紀	23	近畿大
〃	袴田	晃弘	27	専修大
〃	鈴木	亨	18	静岡商高
〃	浜田	知明	18	長島高
〃	山口	敏樹	27	福岡大
捕手	大石	久夫	27	専修大
〃	古瀬	悟	20	県岐阜商高
〃	中西	親志	18	相可高
〃	伊藤	隆	24	明治大
内野	後藤	敏夫	28	中京大
〃	湯之戸孝修		25	近畿大
〃	原	茂晃	22	福井工大
〃	末武	重樹	23	愛知高
〃	藤村	宏志	26	駒沢大
〃	○高田	浩二	26	近畿大
〃	小森	三由	23	愛知商高
外野	横井	勲	24	明治大
〃	林	博幸	20	福井高
〃	三井	茂樹	23	明治大
〃	林	義博	24	愛知学院大
〃	稲山	正則	25	中央大

西濃運輸

監督	林	伸男	33	中京大
投手	松田	修二	28	岐阜南高
〃	片江	剛	25	神崎高
〃	清原	健一	24	愛知学院大
〃	武者	朗	24	中条工高
〃	白石	義弘	21	北陽高
〃	上原	勝男	21	沖縄興南高
〃	河地	良一	19	高松商高
捕手	中島	務	30	東洋大
〃	成田	福男	26	立正大
〃	沢田	守	25	大東文化大
内野	○山極	憲三	31	東海大
〃	中島	隆利	29	神奈川大
〃	木村	敬三	28	名古屋商科大
〃	岩附	勝馬	25	名城大
〃	水江	正孝	25	福岡工大
〃	西村	雅文	24	佐賀竜谷高
〃	高田	淳二	24	駒沢大
〃	吉井	猛	23	専修大
〃	渡辺	泰邦	23	福岡工大
外野	細川	昌俊	32	東洋大
〃	加野	悦男	29	中京大
〃	小椋	清俊	27	岐阜第一高
〃	紀	充則	23	東洋大
〃	嶋崎	兼之	23	名城大
〃	吉田	則昭	20	岐阜西工高

住友金属

監督	松永	怜一	48	法政大
投手	小杉	大三	19	和歌山工高
〃	木村	仁	21	伊都高
〃	川端	理史	30	東海大
〃	高橋	修二	23	高知高
〃	古賀	達也	21	佐賀竜谷高
捕手	小川	良一	25	駒沢大
〃	山口	誠	24	鹿児島電子工高
〃	中川	豊明	22	江の川高
内野	清水	健五	23	慶応大
〃	浜田	知治	24	小倉商高
〃	○清水	長寿	28	早稲田大
〃	飯島	淳	22	堀越高
〃	四田	勝康	23	浪商高
〃	田中	祐司	22	鳴門高
〃	松隈	憲治	25	柳川商高
〃	中原	正明	26	東海大
外野	宇山	秀明	30	慶応大
〃	西村	博己	21	伊都高
〃	高多	倫正	25	慶応大
〃	浜崎	拓司	21	和歌山工高
〃	川上	謙治	26	市和歌山商高
〃	三好	一幸	27	東海大相模高
〃	中林	秀延	30	慶応大

日本生命

監督	市原 数男	35	明 治	大
投手	岡田 和久	28	近 畿	大
〃	矢野 暢生	26	早稲田	大
〃	林 亮一	24	慶 応	大
〃	加藤 重雄	22	法 政	大
〃	森 明彦	21	河 南	高
〃	村上 明	19	新 湊	高
捕手	佐竹 政和	31	関 西	大
〃	野村 茂	26	PL学園	高
〃	長沢 伸明	25	立 教	大
〃	桧垣 明	22	関 西	大
内野	○赤井 淳二	27	近 畿	大
〃	河野 敏章	28	東 京	大
〃	井尻 陽久	26	東 海	大
〃	西村 一寛	26	早稲田	大
〃	花野 巧	25	同志社	大
〃	宇地原佳則	24	立 教	大
〃	三枝 淳介	23	早稲田	大
〃	佐藤 清	23	早稲田	大
〃	渋谷 渉	22	明 治	大
外野	梅田 薫	28	明 治	大
〃	安西 敏雄	25	中 央	大
〃	小松 博	23	慶 応	大
〃	楠原 基	23	法 政	大
〃	西本 靖彦	22	早稲田	大
〃	新名 隆	27	明 治	大

松下電器

監督	下田 鎮男	36	柳川商	高
投手	北口 勝久	23	早稲田	大
〃	久保 邦夫	26	水島工	高
〃	長谷部 優	29	慶 応	大
〃	藤井 俊宏	22	福山商	高
〃	吉田 恭之	25	東 海	大
〃	山本 芳	24	創 価	大
〃	原 邦彦	21	岡山東商	高
〃	塚岡 広仁	21	倉敷工	高
捕手	大本 二郎	22	倉敷工	高
〃	木原 弘人	28	慶 応	大
〃	荒木 靖信	20	PL学園	高
内野	山口 円	29	関 西	大
〃	前嶋 純二	23	法 政	大
〃	島田 行雄	24	近 畿	大
〃	坂口 雅久	28	立 教	大
〃	森本 光一	24	立 命館	大
〃	平谷 拓	23	田辺商	高
〃	宮脇 俊也	21	岡山東商	高
〃	○鍛治舎 巧	28	早稲田	大
〃	対中 修平	25	東 海	大
外野	高鍋 均	22	布施工	高
〃	松川 正樹	24	愛知工	大
〃	堀江 隆樹	28	立 教	大
〃	磯本 邦彦	22	佐世保工	高
〃	山田 勉	21	大 鉄	高

三菱重工神戸

監督	一岡 四郎	33	同志社	大
投手	杉野 時三	27	鴨島商	高
〃	一色 克義	23	京都水産	高
〃	庄司 富夫	24	安 来	高
〃	藤崎 穣	21	中 京	高
捕手	竹中 円	28	萩	高
〃	藤井 大	27	村野工	高
〃	仲 隆司	27	報徳学園	高
〃	福島 康徳	24	神戸学院	大
内野	岡田 敏裕	23	同志社	大
〃	伊藤 博文	24	関西学院	大
〃	森 昌三	24	坂出商	高
〃	山谷 健二	25	岡山東商	高
〃	古田 久人	20	PL学園	高
〃	川辺 邦好	26	育 英	高
〃	○時本 勝己	28	三田学園	高
外野	友藤 芳己	27	村野工	高
〃	金蔵 博久	26	九州工	高
〃	井上 美春	28	市和歌山商	高
〃	中沢 文哉	24	東 京	大
〃	吉田 隆行	25	岡山東商	高
〃	勝 順一	31	関西学院	大

神戸製鋼

監督	村上 宣英	31	都島工	高
投手	山本 泰之	26	駒 沢	大
〃	三善 民康	26	関 西	大
〃	青木 弘之	24	佐賀学園	高
〃	西山 秀喜	19	帝京第五	高
〃	土師 利博	27	明 治	大
捕手	原田 貞夫	27	香 住	高
〃	岡本 哲司	19	吉 備	高
〃	荒井 信久	26	明 治	大
内野	中川 哲	23	駒 沢	大
〃	古賀 博樹	25	多久工	高
〃	宮本 要	21	洲本実	高
〃	三木 行治	25	大阪商	大
〃	岡田 義明	24	山 崎	高
〃	○大村 雅文	28	専 修	大
〃	浦本 慶啓	23	亜細亜	大
〃	柏原 伸晃	23	小豆島	高
コーチ兼内野	吉田 和幸	30	駒 沢	大
外野	小林 貴	27	姫路商	高
〃	山本 公裕	21	高松商	高
〃	野間 武久	22	村野工	高
〃	中村 好治	26	専 修	大
〃	若林 浩	21	都島工	高
〃	山崎 博行	24	村野工	高
〃	日野 高	24	都島工	高

三菱重工広島

監督	迫田 守昭	34	慶 応	大
投手	村田 利明	26	立 教	大
〃	佃 正樹	24	法 政	大
〃	徳勢 実	30	福岡工	大
〃	池本 正樹	22	大 田	高
〃	松岡 信吾	20	八代学院	高
〃	若松 実	30	芝浦工	大
捕手	大森 光生	28	明 治	大
〃	山村 幸紀	27	広島商	高
〃	長谷川雅嘉	19	育 英	高
〃	迫田 守昭	34	慶 応	大
内野	○酒井 信芳	29	東 洋	大
〃	米谷 豊	23	宮崎電子工	高
〃	金光 興二	24	法 政	大
〃	若松 茂樹	26	東 洋	大
〃	佐々木幸治	28	法 政	大
〃	吉川 丈一	26	都城農	高
外野	富士野誠示	26	西脇工	高
〃	井上 敏之	26	山 陽	高
〃	古川 達雄	28	米子商	高
〃	伊藤 順三	30	八 幡	大
〃	岡崎 照光	24	熊本第一工	高
〃	井上 伸三	27	東 洋	大
〃	荒谷 稔	26	広島商	高
〃	中村 文人	29	国士舘	大

協和醗酵

監督	加来 佐吉	33	中津東	高
投手	藤田 敏彦	20	岡山日大	高
〃	前田 寿美	20	津久見	高
〃	渡辺 説男	24	佐 伯	高
〃	星野 正一	20	津久見	高
〃	津田 恒美	19	南陽工	高
捕手	稲田 豊海	23	三池工	高
〃	藤 兼善	20	唐津商	高
〃	国本 正弘	18	南陽工	高
〃	村岡 栄二	21	美禰工	高
内野	浅田 勉	29	岩国商	高
〃	嘉村 学	24	早 鞆	高
〃	山口 光夫	19	岩国商	高
〃	安藤 善春	23	下関工	高
〃	吉用 哲也	27	中津工	高
〃	古賀 康則	19	柳川商	高
〃	中越 宗雄	32	飯塚商	高
〃	水本 智彦	20	中津工	高
外野	馬場 堯裕	23	唐津商	高
〃	藤本 保之	19	南陽工	高
〃	岡本喜代美	21	宇部商	高
〃	○安永 知紀	26	早 鞆	高
〃	山田 孝道	29	防府商	高
〃	古嶋 正人	24	下関商	高
〃	村澤 政夫	19	南陽工	高
〃	浜西 雄三	19	早 鞆	高

丸善石油

監督	平川恵一郎	40	寝屋川	高
投手	鈴木 理	29	成 田	高
〃	板倉 利弘	19	福井商	高
〃	浜口 守	19	弓削商船高専	
〃	藤井栄一郎	27	明治学院	大
〃	新 孝博	26	初 芝	高
捕手	金田 進	19	近大付	高
〃	秋葉 秀雄	24	勝 浦	高
〃	益田 佳明	27	立 正	大
内野	浜口 明	19	大 鉄	高
〃	徳藤 幸三	29	宮崎商	高
〃	○神崎 直	27	津久見	高
〃	角田 栄	24	木更津中央	高
〃	福永 純一	28	亜細亜	大
〃	高石 貴治	20	新居浜商	高
〃	深谷 勇人	19	近大付	高
〃	野口 憲次	27	明治学院	大
外野	窪田 欣也	32	亜細亜	大
〃	佐藤 洋一	20	二松学舎大付	高
〃	松元 芳一	26	都城泉ケ丘	高
〃	古井 浩二	24	海 南	高
〃	寺岡 正彦	28	聖 橋	高
〃	山本潤一郎	20	津久見	高
〃	末崎 友己	25	生野工	高

四国銀行

監督	麻岡 正男	30	大 商	大
投手	田辺 英朗	29	専 修	大
〃	片岡 寿彦	24	高知商	高
〃	山本 智久	22	池 田	高
〃	高尾 等	22	愛知学院	大
捕手	城下 照男	26	専 修	大
〃	沖田 雅夫	24	高知商	高
〃	古谷 英央	22	高知商	高
内野	麻岡 正男	30	大 商	大
〃	森沢 康夫	30	高 知	高
〃	楠瀬 隆章	28	法 政	大
〃	石見 圭一	27	専 修	大
〃	安光 昇	24	大方商	高
〃	森本 誠	24	高知商	高
〃	乃一 官	24	関 西	大
〃	浦林 堅	23	愛知学院	大
〃	岸野 正彦	22	高知商	高
外野	刈谷 精一	30	高知商	高
〃	○西村 章	28	法 政	大
〃	日浦 武	28	亜細亜	大
〃	森下 雅彦	25	法 政	大
〃	溝淵 貞雄	22	大 商	大
〃	戸田 宏	22	高知工	高

新日本製鐵八幡

監督	玉井 義明	32	専 修	大
投手	村上 茂徳	25	京 都	高
〃	丸谷富美幸	21	日南振徳商	
〃	高野 義文	22	都城商	高
〃	米満 正広	26	門司工	高
〃	大段 明	30	明 治	大
〃	池田 宣人	21	長崎北	高
捕手	水摩紳二郎	23	筑豊工	高
〃	福本 高典	20	宇部鴻城	高
〃	沢熊 辰己	26	下関商	高
内野	徳永 利美	24	法 政	大
〃	平 満男	23	長崎商	高
〃	本村 正一	23	南 筑	高
〃	山前 伸二	20	直方学園	高
〃	丸目 修二	22	宮崎電子工	高
〃	浜田幸之助	25	小倉南	高
〃	奥田 康雄	27	専 修	大
外野	奥村 純一	26	門司工	高
〃	加藤 雄一	23	鎌倉学園	高
〃	下村 肇	27	大 濠	高
〃	山崎 典政	22	都城農	高
〃	○榎園 一己	28	照 国	高
〃	沼田 清和	21	東海大二	高

電電九州

監督	廣門 正暢	36	九州工	高
投手	藤田 裕二	19	臼杵商	高
〃	右田 一彦	19	九州学院	高
〃	松尾 勝則	23	専 修	大
〃	山内 孝徳	23	鎮 西	高
〃	長嶺 俊一	30	宮崎本庄	高
〃	錦野 和明	30	熊 本	大
〃	菊川 良正	29	東海大二	高
捕手	○川越 雄一	30	国士舘	大
〃	仲村 正利	19	北部工	高
〃	永園 敏博	30	川 内	高
内野	村岡 耕一	19	日田林工	高
〃	福島 和博	27	愛知工	大
〃	柳川 正義	21	日田林工	高
〃	勝山 晋一	24	東海大二	高
〃	今井 敬二	30	門司工	高
〃	南牟礼豊蔵	19	都城工	高
〃	平山 敏数	24	九州共立	大
〃	福島 優	19	熊本第一工	高
〃	橋本 栄二	25	東 海	大
〃	柴田 克己	26	福 岡	大
外野	河野 統治	22	九州学院	高
〃	八重石勝幸	24	京都産業	大
〃	鈴木 泰司	25	仏 教	大
〃	小林 裕一	20	熊本工	高

金属バット初登場、注目の打者は

―豪打誇る"至宝"高梨―

今大会から金属バットが登場する。本塁打も格段に増えると見られるが、注目のスラッガーをあげてみよう。

まず16年間、不動の四番として豪打をほしいままにしている大昭和製紙北海道の高梨プレーイングマネジャー。

今夏の都市対抗記念大会での日本生命戦で後楽園通算７本塁打の最多記録をものにするなど、とても36歳とは思えないパワーを秘めている。千葉県の無名の大多喜高から北海道にわたって19年間、白球を追い続けてざっと100本のホームランを量産している。二十代も後半にさしかかるとベテラン扱いされるが、そのなかでチームの先頭に立って打ち、走る超ベテランの真剣なプレーは社会人球界の至宝といってもいい。

どんな世界でも一歩先んじるためにはそれなりの創意工夫が必要である。昨年ルーキーでいきなり四番にすわって話題をまいた日本生命の佐藤内野手は金属バットが導入されると、早速、米国から別注の日本製より長い"もの干しざお"をとり寄せた。これで社会人のホームラン王を狙っている。

佐藤に劣らぬルーキーが、日本楽器の四番・武居内野手。全日本の一員としてキューバで働いてきたが、その鋭い振り、パワー、素質とも申し分なしで、ブラジル育ちのチームメート、佐藤とともに豪打の競演を繰り広げる。

さらに、全日本捕手の村上（大昭和製紙北海道）をはじめ細川外野手（西濃運輸）、鍛治舎内野手（松下電器）、佐々木内野手（三菱重工広島）らのパワーあふれる豪快なバッティングも見逃せない。

過去、５回の大会で、最優秀選手賞は４回まで投手で占めているが、昨年、初めて北海道拓殖銀行の高岡内野手に輝いた。俊足好打の持ち主で、山本内野手とともに打線の核として、再び甲子園で暴れまくる。

第7回大会

1980年（昭和55年）5月24日▶6月4日　大阪球場

優勝＝日本鋼管福山 ――――（初優勝）

日本鋼管福山、宿願のV1

初めて中国路にダイヤモンド旗がひるがえった。日本鋼管福山はパワーに頼ることなく、32歳のベテラン・田村投手を中心に固く結束、初の日本一の座をつかんだ。

日本鋼管福山は田村がチームリーダー。兼任コーチを務めると同時にエースナンバーの「18」は内山田に譲り、年齢より一つ少ない「31」をつけた。減量に努め、ベスト体重の78㌔を維持した。田村は優勝戦は1三振しか奪わなかったが、準決勝までの3試合で20奪三振。打線も準決勝の富士重工業戦で延長十二回に佐名木が勝ち越し2ラン、優勝戦の三回に関が追加点となる2ランを放つなど各打者がよく打った。

日本楽器は優勝戦の九回、安打を集めて2点を返したように、粘り強かった。二番・熊野が4割6分7厘をマークするなど打線が奮起、エース久保も準決勝の松下電器戦で投打に活躍したが、日本鋼管福山の先制攻撃に屈した。

（優勝戦）日本鋼管福山－日本楽器　三回表、日本鋼管福山一死二塁、関左越えに2点本塁打を放つ。（捕手中村）

開催球場が甲子園から大阪に

これまでは秋に、阪神甲子園球場で行われていたが、今年はアマチュア野球世界選手権大会が8月22日から15日間、東京を中心に開かれるため、世界選手権に出場する日本代表チーム編成のうち社会人選手の最終選考を兼ねる大会として、5月開催に繰り上げられた。また経費軽減を図るため会場が大阪球場に変更された。

大会審判

▷**委員長**＝山本英一郎 ▷**副委員長**＝小西正一、郷司裕 ▷**委員**＝高橋良夫、三輪武、中西明、三宅享次、小林加寿男、元橋一登、山川脩司、達摩省一、戸田直佑、中村孝太郎、相沢孝行、清沢忠彦、原田謹爾、片岡成夫、日野賢導、上杉正、武村政雄、津田進、樋秀夫、岸野金治、吉田鼈男、清水忠雄、広沢渉、木嶋一晃、松尾進、森武雄、樫根清一、松山守、池田貴義、鶴田泰夫、谷川俊彦、清水正輝、坂崎克美、大橋慶三、小林勉、春名正己

▽5月24日

第1試合＝1回戦(午前10時3分開始)

三菱重工神戸	0	0	1	0	0	0	3	0	0	4
三菱名古屋	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3

▶審判(球審)達摩(塁審)武村、木嶋、谷川

【三菱神戸】

		打	安	点	振	球
⑨	松本	5	3	1	0	0
④	時川	3	1	1	2	0
⑥	山辺	4	1	0	1	1
⑤	川岡	3	1	1	0	0
⑧	井上	4	2	0	0	0
③	山吉	3	2	0	0	1
⑦	田藤	3	1	0	0	0
R	沢伊	0	0	0	0	0
7	中竹	0	0	0	0	0
②	一色	4	1	0	0	0
①						

犠	併	残
2	0	7

3 1 1 0 3 1 5

【三菱名古屋】

		打	安	点	振	球
⑧	二宮	3	1	0	1	0
H9	織田	3	1	0	0	0
④	石垣	2	5	4	1	0
⑤	島田	4	2	1	1	0
③	織田	4	3	0	0	1
9	8伊藤	4	2	1	0	0
⑦	山北	4	1	0	1	0
②	広見	3	2	0	0	0
R	煤本	2	0	0	0	0
2	佐藤	3	1	0	1	0
①	松本	1	2	0	0	0
1	東	1	0	0	0	0
H	田口実	1	0	0	0	0
1	桃田	1	0	0	0	0
H	加藤	1	0	0	0	0
1	野村	0	0	0	0	0
⑥	宮地	4	1	0	0	0

犠	併	残
0	1	9

3 7 1 1 3 6 2

	回	安	振	球	責
一色	9	11	6	2	3

	回	安	振	球	責
松本	6	5	1	4	2
東	1	3	0	1	2
桃田	1	1	0	0	0
野村	1	1	0	0	0

▷二塁打＝岡田、山谷 ▷犠打＝神2(時本、吉田) ▷盗塁＝神2(松本2)名1(伊藤) ▷失策＝神1(竹中) ▷試合時間＝2時間30分

第2試合＝1回戦(午後1時4分開始)

大昭和製紙北海道	0	0	0	0	0	4	0	0	1	5
熊本鉄道管理局	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2

▶審判(球審)上杉(塁審)日野、池田、片岡

【大昭和】

		打	安	点	振	球
④	新木	3	0	0	0	1
⑧	我喜屋	4	1	1	0	0
⑤	大野	4	1	2	0	0
③	高梨	4	3	1	0	0
②	村村上	4	1	0	2	0
⑨	横川	4	0	0	0	0
⑦	井上	3	0	0	0	0
7	梁原	3	1	1	1	0
①	川瀬	4	0	0	0	0
⑥	仲本	3	1	0	0	0

犠	併	残
0	1	3

3 4 8 5 2 1

【熊鉄局】

		打	安	点	振	球
③	中川	4	0	0	1	0
④	瀬高	3	0	0	0	0
H	畑中	1	0	0	0	0
⑧	堀口	4	2	0	0	0
⑦	今川	3	0	0	1	0
H	斉木	1	1	1	0	0
R	岩田	0	0	0	0	0
⑤	椿	4	1	0	1	0
⑥	宇都宮	2	0	0	0	1
⑨	朝田	2	1	0	0	0
②	坂本	3	1	1	0	0
①	平山	2	0	0	1	0
1	河野	1	0	0	0	0

犠	併	残
1	1	3

3 0 6 2 4 1

	回	安	振	球	責
川瀬	9	6	4	1	2

	回	安	振	球	責
平山	5⅓	5	0	1	4
河野	3⅔	3	2	0	1

▷二塁打＝堀口2、高梨、大野、朝田 ▷犠打＝熊1(朝田) ▷盗塁＝大1(高梨) ▷失策＝大1(大野) ▷ボーク＝川瀬 ▷試合時間＝2時間7分

第3試合＝1回戦(午後3時41分開始)

大倉工業	1	0	0	0	0	2	0	2	0	5
河合楽器	0	1	3	0	0	0	0	0	2	6

▶審判(球審)中西(塁審)三輪、松尾、坂崎

【大倉工業】

		打	安	点	振	球
⑥	堀家	3	0	0	0	2
④	江原	3	1	0	0	0
⑤	和田	4	0	0	1	0
③	中奥	4	0	0	0	0
⑦	井野	4	5	1	0	2
②	中原	4	2	0	0	0
⑨	阿部	4	2	0	1	0
H	本井	3	0	1	1	0
9	山笠	3	1	0	0	0
⑧	佐武	3	2	0	0	1
①	田村	3	1	0	0	0
1	尾藤	2	0	1	1	0

犠	併	残
3	0	9

3 3 8 5 4 5

【河合楽器】

		打	安	点	振	球
⑧	岡村	4	1	0	0	1
⑤	伊藤	3	2	0	0	1
⑨	小東	3	2	0	3	0
③	田口	4	2	2	0	1
⑦	野口	4	2	0	3	0
⑥	阪本	4	2	0	1	0
④	湯浅	3	0	1	0	0
②	平生	3	1	0	0	0
①	橋本	4	2	1	0	0
1	根尾	1	0	0	0	0
H	崎坂	0	0	0	0	0
R	増松	0	0	0	0	0
1	田本	0	0	0	0	0

犠	併	残
2	0	9

3 2 1 0 6 3 5

	回	安	振	球	責
武田	2	5	0	2	4
田村	2	0	0	0	2
尾藤	6	4	3	3	2

	回	安	振	球	責
橋本	4⅓	1	1	3	1
根本	3⅓	1	6	2	2
崎尾	⅓	1	0	0	0
松田	1	0	1	1	0

▷本塁打＝野口1号(武田)小川1号②(尾藤) ▷二塁打＝小川、野口、佐治、笠井、江原、伊藤 ▷犠打＝大3(和田、中井、山本)河2(伊藤、湯浅) ▷盗塁＝大2(堀家、江原)河3(岡村2、伊藤) ▷失策＝河1(阪本) ▷試合時間＝2時間42分

逆転サヨナラ本塁打

㉔…とてつもなくでっかいサヨナラホームランだった。1点を追う河合の攻撃は九回無死二塁。大倉・尾藤の0－1後の球は「真ん中高めのカーブ」。白球はあっという間に左翼中段へ。史上初の劇的な逆転サヨナラホームランは、今春、中大を卒業して社会人になったばかりの185センチ、85キロの大型ルーキー小川がいとも簡単にものにした。打たれた大倉の鎌田監督が「あんなのを打たれりゃあ、かえってすっきりしますよ」

▽5月25日

第1試合＝1回戦(午前9時57分開始)

北海道拓殖銀行	0	3	1	0	0	0	0	0	2	6
田辺製薬	0	0	0	0	0	3	0	1	0	4

▶審判(球審)元橋(塁審)樫根、春名、戸田

【拓殖銀行】

		打	安	点	振	球
④	高岡	5	0	0	0	0
⑧	小山	4	3	0	0	1
⑥	本田	3	0	0	1	1
③	梅田	3	1	1	1	1
⑦	坂田	3	0	0	1	1
⑨	大滝	5	3	3	1	0
②	大田	3	0	1	2	1
⑤	海老名	3	1	0	1	0
①	福島	2	1	0	1	0
1	堀田	1	0	0	0	0

犠	併	残
6	0	7

3 3 9 5 8 4

【田辺製薬】

		打	安	点	振	球
6	4田村	3	3	0	0	2
⑨	内田	5	1	1	1	0
②	江本	4	0	0	1	1
1	松本	1	0	0	1	0
5	3太田	4	0	0	1	0
⑧	飯島	5	1	0	1	0
⑧	三輪	5	0	0	2	0
6	5吉野	3	0	0	1	0
①	中本	0	0	0	0	0
H	1島下	1	0	0	0	0
H	3安田歳	1	1	1	0	0
④	安田孝	2	1	0	0	0
H	2福井	2	2	2	0	0

犠	併	残
1	1	8

3 8 1 0 4 7 3

	回	安	振	球	責
福島	6⅔	7	3	1	3
堀田	3⅓	3	4	2	1

	回	安	振	球	責
中本	3	6	1	0	2
島下	4	1	6	1	0
松本	3	2	1	3	2

▷三塁打＝福井 ▷二塁打＝小島、田村、安田歳、大滝 ▷犠打＝拓6(山本、梅田、坂田、田鎖、海老名、福島)田1(安田歳) ▷盗塁＝田2(田村、飯島) ▷失策＝田2(飯島、三輪) ▷捕逸＝田鎖 ▷試合時間＝2時間57分

▽5月27日

第1試合＝1回戦(午前8時59分開始)

リッカー	0	1	0	0	0	0	0	1	1	3
新日鉄堺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)木嶋(塁審)鶴田、森、原田

【リッカー】

		打	安	点	振	球
⑧	大浪	5	2	0	0	0
⑨	渡辺	4	3	1	0	0
⑦	国山	4	1	0	2	1
③	平野	4	1	0	0	0
⑤	和久田	4	0	0	1	0
②	大野	3	1	1	1	1
⑥	白黒田	3	1	1	1	0
①	水白	4	0	0	1	0
1	山内	1	0	0	1	0
④	森	2	0	0	1	0
4	川本	2	1	0	0	0

犠	併	残
1	1	9

3 6 1 0 3 8 2

【新日鉄堺】

		打	安	点	振	球
④	花川	4	1	0	0	0
⑨	田中	3	0	0	0	0
H	9西垣	1	1	0	0	0
⑥	浦東靖	4	2	0	0	0
⑧	藤本公	2	0	0	0	2
②	浦	4	1	0	0	0
⑦	山尾	2	0	0	0	1
③	南口	0	0	0	0	2
①	中川	2	0	0	0	0
5	天羽	0	0	0	0	0
⑤	西口	1	0	0	1	0
H	中西	1	0	0	0	0
5	浦東徳	0	0	0	0	0
H	1清水	1	0	0	0	0

犠	併	残
2	0	5

2 5 5 0 1 5

	回	安	振	球	責
黒田	6⅔	4	1	5	0
山内	2⅓	1	0	0	0

	回	安	振	球	責
中川	8	8	6	2	1
清水	1	2	2	0	1

▷二塁打＝黒田、浦、大浪、川本 ▷犠打＝リ1(渡辺)新2(南口、中川) ▷失策＝新1(西口) ▷試合時間＝2時間26分

第2試合＝1回戦(午前11時57分開始)

仙台鉄道管理局	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
九州産交	1	0	0	2	1	0	0	0	X	4

▶審判(球審)高橋(塁審)日野、大橋、谷川

【仙鉄局】

		打	安	点	振	球
⑦	吾妻	4	0	0	0	0
⑤	鈴木	3	1	0	0	0
H	5及川	3	1	0	0	0
③	佐藤順	4	1	0	0	0
⑨	加藤	3	0	1	2	0
④	高橋	3	0	0	2	1
②	阿部	3	0	0	0	0
H	千葉	3	0	0	0	0
⑧	沼枝	3	1	0	0	0
⑥	大木	4	1	0	0	1
①	須賀	0	0	0	0	0
1	太田	1	0	0	0	0
H	1郡山	0	0	0	0	1
1	志賀野	0	0	0	0	0
H	堀切	1	0	0	0	1

犠	併	残
1	2	8

3 2 5 1 7 3

【九州産交】

		打	安	点	振	球
⑨	田代	5	2	2	0	0
⑥	東	2	0	0	0	0
H	6上田	0	1	0	0	0
③	伊藤木	3	0	0	0	1
④	柿二	3	1	0	0	1
⑤	村新	3	0	0	0	1
③	井上口	3	0	1	0	0
H	3江有	1	0	0	0	1
⑧	来海	2	2	0	0	0
⑦	井上広	2	2	0	0	1
7	久本	0	0	0	0	0
H	7松藤	0	0	0	0	0
⑦	井上勝	0	0	0	0	0
②	赤星	3	1	0	0	1
①	西谷	2	0	0	0	2

犠	併	残
1	0	10

2 7 5 4 1 10

	回	安	振	球	責
木須	1⅔	0	0	5	0
太田	5	4	1	4	3
志賀野	2	1	0	1	0

	回	安	振	球	責
西谷	9	5	7	3	1

▷二塁打＝田代2、永沼 ▷犠打＝仙1(加藤)九1(来海) ▷盗塁＝仙1(鈴木)九2(二村、赤星) ▷失策＝仙1(加藤)九1(東) ▷ボーク＝木須 ▷試合時間＝2時間9分

第3試合＝2回戦(午後2時41分開始)

日本鋼管福山	3	0	0	3	0	1	1	2	0	10
オール常交	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2

▶審判(球審)上杉(塁審)樋、吉田、岸野

【鋼管福山】

		打	安	点	振	球
⑧	関	6	3	2	2	0
④	佐名木	5	0	0	2	0
⑦	六条	3	1	0	1	2
H	7今岡	1	0	0	0	0
7	岡本	1	0	0	0	0
③	山松	5	3	3	0	0
⑨	松浦	3	2	2	3	0
⑤	渡部	3	2	2	0	2
⑥	岩崎	3	2	2	0	1
1	高橋	3	0	0	0	0
H	1白石則	1	0	0	0	0
1	内山田	1	0	0	0	1
②	今久留主	2	1	0	1	1
H	2藤山	1	0	0	1	1
①	田村	2	0	0	0	0
H	6渡辺敏	0	0	0	0	0
6	白石淳	1	0	0	0	1

犠	併	残
2	1	9

3 4 1 1 10 8 10

【常交】

		打	安	点	振	球
⑧	佐藤徹	3	0	0	0	0
H	8東条	1	0	0	0	0
④	羽下	3	0	0	1	0
H	根本	1	0	0	1	0
4	高萩	0	0	0	0	0
③	鈴木義	4	3	0	0	1
⑦	酒井	4	1	0	0	1
⑥	村田	3	0	0	2	0
⑤	小早川	2	2	0	0	1
⑨	小磯	3	1	0	0	0
H	9小林秀	1	0	0	1	0
①	鈴木	3	2	2	0	1
②	園部	3	1	0	1	0
2	松井	2	1	1	0	0

犠	併	残
0	1	4

3 1 6 2 11 2

	回	安	振	球	責
田村	6	3	8	0	1
高橋	1	3	0	2	1
内山田	2	0	3	0	0

	回	安	振	球	責
鈴木秀	9	11	8	10	9

▷本塁打＝関1号(鈴木秀)山内1号②、2号(鈴木秀) ▷三塁打＝山内 ▷二塁打＝渡部、松浦、小磯、関 ▷犠打＝鋼2(松浦、田村) ▷盗塁＝鋼6(関、六条2、松浦3) ▷失策＝常2(園部、松井) ▷試合時間＝2時間27分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

日本鋼管福山＝優勝
(現NKK)
田村 忠義投手
(現同社福山製鉄所総務部課長、45歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

"最後の一花"の意気で

ある意味で野球人生をかけた年だった。当時は32歳。もうそろそろ引退かなと思う一方、もう一度限界に挑戦した。

優勝戦で対戦した日本楽器は強打者ぞろい。試合前のフリー打撃でも大きな当たりを連発していた。でも逆に「しめた、大振りしているな」と思った。その試合では準決勝まで四番の山内がけがで欠場していたこともあって自分がやらねば、と燃えていた。第一回大会(1974年)で準優勝した時と比べて球威は衰えていたが、若手の見本になるような投球を、とシンカー、スライダーを低めに集め、打たせて取った。この優勝で節制すれば、まだまだやれることを実感でき、選手寿命が延びた。2年後に都市対抗で準優勝を経験できたのも、この優勝があればこそだった。

第4試合＝2回戦(午後5時43分開始)

日本生命	0	0	0	0	0	1	0	0	4	5
国鉄名古屋	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

▶審判(球審)三宅(塁審)池田、小林勉、清沢(外審)上杉、岸野

【日本生命】

	打	安	点	振	球
⑦ 安西	5	2	0	0	0
⑨ 梅田	3	1	0	0	0
⑧ 赤井	3	0	0	1	2
③ 佐藤	4	0	1	1	1
⑤ 花野	5	3	3	0	0
④ 西村	4	1	0	0	0
R 檜垣	0	0	0	0	0
4 三枝	0	0	0	0	0
② 佐竹	4	3	1	0	0
⑥ 井尻	4	0	0	0	0
① 中西	3	0	0	3	0
H 本本	1	0	0	0	0
1 岡田	1	0	0	0	0
犠 併 残					
5 1 10	37	10	5	5	3

【国鉄名古屋】

	打	安	点	振	球
④ 植田	4	0	0	0	0
⑤ 久田	3	0	0	0	0
H 間瀬	1	0	0	0	0
5 湧川	0	0	0	0	0
⑨ 内藤	4	0	0	1	0
③ 榊原	4	0	0	0	0
⑦ 高橋	4	2	1	0	0
⑧ 増田	4	1	0	0	0
⑥ 本田	3	0	0	0	0
② 坂野	3	0	0	2	0
① 田中	3	0	0	1	0
1 加藤次	0	0	0	0	0
犠 併 残					
0 0 2	33	3	1	4	0

回	安	振	球	責
中本	8	3	4	0	1
岡田	2	0	0	0	0

回	安	振	球	責
田中	9⅓	9	5	3	1
加藤次	⅔	1	0	0	0

▷本塁打＝高橋1号(中本)▷二塁打＝増田、花野▷犠打＝日5(梅田2、三枝、佐竹、井尻)▷盗塁＝日3(安西、佐竹2)▷失策＝日1(西村)国2(植田、本田)▷試合時間＝2時間17分

▽5月28日

第1試合＝2回戦(午前8時58分開始)

神戸製鋼	5	1	0	0	1	0	2	0	0	9
大昭和製紙北海道	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2

▶審判(球審)小林加(塁審)津田、清水忠、原田

【神戸製鋼】

	打	安	点	振	球
⑧ 小林	4	0	0	0	1
④ 中川	3	1	0	0	1
H 柏原	1	0	0	0	0
4 三木	0	0	0	0	0
⑨ 山崎	4	4	2	0	0
⑦ 中村	4	2	0	2	1
H 7 若浦	4	1	1	2	0
③ 木本	4	1	1	1	0
② 荒井	4	1	4	0	0
⑥ 古西	3	0	0	1	0
⑤ 宮本	4	0	0	1	0
犠 併 残					
0 2 2	34	8	9	4	4

【大昭和】

	打	安	点	振	球
④ 新本	3	0	0	0	0
H 4 福地	1	1	0	0	0
⑧ 我喜屋	4	1	0	0	0
⑤ 大高野	3	1	1	0	1
③ 高梨	4	2	1	0	0
② 村上	4	1	0	2	0
R 平	0	0	0	0	0
2 今泉	3	0	0	0	0
⑨ 横川原	3	0	0	0	0
H 9 梁上	1	1	0	0	0
⑦ 井川上	4	2	0	0	0
① 瀬磯	0	0	0	0	0
1 小原	1	0	0	0	0
H R 1 川上	0	0	0	0	0
H ⑥ 三宝橋	1	0	0	0	0
仲本	3	0	0	0	0
犠 併 残					
1 0 6	33	10	2	2	1

回	安	振	球	責
西山	9	10	2	1	2

回	安	振	球	責
川瀬	1⅓	5	1	3	6
小磯	5⅔	3	3	1	3
三上	2	0	0	0	0

▷本塁打＝荒井1号④(川瀬)山崎1号(小磯)高梨1号(西山)若林1号②(小磯)▷二塁打＝山崎、原、福地▷犠打＝大1(小磯)▷盗塁＝神1(小林)大2(大野、平)▷試合時間＝2時間18分

第2試合＝2回戦(午前11時51分開始)

東芝	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
河合楽器	1	0	0	0	0	0	1	0	2	4

▶審判(球審)鶴田(塁審)三輪、樫根、春名

【東芝】

	打	安	点	振	球
④ 宮崎	3	1	1	0	1
⑨ 深沢	3	1	0	0	0
③ 武智	4	1	0	0	0
⑧ 7 菊地	4	1	0	1	0
⑦ 祖父元	2	0	0	0	0
1 黒紙	2	0	0	0	0
⑤ 広橋	4	2	0	0	0
⑥ 吉田	4	1	0	0	0
② 京小	3	0	0	0	0
① 小嶋	2	1	0	0	0
H 7 小貝	1	0	0	0	0
8 田中	0	0	0	0	0
犠 併 残					
2 0 6	32	8	1	1	1

【河合楽器】

	打	安	点	振	球
⑧ 岡村	5	2	0	1	0
⑤ 伊藤	4	2	1	0	0
⑨ 小川	5	4	0	0	1
③ 東田	5	3	3	1	0
⑦ 野口	4	0	0	1	0
⑥ 阪本	4	2	0	0	0
④ 湯浅	3	1	0	0	0
② 平生	3	0	0	0	1
① 崎尾	1	0	0	2	0
H 増本	1	0	0	0	0
松田	1	1	0	0	0
犠 併 残					
2 1 10	36	11	4	7	2

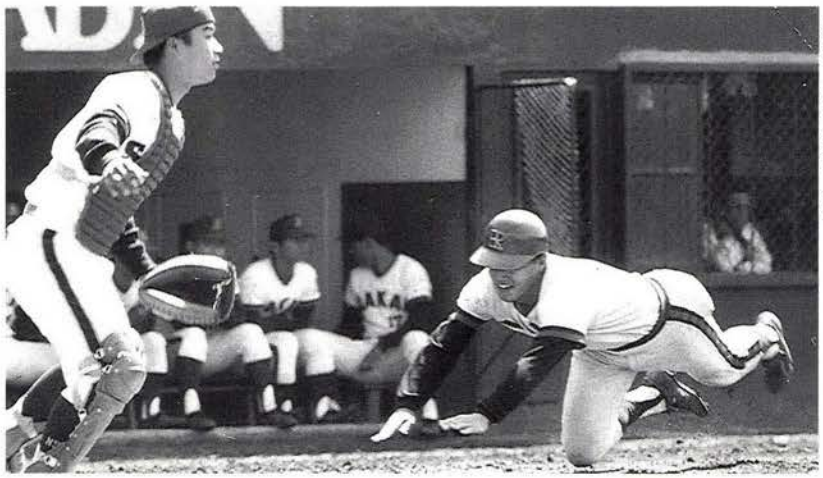
回	安	振	球	責
小嶋	4	6	3	1	1
黒紙	4⅔	5	4	1	3

回	安	振	球	責
崎尾	7	7	0	0	1
松田	2	1	1	1	0

▷本塁打＝東田1号②(黒紙)▷二塁打＝岡村、湯浅、菊地、伊藤▷犠打＝東2(深沢、京極)河2(伊藤、湯浅)▷失策＝東3(深沢、吉田2)河4(伊藤2、湯浅、崎尾)▷試合時間＝2時間31分

口をへの字に

◎…五回から小嶋をリリーフして要所を締めていた東芝のエース・黒紙は、東田に打たれた瞬間、マウンドでがっくりひざを落としばらくは放心状態。初戦の大倉工業戦でサヨナラ2ランを放っている小川をカーブで三振に打ちとった後だけに、悔やんでも悔やみきれない1球だった。「真っすぐです」。打たれた本塁打の球種をいうのが精いっぱいで、あとは何を聞かれてもくちびるをへの字に結んだまま。



〔1回戦〕リッカー新日鉄堺 二回表リッカー二死一塁、黒田の右中間二塁打で一塁から和久田が一挙ホームへ。(捕手・浦)

第3試合＝2回戦(午後2時59分開始)

北海道拓殖銀行	0	0	0	0	1	0	0	1	3	5
丸善石油	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2

▶審判(球審)三宅(塁審)小林勉、相沢、清水正

【拓殖銀行】

	打	安	点	振	球
④ 高岡	4	1	0	0	1
⑧ 小島	4	1	1	0	0
⑥ 山本	4	1	1	0	0
③ 梅田	4	1	1	0	0
⑦ 5 坂田	4	1	2	0	0
⑨ 滝銷	4	2	1	0	1
2 竹内	4	1	1	0	0
⑤ 海老名	4	1	1	1	0
H 田中	4	0	0	1	0
7 中根	3	0	0	0	0
① 福島	4	0	0	1	0
1 堀田	3	0	0	0	0
犠 併 残					
5 1 8	34	9	5	2	4

【丸善石油】

	打	安	点	振	球
④ 福永	4	1	0	1	1
⑤ 浜口	4	1	1	0	1
⑨ 寺岡	5	3	1	0	0
⑨ 神崎	4	0	0	1	1
⑧ 末高	4	0	0	0	0
H ② 金野	4	1	0	0	0
③ 石田口	3	1	0	0	0
H 7 松佐	3	1	0	0	0
① 元藤	3	1	0	1	0
新	4	1	0	0	0
犠 併 残					
2 1 12	40	11	1	4	2

回	安	振	球	責
福島	9⅓	11	3	2	1
堀田	⅔	0	1	0	0

回	安	振	球	責
新	10	9	2	4	4

▷二塁打＝大滝2、金田▷犠打＝拓5(小島、山本、竹内、海老名、田伏)丸2(浜口明、野口)▷盗塁＝丸3(寺岡、金田、佐藤)▷失策＝拓2(山本、海老名)丸3(浜口明、神崎、新)▷試合時間＝2時間37分

第4試合＝2回戦(午後6時17分開始)

富士重工業	1	0	0	2	0	0	0	0	2	5
三菱重工神戸	0	0	0	0	2	0	0	2	0	4

▶審判(球審)山川(塁審)池田、森、大橋(外審)相沢、小林勉

【富士重工】

	打	安	点	振	球
⑥ 村田	4	1	0	0	0
⑧ 湯浅	5	0	0	1	0
③ 鈴木	5	1	1	0	2
④ 野口	3	2	1	1	0
⑨ 蝦沢	5	1	0	1	0
⑦ 岸	1	0	0	0	0
H 7 松本	3	0	0	2	0
⑤ 長壁	3	2	1	0	0
① 三浦	3	2	1	1	0
1 向田	0	0	0	0	1
② 増笠	1	0	0	0	1
H 井上	0	0	0	0	0
犠 併 残					
3 0 9	32	8	4	5	6

【三菱神戸】

	打	安	点	振	球
⑨ 松本	4	0	0	2	1
④ 時本	2	0	0	1	0
H 7 植村	0	0	0	0	1
中沢	0	1	0	0	0
⑥ 川辺	4	2	0	0	0
⑤ 岡田	3	0	0	0	1
⑧ 井上	4	1	0	1	0
③ 谷口	3	3	1	0	1
⑦ 吉伊	3	1	0	0	0
4 藤中	3	0	0	0	0
② 竹色	4	2	1	0	0
① 一古	2	1	0	0	0
H 色	1	0	0	0	0
犠 併 残					
2 1 7	32	9	3	4	4

回	安	振	球	責
三浦	7⅓	8	4	4	3
向田	1⅔	1	0	0	0

回	安	振	球	責
一色	9	8	5	6	3

▷三塁打＝三浦▷二塁打＝長壁、山谷、竹中、川辺、井上、野口▷犠打＝富3(村田、三浦、増岡)三2(時本、一色)▷盗塁＝富3(村田、鈴木、蝦沢)三2(川辺、井上)▷失策＝富2(村田、鈴木)三1(伊藤)▷試合時間＝2時間59分

そっくりの逆転劇

◎…関東予選の全試合を逆転勝ちで本大会へ出場した富士重工業がまたも逆転勝ち。しかも関東予選決勝で東芝に九回表、二塁手のエラーから一気に3点を奪って3-2としたケースと酷似する九回表二死後の二ゴロエラーからの逆転劇。因縁めいた試合展開で選手権4回出場で念願の初勝利を果たした。

九回決勝二塁打の野口は興奮がさめず、「ずっと逆転できたので、九回でもまだ負ける気がしなかった。一色は内角シュート攻めできていたので、それにヤマをかけ、足をひいて内角を狙い打った。予選で打てなかったので本大会ではと狙っていたが、よかった」と一気にまくしたてた。

投、攻、守に踏んばりをみせたエースの三浦は「三菱重工神戸はしつこい相手とわかっていたが、フルカウントに追い込まれて苦しいピッチングの連続だった」

▽5月29日

第1試合＝2回戦(午前10時開始)

リッカー	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
日本楽器	2	0	0	0	0	2	0	0	X	4

▶審判(球審)山川(塁審)津田、吉田、広沢

【リッカー】

	打	安	点	振	球
⑧ 大浪	4	0	0	0	0
⑨ 渡辺	3	1	0	0	1
⑦ 国平	3	2	0	1	1
③ 和久	3	3	2	0	1
⑤ 佐藤	3	1	0	0	0
R 1 佐小道	0	0	0	0	0
スミス	1	0	0	0	0
② 大白	2	0	0	1	0
⑥ 山高	2	0	0	0	1
① 若本	2	0	0	0	0
1 H 5 佐々木	2	0	0	0	0
④ 川本	2	0	0	0	0
H 4 川上	2	1	0	0	2
H 森	1	0	0	1	0
犠 併 残					
2 1 8	29	5	1	7	5

【日本楽器】

	打	安	点	振	球
⑦ 竹崎	2	0	1	0	1
⑤ 熊野	4	2	0	0	0
⑧ 内山	4	2	0	0	0
③ 武居	4	2	1	0	0
④ 津布久	4	0	0	0	0
⑨ 畑	2	0	0	0	0
H 9 籠谷	2	2	1	0	0
⑥ 石井	2	1	0	0	2
② 村中	4	2	1	0	0
① 久保	4	0	0	1	0
犠 併 残					
1 0 8	30	7	3	1	5

回	安	振	球	責
山内	3	3	1	3	1
高橋	2	2	0	0	0
小林	2	1	0	2	1
スミス	1	1	0	0	0

回	安	振	球	責
久保	9	5	7	5	1

▷本塁打＝白水1号(久保)▷三塁打＝石井▷二塁打＝武居、国山、内山、中村▷犠打＝リ2(大野、白水)日1(竹崎)▷盗塁＝リ1(国山)日2(熊野、石井)▷失策＝リ3(平野、和久田2)▷試合時間＝2時間44分

外国人投手が初登場

◎…都市対抗、日本選手権大会を通じて社会人球界で初めての青い目の外国人選手が登場した。ハワイ大出身で、全米学生選抜チームのメンバーだったスミス投手(リッカー)で、八回、救援でマウンドにあがった。日本楽器の下位打線にわずか14球の軽い投球で、1イニングを無失点に切り抜けた。

第2試合＝2回戦(午後1時19分開始)

松下電器	0	0	0	0	1	1	0	0	3	5
九州産交	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)小林加(塁審)鶴田、森、清水忠

【松下電器】

	打	安	点	振	球
⑧ 山田	5	2	1	0	0
④ 森本	4	1	1	0	1
⑨ 高鍋	5	2	0	2	0
③ 鍛治舎	3	0	0	1	1
⑤ 島田	3	1	0	0	1
5 平谷	3	1	0	1	0
⑦ 松川	4	1	1	0	0
⑥ 前嶋	3	1	1	0	0
② 木原	4	1	2	0	0
① 長谷部	3	0	0	2	0
犠 併 残					
3 1 7	33	8	5	7	3

【九州産交】

	打	安	点	振	球
⑨ 田代	4	1	0	0	0
⑥ 伊藤	4	0	0	0	0
④ 柿木	4	0	0	1	0
⑤ 二村	3	0	0	0	1
③ 井上広	3	0	0	0	1
3 江口	3	0	0	1	0
⑧ 来海	3	1	0	0	1
⑦ 井上新	3	0	0	1	0
7 久本	3	1	0	0	0
② 赤星	2	0	0	0	0
R 2 杉松	0	0	0	0	0
① 村西	0	0	0	0	0
H 1 井上勝	0	0	0	0	0
二保	0	0	0	0	0
H 1 東	1	0	0	0	1
1 門倉	0	0	0	0	0
犠 併 残					
1 0 3	28	4	0	5	1

回	安	振	球	責
長谷部	9	4	5	1	0

回	安	振	球	責
西谷	6	4	4	1	2
二保	2	0	2	2	0
門倉	1	4	1	0	3

▷本塁打＝木原1号②(門倉)▷二塁打＝久本、山田、高鍋▷犠打＝松3(平谷、前嶋、長谷部)九1(井上勝)▷盗塁＝松2(山田、森本)▷失策＝松1(島田)九1(二村)▷試合時間＝2時間8分

第3試合＝準々決勝(午後4時2分開始)

日本鋼管福山	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	4
富士重工業	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2

▶審判(球審)達摩(塁審)木嶋、池田、大橋(外審)清水忠、森

【鋼管福山】

	打	安	点	振	球
⑧ 関	5	0	0	1	0
④ 佐名木	6	2	2	0	0
⑦ 松浦	6	2	0	0	0
③ 山内	5	1	2	1	0
⑨ 岸部	3	0	0	0	0
9 六条	3	1	0	1	0
9 岡本	3	2	0	1	0
⑤ 渡部	4	1	0	0	1
⑥ 岩崎	4	1	0	0	0
H 6 今岡	1	0	0	0	0
6 白石淳	0	0	0	0	0
② 今久留主	5	1	0	0	0
① 田村	5	1	0	3	0

犠 併 残
1 0 8

4610471

【富士重工】

	打	安	点	振	球
⑥ 村田	5	2	0	1	0
⑧ 湯浅	4	1	1	2	1
③ 鈴木	5	1	0	2	0
④ 野口	4	0	0	0	1
⑨ 蝦沢	5	1	1	0	0
⑦ 原壁	5	1	1	2	0
⑤ 長向田	4	0	0	1	0
① 増岡	4	0	0	1	0

犠 併 残
0 1 5

4162 92

	回	安	振	球	責
田村	12	6	9	2	2

	回	安	振	球	責
向田	12	10	7	1	4

▷本塁打＝山内3号②(向田)佐名木1号②(向田)▷二塁打＝渡部、湯浅、鈴木▷犠打＝鋼1(関)▷盗塁＝鋼1(岩崎)▷失策＝富3(村田、鈴木、長壁)▷試合時間＝3時間

▽5月30日

第1試合＝準々決勝(午前9時58分開始)

神戸製鋼	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6
河合楽器	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	4

▶審判(球審)上杉(塁審)鶴田、大橋、春名

【神戸製鋼】

	打	安	点	振	球
⑧ 小林	4	1	0	1	0
④ 中川	3	1	0	1	2
⑨ 山崎	5	2	2	0	0
⑦ 中村	4	0	0	0	0
H 7 若林	4	0	0	1	0
③ 浦本	3	0	0	2	1
② 荒井	4	1	2	0	0
⑥ 古賀	3	2	1	0	1
① 山本泰	1	0	0	0	0
1 西山	1	0	0	1	0
H 1 柏原	1	0	1	0	1
1 三善	1	1	0	0	0
⑤ 宮本	2	1	0	0	0
H 5 古屋	2	0	0	1	0
5 岡田	0	0	0	0	0

犠 併 残
1 1 7

359684

【河合楽器】

	打	安	点	振	球
⑧ 岡村	5	2	0	0	0
⑤ 伊藤	4	1	0	0	0
⑨ 小川	5	2	1	1	0
③ 小東田	4	1	1	1	0
⑦ 野口	4	1	1	0	0
⑥ 阪本	4	2	1	1	0
④ 湯浅	3	1	1	0	0
② 平根	3	2	0	0	0
1 松田	0	0	0	0	0
H 坂口	1	1	0	0	0
R 山本	0	0	0	0	0

犠 併 残
2 0 8

3713420

	回	安	振	球	責
山本泰	3	2	0	0	1
西山	3	7	1	0	3
三善	3	4	1	0	0

	回	安	振	球	責
根本	7⅓	5	5	3	3
松田	1⅔	4	3	1	3

▷二塁打＝山崎、古賀▷犠打＝神1(小林)河2(伊藤、湯浅)▷盗塁＝神6(小林2、古賀2、浦本、中川)河3(岡村、伊藤、小川)▷失策＝河1(岡村)▷試合時間＝2時間39分

第2試合＝準々決勝(午後1時13分開始)

北海道拓殖銀行	0	0	0	0	0	2	2	0	0	4
日本楽器	0	0	0	0	0	5	1	2	X	8

▶審判(球審)山川(塁審)樫根、小林勉、原田

【拓殖銀行】

	打	安	点	振	球
④ 高岡	3	1	1	0	1
⑧ 小島	4	1	1	0	0
⑥ 山本	4	1	0	0	0
③ 梅田	4	0	0	1	0
⑦ 坂田	4	2	0	0	0
⑨ 大滝	4	0	0	2	0
② 竹内	2	1	0	0	0
2 安井	2	1	0	0	0
⑤ 海老名	2	1	2	0	0
H ① 中根	1	0	0	1	0
1 福島	1	0	0	0	0
1 堀田	0	0	0	0	0
1 中村明	0	0	0	0	0
1 田伏	1	0	0	0	0
1 中村弘	0	0	0	0	0

犠 併 残
2 1 4

328441

【日本楽器】

	打	安	点	振	球
⑦ 竹崎	5	2	2	0	0
⑤ 熊野	5	3	0	0	1
⑧ 内山	4	1	0	1	1
③ 武居	4	2	1	0	0
④ 津布久	4	2	1	0	0
⑨ 畑	2	0	0	1	0
H 内海	1	1	1	0	0
R 9 山本一	1	0	0	0	0
⑥ 石井	4	2	0	0	0
② 中村	4	3	2	0	0
① 立野	1	0	0	0	0
1 戸田	1	1	1	0	0
1 富永	0	0	0	0	0
1 久保	0	0	0	0	0

犠 併 残
2 1 7

361781

	回	安	振	球	責
福島	5⅓	9	1	1	4
堀田	⅓	3	0	0	1
中村明	⅓	0	0	0	0
中村弘	2	5	0	0	3

	回	安	振	球	責
立野	5⅓	4	3	1	1
戸田	1	3	0	0	2
富永	⅓	0	0	0	0
久保	2⅓	1	1	0	0

▷本塁打＝武居1号(中村弘)▷三塁打＝熊野▷二塁打＝津布久2、熊野、海老名、石井、竹崎▷犠打＝拓2(海老名、福島)日2(立野、久保)▷失策＝日1(石井)▷暴投＝中村弘▷捕逸＝中村▷試合時間＝2時間44分

ダメ押し満点

◎…日本楽器・武居が七回に放った本塁打はベスト4をつかむ効果的な一発だった。一死無走者、カウント2－2の5球目、内角ストレートをミートよくつかまえると、打球は放物線を描いてスタンド中段に届く、大会通算100号ホーマーとなった。

昨春、国士大出の大型新人が日楽の4番に座ったときは、強打・日楽も新人に頼るようになったか、という声さえあった。

ところが、その春の静岡支部大会で打ちまくって最高殊勲選手。夏の都市対抗の活躍ぶりで一躍「これは本物」と社会人球界で脚光を浴びた。

都市対抗での2ホーマーは、武居を全日本チームに加える決め手となって、昨秋の第4回インターコンチネンタル大会では全日本の主砲。大学、社会人、全日本と四番打者の三段跳びである。

第3試合＝準々決勝(午後4時34分開始)

日本生命	1	0	0	0	0	3	0	0	0	4
松下電器	0	0	0	0	1	0	1	0	3	5

▶審判(球審)高橋(塁審)松山、吉田、池田(外審)樫根、小林勉

【日本生命】

	打	安	点	振	球
⑦ 安西	5	3	0	0	0
7 西本	0	0	0	0	0
⑨ 梅田	3	1	1	2	1
⑧ 赤井	3	0	0	2	0
③ 佐藤	3	2	1	0	1
⑤ 花西	3	1	1	2	0
④ 西村	4	1	1	1	0
② 佐竹	4	0	0	0	0
⑥ 井尻	3	0	0	1	1
① 中本	3	0	0	2	0

犠 併 残
3 2 6

318 4103

【松下電器】

	打	安	点	振	球
⑧ 山田	4	0	0	0	0
④ 森本	4	1	0	1	0
⑨ 高鍋	4	1	0	0	0
③ 鍛治舎	4	1	0	1	0
⑤ 島田	4	2	0	0	0
⑦ 松川	4	3	1	0	0
⑥ 前嶋	3	0	0	0	0
H 野尻	1	1	0	0	0
② 木原	3	1	1	4	0
① 北口	2	1	0	0	0
1 原	0	0	0	0	0
H 荒木	1	0	0	1	0
H 1 長谷部	0	0	0	0	0

犠 併 残
1 0 4

341153 0

	回	安	振	球	責
中本	8⅔	11	3	0	5

	回	安	振	球	責
北口	6	5	7	2	4
原	1	1	1	1	0
長谷部	2	2	2	0	0

▷本塁打＝松川1号(中本)木原2号③(中本)▷三塁打＝安西▷二塁打＝佐藤、鍛治舎、安西、野尻▷犠打＝日3(赤井、花野、中本)松1(木原)▷盗塁＝日2(安西、梅田)松1(高鍋)▷暴投＝北口▷試合時間＝2時間10分

▽6月3日

第1試合＝準決勝(午後0時30分開始)

神戸製鋼	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
日本鋼管福山	0	0	1	1	0	1	0	1	X	4

▶審判(球審)小林加(塁審)山川、上杉、池田

【神戸製鋼】

	打	安	点	振	球
⑧ 小林	3	1	0	0	1
④ 中川	3	1	0	0	0
⑨ 山崎	4	1	0	1	0
⑦ 若林	3	1	1	0	0
③ 浦本	4	1	1	1	0
② 荒井	4	1	0	1	0
⑥ 古賀	4	1	0	1	0
① 山本泰	1	0	0	0	0
1 西山	0	0	0	0	1
1 三善	1	0	0	1	0
⑤ 宮本	3	0	0	1	0

犠 併 残
2 0 5

307252

【鋼管福山】

	打	安	点	振	球
⑨3 今岡	3	2	1	0	0
④ 佐名木	4	1	0	1	0
⑦ 六条	4	1	0	2	0
8 関	0	0	0	0	0
③ 山内	2	1	0	0	0
9 岡本	0	0	0	0	2
⑧7 松浦	2	0	0	0	0
⑤ 渡部	3	2	1	0	1
⑥ 岩崎	2	0	0	0	0
H 佐々木	1	0	0	0	0
6 白石淳	1	1	1	0	0
② 今久留主	4	0	0	0	0
① 高橋	2	0	0	0	0
1 田村	2	1	0	0	0

犠 併 残
3 1 8

309333

	回	安	振	球	責
山本泰	3⅓	5	2	0	1
西山	2	2	0	1	1
三善	2⅔	2	1	2	1

	回	安	振	球	責
高橋	5⅓	4	2	2	2
田村	3⅔	3	3	0	0

▷本塁打＝今岡1号(山本泰)▷三塁打＝浦本▷二塁打＝今岡▷犠打＝神2(若林、中川)鋼3(松浦2、今岡)▷盗塁＝神1(小林)▷失策＝神1(古賀)▷試合時間＝2時間39分

絶妙・田村、神鋼の反撃断つ

1点を争う好ゲームだったが、好機を確実に生かした日本鋼管福山が競り勝った。

1点を先行された鋼管は三回二死後、今岡が0－1後の内角高め直球を右越えに同点本塁打。四回は山内が安打とバントで二進し、渡部の安打、敵失で生還し、勝ち越し。同点で迎えた六回無死一、二塁の好機。松浦の投前バントは失敗したが、再び渡部が外角直球を左前適時打した。渡部の巧打は光った。鋼管は八回にも白石淳の安打で加点、4－2と引き離した。

神戸製鋼は一回一死二塁、浦本が右中間三塁打して追いついたものの、その直後、浦本が鋼管・田村の絶妙なけん制に刺され逸機。八回一死三塁も山崎に強攻させたうえ、山崎の一ゴロで小林が本塁を狙って刺されるなど、冷静な攻めができていたらと惜しまれた。

勝てるチーム目指す

◎…「左の高橋が先発だったでしょう。田村さんだとばかり思っていたから面くらいました」左打線のトップを打つ神戸製鋼の小林主将は、鋼管福山の"左封じ"にやられて悔しそう。それでも足に自信の小林らしく五回、四球で出るとしきりに高橋をけん制、八回、意表をつくバント安打から二盗するなどマウンドの田村を脅やかした。「うちは予選でも今大会の河合楽器戦でも"死んで"いましたから、ここまでようこれました。今度は善戦だけでなく勝てるチームを目指します」と歴戦の士らしい言葉で締めくくった。

〔準決勝〕日本楽器－松下電器　五回裏、日本楽器一死一、三塁、山本一のスクイズ成功。三塁から津布久が還り、同点。

第2試合＝準決勝(午後3時39分開始)

松下電器	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
日本楽器	0	0	0	0	2	0	0	1	X	3

▶審判(球審)中西(塁審)武村、大橋、鶴田

【松下電器】

	打	安	点	振	球
⑧ 山田	4	1	0	0	0
④ 森本	2	0	0	0	0
H 野尻	0	0	0	0	1
⑨ 高鍋	3	1	0	0	1
③ 鍛治舎	4	0	0	0	0
⑤ 島田	3	0	0	0	0
⑦ 松川	3	1	1	0	0
⑥ 前嶋	3	0	0	0	0
② 木原	3	0	0	1	0
① 長谷部	2	0	0	0	0
H 倉八	1	0	0	0	0
1 原	0	0	0	0	0

犠 併 残
1 0 3

283122

【日本楽器】

	打	安	点	振	球
⑦ 竹崎	3	0	0	1	1
⑤ 熊野	4	0	1	0	0
⑧ 内山	3	1	0	0	1
③ 武居	3	0	0	1	1
④ 津布久	4	1	0	0	0
② 中村	3	1	0	0	0
⑦ 松川	3	1	1	0	0
⑥ 石井	3	0	0	2	0
⑨ 山本一	2	1	1	0	0
① 久保	2	1	1	0	0

犠 併 残
2 1 5

275343

	回	安	振	球	責
長谷部	7	4	4	1	2
原	1	1	0	2	0

	回	安	振	球	責
久保	9	3	2	2	1

▷本塁打＝松川2号(久保)▷犠打＝松1(森本)日2(山本一、久保)▷捕逸＝木原▷試合時間＝2時間11分

日楽・久保、投打に活躍

日本楽器は松下電器の左腕・長谷部の伸びのある速球、切れのいい変化球に手が出なかったが、五回、一気に逆転した。2－1と追い込まれた津布久がまず外角球を右前に落とし、中村が中前にヒット・エンド・ランを決め、無死一、三塁。石井三振の後、山本一が投前に同点スクイズを成功させた。なお二死二塁で久保が初球を右翼へ巧打して勝ち越し。八回は二番手の原から追加点を挙げた。投打にわたる久保の頑張りが最大の勝因だった。

松下は二回、松川が今大会2本目の本塁打で先取点を挙げたが、三回以降、自らの勝ち越し打で気をよくして投げる日本楽器のエース・久保の低めを丁寧につく速球、カーブにほんろうされ、六回、高鍋が右前安打しただけ。長谷部の力投に応えられなかった。

あしたから練習です

◎…優勝候補の筆頭にあげられながら伏兵の日本楽器に敗れた松下電器の鍛治舎巧主将は「とにかく打てませんでした。それに尽きます」とくちびるをかんだ。看板の強力打線は日本楽器・久保投手の速球とカーブに抑えられ、松川の本塁打を含めわずか3安打。鍛治舎自身、一回一死一、二塁のチャンスに内野ゴロに倒れており「3点は投手の責任ではない。打ち勝たなければダメですよ。あしたからまた練習を始めます」

▽6月4日

優勝戦（午後2時59分開始）

日本鋼管福山	0	1	2	0	0	0	0	1	0	4
日本楽器	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2

▶審判（球審）山川（塁審）高橋、三宅、上杉

【鋼管福山】	打	安	点	振	球
③ 今岡	4	0	0	1	1
④ 佐名木	3	0	0	0	1
⑦ 六条	2	2	0	0	0
9 岡本	1	1	0	0	1
⑧ 関	5	2	2	2	0
⑨7 松浦	4	1	1	0	0
⑤ 渡部	4	1	1	0	1
⑥ 岩崎	3	1	0	0	1
② 今久留主	2	0	0	0	2
① 田村	4	0	0	0	2
犠 併 残					
3 3 9	32	8	3	6	5

【日本楽器】	打	安	点	振	球
⑦ 竹崎	4	1	0	0	0
⑤ 熊野	4	2	1	0	0
⑧ 内山	4	1	1	0	0
③ 武居	3	1	0	0	1
④ 津布久	2	0	0	0	0
H 9 籠谷	1	2	0	0	0
② 中村	2	1	0	0	0
⑥ 高柳	2	1	0	0	1
② 石井	1	3	0	1	0
⑨4 山本一	3	1	0	0	0
① 保	1	0	0	0	0
H1 久安	1	1	0	0	0
立野	1	0	0	0	0
H 内海	1	1	0	0	0
犠 併 残					
0 1 2	30	7	1	1	1

	回	安	振	球	責
田村	9	7	1	1	2

	回	安	振	球	責
久保	6	6	4	3	2
立野	3	2	2	2	1

▷本塁打＝関2号②（久保）渡部1号（立野）▷二塁打＝岡本▷犠打＝鋼3（今久留主、六条、佐名木）▷盗塁＝鋼4（岩崎）▷失策＝日5（中村）▷捕逸＝中村▷試合時間＝3時間31分

鋼管打線、甘い速球を見逃さず

日本鋼管福山が下手投げのベテラン・田村の好投と打線の爆発で日本楽器を圧倒した。

鋼管は二回、中前打の岩崎が、今久留主のバントと捕手の一塁悪送球で三進。併殺の間に先制の本塁を踏んだ。三回は先頭の佐名木が死球。バントで二進後、主砲・山内の負傷欠場で四番に座った関が、2－1からの内角高め直球を左翼へ本塁打して、四番の重責を果たした。八回には日本楽器の二番手・立野から渡部が真ん中の直球を左翼席に運んでダメを押した。連投の久保はやはり球威不足を隠せなかった。カーブ主体の投球で甘い速球を鋼管打線に狙い打ちされた。

日本楽器は一回一死、熊野が右前打して田村攻略の足がかりをつかんだが、ベテランらしい田村のけん制に引っ掛かった。二回無死一塁も送りバント失敗、併殺などで逸機。八回を終わって散発4安打、二塁を踏めなかった。ようやく九回、代打・内海、竹崎、熊野の安打で1点を返し、なお無死一、三塁としたが、期待の内山が遊ゴロ併殺に倒れ、後続も凡退。日本楽器の反撃が遅かったというより、99球でまとめた田村の頭脳的な投球が一枚も二枚も上だった。

監督談話

日本鋼管福山・深草真敏監督　苦しい練習によく耐えてくれた。監督1年目で優勝できるなんて。チームワークのおかげ。選手に感謝したい。

日本楽器・川島勝司監督　田村君が実にうまく投げ、こちらが打たされた感じだ。九回に2点入ったので、粘りだけは見せられたし、選手はよくやったと思う。

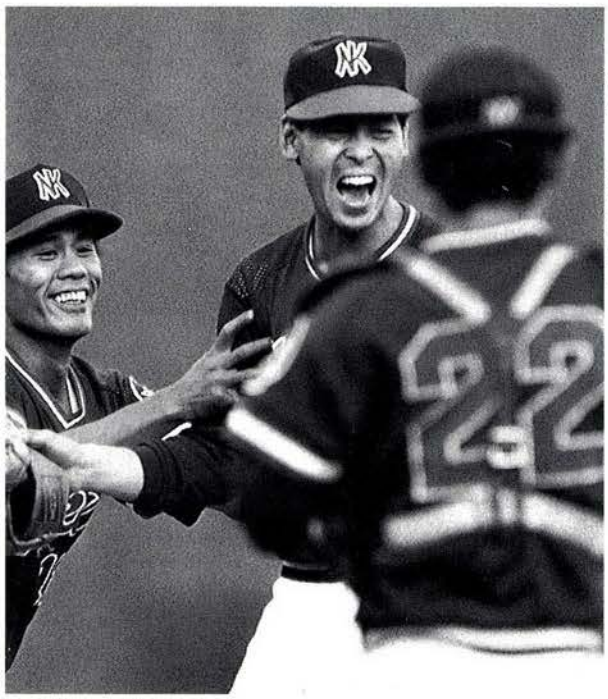
監督ひと　日本鋼管福山　深草 真敏監督

冷静、沈着な人である。が、ダイヤモンド旗を先頭にグラウンドを踏みしめる、その一歩々々のつま先にまで感動がにじみでているように歩いた。その顔は選手のだれよりも上気していた。「優勝を狙います」。その夢が現実のものになったのだから。

報徳学園高（兵庫）から日大に進み、1970年、日本鋼管京浜に入社。高校時代は春、夏とも甲子園に出場。大学は全日本で、京浜時代は都市対抗で優勝と華やかな経歴を持つ。74年、創部5年目の福山に移り、二塁手として日本選手権の第1回大会に出場、準優勝を果たした。決勝のマウンドを守った田村投手をはじめ捕手の今久留主、一塁手の山内はその当時、苦楽を分かち合った仲間でもある。76年夏、現役引退と同時にチームから離れたが、79年秋、請われて三代目の監督に就任した。

年齢が若いせいもあって、兄貴のような気分で選手に接した。優勝戦の試合前の練習でもアンダーシャツ一枚になってバッティング投手を務めた。飾りはない。自分では「気は短いほうなんですよ」とも。監督になった時、周囲から「あわてずじっくりと3年ぐらいでチームづくりを」とアドバイスを受けたが、「1年でやってみせます」と反発した根性の持ち主だ。

〈野球を離れるとゴルフやマージャンで気分転換をはかる。今大会期間中の5月26日、二男一滉（かずあき）ちゃんが誕生。33歳。工程部鋼材工程に席を置く。〉



〔優勝戦〕日本鋼管福山―日本楽器　優勝の瞬間、マウンドで喜ぶ田村投手に駆け寄る日本鋼管福山ナイン。

"鉄の男"田村 ダイヤの笑顔

熱球

32歳のベテラン田村投手がマウンドを少し降りたところで若い選手たちの祝福を受けた。そのかたまりの中で田村は10歳も若返ったような顔をして白い歯をこぼしていた。この年からコーチ兼任となり、エース番号の"18"を内山田に譲り、自分は年より一つ少ない"31"を背負って、若い投手陣をまとめ、先頭に立ってきた。減量に努め、78㌔のベスト体重を守ってきたのも、チームのリーダーとしての自覚からだった。

日本楽器との優勝争いで、田村はそれまでの精進を見せつけるような、同時に若い投手の手本となるような投球をして見せた。シンカー、スライダーを多投して、決して高めに投げることはなかった。「日楽はね、バットを振り回してきた。それならと……」。過去3試合に登板した田村は、20奪三振を記録していたが、この日奪った三振はたった一つ。九回に2点を失ったものの、落ちる球を有効に使って、集中攻撃が自慢の日楽打線をうまく料理したことを物語る。

一球々々、丹精をこめて投げた99球。日本楽器は自分の得意を九回にちょっぴりのぞかせただけで退かねばならなかった。日楽はそれでも何とか田村を心理的に追い詰めようと、川島監督がベンチから2度"けん制球"を投げている。四回二死から内山が、田村の足元をつき破る安打を放った直後のことだ。田村が一塁にけん制球を投げた途端、川島監督は球審に目もくれず、田村の前を勢いよく走って、一塁塁審のところへ「ボークではないか」とアピール。これが2度あった。

実は立ち上がりに田村は日楽の熊野に安打を許したが、すぐ絶妙のけん制球で刺し切っていた。前日、神戸製鋼戦で救援に出た代わりばなに同点の三塁打を打たれたが、直後の好けん制球を投げ、神鋼の追撃の芽を断っていた。深草監督も「さすがベテラン」と感心する鮮やかなけん制球がこの日も出た。一塁への一投が、日楽の先制攻撃を封じ、あとはほんろうするばかりの投球だった。

田村は第1回大会の決勝で、三協精機の21歳の大塚投手に投げ負けた。5歳上の田村はそれからというもの"来年こそ"と言い続けて鋼管福山のマウンドを守ってきた。6年後、田村は円熟味十分な投球で選手権を制した。

（笹尾勝彦）

ヤマ張って本塁打

日本鋼管福山・関

①…三回、日本楽器を突き放す左越え本塁打を放った日本鋼管福山・関弘己外野手は、ナインの祝福攻めにあいながら「打ったのはインコースの高め。ヤマを張っていた所にきたのでうまく打てた」とニコニコ。雨で調子を崩し3日の神戸製鋼戦には出ずじまい。それだけに晴れの舞台での一発がうれしい様子で「きょう、一発が出てよかったです」

第７回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　田村忠義投手**（日本鋼管福山）　４試合30回３分の２、自責点５、防御率1.45で第一回大会の敢闘賞投手は、Ｖ１の立役者。下手から伸びのあるストレート、変化球を微妙なコースに投げ込んで打たせて取る。広陵高から社会人球界に飛び込んで14年目、32歳の老練なピッチングに味わいがある。178㌢、78㌔右投げ右打ち。「みんながよく打ってくれたことに尽きる。ヒーローが多い中で選ばれてうれしい。勝ちたいと思ってきただけに、喜びもひとしおです」

◇**敢闘賞　久保真一郎投手**（日本楽器）　４試合、26回３分の１、自責点４、防御率1.38。決勝進出の原動力、右腕からの速球、カーブが武器。高松商高ー青学大、入社３年目、25歳、181㌢、73㌔、右投げ右打ち、昨年の都市対抗ベスト４進出に貢献。「真っすぐがもう一つだった。三回、関さんに打たれた本塁打は低めに投げるつもりのシュートが高めに入った。最後まで投げたかったが、自分でまいたタネだから仕方がない。一から出直し、都市対抗では何とか雪辱したい」

◇**打撃賞　山崎博行外野手**（神戸製鋼）　３試合、13打数７安打、５割３分８厘、一昨年の九州大会、昨年の大阪大会に続いて、ひのき舞台初の打撃賞。シャープな振りで右に左に巧打してチームのベスト４進出に貢献した。兵庫・村野工高から神鋼入りして７年目。都市対抗には３年連続出場。前年からレギュラー入りの"新婚さん"。「今大会も含めて３度の打撃賞はいずれも５月、強運の月です。体が小さいので打ち返すバッティングを心がけているのがいい結果を生んでいるようです。今は信じられない気持ちです」

◇**大会優秀選手**

【投手】田村忠義（日本鋼管福山）長谷部優（松下電器）久保真一郎（日本楽器）中本茂樹（日本生命）西山秀喜（神戸製鋼）根本俊郎（河合楽器）向田佳元（富士重工業）**【捕手】**佐竹政和（日本生命）中村行利（日本楽器）木原弘人（松下電器）荒井信久（神戸製鋼）**【一塁手】**山内明（日本鋼管福山）武居邦生（日本楽器）**【二塁手】**佐名木睦夫（日本鋼管福山）中川哲（神戸製鋼）**【三塁手】**渡部一治（日本鋼管福山）熊野輝光（日本楽器）伊藤升久（河合楽器）**【遊撃手】**石井淳一（日本楽器）阪本徹（河合楽器）川辺邦好（三菱神戸）**【外野手】**関弘己、松浦伸生（日本鋼管福山）内山仁志（日本楽器）松川正樹（松下電器）山崎博行、小林貢（神戸製鋼）安西敏雄（日本生命）

幸運に恵まれての優勝戦進出

元日本楽器
（現ヤマハ）監督
川島勝司
（日本野球連盟理事）

私にとって日本選手権大会は、監督としての思い出が大きい。中でも優勝戦まで進んだ第７回大会（1980年）のことが、良き思い出として鮮やかに残っている。

この年の８月、アマチュア野球世界選手権大会が日本で初めて後楽園球場で開催された。このため都市対抗を秋に、日本選手権を５月末から６月にかけて行うという変則的なスケジュールの年でした。

私たちにとってこの時期の日本選手権は初の経験であり、新鮮でウエートも重く感じられました。わがチームの目標もこの日本選手権優勝を第一目標に設定したことを覚えています。

優勝戦でサブマリン田村投手を擁する日本鋼管福山に２－４と敗れ、惜しくも優勝を逃しました。だが、この大会では「幸運」に恵まれたことがあったので、特に強い思い出として残っているのかも知れません。

その「幸運」というのは、私たちが願っていたというより、祈っていたという方が適切だったでしょう。実にタイミングよく雨が降ってくれたのです。

私自身、勝負事やスポーツの世界での「運・不運」についてあまり考えたり思ったりはしません。でも、この時の雨だけはまさに「運に恵まれた」という以外、言いようがありませんでした。朝起きた時、コーチと２人して思わず天に向かって手を合わせた姿が今でもはっきりと浮かんできます。

この大会は、第１試合から優勝戦まで４日連続の試合となる組み合わせでしたので、１人エースの久保投手をいかにして回転させるか、大変悩みました。まして順調に2、3回戦を勝ち上がれたとしても、準決勝では全日本投手の長谷部君を軸とした強力投手陣を持つ優勝候補筆頭の松下電器と対戦することが予想されていました。恐らく久保は3日連投とならざるを得ず、正直言って優勝戦まではとても無理だなと内心、組み合わせ上の「不運」を嘆いていました。

それでも何とか目標達成の願いを持って新幹線に乗り込み、宿舎に着いてからいろいろ作戦を練りました。しかし妙案もなく、結局出てきたことは、せめて準決勝当日に雨が降ってくれたらな、という誠に情けない神頼みでした。

ところが正しく当日、雨が降ってくれたのです。そしてこの雨は3日間降り続き、3日連投となるところだった久保の疲労も消え万全の状態で、予想通り勝ち上がってきた松下電器との試合に登板することができたのです。結果は思惑通り、久保の好投で３－１と勝利をつかみ、優勝戦進出を果たすことができました。

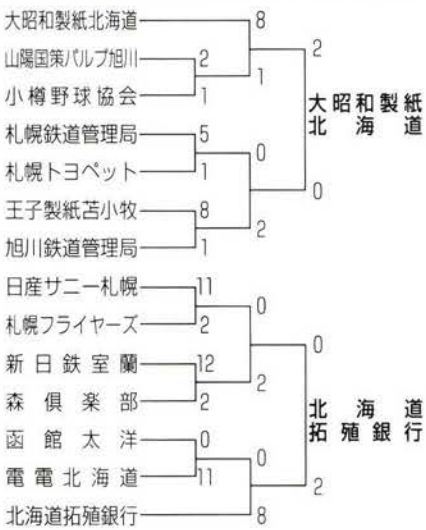
私もこれまでの野球人生の中で幾度となく「運・不運」というものを大なり小なり感じたことがありました。しかし、この降雨以上に「幸運」に恵まれたと実感したことはありません。

第7回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

5月9日から　5日間　　新日鉄室蘭球場



東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽一回戦　八甲ク６－５自衛隊青森、三菱製紙八戸５－１オール青森▽**準決勝**　全弘前倶６－１八甲ク、八戸市水道部２－１三菱製紙八戸▽**決勝**　八戸市水道部６－３全弘前倶(勝者は第二次予選へ)

◇**岩手**▽一回戦　一関三星５－０北上球友▽二回戦　盛友ク５－４釜石野球団、新日鉄釜石14－１雫石ク、オール釜石８－４宮城建設久慈ク、盛岡鉄道管理局14－７水沢駒形、県経済連12－２オール江刺、オール不来方11－10小野田セメント、東京製綱６－５アイワ、岩手銀行５－４一関三星▽**準々決勝**　新日鉄釜石12－０オール不来方、盛岡鉄道管理局10－０オール釜石、県経済連３－２東京製綱、岩手銀行７－２盛友ク▽**準決勝**　岩手銀行３－２新日鉄釜石、県経済連10－５盛岡鉄道管理局▽**決勝**　岩手銀行11－９県経済連(勝者は第二次予選へ)

◇**秋田**▽一回戦　秋田鉄道管理局10－０東北肥料、秋田銀行４－１秋田経大校友ク▽**準決勝**　秋田鉄道管理局３－２秋田相互銀行、ＴＤＫ６－２秋田銀行▽**決勝**　ＴＤＫ７－３秋田鉄道管理局(勝者は第二次予選へ)

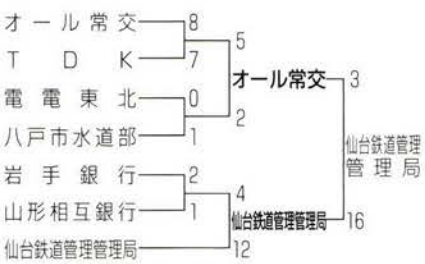
◇**宮城**▽一回戦　電電東北７－０専売東北、仙台鉄道管理管理局９－１村田ク、日和ク19－１六軒丁ク、泉ク３－１白石ク▽**準々決勝**　電電東北14－０仙台Ｒク、日和ク14－４オノヤク、泉ク10－３白山ク、仙台鉄道管理管理局９－７仙商ク▽**準決勝**　電電東北３－０日和ク、仙台鉄道管理管理局７－０泉ク(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　電電東北１－０仙台鉄道管理管理局

◇**山形**▽一回戦　山形相互銀行９－２鶴岡ク▽**決勝**　山形相互銀行22－３日大山形ＯＢク(勝者は第二次予選へ)

◇**福島**▽一回戦　川俣ク３－２ヨークベニマル、自衛隊福島４－３好間ク、全白河ク６－５小名浜ク、小峰ク９－５原田ク▽二回戦　郡山水産ク４－３全白河ク、オール常交３－１川俣ク、二本松ク３－２ＳＧク、長沼ク６－２保原ク、ミドリ十字病院ク８－５小峰ク、自衛隊福島１－０学石ＯＢク、福島硬友ク13－５矢吹ク、須賀川ク12－０ニュー相馬ク▽**準々決勝**　郡山水産ク６－１二本松ク、福島硬友ク18－４自衛隊福島、オール常交18－２長沼ク、須賀川ク18－７ミドリ十字病院ク▽**準決勝**　郡山水産ク９－６福島硬友ク、オール常交９－２須賀川ク▽**決勝**　オール常交２－１郡山水産ク(勝者は第二次予選へ)

▶二次予選

5月10日から　2日間　　宮城電電球場



関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽一回戦　水戸鉄道管理局10－７全水戸、鹿島石油７－３全北茨城▽**準決勝**　日立製作所13－２水戸鉄道管理局、住友金属鹿島８－３鹿島石油▽**決勝**　日立製作所７－２住友金属鹿島(勝者は第二次予選へ)

◇**群馬**▽一回戦　全前橋７－２硬友ク、伊勢崎レッドソックス22－０全太田▽**準決勝**　高崎鉄道管理局２－１全前橋、富士重工業９－０伊勢崎レッドソックス▽**決勝**　富士重工業４－３高崎鉄道管理局(勝者は第二次予選へ)

◇**埼玉**▽一回戦　全浦和野球団４－３エーザイ、全三郷ク12－８飯能高ＯＢ、日本通運９－０日産ディーゼル▽**準決勝**　本田技研18－２全浦和野球団、日本通運10－３全三郷ク▽**決勝**　本田技研５－４日本通運(勝者は第二次予選へ)

◇**千葉**▽一回戦　千葉鉄道管理局５－４三井造船千葉▽**準決勝**　電電関東５－０千葉鉄道管理局、新日鉄君津６－１川鉄千葉▽**決勝**　電電関東１－０新日鉄君津(勝者は第二次予選へ)

◇**東京**▽一回戦　明治生命10－７日本ＩＢＭ、リッカー10－０三井銀行、東京鉄道管理局13－６鷺宮製作所、朝日生命９－４明球ク▽**準々決勝**　プリンスホテル５－３明治生命、リッカー６－４電電東京、東京ガス５－４東京鉄道管理局、熊谷組２－０朝日生命▽**準決勝**　リッカー３－２プリンスホテル、東京ガス３－０熊谷組(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　東京ガス11－２リッカー

◇**東京多摩**▽一回戦　東芝府中４－２全府中、スリーボンド11－１全調布▽**決勝**　東芝府中７－０スリーボンド(勝者は第二次予選へ)

◇**神奈川**▽一回戦　三菱重工横浜14－３横浜高島屋、清工建設15－14横浜ク▽**準々決勝**　三菱自動車川崎２－１日本石油、日本鋼管10－０いすゞ自動車、東芝８－３三菱重工横浜、日産自動車５－０清工建設▽**準決勝**　東芝３－０三菱自動車川崎、日産自動車12－２日本鋼管(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　日産自動車１－０東芝

▶二次予選

5月9日から　4日間　　群馬県営敷島球場

(第三代表決定戦)

中部大会

▶一次予選

◇**山梨**▽一回戦　山梨ク８－７山梨球友ク、オール櫛形４－１峡北ク▽**決勝**　山梨ク９－６オール櫛形(勝者は第二次予選へ)

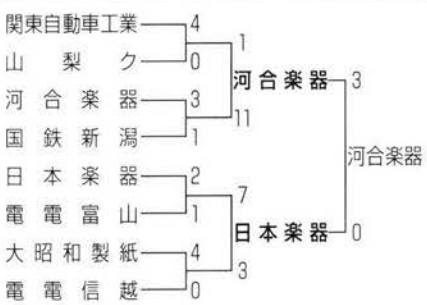
◇**新潟**▽一回戦　新津ク16－４三条バンデッド、ニチエー４－３ヤングセブン、新潟コンマーシャル12－０全北越、長商ク16－５吉田ク、全飯豊８－２オール東、小千谷ク12－２新潟ク、白根野球団11－６長岡ク▽**準々決勝**　ニチエー11－１新津ク、小千谷ク８－４新潟コンマーシャル、長商ク10－６全飯豊、国鉄新潟15－１白根野球団▽**準決勝**　ニチエー10－０小千谷ク、国鉄新潟11－１長商ク▽**決勝**　国鉄新潟５－３ニチエー(勝者は第二次予選へ)

◇**富山▽三回戦制**　北陸銀行６－５電電富山、電電富山４－３北陸銀行、電電富山９－２北陸銀行(電電富山は第二次予選へ)

◇**静岡▽一回戦**　清豊ク５－４富士エンゼルス、関東自動車工業10－３清水ク、協和醗酵ク10－２吉原商工ク、大昭和製紙５－０駿河ク、全三島ク５－４静岡物産ク、河合楽器５－０全沼津ク、岳南ク６－０富士ク、日本楽器５－０清水ク▽**準々決勝**　関東自動車工業17－５清豊ク、大昭和製紙10－０協和醗酵ク、河合楽器７－０全三島ク、日本楽器11－０岳南ク(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　大昭和製紙10－０関東自動車工業、河合楽器２－１日本楽器▽**決勝**　大昭和製紙７－０河合楽器

▶二次予選

5月3日から　3日間　　浜松球場



東海・北陸大会

4月10日から　7日間　　愛知県営熱田球場

近畿大会

▶一次予選

◇**京都▽一回戦**　大丸９－４京都信用金庫、京洛日産11－０東山ク、丸勝６－５第一紙行、三菱自動車京都５－１西京ク▽**二回戦**　大丸６－１京都高島屋、京洛日産２－１京都市役所、丸勝11－２京都ビルク、日本新薬９－２三菱自動車京都▽**三回戦**　京洛日産２－０大丸、日本新薬10－５丸勝▽**四回戦**　京洛日産２－１日本新薬▽**敗者復活一回戦**　第一紙行６－５京都信用金庫、西京ク７－０東山ク、高島屋京都11－３京都ビルク、三菱自動車京都３－０京都市役所▽**敗者復活二回戦**　第一紙行12－１西京ク、三菱自動車京都11－１高島屋京都▽**敗者復活三回戦**　丸勝６－０第一紙行、大丸７－３三菱自動車京都▽**敗者復活四回戦**　大丸７－０丸勝▽**敗者復活五回戦**　大丸５－３日本新薬▽**五回戦**　大丸１－０京洛日産▽**優勝決定戦**　大丸２－０京洛日産(二回戦勝者の４チームと推薦の三菱自動車京都は第二次予選へ)

◇**大阪▽一回戦**　大和銀行８－７高島屋、住友銀行５－４全三和銀行、デュプロ15－１大阪ペーシェンス▽**準々決勝**　松下電器13－１大和銀行、大阪ガス５－２電電近畿、新日鉄堺10－１住友銀行、日本生命10－３デュプロ(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　松下電器６－５大阪ガス、日本生命４－０新日鉄堺▽**決勝**　松下電器５－３日本生命▽**敗者復活一回戦**　住友銀行５－４大和銀行、デュプロ４－２電電近畿▽**第五代表決定戦**　デュプロ２－１住友銀行(勝者は第二次予選へ)

◇**兵庫▽一回戦**　三菱重工神戸６－０川崎重工、新日鉄広畑７－６小西酒造▽**準決勝**　川鉄神戸７－２神戸製鋼、三菱重工神戸２－１新日鉄広畑▽**決勝**　三菱重工神戸２－１川鉄神戸▽**第四代表決定戦**　川崎重工５－０小西酒造▽**第五代表決定戦**　神戸製鋼５－４小西酒造(三菱重工神戸、新日鉄広畑、川鉄神戸、川崎重工、神戸製鋼は第二次予選へ)

▶二次予選

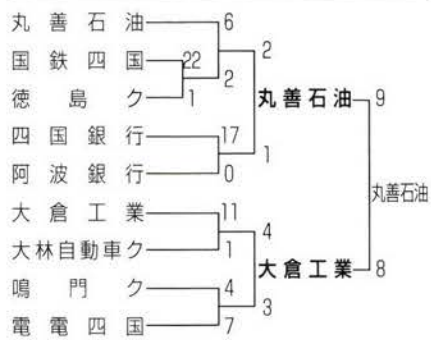
5月1日から　5日間　　西京極球場

中国大会

4月26日から　5日間　　岡山県営球場

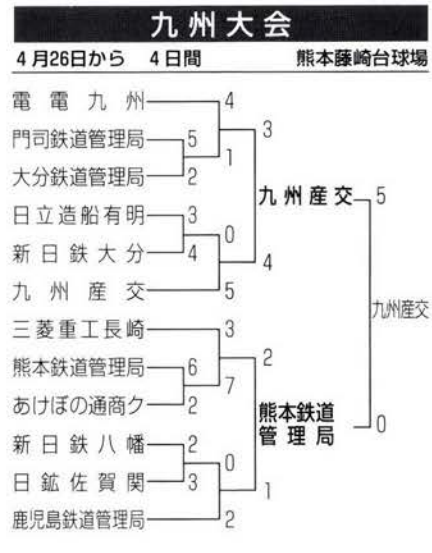
四国大会

4月26日から　4日間　　高松中央球場



九州大会

4月26日から　4日間　　熊本藤崎台球場



第7回大会出場選手等一覧（○は主将）

大昭和製紙北海道

監督	高梨　英夫	37	大多喜高
投手	川瀬　隆俊	28	木古内高
〃	小磯　健次	25	安積商高
〃	今井　均	24	湧谷高
〃	三上　義明	22	日本大
〃	加藤　久夫	19	東海大一高
〃	三浦　幸雄	18	旭川実業高
捕手	村上　忠則	30	津名高
〃	今泉　進	21	北見工高
〃	平　紀陽典	20	日大東北工高
内野	高梨　英夫	37	大多喜高
〃	仲本　広明	29	沖縄興南高
〃	○大野　敏彦	27	山口鴻城高
〃	新木　忠力	25	東農大
〃	福地日出雄	22	東農大
〃	原　利行	22	北海道日大高
〃	宝橋　宏之	19	広島竹原高
〃	社　新吾	19	瀬戸内高
外野	浜井　頌丈	32	芝浦工業大
〃	我喜屋　優	29	沖縄興南高
〃	石川　孝一	23	立正大
〃	井上　孝一	25	日本大
〃	横川　衛	22	北見工高
〃	梁原　修志	20	苫小牧工高
〃	若林　伸一	18	山梨峡南高
〃	近藤　浩二	18	北見北斗高

北海道拓殖銀行

監督	千藤　和久	32	中京商高
投手	福島　義隆	24	法政大
〃	堀田　晴一	23	明治大
〃	中村　明志	22	札幌商高
〃	福田　浩二	22	近畿大
〃	中村　弘道	18	宇治山田商高
捕手	竹内　昭文	29	法政大
〃	船木　敏夫	26	函館有斗高
〃	安井　治	23	東海大
〃	三浦　克典	22	札幌大
〃	田鎖　勝紀	22	東洋大
内野	梅田隆比克	32	日本大
〃	○高岡　茂夫	30	法政大
〃	海老名敏彦	25	中京高
〃	田伏　清美	25	近畿大
〃	坂田　竹二	25	亜細亜大
〃	山本　文博	24	駒沢大
〃	水野　雄三	24	明治大
〃	尾崎　公俊	19	札幌商高
外野	小島　和彦	26	慶応大
〃	大滝　敏之	25	駒沢大
〃	中根　史郎	25	愛知工大
〃	佐々木弘一	23	札幌大
〃	渡辺　正彦	21	旭川竜谷高
〃	山田　雅仁	19	東邦高
〃	横山　威人	19	旭川竜谷高

オール常交

監督	武藤　孝	37	国学院大
投手	鈴木　秀幸	26	平商高
〃	横田　政美	21	磐城二高
〃	小磯　克美	22	青山学院大
〃	室谷　厚	19	平商高
捕手	園部　研一	23	東北学院大
〃	柳井　保	22	四倉高
〃	松井　陽次	19	勿来工高
内野	村田　哲次	33	内郷高
〃	○鈴木　義男	31	磐城高
〃	白岩　孝治	30	平商高
〃	小田　敏夫	29	磐城高
〃	佐藤　隆紀	28	湯本高
〃	高萩　和男	20	四倉高
〃	羽下　光裕	19	安積商高
外野	根本　政志	33	双葉高
〃	佐藤　徹	31	内郷高
〃	東条　良雄	30	四倉高
〃	酒井　孝	26	平商高
〃	早川　栄	25	専修大
〃	鈴木　正光	36	四倉高
〃	佐藤　邦弘	36	学習院大
〃	佐藤　弘	36	法政大

仙台鉄道管理局

監督	内海　利彦	28	石巻商高
投手	稲妻　博司	19	仙台育英高
〃	太田　敏之	19	塩釜高
〃	志賀野　整	25	黒川高
〃	木須　憲一	21	東北高
捕手	阿部　圭二	24	宮城水産高
〃	佐藤　浩昭	19	石巻工高
〃	星　善宏	19	勿来工高
内野	及川　正次	25	仙台育英高
〃	○佐藤　順一	24	東北高
〃	遠藤　弘	19	郡山北工高
〃	佐々木明広	18	佐沼高
〃	鈴木　昭	19	東北高
〃	高橋　良	22	東北高
〃	遠藤　豊	20	名取高
〃	大枝　一雄	23	福島聖光学院
〃	長久保成徳	18	勿来工高
外野	堀切　憲一	24	巨理高
〃	郡山　公男	23	名取高
〃	佐藤　正博	22	福島商高
〃	千葉　幸治	23	宮城水産高
〃	吾妻　勇治	19	福島聖光学院
〃	内海　利彦	28	石巻商高
〃	永沼三千男	19	東北高

富士重工業

監督	野中　宏一	34	桐生工高
投手	谷　良治	21	関東学園高
〃	平野　雅芳	22	追浜高
〃	橋本　敬司	21	熊谷農高
〃	向田　佳元	23	早稲田大
〃	三浦　誠	30	東洋大
〃	古尾谷雅典	18	向の岡工高
〃	島田　隆	23	中央大
捕手	小島　正人	22	松商学園高
〃	井上　明	22	国士舘大
〃	長島　勝利	18	上尾高
〃	増岡　伸幸	23	東洋大
内野	野口　広己	28	高崎商高
〃	小間　哲雄	27	駒沢大
〃	石原　清忠	21	松商学園高
〃	細渕　祐	18	上尾高
〃	長壁亥佐雄	28	高崎商高
〃	鈴木　秀男	24	日本大
〃	村田　博行	23	日本大
〃	太田　幸雄	18	上尾高
外野	内藤　光夫	30	関東学園高
〃	○蝦沢　道明	29	桐生工高
〃	笠原　亘	18	松商学園高
〃	湯浅　和彦	23	東洋大
〃	松本　修	27	日本大
〃	岸　久男	21	東農大二高

東　芝

監督	鈴木　義信	36	慶応大
投手	黒紙　義弘	25	亜細亜大
〃	小嶋　正宜	25	東洋大
〃	大輝　人	25	神奈川大
〃	主浜　正法	24	亜細亜大
〃	民部田勝則	22	富士大
〃	真喜志康永	19	沖縄高
捕手	京極　昌信	27	亜細亜大
〃	安斉　定男	23	横浜商大高
〃	金沢　哲男	22	早稲田大
内野	宮崎　剛	26	専修大
〃	○武智　勇治	25	駒沢大
〃	広橋　公寿	23	八幡大
〃	上野　貴士	23	横浜高
〃	福本　勝幸	22	早稲田大
〃	藤森　富泰	22	青山学院大
〃	吉田　幸彦	22	八幡大
〃	倉橋　秀典	22	中央大
外野	深沢　進	28	青山学院大
〃	祖父元正人	27	市川高
〃	斉藤　晴男	25	千葉商高
〃	菊地　恭一	25	東洋大牛久高
〃	小貝　匡輔	24	法政大
〃	鈴木　栄一	21	日大三高
〃	及川美喜男	20	東北高
〃	田中　成和	22	駒沢大

リッカー

監督	伊勢本金四郎	35	神奈川大
投手	高橋　章	26	拓殖大
〃	山内　和宏	22	浜名高
〃	ジーン・W・スミス	23	ハワイ大
〃	黒田　真二	21	崇徳高
〃	小林　敦美	18	宇部鴻城高
捕手	岩間　保憲	25	名商大
〃	大野　宣雄	24	青山学院大
〃	安芸　健司	24	中央大
〃	高根　正志	18	東北高
内野	白水登樹二	23	亜細亜大
〃	森　正敏	22	東海大
〃	川上　功	26	関東学院大
〃	道原　孝規	18	大鉄高
〃	和久田　隆	23	近畿大
〃	佐々木康平	23	専修大
〃	平野　友吉	23	駒沢大
〃	川本　幸生	22	広島修道大
〃	佐藤　幸男	25	関東学院大
外野	○大浪　康司	24	日本体育大
〃	国山　尊典	24	法政大
〃	内田　繁樹	23	駒沢大
〃	山田　清一	20	日田林工高
〃	渡辺　和生	24	青山学院大
〃	四十八願隆	24	亜細亜大
〃	若月　昇	23	神奈川大

河合楽器

監督	高林　哲夫	50	浜松工高
投手	崎尾　敬三	24	愛知工大
〃	橋本　清嗣	25	大商大
〃	広瀬　明彦	20	新潟東工高
〃	松田　昇	22	中央大
〃	山村　陽一	21	稲築高
〃	根本　俊郎	25	宮城水産高
〃	海野　隆志	22	専修大
捕手	福田　英児	18	名商大付高
〃	中田　浩史	18	泉州高
〃	星井　広幸	23	専修大
〃	平生　一喜	23	東海大工高
内野	増本　欽市	25	大商大
〃	山本宗三郎	27	国士舘大
〃	阪本　徹	24	大商大
〃	○伊藤　升久	27	中央大
〃	小川　淳司	22	中央大
〃	坂口　哲也	22	青山学院大
〃	湯浅　均	22	青山学院大
〃	東田都志男	28	小野田工高
〃	長谷川富士	22	中央大
外野	井本　敦	23	中央大
〃	野口　和生	24	大商大
〃	岡村　隆則	25	中央大
〃	大谷　勝善	18	関大一高
〃	飯田　聡	24	駒沢大

日本楽器

監督	川島　勝司	37	中央大
投手	鍋屋　道夫	19	福島商高
〃	久保真一郎	25	青山学院大
〃	山本　操	21	小笠農高
〃	戸田　秀明	22	鉾田一高
〃	立野　政治	25	PL学園高
〃	富永　邦博	24	熊本工高
捕手	中村　行利	28	中央大
〃	松永　安弘	21	自動車工高
〃	高柳　信英	28	国士舘大
内野	○津布久欣司	29	駒沢大
〃	森　憤司	25	立命館大
〃	伊藤　常美	24	中京大
〃	熊野　輝光	23	中央大
〃	石井　淳一	24	浪商高
〃	加藤富士男	24	自動車工高
〃	武居　邦生	24	国士舘大
〃	鈴木　清之	25	青山学院大
〃	内海　昌之	25	亜細亜大
外野	籠谷　啓史	23	立命館大
〃	安芸土佐男	27	国士舘大
〃	山本　一之	23	青山学院大
〃	伊藤　功	24	小笠農高
〃	畑　和夫	29	関東学院大
〃	内山　仁志	27	中央大
〃	竹崎　恭二	28	八代二高

国鉄名古屋

監督	大脇　照夫	50	滝高
投手	加藤　幸男	26	愛知学院大
〃	田中　晃稔	24	名古屋学院大
〃	加藤　幸次	19	猿投農林高
〃	浜口　佳生	19	尾鷲工高
〃	土川　浩二	18	名電高
〃	下田　孝生	20	柳ケ浦高
〃	森下慶一郎	20	中津商高
捕手	坂野　彰宏	23	名古屋学院大
〃	森　勝彦	22	名城大付高
〃	山本　忠明	38	赤穂高
〃	沢谷　英毅	20	美方高
内野	○植田　利幸	26	愛知学院大
〃	山田　章	25	関商工高
〃	久田　正己	22	蒲郡高
〃	本田　祐二	22	豊橋商高
〃	榊原　憲文	21	岡崎工高
〃	大石　猛	21	名商大付高
〃	湧川　勉	20	中京高
〃	小川　新二	18	中京高
外野	石田　義一	25	名城大
〃	増田　正美	22	東海大工高
〃	高橋　哲夫	21	岡崎工高
〃	内藤　真和	20	名電高
〃	間瀬　文雄	20	名電高
〃	林　洋	19	東邦高

三菱名古屋

監督	山本　勇	37	県岐阜商高
投手	東　貞美	29	三国高
〃	松本　安司	20	岐阜第一高
〃	安川　和彦	21	福井商高
〃	桃田　賢治	21	高田高
〃	野村　隆司	20	県岐阜商高
〃	鎌田　重雄	26	中央大
捕手	加藤　洋成	19	中京高
〃	森園　睦男	19	中種子高
〃	佐藤　豊一	24	三重高
〃	林　唯	27	中京商高
〃	広見　志郎	23	帝京第五高
内野	石垣　勝	29	大商大
〃	宮地　公史	25	名商大
〃	織田　佳美	30	岡崎工高
〃	田口　清泉	27	東邦高
〃	山田　真二	23	長浜高
〃	○島田　守夫	29	大商大
〃	田口　実記	24	東邦高
〃	中村　勝則	24	海星高
外野	煤本　勝治	20	名商大付高
〃	織田　啓之	28	名城大
〃	杉江　周作	29	享栄高
〃	山北　芳敬	24	中京大
〃	伊藤　秀次	27	中京高
〃	二宮　憲治	21	八幡浜高

新日本製鐵堺

監督	浜崎　満重	31	八幡工高
投手	中川　善弘	28	和歌山工高
〃	佐野　茂樹	27	PL学園高
〃	横浜　政徳	25	米子商高
〃	清水　信英	22	興国高
〃	萩原　孝治	20	都島工高
〃	南出　裕司	18	粉河高
捕手	井口　成年	23	PL学園高
〃	樽口　正生	22	藤井寺工高
〃	浦　誠哉	22	PL学園高
〃	中野　敏行	20	小倉商高
内野	藤本　政男	24	PL学園高
〃	西口　信明	22	大鉄高
〃	花川　達也	21	東洋大姫路高
〃	浦東　靖	20	新宮商高
〃	南口　正人	20	大鉄高
〃	天羽　英司	20	大鉄高
〃	浦東　徳明	19	新宮商高
外野	中西　孝吉	31	都農高
〃	田中　和男	26	興国高
〃	○藤本　公二	26	興国高
〃	山尾　博	24	生野工高
〃	西垣　公策	19	県和歌山商高

三菱重工神戸

監督	一岡 四郎	34	同志社大
投手	杉野 時三	28	鴨島商高
〃	一色 克義	24	京都水産高
〃	綱岡 正	19	滝川高
〃	庄司 富夫	25	安来高
捕手	竹中 円	29	萩高
〃	藤井 大	28	村野工高
〃	仲 隆司	28	報徳学園高
〃	福島 康徳	25	神戸学院大
内野	岡田 敏裕	24	同志社大
〃	伊藤 博文	25	関西学院大
〃	石岡 浩己	19	岡山東商高
〃	山谷 健一	26	岡山東商高
〃	吉田 久人	21	PL学園高
〃	○川辺 邦好	27	育英高
〃	時本 勝己	29	三田学園高
〃	網田 剛	19	大鉄高
〃	松本 芳一	23	東洋大
外野	友藤 芳己	27	村野工高
〃	井上 美春	29	市和歌山商高
〃	植村 忠	23	同志社大
〃	中沢 文哉	25	東京大
〃	藤崎 穣	22	中京商高
〃	吉田 隆行	26	岡山東商高
〃	勝 順一	32	関西学院大

松下電器

監督	下田 鎮男	37	柳川商高
投手	北口 勝久	25	早稲田大
〃	竪田外司昭	19	星稜高
〃	長谷部 優	30	慶応大
〃	藤井 俊宏	23	福山商高
〃	安蒜 一則	23	立教大
〃	原 邦彦	22	岡山東商高
〃	塚岡広仁	22	倉敷工高
〃	岡本 光	20	串本高
捕手	大本 二郎	23	倉敷工高
〃	木原 弘人	29	慶応大
〃	野村 尚生	23	愛知学院大
内野	野尻 正博	23	近畿大
〃	前嶋 純二	24	法政大
〃	島田 行雄	25	近畿大
〃	坂口 雅久	29	立教大
〃	森本 光一	25	立命館大
〃	平谷 拓	24	田辺商高
〃	荒木 靖信	20	PL学園高
〃	○鍛治舎 巧	29	早稲田大
〃	倉八 正典	23	東海大
外野	高鍋 均	23	布施工高
〃	松川 正樹	25	愛知学工大
〃	北野 敏史	19	箕島高
〃	磯本 邦彦	23	佐世保工高
〃	山田 勉	22	大鉄高

日本生命

監督	佐竹 政和	32	関西大
投手	岡田 和久	29	近畿大
〃	林 亮一	25	慶応大
〃	加藤 重雄	23	法政大
〃	森 明彦	22	河南高
〃	中本 茂樹	22	同志社大
〃	村上 明	20	新湊高
捕手	佐竹 政和	32	関西大
〃	野村 茂	27	PL学園高
〃	桧垣 明	23	関西大
〃	内田 敏弘	22	法政大
内野	○赤井 淳二	28	近畿大
〃	井尻 陽久	27	東海大
〃	花野 巧	26	同志社大
〃	宇地原佳則	25	立教大
〃	三枝 淳介	24	早稲田大
〃	佐藤 清	24	早稲田大
〃	渋谷 渉	23	明治大
外野	西村 一貴	27	早稲田大
〃	梅田 薫	26	明治大
〃	安西 敏雄	26	中央大
〃	小松 博	24	慶応大
〃	楠原 基	24	法政大
〃	西本 靖彦	23	早稲田大
〃	百村 茂樹	22	明治大
〃	森田 昇	22	近畿大

神戸製鋼

監督	松浦 昭彦	36	関西学院大
投手	山本 泰之	26	駒沢大
〃	三善 民康	26	関西大
〃	野間 武久	22	村野工高
〃	青山 健	18	東播磨高
〃	西山 秀喜	19	帝京第五高
〃	土師 利博	27	明治大
捕手	原田 貞夫	27	香住高
〃	岡本 哲司	19	吉備高
〃	荒井 信久	26	明治大
内野	中川 哲	23	駒沢大
〃	古賀 博樹	25	多久工高
〃	宮本 要	21	洲本実高
〃	三木 行治	25	大阪商大
〃	岡田 義明	24	山崎高
〃	大村 雅文	28	専修大
〃	浦本 慶啓	23	亜細亜大
〃	柏原 伸晃	23	小豆島高
〃	上野 徳和	18	市神港高
〃	古屋 聖一	23	八幡大
外野	○小林 貢	27	姫路商高
〃	山本 公裕	21	高松商高
〃	中村 好治	26	専修大
〃	若林 浩	21	都島工高
〃	山崎 博行	24	村野工高

日本鋼管福山

監督	深草 真敏	33	日本大
投手	田村 忠義	32	広陵高
〃	内山田慶弘	28	福岡大
〃	高橋 周司	25	亜細亜大
〃	佐古井雄二	25	桜宮高
〃	岸部 祐司	24	津山工高
〃	渡辺 昭男	23	国士舘大
〃	清水 克敏	19	松江商高
捕手	今久留主邦明	29	明治大
〃	藤山 澄夫	25	八代東高
〃	古川 英行	20	盈進高
内野	○山内 明	32	盈進高
〃	白石 淳久	28	明治大
〃	岩崎 毅	26	明治大
〃	渡部 一治	25	駒沢大
〃	佐名木睦夫	25	盈進高
〃	白石 則幸	24	西条高
〃	渡辺 敏彦	23	門司工高
〃	山田 勝己	19	新潟商高
〃	深草 真敏	33	日本大
外野	六条 誠一	30	高松一高
〃	岡本 道夫	29	東洋大
〃	佐々木 茂	28	亜細亜大
〃	関 弘己	27	明治大
〃	今岡 逸朗	24	亜細亜大
〃	松浦 伸生	24	下関商高

田辺製薬

監督	田村 悟	25	徳山工高
投手	中本 昇司	26	小野田工高
〃	島下 孝	24	宇部商高
〃	丸尾 克臣	23	天草工高
〃	松本 好行	20	倉吉北高
捕手	江本 浩郁	24	桜ケ丘高
〃	福井 英司	24	倉吉北高
〃	田中 勝人	35	小野田高
内野	田村 悟	25	徳山工高
〃	弘中 敏夫	25	萩高
〃	倉田 達夫	25	宇部工高
〃	安田 孝幸	24	宇部工高
〃	大場 一喜	24	柳井商高
〃	太田 和也	23	天草工高
〃	吉野 道治	20	山口高
外野	関谷 馨	26	徳山工高
〃	安田 歳幸	25	桜ケ丘高
〃	○飯島 孝	25	萩高
〃	内田 茂実	24	柳井商高
〃	三輪 智	23	宇部商高

丸善石油

監督	平川恵一郎	40	寝屋川高
投手	成田 幸洋	18	八幡浜高
〃	板倉 利弘	20	福井商高
〃	浜口 守	20	弓削商船高専
〃	藤井栄一郎	28	明治学院大
〃	新 孝博	26	初芝高
捕手	金田 進	19	近大付高
〃	秋葉 秀雄	24	勝浦高
〃	益田 佳明	28	立正大
〃	黒木 隆春	18	延岡学園高
内野	浜口 明	20	大鉄高
〃	徳藤 幸三	29	宮崎商高
〃	神崎 直	28	津久見高
〃	角田 栄	24	木更津中央高
〃	○福永 純一	28	亜細亜大
〃	高石 貴治	20	新居浜商高
〃	坂口 利邦	19	鹿屋工高
〃	深谷 勇人	19	近大付高
〃	野口 憲次	27	明治学院大
外野	窪田 欣也	33	亜細亜大
〃	佐藤 洋一	20	二松学舎大付高
〃	松元 芳一	26	都城泉ケ丘高
〃	古井 浩二	25	海南高
〃	寺岡 正彦	28	聖橋高
〃	山本潤一郎	20	津久見高
〃	末崎 友己	25	生野工高

大倉工業

監督	鎌田 康彦	32	法政大
投手	武田 克也	21	多度津工高
〃	田村 幸喜	18	明徳高
〃	中平 克弘	18	高知高
〃	植松 勉	18	高松南高
〃	星加 和夫	24	聖陵学園高
〃	小松 徹三	21	安芸高
〃	尾藤 福繁	24	駒沢大
捕手	天野 恭弘	25	大阪学院大
〃	東 善成	24	大阪学院大
〃	中原 正敏	28	東洋大
内野	○中井 照也	28	野村高
〃	堀家 正教	24	多度津工高
〃	本宮 栄次	23	駒沢大
〃	江原 祐次	22	駒沢大
〃	白石 淳	18	高知高
〃	村瀬 正樹	18	今治工高
〃	和田 恵充	26	松山商科大
〃	木口 芳孝	18	八幡浜高
外野	阿部 修	24	愛知学院大
〃	山本 誠	18	八幡浜高
〃	奥野 善英	25	神戸学院大
〃	笠井 裕志	22	徳島商高
〃	竹口栄二郎	27	坂出商高
〃	鎌田 康彦	32	法政大
〃	佐治 克郎	24	観音寺商高

九州産交

監督	西田 宏城	41	九州学院高
投手	日高 正文	24	中央大
〃	磯本 哲也	22	出水学園高
〃	二保 茂則	22	法政大
〃	門倉 和博	29	鹿屋高
〃	西谷 美次	26	日本体育大
捕手	松村 敏明	25	国士舘大
〃	渕上 礼蔵	18	九州学院高
〃	赤星 鉄治	20	熊工大付高
内野	伊藤 一生	21	鎮西学園高
〃	柿木 孝哉	22	明治大
〃	田代 文博	26	日本大
〃	東 邦人	22	九州東海大
〃	杉野 滝男	20	柳川高
〃	原野 真寿	18	九州学院高
〃	二村 忠美	20	伝習館高
〃	有村 謙一	26	東海大
〃	江口 明信	32	中央大
〃	井上 広成	27	八幡大
外野	井上 新一	23	八代第一高
〃	松藤 洋	24	専修大
〃	久本 正則	21	球磨工高
〃	○上田 信広	31	九州学院高
〃	来海 則雄	31	日本大
〃	井上 勝巳	23	九州共立大

熊本鉄道管理局

監督	津田 昌夫	43	鳥栖工高
投手	○前田 敏彦	26	伊万里商高
〃	河野 祥孝	18	八代工高
〃	杉尾 忠久	25	宮崎中央高
〃	岩山 敏行	21	熊工大付高
〃	平山 泰夫	21	南筑高
〃	杉尾 孝一	22	都城高
〃	西山 隆	19	東海大二高
捕手	岩永 哲也	20	久留米商高
〃	松原 征男	21	日田林工高
〃	堤 幸人	18	八代工高
〃	坂本 洋和	28	熊本工高
内野	椋 正	21	東海大二高
〃	宇都宮誠生	27	九州学院高
〃	中川 義隆	22	九州学院高
〃	瀬高 啓介	21	熊本工高
〃	津留 英二	25	八女工高
〃	岩田 範明	21	鎮西高
〃	畑中 剛	19	大牟田高
外野	朝田 広之	23	鎮西高
〃	斉木 伸二	18	熊工大付高
〃	今川 秀孝	24	八代東高
〃	堀口 雄二	20	八代第一高
〃	山下 誠	20	熊本工高

クラブチーム初の快挙

オール常交

○…オール常交は、福島県いわき市に本社を置く常磐交通に勤める人たちが中心となったクラブチーム。選手権にクラブチームの出場は初めての快挙だ。チーム結成は1973年。これまでの最高成績は、77年の都市対抗県大会準優勝。実績からも劣勢を予想されたが、打線が爆発して代表の座をつかんだ。

練習不足のクラブチームの楽しみはバッティングだろう。全員、思い切ってバットを振っている。

実戦で心配されるのは練習不足の守備力。東北大会3試合でも毎試合の8失策を記録した。バント守備でも、野手がバラバラに動いてしまうなど不安が多い。打線が頼りのチームとはいっても、投手を中心にしっかり守らなければ苦しい。

第8回大会

1981年(昭和56年)10月26日▶11月5日　大阪球場

優勝＝富士重工業（初優勝）

富士重工業、関東へ初の優勝旗

ダイヤモンド旗が初めて関東に渡った。下手投げの向田・左腕・橋本の両投手と4人の左打者を並べた安定味あふれる富士重工業が延長十回、大昭和製紙北海道を振り切り、初優勝を飾った。

富士重工業は前回ベスト8。準々決勝で、優勝した日本鋼管福山に延長十二回、惜敗した。その試合で完投した向田は「今度こそ」と気合が入り、また「日本一になるためには守りを固めるしかない」とよく鍛え上げられていた。1回戦は松下電器に7－1と大勝したものの、2回戦は秋田相互銀行に八回まで0－2とリードされる苦戦。九回二死から逆転勝ちしたが、この執念の勝利がチームの結束を高めた。準々決勝も好投手・津田を擁する協和醗酵に2－0で競り勝ち、準決勝は河合楽器に快勝。この試合で向田を温存、向田は優勝戦で5安打完封を果たした。

大昭和製紙北海道は準々決勝で都市対抗準優勝の東芝を延長で降して波に乗った。監督の高梨、村上のスラッガーが打線を引っ張った。川瀬、小磯両投手もよく踏ん張り、北の雄をアピールした。

一回戦の電電九州－新日鉄名古屋戦は延長二十回、4時間57分の死闘を繰り広げた。また、東芝は四国銀行戦で大会史上初の毎回安打を記録した。

〔優勝戦〕富士重工業－大昭和製紙北海道　十回裏、富士重工業二死、村田左越えに決勝本塁打を放つ。（捕手・村上）

大会審判　▷**委員長**＝山本英一郎 ▷**副委員長**＝小西正一 ▷**委員**＝山川脩司、高橋良夫、三輪武、中西明、三宅享次、小林加寿男、元橋一登、達摩省一、戸田直佑、相沢孝行、清沢忠彦、原田謹爾、片岡成夫、日野賢導、上杉正、津田浩嗣、榧秀夫、岸野金治、吉田能男、清水忠雄、広沢渉、木嶋一晃、松尾進、森武雄、樫根清一、松山守、池田貴義、鶴田泰夫、谷川俊彦、清水正輝、坂崎克美、大橋慶三、小林勉、春名正己、山口円、石渡義、桃田晴彦、中西則夫、河島秀喜、桂等、浜崎健一、前田利昌

▽10月26日

第1試合＝1回戦(午前10時6分開始)

九州産交	0	1	0	0	0	0	1	1	1	4
河合楽器	2	0	3	0	0	0	0	0	X	5

▶審判(球審)上杉(塁審)松山、坂崎、戸田

【九州産交】

	打	安	点	振	球
⑥ 東	5	1	0	2	0
⑤ 杉野	2	2	0	1	0
H8 原野	3	2	1	0	0
④ 柿木	4	0	0	0	1
② 赤星	4	2	1	1	1
R 藤二	0	0	0	0	0
⑦5 二田	5	0	0	1	0
⑨ 田村	3	2	0	0	1
③ 江口	3	2	1	0	1
⑧7 上田	3	0	1	0	0
① 門倉	3	1	0	0	1
1 有西	0	0	0	0	0
H 松村	1	1	0	0	0

犠 併 残
2 2 10

【河合楽器】

	打	安	点	振	球
⑨ 小椋	4	2	0	0	0
9 金村	0	0	0	0	0
④ 伊藤	4	2	0	1	0
⑧ 小川	4	2	1	1	0
③ 東黒	3	1	1	1	1
6 田本	0	0	0	0	0
6③ 阪本	4	2	2	1	0
⑦ 大須賀	4	0	0	0	0
⑤② 山本	4	0	0	0	1
② 星平	2	0	0	0	0
①2 増井	2	1	0	0	0
1 根松	0	0	0	0	0

犠 併 残
0 0 5

	回	安	振	球	責
門倉	2	7	0	1	4
二保	2	2	0	0	0
西谷	4	1	3	1	0

	回	安	振	球	責
増井	4	2	4	1	1
根本	3	4	1	0	1
松田	2	4	1	3	2

▷三塁打＝原野▷二塁打＝伊藤、田代、小椋、小川、赤星、江口▷犠打＝九2(江口、上田)▷盗塁＝九3(東、原野、松村)▷失策＝九1(柿木)▷捕逸＝平生▷試合時間＝2時間36分

第2試合＝1回戦(午後1時16分開始)

日本石油	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新日鉄堺	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

▶審判(球審)木嶋(塁審)樋、石渡、谷川

【日本石油】

	打	安	点	振	球
⑥ 林	4	0	0	2	0
⑨ 庄子	4	0	0	2	0
③ 玉川	4	2	0	0	0
⑧ 曾根原	4	0	0	1	0
⑦ 平沢	3	0	0	1	0
7 佐藤	0	0	0	0	1
② 犬飼	4	1	0	1	0
④ 吉田	4	1	0	0	0
⑤ 木村	3	1	0	1	1
① 山岡	3	0	0	2	0

犠 併 残
0 1 5

【新日鉄堺】

	打	安	点	振	球
⑧ 西垣	3	0	0	0	1
④ 花川	3	1	0	0	0
⑨ 藤本公	3	2	0	1	1
⑦ 清水	3	0	0	0	0
⑥ 浦東靖	4	1	0	1	0
② 浦	3	0	0	0	0
③ 南口	2	0	0	1	2
⑤ 浦東徳	2	0	0	0	0
H 原	1	0	0	0	0
5 西口	1	1	1	0	0
① 中川	3	0	0	0	0

犠 併 残
3 1 6

	回	安	振	球	責
山岡	9⅓	5	3	4	1

	回	安	振	球	責
中川	10	5	10	2	0

▷二塁打＝玉川、西口▷犠打＝新3(花川、清水、浦)▷捕逸＝浦▷試合時間＝2時間14分

第3試合＝1回戦(午後4時1分開始)

協和発酵	0	0	0	0	1	0	1	0	2	4
国鉄名古屋	0	1	0	0	1	0	0	0	1	3

▶審判(球審)三宅(塁審)吉田、清水正、前田(外審)桃田、大橋

【協和発酵】

	打	安	点	振	球
⑥ 西本	5	1	1	1	0
⑦ 藤本	4	0	0	1	0
③ 吉用	3	0	0	0	1
⑨ 古嶋	4	0	0	0	0
④ 浅田	4	1	0	0	0
⑧ 山田	3	1	0	1	1
② 吉武	3	1	1	0	0
⑤ 岡本	3	2	1	0	0
① 津田	2	0	1	1	0

犠 併 残
4 1 6

【国鉄名古屋】

	打	安	点	振	球
⑦ 森本	5	1	0	0	0
⑤ 湧川	4	2	0	1	0
③ 右田	3	2	1	1	1
⑨ 内藤	4	0	0	0	0
④ 植田	3	0	0	2	1
⑥ 本田	3	1	0	0	0
⑧ 高橋	2	0	0	2	0
H 榊原	2	1	1	0	0
②1 坂野	2	0	0	2	0
1 田中	2	0	1	1	0
1 松本	0	0	0	0	0
1 森下	0	0	0	0	0
H 林	1	0	0	0	0

犠 併 残
5 0 7

	回	安	振	球	責
津田	9	7	9	2	2

	回	安	振	球	責
田中	8⅔	5	3	2	2
松本	⅓	1	0	0	0
森下	⅔	0	1	0	0

▷二塁打＝岡本▷犠打＝協4(吉武、岡本、津田2)国5(本田、高橋、坂野2、田中)▷盗塁＝協1(西本)国1(本田)▷失策＝協1(岡本)国3(湧川、石田、坂野)▷暴投＝津田▷試合時間＝2時間8分

スピード欠き苦しむ

㊧…協和発酵・津田投手の速球は、社会人野球トップクラスのスピードがある。津田の立ち上がりは球に伸びがなく、外角を使った投球をして国鉄名古屋の打線に狙い打たれ、リードを許しもした。

それが六回のマウンドに立ってからは見違えるような投球をはじめた。午後5時7分、ちょうどナイターに入ってからだった。自慢の速球が伸び、時に使うフォークがよく決まった。「うちの練習はいつもナイターでやってるから調子が上がったのかも知れない」と津田は苦笑いしたが、力みが取れ、本領発揮になったのだ。

九回のマウンドで、また国鉄名古屋の反撃を受けて危なかったが、好打の新人 森本(駒大)を二塁ゴロに仕留めて「ヤレヤレ」。

▽10月27日

第1試合＝1回戦(午前8時58分開始)

富士重工業	1	0	0	0	3	2	0	1	0	7
松下電器	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

▶審判(球審)鶴田(塁審)日野、清沢、岸野

【富士重工】

	打	安	点	振	球
⑥ 村田	5	1	0	0	0
④ 富永	5	3	0	0	0
③ 鈴木	5	2	4	0	0
⑨ 野村	4	0	0	1	1
⑧ 松本	3	1	0	0	0
H8 笠原	3	2	0	0	0
⑦ 太蝦沢	2	0	0	0	0
7 岸	3	0	0	1	0
⑤ 長壁	3	0	0	0	0
② 増岡	2	1	1	0	2
① 向田	2	4	1	1	2

犠 併 残
2 1 7

【松下電器】

	打	安	点	振	球
④ 野尻	4	1	0	0	0
⑧ 磯本	4	0	0	1	0
⑤ 林	3	1	0	0	1
⑦ 島田	3	1	1	0	0
③ 森本八	0	0	0	0	0
3 倉	4	0	0	0	0
⑨② 高大鍋	3	0	0	1	0
⑥6 大森本	3	0	0	1	0
① 前原	3	1	0	0	0
11 岡本	0	0	0	0	0
H11 長谷部	0	0	0	0	0
HR 渋谷	0	0	0	0	0
北野	0	0	0	0	0

犠 併 残
1 1 4

	回	安	振	球	責
向田	9	4	2	2	1

	回	安	振	球	責
原	5	7	3	1	4
岡本	⅓	1	0	1	2
長谷部	⅔	1	0	0	0
安蒜	2	2	0	1	1
北口	1	1	0	0	0

▷本塁打＝鈴木1号③(原)▷二塁打＝蝦沢、富永、増岡▷犠打＝富2(蝦沢、長壁)松1(島田)▷盗塁＝富2(富永、長壁)▷試合時間＝2時間17分

第2試合＝1回戦(午前11時47分開始)

四国銀行	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
東芝	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2

▶審判(球審)樫根、(塁審)森、山口、原田

【四国銀行】

	打	安	点	振	球
⑥ 薬師神	3	0	0	1	1
④ 森本	3	1	0	2	0
⑧ 刈谷	4	1	0	0	0
⑦ 阿部	4	0	0	1	0
③ 乃一	4	2	1	0	0
② 沖田	3	0	0	1	0
⑨ 溝淵	1	0	0	0	0
H9 西村	2	0	0	1	0
① 山本	3	0	0	0	0
⑤ 森	3	0	0	1	0

犠 併 残
2 2 5

【東芝】

	打	安	点	振	球
④ 宮崎	2	2	0	0	0
⑥ 吉田	4	0	0	0	0
③ 武智	3	2	0	0	1
⑦ 菊地	4	2	1	0	0
⑤ 青島	4	1	0	1	0
⑨ 及川	4	2	0	1	0
⑧ 田中	2	0	0	0	0
H 片岡	1	0	0	0	0
8 斉藤	1	1	0	0	0
① 黒紙	4	0	0	1	0
② 安斉	3	2	0	0	0

犠 併 残
2 0 9

	回	安	振	球	責
山本	8⅔	12	3	1	1

	回	安	振	球	責
黒紙	9	4	7	1	1

▷本塁打＝乃一1号(黒紙)▷二塁打＝菊地、青島、宮崎▷犠打＝四2(森本、沖田)東2(宮崎2)▷失策＝四1(山本)東1(吉田)▷試合時間＝2時間11分

第3試合＝1回戦(午前8時58分開始)

大昭和製紙北海道	1	0	2	0	3	0	0	2	0	8
川崎重工	0	0	0	1	0	0	2	2	0	5

▶審判(球審)中西明(塁審)小林勉、浜崎、中西則(外審)松尾、池田

【大昭和】

	打	安	点	振	球
⑨8 平	3	1	1	1	2
④ 福地	4	0	1	0	1
4 中本	0	0	0	0	0
⑥ 新木	5	1	1	0	0
③ 高梨	3	0	0	0	2
② 村上	5	2	3	0	0
⑤ 大野	5	2	0	0	0
⑧7 我喜屋	5	1	0	1	0
⑦ 梁原	2	1	0	1	0
H9 横川	2	1	0	0	0
① 川瀬	3	1	0	0	0
H 井上	0	0	0	0	1
1 三浦	0	0	0	0	0
1 小磯	0	0	0	0	0

犠 併 残
0 0 8

【川崎重工】

	打	安	点	振	球
⑨ 生田	5	0	0	1	0
③ 田中伸	5	0	0	1	0
⑤ 岡本	4	3	0	1	1
⑧ 水江	3	1	0	0	1
⑦ 丸谷	3	1	1	1	0
② 浜田	4	1	0	0	0
④ 木村	3	1	0	0	1
⑥ 西森	0	0	0	0	0
6 武市	4	2	2	0	0
① 長田	1	0	0	1	0
H 田中順	1	0	0	0	0
1 畠山	0	0	0	0	0
H 片岡	1	0	0	1	0
1 前田	0	0	0	0	0
1 物袋	1	0	0	0	0

犠 併 残
1 2 7

	回	安	振	球	責
川瀬	7	7	5	1	1
三浦	1	2	0	2	2
小磯	1	0	1	0	0

	回	安	振	球	責
長田	5	5	2	4	0
畠山	2	1	1	1	0
前田	⅔	3	0	1	2
物袋	2	1	0	0	0

▷本塁打＝村上1号③(長田)▷二塁打＝丸谷、永江▷犠打＝川1(丸谷)▷盗塁＝大2(平、新木)川2(生田、岡本)▷失策＝大1(高梨)川5(田中伸2、西森、武市、長田)▷試合時間＝2時間34分

第4試合＝1回戦(午後5時41分開始)

電電九州	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
新日鉄名古屋	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)小林加(塁審)池田、広沢、松尾(外審)浜崎、中西則

【電電九州】

	打	安	点	振	球
⑥ 村岡	8	0	0	1	0
④ 大橋	7	0	0	1	1
⑦ 小林	8	2	0	1	0
⑤ 柴田	6	1	0	1	2
⑧ 南牟礼	7	1	0	4	1
③ 勝山	7	0	0	2	0
⑨ 平山	3	0	0	0	0
H 柳川	1	0	0	1	0
9 榊原	4	1	0	2	0
② 川越	6	1	1	0	1
① 右田	4	0	0	1	0
1 長嶺	2	0	0	1	0
H 今井	1	0	0	0	0
1 藤田	0	0	0	0	0

犠 併 残
1 4 8

【新日鉄名】

	打	安	点	振	球
④ 服部	6	0	0	3	3
⑧ 加藤	3	1	1	1	0
H7 手嶋	6	2	0	1	0
③ 古川	7	0	0	2	1
⑨ 金森	7	0	0	2	2
⑥ 小坂	8	2	0	1	1
② 吉田秀	6	0	0	1	1
⑦8 山本	7	3	0	2	1
⑤ 杉本	3	1	0	0	0
H5 水谷	5	2	0	0	0
① 渡辺剛	3	1	0	2	0
H 岡田	1	0	0	0	0
1 鈴木	4	2	0	0	0

犠 併 残
2 2 16

	回	安	振	球	責
右田	11	8	10	3	1
長嶺	7	4	5	4	0
藤田	2	2	0	2	0

	回	安	振	球	責
渡辺剛	10	2	7	4	1
鈴木	10	4	8	1	0

▷二塁打＝山本、手嶋▷犠打＝電1(勝山)新2(古川、吉田秀)▷盗塁＝電3(南牟礼、川越、小林)新2(服部2)▷捕逸＝川越▷失策＝新3(服部、水谷、鈴木)▷試合時間＝4時間57分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

新日鉄名古屋＝1回戦敗退

鈴木 徳義投手

(新日鉄名古屋製鉄所工程業務部鋼管工程室勤務、40歳)

痛恨の決勝エラー

1回戦の電電九州(現ＮＴＴ九州)戦は忘れられない。九州の右田とうちの渡辺が投げ合って、1対1で延長戦に。十一回から救援したが、ゼロ行進が続いた。

問題の二十回は午後10時ごろだったかな。二死二塁から勝山に内野フライを打ち上げさせた。自分で捕球しようとしたが、だれかの声が聞こえた。振り返ったらだれもいない。あわてて打球を捕ろうとしたが、体勢が崩れた。しりもちをつき落球。あっけない決勝点だった。

悔やまれるのはグラブの手入れ。真ん中に大きなしわがあり、あの時、打球を捕った後、しわで球がはずんでしまった。87年から2年間、監督を務めた後、仕事に専念しているが、今でもいい教訓になっている。

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

▽10月28日

第1試合＝1回戦(午前8時59分開始)

大昭和製紙	000	000	000	0
住友金属	010	001	00X	2

▶審判(球審)上杉(塁審)相沢、桂、石渡

【大昭和】		打	安	点	振	球
⑤	遠藤	3	0	0	1	1
④	上川	4	1	0	0	0
⑥	高林	4	2	0	0	0
⑧	中本	3	0	0	1	1
③	馬場	3	0	0	0	0
R	西野	0	0	0	0	0
2	木原	1	0	0	0	0
⑦	平井	4	1	0	2	0
②	秋山	2	0	0	1	0
H3	井出	1	0	0	0	0
①	阿部	2	0	0	0	0
1	鈴木	0	0	0	0	0
H	山本	1	0	0	0	0
1	倉田	0	0	0	0	0
⑨	相磯	3	0	0	1	0
犠併残	0 0 6	31	4	0	6	2

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑤	松隈	3	2	0	0	0
④	四田	2	1	0	0	0
⑧	西村	4	0	0	0	0
③	筒井	3	0	0	1	1
⑦	三好	4	1	0	1	0
②	嶋田	3	1	0	0	0
⑥	田中	4	2	1	0	0
⑨	高多	3	0	0	1	1
①	石井	4	2	1	0	0
犠併残	4 0 10	30	9	2	3	2

	回	安	振	球	責
阿部	5	7	1	1	1
鈴木	2	1	2	1	0
倉田	1	1	0	0	0
石井	9	4	6	2	0

▷犠打＝住4（松隈、四田2、嶋田）▷盗塁＝住2（嶋田、田中）▷失策＝大1（遠藤）▷試合時間＝2時間26分

住金支える19歳コンビ

㊊…顔にあどけなさを宿す石井－嶋田の19歳のバッテリーが4安打完封した。大会最年少のバッテリーとはいっても箕島高が1979年甲子園で春、夏を連覇した時のコンビだけに非凡な技は一級品だ。

今シーズン始めから、ノーワインドアップに変えた石井は、四回、四死球の2走者を許しただけで、六回までノーヒット・ノーラン。終盤、上位打線に4安打を喫したが「今大会までの2試合、きょうのようなペースの試合でしたから、打たれても別にショックはなかった。スピード、制球ともよかったから、最初は真っすぐで三振をとった」と冷静にピッチングを振り返った。

第2試合＝2回戦(午前11時58分開始)

神戸製鋼	000	101	110	4
河合楽器	001	020	011	5

▶審判(球審)三宅(塁審)榧、清水正、桃田

【神戸製鋼】		打	安	点	振	球
⑧	小林	4	1	0	1	1
④	中川	5	2	1	1	0
⑦	浦本	2	0	0	0	1
③	大村	3	0	0	0	1
②	荒井	3	1	0	0	1
⑤	岡本	4	3	1	0	0
⑨	中村	3	0	1	0	0
⑥	古賀	4	2	1	0	0
①	山本泰	3	0	0	1	0
1	山本正	0	0	0	0	0
H	山崎	1	0	0	0	0
1	三善	0	0	0	0	0
犠併残	2 1 7	32	9	4	3	4

【河合楽器】		打	安	点	振	球
⑨	小椋	5	1	0	1	0
④	伊藤	1	1	0	0	3
⑧	小川	3	2	0	0	2
③	東田	4	2	4	0	0
⑥	阪本	3	1	1	1	1
⑦	大須賀	4	0	0	1	0
⑤	山本	4	0	0	1	0
②	星井	0	0	0	0	1
2	平生	3	2	0	1	0
①	松田	2	0	0	0	0
H	坂口	1	0	0	1	0
1	根本	1	0	0	0	0
犠併残	2 1 10	31	9	5	6	7

	回	安	振	球	責
山本泰	4⅓	6	2	4	3
山本正	3⅔	2	3	1	1
三善	⅓	1	1	2	1
松田	6	6	3	4	1
根本	3	3	0	0	2

▷本塁打＝岡本1号（根本）阪本1号（山本正）▷三塁打＝小林▷二塁打＝東田2、小川、平生▷犠打＝神2（浦本、中村）河2（伊藤、東田）▷盗塁＝神4（小林、浦本、古賀2）河4（伊藤2、小川、阪本）▷捕逸＝星井▷試合時間＝2時間44分

第3試合＝2回戦(午後3時17分開始)

新日鉄室蘭	000	000	000	0
新日鉄堺	100	000	10X	2

▶審判(球審)山川(塁審)津田、吉田、春名(外審)河島、清水正

【新日鉄室蘭】		打	安	点	振	球
⑨	阿部	2	0	0	2	0
H	安西	1	0	0	1	0
9	堀松	1	0	0	0	0
⑦	島尻	3	0	0	0	0
⑧	岡田	3	0	0	0	0
⑤	吉井	2	0	0	1	1
④	大塚	3	1	0	1	0
②	三上	3	0	0	0	0
③	鈴木	3	0	0	0	0
①	浅川	2	0	0	1	0
H	荒野	1	0	0	0	0
⑥	鹿田	3	2	0	0	0
犠併残	0 1 1	27	3	0	6	1

【新日鉄堺】		打	安	点	振	球
⑨	山尾	4	0	0	1	0
④	花川	4	1	0	0	0
⑦	清水	4	0	0	0	0
②	浦	3	1	1	0	0
⑥	浦東靖	3	1	0	1	0
⑤	西口	2	0	0	1	0
H	中西	1	0	0	0	0
5	浦東徳	0	0	0	0	0
③	南口	3	1	1	1	0
①	萩原	2	1	0	0	1
⑧	藤本公	2	0	0	0	0
H	樽口	1	0	0	0	0
8	西垣	0	0	0	0	0
犠併残	0 1 4	29	5	2	4	1

	回	安	振	球	責
浅川	8	5	4	1	2
萩原	9	3	6	1	0

▷二塁打＝花川、浦、浦東靖▷盗塁＝室1（鹿田）▷暴投＝浅川▷試合時間＝2時間13分

1回戦）新日鉄名古屋－電電九州　延長二十回表、電電九州二死二塁、勝山の投飛を鈴木が落球。この間に小林が決勝のホームイン。

▽10月30日

第1試合＝2回戦(午前9時13分開始)

協和発酵	000	000	002	2
丸善石油	000	000	000	0

▶審判(球審)松山(塁審)上杉、池田、戸田

【協和発酵】		打	安	点	振	球
⑥	西本	5	1	2	2	0
⑦	藤本	2	0	0	1	0
7	嘉村	1	0	0	0	1
③	吉用	3	0	0	1	0
⑨	古嶋	3	1	0	0	1
④	浅田	3	2	0	0	1
⑧	山田	3	1	0	1	1
②	吉武	3	1	0	1	1
⑤	岡本	3	0	0	2	0
H	古賀	1	0	0	1	0
5	水本	0	0	0	0	0
①	津田	4	0	0	2	0
犠併残	1 1 8	31	6	2	11	5

【丸善石油】		打	安	点	振	球
④	福永	4	1	0	0	0
⑥	浜口明	4	1	0	0	0
⑦	佐藤	4	0	0	0	0
⑨	角田	4	1	0	0	0
②	金田	3	0	0	0	0
⑤	神崎	3	0	0	1	0
③	秋葉	2	0	0	0	0
3	野口	1	0	0	0	0
⑧	末崎	3	1	0	0	0
①	新	3	2	0	0	0
犠併残	1 0 5	31	6	0	1	0

	回	安	振	球	責
津田	9	6	1	0	0
新	9	6	11	5	2

▷二塁打＝福永▷犠打＝協1（吉用）丸1（金田）▷失策＝協1（岡本）▷試合時間＝1時間57分

第2試合＝2回戦(午前11時45分開始)

富士重工業	000	000	003	3
秋田相互銀行	101	000	000	2

▶審判(球審)山川(塁審)片岡、小林勉、河島

【富士重工】		打	安	点	振	球
⑥	村田	4	0	0	1	0
④	富永	4	1	0	0	0
③	鈴木	4	1	0	0	0
⑨	野口	4	1	1	0	0
⑧	松本	2	0	0	1	0
H8	笠原	2	1	1	0	0
⑦	蝦沢	4	1	1	0	0
7	岸	0	0	0	0	0
⑤	長壁	4	0	0	0	0
②	増岡	3	1	0	0	0
①	橋本	1	0	0	0	0
1	谷	0	0	0	0	0
H	内藤	1	0	0	0	0
1	向田	0	0	0	0	0
犠併残	1 0 4	33	6	3	2	0

【秋田相互銀行】		打	安	点	振	球
③	斎藤忠	2	0	0	0	2
④	畠山和	2	0	0	0	1
⑨	石井	4	1	1	0	0
⑧	佐藤	4	2	1	2	0
⑦	高橋	3	0	0	1	0
⑥	斎藤哲	2	0	0	0	1
R6	桜庭	1	1	0	0	0
②	渡辺	2	0	0	0	1
H	堀井	1	0	0	0	0
①	石崎	4	0	0	1	0
⑤	畠山親	3	0	0	0	0
犠併残	2 0 6	28	4	2	4	5

	回	安	振	球	責
橋本	6	2	4	5	2
谷	1	0	0	0	0
向田	2	2	0	0	0
石崎	9	6	2	0	3

▷二塁打＝増岡、富永、野口、笠原▷犠打＝富1（橋本）秋2（畠山和、高橋）▷失策＝富1（村田）▷暴投＝橋本▷試合時間＝2時間2分

いさぎよくすまん

㊊…九回に逆転負けのきっかけになる痛恨の落球（記録は二塁打）をした秋田相互銀行の主将、畠山和二塁手は「飛球は声を掛け合って捕球することを確認することにしていたのですが、僕の深追いです」と主将らしい潔さでミスを反省。「前評判は圧倒的に相手が上でしたが、自分達の野球をやれば勝てる自信があったし、こわいチームではなかった」とチームの意気込みも披露、九回一死まではその言葉通りに試合が進んでいた。「落球が響いたけど、相手の流れを寸断せんといけませんでした。ミスで浮き足立つチームとミスにつけこんでカサにかかってくるチームとの差が出ました」とあと一歩の力のなさを悔やむ畠山和主将だった。

第3試合＝2回戦(午後2時21分開始)

東芝	000	120	000	3
三菱重工広島	100	000	000	1

▶審判(球審)大橋(塁審)吉田、清水忠、岸野(外審)石渡、小林

【東芝】		打	安	点	振	球
④	宮崎	5	2	1	0	0
⑧	田中	4	2	0	0	1
③	武智	4	1	0	1	0
⑦	菊地	4	2	2	0	0
⑤	青島	4	0	0	2	0
⑨	及川	4	1	0	0	0
⑥	吉田	2	1	0	0	2
①	黒紙	4	0	0	1	0
②	安斉	4	0	0	0	0
犠併残	0 0 8	35	9	3	4	3

【三菱広島】		打	安	点	振	球
④	金光	2	0	0	0	2
⑥	多田	1	0	0	0	0
6	酒井	2	0	0	1	0
③	佐々木	4	1	0	0	0
⑤	若松茂	4	1	1	0	0
⑧	井上敏	4	0	0	1	0
⑦	富士野	3	1	0	0	0
⑨	植田	3	0	0	1	0
②	大森	2	0	0	0	1
①	一元	1	0	0	1	0
1	村田	0	0	0	0	0
H	長谷川	1	0	0	0	0
1	疋田	0	0	0	0	0
H	井上伸	1	0	0	1	0
1	山村	0	0	0	0	0
犠併残	1 0 4	28	3	1	5	3

	回	安	振	球	責
黒紙	9	3	5	3	1
一元	4⅓	5	3	2	2
村田	⅔	2	0	0	1
疋田	3	2	1	1	0
山村	1	0	0	0	0

▷本塁打＝菊地1号（一元）宮崎1号（一元）▷二塁打＝武智、田中▷犠打＝三1（多田）▷盗塁＝東1（菊地）▷失策＝三1（多田）▷暴投＝黒紙▷試合時間＝2時間29分

鉄のギプスつけ快音

㊊…「ガッツですよ」。勝ち越し本塁打を放った東芝・宮崎はきっぱりといった。誇らしい気でさえあったが、それも当然のことだ。9月初めの練習試合で左腕に死球を受けて骨折。その後の神奈川県予選、続く関東地区予選も欠場した。いまも完全に治りきっていないが、鉄板のギプスをつけて試合に臨んでいる。

▽10月31日

第1試合＝2回戦(午前9時開始)

大昭和製紙北海道	000	014	111	8
ヨークベニマル	000	000	000	0

▶審判(球審)三宅(塁審)榧、鶴田、木嶋

【大昭和】		打	安	点	振	球
⑧	我喜屋	5	1	1	0	0
④	福地	4	2	0	1	0
4	仲本	1	0	0	1	0
⑥	新木	5	0	0	0	0
3	井上	0	0	0	0	0
③	高梨	4	1	1	1	1
R6	社	0	0	0	0	0
②	村上	5	2	2	0	0
⑤	大野	5	4	0	0	0
⑨	横川	4	1	0	0	0
9	石川	1	0	0	0	0
⑦	梁原	3	2	3	0	1
①	小磯	2	0	1	0	0
犠併残	2 0 8	39	13	8	3	2

【ベニマル】		打	安	点	振	球
⑤	寺西	3	0	0	0	0
H	松下	1	0	0	0	0
③	曲山	4	0	0	1	0
⑧	鹿島	3	0	0	0	0
②	原田	3	1	0	1	0
⑨	増子	3	0	0	0	0
⑥	先崎	3	0	0	1	0
④	舟山	2	0	0	0	1
⑦	宮内	2	0	0	0	1
①	速石	1	0	0	1	0
1	鈴木美	0	0	0	0	0
H	近内	1	0	0	0	0
犠併残	1 0 2	26	1	0	4	2

	回	安	振	球	責
小磯	9	1	4	2	0
速石	8	11	2	1	7
鈴木美	1	2	1	1	1

▷本塁打＝村上2号（速石）梁原1号③（速石）高梨1号（速石）▷三塁打＝福地▷二塁打＝大野▷犠打＝大2（小磯2）ベ1（速石）▷盗塁＝大2（社、大野）▷失策＝ベ1（曲山）▷試合時間＝2時間1分

第2試合＝2回戦(午前11時35分開始)

日本生命	102	126	0	12
電電九州	001	100	0	2

▶審判(球審)山川(塁審)津田、樫根、片岡

【日本生命】		打	安	点	振	球
④	赤井	4	2	0	0	1
⑤	花野	4	1	1	0	0
⑨	百村	5	3	2	0	0
⑦	楠原	5	3	3	0	0
7	西本	0	0	0	0	0
③	佐藤	4	2	2	1	0
⑥	井尻	3	2	0	0	1
⑧	森田	4	1	1	1	0
②	佐竹	2	2	1	0	1
①	中本	3	0	2	1	0
1	岡田	0	0	0	0	0
1	伊藤	0	0	0	0	0
犠併残	3 1 7	34	16	12	3	3

【電電九州】		打	安	点	振	球
⑥	村岡	4	0	0	1	0
④	大橋	3	1	0	0	0
⑦	小林	2	2	0	0	1
⑤	柴田	3	3	1	0	0
⑧	南牟礼	3	0	0	0	0
③	勝山	3	1	0	1	0
⑨	平山	3	0	0	0	0
②	川越	2	1	1	1	0
H	柳川	1	0	0	0	0
①	長嶺	0	0	0	0	0
1	右田	2	0	0	1	0
1	藤田	0	0	0	0	0
1	松本	0	0	0	0	0
H	鈴木	1	0	0	1	0
犠併残	0 1 5	27	8	2	5	1

	回	安	振	球	責
中本	3⅔	5	2	1	2
岡田	2⅓	3	2	0	0
伊藤	1	0	1	0	0
長嶺	2	2	2	2	1
右田	3	8	1	0	4
藤田	⅔	5	0	1	5
松本	2	1	0	0	0

▷本塁打＝川越1号(中本)佐藤1号②(右田)▷二塁打＝井尻、百村、楠原、佐竹、花野、勝山▷犠打＝日3(花野、佐竹、中本)▷盗塁＝日5(赤井2、百村、井尻、佐竹)▷失策＝電2(村岡、大橋)▷試合時間＝2時間5分

まだ若いモンには…

◎…日本生命の佐竹政和監督が八番・捕手として先発出場。近畿予選前に桧垣捕手が指を負傷、急きょ予選からミットをはめている。現役引退後、半年ぶりの全国大会出場だが「まだ若いモンにはまかせられん」とばかりの張り切りようで、大会前には体重を3キロ減らし万全の調整。

第3試合＝2回戦(午後2時13分開始)

住友金属	000	000	000	0
電電関東	100	000	00X	1

▶審判(球審)中西明(塁審)日野、松山、吉田

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑤	松隈	4	2	0	1	0
④	四田	4	1	0	1	0
⑧	西村	3	0	0	0	0
③	筒井	4	1	0	0	0
⑦	三好	4	0	0	0	0
②	嶋田	3	2	0	0	0
⑥	田中	4	1	0	1	0
⑨	松原	1	0	0	1	0
H	中原	1	0	0	0	0
9	黒石	1	0	0	0	0
H	小川	1	0	0	0	0
①	石井	2	0	0	1	1
犠併残	2 0 8	32	7	0	5	1

【電電関東】		打	安	点	振	球
⑨	中野	3	0	0	0	0
⑥	藤平	3	0	0	1	1
⑦	千葉	0	0	0	0	0
7	伊東	3	0	0	0	1
7	佐々木	0	0	0	0	0
③	慶野	3	1	0	0	1
⑧	片山	4	1	1	1	0
⑤	坂本	3	1	0	1	0
④	渡辺	3	0	0	1	0
②	宮崎	2	0	0	0	1
①	中後	2	1	0	0	0
1	市村	0	0	0	0	0
犠併残	2 1 7	26	4	1	4	4

	回	安	振	球	責
石井	8	4	4	4	1
中後	5⅓	6	3	0	0
市村	3⅔	1	2	1	0

▷二塁打＝筒井▷犠打＝住2(西村、嶋田)電2(中野、市村)▷盗塁＝住3(松隈、嶋田、田中)電1(坂本)▷失策＝電1(坂本)▷試合時間＝2時間17分

▽11月1日

第1試合＝準々決勝(午前9時開始)

河合楽器	020	001	010	4
新日鉄堺	010	100	010	3

▶審判(球審)高橋(塁審)森、山口、岸野

【河合楽器】		打	安	点	振	球
⑨	小椋	4	0	0	0	0
9	金村	1	0	0	1	0
④	伊藤	4	3	0	0	1
⑧	小川	3	0	0	0	1
③	東田	4	1	0	1	0
6	黒田	0	0	0	0	0
⑥3	阪本	3	2	2	0	0
⑦	大須賀	3	1	0	0	1
⑤	山本	4	1	2	0	0
②	平生	3	0	0	1	1
①	根本	1	0	0	1	0
1	松田	2	1	0	0	0
犠併残	2 0 7	32	9	4	4	4

【新日鉄堺】		打	安	点	振	球
⑧	西垣	4	2	0	1	0
H	中西	0	0	0	0	0
④	花川	4	1	0	0	0
⑨	藤本公	4	0	0	0	0
②	浦	4	2	0	0	0
⑥	浦東靖	1	0	1	0	0
⑦	清水	4	2	2	1	0
③	南口	3	0	0	0	0
5	西口	1	0	0	1	0
⑤	浦東徳	2	0	0	0	0
H3	石原	2	1	0	0	0
①	中川	2	0	0	0	0
H	田中	0	0	0	0	0
1	萩原	0	0	0	0	0
H	米倉	1	1	0	0	0
犠併残	4 1 6	32	9	3	3	0

	回	安	振	球	責
根本	5	6	0	0	2
松田	4	3	3	0	0
中川	7	7	3	1	1
萩原	2	2	1	3	1

▷本塁打＝清水1号(根本)▷二塁打＝大須賀、浦、阪本▷犠打＝河2(阪本、根本)新4(浦東靖3、田中)▷盗塁＝新2(西垣、藤本公)▷失策＝河2(阪本、松田)新1(浦東徳)▷試合時間＝2時間27分

第2試合＝準々決勝(午前11時56分開始)

協和発酵	000	000	000	0
富士重工業	010	000	10X	2

▶審判(球審)三宅(塁審)津田、吉田、河島

【協和発酵】		打	安	点	振	球
⑥	西本	4	0	0	1	0
⑦	藤本	4	2	0	0	0
③	吉用	4	3	0	1	0
⑨	古嶋	4	1	0	1	0
④	浅田	4	1	0	0	0
⑧	山田	3	0	0	1	1
②	吉武	4	0	0	2	0
⑤	岡本	3	0	0	1	0
H	古賀	1	0	0	0	0
①	津田	3	0	0	2	0
犠併残	0 0 8	34	7	0	9	1

【富士重工】		打	安	点	振	球
⑥	村田	4	2	0	0	0
④	富永	4	0	0	2	0
③	鈴木	3	1	0	0	0
⑨	野口	3	0	0	2	0
⑦	蝦沢	3	1	1	0	0
⑧	笠原	3	1	1	0	0
⑤	長壁	3	0	0	0	0
②	増岡	3	0	0	0	0
①	向田	3	0	0	0	0
犠併残	0 0 3	29	5	2	4	0

	回	安	振	球	責
津田	8	5	4	0	2
向田	9	7	9	1	0

▷本塁打＝蝦沢1号(津田)▷三塁打＝笠原▷二塁打＝鈴木、浅田▷失策＝協1(浅田)▷捕逸＝吉武▷試合時間＝1時間53分

第3試合＝準々決勝(午後2時22分開始)

大昭和製紙北海道	000	100	020	04	7
東芝	101	000	100	00	3

▶審判(球審)中西明(塁審)榧、松山、大橋(外審)鶴田、前田

【大昭和】		打	安	点	振	球
⑧	我喜屋	5	1	0	0	0
④	福地	4	0	0	1	0
4	仲本	2	1	0	0	0
⑥	新木	6	2	2	0	0
③	高梨	6	1	1	0	0
②	村上	4	1	0	0	1
⑤	大野	5	0	0	1	0
⑨	横川	3	0	0	0	0
H9	平	2	2	1	0	0
⑦	梁原	3	2	0	0	2
①	川瀬	2	1	0	1	0
H	社	1	1	1	0	0
1	小磯	1	0	0	0	1
犠併残	1 1 9	44	12	5	3	4

【東芝】		打	安	点	振	球
④	宮崎	6	4	0	0	0
⑧	田中	3	0	0	0	0
③	武智	3	1	2	0	2
⑦	菊地	3	3	1	0	2
⑤	青島	4	1	0	0	0
⑨	及川	2	0	0	1	0
H	鈴木	1	0	0	0	0
9	深沢	1	0	0	0	1
⑥	吉田	4	0	0	0	0
H6	藤森	1	1	0	0	0
①	黒紙	5	1	0	1	0
②	安斉	3	0	0	1	0
H	福本	1	0	0	0	0
2	京極	1	0	0	0	0
犠併残	5 1 12	38	11	3	3	5

	回	安	振	球	責
川瀬	7	8	2	4	2
小磯	4	3	1	1	0
黒紙	11	12	3	4	4

▷本塁打＝高梨2号(黒紙)▷三塁打＝梁原▷二塁打＝武智、黒紙、我喜屋、梁原、平2▷犠打＝大1(我喜屋)東5(田中3、武智、青島)▷盗塁＝大2(村上、平)▷失策＝大1(川瀬)東1(青島)▷試合時間＝3時間16分

第4試合＝準々決勝(午後6時15分開始)

日本生命	101	000	000	2
電電関東	000	000	000	0

▶審判(球審)達摩(塁審)鶴田、樫根、前田(外審)桃田、河島

【日本生命】		打	安	点	振	球
④	赤井	4	1	0	1	0
⑤	花野	2	0	0	0	1
⑨	百村	3	2	2	1	0
⑦	楠原	4	0	0	0	0
7	西本	0	0	0	0	0
③	佐藤	4	0	0	3	0
⑥	井尻	3	0	0	1	0
⑧	森田	3	0	0	2	0
②	佐竹	2	0	0	1	1
①	加藤	3	0	0	2	0
犠併残	2 0 3	28	3	2	11	2

【電電関東】		打	安	点	振	球
⑨	中野	3	1	0	1	0
H	長井	1	0	0	1	0
④6	渡辺	3	0	0	0	0
H	浅田	1	0	0	1	0
⑦	佐々木	4	0	0	1	0
③	慶野	3	0	0	0	0
⑧	片山	3	0	0	2	0
⑤	坂本	2	1	0	0	1
⑥	藤平	2	0	0	1	0
4	上原	1	0	0	1	0
②	宮崎	1	0	0	0	1
H2	佐藤	1	0	0	1	0
①	田中	3	0	0	0	0
犠併残	0 0 3	28	2	0	9	2

	回	安	振	球	責
加藤	9	2	9	2	0
田中	9	3	11	2	2

▷三塁打＝百村▷二塁打＝坂本、百村▷犠打＝日2(花野、百村)▷盗塁＝日1(赤井)▷試合時間＝1時間56分

丸善石油が休部

社会人野球の名門チームである松山市の丸善石油(本社・東京、嶋正彦社長)硬式野球部は11月4日、公式試合などの部活動を中止し、休部することを決めた。理由は企業母体である丸善石油の経営が非常に厳しい状況にあり、再建へのエネルギーの一助に休部せざるを得なくなったため。

1950年に創部、57年に都市対抗野球大会に初出場してベスト8進出、以後4年連続出場し、59年には初優勝、四国に初めて黒獅子旗をもたらすなど、都市対抗出場12回、日本選手権出場5回の輝かしい球史を刻んできた。

この間、63年から6年間、会社の経営不安で休部したが、復活後も71年に都市対抗で準優勝し、四国の社会人野球界のリーダーシップをとり続けた。

▽11月4日

第1試合＝準決勝(午前10時57分開始)

河合楽器	010	000	000	1
富士重工業	104	001	01X	7

▶審判(球審)上杉(塁審)木嶋、大橋、吉田

【河合楽器】		打	安	点	振	球
⑨	小椋	3	1	0	0	1
R9	金村	0	0	0	0	0
④	伊藤	3	0	0	1	0
⑧	小川	3	0	0	1	1
③	東田	3	0	0	0	1
R	大石	0	0	0	0	0
3	村瀬	0	0	0	0	0
⑥	阪本	3	2	1	0	1
⑦	大須賀	2	0	0	0	0
H	坂口	1	0	0	0	0
7	末次	0	0	0	0	0
H	星井	1	0	0	0	0
7	大谷	0	0	0	0	0
⑤	山本	3	0	0	1	1
②	平生	1	0	0	0	2
H	増本	1	0	0	1	0
①	根本	0	0	0	0	1
1	山村	1	0	0	0	0
H	黒田	1	0	0	0	0
1	松田	0	0	0	0	0
H	野口	1	0	0	1	0
犠併残	1 1 8	27	3	1	5	8

【富士重工】		打	安	点	振	球
⑥	村田	5	2	0	0	0
④	富永	4	2	0	0	0
③	鈴木	2	0	0	0	2
⑨	野口	3	1	5	1	0
⑦	蝦沢	3	0	0	0	0
H	松本	1	0	0	1	0
7	岸	0	0	0	0	0
⑧	笠原	4	1	1	0	0
⑤	長壁	3	2	0	1	1
②	増岡	3	1	0	0	1
①	橋本	3	0	1	1	0
犠併残	2 2 6	31	9	7	4	4

	回	安	振	球	責
根本	3	6	1	2	5
山村	3	3	1	0	1
松田	2	0	2	2	0
橋本	9	3	5	8	1

▷本塁打＝阪本2号(橋本)▷二塁打＝富永、野口▷犠打＝河1(伊藤)富2(野口、橋本)▷盗塁＝河1(山本)富1(富永)▷失策＝河1(伊藤)▷試合時間＝2時間7分

富士重工業、前半で勝負決める

富士重工業が前半で勝負を決めた。一回一死から富永が中堅左へ二塁打してすかさず三盗を決め、鈴木が四球を選んだ後の一、三塁に野口が投前スクイズを決めて、先手を取った。二回、河合楽器に追いつかれたが、三回、河合・根本を一挙に攻略した。一死後、村田、富永の連打で一、二塁。鈴木四球で満塁となり、今大会打撃不振の四番・野口がこの絶好機に、カウントを取りにきた初球のカーブをとらえ、走者一掃の左中間二塁打。蝦沢の左飛で三進すると、笠原も遊撃内野安打を放って4点を奪った。

さらに六回には長壁、増岡が連打した無死一、三塁、橋本のスクイズで加点、八回にも敵失で1点を拾い、点差を広げた。

河合楽器は二回、先頭の阪本が左翼中段へ豪快なアーチをかけて同点。この一発で投球のリズムを乱した橋本から一死後、下位打線が3連続四球を選んで満塁としたが、小椋が併殺打。この逸機が橋本を立ち直らせてしまった。

第2試合＝準決勝(午後1時37分開始)

日本生命	000	000	110	2
大昭和製紙北海道	000	120	00X	3

▶審判(球審)中西明(塁審)森、樫根、池田

【日本生命】		打	安	点	振	球
④	赤井	4	0	0	2	0
⑤	花野	4	2	0	0	0
⑨	百村	4	0	0	1	0
⑦	楠原	4	1	0	0	0
R	安西	0	0	0	0	0
③	佐藤	4	1	1	1	0
⑥	井尻	3	2	0	0	0
⑧	梅田	2	0	0	1	0
H	内田	1	1	0	0	0
R	渋谷	0	0	0	0	0
8	森田	0	0	0	0	0
②	佐竹	3	1	0	0	0
①	伊藤	1	0	0	0	0
H	西本	1	0	0	1	0
1	岡田	0	0	0	0	0
H	西村	1	0	0	0	0
1	加藤	0	0	0	0	0
犠併残	0 0 3	32	8	1	6	0

【大昭和】		打	安	点	振	球
⑧	我喜屋	4	2	0	0	0
④	福地	2	1	0	0	0
4	仲本	0	0	0	0	0
⑥	新木	3	0	1	1	0
③	高梨	3	0	0	2	0
②	村上	2	0	0	0	1
⑤	大野	3	2	1	0	0
⑨	横川	3	0	0	0	0
⑦	梁原	3	0	0	1	0
①	川瀬	3	1	1	1	0
犠併残	3 1 3	26	6	3	5	1

	回	安	振	球	責
伊藤	5	3	4	1	3
岡田	2	2	1	0	0
加藤	1	1	0	0	0
川瀬	9	8	6	0	2

▷三塁打＝川瀬▷二塁打＝我喜屋、大野、佐藤、内田▷犠打＝大3(福地、仲本、新木)▷盗塁＝大1(大野)▷試合時間＝2時間22分

大昭和に効果的長打

大昭和製紙北海道が1点差で逃げきった。四回、先頭の我喜屋が左翼線二塁打、バントで三進し、新木の犠飛で先制。五回は先頭の村上が四球、大野が左中間二塁打し、村上が好スタートを切って生還。さらに二死後、川瀬の右中間を深々と破る三塁打で大野も生還、貴重な1点を加えた。

日本生命は大昭和のエース・川瀬のスライダー、直球を打ちあぐみ、六回まで散発2安打だったが、七回に反撃。二死二塁、佐藤の右翼線二塁打で2点差とした。八回にも代打内田が右越え二塁打、佐竹の右前打で無死一、三塁としたが、併殺打の間に1点返しただけ。九回にも二死から安打が出たが、川瀬の落ち着いた投球にかわされた。

▽11月5日

優勝戦（午後1時29分開始）

富士重工業	0	0	0	0	0	0	0	1	1
大昭和製紙北海道	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判（球審）三宅（塁審）上杉、松山、鶴田

【富士重工】	打	安	点	振	球
⑥ 村田	5	1	1	1	0
④ 富永	4	0	0	0	1
③ 鈴木	4	2	0	0	0
⑨ 野口	2	0	0	0	2
⑦ 蝦沢	4	0	0	0	0
R7 岸	0	0	0	0	0
⑧ 笠原	4	2	0	0	0
⑤ 長壁	4	0	0	0	0
② 増岡	4	0	0	0	0
① 向田	4	0	0	1	0
犠 併 残					
0 1 7	35	5	1	2	3

【大昭和】	打	安	点	振	球
⑧ 我喜屋	4	0	0	0	0
④ 福地	3	0	0	0	1
4 仲本	0	0	0	0	0
⑥ 新木	2	1	0	0	0
③ 高梨	3	0	0	1	1
② 村上	4	1	0	0	0
⑤ 大野	4	1	0	0	0
⑨ 横川	4	0	0	0	0
⑦ 梁原	4	2	0	0	0
① 川瀬	3	0	0	1	0
犠 併 残					
2 0 5	31	5	0	2	2

	回	安	振	球	責
向田	10	5	2	2	0

	回	安	振	球	責
川瀬	10	5	2	3	1

▷本塁打＝村田1号（川瀬）▷二塁打＝村上▷犠打＝大2（新木2）▷失策＝富1（村田）大1（福地）▷試合時間＝2時間17分

富士重工業、劇的なサヨナラ勝ち

富士重工業が劇的な延長十回の決勝本塁打で初栄冠を飾った。両チーム無得点のまま今大会4度目の延長戦にもつれこんだ十回、富士重工業は二死後、村田が左翼席へ大会17本目のアーチをかけた。大昭和製紙北海道の川瀬が2−2から投じた139球目、内角高めから真ん中に入った変化球。川瀬にとってただ1球の失投だった。

内容は大昭和北海道が押し気味。富士重工業が得点圏に走者を進めたのが3度、大昭和北海道は5度。惜しまれるのは四回二死後に村上が左越え二塁打、大野も右前に運んだが、右翼からの好返球で村上は本塁前でタッチアウト。九回は敵失、四球で一死一、二塁としたが、村上の左への痛打は野手の正面をついた。

富士重工業の勝因は向田の好投と村田の一発だが、バックがよく守ったのも大きかった。四回の右翼・野口の好返球、八回、梁原の左翼線の当たりを7−6−4の好中継で二塁に刺したプレーは、より一層内容ある投手戦へと盛り上げた。

監督談話

富士重工業・野中宏一監督　お互いに投手力がいいので、1点を争う勝負になると思っていた。決勝ホーマーの村田には腰が砕けるほど思い切りバットを振ってこい、と本塁打を狙わせたが、よく打ってくれた。きょうのような張り詰めた試合をしたかったから勝てて最高。優勝の原動力は4勝を挙げてくれた向田だ。

大昭和製紙北海道・高梨英夫監督　エラーの後に奮起の一発（富士重工業・村田の失策と本塁打）が出るなんて、野球は怖いですね。優勝戦ということでお互いに硬くなり、バットが十分に振れていなかったが、川瀬は連投によく耐え、投げ抜いてくれた。ここまでこれたこと自体、私自身不思議なぐらいで、残念な場面はあったが、選手たちに何も言うことはない。健闘をたたえたい。

監督ひと　富士重工業　野中 宏一監督

変わりやすい秋の空に、日程がずれこんだ第8回社会人野球日本選手権大会。運営面で悩みの雨だったが、おあげでチームがよみがえり、初のダイヤモンド旗に恵まれた、と笑みもさわやかに振り返った。

「三つ勝てば、と思っていたのが、水入りで休養でき、再上昇の気流に乗れた。優勝戦も『つき』があったが、思い通りの試合ができて最高です」

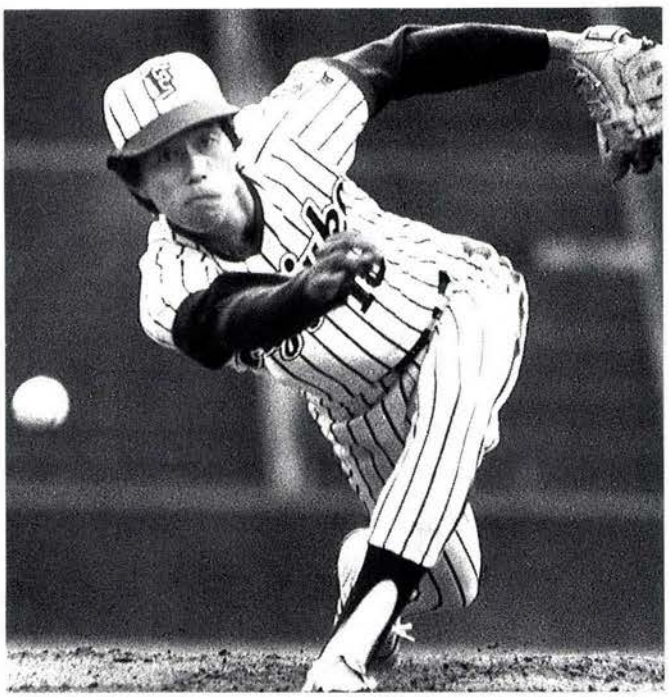
群馬の桐生工高から1964年、太田市の富士重工業へ。13年間で内野の全ポジションをこなした。都市対抗では69年の40回大会で優勝した。

陣頭に立っての秋の王座に「天の助けで…」と控えめだが、裏の猛練習の自負がある。「野球選手は体のキレが第一。スピードあふれる練習を目指す。年に一度は一週間ぶっつづけに鍛えるんです」

社会人野球のベテランとして後輩に求めるのは、頑張りと節度。「遠征や合宿でそうした指導を心がけている。旅館の門限に遅れた選手を深夜までしぼったこともあります」

中島飛行機時代からの流れを引く野球部は、高卒の選手が多い。育てる楽しみに支えられているが、32歳から18歳までという構成だけに、対話が難しい。「年齢に応じて話を変えないと…。プロを志す選手もいるが、本人の意思とチームワークの兼ね合いを考えて相談に乗りたい」。小学生野球に至るまでこまめに試合を見る。「思わぬ作戦の勉強になるんですよ」

釣り好きで、大会前にも一日ひとりで糸を垂れる。「集中力が養えて野球にもどこか通じます」。そのホームグラウンドは自宅近くの利根川という。（丸山　雅勇）



富士重工業の投の柱として活躍した向田投手。（準々決勝の協和発酵戦で）

富士・村田一発、向田が完封

熱球

「一発か失策で勝敗は決まる」――。富士重工業・野中、大昭和製紙北海道・高梨両監督の思いは同じだった。中3日で登板した富士・向田、前日121球を投げ抜いたばかりでマウンドに立った大昭和・川瀬が優勝戦にふさわしい投げ合いを続ける中で、試合は淡々と進んだ。

両監督の胸のうちは当たっていた。まず九回、守備についていた大昭和にエラーが出た。二塁手がジャッグルして一死一、二塁。だが得点には結びつかなかった。その裏の富士の守り。先頭打者の遊ゴロを村田がお手玉。バントと敬遠四球でサヨナラ機が来た。これも得点にならずじまい。そしてもう一つの方の"一発"が十回に飛びだした。それも九回の守りでミスをしてピンチを招く"張本人"になった村田にだ。2−2からの5球目。川瀬が投じた139球目だった。「インコースのスライダー。手応えはあったが、切れるのではと思った。一塁を回る時に入ったのが分かった」と村田。土浦日大高時代、工藤（阪神）らと一緒に春夏の甲子園で活躍した選手だ。「エラーを帳消しにするために狙っていた」とも言った。

打たれた川瀬は「スライダーだけど、曲がりきらずに真ん中寄りにいってしまった。最初から一発だけは警戒していたのに」と痛恨の一球を悔やんだ。高梨監督も「エラーが奮起の一発を呼ぶのだからね。野球はこわい」と体をすくめた。

辛抱強く投げ続け、打線の援護を待った向田は「制球には自信があったが、肩をこわしてベストの状態ではなかった。でも一発を警戒し、緊張感を維持して投げた」と年間17勝目（2敗）を振り返った。「最高の試合だった。一つ転んでいたら完全に大昭和さんの優勝ですものね」――。富士重工業・野中監督の話が優勝戦のすべてだったような気がする。（相馬　卓司）

第８回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　向田佳元投手**(富士重工業)　４試合、30回、自責点１、防御率0.30。３試合に完投し、うち２試合が完封。右下手からのシュートが武器。前橋工高－早大、入社２年目。高校時代、甲子園出場経験２回、早大ではエースとして活躍、通算14勝。社会人になって苦手な左打者を克服。スローカーブを交えて投球の幅を広げるなど力をつけた。177㌢、68㌔、右投げ左打ち。

◇**敢闘賞　川瀬隆俊投手**(大昭和製紙北海道)　４試合に登板、33回を投げて自責点６、防御率1.63。北海道・本古内高から1970年に入社。チームが都市対抗で準優勝した75年からエースになり、チームのマウンドを支えた。制球力を生かし、丁寧でうまみあふれた投球が持ち味。社会人12年目。175㌢、72㌔。右投げ右打ち。

◇**首位打者賞　菊地恭一外野手**(東芝)　３試合11打数７安打、６割３分６厘。１本塁打を含む４打点でチームの得点源として活躍した。東洋大牛久高から社会人になって９年目。４、５年前からめっきり力をつけ、社会人ベストナインにも選ばれた。以来、持ち前のパワーあふれる打撃で全日本の主軸。179㌢、78㌔、右投げ右打ち。

◇**大会優秀選手**

【投手】川瀬隆俊(大昭和製紙北海道)向田佳元(富士重工業)黒紙義弘(東芝)中川善弘(新日鉄堺)石井毅(住友金属)津田恒美(協和発酵)　**【捕手】**村上忠則(大昭和製紙北海道)佐竹政和(日本生命)　**【内野手】**高梨英夫(大昭和製紙北海道)武智勇治(東芝)富永武雄(富士重工業)宮崎剛(東芝)伊藤升久(河合楽器)大野敏彦(大昭和製紙北海道)花野巧(日本生命)新木忠力(大昭和製紙北海道)村田博幸(富士重工業)阪本徹(河合楽器)井尻陽久(日本生命)　**【外野手】**我喜屋優(大昭和製紙北海道)梁原修志(大昭和製紙北海道)蝦沢道明(富士重工業)菊地恭一(東芝)小川淳司(河合楽器)百村茂樹(日本生命)

本田会長、逝去

――社会人野球の発展に尽くす

温厚な人柄で永年、日本社会人野球協会と日本バドミントン協会の会長をつとめていた本田弘敏氏(83)が10月18日夜、肝不全のため死去した。昨年、日本で行われたユーバー杯(女子バドミントン世界選手権)と世界アマ野球大会を成功させ、アマ野球界の組織統一や日本体協加盟、オリンピックでの野球とバドミントン正式種目化へ情熱を傾けていた矢先だっただけに、突然の死を惜しむ声が多い。

熊本県出身の本田氏は、無類のスポーツ愛好家。学生時代から剣道に親しみ、東京ガスの社長や会長をつとめたほか経団連や日経連の常任理事として財界で活躍する一方、1956年から日本バドミントン協会長、67年から日本社会人野球協会長に就任。日本実業団野球連盟(軟式)や国立競技場の会長として広くスポーツの発展や国際交流に尽くした。相手の意見をよく聞き機が熟すのを待って決断するタイプだが、下で働く人たちの能力を十分発揮させる指導力は高く評価され、スポーツ界に敵のない人だった。

武田猛・日本学生野球協会会長の話　昨年、日本で初めて世界アマ野球大会を開くなど、日本のアマ野球は本田さんの力で随分向上しました。見識が高く、国際的視野に立った方で、教えられることが多かった。社会人、学生と立場の違いはあるが、もっと長くアマ野球のお世話をしていただきたかった。

牧野直隆・日本高校野球連盟会長の話　本田さんとは東西財界人野球を通して十数年来お付き合いさせていただいた。私は西軍の監督兼三塁手で本田さんが東軍の監督だったはず。11月14日に後楽園で今年の対戦があるのでお会い出来るのを楽しみにしていたのだが……。昨年のアマチュア野球世界選手権開催に尽力されるなど野球を通じての国際交流に熱心な方だった。

山本英一郎・日本社会人野球協会常務理事の話　財界のトップに立った方なのに、野球界ではよく人の話を聞き、自分の意見を押し通すこともなく、大切な場面で思い切った決断をして、私たちを指導してくださった。社会人球界にとって大黒柱を失った感じで、残念でならない。古くからの念願だった野球のオリンピック参加とアマ野球組織の統一を実現するまで活躍していただきたかった。

(肩書は当時)

初陣の名門川重

――“逆境”に耐え抜き――

戦前から都市対抗で活躍してきた川崎重工が日本選手権に初出場を果たした。

「兵庫県の予選から苦しい試合の連続だったが、みんなよく頑張ってくれた。せっかくチャンスをもらったのだから本番でも頑張ろう」。小西酒造を２－１の小差で破り、初の代表権を手中に収めた川崎重工の福本監督は試合後、ロッカールームに全ナインを集めて労をねぎらったが、その顔はうれしさに満ちあふれていた。

昨年の都市対抗では西日本勢でただひとつベスト８に勝ち残った川崎重工だったが、その後、主力の甲斐、宮嶋らが抜け、戦力が大きくダウンした。おまけに神戸市内にあった野球部専用グランドが会社の都合などで８月末限りで使えなくなり、新グラウンド(加古川市)が完成する来春まではグラウンドを求めてジプシー練習に追いやられた。近畿予選が始まる前は「今年も無理だろう」の声が強かったが、それまでの試合と練習で培った粘りを発揮。県、近畿の予選をすべて１点差で勝ち抜いた。

原動力になったのはエース・長田とベテランの岡本。中でも岡本の活躍は光った。今夏の都市対抗予選を最後に助監督に専念することになり、選手としての練習はしていなかったが、県予選の三菱重工神戸戦では代打本塁打、近畿予選の小西酒造戦ではフル出場。持ち前のファイトでチームを引っ張り、ベテランの良さを改めて認識させた。

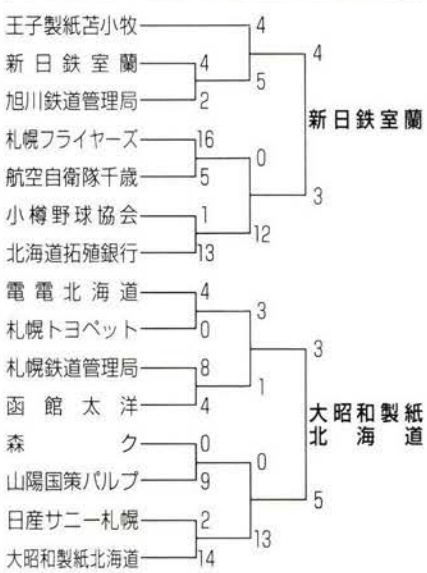
第１戦の相手は大昭和製紙北海道。福本監督は「ベテランから若手への過渡期。でもその苦しさの中から野手を育てなければならない。本大会ではこれからのチームづくりに役立つようないい試合をしたい」と真っ黒に日焼けした顔をほころばせた。

第8回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月8日から　5日間　　札幌市営円山球場



東北大会

▶一次予選

◇**青森▽一回戦**　オール青森４－３三菱製紙八戸、自衛隊青森６－３全弘前倶▽**準決勝**　オール青森７－３八甲ク、自衛隊青森３－０八戸市水道部▽**決勝**　自衛隊青森10－２オール青森（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手▽一回戦**　北上球友３－１盛友ク、宮城建設久慈ク８－１オール江刺▽**二回戦**　岩手銀行10－１オール釜石、県経済連11－１雫石ク、小野田セメント３－１オール不来方、水沢駒形ク７－４アイワ、北上球友ク５－４釜石野球団、新日鉄釜石10－０花北ク、盛岡鉄道局10－０一関三星ク、宮城建設久慈ク12－２東京製綱▽**準々決勝**　岩手銀行５－４小野田セメント、県経済連７－０北上球友ク、新日鉄釜石８－０水沢駒形ク、盛岡鉄道管理局11－１宮城建設久慈ク▽**準決勝**　新日鉄釜石１－０県経済連、盛岡鉄道管理局５－２岩手銀行▽**決勝**　新日鉄釜石１－０盛岡鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**秋田▽一回戦**　秋田経大校友ク５－２秋田商ク▽**準決勝**　ＴＤＫ７－５秋田経大校友ク、秋田相互銀行５－１秋田鉄道管理局▽**決勝**　秋田相互銀行１－０ＴＤＫ（勝者は第二次予選へ）

◇**宮城▽企業チームトーナメント一回戦**　仙台鉄道管理局３－２電電東北、専売東北３－２七十七銀行▽**同第一代表決定戦**　専売東北７－４仙台鉄道管理局▽**同敗者復活一回戦**　電電東北８－０七十七銀行▽**同第二代表決定戦**　電電東北３－１仙台鉄道管理局▽**決勝トーナメント一回戦**　電電東北10－０泉ク、専売東北14－０村田ク▽**同決勝**　専売東北２－１電電東北（勝者は第二次予選へ）▽**同敗者復活戦**　泉ク11－１村田ク▽**同第二代表決定戦**　電電東北13－０泉ク（勝者は第二次予選へ）

◇**山形▽代表決定戦**　鶴岡ク２－０山形相互銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**福島▽一回戦**　小名浜ク６－２好間ク、福島硬友ク10－３学石ＯＢク、塙ク２－１二本松ク▽**二回戦**　ミドリ十字病院ク８－１矢吹ク、須賀川ク２－１原田ク、ヨークベニマル10－０全白河ク、オール常交（不戦勝）長沼ク、小名浜ク３－２飯塚病院ク、保原ク４－１塙ク、郡山水産ク７－１福島硬友ク、小峰ク12－10ニュー相馬▽**準々決勝**　郡山水産ク４－０ミドリ十字病院ク、ヨークベニマル２－１オール常交、須賀川ク５－４保原ク、小名浜ク８－６小峰ク▽**準決勝**　ヨークベニマル４－１郡山水産ク、須賀川ク12－２小名浜ク▽**決勝**　ヨークベニマル12－１須賀川ク（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月22日から　2日間　　宮城球場

関東大会

▶一次予選

◇**茨城▽代表決定戦**　日立製作所４－１鹿島石油、住友金属鹿島９－１水戸鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**群馬▽一回戦**　全前橋６－３全太田、伊勢崎レッドソックス17－０硬友ク▽**準決勝**　富士重工業３－２全前橋、高崎鉄道管理局３－１伊勢崎レッドソックス（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　富士重工業４－０高崎鉄道管理局

◇**埼玉▽一回戦**　日産ディーゼル７－０全大宮、都幾川ク８－６飯能高ＯＢク▽**二回戦**　全浦和13－０全三郷、本田技研４－３日産ディーゼル、日本通運11－１都幾川ク、エーザイ４－３大和ク▽**準決勝**　本田技研６－４全浦和、日本通運10－０エーザイ（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本通運４－３本田技研

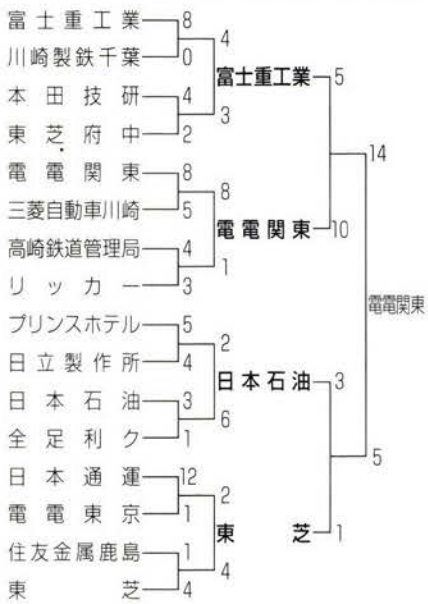
◇**千葉▽一回戦**　千葉鉄道管理局１－０三井造船千葉▽**準決勝**　電電関東７－１千葉鉄道管理局、川崎製鉄千葉18－２新日鉄君津（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　電電関東５－４川鉄千葉

◇**東京▽一回戦**　熊谷組11－５三井銀行、朝日生命６－４明治生命、東京鉄道管理局８－３日本ＩＢＭ▽**準々決勝**　鷺宮製作所７－０東京ガス、リッカー７－６熊谷組、プリンスホテル10－５朝日生命、電電東京４－０東京鉄道管理局▽**準決勝**　リッカー２－１鷺宮製作所、電電東京11－４プリンスホテル（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　リッカー７－０電電東京▽**第三代表決定戦**　プリンスホテル10－３鷺宮製作所（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川▽一回戦**　清工建設８－５横浜高島屋▽**準々決勝**　東芝４－０三菱重工横浜、日本鋼管５－４日産自動車、日本石油７－１清工建設、三菱自動車川崎６－２いすゞ自動車▽**準決勝**　東芝13－３日本鋼管、日本石油３－０三菱自動車川崎（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本石油１－０東芝▽**第三代表決定戦**　三菱自動車川崎５－２日本鋼管（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月19日から　5日間　　群馬県営敷島球場



中部大会

▶一次予選

◇**新潟▽一回戦**　新潟コンマーシャル10－０吉田ク、長商ク17－13新津ク、新潟ク14－６十日町ク、国鉄新潟６－５ヤングセブン、ニチエー７－４長岡ク、小千谷ク３－２全飯豊、新潟青雲ク８－５オール東▽**準々決勝**

新潟コンマーシャル14－6長商ク、国鉄新潟6－2新潟ク、小千谷ク11－4白根野球団、ニチエー22－0新潟青雲ク▽**準決勝**　国鉄新潟13－1新潟コンマーシャル、ニチエー9－2小千谷ク▽**決勝**　国鉄新潟4－3ニチエー（勝者は第二次予選へ）

◇**静岡**▽一**回戦**　浜商闘魂会8－3全三島ク、大昭和製紙4－0協和発酵ク、ヤマハ発動機10－0吉原商工ク、全沼津ク11－7静岡物産ク、岳南ク7－0駿河タイガース▽**準々決勝**　大昭和製紙9－1浜商闘魂会、日本楽器4－1ヤマハ発動機、河合楽器8－0全沼津ク、関東自動車工業4－1岳南ク（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　大昭和製紙3－2日本楽器、河合楽器6－5関東自動車工業▽**決勝**　大昭和製紙6－4河合楽器

◇**富山**▽三**回戦制**　電電富山5－2北陸銀行、北陸銀行3－1電電富山、北陸銀行5－1電電富山（北陸銀行は第二次予選へ）

▶二次予選

10月2日から　3日間　浜松市営球場

東海・北陸大会

9月1日から　6日間　愛知県営熱田球場

近畿大会

▶一次予選

◇**京都**▽一**回戦**　京都信用金庫15－0洛友ク、丸勝17－3西京ク、日本新薬5－0キョートビルク、京洛日産9－2京都市役所▽**準々決勝**　三菱自動車京都3－1丸勝、日本新薬12－4第一紙行、京洛日産8－2東山ク、日本ＩＢＭ野洲2－1京都信用金庫（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　三菱自動車京都8－0日本ＩＢＭ野洲、日本新薬4－0京洛日産▽**決勝**　三菱自動車京都4－3日本新薬（京都市役所は推薦で第二次予選へ）

◇**大阪**▽一**回戦**　電電近畿4－0大和銀行、住友銀行4－2全三和銀行、デュプロ6－5大阪ガス、中山製鋼10－2大阪ペーシェンス▽**準々決勝**　松下電器11－4電電近畿、日本生命7－0住友銀行、デュプロ9－0大阪高島屋、新日鉄堺5－2中山製鋼（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本生命5－0松下電器、新日鉄堺12－0デュプロ▽**決勝**　日本生命4－3新日鉄堺▽**敗者復活戦**　電電近畿8－0大阪高島屋、中山製鋼13－6住友銀行▽**第五代表決定戦**　電電近畿4－0中山製鋼（勝者は第二次予選へ）

◇**兵庫**▽一**回戦**　新日鉄広畑4－3川崎重工、神戸製鋼5－0三菱重工神戸▽二**回戦**　小西酒造3－2川崎製鉄神戸、新日鉄広畑9－4神戸製鋼（勝者は第二次予選へ）▽**敗者復活戦**　三菱重工神戸6－5川崎重工、川崎重工2－1川鉄神戸（勝者と神戸製鋼は第二次予選へ）

▶二次予選

9月28日から　5日間　高砂市営球場

中国大会

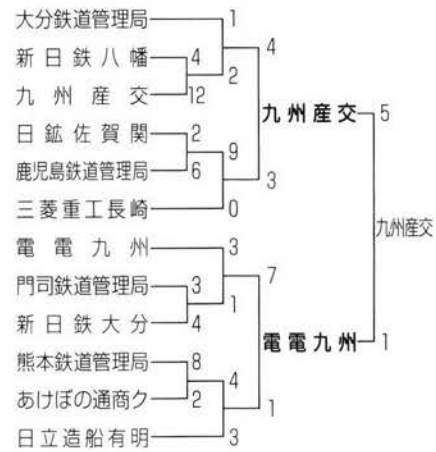
9月23日から　5日間　徳山市営球場

四国大会

9月20日から　4日間　松山市営球場

九州大会

9月20日から　4日間　小倉球場



第8回大会出場選手等一覧（○は主将）

新日本製鐵室蘭

監督	高屋敷日出夫	39	北海高
投手	水本　隆	24	室蘭大谷高
〃	石川　広幸	22	室蘭大谷高
〃	浅川　輝彦	24	韮崎工高
〃	薩田　裕秀	22	帯広農高
〃	浜師　勝彦	28	伊達高
〃	佐々間　隆	22	川越工高
〃	池田　裕行	19	松戸高
〃	真下　敏宏	19	北海高
捕手	三上　誠一	27	室蘭大谷高
〃	足立　豊	19	函館有斗高
〃	佐野　修二	24	市川高
〃	後藤　哲夫	32	興譲館高
内野	鹿田　和彦	25	旭川竜谷高
〃	桜井　清一	20	倶知安高
〃	大塚　邦弘	28	北海高
〃	馬場　巧司	19	室蘭大谷高
〃	吉井　郁雄	24	立教大
〃	鈴木　忠仁	20	札幌商高
〃	荒野　悟	31	登別大谷高
外野	島尻　均	27	北見相陽高
〃	阿部晋一郎	24	中央大
〃	岡田　仁	26	室蘭工高
〃	堀松　洋伸	23	東北高
〃	○安西　秀親	31	道産業短大

大昭和製紙北海道

監督	高梨　英夫	38	大多喜高
投手	川瀬　隆俊	29	木古内高
〃	小磯　健次	26	安積商高
〃	和田　敏明	22	近畿大
〃	小野　等	21	福島保原高
〃	三浦　幸雄	19	旭川実高
〃	渡部　勝美	18	砂川南高
捕手	村上　忠則	31	津名高
〃	今泉　進	22	北見工高
〃	新明克比古	18	室蘭大谷高
内野	高梨　英夫	38	大多喜高
〃	仲本　広明	30	沖縄興南高
〃	○大野　敏彦	28	山口鴻城高
〃	新木　忠力	26	東農大
〃	福地日出雄	23	東農大
〃	社　新吾	20	瀬戸内高
〃	黒田　和彦	19	函館有斗高
〃	近藤　浩二	19	北見北斗高
外野	我喜屋　優	30	沖縄興南高
〃	井上　孝一	26	日本大
〃	石川　孝一	24	立正大
〃	横川　衛	23	北見工高
〃	梁原　修志	21	苫小牧工高
〃	平　紀陽典	21	日大東北高
〃	池田　和彦	20	山口鴻城高
〃	若林　伸一	19	山梨峡南高

ヨークベニマル

監督	大平　久夫	30	青山学院大
投手	速石　恵介	27	青山学院大
〃	奥山　昌昭	25	明治大
〃	小野　正信	24	東北学院大
〃	鈴木　美一	23	日大東北高
〃	斉　智幸	19	平工高
捕手	原田　公輔	25	青山学院大
〃	松下　尊大	25	早稲田大
〃	本多　博文	20	福島農蚕高
内野	曲山　義和	21	勿来工高
〃	豊岡　俊哉	21	日体荏原高
〃	舟山　重輝	26	国士舘大
〃	佐藤　俊重	27	東北学院大
〃	寺西　良友	24	青山学院大
〃	塚本　紀之	23	東農大
〃	鈴木　正美	21	平工高
〃	先崎　史雄	28	立教大
外野	○増子　忠雄	27	駒沢大
〃	宮内　清明	23	磯原高
〃	浅岡　昌敬	23	神奈川大
〃	鹿島　在勇	23	青山学院大
〃	近内　一雅	19	勿来工高

秋田相互銀行

監督	佐藤　伸一	44	秋田商高
投手	神成　春己	26	大館商高
〃	石崎　透	25	東洋大
〃	畠山　祐策	24	十和田高
〃	山岡　博也	23	東北学院大
〃	千葉　正則	22	大館商高
〃	三浦　靖博	19	秋田市立高
捕手	高田　義彦	26	十和田高
〃	渡辺　博之	22	大館商高
〃	菅原　敏	19	十和田高
内野	○畠山　和彦	27	東洋大
〃	斎藤　忠彦	24	大曲農高
〃	堀井　政志	22	秋田商高
〃	桜庭　仁	21	秋田商高
〃	村岡　由之	20	秋田経大付高
〃	畠山　親浩	20	能代高
〃	斎藤　哲	20	本荘高
〃	熊谷　和秋	19	秋田商高
外野	斎藤　長衛	26	東洋大
〃	高橋　広美	24	大曲農高
〃	石井　靖	23	秋田商高
〃	佐藤　純一	21	大曲高

電電関東

監督	神田　利克	32	駒沢大
投手	中後　政行	27	安房水産高
〃	平野　弘行	19	君津商高
〃	藤井　祥利	23	専修大
〃	市村　則紀	29	東洋大
〃	田中　幸雄	23	流山高
捕手	宮崎　宣男	24	亜細亜大
〃	安部　正人	25	日川高
〃	佐藤　誠一	21	秩父農工高
内野	慶野　茂	28	甲府工高
〃	藤平　俊一	23	帝京大
〃	○浅田　一吉	27	駒沢大
〃	渡辺　久	25	東洋大
〃	原嶋　敬	20	秩父農工高
〃	坂本　照彦	23	駒沢大
〃	長井　秀夫	23	国士舘大
〃	上原　信義	21	東農大二高
外野	加藤　健治	23	専修大
〃	佐々木敬芳	25	立正大
〃	伊東　健一	23	専修大
〃	松崎　秀彦	24	駒沢大
〃	千葉　保之	20	足利工高
〃	大沢　浩	22	専大松戸高
〃	片山　雅彦	23	東洋大
〃	中野　雅隆	23	亜細亜大

日本石油

監督	今西　良雄	43	立教大
投手	篠原　譲	22	関西高
〃	田村　光広	23	宿毛高
〃	山岡　政志	23	秋田商高
〃	鎗田　英男	26	法政大
〃	高橋　一彦	20	前橋工高
捕手	西部　淳一	25	明治大
〃	犬飼　徹也	26	中京大
〃	対馬　昭男	23	帝京大
〃	加藤　敦彦	22	長崎海星高
〃	三好　克拡	23	高松商高
内野	西川　弘司	24	専修大
〃	林　裕幸	26	東海大
〃	○八角　寛二	27	専修大
〃	木村　恭弘	22	日大三高
〃	吉田　敏道	25	明治大
〃	玉川　寿	23	慶応大
〃	十河　徳行	22	高松商高
外野	関口　浩司	21	横浜商高
〃	小山　広美	25	専修大
〃	庄子　茂	27	法政大
〃	曾根原博志	23	亜細亜大
〃	佐藤　功	24	早稲田大
〃	平沢　光男	26	東海大
〃	川井　孝幸	23	早稲田大
〃	蓮見　昭仁	19	日大三高
〃	阿久根昭一	20	武相高

富士重工業

監督	野中　宏一	36	桐生工高
投手	谷　良治	23	関東学園高
〃	島田　隆	25	中央大
〃	橋本　敬司	23	熊谷農高
〃	向田　佳元	25	早稲田大
〃	三浦　誠	32	東洋大
〃	古尾谷雅典	20	向の岡工高
〃	斉藤　正勝	19	桐生工高
捕手	長島　勝利	20	上尾高
〃	増岡　伸幸	25	東洋大
〃	長崎　徳好	19	信州工高
内野	野口　広己	30	高崎商高
〃	小間　哲雄	29	駒沢大
〃	長壁亥佐雄	30	高崎商高
〃	細渕　祐	20	上尾高
〃	富永　武雄	24	早稲田大
〃	鈴木　秀男	26	日体大
〃	村田　博幸	25	日体大
〃	青木　直治	19	武相高
〃	坂本　秀雄	19	呉工高
外野	内藤　光夫	32	関東学園大付高
〃	○蝦沢　道明	31	桐生工高
〃	笠原　亘	20	松商学園高
〃	太田　幸雄	20	上尾高
〃	松本　修	29	日本大
〃	岸　久男	23	東農大二高

東芝

監督	鈴木　義信	37	慶応大
投手	黒紙　義弘	26	亜細亜大
〃	大輝　久	26	神奈川大
〃	民部田勝則	23	富士大
〃	真喜志康永	20	沖縄高
〃	田　義政	22	中央大
〃	岩原　孝司	22	愛知学院大
〃	青木　秀夫	18	鶴見工高
捕手	京極　昌信	28	亜細亜大
〃	安斉　定男	24	横浜商大高
〃	金沢　哲男	23	早稲田大
〃	泉水　稔	20	興南高
内野	宮崎　剛	27	専修大
〃	○武智　勇治	26	駒沢大
〃	福本　勝幸	23	早稲田大
〃	藤森　富泰	23	青山学院大
〃	吉田　幸彦	23	八幡大
〃	片岡　定治	22	法政大
〃	青島　健太	22	慶応大
外野	深沢　進	29	青山学院大
〃	斉藤　晴男	26	千葉商高
〃	菊地　恭一	26	東洋大牛久高
〃	小貝　匡輔	25	法政大
〃	田中　成和	23	駒沢大
〃	鈴木　栄一	22	日大三高
〃	及川美喜男	21	東北高
〃	倉橋　秀典	23	中央大

大昭和製紙

監督	安藤　喜春	41	沼津東高
投手	鈴木　政明	32	勝山高
〃	阿部　政文	28	早稲田大
〃	藤原　博	25	吉原商高
〃	榎本　悦生	23	柳ケ浦高
〃	庄子　嘉知	22	仙台商高
〃	倉田　邦房	21	岡崎工高
〃	荒木　光一	21	中越高
捕手	木原ウィリー	26	法政大
〃	秋山　美憲	24	自動車工高
〃	勝又　靖之	21	静岡商高
〃	金田　正	19	松商学園高
内野	井出　実	30	法政大
〃	山本　秀樹	27	名城大
〃	高林　勝	27	東農大
〃	馬場　俊治	26	大宮商高
〃	遠藤　盛正	24	東農大
〃	上川　誠二	22	箕島高
〃	西野　滋明	21	中京商高
〃	海老原光男	21	足立高
外野	○中本　龍児	30	近畿大
〃	長嶋　顕彦	29	比叡山高
〃	平井　一男	27	近畿大
〃	相磯　美弘	25	愛知工大
〃	中林　和仁	21	比叡山高
〃	黒川　秀機	21	川口高

河合楽器

監督	岡田　紀明	39	早稲田大
投手	増井　孝次	21	御坊商工高
〃	松田　昇	24	中央大
〃	山村　陽一	23	稲築高
〃	根本　俊郎	27	宮城水産高
〃	海野　隆志	24	専修大
捕手	中田　浩史	20	泉州高
〃	星井　広幸	25	専修大
〃	平生　一喜	25	東海大工高
内野	増本　欽市	27	大商大
〃	山本宗三郎	29	国士舘大
〃	阪本　徹	26	大商大
〃	○伊藤　升久	29	中央大
〃	坂口　哲也	24	青山学院大
〃	湯浅　均	24	青山学院大
〃	東田都志男	30	小野田工高
〃	黒田　豊	23	立命館大
〃	大石　正勝	19	浜松商高
外野	小川　淳司	24	中央大
〃	大須賀　健	23	中央大
〃	村瀬　耕次	23	中京大
〃	野口　和生	26	大商大
〃	金村　広雄	20	報徳学園高
〃	小椋　清俊	29	岐阜第一高
〃	末次　秀行	23	青山学院大
〃	大谷　勝善	20	関大一高

国鉄名古屋

監督	大脇　照夫	51	滝高
投手	田中　晃稔	25	名古屋学院大
〃	森下慶一郎	21	中津商高
〃	加藤　幸次	20	猿投農林高
〃	新谷　和明	19	鯖江高
〃	土川　浩二	19	名電高
〃	松本　佳久	22	名古屋学院大
〃	高島　徹	22	愛知工大
捕手	山田　章	26	関商工高
〃	坂野　彰宏	25	名古屋学院大
〃	森　勝彦	23	名城大付高
内野	植田　利幸	27	愛知学院大
〃	○石田　義一	26	名城大
〃	本田　祐二	23	豊橋商高
〃	大石　猛	22	名商大付高
〃	湧川　勉	21	中京高
〃	林　洋	20	東邦高
〃	小川　新二	19	中京高
〃	吉田　則昭	21	岐阜西工高
外野	増田　正美	23	東海大工高
〃	高橋　哲夫	22	岡崎工高
〃	榊原　憲文	22	岡崎工高
〃	内藤　真如	21	名電高
〃	森本　進	22	駒沢大
〃	倉田　敦敏	18	高田高

新日本製鐵名古屋

監督	柘植　康之	43	東邦高
投手	吉田　智人	24	東邦高
〃	佐分　貞夫	18	東海工高
〃	鈴木　徳義	27	木更津中央高
〃	藤井　祐一	19	名商大付高
〃	渡辺　剛	24	新居浜商高
〃	米田　富夫	24	高岡商高
捕手	吉田　秀雄	29	駒沢大
〃	小俣　哲雄	22	専修大
〃	松岡　敏郎	19	明徳高
〃	江崎　弘治	24	常滑高
内野	○杉本　秀生	27	東邦高
〃	新美　克直	21	大府高
〃	小坂　登	28	木更津中央高
〃	水谷洋次郎	23	三重高
〃	岡田　寛	22	中京高
〃	服部　俊樹	26	海星高
〃	中村　淳	18	海星高
〃	星野　泰久	25	日大一高
〃	吉川　貴	24	三重高
外野	金森　道正	25	天理高
〃	加藤　雄治	25	岡崎工高
〃	渡辺　政義	18	享栄高
〃	大野　勲	19	柏原高
〃	手嶋　明	21	名電高
〃	山本　啓二	19	池田高

神戸製鋼

監督	松浦	昭彦	37	関西学院大
投手	山本	正信	23	駒沢大
〃	山本	泰之	28	駒沢大
〃	三善	民康	28	関西大
〃	野間	武久	24	村野工高
〃	青山	健	20	東播磨高
〃	西山	秀喜	21	帝京第五高
〃	矢野	和哉	19	報徳学園高
〃	若生	幸三	23	立命館大
捕手	川井	直之	19	金沢星稜高
〃	荒井	信久	28	明治大
内野	中川	哲	25	駒沢大
〃	浦本	慶啓	25	亜細亜大
〃	古賀	博樹	27	多久工高
〃	宮本	要	23	洲本実高
〃	上野	徳和	20	市神港高
〃	三木	行治	27	大阪商大
〃	大村	雅文	30	専修大
〃	岡本	哲司	21	吉備高
〃	古屋	聖一	25	八幡大
外野	日川	雅夫	23	明治大
〃	○小林	貢	29	姫路商高
〃	若林	浩	23	都島工高
〃	中村	好治	28	専修大
〃	山崎	博行	26	村野工高
〃	山本	公裕	23	高松商高

松下電器

監督	下田	鎮男	39	柳川高
投手	北口	勝久	25	早稲田大
〃	堅田外司昭		20	星稜高
〃	長谷部	優	31	慶応大
〃	森定	正雄	23	立教大
〃	安森	一則	24	立教大
〃	原	邦彦	23	岡山東商高
〃	塚岡	広仁	23	倉敷工高
〃	岡本	光	21	串本高
捕手	大本	二郎	24	倉敷工高
〃	野村	尚生	24	愛知学院大
〃	渋谷	卓也	23	同志社大
〃	井口	義則	20	吉備高
内野	野尻	正博	24	近畿大
〃	前嶋	純二	25	法政大
〃	林	寿郎	23	立教大
〃	森本	光一	26	立命館大
〃	平谷	拓	25	田辺商高
〃	倉八	正典	24	東海大
〃	松川	正樹	26	愛知工大
〃	坂口	雅久	30	立教大
外野	○島田	行雄	26	近畿大
〃	磯本	邦彦	24	佐世保工高
〃	荒木	靖信	21	PL学園高
〃	高鍋	均	24	布施工高
〃	北野	敏史	20	箕島高

日本生命

監督	佐竹	政和	33	関西大
投手	岡田	和久	30	近畿大
〃	加藤	重雄	24	法政大
〃	森	明彦	23	河南高
〃	中本	茂樹	23	同志社大
〃	村上	明	21	新湊高
〃	伊藤	伸幸	22	東経大
捕手	佐竹	政和	33	関西大
〃	野村	茂	28	PL学園高
〃	桧垣	明	24	関西大
〃	内田	敏弘	23	法政大
内野	赤井	淳二	29	近畿大
〃	○井尻	陽久	28	東海大
〃	西村	一寛	28	早稲田大
〃	花野	巧	27	同志社大
〃	宇地原	佳則	26	立教大
〃	三枝	淳介	25	早稲田大
〃	佐藤	清	25	早稲田大
〃	渋谷	渉	24	明治大
外野	梅田	薫	27	明治大
〃	楠原	基	25	法政大
〃	安西	敏雄	27	中央大
〃	西本	靖彦	24	早稲田大
〃	百村	茂樹	23	明治大
〃	森田	昇	23	近畿大
〃	中橋	伸幸	22	愛知学院大

新日本製鐵堺

監督	浜崎	満重	33	八幡工高
投手	中川	善弘	29	和歌山工高
〃	横浜	政徳	26	米子商高
〃	清水	信英	24	興国高
〃	下村	恭二	22	新宮高
〃	萩原	孝治	22	都島工高
〃	南出	裕司	20	粉河高
捕手	浦	誠哉	24	PL学園高
〃	樽口	正生	24	藤井寺工高
〃	中野	敏行	22	小倉商高
〃	米倉	格二	19	成城工高
内野	花川	達也	23	東洋大姫路高
〃	西口	信明	23	大鉄高
〃	浦東	靖	22	新宮商高
〃	南口	正人	22	大鉄高
〃	浦東	徳明	20	新宮商高
〃	山下	裕司	18	西野田工高
〃	石原	貴	19	柳川高
〃	藤本	政男	25	PL学園高
外野	中西	孝吉	32	都農高
〃	田中	和男	28	興国高
〃	山尾	博	25	生野工高
〃	井口	成年	25	PL学園高
〃	西垣	公策	20	県和歌山商高
〃	○藤本	公二	27	興国高

住友金属

監督	山中	正竹	33	法政大
投手	石井	毅	19	箕島高
〃	小杉	大三	20	和歌山工高
〃	川端	理史	31	東海大
〃	高橋	修二	24	高知高
〃	沼田	聡	19	県和歌山商高
〃	武田	重美	23	西南学院大
〃	古賀	達也	22	竜谷高
捕手	嶋田	宗彦	19	箕島高
〃	小川	良一	27	駒沢大
〃	中川	豊明	23	江の川高
内野	清水	健五	24	慶応大
〃	筒井	大助	23	関西学院大
〃	丸山	耕司	18	智弁学園高
〃	前田	寿啓	18	東海大工高
〃	飯島	淳	23	堀越学園高
〃	四田	勝康	24	浪商高
〃	田中	祐司	23	鳴門高
〃	松隈	憲治	26	柳川高
外野	西村	博已	22	伊都高
〃	高多	倫正	27	慶応大
〃	黒石	厚	22	法政大
〃	中原	正明	27	東海大
〃	松原	俊郎	23	同志社大
〃	○三好	一幸	28	東海大相模高

川崎重工

監督	福本	敏一	32	飾磨工高
投手	前田	正美	26	早稲田大
〃	長田	正弘	26	八代学院高
〃	物袋	義広	20	大阪高
〃	畠山多美夫		22	高知工高
捕手	浜田	正二	27	明治大
〃	片岡	直次	24	大阪市大
〃	望月	俊哉	20	倉敷工高
内野	西森	伸二	20	高知工高
〃	植田	実	19	尼崎工高
〃	○田中	伸祐	27	育英高
〃	岡本	良一	30	明治大
〃	藤田	和浩	19	市神港高
〃	武市	雅則	22	徳島商高
〃	木村富士夫		27	法政大
外野	田中	順二	29	市和歌山商高
〃	水江	龍	27	立命館大
〃	生田	道伸	23	駒沢大
〃	泉	里史	31	関西大
〃	川元	勲	19	市尼崎高
〃	丸谷	清二	24	大阪学院大

三菱重工広島

監督	若松	実	32	芝浦工大
投手	村田	利明	28	立教大
〃	佃	正樹	26	法政大
〃	山村	力人	23	東洋大
〃	一元	裕治	23	八幡大
〃	池本	正樹	23	大田高
〃	松岡	信吾	22	八代学院高
〃	若松	実	32	芝浦工大
〃	疋田	豊	22	八代学院高
捕手	大森	光生	30	明治大
〃	浜田	靖	23	東洋大
〃	内田	博	23	八幡大
〃	長谷川	雅喜	21	育英高
内野	○酒井	信芳	31	東洋大
〃	金光	興二	26	法政大
〃	正伝	芳則	20	広島商高
〃	若松	茂樹	27	東洋大
〃	多田	清和	23	国士舘大
〃	佐々木	幸治	30	法政大
外野	植田	巧	20	松山商高
〃	井上	敏之	28	山陽高
〃	窪田	泰文	19	松山商高
〃	井上	伸三	29	東洋大
〃	荒谷	稔	28	広島商高
〃	富士野	誠示	28	西脇工高
〃	伊藤	順三	32	八幡大

協和発酵

監督	加来	佐吉	35	中津工高
投手	藤田	敏彦	21	岡山日大高
〃	渡辺	説男	25	佐伯高
〃	星野	正一	21	津久見高
〃	津田	恒美	21	南陽工高
捕手	吉武	豊海	24	三池工高
〃	藤	兼善	21	唐津商高
〃	国本	正弘	20	南陽工高
内野	浅田	勉	31	岩国商高
〃	嘉村	学	26	早鞆高
〃	岡本	達朗	19	宇部工高
〃	山口	光夫	21	岩国商高
〃	○吉用	哲也	29	中津工高
〃	古賀	康則	21	柳川高
〃	立花	昇	20	柳川高
〃	立場	忠男	20	南陽工高
〃	水本	智彦	22	中津工高
〃	西本	豊	23	東海大
外野	馬場	堯裕	25	唐津商高
〃	藤本	保之	21	南陽工高
〃	山根	純之助	19	倉吉北高
〃	山田	孝道	31	防府商高
〃	古嶋	正人	26	下関商高
〃	村澤	政夫	20	南陽工高

四国銀行

監督	麻岡	正男	32	大商大
投手	片岡	寿彦	26	高知商高
〃	山本	智久	24	池田高
〃	高尾	等	24	愛知学院大
〃	宮本	典幸	23	帝京大
捕手	城下	照男	27	専修大
〃	沖田	雅夫	26	高知商高
〃	古谷	英史	24	高知商高
〃	渡辺	毅	22	専修大
内野	麻岡	正男	32	大商大
〃	楠瀬	隆章	30	法政大
〃	○森本	誠	26	高知商高
〃	乃一	官	26	関西大
〃	薬師神	一成	23	京産大
〃	森	正隆	22	明治大
〃	武内	則尚	22	東経大
外野	刈谷	精一	32	高知商高
〃	西村	章	30	法政大
〃	日浦	武	30	亜細亜大
〃	溝渕	貞雄	25	大商大
〃	浦林	堅	25	愛知学院大
〃	阿部	稔	23	大商大

丸善石油

監督	窪田	欣也	34	亜細亜大
投手	浜口	守	21	弓削商船高専
〃	成田	幸洋	20	八幡浜高
〃	板倉	利弘	21	福井商高
〃	新	孝博	28	初芝高
〃	藤井栄一郎		29	明治学院大
捕手	秋葉	秀雄	26	勝浦高
〃	金田	進	21	近大付高
〃	黒木	隆春	20	延岡学園高
〃	益田	佳明	29	立正大
内野	浜口	明	21	大鉄高
〃	神崎	直	29	津久見高
〃	角田	栄	26	木更津中央高
〃	○福永	純一	30	亜細亜大
〃	深谷	勇人	21	近大付高
〃	野口	憲次	29	明治学院大
〃	伊藤	司	18	尼崎工高
〃	坂口	利邦	20	鹿屋工高
〃	徳藤	幸三	31	宮崎商高
外野	高石	貴治	22	新居浜商高
〃	古井	浩二	26	海南高
〃	佐藤	洋一	22	二松学舎大付高
〃	安村	寛	22	明治学院大
〃	山本潤一郎		22	津久見高
〃	末崎	友己	27	生野工高
〃	窪田	欣也	34	亜細亜大

九州産交

監督	井上	信明	35	立命館大
投手	日高	正文	25	中央大
〃	磯本	哲也	23	出水学園高
〃	深見	一浩	18	種子島実高
〃	二保	茂則	23	法政大
〃	西谷	美次	27	日本体育大
〃	門倉	和博	30	鹿屋高
捕手	渕上	礼蔵	19	九州学院高
〃	松村	敏明	26	国士舘大
〃	赤星	鉄治	21	熊本工大高
内野	柿木	孝哉	23	明治大
〃	東	邦人	23	九州東海大
〃	杉野	滝男	21	柳川高
〃	二村	忠美	21	伝習館高
〃	有村	謙一	27	東海大
〃	江口	明信	33	中央大
外野	藤村	寿成	18	九州学院高
〃	田代	文博	27	日本大
〃	原野	真寿	19	九州学院高
〃	西田	洋	25	専修大
〃	久本	正則	22	球磨工高
〃	○上田	信広	32	九州学院高
〃	井上	勝己	24	九州共立大

電電九州

監督	永圖	敏博	32	川内高
投手	右田	一彦	21	九州学院高
〃	奥間	朝二	19	コザ高
〃	長嶺	俊一	32	宮崎本庄高
〃	藤田	裕二	21	臼杵商高
〃	松本	泰彰	20	苅田工高
〃	林田	孝史	22	熊本工高
〃	錦野	和明	32	熊本大
捕手	仲村	正利	21	北部工高
〃	川越	雄一	32	国士舘大
〃	永圖	敏博	32	川内高
内野	村岡	耕一	21	日田林工高
〃	大橋	宗純	24	専修大
〃	柳川	正義	23	日田林工高
〃	勝山	晋一	26	東海大二高
〃	今井	敬二	32	門司工高
〃	福島	優	21	熊本第一工高
〃	岩田	由彦	20	福島高
〃	橋本	栄二	27	東海大
〃	○柴田	克己	28	福岡大
外野	南牟礼	豊蔵	21	都城工高
〃	平山	敏数	26	九州共立大
〃	榊原	寛	20	熊本工大高
〃	鈴木	泰司	27	仏教大
〃	小林	裕一	22	熊本工高

第9回大会

1982年（昭和57年）10月24日▶10月31日　大阪球場

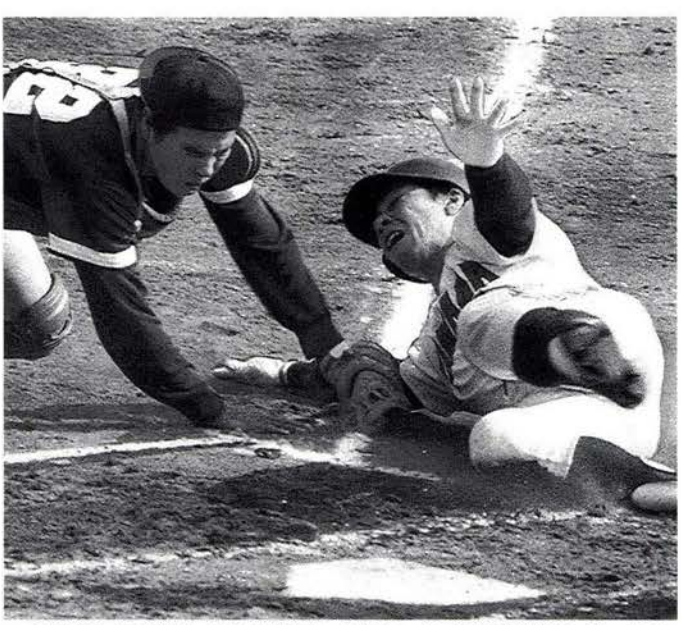
優勝＝ヤマハ発動機 ――――（初優勝）

初陣のヤマハ発動機、創部2年目のV

初陣・ヤマハ発動機が創部２年目にして日本一の座についた。1982年の世界選手権にも出場した32歳のベテラン・鈴木が快進撃の原動力となった。低めへの制球力、多彩な変化球は頂点を極めるに十分だった。打線も本塁打こそなかったが、好機を逃さず、しぶとかった。

ヤマハ発動機には休部した大昭和製紙北海道から鈴木らが移籍。夏の都市対抗初出場でいきなりベスト８。望月監督は日本選手権で優勝を狙っていたが、日産自動車、日本生命、住友金属など強豪ひしめく中にあっては伏兵の一角にすぎなかった。初戦の２回戦で優勝候補筆頭の日産自動車と対戦。九回に追いつかれたが、その裏、エース鈴木に代打山本和を送って、サヨナラ勝ちした。全員で戦う姿勢がこの試合でチームに浸透し、日本生命、電電関東には１点差勝ち。優勝戦は鈴木ー山本賀の継投で日本通運を抑えた。日本通運は看板の強打線が初戦から爆発したが、優勝戦は不発。しかしそのパワー野球は真価を十分に発揮した。

ベスト４の新日鉄堺は若手起用が裏目に出た。



〔優勝戦〕日本通運ーヤマハ発動機　二回表、ヤマハ発動機無死一塁、野口の左越え二塁打で一塁から馬場ホームへ、捕手・光野が落球してセーフ。

大会審判

▷**委員長**＝小西正一▷**副委員長**＝三輪武▷**委員**＝中西明、三宅享次、小林加寿男、戸田直佑、本郷良直、広沢渉、片岡成夫、木嶋一晃、森武雄、清水正輝、箕浦勝春、山川脩司、加瀬弘、原田謹爾、上杉正、津田浩嗣、樋秀雄、岸野金治、樫根清一、松山守、池田貴義、鶴田泰夫、大橋慶三、小林勉、石渡義、桃田晴彦、中西則夫、河島秀喜、桂等、清水忠雄、吉田龍男、浜崎健一、前田利昌、鹿多証道、生越芳明、東優孝

▽10月24日

第1試合＝1回戦(午前9時56分開始)

大倉工業	1	0	0	0	0	2	3	0	0	6
王子製紙苫小牧	0	5	0	0	0	1	3	0	X	9

▶審判(球審)中西明(塁審)片岡、石渡、岸野

【大倉工業】

	打	安	点	振球
⑥ 堀家	5	2	0	0
④ 本田	2	0	0	0
4 江原	2	0	0	0
⑧ 和田口	4	1	1	0
⑨ 木中西	3	2	2	0
⑤ 東	4	2	2	1
③ 高畑	4	0	0	0
⑦ 林	4	2	1	1
② 中平	4	2	0	0
① 舘林	1	0	0	0
1 岸岡	2	1	0	0
HR 田中	0	0	0	0
1 植松	0	0	0	0

犠	併	残
1	0	6

回	安	振	球	責
中平	1⅔	6	2	0
舘林	5⅓	4	3	4
植松	1	1	0	1

【王子製紙】

	打	安	点	振球
⑦ 長沢	3	1	1	1
② 田中茂	3	3	1	0
③ 浜口	5	2	2	0
⑨ 石井	3	1	0	0
佐々木稔	3	1	0	0
⑧ 中村	3	0	0	0
8 菅野	0	0	0	0
H8 阿部一	2	1	3	1
④ 千葉	4	1	1	0
⑥ 佐々木一	4	0	0	0
① 樋口	3	2	1	1
1 大西	1	0	0	0

犠	併	残
3	0	6

回	安	振	球	責
樋口	6⅔	11	2	2
大西	2⅓	1	1	0

▷本塁打＝阿部一1号③(舘林)▷二塁打＝千葉、林、中西、樋口▷犠打＝大1(本田)苫3(田中茂、石井、菅野)▷盗塁＝大5(江原2、和田、中西、高畑)▷失策＝大1(堀家)苫3(長沢、佐々木稔、佐々木一)▷試合時間＝2時間33分

第2試合＝1回戦(午後0時58分開始)

松下電器	0	0	0	3	0	2	0	1	1	7
国鉄名古屋	0	2	0	1	0	0	0	0	0	3

▶審判(球審)木嶋(塁審)広沢、鹿多、小林勉

【松下電器】

	打	安	点	振球
④ 野尻	4	1	1	0
⑧ 磯本	3	0	0	1
⑦ 篠崎	2	0	0	0
H7 島田	3	1	0	1
⑤ 林	4	1	0	1
⑨ 前嶋	5	1	1	0
③ 北野	2	0	0	0
3 倉八	3	1	0	0
② 大北本	4	2	0	2
① 北口	4	4	2	0
⑥ 平谷	4	1	2	1

犠	併	残
2	0	9

回	安	振	球	責
北口	9	4	6	0

【国鉄名古屋】

	打	安	点	振球
⑦ 森本	4	2	0	0
④ 植田	4	0	0	1
⑧ 増田	3	0	0	0
1 森石下	0	0	0	0
H 石田	1	0	0	0
⑨ 内藤	4	1	0	0
③ 林	3	0	1	2
⑤ 湧川	3	1	0	0
⑥ 田矢	2	0	1	0
② 坂野	2	1	0	0
① 加藤	2	0	0	0
8 高橋	1	0	0	1

犠	併	残
2	0	2

回	安	振	球	責
加藤	6	9	3	2
森下	3	3	3	1

▷三塁打＝内藤▷二塁打＝北口2▷犠打＝松2(磯本、林)国2(林、本田)▷盗塁＝松2(前嶋、平谷)▷失策＝松2(北口、平谷)国3(林、坂野、高橋)▷ボーク＝加藤▷試合時間＝2時間19分

第3試合＝1回戦(午後3時50分開始)

川崎製鉄神戸	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
日本楽器	0	0	2	0	0	1	0	0	X	3

▶審判(球審)加瀬(塁審)大橋、清水正、河島(外審)長谷、鹿多

【川鉄神戸】

	打	安	点	振球
⑦ 筑瀬	3	2	0	0
⑥ 松川	3	1	0	0
H 前川	1	0	0	0
⑧ 山中正	3	0	0	1
⑨ 石津	4	1	1	0
⑤ 上村	4	0	0	1
③ 中村	3	0	0	1
④ 五島	3	0	0	1
② 船越	2	0	0	1
H 福本	1	0	0	0
2 細田	0	0	0	0
① 石井	1	0	0	1
HR 川中	1	1	0	0
HR 嶌	0	0	0	0
1 真鍋	1	0	0	0

犠	併	残
1	1	4

回	安	振	球	責
石井	5	3	1	3
真鍋	3	3	1	1

【日本楽器】

	打	安	点	振球
⑦ 熊野	4	2	2	0
⑥ 中山	4	0	0	2
⑧ 内山	3	0	0	1
③ 武居	3	1	0	0
⑤ 大野	4	1	0	0
⑨ 戸田	3	0	0	0
9 小林	3	0	0	1
④ 鈴木	2	0	0	0
② 佐藤	3	2	0	0
① 小磯	2	0	0	0

犠	併	残
1	0	6

回	安	振	球	責
小磯	9	5	6	1

▷二塁打＝熊野、筑瀬▷犠打＝川1(筑瀬)日1(小磯)▷盗塁＝日1(大野)▷失策＝川2(松川、中村)▷暴投＝石井▷捕逸＝船越▷試合時間＝2時間3分

心は古巣に飛んで

◎…昨年末、休部になった大昭和製紙北海道のナインが新しいチームに移って大活躍している。川崎製鉄神戸戦で完投した日本楽器の小磯投手や四国銀行戦で逆転二塁打を放った日産自動車の村上捕手らで「さすが、昨年準優勝チームの選手や」の声がネット裏から飛んだ。

一方、小磯、村上両選手、それに日楽の五番打者で、かつて大昭和北海道の主将だった大野選手らの気になっているのが、大昭和北海道野球部を復活させようという署名運動。

地元・白老町青年会議所などが「大昭和野球部は町にとって精神的なよりどころ」と、今年9月に署名運動を始め、町民の半分以上の1万4000人の署名を集め、10月29日にも大昭和製紙の幹部に野球部復活を陳情する。

▽10月25日

第1試合＝1回戦(午前9時1分開始)

大分鉄道管理局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本通運	0	1	0	0	0	1	0	1	X	3

▶審判(球審)松山(塁審)樫根、中西則、戸田

【大分鉄道局】

	打	安	点	振球
⑥ 前谷	4	0	0	0
⑧ 吉野高	3	0	0	0
8 屋田	1	0	0	0
③ 川辺良	4	1	0	0
④ 福荻	4	1	0	1
⑤ 小田	4	2	0	1
② 甲斐立	4	0	0	0
⑨ 東	4	1	0	0
⑦ 甲斐立	2	0	0	0
① 足藤本	3	1	0	1
1 藤本	0	0	0	0

犠	併	残
1	2	7

回	安	振	球	責
足立	7	6	3	0
藤本	1	2	0	1

【日本通運】

	打	安	点	振球
⑥ 望月	4	2	0	0
④ 金丸	3	2	1	0
⑤ 辻	3	0	1	1
⑧ 岡田	3	1	0	1
③ 牛島	3	1	0	0
大田垣	3	1	0	0
7 町田	3	0	0	0
⑨ 辻山	3	0	0	1
② 八木	2	1	0	0
① 加藤	3	0	0	0

犠	併	残
2	1	3

回	安	振	球	責
加藤	9	6	3	0

▷三塁打＝金丸▷二塁打＝東、金丸▷犠打＝大1(甲斐)日2(金丸、辻)▷失策＝大1(東)日2(望月、金丸)▷試合時間＝1時間55分

これで晴れて結婚式

◎…大分鉄道管理局の二番手ピッチャーに登場した藤本弘之投手は31日が結婚式。勝ち進んで決勝までいけば挙式に間に合わないし、勝たねばならぬし、と複雑な心境。「相手の両親も"試合の方に力を入れてくれ"と言っていますので」と試合に全力投球したが、幸か不幸か、敗退。「新郎のいない結婚式」という"最悪"事態は避けられた。

第2試合＝1回戦(午前11時30分開始)

王子製紙春日井	1	0	2	0	0	0	0	1	0	4
三菱重工広島	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3

▶審判(球審)森(塁審)吉田、前田、梶

【王子製紙】

	打	安	点	振球
⑧ 山内	5	1	0	1
⑥ 家根	3	1	0	0
③ 佐藤際	4	4	0	1
⑨ 山際	3	2	3	0
④ 森本	4	1	0	0
⑦ 小林	4	1	1	0
② 鈴木	4	0	0	1
① 新近	4	1	0	2
⑤ 藤	4	0	0	0

犠	併	残
1	1	6

回	安	振	球	責
新美	9	5	0	3

【三菱広島】

	打	安	点	振球
⑨ 伊藤	2	0	0	3
④ 金光木	5	0	0	0
③ 佐々木	4	0	0	1
⑤ 若富士野	4	1	1	0
⑧ 富士野	3	2	1	0
⑥ 植田	3	0	0	1
⑦ 荒谷	3	0	0	1
② 大定田	3	0	1	0
① 多田	1	1	0	0
H 村田	1	1	0	0
H 長谷川	1	1	0	0
1 池本	0	0	0	0

犠	併	残
1	11	10

回	安	振	球	責
疋田	4	5	2	1
村田	4	6	2	0
池本	1	0	0	0

▷本塁打＝若松1号(新美)▷二塁打＝佐藤、山際、疋田、富士野▷犠打＝王1(山際)三1(富士野)▷盗塁＝三1(富士野)▷失策＝三1(荒谷)▷試合時間＝2時間28分

第3試合＝1回戦(午後2時32分開始)

北海道拓殖銀行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川崎重工	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

▶審判(球審)加瀬(塁審)浜崎、本郷、小林加(外審)桂、桃田

【拓殖銀行】

	打	安	点	振球
⑧ 中尾	3	1	0	0
④ 高岡	4	3	0	0
⑥ 山本	5	0	0	1
⑦ 坂田	4	0	0	0
② 竹内	4	1	0	0
③ 大滝	4	1	0	0
R 大山田	0	0	0	0
3 水野	0	0	0	0
⑨ 横山	4	0	0	0
⑤ 海老名	3	0	0	0
① 中村明	2	0	0	0
H 蔵谷	1	0	0	0
1 中村弘	1	0	0	0

犠	併	残
1	2	6

回	安	振	球	責
中村明	7	2	1	0
中村弘	3⅓	3	2	1

【川崎重工】

	打	安	点	振球
⑨ 生田	5	1	0	0
⑥ 武市	4	2	0	0
④ 木村	3	1	0	1
⑧ 水江	3	0	0	2
② 浜田	5	1	1	0
⑦ 丸谷	3	0	0	1
③ 田中	3	0	0	1
⑤ 布川	3	0	0	1
① 長田	4	0	0	0

犠	併	残
2	1	9

回	安	振	球	責
長田	11	6	1	3

▷三塁打＝武市▷二塁打＝高岡、竹内▷犠打＝拓1(高岡)川2(武市、田中)▷盗塁＝拓1(中尾)▷失策＝拓1(山本)▷試合時間＝2時間38分

第4試合＝1回戦(午後5時41分開始)

九州産交	1	0	0	0	1	0	1	0	0	3
日鉄釜石	0	0	1	0	0	0	0	2	1	4

▶審判(球審)小林勉(塁審)桂、箕浦、桃田(外審)本郷、浜崎

【九州産交】

	打	安	点	振球
⑥ 東	4	1	0	0
⑦ 上田	4	0	1	0
④ 柿木	4	2	0	0
⑤ 二村	4	1	1	1
⑧ 久本	3	1	0	1
③ 原野	3	0	0	0
H3 江口	0	0	0	0
⑨ 田代	4	1	1	0
② 山本	4	3	1	0
① 西谷	1	0	0	0
H 杉野	1	0	0	0
1 二保	1	1	0	0
1 門倉	0	0	0	0

犠	併	残
1	1	5

回	安	振	球	責
西谷	4	3	3	2
二保	3⅔	4	2	0
門倉	1⅓	2	2	3

【新日鉄釜石】

	打	安	点	振球
⑧ 早瀬	3	1	0	1
④ 永野	4	3	1	0
③ 菊池	2	0	0	0
H3 日高	2	1	1	0
⑦ 若槻	4	1	0	1
⑨ 吉田	3	1	1	0
② 長田	3	0	0	1
⑥ 田沢	3	1	1	0
⑤ 平川	3	0	0	1
① 富樫	2	0	0	2
1 斉藤	2	1	0	1
R 佐々木	0	0	0	0

犠	併	残
5	3	11

回	安	振	球	責
富樫	6⅓	9	2	0
斉藤	2⅔	1	0	1

▷本塁打＝田代1号(富樫)山本1号(富樫)▷二塁打＝東、山本2、斉藤▷犠打＝九1(江口)釜5(永野、菊池、若槻、吉田、平川)▷失策＝九2(柿木、原野)▷試合時間＝2時間55分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

新日鉄堺＝ベスト4

浜崎 満重監督

(福岡・西日本短大付高監督、45歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

「二流の結束に自信」

30歳で監督を引き受けて4年目のチームでした。平均年齢は21歳未満。連日、ハードな練習で鍛え上げた。その年に都市対抗に出場し、その勢いで日本選手権も3年連続出場。ベスト4入りしたが、新日鉄堺の実績を刻む上で貴重な経験になった大会でした。

準決勝の日本通運戦は、思い出深い一戦です。九回、3点差を追いかけて、代打攻勢をかけた。控えだが、努力してきた樽口、山尾という選手が土壇場でチャンスをつくった。1点差に詰め寄り二死二、三塁まで食い下がった。敗れたものの選手にとって「二流のオレたちだって結束すれば一流チームとも互角に戦える」と自信をつかめました。

以後、都市対抗は4年連続、日本選手権は5年連続出場と、全盛時代を築いた。あのころの若手と切磋琢磨した情熱が今も高校生を育てるうえでの基礎になっています。

▽10月26日

第1試合＝1回戦（午前8時58分開始）

四国銀行	020	100	000	3
日産自動車	200	200	00X	4

▶審判（球審）木嶋（塁審）中西則、清水忠、原田

【四国銀行】		打	安	点	振	球
⑥	薬師神	4	1	0	1	0
⑤	森本	4	1	0	1	0
⑧	刈谷	3	0	0	2	1
③	阿部	3	1	0	0	1
⑨	西	2	0	0	0	2
⑦	小橋	2	0	0	0	0
②	沖田	4	1	2	0	0
①	山本	4	2	1	1	0
④	森	2	0	0	0	0
H	古谷	1	0	0	0	0
4	武内	0	0	0	0	0
H	浦林	1	0	0	0	0
犠併残	2 0 6	30	6	3	5	4

【日産自動車】		打	安	点	振	球
⑦	堀添	4	0	0	1	0
⑥	鈴木	4	0	0	0	0
④	杉山	3	0	0	1	1
⑨	鶴岡	4	3	2	0	0
②	村上	4	2	2	1	0
③	若山	2	0	0	2	0
3	東	0	0	0	0	0
⑤	米田	3	1	0	1	0
①	森岡	3	0	0	1	0
1	大石	0	0	0	0	0
⑧	萩原	3	1	0	1	0
犠併残	1 1 4	30	7	4	8	1

	回	安	振	球	責
山本	8	7	8	1	2
森岡	7	6	5	4	3
大石	2	0	0	0	0

▷本塁打＝鶴岡1号②（山本）▷二塁打＝沖田、村上、米田▷犠打＝四2（小橋2）日1（若山）▷盗塁＝四3（刈谷、阿部、沖田）日3（杉山、鶴岡、村上）▷失策＝四1（森本）日1（萩原）▷試合時間＝2時間26分

第2試合＝2回戦（午前11時54分開始）

新日鉄堺	010	201	012	7
王子製紙苫小牧	100	000	010	2

▶審判（球審）鶴田（塁審）中西則、長谷、森

【新日鉄堺】		打	安	点	振	球
⑥	浦東靖	5	4	3	0	0
④	花川	4	0	0	1	0
⑨	藤本公	4	1	0	0	0
⑤	清水	3	2	1	0	1
②	浦	4	1	2	1	0
⑦	中西	4	2	1	0	0
R7	山尾	0	0	0	0	0
③	浦東徳	3	0	0	1	0
①	萩原	4	0	0	2	0
⑧	西垣	4	1	0	1	0
犠併残	2 0 4	35	11	7	6	1

【王子製紙】		打	安	点	振	球
⑦	長沢	4	2	0	0	0
②	田中茂	3	0	0	1	0
2	山根	0	0	0	0	0
③	浜口	4	3	2	0	0
⑨	石井	3	1	0	0	1
⑤	佐々木稔	4	1	0	1	0
⑧	中村	0	0	0	0	0
8	菅野	2	0	0	0	0
H8	阿部一	2	0	0	0	0
④	千葉	2	0	0	1	0
H4	仏川	1	0	0	0	0
H	田中浩	1	0	0	1	0
⑥	佐々木一	3	0	0	1	0
H	桑原	0	0	0	0	1
R	山田	0	0	0	0	0
①	樋口	1	0	0	0	0
H	石田	1	0	0	0	0
1	大西	0	0	0	0	0
H	近藤	1	0	0	0	0
1	高橋	0	0	0	0	0
H	阿部高	1	0	0	0	0
犠併残	1 1 7	33	7	2	5	2

	回	安	振	球	責
萩原	9	7	5	2	2
樋口	5	4	3	1	3
大西	2	2	1	0	1
高橋	2	5	2	0	3

▷本塁打＝中西1号（樋口）浦1号②（樋口）浦東靖1号（高橋）▷二塁打＝浜口2、清水、長沢、浦東靖▷犠打＝堺2（花川、浦東徳）王1（田中茂）▷盗塁＝堺2（清水、西垣）王1（菅野）▷失策＝王1（田中茂）▷試合時間＝2時間31分

第3試合＝2回戦（午後2時57分開始）

松下電器	001	001	010	3
明治生命	000	000	000	0

▶審判（球審）加瀬（塁審）松山、広沢、東（外審）長谷、森

【松下電器】		打	安	点	振	球
④	野尻	5	4	0	0	0
⑧	磯本	2	0	0	0	0
⑦	篠崎	4	1	0	0	0
7	島田	1	0	0	0	0
⑨	前嶋	4	0	0	1	1
③	倉八	4	3	1	0	0
②	大本	3	2	0	0	1
⑤	奥代	3	2	1	0	0
①	北口	4	2	0	0	0
⑥	平谷	4	1	1	0	0
犠併残	4 1 10	34	15	3	1	2

【明治生命】		打	安	点	振	球
⑤	五十嵐	2	0	0	2	0
H	土方	1	0	0	0	0
5	中野	0	0	0	0	0
H	斧木	1	1	0	0	0
⑨	成島	3	1	0	0	0
⑥	藤光	4	1	0	0	0
③	森泉	4	0	0	1	0
⑦	石岡	3	0	0	1	0
⑧	国岡	3	0	0	1	0
④	斉藤	3	0	0	2	0
②	前嶋	1	0	0	1	1
H	片山	0	0	0	0	1
1	日野	0	0	0	0	0
①	松本	0	0	0	0	0
H	佐久間	1	0	0	1	0
1	竹内	0	0	0	0	0
H2	熊沢	1	0	0	0	0
犠併残	2 1 4	27	3	0	9	2

	回	安	振	球	責
北口	9	3	9	2	0
松本	6	9	0	2	2
竹内	2	5	0	0	1
日野	1	1	1	0	0

▷二塁打＝倉八▷犠打＝松4（磯本3、奥代）明2（成島、松本）▷盗塁＝明1（成島）▷暴投＝松本▷試合時間＝2時間28分

〔準決勝〕電電関東－ヤマハ発動機 七回表、ヤマハ発動機二死一、二塁、鈴木の左前打で二塁から上野が還り、先取点。

▽10月27日

第1試合＝2回戦（午前8時59分開始）

日本楽器	003	001	001	5
三菱重工三原	000	000	110	2

▶審判（球審）木嶋（塁審）鶴田、桃田、上杉

【日本楽器】		打	安	点	振	球
⑦	熊野	5	0	0	1	0
⑥	中山	5	2	0	2	0
⑧	内山	4	1	1	1	1
③	武居	3	1	0	1	2
⑤	大野	5	1	2	0	0
⑨	伊藤功	3	1	1	1	1
R	山本	0	0	0	0	0
9	小林	0	0	0	0	0
④	鈴木	4	2	0	0	0
②	佐藤	4	1	0	1	0
①	小磯	4	2	1	1	0
犠併残	0 0 9	37	11	5	8	4

【三菱三原】		打	安	点	振	球
⑦	渡辺	4	1	1	0	0
⑧	亀田	4	0	0	2	0
②	江藤	3	2	0	0	1
⑤	後藤	4	0	0	0	0
③	加藤	4	1	0	0	0
⑨	長岡	4	2	1	1	0
④	井本	2	0	0	1	0
H	久保	1	1	0	0	0
⑥	小泉	3	0	0	0	0
H	本藤	1	0	0	0	0
①	岡野	0	0	0	0	0
H	古谷	1	0	0	0	0
1	村上禎	2	0	0	2	0
1	明賀	0	0	0	0	0
犠併残	1 2 6	33	7	2	6	1

	回	安	振	球	責
小磯	9	7	6	1	2
岡野	3	6	3	2	3
村上禎	5⅔	5	5	2	2
明賀	⅓	0	0	0	0

▷本塁打＝渡辺1号（小磯）▷三塁打＝大野▷二塁打＝江藤、鈴木、小磯、長岡▷犠打＝三1（井本）▷盗塁＝日1（中山）三1（江藤）▷失策＝三1（江藤）▷試合時間＝2時間33分

第2試合＝2回戦（午後0時3分開始）

岩手銀行	000	100	00	1
日本通運	250	010	13	12

▶審判（球審）大橋（塁審）桂、箕浦、小林加

【岩手銀行】		打	安	点	振	球
③	佐々木俊	0	0	0	0	0
H3	上和野	2	0	0	0	0
H3	阿部啓	2	1	0	0	0
⑤	佐々木直	3	0	0	0	1
⑧	坂本	3	0	0	0	1
⑨	高橋	4	1	0	1	0
②	向井	3	1	1	0	0
⑦	阿部真	2	0	0	0	1
⑥	菊池	3	1	0	0	0
④	和田	2	1	0	0	0
H	藤原	1	0	0	0	0
4	新山	0	0	0	0	0
①	及川	0	0	0	0	0
1	小綿	2	0	0	0	0
H	伊東	1	0	0	0	0
1	船越	0	0	0	0	0
犠併残	0 0 6	28	5	1	1	3

【日本通運】		打	安	点	振	球
⑥	望月	2	0	0	1	2
H	柿沼	1	0	0	0	0
④	金丸	5	3	1	0	0
⑤	辻	5	3	5	0	0
⑧	岡田	4	2	4	0	1
③	牛島	4	2	1	1	0
⑦	大田垣	3	2	1	0	0
R7	町田	1	0	0	0	0
⑨	辻山	4	2	0	0	0
②	八木	2	0	0	0	0
H	大野	1	1	0	0	0
2	光野	0	0	0	0	0
①	玉田	3	1	0	1	0
H	久我	1	0	0	0	0
1	清水	0	0	0	0	0
犠併残	1 1 6	36	16	12	3	3

	回	安	振	球	責
及川	1⅔	6	3	2	7
小綿	5⅓	7	0	1	2
船越	⅓	3	0	0	3
玉田	7	4	0	2	1
清水	1	1	1	1	0

▷本塁打＝辻1号②（及川）岡田1号②（及川）2号②（船越）牛島1号（小綿）▷二塁打＝辻山、金丸2、高橋▷犠打＝日1（八木）▷盗塁＝日1（牛島）▷失策＝岩1（阿部真）▷試合時間＝2時間4分

第3試合＝2回戦（午後2時43分開始）

住友金属	120	103	000	7
王子製紙春日井	000	000	100	1

▶審判（球審）津田（塁審）山川、石渡、鹿多

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑧	西村	5	3	0	1	0
④	清水	2	0	1	0	0
H	佐藤	1	0	0	0	0
4	四田	1	0	0	0	0
③	筒井	5	1	0	0	0
⑨	栗山	4	1	0	1	1
②	嶋田	2	1	0	0	1
⑦	三好	3	1	3	0	0
⑤	松隈	4	3	0	0	0
⑥	田中	4	2	3	0	0
①	石井	4	0	0	1	0
犠併残	3 0 6	35	12	7	3	2

【王子製紙】		打	安	点	振	球
⑧	山内	4	1	0	0	0
⑥	家根	3	0	0	1	1
③	佐藤	3	0	0	0	0
⑨	山際	4	0	0	0	0
④	森本	4	0	0	0	0
⑦	小林	2	0	0	1	0
H7	金子	2	1	0	1	0
②	鈴木	3	2	0	0	1
①	新美	1	0	0	1	0
1	井上	0	0	0	0	0
H	棚橋	1	1	1	0	0
1	竜神	0	0	0	0	0
H	大橋	1	0	0	1	0
⑤	近藤	2	0	0	1	1
犠併残	2 0 7	30	5	1	6	3

	回	安	振	球	責
石井	9	5	6	3	1
新美	6	9	2	1	7
井上	1	1	0	1	0
竜神	2	2	1	0	0

▷本塁打＝田中1号②（新美）▷二塁打＝西村2、栗山、山内、三好▷犠打＝住3（清水、嶋田、三好）王2（佐藤、新美）▷盗塁＝住2（西村、松隈）▷失策＝王1（小林）▷試合時間＝2時間14分

▽10月28日

第1試合＝2回戦（午前8時53分開始）

川崎重工	000	010	000	1
電電関東	010	010	00X	2

▶審判（球審）小林勉（塁審）中西則、生越、框

【川崎重工】		打	安	点	振	球
⑨	生田	4	3	0	0	0
⑥	武市	3	0	0	0	0
④	木村	4	1	0	0	0
⑧	水江	4	0	0	1	0
②	浜田	3	0	0	2	0
H	片岡	1	0	0	1	0
⑦	丸谷	3	1	0	1	0
③	田中	1	0	0	0	0
H3	中村	1	0	0	1	0
⑤	布川	3	1	1	1	0
①	長田	2	1	0	1	0
1	畠山	0	0	0	0	0
H	西森	1	0	0	1	0
1	前田	0	0	0	0	0
犠併残	2 1 4	30	7	1	9	0

【電電関東】		打	安	点	振	球
④	浅田	3	0	0	0	1
⑦	加藤	4	2	1	1	0
7	伊東	0	0	0	0	0
⑨	中野	4	1	0	1	0
③	長井	4	2	0	0	0
⑤	坂本照	3	0	0	0	0
⑥	渡辺	3	1	0	1	0
⑧	片山	3	1	1	1	0
②	宮崎	3	1	0	1	0
①	市村	2	0	0	0	0
犠併残	1 2 5	29	8	2	5	1

	回	安	振	球	責
長田	6	8	3	1	2
畠山	1	0	0	0	0
前田	1	0	2	0	0
市村	9	7	9	0	1

▷本塁打＝片山1号（長田）▷犠打＝川2（武市、田中）電1（市村）▷失策＝川1（布川）▷試合時間＝1時間47分

第2試合＝2回戦(午前11時17分開始)

日本生命	0	0	2	0	0	0	0	2	0	4
新日鉄釜石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)山川(塁審)広沢、森、戸田

【日本生命】

	打	安	点	振	球
⑧ 安西	5	1	0	1	0
⑤ 花野	5	2	0	0	0
⑦ 楠原	4	2	2	0	0
③ 佐藤	4	2	1	1	0
⑨ 内田	3	0	0	0	1
④ 赤井	3	2	1	0	1
② 佐竹	4	0	0	0	0
⑥ 井尻	4	1	0	0	0
① 加藤	3	0	0	0	1

犠 併 残
0 0 7

【新日鉄釜石】

	打	安	点	振	球
⑧ 早瀬	4	0	0	0	0
④ 永野	3	1	0	1	1
③ 菊池	3	0	0	1	0
H 3 日高	1	0	0	0	0
⑦ 若槻	4	0	0	0	1
⑨ 吉田	2	1	0	1	1
H ② 大長田	1	0	0	0	0
⑥ 田沢	4	1	0	0	0
⑤ 平川	1	0	0	1	0
H 5 谷平	1	0	0	0	0
① 富樫	0	0	0	0	0
H 1 斉藤	0	0	0	0	0

犠 併 残
1 2 7

	回	安	振	球	責
加藤	9	5	6	2	0

	回	安	振	球	責
富樫	8	9	2	3	4
斉藤	1	1	0	0	0

▷三塁打＝富樫 ▷二塁打＝花野、佐藤 ▷犠打＝新1(平川) ▷盗塁＝日3(安西、楠原、赤井) ▷失策＝新1(長田) ▷試合時間＝2時間24分

第3試合＝2回戦(午後2時14分開始)

日産自動車	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3
ヤマハ発動機	3	0	0	0	0	0	0	0	1	4

▶審判(球審)松山(塁審)吉田、大橋、津田

【日産自動車】

	打	安	点	振	球
⑦ 堀添	4	1	0	1	0
⑥ 鈴木	3	0	0	0	0
④ 杉山	4	0	0	2	0
⑨ 鶴岡	4	2	0	1	0
② 村上	3	1	1	1	1
③ 若山	4	2	2	1	0
⑤ 荻野	1	0	0	0	0
5 米田	2	0	0	0	0
① 池田	0	0	0	0	0
1 大石	1	0	0	0	0
H 白鳥	1	0	0	1	0
1 関根	1	0	0	0	0
⑧ 萩原	1	0	0	0	0
H 8 大塚	2	0	0	0	0
8 上原	0	0	0	0	0

犠 併 残
2 0 4

【ヤマハ】

	打	安	点	振	球
④ 山本秀	4	2	0	0	0
⑥ 矢田	3	0	0	0	1
⑦ 水江	4	0	0	2	0
⑧ 中本	3	0	0	0	1
③ 馬場	3	1	1	0	1
⑨ 野口	3	1	1	0	0
⑤ 上野	4	2	0	0	0
② 山本常	3	0	0	1	0
① 鈴木	3	0	0	1	0
H 山本和	1	1	1	0	0

犠 併 残
1 0 7

	回	安	振	球	責
池田	3/3	3	1	1	2
大石	3 1/3	1	1	0	0
関根	4 1/3	3	1	3	1

	回	安	振	球	責
鈴木	9	6	7	1	3

▷本塁打＝若山1号(鈴木) ▷二塁打＝山本秀、鶴岡、村上 ▷犠打＝日2(鈴木、米田)ヤ1(野口) ▷盗塁＝ヤ1(山本秀) ▷失策＝日1(荻野)ヤ1(中本) ▷試合時間＝2時間28分

▽10月29日

第1試合＝準々決勝(午前8時56分開始)

新日鉄堺	2	0	3	3	0	0	1	0	0	9
松下電器	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2

▶審判(球審)木嶋(塁審)桂、長谷、東

【新日鉄堺】

	打	安	点	振	球
⑥ 浦東靖	6	3	0	0	0
⑧ 西垣	5	3	1	0	0
⑨ 藤本公	3	0	0	0	1
⑤ 清水	4	0	0	3	0
② 浦	3	1	3	0	2
⑦ 中西	4	2	2	1	0
7 山尾	0	0	0	0	0
③ 浦東徳	5	1	2	2	0
① 中川	5	2	1	0	0
④ 花川	5	2	0	0	0

犠 併 残
3 0 10

【松下電器】

	打	安	点	振	球
④ 野尻	4	1	0	0	0
⑧ 磯本	3	0	0	1	0
H 8 島田	3	0	0	1	0
⑦ 篠崎	4	1	1	0	0
⑨ 前嶋	3	1	0	0	0
9 荒木	3	1	0	0	1
③ 八木	4	1	1	0	0
② 大奥北	3	1	0	1	0
⑤ 口原	1	0	0	0	0
1 安蒜	0	0	0	0	0
H 1 北野	1	0	0	0	0
1 岡林	0	0	0	0	0
H 1 長谷部	1	0	0	0	0
⑥ 平谷	3	0	0	0	0

犠 併 残
0 0 3

	回	安	振	球	責
中川	9	5	3	0	2

	回	安	振	球	責
北口	2 2/3	5	2	2	5
原	1	4	1	0	3
安蒜	1 1/3	2	1	1	0
岡本	3	2	1	1	1
長谷部	1	1	1	0	0

▷二塁打＝西垣、浦東徳、前嶋 ▷犠打＝堺3(藤本公、清水、中西) ▷盗塁＝堺1(花川) ▷失策＝松2(野尻、平谷) ▷暴投＝長谷部 ▷捕逸＝大本 ▷試合時間＝2時間26分

第2試合＝準々決勝(午前11時52分開始)

日本楽器	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
日本通運	0	0	0	4	0	1	0	0	X	5

▶審判(球審)山川(塁審)浜崎、河島、岸野

【日本楽器】

	打	安	点	振	球
⑦ 熊野	3	0	0	1	1
⑥ 中山	4	0	0	0	0
⑧ 内山	4	0	0	2	0
③ 居野	4	2	0	0	0
⑤ 大小	4	2	1	0	0
④ 鈴林	4	2	1	0	1
② 佐藤	3	2	1	1	0
H 2 秋川	1	0	0	0	1
① 小磯	1	0	0	0	0
1 中村	0	0	0	0	0
H 1 伊藤	0	0	0	0	0
1 鍋屋	0	0	0	0	0
H 高久	0	0	0	0	0
山本	1	0	0	0	0

犠 併 残
1 0 7

【日本通運】

	打	安	点	振	球
⑥ 望月	3	1	0	0	0
④ 金丸	4	2	0	1	0
⑤ 辻	4	1	0	0	0
⑧ 岡田	4	1	4	1	0
③ 大島	3	2	0	0	1
7 町田	3	0	0	1	0
H ⑨ 辻八	2	0	0	0	0
② 山木	2	3	1	0	0
① 加藤	3	2	1	0	0

犠 併 残
1 2 4

	回	安	振	球	責
小磯	5	6	2	1	4
中村	1	1	1	1	1
鍋屋	1 1/3	2	0	0	0
高久	2/3	0	0	0	0

	回	安	振	球	責
加藤	9	8	3	3	2

▷本塁打＝岡田3号④(小磯) ▷二塁打＝武居、辻山、加藤、辻、鈴木 ▷犠打＝楽1(小磯)通1(望月) ▷盗塁＝楽1(小林) ▷試合時間＝2時間9分

第3試合＝準々決勝(午後2時32分開始)

住友金属	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
電電関東	1	2	0	0	0	0	0	0	X	3

▶審判(球審)鶴田(塁審)森、鹿多、生越

【住友金属】

	打	安	点	振	球
⑧ 西村	2	0	0	0	1
④ 四田	4	1	0	0	0
③ 筒井	3	1	0	0	0
H 3 中原	1	0	0	0	0
⑨ 栗山	3	0	0	0	1
② 嶋田	3	0	0	1	0
⑦ 三好	4	2	1	0	0
⑤ 松隈	3	0	0	0	1
⑥ 田中	3	0	0	0	0
① 小杉	3	0	0	0	0
1 高橋	0	0	0	0	0
H 1 児石	1	1	0	0	0
井	2	1	0	0	0

犠 併 残
2 0 6

【電電関東】

	打	安	点	振	球
⑨ 中野	2	1	2	0	1
④ 浅田	3	2	0	0	0
⑤ 坂本照	4	1	1	1	0
③ 長井	4	0	0	1	0
⑧ 片山	4	0	0	0	0
⑦ 加藤	3	0	0	0	0
7 渡辺	1	0	0	0	0
⑥ 中後	2	0	0	1	1
① 宮崎	2	1	0	0	1

犠 併 残
2 1 6

	回	安	振	球	責
小杉	1 2/3	1	0	3	3
高橋	1/3	2	0	0	0
石井	6	2	4	2	0

	回	安	振	球	責
中後	9	5	1	3	1

▷本塁打＝坂本照1号(小杉)三好1号(中後) ▷犠打＝住2(西村、嶋田)電2(中野、浅田) ▷盗塁＝住1(児嶋) ▷暴投＝小杉 ▷試合時間＝2時間

思わぬ立ち上がり

㊀…住友金属は、このところ力をつけ、調子を上げている左腕の小杉が先発した。しかし、小杉は思いもしない制球難。高橋をはさんで今夏の都市対抗野球で橋戸賞(最高殊勲選手賞)を獲得した石井投手を三回から繰り出したが、立ち上がりの失点が響いて都市対抗に続く選手権優勝は"夢"で終わった。「都市対抗の優勝戦のときと同じくらい気合がはいった」と石井。そのことば通り三回以後、2安打、2四球だけで電電関東に追加点を許さなかったが、負けては言葉も弾まなかった。

第4試合＝準々決勝(午後5時5分開始)

日本生命	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
ヤマハ発動機	0	2	0	0	0	0	0	0	X	2

▶審判(球審)中西明(塁審)樫根、吉田、小林勉(外審)桃田、生越

【日本生命】

	打	安	点	振	球
⑧ 7 安西	4	0	0	0	0
⑤ 花野	3	1	0	0	1
⑦ 楠原	3	0	0	1	1
R 8 森	0	0	0	0	0
③ 佐藤	4	0	0	2	0
⑨ 内田	4	2	0	0	1
④ 赤井	3	0	0	1	0
② 佐竹	3	1	0	0	0
⑥ 井伊	3	0	0	1	0
① 三枝	1	0	0	1	0
H 1 加藤	0	0	0	0	0
H 鍛治本	1	0	0	0	0

犠 併 残
1 0 8

【ヤマハ】

	打	安	点	振	球
④ 山本秀	4	1	0	0	0
⑥ 矢田	4	0	0	3	0
⑦ 水江	4	0	0	1	0
⑧ 中本	3	1	0	0	0
③ 馬場	3	1	0	2	0
⑨ 野口	3	1	0	0	1
⑤ 上野	3	2	1	0	0
② 山本常	2	0	1	0	0
① 高見	2	0	0	1	0
1 山本賀	1	0	0	0	0

犠 併 残
2 0 4

	回	安	振	球	責
伊藤	6	3	5	1	2
加藤	2	2	2	0	0

	回	安	振	球	責
高見	7 2/3	4	5	3	0
山本賀	2	0	3	0	0

▷二塁打＝中本、上野2、佐竹 ▷犠打＝日1(井尻)ヤ2(野口、山本常) ▷盗塁＝日1(赤井)ヤ1(山本秀) ▷失策＝ヤ2(山本秀、矢田) ▷試合時間＝2時間20分

▽10月30日

第1試合＝準決勝(午前10時57分開始)

新日鉄堺	0	0	0	0	1	1	0	0	2	4
日本通運	0	3	0	0	1	0	0	1	X	5

▶審判(球審)山川(塁審)鶴田、樫根、森

【新日鉄堺】

	打	安	点	振	球
⑥ 浦東靖	4	0	1	0	0
④ 花川	5	2	1	1	0
⑨ 藤本政	0	0	0	0	0
H 9 米倉	5	3	1	0	0
R ② 藤本公	0	0	0	0	0
⑦ 中西	5	2	0	0	0
⑤ 清水	4	3	0	1	1
③ 浦東徳	4	2	1	0	1
① 萩原	3	1	0	0	0
1 下村	0	0	0	0	0
1 九鬼	0	0	0	0	0
H R ⑧ 西垣	1	0	0	0	0
H 山尾	3	0	0	0	0

犠 併 残
3 0 9

【日本通運】

	打	安	点	振	球
⑥ 望月	4	0	0	0	0
④ 金丸	4	0	0	1	0
⑤ 辻	4	3	0	1	0
⑧ 岡田	3	2	0	0	1
③ 大島	3	1	1	0	1
7 町辻	3	1	1	0	0
H 9 横八	3	1	1	1	0
② 木	2	0	1	1	0
① 加藤	3	1	0	0	0

犠 併 残
2 0 5

	回	安	振	球	責
萩原	7 2/3	8	4	2	4
下村	1/3	1	0	0	0
九鬼	2/3	0	0	0	0

	回	安	振	球	責
加藤	9	11	6	1	4

▷三塁打＝久我 ▷二塁打＝加藤、牛島、米倉 ▷犠打＝堺3(浦東靖、清水、浦東徳)日2(牛島、八木) ▷盗塁＝日1(辻) ▷失策＝堺1(米倉)日1(望月) ▷試合時間＝2時間25分

日通速攻、加藤が死守

日本通運・加藤が打線の援護を受け、3連続完投勝利を飾った。日本通運は二回、岡田が左前打、一死後、町田が右前打し右翼手が後逸する間にまず1点。久我の右中間三塁打と八木のスクイズで計3点を先取した。町田の安打はヒット・エンド・ランがかかっており、積極的な走塁が右翼手のミスを誘った。

五回にも辻、牛島の長短打で加点して新日鉄堺の反撃の勢いを削ぎ、八回一死二、三塁から代打・辻山の遊ゴロで貴重な追加点を挙げた。

新日鉄堺も激しく追い上げた。五、六回にそれぞれ連打で無死一、三塁とし五回は犠飛、六回はスクイズで1点ずつ返した。九回は一死後、代打・樽口の左前打、代打・山尾の中前打で一、二塁。二死後、花川の中前適時打で1点を返し、米倉の左翼線二塁打で1点差とした。しかしなお二、三塁の逆転機は加藤に抑えられ、惜敗した。

第2試合＝準決勝(午後1時54分開始)

ヤマハ発動機	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
電電関東	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

▶審判(球審)中西明(塁審)松山、大橋、小林勉

【ヤマハ】

	打	安	点	振	球
④ 山本秀	3	1	1	0	1
⑥ 矢田	4	1	0	0	0
⑦ 水江	4	0	0	1	0
⑧ 中本	4	1	0	1	0
③ 馬場	3	1	0	1	0
⑨ 野口	4	0	0	1	0
⑤ 上野	4	1	0	0	0
② 山本常	4	2	0	0	0
① 鈴木	3	1	1	0	0

犠 併 残
1 0 6

【電電関東】

	打	安	点	振	球
⑨ 中野	4	1	0	0	0
④ 浅田	3	0	0	0	0
⑤ 坂本照	4	0	0	0	0
③ 長井	4	0	0	0	0
⑧ 片山	4	0	0	1	0
⑦ 加藤	3	2	0	0	0
⑥ 渡辺	3	2	1	0	0
② 宮崎	2	0	0	0	0
2 安部	1	0	0	0	0
① 市村	3	0	0	0	0

犠 併 残
1 0 4

	回	安	振	球	責
鈴木	9	5	1	0	1

	回	安	振	球	責
市村	9	8	4	1	2

▷二塁打＝山本常、渡辺 ▷犠打＝ヤ1(馬場)電1(浅田) ▷盗塁＝ヤ1(中本)電1(加藤) ▷試合時間＝2時間7分

ベテラン同士の投手戦、鈴木に軍配

32歳の鈴木と31歳の市村。ベテラン投手の投げ合いとなった。ヤマハ発動機は三回無死で山本常が左中間二塁打、四回には先頭の中本が三塁強襲安打。電電関東も一回無死、中野が中前打、五回は加藤、渡辺の短長打で一死二、三塁と再三、好機をつくったが、両投手のベテランらしい落ち着いた投球に後続を断たれた。

鈴木は落ちる球を武器に打者の打ち気を読んで巧みな配球。市村は右打者の内角を速球、シュートで思い切りよくついてから外角を生かす。二人とも制球がよく、甘い球がなかった。

均衡を破ったのはヤマハの鈴木。七回二死後、上野、山本常の連打後、左前適時打を放って先制点を挙げた。さらに山本秀の三遊間安打で加点。その裏、電電関東は二死から加藤が遊撃内野安打して二盗。渡辺の二塁手右を襲う安打の間に加藤が好走して生還。1点差に詰め寄ったが、後続が鈴木の落ちる球にかわされた。

▽10月31日

優勝戦（午後0時57分開始）

ヤマハ発動機	0	3	0	0	0	0	0	0	3
日本通運	0	0	0	1	0	0	0	0	1

▶審判（球審）山川（塁審）中西明、木嶋、津田

【ヤマハ】	打	安	点	振	球
④ 山本秀	4	1	2	0	0
⑥ 矢田	3	1	0	1	1
⑦ 水江	4	0	0	1	0
⑧ 中本	4	0	0	0	0
③ 馬場	4	2	0	1	0
⑨ 野口	4	1	1	0	0
⑤ 上野	2	0	0	0	1
② 山本常	2	1	0	0	0
① 鈴木	1	0	0	1	0
H 相磯	1	1	0	0	0
1 山本賀	1	0	0	0	0

【日本通運】	打	安	点	振	球
⑨ 久我	4	1	0	0	0
④ 金丸	4	0	0	1	0
⑤ 辻	4	2	0	0	1
⑧ 岡田	3	0	0	2	1
③ 牛島	4	0	0	1	0
⑥ 望月	4	1	0	1	0
⑦ 大田垣	4	1	0	0	0
② H 光野	3	2	0	0	0
① H 町田	1	1	0	0	0
1 H 玉安	1	1	0	0	0
R 清水	1	0	0	0	0
1 H 大横	1	0	0	0	0
R 加藤	0	0	0	0	0
1 H 辻山	1	0	0	1	0

	犠	併	残
	1	0	3
	3	0	5
	3	5	2

	回	安	振	球	責
鈴木	4	6	2	1	1
山本賀	5	3	4	0	0

	回	安	振	球	責
玉田	4	3	4	2	3
清水	3	1	0	0	0
加藤	2	1	1	0	0

	犠	併	残
	0	1	8
	3	5	9
	1	6	1

▷二塁打＝野口、山本秀 ▷犠打＝ヤ1（上野）▷盗塁＝日2（辻2）▷試合時間＝2時間40分

ヤマ発、好継投で逃げ切る

ヤマハ発動機は連投のベテラン・鈴木を押したて、日本通運はエース・加藤を温存し、20歳の玉田が先発。ヤマ発が先手を取って好継投で逃げきった。

ヤマ発は二回、先頭の馬場が一、二塁間安打。野口が左越え二塁打を放ち、先制した。さらに上野が送り、山本常死球で一、三塁。鈴木三振後、山本秀が左越えに二塁打して2走者を迎え入れた。

3点のリードで鈴木の投球が生きた。四回まで6安打を許しながらも、カーブ、速球を低めに投げ分け、四回の1点だけで山本賀につないだ。山本賀は鋭く変化するカーブを有効に使って、ロングリリーフに成功した。

日本通運は四回、大田垣、光野、安楽が3連打して1点を返しただけ。満塁を含む3本塁打を放っている主砲・岡田が抑えられたのが響いた。岡田にはチャンスが3回あったが、中でも惜しまれるのは八回。一死後、辻が左翼フェンス直撃の安打で出塁したが、フルカウントから内角低めに決まったスライダーを見送って三振に倒れた。

監督談話

ヤマハ発動機・望月教治監督　鈴木の好投に尽きる。それに山本賀も予想どおり投げてくれた。優勝戦に関して言えば、3、4点勝負と踏んでいたが、二回にいきなり3点を先制できて、いい試合運びをすることができた。

日本通運・中村国勝監督　9安打が出たのだから、打てなかったわけではない。しかし五回から代わったヤマハの山本賀投手は徹底して低めにボールを集め、決定打が出なかった。ヤマハには初陣の勢いがあった。私にも選手たちにもいい勉強になった優勝戦だった。

監督ひと　ヤマハ発動機　望月 教治監督

創部2年余で「社会人野球日本一」一強運というべきだろう。「混成のチームだけに1年目が勝負。その狙いどおりに選手がよくやってくれました」

休部した大昭和製紙からの移籍組を中心に据えての快進撃。「彼らベテランと生え抜きの選手とは、うまい具合に力も年齢も開いていて…」。さりげなく言うが、両者の融和や選手集めにみせた手腕は年齢の深みを感じさせる。

きらびやかな球歴である。静岡商高一専修大一熊谷組の現役を通じて主に遊撃手。1952年センバツ優勝、大学では4回優勝、都市対抗には補強も含めて6年連続出場、60年には「黒獅子旗」に輝く。監督経験も豊かだ。専修大を3年率いてリーグ制覇2回と大学選手権1回、社会人チームを経て静岡商高を8年間指導、春夏3回甲子園へ。80年ヤマハ発動機初代監督に就任した。

「長い野球生活だが『悔やまず、憂えず、惑わず』で、気持ちの切り替えは早いほうです。ほとんどのプレーは忘れ去った中で『野球はこわい』と思ったシーンがただ一つ」。熊谷組で優勝した年の準決勝。1点リードで迎えた最終回に無死満塁のピンチ。三塁を守っていたが、ひざが動かず、打球が来ないことを祈るのみ。結局、三者三振だったが…。

「社会人野球は選手にやる気を起こさせることが主眼。高校生には監督の力がそのまま反映するので、一番面白い」。大石（近鉄）、久保寺（南海）らを育ててきた。

いまも高校野球をよく見る。「ひたむきなところがいいんです」。その一途さを共有するため静岡商高監督のときに禁煙した。望月監督は守り中心、高校を原点にするが、目標は一段と高くなった。「次は都市対抗で優勝したいですね」　（丸山　雅勇）

初優勝を飾り、ダイヤモンド旗を先頭に行進するヤマハ発動機チーム。

連投鈴木、気力の先発

—ヤマ発ナイン奮起

熱球

閉会式で最高殊勲選手賞にヤマハ発動機・鈴木投手が告げられると、マウンド付近に整列していたナインが「ワー」と大声を上げ、鈴木の方を向いて大きな拍手を贈った。この一瞬の光景が、ヤマハ発動機初優勝のすべてを物語っていた。

ヤマ発の望月監督は前日、「優勝戦で鈴木を投げさせるのは気の毒だ。もう限界を超えているから」と鈴木登板に気遣いを見せていた。だが大一番に先発を任せられるのは、やはり32歳のベテラン・鈴木でしかなかった。これで3試合目の鈴木はだれの目から見ても、疲れがありありと見え、気力だけで持っていた。

四回、1点を失って鈴木の緊張の糸が切れたのを見てとった望月監督は「ご苦労さん」の一声をかけ、五回から対日本生命戦で好救援を演じた山本賀をマウンドに送った。

鈴木をたてて必勝を期したヤマ発に対して当然、エース加藤と思われた日本通運は、控えの玉田を先発させた。玉田は対岩手銀行戦で好投しており、次のエースなのだから、日通の投手起用に誤りがあったとは言えない。日通の中村監督は「加藤は体がバラバラだったので、玉田を先発させた」とヤマ発を甘く見たのではないことを強調した。

しかし、投手起用が両チームのナインの士気に微妙な影響を与えたことはまぎれもないことだろう。望月監督は「加藤君が先発してこなかったときに、優勝できると確信した」という。

どうひいき目に見ても日通が六分四分、あるいは七分三分で有利だった。現に両チームがオープンゲームをしたときは、日通が完膚なきまでにヤマ発を打ちのめしている。だがデータはあくまでデータでしかなかった。こんな大試合ではデータ以外のプラス・アルファが働く。山本賀の好救援がその一つだった。力では上の、しかも、当たっている岡田を2打席連続三振に仕留めた。「鈴木さんが頑張っているのだから、僕らも、の気持ちで投げた」と山本賀は言う。

移籍した選手たちの1年目の活躍は期待して間違いないとよく言われる。今夏の都市対抗でいきなりベスト8になった時から、望月監督はひそかに「ダイヤモンド旗」を狙い、その野心を見事に成就させた。鈴木をはじめ大昭和製紙から移籍の選手が中軸を成して初優勝を飾ったヤマ発の新しい歴史はいま、始まった。中軸の選手たちが、ヤマ発生え抜きのこれからの歴史を刻む、若手選手に得がたい教訓を残したのである。

（相馬　卓司）

第９回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　鈴木政明投手**(ヤマハ発動機)　３試合、22回投げて自責点５、うち２試合完投。右上手投げからコーナーいっぱいに投げ、変化球を巧みに操る。勝山高(岡山)から社会人野球の名門、大昭和製紙に入社、都市対抗のほか全日本チームの大黒柱として活躍。大昭和製紙野球部が休部となったため、1982年２月ヤマハ発動機入社。32歳、183㌢、82㌔、右投げ右打ち。

◇**敢闘賞　加藤正次投手**(日本通運)　４試合、29回を投げて自責点６、防御率1.86。日本通運のマウンドを支えた。千葉・勝浦高から専大に進み、東都大学リーグでは２勝しただけ。社会人になって力をつけたが、２年目の1981年春、全国東京大会の１回戦で神戸製鋼を２安打完封して自信をつけた。左腕からカーブ、シュート、シンカーを駆使、打者の打ち気をそらしてうまい投球をする。25歳。176㌢、65㌔。左投げ左打ち。

◇**打撃賞　辻発彦三塁手**(日本通運)　５試合、20打数10安打６打点、５割。初戦の対大分鉄道局戦は無安打だったが、２回戦の対岩手銀行戦の第１打席に本塁打を打ってから調子に乗り、以後、毎試合、チャンスメーカーになり、あるいは得点源になる活躍だった。佐賀東高から日本通運に入社して６年目。高校時代から三塁手で、年ごとに実力を伸ばし社会人３年目でレギュラーポジションを確保。シュアな打撃の持ち主で、早いカウントからでも甘い球を逃さず積極的に打っていく。ベース一周14秒そこそこの俊足で、守備範囲も広い。24歳。181㌢、74㌔。右投げ右打ち。

◇**大会優秀選手**

【投手】鈴木政明(ヤマハ発動機)加藤正次(日本通運)市村則紀(電電関東)石井毅(住友金属)萩原孝治(新日鉄堺)小磯健次(日本楽器)北口勝久(松下電器)　**【捕手】**山本常義(ヤマハ発動機)八木孝治(日本通運)村上忠則(日産自動車)　**【内野手】**牛島浩彰(日本通運)長井秀夫(電電関東)山本秀樹(ヤマハ発動機)金丸昭彦(日本通運)野尻正博(松下電器)辻発彦(日本通運)大野敏彦(日本楽器)上野貴士(ヤマハ発動機)浦東靖(新日鉄堺)田中祐司(住友金属)　**【外野手】**岡田吉富(日本通運)熊野輝光(日本楽器)鶴岡昌宏(日産自動車)三好一幸(住友金属)野口恭弘(ヤマハ発動機)

開幕前話題

心は“若獅子”ベテラン２人

35歳、代打の切り札 ――― 32歳、移籍で花開く

「まだまだ現役です」と張り切る江口選手

九州産交　江口明信選手

「ただひたすら野球が好きなんですわ。それだけかも知れんですタイ」

田舎の農夫を思わせるヌーボーとした面立ち。西日本の社会人野球界の最年長現役選手、九州産交(熊本)の江口明信選手(35)である。強打線をもって鳴る九州産交で一昨年まで主砲(四番)の座に君臨、その後も助監督のかたわら代打の切り札としてますます活躍する大ベテランだ。

熊本県立済済黌高から中央大へ。卒業後郷里の九州産交に入社して13年目。

長持ちの秘けつは？「秘けつなんてないですよ。大きな病気やケガがなかっただけ。それにウチの場合、伸びかかってきた若手の退部やプロ入りで、結局腰を据えざるをえない感じもあって」。

長寿選手ではあるが、練習は100%燃焼の全力投球。バッティング投手を買って出たりして「力を落とさないために、力を出しきる」ことを心掛けている。

13年間の通算平均打率、２割８分。ホームラン約40本。代打中心の現役選手生活ながら、９月の日本選手権九州予選では５打数３打点の大活躍だった。

「昔の仲間や友達がよく言うとですよ。まだやっとんか、お前、とね。そんな激励を受けてもいるんですから、こうなりゃとことんがんばりたいですね。」。チームと同じく、３年連続６回目の日本選手権。年には全くこだわらず、最年長選手は若獅子さながらのファイトで直前の練習に力こぶ、である。

ヤマハ発動機　鈴木政明投手

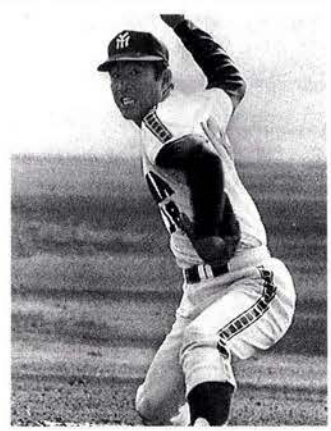
都市対抗、日本選手権に初出場。創部２年目にして日本楽器、河合楽器と強豪のそろう中部地区で、早くも社会人野球の二つのメーン大会出場を獲得したヤマハ発動機にとって、今年は「全国に飛躍した」記念すべき年である。

そのヤマハ発の大黒柱が、エースの鈴木政明投手(32)だ。昨年末、休部した大昭和製紙からの移籍組の１人だが、都市対抗の予選に続いて、日本選手権の予選も、社会人野球界では高齢の部類に入る32歳とは思えぬ獅子奮迅のピッチングを見せた。１回戦の北陸銀行を２安打の完封に退け、翌日の代表を決める準決勝・関東自動車戦も先発。大量８点のリードで勝利を見届けてから、８回、若手にマウンドを譲った。ヤマハ発動機には、若い投手はたくさんいるが「なんといっても大事な時には鈴木しかいません」(望月監督)という。

国内大会ばかりではない。今年は初めて全日本代表に選ばれ、ソウルで開かれた世界選手権に出場。社会人を代表する並み居る投手たちをしり目に、全日本のエースとして大活躍した。

「いったいどうなっているんでしょうね。自分でも分かりませんよ」と32歳にしてつかんだ“いいことずくめ”に首をひねる。もともと素質は十分にあった。その素質と努力とがかみ合い、新生ヤマハ発動機に出合って、ようやく花開いた。

「今年最後の大会。都市対抗では１勝することが目標だったが、日本選手権はできれば優勝したいですね。」



ヤマハ発動機へ移籍、投の大黒柱として活躍した鈴木投手

第9回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月11日から　5日間　　札幌市営円山球場

東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽一回戦　全弘前倶９－３三菱製紙八戸、八戸市水道部14－０オール青森▽**準決勝**　八甲ク４－３全弘前倶、八戸市水道部１－０自衛隊青森▽**決勝**　八戸市水道部９－１八甲ク（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**▽一回戦　福高ク７－３一関三星、オール不来方５－１雫石ク、北上球友14－７オール軽米、宮城建設久慈ク14－11オール江刺、オール釜石（不戦勝）花北ク、九戸ク６－５盛友ク、釜石野球団11－４オール宮古、花友ク５－３水工ク▽二回戦　県経済連４－３福高ク、水沢駒形ク９－１オール釜石、岩手銀行11－３北上球友、新日鉄釜石10－０オール不来方、小野田セメント10－１宮城建設久慈ク、アイワ９－０九戸ク、盛岡鉄道管理局８－３花友ク、釜石野球団11－９東京製綱▽**準々決勝**　県経済連７－１水沢駒形ク、新日鉄釜石11－０アイワ、岩手銀行８－４小野田セメント、盛岡鉄道管理局11－１釜石野球団▽**準決勝**　新日鉄釜石３－０県経済連、岩手銀行３－０盛岡鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　新日鉄釜石３－０岩手銀行

◇**秋田**▽一回戦　秋田鉄道管理局９－２秋商ク、東北球友会１－０秋田銀行、ＴＤＫ８－１秋田経大校友ク▽**準決勝**　秋田相互銀行５－３秋田鉄道管理局、ＴＤＫ７－６東北球友会▽**決勝**　秋田相互銀行11－２ＴＤＫ（勝者は第二次予選へ）

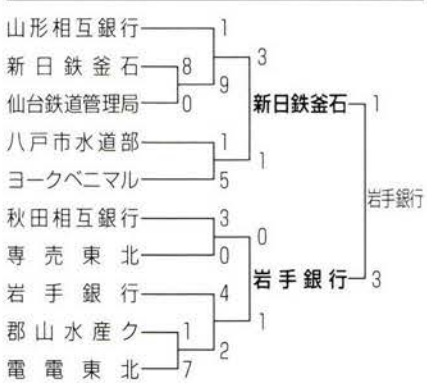
◇**宮城**▽一回戦　仙台鉄道管理局５－１六軒丁ク、電電東北12－０村田ク、専売東北（不戦勝）白石ク▽**準々決勝**　仙台鉄道管理局16－０白山ク、電電東北８－０三ツ島ク、七十七銀行12－３サニーク、専売東北（不戦勝）仙台Ｒク▽**決勝リーグ**　仙台鉄道管理局３－１七十七銀行、電電東北５－３専売東北、電電東北10－１七十七銀行、専売東北１－０仙台鉄道管理局、専売東北９－１七十七銀行（専売東北、電電東北、仙台鉄道管理局は第二次予選へ）

◇**山形**▽一回戦　山形相互銀行３－１日大山形ＯＢク▽**決勝**　山形相互銀行３－２鶴岡野球ク（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**　▽一回戦　須賀川ク７－６勿来ク▽二回戦　福島硬友ク７－０ニュー相馬ク、オール常交７－０ＳＧク、好間ク10－１原田ク、ミドリ十字病院ク８－２二本松ク、郡山水産ク10－１自衛隊福島、ヨークベニマル９－１飯塚病院ク、小名浜ク３－１学石ＯＢク、矢吹ク３－２須賀川ク▽**準々決勝**　福島硬友ク７－５好間ク、ヨークベニマル６－０ミドリ十字病院ク、郡山水産ク９－１小名浜ク、オール常交14－０矢吹ク▽**準決勝**　ヨークベニマル４－３オール常交、郡山水産ク７－０福島硬友ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ヨークベニマル４－０郡山水産ク

▶二次予選

9月24日から　3日間　　県営宮城球場



関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽**代表決定戦**　住友金属鹿島８－３水戸鉄道管理局、日立製作所10－０鹿島石油（勝者は第二次予選へ）

◇**群馬**▽一回戦　伊勢崎レッドソックス12－０オール太田ク、全前橋ク２－０硬友ク▽**準決勝**　高崎鉄道管理局５－４伊勢崎レッドソックス、富士重工業16－２全前橋ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　富士重工業９－０高崎鉄道管理局

◇**埼玉**▽一回戦　全浦和11－１都幾川ク▽**準々決勝**　エーザイ７－０全三郷、大和ク７－０飯能高ＯＢ、日本通運11－３全浦和、本田技研12－５全大宮▽**準決勝**　日本通運８－２エーザイ、本田技研６－３大和ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本通運５－２本田技研

◇**千葉**▽一回戦　新日鉄君津２－０三井造船千葉▽**準決勝**　電電関東４－３新日鉄君津、川鉄千葉４－１千葉鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　電電関東３－３川鉄千葉＝日没引き分け再試合、電電関東５－１川鉄千葉

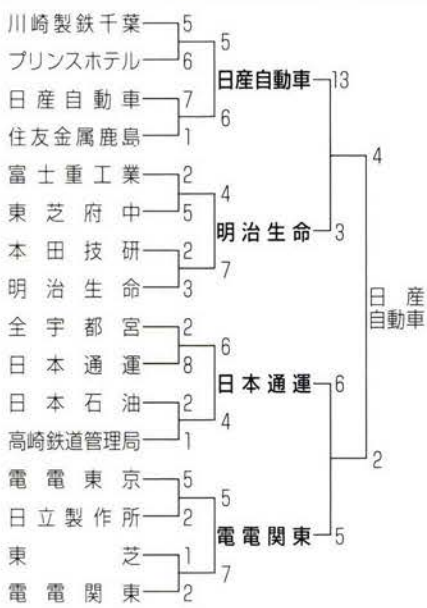
◇**東京**▽一回戦　東京ガス８－０三井銀行、東京鉄道管理局14－７日本ＩＢＭ、朝日生命９－５鷺宮製作所▽**準々決勝**　プリンスホテル８－４熊谷組、リッカー４－３東京ガス、電電東京４－０東京鉄道管理局、明治生命８－２朝日生命▽**準決勝**　プリンスホテル３－１リッカー、明治生命７－０電電東京▽**三位決定戦**　電電東京８－３リッカー▽**決勝**　明治生命７－０プリンスホテル（３位までが第二次予選へ）

◇**東京多摩**▽一回戦　東芝府中13－０全調布、スリーボンド８－２全府中▽**決勝**　東芝府中６－４スリーボンド（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽一回戦　東芝４－１いすゞ自動車、日産自動車10－１三菱重工横浜、日本鋼管４－０三菱自動車川崎、日本石油５－２清工建設▽**準決勝**　日産自動車６－１東芝、日本石油９－８日本鋼管▽**３位決定戦**　東芝９－１日本鋼管▽**決勝**　日産自動車10－９日本石油（３位までが第二次予選へ）

▶二次予選

10月９日から　5日間　　群馬県営球場



中部大会

▶一次予選

◇**新潟**▽一回戦　新潟コンマーシャル14－１白根野球団、国鉄新潟９－１新津ク、加茂キグナス５－３オール東、ヤングセブン３－２小千谷ク、ニチエー11－３長商ク、吉田ク13－３新潟青雲ク、新潟ク22－13オール十日町▽**準々決勝**　国鉄新潟11－１新潟コンマーシャル、全飯豊９－０加茂キグナス、ニチエー８－３ヤングセブン、吉田ク19－11新潟ク▽**準決勝**　ニチエー12－２全飯豊、国鉄新潟13－２吉田ク▽**決勝**　国鉄新潟11－３ニチエー（勝者は第二次予選へ）

◇**富山**▽三回戦制　北陸銀行４－１電電富山、北陸銀行９－６電電富山（北陸銀行は第

二次予選へ)

◇**静岡**▽一回戦　岳南ク９－３浜商闘魂会、河合楽器10－０富士エンゼルス、静岡ク10－０全三島ク、ヤマハ発動機６－０吉原商工ク、協和発酵ク10－９清水ク、関東自動車工業８－０本州ク、富士ク６－２静岡物産ク、日本楽器10－０駿河タイガース▽**準々決勝**　河合楽器４－１岳南ク、ヤマハ発動機７－０静岡ク、関東自動車工業５－２協和発酵ク、日本楽器10－０富士ク(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　河合楽器６－４ヤマハ発動機、関東自動車工業５－４日本楽器▽**決勝**　河合楽器２－０関東自動車工業

▶二次予選

9月24日から　3日間　浜松市営球場

東海・北陸大会

9月2日から　6日間　愛知県営熱田球場

近畿大会

▶一次予選

◇**滋賀**▽一回戦　全大津９－０近江八幡野球ク、日本ＩＢＭ野洲12－４瀬田工ＯＢク▽**決勝**　全大津８－８日本ＩＢＭ野洲(延長10回引き分け＝全大津が再試合への出場を棄権したため日本ＩＢＭ野洲が第二次予選へ)

◇**京都**▽一回戦　京都市役所８－１東山ク、第一紙行４－２日本ＩＢＭ野洲(特別参加)、西京ク４－１丸勝▽**準々決勝**　高島屋京都１－０京都ビルク、日本新薬２－１京都市役所、第一紙行５－４京都信用金庫、三菱自動車京都４－０西京ク(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　三菱自動車京都10－０高島屋京都、日本新薬５－３第一紙行▽**決勝**　日本新薬２－０三菱自動車京都

◇**大阪**▽一回戦　大阪ガス23－０大阪高島屋、電電近畿12－０大阪ペーシェンス、デュプロ12－８全三和銀行、中山製鋼10－０住友銀行▽**準々決勝**　松下電器１－０大阪ガス、日本生命１－０電電近畿、新日鉄堺５－４デュプロ、大和銀行８－７中山製鋼(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　松下電器２－１日本生命、新日鉄堺７－０大和銀行▽**決勝**　松下電器７－０新日鉄堺▽**敗者復活一回戦**　大阪ガス２－０電電近畿、中山製鋼７－２デュプロ▽**第五代表決定戦**　中山製鋼６－３大阪ガス(勝者は第二次予選へ)

◇**兵庫**▽一回戦　三菱重工神戸４－１神戸製鋼、川鉄神戸４－１小西酒造、新日鉄広畑６－３阿部企業▽**準決勝**　川鉄神戸３－２三菱重工神戸、川崎重工２－０新日鉄広畑▽**決勝**　川鉄神戸１－０川崎重工(三菱重工神戸、川鉄神戸、新日鉄広畑、川崎重工と推薦の神戸製鋼は第二次予選へ)

▶二次予選

10月1日から　5日間　西京極球場

中国大会

▶一次予選

◇**岡山**▽リーグ戦　三菱自動車水島９－３三井造船玉野、川鉄水島９－３三井造船玉野、三菱自動車水島４－０三井造船玉野、川鉄水島７－３三菱自動車水島、川鉄水島７－０三井造船玉野、三菱自動車水島３－２川鉄水島(川鉄水島、三菱自動車水島は第二次予選へ)▽**決勝**　川鉄水島２－１三菱自動車水島

◇**広島**▽一回戦　広島マツダ２－１東洋工業▽**準々決勝**　三菱重工三原12－２国鉄広島、三菱重工広島２－１常石鉄工、日本鋼管福山11－４山本鋼材、電電中国３－０広島マツダ(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　三菱重工三原４－３電電中国、日本鋼管福山10－１三菱重工広島▽**決勝**　日本鋼管福山３－２三菱重工三原

◇**山口**▽リーグ戦　田辺製薬１－０協和発酵、新日鉄光７－１航空自衛隊防府、田辺製薬12－１航空自衛隊防府、協和発酵８－１航空自衛隊防府、新日鉄光３－１協和発酵、新日鉄光２－１田辺製薬(田辺製薬、新日鉄光は第二次予選へ)

▶二次予選

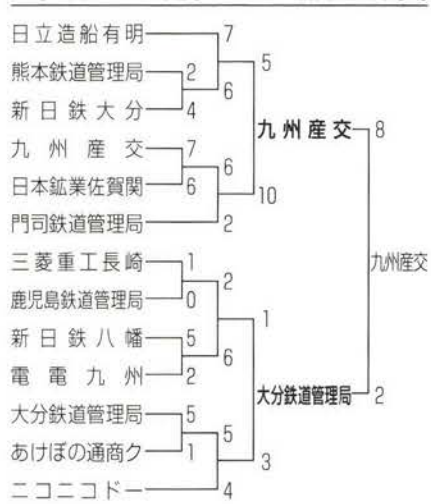
9月26日から　2日間　広島市民球場

四国大会

9月24日から　4日間　高知市営球場

九州大会

9月23日から　4日間　新日鉄大谷球場



第9回大会出場選手等一覧（○は主将）

王子製紙苫小牧

監督	平田	衛一 36	札幌光星高
投手	宮越	康仁 20	苫小牧工高
〃	大本	健男 18	堺市立商高
〃	中村	重利 19	苫小牧工高
〃	高橋	秀之 23	釧路江南高
〃	対馬	正志 28	様似商高
〃	樋口	博美 30	帯広三条高
〃	大西	豊勝 26	苫小牧工高
捕手	田中	茂樹 27	北海高
〃	山根	博美 18	米子工高
〃	阿部	高明 23	室蘭大谷高
内野	佐々木	一尚 19	苫小牧工高
〃	○浜口	正光 28	道産業短大
〃	山田	寿夫 19	室蘭大谷高
〃	佐々木	稔 27	駒大苫小牧高
〃	仏川	力雄 28	室蘭工
〃	千葉	浩 21	北見北斗高
〃	石田	一途 24	札幌光星高
〃	近藤	正治 26	道産業短大
外野	田中	浩 21	東海大四高
〃	桑原	雅秀 26	函館有斗高
〃	長沢	則明 23	東海大四高
〃	阿部	一行 25	帯広工高
〃	菅野	光弘 26	函館有斗高
〃	石井	馨 28	苫小牧工高

北海道拓殖銀行

監督	白髪	良一 42	法政大
投手	中村	明志 25	札幌商高
〃	谷田部	和彦 22	早稲田大
〃	桧垣	博人 20	中京商高
〃	中村	弘道 20	宇治山田商高
〃	石川	龍 19	富良野高
〃	新井田	崇 18	倶知安高
〃	北村	彰浩 18	釧路江南高
捕手	竹内	昭文 31	法政大
〃	三浦	克典 24	札幌大
〃	寺田	悟 21	旭川工高
〃	吉田	智 18	中京高
内野	高岡	茂夫 32	法政大
〃	海老名	敏彦 27	中京高
〃	○大滝	敏之 27	駒沢大
〃	山本	文博 26	駒沢大
〃	水野	雄三 25	明治大
〃	尾崎	公俊 21	札幌商高
〃	蔵谷	憤司 19	札幌商高
〃	池田	和弘 19	札幌東商高
外野	坂田	竹二 27	亜細亜大
〃	佐々木	弘一 25	札幌大
〃	中尾	正人 22	東海大
〃	渡辺	和夫 22	早稲田大
〃	山田	雅仁 21	東邦高
〃	横山	蔵人 21	旭川竜谷高

岩手銀行

監督	小笠原敬二	32	慶応大
投手	菅原	孝一 19	花巻北高
〃	船越	厚 19	宮古商高
〃	及川	清士 29	岩谷堂高
〃	小綿	重雄 25	慶応大
〃	木村	吉則 25	立教大
〃	川原	孝裕 18	遠野高
〃	小笠原敬二	32	慶応大
捕手	藤原	出 22	花巻北高
〃	佐々木孝志	18	久慈高
〃	向井	一 23	福岡高
内野	和田	政喜 24	一関一高
〃	阿部	啓二 24	東北学院大
〃	菊池	淳 20	岩谷堂高
〃	新山	久男 22	久慈高
〃	佐々木直行	24	高田高
〃	上和野広美	21	雫石高
〃	伊東	孝 28	日本大
〃	安藤	孝義 20	一関一高
外野	福島	佳明 25	盛岡商高
〃	坂本	修 27	明治大
〃	佐々木昌久	21	宮古高
〃	阿部	真一 26	宮古商高
〃	○高橋	誠 28	東北学院大
〃	佐々木俊則	29	東北学院大

新日本製鐵釜石

監督	佐藤	幸雄 36	花巻商高
投手	桑江	朝則 21	中部工高
〃	森	孝治 20	青森高
〃	斉藤	範彰 29	巨理高
〃	富樫	英則 23	大館商高
〃	山内	真 19	青森北高
〃	大湯	康司 24	弘前工高
〃	高橋	千秋 31	秋田市立高
捕手	泉沢	英治 21	釜石工高
〃	大溝	一精 19	八戸高
〃	長田	裕幸 27	明星高
内野	○永野	幸雄 28	花巻商
〃	山本	雅章 20	明星高
〃	谷地	俊治 20	雫石高
〃	菊池	渡 23	一関修紅高
〃	田沢	一仁 24	弘前工高
〃	木村	則昭 19	能代商高
〃	平川	澄 24	弘前工高
〃	日高	明彦 31	名電工高
〃	田中	寿一 30	社高
〃	佐藤	幸雄 36	花巻商高
外野	早瀬	修 27	仙台育英高
〃	佐々木	鉄夫 20	盛岡工高
〃	吉田	幸也 19	金足農高
〃	平間	徹 24	気仙沼高
〃	若槻	弘之 27	花巻商高

日産自動車

監督	田中	久幸 34	芝浦工大
投手	森岡	真一 22	明治大
〃	大石	大 23	日本大
〃	藤川	正博 23	帝京大
〃	関根	浩史 20	千葉工高
〃	池田	親興 22	法政大
捕手	村上	忠則 32	津名高
〃	町田	宇公 23	横芝敬愛高
〃	伊東	勝 22	東海大相模高
内野	山本	智 22	早稲田大
〃	鈴木	勝則 23	東海大
〃	若山	哲男 23	法政大
〃	東	良一 26	東海大
〃	杉山	繁俊 25	東海大
〃	土肥	誠 22	明治大
〃	荻野	善英 24	中京大
〃	金城	浩光 21	興南高
〃	米田	保伸 22	法政大
〃	小川	孝之 23	国士舘大
外野	堀添	弘和 23	明治大
〃	萩原	英一 26	亜細亜大
〃	○上原	晴彦 25	東海大
〃	白鳥	重治 26	早稲田大
〃	鶴岡	昌宏 24	東洋大
〃	大城	淳 19	興南高
〃	大塚	勝明 23	帝京大

日本通運

監督	中村	国勝 37	鎌倉学園高
投手	清水	治美 21	川越商高
〃	長友	潔 24	青山学院大
〃	兵頭	達史 23	東洋大
〃	玉田	淳 20	宇都宮学園高
〃	加藤	正次 25	専修大
捕手	八木	孝治 26	静岡学園高
〃	藤井	直史 25	専修大
〃	竹野	徹 21	竹原高
〃	光野	茂樹 30	専修大
内野	○望月	伸一 30	専修大
〃	金丸	昭彦 21	日大三高
〃	佐伯	正一 23	東洋大
〃	柿沼	章文 24	春日部工高
〃	辻	発彦 24	佐賀東高
〃	勝呂	博憲 19	千葉商高
〃	牛島	浩彰 23	東海大
〃	安楽	厚 24	中央大
外野	横北	透 24	駒沢大
〃	岡田	吉富 25	大産大
〃	久我	正治 28	国学院大
〃	大野	実 25	中央大
〃	辻山	正明 22	智弁学園高
〃	大田垣	克幸 30	青山学院大
〃	野田	宏一 23	高崎商高
〃	国吉	真順 23	東海大

明治生命

監督	山本	五郎 32	取手一高
投手	竹内	秀夫 28	慶応大
〃	大久保嘉光	23	国学院大
〃	日野	秀彦 24	二松学舎大付高
〃	松本	吉啓 24	明治大
〃	吉川	賢児 24	中央大
捕手	前嶋	哲雄 25	慶応大
〃	熊沢	進 23	専修大
内野	中野	宏勝 25	立教大
〃	五十嵐義政	25	秋田商高
〃	斉藤	寿広 27	静岡商高
〃	広瀬	房良 23	二松学舎大付高
〃	斧木	慶久 24	国学院大
〃	○森泉	弘 27	明治大
〃	藤光	尚史 23	国学院大
外野	国岡	久資 25	慶応大
〃	成島	広男 26	早稲田大
〃	石岡	信義 26	弘前実高
〃	土方	良信 24	二松学舎大付高
〃	佐久間	勝弘 25	慶応大
〃	片山	直人 27	明治大
〃	小笠原	義治 28	明治大

電電関東

監督	神田	利克 33	駒沢大
投手	中後	政行 29	安房水産高
〃	坂本	恭信 23	駒沢大
〃	長谷川	豊彦 24	明治学院大
〃	平野	弘行 20	君津商高
〃	藤井	祥利 24	専修大
〃	市村	則紀 30	東洋大
〃	山口	清三 23	帝京大
捕手	宮崎	宣男 25	亜細亜大
〃	安部	正人 26	日川高
〃	佐藤	誠一 22	秩父農工高
〃	佐藤	邦城 23	明治学院大
内野	慶野	茂 29	甲府工高
〃	藤平	俊一 24	帝京大
〃	○浅田	一吉 28	駒沢大
〃	渡辺	久 26	東洋大
〃	原嶋	敬 21	秩父農工高
〃	坂本	照彦 24	駒沢大
〃	長井	秀夫 24	国士舘大
外野	加藤	健治 24	専修大
〃	佐々木	敬芳 26	立正大
〃	伊東	健一 24	専修大
〃	松崎	秀彦 25	駒沢大
〃	片山	雅彦 24	東洋大
〃	中野	雅隆 24	亜細亜大

ヤマハ発動機

監督	望月	教治 47	専修大
投手	佐々木	英實 20	能代高
〃	志田	昌彦 23	専修大
〃	山本	賀久 24	専修大
〃	鈴木	政明 32	勝山高
〃	菅崎	健重 24	東洋大
〃	高見	昌和 24	阪南大
〃	永井	保博 20	磐田商高
捕手	山本	常義 24	青山学院大
〃	寺林	孝嗣 24	龍谷大
〃	松島	康裕 23	神奈川大
内野	田中	康彦 24	阪南大
〃	筒井	吉広 19	浜名高
〃	山本	秀樹 27	名城大
〃	矢田	秀典 27	九州工高
〃	阿部	慶二 21	PL学園高
〃	○上野	貴士 26	横浜高
〃	馬場	俊治 27	大宮商高
〃	井熊	雄児 24	早稲田大
外野	野口	恭弘 24	神奈川大
〃	山本	和久 23	亜細亜大
〃	相磯	美弘 25	愛知工大
〃	中本	龍児 30	近畿大
〃	水江	正孝 28	福岡工大
〃	長谷川	忠治 24	神奈川大
〃	伊久	美茂 21	静岡高

日本楽器

監督	津布久	欣司 31	駒沢大
投手	鍋屋	道夫 21	大阪福島商高
〃	柳原	隆之 24	亜細亜大
〃	高久	孝 24	駒沢大
〃	中村	誠 24	立命館大
〃	劉	秋農 26	台湾輔仁大
〃	戸田	秀明 24	鉾田一高
〃	小磯	健次 28	安積商高
捕手	砂田	孝志 25	国士舘大
〃	秋山	美憲 25	自動車工高
〃	佐藤	正則 24	関東学院大
内野	金沢	明義 23	近畿大
〃	西川	公紹 24	中央大
〃	大野	敏彦 30	山口鴻城高
〃	中山	淳 24	立命館大
〃	山本	一之 25	青山学院大
〃	武居	邦生 26	国士舘大
〃	鈴木	清之 27	青山学院大
〃	内海	昌之 27	亜細亜大
外野	熊野	輝光 25	中央大
〃	籠谷	啓史 25	立命館大
〃	小林	直樹 24	亜細亜大
〃	伊藤	裕二 24	中央大
〃	伊藤	功 26	小笠農高
〃	井上	一之 26	中央大
〃	○内山	仁志 29	中央大

国鉄名古屋

監督	安藤	友辞 45	多治見高
投手	森下	慶一郎 23	中津商高
〃	新谷	和明 21	鯖江高
〃	鈴木	豊彦 23	名商大
〃	高島	徹 24	愛知工大
〃	田中	晃稔 27	名古屋学院大
〃	松本	佳久 24	名古屋学院大
〃	加藤	幸次 22	猿投農林高
〃	山本	員範 19	岡崎工高
捕手	大矢	正成 23	法政大
〃	山田	章 28	関商工高
〃	坂野	彰宏 26	名古屋学院大
〃	森	勝彦 25	名城大付高
内野	植田	利幸 29	愛知学院大
〃	林	洋 22	東邦高
〃	湧川	勉 23	中京高
〃	小川	新二 21	中京高
〃	吉田	則昭 23	岐阜西工高
〃	本田	祐二 25	豊橋商高
〃	○石田	義一 28	名城大
外野	内藤	真如 23	名古屋電気工高
〃	増田	正美 25	東海大工高
〃	榊原	憲文 24	岡崎工高
〃	森本	進 24	駒沢大
〃	高橋	哲夫 24	岡崎工高
〃	倉田	敦敏 20	高田高

王子製紙春日井

監督	小島	幸和 35	埴生高
投手	井上	真一 20	東海大工高
〃	小谷	秀夫 22	田辺工高
〃	新美	寿通 24	半田工高
〃	龍神	光美 28	御坊商工高
〃	秋末	誠司 20	米子工高
捕手	鈴木	弘 19	愛知工高
〃	倉根	隆幸 18	小諸商高
〃	柴山	敏夫 25	名古屋市工高
〃	水野	直行 19	東邦高
内野	佐藤	敏夫 24	半田工高
〃	畑中	安美 18	新宮高
〃	棚橋	祐司 18	岐阜南高
〃	江村	武司 25	大同工高
〃	家根	孝二 18	福井商高
〃	森本	茂 22	海星高
〃	近藤	岩男 23	吉原工高
〃	服部	晋 18	福井高
外野	金子	永治 18	岐阜南高
〃	○山際	牧人 25	鳥羽高
〃	大橋	正芳 22	田辺高
〃	山内	悟 28	岐阜工高
〃	小林	幸一 27	士別高
〃	山本	和人 18	中京商高

住友金属

監督	山中 正竹	35	法政	大
投手	石井 毅	21	箕島	高
〃	伊藤 彰洋	23	関西学院	大
〃	小杉 大三	22	和歌山工	高
〃	松本 豊	19	秋田経大付	高
〃	高橋 修二	26	高知	高
〃	沼田 親紀	21	県和歌山商	高
〃	武田 重美	25	西南学院	大
〃	古賀 達也	24	佐賀竜谷	高
捕手	嶋田 宗彦	21	箕島	高
〃	小川 良一	29	駒沢	大
〃	児嶋 保成	19	箕島	高
内野	清水 健五	26	慶応	大
〃	筒井 大助	25	関西学院	大
〃	前田 寿啓	20	東海大工	高
〃	佐藤 雄樹	23	早稲田	大
〃	四田 勝康	26	浪商	高
〃	田中 祐司	25	鳴門	高
〃	松隈 憲治	28	柳川	高
外野	西村 博巳	24	伊都	高
〃	黒石 厚	24	法政	大
〃	中原 正明	29	東海	大
〃	栗山 和行	23	明治	大
〃	松原 俊郎	25	同志社	大
〃	○三好 一幸	30	東海大相模	高
〃	高多 倫正	29	慶応	大

日本生命

監督	佐竹 政和	34	関西	大
投手	岡田 和久	31	近畿	大
〃	加藤 重雄	25	法政	大
〃	森 明彦	24	河南	高
〃	中本 茂樹	24	同志社	大
〃	伊藤 伸幸	23	東経	大
〃	早瀬 万豊	23	関西	大
〃	村上 明	22	新湊	高
捕手	佐竹 政和	34	関西	大
〃	桧垣 明	25	関西	大
〃	鍛治本明典	22	近畿	大
〃	野村 茂	29	PL学園	高
内野	赤井 淳二	30	近畿	大
〃	○井尻 陽久	29	東海	大
〃	花野 巧	28	同志社	大
〃	佐藤 清	26	早稲田	大
〃	三枝 淳介	26	早稲田	大
〃	渋谷 渉	25	明治	大
〃	山内 博史	22	大商	大
〃	中橋 伸幸	23	愛知学院	大
外野	梅田 薫	28	明治	大
〃	安西 敏雄	28	中央	大
〃	楠原 基	26	法政	大
〃	内田 敏弘	24	法政	大
〃	森田 昇	24	近畿	大
〃	新名 隆	30	明治	大

川崎重工

監督	福本 敏一	33	飾磨工	高
投手	前田 正美	27	早稲田	大
〃	伊藤 一秋	19	柏原	高
〃	長田 正弘	27	八代学院	高
〃	物袋 義広	21	大阪	高
〃	畠山多美夫	24	高知工	高
〃	奥地 成吉	19	木本	高
捕手	浜田 正二	28	明治	大
〃	片岡 直次	25	大阪市	大
〃	望月 俊哉	21	倉敷工	高
内野	布川 浩章	19	徳島商	高
〃	西森 伸二	21	高知工	高
〃	植田 実	20	尼崎工	高
〃	○田中 伸祐	28	育英	高
〃	岡本 良一	31	明治	大
〃	藤田 和浩	20	市神港	高
〃	武市 雅則	24	徳島商	高
〃	木村富士夫	28	法政	大
〃	中村 薫	19	市尼崎	高
外野	水江 龍	28	立命館	大
〃	生田 道伸	24	駒沢	大
〃	泉 里史	32	関西	大
〃	川元 勲	20	市尼崎	高
〃	丸谷 清二	25	大阪学院	大
〃	福本 敏一	33	飾磨工	高

新日本製鐵堺

監督	浜崎 満重	34	八幡工	高
投手	下村 恭二	23	新宮	高
〃	中川 善弘	30	和歌山工	高
〃	萩原 孝治	22	都島工	高
〃	九鬼 善信	18	堺西	高
〃	小椋 茂夫	18	邇摩	高
〃	南出 裕司	21	粉河	高
捕手	浦 誠哉	25	PL学園	高
〃	中野 敏行	23	小倉商	高
〃	西口 信明	24	大鉄	高
〃	樽口 正生	25	藤井寺工	高
内野	花川 達也	24	東洋大姫路	高
〃	山下 裕司	19	西野田工	高
〃	浦東 靖	23	新宮商	高
〃	浦東 徳明	21	新宮商	高
〃	清水 信英	25	興国	高
〃	南口 正人	23	大鉄	高
〃	石原 貢	20	柳川	高
〃	藤本 政男	26	PL学園	高
〃	浜崎 満重	34	八幡工	高
外野	西垣 公策	21	県和歌山商	高
〃	中西 孝吉	33	都農	高
〃	米倉 格二	20	成城工	高
〃	藤本 公二	28	興国	高
〃	井口 成年	26	PL学園	高
〃	○山尾 博	26	生野工	高

川崎製鉄神戸

監督	生田日出男	32	明石南	高
投手	西川 勝	22	近畿	大
〃	宮内 義則	18	鳴門工	高
〃	石井 雅也	19	東洋大姫路	高
〃	山中 誠司	22	県伊丹	高
〃	浜名 敬一	20	明石南	高
〃	宮本 宗篤	20	田辺商	高
〃	藪 浩昭	18	御坊商工	高
〃	真鍋 義之	27	私神港	高
捕手	細田 士郎	19	明石南	高
〃	船越 泰弘	28	博多工	高
〃	菊地 弘之	21	南宇和	高
〃	与那 哲夫	18	柳川	高
内野	松川 明弘	28	御影工	高
〃	中村 佳正	25	同志社	大
〃	中谷 亨	23	大経	大
〃	鳶 吉雄	21	比叡山	高
〃	川中 哲也	18	尽誠学園	高
〃	○五島 卓道	27	早稲田	大
〃	上村 真弘	20	田辺商	高
〃	福本 正行	25	村野工	高
外野	石津 明弘	22	大経	大
〃	前川 典生	27	早稲田	大
〃	元井 均保	22	県豊岡	高
〃	山中 正則	24	和歌山工	高
〃	筑瀬 隆生	21	天理	高

松下電器

監督	下田 鎮男	40	柳川	高
投手	北口 勝久	27	早稲田	大
〃	堅田外司昭	21	星稜	高
〃	長谷部 優	32	慶応	大
〃	石田富士男	23	日体	大
〃	安蒜 一則	25	立教	大
〃	原 邦彦	24	岡山東商	高
〃	岡本 光	22	串本	高
捕手	大本 二郎	25	倉敷工	高
〃	野村 尚生	25	愛知学院	大
〃	渋谷 卓也	24	同志社	大
〃	塚岡 広仁	24	倉敷工	高
内野	野尻 正博	25	近畿	大
〃	林 寿郎	25	立教	大
〃	森本 光一	27	立命館	大
〃	平谷 拓	26	田辺商	高
〃	楠 豊寿	23	愛知学院	大
〃	倉八 正典	25	東海	大
〃	奥代 恭一	23	関西	大
〃	北野 敏史	21	箕島	高
外野	前嶋 純二	26	法政	大
〃	○島田 行雄	27	近畿	大
〃	磯本 邦彦	25	佐世保工	高
〃	篠崎 宏道	23	近畿	大
〃	平岡 靖彦	23	日体	大
〃	荒木 靖信	22	PL学園	高

三菱重工三原

監督	野端 啓夫	33	慶応	大
投手	奥村 博俊	19	延岡工	高
〃	安井 孝治	20	崇徳高	高
〃	明賀 元彦	27	東洋	大
〃	岩井 靖嗣	25	関西学院	大
〃	村上 禎量	25	鳥取工	高
〃	岡野 泰平	26	尾道	高
捕手	村上 達也	20	広島工	高
〃	江藤 梓	30	日南工	高
〃	楠 誠之	25	福山商	高
〃	木内 祥晴	29	関西学院	大
内野	小泉 正明	23	明治学院	大
〃	古谷 英夫	26	防府商	高
〃	○後藤 寿彦	29	慶応	大
〃	本藤 浩徳	22	江津工	高
〃	井本 裕之	25	慶応	大
〃	加藤 光俊	26	龍谷	大
〃	小前 学	20	倉吉北	高
〃	元川 澄男	27	近大福山	高
〃	野端 啓夫	33	慶応	大
外野	亀田 睦雄	28	延岡商	高
〃	池田 和彦	22	山口鴻城	高
〃	渡辺 博	25	多々良学園	高
〃	長岡 敏彦	28	延岡商	高
〃	市道 正男	19	竹原	高
〃	久保 明	21	柳井	高

三菱重工広島

監督	若松 実	33	芝浦工	大
投手	村田 利明	29	立教	大
〃	佃 正樹	27	法政	大
〃	疋田 豊	23	八代学院	高
〃	山村 力人	25	東洋	大
〃	一元 裕治	25	八幡	大
〃	池本 正樹	25	大田	高
捕手	大森 光生	31	明治	大
〃	浜田 靖	24	東洋	大
〃	長谷川雅喜	22	育英	高
内野	○酒井 信芳	32	東洋	大
〃	浅岡 伸男	19	松山商	高
〃	金光 興二	27	法政	大
〃	正伝 芳則	21	広島商	高
〃	植田 巧	21	松山商	高
〃	若松 茂樹	29	東洋	大
〃	多田 清和	24	国士舘	大
〃	佐々木幸治	31	法政	大
外野	井上 敏之	29	山陽	高
〃	松岡 信吾	23	八代学院	高
〃	内田 博	24	八幡	大
〃	窪田 泰文	20	松山商	高
〃	荒谷 稔	29	広島商	高
〃	富士野誠示	29	西脇工	高
〃	伊藤 順三	33	八幡	大

四国銀行

監督	西村 章	31	法政	大
投手	片岡 寿彦	27	高知商	高
〃	山本 智久	25	池田	高
〃	高尾 等	25	愛知学院	大
〃	宮本 典幸	24	帝京	大
捕手	城下 照男	28	専修	大
〃	沖田 雅夫	27	高知商	高
〃	古谷 英史	25	高知商	高
〃	渡辺 毅	23	専修	大
内野	楠瀬 隆章	31	法政	大
〃	○森本 誠	27	高知商	高
〃	乃一 官	27	関西	大
〃	薬師神一成	24	京産	大
〃	森 正隆	23	明治	大
〃	武内 則尚	23	東経	大
外野	刈谷 精一	33	高知商	高
〃	西村 章	31	法政	大
〃	溝渕 貞雄	26	大商	大
〃	浦林 堅	26	愛知学院	大
〃	阿部 稔	24	大商	大
〃	小橋 基喜	23	駒沢	大
〃	西 弘顕	22	明治	大

大倉工業

監督	鎌田 康彦	34	法政	大
投手	田村 幸喜	20	明徳	高
〃	中平 克弘	20	高知	高
〃	植松 勉	20	高松南	高
〃	山本 和正	19	野村	高
〃	舘林 久雄	23	大阪学院	大
〃	竹口栄二郎	29	坂出商	高
捕手	北窓 秀夫	19	浪商	高
〃	土肥 泰久	24	中央	大
〃	林 俊光	23	駒沢	大
内野	岸岡 昇	18	宍喰商	高
〃	堀家 正教	26	多度津工	高
〃	○江原 祐次	24	駒沢	大
〃	中西 敏郎	22	近畿	大
〃	本田 秀信	19	尽誠学園	高
〃	兵頭 尉司	18	野村	高
〃	阿部 修	26	愛知学院	大
〃	東 善成	26	大阪学院	大
外野	田中 裕二	19	南宇和	高
〃	奥野 善英	27	神戸学院	大
〃	山本 誠	20	八幡浜	高
〃	和田 恵充	28	松山商科	大
〃	村瀬 正樹	20	今治工	高
〃	木口 芳孝	20	八幡浜	高
〃	高畑 富裕	18	尽誠学園	高
〃	鎌田 康彦	34	法政	大

九州産交

監督	井上 信明	37	立命館	大
投手	日高 正文	27	中央	大
〃	高崎 文樹	19	熊本工	高
〃	深見 一浩	20	種子島実	高
〃	二保 茂則	25	法政	大
〃	○西谷 美次	29	日体	大
〃	下田 賢一	23	八幡	大
〃	門倉 和博	32	鹿屋	高
捕手	山本 一孝	23	日体	大
〃	松村 敏明	28	国士舘	大
内野	柿木 孝哉	25	明治	大
〃	東 邦人	25	九州東海	大
〃	杉野 滝男	23	柳川	高
〃	原野 真寿	21	九州学院	高
〃	二村 忠美	23	伝習館	高
〃	有村 謙一	29	東海	大
〃	江口 明信	35	中央	大
外野	藤村 寿成	20	九州学院	高
〃	渕上 礼蔵	21	九州学院	高
〃	田代 文博	29	日本	大
〃	西田 洋	27	専修	大
〃	久本 正則	24	球磨工	高
〃	上田 信広	34	九州学院	高

大分鉄道管理局

監督	金田 季春	45	佐伯鶴城	高
投手	高上 正宏	27	築上中部	高
〃	栗田 実	19	別府商	高
〃	小間 充	21	津久見	高
〃	油布 進	19	大分工	高
〃	藤本 弘之	23	熊本第一工	高
〃	足立 義男	26	大分商	高
捕手	高尾 博文	21	中津工	高
〃	工藤 俊二	22	佐伯豊南	高
〃	小田 隆	26	長崎海星	高
内野	吉野 正幸	24	日田林工	高
〃	長野 順司	19	別府商	高
〃	井上 亀西	19	大分工	高
〃	前谷 義幸	19	柳ケ浦	高
〃	福良 淳一	21	延岡工	高
〃	荻 浩文	21	大分商	高
〃	川辺 正俊	28	京都	高
〃	西島 正夫	29	熊本第一工	高
外野	屋田 浩孝	23	大分商	高
〃	○東 隆則	28	臼杵商	高
〃	甲斐 敦司	25	大分商	高
〃	吉野 高明	29	大分商	高

第10回記念大会

1983年（昭和58年）10月23日▶10月31日　大阪球場

優勝＝住友金属 ――――（4年ぶり3回目）

住友金属、強豪東芝破り3回目V

第10回記念大会には専売東北、東芝府中、日本新薬、新日鉄広畑、本田技研熊本と5チームが初出場。都市対抗を制し、史上初の夏秋連覇を目指す東芝、唯一10年連続出場を達成した松下電器、優勝2回の住友金属と新鋭、強豪がそろった。優勝チームには大会の生みの親の一人である故佐伯達夫氏（前日本高校野球連盟会長）の偉業を讃えてつくられた佐伯達夫杯が贈られた。

その佐伯杯を獲得したのは住友金属だった。4年ぶり3回目、ダイヤモンド旗に続き、佐伯杯を受けた住友金属ナインは誇りに満ちていた。住友金属は前年の都市対抗で優勝、堅い守りにさらに磨きをかけた。高橋がエースとして育ち、小松捕手も好リードで引き立てた。「松永野球」から「山中野球」に引き継がれたが、投手を中心に守りきる「住金野球」はここ一番の勝負強さを発揮した。

夏秋連覇を狙った東芝はあと一歩のところで住友金属に夢を断たれた。川端が力強い投球を見せたが、看板の打線に湿りが最後までつきまとった。

準決勝の新日鉄広畑ー住友金属戦で両チーム合わせ5本塁打が飛び出し、新記録となった。

〔優勝戦〕住友金属ー東芝　七回裏、住友金属一死二塁、高橋の左前打で二塁から田中生還、2－0とする。

大会審判　▷**委員長**＝小西正一▷**副委員長**＝三輪武、山川脩司▷**委員**＝中西明、三宅享次、小林加寿男、戸田直佑、本郷良直、広沢渉、片岡成夫、木嶋一晃、森武雄、清水正輝、山口円、箕浦勝春、原田謹爾、上杉正、津田浩嗣、岸野金治、松山守、池田貴義、鶴田泰夫、大橋慶三、小林勉、石渡義、桃田晴彦、中西則夫、河島秀喜、桂等、長谷至康、清水忠雄、吉田龍男、浜崎健一、前田利昌、鹿多証道、生越芳明、東優孝、加瀬弘、程塚孝作

▽10月23日

第1試合＝1回戦（午前10時３分開始）

電電四国	1	0	3	0	0	0	0	0	4
王子製紙苫小牧	2	0	3	0	1	0	0	0X	6

▶審判（球審）木嶋（塁審）小林加、中西則、程塚

【電電四国】

		打	安	点	振	球
⑥	4板東	4	2	0	1	0
⑧	石元	3	2	0	1	0
⑦	河野	4	1	1	0	0
⑤	和田	3	2	1	0	0
③	三好	4	2	2	1	0
②	藤本	4	2	0	1	0
⑨	池田	3	1	0	0	0
①	森	0	0	0	0	0
1	滝下	1	0	0	1	0
H	土田	1	0	0	0	0
④	鎌上	3	0	0	1	0
6	緒賀	0	0	0	0	0

犠	併	残
5	0	5

打	安	振	球
31	12	4	6

	回	安	振	球	責
森	2⅓	5	0	1	5
滝下	5⅔	8	6	0	0

【王子製紙】

		打	安	点	振	球
⑦	長沢	2	1	0	0	0
7	菅野	3	0	0	1	0
②	田中茂	3	0	0	1	1
⑤	佐々木稔	4	3	0	0	0
⑨	石井	4	2	4	1	0
⑧	沢田	4	2	1	0	0
③	浜口	4	1	1	2	0
⑥	千葉	4	0	0	1	0
④	仏川	4	2	0	0	0
①	大西	1	0	0	0	0
1	滝川	1	0	0	0	0
H	石田	1	1	0	0	0
1	樋口	1	1	0	0	0

犠	併	残
0	0	7

打	安	振	球
36	13	6	6

	回	安	振	球	責
大西	2⅔	9	1	0	4
滝川	3⅓	3	1	0	0
樋口	3	0	4	0	0

▷本塁打＝石井１号②（森）▷二塁打＝板東、長沢、佐々木稔、石井、浜口、和田、石田▷犠打＝電５（石元、和田、池田、森、滝下）▷捕逸＝藤本▷試合時間＝２時間21分

11年目で初ホーマー

①…先制の大会第１号２ランをはじめ、逆転されたあとすかさず追いつく同点の２点二塁打を放つなど４打点の猛打を見せたのは王子製紙苫小牧の四番・石井右翼手。「本塁打はまん中のまっすぐ。一番甘いタマだった。二塁打は外寄りのカーブのすっぽ抜けじゃあないですか。相手が下手投げなので左が打たなければダメですからね。えっへっへ」と、してやったりの顔つき。今年で11年目のベテランだが、「都市対抗、選手権の本大会では、初めてのホームランなんです」と言い、表情をほころばせた。

第２試合＝１回戦（午後０時54分開始）

専売東北	0	0	0	0	0	0	1	0	1
住友金属	0	0	0	0	0	3	0	0X	3

▶審判（球審）松山（塁審）広沢、前田、石渡

【専売東北】

		打	安	点	振	球
⑨	佐藤	3	1	0	1	1
④	山下	3	1	1	1	0
⑤	寺嶋	4	1	0	0	0
⑦	原野	4	0	0	1	0
⑧	遠藤	3	0	0	0	0
H	安斎	1	0	0	0	0
②	及川正	3	0	0	2	0
③	大内	3	1	0	0	0
⑥	藤原	3	0	0	0	0
①	小野	2	0	0	1	0
1	古溝	1	0	0	0	0

犠	併	残
1	0	4

打	安	振	球
30	4	1	6

	回	安	振	球	責
小野	5⅓	4	2	6	2
古溝	2⅔	1	1	0	0

【住友金属】

		打	安	点	振	球
⑤	松隈	4	0	0	1	0
④	四田	3	0	0	0	1
⑨	筒井	3	0	0	0	1
③	佐藤	3	3	0	0	1
⑦	栗山	3	0	0	0	0
⑧	三好	3	0	0	0	1
⑥	田中	3	1	1	1	1
②	小川	3	0	0	0	1
①	高橋	2	1	1	1	0

犠	併	残
2	0	8

打	安	振	球
27	5	2	3	6

	回	安	振	球	責
高橋	9	4	6	1	1

▷三塁打＝佐藤（専）▷犠打＝専１（山下）住２（栗山、高橋）▷盗塁＝住２（田中２）▷失策＝専１（原野）住１（田中）▷捕逸＝及川正▷試合時間＝２時間10分

第３試合＝１回戦（午後３時35分開始）

新日鉄広畑	0	0	0	2	0	0	0	0	2
本田技研鈴鹿	0	0	0	0	0	0	1	0	1

▶審判（球審）中西明（塁審）上杉、片岡、津田（外審）東、生越

【新日鉄広畑】

		打	安	点	振	球
④	正田	4	1	0	1	0
⑦	原田	4	1	0	0	0
③	西川	3	1	0	0	1
⑨	尾形	4	1	0	0	0
⑧	船越	3	1	0	0	0
⑤	土江	3	1	0	0	0
②	応武	4	2	1	1	0
①	藤高	3	0	0	1	0
⑥	児玉	4	2	1	0	0

犠	併	残
3	0	7

打	安	振	球
32	10	2	3	1

	回	安	振	球	責
藤高	9	4	10	2	1

【本田鈴鹿】

		打	安	点	振	球
⑧	全並	4	1	0	1	0
⑥	山中	3	1	0	2	1
⑦	手嶋	4	0	0	3	0
⑨	黒田	4	0	0	1	0
③	長田	3	0	0	0	0
④	原野	2	0	0	1	0
⑤	岡崎	3	1	0	1	0
②	田中倉	2	0	0	1	0
H	朝倉	0	0	0	0	0
2	松田	0	0	0	0	0
①	池尻	2	0	0	0	0
H	大久保	1	1	1	0	0
1	前村	0	0	0	0	0

犠	併	残
2	1	4

打	安	振	球
28	4	1	1	0	2

	回	安	振	球	責
池尻	8	9	1	1	2
前村	1	1	2	0	0

▷二塁打＝原田、全並、大久保▷犠打＝新３（船越、土江、藤高）本２（原野、朝倉）▷盗塁＝新２（正田、児玉）本１（山中）▷失策＝本１（長田）▷試合時間＝２時間16分

▽10月24日

第１試合＝１回戦（午前８時58分開始）

本田技研	0	0	0	1	0	0	0	1	2
日本鋼管福山	2	0	2	0	0	0	0	1X	5

▶審判（球審）小林勉（塁審）桂、長谷、戸田

【本田技研】

		打	安	点	振	球
④	佐藤資	4	1	0	0	1
⑧	松田	4	1	1	1	0
⑦	柳川	4	1	0	0	0
③	入内島	4	2	1	0	0
⑥	広瀬	3	1	0	0	1
⑨	雨提	4	0	0	0	0
②	長井	4	0	0	0	0
⑤	山田	3	0	0	0	0
H	佐藤正	1	1	0	0	0
①	藤原	3	1	0	0	0
1	伊東	0	0	0	0	0
H	青木	1	0	0	1	0

犠	併	残
0	2	8

打	安	振	球
35	8	2	2	2

	回	安	振	球	責
藤原	7⅔	9	7	0	3
伊東	⅓	0	0	0	0

【鋼管福山】

		打	安	点	振	球
⑦	佐藤	4	1	0	1	0
④	佐名木	3	1	0	0	0
⑤	渡部	3	0	0	1	0
③	岩野	4	1	0	1	0
⑧	松浦	4	2	1	0	0
⑨	六条	3	2	2	0	0
②	白石	3	1	0	1	0
⑥	山田	3	0	0	1	0
①	内山田	3	1	0	2	0

犠	併	残
2	0	3

打	安	振	球
30	9	3	7	0

	回	安	振	球	責
内山田	9	8	2	2	2

▷本塁打＝松田１号（内山田）▷二塁打＝六条、佐名木▷犠打＝日２（佐名木、渡部）▷盗塁＝本１（広瀬）▷失策＝本２（長井、山田）▷ボーク＝藤原▷捕逸＝白石▷試合時間＝２時間８分

第２試合＝１回戦（午前11時41分開始）

国鉄名古屋	0	0	0	0	0	0	0	2	2
新日鉄光	0	0	0	0	0	1	0	0	1

▶審判（球審）程塚（塁審）吉田、山口、原田

【国鉄名古屋】

		打	安	点	振	球
⑤	森本	4	1	0	0	0
⑥	植田	3	1	1	1	1
⑨	内藤	4	0	0	0	0
③	林	4	2	1	0	0
⑦	榊原	4	1	0	0	0
⑧	高橋	3	0	0	1	0
④	吉田	3	0	0	1	1
②	坂野	2	0	0	2	0
H	新谷	1	0	0	0	0
2	大矢	1	0	0	0	0
①	鈴木	2	1	0	0	0
H	石田	1	0	0	0	0
1	松本	0	0	0	0	0

犠	併	残
1	1	6

打	安	振	球
32	6	2	5	2

	回	安	振	球	責
鈴木	7	5	1	1	1
松本	2	0	2	0	0

【新日鉄光】

		打	安	点	振	球
⑥	内布	4	1	0	0	0
④	萱原	3	0	0	0	0
⑨	竹内	2	0	1	0	1
9	石貴	1	0	0	1	0
③	吉岡	4	1	0	0	0
R	村上	0	0	0	0	0
②	平山	4	1	0	0	0
⑦	福本	3	1	0	0	0
⑧	岩崎	3	1	0	1	0
⑤	松岡	2	0	0	0	0
H	5住吉一	1	0	0	0	0
①	児玉	3	0	0	1	0
1	野下	0	0	0	0	0

犠	併	残
1	0	4

打	安	振	球
30	5	1	3	1

	回	安	振	球	責
児玉	8⅓	6	5	1	2
野下	⅔	0	0	1	0

▷本塁打＝植田１号（児玉）林１号（児玉）▷二塁打＝鈴木、内布、榊原▷犠打＝国１（高橋）新１（萱原）▷盗塁＝国３（高橋２、吉田）新１（福本）▷失策＝国１（内藤）新１（内布）▷試合時間＝２時間11分

第３試合＝１回戦（午後２時23分開始）

新日鉄堺	0	0	3	0	0	0	0	0	3
新日鉄室蘭	0	0	0	0	1	0	0	1	2

▶審判（球審）大橋（塁審）松山、鹿多、岸野

【新日鉄堺】

		打	安	点	振	球
⑤	馬場	4	3	0	0	0
④	花川	5	1	1	0	0
⑥	浦東靖	5	0	1	0	0
⑨	米倉	3	2	1	0	0
②	浦	3	2	1	0	1
③	南口	3	0	0	1	0
H	3久保	1	0	0	0	0
⑦	中萩原	3	2	0	0	1
1	西原	0	0	0	0	0
①	小清水	0	0	0	0	0
H	石九鬼	1	0	0	0	0
1	水原	1	0	0	0	0
⑧	西尾	4	1	0	0	0

犠	併	残
2	1	9

打	安	振	球
34	12	3	1	3

	回	安	振	球	責
清水	5	4	1	0	1
九鬼	2	1	1	0	0
萩原	1⅔	3	0	1	1
小椋	1	0	0	1	0

【新日鉄室蘭】

		打	安	点	振	球
⑦	島尻	5	0	0	1	0
⑥	鹿田	3	1	0	0	1
⑧	岡田	3	0	0	0	0
③	鈴木	4	2	0	1	0
④	大塚	3	1	1	0	0
⑨	大阿部	4	1	0	0	0
⑤	馬場	3	0	0	0	0
⑤	井藤	3	0	0	0	0
②	桜後	3	1	1	0	1
①	藤川尾	1	0	0	0	0
H	R1米	1	0	0	0	0
1	H1吉	1	0	0	0	0
⑧	浜師	1	0	0	0	0

犠	併	残
3	1	8

打	安	振	球
32	8	2	2	2

	回	安	振	球	責
浅川	3	5	1	3	2
米山	5	5	0	0	0
浜師	1	2	0	0	0

▷本塁打＝後藤１号（清水）▷二塁打＝米倉、馬場、浦、鈴木▷犠打＝堺２（馬場、清水）室３（岡田、大塚、桜井）▷盗塁＝室１（鹿田）▷失策＝室１（浅川）▷試合時間＝２時間51分

第４試合＝１回戦（午後５時46分開始）

ヨークベニマル	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本新薬	0	0	0	0	2	0	0	1X	3

▶審判（球審）浜崎（塁審）片岡、箕浦、東（外審）桃田、河島

【ベニマル】

		打	安	点	振	球
⑧	菱沼	4	1	0	0	0
⑥	寺西	4	1	0	0	0
⑦	曲山	4	0	0	2	0
⑨	鹿島	3	0	0	1	0
⑤	近内	4	2	0	0	0
R	根本	3	0	0	0	0
②	原田	3	0	0	1	1
③	大宮	2	0	0	0	0
④	奥山	3	0	0	1	0
①	速石	1	0	0	1	0
1	舟水	1	0	0	0	0
HR	山野	1	0	0	0	0
1	杉山	0	0	0	0	0

犠	併	残
1	0	6

打	安	振	球
30	5	0	5	2

	回	安	振	球	責
奥山	3⅔	2	2	2	0
速石	3⅓	3	0	0	1
杉山	1	2	0	0	1

【日本新薬】

		打	安	点	振	球
⑧	原田	3	1	0	1	1
④	浅倉	4	1	1	1	0
③	93中道	4	2	0	1	0
⑨	大野	0	0	0	0	0
③	大山田	4	1	0	0	0
9	西村	0	0	0	0	0
⑦	小林	4	3	1	0	0
⑤	渡辺	3	0	0	0	0
⑥	後藤	2	0	0	0	1
①	田所	2	0	0	0	0
	川崎	3	1	0	0	0

犠	併	残
2	2	6

打	安	振	球
29	9	2	2	2

	回	安	振	球	責
川崎	9	5	5	2	0

▷三塁打＝浅倉▷二塁打＝寺西▷犠打＝ベ１（大内）日２（渡辺、田所）▷盗塁＝日３（原田２、中道）▷失策＝ベ１（近内）日２（山田、田所）▷捕逸＝原田▷試合時間＝２時間17分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

住友金属＝優勝

山中 正竹監督

（住友金属東京人事室参事、46歳）

（第20回記念、毎日新聞連載企画から）

「打倒・東芝」で一丸

打倒・東芝――。私が監督になったときに掲げた目標でした。その実現に向け、春先に関東遠征を組んで強豪チームと試合をし、仕上げに東芝とオープン戦を行うことにした。こうした成果もあり、就任２年目に都市対抗（第53回大会）で初優勝でき、私もチームも勝つパターンが分かってきた時期でした。

この年も東芝は強く、都市対抗で２度目の黒獅子旗を握ったほか、東京、岡山両大会で優勝。ウチも推薦出場の都市対抗こそ初戦で敗れたが、大阪大会で初優勝するなど戦力はあった。ところが直前に捕手の嶋田（阪神）が足を骨折、不安を抱えての大会となった。

苦戦の末の優勝戦進出。一方からは東芝が上がってきた。実力は相手が断然上。でもウチは東芝を倒すことを目標にしてきただけに、チームに盛り上がりがあった。そして嶋田の代役、ベテランの小川が高橋を好リード。打たれて弱気になりかける高橋に、強気の内角攻めをさせ、９安打されながらタイムリーを許さず完封。こちらは４安打しか打てなかったが２点を入れ、２－０で勝ちました。

翌年、連覇して監督を退任。２年後に全日本コーチを任命され、バルセロナ五輪監督を務めましたが、目標を定め、一丸となって挑戦することの大切さを、この大会で再認識しました。

▽10月25日

第1試合＝1回戦(午前8時58分開始)

				計
本田技研熊本	000	102	000	3
日産自動車	000	000	60X	6

▶審判(球審)木嶋(塁審)池田、清水忠、鹿多

【本田熊本】		打	安	点	振	球
⑦	石川	3	2	1	0	2
⑧	宮本	4	0	0	0	1
③	西村	3	2	0	0	0
3	山本	2	0	0	1	0
⑤	平山	5	0	0	2	0
④	内川	5	4	0	0	0
②	川端	3	1	0	2	0
⑥	吉村	2	0	0	0	1
⑨	古田	3	0	0	2	1
①	内田	4	1	0	2	0
犠併残	3 0 13	34	10	1	9	5

【日産自動車】		打	安	点	振	球
⑧	大野	5	2	2	1	0
⑥	鈴木	4	0	0	0	0
⑦	堀添	4	2	0	0	0
⑨	鶴岡	4	1	1	0	0
③	若山	4	2	0	1	0
④	杉山	3	1	0	0	0
⑤	米田	2	0	0	1	0
H5	高橋	2	0	0	0	0
②	阿部	1	0	0	1	0
2	村上	3	3	1	0	0
①	池田	1	0	0	1	0
H	荻野	1	0	0	1	0
1	森岡	0	0	0	0	0
H	小川	1	1	1	0	0
R	金城	0	0	0	0	0
1	藤川	0	0	0	0	0
犠併残	2 0 7	35	12	5	6	0

	回	安	振	球	責
内田	8	12	6	0	4
池田	5	7	3	3	1
森岡	2	2	3	1	0
藤川	2	1	3	1	0

▷二塁打＝石川2、村上、大野▷犠打＝本3(吉村2、川端)日2(杉山、藤川)▷盗塁＝本1(宮本)日2(若山、杉山)▷失策＝本2(内川、吉村)日3(米田2、阿部)▷打撃妨害出塁者＝川端(阿部)▷試合時間＝3時間3分

第2試合＝2回戦(午後0時32分開始)

				計
王子製紙苫小牧	000	000	100	1
松下電器	000	000	002	2

▶審判(球審)鶴田(塁審)小林勉、前田、岸野

【王子製紙】		打	安	点	振	球
③	浜口	3	1	0	1	1
②	田中茂	3	2	1	1	1
⑤	佐々木稔	4	0	0	0	0
⑨	石井	4	1	0	1	0
⑧	沢田	4	0	0	1	0
⑦	菅野	3	1	0	2	1
⑥	千葉	4	1	0	1	0
④	仏川	4	1	0	1	0
①	高橋	2	0	0	0	0
1	樋口	2	0	0	0	0
犠併残	0 0 8	33	7	1	8	3

【松下電器】		打	安	点	振	球
④	野尻	4	1	0	0	1
⑥	楠	4	2	1	2	0
③	奥代	4	3	1	0	0
⑧	島田	1	0	0	0	3
⑨	前嶋	4	0	0	0	0
⑤	林	4	0	0	0	0
⑦	篠崎	4	2	0	0	0
②	大本	3	1	0	0	0
①	原	1	0	0	0	0
H	渋谷	1	0	0	0	0
1	北口	0	0	0	0	0
H	北野	1	0	0	0	0
1	塚岡	0	0	0	0	0
H	広岡	1	0	0	0	0
犠併残	3 0 1	32	9	2	2	4

	回	安	振	球	責
高橋	5⅓	4	1	1	0
樋口	3⅓	5	1	3	2
原	5	6	5	1	0
北口	2	1	2	2	1
塚岡	2	0	1	0	0

▷三塁打＝石井▷二塁打＝田中茂、大本▷犠打＝松3(楠、奥代、大本)▷盗塁＝王1(菅野)松2(楠、篠崎)▷試合時間＝2時間31分

第3試合＝2回戦(午後3時38分開始)

					計
東芝府中	000	210	000	000	3
住友金属	200	000	001	001	4

▶審判(球審)三宅(塁審)森、東、桃田(外審)河島、長谷

【東芝府中】		打	安	点	振	球
⑦	門間	3	0	0	2	0
7	金敷	2	0	0	0	0
④	中村	5	2	0	0	0
⑨	藤田	3	1	0	0	1
9	横堀	1	0	0	0	0
③	仲村	5	2	1	1	0
⑧	荒木	4	0	0	0	1
⑤	小川	4	1	0	1	0
5	斉藤	1	0	0	0	0
②	田中	4	1	2	0	0
H2	松坂	1	0	0	0	0
⑥	原口	4	1	0	0	1
①	高橋	3	0	0	2	0
1	伊藤	1	0	0	0	0
犠併残	1 0 6	41	8	3	6	3

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑤	松隈	5	0	0	0	1
④	四田	5	0	0	2	1
⑨	筒井	5	2	1	0	1
③	佐藤	5	1	0	0	0
⑧	三好	5	0	0	2	0
⑦	栗山	5	1	1	1	0
⑥	田中	5	1	0	0	0
②	小川	4	2	0	0	1
①	武田	1	0	0	1	0
1	古賀	0	0	0	0	0
H	前田	0	0	0	0	0
1	高橋	0	0	0	0	0
H	児嶋	1	0	0	0	0
1	松本	1	0	0	1	0
犠併残	2 0 9	42	7	2	7	4

	回	安	振	球	責
高橋	8⅔	5	4	2	1
伊藤	3	2	3	2	1
武田	3⅔	5	3	3	2
古賀	1⅓	2	1	0	1
高橋	2	0	0	0	0
松本	5	1	2	0	0

▷本塁打＝栗山1号(高橋)▷二塁打＝中村、仲村▷犠打＝東1(高橋)住2(前田、松本)▷盗塁＝東1(中村)住1(筒井)▷暴投＝武田▷試合時間＝2時間59分

〔2回戦〕日本生命－日本新薬 八回裏、日本生命一死一、三塁、井尻⑬がスクイズを外され、三塁走者花野が三本間で挟殺される。(捕手後藤、野手渡辺)

▽10月26日

第1試合＝2回戦(午前8時59分開始)

				計
日鉱佐賀関	000	000	000	0
新日鉄広畑	001	000	00X	1

▶審判(球審)吉田(塁審)程塚、清水正、原田

【日鉱佐賀】		打	安	点	振	球
⑧	岩尾	3	0	0	0	0
④	伏原	4	0	0	0	0
③	野上	4	2	0	0	0
R	百瀬	0	0	0	0	0
②	羽田野	4	0	0	0	0
⑦	吉近	3	0	0	0	0
⑤	清原	3	1	0	0	0
⑥	古田徹	2	0	0	0	1
⑨	平野	2	0	0	1	1
①	清	3	1	0	0	0
犠併残	1 1 4	28	4	0	1	2

【新日鉄広畑】		打	安	点	振	球
④	正田	4	0	0	0	0
⑦	原田	2	0	0	1	1
③	西川	4	2	1	0	0
⑨	尾形	4	0	0	0	0
⑧	船越	3	0	0	0	0
⑤	土江	3	0	0	1	0
5	西村雅	0	0	0	0	0
②	応武	3	0	0	0	0
①	西村基	3	2	0	0	0
⑥	児玉	3	0	0	0	0
犠併残	1 1 6	29	4	1	2	1

	回	安	振	球	責
清	8	4	2	1	0
西村基	9	4	1	2	0

▷二塁打＝西川、野上▷犠打＝日1(岩尾)新1(原田)▷盗塁＝新2(原田、西川)▷失策＝日3(伏原、古田徹2)▷試合時間＝1時間46分

外角カーブを狙う

◎…試合を決める新日鉄広畑の貴重な決勝点となったのは三回一死二塁で西川の放った右中間突破のタイムリー二塁打。「アウトコースのカーブです。最初の打席で内角を詰まったので、追い込まれるまで外角のカーブだけを待っていた。もともと下手投げはあまり好きじゃないんですよ。まぐれ、まぐれ」といかにもテレくさそう。この日はチーム4安打のうち一人で2安打を放ち、しかもその一本が殊勲打となってまずは「よし！」といった感じだった。

第2試合＝2回戦(午前11時16分開始)

					計
日本鋼管福山	000	200	000	04	6
河合楽器	010	000	100	00	2

▶審判(球審)広沢(塁審)上杉、大橋、河島

【鋼管福山】		打	安	点	振	球
⑦	佐藤	2	0	0	0	1
H9	今岡	2	0	0	2	1
④	佐名木	4	2	0	1	0
⑨	今野	0	0	0	0	0
H97	六条	4	2	0	0	0
③	岩野	4	1	0	1	1
⑤	渡部	4	1	1	0	0
⑧	松浦	4	1	2	1	0
②	白石	4	1	2	1	1
⑥	山田	4	1	1	0	1
①	浜口	3	0	0	0	0
H	木村	0	0	0	0	1
R	藤田	0	0	0	0	0
1	高橋	1	0	0	1	0
1	内山田	0	0	0	0	0
犠併残	4 1 7	36	9	6	7	6

【河合楽器】		打	安	点	振	球
⑧	牛尾	5	0	0	1	1
④	桜庭	0	0	0	0	0
4	柳本	4	2	0	0	0
R	末次	0	0	0	0	0
4	伊藤	1	0	0	0	0
③	村瀬	3	1	0	1	1
⑨	阪本	4	0	0	1	1
⑦	藤本	0	0	0	0	0
7	大須賀	4	2	0	0	0
H	小椋	1	0	0	0	0
7	中山	0	0	0	0	0
②	平生	4	1	0	0	0
⑤	山本	5	3	1	1	0
⑥	黒田	5	1	1	0	0
①	松田	4	0	0	1	0
1	白石	0	0	0	0	0
H	鈴木	1	0	0	1	0
犠併残	2 2 11	41	10	2	6	3

	回	安	振	球	責
浜口	9	7	5	1	2
高橋	1⅔	2	0	2	0
内山田	1	1	1	0	0
松田	10⅓	9	5	6	6
白石	⅔	0	2	0	0

▷本塁打＝山本1号(浜口)▷三塁打＝白石▷二塁打＝村瀬▷犠打＝日4(佐名木、六条、渡部、松浦)河2(村瀬、平生)▷盗塁＝日3(岩野、渡部、白石)河2(柳本、山本)▷失策＝日3(佐名木2、山田)▷ボーク＝高橋▷試合時間＝3時間6分

第3試合＝2回戦(午後2時55分開始)

				計
神戸製鋼	000	000	100	1
国鉄名古屋	121	030	00X	7

▶審判(球審)津田(塁審)本郷、長谷、生越(外審)中西則、三宅

【神戸製鋼】		打	安	点	振	球
⑧	小林貢	4	1	0	0	0
⑥	川原崎	3	0	0	0	0
③	高野	4	0	0	0	0
⑨	大村	3	1	0	0	1
②	荒井	3	0	0	1	1
④	中川	4	2	0	0	0
⑤	上野	4	1	0	2	0
⑦	中村	2	1	0	0	0
H7	日川	2	1	0	0	0
①	山本	0	0	0	0	0
1	青山	0	0	0	0	1
1	若生	0	0	0	0	0
H	山崎	1	1	1	0	0
1	西山	0	0	0	0	0
犠併残	2 0 7	30	8	1	3	3

【国鉄名古屋】		打	安	点	振	球
⑤	森本	3	1	2	0	1
⑥	植田	5	0	0	0	0
⑨	内藤	5	3	0	1	0
③	林	5	2	1	1	0
⑦	高島	0	0	0	0	0
7	増田	4	2	0	0	1
⑧	高橋	4	3	3	0	0
④	吉田	3	0	0	0	0
②	坂野	4	2	1	1	0
①	鈴木	2	1	0	1	0
犠併残	4 2 10	35	14	7	4	2

	回	安	振	球	責
山本	3	6	2	0	3
青山	1⅔	3	1	1	2
若生	2	3	0	1	1
西山	2	2	1	0	0
鈴木	9	8	3	3	1

▷本塁打＝森本1号(山本)林2号(青山)高橋1号②(若生)▷二塁打＝高橋2、増田2、鈴木、日川、山崎、林▷犠打＝神2(川原崎、山本)国4(森本、吉田、鈴木2)▷盗塁＝神1(小林貢)▷失策＝神1(高野)▷試合時間＝2時間26分

▽10月27日

第1試合＝2回戦(午前9時58分開始)

				計
東芝	003	001	100	5
新日鉄堺	000	000	002	2

▶審判(球審)木嶋(塁審)小林加、桂、戸田

【東芝】		打	安	点	振	球
⑥	新木	4	0	0	0	0
④	宮崎	3	1	0	0	1
H	片岡	1	0	0	1	0
4	藤森	0	0	0	0	0
③	武智	4	3	2	0	1
⑤	青島	3	1	2	0	2
⑦	福本	4	0	0	3	0
⑨	鈴木栄	4	0	0	0	0
9	梁原	0	0	0	0	0
⑧	倉橋	2	0	0	0	0
H8	田辺	1	0	0	0	1
②	安斉	4	2	1	1	0
①	川端	4	0	0	0	0
犠併残	1 4 8	34	7	5	5	5

【新日鉄堺】		打	安	点	振	球
⑦	山下	2	0	0	1	1
H	中西	1	1	0	0	0
R	藤本	0	0	0	0	0
④	花川	3	2	0	0	0
⑥	浦東靖	4	1	0	1	0
⑨	米倉	3	0	0	1	0
H	山尾	1	1	2	0	0
③	石原	2	0	0	0	1
1	小椋	0	0	0	0	0
H	樽口	1	0	0	0	0
②	浦	3	0	0	1	1
⑤	馬場	3	0	0	0	0
①	清水	1	0	0	1	0
1	九鬼	0	0	0	0	0
H	江川	1	0	0	0	0
1	萩原	0	0	0	0	0
3	久保	1	0	0	0	0
⑧	西垣	3	0	0	0	0
犠併残	1 0 4	29	5	2	5	3

	回	安	振	球	責
川端	9	5	5	3	2
清水	4⅓	4	2	1	3
九鬼	⅔	1	1	1	0
萩原	2	2	1	2	2
小椋	2	0	1	1	0

▷本塁打＝武智1号(萩原)▷二塁打＝武智、安斉▷犠打＝東1(新木)堺1(花川)▷盗塁＝東4(新木、宮崎、武智、青島)▷試合時間＝2時間23分

第2試合＝2回戦(午後0時55分開始)

				計
日本新薬	000	010	001	2
日本生命	000	002	10X	3

▶審判(球審)加瀬(塁審)鶴田、山口、清水忠

【日本新薬】		打	安	点	振	球
⑧	原田	4	1	0	0	0
④	浅倉	4	2	0	1	0
⑨3	中道	4	0	0	0	0
③	山田	3	0	0	0	0
9	西村	1	0	0	0	0
⑦	小林	4	2	0	0	0
⑤	渡辺	3	1	1	0	0
R	中井弘	0	0	0	0	0
②	後藤	1	0	0	0	2
⑥	田所	4	1	1	2	0
①	川崎	2	0	0	0	0
H	中本	0	0	0	0	1
R	岡田	0	0	0	0	0
1	前田	0	0	0	0	0
H	小竹	1	0	0	0	0
犠併残	2 0 7	31	7	2	3	3

【日本生命】		打	安	点	振	球
④	赤井	4	1	0	0	0
⑦	西本	1	1	0	0	2
⑧	森田	4	3	1	0	0
③	佐藤	3	0	0	1	0
⑨	内田	4	1	2	0	0
⑤	花野	3	0	0	0	1
②	佐竹	4	0	0	0	0
⑥	井尻	4	2	0	0	0
①	早瀬	1	0	0	0	0
H	児玉	1	0	0	0	0
1	加藤	0	0	0	0	0
1	伊藤	0	0	0	0	0
犠併残	3 0 8	29	8	3	1	3

	回	安	振	球	責
川崎	7	8	1	2	3
前田	1	0	0	1	0
早瀬	5	4	2	1	1
加藤	3	1	0	2	0
伊藤	1	2	1	0	1

▷二塁打＝田所、内田、小林、渡辺▷犠打＝新2(渡辺、後藤)生3(西本、佐藤、加藤)▷盗塁＝生2(森田2)▷失策＝新1(中道)▷試合時間＝2時間26分

「好機に打つ」公約果たした

◎…六回、日本生命·内田は打席に入った時「四番の佐藤さんがバントしてチャンスを作ってくれたのだから、なんとしても期待に応えなければならないと思いました」と闘志満々だった。実は昨年のこの大会、準々決勝のヤマハ発動機戦で、同じく1点差を追っていた八回無死一、二塁に佐藤がバント失敗で三振、内田も三振して負けてしまった苦い思い出がある。同じような場面で今度は佐藤がバント成功、内田が「自分も」と勇みたつのも道理。その気迫が実って見事な逆転の右越え二塁打を放った。

第3試合＝2回戦(午後3時54分開始)

				計
電電信越	100	010	001	3
日産自動車	001	000	32X	6

▶審判(球審)三宅(塁審)大橋、浜崎、中西則(外審)鹿多、前田

【電電信越】		打	安	点	振	球
⑧	石田	4	1	1	1	1
④	藤嶋	5	2	1	1	0
⑦	横井	5	0	0	1	0
⑤	西条	4	1	0	0	0
③	藤森	4	1	0	0	0
⑨	佐藤	0	0	0	0	0
9	箱山	4	1	1	0	0
⑥	松崎	3	0	0	0	0
H	土居	0	0	0	0	1
②	常盤	2	0	0	1	1
H	渡辺	1	0	0	1	0
①	田口	3	1	0	1	0
1	高野	0	0	0	0	0
1	木下	0	0	0	0	0
H	栗原	1	1	0	0	0
犠併残	0 1 9	36	8	3	6	3

【日産自動車】		打	安	点	振	球
⑧	大野	4	3	0	0	0
⑥	鈴木	4	1	1	0	0
⑦	堀添	3	2	0	0	1
⑨	鶴岡	4	1	0	0	0
③	若山	4	0	0	1	0
④	杉山	2	1	0	1	1
②	村上	3	1	1	0	0
⑤	米田	4	3	4	0	0
①	森岡	1	0	0	0	0
1	大石	1	0	0	1	0
H	荻野	1	0	0	0	0
1	池田	1	0	0	0	0
犠併残	2 0 6	32	12	6	3	2

	回	安	振	球	責
田口	6⅔	8	3	2	4
高野	1	4	0	0	2
木下	⅓	0	0	0	0
森岡	4⅓	4	2	2	2
大石	2⅔	0	2	0	0
池田	2	4	2	1	1

▷本塁打＝藤嶋1号(森岡)米田1号、2号②(田口)箱山1号(森岡)▷二塁打＝大野、杉山、堀添、村上、石田▷犠打＝日2(杉山、村上)▷盗塁＝電1(常盤)日3(大野2、杉山)▷失策＝電1(横井)日1(若山)▷試合時間＝2時間35分

▽10月28日

第1試合＝準々決勝(午前10時7分開始)

				計
住友金属	020	001	010	4
松下電器	000	000	030	3

▶審判(球審)加瀬(塁審)上杉、大橋、吉田

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑥	田中	5	1	0	0	0
④	前田	1	0	0	0	0
H	児嶋	1	0	0	0	0
4	四田	2	1	0	1	0
⑨	筒井	5	0	0	1	0
③	佐藤	4	0	0	0	1
⑦	栗山	5	0	0	2	0
⑧	三好	4	2	0	0	0
⑤	松隈	3	2	0	0	0
②	小川	4	2	2	1	0
①	高橋	3	2	1	1	1
1	松本	0	0	0	0	0
犠併残	2 0 10	37	10	3	6	2

【松下電器】		打	安	点	振	球
④	野尻	4	0	0	1	1
⑥	楠	5	3	0	0	0
⑤3	奥代	4	1	0	0	1
⑧	島田	5	1	0	1	0
⑨	前嶋	5	3	1	0	0
③	北野	2	0	0	0	0
1	原	1	0	0	0	0
H	渋谷	1	1	1	0	0
1	北口	0	0	0	0	0
⑦	篠崎	4	1	0	0	0
②	大本	4	1	0	0	0
①	塚岡	1	0	0	0	0
H5	林	2	1	1	0	1
犠併残	0 1 11	38	12	3	2	3

	回	安	振	球	責
高橋	7⅔	10	1	3	3
松本	2	2	1	0	0
塚岡	5	6	2	1	0
原	3	3	3	1	0
北口	1	1	1	0	0

▷二塁打＝前嶋2、三好、島田、渋谷▷犠打＝住2(前田、松隈)▷盗塁＝住2(佐藤、小川)松2(楠2)▷失策＝住1(田中)松5(野尻、楠、奥代、篠崎、大本)▷試合時間＝2時間33分

第2試合＝準々決勝(午後1時14分開始)

				計
新日鉄広畑	001	200	001	4
日本鋼管福山	010	000	110	3

▶審判(球審)小林勉(塁審)本郷、箕浦、生越

【新日鉄広畑】		打	安	点	振	球
④	正田	5	3	0	0	0
⑦	原田	4	2	1	1	0
③	西川	3	0	0	1	1
H	黒田純	1	1	1	0	0
R	黒田晃	0	0	0	0	0
3	砂田	0	0	0	0	0
⑨	尾形	4	1	1	0	1
⑧	船越	5	0	0	0	0
⑤	土江	4	3	0	0	0
5	西村雅	0	0	0	0	0
②	応武	4	2	0	0	0
①	藤高	3	0	0	2	0
1	西村基	0	0	0	0	0
⑥	児玉	4	1	1	1	0
犠併残	2 1 10	37	13	4	5	2

【鋼管福山】		打	安	点	振	球
⑦	佐藤	2	0	0	1	0
H9	今岡	3	0	0	0	0
④	佐名木	4	2	0	0	0
⑨	今野	0	0	0	0	0
97	六条	4	0	0	0	0
③	岩野	2	0	0	2	2
⑤	渡部	4	3	2	1	0
⑧	松浦	4	1	0	0	0
②	古川	2	1	1	0	0
H	木村	1	0	0	0	0
2	白石	0	0	0	0	1
⑥	山田	2	0	0	2	0
H	安永	1	0	0	0	0
6	深谷	0	0	0	0	0
①	内山田	2	0	0	2	0
H	岡田	1	1	0	0	0
R	藤田	0	0	0	0	0
1	浜口	0	0	0	0	0
H	清水	0	0	0	0	1
犠併残	1 1 7	32	8	3	8	4

	回	安	振	球	責
藤高	7⅔	6	8	1	3
西村基	2	2	0	3	0
内山田	8	11	3	1	3
浜口	1	2	2	1	1

▷二塁打＝土江2、児玉、渡部▷犠打＝新2(原田、藤高)日1(深谷)▷盗塁＝新2(正田2)日1(白石)▷試合時間＝2時間53分

▽10月29日

第1試合＝準々決勝(午前9時57分開始)

				計
国鉄名古屋	000	010	000	1
東芝	000	010	001	2

▶審判(球審)中西明(塁審)広沢、松山、山口

【国鉄名古屋】		打	安	点	振	球
⑤	森本	4	0	0	1	0
⑥	植田	3	2	0	0	1
⑨	内藤	3	0	0	1	0
③	林	3	0	0	1	1
⑦	増田	3	0	0	1	1
⑧	高橋	4	1	0	0	0
④	吉田	4	0	0	3	0
②	坂野	3	1	1	0	0
①	鈴木	3	0	0	2	0
犠併残	1 0 6	30	4	1	9	3

【東芝】		打	安	点	振	球
⑥	新木	4	1	1	0	1
④	宮崎	4	0	1	0	0
③	武智	4	1	0	0	0
⑤	青島	3	2	0	1	1
⑦	福本	2	0	0	1	0
H	泉水	1	0	0	0	0
7	梁原	0	0	0	0	0
⑨	鈴木栄	4	0	0	0	0
⑧	田辺	4	3	0	0	0
②	安斉	3	0	0	0	0
①	黒紙	4	1	0	0	0
犠併残	2 0 9	33	8	2	2	2

	回	安	振	球	責
鈴木	8⅔	8	2	2	2
黒紙	9	4	9	3	1

▷二塁打＝田辺2▷犠打＝国1(内藤)東2(福本、安斉)▷盗塁＝東1(武智)▷失策＝国1(高橋)▷試合時間＝2時間15分

第2試合＝準々決勝(午後0時46分開始)

				計
日本生命	030	100	102	7
日産自動車	000	000	010	1

▶審判(球審)三宅(塁審)鶴田、池田、浜崎

【日本生命】		打	安	点	振	球
④	赤井	5	1	0	1	0
⑦	西本	3	1	0	0	0
⑧	森田	4	0	0	0	0
③	佐藤	4	0	0	3	0
⑨	内田	3	0	0	0	1
⑤	花野	3	2	2	0	0
②	佐竹	4	2	0	0	0
⑥	井尻	3	1	1	0	1
①	早瀬	4	2	4	0	0
犠併残	2 1 3	33	9	7	4	2

【日産自動車】		打	安	点	振	球
⑧	大野	4	1	0	0	0
④	杉山	4	1	0	0	0
⑨	鶴岡	4	1	0	0	0
③	若山	4	0	0	1	0
⑦	白鳥	3	1	0	0	1
②	村上	2	0	0	0	1
R	伊東	0	0	0	0	0
2	阿部	0	0	0	0	0
H	小川	1	0	0	0	0
⑤	米田	3	0	0	1	0
H	大塚	0	0	0	0	1
R	金城	0	0	0	0	0
⑥	鈴木	2	0	0	0	1
6	渡辺	1	0	0	0	0
①	池田	1	0	0	0	0
H	荻野	1	0	0	0	0
1	大石	0	0	0	0	0
H	堀添	1	0	0	0	0
1	藤川	0	0	0	0	0
1	秋山	0	0	0	0	0
H	高橋	1	0	0	0	0
犠併残	0 1 8	32	4	0	2	4

	回	安	振	球	責
早瀬	9	4	2	4	0
池田	5	5	2	1	4
大石	3	2	2	0	1
藤川	⅔	2	0	1	2
秋山	⅓	0	0	0	0

▷本塁打＝早瀬1号③(池田)花野1号(池田)2号(大石)▷二塁打＝鶴岡、赤井、井尻▷犠打＝生2(西本、花野)▷失策＝生2(赤井、井尻)▷暴投＝早瀬▷試合時間＝2時間14分

▽10月30日

第1試合＝準決勝(午前9時59分開始)

				計
新日鉄広畑	020	010	010	4
住友金属	003	001	11X	6

▶審判(球審)加瀬(塁審)津田、鶴田、池田

【新日鉄広畑】		打	安	点	振	球
④	正田	5	0	0	1	0
⑦	原田	4	1	1	0	0
③	西川	4	1	0	2	0
⑨	尾形	4	1	1	0	0
⑧	船越	3	0	0	0	0
H	黒田純	1	1	0	0	0
R8	黒田晃	0	0	0	0	0
⑤	土江	4	2	0	0	0
②	応武	4	1	0	0	0
①	夜久	1	1	2	0	0
H	砂田	1	0	0	0	0
1	藤高	1	0	0	0	0
H	西村雅	1	0	0	0	0
⑥	児玉	4	2	0	1	0
犠併残	0 0 6	37	10	4	4	0

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑤	松隈	4	2	0	0	0
④	四田	2	0	0	1	0
H	児嶋	1	0	0	0	0
4	前田	0	0	0	0	0
⑨	筒井	4	3	4	0	0
③	佐藤	4	1	1	1	0
⑧	三好	4	1	1	0	0
⑦	栗山	3	1	0	0	1
7	黒石	0	0	0	0	0
⑥	田中	4	2	0	0	0
②	小川	4	0	0	0	0
①	高橋	3	0	0	1	0
1	松本	0	0	0	0	0
犠併残	1 0 5	33	10	6	3	1

	回	安	振	球	責
夜久	4	6	0	0	3
藤高	4	4	3	1	3
高橋	7⅔	9	3	0	3
松本	1⅓	1	1	0	0

▷本塁打＝夜久1号②(高橋)筒井1号③(夜久)佐藤1号(藤高)尾形1号(高橋)、三好1号(藤高)▷三塁打＝応武▷二塁打＝松隈2、筒井▷犠打＝住1(四田)▷盗塁＝新3(正田、児玉2)▷失策＝住1(松隈)▷試合時間＝2時間12分(中断10分)

5アーチ打撃戦、住金打ち勝つ

住友金属が両軍合わせて5本塁打が乱れ飛んだ打撃戦を制した。住金は同点で迎えた六回、主砲の佐藤が新日鉄広畑の二人目、藤高から左翼席へ豪快なアーチをかけて勝ち越し。七回には松隈、筒井の二塁打で加点し、八回、三好の本塁打で突き放した。

先制したのは新日鉄広畑。二回二死から応武が左中間三塁打し、続く投手の夜久が右越え本塁打を放って2点を先取した。追う住金は三回、先頭の松隈が右翼線二塁打、四田の送りバントが野選を誘って無死一、三塁のチャンスをつかみ、筒井が右翼席に運んで逆転した。

広畑は五回二死から正田が三ゴロ失で生きて二盗、原田の中前適時打で追いついた。

失策による失点でイヤな感じの住金だったが、高橋が粘りのある投球でよく耐えた。八回、尾形の本塁打で1点差に迫られると、松本を送って逃げきる今大会の勝利のパターンで広畑を降した。

第2試合＝準決勝(午後0時55分開始)

				計
日本生命	000	001	000	1
東芝	000	002	00X	2

▶審判(球審)広沢(塁審)中西明、松山、小林勉

【日本生命】		打	安	点	振	球
④	赤井	4	0	0	1	0
⑦	西本	4	1	0	0	0
⑧	森田	3	1	1	0	1
③	佐藤	4	1	0	0	0
⑨	内田	4	1	0	0	0
⑤	花野	4	0	0	0	0
②	佐竹	3	1	0	0	1
R	山内	0	0	0	0	0
⑥	井尻	4	1	0	2	0
①	早瀬	2	0	0	0	0
H	大西	1	0	0	0	0
1	加藤	0	0	0	0	0
犠併残	0 2 7	33	6	1	3	2

【東芝】		打	安	点	振	球
⑥	新木	3	1	0	0	0
⑧	田辺	4	2	0	0	0
③	武智	4	1	0	0	0
⑤	青島	3	1	0	0	1
⑦	福本	4	2	2	0	0
⑨	梁原	3	0	0	1	0
④	吉田	2	0	0	0	0
H4	宮崎	1	0	0	0	1
②	安斉	2	0	0	0	0
①	川端	3	2	0	0	0
犠併残	3 0 8	29	9	2	1	2

	回	安	振	球	責
早瀬	6	7	0	2	2
加藤	2	2	1	0	0
川端	9	6	3	2	1

▷本塁打＝森田1号(川端)▷二塁打＝西本▷犠打＝東3(新木、梁原、安斉)▷盗塁＝日1(山内)▷失策＝日1(井尻)東1(吉田)▷試合時間＝2時間20分

東芝、先制されて黒獅子目覚める

湿り気味だった東芝打線が、準々決勝の国鉄名古屋戦と同じく、相手の本塁打で目を覚ました。

東芝は1点を先行された六回、田辺、武智の連打で一死一、二塁。青島のカウント2－3後、日生・佐竹捕手がファウルを当てて痛めた足の治療で4分間の中断、再開後の1球は高めに外れ四球。この満塁の好機に福本が中前打して2者を還し、逆転した。

日生は一回一死、西本が右中間二塁打したが後続がなく、二回二死二塁もストライクゾーンいっぱいに球を散らして揺さぶる川端の投球に決定打が奪えなかった。

東芝は大会前の下馬評通り、優勝戦に進出したが、日生の連投の早瀬と加藤から9安打を放ち、四回を除き毎回走者を出しながら2－1の1点差だったのは、気になるところだ。

▽10月31日

優勝戦(午後2時2分開始)

東芝	000	000	000	0
住友金属	000	100	10X	2

▶審判(球審)中西明(塁審)三宅、木嶋、上杉

【東芝】		打	安	点	振	球
⑥5	新木	3	1	0	0	0
⑧	田辺	4	1	0	0	0
③	武智	3	1	0	1	1
⑦	福本	3	0	0	1	0
⑨	鈴木栄	4	2	0	0	0
9	梁原	0	0	0	0	0
⑤	片岡	3	1	0	0	0
H	小林	1	0	0	0	0
6	真喜志	0	0	0	0	0
④	宮崎	4	1	0	0	0
②	安斉	4	1	0	0	0
①	青木	2	1	0	0	0
H	伊藤	1	0	0	0	0
1	黒紙	0	0	0	0	0
H	泉水	1	0	0	0	0
犠 併 残	2 0 9	33	9	0	2	1

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑤	松隈	4	0	0	1	0
④	四田	3	0	0	2	0
H	児嶋	1	0	0	0	0
4	前田	0	0	0	0	0
⑨	筒井	3	0	0	1	1
③	佐藤	4	0	0	0	0
⑧	三好	4	1	0	0	0
⑦	栗山	3	1	1	1	0
⑥	田中	2	0	0	0	1
②	小川	1	1	0	0	0
①	高橋	1	1	1	0	0
犠 併 残	4 0 6	26	4	2	5	2

	回	安	振	球	責
青木	6	3	3	2	1
黒紙	2	1	2	0	0

	回	安	振	球	責
高橋	9	9	2	1	0

▷二塁打＝栗山、安斉▷犠打＝東2(新木、福本)住4(小川2、高橋2)▷盗塁＝住1(松隈)▷失策＝東1(新木)住1(前田)▷試合時間＝2時間4分

〔優勝戦〕住友金属―東芝　最後の打者を遊ゴロに仕留め、抱き合って優勝を喜ぶ住友金属バッテリーと、マウンドに駆け寄るナイン。

住金・高橋、9安打完封

住友金属はエース・高橋が粘りある投球で、“春夏連覇”を目指す東芝を完封した。予想どおり高橋を先発させた住友金属に対し、東芝は意表を突いて20歳の青木をマウンドに送った。序盤はともに得点機をつかんだが、点に結びつかない。

均衡が破れたのは四回。住金は先頭の筒井が死球。佐藤のバントで筒井は二封されたが、二死後、栗山が右翼線に二塁打して先取点を奪った。青木の外角球に逆らわず、体を開いて右に運んだ鮮やかな先制打だった。

住金は七回にも高橋が2人目の黒紙から左前適時打して1点を追加、自らの投球を楽にした。

主砲の青島をケガで欠く東芝はここ一発が出ない。六回、一死一、三塁は片岡の中飛で本塁に突入した福本が、住金の8－6－2と渡る好中継に刺された。七回も一死二、三塁としたが、高橋の内外角に巧みに投げ分ける速球と鋭い変化球に適時打を奪えず、完封を許した。

監督ひと

住友金属　山中 正竹監督

「去年のメンバーから石井(西武)、西村(大洋＝現横浜)がプロに移って戦力ダウンと言われましたが、みんながチャンスを精一杯生かし、意地を見せましたね」

現役左腕投手時代にも「マウンドの貴公士」然とした雰囲気を漂わせていたが、折り目正しさは、陸軍少佐だった父親ゆずりか。ピンチに真一文字に結んだ口元が負けん気とストイックな性格をのぞかせる。

「とにかく負けるのはイヤですね。しかしそれだけでは社会人野球選手ではありません。品位がなければ…。口うるさい監督と思っているでしょうが、選手にはいつも野球選手であると同時に常識人であれと言っているんですよ。会社全体の盛り上がりなければ、野球は勝てません」

現役選手6年、助監督のあと1977年から4年間、まったく野球を離れ、東京本社第一原料部勤務。この間のサラリーマン一筋の生活のなかで、人間関係はいかにあるべきか、組織とは何かを学んだことが、監督就任以降、役立っているという。

法大時代の監督でもある松永怜一・前監督が、厳しさを徹底的に追求し“精神野球”といわれたのに対し、“全員野球”との評。ときには若手投手を一本立ちさせるために、試合で続投させすぎ、失敗したことも。優しさであると同時に、一度決めたことは容易に変えない頑固さもある。

優勝戦が近づくにつれ、睡眠時間が少なくなった。「神経質なんです」ということだが、明日の試合の作戦を考えるうちに、神経が高ぶって寝られなくなったらしい。この真剣さと負けん気ゆえに、170ｷﾝに満たぬ身で、あの江川さえ及ばぬ東京6大学最多勝利の48勝ができた。

大分県佐伯市生まれ。70年住金入社、監督2年目の82年、都市対抗優勝。和歌山製鉄所厚生課副長。36歳。　(津田　康)

監督談話

住友金属・山中正竹監督　優勝の原因をあげれば、高橋、松本の粘り強い投球。嶋田のケガ欠場は確かに困ったが、小川が好リードをみせるなどみんながよくカバーしてくれた。東芝はうちを上回る力を持っていたが、他チームがおそれるほどのプレッシャーはなかった。投手を中心に守りきる本来の野球ができた。

東芝・前野和博監督　投手も打撃もよかった。なのに、もうひと押しがなかった。今年一年を通じ、もっとも悪い展開になってしまった。高橋投手は低めを丁寧につき、ナイスピッチングだった。勝ちたかったが、住金の守りがうちの打撃を上回った。春の東京大会、夏の都市対抗をともに制し、秋も準優勝なんだから、うちの選手は本当によくやった。今日は相手が強かった。

押されて、あせらず住金ナイン

熱球

“赤い軍団”東芝が、グイグイ押した。全日本選手5人を擁し、“グレーの軍団”住友金属を守勢一方に追いやった。選手個人の力を比較したら、圧倒的に東芝の方が上で、都市対抗、日本選手権と史上初の“夏秋連覇”は目の前まできていた。

しかし、東芝に押されているはずの住友金属は、全くあせりを感じたふうはなかった。今年の東芝の戦いぶりを数多く観察し、今大会の3試合すべてをVTRに収めて、徹底的に“解剖”したら「東芝は決して怖くない」という結論が出たからだ。それに山中監督のミーティングの“ゲキ”も効いた。「春の東京大会、都市対抗に次いで日本選手権まで東芝にやられたら、他の社会人チームは何をやっていたかといわれる。社会人の全チームを代表して、東芝を倒そう」

四回も、七回も東芝のわずかなほころびを見逃さずに得点したものだった。そして高橋―小川のバッテリーが実に巧みなかけひきでこの2点を守った。2人は第6回大会の優勝バッテリーである。30歳のベテラン小川は大会直前に嶋田の左足首骨折で急きょマスクをかぶった。「大会前のオープン戦3試合に出ただけだったから、どうなることかと思っていました」と小川。前の優勝の時も主将で4番だった中村裕二選手が大会前に急逝して小川にお鉢が回ってきた。不思議な因縁でもある。

第6回大会で優勝して最高殊勲選手賞をもらいながら石井(現西武)の入団で、エースの座を追われた恰好になった高橋は、クサった時期もあった。が、走りこみだけは怠らなかった。それが実った。「ゆるくて低めに球を集められると、うちの打線は弱い。本当の弱点を突かれた。この練習が出来てなかった」と東芝の前野監督を嘆かせた巧投が生まれたのだ。

高橋は「自分がなんで、これだけ投げられたのかわからない」とポカーンとしていた。「勝因は」としばらく間を置いて山中監督は「やっぱり粘りです」といった。コツコツ、地道に、ひたむきな姿勢で野球を続ければ、一人々々の力ではかなわなくても、必ず勝てることを住友金属野球団は教えてくれた。　(相馬　卓司)

── 住金の栗山、不振の中で2殊勲打 ──

「チームに迷惑ばかりかけていたんです」と住友金属・栗山和行左翼手は絞り出すような言葉で話した。この記念大会、19打数でわずか3安打。1割5分8厘の低打率。しかしそのうちの2本が試合の行方を決める効果的な一打となった。敗色濃厚だった2回戦の東芝府中戦でみせた九回裏の同点ホーマーは、死にかけたチームを生き返らせる一撃だった。そして優勝戦では四回二死二塁の好機に右翼線へ先制の二塁打を弾き返した。

「外ばかり攻められてなかなか打たせてもらえなかったんです。だから外を狙っていました。打ったのは読みどおり外角寄りのストレートでした」と声をはずませた。

箕島高時代は1977年のセンバツ優勝に大きな力となり、明大へ進学。打順はいずれも不動の四番。その実績を買われて住友金属に入社してからもいきなり四番に抜てきされた。だが「まだまだ粗さが目立つ」と山中監督は夏の都市対抗が終わってから下位に下げた。高校、大学、社会人といつも打線の軸を務めてきた栗山が、六番に下げられたうっぷんを、ひそかにこの大会にぶつけたに違いない。ヒットの数こそ少なかったが、「ここぞ」の場面で放った貴重な一打が、住金の勝利を支えた。「それにしてもいいところで打ててよかったです」

第10回記念大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞　高橋修二投手（住友金属）　優勝までの5試合に全て登板。初戦の専売東北を1失点に抑えて完投、優勝戦は強打の東芝を相手に粘り強い投球で完封するなど34回3分の2を投げて自責点7、防御率1.82。

高知高時代の1974年春夏の甲子園に出場して、センバツでベスト8に進出。翌年入社し、森、石井（ともに西武）の陰に隠れた時期もあったが、速球主体の投球に魅力を感じさせる。第6回大会の優勝戦に先発して2度目の優勝に貢献している。今季は石井の抜けたあとを武田投手とともに補い、この選手権では主戦格で頑張った。174㌢、70㌔、右投げ右打ち。和歌山製鉄所庶務課勤務。

◇敢闘選手賞　川端順投手（東芝）　新日鉄堺、日本生命の2試合に完投、決勝進出への原動力となった。威力ある速球、シュートを武器に18回で自責点3、防御率1.50の成績を残した。今季は春の東京大会から15勝して負け知らず。東京大会で最優秀選手に選ばれ、この大会の予選で優秀投手賞、本大会で敢闘賞を獲得。徳島・鳴門高ー法大から東芝に入って2年目。185㌢、78㌔、右投げ右打ち。本社通信放送システム事業部勤務。

◇打撃賞　田辺浩昭中堅手（東芝）　4試合、13打数6安打、4割6分2厘。初戦の新日鉄堺戦の途中から出場、打線のつなぎ役として活躍した。法政二高ー法大を経て今春入社し、春の東京大会からベンチ入り。球をとらえるのがうまく、大試合にも冷静にプレーするところが買われている。176㌢、70㌔、左投げ左打ち。玉川工場総務部勤労課勤務。

◇大会優秀選手

【投手】高橋修二（住友金属）川端順（東芝）藤高俊彦（新日鉄広畑）早瀬万豊（日本生命）鈴木豊彦（国鉄名古屋）内山田慶弘（日本鋼管福山）　**【捕手】**小川良一（住友金属）村上忠則（日産自動車）応武篤良（新日鉄広畑）　**【内野手】**武智勇治（東芝）佐藤雄樹（住友金属）正田耕三（新日鉄広畑）佐名木睦夫（日本鋼管福山）青島健太（東芝）土江正人（新日鉄広畑）田中祐司（住友金属）井尻陽久（日本生命）児玉貴志（新日鉄広畑）　**【外野手】**筒井大助（住友金属）田辺浩昭（東芝）森田昇（日本生命）六条誠一（日本鋼管福山）高橋哲夫（国鉄名古屋）大野久（日産自動車）

◇10年表彰

第10回記念のため、10年連続出場の松下電器（近畿）と第1回大会から審判を務めている次の各氏に表彰状が贈られた。

小西正一、三輪武、中西明、三宅享次、小林加寿男、戸田直佑、原田謹爾、片岡成夫、上杉正、津田浩嗣。

霊前に「佐伯達夫杯」

社会人野球日本選手権10回記念大会を記念し新設

佐伯達夫杯の完成を喜ぶ妻のヨシ子さん（羽曳野市の自宅で）

記念大会を機に新設された「佐伯達夫杯」が出来上がり、10月19日、故・佐伯達夫氏（前日本高野連会長）の妻ヨシ子さん（75）＝大阪府羽曳野市高鷲6の3の19＝と初めて"対面"した。同大会開催に力を尽くした佐伯さんの功績をたたえ、今大会から優勝チームに贈られる。

同杯は直径50センチ、高さ45センチ、重さ13キロという大きなもの。杯の縁の部分に「佐伯達夫杯」の文字と大会のシンボルであるダイヤモンドのマーク入りで、ずっしりとした手応え。同大会の重厚さとよくマッチしたデザインになっている。

佐伯氏は「関西で社会人野球の全国大会を」というアマチュア野球界の願いを受けとめ、チームを持つ会社をまわって「都市対抗が東京なので、選手権大会はぜひ関西で」と協力を要請。また、「甲子園でプレーした球児たちの成長した姿も見たい」とも語り、大会実現に尽力。その構成から同大会の"生みの親"と言われている。

自宅で同杯を初めて見たヨシ子さんは、故人の遺影を手にしながら「主人はアマチュア野球を良くすることしか頭にない人でした。その信念を伝え、名前を残すことができるものを作っていただいて、本当にうれしい。授与式のある閉会式には大阪球場に駆けつけます」と話していた。

創部1年目の初出場

本田熊本、大塚監督基本指導実る

熊本市の北方20キロ。人口約2万2000人の菊地郡大津町（おおづまち）では本田技研熊本製作所野球部の日本選手権出場が町民の間で大きな話題となっている。本田技研を誘致して操業を開始したのは1976年。それから7年目。同社の創業35周年を記念して今年2月に野球部が誕生した。刺激の少なかった田園地帯だけに西岡勝住町長をはじめ町民たちは双手をあげて歓迎。"わが町の代表"を励まそうと今夏熊本市で開かれた都市対抗九州予選には町長、従業員200人が貸し切りバス30台を連ねて乗り込む熱狂ぶりだった。この予選では第一戦で九州産交と延長15回にわたる熱戦を演じ5－4で惜敗したものの、その戦いぶりが注目された。あれから3カ月、見事な変身ぶりをみせ、晴れ舞台をふむチャンスをつかんだ。「来年から本格的に強化するつもりでいたので、早過ぎたと思う。全国的レベルからみればまだまだ低いし、パワー、スピードとも不足だ」と大塚勝秋監督（39）は謙そんする。

しかし、内田投手、西村一塁手、内川二塁手、古田外野手らの鈴鹿からの転勤組を除けば今春卒業の高校選手で固めた若いチームを短期間で変身させた同監督の手腕は見逃せない。大塚監督は久留米商から法大へ進み、本田技研和光では二塁手として活躍、引退後の71年、鈴鹿チームの誕生とともに初代監督となり、2年目で後楽園へ進出させた。「基本を忠実に守るよう指導しているだけ。私の信条として技術より人間性を重くみている。うちの選手はまじめで練習熱心、その努力が報いられたといっていいでしょう」と精神野球を強調する大塚監督。法大時代、松永怜一監督（現日本社会人野球協会理事）に教わった指導法の影響をうけているようだ。代表決定戦で敗れた電電九州の永園監督は「基本通りのプレーで堅実なゲームをやる。こわさはないが、軽視すると大ケガをさせられるチームだ」と話す。

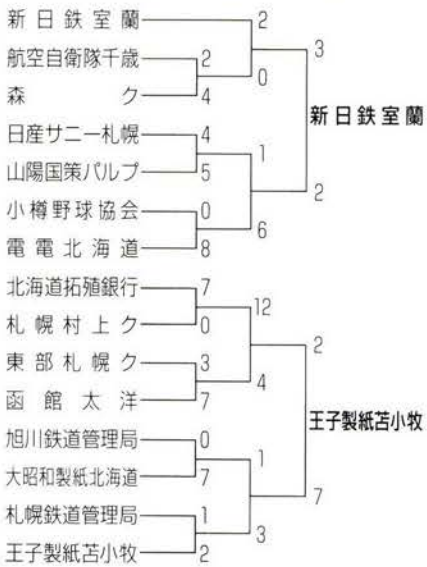
和光、鈴鹿に続く三男坊として、次の国に生まれたこのチーム。大塚監督がめざす九州人特有の"野武士的な野球"をヒノキ舞台でどう披露するだろう。

第10回記念大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月11日から　5日間　　札幌市営円山球場



東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽**一回戦**　自衛隊青森４－３全弘前倶、三菱製紙八戸６－５八甲ク▽**敗者復活戦**　全弘前倶16－３八甲ク▽**準決勝**　自衛隊青森９－８三菱製紙八戸、オール青森６－５全弘前倶▽**決勝**　自衛隊青森３－０オール青森（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**▽**一回戦**　一関三星ク９－８宮城建設久慈ク、東京製綱２－１九戸ク、オール不来方10－０小野田セメント、雫石ク12－10福高ク、北上球友12－５盛友ク▽**二回戦**　釜石野球団（不戦勝）オール江刺、県経済連９－２オール釜石、高田ク８－５アイワ、オール不来方３－１花友ク、盛岡鉄道管理局７－０一関三星ク、新日鉄釜石８－１雫石ク、岩手銀行３－０東京製綱、水沢駒形ク８－１北上球友▽**準々決勝**　新日鉄釜石８－１オール不来方、県経済連６－５水沢駒形ク、盛岡鉄道管理局９－６釜石野球団、岩手銀行６－０高田ク▽**準決勝**　新日鉄釜石４－０県経済連、岩手銀行５－１盛岡鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　新日鉄釜石６－０岩手銀行

◇**秋田**▽**一回戦**　秋田鉄道管理局９－５秋田経法大ク、秋田相互銀行20－６秋田商ク、秋田銀行14－７ＴＯＨＩク▽**準決勝**　ＴＤＫ３－１秋田鉄道管理局、秋田相互銀行７－４秋田銀行▽**決勝**　ＴＤＫ７－６秋田相互銀行（勝者は第二次予選へ）

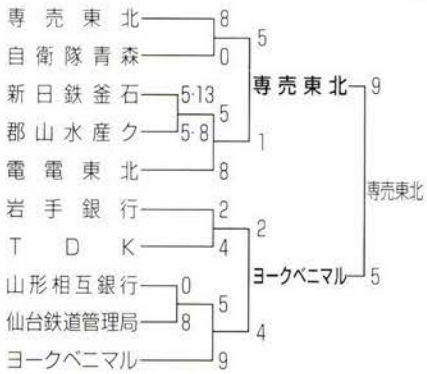
◇**宮城**▽**一回戦**　電電東北11－１川連ク、七十七銀行11－１東北ク、専売東北６－１白山ク、仙台鉄道管理局11－０サニーク▽**準決勝**　電電東北５－１七十七銀行、専売東北３－０仙台鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　専売東北２－０電電東北▽**敗者復活一回戦**　東北ク３－２川連ク、サニーク８－５白山ク▽**同二回戦**　サニーク９－８東北ク、仙台鉄道管理局10－２七十七銀行▽**第三代表決定戦**　仙台鉄道管理局４－３サニーク（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽**一回戦**　鶴岡ク15－５日大山形ＯＢク▽**決勝**　山形相互銀行11－３鶴岡ク（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽**一回戦**　郡山水産ク（不戦勝）勿来ク▽**二回戦**　福島硬友ク９－２塙ク、オール常交７－０ミドリ十字病院、ヨークベニマル７－０保原ク、ニュー相馬９－６須賀川ク、学法石川ＯＢク９－０小峰ク、矢吹ク８－２二本松ク、小名浜ク９－０好間ク、郡山水産ク６－２川俣ク▽**準々決勝**　ヨークベニマル10－０ニュー相馬、オール常交10－３学法石川ＯＢク、小名浜ク13－６矢吹ク、郡山水産ク10－２福島硬友ク▽**準決勝**　郡山水産ク３－１オール常交、ヨークベニマル12－５小名浜ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ヨークベニマル17－０郡山水産ク

▶二次予選

9月24　日から　3日間　　県営宮城球場



関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽**代表決定戦**　日立製作所10－３水戸鉄道管理局、住友金属鹿島２－１鹿島石油（勝者は第二次予選へ）

◇**群馬**▽**一回戦**　全前橋７－３硬友ク、伊勢崎レッドソックス９－１全太田▽**準決勝**　高崎鉄道管理局12－２全前橋、富士重工業７－２伊勢崎レッドソックス▽**決勝**　富士重工業７－１高崎鉄道管理管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽**一回戦**　大和ク５－２全大宮▽**準々決勝**　エーザイ12－３全浦和、飯能高ＯＢク７－４都幾川ク、日本通運10－０大和ク、本田技研11－０全三郷▽**準決勝**　日本通運８－７エーザイ、本田技研12－０飯能高ＯＢク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本通運２－１本田技研

◇**千葉**▽**一回戦**　新日鉄君津13－３千葉鉄道管理局▽**準決勝**　電電関東10－０三井造船千葉、川鉄千葉９－１新日鉄君津（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　川鉄千葉５－３電電関東

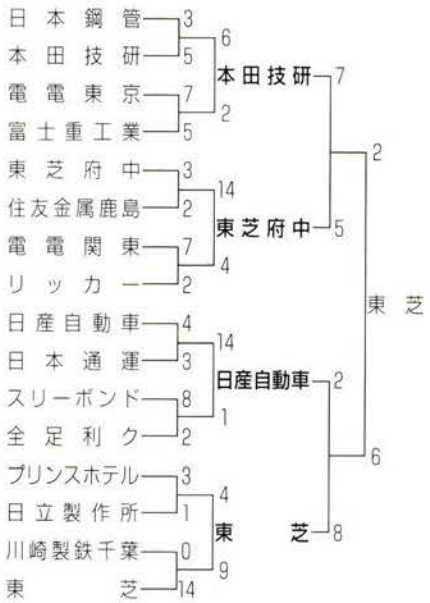
◇**東京**▽**一回戦**　リッカー９－２日本ＩＢＭ、東京ガス９－２三井銀行、朝日生命５－４鷺宮製作所▽**準々決勝**　電電東京６－５熊谷組、リッカー４－３明治生命、東京ガス４－３東京鉄道管理局、プリンスホテル９－２朝日生命▽**代表決定戦**　リッカー７－３電電東京、プリンスホテル９－２東京ガス（勝者は第二次予選へ）▽**第三代表決定戦**　電電東京４－１東京ガス

◇**東京多摩**▽**代表決定戦**　スリーボンド10－０全調布、東芝府中10－０全府中（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽**一回戦**　清工建設22－６カナガワク、いすゞ自動車４－１横浜高島屋、▽**準々決勝**　三菱自動車川崎４－３三菱重工横浜、日本鋼管５－１清工建設、日産自動車６－５日本石油、東芝13－０いすゞ自動車▽**準決勝**　日本鋼管１－０三菱自動車川崎、日産自動車３－０東芝（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本鋼管２－１日産自動車▽**第三代表決定戦**　東芝10－２三菱自動車川崎（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

10月１日から　5日間　　府中市民球場



中部大会

▶一次予選

◇**山梨**▽**一回戦**　オール櫛形４－３峡北ク、山梨球友ク17－６桂ク▽**決勝**　オール櫛形11－４山梨球友ク（勝者は第二次予選へ）

◇**新潟**▽**一回戦**　白根野球団11－３新潟青雲ク、小千谷ク13－６全飯豊、ニチエー４－０ヤングセブン、オール東（不戦勝）白楊ク、国鉄新潟13－８長岡ク、新津ク５－４吉田ク、長商ク５－４オール十日町▽**準々決勝**　白根野球団８－５佐渡軍団、ニチエー11－２小千谷ク、国鉄新潟12－２オール東、長商ク12－５新津ク▽**準決勝**　ニチエー５－１白根野球団、国鉄新潟12－７長商ク▽**決勝**　国鉄新潟９－７ニチエー（勝者は第２次予選へ）

◇**長野**▽**代表決定戦**　電電信越12－１ＴＤＫ千曲川（勝者は第二次予選へ）

◇**静岡**▽**一回戦**　全三島９－８エースコンク、日本楽器11－１浜商闘魂会、本州ク７－１吉原商工ク、河合楽器８－１岳南ク、▽**準々決勝**　日本楽器７－０全三島、関東自動車工業２－１協和発酵ク、ヤマハ発動機13－３静岡ク、河合楽器14－１本州ク（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本楽器７－０関東自動車工業、河合楽器５－０ヤマハ発動機▽**決勝**　日本楽器４－３河合楽器

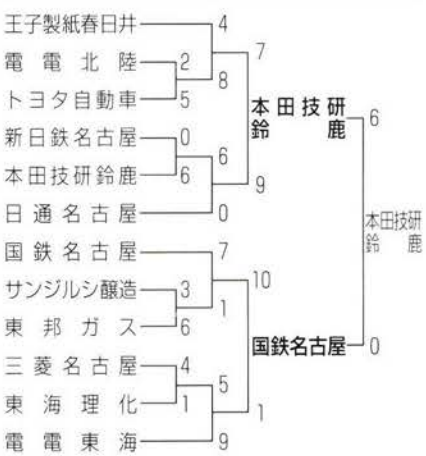
◇富山▽三回戦制　北陸銀行16－1電電富山、電電富山5－4北陸銀行、北陸銀行10－6電電富山(北陸銀行は第二次予選へ)

▶二次予選

9月24日から　2日間　　浜松市営球場

東海・北陸大会

10月1日から　5日間　　愛知県営熱田球場



近畿大会

▶一次予選

◇滋賀▽一回戦　全大津11－5近江八幡ク、日本ＩＢＭ野洲20－0瀬田工ＯＢ▽決勝　日本ＩＢＭ野洲8－0全大津(勝者は第二次予選へ)

◇京都▽一回戦　西京ク3－1キョートビルク▽準々決勝　京都信用金庫9－6第一紙行、日本新薬4－3日本ＩＢＭ野洲(特別参加)、京都市役所6－1丸勝、三菱自動車京都7－0西京ク(勝者は第二次予選へ)▽準決勝　三菱自動車京都5－3京都信用金庫、日本新薬7－2京都市役所▽決勝　三菱自動車京都6－3日本新薬

◇大阪▽一回戦　中山製鋼28－0大阪ベーシェンス、大阪ガス11－2デュプロ、電電近畿12－1住友銀行、大和銀行4－3大阪高島屋▽準々決勝　日本生命5－1中山製鋼、大阪ガス4－3松下電器、新日鉄堺1－0電電近畿、全三和銀行6－3大和銀行(勝者は第二次予選へ)▽準決勝　日本生命4－3大阪ガス、新日鉄堺9－4全三和銀行▽決勝　日本生命7－0新日鉄堺▽敗者復活一回戦　電電近畿5－0中山製鋼、松下電器9－5大和銀行▽第五代表決定戦　松下電器11－1電電近畿(勝者は第二次予選へ)

◇兵庫▽一回戦　三菱重工神戸8－6神戸製鋼、小西酒造5－4阿部企業▽準決勝　川鉄神戸3－0三菱重工神戸、新日鉄広畑11－4小西酒造(準決勝出場4チームは第二次予選へ)▽決勝　川鉄神戸6－1新日鉄広畑▽第五代表決定戦　神戸製鋼11－9阿部企業(勝者は第二次予選へ)

▶二次予選

10月1日から　5日間　　高砂市営球場

中国大会

▶一次予選

◇岡山▽リーグ戦　川鉄水島16－0三井造船玉野、三菱自動車水島9－3三井造船玉野、川鉄水島5－1三菱自動車水島、川鉄水島8－1三井造船玉野、三菱自動車水島6－2三井造船玉野、三菱自動車水島7－1川鉄水島(川鉄水島と三菱自動車水島は第二次予選へ)▽順位決定戦　川鉄水島6－2三菱自動車水島

◇広島▽一回戦　広島マツダ8－0山本鋼材▽準々決勝　常石鉄工6－5三菱重工広島、電電中国6－0東洋工業、三菱重工三原3－1国鉄広島、日本鋼管福山8－0広島マツダ(勝者は第二次予選へ)▽準決勝　日本鋼管福山8－0常石鉄工、電電中国4－2三菱重工三原▽決勝　日本鋼管福山5－2電電中国

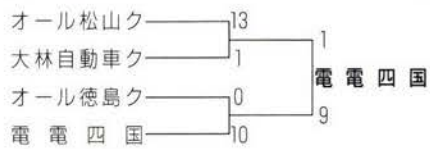
◇山口▽リーグ戦　新日鉄光7－0航空自衛隊防府、協和発酵5－3田辺製薬、新日鉄光5－2田辺製薬、協和発酵4－3航空自衛隊防府、田辺製薬8－1航空自衛隊防府、新日鉄光7－2協和発酵(新日鉄光、協和発酵は第二次予選へ)

▶二次予選

9月23日から　3日間　　県営岡山球場

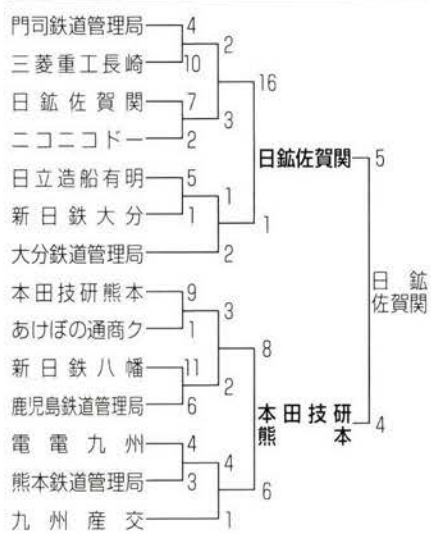
四国大会

9月24日から　2日間　　県営徳島球場



九州大会

9月21日から　5日間　　長崎市営大橋球場



―― 松下が"皆勤賞" ――

第10回記念大会の顔ぶれ

昨年の覇者・ヤマハ発動機、準優勝の日本通運がともに姿を消した。ヤマ発は中部二次予選の決勝で河合楽器に惜敗、その後、経営不振から休部を発表しており、日通は関東二次予選の1回戦で日産自動車に逆転サヨナラ負けを喫し涙をのんだ。

こうした混戦模様を反映して今大会の連続出場組は昨年より3チーム減の7チーム。第1回大会から連続出場を続ける松下電器は10回の出場を果たし、開会式で表彰されるが、近畿二次予選では敗者復活に回り、苦しみながらも出場権を得た。松下に次ぐのは5年連続の日本生命、4年の国鉄名古屋、新日鉄堺、3年の住友金属と地元の利で出場チーム数が多い近畿に集中している。

一方、初出場は昨年と同じ5チーム。九州で今年2月に創部したばかりの本田技研熊本がスピード出場したほか、東北で創部4年目の専売東北も名乗りをあげ、都市対抗では2度の優勝経験を持つ新日鉄広畑が初めて日本選手権への出場を勝ちとった。

出場回数では松下の10回をトップに日本生命、住友金属、神戸製鋼の7回、新日鉄室蘭、新日鉄堺の5回が続き、また、本田技研鈴鹿、新日鉄光、電電四国の3チームがそろって6年ぶりの復活をとげた。

第10回大会出場選手等一覧（○は主将）

王子製紙苫小牧

監督	平田　衛一	37	札幌光星高
投手	宮越　康仁	21	苫小牧工高
〃	大本　健男	19	堺市立商高
〃	中村　重利	20	苫小牧工高
〃	高橋　秀之	24	釧路江南高
〃	対馬　正志	29	様似商高
〃	滝川　収	21	穂別高
〃	樋口　博美	31	帯広三条高
〃	大西　豊勝	27	苫小牧工高
捕手	田中　茂樹	28	北海高
〃	阿部　高明	24	室蘭大谷高
〃	山根　博美	19	米子工高
内野	佐々木一尚	21	苫小牧工高
〃	○浜口　正光	29	道産業短大
〃	山田　寿夫	21	室蘭大谷高
〃	羽田野一男	18	堺市立商高
〃	佐々木　稔	28	駒大苫小牧高
〃	仏川　力雄	29	室蘭工高
〃	千葉　浩	22	北見北斗高
〃	石田　一途	25	札幌光星高
外野	沢田　義文	26	むつ工高
〃	長沢　則明	24	東海大四高
〃	阿部　一行	26	帯広工高
〃	菅野　光弘	27	函館有斗高
〃	田中　浩	22	東海大四高
〃	石井　馨	29	苫小牧工高

新日本製鐵室蘭

監督	高屋敷日出夫	41	北海高
投手	水本　隆	26	室蘭大谷高
〃	浅川　輝彦	26	韮崎工高
〃	米山　浩一	23	専修大
〃	浜師　勝彦	30	伊達高
〃	池田　裕行	21	松戸高
〃	真下　敏宏	21	北海高
〃	財前　純二	34	佐倉高
捕手	吉井　郁雄	26	立教大
〃	足立　豊	21	函館有斗高
〃	佐野　修二	26	市川高
〃	平間　英樹	19	白鷗高
〃	後藤　哲夫	34	興譲館高
〃	稲場　孝	27	芦別工高
内野	鹿田　和彦	27	旭川竜谷高
〃	桜井　清一	22	倶知安高
〃	坂尾　新一	20	東海大甲府高
〃	馬場　巧司	21	室蘭大谷高
〃	鈴木　忠仁	22	札幌商
〃	○大塚　邦弘	30	北海高
〃	遠田　誠治	19	北海高
外野	島尻　均	29	北見柏陽高
〃	堀松　洋伸	25	東北高
〃	関　尚彦	20	函館有斗高
〃	岡田　仁	28	室蘭工
〃	阿部晋一郎	26	中央大

専売東北

監督	佐藤　昇	35	仙台商高
投手	小野　堅	23	宮城農高
〃	鈴木　義明	21	仙台育英高
〃	古溝　克之	20	福島商高
〃	笹島　修	20	大館商高
〃	今野　達也	20	遊佐高高
〃	加藤　淳	20	仙台商高
捕手	伊藤　鉄義	25	石巻高
〃	星　伸一	23	仙台育英高
〃	及川　正則	20	広田水産高
〃	伊藤　辰也	19	古川工高
内野	大内　俊治	25	仙台育英高
〃	山下　静夫	24	亜細亜大
〃	堀江　光徳	23	東北高
〃	相馬　晃	23	亜細亜大
〃	高橋　聡	21	山形電波高
〃	安斎　克則	20	福島商高
〃	藤原　順	20	秋田商高
〃	寺嶋　哲也	20	仙台育英高
外野	○佐藤　雅司	26	仙台育英高
〃	遠藤　昌宏	23	仙台商高
〃	三浦　英美	21	秋田商高
〃	畠山　哲人	21	秋田商高
〃	原野　優	20	仙台育英高
〃	及川　義彦	19	一関商工高
〃	沼沢　誠	27	角館高

ヨークベニマル

監督	小野寺克男	50	宮城農高
投手	奥山　昌昭	27	明治大
〃	杉山　富大	24	駒沢大
〃	岡崎　立八	19	安積商高
〃	菅野　重利	26	福島高専
〃	○速石　恵介	29	青山学院大
捕手	永野　隆一	20	宮城農高
〃	原田　公輔	27	青山学院大
〃	織田　政広	19	学法石川高
内野	宮内　清明	25	磯原高
〃	寺西　良友	26	青山学院大
〃	舟山　重輝	27	国士舘大
〃	塚本　紀之	24	東農大
〃	木内　弘之	24	法政大
〃	根本　正則	20	安積商高
〃	近内　一雄	21	勿来工高
〃	佐藤　俊重	28	東北学院大
外野	曲山　義和	22	勿来工高
〃	菱沼　吉人	19	学法石川高
〃	水野　和彦	18	勿来工高
〃	鹿島　在男	25	青山学院大
〃	増子　忠雄	29	駒沢大

本田技研

監督	河本　昭人	41	久賀高
投手	中屋　桂介	21	長門高
〃	古谷　正雄	19	岩倉高
〃	原　徳吉	23	法政大
〃	藤原　博	27	吉原商高
〃	伊東　昭光	20	帝京高
〃	岡信　泰教	20	ＰＬ学園高
捕手	黒沢　史明	22	熊谷商高
〃	金井　利行	19	ＰＬ学園高
〃	原　英二	23	法政大
〃	長井　研介	26	中央大
内野	広瀬　哲朗	23	駒沢大
〃	佐藤　資洋	24	東海大
〃	山田　真二	23	福岡大
〃	入内島　保	26	青山学院大
外野	青木　一芳	21	拓大一高
〃	佐藤　正之	25	拓大一高
〃	○雨提　浩久	29	中央大
〃	柳川　明弘	23	近畿大
〃	松田　裕之	24	東洋大

東芝府中

監督	尾崎　清士	36	亜細亜大
投手	伊藤　優	20	信州工高
〃	国原　政春	24	九州共立大
〃	野嶋　正志	31	引佐高
〃	浅野　泰夫	26	神奈川大
〃	高橋　亨	23	中央大
〃	佐藤　恒悦	22	仙台育英高
〃	福島　則男	20	深谷商高
捕手	田中　力	24	亜細亜大
〃	松坂　健二	21	藤沢商高
〃	久保　元司	22	貴島高
内野	仲村　恒一	23	日本大
〃	中村　博光	23	東洋大
〃	渡辺　雄三	28	亜細亜大
〃	由井　昇	22	修徳高
〃	山崎　一雄	23	東洋大
〃	原口　誠	25	柳川高
〃	斉藤　一	26	駒沢大
〃	小川　渡	24	二松学舎大付高
外野	門間　博満	28	聖光学院高
〃	○藤田　明彦	27	東洋大
〃	横堀　順一	21	深谷商高
〃	金敷　一美	22	宇都宮商高
〃	寺東　真克	23	中央大
〃	荒木　雅己	24	中央大
〃	渡辺　勝男	22	ＰＬ学園高

東芝

監督	前野　和博	34	芝浦工大
投手	黒紙　義弘	28	亜細亜大
〃	田　義政	24	中央大
〃	川端　順	23	法政大
〃	菊池　総	22	明治大
〃	青木　秀夫	20	鶴見工高
〃	疋田　真二	18	小瀬高
捕手	安斉　定男	26	横浜商大高
〃	伊藤　寿文	23	東海大
〃	泉水　穏	22	興南高
内野	宮崎　剛	29	専修大
〃	○武智　勇治	28	駒沢大
〃	新木　忠力	28	東農大
〃	吉田　幸彦	27	八幡大
〃	藤森　富泰	25	青山学院大
〃	青島　健太	24	慶応大
〃	片岡　定治	24	法政大
〃	真喜志康永	22	沖縄高
〃	小林　薫	22	青山学院大
〃	小門　秀章	18	松商学園高
外野	福本　勝幸	25	早稲田大
〃	倉橋　秀典	25	中央大
〃	鈴木　栄一	24	日大三高
〃	梁原　修志	23	苫小牧工高
〃	石崎　元	22	中越高
〃	田辺　浩昭	22	法政大

日産自動車

監督	田中　久幸	35	芝浦工大
投手	森岡　真一	23	明治大
〃	大石　大	24	日本大
〃	久保　恭久	22	中京大
〃	藤川　正博	24	帝京大
〃	秋山　源助	19	熊本工高
〃	池田　親興	23	法政大
捕手	阿部　正弘	22	明治大
〃	村上　忠則	33	津名高
〃	町田　宇公	24	横芝敬愛高
〃	伊東　勝	23	東海大相模高
内野	鈴木　勝則	24	東海大
〃	若山　哲男	24	法政大
〃	杉山　繁俊	26	東海大
〃	荻野　善泰	25	中京大
〃	金城　浩光	22	興南高
〃	米田　保伸	23	法政大
〃	小川　孝之	24	国士舘大
〃	高橋　誠	18	堀越高
〃	渡辺　等	18	今治西高
外野	堀添　弘和	24	明治大
〃	大野　久	22	東洋大
〃	○上原　晴彦	26	東海大
〃	白鳥　重治	27	早稲田大
〃	鶴岡　昌宏	25	東洋大
〃	大塚　勝明	24	帝京大

河合楽器

監督	田村　利宏	42	中央大
投手	松田　昇	25	中央大
〃	白石　義弘	24	北陽高
〃	山村　陽一	24	稲築高
〃	米村　明	23	中央大
〃	桜庭　広喜	19	金足農高
〃	増井　孝次	22	御坊商工高
捕手	平生　一喜	26	東海大工高
〃	角田　諭	23	城西大
〃	栗嶋　務	23	早稲田大
内野	伊藤　升久	30	中央大
〃	山本宗三郎	30	国士舘大
〃	坂口　哲也	25	青山学院大
〃	黒田　豊	24	立命館大
〃	村瀬　耕次	24	中京大
〃	新庄　誠	18	静岡学園高
〃	藤本浩一郎	22	福岡大
〃	柳本　浩二	22	大商大
〃	武内　久也	22	中央大
外野	小椋　清俊	30	岐阜第一高
〃	○阪本　徹	27	大商大
〃	大須賀　健	24	中央大
〃	末次　秀行	24	青山学院大
〃	牛尾　浩	22	中央大
〃	中山　秀敏	22	明治大
〃	鈴木　徳久	19	磯原高

電電信越

監督	柳沢　敏幸	33	小諸商高
投手	高野　正美	18	大宮高
〃	松橋　敏樹	24	東農大
〃	安藤奈賀男	26	松本工高
〃	木下　恵一	18	二俣高
〃	田口　勝好	23	名商大
〃	北川　茂	26	福野高
捕手	菅家　昭二	21	松商学園高
〃	常盤　圭介	22	帝京大
〃	加藤　桂二	24	専修大
内野	松崎　雅彦	24	国士舘大
〃	藤嶋　一利	23	中央大
〃	土居　誠人	19	新田高
〃	○西条　明博	28	専修大
〃	藤森　国彦	27	松商学園高
〃	金子　昌彦	20	糸魚川商工高
外野	渡辺　勇治	23	立正大
〃	佐藤　守	22	東農大
〃	星田　幸夫	19	五泉高
〃	森　芳樹	23	専修大
〃	柴山　晋一	29	専修大
〃	箱山　和宏	19	岩村田高
〃	栗原　淳	24	日本大
〃	石田三知夫	22	長野商高
〃	横井　信一	23	法政大

国鉄名古屋

監督	安藤　友辞	46	多治見高
投手	森下慶一郎	23	中津商高
〃	鈴木　豊彦	23	名商大
〃	高島　徹	24	愛知工大
〃	山本　員範	19	岡崎工高
〃	田中　晃稔	27	名学院大
〃	松本　佳久	24	名学院大
〃	加藤　幸次	22	猿投農林高
捕手	大矢　正成	23	法政大
〃	山田　章	28	関商工高
〃	坂野　彰宏	26	名古屋学院大
〃	森　勝彦	25	名城大付高
内野	植田　利幸	29	愛知学院大
〃	林　洋	22	東邦高
〃	小川新二	21	中京高
〃	吉田　則昭	23	岐阜西工高
〃	本田　祐二	25	豊橋商高
〃	森本　進	24	駒沢大
〃	倉田　敦敏	20	高田高
外野	新谷　和明	21	鯖江高
〃	内藤　真如	23	名古屋電気高
〃	○石田　義一	28	名城大
〃	増田　正美	25	東海大工高
〃	榊原　憲文	24	岡崎工高
〃	高橋　哲夫	24	岡崎工高

本田技研鈴鹿

監督	藤村　哲也	36	法政大
投手	前村　泰正	32	法政大
〃	浜地　一典	20	南島高
〃	松本　弘幸	22	熊本第一工高
〃	池尻　康晴	22	久留米商高
〃	塩崎　章生	23	新宮商高
捕手	藤田　進	33	大東文化大
〃	松田　達男	29	東海大
〃	田中　忠勝	20	久留米商高
〃	破崎　英行	19	鹿児島商工高
内野	朝倉　秀俊	26	東海大
〃	太田　彬晶	31	中京大
〃	藤田　悟	25	大東文化大
〃	岡崎　純一	23	県岐阜商高
〃	山中　茂直	23	法政大
〃	森田　泰弘	24	駒沢大
〃	北畑　達也	25	東海大
〃	原野　洋成	22	久留米商高
〃	長田　勝志	25	九州東海大
外野	○全並　和彦	29	愛知学院大
〃	原田　勝弘	24	明治大
〃	高橋　隆	33	法政大
〃	大久保　隆	23	桜美林高
〃	手嶋　浩	23	法政大
〃	黒田　晃	26	法政大
〃	三浦　康彦	25	中央大

日本新薬

監督	吉川 博敏	29	同志社大	
投手	前田 正治	26	関西大	
〃	大野 誠二	21	出雲商高	
〃	川崎 克弘	25	京産大	
〃	福原 晃	23	岩国工高	
〃	阪本 久志	20	智弁学園高	
〃	浅香 央	19	星稜高	
捕手	○山田 秀則	28	同志社大	
〃	後藤 昇	23	立命館大	
〃	渕脇 章弘	29	大阪学院大	
〃	磯部 清治	22	宇治高	
内野	中井 弘幸	26	南部高	
〃	浅倉 弘安	27	関西大	
〃	石橋 幹彦	19	出雲商高	
〃	中本 導男	24	近畿大	
〃	田所 孝二	24	関西大	
〃	中道 義美	28	城東工高	
〃	渡辺 雅仁	22	倉敷商高	
〃	吉川 博敏	29	同志社大	
外野	岡田 靖治	23	日高高	
〃	小林 功	25	佛教大	
〃	中井 秀晃	24	同志社大	
〃	西村 武	27	東山高	
〃	原田 英彦	23	平安高	
〃	小竹 重行	28	同志社大	

松下電器

監督	下田 鎮男	41	柳川高	
投手	北口 勝久	28	早稲田大	
〃	竪田外司昭	22	星稜高	
〃	石田富士男	24	日体大	
〃	安蒜 一則	26	立教大	
〃	原 邦彦	25	岡山東商高	
〃	塚岡 広仁	25	倉敷工高	
捕手	大本 二郎	26	倉敷工高	
〃	小原 尚生	26	愛知学院大	
〃	渋谷 卓也	25	同志社大	
〃	井口 義則	22	吉備高	
内野	野尻 正博	26	近畿大	
〃	広岡 資生	23	早稲田大	
〃	林 寿郎	25	立教大	
〃	北野 敏史	22	箕島高	
〃	楠 豊寿	24	愛知学院大	
〃	奥代 恭一	24	関西大	
外野	○島田 行雄	28	近畿大	
〃	磯本 邦彦	26	佐世保工高	
〃	篠崎 宏道	24	近畿大	
〃	平岡 靖彦	24	日体大	
〃	南村 典男	19	箕島高	
〃	荒木 靖信	23	PL学園高	
〃	前嶋 純二	27	法政大	

日本生命

監督	佐竹 政和	35	関西大	
投手	加藤 重雄	26	法政大	
〃	森 明彦	25	河南高	
〃	村上 明	23	新湊高	
〃	伊藤 伸幸	24	東経大	
〃	早瀬 万豊	24	関西大	
〃	栗山 隆二	23	学習院大	
捕手	桧垣 明	26	関西大	
〃	鍛治本明典	23	近畿大	
〃	佐竹 政和	35	関西大	
内野	赤井 淳二	31	近畿大	
〃	井尻 陽久	30	東海大	
〃	○花野 巧	29	同志社大	
〃	佐藤 清	27	早稲田大	
〃	三枝 淳介	27	早稲田大	
〃	中橋 伸幸	24	愛知学院大	
〃	中村 昭徳	22	専修大	
〃	大西 慶典	22	東洋大	
外野	安西 敏雄	29	中央大	
〃	楠原 基	27	法政大	
〃	西本 靖彦	26	早稲田大	
〃	内田 敏弘	25	法政大	
〃	森田 昇	25	近畿大	
〃	山内 博史	23	大商大	
〃	石井 清	23	東京大	
〃	児玉 卓也	22	東海大	

新日本製鐵堺

監督	浜崎 満重	34	八幡工高	
投手	下村 恭二	24	新宮高	
〃	萩原 孝治	23	都島工高	
〃	九鬼 善信	19	堺西高	
〃	小椋 茂夫	19	邇摩高	
〃	清水 信英	26	興国高	
〃	南出 裕司	22	粉河高	
捕手	浦 誠哉	26	PL学園高	
〃	中野 敏行	24	小倉商高	
〃	西口 信明	25	大鉄高	
〃	樽口 正生	26	藤井寺工高	
内野	花川 達也	25	東洋大姫路高	
〃	馬場 敏史	18	柳川高	
〃	江川 正起	19	箕島高	
〃	浦東 靖	24	新宮商高	
〃	浦東 徳明	22	新宮商高	
〃	久保 恭教	19	生野工高	
〃	南口 正人	23	大鉄高	
〃	石原 貢	21	柳川高	
外野	西垣 公策	22	県和歌山商高	
〃	山下 裕司	20	西野田工高	
〃	中西 孝吉	34	都農高	
〃	米倉 格二	21	成城工高	
〃	藤本 公二	29	興国高	
〃	中城 昌徳	19	柳ケ浦高	
〃	○山尾 博	27	生野工高	

神戸製鋼

監督	吉田 和幸	34	駒沢大	
投手	小林 誠	19	鳥取城北高	
〃	青山 健	22	東播磨高	
〃	神橋 孝治	19	大分商高	
〃	西山 秀喜	23	帝京第五高	
〃	矢野 和哉	21	報徳学園高	
〃	長渡 宏之	19	吉備高	
〃	若生 幸三	25	立命館大	
〃	山本 正信	25	駒沢大	
捕手	岡本 哲司	23	吉備高	
〃	川井 直之	21	星稜高	
〃	○荒井 信久	30	明治大	
〃	松尾 宏樹	19	柳川高	
内野	中川 哲	27	駒沢大	
〃	宮本 要	25	洲本実高	
〃	上野 徳和	22	市神港高	
〃	川原崎 実	20	村野工高	
〃	高野 清秀	24	専修大	
〃	辻 隆之	24	立命館大	
外野	日川 雅夫	25	明治大	
〃	小林 貴	31	姫路商高	
〃	浦本 慶啓	27	亜細亜大	
〃	大村 雅文	32	専修大	
〃	西川 幸宏	20	星稜高	
〃	中村 好治	30	専修大	
〃	山崎 博行	28	村野工高	

新日本製鐵広畑

監督	中山 拓郎	31	滝川高	
投手	西村 基史	21	尼崎工高	
〃	林 道義	19	香寺高	
〃	大東 一仁	20	山崎高	
〃	藤高 俊彦	24	伊香高	
〃	津田 宗明	20	福山工高	
〃	夜久 幸治	23	福知山高	
捕手	黒田 純生	26	和歌山工高	
〃	西村 治幸	23	江の川高	
〃	応武 篤良	25	早稲田大	
〃	中山 拓郎	31	滝川高	
内野	○西村 雅文	28	佐賀竜谷高	
〃	土江 正人	30	報徳学園高	
〃	正田 耕三	22	市和歌山商高	
〃	児玉 要	26	和歌山工高	
〃	砂田 弘樹	19	江津工高	
〃	西川 昇	25	琴丘高	
〃	浜野 正明	27	和歌山工高	
外野	船越 敏彦	23	近畿大	
〃	原田 三郎	19	志度商高	
〃	黒田 晃	26	神戸学院大	
〃	尾形 正己	30	山崎高	
〃	佐々木謙二	21	明徳高	
〃	竹中 和彦	20	社高	
〃	田中 善孝	27	比叡山高	

住友金属

監督	山中 正竹	36	法政大	
投手	伊藤 彰洋	25	関西学院大	
〃	小杉 大三	23	和歌山工高	
〃	松本 豊	20	秋田経大付高	
〃	高橋 修二	27	高知高	
〃	武田 重美	26	西南学院大	
〃	古賀 達也	25	佐賀竜谷高	
捕手	嶋田 宗彦	22	箕島高	
〃	小川 良一	30	駒沢大	
〃	羽佐 吉史	20	御坊商工高	
内野	中田 等	23	同志社大	
〃	福本 保彦	19	高知高	
〃	丸山 耕司	21	智弁学園高	
〃	前田 寿啓	21	東海大工高	
〃	佐藤 雄樹	24	早稲田大	
〃	四田 勝康	27	浪商高	
〃	田中 祐司	26	鳴門高	
〃	○松隈 憲治	29	柳川高	
外野	筒井 大助	26	関西学院大	
〃	野見 充実	19	七尾工高	
〃	児嶋 保成	20	箕島高	
〃	黒石 厚	25	法政大	
〃	中原 正明	30	東海大	
〃	栗山 和行	24	明治大	
〃	松原 俊郎	26	同志社大	
〃	三好 一幸	31	東海大相模高	

日本鋼管福山

監督	深草 真敏	36	日本大	
投手	田村 忠義	35	広陵高	
〃	内山田慶弘	31	福岡大	
〃	高橋 周司	28	亜細亜大	
〃	渡辺 昭男	26	国士舘大	
〃	浜口 守	23	弓削商船高専	
〃	今野 充	21	鳥取商高	
〃	平田 照実	21	岩国商高	
捕手	白石 則幸	27	西条高	
〃	古川 英行	23	盈進高	
〃	安永 利和	21	尼崎北高	
内野	佐名木睦夫	28	盈進高	
〃	○渡部 一治	27	駒沢大	
〃	深谷 勇人	23	近大付高	
〃	岩野 好伸	23	東洋大	
〃	山田 勝己	22	新潟商高	
〃	戸田 好孝	19	広陵高	
〃	岡田 和則	20	府中東高	
〃	山内 明	34	盈進高	
外野	六条 誠一	33	高松一高	
〃	今岡 逸朗	27	亜細亜大	
〃	松浦 伸生	27	下関商高	
〃	木村 浩	25	大商大	
〃	佐藤 洋一	24	二松学舎大付高	
〃	藤田 賢二	19	桜宮高	
〃	清水 克敏	22	松江商高	

新日本製鐵光

監督	門川 純	35	立教大	
投手	松下圭一郎	19	本庄高	
〃	山本慎一郎	23	防府商高	
〃	冨川 昌彦	20	鳥取城北高	
〃	野下 博文	25	鹿児島商高	
〃	一倉 輝男	20	宇部工高	
〃	児玉 克雅	31	浜田高	
捕手	平山 茂雄	27	南筑高	
〃	東方 和之	20	中津工高	
〃	安達 明浩	22	境高	
〃	藤田 博明	26	三池工高	
内野	高安 英義	19	銚子水産高	
〃	川崎 秀二	19	宮崎日大高	
〃	内布 昭博	25	東海大二高	
〃	松岡 晶一	21	関西高	
〃	○萱原 文男	31	川越工高	
〃	滝口 広明	19	国東高	
〃	住吉 一夫	24	岡山東商高	
〃	住吉 則広	21	金山学園高	
〃	吉岡 武雄	34	早鞆高	
外野	竹内 武美	21	鳥取城北高	
〃	石田 卓己	25	宇部工高	
〃	村上 幸治	19	八幡大付高	
〃	石貫 伸二	27	南筑高	
〃	岩崎 悦司	28	熊毛北高	
〃	福本 敏郎	26	佐世保工高	

電電四国

監督	福谷 祥	37	中央大	
投手	小松 義昌	26	亜細亜大	
〃	滝下 茂信	25	穴吹高	
〃	森 圭介	24	東洋大	
〃	石丸 裕志	23	駒沢大	
〃	三好 利幸	20	北条高	
捕手	藤本 英夫	27	大鳥高	
〃	夕部 孝豊	21	大方商高	
〃	武田 和高	19	明徳高	
内野	鎌土 隆志	27	高知商高	
〃	緒賀 克郎	24	東洋大	
〃	三倉 一男	24	駒沢大	
〃	土田 博健	20	帝京第五高	
〃	○板東 照雄	26	立正大	
外野	渡辺 勇次	26	中央大	
〃	石元 浩三	25	新田高	
〃	河野 正人	24	愛知学院大	
〃	中山 耕二	23	亜細亜大	
〃	池田 保典	21	宇和島東高	
〃	和田 恵充	29	松山商大	
〃	幸田 優	34	駒沢大	

日鉱佐賀関

監督	五十嵐健二	34	立教大	
投手	清 篤也	22	日南高	
〃	中沢 広幸	18	清水高	
〃	宮本 雄治	24	法政大	
〃	山田桂二郎	21	高田高	
〃	藤本冨美夫	28	中津商高	
〃	有馬 浩幸	23	筑波大	
〃	吉田穣二郎	19	津久見高	
捕手	羽田野達彦	24	国士舘大	
〃	板井 伴博	20	臼杵高	
〃	伊藤 浩久	20	下関商高	
〃	青井 輝幸	18	佐世保工高	
内野	野上 勝也	24	津久見高	
〃	清原 真二	24	柳ケ浦高	
〃	大川 裕司	19	広陵高	
〃	吉田 徹	23	津久見高	
〃	○伏原 直	30	広陵高	
〃	上野 秀男	20	下関商高	
〃	百瀬 紫郎	22	鶴崎工高	
〃	村田 啓一	32	津久見高	
外野	山下 敏道	22	池田高	
〃	平野 英雄	24	中央大	
〃	岩尾 正義	29	中津工高	
〃	佐藤 哲也	19	津久見高	
〃	村末 孝弘	20	広陵高	
〃	吉近 寿一	29	専修大	

本田技研熊本

監督	大塚 勝秋	39	法政大	
投手	吉村 誠一	18	八代第一高	
〃	内田 和広	23	都城商高	
〃	西村 武生	25	長門高	
捕手	関 慎一郎	19	鎮西高	
〃	吉田 靖雄	29	小倉工高	
〃	川端 康史	18	八幡大付高	
内野	○荒木昌一郎	20	東海大二高	
〃	山本 公孝	18	東海大二高	
〃	平山 光治	18	大牟田高	
〃	硫野 克昭	18	八代工高	
〃	宇野 賢一	18	鎮西高	
〃	内川 義久	29	法政大	
〃	大塚 勝秋	39	法政大	
外野	宮本 幸広	18	八代第一高	
〃	上野 須市	19	東海大二高	
〃	古田 典博	32	愛知学院大	
〃	石川 友博	18	九州学院高	

第11回大会

1984年（昭和59年）10月21日▶10月29日　大阪球場

優勝＝住友金属 ――――（2年連続4回目）

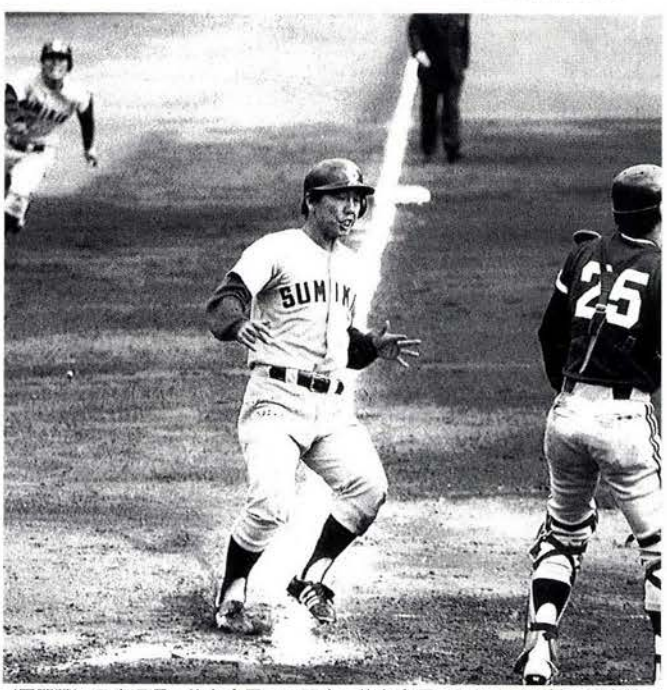
「打高」の大会に光った住金のエース・高橋の技

23試合の総得点は230点で、132点だった前回を大幅に上回った。松下電器が三菱重工長崎戦（七回コールド）で記録した1試合最多得点18をはじめ、1イニングに8点を挙げたのが3試合あるなど、すさまじい「打」の大会だった。

個人的にも多くの強打者が目立った。4試合連続の6本塁打を放った伊藤（日本通運）を筆頭に、過去10年間で2本しか出なかった満塁本塁打が、この大会だけで伊藤、高橋（国鉄名古屋）、中村（日本楽器）の3本が記録され、1試合2本塁打も過去最多の5選手がマークした。各チームがパワーアップを図り、金属バットの威力を引き出したのが本塁打量産につながったようだ。

打力上位に拍車をかけたのは投手力の弱さ。活躍が期待された広田（電電中国）、古溝（専売東北）、九鬼（新日鉄堺）が初戦で姿を消したほか、夏のロス五輪優勝の立役者となった伊東（本田技研）もスタミナ切れでベスト8にとどまった。

こうした「打高投低」傾向の中で、しっかりしたエースを持っていたのが2年連続4回目の優勝を飾った住友金属。力で押して痛打を浴びる投手が多かったが、27歳で2年連続最高殊勲選手賞に輝いた高橋の"技の投球"は一段と光っていた。



〔優勝戦〕日本通運－住友金属　四回表、住友金属二死二、三塁、松隈の中前タイムリーで三塁の栗山に続き、二塁から田中も生還。

大会審判　▷委員長＝小西正一▷副委員長＝三輪武、山川脩司▷委員＝中西明、三宅享次、戸田直佑、原田謹爾、上杉正、片岡成夫、岸野金治、本郷良直、木島一晃、大橋慶三、小林勉、清水正輝、山口円、石渡義、桃田晴彦、吉田竜男、中西則夫、河島秀喜、桂等、長谷至康、鹿多証道、前田利昌、生越芳明、東優孝、村山貞夫、巽正一、岡本良一、辻喜正、美馬洋、中川雅夫、宮本明

▽10月21日

第1試合＝1回戦(午前10時6分開始)

電電東海	000	000	022	4
新日鉄八幡	201	000	000	3

▶審判(球審)小林(塁審)桂、石渡、原田

【電電東海】		打	安	点	振	球
⑤	辻	5	2	0	2	0
⑧	宮本	3	0	0	1	1
④	湯之戸	3	2	1	0	2
②	中西	5	2	2	0	0
③	浅野	5	1	1	1	0
⑦	古瀬	3	0	0	1	0
H7	望月	1	1	0	0	0
⑨	川合	2	1	0	1	0
H9	木戸	2	1	0	0	0
⑥	井上	2	0	0	0	0
H6	内藤	2	2	0	0	0
①	清水	2	0	0	2	0
H	森田	1	0	0	1	0
1	笠井	0	0	0	0	0
H	沢田	0	0	0	0	0
1	長谷川	0	0	0	0	0
犠併残	2 0 10	36	12	4	9	3

【新日鉄八幡】		打	安	点	振	球
⑦	山部	5	2	0	2	0
④	本村	4	2	0	0	1
③	山崎	4	0	0	1	0
②	福本	4	2	3	0	0
⑨	加藤	3	1	0	1	1
⑥	平	3	0	0	1	0
⑧	丸谷夫	3	0	0	2	1
⑤	石川	2	1	0	0	1
H	沼田	0	0	0	0	1
R	野田	0	0	0	0	0
5	山前	0	0	0	0	0
①	池田宣	3	0	0	0	0
1	丸谷幸	0	0	0	0	0
H	吉岡	1	0	0	1	0
犠併残	2 1 9	32	8	3	8	5

	回	安	振	球	責
清水	6	6	6	3	3
笠井	2	1	1	2	0
長谷川	1	1	1	0	0
池田宣	7⅔	8	8	3	2
丸谷幸	1⅓	4	1	0	2

▷本塁打＝福本1号②(清水)▷三塁打＝中西、山部▷犠打＝電2(宮本、沢田)新2(山崎、平)▷盗塁＝新2(本村2)▷失策＝電1(湯之戸)▷試合時間＝2時間43分

初戦突破にホッと

◎…電電東海が3度目の出場で初戦突破をかなえた。「やっと勝てました」と湯之戸主将はホッとした表情。1点を追った九回二死一、三塁で中前に同点打。「余裕はなかったが、きた球なら何でも打ってやろう、と開き直っていたのがよかった」。31歳のベテランの一打は続く若手・中西の決勝打を誘い出した。

第2試合＝1回戦(午後1時20分開始)

日本楽器	001	000	021	4
日本生命	000	100	000	1

▶審判(球審)中西(塁審)清水、辻、岸野

【日本楽器】		打	安	点	振	球
④	山本秀	4	3	2	1	1
⑥	中山	4	1	1	0	0
⑦	熊野	3	3	0	0	1
③	武居	3	0	0	1	1
⑨	中村	3	1	0	0	1
⑧	内山	4	0	0	0	0
⑤	大野	4	1	0	0	0
②	佐藤	4	1	0	1	0
①	高田	3	0	0	1	0
犠併残	2 1 7	32	10	3	4	4

【日本生命】		打	安	点	振	球
④	赤井	4	1	0	1	0
⑦	森田	3	0	0	0	0
⑧	石井崇	4	2	0	0	0
③	佐藤	4	1	1	2	0
⑤	大西	3	0	0	0	0
⑨	内田	2	1	0	0	2
②	佐竹	3	0	0	0	0
H	西本	1	0	0	0	0
⑥	井尻	4	3	0	0	0
①	伊藤	2	0	0	0	0
1	早瀬	0	0	0	0	0
犠併残	3 2 7	30	8	1	3	2

	回	安	振	球	責
高田	9	8	3	2	1
伊藤	7⅔	8	3	4	3
早瀬	1⅓	2	1	0	0

▷三塁打＝山本秀▷二塁打＝石井崇、山本秀▷犠打＝楽2(中山、高田)生3(森田、大西、伊藤)▷暴投＝早瀬▷試合時間＝2時間34分

第3試合＝1回戦(午後4時23分開始)

専売東北	000	040	010	5
神戸製鋼	100	012	11X	6

▶審判(球審)三宅(塁審)巽、東、河島(外審)辻、桃田

【専売東北】		打	安	点	振	球
⑨	佐藤	5	2	0	1	0
④	山下	3	1	0	0	0
⑤	寺島	4	1	0	0	0
⑦	原野	5	1	2	0	0
②	及川正	4	3	0	0	0
③	大内	3	2	2	0	0
⑧	畠山	2	0	0	0	1
H	星	1	0	0	1	0
8	遠藤	0	0	0	0	0
⑥	藤原	4	1	0	1	0
①	古満	3	0	0	2	0
1	小野	1	1	1	0	0
犠併残	4 1 8	35	12	5	5	1

【神戸製鋼】		打	安	点	振	球
⑨	中村	4	1	1	1	1
⑥	川原崎	1	0	1	1	3
⑦	浦本	5	2	1	1	0
③	高野	3	2	0	0	1
②	岡本	3	0	1	0	0
2	荒井	0	0	0	0	0
⑧	日川	1	0	0	1	0
H8	小林貴	3	1	0	0	0
④	宮本	3	1	1	0	1
⑤	上野	3	1	1	0	1
①	山本	0	0	0	0	0
H	久保田	1	1	0	0	0
R	神橋	0	0	0	0	0
1	矢野	0	0	0	0	0
犠併残	5 0 9	27	9	6	4	7

	回	安	振	球	責
古満	5⅓	6	3	5	2
小野	2⅔	3	1	2	2
山本	5	9	3	1	4
矢野	4	3	2	0	1

▷本塁打＝原野1号②(山本)大内1号②(山本)浦本1号(小野)▷二塁打＝及川正、大内、中村▷犠打＝専4(山下2、寺島、大内)神5(川原崎、岡本、山本、矢野2)▷盗塁＝専1(及川正)神1(中村)▷失策＝専1(寺島)▷捕逸＝及川正▷試合時間＝2時間46分

▽10月22日

第1試合＝1回戦(午前8時58分開始)

日本通運	102	100	000	4
電電四国	000	000	000	0

▶審判(球審)上杉(塁審)長谷、生越、中川

【日本通運】		打	安	点	振	球
⑥	望月	4	1	1	2	0
6	神長	1	0	0	0	0
④	金丸	5	2	1	0	0
⑨	岩井	4	0	0	1	0
9	辻山	1	0	0	0	0
③	伊藤	4	1	2	1	0
⑦	牛島	4	1	0	0	0
⑧	岡田	3	0	0	1	1
⑤	柿沼	3	2	0	0	1
②	杉本	4	2	0	0	0
①	清水	3	0	0	1	0
犠併残	1 1 8	36	9	4	6	2

【電電四国】		打	安	点	振	球
⑧	石元	4	1	0	0	0
⑥	緒賀	3	0	0	2	1
⑦	板東	4	1	0	2	0
③	三好	3	1	0	0	1
⑤	和田	2	0	0	0	0
9	三倉	1	0	0	0	0
H	池田	1	0	0	0	0
⑨5	武田正	4	1	0	0	0
④	小谷	4	2	0	0	0
②	夕部	2	0	0	0	0
H	藤本	1	0	0	1	0
2	武田和	1	0	0	1	0
①	滝下	2	1	0	0	0
H	河野	1	1	0	0	0
1	森	0	0	0	0	0
犠併残	0 0 8	33	8	0	6	2

	回	安	振	球	責
清水	9	8	6	2	0
滝下	8	9	6	2	4
森	1	0	0	0	0

▷本塁打＝金丸1号(滝下)伊藤1号②(滝下)▷二塁打＝牛島、金丸、望月、河野▷犠打＝日1(清水)▷盗塁＝日2(牛島、柿沼)▷失策＝電3(和田、小谷、夕部)▷試合時間＝2時間11分

カッとしないで…

◎…カーブを主体に安定した投球で、日本通運・清水が今年3回目の完封勝ち。打たれるとカッとなる性格で都市対抗野球では1回戦、新日鉄大分に8安打され4回3分の2で降板したが、この日は「がまんして、丁寧に投げたのがよかった。80点の出来」と白い歯をのぞかせた。

「今年はチームがいい成績をあげていないけど、打線とかみあえば、いい所までいけると思います」と落ち着いた口調で、今季最後の大会へ自信と手応えを話した。

第2試合＝1回戦(午前11時41分開始)

大昭和製紙北海道	000	100	000	0	1
新日鉄光	000	000	100	1	2

▶審判(球審)大橋(塁審)吉田、鹿多、岡本

【大昭和】		打	安	点	振	球
⑨	若林	4	2	0	0	0
④	社	2	0	0	0	0
⑧	平	4	1	0	0	0
⑦	佐藤	4	1	1	0	0
③	横川	4	0	0	0	0
⑥	菅野	4	0	0	1	0
⑤	高木	4	2	0	0	0
②	新明	3	0	0	2	0
①	渡部	2	0	0	1	0
1	川瀬	1	0	0	1	0
犠併残	2 1 3	32	6	1	5	0

【新日鉄光】		打	安	点	振	球
⑥	内布	3	1	1	1	2
④	萱原	3	0	0	0	0
⑦	福本	4	1	0	0	0
⑤	住吉	4	1	0	0	0
⑨	竹内	4	2	1	1	0
③	石貫	2	0	0	1	1
②	梅原	3	0	0	0	1
⑧	岩崎	3	0	0	1	0
①	児玉	2	0	0	1	0
H	平山	1	0	0	0	0
1	山本	1	0	0	1	0
犠併残	3 1 6	30	5	2	6	4

	回	安	振	球	責
渡部	6⅔	1	2	3	1
川瀬	3⅔	4	4	1	1
児玉	8	5	5	0	1
山本	2	1	0	0	0

▷二塁打＝福本▷犠打＝大2(社2)新2(萱原、石貫、岩崎)▷盗塁＝大1(高木)▷失策＝新1(住吉)▷試合時間＝2時間38分

第3試合＝1回戦(午後2時48分開始)

国鉄名古屋	050	000	800	13
日本IBM野洲	000	230	021	8

▶審判(球審)本郷(塁審)桃田、前田、宮本(外審)桂、山口

【国鉄名古屋】		打	安	点	振	球
⑤	森本	6	2	3	0	0
⑥	本田	3	2	1	1	2
4	吉田	1	0	0	0	0
⑧	高橋	5	4	5	0	0
⑦	内藤	5	2	1	1	0
③	林	4	1	0	0	0
H3	榊原	1	0	0	0	0
⑨	増田	3	1	1	1	1
H9	新谷	1	0	0	0	0
②	坂野	2	0	0	0	0
2	大矢	2	1	0	0	1
①	鈴木	2	0	0	1	0
1	加藤	3	1	2	1	0
④6	小川	4	2	0	1	1
犠併残	0 0 7	42	16	13	6	5

【IBM野洲】		打	安	点	振	球
⑧	芳村	4	1	0	1	1
④	坂上正	3	1	0	0	1
⑥	飯田	5	3	2	1	0
③	岩田	4	1	1	0	1
⑤	落合	5	1	1	2	0
⑦	村上	3	2	2	1	0
②	坂上博	4	1	2	2	0
①	中西	3	0	0	1	0
1	井戸	0	0	0	0	0
1	上藤	0	0	0	0	0
H	井上	1	0	0	0	0
1	川尻	0	0	0	0	0
⑨	武東	4	1	0	1	0
犠併残	2 1 6	36	11	8	9	3

	回	安	振	球	責
鈴木	4⅔	6	5	2	5
加藤	5	5	4	1	3
中西	6⅓	11	3	5	10
井戸	⅓	4	1	0	2
上藤	1⅓	1	2	0	0
川尻	1	0	0	0	0

▷本塁打＝高橋1号④(中西)坂上博1号②(加藤)岩田1号(加藤)▷二塁打＝内藤、森本、飯田▷犠打＝野2(坂上正、村上)▷盗塁＝国3(森本、本田、高橋)▷失策＝野2(芳村、飯田)▷暴投＝加藤、中西、井戸▷試合時間＝2時間36分

第4試合＝1回戦(午後5時56分開始)

新日鉄釜石	004	000	000	4
三菱重工長崎	000	102	03X	6

▶審判(球審)三宅(塁審)山口、河島、東(外審)桂、前田

【新日鉄釜石】		打	安	点	振	球
⑧	早瀬	4	1	0	0	0
④	永野	3	1	2	0	1
⑨	吉田幸	3	1	1	1	1
②	大溝	4	1	1	0	0
⑦	平間	0	0	0	0	0
H7	若槻	4	0	0	1	0
③	長田	4	1	0	1	0
R	加藤	0	0	0	0	0
⑥	田沢	3	0	0	0	0
H	泉沢	1	1	0	0	0
R	谷地	0	0	0	0	0
①	富樫	1	0	0	0	1
H	佐々木	1	1	0	0	0
1	斉藤	0	0	0	0	0
1	山内	0	0	0	0	0
H	山本	1	0	0	0	0
⑤	平川	2	0	0	0	0
犠併残	2 0 5	31	7	4	3	3

【三菱長崎】		打	安	点	振	球
⑨	北原	4	1	0	0	0
④	鈴木	3	0	0	2	0
⑤	本西	4	3	0	0	0
⑧	林	3	1	3	0	1
③	福島	4	2	1	0	0
⑥	古屋	3	0	1	0	1
⑦	伊藤	2	0	0	1	0
H7	井上	1	1	1	0	0
②	布村	2	0	0	1	0
H	高村	0	0	0	0	1
2	都甲	1	0	0	0	0
①	牧瀬	0	0	0	0	0
H	山田	1	0	0	1	0
1	川南	1	0	0	1	0
1	宮本	1	0	0	0	0
犠併残	2 3 5	30	8	6	6	3

	回	安	振	球	責
富樫	6	5	6	0	3
斉藤	1⅔	3	0	3	3
山内	⅓	0	0	0	0
牧瀬	3	4	0	2	3
川南	3⅓	2	1	1	0
宮本	2⅔	1	2	0	0

▷本塁打＝林1号②(富樫)▷三塁打＝本西▷二塁打＝長田、井上▷犠打＝新2(平川2)三2(鈴木、井上)▷盗塁＝新4(早瀬、永野、吉田幸、大溝)三1(本西)▷失策＝三1(古屋)▷暴投＝宮本▷試合時間＝2時間43分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

日本IBM野洲＝1回戦敗退

さかのうえ ひろふみ
坂上 博文捕手
(現助監督、33歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

創部4年目、近大から入社して2年目だった。近畿予戦で三菱重工神戸、新日鉄堺を破って初出場、「こんなに早く」と感激したことを覚えている。

国鉄名古屋(現JR名古屋)と対戦したが、5－5で迎えた七回に一挙8点を失って敗れた。しかし、個人的には八回に大阪球場のバックスクリーンに2ランを打ち込んだ、いい思い出が残っている。社会人5年半の選手生活でホームランは12本だけ。それだけに忘れられない一発になった。

3年間チームを離れた後、91年夏コーチとして復帰。93年4月からは監督代行となり、鴨田監督に代わって指揮を執っている。高知商高3年の夏、甲子園で準優勝した時のチームメート、正木陽君が先日、高知商高監督に就任。僕らもいよいよ指導する立場となり、時の流れを痛感しています。

▽10月23日

第1試合＝1回戦(午前8時57分開始)

四国銀行	300	010	000	4
本田技研	020	000	102	5

▶審判(球審)吉田(塁審)桂、巽、原田

【四国銀行】		打	安	点	振	球
⑧	井上	3	1	0	0	1
④	森本	2	0	0	0	2
⑤	薬師神	4	1	0	1	0
⑨	西	3	1	1	1	1
③	乃一	4	2	3	0	0
3	阿部	0	0	0	0	0
⑦	城下	0	0	0	0	0
H7	刈谷	3	1	0	1	0
H	森	1	0	0	0	0
7	小橋	0	0	0	0	0
⑥	伊名	4	1	0	0	0
②	沖田	4	0	0	0	0
①	山本	3	0	0	0	0
1	橋谷	1	0	0	0	0
犠併残 0 0 5		32	7	4	3	4

【本田技研】		打	安	点	振	球
⑧	荻原	3	1	0	1	0
H	青木	1	1	0	0	0
R8	松田	0	0	0	0	1
④	佐藤資	5	1	2	0	0
⑥	広瀬	4	2	0	1	0
③	入内島	4	1	0	0	0
⑦	雨堤	4	0	0	2	0
⑨	佐藤正	4	1	0	0	0
⑤	朝山	4	2	0	0	0
R	鈴木	0	0	0	0	0
②	長井	1	1	2	0	2
①	伊東	2	0	0	0	0
H	柳川	1	1	1	0	0
1	藤原	0	0	0	0	0
H	山田	1	0	0	0	0
犠併残 1 0 7		34	11	5	4	3

	回	安	振	球	責
山本	6⅔	9	3	2	2
橋谷	2⅔	2	1	1	2
伊東	7	7	2	4	2
藤原	2	0	1	0	0

▷本塁打＝長井1号②(山本)▷二塁打＝刈谷、佐藤資▷犠打＝本1(長井)▷盗塁＝四1(森本)本2(松田、広瀬)▷失策＝本1(雨堤)▷捕逸＝沖田2▷試合時間＝2時間33分

くやしさありあり

㊊…七回途中から山本を救援していきなり二塁走者をけん制で殺し、好火消しぶりを見せた四国銀行の橋谷だったが、最終回一転して奈落の底へ。「本田の一、二番は当たっていると聞いていたので十分警戒したのですが。(逆転打は)フォークボール。ちょっとリキみすぎました。やっぱり先頭打者を出したのが響きました」と"大魚"を逃したくやしさがありあり。

第2試合＝2回戦(午後0時開始)

電電東海	100	100	002	4
新日鉄堺	000	010	001	2

▶審判(球審)村山(塁審)中西則、辻、河島

【電電東海】		打	安	点	振	球
⑤	辻	2	1	2	0	2
⑧	宮本	3	0	0	0	0
④	湯之戸	3	0	0	2	1
②	中西	4	2	1	1	0
③	浅野	3	1	0	0	0
⑦	古瀬	4	2	0	0	0
⑨	木戸	2	0	1	0	0
⑧	井上	3	1	0	0	0
H	森田	0	0	0	0	1
6	内藤	0	0	0	0	0
①	清水	4	1	0	0	0
犠併残 6 0 7		28	8	4	3	4

【新日鉄堺】		打	安	点	振	球
⑦	三原	4	1	0	0	0
R7	山下	0	0	0	0	0
④	花川	4	1	0	0	0
⑤	浦東靖	4	1	0	1	0
③	浦東徳	3	0	0	0	1
②	浦	3	2	2	0	1
R	石原	0	0	0	0	0
⑨	藤本	3	1	0	0	0
⑥	井上	4	0	0	0	0
①	清水	2	0	0	0	0
H	米倉	1	0	0	0	0
1	九鬼	0	0	0	0	0
1	小椋	0	0	0	0	0
H	馬場	1	0	0	0	0
⑧	西垣	3	0	0	0	0
犠併残 1 0 6		32	6	2	1	2

	回	安	振	球	責
清水	9	6	1	2	2
清水	8	5	3	3	2
九鬼	⅔	1	0	0	0
小椋	1	2	0	1	2

▷本塁打＝浦1号(清水)▷二塁打＝浅野▷犠打＝電6(辻、宮本2、浅野、木戸2)新1(藤本)▷盗塁＝電1(古瀬)新1(花川)▷試合時間＝2時間14分

第3試合＝2回戦(午後2時44分開始)

日本楽器	211	510	010	11
富士重工業	010	200	000	3

▶審判(球審)中西明(塁審)大橋、生越、戸田

【日本楽器】		打	安	点	振	球
④	山本秀	4	3	0	0	1
⑥	中山	4	3	0	0	0
⑧	熊野	4	1	1	0	0
③	武居	4	2	3	1	1
⑨	中村	5	2	5	0	0
⑦	柳原	0	0	0	0	0
H7	小林	5	1	0	0	0
⑤	大野	5	1	0	1	0
②	佐藤	5	2	0	0	0
①	劉	2	1	1	0	0
1	太田	1	0	0	0	0
犠併残 3 1 6		39	16	10	2	2

【富士重工業】		打	安	点	振	球
④	富永	5	2	0	1	0
⑦	市川	3	1	0	1	1
H	井上肇	1	0	0	1	0
⑧	笠原	5	1	0	0	0
③	鈴木	4	1	0	0	0
⑤	野口	2	1	0	0	2
⑥	笠倉	4	0	0	0	0
⑨	井上勇	4	1	0	0	0
②	大久保	3	3	3	0	0
H	岸	1	1	0	0	0
①	古尾谷	0	0	0	0	0
H	滝野	1	0	0	0	0
1	斉藤	0	0	0	0	0
H	後藤	1	0	0	0	0
1	向田	1	0	0	0	0
H	泉	1	0	0	1	0
犠併残 0 2 9		36	11	3	4	3

	回	安	振	球	責
劉	4⅓	6	2	3	3
太田	4⅔	5	2	0	0
古尾谷	2	5	0	0	3
斉藤	2	5	0	2	6
向田	5	6	2	0	1

▷本塁打＝武居1号②(古尾谷)劉1号(古尾谷)中村1号④(斉藤)▷三塁打＝市川▷二塁打＝山本秀2、熊野、鈴木▷犠打＝日3(中山、熊野、劉)▷失策＝富1(野口)▷試合時間＝2時間23分

〔1回戦〕電電東海－新日鉄八幡　九回表、電電東海二死一、二塁、中西、右前に決勝タイムリーを放ち、二塁から辻を迎え入れる。

▽10月24日

第1試合＝2回戦(午前8時56分開始)

電電中国	080	001	000	9
神戸製鋼	400	102	021	10

▶審判(球審)清水正(塁審)長谷、岡本、鹿多

【電電中国】		打	安	点	振	球
⑨	川崎	4	0	0	0	1
8	中村	1	0	0	0	0
④	岩山	5	2	2	0	0
⑦	河井	4	0	1	1	0
③	聖川	2	1	0	1	3
⑤	登	4	1	1	0	1
②	佐藤	4	3	2	1	0
2	高山	1	0	0	0	0
⑥	徳永	5	4	2	0	0
⑧9	津江本	5	1	0	1	0
①	広田	3	1	1	0	0
1	田井	0	0	0	0	0
1	石川	0	0	0	0	1
犠併残 2 1 10		38	13	9	4	6

【神戸製鋼】		打	安	点	振	球
⑧	小林貢	4	3	1	0	2
⑥	川原崎	4	3	3	0	2
⑦	浦本	5	3	0	0	0
③	高野	4	1	2	0	0
②	荒井	1	0	0	0	0
2	岡本	3	1	0	1	1
⑨	日川	3	2	4	1	2
④	宮本	5	0	0	0	0
⑤	上野	3	0	0	0	0
H5	西川	1	1	0	0	1
①	山本	0	0	0	0	0
1	長渡	0	0	0	0	0
1	矢野	3	1	0	0	0
H	中村	1	0	0	0	0
1	西山	0	0	0	0	0
1	増水	1	0	0	1	0
犠併残 1 0 12		38	15	10	3	8

	回	安	振	球	責
広田	6⅓	12	2	2	7
田井	1⅔	2	0	3	2
石川	1⅔	1	1	3	1
山本	1⅓	4	1	0	4
長渡	⅓	2	0	2	4
矢野	5⅓	6	3	2	0
西山	1⅔	1	0	2	0
増水	⅓	0	0	0	0

▷本塁打＝日川1号③(広田)小林貢1号(広田)▷三塁打＝川原崎▷二塁打＝岩山、小林貢▷犠打＝電2(河井、広田)神1(高野)▷盗塁＝電1(聖川)神5(浦本3、小林貢、高野)▷失策＝神2(川原崎2)▷試合時間＝3時間34分

第2試合＝2回戦(午後0時59分開始)

日本通運	350	000	302	13
電電北海道	000	001	100	2

▶審判(球審)山口(塁審)村山、中川、岸野

【日本通運】		打	安	点	振	球
⑥	望月	1	1	0	0	3
6	神長	1	0	0	1	0
④	金丸	4	1	1	0	0
⑨	岩井	2	1	1	0	1
9	辻山	1	0	0	0	0
③	伊藤	5	3	7	1	0
R	勝呂	0	0	0	0	0
3	鵤	0	0	0	0	0
⑦	牛島	4	1	0	1	1
⑧	岡田	2	1	2	1	3
R8	町田	0	0	0	0	0
⑤	柿沼	5	2	1	1	0
②	杉本	4	0	0	2	0
①	野尻	3	0	0	3	0
H	酒井	1	0	0	0	0
1	玉田	1	0	0	0	0
犠併残 3 2 5		34	10	12	10	8

【電電北海道】		打	安	点	振	球
⑤	井城	4	0	0	0	0
⑧	小林彰	4	0	0	0	0
③	日比野	4	1	1	0	0
⑨	鈴木	4	4	0	0	0
②	小林満	4	0	0	0	0
⑥	寺田	4	1	0	0	0
⑦	吉岡	2	0	0	0	0
H	黒井	1	0	0	0	0
R	砂子	0	0	0	0	0
1	瀬戸	0	0	0	0	0
H	春木	1	0	0	0	0
④	谷中田	2	1	0	0	0
H4	川島	1	1	0	0	1
①	山本	0	0	0	0	0
1	島谷	0	0	0	0	0
H	池本	1	0	0	1	0
1	黒田	0	0	0	0	0
1	木寺	0	0	0	0	0
H7	石黒	2	1	1	0	0
犠併残 1 0 7		34	9	2	1	1

	回	安	振	球	責
野尻	6	6	1	0	1
玉田	3	3	0	1	0
山本	1⅔	3	1	4	7
島谷	3⅓	2	6	2	1
黒田	1⅓	3	2	1	3
木寺	⅔	1	0	0	0
瀬戸	2	1	1	1	1

▷本塁打＝伊藤2号③(山本)3号④(島谷)日比野1号(野尻)岩井1号(黒田)岡田1号②(黒田)▷二塁打＝鈴木、柿沼▷犠打＝日3(金丸、岩井、杉本)電1(島谷)▷盗塁＝日1(牛島)▷失策＝日1(神長)電2(日比野、寺田)▷暴投＝瀬戸▷試合時間＝2時間54分

第3試合＝2回戦(午後4時25分開始)

住友金属	002	011	001	5
新日鉄光	000	000	000	0

▶審判(球審)片岡(塁審)石渡、美馬、桃田(外審)小林、河島

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑤	松隈	4	1	1	0	1
④	中田	2	0	0	0	2
②	嶋田	4	1	1	1	0
⑨	筒井	4	1	0	0	0
⑧	三好	2	1	0	0	1
⑦	栗山	3	1	1	0	0
③	佐藤	4	2	1	0	0
⑥	田中	4	1	1	1	0
①	高橋	3	1	0	1	1
犠併残 2 0 5		30	9	5	3	5

【新日鉄光】		打	安	点	振	球
⑥	内布	4	1	0	1	0
④	菅原	4	0	0	3	0
⑦	福本	4	0	0	0	0
⑤	住吉	4	0	0	1	0
⑨	竹内	4	1	0	2	0
③	石貫	3	1	0	1	0
H	石田	0	0	0	0	1
②	梅原	3	1	0	1	1
⑧	岩崎	3	0	0	1	0
①	児玉	0	0	0	0	1
H	平山	1	1	0	0	0
R	村上	0	0	0	0	0
1	山本	1	0	0	0	0
犠併残 0 0 7		31	5	0	10	3

	回	安	振	球	責
高橋	9	5	10	3	0
児玉	6	7	2	3	4
山本	3	2	1	2	1

▷本塁打＝佐藤1号(児玉)松隈1号(児玉)▷二塁打＝高橋、嶋田、梅原、佐藤、筒井、平山、竹内▷犠打＝住2(三好、栗山)▷失策＝新1(山本)▷試合時間＝2時間20分

3三振……速かった

㊊…三回の二死一、二塁、六回の一死二塁で空振りの三振に倒れるなど、住友金属・高橋の球威に押されて不名誉な3三振を喫した新日鉄光の菅原は「何も言うことないですよ」と口をとがらせた。しかし、高橋の印象について「速いの一言。慣れていないナイターでもあったし……。でも、やっぱり向こうの方が力は上なんですよ」と素直にカブトを脱いだ。

▽10月25日

第1試合＝2回戦(午前8時57分開始)

国鉄名古屋	102	000	100	4
日立製作所	001	230	20X	8

▶審判(球審)上杉(塁審)中西則、長谷、巽

【国鉄名古屋】		打	安	点	振	球
⑤	森本	4	1	0	0	1
⑥	本田	3	1	1	1	2
⑧	高橋	4	1	0	2	0
⑦	内藤	4	3	3	0	0
③	林	3	1	0	0	1
⑨	増田	4	0	0	1	0
②	坂野	2	0	0	1	0
2	大矢	2	0	0	2	0
①	鈴木	2	0	0	1	0
1	加藤	0	0	0	0	0
H	榊原	1	0	0	0	0
1	松本	0	0	0	0	0
H	新谷	1	1	0	0	0
4	小川	4	1	0	1	0
犠併残 0 1 7		34	9	4	9	4

【日立】		打	安	点	振	球
⑨	遠藤	4	1	0	0	1
⑧	荻原	5	2	0	0	0
⑦	杉本	4	3	1	0	0
③	神谷	4	0	0	1	0
⑤	国山	4	3	3	0	0
R5	佐々木	0	0	0	0	0
②	内田	3	2	1	0	1
⑥	磯野	4	1	1	2	0
①	宮下	1	0	0	0	0
H	浅見	0	0	0	0	1
1	秋山	2	0	0	0	0
④	風間	4	1	2	0	0
犠併残 0 1 6		35	13	8	3	3

	回	安	振	球	責
鈴木	4	7	2	2	3
加藤	2	3	1	0	3
松本	2	3	0	1	2
宮下	4	3	4	3	3
秋山	5	6	5	1	1

▷本塁打＝国山1号②(加藤)内田1号(加藤)▷三塁打＝杉本▷二塁打＝高橋、風間、杉本、荻原、内藤、新谷▷盗塁＝国2(本田、内藤)日1(国山)▷試合時間＝2時間34分

第2試合＝2回戦(午後0時2分開始)

		計
松下電器	2 2 0 1 5 0 8	18
三菱重工長崎	0 0 0 0 0 0 0	0

▶審判(球審)木嶋(塁審)美馬、前田、宮木

【松下電器】		打	安	点	振	球
⑦	南村	0	0	0	0	0
H7	篠崎	2	0	0	0	2
H7	小野	0	0	1	0	1
④	野尻	4	1	2	0	0
③	北野	4	1	0	0	0
1	北口	1	1	1	0	0
⑨	島田	3	2	5	0	2
⑤	林	5	1	0	1	0
⑥	広岡	3	2	1	0	1
②	大本	2	1	1	0	0
H2	渋谷	0	0	0	0	1
①	石田	3	3	6	0	0
3	奥代	1	0	0	0	1
⑧	平岡	4	3	1	0	0
犠併残	4 0 5	32	15	18	1	8

【三菱長崎】		打	安	点	振	球
⑨	北原	2	0	0	1	0
H9	井上	1	0	0	0	0
④	鈴木	2	0	0	0	0
H6	林田	1	0	0	0	0
⑤	本西	3	0	0	0	0
⑧	林	3	1	0	0	0
③	福島	3	0	0	0	0
⑥4	古屋	2	0	0	1	0
⑦	伊藤	2	0	0	0	0
②	布村	0	0	0	0	1
2	都甲	1	0	0	0	0
①	肥喜里	0	0	0	0	0
1	前田	0	0	0	0	0
1	山坂	0	0	0	0	0
1	宮本	0	0	0	0	0
H	高村	1	0	0	0	0
1	川南	0	0	0	0	0
1	古川	0	0	0	0	0
1	牧瀬	0	0	0	0	0
犠併残	1 1 2	21	1	0	2	1

	回	安	振	球	責
石田	5	1	2	1	0
北口	2	0	0	0	0
肥喜里	1⅓	2	0	2	4
前田	2⅓	4	0	2	1
山坂	1⅓	3	0	1	4
宮本	1	0	0	0	0
川南	⅓	2	0	1	3
古川	⅓	4	1	2	5
牧瀬	⅓	0	0	0	0

▷本塁打＝島田1号②(肥喜里)2号③(古川)石田1号②(肥喜里)2号③(山坂)▷二塁打＝北野、野尻▷犠打＝松4(野尻、広岡、大本2)三1(前田)▷盗塁＝松2(広岡、大本)▷失策＝三2(林田、本西)▷試合時間＝2時間17分

第3試合＝2回戦(午後2時50分開始)

		計
電電信越	000 000 000	0
本田技研	110 130 00X	6

▶審判(球審)三宅(塁審)本郷、河島、吉田

【電電信越】		打	安	点	振	球
⑧	石田	4	0	0	0	0
H	森	1	0	0	1	0
⑥	土居	2	0	0	0	0
H6	松崎	2	0	0	0	0
③5	西条	4	1	0	0	0
⑨	横井	4	1	0	0	0
④	藤島	3	1	0	0	1
⑦	柴山	0	0	0	0	0
7	渡辺	4	2	0	0	0
⑤	須田	3	0	0	0	0
H3	藤森	1	0	0	0	0
②	常盤	2	1	0	1	1
H	箱山	1	0	0	1	0
①	高野	0	0	0	0	0
1	田口	1	0	0	0	0
H	加藤	1	0	0	1	0
犠併残	2 2 10	33	6	0	4	2

【本田技研】		打	安	点	振	球
⑧	荻原	3	1	0	0	0
④	佐藤資	2	0	0	0	1
⑥	広瀬	4	3	1	0	0
③	入内島	4	1	1	0	0
⑦	雨堤	4	2	3	0	0
⑨	原英	0	0	0	0	0
9	柳川	4	0	0	0	0
⑤	朝山	4	1	0	0	0
②	長井	3	0	0	0	1
①	伊東	4	3	1	1	0
犠併残	2 0 6	32	11	6	1	2

	回	安	振	球	責
高野	4⅔	9	0	1	6
田口	3⅓	2	1	1	0
伊東	9	6	4	2	0

▷本塁打＝雨堤1号(高野)▷二塁打＝伊東2、藤島、入内島、西条▷犠打＝電2(高野2)本2(荻原、佐藤資)▷盗塁＝電1(土居)本2(雨堤、朝山)▷失策＝電1(須田)本2(朝山、伊東)▷試合時間＝2時間8分

▽10月26日

第1試合＝準々決勝(午前9時55分開始)

		計
電電東海	000 001 012	4
日本楽器	000 000 000	0

▶審判(球審)中西明(塁審)小林、鹿多、岸野

【電電東海】		打	安	点	振	球
⑤	辻	4	2	1	1	0
⑧	宮本	4	0	0	0	0
④	湯之戸	4	1	0	2	0
②	中西	3	1	1	2	1
③	浅野	3	0	0	0	1
⑦	古瀬	3	0	0	0	0
7	望月	1	1	0	0	0
⑨	木戸	3	1	2	0	1
⑥	内藤	3	1	0	1	1
①	清水	1	0	0	0	0
犠併残	2 1 4	29	7	4	6	4

【日本楽器】		打	安	点	振	球
④	山本秀	4	2	0	0	0
⑥	中山	2	1	0	0	1
⑦	熊野	3	0	0	0	1
③	武居	4	0	0	1	0
⑨	中村	4	0	0	0	0
⑧	内山	4	1	0	0	0
⑤	大野	2	0	0	0	1
H	伊藤	1	0	0	0	0
②	佐藤	4	2	0	0	0
①	高田	3	0	0	1	0
H	内海	1	0	0	0	0
犠併残	1 0 9	32	6	0	2	3

	回	安	振	球	責
清水	9	6	2	3	0
高田	9	7	6	4	4

▷三塁打＝山本秀▷二塁打＝湯之戸、中西、辻、木戸▷犠打＝電2(清水2)日1(中山)▷盗塁＝日1(熊野)▷失策＝電1(古瀬)▷試合時間＝2時間25分

第2試合＝準々決勝(午後0時50分開始)

		計
神戸製鋼	110 004 011	8
日本通運	321 000 22X	10

▶審判(球審)村山(塁審)山口、岡本、辻

【神戸製鋼】		打	安	点	振	球
⑧	小林貢	5	4	0	0	0
⑥	川原崎	5	1	0	1	0
⑦	浦本	5	2	0	0	0
③	高野	4	2	1	0	0
②	岡本	3	1	1	0	0
⑨	中村	4	2	5	2	0
⑤	上野	3	1	0	0	1
④	宮本	3	0	0	2	0
①	矢野	3	0	0	1	0
1	増水	0	0	0	0	0
H	日川	1	1	0	0	0
犠併残	2 0 4	36	14	7	6	1

【日本通運】		打	安	点	振	球
⑥	望月	5	2	3	2	0
④	金丸	4	1	0	0	1
⑨	岩井	3	1	0	1	0
H9	辻山	2	0	0	0	0
③	伊藤	3	2	5	0	1
⑦	牛島	4	1	0	0	0
⑧	岡田	4	2	1	1	0
⑤	柿沼	4	2	0	0	0
②	杉本	4	1	0	0	0
①	清水	2	1	0	1	0
1	野尻	1	0	1	0	0
犠併残	1 4 5	36	13	10	5	2

	回	安	振	球	責
矢野	7⅓	12	5	2	10
増水	⅔	1	0	0	0
清水	5	10	2	1	6
野尻	4	4	4	0	2

▷本塁打＝伊藤4号③(矢野)5号②(矢野)中村1号(清水)2号④(清水)望月1号②(矢野)岡田2号(矢野)岡本1号(野尻)▷二塁打＝清水、柿沼▷犠打＝神2(岡本、宮本)日1(野尻)▷盗塁＝神1(小林貢)日1(望月)▷試合時間＝2時間32分

ベテラン神鋼・中村、2アーチ

◎…初戦の対専売東北戦で決勝打を放った30歳の神戸製鋼・中村は、第2戦の電電中国戦は若手に出番を譲って代打で出場。そしてこの日は劇的なアーチ2本と2三振。二回、日本通運の先発、左腕・清水の初球をとらえて左翼へ運ぶとこれが記念すべき大会通算200号本塁打。「まっすぐ高めの球、相手の清水投手が悪かったんじゃないですか」

三振のあとの第3打席は無死満塁で打席に立ち、2－3後の7球目を左中間へ同点満塁本塁打。「シュートがスッポ抜けたよう。あの一打でムードはもり上がったし、いけると思ったんですが…」。

▽10月27日

第1試合＝準々決勝(午前9時57分開始)

		計
住友金属	000 210 001	4
日立製作所	001 100 000	2

▶審判(球審)木嶋(塁審)片岡、桂、石渡

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑤	松隈	4	1	1	1	0
④	中田	4	1	0	1	0
②	嶋田	4	1	0	1	0
⑨	筒井	3	1	0	0	0
⑧	三好	4	1	2	0	0
⑦	栗山	3	0	0	0	1
③	佐藤	4	1	0	0	0
⑥	田中	3	1	1	0	0
①	高橋	3	0	0	1	0
犠併残	3 1 5	32	7	4	4	1

【日立製作所】		打	安	点	振	球
⑨	遠藤	4	1	1	0	0
⑧	荻原	4	2	0	1	0
⑦	杉本	4	2	0	0	0
③	神谷	4	0	0	0	0
⑤	国山	3	3	1	0	1
②	内田	4	0	0	1	0
⑥	磯野	4	1	0	1	0
①	宮下	1	0	0	0	0
H	浅見	1	1	0	0	0
1	秋山	1	0	0	0	0
④	風間	3	0	0	1	0
犠併残	0 1 5	33	10	2	4	1

	回	安	振	球	責
高橋	9	10	4	1	2
宮下	5	4	3	1	2
秋山	4	3	1	0	0

▷本塁打＝遠藤1号(高橋)▷二塁打＝杉本2、松隈、国山▷犠打＝住3(筒井、田中、高橋)▷盗塁＝住2(三好、田中)日1(国山)▷失策＝日3(神谷、国山、内田)▷試合時間＝2時間23分

第2試合＝準々決勝(午後0時49分開始)

		計
松下電器	101 000 000 5	7
本田技研	010 000 100 2	4

▶審判(球審)小林(塁審)上杉、中西則、東

【松下電器】		打	安	点	振	球
⑦	南村	0	0	0	0	0
H7	小野	1	0	0	1	1
H7	篠崎	2	0	0	0	1
④	野尻	5	1	2	1	0
③	北野	4	1	1	0	1
⑨	島田	5	2	3	1	0
⑤	林	3	1	0	0	0
R	磯本	0	0	0	0	0
5	奥代	1	0	0	0	0
⑥	広岡	4	1	0	0	0
②	大本	4	2	0	0	0
①	石田	2	0	0	1	0
1	原	1	1	0	0	0
⑧	平岡	3	1	1	0	0
犠併残	3 1 4	35	10	7	4	3

【本田技研】		打	安	点	振	球
⑧	荻原	3	0	0	0	0
H	青木	1	0	0	1	0
8	松田	1	0	0	0	0
④	佐藤資	5	2	0	0	0
⑥	広瀬	5	1	0	1	0
③	入内島	5	4	0	0	0
⑦	雨堤	5	2	2	0	0
⑨	佐藤正	4	0	0	0	1
⑤	朝山	4	1	1	0	1
②	長井	4	2	1	0	0
①	藤原	0	0	0	0	0
H	柳川	1	0	0	1	0
1	伊東	3	1	0	1	0
1	中屋	0	0	0	0	0
犠併残	0 0 9	41	13	4	4	2

	回	安	振	球	責
石田	6⅔	8	1	1	2
原	4	5	3	1	2
藤原	3	4	2	1	2
伊東	6⅔	6	2	2	5
中屋	⅓	0	0	0	0

▷本塁打＝北野1号(藤原)平岡1号(藤原)島田3号③(伊東)▷二塁打＝朝山、長井、原、野尻、入内島、雨堤▷犠打＝松3(林、原、平岡)▷盗塁＝本1(佐藤正)▷ボーク＝藤原▷試合時間＝3時間1分

▽10月28日

第1試合＝準決勝(午前10時1分開始)

		計
電電東海	000 001 020	3
日本通運	000 501 01X	7

▶審判(球審)大橋(塁審)桂、東、桃田

【電電東海】		打	安	点	振	球
⑤	辻	5	0	0	0	0
⑧	宮本	3	0	0	1	0
H	森田	1	0	0	0	0
8	堀内	1	0	0	0	0
④	湯之戸	3	1	1	0	1
②	中西	4	2	1	1	0
③	浅野	4	2	1	1	0
⑦	古瀬	3	1	0	1	0
H7	望月	1	0	0	0	0
⑨	伊藤	0	0	0	0	0
9	木戸	3	0	0	0	1
⑥	内藤	3	1	0	0	0
H	沢田	1	1	0	0	0
①	清水	2	0	0	0	0
H	井上	1	0	0	0	0
1	笠井	0	0	0	0	0
H	川合	1	1	0	0	0
犠併残	0 1 8	36	9	3	4	2

【日本通運】		打	安	点	振	球
⑥	望月	4	2	0	1	0
④	金丸	4	2	0	1	0
⑨	岩井	4	1	2	2	0
9	辻山	0	0	0	0	0
③	伊藤	4	1	1	2	0
⑦	牛島	4	3	1	0	0
⑧	岡田	4	1	1	2	0
⑤	柿沼	4	1	2	1	0
②	杉本	4	1	0	1	0
①	玉田	3	0	0	3	0
犠併残	0 1 4	35	12	7	13	0

	回	安	振	球	責
清水	6	9	11	0	6
笠井	2	3	2	0	1
玉田	9	9	4	2	1

▷本塁打＝柿沼1号②(清水)湯之戸1号(玉田)伊藤6号(清水)▷二塁打＝岩井、望月(日)浅野、岡田▷盗塁＝電1(湯之戸)日2(牛島、杉本)▷失策＝日1(望月)▷試合時間＝2時間41分

日通、長打攻勢で圧倒

三回まで電電東海・清水のカーブにほんろうされ無安打、5三振と沈黙していた日本通運は、打順が一巡した四回、望月、金丸の連打で無死一、二塁の好機を迎え、岩井の中越え二塁打で2点。さらに一死後、牛島の右前適時打で1点を加え、二死後に柿沼が右翼席に運んでこの回5点。一気に試合の主導権を握った。六回には伊藤の右越え本塁打、八回には岡田の右中間適時二塁打で1点ずつを加えダメを押した。

電電東海は六回に湯之戸の左越え本塁打で1点、八回には遊ゴロ失と中西の中前打、浅野の右中間二塁打で2点を返して食い下がったが、四回の大量失点が重くのしかかり、踏ん張った玉田に後続を断たれた。

第2試合＝準決勝(午後1時16分開始)

		計
住友金属	000 000 202	4
松下電器	002 100 000	3

▶審判(球審)小林(塁審)上杉、石渡、岸野

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑤	松隈	4	2	2	0	1
④	中田	3	0	0	1	1
1	武田	0	0	0	0	0
H	松原	1	1	2	0	0
1	古賀	0	0	0	0	0
②	嶋田	5	1	0	1	0
⑨	筒井	4	1	0	0	0
⑧	三好	3	1	0	0	0
⑦	栗山	2	0	0	1	2
③	佐藤	3	1	0	1	0
⑥	田中	4	1	0	0	0
①	高橋	1	0	0	0	0
1	吉木	0	0	0	0	0
H	児島	1	0	0	0	0
1	松本	0	0	0	0	0
H	小杉	0	0	0	0	1
R	黒石	0	0	0	0	0
4	四田	1	0	0	1	0
犠併残	2 1 8	32	8	4	5	5

【松下電器】		打	安	点	振	球
⑦	篠崎	2	0	0	1	0
H7	小野	1	0	0	0	0
7	杉本	1	0	0	0	0
④	野尻	3	1	0	1	1
③	北野	3	0	0	1	1
⑨	島田	3	2	1	0	1
⑤	林	4	1	1	0	0
⑥	広岡	4	1	0	0	0
②	大本	4	1	0	1	0
①	原	3	0	0	0	0
1	石田	0	0	0	0	0
H	中西	1	1	0	0	0
⑧	平岡	3	2	1	0	1
犠併残	1 0 7	32	9	3	4	4

	回	安	振	球	責
高橋	3⅔	6	2	2	3
吉木	⅓	0	0	0	0
松本	2	2	1	1	0
武田	2	0	1	0	0
古賀	1	1	0	1	0
原	6⅔	5	1	3	2
石田	2⅓	3	4	2	2

▷三塁打＝松原、中西▷二塁打＝野尻、田中▷犠打＝住2(三好、佐藤)松1(篠崎)▷盗塁＝松1(大本)▷試合時間＝3時間6分

住金、土壇場で底力

住友金属がピンチを小刻みな継投で切り抜け、九回底力を発揮して逆転勝ちした。1点を追う住金は九回、田中の左翼線二塁打と松隈の敬遠で二死一、二塁とし、代打・松原が右中間三塁打して2者を迎え入れ逆転した。

六回まで松下電器の先発・原を攻めあぐねた住金は七回、2四球と佐藤の左前打の二死満塁に松隈が三塁の頭上をゴロで破る適時打で2点。逆転への糸口をつかんだ。

松下電器は3連投の住金・高橋を攻め、三回に島田の中前適時打と林の中前へのテキサス安打で2点を先取。四回にも平岡の中前適時打で1点を加え、高橋をＯＫ。しかし、中盤から住金の継投に目先をかわされ、九回二死一、三塁と詰め寄ったものの、決定打を奪えなかった。

▽10月31日

優勝戦（午後2時3分開始）

住友金属	2	0	0	2	1	0	0	1	1	7
日本通運	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2

▶審判（球審）三宅（塁審）木嶋、本郷、原田

【住友金属】

		打	安	点	振	球
⑤	松隈	5	2	2	0	0
④	中田	4	3	2	0	0
②	嶋田	3	1	1	2	0
⑨	筒井	5	1	1	0	0
⑧	好山	4	2	1	1	0
⑦	栗藤	4	2	1	0	0
③	山中	3	1	1	0	0
⑥	佐藤	3	1	1	0	1
①	高橋	2	0	0	0	0

犠 併 残
6 2 6 31117 1 3

【日本通運】

		打	安	点	振	球
⑥	望月	4	1	1	0	0
④	金丸	4	0	0	0	1
⑨	岩井	4	3	2	0	0
③	伊藤	3	4	0	0	0
3	鵜島	0	0	0	1	0
⑦	牛田	4	0	0	1	0
⑧	岡田	3	1	0	1	0
H	町田	3	1	0	0	0
⑤	柿沼	3	1	1	0	0
②	杉本	3	0	0	0	0
H	酒井	1	0	0	0	0
①	清水	1	0	0	0	0
1	野尻	1	0	0	0	0
H	神長	1	0	0	0	0
1	玉田	1	0	0	0	0
	古瀬	0	0	0	0	0

犠 併 残
0 1 6 34 9 2 3 1

	回	安	振	球	責
高橋	9	9	3	1	2

	回	安	振	球	責
清水	4	6	0	2	4
野尻	3	2	0	1	1
玉田	1⅔	3	1	0	2
古瀬	⅓	0	0	0	0

▷本塁打＝柿沼2号（高橋）筒井1号（野尻）▷二塁打＝中田、嶋田、岩井、栗山▷犠打＝住6（中田、嶋田2、佐藤、高橋2）▷盗塁＝住2（松隈2）▷試合時間＝2時間17分

先手々々、攻めまくる

住友金属が常に先手を取り、危なげない勝利を飾った。

住金は一回、中田の三塁線突破二塁打と嶋田の右中間を破る連続二塁打で1点。さらに三好の左前適時打で2点を先制。日本通運の先発・清水はストライクを集めすぎて狙い打たれた。住金は四回にも2四球とバントで送った二死二、三塁に松隈が中前に2点適時打。五回にも代わった野尻から筒井が中堅左にアーチをかけて5点目。八、九回にもソツなく加点した。

日通は二回、柿沼が左翼席に2号ソロ。五回には柿沼、野尻の連打と望月の左前打で1点を返した。六回にも2安打して4連投の住金高橋から計9安打を奪ったものの、高橋の的を絞らせない投球術にかわされた。

準決勝までの4試合で6本塁打をマークしていた主砲の伊藤を2併殺打と1三振を含む、4打数無安打に抑え込んだ高橋の投球は見事だった。

監督談話

住友金属・山中正竹監督　八回、佐藤が中前適時打して6点目を挙げた時、勝利を確信した。優勝の原動力は高橋だが、前日の松原の代打2点打、高橋をつないだ4人の投手らの活躍がこの日の優勝につながったと思う。

日本通運・中村国勝監督　ヒットも同じくらい打ったし負ける気はしなかったのだが、それ以上に高橋君がよかった。ここまで来るのが大変だったし、うちとしては力を出し切ったので悔いはありません。

監督ひと　住友金属　山中 正竹監督

「うちの選手は素晴らしい人間ばかりですよ」。決戦前夜、大阪・天満橋の宿舎で（山中監督は）すでにすがすがしい笑顔だった。

九回二死から代打・松原の劇的な三塁打で勝った、あの準決勝のあと。「要するに（松原は）下手クソだから使わなかったんだけど、私を恨んでいるかもわからない…。しかし、くさらずに黙々と打ち込んできた努力が、アイツの嫌いな変化球でなく、好きな直球を呼び込んだのだと思う。神様も味方したのかも知れない」

法大投手時代、48勝（東京6大学新記録）の陰に「言葉では表現できない」わが青春の精神の日々を思い出し、最後の勝利も確信していたようだ。法大、住金を通じての師、松永怜一氏（元住金監督）の薫陶を受け、徹底的に勝利を追求しながら、やさしさの涙を見せることが多い。しかし、前夜は「実力では日通に劣るけど勝負は別だ。お前たちの執念に期待する。絶対に勝て」と厳しかった。主戦・高橋の4連投にも「私の経験からもエースはこれくらいは耐えなければ…」と。

――社会人野球の目的は？「いい社会、いい人間を育てることでしょうね。私自身、野球から得た経験や人間関係は計り知れないものがあります」

――選手にいつも何を説いているか？「全力で走れ、全力投球しろということです。私も仕事と野球の両立はできません。しかし、野球が終わったあと、それが生きると信じています。この4年間、私は野球に全力投球してきたし、私の教えるべきことはすべて教えました」

選手としても指導者としても何度も光を浴びた、この求道的野球人は、これからどんな道を歩むのか。

〈大分県佐伯鶴城高―法大。70年入社。現役投手6年、助監督4年のあと野球から離れていたが、81年から監督。和歌山製鉄所厚生課参事。37歳。一女（小学4年）の父〉　（津田 康）

〔優勝戦〕日本通運―住友金属　最高殊勲選手に選ばれた住友金属・高橋投手の力投。

住金連覇の原動力は堅守

熱球

住友金属にとってこの試合は今季68試合目になる。今シーズン最後の大一番を前に山中監督は「連覇しよう。うちしかないチャンスじゃないか」とゲキを飛ばした。優勝戦に進出すること4度、出たら負けを知らない住金の強さは徹底したディフェンス力にある。ディフェンス力に自信を持ち、日本通運に粗さを見いだした山中監督が「連覇しよう。いや、連覇出来る」とナインに言い切ったのは当然のことかも知れない。

初戦の新日鉄光戦を除いたら、結果的には優勝戦がもっとも楽な、いかにも住金らしい試合展開になった。「投手は低めを突け、打者はセンター返しを狙え」の鉄則通り選手は動き、「自分がしなければならないこと」を一人々々が自覚している住金ナインへの優勝への自信は回を追うごとに膨らんでいった。

一回先制したその裏、金丸のセンター返しを、グラブでたたき落として処理した高橋、六回二死一、二塁で三邪飛をブルペンの傾斜の難しい場所で後ろ向きになりながら捕球した松隈、さらには九回、町田の一塁線突破性の当たりをうまく回り込んで高橋にトスして殺した佐藤のプレーなど"鉄の守り"は随所に見られた。

そして攻撃は手堅いバント戦法だ。「打の日通」が走者を置いてことごとく強攻策に出たのとは対照的に、ようやく当たりが戻った三番の嶋田にバントを命じるなど、確実にスコアリングポジションへ走者を送っては、日通に絶えずプレッシャーをかけ続けた。

堅い守りは4試合すべてに先発したベテラン・高橋の"粘投"をさらにもり立てた。史上最多の3度目のMVPに輝いた高橋は「まさか完投出来るとは思わなかったが、嶋田が何度も励ましてくれたし、ナインの激励が1球投げるたびに伝わってくる感じがした」と言った。昨年の優勝戦でも前評判が高かった東芝に9安打を許しながら、2－0の完封勝ちを演じたが「1点もやれない昨年より、7点もらってホームランでもソロならいいやの気持ちで投げられた今年の方が気分的に楽だった」と振り返った。

住金は大一番で最もいい試合をした。前日の対松下電器戦で劇的な逆転勝ちに涙した山中監督は、実にすがすがしい顔で「きょうはほぼ満点に近い内容だった」と総括した。「成せば成る」ことを知らせてくれた住金の連覇の持つ意義は大きい。　（相馬 卓司）

敢闘賞にも「恥ずかしい」

㊐…日本通運・伊藤は準決勝まで6アーチ、15打点と大当たり。しかし優勝戦は4打数ノーヒット、1三振と完全に沈黙した。とりわけ四、八回は無死一塁の反撃機に内野ゴロで2併殺。「年齢？関係ありません。疲れもなかった。高橋投手がうまかったということです。丁寧に攻めてきましたからね」。しかも九回の守りから若手に交代してベンチに引っ込んだ。そのため、敢闘選手賞受賞にも「恥ずかしいですよ」と笑顔はなかった。

チームでは現役最年長だが、中村監督に言わせると「ベテラン風を吹かせることのない努力家」。練習でも手を抜くことなく、若手と同じように汗を流している。「そうするしか力を維持する方法はありません。きょうの打撃は実に残念。鍛え直してまた来年やってきます」と力強く言い切ったあと、こうつけ加えた。「でも私にとって一生の思い出に残る大会になることだけは間違いありません」

ヒーロー

“箕島野球”の勝負強さ

嶋田 宗彦捕手(22)
住友金属

昨年、日本一になった時、松葉づえをついてベンチにいた。大会直前、左足を骨折し、マスクをかぶれなかった。それだけに今大会への思い入れは強かったはずだ。

優勝戦は強打の日本通運相手。なんとしても、汚れたユニホームでダイヤモンド旗をつかみたい。連投の高橋をどうリードするか、悩んだ。「三振の取れる投手ではない。もちろんかわしていくが、低めにとにかく集めさせよう」。こんな技術論はすぐに頭に浮かんだが、もう一つヒリッと心をしめる一言がほしかった。それは、昨夜のミーティングで山中監督が言った「優勝戦は気力と気力の勝負でしかない」という言葉がこの日の好リードを生んだという。「気力負けしたくない。それだけを支えにリードしたんです」

劇的な球歴を持つ。高校時代は夏の甲子園で延長18回の死闘を演じた対星稜戦で延長12回、同点本塁打、一昨年の都市対抗では対ヤマハ発動機戦で逆転サヨナラの3ラン。今大会は打力がやや不振でこの日を迎えたが、一回、二塁打で先制点を奪い、九回は犠牲フライでダメ押し点をたたき出した。意外性を秘める男は、最終戦になってその真価を発揮した。

天性の勝負強さからプロからの誘いが毎年ある。この日も報道陣の質問を浴びたが「いきませんね」ときっぱり。「社会人はオリンピックにいけるし、それに来春、弟(章弘君・箕島3年)がうちに来る。兄弟バッテリーで3連覇を狙いたい」。社会人5年目。社会人野球の魅力にとりつかれた男が、また一人生まれた。

第11回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞**　高橋修二投手(住友金属)　優勝戦まで4試合すべてに先発、準決勝・松下電器戦で四回途中降板した以外は完投した。初戦の2回戦・新日鉄光戦は完封。コーナーを巧みについく丁寧なピッチングで30回⅔を投げ自責点7、防御率2.05。

高知高時代の74年、春夏の甲子園を経験、センバツはベスト8だった。翌年入社。派手さはないが黙々と投げ続けて住友金属投手陣の中軸。174㌢、73㌔、右投げ右打ち。今年12月で28歳。和歌山製鉄所庶務課勤務。

◇**敢闘選手賞**　伊藤由紀夫一塁手(日本通運)　電電四国、電電東海戦各1本、電電北海道、神戸製鋼戦各2本と脅威の計6本塁打。1大会としては過去3本だった個人通算大会記録を倍増させた。千葉商高時代の68年夏甲子園に出場。立正大を経て12年目、33歳の大ベテラン。176㌢、80㌔、右投げ右打ち。東京支店会計課勤務。

◇**打撃賞**　平岡靖彦中堅手(松下電器)　3試合、10打数6安打。俊足巧打の9番打者。金沢桜丘高から日体大へ進み、大学時代は四番を打ち、首都リーグのベストナインに選ばれたこともある。今大会では、うまさと同時にパワーが光った。25歳。179㌢、72㌔。右投げ右打ち。松下電子部品勤務。

◇**大会優秀選手**

【投手】高橋修二(住友金属)石田富士男(松下電器)清水雅彦(電電東海)高田博久(日本楽器)伊東昭光(本田技研)**【捕手】**嶋田宗彦(住友金属)中西親志(電電東海)内田強(日立製作所)**【内野手】**伊藤由紀夫(日本通運)入内島保(本田技研)山本秀樹(日本楽器)松隈憲治(住友金属)柿沼章文、望月伸一(以上日本通運)朝山憲重(本田技研)国山尊典(日立製作所)**【外野手】**筒井大助(住友金属)平岡靖彦、島田行雄(以上松下電器)杉本昌彦(日立製作所)熊野輝光(日本楽器)小林貞、中村好治(以上神戸製鋼)

「金」の次は「ダイヤモンド」

五輪五人衆

ロス五輪の公開競技、野球で“金メダル”を獲得した時の主力メンバー5人が今度はたもとを分かち、21日から大阪球場で始まる社会人野球日本選手権大会で「ダイヤモンド旗」を争う。この“5人衆”は、期待に応えて“金メダルプレー”を披露してくれそうだ。

5人は伊東昭光投手(本田技研・帝京高出)　嶋田宗彦捕手(住友金属・箕島高出)　熊野輝光外野手(日本楽器・中大出)　森田昇外野手(日本生命・近大出)　浦東靖内野手(新日鉄堺・新宮商高出)。新日鉄堺の主将でもある浦東靖は、今大会選手宣誓の栄誉をになうことになっている。

伊東は、高校2年生だった1980年の第52回選抜高校野球大会の準優勝投手で、伸びのある直球、キレの鋭いカーブが武器だ。昨年までは中盤から球威が落ちるケースが多かったが、ランニングで足腰を鍛えてスタミナをつけ、ロス五輪の決勝の対米国戦では先発して6回⅓を投げ“大リーグ予備軍”に被安打2、奪三振6の好投を演じ自責点はわずかに1。韓国戦、台湾戦の中継ぎから先発に回っての好投にすっかり自信を深めている。

女房役の嶋田捕手は、石井(現西武)とバッテリーを組んで79年春夏の甲子園を制したほか、82年の都市対抗野球、それに石井が抜けた昨年も日本選手権優勝とアマチュア野球のビッグタイトルを総なめにしたうえ、今回のオリンピック優勝だ。好機に滅法強く、オリンピックの決勝対米国戦の五回、適時二塁打を放つなど4試合で17打数5安打3打点一打率2割9分4厘を残した。

大当たりだったのが熊野。初戦の韓国戦こそ無安打に終わったものの、ニカラグア戦では三塁打が出ればサイクル安打の5打数4安打3打点、5試合で21打数9安打4打点打率4割2分9厘は光る。全日本の三番はチームに戻っても三番に座るが、中部大会の決勝で3安打の固め打ちと集中力の強さには驚かされる。

大阪勢の浦東靖は4試合で14打数4安打1打点、打率2割8分6厘、森田は5試合で12打数3安打2打点、打率2割5分だったが、ともに守備で再三ファインプレーを演じ全日本の一員として欠かせない存在だった。米大リーグの“予備軍”をやっつけた彼らの「ダイヤモンド旗」を目指す戦いは間もなく始まる。

町の代表いま復活

大昭和製紙北海道

大昭和製紙北海道が復部2年目で大阪球場に戻ってくる。現役を退いて監督専任になったものの、都市対抗野球、日本選手権で通算本塁打の記録を持つ高梨、沖縄から白老町に渡って社会人野球で名をあげた我喜屋、ベテラン投手・川瀬ら懐かしい顔ぶれが開幕を心待ちしている。

休、廃部は企業スポーツの常とはいえ大昭和北海道の場合はあまりにもドラマチックだった。第8回大会(1981年)で準優勝したナインを待っていたのは、紙パ不況による「休部宣言」。休部と同時に半数以上の部員は退社した。残ったのは高梨監督以下わずかに14人。この14人は終業後、練習を続け、ただひたすら復部を待って練習を続けた。

都市対抗野球に出場すること10回、優勝、準優勝、ベスト4各1回。日本選手権には6回出場して準優勝、ベスト4各1回、ベスト8進出2回と目ざましい活躍で白老町の名を全国にとどろかせた。74年の都市対抗優勝記念に町に5000万円を寄付、白老町はスポーツの町にもなった。「オラが町の大昭和」を誇りに思っている町民は「大昭和野球部の灯を消すな」と青年七団体連合会(木村直樹前事務局長)が中心になって署名運動を展開。わずか1カ月の間に町の人口の56%に当たる1万3000余人もの署名を集め、大昭和幹部に復部を決意させ、83年から再スタートした。

町あげての応援にナインが燃えないはずはなく、今夏の都市対抗予選こそ勝ち抜けなかったが、日本選手権予選はクリアした。とはいえ3回戦の対拓殖銀行戦は6－6の引き分け再試合になり、翌日12－6で降してのキップだった。「秋に強い」大昭和北海道だけに高梨監督も「町の人の熱意に応えたい」と上位進出を狙っている。

第11回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月10日から　5日間　　札幌市営円山球場

東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽一回戦　三菱製紙八戸15－3オール青森、全弘前倶6－3八甲ク▽**敗者復活戦**　八甲17－10オール青森、▽**準決勝**　三菱製紙八戸7－0全弘前倶、自衛隊青森(不戦勝)八甲ク▽**決勝**　自衛隊青森6－2三菱製紙八戸(勝者は第二次予選へ)

◇**岩手**▽一回戦　盛岡鉄道管理局7－3釜石野球団、花北ク8－7オール江刺、新日鉄釜石9－2水沢駒形ク、岩手銀行5－0東京製綱、オール釜石2－0雫石ク▽二回戦　盛岡鉄道管理局10－0宮高ク、岩手銀行12－2一関三星、オール不来方7－4花北ク、小野田セメント11－1花友ク、新日鉄釜石7－3高田ク、宮城建設久慈ク7－6オール釜石、県経済連11－0九戸ク▽**準々決勝**　盛岡鉄道管理局5－0オール不来方、新日鉄釜石16－2赤崎野球ク、岩手銀行5－1小野田セメント、県経済連7－0宮城建設久慈ク▽**準決勝**　新日鉄釜石9－1盛岡鉄道管理局、県経済連5－2岩手銀行(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　県経済連6－5新日鉄釜石

◇**秋田**▽一回戦　TDK10－3秋田商ク、秋田鉄道管理局7－5TOHIク、秋田銀行6－3秋田経法大ク▽**準決勝**　秋田相互銀行17－3TDK、秋田鉄道管理局10－7秋田銀行▽**決勝**　秋田相互銀行12－9秋田鉄道管理局(勝者は第二次予選へ)

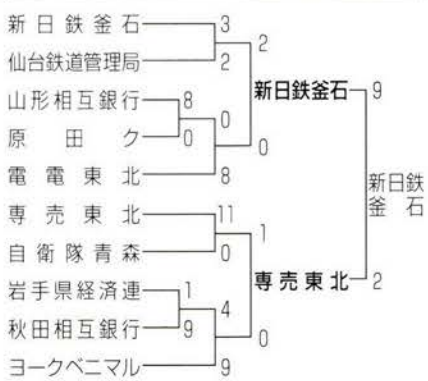
◇**宮城**▽一回戦　専売東北5－0白山ク、サニーク4－3七十七銀行、仙台鉄道管理局7－0村田ク、電電東北5－3仙商ク▽**準決勝**　専売東北10－0仙台鉄道管理局、電電東北5－1サニーク(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　電電東北3－2専売東北▽**敗者復活**一回戦　白山ク9－1村田ク、七十七銀行8－2仙商ク▽**同**二回戦　仙台鉄道管理局14－0サニーク、七十七銀行19－3白山ク▽**第三代表決定戦**　仙台鉄道管理局8－0七十七銀行(勝者は第二次予選へ)

◇**山形**▽一回戦　山形相互銀行5－4日大山形OB▽**決勝**　山形相互銀行7－3鶴岡野球ク(勝者は第二次予選へ)

◇**福島**▽一回戦　ミドリ十字病院12－4小名浜ク、ヨークベニマル10－0学法石川OB、原田ク9－8須賀川ク▽**準々決勝**　ミドリ十字病院10－2二本松ク、ヨークベニマル10－0矢吹ク、原田ク2－1勿来ク、ニュー相馬7－6オール常交▽**準決勝**　ヨークベニマル10－0ミドリ十字病院、原田ク9－1ニュー相馬(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　ヨークベニマル11－1原田ク

▶二次予選

9月22日から　3日間　　仙台市・東北福祉大



関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽**代表決定戦**　日立製作所5－1鹿島石油、住友金属鹿島5－1水戸鉄道管理局(勝者は第二次予選へ)

◇**群馬**▽一回戦　高崎鉄道管理局8－1伊勢崎レッドソックス、富士重工業12－1全前橋ク(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　富士重工業10－3高崎鉄道管理局

◇**埼玉**▽一回戦　飯能高OBク13－6全浦和、都幾川ク12－4全三郷、本田技研12－2エーザイ▽**準決勝**　日本通運11－1飯能高OBク、本田技研17－0都幾川ク(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　本田技研16－3日本通運

◇**千葉**▽一回戦　電電関東10－2千葉鉄道管理局▽**準決勝**　川鉄千葉13－2三井造船千葉、電電関東5－2新日鉄君津(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　電電関東5－0川鉄千葉

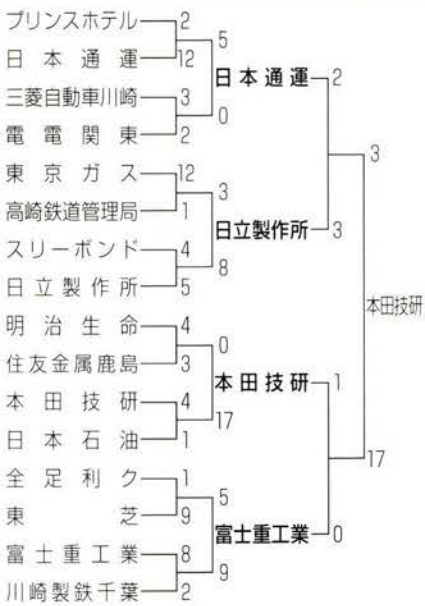
◇**東京**▽一回戦　プリンスホテル8－7朝日生命、東京ガス5－4鷺宮製作所、明治生命4－2電電東京、熊谷組14－0東京鉄道管理局▽**準決勝**　東京ガス10－8プリンスホテル、明治生命3－2熊谷組(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　東京ガス6－1明治生命▽**第三代表決定戦**　プリンスホテル3－2熊谷組(勝者は第二次予選へ)

◇**東京多摩**▽一回戦　東芝府中6－4全府中、スリーボンド12－0全調布▽**決勝**　スリーボンド4－3東芝府中(勝者は第二次予選へ)

◇**神奈川**▽一回戦　川崎ク5－4金港ク、カナガワク5－2横浜高島屋▽**準々決勝**　東芝15－0川崎ク、日本石油24－0カナガワク、いすゞ自動車11－7日本鋼管、三菱自動車川崎7－1三菱重工横浜▽**準決勝**　東芝7－3いすゞ自動車、三菱自動車川崎9－2日本石油(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　東芝4－2三菱自動車川崎▽**第三代表決定戦**　日本石油5－0いすゞ自動車(勝者は第二次予選へ)

▶二次予選

9月28日から　5日間　　群馬県営敷島球場



中部大会

▶一次予選

◇**新潟**▽一回戦　国鉄新潟21－1ヤングセブン、白根野球団12－2オール十日町、ニチエー24－2全飯豊、新潟コンマーシャル3－2佐渡軍団▽**準々決勝**　国鉄新潟18－2オール北越ク、長商ク7－4白根野球団、ニチエー10－0小千谷ク、新潟コンマーシャル9－0オール東▽**準決勝**　ニチエー11－1新潟コンマーシャル、国鉄新潟8－5長商ク▽**決勝**　国鉄新潟3－0ニチエー(勝者は第二次予選へ)

◇**静岡**▽一回戦　全三島ク7－1浜商闘魂会、協和発酵ク6－2本州ク、エースコンク12－5誠和ク▽**準々決勝**　関東自動車工業7－4全三島ク、岳南ク11－7協和発酵ク、日本楽器11－1静岡ク、河合楽器7－2エースコンク▽**代表決定戦**　関東自動車工業4－3岳南ク、日本楽器7－5河合楽器、河合楽器14

－0岳南ク(勝者は第二次予選へ)

◇**山梨**▽一回戦　桂ク10－6峡北クラ▽**準決勝**　山梨球友ク7－4オール櫛形、甲斐倶楽部11－3桂ク▽**決勝**　山梨球友ク8－1甲斐倶楽部(勝者は第二次予選へ)

◇**長野**▽一回戦　電電信越15－1オール松本ク、TDK千曲川4－3岡工ク、▽**決勝**　電電信越11－4TDK千曲川

◇**富山**▽三回戦制　北陸銀行6－1電電富山、北陸銀行12－2電電富山(北陸銀行は第二次予選へ)

▶二次予選

9月22日から　3日間　　浜松市営球場

東海・北陸大会

9月17日から　7日間　　愛知県営熱田球場

(三位決定戦)

電電北陸 7――1トヨタ自動車

近畿大会

▶一次予選

◇**滋賀**▽一回戦　全大津19－11瀬田工OB、日本IBM野洲20－0近江八幡ク▽**決勝**　日本IBM野洲7－1全大津(勝者は第二次予選へ)

◇**京都**▽一回戦　京都市役所9－2高島屋京都▽**代表決定戦**　丸勝2－1京都信用金庫、日本新薬13－1キョートビルク、第一紙行8－4西京ク、三菱自動車京都12－2京都市役所(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　三菱自動車京都2－1丸勝、日本新薬6－5第一紙行▽**決勝**　日本新薬3－1三菱自動車京都

◇**大阪**▽一回戦　電電近畿7－3デュプロ、大阪ガス10－7中山製鋼、全三和銀行10－3住友銀行、大和銀行8－0大阪ペーシェンス▽**準々決勝**　新日鉄堺2－1電電近畿、松下電器9－6大阪ガス、日本生命5－1全三和銀行、大和銀行11－1大阪高島屋(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　新日鉄堺2－1松下電器、日本生命17－1大和銀行▽**決勝**　新日鉄堺10－4日本生命▽**敗者復活一回戦**　電電近畿7－0全三和銀行、大阪ガス7－0大阪高島屋▽**第五代表決定戦**　電電近畿1－0大阪ガス(勝者は第二次予選へ)

◇**兵庫**▽一回戦　川鉄神戸4－3新日鉄広畑、阿部企業2－0神戸製鋼▽**準決勝**　三菱重工神戸8－4川鉄神戸、阿部企業4－3神戸製鋼▽**三位決定戦**　神戸製鋼4－2川鉄神戸▽**五位決定戦**　新日鉄広畑10－5小西酒造▽**決勝**　阿部企業11－4三菱重工神戸(五位以上は第二次予選へ)

▶二次予選

9月19日から　7日間　　宇治・太陽が丘球場

(敗者復活戦)

中国大会

▶一次予選

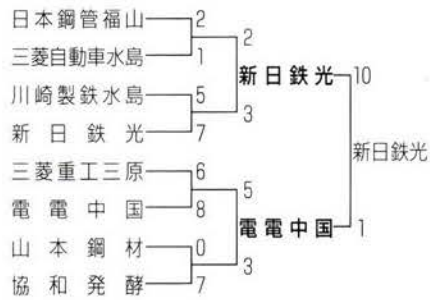
◇**岡山**▽リーグ戦　王子製紙米子8－6三井造船玉野、川鉄水島15－13三菱自動車水島、三菱自動車水島8－6三井造船玉野、川鉄水島8－3王子製紙米子、三菱自動車水島13－1王子製紙米子、川鉄水島10－1三井造船玉野(川鉄水島と三菱自動車水島が第二次予選へ)

◇**広島**▽一回戦　マツダ9－7広島マツダ▽**準々決勝**　電電中国6－4三菱重工広島、三菱重工三原6－0常石鉄工、山本鋼材9－3国鉄広島、日本鋼管福山14－7マツダ(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　日本鋼管福山3－0電電中国、三菱重工三原6－4山本鋼材▽**決勝**　日本鋼管福山9－3三菱重工三原

◇**山口**▽リーグ戦　協和発酵6－3田辺製薬、新日鉄光8－4航空自衛隊防府、新日鉄光10－0田辺製薬、協和発酵1－0航空自衛隊防府((新日鉄光、協和発酵は第二次予選へ)

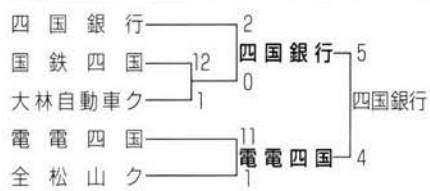
▶二次予選

9月22日から　3日間　　徳山市球場



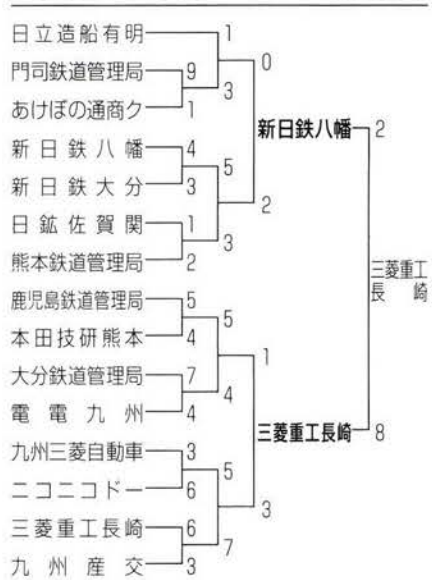
四国大会

9月22日から　3日間　　香川県営球場



九州大会

9月12日から　5日間　　新大分球場



第11回大会出場選手等一覧（○は主将）

電電北海道

監督	菊池	章吾	37	函館東高
投手	黒田	勇	28	専修大
〃	山本	克彦	25	岩内高
〃	山根	勝	25	札幌商高
〃	小林	伸博	24	北海道工高
〃	小竹	靖	22	東海大
〃	久保田	司	22	北海学園大
〃	木寺	正美	20	北海道工高
〃	瀬戸	浩明	19	北海道工高
〃	島谷	磨	19	岩内高
捕手	小林	潟	23	芦別高
〃	池本	祥吾	21	釧路湖陵高
〃	林	己喜男	29	札幌大
内野	日比野	勇	35	北海学園大
〃	野坂	寿利	28	札幌大
〃	寺田	昭雄	26	国士舘大
〃	砂子	浩一	23	東海大四高
〃	谷中田	優	23	国士舘大
〃	井城	昇	23	札幌大
〃	川島	俊明	21	函館有斗高
〃	香木	伸一	18	駒大岩見沢高
外野	○黒井	俊彦	28	東海大
〃	小林	彰	28	専修大
〃	吉岡	直樹	25	北海学園大
〃	石黒	倫樹	25	北海学園大
〃	鈴木	貴久	20	旭川大高

大昭和製紙北海道

監督	高梨	英夫	41	大多喜高
投手	川瀬	隆俊	32	木古内高
〃	和田	敏明	25	近畿大
〃	渡部	勝美	21	砂川南高
〃	山本	広	21	静岡工高
〃	大崎	守	18	室蘭大谷高
〃	尾崎	浩幸	18	広島至誠高
捕手	新明克比古		21	室蘭大谷高
〃	桜田	達樹	19	室蘭大谷高
〃	日下	幸弘	18	広島至誠高
内野	仲本	広明	33	沖縄興南高
〃	菅原	武敏	28	室蘭大谷高
〃	社	新吾	23	瀬戸内高
〃	高木	吉夫	22	中央学院大
〃	菅野	建二	22	旭川竜谷高
〃	岡本	聡	22	池田高
〃	黒田	和彦	22	函館有斗高
〃	原田	浩正	20	東海大工高
〃	五味川勝茂		18	函館有斗高
〃	○横川	衛	26	北見工高
外野	我喜屋	優	33	沖縄興南高
〃	平	紀陽典	24	日大東北工高
〃	若林	伸一	22	山梨峡南高
〃	井戸	義隆	22	大商大
〃	佐藤	耕治	21	蘭越高
〃	小池	泰美	18	日体荏原高

新日本製鐵釜石

監督	日高	明彦	33	名電工高
投手	桑江	朝則	23	中部工高
〃	吉川	久章	20	能代商高
〃	高島	覚	20	一関商工高
〃	富樫	英則	25	大館商高
〃	吉田	一正	20	大船渡工高
〃	斉藤	範彰	31	巨理高
〃	山内	真	21	青森北高
捕手	泉沢	英治	23	釜石工高
〃	森	孝治	22	青森高
〃	大溝	一精	21	八戸高
〃	長田	裕幸	29	明星高
内野	永野	幸雄	30	花巻商高
〃	山本	雅章	22	明星高
〃	谷地	俊治	22	雫石高
〃	菊池	渡	25	一関修紅高
〃	田沢	一仁	26	弘前工高
〃	木村	則昭	21	能代商高
〃	平川	澄	26	弘前工高
外野	○早瀬	修	29	仙台育英高
〃	吉田	幸也	21	金足農高
〃	佐々木鉄夫		22	盛岡工高
〃	平間	徹	26	気仙沼高
〃	若槻	弘之	29	花巻商高
〃	加藤	哲也	25	立教大
〃	高橋	潤	20	一関商工高

専売東北

監督	佐藤	昇	36	仙台商高
投手	小野	堅	24	宮城農高
〃	広瀬	一郎	24	大阪学院大
〃	古溝	克之	21	福島商高
〃	笹島	修	21	大館商高
〃	加藤	淳	21	仙台商高
〃	及川	弘昭	19	一関商工高
〃	高田	実	19	秋田経法大付高
捕手	及川	正則	21	広田水産高
〃	伊藤	辰也	20	古川工高
内野	大内	俊治	26	仙台育英高
〃	山下	静夫	25	亜細亜大
〃	相馬	晃	24	亜細亜大
〃	佐々木政幸		22	石巻商高
〃	安斎	克則	21	福島商高
〃	藤原	順	21	秋田商高
〃	寺嶋	哲也	21	仙台育英高
〃	後藤	良	19	福島商高
外野	○佐藤	雅司	27	仙台育英高
〃	遠藤	昌宏	24	仙台商高
〃	沼澤	誠	28	角館高
〃	畠山	哲人	22	秋田商高
〃	原野	優	21	仙台育英高
〃	及川	義彦	20	一関商工高
〃	渡辺	則昌	19	福島商高
〃	星	伸一	24	仙台育英高

日本通運

監督	中村	国勝	39	鎌倉学園高
投手	高柳	出己	20	春日部工高
〃	池田	達夫	19	尼崎工高
〃	兵頭	達史	25	東洋大
〃	玉田	淳	22	宇都宮学園高
〃	野尻	浩	23	青山学院大
〃	古瀬	和人	19	印旛高
〃	清水	治美	23	川越商高
捕手	門間	聖	20	鷲宮高
〃	八木	孝治	28	静岡学園高
〃	杉本	泰彦	25	東洋大
内野	望月	伸一	32	専修大
〃	金丸	昭彦	23	日大三高
〃	神長	英一	24	法政大
〃	酒井	道広	23	流通経大
〃	柿沼	章文	26	春日部工高
〃	勝呂	博憲	21	千葉商高
〃	鵜	英二	23	専修大
〃	辻山	正明	24	智弁学園高
〃	伊藤由紀夫		34	立正大
外野	岩井	敏幸	24	日体大
〃	○岡田	吉富	27	大産大
〃	梅山	淳一	24	法政大
〃	町田	宏一	25	高崎商高
〃	牛島	浩彰	25	東海大
〃	国吉	真順	25	東海大

日立製作所

監督	内田	睦夫	38	東海大
投手	宮下	宗浩	22	専修大
〃	玉造	勝則	20	宇都宮商高
〃	太田	正克	24	国士舘大
〃	藤巻	潤一	21	東海大一高
〃	秋山	浩一	23	宇都宮商高
〃	石沢	清孝	20	黒磯高
〃	田村	耕司	18	小山高
捕手	三国	満	19	能代高
〃	谷	匡宏	23	青山学院大
〃	神長	成美	20	日立工高
〃	内田	強	22	東海大
内野	高木	利栄	18	平工高
〃	磯野	稔	20	大宮高
〃	風間	利之	26	東洋大
〃	井上洋二郎		24	亜細亜大
〃	佐々木雅文		22	立教大
〃	森脇	健介	19	東洋大姫路高
〃	国山	尊典	28	法政大
外野	神谷	健	28	東海大
〃	○遠藤	芳信	26	東海大
〃	荻原	淳	23	立教大
〃	岡安	哲彦	24	駒沢大
〃	目時	信行	25	早稲田大
〃	杉本	昌彦	24	東洋大
〃	浅見	英次	19	静清工高

本田技研

監督	河本	昭人	42	久賀高
投手	岡本	隆之	23	青山学院大
〃	古谷	正雄	20	岩倉高
〃	中屋	桂介	22	長門高
〃	原	徳吉	24	法政大
〃	藤原	博	28	吉原商高
〃	伊東	昭光	21	帝京高
捕手	黒沢	史明	23	熊谷商高
〃	金井	利行	20	PL学園高
〃	原	英二	24	法政大
〃	長井	研介	27	中央大
〃	宇田川丈昌		23	日本大
内野	広瀬	哲朗	24	駒沢大
〃	朝山	憲重	19	PL学園高
〃	佐藤	資洋	25	東海大
〃	中山	多聞	23	法政大
〃	古谷	肇	23	青山学院大
〃	山田	真二	24	福岡大
〃	鈴木	和芳	19	喜多方商高
〃	青木	一芳	22	拓大一高
〃	入内島	保	27	青山学院大
外野	荻原	俊文	23	亜細亜大
〃	佐藤	正之	26	拓大一高
〃	柳川	明弘	24	近畿大
〃	松田	裕之	25	東洋大
〃	○雨堤	浩久	30	中央大

富士重工業

監督	茂木	啓司	37	松商学園高
投手	蔭山	達巳	20	東海大相模高
〃	手島	和広	21	佐野日大高
〃	石井	亘	24	国学院大
〃	青木	和仁	20	栃木農高
〃	向田	佳元	28	早稲田大
〃	松村	敦敏	21	伊勢崎工高
〃	古尾谷雅典		23	向の岡工高
〃	斉藤	正勝	22	桐生工高
捕手	長島	勝利	23	上尾高
〃	泉	正雄	23	早稲田大
〃	大久保	博	21	東海大浦安高
〃	長崎	徳好	22	信州工高
内野	東泉	憲司	20	深谷商高
〃	笠倉	玄也	21	下館工高
〃	滝野	賢司	22	峰山高
〃	富永	武雄	27	早稲田大
〃	○鈴木	秀男	29	日本大
〃	後藤	清隆	20	土浦日大高
外野	野口	広己	30	高崎商高
〃	井上	勇人	25	早稲田大
〃	井上	肇	19	茨城東高
〃	井上	浩	19	桐生工高
〃	笠原	亘	23	松商学園高
〃	市川	司郎	23	東洋大
〃	岸	久男	26	東農大二高

日本楽器

監督	津布久欣司		33	駒沢大
投手	河井	誠	22	日大高
〃	柳原	隆之	26	亜細亜大
〃	久保真一郎		29	青山学院大
〃	直井	憤吾	19	名古屋学院大
〃	高田	博久	23	青山学院大
〃	劉	秋農	28	台湾輔仁大
〃	太田	健次	30	安積商高
捕手	佐藤	正則	26	関東学院大
〃	富永	哲司	21	浜名高
〃	高柳	信英	32	国士舘大
内野	金沢	明義	25	近畿大
〃	大野	敏彦	32	山口鴻城高
〃	中山	淳	26	立命館大
〃	山本	一之	27	青山学院大
〃	山本	秀樹	30	名城大
〃	○武居	邦生	28	国士舘大
〃	宮坂	重雄	20	中京商高
〃	内海	昌之	29	亜細亜大
外野	中村	和彦	24	駒沢大
〃	西川	公紹	26	中央大
〃	熊野	輝光	27	中央大
〃	小林	直樹	26	亜細亜大
〃	伊藤	裕二	26	中央大
〃	羽鳥	宏司	25	法政大
〃	内山	仁志	31	中央大

電電信越

監督	柳沢	敏幸	34	小諸商高
投手	高野	正美	19	大宮高
〃	鈴木	孝浩	22	帝京大
〃	松橋	敏樹	25	東農大
〃	安藤奈賀男		27	松本工高
〃	木下	恵一	19	二俣高
〃	田口	勝好	24	名古屋商大
〃	北川	茂	27	福野高
〃	鈴木	正洋	18	三重海星高
捕手	菅家	昭二	22	松商学園高
〃	常盤	圭介	23	帝京大
〃	加藤	桂二	25	専修大
内野	松崎	雅彦	25	国士舘大
〃	藤島	一利	24	中央大
〃	須田	聖	22	帝京大
〃	土居	誠人	20	新田高
〃	○西条	明博	29	専修大
〃	藤森	国彦	28	松商学園高
〃	金子	昌彦	21	糸魚川商工高
外野	渡辺	勇治	24	立正大
〃	森	芳樹	24	専修大
〃	柴山	晋一	30	専修大
〃	箱山	和宏	20	岩村田高
〃	石田三知夫		23	長野商高
〃	横井	信一	23	法政大

電電東海

監督	杉本	健一	34	愛知工大
投手	岩瀬	明彦	18	碧南工高
〃	清水	雅彦	23	智弁学園高
〃	笠井孝志登		20	中京商高
〃	中森	裕哉	18	相可高
〃	長谷川豊和		24	明治学院大
〃	鈴木	亨	23	静岡商高
捕手	大石	久夫	32	専修大
〃	中西	親志	23	相可高
〃	大川	雅則	18	三島高
内野	○湯之戸孝修		30	近畿大
〃	浅野	和弘	22	中京高
〃	辻	慶人	23	日本大
〃	伊藤	勝也	21	市岐阜商高
〃	内藤	清貴	25	中京大
〃	井上	雅晴	20	東邦高
〃	沢田	郡拡	18	滝高
〃	森田	範三	19	中京高
外野	望月	広武	22	専修大
〃	川合	隆文	22	東洋大
〃	宮本	和徳	23	近畿大
〃	古瀬	悟	25	県岐阜商高
〃	木戸	均	23	名城大
〃	堀内	勝人	20	中京高

国鉄名古屋

監督	植田	利幸	30	愛知学院大
投手	森下慶一郎		24	中津商高
〃	鈴木	豊彦	24	名古屋商大
〃	山本	眞範	20	岡崎工高
〃	田中	晃稔	28	名古屋学院大
〃	松本	佳久	25	名古屋学院大
〃	加藤	幸次	23	猿投農林高
捕手	大矢	正成	24	法政大
〃	山田	章	29	関商工高
〃	○坂野	彰宏	27	名古屋学院大
〃	森	勝彦	26	名城大付高
内野	植田	利幸	30	愛知学院大
〃	林	洋	23	東邦高
〃	小川	新二	22	中京高
〃	吉田	則昭	24	岐阜西工高
〃	本田	祐二	26	豊橋商高
〃	森本	進	25	駒沢大
〃	倉田	敦敏	21	高田高
外野	新谷	和明	22	鯖江高
〃	内藤	真如	24	名古屋電気工高
〃	石田	義一	29	名城大
〃	増田	正美	26	東海大工高
〃	榊原	憲文	25	岡崎工高
〃	高橋	哲夫	25	岡崎工高

日本IBM野洲

監督	後藤 哲男	36	江東工高	
投手	上藤 正之	24	近畿大	
〃	宮本 聡己	23	福井工大	
〃	黒木 学	21	比叡山高	
〃	川尻 豊春	21	佐世保工高	
〃	中西 孝司	24	日体大	
〃	渡辺 武史	20	瀬田工高	
〃	井戸 英裕	21	日野高	
〃	松岡 裕介	20	西京商高	
捕手	千代 義浩	20	守山高	
〃	坂上 博文	24	近畿大	
〃	坂本 署詞	23	福岡高	
内野	飯田 孝雄	23	法政大	
〃	田村 元一	22	福岡工高	
〃	坂上 正樹	23	立命館大	
〃	原 英敏	22	鳴門工高	
〃	落合 範一	23	同志社大	
〃	井上 宏樹	23	大商大堺高	
〃	岩田 忠典	24	近畿大	
〃	河野 良宏	21	鳴門工高	
外野	○村上 浩二	24	和泉工高	
〃	福本 恵司	21	智弁学園高	
〃	玉川 実二	25	立命館大	
〃	武乗 隆	24	法政大	
〃	清水 邦洋	20	明徳高	
〃	芳村 直樹	20	智弁学園高	

松下電器

監督	下田 鎮男	42	柳川高	
投手	北口 勝久	29	早稲田大	
〃	堅田外司昭	23	星稜高	
〃	石田富士男	25	日体大	
〃	原 邦彦	26	岡山東商高	
〃	塚岡 広仁	26	倉敷工高	
〃	小原 秀天	19	新宮高	
捕手	大本 二郎	27	倉敷工高	
〃	小原 尚生	27	愛知学院大	
〃	渋谷 卓也	26	同志社大	
〃	井口 義則	23	吉備高	
内野	○野尻 正博	27	近畿大	
〃	広岡 資生	24	早稲田大	
〃	林 寿郎	27	立教大	
〃	北野 敏史	23	鐘島高	
〃	楠 豊寿	25	愛知学院大	
〃	谷川 和宏	19	報徳学園高	
〃	奥代 恭一	25	関西大	
外野	島田 行雄	29	近畿大	
〃	磯本 邦彦	27	佐世保工高	
〃	小野 忠史	23	東洋大	
〃	篠崎 宏道	25	近畿大	
〃	平岡 靖彦	25	日体大	
〃	南村 典男	20	鐘島高	
〃	中西 靖信	24	PL学園高	
〃	杉本 吉永	23	関西大	

日本生命

監督	佐竹 政和	36	関西大	
投手	加藤 重雄	27	法政大	
〃	森 明彦	26	河南高	
〃	村上 明	24	新湊高	
〃	伊藤 伸幸	25	東経大	
〃	早瀬 万豊	25	関西大	
〃	田島 俊雄	18	長浜北高	
〃	土手本勝昭	22	亜細亜大	
捕手	桧垣 明	27	関西大	
〃	鍛治本明典	24	近畿大	
〃	佐竹 政和	36	関西大	
内野	赤井 淳二	32	近畿大	
〃	井尻 陽久	31	東海大	
〃	○花野 巧	30	同志社大	
〃	佐藤 清	28	早稲田大	
〃	中橋 伸幸	25	愛知学院大	
〃	山内 博史	24	大商大	
〃	大西 慶典	23	東洋大	
〃	中村 昭徳	23	専修大	
外野	西本 靖彦	27	早稲田大	
〃	森田 昇	26	近畿大	
〃	内田 敏弘	26	法政大	
〃	児玉 卓也	23	東海大	
〃	石井 清	24	東京大	
〃	高比羅規人	22	近畿大	
〃	石井 崇之	22	日体大	

新日本製鐵堺

監督	浜崎 満重	36	八幡工高	
投手	下村 恭二	25	新宮高	
〃	中川 善弘	32	和歌山工高	
〃	萩原 孝治	24	都島工高	
〃	九鬼 善信	20	堺西高	
〃	小椋 茂夫	20	邇摩高	
〃	清水 信英	27	興国高	
〃	南出 裕司	23	粉河高	
捕手	浦 誠哉	27	PL学園高	
〃	中野 敏行	25	小倉商高	
〃	樽口 正生	27	藤井寺工高	
内野	花川 達也	26	東洋大姫路高	
〃	馬場 敏史	19	柳川高	
〃	江川 正起	20	箕島高	
〃	○浦東 靖	25	新宮商高	
〃	浦東 徳明	23	新宮商高	
〃	久保 恭教	20	生野工高	
〃	井上 忠	24	専修大	
〃	石原 貢	22	柳川高	
外野	西垣 公策	23	県和歌山商高	
〃	南口 正人	24	大鉄高	
〃	山下 裕司	21	西野田工高	
〃	米倉 格二	22	成城工高	
〃	藤本 公二	30	興国高	
〃	三原 薫	23	同志社大	

神戸製鋼

監督	吉田 和幸	34	駒沢大	
投手	小林 誠	19	鳥取城北高	
〃	西山 秀喜	23	帝京第五高	
〃	矢野 和哉	21	報徳学園高	
〃	長渡 宏之	19	吉備高	
〃	赤堀 俊文	22	明治大	
〃	若生 幸三	25	立命館大	
〃	山本 正信	25	駒沢大	
〃	増水 和生	22	神戸学院大	
捕手	岡本 哲司	23	吉備高	
〃	川井 直之	21	金沢星稜高	
〃	荒井 信久	30	明治大	
〃	松尾 宏樹	19	柳川高	
内野	中川 哲	27	駒沢大	
〃	神橋 孝治	19	大分商高	
〃	宮本 要	25	洲本実高	
〃	上野 徳和	22	市神港高	
〃	川原崎 実	20	村野工高	
〃	高野 清秀	24	専修大	
〃	辻 隆之	24	立命館大	
外野	日川 雅夫	25	明治大	
〃	○小林 貢	31	姫路商高	
〃	浦本 慶啓	27	亜細亜大	
〃	西川 幸宏	20	金沢星稜高	
〃	中村 好治	30	専修大	
〃	久保田幸治	19	PL学園高	

住友金属

監督	山中 正竹	37	法政大	
投手	伊藤 彰洋	26	関西学院大	
〃	家永 裕章	19	向陽高	
〃	松本 豊	21	秋田経大付高	
〃	高橋 修二	28	高知高	
〃	吉木 直也	23	関西学院大	
〃	武田 重美	27	西南学院大	
〃	古賀 達也	26	佐賀竜谷高	
捕手	嶋田 宗彦	23	箕島高	
〃	羽佐 吉史	21	御坊商工高	
〃	西 幸二	19	新宮商高	
内野	中田 等	24	同志社大	
〃	福本 保彦	20	高知高	
〃	丸山 耕司	22	智弁学園高	
〃	前田 寿啓	22	東海大工高	
〃	佐藤 雄樹	25	早稲田大	
〃	○四田 勝康	28	浪商高	
〃	田中 祐司	27	鳴門高	
〃	松隈 憲治	30	柳川高	
外野	筒井 大助	27	関西学院大	
〃	小杉 大三	24	和歌山工高	
〃	児嶋 保成	21	箕島高	
〃	黒石 厚	26	法政大	
〃	栗山 和行	25	明治大	
〃	松原 俊郎	27	同志社大	
〃	三好 一幸	32	東海大相模高	

電電中国

監督	福田 正博	37	駒沢大	
投手	田井 弘志	27	立命館大	
〃	沖野 和男	26	近畿大	
〃	石川 晃	22	下松工高	
〃	広田 浩章	20	萩商高	
〃	宇根 洋介	34	近畿大	
捕手	佐藤 達也	23	福岡大	
〃	波多野 智	24	萩商高	
〃	高山 雅彦	27	亜細亜大	
〃	福田 正博	37	駒沢大	
内野	下岡 秀荘	24	東洋大	
〃	岩山 節雄	27	駒沢大	
〃	樽岡 靖	26	専修大	
〃	大森 稔央	24	立正大	
〃	徳永 哲治	23	立命館大	
〃	○登 靖則	27	東洋大	
〃	岡田 義則	26	亜細亜大	
〃	聖川 良司	28	亜細亜大	
〃	篠原 勝	23	東洋大	
外野	中村 武	29	浜田商高	
〃	津江本 隆	23	法政大	
〃	小川 達利	20	至誠高	
〃	河井 信護	27	国士舘大	
〃	川崎 勝之	26	笠岡商高	
〃	増永 芳紀	31	東洋大	

新日本製鐵光

監督	木下 英己	40	下関商高	
投手	田中 久嗣	23	札幌大	
〃	山本憤一郎	24	防府商高	
〃	冨川 昌彦	21	鳥取城北高	
〃	野下 博文	26	鹿児島商高	
〃	一倉 輝男	21	宇部工高	
〃	児玉 克雅	32	浜田高	
捕手	東方 和之	21	中津工高	
〃	安達 明浩	23	境高	
〃	梅原 朝明	23	専修大	
内野	高安 英義	20	銚子水産高	
〃	川崎 秀二	20	宮崎日大高	
〃	内布 昭博	26	東海大二高	
〃	萱原 文男	32	川越工高	
〃	○平山 茂雄	28	南筑高	
〃	住吉 一夫	25	岡山東商高	
〃	石貫 伸二	28	南筑高	
〃	桑原 俊貞	33	萩高	
外野	竹内 武美	22	鳥取城北高	
〃	石田 卓己	26	宇部工高	
〃	滝口 広明	20	国東高	
〃	村上 幸治	20	八幡大高	
〃	岩崎 悦司	29	熊毛北高	
〃	福本 敏郎	27	佐世保工高	

電電四国

監督	福谷 祥	38	中央大	
投手	滝下 茂信	26	穴吹高	
〃	森 圭介	25	東洋大	
〃	石丸 裕志	24	駒沢大	
〃	神田 敦	23	日体大	
〃	土田 博健	21	帝京第五高	
〃	加藤 浩嗣	19	新居浜工高	
捕手	藤本 英夫	28	大島高	
〃	夕部 孝豊	22	大方商高	
〃	武田 和高	20	明徳義塾高	
内野	鎌土 隆志	28	高知商高	
〃	○板東 照雄	27	立正大	
〃	三倉 一男	25	駒沢大	
〃	緒賀 克郎	25	東洋大	
〃	武田 正人	23	駒沢大	
〃	三好 利幸	21	北条高	
〃	小谷 雄司	19	明徳義塾高	
〃	西園寺師仁	19	八幡浜高	
外野	和田 恵充	30	松山商大	
〃	石元 浩三	26	新田高	
〃	河野 正人	25	愛知学院大	
〃	池田 保典	22	宇和島東高	
〃	吉田 衡	19	池田高	

四国銀行

監督	西村 章	33	法政大	
投手	山本 智久	27	池田高	
〃	宮本 典幸	26	帝京大	
〃	橋谷 正人	23	大商大	
捕手	○沖田 雅夫	29	高知商高	
〃	渡辺 毅	25	専修大	
〃	宮本 章彦	23	東経大	
〃	城下 照男	30	専修大	
内野	森本 誠	29	高知商高	
〃	乃一 宮	29	関西大	
〃	薬師神一成	26	京産大	
〃	森 正隆	25	明治大	
〃	伊名 正道	23	東洋大	
〃	森田 洋生	22	明治大	
外野	刈谷 精一	35	高知商高	
〃	浦林 堅	28	愛知学院大	
〃	阿部 稔	26	大商大	
〃	西 弘顕	24	明治大	
〃	小橋 基善	25	駒沢大	
〃	井上 幹也	22	愛知学院大	

新日本製鐵八幡

監督	瀬藤 宣彦	40	小倉高	
投手	丸谷富美幸	25	日南振徳商高	
〃	武田 克也	25	多度津工高	
〃	北村憤一郎	21	八代第一高	
〃	瀬山 和久	21	種子島実高	
〃	石田 大介	23	筑波大	
〃	田村 勝彦	20	八頭高	
〃	池田 宣人	25	長崎北高	
捕手	前川 公克	21	八重山商工高	
〃	福本 高典	24	宇部鴻城高	
〃	吉岡 正法	22	飯塚高	
内野	山前 伸二	24	直方学園高	
〃	山崎 典政	26	都城農高	
〃	平 満男	27	長崎商高	
〃	○本村 正一	27	南筑高	
〃	佐野 高明	19	大牟田高	
〃	石川 尚	20	東海大二高	
〃	池田 幸治	20	熊本工大高	
〃	中谷 勝則	20	宇部工高	
外野	野田 光博	22	熊本第一工高	
〃	丸谷富美夫	19	日南高	
〃	沼田 清和	25	東海大二高	
〃	加藤 雄一	27	鎌倉学園高	
〃	山部 克	26	久留米大	

三菱重工長崎

監督	宮脇 茂	35	明治大	
投手	古川 吉朗	27	長崎商高	
〃	川南 拓雄	19	中種子高	
〃	前田 弘美	29	PL学園高	
〃	肥喜里祐二	21	鹿町工高	
〃	牧瀬 寅男	22	中種子高	
〃	山坂 正幸	31	三池工高	
〃	宮本 義徳	19	大村工高	
捕手	都甲 英雄	28	久留米大	
〃	布村 正樹	22	久賀高	
〃	松本 勝己	21	九産大付九州高	
内野	本西 厚博	22	瓊浦高	
〃	林田 学	23	佐賀工高	
〃	鈴木憤一郎	26	明治大	
〃	中俣 謙二	21	国分高	
〃	古屋 隆文	32	大商大	
〃	福島 龍平	30	関西大	
〃	境 健男	20	鎮西高	
〃	渡辺 竜二	21	鎮西高	
外野	高村 正利	21	長崎日大高	
〃	井上 浩	22	八代第一高	
〃	山田 清一	25	日田林工高	
〃	北原 裕幸	24	小城高	
〃	○林 修治	28	佐世保工高	
〃	伊藤 昭彦	22	長崎日大高	

第12回大会

1985年（昭和60年）10月20日▶10月28日　大阪球場

優勝＝本田技研（初優勝）

「投」の本田技研、初V

大会通算本塁打51本、安打462本がいずれも大会新記録になるなど、前回に続き「打高投低」の傾向が色濃く表れた。全般的に投手が低調の中で、優勝戦に進んだ本田技研、日本楽器はともに軸になる投手を擁し、投打にバランスがとれていた。

本田技研の伊東は、それまでの力に頼る投球から変化球を駆使した"技の投球"に変身。課題だったスタミナ不足も解消、4試合を1人で投げ抜き、防御率0.79、与四死球4と安定した制球をみせた。日本楽器の高田は力のあるボールをコーナーにうまく投げ分け、的を絞らせない投球がさえた。

打者で目立ったのは、本田技研の広瀬、荻原、山越、日本楽器の佐藤ら。中でも3年目の広瀬は16打数7安打4打点、2本塁打を記録。攻守に大活躍し、出場4回目で初優勝を飾る原動力となった。

大会を通じて気になったのは攻めのまずさ。前回を上回る安打数を放ちながら、得点は208で、前回の230点を大きく下回った。走者を置いての攻めや、走塁のまずさで得点機を逸するケースが目立ち、攻撃面に課題を残した。

〔優勝戦〕日本楽器－本田技研　二回表、本田技研無死一、三塁、山越が3ランを放つ。（捕手・佐藤）

大会審判　▷**委員長**＝小西正一▷**副委員長**＝米谷道雄、三輪武、山川脩司▷**委員**＝中西明、三宅享次、戸田直佑、本郷良直、広沢亘治、本嶋一晃、清水正輝、原田謹爾、上杉正、岸野金治、大橋慶三、小林勉、石渡義、桃田晴彦、中西則夫、河島秀喜、桂等、吉田龍男、鹿多証道、生越芳明、東優孝、辻喜正、巽正一、岡本良一、美馬洋、中川雅夫、宮本明、森武雄、土井池憲治、杉中豊、津田浩嗣、松山守、鶴田泰夫、南垣勇、布施勝久、三橋隆之

▽10月20日

第1試合＝1回戦(午前10時7分開始)

大分鉄道管理局	010	000	0	1
日本楽器	032	222	X	11

▶審判(球審)大橋(塁審)上杉、東、美馬

【大分鉄道局】		打	安	点	振	球
⑧9	長野	3	0	0	2	0
⑨	吉野高	3	0	0	1	0
8	屋田	0	0	0	0	0
⑥	前谷	3	0	0	1	0
⑦	甲斐	3	1	0	0	0
⑤	荻	2	1	1	0	1
③	吉野正	1	0	0	0	1
H	小田	1	0	0	1	0
④	西島	2	0	0	1	0
H	井上	1	0	0	0	0
②	工藤	1	0	0	0	1
①	足立	0	0	0	0	0
1	栗田	1	0	0	1	0
犠併残	1 1 3	21	2	1	7	3

【日本楽器】		打	安	点	振	球
④	山本秀	4	3	1	0	1
②	佐藤	5	2	3	0	0
⑧	内山	3	1	2	0	0
③	武居	3	2	0	1	1
⑥	大野	3	2	0	0	1
6	小阪田	0	0	0	0	0
⑦9	中村	2	2	1	0	1
⑤	宮坂	3	1	2	0	0
⑨	後藤	3	1	1	0	0
R	山本一	0	0	0	0	0
7	西川	1	0	0	0	0
①	高田	3	3	1	0	0
犠併残	4 0 9	30	17	11	1	4

	回	安	振	球	責
足立	3⅓	11	0	0	7
栗田	2⅔	6	1	4	4
高田	7	2	7	3	1

▷本塁打＝荻1号(高田)内山1号(足立)佐藤1号②(足立)▷三塁打＝高田▷二塁打＝宮坂▷犠打＝大1(足立)日4(内山、中村、宮坂、高田)▷盗塁＝日2(武居、山本一)▷失策＝大1(荻)▷試合時間＝2時間4分

第2試合＝1回戦(午後0時40分開始)

NTT北海道	002	000	020	4
松下電器	010	204	00X	7

▶審判(球審)三宅(塁審)津田、河島、小林

【NTT北海道】		打	安	点	振	球
⑦	井城	5	2	1	0	0
④	谷中田	4	2	0	0	0
⑧	小林彰	4	1	0	0	1
⑨	小林満	5	2	2	0	0
③	日比野	5	1	0	0	0
⑥	寺田	2	0	0	0	1
②	池本	3	2	0	0	1
⑤	春木	3	0	0	0	1
R5	砂子	0	0	0	0	0
①	島谷	2	0	0	2	0
H	石黒	1	0	0	0	0
1	山本	0	0	0	0	0
1	小林伸	0	0	0	0	0
H	川島	1	0	1	0	0
1	黒田	0	0	0	0	0
犠併残	2 0 10	35	10	4	2	4

【松下電器】		打	安	点	振	球
⑧	平岡	4	2	1	1	1
④	太田	2	0	0	0	0
H4	楠	2	1	0	0	0
⑤	林	5	1	1	0	0
⑨	島田	4	1	0	2	0
③	北野	4	2	2	0	0
⑦	篠崎	3	1	0	0	1
⑥	広岡	3	2	0	0	1
②	大本	2	1	0	0	0
①	原	4	2	2	1	0
犠併残	3 1 8	33	13	6	4	3

	回	安	振	球	責
島谷	5	8	1	2	2
山本	⅓	2	0	1	3
小林伸	1⅔	3	2	0	1
黒田	1	0	1	0	0
原	9	10	2	4	2

▷二塁打＝小林満▷犠打＝N2(谷中田、寺田)松3(太田、大本2)▷盗塁＝松2(平岡、島田)▷失策＝N2(小林満、池本)松1(楠)▷ボーク＝山本▷試合時間＝2時間30分

第3試合＝1回戦(午後3時41分開始)

神戸製鋼	104	010	201	9
NTT東海	012	000	311	8

▶審判(球審)中西明(塁審)三橋、生越、桃田(外審)小林、河島

【神戸製鋼】		打	安	点	振	球
⑥	川原崎	5	2	0	1	0
④	中川	4	2	0	1	0
⑤	中村	5	2	2	0	0
⑨	高野	4	3	2	0	1
⑦	丹波谷	5	3	3	0	0
⑧	日川	4	1	1	0	0
③	浦本	5	1	1	1	0
②	岡本	3	1	0	0	1
①	矢野	4	0	0	0	0
犠併残	2 2 7	39	15	9	3	2

【NTT東海】		打	安	点	振	球
⑤	辻	3	1	0	0	2
⑥	内藤	4	1	0	0	0
④	湯之戸	3	2	1	1	2
⑦	森田	5	2	4	0	0
②	中西	4	2	1	0	1
⑧	木戸	4	1	0	1	0
H	大川	1	1	1	0	0
R	沢田	0	0	0	0	0
③	小松	4	1	0	1	1
⑨	望月	3	1	0	0	0
H	井上	1	0	0	1	0
1	所	0	0	0	0	0
①	鈴木	2	0	0	1	0
1	長谷川	0	0	0	0	0
1	清水	1	1	0	0	0
H	大林	1	0	0	0	0
R9	宮本	0	0	0	0	0
犠併残	1 0 8	36	13	7	5	6

	回	安	振	球	責
矢野	9	13	5	6	7
鈴木	4⅓	8	2	1	6
長谷川	⅔	1	0	0	0
清水	3	4	1	1	1
所	1	2	0	0	1

▷本塁打＝中西1号(矢野)丹波谷1号②(鈴木)森田1号②(矢野)▷三塁打＝高野▷二塁打＝中川2、中村2、高野、丹波谷、清水、湯之戸、日川▷犠打＝神2(中川、日川)N1(内藤)▷盗塁＝神1(川原崎)N1(小松)▷失策＝神1(川原崎)N2(内藤、中西)▷試合時間＝2時間53分

▽10月21日

第1試合＝1回戦(午前8時58分開始)

日本石油	210	032	000	8
NTT四国	001	000	200	3

▶審判(球審)吉田(塁審)松山、辻、原田

【日本石油】		打	安	点	振	球
⑦	玉川	5	2	0	0	0
④	吉田	2	1	1	0	2
③	田島	3	0	1	1	1
⑨	荒井	4	2	1	1	1
⑤	石川	3	1	1	1	1
⑧	曽根原	5	1	3	1	0
②	対馬	4	2	0	1	0
⑥	伊藤	3	0	0	0	0
①	岡田	2	1	1	1	0
H	大久保	1	1	0	0	0
R	奥原	0	0	0	0	0
1	高橋	0	0	0	0	0
犠併残	5 2 7	32	11	8	6	5

【NTT四国】		打	安	点	振	球
④	小谷	4	2	0	0	0
⑥	竹島	1	0	0	0	0
6	緒賀	3	1	0	1	0
⑨	板東	3	1	0	0	1
⑤	武田正	4	1	0	0	0
③	三好	4	0	0	1	0
⑦	和田	4	2	1	0	0
⑧	石元	4	2	2	1	0
②	武田和	1	0	0	0	0
H	加藤	1	0	0	1	0
1	土田	0	0	0	0	0
H	吉田	1	0	0	0	0
1	西川	0	0	0	0	0
①	滝下	1	1	0	0	0
2	夕部	2	0	0	1	0
犠併残	0 2 4	33	10	3	5	1

	回	安	振	球	責
岡田	7	10	4	0	3
高橋	2	0	1	1	0
滝下	5	6	3	5	6
土田	2	4	1	0	0
西川	2	1	2	0	0

▷本塁打＝石元1号(岡田)▷三塁打＝緒賀▷二塁打＝荒井、玉川、曽根原、吉田(日)武田正、石元▷犠打＝日5(吉田、田島、石川、伊藤、岡田)▷盗塁＝日1(奥原)▷失策＝N1(緒賀)▷試合時間＝2時間38分

第2試合＝1回戦(午後0時8分開始)

四国銀行	300	000	000	3
本田技研鈴鹿	310	000	10X	5

▶審判(球審)三橋(塁審)巽、岡本、鹿多

【四国銀行】		打	安	点	振	球
⑥	谷岡	4	0	0	1	0
H	伊名	1	0	0	0	0
④	森本	2	0	0	0	1
H4	森田	1	0	0	0	0
⑧	井上	4	1	0	0	0
⑤	薬師神	4	2	0	0	0
⑦	阿部	3	2	3	0	1
③	乃一	4	2	0	0	0
⑨	西	3	0	0	0	1
②	宮本章	2	0	0	0	1
H	沖田	1	0	0	1	0
①	浜田	1	0	0	0	0
1	橋谷	1	0	0	1	0
H	小橋	1	0	0	0	0
犠併残	1 1 7	32	7	3	3	4

【本田鈴鹿】		打	安	点	振	球
⑥	江原	4	1	0	1	0
⑧	全並	3	1	0	0	2
⑤	岡崎	3	0	0	1	0
③	趙	3	3	2	0	1
⑦	大久保	3	2	2	0	1
⑨	手島	4	0	0	0	0
④	山中	4	1	1	2	0
②	松田	3	0	0	0	1
①	塩崎	4	2	0	0	0
犠併残	2 1 9	31	10	5	4	5

	回	安	振	球	責
浜田	2	6	1	3	4
橋谷	6	4	3	2	1
塩崎	9	7	3	4	3

▷本塁打＝阿部1号③(塩崎)趙1号(橋谷)▷犠打＝四1(橋谷)本2(江原、岡崎)▷盗塁＝本4(江原、全並2、大久保)▷失策＝四1(谷岡)▷暴投＝浜田▷試合時間＝2時間33分

第3試合＝1回戦(午後3時11分開始)

日本生命	202	000	010	5
日本たばこ東北	000	000	000	0

▶審判(球審)広沢(塁審)森、中川、土井池(外審)河島、桃田

【日本生命】		打	安	点	振	球
④	赤井	5	2	0	0	0
⑧	森田	4	0	0	1	0
⑤	花野	4	2	0	0	0
⑨	内田	2	2	2	0	1
⑦	中橋	4	2	2	1	0
③	佐藤	4	1	0	0	0
②	佐竹	4	0	0	0	0
⑥	井尻	4	1	0	0	0
①	早瀬	4	2	0	1	0
犠併残	2 1 6	35	12	4	3	1

【日本たばこ】		打	安	点	振	球
⑧	畠山	3	0	0	1	0
H	後藤	1	1	0	0	0
⑨	佐藤	3	0	0	0	0
H	遠藤	1	0	0	0	0
⑦	原野	4	1	0	1	0
③	及川義	3	0	0	1	0
H	伊藤	1	0	0	0	0
⑤	寺嶋	3	1	0	0	0
⑥	菅原	2	0	0	0	0
H	渡辺	1	0	0	1	0
6	藤原	0	0	0	0	0
②	及川正	3	0	0	0	0
①	広瀬	0	0	0	0	0
1	小野	2	0	0	0	0
H	星	1	0	0	0	0
1	加藤	0	0	0	0	0
④	山下	2	1	0	0	0
H	大内	1	1	0	0	0
R	相馬	0	0	0	0	0
犠併残	0 2 4	31	5	0	4	0

	回	安	振	球	責
早瀬	9	5	4	0	0
広瀬	2⅔	6	1	0	3
小野	6	6	1	1	1
加藤	1	0	1	0	0

▷二塁打＝井尻、内田、原野▷犠打＝日2(森田、内田)▷盗塁＝日3(赤井2、内田)▷失策＝た2(寺嶋2)▷試合時間＝2時間5分

第4試合＝1回戦(午後5時49分開始)

本田技研熊本	000	000	001	1
河合楽器	000	000	013	4

▶審判(球審)小林(塁審)美馬、杉中、宮木(外審)河島、桃田

【本田熊本】		打	安	点	振	球
⑧	内村	4	3	0	1	0
③	原野	3	2	0	0	0
⑦	宮本	3	2	0	0	0
⑨	安藤	3	0	1	0	0
⑤	今川	4	2	0	1	0
④	徳留	3	1	0	1	0
⑥	坂本	4	0	0	0	0
②	藤田	3	0	0	1	0
①	山田	3	0	0	1	0
犠併残	4 0 6	30	10	1	5	0

【河合楽器】		打	安	点	振	球
⑧	鈴木徳	3	0	0	0	0
8	牛尾	1	1	0	0	0
⑥	黒田	3	0	0	0	0
③	村瀬	4	1	1	1	0
④	林	4	1	0	0	0
⑤	鈴木智	3	1	0	0	0
5	山本	1	0	0	0	0
⑨	樽井	1	1	0	0	1
9	並木	0	0	0	0	1
⑦	西原	2	0	0	0	2
②	安間	4	1	0	2	0
①	松田	3	0	0	1	0
H	大須賀	1	1	3	0	0
犠併残	2 1 6	30	7	4	4	4

	回	安	振	球	責
山田	8⅔	7	4	4	4
松田	9	10	5	0	1

▷本塁打＝大須賀1号③(山田)▷二塁打＝原野2、村瀬▷犠打＝本4(原野、宮本、安藤、徳留)河2(黒田、樽井)▷盗塁＝本1(原野)河1(林)▷失策＝本1(坂本)▷試合時間＝2時間26分

今、語る思い出

20歳の ダイヤモンド旗

本田技研＝優勝
伊東 昭光投手
(現ヤクルト、31歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

ロス五輪(1984年)で優勝し、プロ入りするつもりだったので、社会人時代最後の大会でした。チームはダークホース的な存在。内野に広瀬さん(現日本ハム)がいて投打のバランスがとれていました。みんなで優勝しよう、と言って東京を出発したんです。普段通りの野球をすれば優勝できるとは思っていましたが、4連投するとは思ってもみませんでした。

当時はまだ連投も当たり前でしたし、苦にならなかった。社会人に入って最初はまったく通用しなかったのですが、3年目ぐらいから試合に出るのが楽しくなりました。

準決勝の東芝戦(2−0)が一番苦しかった。でもミーティングもやったことがないチームでしたが、みんなの心がひとつになっていた。だからチームのためにも自分のためにもいいピッチングができてうれしかった。今思うと社会人のレベルが高かった。プロに入団した時、金属バットがなくて楽だと思いました。

第12回大会 大会記録

〔2回戦〕三菱重工神戸－河合楽器　十回表、河合楽器一死三塁、鈴木智が左越えに決勝2ランを放つ。三塁走者は林。

▽10月22日

第1試合＝1回戦(午前8時57分開始)

東　　芝	100	700	002	10
日本鋼管福山	100	100	200	4

▶審判(球審)清水(塁審)三橋、桂、鶴田

【東　芝】	打	安	点	振	球
⑥ 新　木	5	3	0	0	1
④ 宮　崎	6	3	2	3	0
③ 武　智	5	1	0	1	0
⑦ 福　本	5	2	1	1	0
R7 藤　原	0	0	0	0	0
⑧9 梁　原	4	1	1	0	1
⑨ 鈴　木	3	1	0	1	1
8 田　辺	1	0	0	0	0
⑤ 丹　波	4	0	0	1	0
H5 片　岡	1	1	2	0	0
② 安　斉	5	2	3	1	0
① 近　藤	4	1	0	3	0
1 菊　池	1	1	0	0	0
犠併残 0 2 10	44	16	9	11	3

【鋼管福山】	打	安	点	振	球
⑦ 木　村	5	2	0	0	0
④ 村　上	4	1	2	0	0
③ 佐名木	5	2	0	0	0
⑨ 岩　野	4	2	1	0	1
⑤ 渡　部	5	2	0	0	0
⑥ 小　川	5	0	0	0	0
⑧ 松　浦	3	2	0	0	1
② 白　石	1	0	0	0	0
2 古　谷	3	1	1	1	0
① 田　代	1	1	0	0	0
1 高　橋	0	0	0	0	0
1 浜　口	2	1	0	0	0
H 古　川	1	0	0	1	0
1 平　田	0	0	0	0	0
1 塩　山	0	0	0	0	0
犠併残 1 0 11	39	14	4	2	2

	回	安	振	球	責
近　藤	7	12	0	2	4
菊　池	2	2	2	0	0
田　代	3⅔	9	4	0	5
高　橋	⅔	2	0	0	0
浜　口	5	2	6	1	0
平　田	⅔	3	0	2	2
塩　山	⅓	0	1	0	0

▷本塁打＝宮崎1号(田代)福本1号(田代)安斉1号③(田代)村上1号②(近藤)片岡1号②(平田)▷二塁打＝田代、近藤▷犠打＝鋼1(村上)▷盗塁＝東1(新木)鋼2(村上、松浦)▷失策＝東1(新木)鋼2(村上、岩野)▷試合時間＝2時間54分

第2試合＝2回戦(午後0時23分開始)

住友金属	010	100	002	4
日本楽器	140	001	10X	7

▶審判(球審)本郷(塁審)小林、中西則、南垣

【住友金属】	打	安	点	振	球
⑤ 松　隈	4	1	0	0	0
④ 中　田	2	0	0	0	0
H 川　畑	0	0	0	0	1
1 武　田	0	0	0	0	0
⑨ 筒　井	4	0	0	2	0
⑦ 栗　山	4	2	0	1	0
③ 佐　藤	4	2	1	0	0
⑧ 三　好	3	2	2	0	0
⑥ 田　中	3	1	1	0	0
② 西　岡	4	0	0	0	0
① 高　橋	1	0	0	0	0
H 児　島	1	0	0	0	0
1 松　本	0	0	0	0	0
H 松　原	1	1	0	0	0
R4 福　本	0	0	0	0	0
犠併残 3 2 4	31	9	4	3	1

【日本楽器】	打	安	点	振	球
④ 山本秀	4	3	2	0	0
⑨ 後　藤	4	2	1	0	0
9 伊　藤	0	0	0	0	0
⑧ 内　山	4	3	2	0	0
③ 武　居	4	0	0	0	0
⑦ 中　村	4	1	0	0	0
⑥ 大　野	4	1	0	1	0
② 佐　藤	4	2	2	0	0
⑤ 宮　坂	4	3	0	0	0
① 劉	3	0	0	0	0
犠併残 1 1 5	35	15	7	1	0

	回	安	振	球	責
高　橋	4	12	0	0	5
松　本	3	2	1	0	2
武　田	1	1	0	0	0
劉	9	9	3	1	4

▷本塁打＝佐藤(住)1号(劉)三好1号(劉)佐藤(日)2号(松本)内山2号(松本)▷三塁打＝山本秀▷二塁打＝栗山、佐藤(住)▷犠打＝住3(中田、三好、田中)日1(劉)▷盗塁＝住1(松隈)日1(山本秀)▷試合時間＝2時間6分

第3試合＝2回戦(午後3時2分開始)

松下電器	202	311	001	10
三菱自動車川崎	200	000	000	2

▶審判(球審)三宅(塁審)大橋、東、河島(外審)中西則、南垣

【松下電器】	打	安	点	振	球
⑧ 平　岡	4	2	0	0	0
H 中　西	1	1	0	0	0
9 南　村	0	0	0	0	0
④ 太　田	3	1	0	0	1
H4 楠	2	0	0	1	0
⑤ 林	5	2	3	0	0
⑨8 島　田	4	3	2	0	1
③ 北　野	2	1	0	0	3
⑦ 篠　崎	1	0	0	1	0
H 奥　代	0	0	1	0	0
7 杉　本	3	0	0	0	0
⑥ 広　岡	5	3	3	0	0
② 大　本	4	4	1	0	1
① 原	1	0	0	0	0
H 渋　谷	0	0	0	0	1
1 北　口	2	0	0	0	0
1 渡　辺	1	0	0	1	0
犠併残 2 1 10	38	17	10	3	7

【三菱川崎】	打	安	点	振	球
⑨7 金　子	3	1	0	0	1
④ 松　野	3	1	0	0	0
⑤ 清　水	4	1	1	0	0
③ 平　野	4	3	1	0	0
⑥ 大須賀	4	1	0	0	0
⑦ 米　田	3	1	0	0	0
8 小　川	1	0	0	0	0
⑧9 角	3	0	0	1	0
H 四　條	1	0	0	0	0
② 吉　田	2	0	0	0	1
2 安　斉	1	0	0	1	0
① 小　野	1	0	0	0	0
1 武　藤	0	0	0	0	0
1 上　野	0	0	0	0	0
H 鶴　見	1	0	0	0	0
1 安　保	0	0	0	0	0
犠併残 2 1 6	31	8	2	2	2

	回	安	振	球	責
原	3	6	1	1	2
北　口	3	1	0	1	0
渡　辺	3	1	1	0	0
小　野	3⅔	5	1	4	5
武　藤	2⅔	7	0	1	4
上　野	2	2	1	2	0
安　保	2	3	1	0	1

▷本塁打＝島田1号②(小野)林1号③(武藤)広岡1号(武藤)大本1号(安保)▷二塁打＝清水、大本2、金子、広岡▷犠打＝松2(平岡、奥代)三2(松野、武藤)▷盗塁＝松1(平岡)▷試合時間＝2時間26分

▽10月23日

第1試合＝2回戦(午前8時59分開始)

神戸製鋼	400	003	030	10
川崎製鉄水島	000	000	100	1

▶審判(球審)大橋(塁審)美馬、岡本、吉田

【神戸製鋼】	打	安	点	振	球
⑥ 川原崎	5	1	1	0	0
④ 中　川	5	1	0	1	0
⑤ 中　村	4	2	0	0	1
⑨ 高　野	4	2	3	1	1
⑦ 丹波谷	4	1	1	1	0
⑧ 日　川	4	2	3	0	0
③ 浦　本	4	1	0	0	0
② 岡　本	4	2	2	0	0
① 長　渡	3	0	0	0	0
犠併残 2 1 4	37	12	10	3	2

【川鉄水島】	打	安	点	振	球
⑧ 川　越	1	0	0	0	2
1 大　迫	0	0	0	0	0
H 楮　原	1	0	0	0	0
1 岸　本	0	0	0	0	0
1 西　村	0	0	0	0	0
④ 神　土	2	1	0	0	0
H4 乍	1	0	0	0	0
⑥ 浦　名	3	0	0	0	1
② 木　口	3	0	0	1	1
⑦ 松　本	4	0	0	1	0
⑨ 西　上	2	1	1	0	1
H 松　下	1	0	0	0	0
③ 本　池	4	1	0	0	0
⑤ 清　重	2	0	0	0	1
H 清　家	1	0	0	1	0
① 山　本	1	0	0	1	0
8 川　村	1	0	0	0	0
犠併残 2 0 7	27	3	1	4	6

	回	安	振	球	責
長　渡	9	3	4	6	1
山　本	6	7	0	2	7
大　迫	1	1	2	0	0
岸　本	⅓	2	0	0	2
西　村	1⅔	2	1	0	1

▷本塁打＝高野1号③(山本)日川1号(山本)西上1号(長渡)丹波谷2号(岸本)▷二塁打＝日川、中村、本池、浦本▷犠打＝神2(丹波谷、長渡)川2(神土、山本)▷盗塁＝神2(川原崎、浦本)▷失策＝川1(神土)▷試合時間＝2時間18分

第2試合＝2回戦(午前11時47分開始)

日本石油	010	200	020	5
NTT東北	000	000	000	0

▶審判(球審)布施(塁審)森、生越、鹿多

【日本石油】	打	安	点	振	球
⑦ 玉　川	5	0	0	0	0
④ 吉　田	5	0	0	1	0
③ 田　島	4	1	0	1	0
⑨ 荒　井	3	0	0	0	1
⑤ 石　川	3	1	0	0	0
⑧ 曽根原	3	0	0	1	1
② 対　馬	4	3	4	0	0
⑥ 伊　藤	4	1	0	0	0
① 高　橋	4	1	0	0	0
犠併残 1 0 6	35	7	4	3	2

【NTT東北】	打	安	点	振	球
⑨ 藤　原	4	1	0	2	0
⑦ 高　松	4	1	0	2	0
⑧ 小　野	4	1	0	0	0
② 菊　田	3	2	0	1	1
R 戸　羽	0	0	0	0	0
④ 福　地	4	0	0	1	0
③ 塩　谷	4	1	0	0	0
⑤ 伊　藤	3	0	0	1	0
H 多　田	1	0	0	0	0
⑥ 清　家	1	0	0	1	0
6 大　竹	2	0	0	0	0
① 斉藤孝	2	0	0	2	0
H 板　井	1	0	0	1	0
1 添　田	0	0	0	0	0
犠併残 0 0 7	33	6	0	11	1

	回	安	振	球	責
高　橋	9	6	11	1	0
斉藤孝	8	7	3	2	4
添　田	1	0	0	0	0

▷本塁打＝対馬1号②(斉藤孝)▷二塁打＝対馬、田島▷犠打＝日1(石川)▷盗塁＝日1(曽根原)▷失策＝N3(清家2、大竹)▷試合時間＝2時間10分

第3試合＝2回戦(午後2時36分開始)

本田技研鈴鹿	012	002	010	6
川崎製鉄神戸	001	210	30X	7

▶審判(球審)木嶋(塁審)巽、中川、戸田(外審)鹿多、生越

【本田鈴鹿】	打	安	点	振	球
⑥ 江　原	4	2	1	0	1
⑧ 全　並	3	1	1	2	0
⑦ 大久保	5	0	0	0	0
③ 趙	3	0	0	1	1
R 大　西	0	0	0	0	0
3 黒　田	1	0	0	0	0
⑤ 岡　崎	4	3	3	0	1
⑨ 右　京	4	1	1	2	0
H 今　山	1	0	0	1	0
④ 山　中	5	2	0	1	0
② 松　田	2	0	0	0	1
① 樋　口	2	1	0	0	0
H 手　嶋	0	0	0	0	1
1 塩　崎	0	0	0	0	0
H 北　畑	1	1	0	0	0
1 許	0	0	0	0	0
犠併残 3 0 10	35	11	6	7	5

【川鉄神戸】	打	安	点	振	球
⑨ 筑　瀬	5	2	0	0	0
⑧ 浅　田	0	0	0	0	0
6 嶌	4	2	0	1	1
③ 中　村	3	0	0	2	2
⑦ 石　津	3	2	2	0	1
④ 上　村	4	0	0	0	0
⑤ 浜　名	2	1	0	0	0
1 西　川	1	0	0	1	0
H 福　本	1	1	2	0	0
1 岡　本	0	0	0	0	0
⑥ 菊　地	0	0	0	0	0
8 山　中	4	2	0	0	0
② 以　倉	3	2	1	1	0
① 藪	1	0	0	0	0
H5 中　谷	3	1	2	1	0
犠併残 2 2 9	34	13	7	6	4

	回	安	振	球	責
樋　口	5	9	2	3	4
塩　崎	2	4	2	1	3
許	1	0	2	0	0
藪	4	6	0	3	3
西　川	3	3	5	2	2
岡　本	2	2	2	0	1

▷本塁打＝岡崎1号(藪)2号(西川)中谷1号②(樋口)石津1号(樋口)▷二塁打＝全並、筑瀬、北畑▷犠打＝本3(全並2、松田)川2(石津、以倉)▷盗塁＝本1(山中)川2(嶌2)▷失策＝川2(中村、中谷)▷試合時間＝2時間58分

▽10月24日

第1試合＝2回戦(午前9時開始)

日本生命	100	001	000	2
本田技研	030	000	02X	5

▶審判(球審)上杉(塁審)中西明、宮木、原田

【日本生命】	打	安	点	振	球
④ 赤　井	3	1	0	1	1
⑧ 森　田	3	1	0	0	0
⑤ 花　野	4	2	2	0	0
⑨ 内　田	2	1	0	1	1
⑦ 中　橋	4	0	0	1	0
③ 佐　藤	4	0	0	0	0
② 佐　竹	4	0	0	1	0
⑥ 井　尻	4	2	0	0	0
① 早　瀬	2	0	0	0	0
犠併残 3 1 6	30	7	2	4	2

【本田技研】	打	安	点	振	球
⑧ 荻　原	4	1	0	0	0
⑤ 佐藤資	4	1	0	0	0
⑥ 広　瀬	4	0	0	0	0
③ 入内島	4	1	0	0	0
⑦ 雨　堤	2	0	0	0	2
④ 山　越	4	2	0	0	0
⑨ 柳　川	3	1	1	1	0
9 松　田	1	1	1	0	0
② 長　井	2	1	1	0	0
① 伊　東	4	3	2	0	0
犠併残 2 1 7	32	11	5	1	2

	回	安	振	球	責
早　瀬	8	11	1	2	5
伊　東	9	7	4	2	2

▷二塁打＝花野、森田、入内島▷犠打＝日3(森田、内田、早瀬)本2(長井2)▷試合時間＝2時間4分

来年がんばります

◎…初戦の日本たばこ東北戦は完封勝ちを飾った日本生命の早瀬投手。この日は「ボールがうまく指にひっかからなかった」とかで、立ち上がりから球が高めに浮き、被安打11、失点5。「先取点をもらって調子に乗りかかったところでの3失点が痛かった」。初戦に勝った21日の深夜、待望の男児が誕生。「勝って白星をプレゼントしたかったんですけど…。来年またがんばります」。ポーカーフェースの早瀬だが、悔しさがチラリのぞいた。

第２試合＝２回戦（午前11時45分開始）

河合楽器	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	5
三菱重工神戸	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3

▶審判（球審）広沢（塁審）布施、杉中、南垣

【河合楽器】打安点振球
⑧ 牛尾 3 0 0 0 0
H 山本 0 0 0 0 1
8 鈴木徳 1 1 1 0 0
⑥ 黒田 4 0 0 1 1
③ 村瀬 4 3 1 0 0
④ 林 5 2 0 0 0
⑤ 鈴木智 5 3 3 0 0
⑨ 樽井 1 0 0 0 0
H 並木 3 2 0 0 0
⑦ 大須賀 2 0 0 0 0
7 西原 3 1 0 0 0
② 安間 3 1 0 0 1
① 谷津田 0 0 0 0 0
1 太田 0 0 0 0 0
H 大石 1 0 0 1 0
1 松田 1 0 0 0 0
H 上中 1 0 0 1 0
1 水沢 0 0 0 0 0
犠 併 残
4 0 9 37 13 5 3 3

【三菱神戸】打安点振球
⑧ 中馬 5 3 0 1 0
⑦ 松本 5 1 1 0 0
⑥ 山口 5 2 1 1 0
⑨ 林 4 1 0 0 0
④ 岡田 4 0 0 1 0
⑤ 山下 4 1 1 0 0
③ 青田 4 0 0 0 0
② 富 4 0 0 0 0
① 栗田 2 1 0 0 0
1 吉川 1 0 0 1 0
H 大西 1 0 0 0 0
犠 併 残
0 1 6 39 9 3 4 0

回 安振球責
谷津田 1⅓ 6 1 0 3
太田 ⅔ 1 0 0 0
松田 6 1 3 0 0
水沢 2 1 0 0 0

回 安振球責
栗田 6⅓ 6 1 3 1
吉川 3⅔ 7 2 0 4

▷本塁打＝松本１号（谷津田）村瀬１号（吉川）鈴木智１号②（吉川）▷二塁打＝山口、中馬、村瀬、林（河）並木▷犠打＝河４（村瀬、樽井、安間、松田）▷盗塁＝河２（林、西原）▷失策＝三１（富）▷試合時間＝２時間42分

第３試合＝２回戦（午後２時59分開始）

新日鉄室蘭	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
東芝	0	1	4	0	1	0	0	0	X	6

▶審判（球審）大槻（塁審）三宅、東、河島（外審）杉中、岸野

【新日鉄室蘭】打安点振球
⑥ 遠田 5 2 0 0 0
⑤ 鹿田 2 0 0 0 1
⑨ 岡田 3 1 1 0 1
③ 鈴木 3 1 0 1 1
④ 大塚 4 2 1 1 0
⑦ 桜井 2 0 0 2 0
H 吉井 1 1 1 0 0
7 阿部 1 0 0 1 0
⑧ 関 4 1 0 1 0
② 後藤 3 0 0 0 0
H 平間 1 0 0 0 0
① 浅川 1 0 0 0 0
1 米山 2 0 0 0 0
H 馬場 1 0 0 1 0
犠 併 残
1 0 7 33 8 3 7 3

【東芝】打安点振球
⑤ 新木 4 2 0 0 0
⑧ 藤原 3 1 0 0 0
H 8 田辺 1 0 0 0 0
③ 武智 4 2 1 1 0
⑦ 福本 4 1 3 1 0
⑨ 梁原 4 4 1 0 0
⑥ 真喜志 4 1 0 0 0
② 安斉 4 1 1 0 0
① 菊池 3 0 0 0 0
④ 宮崎 3 1 0 0 0
犠 併 残
0 1 4 34 13 6 2 0

回 安振球責
浅川 2⅓ ’6 1 0 5
米山 5⅔ 7 1 0 1

回 安振球責
菊池 9 8 7 3 3

▷本塁打＝福本２号③（浅川）岡田１号（菊池）梁原１号（米山）▷二塁打＝安斉▷犠打＝新１（鹿田）▷盗塁＝新１（遠田）東１（藤原）▷試合時間＝２時間15分

▽10月25日

第１試合＝準々決勝（午前９時59分開始）

松下電器	0	0	0	3	0	0	0	1	0	4
日本楽器	0	1	0	1	0	2	0	0	1	5

▶審判（球審）松山（塁審）桂、辻、岸野

【松下電器】打安点振球
⑧ 平岡 4 0 0 3 1
④ 太田 3 1 0 0 0
R 杉本 0 0 0 0 0
4 楠 0 0 0 0 0
⑤ 林 3 2 0 0 1
⑨ 島田 3 0 0 1 0
③ 北野 4 1 0 0 0
⑦ 篠崎 3 2 3 0 1
⑥ 広岡 3 1 0 0 0
② 大本 4 1 0 1 0
① 原 2 0 0 1 0
H 奥代 1 0 0 1 0
1 渡辺 1 0 0 1 0
1 石田 0 0 0 0 0
犠 併 残
3 1 6 31 8 3 8 3

【日本楽器】打安点振球
④ 山本秀 5 2 0 0 0
② 佐藤 3 1 0 0 2
⑧ 内山 5 2 0 1 0
③ 武居 4 2 3 0 1
⑨ 中村 3 2 0 0 0
6 5 大野 4 2 1 0 0
⑦ 西川 3 1 1 1 0
7 伊藤 1 0 0 0 0
⑤ 宮坂 2 0 0 0 0
6 小阪田 1 0 0 0 1
① 高田 3 0 0 0 0
犠 併 残
2 1 9 34 12 5 2 4

回 安振球責
原 6 9 1 0 3
渡辺 2⅓ 2 0 2 1
石田 ⅓ 1 1 2 0

回 安振球責
高田 9 8 8 3 3

▷本塁打＝篠崎１号③（高田）武居１号②（原）▷二塁打＝武居▷犠打＝松３（太田、島田、広岡）日２（中村、高田）▷盗塁＝松１（広岡）日１（山本秀）▷失策＝松１（広岡）日１（小阪田）▷試合時間＝２時間50分

第２試合＝準々決勝（午後１時25分開始）

日本石油	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
神戸製鋼	0	0	0	3	0	0	0	1	X	4

▶審判（球審）布施（塁審）原田、土井池、戸田

【日本石油】打安点振球
⑦ 玉川 5 2 1 0 0
④ 吉田 4 1 0 0 0
③ 田島 2 0 0 1 0
H 3 十河 2 0 0 0 0
⑨ 荒井 4 2 0 0 0
⑤ 石川 1 0 0 0 1
⑧ 曽根原 3 1 1 0 1
② 対馬 2 0 1 0 1
⑥ 伊藤 3 1 0 0 0
① 岡田 1 0 0 0 0
1 保戸田 0 0 0 0 0
H 山下 0 0 0 0 1
1 高橋 1 0 0 0 0
H 大久保 1 0 0 0 0
犠 併 残
4 1 7 29 7 3 1 4

【神戸製鋼】打安点振球
⑥ 川原崎 4 1 0 0 0
④ 中川 3 0 0 0 0
⑤ 中村 4 2 0 1 0
⑨ 高野 3 1 0 1 1
⑦ 丹波谷 3 0 0 1 0
H 7 小林貴 1 1 1 0 0
⑧ 日川 4 1 1 0 0
③ 浦本 3 1 1 0 0
② 岡本 3 1 1 1 0
① 矢野 2 0 0 0 0
1 西嶋 0 0 0 0 0
1 山本 1 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 5 31 8 4 4 1

回 安振球責
岡田 3⅓ 6 2 1 3
保戸田 ⅔ 0 0 0 0
高橋 4 2 2 0 0

回 安振球責
矢野 5 7 1 1 2
西嶋 1 0 0 1 0
山本 2⅔ 0 0 2 0

▷本塁打＝曽根原１号（矢野）▷二塁打＝玉川２、中村、日川▷犠打＝日４（石川２、対馬、伊藤）神１（中川）▷盗塁＝日１（吉田）▷失策＝日１（高橋）神１（中村）▷試合時間＝２時間32分

▽10月26日

第１試合＝準々決勝（午前９時57分開始）

川崎製鉄神戸	0	0	0	0	0	0	0			0
本田技研	2	1	6	0	0	1	X			10

▶審判（球審）木嶋（塁審）上杉、桂、桃田

【川鉄神戸】打安点振球
⑨ 筑瀬 3 1 0 0 0
6 鳥 3 0 0 0 0
③ 中村 3 0 0 0 0
⑦ 石津 3 1 0 1 0
④ 上村 3 0 0 0 0
⑤ 浜名 2 1 0 0 0
H 中谷 1 1 0 0 0
⑧ 山中 3 1 0 0 0
② 以倉 3 1 0 0 0
R 初田 0 0 0 0 0
① 西川 0 0 0 0 0
H 島本 1 0 0 0 0
1 宮内 0 0 0 0 0
1 石井 0 0 0 0 0
1 岡本 1 1 0 0 0
H 宮本 1 0 0 0 0
犠 併 残
0 1 6 27 7 0 1 0

【本田技研】打安点振球
⑧ 荻原 4 2 2 0 1
⑤ 佐藤資 2 0 0 0 1
H 5 朝山 1 0 0 0 1
⑥ 広瀬 4 4 1 0 0
③ 入内島 4 2 3 0 0
⑦ 雨堤 3 2 0 1 1
④ 山越 2 1 0 0 1
⑨ 柳川 2 1 1 0 0
9 松田 1 1 0 0 0
② 長井 4 1 2 0 0
① 伊東 3 1 0 0 0
犠 併 残
3 1 10 30 15 9 1 5

回 安振球責
西川 2 4 0 1 3
宮内 ⅔ 2 0 1 3
石井 ⅔ 1 0 0 2
岡本 3⅓ 8 1 3 1

回 安振球責
伊東 7 7 1 0 0

▷本塁打＝入内島１号②（西川）荻原１号（西川）▷二塁打＝筑瀬、広瀬、入内島、荻原、松田▷犠打＝本３（山越、柳川、伊東）▷盗塁＝本３（広瀬、雨堤、柳川）▷失策＝川２（浜名２）本１（入内島）▷試合時間＝２時間８分

第２試合＝準々決勝（午後０時38分開始）

東芝	0	0	1	0	0	0	3	0	1	5
河合楽器	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3

▶審判（球審）三宅（塁審）本郷、岡本、石渡

【東芝】打安点振球
⑥ 新木 5 0 0 3 0
⑧ 9 前田 5 4 2 0 0
③ 武智 5 2 0 0 0
⑦ 福本 4 1 0 1 0
R 7 藤原 0 0 0 0 0
⑨ 8 梁原 4 0 0 0 0
⑥ 真喜志 4 0 0 1 0
④ 宮崎 4 2 0 1 0
② 安斉 2 0 0 0 1
① 菊池 2 1 0 1 0
H 鈴木 1 1 3 0 0
1 清野 1 1 0 0 0
犠 併 残
1 2 7 37 12 5 7 1

【河合楽器】打安点振球
⑧ 鈴木徳 3 1 0 1 0
8 牛尾 1 1 1 0 0
⑥ 黒田 3 0 1 0 0
③ 村瀬 3 1 1 1 1
④ 林 4 1 0 1 0
⑤ 鈴木智 3 1 0 0 0
5 山本 1 0 0 0 0
⑨ 樽井 4 1 0 0 0
R 栗林 0 0 0 0 0
⑦ 西原 3 1 0 0 1
② 安間 3 1 0 0 0
H 並木 1 0 0 0 0
① 谷津田 2 1 0 1 0
1 松田 0 0 0 0 0
H 大須賀 1 1 0 0 0
R 大石 0 0 0 0 0
1 水沢 0 0 0 0 0
H 上中 1 0 0 0 0
犠 併 残
1 1 6 33 10 3 4 2

回 安振球責
菊池 6 6 3 1 1
清野 3 4 1 1 1

回 安振球責
谷津田 6⅓ 7 5 1 3
松田 ⅔ 1 1 0 1
水沢 2 4 1 0 1

▷本塁打＝前田１号（谷津田）村瀬２号（菊池）鈴木１号③（松田）▷二塁打＝菊池▷犠打＝東１（安斉）河１（黒田）▷失策＝東１（真喜志）▷捕逸＝安斉▷試合時間＝２時間43分

▽10月27日

第１試合＝準決勝（午前９時58分開始）

神戸製鋼	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
日本楽器	0	1	0	1	0	1	0	0	X	3

▶審判（球審）小林（塁審）津田、宮木、鹿多

【神戸製鋼】打安点振球
⑥ 川原崎 4 0 0 1 0
④ 中川 4 0 0 0 0
⑤ 中村 4 1 1 3 0
⑨ 高野 4 0 0 1 0
⑦ 丹波谷 4 2 0 0 0
⑧ 日川 3 1 0 0 0
③ 浦本 4 2 1 1 0
② 岡本 4 2 0 1 0
① 長渡 2 0 0 0 0
1 山本 0 0 0 0 0
H 小林貴 1 0 0 0 0
1 西嶋 0 0 0 0 0
犠 併 残
1 1 6 34 8 2 7 0

【日本楽器】打安点振球
④ 山本秀 4 0 0 1 0
② 佐藤 4 2 0 0 0
⑧ 内山 3 0 0 1 1
③ 武居 3 1 0 0 1
⑥ 大野 2 0 0 0 2
⑨ 中村 4 1 0 0 0
⑦ 西川 2 1 2 0 1
⑤ 宮坂 3 0 0 0 0
① 劉 2 0 0 0 0
1 高田 1 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 7 28 5 2 2 5

回 安振球責
長渡 5⅔ 3 1 4 2
山本 1 1 0 0 0
西嶋 2 1 1 1 0

回 安振球責
劉 6⅓ 7 5 0 1
高田 2⅔ 1 2 0 0

▷本塁打＝中村（神）１号（劉）▷二塁打＝丹波谷、佐藤▷犠打＝神１（日川）日１（西川）▷失策＝神１（川原崎）日１（大野）▷暴投＝長渡▷試合時間＝２時間21分

テキサス打で日楽勝ち越し

日本楽器が幸運な勝ち越し点を挙げた。２―２で迎えた六回、武居、大野が連続四球で無死一、二塁。中村はリリーフした神戸製鋼の二番手・山本に右飛に倒れ、しかも一塁走者の大野が塁を飛び出して挟殺され二死三塁となった。しかし、続く西川は遊撃後方への飛球、これを遊撃手と左翼手が譲り合ってテキサス安打になり、武居が勝ち越しのホームを踏んだ。日楽は二回、２四球と遊ゴロ失の二死満塁に長渡の暴投で１点を挙げるなど、神鋼の守備の乱れをうまく得点に結びつけた。

神鋼は二回、日川、浦本の連打、六回に中村の左翼席への同点アーチなどで１点ずつを挙げて接戦に持ち込んだが、ミスが響いた。１点を追う七回は、浦本と岡本の連打で一死一、三塁としたが、先発の劉を救援した右下手の高田に代打・小林貴と一番の川原崎が連続遊飛に抑えられ、追いつけなかった。

第２試合＝準決勝（午後０時58分開始）

東芝	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本田技研	2	0	0	0	0	0	0	0	X	2

▶審判（球審）木嶋（塁審）清水、鶴田、中西明

【東芝】打安点振球
⑤ 6 新木 4 2 0 0 0
⑧ 田辺 4 3 0 0 0
③ 武智 4 0 0 0 0
⑦ 福本 4 1 0 0 0
⑨ 梁原 4 2 0 0 0
⑥ 真喜志 3 1 0 0 0
H 鈴木 1 0 0 1 0
5 丹波 0 0 0 0 0
④ 宮崎 4 0 0 1 0
② 安斉 2 0 0 2 0
H 2 泉水 2 0 0 0 0
① 近藤 2 0 0 1 0
H 小林 1 0 0 0 0
1 清野 0 0 0 0 0
1 菊池 0 0 0 0 0
H 前田 1 0 0 0 0
犠 併 残
0 1 9 36 9 0 5 0

【本田技研】打安点振球
⑧ 荻原 3 1 0 0 1
⑤ 佐藤資 3 1 0 0 0
⑥ 広瀬 3 1 2 1 1
③ 入内島 4 0 0 0 0
⑦ 雨堤 4 2 0 0 1
④ 山越 2 0 0 0 2
⑨ 柳川 1 0 0 1 0
9 松田 2 0 0 0 1
② 長井 3 1 0 1 1
① 伊東 4 1 0 1 0
犠 併 残
1 1 10 29 7 2 6 6

回 安振球責
近藤 6 5 5 4 2
清野 ⅔ 1 0 1 0
菊池 2 1 1 1 0

回 安振球責
伊東 9 9 5 0 0

▷本塁打＝広瀬１号②（近藤）▷二塁打＝田辺、雨堤▷犠打＝本１（佐藤資）▷盗塁＝東１（真喜志）本３（雨堤２、山越）▷失策＝東１（泉水）本１（広瀬）▷試合時間＝２時間33分

伊東、技ありの連続完封

広瀬の2ランで先制した本田技研が、伊東の粘り強い投球でリードを守り切った。本田は一回、制球が定まらない近藤の立ち上がりを攻めた。中前打で出塁した荻原をバントで送った一死二塁に広瀬が2―2からの外角スライダーを右越えに1号2ランを放って先制した。

3連投の伊東はスタミナが心配されたが、鮮やかな投球術を披露。八回まで毎回の9安打を許し再三、得点圏に走者を背負ったが、シュート、スライダーをコーナーに散らし、投球のテンポにも変化をつけて決定打を与えず、無四球で三塁を踏ませなかった。

東芝は緩慢な帰塁で併殺されたり、送りバントの失敗など拙攻が目立った。また、一回一死二塁、三回と五回の二死一、二塁の好機にことごとく凡退したのも響いた。

〔優勝戦〕日本楽器－本田技研　優勝を喜ぶ伊東投手ら本田技研ナイン。

▽10月28日

優勝戦（午後1時31分開始）

本田技研	0	3	1	0	2	0	0	1	0	7
日本楽器	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

▶審判（球審）三宅（塁審）小林、吉田、岸野

【本田技研】

		打	安	点	振	球
⑧	荻原	4	1	2	1	0
⑤	佐藤寛	5	1	0	1	0
⑥	広瀬	5	2	1	1	0
③	入内島	5	2	0	0	1
⑦	雨堤	4	2	1	1	0
④	山越	4	2	3	1	0
⑨	柳川	3	1	0	0	0
9	松田	3	1	0	0	1
②	長井	2	1	0	0	1
①	伊東	3	0	0	0	1

犠 併 残
3 1 7

【日本楽器】

		打	安	点	振	球
④	山本秀	4	0	0	1	0
②	佐藤	4	1	0	0	0
⑧	内山	3	1	0	0	1
③	武居	4	2	0	1	0
⑨	中西	4	0	0	0	1
⑦	村川	3	1	0	0	1
⑥	大野	2	0	0	0	0
H6	小阪	2	1	0	0	0
①	高田	2	1	0	0	0
1	高久	1	0	0	0	0
H1	後藤	1	0	0	0	0
H1	太田	1	0	0	0	0
	劉海	1	0	0	0	0
H	高重	1	0	0	1	0
⑤	宮坂	3	2	1	1	0

犠 併 残
0 1 7

	回	安	振	球	責
伊東	9	8	4	2	1

	回	安	振	球	責
高田	4⅔	8	2	1	6
高久	1	1	1	0	0
太田	2	2	2	1	0
劉	2	1	2	0	0

▷本塁打＝山越1号③（高田）広瀬2号（高田）荻原2号（高田）▷犠打＝本3（荻原、長井、伊藤）▷盗塁＝本4（広瀬2、雨堤2）▷失策＝日1（劉）▷試合時間＝2時間35分

本田が前半に日楽・高田を攻略

本田技研・伊東、日本楽器・高田の投げ合いで接戦が予想されたが、本田技研が前半に3本塁打で高田を攻略した。

本田は二回無死一、三塁としたあと、山越が左翼席へ一直線の3点本塁打。三回には広瀬が右中間席に2試合連続のアーチ。五回には荻原がファウルで9球粘ったあと、右越えに運んだ。

一方、伊東は制球が安定していたうえ、左右、高低を幅広く使った投球で日楽打線を七回の1点に抑えた。3試合連続完封は逸したが、4試合すべてを1人で投げ抜き、"技"を駆使した安定感のある内容で優勝の原動力になった。

日楽は七回西川の左前打と代打・小阪田の一、二塁間突破安打の二死一、二塁に宮坂が中前打して1点を返しただけだった。

監督談話

本田技研・河本昭人監督　二回の3ランが大きかった。伊東は疲れていたが、うまくかわす投球をした。今、私自身、ホッとした気持ちです。大きな大会では初めての優勝ですし、選手たちは野球部の歴史をつくってくれたと思います。

日本楽器・津布久欣司監督　二回のアンラッキーな安打2本のあとの一発は効きました。あれで頼みの高田がガタッときてしまった。伊東君の攻略は右狙いだと指示したが、狙い球を最後まで絞り切れなかった。すべて後手に回ってしまった。

監督ひと

本田技研　河本 昭人監督

瀬戸内海の段々畑が美しい島で球遊びを始めた。中学時代、国語の時間に「超人」をテーマに作文を、といわれて当時の西鉄の鉄腕エース、稲尾投手（元ロッテ監督）のことを書いた。「稲尾さん同様、子供のころ、友だちとよく小舟で魚釣りに海に出た。稲尾さんの艫（ろ）をこぐようなモーションが好きでした」

島の高校は軟式野球部しかなかったが、2年生のとき「硬式」になった。大会になると陸上部あたりから人手を借りる弱体で1回戦敗退ばかり。電電中国に4年間在籍後、河合楽器に移ったのは「中央で腕を試したかった。自分で売り込んだんです」

その河合も2年でやめた。「仲のよい捕手が退部したとき、なぜ、やめさせるんだ、と監督に食ってかかった。その責任上。いま考えると、若かったですね」。熱血漢なのだ。河合の投手時代から補強を含め、11年連続の都市対抗出場。「サンデー毎日」特集号には「切れのいいカーブ。すばらしい投手に成長」とある。

73年から3年間、プレーイングマネジャーをしたあと、5年ほど野球を離れ、肝臓をこわすほど仕事（資材課）に専念した。82年秋に再び監督就任。「練習の時から実戦のつもりで一つ一つのプレーを基本に忠実に、ベストを、と言っている。試合はその延長。勝つのは結果。いいえ、コーチ2人がよくやってくれるので、私の苦労はいい素質の選手に入社してもらうくらいのものですね」

伊東らのプロ入りが言われているが「私も若い日、プロを夢みた。チームの活性化にいいことです」。星霜が、自分と野球を外からも見つめられる指揮官にした。

〈山口県大島生まれ。久賀高卒。電電中国一河合楽器を経て67年本田技研入り。現在和光工場総務課主査。栄子夫人と1男2女。43歳〉　（津田　康）

ルーキーの援護に発奮

熱球

4連投の伊東にとって何よりも心強いルーキー・山越の一発が出たのは二回だった。入内島、雨堤がつまりながらも右前に落とし、無死一、三塁。山越は高田の2球目をたたき、左翼席中段に先制3ランアーチをかけた。

山越を打席に迎えた時、高田は2本のテキサス安打に少なからず冷静さを欠き、「何としても力で抑えねば」の気負いがありありだった。一方、山越は「1球目から思い切っていこう」と打ち気満々だった。カッカとしながら高田は「1点は仕方ない。シュートで併殺」を狙ったが、2球目のシュートは真ん中高めに。「高田さんは強気に攻めてくると聞いていたので、真っ直ぐに的を絞っていた」という山越が、この甘い球を見逃すわけはなく、鋭く振り切った。

山越の先制パンチに奮い立った伊東が見事なピッチングを展開した。試合前、「変に間があくより、連投の方が緊張感があっていい」と言っていた伊東だが、本音は「やはりきつかった」。それだけに山越の一撃が何よりのスタミナ源になり、得意のスライダーに縦、横2種類のカーブやシュートを交えて、強打の日本楽器を1点に抑え、MVPに選ばれた。

「山越さまさまです。競り合いのまま後半にもつれ込んでいたら、どうなっていたかわかりません。あの一発で楽になりました」と山越に感謝する伊東。「5月の大阪大会でも優勝しているし、大阪では無敗です。それもみんなが僕を助けてくれたから。この優勝が一番うれしいものになりそうです」。ロス五輪優勝に貢献するなど、数々の国際舞台で活躍し"全日本のエース"の名をほしいままにしてきた伊東だが、85年の最後を飾るビッグタイトル獲得の感激は最高らしく、祝福を受けながら目がしらを押さえていた。　（原田　益夫）

ズームアップ

伊東攻略、徹し切れず

武居邦生内野手（29）＝日本楽器

"全日本のエース"との対決は、今春のスポニチ大会に次いで2度目である。その時は3打数1安打。フォークを左前にたたいたが、会心の当たりではなかった。「先行逃げ切り型」のチームの特徴を生かすには、自らのバットで伊東をたたくことにあった。全日本の主砲の意地もある。

「ホームランボールは2球あった」という。1球目はチームの初安打になった2打席目の左前打。2－1と追い込まれたが、投球寸前の伊東のフォームを見て、スライダーを予想、思い切り振ったが角度がたりなかった。2球目は3打席目の六回。併殺後の初球。ストレートを狙ったが、打ち上げてしまった。

「（僕は）低めが好きなのをバッテリーが知っているんですよね。球をうまく散らされた。スポニチ大会の時は、伊東の球を速く感じたんですが、きょうはその時よりは落ちていたようだけど、投球術は素晴らしかったですね」と全日本で同じカマの飯を食った伊東をほめたたえた。

主将として試合を振り返った。「8安打したのに打線のつながりがなかったのと、高田（投手）は立ち上がり気負いが目立って、そこをつけ込まれた。それでもベンチのムードは悪くなかったんですが…」。日楽としては予想外の展開だったが「伊東の初球ストライクをセンター返しし、の攻略に徹しきれなかったのが響きました」と、伊東にしてやられたことを繰り返していた。

創部26年「日本一だ」

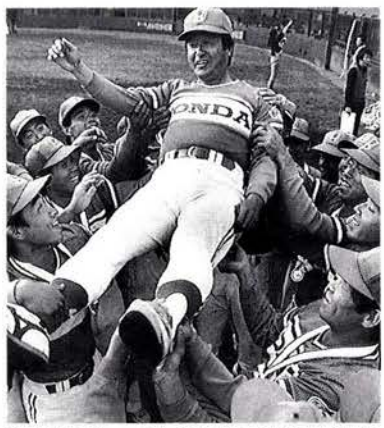
「日本一だ―」。日本楽器の最後の打者、代打・高重隆治選手を三振に打ちとった瞬間、外野から、ベンチから、本田技研の全選手が1人で4試合すべてを投げ抜いたマウンドの伊東昭光投手の周りに駆け寄った。創部26年目で、初めてつかんだ栄光。

河本昭人監督の体が宙に2度、3度と舞った。五色のテープが乱れ飛び、だれかれとなく抱き合う三塁側スタンドの本田応援団。秋の夕日がいっぱいに差す大阪球場に歓喜がはじけ、第12回大会は28日、幕を閉じた。

監督に続き、伊東投手の胴上げ。全日本のエースでもあり、来月20日のプロ野球ドラフト会議では上位指名が確実とも。伊東投手自身も「最後の社会人野球と思い投げ続けた。これでお世話になった会社に恩返しができました」と、ベンチの裏で、しきりにタオルで目頭をぬぐった。

スタンドも喜びでいっぱい。みんなが肩をたたき、握手をし合って何度も「バンザイ」。大声で応援歌を歌い、初めての「日本一」に酔いしれるかのよう。

一方、日本楽器応援団は、敗れたとはいえさわやか。ベンチ裏で見守った田田佳資・教育システム事業部長(51)は「ベスト4に入ってくれれば、と思っていたのに、よくやってくれた。心からご苦労さん、といってやりたい」と選手をねぎらう。川島勝司・野球部長(42)＝資材部設備購買課長＝も「選手は持てる力を十分に発揮した。チーム力をアップさせ、来年こそダイヤモンド旗を狙いたい」と、次への意欲をのぞかせた。



〝社会人日本一〟となり河本監督を胴上げする本田技研ナイン

第12回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　伊東昭光投手**(本田技研)　優勝戦までの4試合にすべて先発し、完投。今年は「力」に「うまさ」が加わり、打者の狙いを巧みにはずした。34回投げて自責点3、防御率0.79と安定したピッチング。高校(東京・帝京高)二年だった1980年春のセンバツで、チームを準優勝に導く大きな力となった。84年のロス五輪でも全日本の大黒柱として活躍した。176㌢、75㌔、右投げ右打ち。22歳。和光工場第一機械課勤務。

◇**敢闘選手賞　高田博久投手**(日本楽器)　右下手からの伸びのある速球が武器。優勝戦はじめ4試合に登板、22回⅔投げて自責点10、防御率3.97。今春右手甲を骨折、そのケガも完治。小柄ながら負けん気は人一倍。青山学院大出身で社会人2年目、24歳。173㌢、68㌔、右投げ右打ち。厚生課勤務。

◇**打撃賞　山越吉洋二塁手**(本田技研)　4試合、12打数5安打。打率4割1分6厘。優勝戦で試合の行方を左右する先制3ランを放った。2打席目も安打して、あと1本で首位打者賞も手にするところだったが「リキみすぎました」とちょっぴり無念そう。今春のスポニチ大会で新人賞を獲得する好デビュー。平安高時代の1980年センバツ出場。法大卒の社会人1年生。23歳。181㌢、77㌔、右投げ右打ち、精密鍛造課勤務。

◇**首位打者賞　雨堤浩久左翼手**(本田技研)　13打数6安打、4割6分2厘。「楽しく伸びのびプレーする」をモットーに、主将の重責を見事に果たして今大会から新設のこの賞に輝いた。洲本高(兵庫)時代は投手。中大3年の時に野手転向し、1977年入社。パワーを備えた巧打と統率力を買われ84年から主将。31歳。178㌢、76㌔、左投げ左打ち。設備保全課勤務。

◇**大会優秀選手**

【投手】伊東昭光(本田技研)菊池総(東芝)高田博久(日本楽器)長渡宏之(神戸製鋼)高橋一彦(日本石油)山田武史(本田技研熊本)**【捕手】**安斉定男(東芝)佐藤正則(日本楽器)対馬昭男(日本石油)大本二郎(松下電器)**【内野手】**入内島保、広瀬哲朗、山越吉洋(以下本田技研)村瀬耕次(河合楽器)山本秀樹(日本楽器)宮崎剛(東芝)中村好治(神戸製鋼)広岡資生(松下電器)上村真弘(川崎製鉄神戸)**【外野手】**梁原修志(東芝)中村和彦(日本楽器)高野清秀(神戸製鋼)荻原俊文(本田技研)荒井幸雄(日本石油)

◇**10年出場選手**　大本二郎捕手(松下電器)

はつらつとした動きでチームを引っ張る大本捕手

"10回出場選手"第1号

松下電器の大本主将に

開幕前話題

第1回大会から唯一、連続出場している松下電器。その松下の主将としてチームを引っ張ってきた主将の大本二郎捕手(27)が、今大会から新設された「10回出場選手」の第1号として20日の開会式で表彰される。172センチ、70㌔と野球選手としては小柄な大本。「僕が表彰の第1号だなんて…。大きなケガをしなかったのは幸いでした。本当にうれしい」と感激の面持ち。

大本が入社したのは1976年春。倉敷工高時代から勝負強い選手として定評があり、75年春のセンバツにも出場したが、やはり高校と社会人のレベルは違った。しばらくは下積みが続いた。それでも大本は「自分の技術にはある程度自信をもっていた」といい、持ち前の負けずぎらいの性格もあって練習で除々に力を蓄えていった。そして81年から待望のレギュラーの座についた。攻守に一段と磨きがかかり、今では佐竹(日本生命)と並んで関西社会人球界を代表する捕手に。投手リードのうまさ、勝負強いバッティングは光る。

そんな大本も昨年の日本選手権で生涯忘れられないほどのショックを受けた。準決勝の住友金属戦。九回二死まで1点のリード。決勝進出を目前にしながら詰めに厳しさを欠き代打・松原に2－2から逆転の三塁打を打たれた。「僕は都市対抗で住友金属に補強されたこともあり、松原が変化球にもろさがあることを知っていた。でも、投手(石田)の速球に伸びがあったので、あえて直球で勝負した。もっと厳しく攻めるべきだった」。しばらくは"あの1球"が頭に焼きついて離れなかった。

あれから1年。「今年は昨年の失敗をとり返すつもりで頑張ります」と明るく笑う大本。"悪夢"はもう忘れた。

〝眠れる獅子〟だった日石――

新監督で急上昇

輝かしい歴史を持ちながら、ここ10年近く低迷を続けてきた日本石油。その名門チームが力強く復活の道を歩み始めた。夏の都市対抗野球で1回戦敗退したあと、9月から磯部史雄新監督体制がスタート。強豪ぞろいの関東予選で優勝を飾るなど、見違えるほどチーム力が整ってきた。

関東地区の予選で代表権を手に入れたあとも、日石は気を緩めるどころかさらに気を入れて準決勝、決勝に臨んだ。「選手は実力を持ちながらも発揮できなかった。勝ちグセをつけることが最も大事だ」。こう信じる新監督は「絶対に関東を制覇しよう」とハッパをかけ、準決勝で東芝を、決勝でも三菱自動車川崎を破り念願どおり関東一となった。

今年の都市対抗が終わったあと、日本石油名古屋支店の磯部氏のところに監督就任の打診があった。「大変なことでびっくりしました。ただ野球狂で一度はやってみたいと思っていましたから」と引き受けた。1971年、法大から日石入りし、外野手として都市対抗に8回出場。また、78年いっぱいで現役引退後は、スタンドからチームを見てきた。

不振をかこち、低迷する最近のチームを「もともと実力はあるが勝ち方を知らない。勝たなければと、硬くなり闘志がカラ回りしている」と映っていた。監督を引き受けた時に真っ先に考えたことは「いかにして、試合に力を出せるようにするか」であった。考えついたことは、自分が率先して声を出すことと、野性的な野球。「実力伯仲の時代。スマートな野球では勝てっこない。闘志を表に出した気合いの野球を目指す。当然、練習もきついぞ」と選手に所信を語った。

新監督の意図をくんだ選手もハツラツと動き、公式戦8勝、オープン戦3勝、計11戦全勝と破竹の進撃を続けている。

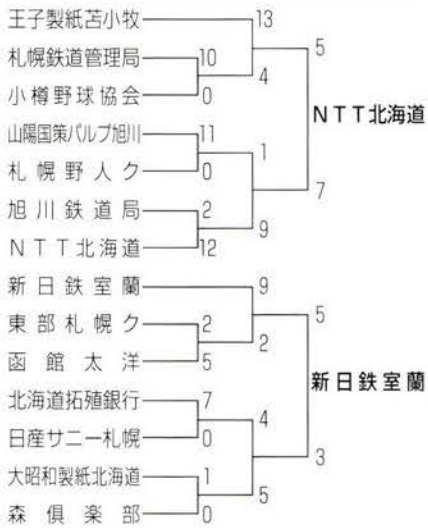
「眠っていたのが目を覚ました。この勢いを大会にぶつけ、一戦、一戦を大事に戦う。目標？神奈川に初のダイヤモンド旗を持ち帰ることです」と同監督。都市対抗で最多優勝(5回)を誇る伝統チーム。本大会は名門復活の第一歩となるはずだ。

第12回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月12日から　5日間　　札幌市営円山球場



東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽ **一回戦**　三菱製紙八戸７－２全弘前倶、八甲ク４－１オール青森▽**敗者復活戦**　全弘前倶11－７オール青森ク▽**準決勝**　三菱製紙八戸17－９八甲ク、全弘前倶５－０自衛隊青森▽**決勝**　三菱製紙八戸５－２全弘前倶（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**▽ **一回戦**　東京製綱７－０九戸ク、アイワ８－０水沢駒形、雫石ク10－４江刺ク、宮城建設久慈ク11－４オール不来方▽**二回戦**　釜石野球団10－５宮高ク、北上球友11－０大槌球友、一関三星11－４花友ク、盛岡鉄道管理局10－０東京製綱、県経済連８－３オール釜石、岩手銀行10－０雫石ク、新日鉄釜石12－０アイワ、小野田セメント９－４宮城建設久慈ク▽**準々決勝**　釜石野球団２－１盛岡鉄道管理局、新日鉄釜石13－２一関三星、岩手銀行８－２北上球友、小野田セメント５－３県経済連▽**準決勝**　新日鉄釜石10－３釜石野球団、岩手銀行14－２小野田セメント（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　新日鉄釜石15－３岩手銀行

◇**秋田**▽ **一回戦**　秋田鉄道管理局14－７王冠ク、ＴＤＫ14－１秋田商ク、秋田銀行11－０ＴＯＨＩク、秋田相互銀行９－２秋田経法大ク▽**準決勝**　ＴＤＫ３－２秋田鉄道管理局、秋田相互銀行８－１秋田銀行▽**決勝**　秋田相互銀行10－６ＴＤＫ（勝者は第二次予選へ）

◇**宮城**▽ **一回戦**　ＮＴＴ東北９－０サニーク、仙台鉄道管理局12－０川連ク、日本たばこ東北10－１仙商ク、七十七銀行４－２村田ク▽**準決勝**　ＮＴＴ東北６－２仙台鉄道管理局、日本たばこ東北４－１七十七銀行（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本たばこ東北１－０ＮＴＴ東北▽**敗者復活一回戦**　川連ク７－１サニーク、仙商ク12－５村田ク▽**敗者復活二回戦**　川連ク６－３仙商ク、仙台鉄道管理局２－０七十七銀行▽**第三代表決定戦**　仙台鉄道管理局（不戦勝）川連ク（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽ **一回戦**　日大山形ＯＢ６－５三川ク▽**準決勝**　日大山形ＯＢ14－13新庄球友ク、山形相互銀行７－０鶴岡野球ク▽**決勝**　山形相互銀行６－１日大山形ＯＢ（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽ **一回戦**　オール常交14－０矢吹ク、須賀川ク５－４小名浜ク、ヨークベニマル10－０原田ク、二本松ク４－３好間ク▽**準々決勝**　オール常交13－０ニュー相馬、ヨークベニマル14－１飯野ク、福島硬友ク９－２須賀川ク、学法石川ＯＢク10－７二本松ク▽**準決勝**　ヨークベニマル18－０学法石川ＯＢク、オール常交11－１福島硬友ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ヨークベニマル18－５オール常交

▶二次予選

9月21日から　3日間　　宮城県営球場

関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽**代表決定戦**　日立製作所９－２水戸鉄道管理局、住友金属鹿島５－０鹿島石油（勝者は第二次予選へ）

◇**群馬**▽ **一回戦**　伊勢崎レッドソックス９－２全前橋、硬友ク３－０全太田▽**準決勝**　高崎鉄道管理局４－２伊勢崎レッドソックス、富士重工業24－３硬友ク▽**決勝**　富士重工業５－１高崎鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽ **一回戦**　川口球友ク６－３都幾川ク、全浦和５－４飯能高ＯＢ▽**準々決勝**　全三郷６－３全所沢、エーザイ13－０全大宮、本田技研11－３川口球友ク、日本通運14－８全浦和▽**準決勝**　本田技研25－１全三郷、日本通運11－１エーザイ（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　本田技研９－８日本通運

◇**千葉**▽ **一回戦**　三井造船千葉５－４千葉鉄道管理局▽**準決勝**　新日鉄君津５－３川崎製鉄千葉、ＮＴＴ関東16－６三井造船千葉（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ＮＴＴ関東９－８新日鉄君津

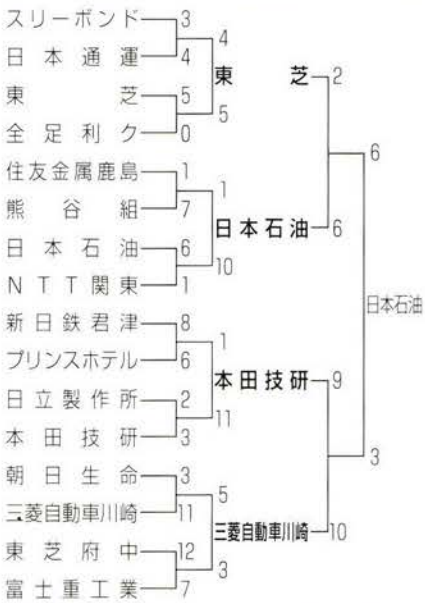
◇**東京**▽ **一回戦**　プリンスホテル７－０東京ガス、朝日生命６－２明治生命、熊谷組６－２鷺宮製作所、東京鉄道管理局15－13ＮＴＴ東京▽**代表決定戦**　プリンスホテル11－８朝日生命、熊谷組７－４東京鉄道管理局、朝日生命８－６東京鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**東京多摩**▽ **一回戦**　スリーボンド６－１全府中、東芝府中12－１全調布▽**決勝**　東芝府中５－４スリーボンド（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽ **一回戦**　横浜球友ク10－４カナガワク、日本石油７－０横浜金港ク、いすゞ自動車11－１横浜高島屋▽**準々決勝**　三菱自動車川崎14－０横浜球友ク、三菱重工横浜12－７日本鋼管、日本石油５－１日産自動車、東芝６－０いすゞ自動車▽**準決勝**　三菱自動車川崎３－１三菱重工横浜、日本石油10－２東芝（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本石油９－７三菱自動車川崎▽**三位決定戦**　東芝12－２三菱重工横浜（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月26日から　5日間　　東京・府中市民球場



中部大会

▶一次予選

◇**山梨**▽ **一回戦**　山梨球友ク14－７峡北ク▽**準決勝**　オール櫛形８－７甲斐ク、桂ク９－８山梨球友ク▽**決勝**　オール櫛形10－３桂ク（勝者は第二次予選へ）

◇**新潟**▽ **一回戦**　ニチエー12－０新津ク、オール北越12－４小千谷ク、白根野球団10－７ヤングセブン▽**準々決勝**　オール北越14－４オール東、ニチエー20－１オール十日町、国鉄新潟10－０長商ク、佐渡軍団11－５白根野球団▽**準決勝**　ニチエー14－８オール北越、国鉄新潟７－０佐渡軍団▽**決勝**　国鉄新潟10－５ニチエー（勝者は第二次予選へ）

◇**長野**▽ **一回戦**　ＮＴＴ信越11－０オール松本ク、ＴＤＫ千曲川10－３岡工ク▽**決勝**　ＮＴＴ信越５－２ＴＤＫ千曲川（勝者は第二次予選へ）

◇**静岡**▽ **一回戦**　エースコンク３－２富士ク、日本楽器６－１誠和ク、岳南ク９－２全沼津、河合楽器14－４浜商闘魂会、関東自動車工業11－１菊笠ク、全三島10－３協和発酵ク、大昭和製紙17－０富士エンゼルス▽**代表**

決定戦　日本楽器７－２エースコンク、河合楽器12－０岳南ク、関東自動車工業15－４本州ク、大昭和製紙５－３全三島（勝者は第二次予選へ）

◇**富山▽三回戦制**　北陸銀行３－１ＮＴＴ富山、北陸銀行12－１ＮＴＴ富山（北陸銀行は第二次予選へ）

▶二次予選

９月27日から　３日間　　浜松市営球場

東海・北陸大会

９月14日から　３日間　　石川県立球場ほか

近畿大会

▶一次予選

◇**滋賀▽一回戦**　日本ＩＢＭ野洲９－０瀬田工ＯＢ、全大津12－３近江八幡ク▽**決勝**　日本ＩＢＭ野洲８－３全大津（勝者は第二次予選へ）

◇**京都▽一回戦**　丸勝８－６高島屋京都▽**準々決勝**　日本新薬10－１キョートビルク、三菱自動車京都４－２第一紙行、京都信用金庫11－０京都市役所、丸勝12－３西京ク（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本新薬８－０丸勝、京都信用金庫10－５三菱自動車京都

◇**大阪▽一回戦**　大阪ガス６－３全三和銀行、住友銀行10－０大阪ベーシェンス、ＮＴＴ関西８－０大阪高島屋、大和銀行４－３デュプロ▽**準々決勝**　新日鉄堺７－０大阪ガス、中山製鋼10－０住友銀行、松下電器５－２ＮＴＴ関西、日本生命11－３大和銀行（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　新日鉄堺９－４中山製鋼、松下電器６－５日本生命▽**決勝**　松下電器３－２新日鉄堺▽**敗者復活一回戦**　大阪ガス５－４ＮＴＴ関西、大和銀行６－２住友銀行▽**第五代表決定戦**　大阪ガス５－１大和銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**兵庫▽一回戦**　新日鉄広畑８－４神戸製鋼、小西酒造５－３阿部企業▽**準決勝**　新日鉄広畑５－１川崎製鉄神戸、三菱重工神戸６－０小西酒造（準決勝出場チームは第二次予選へ）▽**決勝**　三菱重工神戸６－５新日鉄広畑▽**三位決定戦**　川鉄神戸９－３小西酒造▽**第五代表決定戦**　神戸製鋼８－１阿部企業（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

９月30日から　７日間　　高砂市営球場

中国大会

▶一次予選

◇**岡山・鳥取▽リーグ戦**　三菱自動車水島８－５川崎製鉄水島、川鉄水島10－３王子製紙米子、三菱自動車水島11－０王子製紙米子、川鉄水島３－２王子製紙米子、三菱自動車水島４－２川鉄水島、三菱自動車水島６－５王子製紙米子（三菱自動車水島、川鉄水島は第二次予選へ）

◇**広島▽一回戦**　広島マツダ８－５マツダ▽**準々決勝**　日本鋼管福山７－４国鉄広島、三菱重工三原15－４山本鋼材、三菱重工広島11－７常石鉄工、ＮＴＴ中国５－２広島マツダ（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本鋼管福山６－０ＮＴＴ中国、三菱重工広島11－５三菱重工三原▽**決勝**　日本鋼管福山６－４三菱重工広島

◇**山口▽リーグ戦**　航空自衛隊防府１－０田辺製薬、協和発酵11－４新日鉄光、田辺製薬８－７新日鉄光、協和発酵11－２航空自衛隊防府、新日鉄光４－２航空自衛隊防府、田辺製薬17－６協和発酵（協和発酵と田辺製薬は第二次予選へ）▽**第一代表決定戦**　協和発酵９－１田辺製薬

▶二次予選

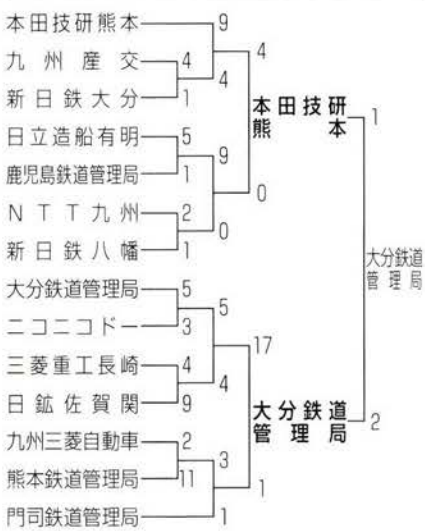
９月20日から　５日間　　岡山県営球場

四国大会

９月21日から　３日間　　松山市営球場

九州大会

９月20日から　５日間　　熊本県営藤崎台球場



第12回大会出場選手等一覧（○は主将）

NTT北海道

監督	菊池 章吾	38	函館東高	
投手	黒田 勇	30	専修大	
〃	山本 克彦	27	岩内高	
〃	山根 勝	27	札幌商高	
〃	小林 伸博	26	北海道工高	
〃	久保田 司	24	北海学園大	
〃	奥山 斉	23	北海学園大	
〃	木寺 正美	22	北海道工高	
〃	瀬戸 浩明	21	北海道工高	
〃	島谷 磨	21	岩内高	
捕手	林 己喜男	31	札幌大	
〃	池本 祥吾	23	釧路湖陵高	
〃	久保 明弘	19	室蘭大谷高	
内野	日比野 勇	36	北海学園大	
〃	野坂 寿利	30	札幌大	
〃	寺田 昭雄	28	国士舘大	
〃	谷中田 優	25	国士舘大	
〃	砂子 浩一	25	東海大四高	
〃	川島 俊明	23	函館有斗高	
〃	春本 伸一	20	駒大岩見沢高	
外野	○小林 彰	30	専修大	
〃	吉岡 直樹	27	北海学園大	
〃	石黒 倫樹	27	北海学園大	
〃	小林 満	25	芦別高	
〃	井城 昇	25	札幌大	
〃	金子 清	19	松戸高	

新日本製鐵室蘭

監督	後藤 哲夫	36	岡山興譲館高	
投手	今野 弘	19	北海高	
〃	浅川 輝彦	28	韮崎工高	
〃	米山 浩一	25	専修大	
〃	窪田 雅也	23	立教大	
〃	真下 敏宏	23	北海高	
〃	池田 裕行	23	松戸高	
〃	浜師 勝彦	32	伊達高	
捕手	吉井 郁雄	28	立教大	
〃	平間 英樹	21	白糠高	
〃	足立 豊	23	函館有斗高	
〃	佐野 修二	28	市川高	
〃	後藤 哲夫	36	岡山興譲館高	
内野	遠田 誠治	21	北海高	
〃	鹿田 和彦	29	旭川竜谷高	
〃	坂尾 新一	22	東海大甲府高	
〃	本間 義浩	20	北海高	
〃	鈴木 忠仁	24	札幌商高	
〃	大塚 邦弘	32	北海高	
〃	馬場 巧司	23	室蘭大谷高	
外野	堀松 洋伸	27	東北高	
〃	片山 昌昭	19	駒大岩見沢高	
〃	桜井 清一	24	倶知安高	
〃	関 尚彦	22	函館有斗高	
〃	阿部晋一郎	28	中央大	
〃	○岡田 仁	30	室蘭工高	

日本たばこ東北

監督	横橋 秀俊	35	仙台商高	
投手	小野 堅	25	宮城農高	
〃	広瀬 一郎	25	大阪学院大	
〃	加藤 淳	22	仙台商高	
〃	及川 弘昭	20	一関商工高	
〃	高田 実	20	秋田経法大付高	
〃	柳畑 雅人	19	福岡高	
〃	斎藤 正訓	19	福島商高	
捕手	及川 正則	22	広田水産高	
〃	伊藤 辰也	21	古川工高	
内野	大内 俊治	27	仙台育英高	
〃	山下 静夫	26	亜細亜大	
〃	相馬 晃	25	亜細亜大	
〃	菅原 隆浩	23	明治大	
〃	安斎 克則	22	福島商高	
〃	藤原 順	22	秋田商高	
〃	寺嶋 哲也	22	仙台育英高	
〃	及川 義彦	21	一関商工高	
〃	後藤 良	20	福島商高	
外野	○佐藤 雅司	28	仙台育英高	
〃	沼澤 誠	29	角館高	
〃	遠藤 昌宏	25	仙台商高	
〃	星 伸一	25	仙台育英高	
〃	畠山 哲人	23	秋田商高	
〃	原野 優	22	仙台育英高	
〃	渡辺 則昌	20	福島商高	

NTT東北

監督	佐藤 公弘	33	国士舘大	
投手	斉藤 孝弘	26	福島商高	
〃	君島 厚志	23	立正大	
〃	斉藤 一則	22	拓殖大	
〃	柿沢 一雅	21	盛岡市高	
〃	池田 敏昭	20	酒田工高	
〃	越田 仁孝	19	青森北高	
〃	添田 光夫	19	平工高	
捕手	菊田 善信	27	駒沢大	
〃	加藤 憤一	21	仙台工高	
〃	山内 聡	20	青森北高	
内野	○福地日出雄	27	東農大高	
〃	伊藤 友喜	25	関東学院大	
〃	大竹 松男	24	東北福祉大	
〃	清家 圭税	24	近大呉	
〃	塩谷 肇	24	国士舘大	
〃	板井 博行	23	東農大	
〃	佐藤 康一	22	中央大	
〃	戸羽 英之	18	一関商工高	
外野	菅野 俊之	29	東農大	
〃	藤原 修	28	専修大	
〃	小野 亨	27	東農大	
〃	高橋 幸一	27	法政大	
〃	高松 直志	24	能代高	
〃	多田 浩	22	帝京大	

日本石油

監督	磯部 史雄	36	法政大	
投手	山岡 政志	26	秋田商高	
〃	岡田 邦彦	24	駒沢大	
〃	増永 祐一	18	鹿児島商工高	
〃	金沢 健一	18	棚倉高	
〃	保戸田勝利	20	帝京高	
〃	大沼 民之	26	明治大	
〃	高橋 一彦	23	前橋工高	
捕手	佐藤 孝治	22	早稲田大	
〃	対馬 昭男	26	帝京大	
〃	加藤 敦彦	25	長崎海星高	
内野	中葉伸二郎	25	法政大	
〃	大久保盛義	25	明治大	
〃	石川 正之	23	神奈川大	
〃	伊藤 義樹	21	中京高	
〃	○吉田 敏道	28	明治大	
〃	田島 信昭	25	帝京大	
〃	十河 徳行	25	高松商高	
外野	関口 浩司	24	横浜商高	
〃	佐藤 功	27	早稲田大	
〃	玉川 寿	26	慶応大	
〃	曽根原博志	26	亜細亜大	
〃	奥原万佐紀	22	専修大	
〃	田中 泰	24	東経大	
〃	荒井 幸雄	20	横浜商高	
〃	山下 正浩	19	泉州高	

三菱自動車川崎

監督	垣野 多鶴	33	東海大	
投手	吉沢 哲也	20	大島高	
〃	小野 哲	18	相洋高	
〃	安保 浩幸	22	日体大	
〃	上野 俊一	21	山形商高	
〃	武藤 信二	24	法政大	
〃	小笠原敏雄	28	太田工高	
捕手	村上 寛之	22	御殿場西高	
〃	吉田 康夫	23	日大東北高	
〃	安斉 卓己	19	日体荏原高	
〃	平野 逸男	24	佐世保工高	
〃	斉藤 徹	18	天竜光洋高	
内野	清水 雅治	20	浜田高	
〃	○松野 章男	27	帝京高	
〃	鶴見 信彦	18	向上高	
〃	佐藤 信行	21	修徳高	
〃	大須賀康浩	31	法政大	
〃	四條 稔	18	東海大甲府高	
〃	和田 敏雄	24	日大三高	
外野	佐藤 浩光	24	上尾高	
〃	金子 元樹	20	武相高	
〃	角 晃司	25	東海大	
〃	米田 敏之	25	修徳高	
〃	小川 欣也	26	吉原工高	
〃	村田 雅彦	19	徳島商高	
〃	堀井 哲也	23	慶応大	

本田技研

監督	河本 昭人	43	久賀高	
投手	岡本 隆之	24	青山学院大	
〃	冨山 和広	23	中央学院大	
〃	中屋 桂介	23	長門高	
〃	藤原 博	29	吉原商高	
〃	伊東 昭光	22	帝京高	
〃	加藤 真二	19	米沢中央高	
捕手	金井 利行	21	ＰＬ学園高	
〃	上田 治伸	23	駒沢大	
〃	長井 研介	28	中央大	
〃	宇田川丈昌	24	日本大	
内野	広瀬 哲朗	25	駒沢大	
〃	朝山 憲重	20	ＰＬ学園高	
〃	佐藤 資洋	26	東海大	
〃	中山 多聞	24	法政大	
〃	古谷 肇	24	青山学院大	
〃	山越 吉洋	23	法政大	
〃	鈴木 和芳	20	喜多方商高	
〃	青木 一芳	23	拓大一高	
〃	入内島 保	28	青山学院大	
外野	荻原 俊文	24	亜細亜大	
〃	佐藤 正之	27	拓大一高	
〃	柳川 明弘	25	近畿大	
〃	吉田 均	23	法政大	
〃	松田 裕之	26	東洋大	
〃	○雨堤 浩久	31	中央大	

東芝

監督	前野 和博	36	芝浦工大	
投手	田 義政	26	中央大	
〃	菊池 総	24	明治大	
〃	木暮 洋	23	早稲田大	
〃	清野 潤二	19	高鍋高	
〃	近藤 芳久	19	能代商高	
〃	蒲谷 和茂	18	関東学院六浦高	
捕手	安斉 定男	28	横浜商大高	
〃	泉水 稔	24	興南高	
〃	飯持 益美	24	同志社大	
〃	斉藤 敏夫	19	鶴見工高	
内野	○宮崎 剛	31	専修大	
〃	武智 勇治	30	駒沢大	
〃	新木 忠力	30	東農大	
〃	片岡 定治	26	法政大	
〃	小林 薫	24	青山学院大	
〃	真喜志康永	24	沖縄尚学高	
〃	山内 啓史	23	亜細亜大	
〃	丹波 健二	19	日体荏原高	
外野	福本 勝幸	27	早稲田大	
〃	鈴木 栄一	26	日大三高	
〃	梁原 修志	25	苫小牧工高	
〃	田辺 浩昭	24	法政大	
〃	前田 誠	23	駒沢大	
〃	藤原 興司	23	九州共立大	
〃	金敷 雅彦	22	明治大	

日本楽器

監督	津布久欣司	34	駒沢大	
投手	河井 誠	23	日大高	
〃	柳原 隆之	27	亜細亜大	
〃	徳山 英之	19	富士学苑高	
〃	高久 孝	27	駒沢大	
〃	直井 慎吾	20	名古屋学院高	
〃	高田 博久	24	青山学院大	
〃	劉 秋農	29	輔仁大	
〃	太田 健次	31	安積商高	
捕手	宗雪 明志	21	新居浜高専	
〃	佐藤 正則	27	関東学院大	
〃	富永 哲司	22	浜名高	
内野	小阪田 宏	23	中央大	
〃	大野 敏彦	33	山口鴻城高	
〃	山本 一之	28	青山学院大	
〃	高重 隆治	24	青山学院大	
〃	山本 秀樹	30	名城大	
〃	○武居 邦生	29	国士舘大	
〃	宮坂 重雄	21	中京商高	
外野	中村 和彦	25	駒沢大	
〃	西川 公紹	27	中央大	
〃	小林 直樹	27	亜細亜大	
〃	伊藤 裕二	27	中央大	
〃	内海 昌之	30	亜細亜大	
〃	後藤 政広	21	掛川西高	
〃	内山 仁志	32	中央大	

河合楽器

監督	田村 利宏	44	中央大	
投手	松田 昇	27	中央大	
〃	太田 智之	23	明治大	
〃	谷津田伸二	22	中央大	
〃	徳岡 潤	22	大商大	
〃	桜庭 広喜	21	金足農高	
〃	水沢 薫	20	秋田商高	
〃	桑原 裕二	20	ＰＬ学園高	
捕手	市川 善文	24	大商大	
〃	安間 大芳	23	中央大	
〃	外山 浩美	23	中央大	
内野	山本宗三郎	32	国士舘大	
〃	村瀬 耕次	26	中京大	
〃	黒田 豊	26	立命館大	
〃	林 華章	26	台湾輔仁大	
〃	武内 久也	24	中央大	
〃	大石 正勝	22	浜松商高	
〃	鈴木 智治	22	中央大	
〃	栗林 友一	22	中央大	
〃	上中 勝矢	19	泉州高	
外野	○大須賀 健	26	中央大	
〃	牛尾 浩	24	中央大	
〃	並木 保彦	23	青山学院大	
〃	樽井 徹	23	法政大	
〃	西原 忠善	22	中央大	
〃	鈴木 徳久	21	磯原高	

本田技研鈴鹿

監督	藤村 哲也	38	法政大	
投手	塩崎 章生	25	新宮商高	
〃	上田 忠	20	兵庫育英高	
〃	樋口 英樹	24	桜井商高	
〃	許 正宗	25	台湾輔仁大	
〃	坂口 孝男	20	不破高	
〃	近田 豊年	20	明徳義塾高	
捕手	梅木 淳次	19	伊野商高	
〃	松田 達男	31	東海大	
〃	長崎 芳秀	19	滝高	
〃	葉室 太郎	19	東洋大姫路高	
内野	江原 祐次	28	駒沢大	
〃	山中 茂直	25	法政大	
〃	北畑 達也	27	東海大	
〃	手嶋 浩	25	法政大	
〃	岡崎 純一	25	県岐阜商高	
〃	大西 満	24	立命館大	
〃	今山 和之	19	智弁学園高	
〃	趙 士強	25	台湾文化大	
外野	大久保 隆	25	桜美林高	
〃	木村 旬	19	栗東高	
〃	佐々木健二	20	中京高	
〃	右京 哲	24	法政大	
〃	岸岡 昇	22	宍喰商高	
〃	○黒田 晃	28	法政大	
〃	全並 和彦	31	愛知学院大	

NTT東海

監督	杉本 健一	35	愛知工大	
投手	金池 雅彦	22	愛知学院大	
〃	岩瀬 明彦	19	碧南工高	
〃	清水 雅彦	24	智弁学園高	
〃	笠井孝志登	21	中京商高	
〃	所 善隆	22	駒沢大	
〃	中森 裕哉	19	相可高	
〃	長谷川豊和	25	明治学院大	
〃	鈴木 亨	24	静岡商	
捕手	中西 親志	24	相可高	
〃	大川 雅則	19	三島高	
内野	澤田 郡拡	19	滝高	
〃	湯之戸孝修	31	近畿大	
〃	浅野 和弘	23	中京高	
〃	辻 慶人	24	日本大	
〃	小松 直樹	22	駒沢大	
〃	○内藤 清貴	26	中京大	
〃	井上 雅晴	21	東邦高	
外野	望月 広武	23	専修大	
〃	川合 隆文	23	東洋大	
〃	宮本 和徳	24	近畿大	
〃	大林 悟	26	県岐阜商高	
〃	森田 範三	20	中京高	
〃	木戸 均	24	名城大	

松下電器

監督	山口　円	35	関西大	
投手	北口　勝久	30	早稲田大	
〃	米澤　秀典	23	大阪学院大	
〃	石田富士男	26	日体大	
〃	原　邦彦	26	岡山東商高	
〃	塚岡　広仁	27	倉敷工高	
〃	小原　秀天	19	新宮高	
〃	渡辺　一博	23	大商大	
捕手	○大本　二郎	28	倉敷工高	
〃	渋谷　卓也	27	同志社大	
〃	井口　義則	24	吉備高	
内野	広岡　資生	25	早稲田大	
〃	林　寿郎	27	立教大	
〃	北野　敏史	24	箕島高	
〃	太田　晃生	22	大阪学院大	
〃	楠　豊寿	26	愛知学院大	
〃	谷川　和宏	20	報徳学園高	
〃	奥代　恭一	25	関西大	
外野	篠崎　宏道	26	近畿大	
〃	島田　行雄	30	近畿大	
〃	小野　忠史	24	東洋大	
〃	平岡　靖彦	26	日体大	
〃	南村　典男	21	箕島高	
〃	中西　靖信	25	PL学園高	
〃	杉本　吉永	25	関西大	
〃	澤田　裕	23	大商大	

日本生命

監督	佐竹　政和	38	関西大	
投手	加藤　重雄	29	法政大	
〃	森　明彦	28	河南高	
〃	伊藤　伸幸	26	東経大	
〃	早瀬　万豊	27	関西大	
〃	土手本勝昭	24	亜細亜大	
〃	田嶋　俊雄	20	長浜北高	
捕手	鍛治本明典	26	近畿大	
〃	佐竹　政和	38	関西大	
内野	○赤井　淳二	34	近畿大	
〃	井尻　陽久	33	東海大	
〃	花野　巧	32	同志社大	
〃	佐藤　清	29	早稲田大	
〃	大西　慶典	24	東洋大	
〃	中村　昭徳	24	専修大	
〃	高比羅規人	23	近畿大	
〃	辻　政幸	22	大経大	
〃	山中　利光	19	泉州高	
〃	山上　和志	18	泉州高	
外野	内田　敏弘	27	法政大	
〃	森田　昇	27	近畿大	
〃	山内　博史	25	大商大	
〃	中橋　伸幸	26	愛知学院大	
〃	石井　清	25	東京大	
〃	児玉　卓也	24	東海大	
〃	石井　崇之	23	日体大	

神戸製鋼

監督	大村　雅文	33	専修大	
投手	小林　誠	20	鳥取城北高	
〃	宮長　貞行	18	市尼崎高	
〃	西嶋　和之	22	龍谷大	
〃	矢野　和哉	22	報徳学園高	
〃	長渡　宏之	20	吉備高	
〃	赤堀　俊文	23	明治大	
〃	増水　和生	23	神戸学院大	
〃	山本　正信	26	駒沢大	
捕手	岡本　哲司	24	吉備高	
〃	川井　直之	22	金沢星稜高	
〃	荒井　信久	31	明治大	
〃	松尾　宏樹	20	柳川高	
内野	中川　哲	28	駒沢大	
〃	神橋　孝治	20	大分商高	
〃	西川　幸宏	21	金沢星稜高	
〃	上野　徳和	23	市神港高	
〃	川原崎　実	21	村野工	
〃	高野　清秀	25	専修大	
〃	能勢　勝嗣	23	近畿大	
外野	日川　雅夫	26	明治大	
〃	○小林　貢	32	姫路商高	
〃	浦本　慶啓	28	亜細亜大	
〃	中村　好治	31	専修大	
〃	丹波谷至邦	22	立命館大	

川崎製鉄神戸

監督	生田日出男	36	明石南高	
投手	真鍋　義之	31	神港学園高	
〃	宮内　義則	22	鳴門工高	
〃	石井　雅也	23	東洋大姫路高	
〃	岡本　透	20	報徳学園高	
〃	藪　浩昭	22	御坊商工高	
〃	西川　勝	26	近畿大	
捕手	以倉　章	25	関西学院大	
〃	初田　幸広	19	尼崎工高	
〃	細田　士郎	23	明石南高	
〃	船越　泰弘	32	博多工高	
内野	中村　佳正	29	同志社大	
〃	中谷　亨	27	大経大	
〃	嶌　吉雄	25	比叡山高	
〃	島本　裕	21	報徳学園高	
〃	上村　真弘	24	田辺商高	
〃	浜名　敬一	24	明石南高	
〃	○福本　正行	29	村野工高	
〃	五島　卓道	31	早稲田大	
外野	筑瀬　隆生	25	天理高	
〃	川中　哲也	22	尽誠学園高	
〃	石津　明弘	26	大経大	
〃	宮本　宗篤	24	田辺商高	
〃	山中　正則	28	和歌山工高	
〃	菊地　弘之	25	南宇和高	
〃	浅田　史男	27	南宇和高	

三菱重工神戸

監督	竹中　円	34	萩高	
投手	吉川　克彦	21	舞子高	
〃	植田　宏	20	県尼崎工高	
〃	千々松誠二	21	村野工高	
〃	植松　勉	24	高松南高	
〃	栗田　聡	21	明石高	
捕手	広永　貴俊	19	鳴門商高	
〃	富　光男	26	専修大	
〃	大西　美昌	22	池田高	
内野	○岡田　敏裕	29	同志社大	
〃	戎井　昭彦	24	専修大	
〃	萩田　良治	19	徳島商高	
〃	山口　敏弘	23	東洋大	
〃	山下　圭三	23	村野工高	
〃	原田　正剛	20	伯方高	
〃	水谷　義孝	22	育英高	
〃	鈴木　清貴	23	尽誠学園高	
〃	青田　勝則	21	市川高	
外野	松本　芳一	28	東洋大	
〃	伊藤　滋宏	25	同志社大	
〃	杉山　基浩	21	箕島高	
〃	林　昌希	24	神戸学院大	
〃	綱岡　正	24	滝川高	
〃	中馬　秀雄	27	立命館大	

住友金属

監督	清水　長寿	33	早稲田大	
投手	家永　裕章	19	向陽高	
〃	小杉　大三	24	和歌山工高	
〃	松本　豊	21	秋田経法大付高	
〃	高橋　修二	28	高知高	
〃	吉木　直也	23	関西学院大	
〃	武田　重美	27	西南学院大	
〃	古賀　達也	26	佐賀竜谷高	
捕手	西岡　良展	23	早稲田大	
〃	羽佐　吉史	21	御坊商工高	
〃	西　幸二	19	新宮商高	
内野	中田　等	24	同志社大	
〃	福本　保彦	20	高知高	
〃	前田　寿啓	22	東海大工高	
〃	佐藤　雄樹	25	早稲田大	
〃	勘佐　寿人	18	箕島高	
〃	田中　祐司	27	鳴門高	
〃	松隈　憲治	31	柳川高	
外野	○筒井　大助	27	関西学院大	
〃	丸山　耕司	22	智弁学園高	
〃	児嶋　保成	21	箕島高	
〃	黒石　厚	26	法政大	
〃	川畑伸一郎	18	鹿児島商高	
〃	栗山　和行	25	明治大	
〃	松原　俊郎	27	同志社大	
〃	三好　一幸	32	東海大相模高	

日本鋼管福山

監督	深草　真敏	38	日本大	
投手	高橋　周司	30	亜細亜大	
〃	内山田慶弘	33	福岡大	
〃	塩山　康浩	20	熊本第一工高	
〃	田代　敬治	22	八幡大	
〃	平田　照美	23	岩国商高	
〃	安富　洋二	20	関西高	
〃	浜口　守	26	弓削商船高専	
捕手	古谷　義浩	19	多々良学園高	
〃	古川　英行	25	盈進高	
〃	白石　則幸	29	西条高	
〃	大倉　孝一	23	駒沢大	
内野	小川　浩一	20	佐賀学園高	
〃	戸田　好孝	21	広陵高	
〃	西嶋　哲久	24	近畿大	
〃	村上　文敏	23	駒沢大	
〃	岡田　和則	22	府中東高	
〃	○渡部　一治	30	駒沢大	
〃	佐名木睦夫	30	盈進高	
〃	安永　利和	23	尼崎北高	
〃	小林　雅彦	23	近畿大	
外野	藤田　賢二	21	桜宮高	
〃	松浦　伸生	29	下関商高	
〃	岩野　好伸	25	東洋大	
〃	佐藤　洋一	26	二松学舎大付高	
〃	木村　浩	27	大商大	

川崎製鉄水島

監督	蔵元　修一	30	慶応大	
投手	西村　和彦	27	宇部工高	
〃	北野　英俊	23	玉島商高	
〃	山本　勲	24	専修大	
〃	射手園真一	22	住吉商高	
〃	大迫　義紀	19	加治木工高	
〃	岸本　和彦	23	PL学園高	
〃	村元　保彦	22	岩国工高	
捕手	上田　晴久	24	城内高	
〃	木口　尚之	28	水島工高	
〃	黒木　隆春	24	延岡学園高	
内野	神土　秀樹	27	倉敷工高	
〃	乍　智之	23	PL学園高	
〃	本池　義人	24	境高	
〃	清家　和男	21	PL学園高	
〃	清重　一正	27	宇部工高	
〃	○浦名　恒平	28	慶応大	
〃	楮原　英俊	30	鳥取工高	
〃	河津　義広	19	太成高	
〃	天早　敏浩	19	境高	
外野	川越　勉	26	米子工高	
〃	森下　雄一	22	倉敷工高	
〃	川村　正生	26	関西大	
〃	松下　和統	27	中央大	
〃	西上　健治	26	岡山南高	
〃	松本　武彦	28	同志社大	

NTT四国

監督	横松　英雄	39	関東学院大	
投手	滝下　茂信	27	穴吹高	
〃	森　圭介	26	東洋大	
〃	石丸　裕志	25	駒沢大	
〃	神田　敦	24	日体大	
〃	土田　博健	22	帝京第五高	
〃	篠宮　勝敏	19	今治北高	
〃	西川　憲一	19	大洲農高	
捕手	夕部　孝豊	23	大方商高	
〃	武田　和高	21	明徳義塾高	
〃	白石　勇二	19	松山商高	
内野	鎌土　隆志	29	高知商高	
〃	緒賀　克郎	26	東洋大	
〃	武田　正人	24	駒沢大	
〃	三好　利幸	22	北条高	
〃	竹島　誠	23	九州東海大	
〃	小谷　雄司	20	明徳義塾高	
〃	西園寺師仁	20	八幡浜高	
〃	加藤　浩嗣	20	新居浜工高	
外野	和田　恵充	31	松山商大	
〃	○板東　照雄	28	立正大	
〃	石元　浩三	27	新田高	
〃	三倉　一男	26	駒沢大	
〃	吉田　衡	20	池田高	

四国銀行

監督	城下　照男	31	専修大	
投手	○山本　智久	28	池田高	
〃	宮本　典幸	27	帝京大	
〃	橋谷　正人	24	大商大	
〃	大沢　一弘	22	東洋大	
〃	浜田　孝伸	22	東邦大	
捕手	沖田　雅夫	30	高知商高	
〃	渡辺　毅	26	専修大	
〃	宮本　章彦	24	東経大	
内野	森本　誠	30	高知商高	
〃	乃一　官	30	関西大	
〃	薬師神一成	27	京産大	
〃	森　正隆	26	明治大	
〃	伊名　正道	24	東洋大	
〃	森田　洋生	23	明治大	
〃	谷岡　秀一	22	亜細亜大	
外野	阿部　稔	27	大商大	
〃	小橋　基喜	26	駒沢大	
〃	西　弘顕	25	明治大	
〃	井上　幹也	23	愛知学院大	
〃	宮本　雄二	22	神奈川大	

大分鉄道管理局

監督	出田　祐一	42	八女高	
投手	藤本　弘之	26	熊本第一工高	
〃	秋吉　利彦	24	日田林工高	
〃	小間　充	24	津久見高	
〃	足立　義男	29	大分商高	
〃	栗田　実	22	別府商高	
〃	油布　進	22	大分工高	
捕手	松田　源治	22	杵築高	
〃	工藤　俊二	25	佐伯豊南高	
内野	吉野　正幸	27	日田林工高	
〃	井上　亀吾	22	大分工高	
〃	前谷　義幸	22	柳ケ浦高	
〃	荻　浩文	24	大分商高	
〃	西島　正夫	32	熊本第一工高	
〃	田口　昇	21	津久見高	
外野	長野　順司	22	別府商高	
〃	屋田　浩孝	26	大分商高	
〃	甲斐　敦司	28	大分商高	
〃	吉野　高明	32	大分商高	
〃	○小田　隆	29	長崎海星高	

本田技研熊本

監督	大塚　勝秋	40	法政大	
投手	吉田　豊彦	19	国東高	
〃	尾崎　定己	20	球磨農	
〃	池尻　康晴	24	久留米商高	
〃	山田　武史	20	久留米商高	
〃	内田　和広	26	都城商高	
〃	高村　洋介	20	熊本工高	
〃	松本　弘幸	24	熊本第一工高	
〃	田代　尚幸	20	佐世保商高	
捕手	関　慎一郎	22	鎮西高	
〃	田中　忠勝	22	久留米商高	
〃	藤田　進	34	大東文化大	
内野	○原野　洋成	24	久留米商高	
〃	徳留　健次	20	都城高	
〃	竹田　満宗	19	豊国学園高	
〃	坂本　正	20	熊本第二高	
〃	川道　二郎	19	東海大二高	
〃	今川　英人	21	国学院久我山高	
〃	清水　耕作	20	日田林工高	
〃	山隈　博之	20	大津高	
外野	河野幸四郎	20	都城商高	
〃	安藤　芳人	20	日田林工高	
〃	平畠　光行	20	熊本工高	
〃	宮本　幸広	21	八代第一高	
〃	内村　徹	20	熊本工高	
〃	本田　裕一	20	九州学院高	

第13回大会

1986年(昭和61年)10月19日▶10月27日　大阪球場

優勝＝NTT東海 ――――――――――――――――――――――――（初優勝）

三菱重工神戸	(近　畿)	0						
NTT東海	(東海・北陸)	14	NTT東海	1	NTT東海	9		
協和発酵	(中　国)	3					NTT東海	7
河合楽器	(中　部)	2	河合楽器	5	河合楽器	2		
日本生命	(近　畿)	1						
プリンスホテル	(関　東)	4						
四国銀行	(四　国)	4					NTT東海	5
王子製紙苫小牧	(北海道)	2	新日鉄広畑	3	四国銀行	0		
新日鉄広畑	(近　畿)	4					NTT東北	1
富士重工業	(関　東)	7	日鉱佐賀関	3	NTT東北	9		
日鉱佐賀関	(九　州)	8						
NTT東北	(東　北)	6						
阿部企業	(近　畿)	9						
新日鉄室蘭	(北海道)	4	三菱自動車水島	3	阿部企業	6		
三菱自動車水島	(中　国)	5					阿部企業	4
大昭和製紙	(中　部)	0	三菱自動車京都	5	三菱自動車京都	1		
三菱自動車京都	(近　畿)	1						
住友金属鹿島	(関　東)	1						
川崎製鉄神戸	(近　畿)	8						
新日鉄釜石	(東　北)	6	新日鉄釜石	3	川崎製鉄神戸	6		
NTT四国	(四　国)	1					川崎製鉄神戸	1
三菱自動車川崎	(関　東)	1	新日鉄八幡	5	NTT北陸	4		
新日鉄八幡	(九　州)	2						
NTT北陸	(東海・北陸)	7						

NTT東海

NTT東海、乱戦制す

サヨナラ試合が5、うちサヨナラ本塁打で決まったのが3試合と波乱にとんだ大会を制したのは、5回目出場のNTT東海だった。

NTT東海は開幕試合の協和発酵戦で、九回に10点を奪うなど猛打を振るうと、2回戦の三菱重工神戸戦では一転して1点を守り切るなど、スキのないチームだった。笠井、鈴木を軸にした投手陣、中西、木戸を中心にした打線の集中攻撃は見事で、投打のまとまりで初優勝を射止めた。

初出場で準優勝の阿部企業は、大会屈指の好投手で台湾出身の陽の力投を支えに、小羽、前田、山本らが勝負強いバッティングをみせ、持てる力を存分に出し切った。NTT勢、近畿勢の活躍が目立ったが、4強に残ったNTT東北はベテラン・斉藤孝の老練な投球がさえ、川崎製鉄神戸は藪の粘り強い力投が光った。

さらに特筆されるのは初出場のNTT北陸。新日鉄八幡、川崎製鉄神戸戦でいずれも九回にそれぞれ5点差、3点差をはね返して延長戦に持ち込んだ粘りは、夏の都市対抗準優勝の底力を感じさせた。一方、優勝候補の三菱自動車川崎、プリンスホテル、富士重工業など関東勢がいずれも初戦敗退したのは、残念だった。

〔優勝戦〕NTT東海―阿部企業　優勝の瞬間、抱き合う笠井、中西のバッテリーに駆け寄るNTT東海ナイン。

大会審判

▷委員長＝小西正一▷副委員長＝米谷道雄、三輪武、山川脩司▷幹事＝中西明、三宅享次、岡本好二、津田浩嗣▷委員＝戸田直佑、本郷良直、片岡成夫、広沢亘治、木嶋一黄、清水正輝、原田謹爾、上杉正、岸野金治、樫根清一、大橋慶三、小林勉、桃田晴彦、中西則夫、河島秀喜、桂等、吉田龍男、鹿多証道、生越芳明、東優孝、辻喜正、巽正一、岡本良一、美馬洋、中川雅夫、宮木明、土井池憲治、杉中豊、南垣勇、田中美一、三橋隆之、長谷至康、永田兼治、丸屋琢美、伊東登、大石泰、梶浦照樹、宮奥欣司

▽10月19日

第1試合＝1回戦(午前10時8分開始)

ＮＴＴ東海	000	202	0010	14
協和発酵	000	011	010	3

▶審判(球審)小林(塁審)三橋、桂、中西則

【ＮＴＴ東海】	打	安	点	振	球
⑤ 辻	5	1	3	0	0
⑧ 大林	0	0	0	0	0
H8 宮本	3	0	0	0	2
⑦ 森田	3	0	0	0	2
R7 望月	0	0	0	0	0
② 中西	4	3	4	0	1
⑨ 木戸	5	2	1	1	0
③ 大川	5	2	3	2	0
⑥ 井上	3	1	1	0	1
④ 沢田	5	1	0	1	0
① 笠井	2	0	0	0	0
H 川合	1	0	0	0	0
1 鈴木	1	1	2	0	0
犠併残 1 1 3	37	11	14	4	6

【協和発酵】	打	安	点	振	球
④ 岡本	4	2	1	0	0
⑧ 山口	4	1	0	0	0
③ 藤本	4	1	0	0	0
⑤ 得津	4	1	1	0	0
⑦ 古嶋	3	0	0	0	0
H 国本	1	0	0	0	0
⑥ 西本	4	1	0	0	0
⑨ 平野	3	0	0	1	1
② 坂本	3	0	0	0	0
① 合原	1	0	0	1	0
H 立花	1	0	0	1	0
1 佐藤	0	0	0	0	0
H 古賀	1	0	0	0	0
1 別府	0	0	0	0	0
1 浜口	0	0	0	0	0
1 古谷	0	0	0	0	0
犠併残 0 0 4	33	6	2	3	1

	回	安	振	球	責
笠井	6	4	2	1	1
鈴木	3	2	1	0	1
合原	5	3	1	1	2
佐藤	3	1	2	1	2
別府	⅓	4	0	1	5
浜口	⅔	1	0	2	3
古谷	⅔	2	1	1	2

▷本塁打＝中西1号②(合原)2号②(佐藤)岡本1号(鈴木)辻1号③(浜口)▷二塁打＝藤本、沢田、得津▷犠打＝N1(井上)▷盗塁＝N2(宮本、大川)▷失策＝N1(辻)▷試合時間＝2時間36分

◎…NTT東海が九回の集中打で協和発酵をねじ伏せた。四回に中西の2ランで先制したNTTは、六回にも中西が中堅左に2打席連続(大会タイ)の2点本塁打。圧巻は1点差に追い上げられた九回の攻撃。協和発酵の3投手に辻の3ランを含む7安打を浴びせて、打者14人で大会記録を塗りかえる1イニング最多の10点。投げては、笠井―鈴木の好継投で反撃をかわした。

第2試合＝1回戦(午後1時25分開始)

日本生命	000	000	001	1
河合楽器	010	001	00X	2

▶審判(球審)本郷(塁審)片岡、杉中、伊東

【日本生命】	打	安	点	振	球
⑧ 森田	3	0	0	0	1
⑨ 石井	3	1	0	0	1
④ 花野	4	0	0	0	0
③ 佐藤	2	1	1	0	2
⑦ 中橋	4	0	0	1	0
② 内田	4	0	0	1	0
⑤ 辻	1	0	0	0	1
H 守屋	1	0	0	0	0
5 大西	0	0	0	0	0
H 鍛治本	1	0	0	0	0
⑥ 米崎	3	0	0	0	0
① 田嶋	2	1	0	0	0
1 早瀬	0	0	0	0	0
H 児玉	1	1	0	0	0
1 森	0	0	0	0	0
犠併残 0 0 6	29	4	1	2	5

【河合楽器】	打	安	点	振	球
⑧ 牛尾	4	2	0	0	0
④ 盛	4	1	0	0	0
③ 村瀬	4	1	1	1	0
⑦9 並木	3	2	1	0	0
⑨ 樽井	2	0	0	2	0
7 西原	1	0	0	0	0
⑤ 鈴木智	3	0	0	1	0
⑥ 黒田豊	3	0	0	2	0
② 安間	3	0	0	1	0
① 水沢	3	0	0	2	0
犠併残 0 1 4	30	6	2	9	0

	回	安	振	球	責
田嶋	5⅓	6	6	0	2
早瀬	1⅔	0	2	0	0
森	1	0	1	0	0
水沢	9	4	2	5	1

▷本塁打＝並木1号(田嶋)佐藤1号(水沢)▷三塁打＝牛尾▷二塁打＝牛尾▷盗塁＝日1(石井)▷試合時間＝1時間55分

第3試合＝1回戦(午後3時52分開始)

新日鉄広畑	101	000	002	4
王子製紙苫小牧	000	000	200	2

▶審判(球審)清水(塁審)津田、東、美馬(外審)永田、大石

【新日鉄広畑】	打	安	点	振	球
⑧ 原田	4	2	0	0	1
⑥ 児玉	3	2	2	0	1
② 応武	4	0	1	2	0
⑨ 尾形	4	2	1	0	0
⑤ 砂田	4	1	0	1	0
③ 林	4	0	0	3	0
⑦ 船越	4	1	0	1	0
① 足達	3	1	0	2	0
1 藤高	0	0	0	0	0
④ 大墨	3	0	0	0	0
H 黒田純	1	0	0	0	0
4 北野	0	0	0	0	0
犠併残 3 1 8	34	9	4	9	2

【王子製紙】	打	安	点	振	球
③ 長沢	4	1	0	2	0
⑥ 佐々木一	4	0	0	0	0
⑦ 佐々木稔	4	2	0	1	0
⑧ 沢田	4	1	2	1	0
⑤ 千葉	4	1	0	2	0
⑨ 石井	3	0	0	0	0
H 阿部行	1	0	0	0	0
④ 竹林	3	1	0	1	0
② 山根	2	0	0	1	1
① 中嶋	3	0	0	2	0
1 滝川	0	0	0	0	0
犠併残 0 0 4	32	6	2	10	1

	回	安	振	球	責
足達	7	5	7	0	2
藤高	2	1	3	1	0
中嶋	8⅔	9	8	2	4
滝川	⅓	0	1	0	0

▷本塁打＝沢田1号②(足達)▷二塁打＝児玉▷犠打＝新3(児玉、応武、藤高)▷盗塁＝新2(原田、児玉)王1(千葉)▷失策＝王1(竹林)▷試合時間＝2時間40分

▽10月20日

第1試合＝1回戦(午前8時53分開始)

富士重工業	201	000	202	7
日鉱佐賀関	100	003	013	8

▶審判(球審)三宅(塁審)津田、生越、原田

【富士重工業】	打	安	点	振	球
⑧ 井上肇	4	1	1	1	1
④ 富永	4	3	1	0	0
③ 鈴木	5	2	0	1	0
⑨ 野口	4	2	2	1	0
⑤ 村田	5	2	2	0	0
⑦ 藤野	3	2	0	0	0
7 市川	2	1	0	1	0
⑥ 細内	4	1	0	1	1
② 長崎	1	0	0	0	0
H 木村	1	1	0	0	0
R 阿波連	0	0	0	0	0
2 大久保	1	0	0	0	1
① 向田	4	0	0	1	0
1 古尾谷	0	0	0	0	0
犠併残 4 0 11	38	15	6	6	3

【日鉱佐賀関】	打	安	点	振	球
④ 上野	5	1	1	0	0
⑤ 伏原	4	2	0	0	0
③ 野上	4	2	0	0	1
② 羽田野	5	2	4	2	0
⑥ 清原	5	2	1	2	0
⑨ 佐藤	3	1	1	0	1
⑧ 平野	4	2	0	1	0
⑦ 岩尾	4	1	0	0	0
① 有馬	1	0	0	0	0
1 宮本	0	0	0	0	0
H 金田	1	0	0	0	0
1 清	0	0	0	0	0
1 古田穣	0	0	0	0	0
H 古田徹	1	1	0	0	0
犠併残 2 0 7	37	14	7	5	2

	回	安	振	球	責
向田	8⅔	12	5	1	6
古尾谷	⅔	2	0	1	1
有馬	3⅔	5	2	1	3
宮本	4	5	3	1	2
清	⅓	2	0	0	0
古田穣	1⅔	3	1	1	1

▷本塁打＝羽田野1号③(向田)富永1号(宮本)▷二塁打＝野口、富永、平野、木村、清原、岩尾、伏原▷犠打＝富4(富永、野口、長崎、向田)日2(伏原、宮本)▷盗塁＝富3(富永、鈴木、村田)▷失策＝日1(清原)▷捕逸＝長崎▷試合時間＝2時間42分

第2試合＝1回戦(午後0時7分開始)

新日鉄室蘭	000	010	201	4
三菱自動車水島	000	030	101	5

▶審判(球審)木嶋(塁審)樫根、岡本良、土井池

【新日鉄室蘭】	打	安	点	振	球
⑥ 遠田	3	1	0	1	2
⑤ 鹿田	3	0	0	1	0
H5 岡田健	2	1	0	1	0
⑨ 岡田仁	5	1	0	1	0
③ 鈴木忠	2	0	0	1	3
⑧ 堀松	3	0	0	1	0
H 平間	1	1	2	0	0
8 関	1	0	0	1	0
⑦ 馬場	4	1	1	0	1
④ 桜井	3	0	0	0	0
② 長山	3	1	0	0	1
① 浅川	2	0	0	0	0
1 米山	1	0	0	0	0
H 本間	0	0	0	0	1
1 窪田	0	0	0	0	0
1 今野	0	0	0	0	0
犠併残 1 0 11	33	6	3	7	8

【三菱水島】	打	安	点	振	球
⑧ 森川	3	1	1	1	0
④6 堀内	3	0	0	1	1
H 渡辺	0	0	0	0	1
⑦ 山本	3	1	3	0	0
③ 勝部	4	0	0	0	0
⑤ 八木	3	1	1	0	1
② 久保田	4	1	0	0	0
⑨ 藤猪	4	1	0	1	0
⑥ 松本	3	1	0	1	0
4 井上	0	0	0	0	1
① 東森	3	1	0	1	0
1 永峯	0	0	0	0	0
犠併残 5 0 8	30	7	5	5	4

	回	安	振	球	責
浅川	4⅔	3	3	1	3
米山	2⅓	4	2	1	1
窪田	1⅓	0	0	1	1
今野	⅓	0	0	1	0
東森	7⅓	5	3	6	2
永峯	1⅔	1	4	2	1

▷本塁打＝八木1号(浅川)▷二塁打＝森川、岡田健、東森▷犠打＝新1(桜井)三5(森川2、山本2、永峯)▷盗塁＝新5(鹿田、鈴木忠、馬場、桜井、長山)三1(久保田)▷失策＝新1(鹿田)三3(松本3)▷試合時間＝3時間1分

第3試合＝1回戦(午後3時48分開始)

大昭和製紙	000	000	000	0
三菱自動車京都	000	010	00X	1

▶審判(球審)大橋(塁審)桃田、中川、南垣(外審)河島、長谷

【大昭和製紙】	打	安	点	振	球
⑨ 日隈	3	1	0	1	0
H 小池	1	0	0	0	0
④ 秋田	4	0	0	0	0
⑧ 木村	4	0	0	0	0
③ 高津	3	1	0	1	0
⑦ 井戸	3	1	0	0	0
⑥ 亀山	3	0	0	1	0
② 原田望	2	1	0	0	1
⑤ 角山	3	0	0	0	0
① 城内	3	0	0	1	0
犠併残 0 2 3	29	4	0	4	1

【三菱京都】	打	安	点	振	球
⑥ 枇本	2	1	0	0	2
④ 岡田英	2	0	0	0	0
⑧ 岡田周	3	1	1	0	1
⑨ 樋口	4	1	0	0	0
⑦ 木脇	4	0	0	0	0
⑤ 玉井	3	1	0	1	0
② 森上	3	1	0	1	0
③ 小林	3	1	0	2	0
① 織田	3	1	0	1	0
犠併残 2 1 7	27	7	1	5	3

	回	安	振	球	責
城内	8	7	5	3	1
織田	9	4	4	1	0

▷二塁打＝原田望、高津▷犠打＝三2(岡田英2)▷盗塁＝三1(小林)▷試合時間＝2時間

大昭和製紙に三塁踏ませず

◎…「丁寧に投げることを心掛けた」。三菱自動車京都の織田は流れる汗をぬぐおうともせず、106球の今大会初の完封試合を振り返った。予選を通じてすべて救援を頼んだが「このマウンドは気持ちよく投げられた」と、大昭和製紙打線を散発4安打に抑え、三塁も踏ませなかった。「1点差の試合は慣れている」といい、五回にはバント安打を決めて、唯一の得点に結びつけた。

ピンチといえば二塁に走者を背負った五、七回の一死二塁。五回は後続の2人を凡退させ、七回は亀山をシュートで詰まらせて二直併殺に仕留めて危なげなかった。

第4試合＝1回戦(午後6時18分開始)

新日鉄釜石	110	001	003	6
ＮＴＴ四国	000	000	100	1

▶審判(球審)三橋(塁審)宮奥、辻、鹿多(外審)長谷、河島

【新日鉄釜石】	打	安	点	振	球
⑧ 吉田	5	2	0	1	0
④ 山本	5	1	1	1	0
③ 菊池	5	1	0	1	0
⑦ 若槻	4	2	2	0	0
② 大溝	4	0	0	1	0
⑥ 田沢	3	1	0	1	1
⑨ 平間	3	1	0	1	0
① 斎藤	3	0	0	0	0
1 高島	1	1	0	0	0
⑤ 平川	3	1	2	1	0
犠併残 2 0 6	36	10	5	7	1

【ＮＴＴ四国】	打	安	点	振	球
⑤ 板東	3	1	1	0	1
④ 小谷	2	1	0	1	2
⑦ 武田正	4	0	0	4	0
③ 篠原	4	0	0	1	0
⑨ 三好	4	0	0	0	0
⑧ 石元	4	1	0	0	0
⑥ 緒賀	1	0	0	1	0
H 神田	1	0	0	0	0
R 三倉	0	0	0	0	0
6 竹島	1	1	0	0	0
H 松田	1	0	0	0	0
② 夕部	1	0	0	0	0
H2 武田和	2	0	0	1	0
1 滝下	2	0	0	2	0
H 白石	1	0	0	0	0
1 土田	0	0	0	0	0
1 久利	0	0	0	0	0
犠併残 1 1 7	31	4	1	10	3

	回	安	振	球	責
斎藤	7	4	7	3	1
高島	2	0	3	0	0
滝下	7	8	6	0	3
土田	1⅓	1	1	1	2
久利	⅔	1	0	0	0

▷本塁打＝若槻1号(滝下)▷二塁打＝小谷▷犠打＝新2(平間、平川)N1(武田和)▷盗塁＝新1(山本)N4(板東2、小谷、三倉)▷失策＝新1(斎藤)N2(竹島、久利)▷試合時間＝2時間31分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

ＮＴＴ東海＝優勝
安江(旧姓木戸)均外野手
(現コーチ、ＮＴＴ東海支社労働部労務課勤務、33歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

足が震えたヒット。後にも先にもあの時だけです。阿部企業との優勝戦。三回一死満塁。準決勝での2本塁打が自信になり、「おれがこの試合を決める」と、いい意味で気負いました。陽投手のシンカーを狙って右前へ。ヒットだと分かった瞬間に震え出しました。一塁ベース上で熱いものがこみあげました。

中学時代、左手首を骨折。甲子園常連組の県岐阜商への進学をあきらめて、硬式野球部のない中津高へ。軟式で団体優勝を果たしましたが、硬式をやりたくて名城大で初めて硬球を握りました。念願の硬式だから野球が楽しくて練習の成果が日本一に結びついたのがうれしかった。

3年前に引退し、コーチに就任しましたが、日本選手権は優勝してから出場なし。来年こそ、選手にはっぱをかけて、ダイヤモンド旗を取り戻したいですね。

▽10月21日

第1試合＝1回戦(午後9時開始)

三菱自動車川崎	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
新日鉄八幡	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2

▶審判(球審)上杉(塁審)三橋、土井池、戸田

【三菱川崎】

	打	安	点	振	球
⑦ 村田	2	0	0	1	0
H7 金子	3	0	0	1	0
④ 松野	5	2	0	1	0
⑤ 清水	5	1	0	1	0
③ 四条	2	0	0	1	2
⑨ 角	2	0	0	0	0
H 楢原	0	0	1	0	1
R9 佐藤浩	0	0	0	0	0
9 和田	1	1	0	0	0
⑧ 小川	4	0	0	0	1
⑥ 大須賀	4	0	0	0	1
② 安斉	3	0	0	0	1
① 吉沢	3	1	0	1	0
1 阿部	0	0	0	0	0
1 小笠原	1	0	0	0	0

犠	併	残
0	1	8

35	5	1	6	4

【新日鉄八幡】

	打	安	点	振	球
⑧ 丸谷夫	5	1	0	0	0
④ 本村	3	3	1	0	1
⑥ 平	2	0	0	0	0
⑨ 加藤	1	0	0	0	3
⑤ 佐野	4	0	0	0	0
③ 山崎	3	1	0	1	1
② 伊藤	3	1	0	1	0
⑦ 田村	4	1	0	2	0
① 石田	2	0	0	1	0
1 池田宣	0	0	0	0	0
H 池田幸	1	0	0	0	0
R 葉山	0	0	0	0	0
1 丸谷幸	1	0	0	0	0

犠	併	残
4	0	9

29	7	1	5	5

	回	安	振	球	責
吉沢	7	4	3	4	0
阿部	1/3	1	0	1	0
小笠原	1⅔	2	2	0	1

	回	安	振	球	責
石田	5⅔	4	4	2	1
池田宣	1/3	0	1	1	0
丸谷幸	3	1	1	1	0

▷本塁打＝本村1号(小笠原)▷二塁打＝本村、和田▷犠打＝新4(本村、平2、伊藤)▷失策＝三1(清水)新1(平)▷試合時間＝2時間39分

「相性が悪いのかな」

○…「いやあ、ちょっと気合が入っていない球だった。失投ですよ」とてれ笑いを浮かべたのは、サヨナラ本塁打を浴びた三菱自動車川崎の小笠原。社会人12年目のベテランだが、今季は腰の故障から出遅れ、「この大会が一番調子よかったが…」と悔やんだ。第6回大会の1回戦でも同じ新日鉄八幡に打たれて負けており、「相性が悪いのかな」と首をかしげた。それでも「サヨナラ本塁打なんて記憶にない。来年もう1年頑張ってみたい」と決意を新たに。

第2試合＝2回戦(午後0時13分開始)

三菱重工神戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
NTT東海	0	0	0	0	0	1	0	0	X	1

▶審判(球審)広沢(塁審)小林、中西則、原田

【三菱神戸】

	打	安	点	振	球
⑦ 水谷	3	2	0	0	1
⑨ 松本	4	1	0	1	0
⑧ 中馬	4	1	0	0	0
⑥ 山口	4	0	0	0	0
⑤ 下	4	0	0	2	0
③ 青田	3	1	0	0	0
④ 原田	3	0	0	1	0
② 富	3	1	0	0	0
① 千々松	2	1	0	0	0
1 栗田	0	0	0	0	0
H1 大西	1	1	0	0	0
1 吉川	0	0	0	0	0

犠	併	残
0	1	5

31	8	0	4	1

【NTT東海】

	打	安	点	振	球
⑤ 辻	3	0	0	1	1
⑧ 望月	2	0	0	0	0
H8 宮本	1	1	0	0	0
⑦ 森田	3	0	1	1	0
② 中西	4	2	1	1	0
⑨ 木戸	3	0	0	0	0
③ 大川	3	1	0	0	0
⑥ 井上	2	0	1	1	0
④ 沢田	3	1	0	0	0
① 笠井	2	0	0	1	0

犠	併	残
3	2	6

26	5	1	5	2

	回	安	振	球	責
千々松	5⅔	3	3	2	0
栗田	1⅓	1	0	0	0
吉川	1	1	2	0	0

	回	安	振	球	責
笠井	9	8	4	1	0

▷二塁打＝沢田▷犠打＝N3(望月、井上、笠井)▷盗塁＝三1(中馬)N1(宮本)▷失策＝三2(水谷、中馬)▷試合時間＝2時間5分

第3試合＝2回戦(午後2時48分開始)

河合楽器	2	0	0	0	3	0	0	0	5	
プリンスホテル	0	0	2	0	1	0	1	0	0	4

▶審判(球審)清水(塁審)巽、宮本、樫根

【河合楽器】

	打	安	点	振	球
⑧ 牛尾	5	3	1	0	0
④ 盛	3	0	0	0	0
③ 村瀬	4	2	2	0	0
⑦9 並木	4	1	2	0	0
⑨ 徳岡	0	0	0	0	0
H9 鈴木徳	3	0	0	0	0
7 西原	3	1	0	0	0
⑤ 鈴木智	4	1	0	0	0
5 山本	0	0	0	0	0
⑥ 黒田豊	3	0	0	1	1
② 安間	4	2	0	0	0
① 松田	1	0	0	1	0
1 水沢	1	0	0	0	0

犠	併	残
3	1	5

33	10	5	2	1

【プリンス】

	打	安	点	振	球
⑧ 田辺	5	1	0	0	0
⑤ 中藤	4	2	2	0	1
④ 小川	3	2	1	0	1
③ 藤井	3	1	1	1	0
⑦ 中島	4	0	0	1	0
⑨ 村中	3	1	0	0	1
② 宮吉	3	1	0	1	0
① 吉田	2	2	0	0	0
H 鈴木康	1	0	0	0	0
1 原幸	0	0	0	0	0
H 清水	1	1	0	0	0
1 鈴木政	0	0	0	0	0
⑥ 加藤	2	0	0	0	0
H 和気	1	0	0	0	0

犠	併	残
2	2	7

33	11	4	3	3

	回	安	振	球	責
松田	6⅓	10	2	3	4
水沢	2⅔	1	1	0	0

	回	安	振	球	責
吉田	6	7	2	0	5
原幸	2	3	0	0	0
鈴木政	1	0	0	1	0

▷本塁打＝並木2号②(吉田)村瀬1号②(吉田)中藤1号(松田)▷二塁打＝牛尾▷犠打＝河3(盛、松田2)プ2(藤井、加藤)▷盗塁＝プ4(中藤、小川2、宮里)▷失策＝河1(並木)プ3(中藤、藤井、原幸)▷ボーク＝吉田▷試合時間＝2時間18分

〔準決勝〕阿部企業－川崎製鉄神戸　三回表、阿部企業一死三塁、小羽の中飛で、三塁から林がホームをつくが、間一髪タッチアウト。

▽10月22日

第1試合＝2回戦(午前11時26分開始)

日鉱佐賀関	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3
NTT東北	3	0	0	1	0	0	2	0	X	6

▶審判(球審)吉田(塁審)三宅、鹿多、生越

【日鉱佐賀関】

	打	安	点	振	球
④ 上野	4	0	0	2	0
⑤ 伏原	3	0	0	1	1
③ 野上	4	2	0	0	0
② 羽田野	3	1	3	1	0
⑥ 清原	4	1	0	0	0
⑨ 佐藤	4	2	0	0	0
⑧ 平野	4	1	0	1	0
⑦ 岩尾	2	0	0	0	1
H 金田	1	0	0	0	0
① 有馬	0	0	0	0	0
H 伊藤	1	0	0	1	0
1 宮本	1	0	0	0	0
H 古田徹	1	0	0	0	0
1 古田穣	0	0	0	0	0
H 大川	1	0	0	0	0

犠	併	残
1	0	6

33	7	3	6	2

【NTT東北】

	打	安	点	振	球
⑧ 小野	4	0	0	1	1
④ 福地	2	2	0	0	1
R 山内	0	0	0	0	0
4 清家	1	0	0	1	1
⑦ 三瓶	4	1	1	0	0
7 高松	1	1	0	0	0
② 菊田	4	1	1	1	1
⑨ 多田	3	1	2	0	1
9 戸羽	1	0	0	0	0
③ 塩谷	4	2	0	1	0
⑤ 伊藤	3	1	0	1	0
⑥ 板井	1	1	1	0	1
① 斉藤孝	4	1	0	0	0

犠	併	残
3	0	1

32	11	5	5	6

	回	安	振	球	責
有馬	2	4	1	0	3
宮本	4	2	0	6	0
古田穣	2	5	4	0	2

	回	安	振	球	責
斉藤孝	9	7	6	2	3

▷本塁打＝多田1号②(有馬)羽田野2号②(斉藤孝)菊田1号(古田穣)▷二塁打＝福地、伊藤(N)塩谷、野上▷犠打＝日1(羽田野)N3(伊藤、板井2)▷盗塁＝日1(岩尾)N3(福地2、高松)▷失策＝日3(羽田野、宮本2)▷試合時間＝2時間29分

第2試合＝2回戦(午後2時27分開始)

三菱自動車水島	1	0	0	0	1	0	0	1	0	3
阿部企業	0	0	6	0	2	0	0	1	X	9

▶審判(球審)田中(塁審)中西則、美馬、辻

【三菱水島】

	打	安	点	振	球
⑧ 森川	4	0	0	0	0
⑥ 堀内	2	1	1	0	1
H9 守屋	1	1	0	0	0
⑦ 山本	4	2	0	0	0
③ 勝部	4	0	0	0	0
⑤ 八木	4	1	1	1	0
② 久保田	3	0	0	1	1
⑨ 藤猪	2	0	0	1	0
9 高畑	1	0	0	0	0
6 有村	1	0	0	0	0
④ 井岩	2	1	0	0	1
H 岩東	1	1	0	0	0
① 森峯	1	1	0	0	0
1 永入	0	0	0	0	0
1 徳留	1	0	0	0	0
H 小沢	1	0	0	0	0

犠	併	残
1	0	6

32	8	2	3	3

【阿部企業】

	打	安	点	振	球
⑧ 林	4	1	1	0	1
⑥3 小林秀	5	1	1	0	0
④6 小羽	3	1	1	0	1
② 前田	3	0	0	0	1
⑨ 山本	3	1	2	0	1
⑦ 蔵桝	4	1	2	2	0
7 小林昭	0	0	0	0	0
⑤ 永岡	4	1	0	0	0
③ 宮岡	3	1	0	0	0
4 西谷	0	0	0	0	1
① 陽	4	2	0	0	0

犠	併	残
0	3	5

33	9	7	2	5

	回	安	振	球	責
東森	2⅔	3	1	4	5
永入峯	2⅓	3	0	0	2
来	2	1	0	0	0
徳留	1	2	1	1	1

	回	安	振	球	責
陽	9	8	3	3	3

▷本塁打＝小羽1号(永峯)山本1号(永峯)▷二塁打＝蔵桝、陽、小林秀▷犠打＝三1(永峯)▷盗塁＝三3(山本3)▷失策＝三2(井上2)阿4(小羽2、永岡、陽)▷暴投＝東森▷試合時間＝2時間17分

▽10月23日

第1試合＝2回戦(午前8時58分開始)

新日鉄広畑	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
四国銀行	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1

▶審判(球審)津田(塁審)杉中、桂、戸田

【新日鉄広畑】

	打	安	点	振	球
⑧ 原田	5	1	0	3	0
⑥ 児玉	5	0	0	1	0
② 応武	5	4	2	0	0
⑨ 尾形	5	1	0	2	0
⑤ 砂田	5	0	0	2	0
③ 林	4	0	0	2	0
⑦ 船越	3	0	0	1	0
4 北野	1	0	0	0	0
① 足達	1	1	0	0	0
H 山脇	1	1	0	0	0
1 藤高	1	0	0	1	1
H7 福田	2	0	0	0	0
④ 大墨	2	0	0	0	0

犠	併	残
0	0	5

40	8	2	12	1

【四国銀行】

	打	安	点	振	球
⑧ 井上	5	0	0	2	0
④ 谷岡	5	2	0	2	0
⑤ 薬師神	4	2	1	1	0
⑦ 阿部	5	0	0	2	1
③ 西	4	2	2	1	1
⑨ 宮本雄	4	1	1	1	0
⑥ 伊名	2	0	0	1	0
H 乃一田	1	1	0	0	0
1 浜田	1	1	0	0	0
2 宮本章	3	2	0	0	0
① 橋谷	1	0	0	0	0
6 森	2	0	0	0	0

犠	併	残
3	0	7

37	10	4	10	1

	回	安	振	球	責
足達	5	4	4	0	1
藤高	5⅔	6	6	1	2

	回	安	振	球	責
橋谷	6	6	5	0	2
浜田	5	2	7	1	0

▷本塁打＝西1号(足達)2号(藤高)▷二塁打＝原田▷犠打＝四3(薬師神、宮本章、橋谷)▷盗塁＝四3(谷岡、薬師神2)▷失策＝広1(応武)四1(宮本章)▷捕逸＝宮本章▷試合時間＝2時間46分

不覚の一球だった

○…「真ん中、やや内角寄りの高めの球。投げた瞬間、"やられた"と思った。(試合が)決まるならホームランだと思い注意してたんですが、不覚でした」。延長十一回、四国銀行の西にサヨナラ本塁打を打たれた新日鉄広畑のエース・藤高は悔しそう。

大会の2週間前、わき腹の骨にひびが入るアクシデントに見舞われながら、開幕日の第1戦に続き先発・足達を救援して登板したが、やはり本調子ではなかったようだ。

第2試合＝2回戦(午後0時16分開始)

住友金属鹿島	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
三菱自動車京都	3	0	0	2	0	0	0	0	X	5

▶審判(球審)木嶋(塁審)上杉、吉田、宮木

【住金鹿島】

	打	安	点	振	球
⑧ 木本	5	0	0	1	0
⑥ 赤沢	5	0	0	0	0
⑤ 小林	4	2	0	1	1
③ 阪本	5	2	0	1	0
④ 宇都宮	3	1	0	0	1
⑦ 水原	3	0	0	1	0
⑨ 金井	4	0	1	0	0
② 杉山	4	0	0	0	1
H 保	1	0	0	0	0
R2 越野	0	0	0	0	0
2 大津	1	0	0	0	0
① 関口	2	0	0	0	0
1 牛尾	1	0	0	0	0
H 間部	1	0	0	1	0

犠	併	残
0	2	12

36	7	1	5	4

【三菱京都】

	打	安	点	振	球
⑥ 枇本	3	1	0	0	0
④ 岡田英	3	1	0	1	1
⑧ 岡田周	3	0	0	1	0
⑨ 樋口	4	1	1	0	2
⑦ 木脇	2	0	1	1	2
⑤ 玉井	3	2	2	0	1
② 森上	3	1	0	2	1
③ 小林	3	1	1	0	0
① 織田	2	1	2	0	0

犠	併	残
4	1	6

26	8	5	4	5

	回	安	振	球	責
関口	3⅓	7	1	2	5
牛尾	4⅔	1	3	3	0

	回	安	振	球	責
織田	9	7	5	4	1

▷二塁打＝玉井、水本2▷犠打＝三4(枇本、岡田周、小林、織田)▷盗塁＝三1(樋口)▷失策＝住1(宇都宮)三3(枇本3)▷試合時間＝2時間12分

第3試合＝2回戦(午後3時開始)

新日鉄釜石	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
川崎製鉄神戸	5	0	1	1	0	1	0	0	X	8

▶審判(球審)三宅(塁審)田中、巽、岸野一(外審)宮奥、桃田

【新日鉄釜石】打安点振球

⑧	吉田	4	1	1	0	0
④	山本	0	0	0	0	4
③	菊池	3	1	0	1	1
⑦	若槻	3	0	1	0	0
②	大滿	3	1	0	0	1
⑥	田沢	4	2	1	0	0
⑨	平間	3	1	0	0	0
H	泉沢	1	0	0	1	0
①	斎藤	0	0	0	0	0
1	山内	0	0	0	0	0
H	加藤	1	0	0	0	0
1	木村	0	0	0	0	0
1	高島	3	0	0	0	0
⑤	平川	2	0	0	0	1

犠 併 残
1 0 5 27 6 3 2 7

【川鉄神戸】打安点振球

⑧	山中	5	4	0	0	0
⑥	嶌	2	1	0	0	1
④	上村	5	2	1	1	0
⑨	川中	4	2	2	1	1
⑦	石津	5	2	1	1	0
③	中谷	3	1	1	1	1
⑤	浜名	4	2	1	2	0
②	以倉	3	0	1	2	0
①	轡	4	0	0	3	0
1	宮内	0	0	0	0	0
1	豊田	0	0	0	0	0

犠 併 残
3 5 9 35 14 7 11 3

	回	安振球責
斎藤	9⅔	4 0 1 5
山内	1	1 1 0 0
木村	2⅔	6 1 0 2
高島	4⅓	3 9 2 1

	回	安振球責
轡	7⅔	5 0 6 3
宮内	1	0 1 0 0
豊田	1	1 1 1 0

▷本塁打＝中谷1号(木村)田沢1号(轡)吉田1号(轡)▷二塁打＝上村、山中▷犠打＝新1(若槻)川3(嶌2、以倉)▷盗塁＝新1(山本)▷試合時間＝2時間38分

第4試合＝2回戦(午後6時10分開始)

NTT北陸	0	0	0	0	0	0	5	0	0	2	7
新日鉄八幡	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	5

▶審判(球審)大橋(塁審)檜根、中川、桃田(外審)長谷、永田

【NTT北陸】打安点振球

③	新座	4	3	0	0	2
④	北川	2	0	0	1	0
H	紀	1	0	0	0	0
4	金津	0	0	0	0	0
H	水本	1	1	1	0	0
1	大倉	0	0	1	0	1
②	下野	6	2	1	1	0
⑨	長谷川	6	0	0	4	0
9	松本	0	0	0	0	0
⑤	佐々木	4	0	1	1	1
⑧	片山	5	1	0	2	0
⑦	野村	5	2	2	0	0
⑥	寺本	5	2	1	0	0
①	上原	2	0	0	0	0
H 4	福与	2	0	0	0	0

犠 併 残
2 1 6 43 11 7 9 4

【新日鉄八幡】打安点振球

⑧	丸谷夫	6	0	0	2	0
④	本村	6	3	0	2	0
⑥	平	5	4	0	0	1
⑨	加藤	5	2	2	1	1
⑤	佐野	5	3	2	0	1
③	山崎	5	2	0	2	0
H	福本	1	1	0	0	0
②	伊藤	6	1	0	0	0
⑦	田村	5	1	1	2	1
①	石田	4	0	0	2	0
1	丸谷幸	1	0	0	0	0
H	池田幸	1	0	0	0	0

犠 併 残
0 2 13 50 17 5 11 4

	回	安振球責
上原	8	13 9 1 4
大倉	4	4 2 3 0

	回	安振球責
石田	8⅔	7 6 1 1
丸谷幸	4	4 3 3 2

▷三塁打＝加藤▷二塁打＝平、寺本▷犠打＝N2(大倉、福与)▷盗塁＝N1(新座)▷失策＝N1(佐々木)新3(本村2、平)試合時間＝3時間34分

▽10月24日

第1試合＝準々決勝(午前9時58分開始)

NTT東海	2	1	2	0	0	2	0	0	2	9
河合楽器	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2

▶審判(球審)中西明(塁審)東、辻、長谷

【NTT東海】打安点振球

⑤	辻	4	3	1	1	1
⑧	望月	4	0	0	0	0
8	宮本	4	0	2	0	1
⑦	森田	4	1	2	2	0
⑨	中木	3	2	1	0	0
③	大井	3	1	1	0	0
④	沢田	4	3	1	0	1
①	笠井	3	1	0	1	0

犠 併 残
1 0 8 38 16 9 5 5

【河合楽器】打安点振球

⑧	牛尾	4	1	0	0	1
④ 6	盛	3	0	0	0	1
③	村瀬	5	2	0	0	0
⑨	並木	4	3	1	0	0
⑦	西原	3	1	0	0	1
⑤	鈴木智	4	1	0	1	0
⑥	黒田豊	3	1	0	1	0
H	大須賀	1	0	0	0	0
2	平生	0	0	0	0	0
②	安間	3	0	0	0	0
H 4	尾上	1	0	0	0	0
①	水沢	1	1	1	0	0
1	谷津田	1	0	0	0	0
1	太田	0	0	0	0	0
1	新田	0	0	0	0	0
H 1	樽井	1	0	0	0	0
H	松田	1	0	0	0	0
H	鈴木徳	1	0	0	0	0

犠 併 残
1 3 10 35 10 2 2 3

	回	安振球責
笠井	9	10 2 3 2

	回	安振球責
水沢	3	7 1 3 5
谷津田	1⅓	2 0 2 0
太田	1	2 0 0 2
新田	1⅔	2 0 0 0
松田	2	3 4 0 2

▷本塁打＝森田1号②(水沢)沢田1号②(水沢)▷二塁打＝辻、鈴木智、中西▷犠打＝N1(笠井)河1(盛)▷盗塁＝N2(辻、木戸)河1(並木)▷失策＝N1(大川)▷試合時間＝2時間41分

第2試合＝準々決勝(午後1時8分開始)

NTT東北	0	0	0	2	4	2	0	1	0	9
四国銀行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)田中(塁審)広沢、美馬、大石

【NTT東北】打安点振球

⑧	小野	5	2	0	2	0
8	猪狩	1	0	0	0	0
H	佐藤憲	1	0	0	0	0
④	福地	4	0	0	1	0
⑦	三瓶	5	2	1	1	0
R 7	高梨	5	0	4	2	0
②	松田	4	0	1	1	0
⑨	多戸	4	1	4	0	0
R 9	塩谷	2	0	2	0	0
③	羽谷	3	0	1	1	0
⑤	藤井	2	0	1	1	0
⑥	伊板	3	0	0	0	0
①	斉藤孝	4	0	0	2	0

犠 併 残
5 0 10 38 12 9 7 2

【四国銀行】打安点振球

⑧	井上	3	1	0	0	0
8	小谷	3	1	0	0	1
④	橋岡	2	1	0	0	0
H 6	森	1	0	0	0	1
⑤	薬師神	4	1	1	0	0
⑦	部中	4	3	1	0	0
H	西	3	1	4	0	0
③	宮本雄	4	0	1	0	0
⑥	伊名田	4	1	2	2	0
H 6	森宮本	4	2	1	1	0
②	渡辺章	2	1	1	0	0
①	山本田	1	0	0	0	0
1	浜森本	1	0	0	0	0
H 1	宮橋谷	1	0	0	0	0
H 1	月大沢	1	0	0	0	0

犠 併 残
1 0 6 31 4 0 7 1

	回	安振球責
斉藤孝	9	4 7 1 0

	回	安振球責
山本	4⅓	5 4 0 3
浜田	⅔	2 1 1 0
宮本典	⅔	2 1 0 2
橋谷	2⅔	3 2 0 1
大沢	1	0 0 1 0

▷本塁打＝菊田2号(山本)▷三塁打＝多田▷二塁打＝塩谷、多田、小野、三瓶▷犠打＝N5(福地、塩谷3、斉藤孝)四1(谷岡)▷盗塁＝N1(福地)四1(薬師神)▷失策＝N2(福地、板井)四5(谷岡2、薬師神、伊名、宮本章)▷打撃妨害出塁＝板井(宮本章)▷試合時間＝2時間44分

▽10月25日

第1試合＝準々決勝(午前9時57分開始)

三菱自動車京都	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
阿部企業	2	0	0	0	1	1	1	X		6

▶審判(球審)木嶋(塁審)吉田、宮木、永田

【三菱京都】打安点振球

⑥	枇本	2	0	0	0	0
6	塚田	2	0	0	0	0
④	岡田英	4	0	0	1	0
⑧	岡田周	3	1	1	0	0
⑨	樋口	3	0	0	2	0
⑦	木脇	3	0	0	0	0
⑤	玉井	3	1	0	1	0
②	森上	3	0	0	0	0
③	小林	1	0	0	1	0
H 3	川原崎	1	0	0	1	0
H 1	織田	1	0	0	0	0
1	阪本	0	0	0	0	0
H	岩崎	1	0	0	0	0
H 1	井上淵	0	0	0	0	0
1	田森	1	0	0	0	0

犠 併 残
1 0 1 28 2 1 6 0

【阿部企業】打安点振球

⑧	林	4	1	0	0	1
⑥ 3	小林秀	4	2	2	0	0
④ 6	小羽	5	2	1	0	0
②	前田	4	2	1	0	0
⑨	山本	4	1	0	0	0
⑦	蔵桝	4	1	0	0	0
7	小林昭	2	0	0	0	0
⑤	永岡	1	1	0	0	1
③	宮岡	4	1	0	0	1
R 4	西谷	1	1	0	0	0
①	陽	3	2	0	0	0

犠 併 残
4 1 9 33 13 6 1 2

	回	安振球責
織田	3⅔	6 1 1 2
阪本	1⅓	1 0 0 0
井上	1	1 0 1 1
田淵	2	5 0 0 2

	回	安振球責
陽	9	2 6 0 1

▷本塁打＝岡田周1号(陽)▷二塁打＝小羽、前田▷犠打＝三1(小林)阿4(小林秀、飯干、宮岡、陽)▷盗塁＝阿3(小羽、山本、陽)▷失策＝三2(枇本2)阿1(永岡)▷試合時間＝1時間55分

第2試合＝準々決勝(午後0時31分開始)

NTT北陸	0	0	1	0	0	0	0	3	0	4
川崎製鉄神戸	0	1	0	1	0	2	0	0	2	6

▶審判(球審)上杉(塁審)大橋、桃田、伊東

【NTT北陸】打安点振球

③	新座	4	1	3	0	1
④	北川	5	1	1	0	0
②	下野	2	0	0	0	3
⑨	長谷川	3	0	0	0	0
9	78 紀	2	1	0	0	0
⑤	佐々木	5	2	0	0	0
⑦	98 野村	4	2	0	1	0
H	梶原	1	0	0	0	0
7	松本	0	0	0	0	0
⑧	片山	3	0	0	0	0
H	福与	1	0	0	0	0
1	大倉	0	0	0	0	0
⑥	寺本	3	2	0	0	1
①	上原	2	1	0	0	0
H 9	水本	1	1	0	0	0

犠 併 残
1 0 8 36 11 4 1 5

【川鉄神戸】打安点振球

⑧	山中	4	1	0	0	0
⑥	嶌	4	1	0	1	0
④	上村	4	1	0	1	1
⑨	川中	5	0	0	1	0
⑦	石津	5	2	1	2	0
③	中谷	4	2	2	0	1
⑤	浜名	5	1	3	1	0
②	以倉	3	1	0	0	0
①	轡	3	2	2	0	0
H	中村	0	0	0	0	1
R	筑瀬	0	0	0	0	0
1	豊田	0	0	0	0	0
1	宮内	0	0	0	0	0

犠 併 残
3 3 8 37 11 6 6 3

	回	安振球責
上原	8	10 6 1 3
大倉	1⅓	1 0 2 2

	回	安振球責
轡	9	9 1 5 4
豊田	⅓	2 0 0 0
宮内	⅔	0 0 0 0

▷本塁打＝石津1号(上原)新座1号③(轡)浜名1号②(大倉)▷二塁打＝北川、石津、佐々木▷犠打＝N1(上原)川3(山中、嶌、以倉)▷盗塁＝川2(嶌、上村)▷失策＝N1(佐々木)▷試合時間＝2時間55分

▽10月26日

第1試合＝準決勝(午前9時56分開始)

NTT東海	0	1	1	0	2	1	0	1	1	7
NTT東北	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1

▶審判(球審)三宅(塁審)片岡、清水、岸野

【NTT東海】打安点振球

⑤	辻	4	0	0	2	1
⑧	宮本	3	2	0	1	1
H	川合	1	0	0	1	0
1	鈴木	0	0	0	0	1
⑦	森田	4	2	0	0	1
②	中西	5	1	2	2	0
⑨	木戸	4	2	3	0	0
③	大井	5	1	0	1	0
⑥	井上	2	1	0	0	1
④	沢田	4	2	2	1	0
①	所	2	0	0	1	0
H	浅野	1	1	0	0	0
R	小松	0	0	0	0	0
8	望月	0	0	0	0	0

犠 併 残
3 4 8 35 12 7 9 4

【NTT東北】打安点振球

⑧	小野	4	1	0	0	0
④	福地	4	3	0	0	0
⑦	三瓶	3	0	0	0	1
②	菊田	4	0	0	1	0
⑨	多田	4	2	0	0	0
R	戸羽	0	0	0	0	0
③	塩谷	4	1	0	0	1
⑤	伊藤	2	1	0	0	1
⑥	板井	3	1	1	0	0
①	斉藤孝	2	0	0	1	0
1	池田	0	0	0	0	0
H	高松	1	0	0	0	0
H 1	越田	0	0	0	0	0

犠 併 残
0 1 5 31 9 1 2 2

	回	安振球責
所	7	8 2 2 1
鈴木	2	1 0 0 0

	回	安振球責
斉藤孝	7⅔	11 6 4 4
池田	⅓	0 1 0 0
越田	1	1 2 0 1

▷本塁打＝木戸1号(斉藤孝)2号(越田)▷二塁打＝福地、森田▷犠打＝海3(木戸、井上、所)▷盗塁＝海2(宮本、森田)▷失策＝北2(多田、板井)▷試合時間＝2時間31分

東海、連打で小刻みに加点

NTT東海が見事な集中打と所、鈴木の好継投でNTT東北を圧倒した。東海は二回、木戸が右翼へ先制本塁打。追いつかれた三回には一死後、遊撃内野安打の宮本が二盗を決めてバッテリーを揺さぶり、森田の四球、中西の遊ゴロ失で満塁。木戸の右犠飛ですかさず勝ち越した。五回は一死から宮本、森田、中西の3連続長短打で2点を加えて突き放した。六回には沢田の適時打、八回にも井上ら下位の3連打で小刻みに得点。九回には木戸が2本目のアーチを右翼にかけた。

東北は二回一死後、塩谷の安打と伊藤の四球で一、二塁とし、板井の中前打で同点としたが、反撃もこの回だけだった。

第2試合＝準決勝(午後1時4分開始)

阿部企業	0	2	1	0	0	0	1	0	0	4
川崎製鉄神戸	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

▶審判(球審)大橋(塁審)巽、中西則、原田

【阿部企業】打安点振球

⑧	林	3	0	0	0	0
⑥	小林秀	2	0	0	0	1
④ 3	小羽	4	1	0	0	0
②	前田	3	2	1	0	0
⑨	山本	3	2	2	0	1
⑦	蔵桝	3	0	0	2	0
7	小林昭	1	0	0	0	0
⑤	永岡	3	0	0	2	0
③	宮岡	3	0	0	2	0
4	西谷	0	0	0	0	0
①	陽	3	1	0	1	0

犠 併 残
3 2 2 28 6 3 7 2

【川鉄神戸】打安点振球

⑧	山中	4	2	1	0	0
⑥	嶌	4	0	0	1	0
④	上村	4	1	0	0	0
⑨	川中	4	0	0	0	0
⑦	石津	4	2	0	2	0
③	中谷	3	1	0	0	0
H	藤原	1	0	0	0	0
⑤	浜名	3	1	0	0	0
②	以倉	2	0	0	1	0
H	筑瀬	1	0	0	0	0
2	船越	0	0	0	0	0
①	岡本	2	0	0	1	0
1	豊田	0	0	0	0	0
H	初田	1	0	0	0	0
1	宮内	0	0	0	0	0

犠 併 残
0 3 5 33 7 1 5 0

	回	安振球責
陽	9	7 5 0 1

	回	安振球責
岡本	5⅓	4 4 1 2
豊田	2⅔	1 3 0 1
宮内	1	1 0 1 0

▷本塁打＝前田1号(岡本)山本2号(轡)3号(豊田)▷二塁打＝中谷、陽、石津▷犠打＝阿3(林、小林秀、前田)▷盗塁＝川1(山中)▷失策＝阿1(西谷)、川1(岡本)▷暴投＝岡本▷試合時間＝1時間50分

アーチ攻勢で阿部決勝へ

活気のある阿部企業は二回、先頭の前田が初球を左翼に本塁打。続く山本も初球を左翼上段にたたき込んで2点を先制。三回には先頭の陽が中堅フェンスを直撃する二塁打、林の投前バントが野選、敵失となって加点。さらに七回、2人目の豊田から山本がこの試合2本目のアーチをかけて川崎製鉄神戸を突き放した。

川鉄神戸は右下手の陽の速球、変化球に手こずり七回まで散発4安打。八回、浜名が中前打、代打・筑瀬の二ゴロ失で無死一、二塁の好機をつかんだ。しかし、代打・初田の投ゴロで併殺。二死三塁から山中が三遊間を破って1点を返しただけ。九回は二死から石津が左翼線二塁打したが、後続を断たれた。

▽10月27日

優勝戦（午後1時20分開始）

ＮＴＴ東海	0	0	3	0	0	1	0	0	1	5
阿部企業	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

▶審判（球審）中西明（塁審）小林、岡本良、桃田

【ＮＴＴ東海】

		打	安	点	振	球
⑤	辻	3	0	0	0	2
⑧	宮本	4	0	0	2	0
⑦	森田	4	1	0	0	1
②	中西	4	1	1	0	1
⑨	木戸	5	2	2	1	0
③	大川	3	1	1	0	0
⑥	井上	4	1	0	1	0
④	沢田	4	3	0	0	0
①	笠井	2	1	1	0	0

犠 併 残
4 0 9

3310544

【阿部企業】

		打	安	点	振	球
⑧	林	3	1	0	1	1
⑥	3小林秀	2	0	0	1	2
④	6小羽	4	1	1	0	0
②	前田	4	0	0	1	0
⑨	山本	4	1	0	1	0
⑦	蔵桝	3	0	0	1	0
Ｈ	飯干	1	1	0	0	0
⑤	永岡	2	0	0	1	2
③	宮岡	2	0	0	2	0
Ｈ	3小林昭	1	0	0	1	0
4	西谷	1	0	0	0	0
①	陽	3	1	0	0	0

犠 併 残
0 1 7

3051950

	回	安	振	球	責
笠井	9	5	9	5	1

	回	安	振	球	責
陽	9	10	4	4	4

▷本塁打＝小羽2号（笠井）中西3号（陽）▷二塁打＝沢田、井上▷犠打＝N4（宮本、大川、笠井2）▷試合時間＝2時間15分

木戸タイムリー、笠井力投

ＮＴＴ東海は笠井の好投を打線が支え、終始主導権を握って快勝した。ＮＴＴは三回、３連投の陽をとらえた。死球の辻をバントで送り、森田の四球と中西の三ゴロ失で一死満塁。続く木戸が右前に２点適時打して先制。なおも一、三塁から大川がスクイズ失敗のあと右犠飛、中西を迎え入れた。六回は一死後、井上、沢田の長短打で一、三塁。笠井がスクイズを決めて加点、九回には二死から中西が３号本塁打をバックスクリーン左に打ち込んだ。

中２日の笠井は２種類のスライダーを武器に球を低めに集めて阿部企業を抑え、四回小羽に左中間本塁打を浴びたが、七回は３連続三振に仕留めるなど、９三振を奪う好投で追加点を許さなかった。阿部企業は、立ち上がり制球に苦しんだ笠井を攻略して陽を援護したかったが、的を絞り切れなかったうえ、頼みの陽に疲れが見え、本来の力を出し切れなかった。

監督談話

ＮＴＴ東海・山口敏樹監督　六回（一死一、三塁から）のスクイズが勝負だった。笠井に打たせて併殺にでもなったら流れが変わってしまうと思って……。それにしても笠井が最後までよく投げたし、みんなも"勝つんだ"という気持ちで戦った。

阿部企業・中本史郎監督　とにかく打てなかった。陽が３連投なので先に点を取ってやりたかったが、笠井君のボールになるスライダーに手を出しすぎた。三回に３点を先行されて各打者に気負いが出た。２つの走塁ミスも響いた。

監督ひと　ＮＴＴ東海　山口 敏樹監督

「優勝できたのは選手のおかげ。まだプレーできるのに、助監督としてぼくを支えてくれた湯之戸君に感謝したい」。監督１年目のシーズンの最後に、ビッグタイトルを手にして目頭を熱くした。ＮＴＴ東海にとって初の全国制覇。「民営化２年目で"さあ、これから"という会社に明るい話題を提供でき、喜んでもらえると思う」。今夏、都市対抗の予選で敗退、味わった挫折を乗り越えて立ち直った喜びにあふれていた。

福岡大で投手。カーブを武器に九州６大学リーグで２度、ノーヒット・ノーランを記録した。社会人になってからは投手コーチとして笠井や所らの若手を育て上げた指導力を買われて監督に。「確実な捕球、送球、当たり前のことをやってくれればいい」。基本を重視、攻めても１点ずつを確実に取りにいくオーソドックスなさい配をする。だが準決勝では、この大会初登板の所を先発させ、笠井を温存する芸当も。「優勝戦で負けるなら準決勝で負けても同じ。笠井を休ませて優勝を狙う」と公言、実現してみせた。

〈福岡県出身。74年に福岡大卒、ＮＴＴ（旧電電）東海入社、５年間現役でプレーし、７年間コーチをした後、92年暮れに監督に。東海総支社労務部、35歳〉　（原田　益夫）

ダイヤモンドを一周するＮＴＴ東海と阿部企業ナイン。

大胆な若返り策が奏攻

ＮＴＴ東海

熱球

ヤマ場は三回に訪れた。２試合連続で無四球の快投を演じていた阿部企業のエース、陽がマウンドであえぎはじめた。この回、辻への死球から始まり、宮本が送りバントのあと、森田にも四球を与えた。台湾時代を通じ、初めて経験する３日連投の疲れが、やはり陽の右腕を襲い、制球力に微妙な狂いが生じていた。おまけに中西の平凡な三ゴロを焦った野手がはじき一死満塁。大黒柱の陽が崩れると、連鎖反応を起こすように守備にもほころびを見せた。ＮＴＴ東海が勝負をかけないはずがなかった。

打者は前日のＮＴＴ東北戦で２本塁打を放つなど集中力にかけてはチーム一と山口監督も認める木戸。第１打席の一回二死一、二塁の好機にシンカーをひっかけて二ゴロに仕留められた木戸は、そのシンカーに狙いを定めていた。１－１からの３球目。木戸がコンパクトに振り切った陽の勝負球は右翼線に伸びる２点適時打となった。「気合負けせず、絞ったボールだけを打とうと思っていた。今大会のすべての打席に同じ気持ちで立った」と、木戸は気迫十分な打席を振り返った。

続く大川はスクイズ失敗のあと、右犠飛で３点目をたたき出したが、木戸と同じように「カーブに絞って右打ちだけを考えていた」と陽の攻め方を自分なりに心に決めていたという。陽攻略に全神経を集中した好打２本で、陽は予選からの試合を通じて１イニングに初めて３点も取られた。

ＮＴＴ東海は５回目の日本選手権出場だが、今大会は"新生チーム"といえる思い切った若返り策をとって臨んだ。今夏の都市対抗予選で苦杯を喫し、５年連続の後楽園出場を断たれたことが、チーム内に変革を起こさせた。今大会の最優秀選手に選ばれた22歳の笠井と準決勝で好投した23歳の所の若い両投手を先発に起用するなど、新チームといえるほどに主力の入れ替えを行った。昨年４月、民営化して会社自体が活気をおびはじめた環境の中で、夏の雪辱を期した"新チーム"は初制覇へ燃え上がっていたのだろう。ＮＴＴ東海の優勝は企業の持つ熱気が、そのまま野球部にも表れた戦いぶりだったといえる。

「集中力と闘志でつかんだ優勝です」。就任１年目で夏の"地獄"と秋の"天国"を知った山口監督は、全国的には無名の選手たちの大きな成長をたたえた。

（石井　修）

▶ズームアップ◀

笠井孝志登 投手 NTT東海

「3点以内に抑えたいと思っていた。その通りになってよかった」。阿部企業最後の打者、西谷を二飛に打ちとって、女房役の中西捕手と抱き合って大喜び。優勝戦まで2日間休めたとはいえ、試合ごとに力をつけてきた阿部企業を5安打、1失点に抑える好投。今大会は4試合に登板、3試合を完投して文字通り"大黒柱"となった。

「低めに投げていれば何とかなると思った。でも、ボール球を打ってくれたので助かった」と試合を振り返ったが、得意のスライダー、カーブを駆使して要所をピシャリ。八、九回一死から安打の走者を許し、そのたびに山口監督がマウンドにかけ寄ったが「ここで代えられてたまるか」とばかり、強気の投球でピンチを切り抜けた。

今年5月の富士大会で1イニングを投げ、三者凡退に仕留めたあと、腰を痛めて都市対抗予選は涙をのんだ。しかし、今季を締めくくる選手権で持ち味を出しきって、チームの優勝に貢献した。「これで自信らしいものが出来た。来年は必ず後楽園で頑張りたい」ときっぱり。15人の野球部員と寮生活。体の大きい割にはおとなしいが、シンはなかなか強いというのが同僚の評。183㌢、74㌔、右投げ右打ち。東海建築センター総務課、中京商高出身、22歳。

第13回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　笠井孝志登投手**（ＮＴＴ東海）「うれしいです」の一言にすべてがこもっていた。ベテラン・鈴木に代わって今や押しも押されもしないエース。4試合に登板して33回投げ、自責点4、防御率1.09の安定した投球をした。「後に鈴木さんが控えていてくれるから思い切って投げられます」。中京商高3年の1981年春センバツに出場、ビッグタイトルは初めて。

◇**敢闘選手賞　陽介仁投手**（阿部企業）　右下手から繰り出すシンカー、スライダーを武器に4試合を完投。36回を投げて自責点8、防御率2.00。チームの柱として準優勝の原動力となったが、最後は優勝を逃し、「3日間連投は初めて。ちょっと疲れた。残念です」と悔しがった。台湾・台東出身、台湾文化大出、174㌢、75㌔、右投げ右打ち。本社事務室勤務。27歳。

◇**打撃賞　木戸均外野手**（ＮＴＴ東海）　5試合で20打数8安打。優勝戦で先制の2点適時打を放ったほか、準決勝では1試合個人最多本塁打タイの2本塁打を記録するなど、4割の高打率を残した。「こんな大きな賞をもらえ、信じられない気分です。相手投手をビデオでしっかり研究し、攻め方を決めていたのが打撃好調の原因だと思う」。名城大出、176㌢、72㌔、左投げ左打ち。新規事業開発部勤務。26歳。

◇**首位打者賞　多田浩外野手**（ＮＴＴ東北）　12打数7安打、5割8分3厘。五番打者としての思い切りのいいシャープな振りが光った。初戦の日鉱佐賀関戦の一回、2点本塁打を放って弾みをつけ、四国銀行では三塁打、二塁打を含み5打数4安打4打点と大活躍。予選で2打席連続本塁打を放つなど好調な打撃を今大会まで持続させた。帝京大出、177㌢、75㌔、右投げ左打ち。研修センター総務課勤務。24歳。

◇**大会優秀選手**

【投手】笠井孝志登（NTT東海）陽介仁（阿部企業）藪浩昭（川崎製鉄神戸）斉藤孝弘（NTT東北）【捕手】中西親志（NTT東海）前田勝司（阿部企業）【内野手】沢田郡拡、辻慶人、井上雅晴（以上NTT東海）小羽保治、小林秀行（以上阿部企業）中谷享、浜名敬一（以上川崎製鉄神戸）福地日出雄、板井博行（以上NTT東北）玉井伸幸（三菱自動車京都）【外野手】宮本和徳、木戸均（以上NTTＴ東海）山本清二（阿部企業）多田浩（NTT東北）石津明弘、山中正則（以上川崎製鉄神戸）並木保彦、牛尾浩（以上河合楽器）

名門・国鉄、野球の灯は消えず

国鉄の分割・民営化移行の中で社会人野球界の一大勢力、国鉄チームの行方が、懸念されているが、国鉄本社は「新会社のイメージアップと社員の愛社心・団結心高揚に必要」と判断、全国で7チームを存続させる方針を決定した。チームの本拠地、部員の配置など具体的なツメはこれから行うが、縮小ながら基本的に野球部存続が決まり、野球関係者をホッとさせている。

国鉄の野球は、1927年誕生した都市対抗野球大会より古い歴史をもち、全国鉄道大会を開いていた。第1回都市対抗では名古屋、仙台、門司各鉄道局が出場するなど、都市対抗草創期の中心勢力だった。現在でも北は北海道の旭川鉄道局から南は鹿児島鉄道局まで、全国に17チームを持つ勢力として、社会人野球の発展、地域社会との交流に寄与している。第10回都市対抗では門鉄が優勝を飾った。

しかし、国鉄の経営悪化でここ数年は選手の採用も中止。分割・民営化が打ち出されて野球部の存続を危ぶむ声も出されていた。こうした中で国鉄本社は部の存廃を検討してきたが"最後の国鉄チーム"として今夏の都市対抗代表となった名古屋の活躍もあって「スポーツ、とりわけ野球は健全で大衆性があり、新会社のイメージアップに役立つ。また、長い伝統を持つ野球部は職員の一体化、団結心を高めることに貢献してきた。新会社となっても、こうしたメリットは十分にある」との声が多く、存続を決めた。ただ、17チームを全部残すことは無理。原則として各新会社に1チームとすることになった。

今国会に提出された国鉄改革案では、国鉄を北海道、東日本、東海、西日本、四国、九州の6地区に分割して新会社を設立する。これに沿って野球チームは東日本を除く5地区に各1チーム、東日本は地域が広いことから東京と東北地区へ各1の合計7チームに統廃合する。現在、各地区とも本拠地の選定、部員の編成の検討に入っている。

いずれにしろ「正式には法案可決後に設立される新会社が決定する」（国鉄本社）わけだが、廃部の危機は免れ、国鉄野球部の灯はともされ続けることになった。

第13回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月11日から　5日間　　札幌市営円山球場

東北大会

▶一次予選

◇**青森▽一回戦**　全弘前倶７－２自衛隊青森、八甲ク14－０オール青森ク▽**敗者復活戦**　自衛隊青森16－２オール青森ク▽**準決勝**　三菱製紙八戸５－４自衛隊青森、全弘前倶８－１八甲ク▽**決勝**　三菱製紙八戸７－１全弘前倶（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手▽一回戦**　水沢駒形７－０宮城建設久慈ク、小野田セメント10－２オール江刺、盛岡鉄道管理局８－０九戸ク、釜石野球団（不戦勝）花友ク▽**二回戦**　新日鉄釜石８－１東京製綱、北上球友６－５オール釜石、県経済連11－０宮高ク、アイワ12－５大槌球友、水沢駒形４－１オール不来方、岩手銀行３－０小野田セメント、盛岡鉄道管理局９－１雫石ク、釜石野球団５－０高田ク▽**準々決勝**　新日鉄釜石11－１水沢駒形、盛岡鉄道管理局８－１アイワ、県経済連10－０釜石野球団、岩手銀行11－１北上球友▽**準決勝**　新日鉄釜石11－０県経済連、岩手銀行７－０盛岡鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　新日鉄釜石６－４岩手銀行

◇**秋田▽一回戦**　フェニックスク12－８秋田鉄道管理局▽**準々決勝**　秋田銀行８－１東肥ク、秋田相互銀行13－１秋田商ク、ＴＤＫ10－０秋田経法大ク、王冠ク３－１フェニックスク▽**準決勝**　秋田銀行11－２王冠ク、秋田相互銀行２－０ＴＤＫ▽**決勝**　秋田相互銀行11－４秋田銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**宮城▽一回戦**　ＮＴＴ東北15－１白山ク、日本たばこ東北（不戦勝）東北ク▽**準々決勝**　ＮＴＴ東北11－４仙台鉄道管理局、日本たばこ東北11－０サニーク、十条製紙（不戦勝）仙商ク、七十七銀行７－０村田ク▽**準決勝**　ＮＴＴ東北10－１十条製紙、日本たばこ東北５－４七十七銀行（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ＮＴＴ東北８－１日本たばこ東北▽**敗者復活一回戦**　白山ク（不戦勝）仙商ク、村田ク（不戦勝）東北ク▽**同二回戦**　仙台鉄道管理局７－０サニーク、白山ク11－５村田ク▽**同三回戦**　七十七銀行12－５白山ク、仙台鉄道管理局３－２十条製紙▽**第三代表決定戦**　七十七銀行６－５仙台鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**山形▽一回戦**　東海大山形ＯＢ11－８鶴岡野球ク、山形相互銀行16－3新庄球友ク▽**準決勝**　山形相互銀行９－５日大山形ＯＢク、三川ク11－６東海大山形ＯＢク▽**決勝**　山形相互銀行７－１三川ク（勝者は第二次予選へ）

◇**福島▽一回戦**　北斗野球ク４－０二本松ク、小名浜ク９－６オール常交、ヨークベニマル９－０矢吹ク、須賀川ク13－12ニュー相馬、川俣ク13－６福島硬友ク▽**準々決勝**　小峰ク10－５北斗野球ク、ヨークベニマル10－０須賀川ク、飯野ク９－８小名浜ク、飯塚病院ク５－４川俣ク▽**準決勝**　飯野ク９－３小峰ク、ヨークベニマル８－１飯塚病院ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ヨークベニマル19－１飯野ク

▶二次予選

9月22日から　3日間　　県営宮城球場

関東大会

▶一次予選

◇**茨城▽代表決定戦**　日立製作所６－３鹿島石油、住友金属鹿島12－２水戸鉄道管理局（勝者は第二次予選へ）

◇**群馬▽一回戦**　大泉硬友ク６－５全太田、伊勢崎レッドソックス12－３全前橋▽**代表決定戦**　高崎鉄道管理局９－０大泉硬友ク、富士重工業12－０伊勢崎レッドソックス（勝者は第二次予選へ）

◇**埼玉▽一回戦**　エーザイ13－０全所沢、全三郷11－２飯能高ＯＢク▽**準々決勝**　全浦和17－２全大宮、大和ク９－８川口球友ク、エーザイ５－４本田技研、日本通運９－０全三郷▽**準決勝**　全浦和18－６エーザイ、日本通運15－２大和ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本通運11－１全浦和

◇**千葉▽一回戦**　川崎製鉄千葉10－２千葉鉄道管理局▽**準決勝**　新日鉄君津19－２三井造船千葉、川鉄千葉４－２ＮＴＴ関東（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　川鉄千葉10－４新日鉄君津

◇**東京▽一回戦**　朝日生命４－３三井銀行、鷺宮製作所８－４球友ク、日本ＩＢＭ３－１東京鉄道管理局▽**準々決勝**　ＮＴＴ東京７－４明治生命、東京ガス４－３朝日生命、鷺宮製作所５－４熊谷組、プリンスホテル12－２日本ＩＢＭ▽**準決勝**　東京ガス11－８ＮＴＴ東京、鷺宮製作所10－３プリンスホテル（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　鷺宮製作所７－６東京ガス▽**敗者復活一回戦**　朝日生命８－７明治生命、日本ＩＢＭ５－４熊谷組▽**七、八位決定戦**　熊谷組13－９明治生命▽**五、六位決定戦**　朝日生命８－４日本ＩＢＭ▽**三位決定戦**　プリンスホテル６－２ＮＴＴ東京（勝者は第二次予選へ）

◇**東京多摩▽一回戦**　スリーボンド16－４全府中、東芝府中13－０全調布▽**代表決定戦**　スリーボンド９－６東芝府中（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川▽一回戦**　三菱重工横浜６－２横浜高島屋、東芝15－０横浜金港ク、川崎ク13－３横浜球友ク、いすゞ自動車11－１カナガワク▽**準々決勝**　三菱重工横浜４－３日本鋼管、東芝４－１日産自動車、三菱自動車川崎15－０川崎ク、日本石油４－２いすゞ自動車▽**準決勝**　東芝４－１三菱重工横浜、日本石油14－７三菱自動車川崎（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　東芝５－４日本石油▽**三位決定戦**　三菱自動車川崎６－５三菱重工横浜（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月25日から　4日間　　群馬県営敷島球場

中部大会

▶一次予選

◇**山梨▽一回戦**　桂ク７－６市川ク▽**準決勝**　オール櫛形16－12球友ク、桂ク９－２峡北ク▽**決勝**　オール櫛形９－２桂ク（勝者は第二次予選へ）

◇**新潟▽一回戦**　長商ク６－２オール東、

佐渡軍団４－１オール北越▽**準々決勝**　ヤングセブン10－９全飯豊、国鉄新潟14－１長商ク、ニチエー10－０佐渡軍団、新津ク６－３白根野球団▽**準決勝**　国鉄新潟７－２ヤングセブン、ニチエー10－０新津ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　国鉄新潟２－０ニチエー

◇**長野**▽　**一回戦**　ＮＴＴ信越11－１全松本ク、ＴＤＫ千曲川５－１岡工ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ＮＴＴ信越５－４ＴＤＫ千曲川

◇**静岡**▽　**一回戦**　日本楽器８－１全三島ク、本州ク７－２浜商闘魂会、菊笠ク６－２協和発酵ク、大昭和製紙７－０静岡ク、誠和ク11－０富士エンゼルス、河合楽器７－１富士ク、関東自動車工業10－０吉原商工、岳南ク４－３エースコンク▽**準々決勝**　日本楽器10－０本州ク、大昭和製紙９－１菊笠ク、関東自動車工業８－３誠和ク、河合楽器３－１岳南ク（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本楽器４－２関東自動車工業、大昭和製紙７－２河合楽器▽**決勝**　大昭和製紙５－１日本楽器

◇**富山**▽**三回戦制**　北陸銀行７－０ＮＴＴ富山、北陸銀行５－１ＮＴＴ富山（北陸銀行は第二次予選へ）

▶二次予選

9月26日から　3日間　　浜松市営球場

東海・北陸大会

9月24日から　7日間　　愛知県営熱田球場

近畿大会

▶一次予選

◇**滋賀**▽　**一回戦**　日本ＩＢＭ野洲９－３近江八幡ク、全大津13－10瀬田工高ＯＢク▽**決勝**　日本ＩＢＭ野洲12－１全大津（勝者は第二次予選へ）

◇**京都**▽　**一回戦**　西京ク３－２高島屋京都▽**準々決勝**　京都市役所12－３丸勝、日本新薬８－０第一紙行、京都信用金庫11－１鴨浜ク、三菱自動車京都６－１西京ク（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　三菱自動車京都６－０京都市役所、日本新薬５－１京都信用金庫▽**決勝**　日本新薬２－１三菱自動車京都

◇**大阪**▽　**一回戦**　中山製鋼12－１全三和銀行、大和銀行13－12デュプロ、ＮＴＴ関西６－２大阪ペーシェンス▽**準々決勝**　新日鉄堺16－１大和銀行、大阪ガス８－３中山製鋼、日本生命９－４ＮＴＴ関西、松下電器11－２住友銀行（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　大阪ガス６－１新日鉄堺、日本生命５－４松下電器▽**決勝**　日本生命７－４大阪ガス▽**敗者復活戦**　大和銀行８－７中山製鋼、ＮＴＴ関西13－０大和銀行▽**第五代表決定戦**　ＮＴＴ関西14－４大和銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**兵庫**▽　**一回戦**　三菱重工神戸14－７小西酒造、神戸製鋼７－６川鉄神戸▽**準決勝**　新日鉄広畑４－１神戸製鋼、阿部企業７－６三菱重工神戸（準決勝出場チームは第二次予選へ）▽**決勝**　阿部企業10－２新日鉄広畑▽**三位決定戦**　三菱重工神戸３－２神戸製鋼▽**第五代表決定戦**　川鉄神戸８－７小西酒造（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月18日から　7日間　　京都・太陽が丘球場

中国大会

9月21日から　3日間　　岡山県営球場

〈リーグ戦〉

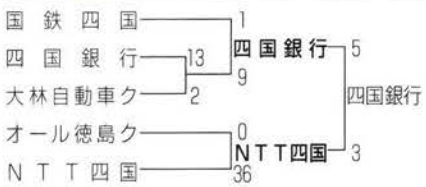
三菱自動車水島 5 ― 4 協和発酵
川崎製鉄水島 8 ― 1 ＮＴＴ中国
三菱自動車水島 9 ― 2 川崎製鉄水島
協和発酵 9 ― 7 ＮＴＴ中国
協和発酵 6 ― 5 川崎製鉄水島
三菱自動車水島 9 ― 2 ＮＴＴ中国

●第１代表・３勝の**三菱自動車水島**

●第２代表・２勝１敗の**協和発酵**

四国大会

9月20日から　3日間　　香川県野球場



九州大会

9月21日から　5日間　　新日鉄八幡大谷球場

松下電器、敗退 13回連続ならず

幻アーチでがっくり

◎…近畿予選の1回戦で13回連続出場を目指す松下電器が三菱自動車京都に敗れ、全国で唯一第１回大会から続けてきた連続出場が途切れてしまった。松下電器は先発・北口の思わぬ不調で２点を先行され、打線は三菱自動車京都の下手投げ・織田の揺さぶりに五回までテキサス安打１本という苦しい展開。六回に敵失の走者を一塁に置いて小野が左越えにホームランして追いつき、七回篠崎の一打が右翼ポールに当たったかと思われたがファウルの判定。10分近く抗議したが受け入れられず結局試合続行。八、九回に三菱自動車京都に得点を許し、反撃も三菱の織田－吉岡の継投に封じられてしまった。松下電器の山口監督は「小野の一発で追いつき"さあ"という時にアレ（幻のホームラン）でしょう。言いたくないが、あれでみんなの緊張感がなくなってしまった。連続出場が途切れて先輩の方々に申し訳ない。また出直します」と悔しさを隠せなかった。

第13回大会出場選手等一覧（○は主将）

王子製紙苫小牧

監督	樋口	博美	33	帯広三条高
投手	中嶋	治彦	20	日南学園高
〃	坂	正盛	18	北海道日大高
〃	原田	佳典	18	滝川西高
〃	太神	俊一	19	札幌清田高
〃	滝川	収	23	穂別高
〃	樋口	博美	33	帯広三条高
〃	島山	浩一	18	日南学園高
捕手	田中	茂樹	30	北海高
〃	山根	博美	22	米子工高
〃	長谷部	克哉	18	甲府商高
〃	阿部	高明	26	室蘭大谷高
内野	佐々木	一尚	23	苫小牧工高
〃	竹林	義孝	22	関西大
〃	菊地	章生	20	日南学園高
〃	佐々木	稔	30	駒大苫小牧高
〃	酒井	孝央	20	札幌光星高
〃	千葉	浩	25	北見北斗高
〃	○長沢	則明	27	東海大四高
〃	石田	一途	27	札幌光星高
外野	沢田	義文	29	むつ工高
〃	阿部	一仁	20	宮崎富島高
〃	阿部	一行	28	帯広工高
〃	田中	浩	25	東海大四高
〃	西川	和浩	21	苫小牧工高
〃	石井	馨	31	苫小牧工高

新日本製鐵室蘭

監督	後藤	哲夫	37	岡山興譲館高
投手	今野	弘	19	北海高
〃	浅川	輝彦	28	韮崎工高
〃	米山	浩一	25	専修大
〃	窪田	雅也	23	立教大
〃	真下	敏宏	23	北海高
〃	池田	裕行	23	松戸高
〃	稲場	孝	29	芦別工高
捕手	平間	英樹	21	白糠高
〃	佐野	修二	28	市川高
〃	長山	一英	22	神奈川大
〃	後藤	哲夫	37	岡山興譲館高
内野	遠田	誠治	21	北海高
〃	鈴木	広之	18	水戸商高
〃	鹿田	和彦	29	旭川竜谷高
〃	岡田	健一	18	旭川竜谷高
〃	坂尾	新一	22	東海大甲府高
〃	本間	義浩	20	北海高
〃	桜井	清一	24	倶知安高
〃	鈴木	忠仁	24	札幌商高
〃	大塚	邦弘	32	北海高
外野	片山	昌昭	19	駒大岩見沢高
〃	関	尚彦	22	函館有斗高
〃	堀松	洋伸	27	東北高
〃	○岡田	仁	30	室蘭工高
〃	馬場	巧司	23	室蘭大谷高

NTT東北

監督	佐藤	公弘	34	国士舘大
投手	佐藤	公弘	34	国士舘大
〃	斉藤	孝弘	27	福島商高
〃	君島	厚志	24	立正大
〃	斉藤	一則	23	拓殖大
〃	池田	敏昭	21	酒田工高
〃	越田	仁孝	20	青森北高
〃	添田	光夫	20	平工高
〃	渡辺	智晴	18	勿来高
捕手	菊田	善信	28	駒沢大
〃	猪狩	正弘	22	明治大
〃	山内	聰	21	青森北高
内野	福地日出雄		28	東農大
〃	伊藤	友喜	26	関東学院大
〃	清家	圭税	25	近大工学部
〃	塩谷	肇	25	国士舘大
〃	板井	博行	24	東農大
〃	大竹	睦	22	帝京大
〃	加藤	秀典	18	羽黒工高
〃	鈴木	幸彦	29	国士舘大
外野	○小野	亨	28	東農大
〃	高松	直志	25	能代高
〃	多田	浩	23	帝京大
〃	戸羽	英之	19	一関商工高
〃	三瓶	仁	18	学法石川高
〃	佐藤	善克	18	名取高

新日本製鐵釜石

監督	日高	明彦	35	名電工高
投手	高島	覚	22	一関商工高
〃	富樫	英則	27	大館商高
〃	山内	真	23	青森北高
〃	斎藤	一広	20	金足農高
〃	工藤	義光	19	弘前工高
捕手	泉沢	英治	25	釜石工高
〃	森	孝治	24	青森高
〃	大溝	一精	23	八戸高
内野	紺野	裕一	19	遠野高
〃	山本	雅章	24	明星高
〃	谷地	俊治	24	雫石高
〃	平川	澄	28	弘前工高
〃	菊池	渡	27	一関修紅高
〃	○田沢	一仁	28	弘前工高
〃	木村	則昭	23	能代商高
〃	菅原	隆	23	神奈川大
〃	日高	明彦	35	名電工高
〃	永野	幸雄	32	花巻商高
外野	高橋	潤	22	一関商工高
〃	吉田	幸也	23	金足農高
〃	平間	徹	28	気仙沼高
〃	若槻	弘之	31	花巻商高
〃	加藤	哲也	27	立教大
〃	早瀬	修	31	仙台育英高
〃	佐々木鉄夫		24	盛岡工高

プリンスホテル

監督	石山	建一	43	早稲田大
投手	水沢	博文	19	金足農高
〃	吉田	幸夫	27	青山学院大
〃	鈴木	政明	35	勝山高
〃	守永	紀之	24	近畿大
〃	原	幸仁	22	諏訪清陵高
〃	末木	久	24	東海大
捕手	杉本	隆雄	18	PL学園高
〃	原	秀昭	26	九州産大
〃	瀬戸山	満年	23	中京高
〃	宮里	多美男	25	興南高
〃	住吉	義則	21	竹早高
内野	加藤真名不		19	宇都宮工高
〃	小川	博文	19	拓大紅陵高
〃	中藤	義雄	22	倉敷工高
〃	山本	順一	18	北陽高
〃	藤井	康雄	23	泉州高
〃	清水	克海	20	松商学園高
外野	中島	輝士	23	柳川高
〃	田辺	晃	21	日大二高
〃	○村中	秀人	27	東海大
〃	鈴木	康生	23	早稲田大
〃	和気	忠夫	25	桜美林高
〃	谷中	雅治	19	国学院栃木高
〃	九島	伸嘉	23	東海大
〃	上野	和也	25	専修大

三菱自動車川崎

監督	垣野	多鶴	34	東海大
投手	阿部	政文	32	早稲田大
〃	小野	哲	19	相洋高
〃	吉沢	哲也	21	大島高
〃	安保	浩幸	23	日体大
〃	武藤	信二	25	法政大
〃	小笠原	敏雄	29	太田工高
捕手	斉藤	徹	19	天竜光洋高
〃	高須	和良	18	霞ヶ浦高
〃	安斉	卓己	20	日体荏原高
〃	平野	逸男	25	佐世保工高
内野	清水	雅治	22	浜田高
〃	○松野	章男	28	帝京高
〃	四條	稔	19	東海大甲府高
〃	鶴見	信彦	19	向上高
〃	佐藤	信行	22	修徳高
〃	大須賀	康浩	32	法政大
〃	櫛原	昌則	22	法政大
〃	和田	敏雄	25	日大三高
外野	金子	元樹	21	武相高
〃	角	晃司	26	東海大
〃	米田	敏之	26	修徳高
〃	小川	欣也	27	吉原工高
〃	村田	雅彦	20	徳島商高
〃	堀井	哲也	24	慶応大
〃	佐藤	浩光	25	上尾高

富士重工業

監督	茂木	啓司	39	松商学園高
投手	泉	敏	19	青森商高
〃	大塚	章二	19	霞ヶ浦高
〃	向田	佳元	30	早稲田大
〃	磯野	弘三	20	日本学園高
〃	古尾谷	雅典	25	向の岡工高
〃	斉藤	正勝	24	桐生工高
捕手	秋山	徳治	19	鴻巣高
〃	山本	善則	19	市和歌山商高
〃	大久保	博	23	東海大浦安高
〃	長崎	徳好	24	信州工高
内野	鈴木	秀男	31	日本大
〃	東泉	憲司	22	深谷商高
〃	阿波連	実	23	東洋大
〃	細内	信昌	20	水城高
〃	富永	武雄	29	早稲田大
〃	木村	恒	24	早稲田大
〃	上野	潟	23	日本大
〃	○村田	博幸	30	日本大
〃	後藤	清隆	22	土浦日大高
外野	井上	勇人	27	早稲田大
〃	藤野二	三夫	19	東京農大二高
〃	井上	肇	21	茨城東高
〃	市川	司郎	25	東洋大
〃	斉藤	英樹	24	日本大
〃	野口	広巳	33	高崎商高

住友金属鹿島

監督	入田	耕三	39	関西学院大
投手	長谷川	清之	20	学法石川高
〃	加瀬	秀樹	19	旭農高
〃	○関口	一行	29	早稲田大
〃	牛尾	守	25	中央大
〃	山下	辰矢	23	東京農大二高
〃	白鳥	浩徳	20	東北高
〃	小島	秀夫	20	熊谷工高
捕手	久保	公克	25	弘前実高
〃	杉山	信哉	22	秋田商高
〃	大津	邦裕	24	帝京大
〃	鞍本	一広	21	堀越高
内野	宇都宮	敏彦	22	県岐阜商高
〃	川島	浩	25	帝京大
〃	間部	英昭	27	筑波大
〃	越野	淳一	19	銚子西高
〃	小林	正行	21	佐竹高
〃	赤沢	義明	25	銚子西高
〃	平野	和男	28	中央大
〃	阪本	浩和	22	印旛高
外野	木本	雅文	25	和歌山工高
〃	吉沢	裕二	25	土浦日大高
〃	雉子沼	仁	23	鉾田一高
〃	金井	政利	25	松代高
〃	宮内	淳一	22	立正大
〃	水木	靖	20	弘前工高

河合楽器

監督	田村	利宏	45	中央大
投手	松田	昇	28	中央大
〃	太田	智之	24	明治大
〃	谷津田	伸二	23	中央大
〃	徳岡	潤	23	大商大
〃	浜崎	修	22	専修大
〃	新田	紀之	22	亜細亜大
〃	水沢	薫	21	秋田商高
捕手	平生	一喜	29	東海大工高
〃	市川	善文	25	大商大
〃	安間	大芳	24	中央大
内野	山本宗三郎		33	国士舘大
〃	村瀬	耕次	27	中京大
〃	黒田	豊	27	立命館大
〃	大石	正勝	23	浜松商高
〃	鈴木	智治	23	中央大
〃	盛	隆章	22	亜細亜大
〃	尾上	裕介	22	中央大
〃	黒田	信広	22	中央大
〃	上中	勝矢	20	泉州高
外野	○大須賀	健	27	中央大
〃	牛尾	浩	25	中央大
〃	並木	保彦	24	青山学院大
〃	樽井	徹	24	法政大
〃	西原	忠善	23	中央大
〃	鈴木	徳久	22	磯原高

大昭和製紙

監督	角田	憲二	39	早稲田大
投手	間柄	直樹	19	日大明誠高
〃	三浦	達也	19	堀越高
〃	井上	茂	18	興国高
〃	熊本	泰治	18	山陽高
〃	城内	良巳	19	星陵高
〃	金沢	健	19	八戸工大一高
〃	秋山	勇人	22	中京大
捕手	○勝又	靖之	25	静岡商高
〃	原田	望	19	新宮高
〃	森田	研司	19	日田林工高
内野	永島	剛	23	福岡大
〃	亀山	時弘	23	関東学院大
〃	角山	雅典	18	富士宮北高
〃	服部	和浩	19	興国高
〃	森	昭生	19	新宮高
〃	秋田	稔	20	四街道高
〃	原田	浩正	22	東海大工高
〃	高津	保夫	31	堀越高
〃	和気	弘昭	18	山陽高
外野	井戸	義隆	24	大商大
〃	小池	泰美	20	日体荏原高
〃	日隈	隆治	22	日田林工高
〃	安藤浩太郎		19	都城高
〃	木村	泰雄	24	立教大
〃	黒島	博文	19	都城高

NTT東海

監督	山口	敏樹	34	福岡大
投手	金池	雅彦	23	愛知学院大
〃	岩瀬	明彦	20	碧南工高
〃	笠井孝志登		22	中京商高
〃	所	善隆	23	駒沢大
〃	長谷川豊和		26	明治学院大
〃	鈴木	亨	25	静岡商高
捕手	山本	常義	27	青山学院大
〃	中西	親志	25	相可高
内野	澤田	郡拡	20	滝高
〃	湯之戸孝修		32	近畿大
〃	浅野	和弘	24	中京高
〃	辻	慶人	25	日本大
〃	小松	直樹	23	駒沢大
〃	○内藤	清貴	27	中京大
〃	井上	雅晴	22	東邦高
〃	中森	裕哉	20	相可高
〃	大川	雅則	20	三島高
外野	望月	広武	24	専修大
〃	川合	隆文	24	東洋大
〃	宮本	和徳	25	近畿大
〃	森田	範三	21	中京高
〃	木戸	均	25	名城大
〃	近藤芳太郎		22	近畿大
〃	大林	悟	27	県岐阜商高

NTT北陸

監督	益成	徳治	39	国士舘大
投手	山崎	博之	22	星陵高
〃	松井	聡	23	富山商高
〃	大倉	浩悦	25	東北福祉大
〃	上原	勝男	28	興南高
〃	地井	豊則	23	立正大
捕手	甲斐	浩三	23	国士舘大
〃	高橋	義晴	25	駒沢大
〃	岩田	光平	23	立正大
〃	下野	博樹	26	福井工大
内野	金津	裕之	24	大経大
〃	寺本	喜知夫	30	関東学院大
〃	佐々木	壮	30	国士舘大
〃	○北川	良	29	専修大
〃	水本	太	25	帝京大
〃	福与	優	24	東海大三高
〃	梶原	彰	24	関東学院大
〃	新座	良一	29	駒沢大
外野	森	隆浩	23	中央大
〃	片山	雅彦	28	東洋大
〃	紀	充則	30	東洋大
〃	野村	育生	30	日本大
〃	松本	賢二	25	近畿大
〃	長谷川	勉	23	大商大

三菱重工神戸

監督	竹中	円	35	萩 高
投手	島沢	真	23	東 洋 大
〃	吉川	克彦	22	舞 子 高
〃	鳴鬼	敬治	19	小松島西高
〃	千々松	誠二	22	村 野 工 高
〃	植松	勉	25	高 松 南 高
〃	栗田	聴	22	明 石 高
捕手	木須	貴久	19	報徳学園高
〃	広永	貴俊	20	鳴 門 商 高
〃	富	光男	27	専 修 大
内野	岡田	敏裕	30	同 志 社 大
〃	戎井	昭彦	25	専 修 大
〃	山口	敏弘	24	東 洋 大
〃	山下	圭三	24	村 野 工 高
〃	原田	正剛	21	伯 方 高
〃	大西	美昌	23	池 田 高
〃	青田	勝則	22	市 川 高
〃	植田	宏	21	県尼崎工高
外野	○松本	芳一	29	東 洋 大
〃	水谷	義孝	23	育 英 高
〃	杉山	基浩	22	箕 島 高
〃	林	昌希	25	神戸学院大
〃	綱岡	正	25	滝 川 高
〃	中馬	秀雄	28	立 命 館 大

三菱自動車京都

監督	前川	博	40	徳 島 商 高
投手	浜田	政美	31	鳥取城北高
〃	吉岡	健二	22	東 北 高
〃	織田	正弘	23	志 度 商 高
〃	井上	敏	21	大 津 商 高
〃	阪本	正行	27	同 志 社 大
〃	中畑	靖之	19	土 庄 高
〃	田渕	功晃	18	鳴 門 工 高
〃	岡田	正裕	18	鳥 取 工 高
捕手	森	利彦	22	鳴 門 工 高
〃	森上	弘之	20	ＰＬ学園高
内野	岩崎武千法		22	竜 谷 大
〃	枇本	亘	22	徳 島 商 高
〃	亀山	和明	29	早 稲 田 大
〃	○岡田	英也	28	東 洋 大
〃	玉井	伸幸	24	御坊商工高
〃	塚田	邦義	20	山 城 高
〃	藤村	達二	19	新 田 高
〃	川原崎哲也		25	関西学院大
〃	小林	弘知	27	慶 応 大
外野	木脇	護	28	慶 応 大
〃	岡田	周三	23	東洋大姫路高
〃	水野	正直	19	明 星 高
〃	樋口	好二	26	育 英 高
〃	橋本	良祐	23	慶 応 大

新日本製鐵広畑

監督	河内	佳征	43	盈 進 高
投手	黒石	康晴	20	市 川 高
〃	大東	一仁	23	山 崎 高
〃	藤高	俊彦	27	伊 香 高
〃	足達	尚人	20	東洋大姫路高
〃	津田	宗明	23	福 山 工 高
〃	桐野	太一	19	豊 岡 実 高
〃	夜久	幸治	26	福 知 山 高
捕手	黒田	純生	29	和歌山工高
〃	那部良浩至		21	奈 良 商 高
〃	○応武	篤良	28	早 稲 田 大
〃	西村	治幸	26	江 の 川 高
〃	阿山	正人	19	東洋大姫路高
内野	大墨	弘幸	19	東洋大姫路高
〃	青木	正和	20	明 石 商 高
〃	林	道義	22	香 寺 高
〃	児玉	貴志	23	和歌山工高
〃	北野	悦司	20	和歌山工高
〃	砂田	弘樹	22	江 津 工 高
〃	浜野	正明	30	和歌山工高
外野	原田	三郎	22	志 度 商 高
〃	福田	栄治	23	立 命 館 大
〃	黒田	晃	29	神戸学院大
〃	尾形	正己	33	山 崎 高
〃	船越	敏彦	26	近 畿 大
〃	山脇	建己	24	同 志 社 大

川崎製鉄神戸

監督	五島	卓道	32	早 稲 田 大
投手	真鍋	義之	32	神港学園高
〃	宮内	義則	23	鳴 門 工 高
〃	石井	雅也	24	東洋大姫路高
〃	岡本	透	21	報徳学園高
〃	藪	浩昭	23	御坊商工高
〃	西川	勝	27	近 畿 大
〃	豊田	次郎	19	東洋大姫路高
捕手	以倉	章	26	関西学院大
〃	初田	幸廣	20	尼 崎 工 高
〃	船越	泰弘	33	博 多 工 高
内野	中村	佳正	30	同 志 社 大
〃	中谷	亨	28	大 経 大
〃	鳶	吉雄	26	比 叡 山 高
〃	島本	裕	22	報徳学園高
〃	上村	真弘	25	田辺商高
〃	浜名	敬一	25	明 石 南 高
〃	中山	道夫	19	大 社 高
〃	○福本	正行	30	村 野 工 高
外野	筑瀬	隆生	26	天 理 高
〃	石津	明弘	27	大 経 大
〃	山中	正則	29	和歌山工高
〃	宮本	宗篤	25	田辺商高
〃	川中	哲也	23	尽誠学園高
〃	菊地	弘之	26	南 宇 和 高
〃	藤原	安弘	19	東海大山形高

日本生命

監督	小弓場	保	43	橋 本 高
投手	森	明彦	28	河 南 高
〃	伊藤	伸幸	27	東 経 大
〃	早瀬	万豊	27	関 西 大
〃	土手本勝昭		24	亜 細 亜 大
〃	田嶋	俊雄	20	長浜北高
〃	新田	雄司	22	専 修 大
捕手	内田	敏弘	28	法 政 大
〃	鍛治本明典		26	近 畿 大
〃	浅倉	伸吉	22	東 海 大
内野	花野	巧	32	同 志 社 大
〃	○佐藤	清	30	早 稲 田 大
〃	中村	昭徳	25	専 修 大
〃	大西	慶典	25	東 洋 大
〃	高比羅規人		24	近 畿 大
〃	辻	政幸	23	大 経 大
〃	山中	利光	20	泉 州 高
〃	米崎	薫臣	18	此花学院高
〃	川瀬	世資	18	桜 宮 高
外野	森田	昇	28	近 畿 大
〃	中橋	伸幸	27	愛知学院大
〃	児玉	卓也	25	東 海 大
〃	石井	崇之	24	日 体 大
〃	守屋	公雄	23	早 稲 田 大
〃	藤内	一三	22	青山学院大
〃	加古	恵介	22	立 命 館 大

阿部企業

監督	中本	史郎	31	拓 殖 大
投手	磯谷	宏行	22	上尾沼南高
〃	陽	介仁	27	台湾文化大
〃	田阪	頼正	23	愛知学院大
〃	遠藤	隆	25	拓 殖 大
〃	魚瀬	喜裕	19	北 宇 和 高
〃	柴田佳主也		19	明 石 高
〃	今井	聡	19	明 石 高
捕手	尾上	昭宏	19	高 千 穂 高
〃	前田	勝司	22	三 瓶 高
〃	岩佐	文人	27	佛 教 大
内野	西谷	一利	23	明 徳 高
〃	○小羽	保治	23	尼崎小田高
〃	小林	秀行	28	日 本 大
〃	細居	勉	19	育 英 高
〃	上田	栄一	19	八代学院高
〃	原口惣太郎		19	東海大工高
〃	永岡	幸仁	24	中 央 大
〃	宮岡	清治	27	青山学院大
外野	林	易増	27	台湾文化大
〃	飯干	英和	21	ＰＬ学園高
〃	蔵桝	裕司	21	ＰＬ学園高
〃	山本	清二	27	近 畿 大
〃	小林	昭博	24	久留米大

三菱自動車水島

監督	渡辺	和生	31	青山学院大
投手	小野田弘幸		20	若 松 商 高
〃	東森	修	21	ＰＬ学園高
〃	永峯	康政	22	水 島 工 高
〃	徳留	満弥	25	笠 沙 高
〃	田島	智弘	21	小 倉 工 高
〃	峰	慎司	24	明 治 大
〃	入来	智	19	鹿児島実高
〃	田上	智志	20	出 水 工 高
内野	久保田幸治		22	ＰＬ学園高
〃	岩田	徹	20	ＰＬ学園高
〃	小牧	雄一	19	鹿児島商高
〃	井上	一重	20	岡山東商高
〃	藤猪	裕史	24	高 松 商 高
〃	有村	博幸	20	鹿児島城西高
〃	堀内	一弘	27	箕 島 高
〃	小沢	浩一	20	松江農林高
〃	八木	裕	21	岡山東商高
〃	松本	治	23	東 洋 大
〃	○勝部	浩実	27	明治学院大
外野	守屋	幹也	29	岡山東商高
〃	前田	隆	19	延 岡 西 高
〃	森川	康弘	24	箕 島 高
〃	山本	和久	27	亜 細 亜 大
〃	高畑	富裕	23	尽誠学園高
〃	渡辺	和生	31	青山学院大

協和発酵

監督	山田	孝道	36	防 府 商 高
投手	佐藤	正和	26	東 海 大
〃	浜口	宗寛	20	長崎海星高
〃	合原	和宏	26	八 幡 大
〃	別府	克彦	22	新 田 高
〃	古谷	友宏	19	宇 部 商 高
〃	高井	浩美	22	多々良学園高
捕手	坂本	二朗	26	東 京 大
〃	国本	正弘	25	南陽工高
〃	吉川	啓一	19	鎮 西 高
〃	榊原	寛二	22	下関商高
内野	立花	昇	25	柳 川 高
〃	得津	佳男	25	東 海 大
〃	岡本	達朗	24	宇 部 工 高
〃	○西本	豊	27	東 海 大
〃	藤本	保之	26	南陽工高
〃	藤井	哲人	19	唐 津 商 高
〃	南野	安男	23	関西学院大
外野	山口	光夫	26	岩 国 商 高
〃	広田	恭司	20	萩 商 高
〃	河村	宏治	19	宇 部 商 高
〃	古賀	康則	26	柳 川 高
〃	古嶋	正人	31	下関商高
〃	平野	秀夫	22	防 府 商 高

四国銀行

監督	城下	照男	32	専 修 大
投手	山本	智久	29	池 田 高
〃	宮本	典幸	28	帝 京 大
〃	橋谷	正人	25	大 商 大
〃	浜田	孝伸	23	東 邦 大
〃	大沢	一弘	23	東 洋 大
〃	池内	聴	22	専 修 大
捕手	渡辺	毅	27	専 修 大
〃	宮本	章彦	25	東 経 大
内野	森本	誠	31	高知商高
〃	乃一	官	31	関 西 大
〃	薬師神一成		28	京 産 大
〃	森	正隆	27	明 治 大
〃	西	弘顕	26	明 治 大
〃	伊名	正道	25	東 洋 大
〃	森田	洋生	24	明 治 大
〃	谷岡	秀一	23	亜 細 亜 大
外野	○阿部	稔	28	大 商 大
〃	小橋	基喜	27	駒 沢 大
〃	井上	幹也	24	愛知学院大
〃	宮本	雄二	23	神奈川大
〃	田中	靖秀	22	近 畿 大

NTT四国

監督	横松	英雄	40	関東学院大
投手	滝下	茂信	28	穴 吹 高
〃	土田	博健	23	帝京第五高
〃	白井	宏範	23	駒 沢 大
〃	久利	周大	23	東 洋 大
〃	篠宮	勝敏	20	今 治 北 高
〃	西川	慎一	20	大 洲 農 高
〃	渡辺	智男	19	伊 野 商 高
捕手	夕部	孝豊	24	大 方 商 高
〃	武田	和高	22	明徳義塾高
〃	白石	勇二	20	松 山 商 高
内野	○板東	照雄	29	立 正 大
〃	三倉	一男	27	駒 沢 大
〃	緒賀	克郎	27	東 洋 大
〃	竹島	誠	24	九州東海大
〃	篠原	昭人	23	駒 沢 大
〃	小谷	雄司	21	明徳義塾高
〃	西園寺	師仁	21	八 幡 浜 高
〃	加藤	浩嗣	21	新居浜工高
外野	石元	浩三	28	新 田 高
〃	武田	正人	25	駒 沢 大
〃	神田	敦	25	日 体 大
〃	三好	利幸	23	北 条 高
〃	吉田	衡	21	池 田 高
〃	松田	竜治	19	松山商高

新日本製鐵八幡

監督	瀬藤	宣彦	42	小 倉 高
投手	丸谷富美幸		27	日南振徳商高
〃	武田	克也	27	多度津工高
〃	北村憤一郎		23	八代第一高
〃	瀬山	和久	23	種子島実高
〃	石田	大介	25	筑 波 大
〃	藤原	和久	18	高 田 高
〃	池田	宣人	27	長 崎 北 高
捕手	前川	公克	23	八重山商工高
〃	福本	高典	26	宇部鴻城高
〃	伊藤	雄二	20	下関商高
内野	山前	伸二	26	直方学園高
〃	鉄見	浩次	24	早 稲 田 大
〃	山崎	典政	28	都城農高
〃	平	滝男	29	長崎商高
〃	○本村	正一	29	南 筑 高
〃	佐野	高明	21	大 牟 田 高
〃	池田	幸治	22	熊本工大高
〃	中谷	勝則	22	宇 部 工 高
外野	葉山	正彦	18	小 倉 工 高
〃	田村	勝彦	22	八 頭 高
〃	加藤	雄一	29	鎌倉学園高
〃	石川	尚	22	東海大二高
〃	丸谷富美夫		21	日 南 高
〃	田中	丈春	18	久留米商高

日本鉱業佐賀関

監督	池部	鉄雄	39	安心院高
投手	中沢	広幸	21	土佐清水高
〃	有馬	浩幸	26	筑 波 大
〃	宮本	雄治	27	法 政 大
〃	清	篤也	25	日 南 高
〃	和泉	義則	21	琴 浦 高
〃	古田穣二郎		21	津久見高
捕手	羽田野達彦		27	国士舘大
〃	伊藤	浩久	23	下関商高
内野	野上	勝也	27	津久見高
〃	百瀬	紫郎	25	鶴崎工高
〃	清原	真二	27	柳ケ浦高
〃	大川	裕司	22	広 陵 高
〃	古田	徹	26	津久見高
〃	上野	秀男	23	下関商高
〃	伏原	直	33	広 陵 高
外野	○平野	英雄	27	中 京 大
〃	岩尾	正義	32	中津工高
〃	佐藤	哲也	22	津久見高
〃	青井	輝幸	21	佐世保工高
〃	金田	修一	19	上野ケ丘高

第14回大会

1987年(昭和62年)10月26日▶11月4日　大阪球場

優勝＝中山製鋼 ——（初優勝）

初陣中山製鋼、若さで頂点

23試合のうち1点差試合が7試合と、実力接近を浮き彫りにしたが、その競り合いと混戦の中を初出場の中山製鋼が、若さと熱気をフルに発揮して初の栄冠をつかんだ。

中山製鋼は高校出の無名選手ばかりだが、野性味のあふれる"雑草集団"の魅力を秘めていた。藤野、玉寄の沖縄・興南高出身コンビを投手陣の軸に、予想を覆す大活躍を見せた。打率5割で首位打者となった山本真は七番、打撃賞の森脇は二番と本来"つなぎ役"の打者が快進撃の立役者となった。

熊谷組は期待のエース伊藤が初戦でツメを割り、谷津田が打球を胸に受けるなど投手陣がアクシデントに見舞われたが、打線の集中力で優勝戦へ進んだ。初出場とはいえ、試合運びのうまさは都市対抗優勝3回の伝統を感じさせた。

本田技研は準々決勝までの3試合で雨堤の3アーチを含む9本塁打を放つなど、打線の破壊力では今大会随一だった。対照的にプリンスホテルは1年目の石井丈を軸に、ベテランの吉田、若手の橋本、石田ら投手陣の踏ん張りで4強入りを果たした。4強のうち3チームを関東勢が占めたのは史上初めて。このほかベテランの藤高が好リリーフをみせた新日鉄広畑などの健闘が光った。

〔優勝戦〕中山製鋼―熊谷組　歓喜のナインに胴上げされる中山製鋼・福島野球部副部長。

大会審判

▷委員長＝米谷道雄 ▷副委員長＝三輪武、山川脩司 ▷幹事＝中西明、三宅享次、岡本好二、津田浩嗣、原田謹爾、永野元玄 ▷委員＝戸田直佑、本郷良直、片岡成夫、広沢百治、木嶋一黄、清水正輝、上杉正、岸野金治、樫根清一、大橋慶三、小林勉、桃田晴彦、中西則夫、河島秀喜、桂等、吉田龍男、鹿多証道、生越芳明、東優孝、辻喜正、巽正一、岡本良一、美馬洋、中川雅夫、宮木明、土井池憲治、杉中豊、南垣勇、三橋隆之、西尾由紀治、長谷至康、永田兼治、丸屋琢美、伊東登、大石泰、梶浦照樹、宮奥欣司、赤井淳二、山名俊雄、片山寄世史、小田昇

▽10月26日

第1試合＝1回戦(午前10時開始)

ＮＴＴ東北	0	0	0	0	1	1	2	0	1	5
日産自動車九州	0	0	4	1	0	0	0	0	0	5

▶審判(球審)中西明(塁審)大橋、樫根、伊東

【ＮＴＴ東北】

	打	安	点	振	球
④ 福地	6	5	1	1	0
⑧ 小野	5	4	3	1	1
⑦ 三瓶	6	2	0	2	0
③ 菊田	5	3	5	1	0
⑨ 多田	4	0	0	1	0
R9佐藤	1	0	0	0	0
② 猪狩	5	2	1	0	0
⑥ 板井	4	1	0	1	2
⑤ 大竹	2	0	0	0	0
5 柿久保	4	2	0	0	0
① 斉藤	1	0	0	0	0
1 大倉	1	0	0	0	0
H 戸羽	1	0	0	1	0
1 越田	1	0	0	1	0

犠 併 残
4 1 13 4 6 1 9 1 0 9 3

【日産自動車】

	打	安	点	振	球
⑧ 鳥越	4	0	0	1	1
④ 山本	5	2	1	0	0
⑤ 東	5	1	2	0	0
③ 小川孝	5	1	0	1	0
⑥ 鈴木	4	2	2	0	0
⑨ 松井	3	1	0	1	1
⑦ 小川正	4	2	0	0	0
② 江副	4	0	0	1	0
① 藤井	3	0	0	1	0
1 大石	1	0	0	0	0
1 横山	0	0	0	0	0

犠 併 残
0 2 5 3 8 9 5 5 2

回 安振球責

斉藤	3⅔	7	4	0	5
大倉	2	1	1	2	0
越田	5	1	0	0	0

回 安振球責

藤井	6⅔	12	8	0	4
大石	3	5	1	2	5
横山	1	2	0	1	1

▷本塁打＝東1号②(斉藤)鈴木1号②(斉藤)福地1号(藤井)菊田1号(藤井)2号(大石)▷二塁打＝小川正2、板井、柿久保、小野▷犠打＝Ｎ4(菊田、佐藤、猪狩、越田)▷失策＝日2(山本、鈴木)＝▷試合時間＝3時間

三振後は5打席連続安打

◎…NTT東北の一番福地が6打数5安打の大当たり。第1打席空振り三振のあとの第2打席からは5打席連続安打。「昨年のベスト4がまぐれと思われたくなかった」という意地と、1982年まで在籍していた大昭和製紙北海道時代の元同僚たちが観戦していたのが快打の原因と分析。

▽10月27日

第1試合＝1回戦(午前9時11分開始)

新日鉄広畑	0	2	0	0	0	0	0	1	0	3
大昭和製紙北海道	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2

▶審判(球審)木嶋(塁審)杉本、辻、南垣

【新日鉄広畑】

	打	安	点	振	球
⑧ 杉本	3	1	0	0	1
⑥ 児玉	4	0	0	1	0
② 応武	3	1	1	0	1
③ 尾形	4	0	0	0	0
⑦ 原田	4	0	0	1	0
⑨ 船越	3	1	0	0	1
⑤ 砂田	4	1	0	0	0
④ 大墨	2	0	0	0	1
① 足達	2	1	2	0	0
H 定詰	1	0	0	0	0
1 藤高	0	0	0	0	0

犠 併 残
0 1 4 3 0 5 3 2 4

【大昭和製紙】

	打	安	点	振	球
④ 高木	4	1	0	0	0
⑧ 平	3	1	0	1	0
② 横沢	4	1	0	0	0
⑤ 酒井	3	1	0	1	1
③ 横川	3	1	1	0	0
⑨ 佐藤	3	1	0	0	1
⑦ 阿相	4	1	1	0	0
⑥ 菅野	3	0	0	0	0
6 社	0	0	0	0	0
H 北	1	0	0	0	0
① 渡部	3	0	0	3	0

犠 併 残
2 1 6 3 1 7 2 5 2

回 安振球責

足達	7	6	3	2	2
藤高	2	1	2	0	0

回 安振球責

渡部	9	5	2	4	2

▷本塁打＝阿相1号(足達)▷二塁打＝横沢、足達、酒井▷犠打＝大2(平、横川)▷失策＝大1(酒井)▷試合時間＝1時間58分

第2試合＝1回戦(午前11時31分開始)

日本ＩＢＭ野洲	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3
本田技研鈴鹿	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2

▶審判(球審)西尾(塁審)美馬、桃田、宮木

【ＩＢＭ野洲】

	打	安	点	振	球
⑧ 渕田	5	2	1	0	0
⑥ 藤田	4	1	0	1	0
⑤ 小松崎	5	1	1	1	0
③ 藤原	4	1	1	0	0
⑦ 芳村	4	1	0	1	0
⑨ 田嶋	3	1	0	2	0
④ 坂上正	1	0	0	0	3
② 坂上博	2	0	0	1	0
2 田村	1	0	0	1	0
① 井戸	2	0	0	0	0
H 山本	1	0	0	0	0
1 中西	1	0	0	0	0

犠 併 残
3 1 9 3 3 7 3 7 3

【本田鈴鹿】

	打	安	点	振	球
⑧ 右京	5	0	0	1	0
④ 山中	3	2	0	0	1
⑨ 大久保	3	0	0	1	0
⑤ 岡崎	3	2	0	0	1
② 葉室	4	1	0	0	0
⑦ 金並	4	1	0	0	0
③ 今山	3	2	2	0	0
⑥ 肥田	2	0	0	1	0
H 高塚	1	0	0	0	0
① 塩崎	3	1	0	1	0
H 大西	1	0	0	1	0

犠 併 残
3 0 8 3 2 9 2 5 2

回 安振球責

井戸	5	7	3	1	2
中西	4	2	2	1	0

回 安振球責

塩崎	9	7	7	3	3

▷二塁打＝葉室、芳村、岡崎、田嶋、渕田▷犠打＝野3(藤田、田嶋、田村)本3(大久保、今山、肥田)▷盗塁＝野1(小松崎)本1(山中)▷失策＝野1(坂上正)本1(肥田)▷試合時間＝2時間31分

第3試合＝1回戦(午後2時25分開始)

本田技研	0	1	0	1	1	0	2	0	4	9
四国銀行	0	2	0	1	0	0	0	0	0	3

▶審判(球審)三宅(塁審)上杉、梶浦、大石(外審)永田、片山

【本田技研】

	打	安	点	振	球
⑧ 荻原	3	0	0	1	3
⑥ 朝山	3	0	0	0	3
④ 西	4	1	2	1	1
⑦ 雨堤	5	3	4	1	0
⑨ 金子	5	3	1	2	0
② 長井	5	2	1	1	0
③ 青木	5	2	1	1	0
⑤ 安藤	3	1	0	0	1
① 岡本	1	1	0	0	0
H 柳川	1	0	0	0	0
1 中屋	2	0	0	1	0

犠 併 残
2 1 11 3 7 1 3 9 8 8

【四国銀行】

	打	安	点	振	球
⑧ 田中	4	0	0	1	0
1 山本	0	0	0	0	0
1 宮本典	0	0	0	0	0
④ 谷岡	4	0	0	1	0
⑤ 薬師神	4	2	0	1	0
③ 西	4	2	1	0	0
⑦ 宮本雄	4	1	0	2	0
⑨8 井上	3	1	0	0	0
H 森田洋	1	0	0	0	0
⑥ 伊名	3	1	0	1	0
H 森	1	0	0	0	0
② 宮本章	2	1	0	0	0
H ① 渡辺	2	1	0	0	0
1 浜田	0	0	0	0	0
H 9森田建	1	1	0	0	0

犠 併 残
2 1 5 3 3 9 1 6 0

回 安振球責

岡本	5	6	4	0	1
中屋	4	3	2	0	0

回 安振球責

橋谷	4⅓	4	5	5	3
浜田	2⅔	3	2	1	2
山本	1⅔	6	1	1	4
宮本典	⅓	0	0	1	0

▷本塁打＝雨堤1号(橋谷)2号②(浜田)金子1号(橋谷)西1号(岡本)西1号②(山本)▷二塁打＝金子▷犠打＝本2(岡本、安藤)四2(浜田、宮本章)▷盗塁＝本2(朝山、安藤)▷失策＝本1(朝山)四1(伊名)▷試合時間＝2時間59分

第4試合＝1回戦(午後5時54分開始)

ヤマハ	2	3	0	0	1	0	1	0	4	11
ＮＴＴ九州	3	0	0	1	0	2	0	0	0	6

▶審判(球審)永野(塁審)巽、山名、宮奥(外審)永田、片山

【ヤマハ】

	打	安	点	振	球
④ 山本	5	1	1	0	0
⑦ 金指	6	4	1	1	0
③ 中村	5	3	4	0	1
⑤ 武居	3	0	0	0	3
⑨ 高重	5	1	0	0	0
9 小中	1	0	0	1	0
⑥ 山口	5	1	0	2	0
⑧ 内佐	4	3	0	0	1
② 山藤	5	4	5	0	0
① 高中	3	1	0	1	0
1 山久	1	0	0	0	1

犠 併 残
2 2 13 4 3 1 8 1 1 5 6

【ＮＴＴ九州】

	打	安	点	振	球
⑦ 小林	4	2	0	1	1
④ 鎌田	0	0	0	0	0
4 松本敏	2	1	0	0	0
6 井手	2	0	0	1	0
⑥4 奥村寿	2	2	1	0	2
⑤ 嶋川	5	3	2	2	0
⑨ 端山	3	1	2	2	0
③ 伊東	4	2	1	0	0
⑧ 角	3	0	0	2	0
② 仲村	4	1	0	0	0
① 安武	2	0	0	0	0
1 H 竹内	1	0	0	0	0
1 松本泰	0	0	0	0	0

犠 併 残
3 1 7 3 4 1 2 6 4 3

回 安振球責

山中	4⅓	6	2	2	4
高久	4⅔	6	2	1	2

回 安振球責

安武	4⅔	10	2	0	6
野村	3⅓	4	2	3	1
竹内	⅔	2	0	2	4
松本泰	1	2	1	1	0

▷本塁打＝中村1号②(安武)佐藤1号②(安武)▷二塁打＝松本敏、奥村寿、金指、仲村、中村▷犠打＝ヤ2(山本、中山)Ｎ3(松本敏、端山、角)▷盗塁＝ヤ3(山本、中山、佐藤)Ｎ1(小林)▷失策＝Ｎ2(松本敏、奥村寿)▷暴投＝高久▷試合時間＝3時間13分

▽10月28日

第1試合＝1回戦(午前8時57分開始)

王子製紙苫小牧	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
松下電器	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3

▶審判(球審)樫根(塁審)桂、片山、赤井

【王子苫小牧】

	打	安	点	振	球
⑥ 佐々木一	3	1	0	0	0
④ 竹林	4	1	1	0	0
⑤7佐々木稔	4	0	0	0	0
⑨ 沢田	4	2	0	1	0
③ 長沢	4	2	1	0	0
⑦8 阿部行	4	0	0	1	0
② 山根	3	2	0	0	1
① 中嶋	2	0	0	2	0
1 樋口	1	0	0	0	0
⑧ 岡坂	2	0	0	2	0
H 田中	0	0	0	0	1
5 千葉	0	0	0	0	0

犠 併 残
2 3 6 3 1 8 2 6 2

【松下電器】

	打	安	点	振	球
⑥ 広岡	4	3	0	0	0
⑤ 奥代	4	1	0	0	0
③ 篠崎	2	1	2	0	3
⑦ 島田	4	1	0	0	1
⑨ 沢田	3	1	0	1	0
R 志場	0	0	0	0	0
9 木村	1	1	1	0	0
④ 山尾	3	1	0	1	0
⑧ 平岡	3	0	0	0	1
② 大本	3	1	0	0	1
① 北口	0	0	0	0	0
H 北野	1	0	0	0	0
1 潮崎	2	1	0	0	0
H 小野	1	0	0	0	0
R 原井	0	0	0	0	0

犠 併 残
4 1 12 3 1 1 3 2 6

回 安振球責

中嶋	6⅓	9	2	4	2
樋口	2⅓	2	0	2	0

回 安振球責

北口	2	3	1	0	1
潮崎	7	5	5	2	1

▷二塁打＝長沢、島田、篠崎▷犠打＝王2(佐々木一、中嶋)松4(広岡、奥代、沢田、山尾)▷盗塁＝松2(広岡2)▷失策＝王3(佐々木一、山根、中嶋)▷試合時間＝2時間32分

第2試合＝1回戦(午前11時58分開始)

日本鋼管福山	2	0	0	0	0	1	1	0	1	5
秋田相互銀行	0	0	0	1	1	0	0	0	1	3

▶審判(球審)清水(塁審)西尾、梶浦、小田

【鋼管福山】

	打	安	点	振	球
⑥ 村上	5	1	1	2	0
⑦ 佐名木	4	2	0	1	0
7 佐藤	1	0	0	0	0
③ 小川	3	2	0	0	2
8 松浦	0	0	0	0	0
⑧3 岩野	5	3	2	1	0
⑤ 渡部	5	1	1	0	0
④ 西嶋	5	1	1	0	0
⑨ 木村	4	4	0	0	1
② 白石	4	1	0	0	0
① 浜口	4	0	0	1	0

犠 併 残
1 1 12 4 0 1 5 5 5 3

【秋田相銀】

	打	安	点	振	球
⑧ 斎藤忠	5	1	0	3	0
⑥ 桜庭	3	1	1	0	0
⑨ 京屋	4	1	1	1	0
⑦ 高橋	4	1	0	1	0
② 渡辺	3	0	0	2	0
④ 堀井	4	3	0	1	0
③ 斎藤哲	0	0	0	0	0
H3 石崎	4	1	0	1	0
① 千葉	3	2	0	1	0
1 熊谷	0	0	0	0	0
H 嵯峨	1	0	0	0	0
⑤ 佐々木	2	0	0	1	0
H 伊藤	1	0	1	0	0

犠 併 残
3 1 7 3 4 1 0 3 1 1 0

回 安振球責

浜口	9	10	11	0	3

回 安振球責

千葉	8⅔	14	5	3	5
熊谷	1	1	0	0	0

▷本塁打＝京屋1号(浜口)岩野1号(千葉)▷二塁打＝小川、高橋、西嶋、千葉▷犠打＝鋼1(白石)秋3(桜庭、渡辺、佐々木)▷盗塁＝秋1(堀井)▷失策＝鋼2(村上、岩野)秋1(佐々木)▷試合時間＝2時間21分

今、語る思い出
20歳のダイヤモンド旗
中山製鋼＝優勝
山本 真也内野手
(現役、25歳)

(第20回記念 毎日新聞連載企画から)

夏の高知大会ベスト8の成績を残して安芸工高を卒業、誘いを受けた中山製鋼に入社した。スピード、パワーとも社会人のレベルは高く、なかなか試合に出るチャンスがなかった。先発起用されたのは、やっと日本選手権の二次予選から。本大会は七番遊撃。初戦(二回戦)のＮＴＴ東北戦ではノーヒットだったが、次の準々決勝・新日鉄広畑戦が3打数3安打。これで波に乗り、準決勝の本田技研戦は4打数2安打、優勝戦の熊谷組も4打数2安打で初打点もマークした。

通算14打数7安打、打率5割で思いも寄らぬ首位打者賞をいただいた。こんな成績を残せたのは、名門チームの名前を聞いても恐れなかったからではないか。

1年目にして大きな自信がついたのは確かだ。だが、翌春、打球を右手親指に受けて骨折。腰痛にも見舞われ、その後思うように活躍する機会がないのは残念。まだ若いのだから頑張らなければ、と自分に言い聞かせている。

第3試合＝1回戦（午後2時50分開始）

熊谷組	000	320	000	5
NTT四国	001	010	010	3

▶審判（球審）広沢（塁審）土井池、岡本良、伊東（外審）中西則、南垣

【熊谷組】		打	安	点	振	球
⑧	宮里	4	1	1	1	1
②	黒岩	5	1	0	1	0
⑦	佐藤和	5	2	0	0	0
7	木村	0	0	0	0	0
⑨	横谷	3	1	0	2	2
③	向山	4	0	1	1	0
⑤	清水	3	1	1	1	1
④	高野	3	0	1	1	1
⑥	堀尾	3	1	1	0	1
①	伊藤	3	0	0	1	0
1	谷津田	0	0	0	0	0
犠併残	1 2 8	33	7	5	8	6

【NTT四国】		打	安	点	振	球
⑦	板東	4	1	1	0	1
④	小谷	5	0	0	1	0
⑨	三好	3	2	1	1	1
⑤	篠原	4	1	0	1	1
⑥	山本	4	1	0	1	0
6	緒賀	1	0	0	1	0
⑧	芝	2	0	0	1	0
8	石元	2	2	1	0	0
③	加藤	4	2	0	0	0
②	武田和	4	0	0	2	0
①	渡辺	1	0	0	1	0
H	神田	1	1	0	0	0
1	滝下	1	1	0	0	0
H	三倉	1	1	0	0	0
犠併残	1 0 11	37	12	3	9	3

	回	安	振	球	責
伊藤	7⅔	10	7	2	3
谷津田	2	2	2	1	0
渡辺	5	7	5	5	5
滝下	4	0	3	1	0

▷本塁打＝板東1号（伊藤）宮里1号（渡辺）▷二塁打＝石元▷犠打＝熊1（伊藤）四1（三好）▷盗塁＝熊1（黒岩）▷失策＝熊1（堀尾）四1（山本）▷試合時間＝2時間44分

第4試合＝2回戦（午後6時4分開始）

NTT東北	100	200	000	3
中山製鋼	001	030	01X	5

▶審判（球審）大橋（塁審）中西則、南垣、宮奥（外審）岡本良、伊東

【NTT東北】		打	安	点	振	球
④5	福地	4	0	0	1	1
⑧	小野	5	3	1	0	0
⑦	三瓶	5	2	1	2	0
③	菊田	2	1	0	0	2
⑨	多田	3	0	0	0	0
②	猪狩	2	1	0	1	2
⑥	板井	4	1	0	2	0
⑤	大竹	2	0	0	1	0
H	戸羽	1	0	0	0	0
5	柿久保	0	0	0	0	0
H	山内	1	0	0	1	0
4	矢萩	0	0	0	0	0
①	大倉	2	0	0	0	0
1	斉藤	1	0	0	0	0
H	加藤	1	0	0	1	0
犠併残	1 0 9	33	8	2	9	5

【中山製鋼】		打	安	点	振	球
⑧	松井	4	2	1	0	0
⑤	森脇	3	1	2	1	0
⑦	長井	4	0	0	2	0
③	辻岡	3	0	0	1	1
⑨	山崎	0	0	0	0	0
9	豊長	2	0	0	0	0
H	吉田	1	0	0	1	0
9	谷本	1	1	0	0	0
④	竹原	2	0	0	0	0
4	山田	1	0	0	0	0
⑥	山本真	3	0	0	2	1
②	尾野	4	3	1	0	0
①	藤野	1	0	0	0	0
1	玉寄	1	0	0	0	1
犠併残	3 2 7	30	7	4	7	3

	回	安	振	球	責
大倉	4⅓	4	3	2	3
斉藤	3⅔	3	4	1	1
藤野	4⅓	4	5	2	3
玉寄	4⅔	4	4	3	0

▷本塁打＝小野1号（藤野）松井1号（大倉）▷三塁打＝小野▷二塁打＝森脇、尾野、谷本▷犠打＝N1（多田）中3（森脇、山田、玉寄）▷失策＝N3（三瓶、猪狩、大竹）中1（竹原）▷暴投＝藤野▷試合時間＝2時間55分

▽10月29日

第1試合＝2回戦（午前8時57分開始）

日本石油	003	000	000	00	3
新日鉄広畑	000	200	010	03	6

▶審判（球審）木嶋（塁審）巽、大石、美馬

【日本石油】		打	安	点	振	球
⑦	玉川	3	1	0	0	0
8	鈴木	1	0	0	0	0
⑧7	田島	5	2	1	1	0
④	若井	3	2	2	1	2
③	石川	5	1	0	2	0
⑤	安岡	5	1	0	3	0
⑨	曽根原	4	1	0	2	0
②	対馬	3	0	0	0	1
⑥	伊藤	5	0	0	1	0
①	金沢	2	0	0	1	0
1	岡田	1	1	0	0	0
H	大久保	1	0	0	0	0
1	石田	0	0	0	0	0
犠併残	3 2 8	38	9	3	11	3

【新日鉄広畑】		打	安	点	振	球
⑧	杉本	5	2	1	1	0
⑥	児玉	4	2	0	1	0
②	応武	4	1	0	0	1
③	尾形	5	2	0	0	0
⑦	原田	5	2	2	0	0
⑨	船越	4	1	3	1	0
⑤	砂田	4	1	0	0	0
④	大墨	4	0	0	0	0
①	足達	1	0	0	1	0
1	夜久	0	0	0	0	0
1	桐野	0	0	0	0	0
H	林	1	0	0	0	0
1	藤高	2	0	0	1	0
犠併残	2 0 4	39	11	6	5	1

	回	安	振	球	責
金沢	5	5	3	0	2
岡田	3	3	1	1	1
石田	2⅔	3	1	0	3
足達	4	6	2	0	3
夜久	⅓	1	0	1	0
桐野	⅔	0	1	0	0
藤高	6	2	8	2	0

▷本塁打＝若井1号②（足達）杉本1号（岡田）船越1号③（石田）▷二塁打＝安岡、田島2、原田、杉本、岡田▷犠打＝日3（玉川、曽根原、対馬）新2（児玉、船越）▷盗塁＝日2（玉川、若井）▷試合時間＝3時間6分

（2回戦）新日鉄広畑－日本石油　十一回裏、新日鉄広畑二死一、三塁で船越がサヨナラ3ランを放つ。（投手・石田、捕手・対馬）

第2試合＝2回戦（午後0時34分開始）

日本IBM野洲	000	005	301	9
三菱重工広島	000	100	300	4

▶審判（球審）大橋（塁審）三橋、生越、原田

【IBM野洲】		打	安	点	振	球
⑧	渕田	4	1	0	1	1
⑥	藤田	4	1	0	0	0
⑤	小松崎	5	3	1	0	0
④	飯田	5	4	1	0	0
③	藤原	5	3	3	0	0
⑦	芳村	4	1	2	1	0
⑨	田嶋	2	0	0	1	0
H	川尻	1	0	1	0	0
9	山本	1	1	1	0	1
②	坂上博	5	1	0	0	0
①	井戸	2	0	0	0	0
H	青山	1	0	0	0	0
1	中西	1	0	0	0	0
犠併残	2 4 8	40	15	9	3	2

【三菱広島】		打	安	点	振	球
⑧	植田	4	2	1	0	1
⑦	多田	3	0	1	0	0
④	横井	4	3	2	0	0
⑤	若松	4	0	0	0	0
③	富士野	3	1	0	1	1
⑥	金光	4	1	0	1	0
⑨	井上	3	0	0	0	1
②	吉岡	4	2	0	1	0
①	山村	2	1	0	0	0
1	寺田	0	0	0	0	0
1	山下	0	0	0	0	0
H	正伝	0	0	0	0	1
1	疋田	0	0	0	0	0
H	山辺	1	0	0	0	0
犠併残	1 0 6	32	10	4	3	4

	回	安	振	球	責
井戸	5	6	2	1	1
中西	4	4	1	3	3
山村	5⅓	9	2	0	5
寺田	1	3	0	1	3
山下	⅔	0	0	1	0
疋田	2	3	1	0	1

▷三塁打＝芳村▷二塁打＝横井2、飯田2▷犠打＝野2（藤田、芳村）三1（多田）▷盗塁＝三1（横井）▷失策＝三2（多田、若松）▷暴投＝中西▷捕逸＝坂上博▷試合時間＝2時間30分

第3試合＝2回戦（午後3時35分開始）

本田技研	203	010	020	8
NTT信越	000	001	000	1

▶審判（球審）本郷（塁審）中西則、中川、河島（外審）杉中、桃田

【本田技研】		打	安	点	振	球
⑧	荻原	4	2	2	1	1
⑥	朝山	4	0	0	0	1
④	西	5	1	0	1	0
⑦	雨堤	1	1	0	0	4
⑨	金子	3	1	2	1	2
②	長井	4	1	2	1	0
③	青木	5	3	2	1	0
⑤	安藤	4	2	0	0	0
①	岡本	3	0	0	2	1
犠併残	4 1 11	33	11	8	7	9

【NTT信越】		打	安	点	振	球
⑨	松沢	4	0	0	0	0
⑥5	土居	3	1	0	0	1
⑧	石田	4	0	0	3	0
⑤3	横井	4	2	0	0	0
④	藤嶋	3	0	1	0	0
⑦	岡部	2	1	0	1	0
1	高野	0	0	0	0	0
H6	須田	1	1	0	0	1
③	加藤	2	0	0	0	0
H	金子	1	0	0	0	0
1	北沢	0	0	0	0	0
H	箱山	0	0	0	0	1
R	佐藤	0	0	0	0	0
②	高橋	4	2	0	0	0
①	田口	0	0	0	0	0
1	田島	1	0	0	0	0
7	渡辺	3	0	0	1	0
犠併残	1 1 8	32	7	1	5	3

	回	安	振	球	責
岡本	9	7	5	3	1
田口	2⅔	4	2	5	5
田島	1⅔	2	2	3	1
高野	1⅔	0	1	1	0
北沢	3	5	2	0	2

▷本塁打＝荻原1号（田口）金子2号②（北沢）▷二塁打＝高橋、青木、横井▷犠打＝本4（荻原、長井、安藤、岡本）N1（藤嶋）▷盗塁＝本5（荻原、西2、雨堤、金子）▷失策＝N1（横井）▷暴投＝田口、岡本▷試合時間＝2時間45分

第4試合＝2回戦（午後6時50分開始）

新日鉄堺	023	110	200	9
ヤマハ	010	300	022	8

▶審判（球審）吉田（塁審）桃田、東、杉中（外審）中川、河島

【新日鉄堺】		打	安	点	振	球
③	石原	3	0	0	2	0
H	江川	1	0	0	0	0
3	三原	1	0	0	1	0
⑥	井上	4	2	0	0	1
⑦	久保	3	1	0	0	1
R	山下	0	0	0	0	0
7	浦東徳	1	0	0	1	0
⑨	米倉	3	2	1	1	2
④	浦東靖	3	2	5	0	1
②	浦	5	0	0	1	0
⑤	馬場	4	2	1	1	0
⑧	西垣	3	0	0	1	0
①	清水	4	1	1	2	0
1	野茂	0	0	0	0	0
犠併残	2 2 6	35	10	8	10	5

【ヤマハ】		打	安	点	振	球
④	山本	4	1	0	1	1
⑦	金指	4	0	0	0	1
⑨	中村	5	1	0	1	0
③	武居	5	2	1	1	0
⑤	宮坂	4	3	1	1	1
R	鈴木	0	0	0	0	0
⑥	中山	5	2	1	0	0
⑧	内藤	2	1	0	0	0
1	山中	0	0	0	0	0
1	西村	1	0	0	0	0
H	小阪田	1	1	2	0	0
1	太田	0	0	0	0	0
②	佐藤	4	0	0	0	0
①	徳山	0	0	0	0	0
H	高重	1	0	0	0	0
1	高久	0	0	0	0	0
H8	後藤	3	2	3	1	0
犠併残	0 0 7	39	13	8	5	3

	回	安	振	球	責
清水	8⅔	13	5	2	5
野茂	⅓	0	0	1	0
徳山	2	2	0	1	2
高久	2	5	4	0	4
山中	⅓	1	0	2	1
西村	3⅔	1	5	1	1
太田	1	1	1	1	0

▷本塁打＝宮坂1号（清水）浦東靖1号③（高久）後藤1号（清水）▷二塁打＝馬場、後藤、米倉、武居▷犠打＝新2（浦東靖、西垣）▷盗塁＝新1（米倉）ヤ1（山本）▷失策＝新3（井上、浦、馬場）ヤ1（山本）▷暴投＝清水▷試合時間＝3時間15分

▽10月30日

第1試合＝2回戦（午前8時56分開始）

プリンスホテル	100	000	020	3
松下電器	000	000	000	0

▶審判（球審）三橋（塁審）永野、長谷、戸田

【プリンス】		打	安	点	振	球
⑧	田辺	3	1	0	0	0
⑥	戸栗	2	1	0	0	1
④	小川	4	1	1	1	0
⑨7	中島	2	1	1	0	2
③	石井浩	4	0	0	3	0
⑦	清水	3	1	0	0	0
R9	高木	1	0	0	0	0
⑤	足立	4	0	0	3	0
②	瀬戸山	4	0	0	0	0
①	石井丈	4	1	0	1	0
犠併残	2 1 6	31	6	2	8	3

【松下電器】		打	安	点	振	球
⑥	広岡	4	1	0	1	0
⑤	奥代	3	0	0	1	0
③	篠崎	3	0	0	1	0
⑦	島田	3	0	0	1	0
⑧9	沢田	3	0	0	0	0
④	山尾	3	0	0	0	0
⑨	木村	2	0	0	0	0
8	平岡	1	0	0	0	0
②	大本	3	2	0	0	0
①	北口	2	0	0	1	0
1	潮崎	0	0	0	0	0
H	北野	1	0	0	0	0
犠併残	1 1 2	28	3	0	5	0

	回	安	振	球	責
石井丈	9	3	5	0	0
北口	7⅔	5	7	3	1
潮崎	2	1	1	0	0

▷二塁打＝戸栗▷犠打＝プ2（田辺、戸栗）松1（奥代）▷失策＝松2（広岡、北口）▷試合時間＝1時間54分

第２試合＝２回戦(午前11時27分開始)

日本鋼管福山	0	2	0	1	1	1	1	0	0	6
住友金属	0	2	0	1	4	0	1	0	X	8

▶審判(球審)三宅(塁審)樫根、宮木、鹿多

【鋼管福山】打安点振球
⑦ 佐名木 5 3 2 0 0
7 佐藤 0 0 0 0 0
⑥ 村上 5 1 0 1 0
③ 小川 5 2 0 1 0
⑧ 岩野 5 1 0 0 0
⑤ 渡部 4 0 0 0 1
⑨ 木村 4 2 0 1 0
④ 西嶋 4 3 3 0 0
H 松浦 1 1 0 0 0
② 白石 4 2 0 0 0
H 小林 1 0 0 1 0
① 浜口 1 0 0 1 0
1 田代 0 0 0 0 0
H 岡田 1 1 1 0 0
1 塩山 1 0 0 1 0
犠 併 残
2 3 11 41 16 6 6 1

【住友金属】打安点振球
⑥ 田中 5 1 0 1 0
④ 福本 3 0 0 0 0
H 岩田 1 1 0 0 0
4 樋口 1 0 0 1 0
⑨ 畑山 4 2 0 0 0
③ 筒井 5 3 0 0 0
② 佐藤 4 2 2 0 0
⑧ 栗山 3 2 0 0 0
⑦ 三好 3 1 0 0 0
⑤ 中田 3 3 1 0 1
① 高橋 3 3 5 0 0
犠 併 残
4 2 8 35 18 8 2 1

回	安	振	球	責
浜口	4⅔	13	0	1	7
田代	⅓	1	1	0	0
塩山	3	4	1	0	1

回	安	振	球	責
高橋	9	16	6	1	5

▷本塁打＝岡田１号(高橋) ▷三塁打＝木村、村上 ▷二塁打＝小川、中田２ ▷犠打＝鋼２(木村、浜口)住４(畑山、栗山、三好、高橋) ▷盗塁＝住２(筒井、高橋) ▷失策＝鋼１(岩野)住１(筒井) ▷捕逸＝白石 ▷試合時間＝２時間32分

第３試合＝２回戦(午後２時29分開始)

王子製紙春日井	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
熊谷組	0	2	1	2	1	1	0	0	X	7

▶審判(球審)上杉(塁審)本郷、辻、土井池

【王子春日井】打安点振球
⑧ 山本 4 1 0 2 0
④ 東 3 0 0 1 0
⑥ 仙波 4 0 0 0 0
⑦ 棚橋 4 1 0 0 0
⑨ 内田 4 0 0 3 0
③ 佐藤 3 1 0 0 1
② 佐古口 2 0 0 0 0
H 2岩本 2 0 0 1 0
① 篠崎 2 1 1 1 0
1 新美 0 0 0 0 0
H 野垣 1 0 0 0 0
1 秋末 0 0 0 0 0
H 山内 1 0 0 0 0
⑤ 近藤 2 1 1 0 1
犠 併 残
1 0 6 32 5 2 8 2

【熊谷組】打安点振球
⑧ 宮里 4 0 0 0 0
② 黒岩 4 1 1 0 0
⑦ 佐藤和 4 1 1 1 0
7 木村 0 0 0 0 0
⑨ 横谷 4 2 0 1 0
③ 向山 3 1 0 0 1
⑤ 清水 4 2 1 0 0
④ 高野 3 1 2 0 0
H 高橋 1 0 0 0 0
4 森山 0 0 0 0 0
⑥ 堀尾 3 2 2 1 0
① 谷津田 3 0 0 1 0
犠 併 残
2 0 5 33 10 7 4 1

回	安	振	球	責
篠崎	5⅔	7	3	1	6
新美	1	1	0	0	0
秋末	2	2	1	0	0

回	安	振	球	責
谷津田	9	5	8	2	2

▷本塁打＝篠崎１号(谷津田)近藤１号(谷津田)黒岩１号(篠崎)高野１号②(篠崎)佐藤和１号(篠崎) ▷二塁打＝清水、向山 ▷犠打＝王１(東)熊２(堀尾、谷津田) ▷盗塁＝熊３(横谷２、堀尾) ▷失策＝王１(近藤)熊１(高野) ▷暴投＝谷津田 ▷試合時間＝１時間56分

▽11月１日

第１試合＝準々決勝(午前８時56分開始)

新日鉄広畑	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中山製鋼	0	0	1	1	0	0	0	0	X	2

▶審判(球審)小林(塁審)桂、伊東、原田

【新日鉄広畑】打安点振球
⑧ 杉本 4 0 0 0 0
⑥ 児玉 4 1 0 1 0
② 応武 3 1 0 0 1
③ 尾形 4 1 0 0 0
⑦ 原田 4 0 0 1 0
⑨ 船越 3 1 0 0 0
⑤ 砂田 3 1 0 0 0
④ 大墨 3 1 0 1 0
① 足達 1 0 0 0 0
H 林 1 0 0 0 0
1 桐野 0 0 0 0 0
H 定詰 1 0 0 1 0
1 藤高 0 0 0 0 0
犠 併 残
0 1 5 31 6 0 4 1

【中山製鋼】打安点振球
⑧ 松井 4 1 0 1 0
⑤ 森脇 4 1 0 0 0
⑦ 長井 4 1 1 0 0
③ 辻岡 3 0 0 1 0
⑨ 谷本 3 0 0 1 0
④ 山田 3 1 0 0 0
⑥ 山本真 3 3 0 0 0
② 尾野 3 1 1 1 0
① 藤野 3 0 0 2 0
犠 併 残
0 0 4 30 8 2 6 0

回	安	振	球	責
足達	4	7	5	0	2
桐野	3	1	0	0	0
藤高	1	0	1	0	0

回	安	振	球	責
藤野	9	6	4	1	0

▷二塁打＝尾野 ▷試合時間＝２時間18分

第２試合＝準々決勝(午前11時43分開始)

本田技研	0	1	0	0	0	3	0	2	0	6
日本IBM野洲	0	0	0	0	1	3	0	0	0	4

▶審判(球審)木嶋(塁審)清水、東、美馬

【本田技研】打安点振球
⑧ 荻原 5 0 0 0 0
⑥ 朝山 3 1 0 0 1
④ 西 4 1 0 1 0
⑦ 雨堤 4 1 1 0 0
⑨ 金子 4 1 0 2 0
② 長井 4 2 4 1 0
③ 青木 4 1 1 1 0
⑤ 安藤 4 1 0 0 0
① 岡本 2 0 0 1 0
1 中屋 0 0 0 0 0
1 森 2 1 0 0 0
犠 併 残
0 1 4 36 9 6 6 1

【IBM野洲】打安点振球
⑧ 渕田 5 1 0 0 0
⑨ 山本 5 2 1 0 0
⑤ 小松崎 3 0 0 1 2
④ 飯田 4 2 0 0 1
③ 藤原 5 1 0 1 0
⑦ 芳村 4 2 2 0 0
② 田村 2 0 1 0 0
H 田嶋 1 0 0 0 0
1 川尻 0 0 0 0 0
① 井戸 2 1 0 0 0
1 中西 0 0 0 0 0
H 2青山 1 0 0 1 0
⑥ 藤田 2 2 0 0 1
犠 併 残
3 0 10 34 11 4 3 4

回	安	振	球	責
岡本	5⅓	8	0	2	4
中屋	⅓	0	0	1	0
森	3⅓	3	3	1	0

回	安	振	球	責
井戸	5⅔	6	6	1	4
中西	2⅓	3	0	0	2
川尻	1	0	0	0	0

▷本塁打＝長井１号③(井戸)２号(中西)雨堤３号(中西) ▷三塁打＝芳村 ▷二塁打＝金子、森 ▷犠打＝１３(田村、中西、藤田) ▷盗塁＝本１(雨堤) ▷試合時間＝２時間32分

第３試合＝準々決勝(午後２時46分開始)

プリンスホテル	2	0	0	0	0	0	2	0	1	5
新日鉄堺	1	0	3	0	0	0	0	0	0	4

▶審判(球審)大橋(塁審)上杉、宮本、杉中(外審)生越、赤井

【プリンス】打安点振球
⑧ 田辺 4 1 0 0 1
⑥ 戸栗 5 1 0 0 0
④ 小川 4 1 2 0 1
⑦ 中島 5 2 2 0 0
⑨ 村中 5 2 1 0 0
③ 石井浩 4 0 0 0 1
⑤ 足立 5 1 0 2 0
② 瀬戸山 2 0 0 2 0
2 宮里 1 0 0 0 1
① 吉田 1 0 0 0 0
1 水沢 0 0 0 0 0
H 鈴木康 0 0 0 0 1
1 末木 0 0 0 0 0
H 1 橋本 0 0 0 0 0
H 住吉 1 0 0 0 0
H 清水 1 0 0 0 0
1 石井丈 0 0 0 0 0
犠 併 残
0 0 8 38 8 5 4 5

【新日鉄堺】打安点振球
③ 石原 4 1 0 1 0
3 三原 1 0 0 0 0
⑥ 井上 4 1 0 0 0
⑦ 久保 3 1 0 2 0
H 近沢 1 0 0 0 0
7 浦東徳 1 0 0 0 0
⑨ 米倉 5 3 2 1 0
④ 浦東靖 3 1 0 0 2
② 浦 5 1 2 1 0
⑤ 馬場 5 2 0 0 0
⑧ 西垣 4 0 0 0 0
① 九鬼 2 2 0 0 0
1 小椋 1 0 0 1 0
H 1 小山 1 0 0 1 0
1 清水 0 0 0 0 0
犠 併 残
2 2 10 40 12 4 7 2

回	安	振	球	責
吉田	3	6	1	1	4
水沢	1	1	1	0	0
末木	2	2	3	0	0
橋本	1	1	0	1	0
石井丈	3	2	2	0	0

回	安	振	球	責
九鬼	5	4	2	3	2
小椋	3	3	1	1	0
清水	2	1	1	1	1

▷本塁打＝小川１号②(小椋)中島１号(清水) ▷二塁打＝馬場 ▷犠打＝新２(井上、西垣) ▷失策＝プ１(足立)新３(井上２、浦東靖) ▷試合時間＝３時間２分

第４試合＝準々決勝(午後６時17分開始)

熊谷組	1	0	4	0	0	0	2	0	2	9
住友金属	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

▶審判(球審)三宅(塁審)中西則、生越、赤井(外審)杉中、宮木

【熊谷組】打安点振球
⑧ 宮里 4 1 0 1 0
H 佐藤敏 1 1 0 0 0
7 木村 0 0 0 0 0
② 黒岩 5 1 1 0 0
⑦ 佐藤和 4 3 0 0 0
H 8 伊吹 1 1 2 0 0
⑨ 横谷 4 2 1 1 1
③ 大島 3 1 1 2 0
3 向山 2 0 1 0 0
⑤ 清水 4 2 3 1 0
④ 高野 2 0 0 1 0
H 黒木 1 0 0 0 0
4 森山 0 0 0 0 0
⑥ 堀尾 4 0 0 1 0
① 伊藤 4 1 0 1 0
犠 併 残
1 1 5 39 13 9 8 1

【住友金属】打安点振球
④ 福本 3 0 0 0 0
⑤ 中田 4 1 0 0 0
⑨ 畑山 4 0 0 0 0
③ 筒井 3 2 1 0 1
② 佐藤 4 0 0 0 0
⑧ 栗山 2 0 0 0 1
H 三好 1 0 0 1 0
⑦ 川田 4 0 0 0 0
⑥ 田中 3 1 0 0 0
① 小杉 0 0 0 0 0
1 古賀 0 0 0 0 0
H 1 岩田 0 0 0 0 1
H 高橋 1 1 0 0 0
H 1 樋口 1 0 0 0 0
H 1 寺坂 0 0 0 0 0
1 吉木 0 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 6 30 5 1 1 3

回	安	振	球	責
伊藤	9	5	1	3	1

回	安	振	球	責
小杉	2⅔	6	3	1	5
古賀	⅓	0	1	0	0
高橋	4	5	3	0	2
寺坂	1	0	1	0	0
吉木	1	2	0	0	2

▷本塁打＝清水１号③(小杉)伊吹１号②(吉木)筒井１号(伊藤) ▷二塁打＝佐藤和、清水、伊藤、田中 ▷犠打＝熊１(高野)住１(福本) ▷盗塁＝熊１(横谷) ▷試合時間＝２時間25分

▽11月３日

第１試合＝準決勝(午前９時56分開始)

本田技研	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
中山製鋼	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3

▶審判(球審)大橋(塁審)中西則、岡本良、辻

【本田技研】打安点振球
⑧ 荻原 4 1 0 1 0
⑥ 朝山 4 0 0 0 0
④ 西 4 3 0 0 0
⑦ 雨堤 4 1 0 0 0
⑨ 金子 3 1 1 0 0
② 長井 2 1 1 1 2
③ 青木 4 0 0 0 0
⑤ 安藤 3 0 0 1 1
① 中屋 0 0 0 0 1
H 鈴木 1 0 0 1 0
1 森 2 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 7 31 7 2 4 4

【中山製鋼】打安点振球
⑧ 松井 4 1 0 2 1
⑤ 森脇 5 3 1 2 0
⑦ 長井 3 2 0 1 1
③ 辻岡 4 1 0 2 0
④ 山田 3 0 2 0 0
⑨ 谷本 2 0 0 1 0
H 徳永 1 0 0 0 0
9 豊長 1 0 0 0 0
⑥ 山本真 4 2 0 2 0
② 尾野 3 1 0 1 0
① 藤野 3 1 0 2 0
1 玉寄 1 0 0 0 0
犠 併 残
2 1 9 34 11 3 13 2

回	安	振	球	責
中屋	4	6	4	2	2
森	4⅔	5	9	0	0

回	安	振	球	責
藤野	6⅓	6	2	4	0
玉寄	2⅔	1	2	0	1

▷二塁打＝長井(中)２雨堤、西 ▷犠打＝本１(金子)中２(山田、尾野) ▷盗塁＝本１(安藤) ▷失策＝本１(森)中１(森脇) ▷捕逸＝尾野 ▷試合時間＝２時間44分

九回二死から驚異の粘り

中山製鋼が九回二死から鮮やかなサヨナラ勝ち、強豪・本田技研を倒した。中山製鋼は九回、二死から右前打の松井がけん制悪送球で一挙三進。森脇は内角シュートを右打ち、右中間にサヨナラ安打を放った。中山製鋼は五回から登板の森に９三振を奪われていたが、土壇場で粘りを発揮した。

本田技研は四回、二死二塁から長井の中前打で１点を挙げて追撃。八回には西の右中間二塁打、雨堤の一邪飛の間に三進、金子の中犠飛で還り、同点に追いついた。しかし、３試合で９本塁打の重量打線は、藤野、玉寄の継投に不発に終わった。

第２試合＝準決勝(午後１時10分開始)

熊谷組	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
プリンスホテル	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

▶審判(球審)樫根(塁審)美馬、生越、桃田(外審)大橋、津田

【熊谷組】打安点振球
③ 向山 4 0 0 0 2
② 黒岩 6 2 0 0 0
⑦ 佐藤和 4 1 0 0 1
⑨ 横谷 6 1 1 0 0
⑧ 伊吹 1 0 0 1 1
H 佐藤敏 1 1 0 0 0
8 木村 0 0 0 0 0
H 8 宮里 2 1 1 1 0
⑤ 清水 6 2 0 1 0
④ 高野 5 0 0 0 0
⑥ 堀尾 2 0 0 1 0
H 黒木 1 0 0 0 0
H 6 森山 1 0 0 0 1
① 伊藤 1 0 0 1 1
H 高橋 0 0 0 0 0
H 1 大島 1 0 0 1 0
1 谷津田 2 0 0 0 0
1 松浦 0 0 0 0 0
犠 併 残
1 2 10 43 8 2 6 7

【プリンス】打安点振球
⑧ 田辺 6 2 0 0 0
⑥ 戸栗 4 0 0 0 1
④ 小川 6 2 1 1 0
③ 中島 4 0 0 0 2
⑨ 村中 5 1 0 0 1
② 宮里 3 0 0 2 0
H 清水 1 0 0 0 0
2 瀬戸山 1 0 0 0 0
⑤ 足立 3 0 0 2 0
5 足立守永 1 1 0 0 0
① 永沢中 1 1 0 0 0
1 末木 1 0 0 0 0
H 1 橋本 0 0 0 0 0
1 石井丈 2 0 0 1 0
⑦ 高木 4 1 0 3 0
犠 併 残
2 2 10 43 8 1 10 5

回	安	振	球	責
伊藤	7	7	6	1	1
谷津田	5⅓	1	4	4	0
松浦	⅔	0	0	0	0

回	安	振	球	責
守永	3⅔	0	2	4	0
永沢	1⅓	1	1	1	0
末木	2⅓	1	1	0	0
橋本	1⅔	2	1	0	1
石井丈	4⅔	4	1	2	1

▷本塁打＝小川２号(伊藤) ▷二塁打＝黒岩、横谷 ▷犠打＝熊１(佐藤和)プ２(戸栗、高木) ▷失策＝プ１(山本) ▷試合時間＝３時間31分

谷津田の好救援で競り勝つ

熊谷組の軟投派で５年目の谷津田、プリンスホテルの剛腕ルーキー・石井丈の投げ合いで延長戦となったが、熊谷組は十三回二死後、佐藤和が左前打、続く横谷が左中間二塁打を放って勝ち越し点を奪った。１点を追う熊谷組はプリンスの小刻みな継投策にかわされていたが、九回、四番手の橋本をとらえ、黒岩の右中間二塁打、バント、横谷の三ゴロ失で一死一、三塁とし、代打・宮里の三遊間安打で同点。谷津田のあげリリーフを支え、反撃ムードを高めた。

プリンスは三回、二死から小川がバックスクリーン右へ２試合連続の先制アーチ。しかし、その後は伊藤の伸びのある速球と左右の援さぶり、伊藤を救援した谷津田の緩急をつけた投球に抑え込まれた。

▽11月4日

優勝戦(午後1時30分開始)

中山製鋼	0	0	0	1	1	0	1	2	0	5
熊谷組	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2

▶審判(球審)三宅(塁審)小林、広沢、大橋

【中山製鋼】	打	安	点	振球
⑧ 松井	4	1	0	1
⑤ 森脇	4	2	0	0
⑦ 長井	3	0	0	0
③ 辻岡	2	1	0	0
1 山本泰	2	1	0	0
⑨ 山崎	0	0	0	0
9 3 吉田	3	2	2	0
④ 山田	3	1	1	0
⑥ 山本真	4	2	1	1
② 尾野	4	0	0	0
① 藤野	1	0	0	0
H 3 岡崎	3	1	1	1
9 豊長	1	0	0	0
犠 併 残				
3 0 13				

【熊谷組】	打	安	点	振球
③ 向山	3	1	0	0
② 黒岩	3	1	0	1
⑦ 佐藤和	4	0	0	0
⑨ 横谷	4	1	1	0
⑧ 宮里	3	1	0	0
H 高橋	1	0	0	0
⑤ 清水	4	0	0	0
④ 高野	3	1	0	1
H 富田	1	0	1	0
⑥ 堀尾	2	1	0	0
H 佐藤敏	1	0	0	0
6 森山	0	0	0	0
① 伊藤	2	0	0	0
1 谷津田	0	0	0	0
H 黒木	1	0	0	0
1 松浦	0	0	0	0
犠 併 残				
1 1 5				

	回	安	振球	責
藤野	3	5	0	1
山本泰	6	1	3	1

	回	安	振球	責
伊藤	4⅓	7	0	4
谷津田	2⅔	2	2	2
松浦	2	1	0	2

▷二塁打＝黒岩、山田 ▷犠打＝中3(森脇、山本泰、山田)熊1(黒岩) ▷失策＝中3(森脇、山田、藤野) ▷試合時間＝2時間38分

中山製鋼、後半に逆転

2点を追う中山製鋼は四回、吉田の死球、犠打野選、山本真の死球で無死満塁。一死後、代打・岡崎が左前打してまず1点。五回には2安打と死球の一死満塁に山本真が右中間にテキサス安打し、同点に追いついた。

試合の流れをつかんだ中山製鋼は七回、四球の吉田を山田が左中間二塁打で還して勝ち越し。八回には二死二、三塁から吉田が三塁後方にポトリと落ちる幸運な安打を放ち、決定的な2点を加えた。

熊谷組は二回に高野の中前適時打、三回には二死三塁から横谷の中前打で1点ずつを挙げ、主導権を握った。投手陣も準決勝で右胸に打球を受けた二番手の谷津田が気力で踏ん張ったものの、中山製鋼の粘りに屈した。

中山製鋼は四回から登板した山本泰が、カーブを低めに集めて1安打ピッチング、味方打線の奮起を促した投球は光った。

監督談話

中山製鋼・小坂信夫監督　五回まで動きがぎこちなく、気が気じゃなかったが、よく逆転してくれた。初めての登板ながら期待以上の働きをした山本泰の好投が勝因。殊勲者が次々生まれ、勢いを保ち続けたことが優勝につながったと思う。

熊谷組・久保田美郎監督　都市対抗で1勝もできなかっただけにダイヤモンド旗がほしかった。打線がなぜ打てなかったのかわからない。5点は取れるはずだった。情けないぐらいの気持ちです。中山製鋼の勢いにやられたとしか言いようがない。

ダイヤモンド旗を高々と差し上げる中山製鋼・谷本主将とスタンドを埋めた喜びの応援団。

"雑草軍団"ミラクルV

熱球

高校野球の甲子園経験者といえば、投手の玉寄1人。無名に近い高校出の選手で固めた中山製鋼が、大学出のスター選手をズラリと並べた熊谷組を倒した。名門相手に気後れすることなく、5,000人を超える応援団の声援に後押しされ、平均年齢21歳の若さを爆発させた会心の逆転劇だった。

2点を先行されるやいなや展開の突破口を開いたのは、四回一死満塁で代打に起用されたマネジャー兼任の岡崎。この日まで出番がなく、試合前に小坂監督に「試合に出して下さい。出してくれないのなら、中にこもります」と"脅迫"したそうだが、その意気込みをぶつける三遊間安打で反撃ムードをもり上げた。さらに試合の流れを呼び込んだのが、首位打者賞の山本真。五回一死満塁で外角球に泳ぎながら執念で右中間に落とす同点適時打。「走りながら"落ちろ、落ちろ"と祈りました。ラッキーです」というように、この幸運な一打が今大会乗ってきた波にチームを引き込んだ。七回には、この試合まで1安打の山田が左中間を破る勝ち越しの二塁打。「ここで打たないと代えられる」との思いでたたいた山田にも気迫があった。

勢いをつけた中山製鋼は八回、熊谷組の三番手・松浦からこの試合が初先発の吉田までが三塁後方へのテキサス安打し、とどめの2点。笑顔、笑顔の選手をみながら小坂監督は「こんなことがあるんですかね。攻、守どれをとっても相手が上。まだ、勝ったという感じはありません」。副部長の福島敦彦前監督も「普通、石はダイヤモンドにならないものだが、みんな本当によくやってくれた」と、目をうるませた。チームを育て、導いた2人にとっても、この頂上征服は"ミラクルV"であった。

(原田　益夫)

監督ひと

中山製鋼　小坂 信夫監督

「うちの力は関西のチームの中でも中程度。Cクラスの上といったところ。どうして優勝できたのか……」「いや、会社あげての応援のおかげです。あのスタンドの応援がどれだけ選手を奮い立たせてくれたことか」。監督自身、勝利者としての言葉を探し出すのに困惑していた。それほど意外性のある優勝だった。

初出場でもあり、下馬評ではせいぜい「台風の目」になり得るか、が精いっぱい。それが、あれよあれよの快進撃。試合前、監督が「しょせんは子供と大人の戦いですよ」といっていたのに関東の古豪をねじ伏せての頂点。「勢いですね。いまの若い選手はどえらいことをやってくれます」と声を詰まらせてた。

倉敷商高時代は背番号13をつけたブルペン捕手だった。しかし、二年になると野球部をやめ、会社に入ってからは仲間を集め草野球に興じていた。そんな1981年、会社に野球部復活の話が持ち上がったが、復活そのものが37年ぶりのこと。コーチとして招かれたものの指導者としての経験もなくキャッチボール、トスバッティングのやり方すら手さぐり。全員「素人集団」だった。「最初はとまどいばかり。コーチとして勉強したのは福島敦彦前監督のもと。基礎からのやり直しでした」という。高校野球の報徳学園の監督としてセンバツ優勝、その後、慶大の監督も務めた福島さんが81年から86年秋までチームの土台づくりをし、この人に引き継いだ。

「野球にかけるひたむきさは人一倍。性格も明るいし、人の面倒見がいい」が周囲の評。就任わずかでビッグタイトルを手中にした監督の手腕がとわれるのは、むしろこれからだ。妻清子さんとの間に1男1女。

〈岡山県生まれ、倉敷商高から62年中山製鋼入社。81年野球部復活と同時にコーチ。86年秋、監督に就任。製品開発事業部、43歳〉　(今堀　二郎)

歓喜、ダイヤ旗と舞う

中山製鋼初V

「やった！」「名門復活だ」―中山製鋼が「初V」を決めスタンドの応援団約5000人は総立ちになり、選手らはマウンド上で跳び上がって喜び合った。"創部"7年目、大会初出場の快挙は"鉄冷え"の同社だけでなく、同業種の企業がひしめき、円高不況にあえぐ地元・大阪にも大きな"活力"に。そのチームを育てた製品開発事業部室長の野球部副部長、福島敦彦さん(47)は選手らに胴上げされながらうれし涙を流し続けた。

「まさか、ここまでやってくれるとは」。ネット裏で観戦していた福島さんは優勝の瞬間、ベンチへ走り込み、選手一人々々の手を取り「ありがとう。よくやってくれた」と頭を下げた。スタンドから「福島、よかったなあ」と声がかかると、それまでこらえていた涙がどっとあふれた。

中山製鋼野球部は、1940年の第14回都市対抗野球大会に出場、ベスト4に進出するなど、大阪の有力選手が集まる名門チームだった。ところが第2次大戦の激化とともに、44年廃部になった。

81年、「社員が結集できるスポーツクラブが欲しい」と野球部を復活、報徳学園高をセンバツで優勝させ、慶大野球部を再建させた福島さんを監督に迎えた。

しかし全国大会出場への道のりは平たんではなかった。全く無名の高卒球児の集団。「技術は素人に近いが、野球が大好きという連中ばかりだった」と福島さん。そのうえ、"鉄冷え"による会社の業績悪化などで、グラウンド整備もままならず、練習場は「内野だけがあるようなもの」(辻井和正専務)という状態。全国大会の予選では負け続け、関西の強豪チームには練習試合もしてもらえなかったという。

福島さんは足を痛め、昨秋、「勝負感が鋭い」小坂信夫監督にバトンタッチ。小坂監督と名コンビで、今大会予選を「ツキとしかいいようのない連続逆転勝ち」(福島さん)で初出場を決め、本大会もそのツキを生かした。

この日は角谷三四郎社長(68)らも応援、苦しい試合をものにしたが、角谷社長は「全社が一丸となり、会社自体が盛り上がった」と手放しの喜びよう。福島さんは「雑草のたくましさを持った選手たちの努力と、小坂監督のさい配、全社上げての声援が"ツキ"を呼び込んだ。とにかくうれしい」とダイヤモンド旗を先頭に更新するナインに目を細めた。

第14回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　藤野悦勝投手**(中山製鋼)　大粒の涙をいっぱいに浮かべて「優勝できただけでも幸せなのに、夢のよう」。4試合すべてに先発、22回⅔を投げて自責点4、防御率1.59。準々決勝では初体験の完封を演じるなど、チームの勢いに乗って今大会で急成長した。興南高出。178㌢、70㌔、右投げ右打ち。環境エネルギー部勤務。21歳。

◇**敢闘選手賞　谷津田順一投手**(熊谷組)　4試合で計19イニングを投げた。王子製紙春日井戦では完投し、伊藤とともに投手陣の軸として働いた。その投球内容も見事だったが、準決勝で胸部に強烈な打球を受けて倒れながら懸命に一塁に送球。入院した翌日の優勝戦にも登板した敢闘精神を大きく買われた。「受賞は光栄ですが、やはり優勝したかった」。中大出。176㌢、68㌔、右投げ右打ち。本社不動産部勤務。27歳。

◇**打撃賞　森脇勝二内野手**(中山製鋼)　4試合で16打数7安打、4割3分8厘。準決勝の本田技研戦ではサヨナラ安打、2回戦のＮＴＴ東北戦でも逆転二塁打を放ち、勝負強さを発揮した。「出来すぎと思う。大振りせず、センター中心に打ったのがよかった」。今年1月11日に結婚した妻真弓さん(24)は来月14日に出産予定。「大きなおなかで、明日は頑張って、と昨夜も素振りに付き合ってくれた妻に感謝します」。大阪・太成高出。172㌢、72㌔、右投げ右打ち。環境管理室勤務。24歳。

◇**首位打者賞　山本真也内野手**(中山製鋼)　14打数7安打、5割。七番打者だが、八番の尾野と名コンビを見せて"恐怖の下位打線"の威力をいかんなく発揮した。「野球をしていてこんな賞をもらうのは初めて。思わず足が震えました」。初戦のＮＴＴ東北戦では、五回先頭打者として出塁、試合を決める3点のきっかけをつくり、準決勝、優勝戦と大事なところで鋭い当たりを飛ばした。安芸工高出。174㌢、70㌔、右投げ右打ち。土木建築室勤務。19歳。

◇**大会優秀選手**

【投手】藤野悦勝、玉寄尚(以上中山製鋼)谷津田順一、伊藤敦規(以上熊谷組)石井丈裕(プリンスホテル)岡本隆之(本田技研)井戸英裕(日本ＩＢＭ野洲)藤高俊彦(新日鉄広畑)**【捕手】**尾野桂司(中山製鋼)長井研介(本田技研)**【内野手】**西俊児(本田技研)森脇勝二(中山製鋼)清水隆一(熊谷組)小川博文(プリンスホテル)飯田孝雄(日本ＩＢＭ野洲)山本真也(中山製鋼)筒井大助(住友金属)菊田善信(ＮＴＴ東北)**【外野手】**佐藤和弘、横谷彰将(以上熊谷組)雨堤浩久、金子誠一(以上本田技研)米倉格二(新日鉄堺)小野亨(ＮＴＴ東北)

◇**10回出場選手**　三好一幸外野手(住友金属)、太田健次投手(ヤマハ)、原邦彦投手(松下電器)

大会を顧みて思いつくまま

日本野球連盟
東海地区連盟
専務理事
服部　力
(日本野球連盟理事)

社会人野球日本選手権大会が、記念すべき第20回大会を迎えました事を心からお慶び申し上げます。この大会の運営に並々ならぬご尽力をいただいております近畿地区連盟、毎日新聞社、またご協力を賜ります各種団体関係者の方々に感謝と敬意を表する次第です。

昭和49年10月、甲子園球場で産声をあげてより20年、この間大阪球場、さらにはグリーンスタジアム神戸と開催球場を移して参りました。毎回この大会での各チーム選手の活躍を楽しみに見て参りましたが、何と申しましても、今記念大会にも見事6度も覇権を握り、しかも平成5年度のアマチュア野球の王座を獲得されました住友金属チームの、この大会への意気込みは立派で大いに称賛致すべきと存じます。また幾多の好プレー好ゲームを目指した中で、第14回大会に初出場で見事優勝した中山製鋼チームの若さ溢れる溌剌とした戦いぶり、又翌第15回大会では社会人野球の大会として初めてDH(指名打者)制が採用され、安打、本塁打数が記録的に伸び打撃が大いに振るった大会となりましたが、夏の都市対抗野球ドーム元年の王者東芝チームが、この大会でも好調を保って覇権を握り、見事"夏秋連覇"を達成し東芝強しが深く印象づけられた大会でした。

わが東海勢もこの大会では健闘しており、第3回大会で新日鉄名古屋、第9回大会でヤマハ発動機(旧中部連盟)、第13回大会でNTT東海がダイヤモンド旗を獲得しており、また第7回と第12回大会でヤマハ(元日本楽器)が何れも準優勝として活躍しておりますが、ここ暫く優勝から遠ざかっており何とか覇権奪回を願っております。

平成3年度よりアマチュア野球王座決定戦が行われるようになり、この選手権大会の覇者が権利を得られるだけに、これまでより更に大きい目的を持った大会となり、白熱していた試合が多く、一段と盛り上がった選手権大会になる事を期待し、また願っております。

夏の都市対抗野球とその内容を異にする本当のアマチュア野球の王座を獲得するための社会人野球選手権大会でもあり、また最近、大変な勢いで発展しつつある他競技に対しても野球の活性化を図る意味においても、都市対抗野球と共々に日本選手権大会のいっそうの発展に私どもご協力を致さねばと存じます。

第20回記念大会の盛会をお喜び申し上げ、今後の発展をご期待申し上げます。

第14回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月9日から　5日間　　札幌市営円山球場

東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽ **一回戦**　八甲ク7－2オール青森、自衛隊青森10－2全弘前倶▽**敗者復活戦**　オール青森3－2全弘前倶▽**準決勝**　自衛隊青森5－4八甲ク、三菱製紙八戸10－2オール青森▽**決勝**　自衛隊青森9－8三菱製紙八戸（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**▽ **一回戦**　宮城建設久慈ク11－1大槌球友、岩手銀行17－2岩手アイワ、オール江刺14－12オール釜石、赤崎野球ク8－7水工ク、宮高ク7－5盛岡ク▽ **二回戦**　小野田セメント12－0オール不来方、釜石野球団10－1雫石ク、一関三星ク3－0宮城建設久慈ク、岩手銀行7－0東京製綱、県経済連6－1オール江刺、住田ク8－6赤崎ク、高田ク12－0宮高ク、新日鉄釜石8－1北上球友▽**準々決勝**　一関三星ク2－1小野田セメント、岩手銀行7－0釜石野球団、県経済連12－0住田ク、新日鉄釜石10－4高田ク▽**準決勝**　岩手銀行5－1一関三星ク、県経済連4－2新日鉄釜石（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　岩手銀行6－3県経済連

◇**秋田**▽ **一回戦**　秋田銀行22－5秋商ク▽**準々決勝**　TDK11－2王冠ク、秋田相互銀行8－0東肥ク、フェニックス10－3能代松陵ク、秋田銀行22－1秋田経法大ク▽**準決勝**　秋田銀行2－0TDK、秋田相互銀行12－0フェニックスク▽**決勝**　秋田相互銀行8－2秋田銀行（勝者は第二次予選へ）

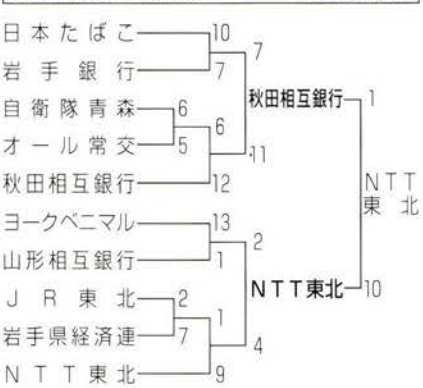
◇**宮城**▽ **一回戦**　日本たばこ11－0サニーク、七十七銀行10－2十条製紙、NTT東北（不戦勝）村田ク、JR東北9－1白山ク▽**準決勝**　日本たばこ9－3七十七銀行、NTT東北9－6JR東北（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　NTT東北5－4日本たばこ▽**敗者復活 一回戦**　サニーク5－1十条製紙▽**同 二回戦**　JR東北3－2七十七銀行、サニーク8－2白山ク▽**第三代表決定戦**　JR東北12－11サニーク（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽ **一回戦**　鶴岡野球ク18－1新庄球友ク▽**準決勝**　山形相互銀行12－2鶴岡野球ク、日大山形OB13－10三川ク▽**決勝**　山形相互銀行26－8日大山形OB（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽ **一回戦**　ヨークベニマル14－2川俣ク、北斗野球ク11－9ニュー相馬、小峰ク10－7保原ク、オール常交9－2自衛隊福島、小名浜ク8－7好間ク、飯野ク10－3二本松ク▽**準々決勝**　ヨークベニマル13－0須賀川ク、北斗野球ク4－2小峰ク、オール常交10－3トヤ野球ク、小名浜ク5－4飯野ク▽**準決勝**　ヨークベニマル12－0北斗野球ク、オール常交11－8小名浜ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ヨークベニマル11－0オール常交

▶二次予選

9月18日から　3日間　　宮城県営球場



関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽**リーグ戦**　日立製作所9－1鹿島石油、住友金属鹿島10－9鹿島石油（日立製作所、住友金属鹿島は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽ **一回戦**　全所沢9－4全三郷、大和ク11－6全大宮▽**準々決勝**　川口球友ク11－9都幾川ク、本田技研10－0エーザイ、大和ク8－2全浦和、日本通運11－0全所沢▽**準決勝**　日本通運7－1川口球友ク、本田技研7－0大和ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本通運10－6本田技研

◇**千葉**▽ **一回戦**　NTT関東4－0三井造船千葉、川崎製鉄千葉3－2新日鉄君津（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　NTT関東8－4川鉄千葉

◇**東京**▽ **一回戦**　朝日生命8－4日本IBM、JR東日本（不戦勝）東京球友ク、三井銀行5－2東京ガス▽**準々決勝**　熊谷組10－2朝日生命、明治生命8－7鷺宮製作所、NTT東京13－3JR東日本、プリンスホテル9－2三井銀行▽**準決勝**　熊谷組14－0明治生命、プリンスホテル9－7NTT東京（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　プリンスホテル7－0熊谷組▽ **三位決定戦**　明治生命9－7NTT東京（勝者は第二次予選へ）

◇**東京多摩**▽ **一回戦**　東芝府中16－1全府中、スリーボンド24－0全調布▽**決勝**　スリーボンド5－4東芝府中（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽ **一回戦**　いすゞ自動車7－1カナガワク、三菱重工横浜11－1川崎ク、日産自動車15－0横浜金港ク、横浜球友ク6－2横浜高島屋▽**準々決勝**　日本石油12－0いすゞ自動車、三菱重工横浜6－5日本鋼管、日産自動車3－2三菱自動車川崎、東芝13－2横浜球友ク▽**準決勝**　日本石油2－0三菱重工横浜、東芝4－3日産自動車（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本石油3－2東芝▽**第三代表決定戦**　日産自動車11－2三菱重工横浜（勝者は第二次予選へ）

◇**関東大会出場決定戦**　NTT東京（東京4位）4－3三菱重工横浜（神奈川4位）＝勝者は第二次予選へ

▶二次予選

9月26日から　4日間　　群馬県営敷島球場

中部大会

▶一次予選

◇**山梨**▽ **一回戦**　山梨球友ク4－3峡北ク、オール櫛形13－11甲府ベースク、桂ク6－2市川ク▽**準決勝**　山梨球友ク7－1東海甲府ク、オール櫛形7－4桂ク▽**決勝**　山梨球友ク14－1オール櫛形（勝者は第二次予選へ）

◇**新潟**▽ **一回戦**　全新発田8－7オール東、白根野球団4－3全飯豊▽**準々決勝**　長商ク6－1新津ク、新潟ク（不戦勝）白根野球団、佐渡軍団3－2新潟コンマーシャル、ニチ

エ―22－0全新発田▽**準決勝**　ニチエー7－2長商ク、新潟ク8－3佐渡軍団(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　ニチエー11－1新潟ク

◇**長野**▽　**一回戦**　ＮＴＴ信越9－0全松本、ＴＤＫ千曲川7－4岡工ク(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　ＮＴＴ信越12－2ＴＤＫ千曲川

◇**静岡**▽　**一回戦**　菊笠ク8－5浜松医大ウナボンズ、関東自動車工業10－3誠和ク、天城ベースク7－3本州ク、大昭和製紙11－0全三島、浜商闘魂会7－0吉原商工ク、河合楽器11－4岳南ク、ヤマハ10－0協和発酵ク、富士ク14－6エースコンク▽**準々決勝**　関東自動車工業11－1菊笠ク、大昭和製紙9－4天城ベースク、ヤマハ11－1富士ク、河合楽器7－0浜商闘魂会(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　ヤマハ11－3関東自動車工業、大昭和製紙5－2河合楽器▽**決勝**　ヤマハ5－1大昭和製紙

◇**富山**▽**三回戦制**　北陸銀行10－0ＮＴＴ富山、北陸銀行4－1ＮＴＴ富山(両チームは第二次予選へ)

▶二次予選

9月26日から　3日間　　浜松市営球場

東海・北陸大会

9月16日から　3日間
9月21日から　4日間　　愛知県営熱田球場

近畿大会

▶一次予選

◇**滋賀**▽　**一回戦**　瀬田工ＯＢ9－5近江八幡ク、日本ＩＢＭ野洲6－4全大津▽**決勝**　日本ＩＢＭ野洲10－0瀬田工ＯＢ(勝者は第二次予選へ)

◇**京都**▽　**一回戦**　日本新薬3－0京都市役所、第一紙行4－2丸勝、三菱自動車京都6－2高島屋京都、京都信用金庫15－1鴨沂ク(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　日本新薬10－3第一紙行、三菱自動車京都2－1京都信用金庫▽**決勝**　日本新薬11－2三菱自動車京都

◇**大阪**▽　**一回戦**　大和銀行17－1住友銀行、中山製鋼12－5全三和銀行、ＮＴＴ関西8－1大阪ペーシェンス▽**準々決勝**　新日鉄堺4－2大和銀行、松下電器7－5中山製鋼、大阪ガス9－2ＮＴＴ関西、日本生命7－0デュプロ(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　松下電器4－2新日鉄堺、日本生命5－2大阪ガス▽**決勝**　松下電器6－5日本生命▽**敗者復活一回戦**　中山製鋼7－6大和銀行、ＮＴＴ関西2－1デュプロ▽**第五代表決定戦**　中山製鋼7－5ＮＴＴ関西(勝者は第二次予選へ)

◇**兵庫**▽　**一回戦**　阿部企業20－6小西酒造、川崎製鉄神戸8－4神戸製鋼▽**準決勝**　三菱重工神戸9－2阿部企業、川鉄神戸4－1新日鉄広畑(準決勝出場4チームは第二次予選へ)▽**決勝**　川鉄神戸7－3三菱重工神戸▽**三位決定戦**　阿部企業3－2新日鉄広畑▽**第五代表決定戦**　神戸製鋼7－1小西酒造(勝者は第二次予選へ)

▶二次予選

9月23日から　7日間　　高砂市営球場

中国大会

10月1日から　5日間　　徳山球場

〈一回戦〉

〈代表決定リーグ戦〉

日本鋼管福山	5―3	新日鉄光
三菱重工広島	9―8	三菱重工広三原
三菱重工三原	6―2	新日鉄光
日本鋼管福山	15―6	三菱重工広島
三菱重工三原	6―5	日本鋼管福山
三菱重工広島	6―3	新日鉄光

※日本鋼管福山、三菱重工広島、三菱重工三原の3チームが2勝1敗となったため、再リーグ戦

〈代表決定再リーグ戦〉

日本鋼管福山	2―1	三菱重工三原
三菱重工広島	6―2	三菱重工三原
日本鋼管福山	5―1	三菱重工広島

●第1代表・2勝の**日本鋼管福山**

●第2代表・1勝1敗の**三菱重工広島**

四国大会

9月19日から　3日間　　高知県営球場

九州大会

9月20日から　4日間　　熊本県営藤崎台球場

第14回大会出場選手等一覧（○は主将）

王子製紙苫小牧

監督	樋口　博美	34	帯広三条高
投手	中嶋　治彦	21	日南学園高
〃	坂　正盛	19	北海道日大高
〃	原田　佳典	19	滝川西高
〃	太神　俊一	20	札幌清田高
〃	滝川　収	24	穂別高
〃	樋口　博美	34	帯広三条高
〃	島山　浩一	19	日南学園高
捕手	田中　茂樹	31	北海高
〃	山根　博美	23	米子工高
〃	長谷部克哉	19	甲府商高
〃	加藤　省二	18	駒大岩見沢高
内野	佐々木一尚	24	苫小牧工高
〃	竹林　義孝	23	関西大
〃	川島　太	20	苫小牧工高
〃	岸本　洋二	18	苫小牧工高
〃	菊地　章生	21	日南学園高
〃	佐々木　稔	31	駒大苫小牧高
〃	酒井　孝央	21	札幌光星高
〃	千葉　浩	26	北見北斗高
〃	長沢　則明	28	東海大四高
外野	岡坂　裕司	18	白樺学園高
〃	○沢田　義文	30	むつ工高
〃	阿部　一仁	21	宮崎富島高
〃	阿部　一行	29	帯広工高
〃	中島　拓史	19	苫小牧工高

大昭和製紙北海道

監督	斉藤　勲	41	柳井商工高
投手	高橋　秀一	18	札幌西陵高
〃	鈴木　賢二	22	千葉敬愛経大
〃	加藤　宗之	19	札幌稲西高
〃	大崎　守	21	室蘭大谷高
〃	尾崎　浩幸	21	広島至誠高
〃	渡部　勝美	24	砂川南高
〃	川瀬　隆俊	35	木古内高
捕手	山崎　史博	24	北海学園大
〃	新明克比古	24	室蘭大谷高
〃	山本　隆成	18	北海道日大高
〃	横沢　滋	27	深川西高
内野	社　新吾	26	瀬戸内高
〃	酒井　司	23	留萌高
〃	○高木　吉夫	25	中央学院大
〃	菅野　建二	25	旭川竜谷高
〃	斉藤　豊	22	東京農大
〃	横川　衛	29	北見工高
〃	五味川勝義	19	函館有斗高
〃	工藤　仁	20	函館有斗高
外野	阿相　信義	20	東北高
〃	平　紀陽典	27	日大東北工高
〃	佐藤　耕治	24	蘭越高
〃	北　延尚	20	広島盈進高
〃	日下　幸弘	21	広島至誠高
〃	五味川勝茂	21	函館有斗高

秋田相互銀行

監督	山中　寛	36	横手高
投手	熊谷　信次	22	秋田中央高
〃	斎藤　広樹	18	金足農高
〃	竹村　篤幸	22	大曲高
〃	千葉　正則	28	大館商高
〃	石崎　透	31	東洋大
捕手	渡辺　博之	28	大館商高
〃	菅原　敏	25	十和田高
〃	藤田　昌嘉	18	大館商高
内野	○堀井　政志	28	秋田商高
〃	佐々木直行	23	秋田経法大付高
〃	桜庭　仁	27	秋田商高
〃	斎藤　哲	26	本荘高
〃	岡本　丈義	19	能代商高
〃	岡村　利彦	19	秋田商高
〃	伊藤市之丞	19	大曲農高
外野	嵯峨　修	22	秋田中央高
〃	斎藤　忠彦	30	大曲農高
〃	南都　洋	23	秋田中央高
〃	京屋　建司	23	能代高
〃	高橋　明	23	秋田商高
〃	貝塚　肇	24	金足農高

NTT東北

監督	小窪　敬一	38	関東学院大
投手	小窪　敬一	38	関東学院大
〃	斉藤　孝弘	29	福島商高
〃	君島　厚志	26	立正大
〃	大倉　浩悦	26	東北福祉大
〃	池田　敏昭	23	酒田工高
〃	越田　仁孝	22	青森北高
〃	添田　光夫	22	平工高
〃	渡辺　智晴	20	勿来高
捕手	菊田　善信	30	駒沢大
〃	猪狩　正弘	24	明治大
〃	山内　聡	23	青森北高
内野	福地日出雄	30	東京農大
〃	伊藤　友喜	28	関東学院大
〃	板井　博行	26	東京農大
〃	大竹　睦	24	帝京大
〃	矢萩　幸一	23	日本大
〃	柿久保健二	23	東洋大
〃	加藤　秀典	20	羽黒工高
外野	○小野　亨	30	東京農大
〃	多田　浩	25	帝京大
〃	佐々木義明	22	一関商工高
〃	戸羽　英之	21	一関商工高
〃	三瓶　仁	20	学法石川高
〃	佐藤　喜克	20	名取高

本田技研

監督	田代　克業	34	中央大
投手	岡本　隆之	26	青山学院大
〃	日野　伸一	23	東洋大
〃	中屋　桂介	25	長門高
〃	森　政明	24	創価大
〃	竹中　勝男	24	駒沢大
〃	田口　権一	20	ＰＬ学園高
〃	加藤　真二	21	米沢中央高
捕手	田中　猛宏	20	中越高
〃	上田　治伸	25	駒沢大
〃	長井　研介	30	中央大
〃	宇田川丈昌	26	日本大
内野	安藤　強	24	東海大
〃	朝山　憲重	22	ＰＬ学園高
〃	西　俊児	23	専修大
〃	鈴木　和芳	22	嘉多方商高
〃	西山　英一	24	法政大
〃	鴇田　良一	24	国士舘大
〃	山田　仁寿	21	修徳高
〃	青木　一芳	25	拓大一高
外野	荻原　俊文	26	亜細亜大
〃	金子　誠一	23	法政大
〃	柳川　明弘	27	近畿大
〃	吉田　均	25	法政大
〃	橋本　勉	23	青山学院大
〃	○雨堤　浩久	33	中央大

熊谷組

監督	久保田美郎	39	関西大
投手	伊藤　敦規	23	福井工大
〃	鈴木　浩実	23	明治大
〃	渡辺　桂一	26	東海大
〃	刈田　誠二	20	越谷西高
〃	加治　太	27	中央大
〃	松浦　義興	23	国士舘大
〃	谷津田順一	26	中央大
捕手	黒岩　幸則	25	東海大
〃	佐竹　茂樹	19	高松商高
〃	高橋　大造	21	日大一高
内野	森山　茂	26	専修大
〃	高野　詳宏	27	日本大
〃	堀尾　昭典	22	駒沢大
〃	佐藤　敏一	22	福井工大
〃	大島　照之	23	国士舘大
〃	荒木　健二	26	早稲田大
〃	○向山　隆康	29	日本大
〃	清水　隆一	27	早稲田大
〃	富田　篤	22	中央大
外野	佐藤　和弘	22	亜細亜大
〃	黒木　義美	22	九産大
〃	横谷　彰将	23	国士舘大
〃	伊吹　淳一	24	法政大
〃	宮里　太	22	専修大
〃	木村　重徳	26	法政大

プリンスホテル

監督	石山　建一	44	早稲田大
投手	水沢　博文	20	金足農高
〃	吉田　幸夫	28	青山学院大
〃	橋本　武広	22	東京農大
〃	石井　文裕	22	法政大
〃	鈴木　政明	36	勝山高
〃	守永　紀之	25	近畿大
〃	原　幸仁	23	諏訪清陵高
〃	末木　久	25	東海大
捕手	杉本　隆雄	19	ＰＬ学園高
〃	宮里多美男	26	興南高
〃	瀬戸山満年	24	中京高
〃	住吉　義則	22	竹早高
内野	加藤真名不	20	宇都宮工高
〃	小川　博文	20	拓大紅陵高
〃	戸栗　和秀	22	駒沢大
〃	山本　順一	19	北陽高
〃	石井　浩郎	22	早稲田大
〃	足立　修	23	早稲田大
〃	清水　克海	21	松商学園高
外野	中島　輝士	24	柳川高
〃	田辺　晃	22	日大二高
〃	○村中　秀人	28	東海大
〃	鈴木　康生	24	早稲田大
〃	高木　慎一	22	法政大
〃	谷中　雅治	20	国学院栃木高

日本石油

監督	磯部　史雄	38	法政大
投手	岡田　邦彦	26	駒沢大
〃	藤宮　学	22	所沢東高
〃	保戸田勝利	22	帝京高
〃	田口　操	24	立正大
〃	石田　文樹	20	取手二高
〃	五十嵐章人	18	前橋商高
〃	金沢　健一	20	棚倉高
捕手	佐藤　孝治	24	早稲田大
〃	対馬　昭男	28	帝京大
〃	徳永　耕治	18	千葉工高
内野	中葉伸二郎	27	法政大
〃	大久保盛義	27	明治大
〃	若井　基安	23	法政大
〃	○石川　正之	25	神奈川大
〃	伊藤　義樹	23	中京高
〃	安岡　靖晃	22	明治大
〃	森　真	22	神奈川大
〃	江口　和人	22	東海大
外野	鈴木　慶裕	23	亜細亜大
〃	田島　信昭	27	帝京大
〃	玉川　寿	28	慶応大
〃	曽根原博志	28	亜細亜大
〃	奥原万佐紀	24	専修大
〃	田中　泰	24	東京経済大
〃	山下　正浩	21	泉州高

NTT信越

監督	柳沢　敏幸	37	小諸商高
投手	高野　正美	22	大宮高
〃	田島　英孝	19	岩国工高
〃	村井　勝美	18	岩国商高
〃	市原　勝人	22	日本大
〃	安藤奈賀男	30	松本工高
〃	木下　恵一	22	二俣高
〃	田口　勝好	27	名古屋商科大
〃	北沢　昇	22	亜細亜大
捕手	高橋　昭二	25	松商学園高
〃	常盤　圭介	26	帝京大
〃	末川　一昭	22	徳山大
内野	金子　昌彦	24	糸魚川商工高
〃	渡辺　勇治	27	立正大
〃	藤嶋　一利	27	中央大
〃	須田　聖	25	帝京大
〃	土居　誠人	23	新田高
〃	西条　明博	32	専修大
〃	鈴木　正洋	21	三重海星高
〃	横井　信一	26	法政大
〃	○加藤　桂二	28	専修大
外野	松沢　浩史	23	愛知学院大
〃	佐藤　章夫	20	市立尼崎高
〃	岡部　道明	23	中央大
〃	箱山　和宏	23	岩村田高
〃	石田三知夫	26	長野商高

ヤマハ

監督	川島　勝司	44	中央大
投手	河井　誠	25	日大高
〃	藤村　勝一	20	静岡西高
〃	西村　龍次	19	寒川高
〃	山中　保彦	24	専修大
〃	徳山　英之	21	富士学苑高
〃	高久　孝	29	駒沢大
〃	劉　秋農	31	輔仁大
〃	太田　健次	33	安積商高
〃	直井　憤吾	22	名古屋学院高
捕手	吉田　憲之	24	亜細亜大
〃	佐藤　正則	29	関東学院大
〃	富永　哲司	24	浜名高
内野	浜名　恭史	24	駒沢大
〃	中山　淳	29	立命館大
〃	山本　秀樹	33	名城大
〃	武居　邦生	31	国士舘大
〃	宮坂　重雄	23	中京商高
〃	鈴木　康一	20	浜北西高
〃	野田　昌睦	23	名城大
外野	中村　和彦	27	駒沢大
〃	西川　公紹	29	中央大
〃	金指　幸男	24	駒沢大
〃	高重　隆治	26	青山学院大
〃	小林　直樹	29	亜細亜大
〃	後藤　政広	23	掛川西高
〃	内藤　雅人	23	東洋大
〃	小阪田　宏	25	中央大

王子製紙春日井

監督	龍神　光美	33	御坊商工高
投手	橋本　祥	19	鳥羽高
〃	古木　誠人	21	延岡学園高
〃	篠崎　浩行	20	坂城高
〃	新美　寿通	29	半田工高
〃	○秋末　誠司	25	米子工高
捕手	佐古口　憲	22	新宮高
〃	岩本　克尚	23	日大高
〃	鈴木　弘	24	愛知工高
内野	佐藤　敏夫	29	半田工高
〃	東　将幸	21	新宮高
〃	進藤　理正	19	弘前工高
〃	近藤　岩男	29	吉原工高
〃	仙波　泰三	22	兵庫商高
〃	窪　祐二	18	愛知高
外野	野垣　和夫	20	東邦高
〃	棚橋　祐司	23	岐阜南高
〃	山本　和人	23	中京商高
〃	内田　力	22	愛知高
〃	田中　和武	19	清水高
〃	山内　悟	33	岐阜工高

本田技研鈴鹿

監督	名和　克己	39	木更津中央高
投手	樋口　英樹	26	桜井商高
〃	鳴戸　英治	24	近畿大
〃	塩崎　章生	27	新宮商高
〃	有田　聖一	23	東海大
〃	吉村　良彦	19	智弁学園高
〃	近田　豊年	22	明徳義塾高
捕手	葉室　太郎	21	東洋大姫路高
〃	小谷　洋志	19	明徳義塾高
〃	森田　昌章	24	愛知学院大
内野	荒川　透	23	駒沢大
〃	○山中　茂直	27	法政大
〃	肥田　泰彦	24	東海大
〃	西田　豊	19	明野高
〃	岡崎　純一	27	県岐阜商高
〃	大西　満	26	立命館大
〃	今山　和之	21	智弁学園高
〃	高塚　昌久	24	立命館大
外野	右京　哲	26	法政大
〃	大久保　隆	27	桜美林高
〃	佐々木健二	22	中京高
〃	間宮　健次	20	浜松商高
〃	全並　和彦	33	愛知学院大

日本IBM野洲

監督	鴨田	勝雄	47	法政大
投手	西殿	和成	22	愛知工大
〃	宮本	聡己	25	福井工大
〃	田中	嘉尚	24	同志社大
〃	川尻	豊春	23	佐世保工高
〃	中西	孝司	26	日体大
〃	井戸	英裕	23	日野高
〃	長縄	匠	19	東海大工高
捕手	田村	元一	24	福岡工高
〃	坂上	博文	26	近畿大
〃	青山	孝一	24	東北福祉大
内野	○飯田	孝雄	25	法政大
〃	藤田	吉男	24	京産大
〃	小松崎	雄志	24	天理大
〃	坂上	正樹	25	立命館大
〃	落合	範一	25	同志社大
〃	藤原	良一	23	同志社大
〃	山崎	義博	19	佐世保工高
外野	渕田	誠	24	近畿大
〃	田嶋	清隆	19	高知商高
〃	山本	貴	22	法政大
〃	芳村	直樹	22	智弁学園高

松下電器

監督	鍛治舎	巧	36	早稲田大
投手	山村	昌也	23	関西大
〃	北口	勝久	32	早稲田大
〃	渡辺	一博	25	大商大
〃	石田富士男		28	日体大
〃	米澤	秀典	25	大阪学院大
〃	原	邦彦	28	岡山東商高
〃	大濱	兄樹	20	守口高
〃	潮崎	哲也	19	鳴門高
捕手	大本	二郎	30	倉敷工高
〃	井口	義則	26	吉備高
〃	善家	悟	20	北宇和高
内野	篠崎	宏道	28	近畿大
〃	北野	敏史	26	箕島高
〃	谷川	和宏	22	報徳学園高
〃	山尾	修二	24	近畿大
〃	太田	晃生	24	大阪学院大
〃	広岡	資生	27	早稲田大
〃	奥代	恭一	27	関西大
〃	原井	和也	19	箕島高
外野	澤田	裕	25	大商大
〃	志場	正照	24	関西大
〃	小野	忠史	26	東洋大
〃	島田	行雄	32	近畿大
〃	○平岡	靖彦	28	日体大
〃	大村	庄作	19	智辯和歌山高

中山製鋼

監督	小坂	信夫	43	倉敷商高
投手	藤野	悦勝	20	興南高
〃	玉寄	尚	23	興南高
〃	篠原	勲	20	松原高
〃	出原	宏祥	18	新宮高
〃	伊藤	一秋	23	柏原高
〃	江川	修	22	高知東高
〃	山崎	剛	19	田辺工高
〃	山本	泰徳	23	姫路別所高
捕手	中田	統章	20	藤井寺工高
〃	尾野	桂司	19	笠田高
〃	岡崎慎太郎		24	藤井寺工高
内野	森脇	勝二	24	太成高
〃	辻岡	宏和	23	箕島高
〃	山本	真也	18	安芸工高
〃	竹原	秀樹	23	勝山高
〃	山田	利光	20	北陽高
〃	矢野	澄人	21	大鳥高
〃	徳永	智士	18	近大付高
〃	俵積田和宏		24	大鉄高
外野	豊長	哲也	22	報徳学園高
〃	松井	弥	24	西成高
〃	長井	政弘	20	大鉄高
〃	○谷本	浩一	24	大鉄高
〃	森	徳克	20	都城商
〃	吉田	勉	19	川鳥高

新日本製鐵堺

監督	中川	善弘	35	和歌山工高
投手	野茂	英雄	19	成城工高
〃	亀田	憲次	20	大成高
〃	北浦	伸治	19	渋谷高
〃	九鬼	善信	23	堺西高
〃	小椋	茂夫	23	邇摩高
〃	清水	信英	30	興国高
捕手	浦	誠哉	30	ＰＬ学園高
〃	中野	敏行	28	小倉商高
〃	浜田	秀史	21	明徳義塾高
〃	柳野	浩一	19	伊野商高
内野	杉本	和也	20	渋谷高
〃	馬場	敏史	23	柳川高
〃	江川	正起	23	箕島高
〃	○浦東	靖	28	新宮商高
〃	山下	裕司	25	西野田工高
〃	井上	忠	27	専修大
〃	石原	貢	25	柳川高
〃	木村	義士	20	柳ケ浦高
〃	三原	薫	26	同志社大
外野	西垣	公策	26	県和歌山商高
〃	久保	恭教	23	生野工高
〃	浦東	徳明	26	新宮商高
〃	米倉	格二	25	成城工高
〃	近沢	昭二	20	明徳義塾高

住友金属

監督	清水	長寿	35	早稲田大
投手	寺坂	友秀	19	笠田高
〃	小杉	大三	26	和歌山工高
〃	高橋	修二	30	高知高
〃	吉木	直也	25	関西学院大
〃	森沢	洋水	18	安芸工高
〃	古賀	達也	28	佐賀竜谷高
捕手	西岡	良展	25	早稲田大
〃	樋野	徹	22	平田高
〃	羽佐	吉史	23	御坊商工高
〃	佐藤	雄樹	27	早稲田大
内野	中田	等	26	同志社大
〃	福本	保彦	22	高知高
〃	○筒井	大助	29	関西学院大
〃	樋口	一紀	19	柳川高
〃	岩田	充裕	22	近畿大
〃	田中	祐司	29	鳴門高
〃	西	幸二	21	新宮商高
〃	四田	勝康	30	浪商高
外野	畑山	俊二	22	近畿大
〃	勘佐	寿人	20	箕島高
〃	家永	裕章	21	向陽高
〃	高津	淳	19	報徳学園高
〃	川畑伸一郎		20	鹿児島商高
〃	栗山	和行	27	明治大
〃	三好	一幸	34	東海大相模高

新日本製鐵広畑

監督	河内	佳征	45	盈進高
投手	桐野	太一	20	豊岡実高
〃	大東	一仁	24	山崎高
〃	藤高	俊彦	28	伊香高
〃	足達	尚人	21	東洋大姫路高
〃	津田	宗明	24	福山工高
〃	黒石	康晴	21	市川高
〃	夜久	幸治	27	福知山高
捕手	阿山	正人	20	東洋大姫路高
〃	定詰	雅彦	21	広陵高
〃	那部良浩至		22	奈良商高
〃	○応武	篤良	29	早稲田大
〃	黒田	純生	30	和歌山工高
内野	大墨	弘幸	20	東洋大姫路高
〃	青木	正和	21	明石商高
〃	林	道義	23	香寺高
〃	児玉	貴志	24	和歌山工高
〃	福田	栄治	24	立命館大
〃	北野	悦司	21	和歌山工高
〃	砂田	弘樹	23	江津工高
外野	原田	三郎	23	志度商高
〃	山前	徹	19	江津工高
〃	尾形	正己	34	山崎高
〃	船越	敏彦	27	近畿大
〃	杉本	拓也	19	熊本工高
〃	山脇	建己	25	同志社大

日本鋼管福山

監督	山内	明	39	盈進高
投手	古賀	雅裕	20	佐賀学園高
〃	塩山	康浩	22	熊本第一工高
〃	小西	計三	19	因島北高
〃	田代	敬治	25	八幡大
〃	安富	洋二	22	関西高
〃	浜口	守	28	弓削商船高専
〃	江原	弘敏	24	福岡工大
捕手	古谷	義浩	21	多々良学園高
〃	白石	則幸	31	西条高
〃	安永	利和	25	尼崎北高
〃	大倉	孝一	25	駒沢大
内野	小川	浩一	22	佐賀学園高
〃	戸田	好孝	23	広陵高
〃	西嶋	哲久	26	近畿大
〃	村上	文敏	25	駒沢大
〃	岡田	和則	24	府中東高
〃	岩野	好伸	27	東洋大
〃	○渡部	一治	32	駒沢大
外野	松浦	伸生	31	下関商高
〃	佐名木睦夫		32	盈進高
〃	佐藤	洋一	28	二松学舎大付高
〃	小林	雅彦	25	近畿大
〃	木村	浩	29	大商大
〃	中山	英士	20	唐津商高
〃	六条	誠一	37	高松一高

三菱重工広島

監督	佐々木幸治		36	法政大
投手	寺田	文俊	24	徳山大
〃	辻井	義隆	19	香住高
〃	桐野	政行	24	東洋大姫路高
〃	疋田	豊	28	八代学院高
〃	山村	力人	29	東洋大
〃	神谷	幸秀	26	広島大
〃	山下	健二	21	大田高
捕手	吉岡	秀二	22	熊野高
〃	佐々木圭司		23	法政大
〃	大森	光生	36	明治大
内野	横井	辰文	24	近大工学部
〃	○金光	興二	32	法政大
〃	正伝	芳則	26	広島商高
〃	小松	章広	20	高知東高
〃	若松	茂樹	33	東洋大
〃	佐々木幸治		36	法政大
〃	山辺	邦彦	19	山陽高
外野	多田	清和	29	国士舘大
〃	植田	巧	26	松山商高
〃	松岡	信吾	28	八代学院高
〃	浅岡	伸男	24	松山商高
〃	富士野誠示		34	西脇工高
〃	井上	敏之	34	山陽高

NTT四国

監督	幸田	優	38	駒沢大
投手	久利	周大	24	東洋大
〃	西川	憤一	21	大洲農高
〃	篠宮	勝敏	21	今治北高
〃	渡辺	智男	20	伊野商高
〃	白井	宏範	24	駒沢大
〃	土田	博健	24	帝京第五高
〃	滝下	茂信	29	穴吹高
捕手	白石	勇二	21	松山商高
〃	武田	和高	23	明徳義塾高
〃	夕部	孝豊	25	大方商高
〃	芝	和彦	23	近畿大
内野	緒賀	克郎	28	東洋大
〃	小谷	雄司	22	明徳義塾高
〃	山本	佳孝	23	同志社大
〃	板東	照雄	30	立正大
〃	竹島	誠	25	九州東海大
〃	篠原	昭人	24	駒沢大
〃	加藤	浩嗣	22	新居浜工高
〃	金森	稔	32	専修大
外野	武田	正人	26	駒沢大
〃	松田	竜治	20	松山商高
〃	○石元	浩三	29	新田高
〃	三好	利幸	24	北条高
〃	神田	敦	26	日体大
〃	三倉	一男	28	駒沢大

四国銀行

監督	城下	照男	33	専修大
投手	宮本	典幸	29	帝京大
〃	橋谷	正人	26	大商大
〃	浜田	孝伸	24	東邦大
〃	池内	聡	23	専修大
〃	山本	智久	30	池田高
捕手	渡辺	毅	28	専修大
〃	宮本	章彦	26	東京経大
〃	末光	賢二	22	松山商科大
内野	○薬師神一成		29	京産大
〃	西	弘顕	27	明治大
〃	伊名	正道	26	東洋大
〃	森田	洋生	25	明治大
〃	谷岡	秀一	24	亜細亜大
〃	森	正隆	28	明治大
外野	井上	幹也	25	愛知学院大
〃	宮本	雄二	24	神奈川大
〃	田中	靖秀	23	近畿大
〃	森田	建司	22	明治大
〃	阿部	稔	29	大商大

日産自動車九州

監督	三田	建一	33	日本大
投手	阿部	克昭	18	別府商高
〃	藤井	政夫	18	唐津商高
〃	山田	章	19	佐世保実高
〃	横山	正幸	19	鹿屋工高
〃	大石	大	29	日本大
捕手	水谷	邦男	35	帝京大
〃	鬼木	修	24	苅田工高
〃	町田	宇公	29	横芝敬愛高
〃	江副	光則	18	佐賀工高
内野	鈴木	勝則	28	東海大
〃	植山	文彦	18	中津工高
〃	山本	智	28	早稲田大
〃	大塚	英司	19	別府商高
〃	野村	浩樹	25	苅田工高
〃	○小川	孝之	29	国士舘大
〃	東	良一	32	東海大
〃	三田	建一	33	日本大
外野	藤原	正巳	18	東海大五高
〃	大塚	勝明	28	帝京大
〃	松井	真二	18	九州産高
〃	鳥越	巧	19	鹿児島商工高
〃	小川	正洋	20	科学技術学園

NTT九州

監督	柴田	克己	34	福岡大
投手	城間	盛智	21	沖縄水産高
〃	奥村	高次	23	八幡大
〃	平井	英臣	24	九州東海大
〃	小島	善博	19	対馬高
〃	野村	祐一	20	津久見高
〃	安武	政治	26	熊本工大高
〃	竹内	康之	23	九州東海大
〃	松本	泰彰	26	苅田工高
捕手	仲村	正利	27	沖縄北部工高
〃	藤本	智久	19	九州学院高
〃	嶋谷	守保	23	九州東海大
内野	嶋川	栄治	21	阿蘇農高
〃	鎌田	憤一	26	亜細亜大
〃	井手	千秋	24	立正大
〃	奥村	寿文	24	鎮西高
〃	諸喜田	靖	21	沖縄水産高
〃	○松本	敏郎	27	亜細亜大
〃	山口	天亀	23	八女工高
〃	伊東	修	27	駒沢大
〃	大橋	宗純	30	専修大
外野	角	利信	24	鹿児島商工高
〃	端山	浩	28	九州東海大
〃	榊原	寛	26	熊本工大高
〃	石田	順也	24	熊本工高
〃	小林	裕一	28	熊本工高

第15回記念大会

1988年(昭和63年)10月24日▶10月31日　大阪球場

優勝＝東芝（初優勝）

ＤＨ採用で東芝“夏秋連覇”

社会人野球で初めてＤＨ(指名打者)制が採用され、「打」の新記録ラッシュの大会となり、投・攻・守に充実した東芝が史上初の都市対抗に続く“夏秋連覇”を達成した。

本塁打が75本の新記録。安打数も492本と大幅に増え、中でも一回戦のＮＴＴ中国－東海理化戦は両チーム合わせて35安打の乱打戦。投手受難を象徴するような試合となった。

優勝の東芝はソウル五輪帰りの菊池と、若い三原の両投手が安定、打線は福本、梁原の両ベテランを軸に前田、丹波、南渕、田辺ら強打者ぞろいで、他のチームを圧倒した。５試合の総得点は新記録となる51点で「10点打線」に加え、守りの良さが目についた。都市対抗優勝に気を緩めず、全員が常勝を目指した集中力は特筆できる。

準優勝の本田技研熊本は初戦で松下電器、準々決勝で新日鉄堺と西のＶ候補を撃破して波に乗った。内山、尾崎の両投手が力投、久保、竹田、内村の打撃陣も好機を逃さなかった。ベスト４の四国銀行は１試合５本塁打を２回記録するなど、大会新の16本塁打のパワーで旋風を巻き起こした。創業100周年の日本石油は若手中心ながら、力強い投打で４強にガッチリ食い込んだ。また、初出場でベスト８の大阪ガスの健闘も光った。逆に松下電器、新日鉄堺はそれぞれ潮崎、野茂という全日本のエースがいながら、投手起用を誤まり、力を出し切れず敗れたのは残念だった。

〔1回戦〕王子製紙春日井－日本ＩＢＭ野洲　八回表、日本ＩＢＭ野洲無死、飯田が左中間へ２打席連続ホーマーを放つ。

大会審判

▷**委員長**＝米谷道雄▷**副委員長**＝三輪武、山川脩司▷**幹事**＝三宅享次、岡本好二、津田浩嗣、永野元玄▷**委員**＝原田謹爾、戸田直佑、清沢忠彦、本郷良直、片岡成夫、広沢渉、木嶋一黄、上杉正、岸野金治、樫根清一、大橋慶三、小林勉、桃田晴彦、中西則夫、河島秀喜、桂等、吉田龍男、鹿田証道、生越芳明、東優孝、辻喜正、巽正一、岡本良一、美馬洋、中川雅夫、宮木明、小田昇、土井池憲治、杉中豊、南垣勇、長谷至康、永田謙治、丸屋琢美、伊東登、大石泰、梶浦照樹、宮奥欣司、赤井淳二、山名俊雄、杉原徹一、中村正治、浜田正二、布施勝久、西尾由紀治

▽10月24日

第1試合＝1回戦(午前10時5分開始)

本田技研熊本	000	100	301	002	7
NTT東北	100	003	001	000	5

▶審判(球審)大橋(塁審)西尾、生越、桃田

【本田熊本】		打	安	点	振	球
④	坂本	6	4	2	0	1
⑤	川道	6	2	0	0	1
⑧	安藤	5	1	1	0	1
③	竹田	6	3	2	0	0
⑥	清原	4	0	0	0	0
⑦	久保	4	1	0	0	2
D	河野	3	0	0	0	0
HD	山本	3	3	0	0	0
②	得津	6	1	0	2	0
⑨	内村	6	3	1	3	0
犠併残 2 0 13		49	18	6	5	5

【NTT東北】		打	安	点	振	球
④	福地	6	1	1	1	0
⑨	戸羽	5	1	0	0	0
⑦	三瓶	5	2	0	1	1
③	菊田	3	0	0	2	1
3	唐沢	2	1	0	0	0
D	多田	6	4	2	1	0
⑧	小野	3	0	0	0	2
8	佐藤	0	0	0	0	0
②	猪狩	5	1	2	1	0
⑤	藤木	4	1	0	1	1
⑥	板井	2	0	0	0	0
H6	柿久保	1	0	0	0	0
犠併残 3 2 9		42	11	5	7	5

	回	安	振	球	責
内山	1⅔	2	1	3	1
尾崎	10⅓	9	6	2	4

	回	安	振	球	責
大倉	6⅔	10	2	2	3
越田	3⅔	4	2	3	1
斉藤	1⅓	4	1	0	2
渡辺	⅓	0	0	0	0

▷本塁打＝多田1号(尾崎)猪狩1号②(尾崎)坂本1号(越田)▷二塁打＝戸羽、藤木、山本、三瓶▷犠打＝本2(清原2)N3(戸羽、板井、柿久保)▷盗塁＝本3(坂本、安藤、河野)▷失策＝N1(藤木)▷試合時間＝3時間15分

初勝利〝足〟でもぎとる

◎…延長十一回の一死満塁の好機を最悪の併殺で逃した本田技研熊本。十二回、再び一死二、三塁の好機をつかんだが、得津が2－1後の4球目にスクイズを失敗した。だが、ここで百㍍11秒5のイダ天、九番の内村が外角のシュートを、バットの先に引っ掛けると当たりそこねの打球は遊撃真正面に転がる平凡なゴロ。これが遊撃の前でピューンと跳ねた。柿久保の捕球タイミングがずれ、一瞬、ボールを握り直してから一塁へ投げたが、内村は間一髪一塁を走り抜けていた。内村の俊足でもぎとった決勝点だった。「3三振をしていたからミートだけを心掛けました。足だけが取りえですから、バットに当たれば、力いっぱい走ることが僕にできることでした」と内村。

第2試合＝1回戦(午後1時51分開始)

河合楽器	000	100	000	1
新日鉄堺	200	010	00X	3

▶審判(球審)小林(塁審)岡本良、中川、原田

【河合楽器】		打	安	点	振	球
⑧	牛尾	3	2	0	0	0
⑥	盛	3	0	0	2	0
③	村瀬	4	1	1	0	0
⑤	鈴木智	4	1	0	1	0
R5	中達	0	0	0	0	0
⑦	並木	4	2	0	0	0
④	清水	2	0	0	1	1
D	上中	4	1	0	0	0
②	安間	2	0	0	0	0
H	鈴木徳	1	0	0	1	0
⑨	西原	3	1	0	0	0
犠併残 4 3 7		30	8	1	5	1

【新日鉄堺】		打	安	点	振	球
③	近沢	0	0	0	0	0
3	石原	3	1	0	0	0
④	浦東靖	3	1	1	0	0
⑦	久保	3	0	0	0	1
⑤	馬場	3	0	0	0	1
D	米倉	2	0	0	0	1
②	浜田	3	1	2	1	0
⑨	浦東徳	3	1	0	0	0
⑥	井上	3	2	0	0	0
⑧	西垣	2	1	0	0	0
犠併残 3 0 4		25	7	3	1	3

	回	安	振	球	責
平田	8	7	1	3	3

	回	安	振	球	責
清水	4⅔	6	0	1	1
野茂	5	2	5	0	0

▷本塁打＝村瀬1号(清水)▷二塁打＝並木▷犠打＝河4(牛尾、盛、清水、安間)新3(石原、浦東靖、西垣)▷盗塁＝新1(馬場)▷試合時間＝2時間8分

第3試合＝1回戦(午後4時32分開始)

日本IBM野洲	200	002	010	5
王子製紙春日井	100	100	000	2

▶審判(球審)永野(塁審)宮木、大石、浜田(外審)岡本良、中川

【IBM野洲】		打	安	点	振	球
⑧	渕田	5	3	0	0	0
⑥	藤田	3	0	0	0	0
③	太田代	4	1	2	0	1
④	飯田	5	3	3	0	0
⑨	中山	4	1	0	0	0
⑤	小松崎	4	1	0	1	0
D	藤原	3	3	0	0	1
⑦	田嶋	4	0	0	1	0
②	田村	4	0	0	1	0
犠併残 2 1 8		36	12	5	3	2

【王子春日井】		打	安	点	振	球
⑥	仙波	4	2	1	0	0
⑧	岩井	3	0	0	0	0
D	菊地	4	1	0	0	0
⑦	棚橋	4	2	1	0	0
③	内田	4	0	0	1	0
④	東	4	1	0	0	0
⑨	山本	4	0	0	0	0
②	鈴木	2	0	0	0	0
H2	岩本	1	0	0	0	0
⑤	近藤	3	0	0	0	0
犠併残 1 1 5		33	6	2	1	0

	回	安	振	球	責
井戸	9	6	1	0	2

	回	安	振	球	責
篠崎	7⅔	9	2	2	5
秋末	1⅓	3	1	0	0
新美	⅔	0	0	0	0

▷本塁打＝太田代1号②(篠崎)仙波1号(井戸)棚橋1号(井戸)飯田1号②(篠崎)2号(篠崎)▷二塁打＝藤原▷犠打＝I2(藤田2)王1(岩井)▷盗塁＝王1(山本)▷失策＝I2(太田代、飯田)▷試合時間＝2時間20分

▽10月25日

第1試合＝1回戦(午前9時10分開始)

四国銀行	104	111	011	10
三菱自動車川崎	110	011	030	7

▶審判(球審)木嶋(塁審)中西、伊東、原田

【四国銀行】		打	安	点	振	球
⑧	田中	5	2	2	0	0
⑤	谷岡	5	1	1	0	0
⑥	薬師神	4	2	1	0	0
③	西	4	1	3	0	0
⑦	宮本雄	4	1	0	0	0
⑨	森田建	4	2	0	1	0
D	伊名	3	1	1	0	0
②	宮本章	4	2	1	0	0
④	森田洋	3	0	0	0	0
犠併残 2 1 1		36	12	9	1	0

【三菱川崎】		打	安	点	振	球
⑤	清水	4	1	0	2	1
④	和田	4	0	0	0	0
H	樽原	1	1	0	0	0
R	金子	0	0	0	0	0
⑥	鶴見	4	2	1	1	0
③	四條	4	2	0	0	0
D	平野	4	1	3	0	0
⑧	小川	2	0	0	0	0
H	沢崎	1	1	1	0	0
R7	柿田	1	0	0	0	0
⑨	角	4	0	0	1	0
②	斉藤	4	2	1	0	0
⑦8	村田	4	2	1	0	0
犠併残 1 0 5		37	12	7	4	1

	回	安	振	球	責
橋谷	7⅔	10	2	1	5
山本	2	2	2	0	1

	回	安	振	球	責
小野孝	3	4	1	0	4
吉沢	3	6	0	0	3
小笠原	3	2	0	0	1

▷本塁打＝薬師神1号(小野孝)西1号③(小野孝)宮本章1号(吉沢)谷岡1号(吉沢)斉藤1号(橋谷)平野1号③(山本)田中1号(小笠原)▷二塁打＝斉藤、宮本雄、薬師神、樽原▷犠打＝四2(伊名、森田洋)三1(鶴見)▷盗塁＝三3(清水、柿田、村田)▷失策＝四1(谷岡)三2(小野孝、和田)▷捕逸＝宮本章▷試合時間＝2時間32分

第2試合＝1回戦(午後0時12分開始)

新日鉄八幡	002	210	100	6
大昭和製紙北海道	001	010	201	5

▶審判(球審)上杉(塁審)長谷、梶浦、杉原

【新日鉄八幡】		打	安	点	振	球
③	田中	5	3	0	0	0
⑥	鉄見	4	0	0	0	0
⑤	佐野	5	1	0	1	0
⑧	丸谷夫	5	2	2	1	0
⑨	藤崎	5	2	2	3	0
D	加藤	5	2	0	1	0
RD	葉山	0	0	0	0	0
④	松田	5	3	0	0	0
⑦	田村	4	0	0	1	0
②	伊藤	4	2	2	0	0
犠併残 2 0 11		42	15	6	7	0

【大昭和製紙】		打	安	点	振	球
④	高木	5	4	1	0	0
⑥	社	3	0	0	2	0
H	菅野	1	0	0	1	0
6	山中	1	1	1	0	0
⑧	平	4	1	0	0	1
⑤	酒井	5	2	2	1	0
⑨	佐藤	4	0	0	2	0
③	横川	4	1	0	0	0
⑦	阿相	2	0	0	1	0
H	山本	1	0	0	0	0
7	日下	0	0	0	0	0
H	斉藤	1	0	0	0	0
7	新里	0	0	0	0	0
D	北	3	0	0	1	1
②	新明	2	0	0	0	0
2	横沢	2	1	0	1	0
犠併残 0 0 8		38	10	4	9	2

	回	安	振	球	責
池田宣	6⅔	8	8	2	4
丸谷幸	2⅓	2	1	0	1

	回	安	振	球	責
渡部	6	9	4	0	5
加藤	3	6	3	0	1

▷本塁打＝丸谷夫1号②(渡部)高木1号(池田宣)伊藤1号②(渡部)藤崎1号(渡部)▷三塁打＝丸谷夫▷二塁打＝松田、高木、山中▷犠打＝新2(鉄見、田村)▷盗塁＝大6(高木、平3、酒井、阿相)▷失策＝大2(横川、渡部)▷暴投＝池田宣2▷試合時間＝2時間47分

第3試合＝1回戦(午後3時30分開始)

神戸製鋼	000	221	000	5
ヤマハ	000	000	001	1

▶審判(球審)西尾(塁審)吉田、鹿多、土井池(外審)山名、丸屋

【神戸製鋼】		打	安	点	振	球
⑦	浦本	4	1	0	0	1
④	能勢	1	0	1	0	2
②	中村謙	5	0	0	0	0
D	高野	4	2	2	1	0
⑨	日川	3	2	0	1	0
③	嵯峨	3	1	0	1	0
⑧	丹波谷	3	0	0	1	0
8	若狭	1	0	0	0	0
⑤	戸塚	4	2	2	1	0
⑥	川原崎	3	1	0	1	1
犠併残 4 0 7		31	9	5	6	4

【ヤマハ】		打	安	点	振	球
④	山本	4	0	0	0	0
⑦	金指	4	0	0	2	0
⑨	中村	3	0	0	0	1
⑤	武居	4	1	0	0	0
③	小阪田	4	3	1	0	0
⑧	内藤	4	2	0	0	0
D	宮坂	3	1	0	1	1
②	佐藤	4	0	0	0	0
⑥	浜名	1	0	0	1	0
H	吉田	1	0	0	0	0
6	鈴木	0	0	0	0	0
犠併残 1 2 7		32	7	1	4	2

	回	安	振	球	責
江坂	9	7	4	2	1

	回	安	振	球	責
高久	4⅔	7	1	2	1
西村	4⅓	2	5	2	1

▷本塁打＝高野1号②(西村)小阪田1号(江坂)▷犠打＝神4(能勢2、日川、嵯峨)ヤ1(浜名)▷盗塁＝神3(浦本、川原崎2)ヤ1(宮坂)▷失策＝神1(中村謙)ヤ2(武居、佐藤)▷試合時間＝2時間30分

第4試合＝1回戦(午後6時32分開始)

NTT中国	432	240	000	15
東海理化	000	300	502	10

▶審判(球審)三宅(塁審)美馬、辻、杉中(外審)山名、丸屋

【NTT中国】		打	安	点	振	球
⑥	北口	6	2	2	1	0
④	佐々岡	0	0	0	0	0
H4	千川	3	0	0	1	0
H4	下岡	3	1	1	1	0
③	篠原	6	3	1	0	0
⑤	原	3	3	1	0	2
⑦	河井	5	2	2	0	0
D	佐藤達	5	3	4	1	0
⑨	増永	0	0	0	0	0
H9	宇佐美	3	2	4	0	1
②	高山	5	2	0	0	0
⑧	津江本	4	2	0	0	0
犠併残 2 0 6		43	20	15	4	3

【東海理化】		打	安	点	振	球
⑥	蛭川	3	0	0	2	0
H	浅田	1	1	1	0	0
6	沢	1	1	0	0	0
⑧	石野	4	0	0	0	0
R9	不破	1	0	0	0	0
⑦8	辻本	5	4	1	0	0
⑤	大谷	5	1	3	2	0
③	剣山	4	2	0	1	1
②	林	5	2	1	1	0
D	成瀬	5	1	2	2	0
⑨7	有馬	5	2	2	0	0
④	近藤	4	1	0	1	0
犠併残 0 1 7		43	15	10	9	1

	回	安	振	球	責
石川	6⅓	9	8	1	5
青野	2⅔	6	1	0	3

	回	安	振	球	責
浜中	2⅔	9	1	2	5
渡辺	2⅔	7	1	0	7
高橋	4⅓	4	2	1	0

▷本塁打＝北口1号②(渡辺)宇佐美1号②(渡辺)下岡1号(渡辺)大谷1号③(青野)▷三塁打＝北口▷二塁打＝原2、河井、宇佐美▷犠打＝N2(宇佐美、津江本)▷盗塁＝N2(千川、原)▷失策＝N1(千川)東2(蛭川、辻本)▷試合時間＝2時間49分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

本田技研熊本＝準優勝
尾崎 定己投手
(同社車体製造一課、28歳)

(第20回記念 毎日新聞連載企画から)

悲しくもないのにしきりと涙が出た。四国銀行との準決勝。3－3のまま延長十三回に突入。疲れはピークに達していた。二死を取ってから監督がマウンドに。「これ以上投げたら危ない」。ベンチに戻って突如全身が激しいけいれんに襲われた。極度の脱水症状だった。ベンチでマッサージを受けていた時、同期入社の安藤に勝ち越し本塁打が飛び出した。うれし涙のあとは記憶がない。気が付いたら病院だった。

都市対抗の予選でじん帯を損傷。満足に練習できないまま臨んだ本大会。右足にテーピングをしたまま、準決勝までほぼ一人で38回余を投げた。松下電器の潮崎(西武)、新日鉄堺の野茂(近鉄)らに投げ勝っての準決勝進出。まさに精も根も尽き果てての降板だった。

翌日。絶対安静の病院を抜け出した。投手としてなかなか日の目を見なかっただけに「あの時は投げれる喜びしかなかった」。リリーフで優勝戦のマウンドにも立った。投げる方も投げる方。使う方も使う方。「選手の酷使」と監督非難の声もあった。が「ピッチャーとしてあんな充実感はなかった。監督には今でも感謝しているんですよ」。

▽10月26日

第1試合＝1回戦(午前8時55分開始)

ＮＴＴ四国	0	0	0	0	1	0	1		2
東芝	2	0	0	4	2	4	X		12

▶審判(球審)清沢(塁審)小林、岡本良、小田

【ＮＴＴ四国】

		打	安	点	振	球
⑨	芝	4	1	0	0	0
⑦	武田正	2	0	0	0	1
Ｄ	小谷	3	0	0	0	0
⑧	三好	3	0	0	3	0
8	能田	0	0	0	0	0
⑥	山本	3	0	0	0	0
⑤	竹島	3	1	0	0	0
③	篠原	3	0	0	0	0
④	松本	3	2	1	0	0
②	武田和	2	1	0	1	0
Ｈ	石元	1	1	1	0	0

犠	併	残
0	0	5

	回	安	振	球	責
神田	2	4	0	1	2
久利	3	9	0	0	5
土田	1	3	0	0	3

【東芝】

		打	安	点	振	球
⑥	南渕	3	0	0	0	0
Ｈ6	後藤	1	0	0	0	0
③	丹波	4	3	3	0	0
⑦	福本	4	2	0	0	0
⑨	梁原	2	1	2	0	0
⑤	葭城	4	2	1	0	0
5	吉沢	0	0	0	0	0
Ｄ	金敷	2	0	0	0	0
ＨＤ	泉水	1	0	2	0	0
ＨＤ	小林	1	1	2	0	0
④	畠山	4	2	1	0	0
②	高見	4	3	0	0	0
2	斉藤	0	0	0	0	0
⑧	田辺	3	2	2	0	1

犠	併	残
3	0	7

	回	安	振	球	責
菊池	7	6	4	1	2

▷本塁打＝松本1号(菊池)梁原1号(土田)小林1号②(土田)畠山1号(土田)▷二塁打＝福本、葭城、畠山、田辺、丹波▷犠打＝東3(南渕、梁原2)▷失策＝Ｎ2(山本、竹島)▷試合時間＝1時間44分

第2試合＝2回戦(午前11時18分開始)

本田技研熊本	2	0	1	0	1	0	0	1	5
松下電器	0	0	2	0	0	2	0	0	4

▶審判(球審)片岡(塁審)大橋、伊東、宮奥

【本田熊本】

		打	安	点	振	球
④	坂本	4	3	1	0	0
⑤	川道	3	0	0	0	1
⑦	深町	0	0	0	0	0
Ｈ7	河野	2	2	1	0	0
Ｈ7	久保	2	0	0	0	0
③	竹田	4	2	2	0	0
⑥	清原	4	2	1	1	0
⑧	安藤	4	0	0	2	0
Ｄ	山本	4	1	0	2	0
②	得津	3	1	0	1	0
⑨	内村	2	1	0	0	1

犠	併	残
4	1	6

	回	安	振	球	責
内山	2⅓	4	0	2	1
尾崎	6⅔	4	4	2	1

【松下電器】

		打	安	点	振	球
④	広岡	3	0	0	0	2
⑧	桑本	4	1	0	0	1
⑤	山尾	4	0	0	1	1
⑨	木村	5	1	1	2	0
Ｄ	奥代	4	0	0	0	0
③	宇田	4	2	1	0	0
②	大本	3	1	0	0	0
⑦	桑原	2	0	0	1	0
Ｈ7	篠崎	2	1	2	0	0
⑥	原井	3	2	0	0	0

犠	併	残
2	0	9

	回	安	振	球	責
米沢	2⅔	6	2	2	3
山村	⅓	0	0	0	0
潮崎	6	6	4	0	2

▷本塁打＝河野1号(米沢)▷二塁打＝坂本、清原、篠崎▷犠打＝本4(坂本、川道、得津、内村)松2(大本、原井)▷盗塁＝松4(広岡、桑本2、原井)▷失策＝本3(河野、清原、尾崎)松1(山尾)▷試合時間＝2時間17分

いま一つ波に乗れず

㊃…「ソウル五輪の疲れは残っていなかったが、いま一つ波に乗り切れなかった」と敗戦投手となった松下電器の潮崎は肩を落とした。五輪には19歳のチーム最年少選手として出場、4試合に登板し、切れのいいスライダー、シンカーを武器に8回⅔を投げて自責点1の好投を演じた。しかし、帰国後にオープン戦1試合に登板(3イニング)しただけ。九回に打たれた勝ち越し打が、得意のシンカーだっただけに「競り合って踏んばり切れないのはまだまだ力がないから」。

第3試合＝2回戦(午後2時4分開始)

スリーボンド	0	0	0	0	0	0	0		0
新日鉄堺	0	1	0	2	0	1	0	X	5

▶審判(球審)木嶋(塁審)吉田、丸屋、南垣

【スリーボンド】

		打	安	点	振	球
④	四ケ所	4	0	0	3	0
⑦	山口	4	2	0	0	0
⑥	呉	4	1	0	0	0
③	石田	4	0	0	0	0
⑨8	井岡	4	1	0	1	0
⑤	戸崎	3	0	0	1	0
Ｈ	半波	1	0	0	0	0
②	越智	3	0	0	1	0
Ｄ	石黒	2	1	0	0	0
ＨＤ	中山	1	0	0	0	0
⑧9	有国	1	0	0	1	0
Ｈ9	多田	1	0	0	0	0

犠	併	残
1	2	6

	回	安	振	球	責
亀岡	6	6	2	2	3
中塚	1	2	2	1	1
渡辺	1	1	0	0	0

【新日鉄堺】

		打	安	点	振	球
③	石原	4	2	1	0	0
④	浦東靖	4	1	0	2	0
⑦	久保	2	1	0	1	2
Ｒ9	田中	0	0	0	0	0
⑤	馬場	4	2	0	1	0
Ｄ	米倉	3	2	2	0	0
ＲＤ	三原	0	0	0	0	0
②	浜田	3	1	1	0	1
⑨7	浦東徳	4	0	0	0	0
⑥	井上	3	0	0	1	0
⑧	西垣	3	0	0	1	0

犠	併	残
1	0	5

	回	安	振	球	責
小椋	9	5	7	0	0

▷本塁打＝石原1号(中塚)▷二塁打＝馬場2、井岡、呉、米倉、浦東靖▷犠打＝ス1(有国)新1(米倉)▷失策＝ス2(四ケ所、越智)新1(馬場)▷試合時間＝2時間8分

▽10月27日

第1試合＝2回戦(午前8時59分開始)

日本ＩＢＭ野洲	3	0	0	0	0	1	0	0	4
ＮＫＫ	2	0	1	1	0	0	0	1	5

▶審判(球審)上杉(塁審)生越、桃田、宮木

【ＩＢＭ野洲】

		打	安	点	振	球
⑧	渕田	2	0	0	0	2
⑤	小松崎	4	1	0	0	0
③	太田代	4	0	0	2	1
④	飯田	4	2	3	0	0
⑨	中山	4	2	0	0	0
Ｄ	藤原	3	1	1	1	1
⑦	芳村	2	0	0	0	0
7	田嶋	1	0	0	0	1
Ｈ	青山	0	0	0	0	1
7	山下	0	0	0	0	0
7	山本	0	0	0	0	0
②	田村	4	2	0	0	0
⑥	藤田	2	1	0	1	0

犠	併	残
4	2	8

	回	安	振	球	責
中西	2⅔	6	1	0	3
林	6⅓	5	2	4	0
井戸	⅔	0	0	1	0

【ＮＫＫ】

		打	安	点	振	球
⑧	苅部	5	2	1	1	0
⑤	村上	4	2	0	0	1
③	岩野	5	1	2	1	0
⑨	金久保	4	2	0	0	1
Ｄ	島野	4	0	0	1	1
⑥	羽二生	4	1	0	0	0
⑦	小林	4	1	0	0	0
②	松井	2	2	1	0	0
④	中田	2	0	0	0	2

犠	併	残
2	2	11

	回	安	振	球	責
浜口	6⅓	7	3	3	4
塩山	2⅔	5	2	1	2

▷本塁打＝飯田3号③(浜口)岩野1号②(中西)苅部1号(中西)藤原1号(浜口)▷二塁打＝飯田▷犠打＝Ｉ4(渕田、小松崎、藤田2)Ｎ2(松井2)▷失策＝Ｉ3(飯田2、林)▷試合時間＝2時間43分

ＮＫＫ、幸運なサヨナラ勝ち

○…一回に奪われた3点をすぐにはね返したNKKが粘るIBM野洲を振り切って九回、サヨナラ勝ちした。

NKKは九回、先頭の苅部が投前バント安打と投手の一塁悪送球で二進、村上敬遠の四球で無死一、二塁とし、岩野三振の一死後、林に代った井戸から金久保死球で満塁と攻め、島野の当たり損ねのゴロを飯田がはじき、苅部がサヨナラのホームを踏んだ。

IBMは一回、飯田の3号3ランで先行したが、先発の中西がすぐにつかまった。六回、藤原の左越え本塁打で追いついたものの、守りのミスが出てしまった。

第2試合＝2回戦(午後0時12分開始)

新日鉄室蘭	0	0	0	1	1	0	0	0	2
四国銀行	4	0	0	1	0	4	0	0	X 9

▶審判(球審)布施(塁審)中西、美馬、梶浦

【新日鉄室蘭】

		打	安	点	振	球
⑤	鹿田	4	1	1	1	0
⑧	関	3	1	0	0	1
⑥	鈴木広	4	2	0	0	0
③	鈴木忠	4	2	1	1	0
Ｄ	岡田仁	4	0	0	1	0
②	平間	3	0	0	1	0
Ｈ	堀松	1	0	0	1	0
⑦	馬場	3	2	0	1	0
④	坂尾	3	1	0	1	0
⑨	久村	3	0	0	0	0
9	桜井	3	0	0	2	0

犠	併	残
0	0	4

	回	安	振	球	責
今野	4	3	2	5	5
米山	1⅔	6	1	0	4
窪田	2⅓	1	1	1	0

【四国銀行】

		打	安	点	振	球
⑧	田中	3	2	1	1	2
⑤	谷岡	4	2	1	0	1
⑥	薬師神	3	0	0	0	2
③	西	2	1	0	0	2
⑦	宮本雄	4	0	0	1	0
⑨	森田建	4	2	4	0	0
Ｄ	伊名	4	0	0	2	0
②	宮本章	4	2	1	0	0
④	森田洋	2	0	0	0	0
Ｈ4	森	1	1	2	0	1

犠	併	残
1	2	5

	回	安	振	球	責
橋谷	6	7	5	1	2
山本	3	2	4	0	0

▷本塁打＝森田健1号④(今野)鈴木忠1号(橋谷)宮本章2号(今野)田中1号(米山)谷岡2号(米山)▷二塁打＝坂尾、森、西▷犠打＝四1(薬師神)▷失策＝四1(森田健)▷試合時間＝2時間5分

第3試合＝2回戦(午後2時49分開始)

住友金属	0	0	0	0	0	1	0	0	1
新日鉄八幡	3	0	3	0	0	0	0	X	6

▶審判(球審)三宅(塁審)巽、鹿多、大石

【住友金属】

		打	安	点	振	球
④5	樋口	4	2	0	0	0
⑤	中田	2	0	0	0	1
Ｈ4	福本	1	0	0	1	1
⑨	畑山	3	1	0	1	1
③	筒井	4	1	0	0	0
②	佐藤	4	0	0	1	0
⑦	川畑	4	0	0	0	0
Ｄ	岩田	2	0	0	2	0
ＨＤ	西岡	2	2	1	0	0
⑥	田中	4	0	0	1	0
⑧	家永	3	0	0	0	0

犠	併	残
0	1	7

	回	安	振	球	責
小島	1	5	0	0	2
小杉	2	3	2	1	3
寺坂	2	2	1	0	0
高橋	3	1	3	1	0

【新日鉄八幡】

		打	安	点	振	球
③	田中	4	0	0	2	0
⑥	鉄見	4	3	0	0	0
⑤	佐野	2	1	0	0	1
⑧	丸谷夫	3	2	1	0	1
⑨	藤崎	4	3	3	0	0
Ｄ	加藤	4	1	1	0	0
④	松田	4	1	2	1	0
⑦	田村	4	0	0	2	0
②	伊藤	4	0	0	1	0

犠	併	残
1	0	6

	回	安	振	球	責
池田宣	9	6	6	2	1

▷本塁打＝西岡1号(池田宣)▷二塁打＝藤崎2、松田▷犠打＝新1(佐野)▷盗塁＝住3(樋口2、西岡)▷失策＝住1(家永)▷試合時間＝2時間13分

小柄な体、パワーの塊

日石・徳永 江坂から2アーチ

「1試合で2本なんて、高校時代にもなかった。もちろん初めてですよ」。大会史上19人目の1試合2本塁打を放った日本石油・徳永は、まじめそうな丸顔の丸い目を一層丸くしての"初仕事"の感想だ。

9月3日に20歳になったばかり。入社2年目のヤングDH(指名打者)。都市対抗終了後、8月のオープン戦から四番、DHに抜てきされた。

2本のうち、1－1の同点アーチとなった四回のは、内角のカーブを引っ張り、ポールぎりぎり。本人も「ファウルかと思った」ほどきわどい当たり。神戸製鋼から異議も出たが、晴れの公式戦DHでの1号。八回、先頭打者での一振りは、左翼中段へ今度は文句なしの一打。これで6－5と勝ち越し、まさに価値あるアーチだった。

打った投手が、大会屈指の左腕・江坂ということも価値がある。決め球だけ絞って、初球から打っていくつもりで入った打席で、1本目は「内角カーブ」、2本目は「内角直球」がいずれも中寄りに入ってきた。「内角直球狙い」だったから、願ってもないボールだったこともある。

だが、その狙い通りの球をスタンドまで持っていく長打力に若手中心の新生クリーンアップの中心に据えただけのわけがある。どう見ても公称175センチには見えない小柄な体はパワーの塊だ。

今年は会社創立100周年の記念の年。春のスポニチ大会で優勝を飾りながら、晴れ舞台の都市対抗には、激戦の神奈川予選を勝ち抜けず、屈辱の不出場。この苦痛を経ての思い切った若返りの"目玉"の一つが、徳永のDH指名。日石の捕手のポジション争いは激しく、DH制がなければ、実現しなかったラインアップだ。それが、見事に当たっての初戦突破は、磯部監督の名門復活へのスローガン「勝つ野球」の一里塚の意味がある。

「高校時代には、夏の千葉県大会で5回戦まで行ったのが最高」の若武者が、日石の新世紀を切り開く旗手となりうるか―。「とにかく一生懸命やるだけです」と、ひたむきな"新主砲"だ。

▽10月28日

第1試合＝2回戦(午前8時57分開始)

日本石油	0	0	0	1	1	0	3	2	0 7
神戸製鋼	0	0	1	1	1	1	1	0	6

▶審判(球審)木嶋(塁審)樫根、中川、河島

【日本石油】

		打	安	点	振	球
⑧	鈴木	5	2	3	0	0
④	平田	3	2	1	0	1
Ｒ	江口	0	0	0	0	0
6	久慈	0	0	0	0	0
⑦	五十嵐	5	0	0	0	0
Ｄ	徳永	5	2	2	0	0
③	石川	3	0	0	1	0
3	大久保	2	0	0	0	0
⑨	田中	3	3	0	0	0
9	坂口	1	0	0	0	0
②	佐藤	3	2	0	0	0
⑤	安岡	4	1	1	1	0
⑥4	伊藤	4	1	0	0	0

犠	併	残
2	1	7

	回	安	振	球	責
金沢	4⅔	6	2	3	2
保戸田	⅓	3	0	0	1
田口	4	5	0	1	2

【神戸製鋼】

		打	安	点	振	球
⑦	浦本	4	1	1	0	0
7	若狭	0	0	0	0	0
④	能勢	4	1	0	0	1
②	中村謙	4	0	0	0	0
Ｈ	中村好	1	1	1	0	0
2	宅間	0	0	0	0	0
Ｄ	高野	4	1	0	0	1
⑨	日川	4	3	1	0	1
③	嵯峨	4	1	0	0	1
⑧	丹波谷	5	4	2	0	0
⑤	戸塚	4	1	0	1	0
⑥	川原崎	3	1	0	1	0

犠	併	残
3	0	11

	回	安	振	球	責
江坂	8⅔	13	2	1	7
大寺	⅓	0	0	0	0

▷本塁打＝徳永1号(江坂)2号(江坂)丹波谷1号(保戸田)鈴木1号③(江坂)▷二塁打＝日川、戸塚、丹波谷2、安岡▷犠打＝日2(平田、佐藤)神3(若狭、戸塚、川原崎)▷盗塁＝神3(能勢、日川、丹波谷)▷失策＝日1(金沢)神1(川原崎)▷捕逸＝宅間▷試合時間＝3時間16分

第2試合＝2回戦(午後0時48分開始)

大阪ガス	0	3	1	0	0	3	0	2	0	9
NTT中国	1	0	0	0	1	4	0	1	1	8

▶審判(球審)大橋(塁審)桂、長谷、杉原

【大阪ガス】 打安点振球
④ 西 3 1 1 0 2
③ 鍋島 2 0 1 0 1
3 松田 1 1 0 0 0
D 中西 5 1 1 0 0
⑧ 折原 5 2 3 1 0
⑦ 植村 3 1 0 1 0
H 曽我部 1 0 0 0 0
7 中内 1 0 0 0 0
⑨ 湯川 3 1 0 1 2
⑤ 杉山 5 2 0 0 0
② 上 4 2 1 1 0
⑥ 竹村 4 2 2 1 0
犠 併 残
3 1 9 37 13 9 5 5

【NTT中国】 打安点振球
⑥ 北口 5 2 1 0 0
④ 佐々岡 0 0 0 0 0
4 千川 0 0 0 0 0
H4 下岡 2 0 0 0 1
③ 篠原 5 2 0 1 0
⑤ 原 4 2 1 0 1
⑦ 河井 5 2 0 1 0
D 佐藤達 1 0 0 0 1
HD 小原 3 1 0 1 0
⑨ 増永 0 0 0 0 0
9 宇佐美 2 1 1 0 0
H9 武田 2 2 5 0 0
② 高山 3 0 0 0 1
⑧ 津江本 3 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 7 37 12 8 3 4

回 安振球責
荻原 4⅔ 5 0 1 2
長野 ⅔ 4 0 1 4
佐藤 2⅔ 3 1 0 2
松谷 1 0 2 2 0

回 安振球責
青野 5⅓ 9 2 3 7
矢野 2⅔ 4 3 1 2
石川 1 0 0 1 0

▷本塁打＝折原1号(青野)2号②(矢野)宇佐美2号(萩原)武田1号④(長野)北口2号(佐藤)▷三塁打＝北口▷二塁打＝篠原、竹村、河井、杉山▷犠打＝大3(竹村、鍋島、上)N1(津江本)▷盗塁＝大2(竹村、湯川)▷試合時間＝2時間55分

第3試合＝2回戦(午後4時13分開始)

日本たばこ	6	0	0	2	0	0	0	0	0	8
東芝	0	1	8	1	2	0	0	2	X	14

▶審判(球審)小林(塁審)生越、浜田、丸屋(外審)布施、三宅

【日本たばこ】 打安点振球
⑦ 渡辺 3 1 0 1 2
④ 山下 3 1 0 1 2
⑨ 原野 5 1 2 2 0
D 高橋 3 2 0 1 2
⑤ 寺嶋 5 2 1 0 0
⑥ 菅原 5 1 1 2 0
③ 藤沢 5 0 0 2 0
② 及川正 3 2 2 0 1
R 佐々木 0 0 0 0 0
⑧ 畠山 3 1 0 2 0
H8 遠藤 2 0 0 2 0
犠 併 残
1 0 10 37 11 6 13 7

【東芝】 打安点振球
⑧ 前田 5 1 1 0 1
⑥ 南渕 5 4 3 0 0
③ 丹波 5 3 1 1 0
D 福本 5 1 3 0 0
⑦ 梁原 5 2 1 2 0
7 藤原 0 0 0 0 0
⑤ 葛城 3 1 1 1 1
H4 渡辺 1 1 0 0 0
④ 畠山 4 2 1 0 1
R5 吉沢 0 0 0 0 0
② 高見 5 1 0 0 0
⑨ 田辺 5 4 3 0 0
犠 併 残
0 2 8 43 20 14 4 3

回 安振球責
柳畑 2⅔ 6 0 1 6
加藤 2⅓ 8 2 1 5
及川弘 3⅔ 6 2 1 2

回 安振球責
木村 ⅓ 3 1 1 3
山崎 ⅓ 2 0 0 0
近藤 5⅓ 6 9 3 1
三原 3 0 3 3 0

▷本塁打＝原野1号②(木村)及川正1号②(山崎)梁原2号(柳畑)福本1号③(柳畑)▷三塁打＝田辺2▷二塁打＝寺嶋、丹波、畠山(東)前田、山下、渡辺(東)▷犠打＝日1(及川正)▷盗塁＝東4(葛城、渡辺、吉沢、田辺)▷失策＝日1(菅原)東4(南渕、葛城、畠山2)▷捕逸＝高見▷試合時間＝3時間22分

「実績ありますから」

◎…6点差は、引っくり返した実績がありますから一。東芝の福本主将(早大)はたんたんとしたもの。三回の同点3ランは、無死二、三塁の場面で「外野フライで1点取れれば…」と外角高めのカーブを打ち上げた。これがグーンと加速してバックスクリーン右側に。

"実績"というのは、今年9年目の福本が「僕が2年目の都市対抗で日本楽器(現・ヤマハ)に6点リードされ、延長戦に持ち込んで引っくり返した試合」と鮮明に覚えていた。

▽10月29日

第1試合＝準々決勝(午前8時57分開始)

本田技研熊本	3	1	0	0	0	0	1	0	0	5
新日鉄堺	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

▶審判(球審)木嶋(塁審)中西、岡本良、小田

【本田熊本】 打安点振球
④ 坂本 4 2 1 1 0
⑤ 川道 5 2 2 1 0
⑦ 久保 4 2 1 0 0
③ 竹田 3 2 1 0 0
⑥ 清原 4 0 0 1 0
⑧ 安藤 4 1 0 3 0
D 山本 2 0 0 1 0
HD 河野 2 0 0 2 0
② 得津 3 0 0 1 1
⑨ 内村 4 2 0 1 0
犠 併 残
2 0 6 35 11 5 11 1

【新日鉄堺】 打安点振球
③ 石原 4 0 1 0 0
④ 浦東徳 4 0 0 1 0
D 久保 4 2 0 0 0
⑤ 馬場 4 0 0 1 0
⑦ 米倉 4 0 0 1 1
② 浜田 4 0 0 0 0
⑨ 浦東徳 3 1 0 1 0
⑥ 井上 2 2 0 0 1
⑧ 西垣 3 1 0 0 0
犠 併 残
0 0 5 32 6 1 4 1

回 安振球責
尾崎 9 6 4 1 1

回 安振球責
清水 2 5 3 0 3
野茂 7 6 8 1 1

▷本塁打＝川道1号②(清水)久保1号(清水)▷二塁打＝浦東徳、安藤、坂本▷犠打＝本2(坂本、竹田)▷盗塁＝本1(内村)▷失策＝本1(尾崎)新1(浜田)▷試合時間＝2時間13分

第2試合＝準々決勝(午前11時41分開始)

四国銀行	4	1	0	0	4	0	0	1		10
NKK	0	0	0	0	0	0	4	0		4

▶審判(球審)上杉(塁審)辻、桃田、宮奥

【四国銀行】 打安点振球
⑧ 田中 5 4 3 1 0
⑤ 谷岡 4 1 0 0 0
⑥ 薬師神 4 2 1 0 1
③ 西 4 1 4 2 1
⑦ 宮本雄 5 1 1 2 0
⑨ 森田建 3 1 0 2 1
D 伊名 4 0 0 1 0
② 宮本章 4 1 0 1 0
④ 森田洋 3 1 1 0 1
犠 併 残
1 0 4 36 12 10 9 4

【NKK】 打安点振球
⑧ 苅部 5 1 0 1 0
⑤ 村上 3 0 0 0 1
③ 岩野 4 1 0 0 0
⑨ 金久保 2 0 0 0 2
D 井口 2 0 0 1 0
HD 島野 2 1 3 1 0
⑥ 羽二生 4 0 0 1 0
⑦ 小林 4 2 0 1 0
② 松井 2 1 0 1 0
H2 白石 1 0 0 0 1
④ 中田 1 0 0 0 0
H4 西嶋 3 0 0 0 0
犠 併 残
0 2 6 33 6 3 6 4

回 安振球責
橋谷 7⅔ 5 6 4 0
山本 1⅓ 1 0 0 0

回 安振球責
浜口 2 5 1 1 5
塩山 3⅔ 5 4 1 4
鎌田 3⅓ 2 4 2 1

▷本塁打＝西2号④(浜口)田中3号(浜口)4号②(塩山)宮本雄1号(塩山)薬師神2号(鎌田)▷二塁打＝島野▷犠打＝四1(谷岡)▷盗塁＝N2(金久保、松井)▷失策＝四1(薬師神)▷捕逸＝松井▷試合時間＝2時間31分

自分にあきれる3試合連発

◎…3試合連続のアーチを打ったのが四国銀行の田中。「信じられないです。大学時代(近大)、4年間で合計7本しか打てなかったのが、この5日間で4本なんですから」。173センチ、70キロの小柄なトップ打者は半ばあきれ顔。

アーチ量産のスタートは、競り勝った三菱自動車川崎戦の九回に放ったとどめの本塁打。続く新日鉄室蘭戦では六回に二番・谷岡との2打者連続本塁打の先陣を切った。そして、この日は一回、先制攻撃に追い打ちをかけるソロ、六回には中押しの2ラン。そのすべてが二死から左翼へ舞いあがる文句なしの一発。

「各打席とも狙い球を決めているんですが、その通りに投手がたまたま投げてくれるんです。自分に力があるのかないのか、分からないぐらいです」。

第3試合＝準々決勝(午後2時49分開始)

日本石油	1	2	0	0	0	1	1	1		6
新日鉄八幡	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2

▶審判(球審)布施(塁審)樫根、梶浦、中村

【日本石油】 打安点振球
⑧ 鈴木慶 5 2 2 0 0
⑥ 久慈 4 0 0 0 0
⑦ 五十嵐 4 0 0 1 0
D 徳永 4 0 0 0 0
⑨ 坂口 4 2 1 0 0
② 佐藤 3 1 0 0 0
⑤ 安岡 2 1 1 0 1
③ 鈴木健 0 0 0 0 0
3 田島 4 1 0 0 0
④ 伊藤 3 1 1 0 1
犠 併 残
2 1 4 33 8 5 1 2

【新日鉄八幡】 打安点振球
③ 田中 3 0 0 0 0
H 山崎 1 0 0 0 0
⑥ 鉄見 3 1 1 1 0
⑤ 佐野 3 0 0 1 0
H 山前 1 0 0 1 0
⑧ 丸谷夫 3 1 1 0 0
⑨ 藤崎 3 0 0 1 0
D 加藤 3 0 0 1 0
④ 松田 3 0 0 0 0
⑦ 田村 2 0 0 0 0
H 平 1 0 0 0 0
7 葉山 0 0 0 0 0
② 伊藤 2 0 0 2 0
H 福本 1 1 0 0 0
犠 併 残
1 1 1 29 3 2 7 0

回 安振球責
岡田 9 3 7 0 2

回 安振球責
池田宣 7⅔ 7 1 2 4
丸谷幸 1⅓ 1 0 0 1

▷本塁打＝鈴木慶2号(池田宣)丸谷夫2号(岡田)坂口1号(池田宣)安岡1号(丸谷幸)鉄見1号(岡田)▷犠打＝日2(佐藤、安岡)新1(鉄見)▷失策＝日1(安岡)新1(松田)▷試合時間＝2時間1分

第4試合＝準々決勝(午後5時23分開始)

大阪ガス	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3
東芝	1	0	0	0	1	1	2	2	X	7

▶審判(球審)三宅(塁審)鹿多、巽、丸屋(外審)杉中、土井池

【大阪ガス】 打安点振球
④ 西 5 2 0 0 0
③ 鍋島 4 1 1 0 0
D 中西 4 1 1 0 1
⑧ 折原 3 1 3 0 1
⑦ 植村 3 0 0 1 0
H7 中内 1 0 0 0 0
⑨ 湯川 4 0 0 2 0
⑤ 杉山 4 2 0 0 0
② 上 4 2 0 0 0
⑥ 竹村 3 0 0 0 0
H6 曽我部 1 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 9 36 9 3 4 2

【東芝】 打安点振球
⑧ 前田 4 1 1 1 1
⑥ 南渕 5 2 2 0 0
③ 丹波 5 1 1 2 0
D 福本 3 1 0 0 2
⑦ 梁原 4 2 1 2 0
⑤ 葛城 3 1 0 0 0
④ 畠山 2 0 0 0 0
H2 斉藤 1 1 1 0 0
2 高見 2 0 0 1 0
H4 渡辺 1 0 0 1 1
⑨ 田辺 2 0 0 1 2
犠 併 残
1 0 9 33 9 6 8 6

回 安振球責
松谷 7⅔ 9 8 6 5
佐藤 ⅓ 0 0 0 0

回 安振球責
菊池 4⅔ 6 3 1 2
三原 4⅓ 3 1 1 0

▷本塁打＝南渕1号(松谷)▷三塁打＝南渕▷二塁打＝前田、丹波、鍋島、梁原、斉藤▷犠打＝大1(鍋島)東1(葛城)▷盗塁＝大1(折原)東2(福本、田辺)▷失策＝大2(西、曽我部)東2(南渕、丹波)▷暴投＝松谷▷試合時間＝2時間47分

▽10月30日

第1試合＝準決勝(午前10時開始)

本田技研熊本	2	0	0	1	0	0	0	0	1	4
四国銀行	0	0	0	1	0	1	0	0	1	3

▶審判(球審)大橋(塁審)吉田、宮木、中西

【本田熊本】 打安点振球
④ 坂本 5 0 0 1 0
⑤ 川道 6 1 0 1 0
⑦ 園田 0 0 0 0 0
H7 久保 6 3 1 3 0
③ 竹田 6 2 0 0 0
⑥ 清原 4 2 1 0 0
⑧ 安藤 5 1 1 1 0
D 山本 4 0 0 0 0
HD 吉田 1 0 0 0 1
② 得津 6 1 1 2 0
⑨ 内村 5 1 0 1 1
犠 併 残
4 0 8 48 11 4 9 2

【四国銀行】 打安点振球
⑧ 田中 5 1 C 1 1
⑤ 谷岡 3 1 1 0 2
⑥ 薬師神 6 2 1 0 0
③ 西 6 0 0 3 0
⑦ 宮本雄 6 2 1 1 0
⑨ 森田建 6 2 0 1 0
D 伊名 5 1 0 1 0
② 宮本章 5 0 0 0 0
④ 森田洋 3 0 0 1 0
H4 森 2 0 0 2 0
H 町田 1 0 0 0 0
犠 併 残
3 1 9 48 9 3 10 3

回 安振球責
尾崎 12⅔ 8 9 3 3
内山 1⅓ 1 1 0 0

回 安振球責
橋谷 6 7 4 0 3
山本 8 4 5 2 1

▷本塁打＝谷岡3号(尾崎)宮本雄2号(尾崎)安藤1号(山本)▷二塁打＝久保、清原、得津、薬師神▷犠打＝本4(坂本、清原2、安藤)四3(谷岡、伊名、宮本章)▷盗塁＝四1(薬師神)▷失策＝本2(川道2)▷暴投＝尾崎▷試合時間＝3時間16分

延長14回、アーチで決着

本田技研熊本が延長十四回、安藤の左中間本塁打で勝ち越し、四国銀行の反撃を尾崎―内山のリレーでかわした。本田技研は一回、中前打の川道を代打・久保が左翼フェンス直撃の二塁打で還し1点。さらに清原の左越え二塁打で2点目。四回には得津の左中間適時二塁打で加点し、主導権を握った。

3試合で14本塁打の四国銀行は四回、谷岡の左越え本塁打、六回に薬師神の適時二塁打で1点ずつを挙げた。九回には宮本雄の左翼本塁打で同点に追いついた。しかし、その後は丁寧にコーナーを突く尾崎と、十三回から救援したルーキー・内山に抑えられた。

第2試合＝準決勝(午後1時50分開始)

日本石油	1	0	3	0	0	0	0	0		4
東芝	0	0	2	0	0	0	4	6	X	12

▶審判(球審)永野(塁審)東、土井池、山名

【日本石油】 打安点振球
⑧ 鈴木慶 5 2 0 0 0
④ 平田 5 1 0 1 0
⑦ 五十嵐 4 2 1 0 0
D 徳永 4 2 3 0 0
⑨ 坂口 4 3 0 0 0
② 佐藤 2 0 0 0 1
H 曽根原 1 0 0 1 0
2 対馬 0 0 0 0 0
⑤ 安岡 2 0 0 1 0
H 中葉 1 0 0 0 0
③ 鈴木健 0 0 0 0 0
3 田島 3 0 0 0 1
⑥ 伊藤 2 0 0 0 0
H 石川 1 1 0 0 0
犠 併 残
2 0 7 34 11 4 3 2

【東芝】 打安点振球
⑧ 前田 5 2 1 0 0
⑥ 南渕 2 2 2 0 2
③ 丹波 5 1 2 0 0
⑦ 福本 5 3 3 0 0
⑨ 梁原 5 3 1 0 0
⑤ 葛城 5 0 1 0 0
D 小林 2 0 0 0 0
HD 金敷 2 1 0 0 0
RD 西村 0 0 0 0 0
HD 吉沢 1 0 0 1 0
④ 畠山 4 1 1 0 0
② 高見 4 3 0 0 0
犠 併 残
1 0 7 40 16 11 1 2

回 安振球責
金沢 6⅓ 7 0 2 4
田口 ⅓ 3 0 0 1
岡田 ⅓ 3 0 0 3
保戸田 ⅔ 1 0 0 1
石田 1 2 1 0 2

回 安振球責
菊池 3 7 1 0 4
近藤 3⅔ 1 0 2 0
三原 3 3 2 0 0

▷本塁打＝徳永3号②(菊池)南渕2号②(金沢)丹波1号(金沢)▷三塁打＝平田、五十嵐▷二塁打＝梁原2、五十嵐、前田、金敷、畠山、福本▷犠打＝日2(安岡、伊藤)東1(南渕)▷盗塁＝日1(鈴木慶)東1(梁原)▷失策＝日2(五十嵐、伊藤)▷試合時間＝2時間51分

長打攻勢で東芝逆転

4点を追う東芝は三回二死後、南渕、丹波が左翼席に連続本塁打して2点。七回には高見、前田の短長打で一死二、三塁とし、救援の田口から南渕が三遊間を破って1点。さらに丹波のニゴロで前田が生還して同点に追いつき、福本の左前打で逆転。この打球を左翼手が後逸する間に福本が長駆ホームをついてこの回4点。八回には6長短打を集中して6点を奪い、菊池、近藤、三原とつないで日本石油の反撃を断った。

日本石油は一回に徳永の左前適時打で先制。三回にも平田、五十嵐の連続三塁打と徳永の左越え2ランなどで3点を挙げて優位に立ったが、金沢をリリーフした二番手以後の投手陣がとごとく痛打を浴びた。

▽10月31日

優勝戦(午後1時開始)

本田技研熊本	1	0	0	0	0	0	0	0	1
東芝	0	0	0	4	0	2	0	0X	6

▶審判(球審)三宅(塁審)小林、岡本良、大橋

【本田熊本】打安点振球

④	坂本	3	1	0	1	2
⑤	川道	4	1	0	1	0
⑦	久保	4	2	1	0	0
③	竹田	4	1	0	0	0
⑥	清原	4	0	0	1	0
⑧	安藤	4	1	0	0	0
D	山本	3	1	0	0	0
HD	河野	1	0	0	0	0
②	得津	4	1	0	0	0
⑨	内村	4	2	0	0	0

犠 併 残
0 1 9 35101 3 2

【東芝】打安点振球

⑧	前田	5	1	0	0	0
⑥	南渕	5	3	1	1	0
③	丹波	4	1	0	0	2
⑦	福本	2	0	0	0	1
⑨	梁原	3	2	0	0	1
⑤	葛城	3	4	2	0	0
DRD	金敷西	2	0	0	0	2
④	畠山	3	3	0	0	0
H	田辺	1	1	0	0	0
4	後藤	1	0	0	0	0
②	高見	3	1	4	0	0

犠 併 残
1 1 8 32145 1 5

	回	安	振	球	責
内山	3⅓	7	0	1	2
尾崎	4⅔	7	1	4	4

	回	安	振	球	責
菊池	9	10	3	2	1

▷本塁打＝高見1号④(尾崎)▷二塁打＝坂本、南渕、竹田▷犠打＝東1(高見)▷盗塁＝本1(内村)▷暴投＝尾崎▷試合時間＝2時間17分

東芝、高見の満塁弾で逆転

1点を追う東芝は四回、梁原、葛城と畠山の安打で一死満塁。高見は1－1からの落ちる球を右翼席へ満塁本塁打して一挙に逆転。六回一死二、三塁には、暴投と南渕の中前打で貴重な2点を加えた。菊池は一回1点を先行されたが、10安打を許しながら要所はスライダー、カーブを低めに集めてかわし切った。

本田技研熊本は一回に久保の一、二塁間突破安打でリードしたが、二回の追加点機を併殺打で逸し、東芝のエース・菊池を立ち直らせてしまった。しかし、満塁アーチを浴びたものの、最後で頑張った二番手の尾崎はじめ、全員がみせた気力は東芝と互角だった。

監督談話

東芝・大田垣耕造監督　一回、いきなり3連続長短打されながら1点に抑えなのが大きかった。菊池が本来の粘り強い投球をしてくれ、打線は大会を通じて最高の出来だった。守りのミスが出たが、打でカバーすることができた。

本田技研熊本・手島晴幸監督　悔いがあるとすれば初回の攻撃であと2、3点欲しかった。二回のチャンスにバントしなかったのは、強気で攻めることに決めていたから。尾崎の四回途中からの登板は予定通り。彼はうちのエースですから。

晴れやか満点のV

㊟…「夏秋連覇を狙うなんて考えていなかった。今年最後の大会だし、一つでも試合を多くやろうと全員の気持ちが盛り上がった結果です」。184㌢の長身の東芝・福本勝幸主将は誇らしそうに応援スタンドを見上げた。都市対抗野球では不振に泣いたが、今大会は日本たばこ戦の同点3ランなど主砲の貫録を示した。「都市対抗は優勝できたが、僕自身は反省ばかり。この大会は、みんなそろってゲームができ、優勝戦は投手が抑え、言うことなし、満点の優勝です」と晴れやかだった。

相手が一枚上だった

㊟…「調子は悪くなかったけどコントロールがちょっと甘かった」というのは四回途中で尾崎にマウンドを譲った本田技研熊本の先発・内山投手。強打者ぞろいの東芝が相手とあって「打たれてもともと、逃げずに全部ストライクを投げるつもりだった」と強気。交代するまでに7安打を浴びたが「相手が一枚上。初め(NTT東北戦)と締めくくりに先発出来たのだから満足です」とさばさばしていた。

〔2回戦〕本田技研熊本－松下電器　一回表、無死満塁、本田技研熊本・竹田の右前安打で二塁から川道がホームにつくが、タッチアウト。

〔優勝戦〕本田技研熊本－東芝　四回裏、東芝一死満塁、高見が尾崎投手から右越えに逆転満塁ホーマーを放つ。

エース菊池、魂の熱投

熱球

夏秋連覇の偉業がついに達成された。「今大会を通じ、僕が投げた最高の1球でした」と、エース・菊池は、本田技研熊本最後の打者・坂本をスライダーで見送り三振に仕留めた今シーズン最後のウイニングボールを振り返った。今夏のソウル五輪代表で、都市対抗では優秀投手に贈られる「久慈賞」を2度目の受賞。ところが、今大会では七回コールド勝ちのＮＴＴ四国戦こそ完投したものの、大阪ガス戦では4回⅔で降板。日本石油戦でも三回に4連打のメッタ打ちにあってＫＯ。この日こそ「監督としての意地で投げさせた」という大田垣監督と「意地でも投げ抜きたかった」という菊池の「魂と魂」がぶつかりあっての投球だった。

もう一人、最高の打撃をみせたのは九番の高見捕手。都市対抗では16打数9安打で最高殊勲選手賞の「橋戸賞」を受賞。しかし、今大会では優勝戦までただ一人長打を1本も打てず、打点もゼロ。一人取り残されたような高見が、四回、勝負を決める満塁本塁打を放った。この時、5試合で51点を奪った強打線に"レギュラー全員長打"の快記録が成った。

5年前のこの日と同じ31日、第10回大会優勝戦で東芝は、住友金属に0－2で敗れ、夏秋連覇を逃した。その時の投手コーチが現大田垣監督であり、失策絡みで手痛い失点に泣いたリリーフエースの黒紙が現投手コーチ。そして三番が武智現打撃コーチであり、四番が現福本主将である。

ここぞのチャンスに満塁弾が飛び出し、無失策の守りに支えられ菊池が最高の晴れ舞台で完投。「5年前にできなかったことを、きっちりお返ししてくれた」と現役最年長31歳の福本はうれしさをかみ殺すように唇をかんだ。閉会式での場内一周。トップを歩く大田垣監督のすぐ後に福本主将。最後に黒紙、武智両コーチが並んで通り過ぎた。5年前の同じ大阪球場での悔しさを知る男たちに前後を挟まれるように、若い選手たちが誇らしげに行進を続けた。

(石井　修)

第15回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞　南渕時高内野手（東芝）「こういう大きい賞は初めてだから、うれしいです」。

今年入社したばかりのルーキーにとっては大感激の受賞だ。東大阪市の縄手北中、天理高から青学大に進み、大学までずっと四番・遊撃手。「大学時代にもらったベストナインが、今までの野球人生で最高の賞」といい、母校の青学大も東都大学の秋季リーグで初優勝してうれしさも倍増。今大会では通算打率5割5分をマーク、脅威の二番打者だ。夏の都市対抗でゼロだった本塁打も2本を放ち、打点8と立派にチームを引っ張った。171㌢、69㌔。右投げ右打ち。管工需システム事業部勤務。23歳。

◇敢闘選手賞　尾崎定己投手（本田技研熊本）「今大会の自分のピッチングは100点満点です。出来すぎです」と敗れてもさわやかだった。2回戦では松下電器の潮崎、準々決勝では新日鉄堺の野茂と、大会屈指の2人の好投手と投げ合ったのも思い出だ。「新日鉄戦がベストの出来。思い通りに投げられた」という。敢闘賞のトロフィーを手に「全国のレベルは、やはり高い。打者はすごいし、自分の甘さを痛感した」。球磨農高出。180㌢、70㌔、右投げ右打ち。熊本製作所化成課勤務。23歳。

◇打撃賞　高見泰範捕手（東芝）　5試合で18打数8安打、4割4分4厘。準決勝まで打点ゼロだったが、優勝戦は勝負を決める逆転満塁本塁打。今夏の都市対抗野球では打と守りが買われ、橋戸賞（最高殊勲選手）男になっており、大一番に強いところを発揮した。「運だけです。僕は打で目立つより、うまく投手をリードしてひそかにニッコリする方が性に合っています」。愛知工大出。174㌢、71㌔、右投げ右打ち。本社産業機器事業部勤務、25歳。

◇首位打者賞　田辺浩昭外野手（東芝）　11打数7安打、6割3分6厘。八回、代打で左前にしぶとくヒット、南渕を逆転して首位打者を獲得した。「優勝戦はスタメンではなく、打席数が足らないと思って、代打のときも、首位打者なんて思ってもみなかった」。若手の成長で、出番が少なくなっていたが、限られた出場でベテラン健在をアピール。第10回大会でも打撃賞を獲得している。法大出。175㌢、70㌔、左投げ左打ち。多摩川工場総務部勤務、28歳。

◇大会優秀選手

【投手】尾崎定己（本田技研熊本）菊池総（東芝）小椋茂夫（新日鉄堺）三原昇（東芝）橋谷正人（四国銀行）池田宣人（新日鉄八幡）【捕手】高見泰範（東芝）上和秀（大阪ガス）【一塁手】竹田満宗（本田技研熊本）丹波健二（東芝）【二塁手】坂本正（本田技研熊本）畠山弘彰（東芝）【三塁手】谷岡秀一（四国銀行）葛城弘樹（東芝）【遊撃手】薬師神一成（四国銀行）南渕時高（東芝）【外野手】梁原修志（東芝）田中靖秀（四国銀行）丸谷富美夫（新日鉄八幡）鈴木慶裕（日本石油）折原康伸（大阪ガス）田辺浩昭（東芝）内村徹（本田技研熊本）森田建司（四国銀行）【DH】徳永耕治（日本石油）福本勝幸（東芝）

◇10回出場選手

荒井信久捕手（神戸製鋼）高橋修二投手（住友金属）

優勝の味これからも

㊧…開会式で神戸製鋼の荒井信久監督兼捕手（34）と住友金属の高橋修二投手（31）が10回出場の表彰を受けた。荒井監督は第3回大会（1976年）が初出場。当時は阪神甲子園球場が会場で「高校時代には踏めなかった甲子園でプレーができて最高にうれしかった」となつかしそう。高橋投手は第2回大会（75年）が最初でこの間、実に4回優勝、最高殊勲選手に3回輝いているが、「優勝の喜びをこれからも味わいたい」とまだまだ意欲たっぷりだった。

本田技研熊本をアルゼンチンに派遣

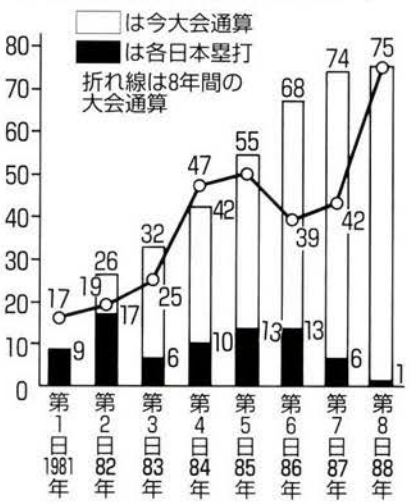
アマ野球連盟会長杯

毎日新聞社と日本野球連盟は準優勝の本田技研熊本を12月10日からアルゼンチン・ブエノスアイレス市で開かれる第1回世界アマチュア野球連盟（IBA）会長杯争奪アルゼンチン大会に派遣することを決めた。アルゼンチン大会には第15回社会人野球日本選手権記念大会の優勝チームが派遣されることになっていたが、都市対抗優勝の東芝がアルゼンチン大会と日程の重なる12月7日から23日まで豪州に遠征することを既に決めており、本田技研熊本が出場することになった。本田技研熊本は12月8日に出発、10日から米国、韓国、中国台北など7カ国・地域総当たりのリーグ戦に出場、23日、帰国の予定。

75アーチ、乱れ飛ぶ

24大会記録更新

◇大会通算本塁打記録◇



指名打者制を初めて採用した今大会は本塁打が驚異的なペースで飛び出した。大会第2日に17本塁打が出たほか、第5日と第6日にそれぞれ13本塁打。大会第5日で55本塁打となり、1985年の第12回大会の1大会通算最多本塁打記録（51本）を早々と塗り替えて最終的には昨年の42本の1.8倍、75本塁打（一試合平均3.3本）に達した。

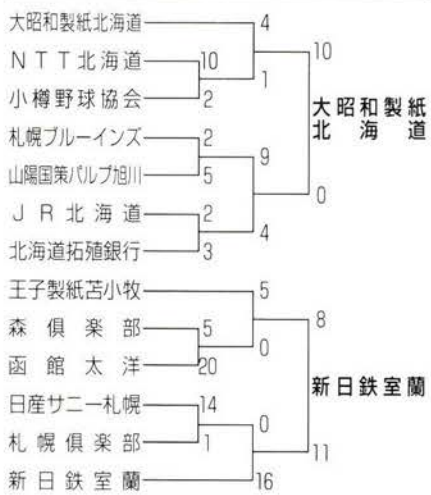
今大会に出場した投手が全体的に力不足だったこと、今年はオリンピックイヤーでもあり、各チームが五輪日本代表投手の「打倒」を目標に、打撃練習に力を入れたこと、などが量産の要因としてあげられそうだ。

第15回記念大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月11日から　5日間　　札幌市営円山球場



東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽一回戦　三菱製紙八戸４－３八甲ク、自衛隊青森９－３全弘前倶▽**決勝**　三菱製紙八戸８－４自衛隊青森（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**▽一回戦　水工ク７－３大槌球友、宮城建設久慈ク７－０釜石野球団、岩手アイワ10－０オール釜石、オール不来方６－４遠野ク▽二回戦　岩手銀行６－１住田ク、東京製綱13－９一関三星ク、新日鉄釜石12－２宮高ク、赤崎野球ク４－３盛岡ク、オール江刺（不戦勝）水工ク、県経済連７－０宮城建設久慈ク、岩手アイワ12－４雫石ク、小野田セメント４－１オール不来方▽**準々決勝**　岩手銀行８－２オール江刺、県経済連９－２東京製綱、小野田セメント６－２岩手アイワ、新日鉄釜石11－１赤崎野球ク▽**代表決定戦**　県経済連６－３岩手銀行、新日鉄釜石９－２小野田セメント（勝者は第二次予選へ）

◇**秋田**▽一回戦　能代松陵ク９－８秋田経法大ク、秋田銀行12－２フェニックス、ＴＤＫ14－２王冠ク▽**準決勝**　秋田相互銀行15－０能代松陵ク、ＴＤＫ13－４秋田銀行▽**決勝**　秋田相互銀行20－３ＴＤＫ（勝者は第二次予選へ）

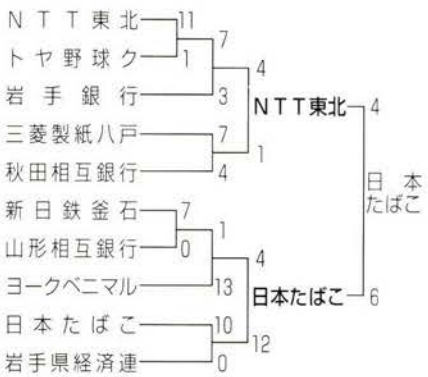
◇**宮城**▽一回戦　ＮＴＴ東北13－６ＪＲ東日本東北、日本たばこ４－０七十七銀行▽**準決勝**　ＮＴＴ東北10－０日産サニー宮城、日本たばこ５－１十条製紙▽**決勝**　ＮＴＴ東北６－５日本たばこ（勝者は第二次予選へ）▽**敗者復活一回戦**　ＪＲ東日本東北５－２七十七銀行、日産サニー宮城12－３十条製紙▽**同二回戦**　ＪＲ東日本東北19－２日産サニー宮城▽**第二代表決定戦**　日本たばこ８－４ＪＲ東日本東北（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽一回戦　山形相互銀行14－１新庄球友ク▽**準決勝**　山形相互銀行７－５鶴岡野球ク、三川ク10－７日大山形ＯＢ▽**決勝**　山形相互銀行10－４三川ク（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽一回戦　ヨークベニマル10－３小名浜ク▽**準々決勝**　小峰ク５－３保原ク、ヨークベニマル22－１好間ク、川俣ク８－５須賀川ク、トヤ野球ク９－０棚倉都々古ク▽**準決勝**　ヨークベニマル19－０小峰ク、トヤ野球９－０川俣ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ヨークベニマル16－１トヤ野球ク

▶二次予選

9月30日から　3日間　　岩手県営球場



関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽**リーグ戦**　日立製作所11－１鹿島石油、住友金属鹿島18－３鹿島石油（日立製作所、住友金属鹿島は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽一回戦　日本通運10－２全三郷、大和ク９－６全浦和、エーザイ12－８川口球友ク、本田技研19－０都幾川ク▽**準決勝**　日本通運20－１大和ク、本田技研25－３エーザイ（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　本田技研11－９日本通運

◇**千葉**▽**リーグ戦**　ＮＴＴ関東５－３新日鉄君津、ＮＴＴ関東６－１川崎製鉄千葉、川鉄千葉６－４新日鉄君津（ＮＴＴ関東、川鉄千葉は第二次予選へ）

◇**東京**▽一回戦　東京ガス５－２三井銀行、日本ＩＢＭ７－２明治生命▽**準々決勝**　朝日生命11－１熊谷組、ＮＴＴ東京４－２東京ガス、鷺宮製作所９－２ＪＲ東日本、プリンスホテル８－２日本ＩＢＭ▽**準決勝**　朝日生命10－６ＮＴＴ東京、プリンスホテル11－４鷺宮製作所（勝者は第二次予選へ）▽**第三代表決定戦**　ＮＴＴ東京14－４鷺宮製作所（勝者は第二次予選へ）

◇**東京多摩**▽一回戦　東芝府中７－０全府中、スリーボンド８－０全調布▽**決勝**　リーボンド４－１東芝府中（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽一回戦　川崎ク12－６横浜金港ク、横浜高島屋７－５横浜球友ク▽**準々決勝**　いすゞ自動車３－２日産自動車、日本石油14－２川崎ク、三菱自動車川崎９－２ウィーンベースボールク、三菱重工横浜６－１横浜高島屋▽**準決勝**　日本石油５－２いすゞ自動車、三菱自動車川崎２－１三菱重工横浜（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本石油７－３三菱自動車川崎▽**三位決定戦**　三菱重工横浜11－６いすゞ自動車（勝者と推薦の東芝は第二次予選へ）

▶二次予選

9月22日から　4日間　　群馬・太田運動公園

中部大会

▶一次予選

◇**山梨**▽一回戦　山梨球友ク10－０東海甲府ク、大月ク10－４桂ク、甲府ベースボールク15－６峡北ク、オール櫛形７－２市川ク▽**準決勝**　山梨球友ク９－６大月ク、オール櫛形８－４甲府ベースボールク▽**決勝**　山梨球友ク６－２オール櫛形（勝者は第二次予選へ）

◇**新潟**▽一回戦　全飯豊８－３新潟ク、ＫＤク11－５白根野球団、ニチエー12－２オール東、新発田中央ク８－７新津ク▽**準決勝**　全飯豊９－６ＫＤク、ニチエー19－１新発田中央ク▽**決勝**　ニチエー13－１全飯豊（勝者は第二次予選へ）

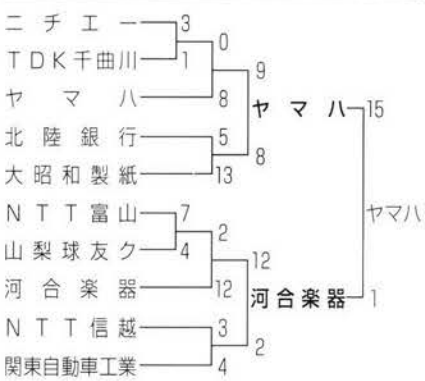
◇**長野**▽一回戦　ＮＴＴ信越12－０全松本、ＴＤＫ千曲川10－５岡工ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ＮＴＴ信越４－２ＴＤＫ千曲川

◇静岡▽ 一回戦 協和発酵ク6－3浜松ウナボンズ、大昭和製紙10－0菊笠ク、ヤマハ11－0エースコンク、関東自動車工業11－2富士ク、誠和ク6－5浜商闘魂会、河合楽器10－0岳南ク▽準々決勝 ヤマハ15－0全三島、河合楽器10－0天城ベースボールク、関東自動車工業11－1誠和ク、大昭和製紙6－0協和発酵ク(勝者は第二次予選へ)▽準決勝 ヤマハ9－1関東自動車工業、河合楽器11－3大昭和製紙▽決勝 ヤマハ5－4河合楽器

◇富山▽リーグ戦 NTT富山12－1伏木海陸運送、北陸銀行12－5NTT富山、北陸銀行17－0伏木海陸運送(北陸銀行、NTT富山は第二次予選へ)

▶二次予選

9月23日から 3日間 浜松市営球場



東海・北陸大会

9月25日から 7日間 愛知県営熱田球場

近畿大会

▶一次予選

◇滋賀▽一回戦 日本IBM野洲9－1近江八幡ク、全大津11－0瀬田工OB▽決勝 日本IBM野洲17－5全大津(勝者は第二次予選へ)

◇京都▽ 一回戦 京都市役所5－3丸勝▽準々決勝 三菱自動車京都7－0西京ク、第一紙行5－3京都信用金庫、京都市役所12－9高島屋京都、日本新薬8－1鴨沂ク(勝者は第二次予選へ)▽準決勝 第一紙行6－5日本新薬、三菱自動車京都8－0京都市役所▽決勝 三菱自動車京都6－2第一紙行

◇大阪▽ 一回戦 日本生命9－2デュプロ、NTT関西5－0全三和▽準々決勝 大阪ガス19－0大阪ペーシェンス、新日鉄堺4－2日本生命、松下電器10－6大和銀行、NTT関西9－2中山製鋼(勝者は第二次予選へ)▽準決勝 新日鉄堺9－2大阪ガス、松下電器4－3NTT関西▽決勝 新日鉄堺5－1松下電器▽敗者復活 一回戦 大和銀行5－1大阪ペーシェンス、日本生命10－3中山製鋼▽第五代表決定戦 日本生命17－0大和銀行(勝者は第二次予選へ)

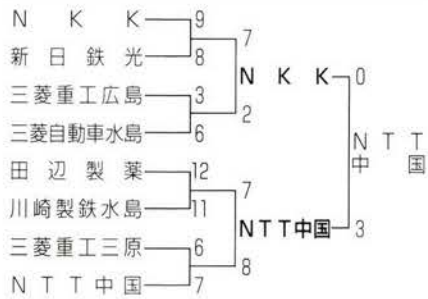
◇兵庫▽ 一回戦 小西酒造6－4田村コピー、川崎製鉄神戸10－3阿部企業、三菱重工神戸6－2神戸製鋼▽準決勝 小西酒造13－11川鉄神戸、新日鉄広畑8－7三菱重工神戸(準決勝出場4チームは第二次予選へ)▽決勝 新日鉄広畑11－4小西酒造▽三位決定戦 川鉄神戸4－2三菱重工神戸▽敗者復活 一回戦 神戸製鋼10－0田辺コピー▽第五代表決定戦 神戸製鋼5－2阿部企業(勝者は第二次予選へ)

▶二次予選

9月19日から 7日間 西京極球場

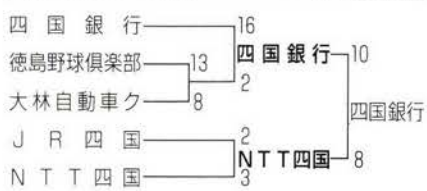
中国大会

9月23日から 3日間 岡山県営球場



四国大会

9月23日から 3日間 徳島県営球場



九州大会

9月23日から 3日間 長崎市営大橋球場

プロから転じ実りの秋

スリーボンド・岡嶋監督

この初出場で一人前のチームになった気がします」。最激戦区・関東の代表の座を初めて獲得して臨んだ組み合わせ抽選会でも、スリーボンド、岡嶋博治監督(53)の顔に喜びが絶えなかった。元中日の遊撃手。スリーボンドを率いて6年目に実り多い秋をついに迎えた。

京都・伏見高(現伏見工)から立命館大に進み、1年生の1954年夏、中日に入団。「大学の2年先輩に吉田さん(義男・前阪神監督)がいた。体が小さくても、すぐに活躍されたので、同じ遊撃手で体の小さい私(168㌢)も目をつけられ、スカウトされました」。入団3年目でレギュラーとなり、58年、59年には連続盗塁王に輝くなど俊足巧打の選手として活躍。その後、阪急、ヤクルトに移籍、東映(日本ハム)、ヤクルトでコーチも務めた。74年からサラリーマンになっていたが、83年、スリーボンドの監督に迎えられた。

監督になって3年目の85年は第56回都市対抗野球に初出場。しかもベスト8に進出、旋風を巻き起こした。しかし、日本選手権は予選で東芝、日本石油など神奈川の強豪に頭を抑えられてばかり。今年の予選は都市対抗出場の三菱重工横浜を倒し、公式戦で一度も勝てなかった本田技研に競り勝って念願の初出場を果たした。

伏見高時代の53年、第25回センバツに出場、主将として開会式で選手宣誓をした。「今は、あのときのような緊張した気持ち。初戦では絶対に負けたくないし、負けない全員野球をします」。初舞台で闘将に徹するつもりだ。

第15回大会出場選手等一覧（○は主将）

大昭和製紙北海道

監督	斉藤　勲	42	柳井商工高
投手	高橋　秀一	19	札幌西陵高
〃	木本　謙	18	旭川大高
〃	鈴木　賢二	23	千葉敬愛経大
〃	加藤　宗之	20	札幌稲西高
〃	大崎　守	22	室蘭大谷高
〃	尾崎　浩幸	22	広島至誠高
〃	渡部　勝美	25	砂川南高
〃	富田　健二	18	旭川竜谷高
捕手	山崎　史博	25	北海学園大
〃	新明克比古	25	室蘭大谷高
〃	山本　隆成	19	北海道日大高
〃	横沢　滋	28	深川西高
内野	社　新吾	27	瀬戸内高
〃	酒井　司	24	留萌高
〃	○高木　吉夫	26	中央学院大
〃	菅野　建二	26	旭川竜谷高
〃	斉藤　豊	23	東京農大
〃	横川　衛	30	北見工高
〃	山中　智彰	22	北海道工大
外野	阿相　信義	21	東北高
〃	平　紀陽典	28	日大東北工高
〃	佐藤　耕治	25	蘭越高
〃	北　延尚	21	広島盈進高
〃	日下　幸弘	22	広島至誠高
〃	新里　真	22	日本大

新日本製鐵室蘭

監督	後藤　哲夫	39	岡山興譲館高
投手	別府　信介	18	明徳義塾高
〃	伊藤　茂樹	19	旭川竜谷高
〃	今野　弘	21	北海高
〃	浅川　輝彦	30	韮崎工高
〃	米山　浩一	27	専修大
〃	窪田　雅也	25	立教大
〃	真下　敏宏	25	北海高
〃	稲場　孝	32	芦別工高
捕手	平間　英樹	23	白糠高
〃	久村　孝	19	砂川北高
〃	長山　一英	24	神奈川大
〃	佐野　修二	30	市川高
〃	後藤　哲夫	39	岡山興譲館高
内野	岡田　健一	20	旭川竜谷高
〃	坂尾　新一	24	東海大甲府高
〃	○鹿田　和彦	31	旭川竜谷高
〃	鈴木　広之	20	水戸商高
〃	鈴木　忠仁	26	札幌商高
〃	本間　義浩	22	北海高
外野	片山　昌昭	21	駒大岩見沢高
〃	桜井　清一	26	倶知安高
〃	堀松　洋伸	29	東北高
〃	岡田　仁	32	室蘭工高
〃	馬場　巧司	25	室蘭大谷高
〃	関　尚彦	24	函館有斗高

日本たばこ

監督	横橋　秀俊	38	仙台商高
投手	相沢　弘明	19	石巻工高
〃	石川　朋彦	20	名取高
〃	及川　弘昭	23	一関商工高
〃	加藤　淳	25	仙台商高
〃	小野　堅	28	宮城農高
〃	柳畑　雅人	22	福岡高
〃	佐藤　正樹	24	駒沢大
捕手	倉田紀久夫	25	亜細亜大
〃	星　伸一	28	仙台育英高
〃	及川　正則	25	広田水産高
内野	安斎　克則	25	福島商高
〃	藤原　順	25	秋田商高
〃	佐々木幸樹	19	大船渡高
〃	寺嶋　哲也	25	仙台育英高
〃	○菅原　隆浩	26	明治大
〃	佐藤　雅司	31	仙台育英高
〃	山下　静夫	29	亜細亜大
〃	藤沢　法行	21	花巻北高
〃	及川　義彦	24	一関商工高
外野	遠藤　昌宏	28	仙台商高
〃	原野　優	25	仙台育英高
〃	畠山　哲人	26	秋田商高
〃	高橋　良誠	21	黒沢尻工高
〃	渡辺　則昌	23	福島商高

NTT東北

監督	小窪　敬一	38	関東学院大
投手	宮本　武	22	東京農大
〃	池田　敏昭	23	酒田工高
〃	大倉　浩悦	26	東北福祉大
〃	越田　仁孝	22	青森北高
〃	渡辺　智晴	20	勿来高
〃	斉藤　孝弘	29	福島商高
〃	添田　光夫	22	平工高
〃	小窪　敬一	38	関東学院大
捕手	猪狩　正弘	24	明治大
〃	山内　聡	23	青森北高
内野	○板井　博行	26	東京農大
〃	福地日出雄	30	東京農大
〃	藤木　豊	22	東北福祉大
〃	矢萩　幸一	23	日本大
〃	柿久保健二	23	東洋大
〃	大竹　睦	24	帝京大
〃	菊田　善信	30	駒沢大
〃	伊藤　友喜	28	関東学院大
外野	戸羽　英之	21	一関商工高
〃	加藤　秀典	20	羽黒工高
〃	小野　亨	30	東京農大
〃	佐藤　喜克	20	名取高
〃	三瓶　仁	20	学法石川高
〃	多田　浩	25	帝京大
〃	唐沢　敬	22	東京農大

スリーボンド

監督	岡嶋　博治	53	立命館大
投手	亀岡　裕幸	24	国士舘大
〃	安田　武一	19	日本学園高
〃	清水　直樹	28	日大藤沢高
〃	渡辺　英樹	22	日大一高
〃	矢崎　徳之	22	アルバルスベンチャーズ
〃	高橋　泰彦	26	駒沢大
〃	中塚　幹男	26	国士舘大
捕手	越智　文雄	25	新居浜工高
〃	石黒　丈士	24	西京商高
〃	中山　恵一	23	日体大
内野	○四ケ所重喜	28	愛知工大
〃	石田　健	25	愛知工大
〃	戸崎　秀伸	21	東海大工高
〃	呉　復連	26	中国文化大
〃	草田　義之	26	大阪商大
〃	穂満　隆	24	駒沢大
〃	井岡　寿円	23	兵庫育英高
〃	川本　伸司	24	法政大
外野	和嶋　賢一	28	九州産大
〃	有国　雅己	29	福岡大
〃	山口　繁男	27	日本大
〃	多田　真也	24	大商大
〃	半波　和仁	20	浦和学院高

東　芝

監督	大田垣耕造	39	青山学院大
投手	三原　昇	25	亜細亜大
〃	近藤　芳久	23	能代商高
〃	山崎　雄己	21	盈進高
〃	日崎　佳典	19	徳島商高
〃	菊池　総	28	明治大
〃	木村重太郎	20	熊本工高
捕手	斉藤　敏夫	23	鶴見工高
〃	村上　泰造	25	九州産大
〃	高見　泰範	25	愛知工大
〃	泉水　稔	28	興南高
内野	葛城　弘樹	25	国士舘大
〃	南渕　時高	23	青山学院大
〃	西村　隆史	23	横浜商高
〃	小林　薫	28	青山学院大
〃	丹波　健二	23	日体荏原高
〃	吉沢　明	22	土浦日大高
〃	後藤英一郎	25	亜細亜大
〃	渡辺　博	21	鶴見工高
〃	畠山　弘彰	23	法政大
外野	藤原　興司	27	九州共立大
〃	田辺　浩昭	28	法政大
〃	○福本　勝幸	31	早稲田大
〃	前田　誠	27	駒沢大
〃	金敷　雅彦	26	明治大
〃	梁原　修志	29	苫小牧工高

三菱自動車川崎

監督	垣野　多鶴	36	東海大
投手	小野　孝	20	武相高
〃	三又　宇宙	19	埼玉栄高
〃	小野　哲	21	相洋高
〃	津嶋　重美	18	大曲農高
〃	吉沢　哲也	23	大島高
〃	小笠原敏雄	31	太田工高
捕手	高須　和良	20	霞ケ浦高
〃	斉藤　徹	21	松川高
〃	安斉　卓巳	22	日体荏原高
〃	平野　逸男	27	佐世保工高
内野	清水　雅治	23	浜田高
〃	四條　稔	21	東海大甲府高
〃	鶴見　信彦	21	向上高
〃	田村　隆一	22	日本大
〃	和田　敏雄	27	日大三高
〃	中尾　雅行	18	市立船橋高
〃	楢原　昌則	24	法政大
〃	桑元　孝雄	18	武相高
〃	沢崎　藤幸	19	魚津工高
外野	○角　晃司	28	東海大
〃	金子　元樹	23	武相高
〃	小川　欣也	29	吉原工高
〃	村田　雅彦	22	徳島商高
〃	柿田　健児	18	浜田商高
〃	森　伸次	19	波佐見高

日本石油

監督	磯部　史雄	39	法政大
投手	鈴木　健	18	羽黒工高
〃	岡田　邦彦	27	駒沢大
〃	保戸田勝利	23	帝京高
〃	田口　操	25	立正大
〃	石田　文樹	21	取手二高
〃	秋村　謙宏	22	法政大
〃	金沢　健一	21	棚倉高
捕手	佐藤　孝治	25	早稲田大
〃	対馬　昭男	29	帝京大
〃	徳永　耕治	19	千葉工高
内野	中葉伸二郎	28	法政大
〃	大久保盛義	28	明治大
〃	平田　望	22	法政大
〃	○石川　正之	26	神奈川大
〃	伊藤　義樹	24	中京高
〃	安岡　靖晃	23	明治大
〃	森　真	23	神奈川大
〃	久慈　照嘉	18	東海大甲府高
〃	田島　信昭	28	帝京大
〃	江口　和人	23	東海大
外野	鈴木　慶裕	24	亜細亜大
〃	坂口　裕之	22	明治大
〃	曽根原博志	29	亜細亜大
〃	五十嵐章人	19	前橋商高
〃	田中　泰	25	東京経済大

ヤ　マ　ハ

監督	川島　勝司	45	中央大
投手	西村　龍次	20	寒川高
〃	古賀　貞男	23	中央大
〃	山中　保彦	25	専修大
〃	高久　孝	30	駒沢大
〃	直井　憤吾	23	名古屋学院高
〃	藤村　勝一	21	静岡西高
〃	劉　秋農	32	台湾輔仁大
捕手	冨永　哲司	25	浜名高
〃	吉田　憲幸	25	亜細亜大
〃	佐藤　正則	30	関東学院大
内野	浜名　恭史	25	駒沢大
〃	寺田　健記	20	浜松商高
〃	○中山　淳	30	立命館大
〃	山本　秀樹	34	名城大
〃	武居　邦生	32	国士舘大
〃	宮坂　重雄	24	中京商高
〃	鈴木　康一	21	浜北西高
〃	小阪田　宏	26	中央大
〃	野田　昌睦	24	名城大
外野	中村　和彦	28	駒沢大
〃	内藤　雅人	24	東洋大
〃	金指　幸男	25	駒沢大
〃	高重　隆治	27	青山学院大
〃	後藤　政広	24	掛川西高
〃	野沢　洋久	23	中央大

河合楽器

監督	伊藤　升久	35	中央大
投手	野末　仰一	20	御殿場西高
〃	平田　幸夫	22	中央大
〃	竹之内和志	22	専修大
〃	東山　浩二	22	亜細亜大
〃	山田　義幸	18	清水商高
〃	徳永　宏	19	鹿児島商高
〃	浜崎　修	24	専修大
〃	谷津田伸二	25	中央大
捕手	安間　大芳	26	中央大
〃	加藤　幹夫	20	浜松商高
〃	岡本　雄一	18	静岡市立高
内野	○黒田　豊	29	立命館大
〃	中遠　清匡	22	拓殖大
〃	鈴木　智治	25	中央大
〃	尾上　裕介	24	中央大
〃	村瀬　耕次	29	中京大
〃	盛　隆章	24	亜細亜大
〃	清水　達也	23	中央大
〃	上中　勝矢	22	泉州高
外野	樽井　徹	26	法政大
〃	西原　忠善	25	中央大
〃	松本　政輝	23	同志社大
〃	並木　保彦	26	青山学院大
〃	牛尾　浩	27	中央大
〃	鈴木　徳久	24	磯原高

東海理化

監督	彦坂　昇	30	名古屋商大
投手	中村　伸也	19	明野高
〃	高橋　信行	20	成章高
〃	渡邊　博立	18	三ケ日高
〃	濱中　英次	21	紀南高
〃	中村　隆嗣	20	鹿児島実高
捕手	林　雅仁	19	三重海星高
〃	○浅田　功	26	名城大
内野	近藤　善博	25	駒沢大
〃	剣山　剛樹	21	明野高
〃	蛭川　一	24	桑名西高
〃	不破　弘雅	19	東海工高
〃	大谷　薫	22	同志社大
〃	澤　昌幸	18	三重海星高
外野	成瀬　弘	27	名古屋商大
〃	有馬　寿男	21	鹿児島実業高
〃	辻本　浩幸	24	立命館大
〃	石野　勝明	18	享栄高
〃	中根　和隆	29	岡崎工高

王子製紙春日井

監督	龍神　光美	34	御坊商工高
投手	橋本　祥	20	鳥羽高
〃	吉木　誠人	22	延岡学園高
〃	篠崎　浩行	21	坂城高
〃	新美　寿通	30	半田工高
〃	加藤　英樹	18	名古屋学院高
〃	○秋末　誠司	26	米子工高
捕手	佐古口　憲	23	新宮高
〃	岩本　克尚	24	日大高
〃	吉本　亮	18	御坊商工高
〃	鈴木　弘	25	愛知工高
内野	佐藤　敏夫	30	半田工高
〃	東　将幸	22	新宮高
〃	進藤　理正	20	弘前工高
〃	近藤　岩男	30	吉原工高
〃	仙波　泰三	23	兵庫商高
〃	菊地　天志	18	日南学園高
〃	窪　祐二	19	愛知高
〃	内田　力	23	愛知高
外野	岩井　忠彦	23	同志社大
〃	棚橋　祐司	24	岐阜南高
〃	山本　和人	24	中京商高
〃	田中　和武	20	清水高
〃	山内　悟	34	岐阜工高

日本IBM野洲

監督	鴨田	勝雄	49	法政大
投手	中西	孝司	27	日体大
〃	西殿	和成	24	愛知工大
〃	吉村	勝己	19	此花学院高
〃	林	賢志	23	明治大
〃	田中	嘉尚	26	同志社大
〃	井戸	英裕	25	日野高
捕手	田村	元一	26	福岡工高
〃	石田	浩之	23	愛知工大
〃	青山	孝一	25	東北福祉大
内野	○飯田	孝雄	27	法政大
〃	藤田	吉男	25	京都産大
〃	田中	公之	22	九州共立八幡西高
〃	小松崎	雄志	26	天理大
〃	藤原	良一	25	同志社大
〃	太田代	憤也	23	駒沢大
外野	山下	新二	22	上五島高
〃	渕田	誠	26	近畿大
〃	田嶋	清隆	21	高知商高
〃	山本	貴	24	法政大
〃	中山	泰允	23	近畿大
〃	芳村	直樹	24	智弁学園高

松下電器

監督	鍛治舎	巧	37	早稲田大
投手	山村	昌也	24	関西大
〃	多田	淳	23	大商大
〃	渡辺	一博	26	大商大
〃	石田富士男		29	日体大
〃	米澤	秀典	26	大阪学院大
〃	湖崎	哲也	20	鳴門高
〃	松島	雅也	23	日体大
〃	小間	進	22	神港学園高
捕手	大本	二郎	31	倉敷工高
〃	水本	勝巳	20	倉敷工高
〃	佐藤	元信	23	明治大
〃	上原	仁	23	日本大
内野	山尾	修二	25	近畿大
〃	太田	晃生	26	大阪学院大
〃	原井	和也	20	算島高
〃	○広岡	資生	28	早稲田大
〃	宇田	英樹	23	龍谷大
〃	奥代	恭一	29	関西大
〃	小坂	義典	19	滝川第二高
外野	篠崎	宏道	29	近畿大
〃	桑本	善和	23	日本大
〃	大濱	兄樹	21	守口高
〃	木村	庄作	20	智弁和歌山高
〃	栗原	高志	19	池田高
〃	澤田	裕	26	大商大

大阪ガス

監督	更紗	忠海	32	志度商高
投手	島田	一	24	慶応大
〃	田中	豊記	23	羽曳野高
〃	西岡	洋	19	興南高
〃	松谷竜二郎		24	大阪市立高
〃	佐藤	尚巧	24	関西大
〃	萩原	健吾	27	関西大
〃	長野	哲也	26	大阪教育大
捕手	中西	亮介	20	興国高
〃	新谷	一仁	21	京都商高
〃	上	和秀	27	市和歌山商高
内野	松田	竜二	24	近畿大
〃	竹村	誠	27	同志社大
〃	西	正文	28	尼崎小田高
〃	曾我部和男		21	東洋大姫路高
〃	杉山	栄司	24	浪商高
〃	鍋島	好昭	29	近大付高
〃	佐々木孝一		23	早稲田大
〃	久保	茂章	23	智弁学園高
〃	片山	哲郎	20	西条高
外野	折原	康伸	28	洲本高
〃	湯川	素哉	25	早稲田大
〃	時信	正登	22	岡山南高
〃	○川端	秀宣	28	飾磨工高
〃	中内	章利	21	伊野商高
〃	植村	寛之	22	智弁学園高

新日本製鐵堺

監督	中川	善弘	36	和歌山工高
投手	野茂	英雄	20	成城工高
〃	北浦	伸治	20	渋谷高
〃	九鬼	善信	25	堺西高
〃	小椋	茂夫	25	邇摩高
〃	亀田	憲次	21	太成高
〃	清水	信英	31	興国高
捕手	浦	誠哉	31	PL学園高
〃	中野	敏行	29	小倉商高
〃	浜田	秀史	22	明徳義塾高
〃	柳野	浩一	20	伊野商高
内野	杉本	和也	21	渋谷高
〃	馬場	敏史	23	柳川高
〃	江川	正起	24	算島高
〃	浦東	靖	29	新宮商高
〃	石原	貴	26	柳川高
〃	○井上	忠	28	専修大
〃	木村	義士	21	柳ケ浦高
外野	西垣	公策	27	県和歌山商高
〃	浦東	徳明	27	新宮商高
〃	田中	匡則	19	和歌山工高
〃	米倉	格二	26	成城工高
〃	近沢	昭二	21	明徳義塾高
〃	三原	薫	27	同志社大
〃	久保	恭教	24	生野工高

住友金属

監督	清水	長寿	36	早稲田大
投手	寺坂	友秀	20	笠田高
〃	横井	秀実	18	高島高
〃	小杉	大三	27	和歌山工高
〃	小島	弘務	20	平安高
〃	森田	幸一	22	近畿大
〃	高橋	修二	31	高知高
〃	森沢	洋水	19	安芸工高
〃	古賀	達也	29	佐賀竜谷高
捕手	西岡	良展	26	早稲田大
〃	樋野	徹	19	平田高
〃	羽佐	吉史	24	御坊商工高
〃	佐藤	雄樹	28	早稲田大
内野	中田	等	27	同志社大
〃	福本	保彦	23	高知高
〃	筒井	大助	30	関西学院大
〃	三宅	秀二	22	東海大
〃	樋口	一紀	20	柳川高
〃	岩田	充裕	23	近畿大
〃	勘佐	寿人	21	算島高
〃	○田中	祐司	30	鳴門高
外野	畑山	俊二	23	近畿大
〃	川畑伸一郎		21	鹿児島商高
〃	栗山	和行	28	明治大
〃	家永	裕章	22	向陽高
〃	高津	淳	20	報徳学園高

神戸製鋼

監督	荒井	信久	35	明治大
投手	山崎	吉博	21	福岡大大濠高
〃	大寺	史人	23	立命館大
〃	西嶋	和之	26	龍谷大
〃	江坂	政明	21	平安高
〃	長渡	宏之	24	吉備高
捕手	川井	直之	26	金沢星稜高
〃	中村	謙吾	21	太成高
〃	宅間	寛	25	立命館大
〃	荒井	信久	35	明治大
内野	川原崎	実	25	村野工高
〃	中川	哲	32	駒沢大
〃	嵯峨	和也	23	大商大
〃	西川	幸宏	25	金沢星稜高
〃	戸塚	俊美	24	明治大
〃	高野	清秀	29	専修大
〃	能勢	勝嗣	27	近畿大
〃	宮長	貞行	22	市立尼崎高
〃	武次	大志	20	下関商高
外野	日川	雅夫	30	明治大
〃	○浦本	慶啓	32	亜細亜大
〃	若狭	健司	24	京都産大
〃	中村	好治	35	専修大
〃	丹波谷至邦		26	立命館大
〃	綾木	進一	19	八頭高
〃	山崎	博行	33	村野工高

NKK

監督	上岡	誠二	40	慶応大
投手	浜口	守	29	弓削商船高専
〃	田代	敬治	26	八幡大
〃	塩山	康浩	23	熊本第一工高
〃	安富	洋二	23	関西高
〃	小川	拡保	22	向上高
〃	鎌田	一人	22	秋田経法大付高
〃	古賀	雅裕	21	佐賀学園高
捕手	白石	則幸	32	西条高
〃	松井	智幸	29	明治大
〃	大倉	孝一	26	駒沢大
〃	安永	利和	26	尼崎北高
内野	羽二生俊之		30	横浜商高
〃	中田	光一	29	法政大
〃	岩野	好伸	28	東洋大
〃	西嶋	哲久	27	近畿大
〃	村上	文敏	26	駒沢大
〃	井口	竜也	24	武相高
〃	定岡	康彦	24	日本大
外野	○金久保孝治		33	法政大
〃	島野	弘幸	32	武相高
〃	佐藤	洋一	29	二松学舎大付高
〃	永尾	秀司	27	早稲田大
〃	小林	雅彦	26	近畿大
〃	苅部	稔	26	古河一高
〃	中山	英士	21	唐津商高

NTT中国

監督	増永	芳紀	35	東洋大
投手	青野	望	24	福岡大
〃	佐藤	明	19	大門高
〃	矢野	哲嗣	20	近大福山高
〃	石川	晃	26	下松工高
〃	佐々岡真司		21	浜田商高
〃	実藤	誠	25	近畿大
捕手	佐藤	達也	27	福岡大
〃	木原英太郎		24	駒沢大
〃	高山	雅彦	31	亜細亜大
内野	下岡	秀荘	28	東洋大
〃	竹中	学	20	岡山南高
〃	北口	和正	24	名古屋学院大
〃	千川	健二	23	近畿大
〃	原	則明	24	近畿大
〃	小原	祥司	21	広陵高
〃	樽岡	靖	30	専修大
〃	篠原	勝	27	東洋大
〃	登	靖則	31	東洋大
外野	宇佐美忠志		26	亜細亜大
〃	○津江本	隆	27	法政大
〃	河井	信護	31	国士舘大
〃	辻岡	一成	25	福岡大
〃	武田	茂人	25	東洋大
〃	増永	芳紀	35	東洋大
〃	岩山	節雄	31	駒沢大

NTT四国

監督	幸田	優	38	駒沢大
投手	久利	周大	24	東洋大
〃	西川	憤一	21	大洲農高
〃	渡辺	智男	20	伊野商高
〃	白井	宏範	24	駒沢大
〃	神田	敦	26	日体大
〃	土田	博健	24	帝京第五高
〃	滝下	茂信	29	穴吹高
捕手	白石	勇二	21	松山商高
〃	武田	和高	23	明徳義塾高
〃	夕部	孝豊	25	大方商高
〃	芝	和彦	23	近畿大
内野	緒賀	克郎	28	東洋大
〃	小谷	雄司	22	明徳義塾高
〃	武田	正人	26	駒沢大
〃	山本	佳孝	23	同志社大
〃	河野	浩三	22	駒沢大
〃	竹島	誠	25	九州東海大
〃	松本	秀敏	22	亜細亜大
〃	篠原	昭人	24	駒沢大
〃	加藤	浩嗣	22	新居浜工高
外野	松田	竜治	20	松山商高
〃	○石元	浩三	29	新田高
〃	三好	利幸	24	北条高
〃	能田	悦夫	22	亜細亜大
〃	三倉	一男	28	駒沢大

四国銀行

監督	城下	照男	35	専修大
投手	山本	智久	31	池田高
〃	橋谷	正人	27	大商大
〃	浜田	孝伸	25	東邦大
〃	池内	聡	24	専修大
〃	仙石	雅人	22	帝京大
捕手	宮本	章彦	27	東京経大
〃	末光	賢二	23	松山商大
内野	薬師神	一成	30	京都産大
〃	森	正隆	29	明治大
〃	西	弘顕	28	明治大
〃	森田	洋生	26	明治大
〃	谷岡	秀一	25	亜細亜大
〃	町田	明謙	22	東海大
〃	○伊名	正道	27	東洋大
外野	阿部	稔	30	大商大
〃	井上	幹也	26	愛知学院大
〃	宮本	雄二	25	神奈川大
〃	田中	靖秀	24	近畿大
〃	森田	建司	23	明治大

新日本製鐵八幡

監督	瀬藤	宣彦	44	小倉高
投手	丸谷富美幸		29	日南振徳商高
〃	吉田	孝一	23	八幡大
〃	武田	克也	29	多度津工高
〃	本山	和久	25	直方高
〃	石田	大介	27	筑波大
〃	藤原	和久	20	高田高
〃	池田	宣人	29	長崎北高
捕手	前川	公亮	25	八重山商工高
〃	福本	高典	28	宇部鴻城高
〃	伊藤	雄二	22	下関商高
内野	山前	伸二	28	直方学園高
〃	○鉄見	浩次	26	早稲田大
〃	山崎	典政	30	都城農高
〃	平	満男	31	長崎商高
〃	後藤	忠	19	西日本短大高
〃	佐野	高明	23	大牟田高
〃	松田	孝徳	21	豊国学園高
〃	池田	幸治	24	熊本工大高
外野	葉山	正彦	20	小倉工高
〃	田村	勝彦	24	八頭高
〃	加藤	雄一	31	鎌倉学園高
〃	丸谷富美夫		23	日南高
〃	藤崎	靖彦	19	豊国学園高
〃	田中	丈春	20	久留米商高

本田技研熊本

監督	手島	晴幸	38	立教大
投手	山隈	博之	23	大津高
〃	田代	尚幸	23	佐世保商高
〃	尾崎	定己	23	球磨農高
〃	池尻	康晴	27	久留米商高
〃	内山	正博	23	青山学院大
〃	内田	和広	29	都城商高
〃	高村	洋介	23	熊本工高
〃	松本	弘幸	27	熊本第一工高
捕手	吉田	浩幸	21	津久見高
〃	○得津	浩芳	24	九州東海大
〃	田中	忠勝	25	久留米商高
内野	清原	真二	29	柳ケ浦高
〃	竹田	満宗	22	豊国学園高
〃	坂本	正	23	熊本第二高
〃	川道	二郎	22	東海大二高
〃	手島	晴幸	38	立教大
〃	深町	浩二	36	法政大
外野	平畠	光行	23	熊本工高
〃	小本	修二	24	九州東海大
〃	久保	憲司	21	鳥栖高
〃	河野幸四郎		23	都城商高
〃	内村	徹	23	熊本工高
〃	安藤	芳人	23	日田林工高
〃	園田	末男	24	PL学園高

第16回大会

1989年(平成元年)10月19日▶10月26日　大阪球場

優勝＝住友金属 ――― (5年ぶり5回目)

名門復活、住友金属5度目の優勝

日本生命、日本石油、住友金属、熊谷組といずれも都市対抗で優勝経験のある古豪が復活し、4強を独占した。都市対抗では日石が2回戦で、熊谷組は準々決勝で敗退、住金と日生は予選で敗れたが、成長する若い力を存分に生かして強豪らしい地力を発揮した。

優勝した住金はこの2年、都市対抗に不出場と不振だったが、鮮やかに復活を成し遂げた。ルーキー尾山は優勝までの5試合に先発、2回戦からは4日連投という苛酷なマウンドだったが、ベンチも一体となって戦い、守りの固さも日本一の原動力になった。これで住金は日本選手権優勝戦5戦全勝。

準優勝の日石は、都市対抗では軸になる投手が不在だったが、今大会では5年目の本格派右腕、金沢が期待通りの好投。打撃も準決勝の逆転、優勝戦の粘りなど、試合への全員の集中力には素晴らしいものがあった。

準決勝で敗れた熊谷組は都市対抗の準々決勝でコールド負けしたことをバネに、チームがリフレッシュした。日生も2年目の木村が投手陣の中心となり、若手が活躍、名門復活を印象づけた。

NTT中国は佐々岡が速球を武器に真っ向から投げ込み、打線も勝負強かった。四国銀行は昨年の大会で1試合5本塁打を2回も記録したが、今年はさらに1試合6本塁打という新たな記録を作った。

大会本塁打が前年より20本以上も減って計54本と、金属バットにプラスする指名打者制による打者上位の流れに、歯止めをかけた。3年後のバルセロナ五輪に向けて素質のある若手が台頭したのも特徴だ。

〔優勝戦〕日本石油－住友金属　九回裏、住友金属二死一、二塁、松本が右前にサヨナラ安打を放つ。

大会審判　▷**委員長**＝米谷道雄▷**副委員長**＝三輪武、山川脩司、三宅享次▷**幹事**＝岡本好一、津田浩嗣、岸野金治、大村一彦、竹中清二▷**委員**＝本郷良直、小林勉、大橋慶三、木嶋一黄、桃田晴彦、中西則夫、辻喜正、長谷至康、永田兼治、丸屋琢美、伊東登、大石泰、梶浦照樹、宮奥欣司、樫根清一、赤井淳二、土井池憲治、片岡成夫、広沢渉、巽正一、岡本良一、鹿多証道、浜田正二、生越芳明、美馬洋、中川雅夫、片山寄世史、宮木明、吉田龍男、東優孝、南垣勇、新卓定、中本尚、梅田泰洋

▽10月19日

第1試合＝1回戦(午前10時3分開始)

本田技研	0	1	0	0	0	2	0	0	1	4
NTT四国	0	1	2	0	1	0	0	1	X	5

▶審判(球審)小林(塁審)中本、赤井、鹿多

【本田技研】

		打	安	点	振	球
⑧	荻原	4	0	0	0	1
⑨	橋本	5	1	1	1	0
④	朝山	5	2	1	0	0
⑥	西	4	2	1	0	0
③	山田	4	1	1	2	0
②	長井	4	1	0	0	0
⑤	新井	4	1	0	0	0
D	日野	3	0	0	0	1
⑦	鈴木	4	3	0	0	0
	犠	併	残			
	0	0	8	37	11	4

【NTT四国】

		打	安	点	振	球
④	武田正	4	1	0	0	0
D	河野	2	1	1	0	1
②	芝	4	2	0	0	1
⑨	三好	3	0	1	1	0
⑤	松本	4	3	2	0	0
⑥	竹篠	4	3	0	1	0
③	島原	3	0	0	1	0
⑦	田田	3	2	1	0	0
⑧	能松	2	4	0	0	0
	犠	併	残			
	2	1	7	30	9	5

	回	安	振	球	責
田村	4⅔	6	1	2	4
中屋	4	3	2	2	1
白井	9	11	3	2	4

▷本塁打＝山田1号(白井)竹島1号(田村)河野1号(田村)朝山1号(白井)西1号(白井)▷二塁打＝新井、朝山、鈴木▷犠打＝N2(河野、篠原)▷盗塁＝本1(鈴木)▷試合時間＝2時間15分

第2試合＝1回戦(午後0時47分開始)

J T	2	1	0	0	1	0	0	1	0	5
新日鉄大分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)三宅(塁審)東、中川、浜田

【JT】

		打	安	点	振	球
⑧	7渡辺	5	3	2	1	0
④	山下	5	1	1	2	0
⑨	原野	3	2	0	1	1
D	高橋	3	1	0	1	1
⑤	寺嶋	3	0	1	1	0
⑦	鎌田	3	0	0	0	0
8	畠山	4	0	0	0	0
③	藤沢	4	0	0	0	1
⑥	菅原	3	1	0	0	1
②	及川正	3	1	0	1	1
	犠	併	残			
	1	0	7	33	9	5

【新日鉄大分】

		打	安	点	振	球
⑥	4前谷	4	2	0	0	1
⑧	水田	3	1	0	0	1
⑤	加藤	4	0	0	1	0
⑨	金矢	3	0	0	0	0
H	永元	3	1	0	0	0
③	大平	3	0	0	2	0
D	橋川	3	0	0	1	0
⑦	田野	3	2	0	1	0
②	本牧	2	0	0	1	0
④	野槇	2	0	0	1	0
H						
6	梶原	1	0	0	0	0
	犠	併	残			
	0	1	5	31	5	0

	回	安	振	球	責
及川弘	9	5	6	1	0
岩崎	4⅔	4	4	3	2
歳納	1⅓	4	0	1	1
岩切	2⅔	1	3	1	0

▷本塁打＝渡辺1号(岩崎)▷二塁打＝山下▷犠打飛＝J1(寺嶋)▷盗塁＝J2(原野、菅原)▷失策＝新4(前谷、金山、永元、本田)▷試合時間＝2時間3分

ドームの借り返せた

◎…史上3人目の先頭打者本塁打を放ち、JTを初勝利に導いた渡辺は、「真ん中高めのスライダーで手応えは十分でした」とうれしそう。都市対抗では初戦のプリンスホテル戦で一番に起用されたが、2打数無安打。六回途中で交代させられただけに、この大会で雪辱を誓っていた。「大舞台での一発ですからドームの借りを十分返せたような気持ちです」。完封した及川弘とは入社が同じで親友。「5人の同期が今は2人だけ。及川のためにも打ちたかったし、チームも勢いづいてくれました」と胸を張った。

第3試合＝1回戦(午後3時22分開始)

神戸製鋼	1	0	0	0	0	0	2	0		3
日本石油	0	0	6	0	0	4	2	1		13

▶審判(球審)大橋(塁審)巽、宮木、南垣(外審)鹿多、辻

【神戸製鋼】

		打	安	点	振	球
③	浦本	2	0	0	1	0
H3	嵯峨	2	1	0	0	0
④	能勢	4	1	1	0	0
⑧	鈴木	3	1	1	0	1
D	秦	2	0	0	1	0
HD	木田	2	0	0	0	0
⑨	宮長	3	1	0	0	0
⑦	日川	3	2	2	0	0
⑤	戸塚	3	2	0	0	0
②	中村謙	3	1	0	0	0
⑥	川原崎	2	0	0	0	1
	犠	併	残			
	0	0	4	29	8	3

【日本石油】

		打	安	点	振	球
⑧	坂口	5	3	1	0	0
④	平田	5	5	2	1	0
⑨	五十嵐	5	5	2	1	1
③	徳永	5	3	5	1	0
⑤	若林	5	2	1	0	1
⑥	久慈	4	1	1	3	0
D	相田	4	1	1	0	0
⑦	島田	3	2	0	0	1
②	高柳	2	1	1	0	0
	犠	併	残			
	1	1	6	35	16	1

	回	安	振	球	責
江坂	2⅔	7	3	1	6
長渡	2⅓	2	0	1	0
大寺	1⅔	6	0	2	5
橋本	⅓	1	0	0	1
金沢	8	8	2	2	3

▷本塁打＝鈴木1号(金沢)徳永1号④、(大寺)2号(橋本)日川1号②(金沢)▷三塁打＝若林、田島▷二塁打＝五十嵐、久慈、相田、平田▷犠打＝日1(高柳)▷盗塁＝日1(若林)▷失策＝神1(能勢)▷暴投＝江坂▷試合時間＝2時間24分

ひと息入れたが…

◎…「調子はよかったのに……」。期待されていた神戸製鋼の江坂投手は三回、投球が単調になって長短6安打を浴びてKO。二回、2点を奪われ、なお二死満塁で打者、久慈を迎えたとき、左スパイクのヒモが切れ、あわててタイム。ヒモを換えてひと息入れたつもりが、初球の直球を狙い打たれて走者一掃の左中間二塁打を浴びた。

▽10月20日

第1試合＝1回戦(午前8時57分開始)

松下電器	0	1	1	2	0	1	0	0	0	5
NTT信越	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2

▶審判(球審)木嶋(塁審)大石、吉田、生越

【松下電器】

		打	安	点	振	球
④	広岡	5	3	2	0	0
⑤	山尾	5	3	0	1	0
③	宇中	5	5	1	0	0
DRD	田本浜	5	2	1	1	0
⑨	村木	3	0	0	0	0
⑦	桑本井	3	0	1	0	0
⑥	原佐藤	3	1	0	0	0
②	桑原	3	2	1	1	0
⑧	桑	3	1	1	0	0
	犠	併	残			
	2	1	11	39	17	5

【NTT信越】

		打	安	点	振	球
⑨	佐藤	4	1	0	0	0
⑥	居田	4	0	0	1	0
⑧	井中	4	2	0	2	0
⑤	横田	4	2	0	1	0
⑦	藤渡	4	3	1	0	0
④	辺橋	3	2	1	0	0
D	石沢	3	1	0	1	0
②	福三	2	1	0	1	0
H3	青木	2	1	0	0	0
H2						
	犠	併	残			
	0	2	3	32	6	2

	回	安	振	球	責
石田	7⅓	5	7	0	2
潮崎	1⅔	1	3	0	0
村井	3⅔	6	2	1	3
北沢	2⅓	6	0	1	1
神田	3⅔	5	0	0	0

▷本塁打＝中本1号(村井)福沢1号②(石田)▷二塁打＝山尾、桑本2▷犠打＝松2(佐藤、桑原)▷盗塁＝松1(宇田)▷失策＝信1(田中)▷試合時間＝2時間17分

第2試合＝1回戦(午前11時46分開始)

本田技研熊本	0	1	0	0	1	0	0	0	2	4
北陸銀行	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2

▶審判(球審)中本(塁審)伊東、梶浦、南垣

【本田技研】

		打	安	点	振	球
⑨	内村	4	1	2	1	1
⑥	川道	5	0	2	1	0
③	竹清	5	2	0	1	0
D	浅田	5	0	0	0	0
⑦	内田	5	2	0	0	0
7	久保	5	0	0	1	0
7	河野	5	0	0	0	2
⑧	安藤	3	1	1	2	0
⑤	清原	4	1	1	2	0
④	松本	5	2	0	1	0
②	吉田	4	1	0	0	0
	犠	併	残			
	4	1	11	41	12	4

【北陸銀行】

		打	安	点	振	球
④	堀	4	0	0	0	1
⑨	平井	4	1	0	0	1
⑦	後安	4	2	0	1	0
②	加藤	5	4	0	1	0
③	安高	5	4	2	0	0
DHD	荒本	4	2	0	0	0
⑤	坂山	4	2	0	0	0
⑧	部泉	4	2	0	0	0
⑥	小髙	4	2	0	0	0
	犠	併	残			
	2	1	5	36	7	2

	回	安	振	球	責
内山	11	7	2	2	2
高枝	11	12	8	3	4

▷本塁打＝安田1号②(内山)竹田1号(高枝)▷三塁打＝安藤▷犠打＝本4(内村、川道、清原、吉田)北2(平井、高橋)▷失策＝本1(松本)北1(堀)▷試合時間＝2時間35分

ミスに主将ガックリ

◎…「主将の僕がミスばっかりでは勝てませんよね」と北陸銀行の小泉は悔しそう。守りで二回に中飛を目測を誤って三塁打にしてしまい、二、五回には安打の走者として出塁したが打球の判断ミスでともに塁上でアウト。「自分を含めほとんどの選手が都市対抗や日本選手権は初めて。あがってはいないつもりだったけど、攻守ともぐはぐなプレーが多かった。大試合ではミスをしたら勝てませんね」と目線を落とした。

第3試合＝1回戦(午後6時51分開始)

住友金属	1	0	1	0	0	4	0	0	0	6
大昭和製紙北海道	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

▶審判(球審)辻(塁審)丸屋、長谷、宮奥(外審)新阜、片山

【住友金属】

		打	安	点	振	球
④	樋口	4	1	0	0	1
⑦	中田	4	0	0	0	0
H	高津	1	0	0	1	0
8	中西	0	0	0	0	0
⑨	畑山	2	2	0	0	3
D	川畑	4	4	2	0	1
③	佐藤	4	2	3	0	0
⑥	田中	3	0	0	0	2
⑧7	家永	5	1	0	2	0
②	樋野	5	2	0	1	0
⑤	松本	4	2	1	0	0
	犠	併	残			
	1	0	11	36	14	6

【大昭和製紙】

		打	安	点	振	球
④	高木	4	0	0	0	1
⑥	社	4	1	0	0	0
⑧	平	4	1	0	1	0
③	酒井	3	0	0	0	1
⑦	佐藤	4	1	0	1	0
⑤	阿相	4	1	1	0	0
D	山崎	2	1	0	0	0
HD	北	2	0	0	1	0
②	横沢	3	1	0	1	0
2	新明	0	0	0	0	0
H	斉藤	0	0	0	0	1
⑨	日下	1	0	0	1	0
H9	木内	1	0	0	0	0
H	山本	1	1	0	0	0
	犠	併	残			
	1	3	9	33	7	1

	回	安	振	球	責
尾山	6	6	2	2	1
寺坂	2	0	2	0	0
森田	1	1	1	1	0
渡部	5⅓	11	1	4	5
加藤	2⅓	3	2	1	1
大崎	⅓	0	0	1	0
尾崎	1	0	1	1	0

▷二塁打＝山崎、阿相、佐藤(大)▷犠打＝住1(佐藤)大1(日下)▷盗塁＝住2(樋口、畑山)▷試合時間＝2時間39分

第4試合＝1回戦(午後6時2分開始)

四国銀行	0	5	0	0	0	2	1	0		10
NTT東北	0	0	2	0	0	0	2	0	2	6

▶審判(球審)片岡(塁審)美馬、中西、本郷(外審)新阜、片山

【四国銀行】

		打	安	点	振	球
⑦	田中	2	1	1	0	0
7	伊名	3	1	0	1	1
1	橋谷	3	0	0	0	1
④	谷岡	5	2	1	0	1
⑤	薬師神	4	1	1	0	1
D7	宮本雄	4	1	0	1	1
③	西	4	1	0	0	1
⑧	井上	5	3	0	1	0
⑨	森田建	5	2	5	1	1
②	宮本章	4	2	1	1	1
⑥	町田	5	3	1	0	0
	犠	併	残			
	0	0	10	41	17	10

【NTT東北】

		打	安	点	振	球
D	大塚	5	2	0	1	0
⑧	戸三	5	3	3	1	0
⑦	三瓶	5	1	1	1	0
③	菊田	5	2	0	1	1
⑨	多田	5	3	0	1	0
9	夷塚	3	2	1	2	0
④	福地	5	3	0	0	0
⑤	藤木	5	3	0	0	0
H	唐沢	5	1	0	0	0
5	大猪	3	0	0	1	0
②	狩久保	4	1	0	1	0
⑥	柿本	4	3	0	0	0
H	阿部	1	1	0	0	0
6	板井	0	0	0	0	0
	犠	併	残			
	0	2	9	42	14	6

	回	安	振	球	責
橋谷	9	14	7	0	4
大倉	1⅓	6	1	1	5
越田	4⅓	4	4	4	2
宮本	1	1	0	0	1
添田	⅓	2	1	1	1
渡辺	2	4	0	0	1

▷本塁打＝森田建1号③(大倉)2号②(添田)宮本章1号(大倉)町田1号(越田)谷岡1号(越田)戸羽1号②(橋谷)薬師神1号(渡辺)夷塚1号②(橋谷)▷三塁打＝戸羽▷二塁打＝田中、宮本章、福地、戸羽、大塚、阿部▷失策＝四1(町田)▷暴投＝橋谷▷試合時間＝2時間54分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

NTT中国＝ベスト8

佐々岡 真司投手
(現広島カープ、26歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

プロ入りを意識していたから「社会人として最後の大会。悔いを残さないように」との決意で臨んだが、優勝した住友金属に準々決勝で再逆転負け。忘れられない試合となった。

1－4とリードされた七回裏から登板。球が走っていたのでほとんどストレートで押した。うちは八回表に一挙4点を奪い逆転。「ヨシッ」と気持ちが高ぶった。ところが、八回裏に自信を持って投げ込んだストレートを2本も本塁打されひっくり返されてしまい、がっくり。

でも、いくらストレートを打たれても「プロでも速球派の投手でいくぞ」という気持ちは揺らがなかった。今でも、そう。最も変化球をうまく使ったり、ストレートにしても 両サイドを突くコントロールが必要なことは分かっている。

社会人を経験したことは自分にとってすごくプラス。厳しく鍛えられたうえに、会社の仕事を通じて人間関係など野球以外のことを学べたと思うから。

▽10月21日

第１試合＝１回戦（午前８時57分開始）

トヨタ自動車	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3
新日鉄広畑	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2

▶審判（球審）中本（塁審）桃田、美馬、永田

【トヨタ自動車】	打	安	点	振	球
⑨ 間瀬	5	1	1	0	1
⑤ 鶴田	4	0	0	2	0
H5 杉山	1	0	0	0	1
④ 泉	6	0	0	1	0
⑦ 横井	6	1	0	1	0
③ 関	4	0	0	1	1
D 宮市	2	0	0	2	0
HD 石野	3	0	0	1	0
② 古田	5	1	1	0	0
⑥ 蛭田	5	0	0	0	0
⑧ 寺山	2	1	0	0	0
H8 岡本	3	1	0	0	0
犠 併 残					
0 1 4		4	6	5	2

【新日鉄広畑】	打	安	点	振	球
⑧ 杉本	6	0	0	2	0
④ 大裏	7	1	0	0	0
D 応武	6	3	0	1	1
R 北野田	0	0	0	0	0
⑤ 砂田	7	3	1	2	0
⑦ 原田	5	0	0	1	0
⑨ 定詰	5	1	0	2	1
⑥ 児玉	5	2	0	0	0
③ 林	5	1	1	0	0
② 的山	6	2	0	1	0
犠 併 残					
4 0 1		4	5	2	1

	回	安	振	球	責
陳	6	5	5	0	2
高橋	8	8	4	2	0

	回	安	振	球	責
足達	13⅔	5	6	2	2
藤高	⅓	0	2	1	0

▷本塁打＝古田１号（足達）間瀬１号（足達）砂田１号（陳）▷二塁打＝定詰▷犠打飛＝新４（杉本、原田、児玉、林）▷捕逸＝的山▷試合時間＝３時間38分

ピンチ切り抜け勝利

◎…延長十四回に二死一、二塁と再び一打同点のピンチを切り抜けたトヨタ自動車の高橋投手は「打たれたらどうしようなどと余計なことは考えていなかった。気持ちだけ負けないように、ど真ん中を狙った。相手の打者の方が力んでいたのではないですか」と、最後まで冷静さを失わないマウンドさばき。先発の陳投手を七回からリリーフし、走者を背にしながら粘り強い投球をして、うれしい初勝利に結びつけた。

第２試合＝２回戦（午後１時15分開始）

日本生命	0	0	0	0	2	0	3	0	0	5
NTT四国	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

▶審判（球審）大橋（塁審）新阜、東、小林

【日本生命】	打	安	点	振	球
⑧ 守屋	3	0	0	0	1
H 佐藤公	1	0	0	0	0
7 児玉	0	0	0	0	0
⑥ 中村	5	2	1	0	0
④ 十河	5	3	1	0	0
D 川村	2	1	0	0	3
RD 山中	0	0	0	0	0
⑤ 川瀬	4	1	3	2	1
② 岡	5	0	0	1	0
⑦ 内田	2	0	0	1	1
R 加古	0	0	0	0	0
78 中橋	2	0	0	0	0
⑨ 高橋	4	1	0	0	0
③ 高比羅	4	2	0	0	0
3 佐藤清	0	0	0	0	0
犠 併 残					
0 0 11		3	7	1	0

【NTT四国】	打	安	点	振	球
④ 武田正	4	0	0	2	0
⑦ 松田	3	0	0	0	1
② 芝	4	0	0	0	0
⑨ 三好	4	0	0	3	0
⑤ 松本	3	0	0	0	0
⑥ 竹島	3	0	0	1	0
D 河野	3	1	1	0	0
⑧ 能田	3	1	0	0	0
③ 白石	1	0	0	1	0
H3 篠原	1	0	0	1	0
H 小谷	0	0	0	0	1
犠 併 残					
0 0 3		2	9	2	1

	回	安	振	球	責
木村	9	2	8	2	1

	回	安	振	球	責
久利	4	1	1	2	0
西川	1	3	2	2	2
神田	1⅔	5	0	1	3
山部	3	1	1	1	0

▷本塁打＝川瀬１号③（神田）河野２号（木村）▷二塁打＝中村▷盗塁＝日２（川村、山中）▷失策＝N１（武田正）▷試合時間＝２時間27分

第３試合＝２回戦（午後４時14分開始）

J T	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
西濃運輸	1	0	0	0	2	0	1	0	X	4

▶審判（球審）樫根（塁審）赤井、片山、吉田（外審）永田、梶浦

【J T】	打	安	点	振	球
⑦ 渡辺	3	0	0	0	0
H2 倉田	1	0	0	0	0
④ 山下	3	0	0	1	0
H 星	1	0	0	1	0
8 遠藤	0	0	0	0	0
⑨ 原野	4	1	0	1	0
D 高橋	4	0	0	0	0
⑤ 寺嶋	4	2	1	0	0
⑧7 冨山	3	1	0	0	1
③ 及川義	2	1	0	0	0
⑥ 菅原	2	0	0	1	1
② 及川正	3	0	0	0	0
4 藤原	0	0	0	0	0
犠 併 残					
1 0 5		3	0	5	1

【西濃運輸】	打	安	点	振	球
⑤ 吉竹	3	1	0	1	1
5 川野	0	0	0	0	0
⑥ 鈴木	4	1	2	0	0
D 伊東	4	1	1	2	0
③ 阪本	3	0	0	3	1
⑨ 硯	4	1	0	1	0
⑦ 水野	3	1	0	1	0
H7 高橋	1	0	0	0	0
⑧ 豆塚	3	1	0	1	0
④ 山本	2	0	0	0	1
② 小森	2	1	0	1	0
犠 併 残					
1 1 5		2	9	7	3

	回	安	振	球	責
柳畑	6⅓	6	8	2	4
加藤	⅔	1	1	0	0
及川弘	1	0	1	1	0

	回	安	振	球	責
松田	9	5	4	2	1

▷本塁打＝伊東１号（柳畑）鈴木１号②（柳畑）寺嶋１号（松田）▷二塁打＝原野、及川義▷犠打＝J１（及川義）西１（小森）▷暴投＝松田、加藤▷試合時間＝１時間56分

〔１回戦〕トヨタ自動車－新日鉄広畑　十一回裏、新日鉄広畑二死一、二塁、的山の中前打で二塁から児玉がホームをつくが、返球でタッチアウト。（捕手・古田）

▽10月22日

第１試合＝２回戦（午前８時58分開始）

日本石油	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3
NKK	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2

▶審判（球審）小林（塁審）鹿多、巽、南垣

【日本石油】	打	安	点	振	球
⑧ 坂口	4	0	0	0	1
④ 平田	5	1	0	1	0
⑨ 五十嵐	2	1	0	0	2
③ 徳永	3	0	0	0	1
⑤ 若林	4	1	1	1	0
⑥ 久慈	4	2	0	0	0
D 相田	4	2	1	0	0
⑦ 田島	4	0	1	0	0
② 高柳	4	2	0	1	0
犠 併 残					
0 0 8		3	4	9	3

【NKK】	打	安	点	振	球
⑦ 島野	4	1	0	1	0
⑥ 村上	4	2	1	0	0
③ 岩野	3	0	0	1	1
D 井口	3	0	0	1	1
⑨ 金久保	4	2	1	0	0
⑤ 羽二生	4	2	0	0	0
R 横山	0	0	0	0	0
⑧ 苅部	3	1	0	0	0
② 松井	3	0	0	0	0
H 佐藤	1	0	0	0	0
④ 定岡	2	0	0	0	0
H 安永	1	0	0	0	0
4 中田	1	0	0	0	0
犠 併 残					
1 3 7		3	3	8	2

	回	安	振	球	責
田口	8⅔	8	3	2	2
金沢	1	0	0	0	0

	回	安	振	球	責
鎌田	7⅓	8	1	4	3
塩山	1⅔	1	2	0	0

▷本塁打＝金久保１号（田口）▷二塁打＝久慈２、島野、苅部、金久保▷犠打＝N１（苅部）▷盗塁＝日１（平田）N１（村上）▷失策＝N１（金久保）▷試合時間＝２時間56分

第２試合＝２回戦（午後０時35分開始）

松下電器	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
新日鉄室蘭	9	0	3	0	0	0	0	0	X	12

▶審判（球審）中西（塁審）木嶋、梅田、宮奥

【松下電器】	打	安	点	振	球
④ 西島	3	1	1	0	0
⑤ 山尾	3	1	0	0	1
③ 宇田	4	1	0	0	0
D 中本	4	2	2	0	0
⑦ 桑本	4	1	0	0	0
⑨ 篠崎	4	1	1	0	0
⑧ 木村	4	0	0	0	0
② 佐藤	4	1	0	1	0
⑥ 原井	3	2	0	0	0
犠 併 残					
1 0 4		3	3	1	0

【新日鉄室蘭】	打	安	点	振	球
⑧ 桜井	4	3	2	0	1
④ 坂尾	3	1	0	0	2
⑤ 馬場	5	2	2	2	0
⑨ 岡田仁	5	4	4	0	0
③ 鈴木忠	4	1	0	0	1
⑥ 鈴木広	4	0	1	1	0
⑦ 堀松	5	2	1	1	0
② 長山	3	2	1	0	0
D 片山	1	0	0	0	1
HD 久村	1	0	0	0	0
HD 鹿田	0	0	0	0	1
犠 併 残					
2 1 7		3	5	1	1

	回	安	振	球	責
潮崎	⅔	5	1	1	5
米沢	⅓	0	0	1	1
小間	⅓	2	0	1	0
多田	2⅔	6	1	1	3
石田	4⅔	2	2	2	0

	回	安	振	球	責
米山	6⅔	9	0	1	4
窪田	2⅓	1	1	0	0

▷本塁打＝篠崎１号（米山）▷二塁打＝岡田仁、山尾▷犠打＝松１（西島）室２（鈴木広、長山）▷盗塁＝松２（中本、原井）▷失策＝松２（桑本、木村）▷試合時間＝２時間47分

全日本エースどこへ

◎…「情けないです」。28球でKOされた松下電器・潮崎は試合後も目は真っ赤。全日本エースの金看板はどこかに置き忘れたような投球。力めば力むほど球はうわずり、新日鉄室蘭打線に打ち込まれた。「調子は普通。冷静に抑えようとしたんですが、踏んばりがきかなかった」とうつむき加減に話し、「精神的に強くならないと」と、自分自身に言い聞かせるようにつぶやいた。

第３試合＝２回戦（午後３時56分開始）

本田技研熊本	0	0	0	0	0	0	2	0	1	3
NTT中国	0	1	3	0	0	1	0	0	X	5

▶審判（球審）岡本良（塁審）東、樫根、浜田（外審）生越、辻

【本田技研】	打	安	点	振	球
⑥ 坂本	4	0	0	2	0
⑤ 浦野	4	0	0	0	0
③ 竹田	4	1	0	1	0
D 浅川	4	1	0	2	0
⑦ 内田	0	0	0	0	0
7 久保	3	0	0	2	0
H 吉田	1	1	1	0	0
⑧ 安藤	4	2	2	1	0
④ 松本	2	0	0	0	1
H 川道	1	0	0	0	0
② 得津	3	0	0	0	1
⑨ 内村	3	0	0	1	0
犠 併 残					
0 0 5		3	3	5	3

【NTT中国】	打	安	点	振	球
⑥ 北口	4	1	2	0	0
④ 樽岡	0	0	0	0	0
4 下岡	4	2	0	1	0
⑦ 河井	4	0	0	1	0
⑤ 原	3	1	1	0	1
D 小原	3	2	0	0	0
③ 篠原	4	1	1	3	0
⑨ 武田	3	1	1	2	0
② 高山	3	0	0	1	0
⑧ 増永	0	0	0	0	0
8 津江本	3	1	0	0	0
犠 併 残					
1 0 4		3	1	9	5

	回	安	振	球	責
内山	7⅔	9	7	1	4
山本正	⅓	0	1	0	0

	回	安	振	球	責
佐々岡	9	5	9	2	3

▷本塁打＝北口１号②（内山）▷二塁打＝原、小原２、安藤、浅川、吉田▷犠打＝N１（小原）▷盗塁＝本１（安藤）N１（篠原）▷失策＝本１（松本）N２（篠原、佐々岡）▷暴投＝佐々岡２▷試合時間＝２時間22分

▽10月23日

第１試合＝２回戦（午前８時56分開始）

東芝	2	0	0	3	0	0	1	0	0	6
住友金属	0	0	5	0	2	0	0	0	X	7

▶審判（球審）大橋（塁審）長谷、伊東、中川

【東芝】	打	安	点	振	球
⑧ 前田	2	0	1	0	1
⑥ 中渕	2	0	0	0	2
③ 丹波	4	1	2	0	0
D 福本	3	0	0	1	1
⑨ 梁原	3	1	0	1	1
④ 葛城	4	0	0	0	0
⑦ 小林	4	2	3	0	0
② 高見	3	0	0	1	0
H 金敷	1	0	0	1	0
⑤ 吉沢	2	0	0	0	0
H 冨山	1	1	0	0	0
R 西村	0	0	0	0	0
5 渡辺	1	0	0	0	0
犠 併 残					
1 1 3		3	0	5	6

【住友金属】	打	安	点	振	球
④ 樋口	5	3	0	0	0
⑦ 中田	4	0	0	1	0
⑨ 畑山	4	0	0	0	0
D 川畑	3	1	1	0	1
③ 佐藤	3	1	0	0	1
⑥ 田中	3	1	0	0	1
⑧ 家永	3	3	3	0	1
② 樋野	4	2	3	0	0
⑤ 松本	3	0	0	0	1
犠 併 残					
1 1 7		3	2	1	1

	回	安	振	球	責
三原	2⅔	6	1	3	5
山崎	⅔	1	0	1	0
菊池	3⅓	3	0	0	2
木村重	2	1	0	1	0

	回	安	振	球	責
尾山	9	5	4	5	6

▷本塁打＝丹波１号②（尾山）小林１号③（尾山）▷二塁打＝家永、樋野▷犠打＝東１（前田）住１（中田）▷盗塁＝住１（家永）▷試合時間＝２時間26分

「一から出直しです」

◎…東芝は丹波の2点本塁打で先手を取ったが、いまひとつ波に乗れないまま逆転され、初戦敗退した。先制アーチの丹波は「ちょっと詰まったが、ポイントがよかったので入ると思った。あれで"いける"と思ったが…。今年はずっとこんな感じです。都市対抗でつまずいて、チームのムードが悪くなってしまった」と悔しそう。「日本選手権連覇の夢も消えてしまったし、来年また一から出直しです」と、肩を落として球場を後にした。

第2試合＝2回戦(午後0時5分開始)

大阪ガス	0	0	2	0	0	1	0	4	0	7
四国銀行	1	0	0	0	2	0	0	0	0	3

▶審判(球審)辻(塁審)梅田、宮木、生越

【大阪ガス】 打安点振球
④ 西 5 4 1 0 0
③ 松田 2 2 3 0 1
⑤ 中西 4 2 2 1 1
⑧ 折原 4 0 0 1 1
⑥ 竹村 4 0 0 1 1
⑦ 中内 5 1 0 1 0
⑨ 湯川 4 2 0 0 0
② 上 2 0 1 1 1
D 杉山 2 0 0 0 0
HD片山 2 0 0 2 0
犠 併 残
4 1 9 34 11 7 7 5

【四国銀行】 打安点振球
⑧ 井上 3 0 0 0 1
④ 谷岡 3 0 1 0 0
⑤ 薬師神 4 2 0 1 0
③ 西 3 1 0 0 1
⑦ 宮本雄 3 1 2 0 1
⑨ 森田建 4 0 0 2 0
② 宮本章 3 1 0 0 0
H 末光 1 0 0 0 0
D 池内 3 1 0 1 0
H 伊名 1 0 0 0 0
⑥ 町田 4 1 0 0 0
犠 併 残
1 0 6 32 7 3 4 3

回 安振球責				
萩原	4⅓	7	2	1 3
田中	⅓	0	0	2 0
西岡	⅓	0	0	0 0
佐藤A	4	0	2	0 0

回 安振球責				
浜田	4⅔	5	5	1 2
仙石	2⅔	3	1	3 2
橋谷	1⅔	3	1	1 3

▷本塁打＝中西1号②(浜田)松田1号③(橋谷)▷二塁打＝湯川、池内、中内▷犠打＝大4(松田2、湯川、上)四1(谷岡)▷盗塁＝大2(西、竹村)▷失策＝大1(折原)▷試合時間＝2時間53分

集中打呼んだ好投

◎…八回一気の集中打で勝負を決めた大阪ガスだが、その猛攻を引き出したのは四番手・佐藤の力投。3－3に追いついた六回から登板、直球と変化球をうまく散らして4回を3人ずつで抑えて打線の奮起をうながした。佐藤は関大から入社して3年目だが、昨年までは肩やひじを痛めてほとんど登板のチャンスがなかった。それだけにこの日の好投がうれしいらしく、「社会人になって最高のピッチングです」と3年目の開花を喜んでいた。

第3試合＝2回戦(午後3時50分開始)

トヨタ自動車	0	0	0	2	0	0	1	0	3
熊谷組	6	2	1	0	0	0	1	3	13

▶審判(球審)三宅(塁審)赤井、片山、檪根(外審)桃田、中西

【トヨタ自動車】 打安点振球
⑨ 間瀬 3 1 0 0 2
⑤ 鶴田 2 0 0 2 1
H5杉山 1 0 0 1 1
④ 呉 4 1 0 0 1
⑦ 横井 5 0 0 2 0
③ 関 3 0 0 1 0
H 石野 1 1 1 0 0
3 飯田 0 0 0 0 0
D 宮市 1 1 0 0 3
② 古田 3 2 2 0 1
⑧ 岡本 3 1 0 2 0
8 寺山 1 0 0 0 0
⑥ 蛭田 4 0 0 0 0
犠 併 残
0 2 13 31 7 3 8 9

【熊谷組】 打安点振球
④ 菅沢 4 2 1 2 1
⑧ 前川 4 2 0 2 1
⑦ 佐藤和 5 2 1 0 0
③ 向山 5 2 1 0 0
D 森山 4 2 2 2 0
HD西田 4 1 1 0 0
⑨ 黒木 5 2 5 0 0
⑤ 波留 4 4 1 0 0
② 黒岩 2 1 1 0 1
⑥ 堀尾 2 1 1 0 1
犠 併 残
2 1 8 36 19 13 6 4

回 安振球責				
陳	⅔	5	0	0 5
井口	4⅔	8	4	4 3
高橋	2⅓	6	2	0 4

回 安振球責				
鈴木	6⅔	6	6	7 3
谷津田	1⅓	1	2	2 0

▷本塁打＝森山1号②(井口)古田2号②(鈴木)黒木1号③(高橋)▷三塁打＝波留▷二塁打＝岡本▷犠打＝熊2(黒岩、堀尾)▷盗塁＝熊1(佐藤和)▷失策＝ト1(関)熊1(波留)▷暴投＝陳▷捕逸＝黒岩▷試合時間＝2時間38分

▽10月24日

第1試合＝準々決勝(午前9時開始)

西濃運輸	1	1	0	0	0	0	0	0	2
日本生命	1	7	0	0	1	1	2	1	12

▶審判(球審)木嶋(塁審)吉田、桃田、大石

【西濃運輸】 打安点振球
⑤ 吉竹 3 1 1 2 0
5 川野 1 0 0 0 0
⑥ 鈴木 4 1 0 1 0
D 伊東 3 1 0 2 1
③ 阪本 3 0 0 2 0
⑨ 硯 3 0 0 1 0
⑦ 水野 3 1 1 1 0
⑧ 豆塚 1 0 0 1 0
H8高橋 2 0 0 2 0
④ 山本 3 0 0 2 0
② 小森 2 0 0 1 0
H 西村 1 1 0 0 0
2 山上 0 0 0 0 0
犠 併 残
0 1 4 29 5 2 15 1

【日本生命】 打安点振球
⑨ 高橋 4 3 2 0 0
⑥ 中村 5 2 1 0 0
④ 十河 4 2 4 2 0
D 川村 5 1 1 2 0
⑤ 川瀬 4 3 1 0 0
R 佐藤公 0 0 0 0 0
5 中井 1 1 1 0 0
② 岡 3 0 0 1 0
⑦ 中橋 2 1 0 0 0
H7児玉 2 1 1 0 0
③ 高比羅 1 0 0 0 1
H 江上 1 0 0 1 0
3 佐藤清 1 0 0 0 0
⑧ 守屋 2 1 1 1 2
犠 併 残
3 0 6 35 15 12 7 3

回 安振球責				
松田	1⅓	3	1	2 5
吉井	5⅔	8	5	1 4
田中	⅔	4	1	0 2

回 安振球責				
木村	7	4	1	3 1 2
新田	1	1	2	0 0

▷本塁打＝吉竹1号(木村)中村1号(松田)水野1号(木村)児玉1号(吉井)▷二塁打＝伊東、西村、高橋▷犠打＝日3(高橋、十河、岡)▷盗塁＝日2(十河、佐藤公)▷失策＝西1(吉井)▷試合時間＝2時間14分

第2試合＝準々決勝(午前11時55分開始)

日本石油	2	0	0	1	3	0	1	0	7
新日鉄室蘭	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)広沢(塁審)鹿多、赤井、梶浦

【日本石油】 打安点振球
⑧ 坂口 4 2 0 0 1
④ 平田 4 2 0 1 0
⑨ 五十嵐 3 1 1 2 0
③ 徳永 4 1 1 0 0
⑤ 若林 4 3 5 0 0
⑥ 久慈 3 1 0 0 1
D 相田 3 1 0 1 0
⑦ 田島 2 1 0 0 2
② 高柳 2 0 1 0 0
犠 併 残
6 1 6 29 12 7 4 5

【新日鉄室蘭】 打安点振球
⑧ 桜井 4 0 0 2 0
④ 坂尾 4 1 0 1 0
⑤ 馬場 4 1 0 1 0
⑨ 岡田仁 4 2 0 1 0
③ 鈴木忠 4 0 0 1 0
⑥ 鈴木広 4 1 0 1 1
⑦ 堀松 2 0 0 1 1
H 鹿田 1 0 0 1 0
② 長山 3 1 0 0 1
D 片山 2 0 0 1 1
犠 併 残
0 1 7 32 6 0 11 2

回 安振球責				
金沢	9	6	11	2 0

回 安振球責				
米山	4	7	2	1 3
窪田	3	5	1	2 4
今野	2	0	1	2 0

▷本塁打＝若林1号③(窪田)▷二塁打＝坂口、徳永、鈴木広▷犠打飛＝日6(平田、五十嵐2、相田、高柳2)▷盗塁＝日1(平田)▷失策＝新1(坂尾)▷試合時間＝2時間25分

第3試合＝準々決勝(午後2時59分開始)

NTT中国	0	0	0	0	1	0	0	4	0	5
住友金属	0	2	0	1	1	0	0	3	X	7

▶審判(球審)梅田(塁審)美馬、岡本良、土井池(外審)南垣、伊東

【NTT中国】 打安点振球
⑥ 北口 5 3 1 1 0
④ 下岡 3 0 1 0 0
D 小原 4 0 0 0 0
⑤ 原 4 1 0 1 0
⑦ 河井 4 1 0 1 0
③ 篠原 3 1 3 0 1
⑨ 武田 4 0 0 1 0
② 佐藤達 3 1 0 0 0
2 高山 1 0 0 0 0
⑧ 津江本 3 1 0 0 1
犠 併 残
1 1 5 34 8 5 4 2

【住友金属】 打安点振球
④ 樋口 4 2 0 0 0
⑦ 中田 4 1 1 0 0
⑨ 畑山 3 0 0 1 1
D 川畑 4 1 0 1 0
③ 佐藤A 4 2 3 0 0
⑥ 田中 3 0 0 1 1
⑧ 家永 4 1 0 0 0
② 樋野 3 2 2 0 1
⑤ 松本 3 0 0 1 0
犠 併 残
1 1 5 32 9 6 4 3

回 安振球責				
石川	4⅔	4	1	1 3
青野	1⅓	2	0	2 0
佐々岡	2	3	3	0 3

回 安振球責				
尾山	5	4	1	2 1
寺坂	2	0	1	0 0
森田	⅔	4	0	0 4
高橋	1⅓	0	2	0 0

▷本塁打＝佐藤1号②(石川)2号(佐々岡)篠原1号③(森田)樋野1号②(佐々岡)▷二塁打＝佐藤達、中田、北口▷犠打＝N1(下岡)住1(松本)▷盗塁＝住3(樋口、中田、家永)▷失策＝N3(北口、佐藤達、高山)住1(田中)▷暴投＝石川、森田▷ボーク＝石川▷試合時間＝2時間38分

魅せた主将の意地と読み

◎…「佐々岡は真っすぐしかない。ベルト辺の直球だけを待つ」。八回裏一死、住友金属の佐藤は心中燃え上がるのを感じながら打席に立った。マウンドにいるのは全日本の好投手・佐々岡。直前の攻撃で一気に逆転したNTT中国が、逃げ切りそうなムードが高まっていた。しかし、ここで佐藤の起死回生の同点アーチが左翼席中段へ飛び込んだのだ。0－1後の2球目。佐藤の読み通り、魅入られたように内角へ入ってきたベルト辺の速球だった。

「さあ、いくぞ！直球だけ狙っていけ」。ベンチへ戻ると、今度は後続打者に佐々岡攻略の号令をかけた。

第4試合＝準々決勝(午後6時9分開始)

熊谷組	1	0	3	0	0	0	4	3	3	14
大阪ガス	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4

▶審判(球審)小林(塁審)生越、辻、東(外審)南垣、伊東

【熊谷組】 打安点振球
④ 菅沢 5 2 0 1 0
4 高野 1 1 3 0 0
⑧ 前川 4 1 0 2 1
⑦ 佐藤和 5 4 6 0 0
7 木村 5 0 0 0 0
③ 向山 5 1 1 1 0
D 森山 1 0 0 0 3
HD西田 1 0 0 0 0
⑨ 黒木 4 3 4 0 0
H 佐藤敏 1 0 0 0 0
9 伊吹 0 0 0 0 0
⑤ 波留 4 1 0 0 0
H5大島 1 1 0 0 1
② 黒岩 4 2 0 1 1
2 東金 0 0 0 0 0
⑥ 堀尾 3 0 0 0 2
犠 併 残
1 1 6 39 16 14 5 7

【大阪ガス】 打安点振球
④ 西 3 1 0 0 2
③ 松田 3 1 0 0 1
⑤ 中西 5 2 4 1 0
⑧ 折原 4 0 0 1 0
⑥ 竹村 3 0 0 0 1
⑦ 島田 0 0 0 0 0
7 中内 3 0 0 0 1
⑨ 湯川 3 0 0 1 0
H9川端 1 0 0 0 0
② 上 3 2 0 1 1
D 新谷 2 0 0 0 0
HD杉山 2 0 0 0 0
犠 併 残
1 2 8 32 6 4 5 6

回 安振球責				
刈田	2⅔	3	1	3 4
松浦	6⅓	3	4	3 0

回 安振球責				
萩原	2⅔	5	2	3 4
田中	1⅓	0	1	1 0
佐藤A	3	4	1	2 1
長野	1	4	0	1 3
西岡	1	3	1	0 3

▷本塁打＝佐藤和1号(萩原)中西2号④(刈田)黒木2号②(佐藤)高野1号③(西岡)▷二塁打＝佐藤和2、黒木▷犠打＝熊1(前川)大1(松田)▷盗塁＝大1(竹村)▷失策＝熊1(堀尾)大1(佐藤)▷暴投＝佐藤▷試合時間＝2時間58分

▽10月25日

第1試合＝準決勝(午前9時57分開始)

日本石油	0	2	1	0	0	0	0	2	5
日本生命	0	0	0	4	0	0	0	0	4

▶審判(球審)大橋(塁審)吉田、鹿多、桃田

【日本石油】 打安点振球
⑧ 坂口 4 1 1 0 0
④ 平田 4 2 1 1 0
⑨ 五十嵐 4 0 1 1 0
③ 徳永 4 1 1 0 2
⑤ 若林 3 1 1 0 0
⑥ 久慈 3 2 1 1 0
D 相田 3 2 1 1 0
HD石田 3 1 0 1 0
⑦ 田島 4 1 0 0 0
R7江口 0 0 0 0 0
② 高柳 4 2 0 1 0
犠 併 残
5 0 7 33 11 5 6 1

【日本生命】 打安点振球
⑨ 高橋 5 1 1 0 0
⑥ 中村 5 1 0 2 0
④ 十河 5 2 2 0 0
D 川村 4 3 1 0 0
RD加古 0 0 0 0 1
⑤ 川瀬 4 1 0 2 1
⑦ 児玉 3 1 0 0 2
7 中橋 1 0 0 0 0
② 岡 3 0 0 2 0
③ 高比羅 2 1 0 0 1
H 内田 1 0 0 0 0
3 佐藤清 1 0 0 0 0
⑧ 守屋 4 0 0 0 0
犠 併 残
2 1 11 35 9 4 6 5

回 安振球責				
田口	3⅔	6	3	3 0
秋村	5⅓	3	3	2 0

回 安振球責				
新谷	2⅔	4	2	0 3
新田	⅔	1	1	1 0
木村	5⅔	6	3	0 2

▷二塁打＝久慈、川村、平田、高比羅、坂口▷犠打＝石5(坂口、平田、五十嵐、久慈、相田)生2(児玉、岡)▷失策＝石1(久慈)生1(高比羅)▷試合時間＝3時間

逆転逆転で日石、初の決勝進出

日本石油が土壇場で底力を見せた。1点を追う日石は九回一死から田島の中前打と高柳の遊撃内野安打で一、二塁。坂口の一塁線突破二塁打で同点。なお二、三塁から平田が投前スクイズバントを決め、高柳が決勝のホームを踏み、二番手秋村が九回裏の反撃をかわした。

日本生命は3点を先行されたが四回に反撃。二死から高比羅の三塁線突破二塁打と守屋の遊ゴロ失で一、三塁とし、一番高橋以下の4連打で一挙に4－3と逆転。しかし五回以降は秋村を打てず、九回二死後、川村、川瀬の連打で同点機を作ったものの中橋が右直に倒れた。日生の三番手、木村は四回途中からマウンドに上がり、走者を出しながらも直球とカーブをうまく投げ分け、要所を抑えていたが、九回疲れの見えるところを日石の打線に捕まった。

第2試合＝準決勝(午後1時42分開始)

熊谷組	0	0	0	0	0	1	0	1	2
住友金属	0	0	2	0	0	0	0	1	3

▶審判(球審)小林(塁審)中西、赤井、美馬

【熊谷組】 打安点振球
④ 菅沢 4 2 0 0 0
⑧ 前川 3 1 0 1 0
⑦ 佐藤和 4 0 0 1 0
③ 向山 3 1 0 0 1
D 森山 3 1 1 0 1
⑨ 黒木 4 1 1 0 0
⑤ 波留 2 0 0 0 0
H5西田 2 0 0 0 0
② 黒岩 4 1 1 0 0
⑥ 堀尾 2 0 0 0 0
H 大島 1 0 0 1 0
6 高野 0 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 6 32 7 2 3 2

【住友金属】 打安点振球
④ 樋口 4 1 0 2 0
⑦ 中田 3 1 0 0 0
⑨ 畑山 3 1 0 1 1
D 川畑 3 0 0 1 1
③ 佐藤A 4 2 2 0 0
⑥ 田中 4 1 0 0 0
⑧ 家永 4 2 1 1 0
② 樋野 3 0 0 0 0
⑤ 松本 3 0 0 0 0
犠 併 残
1 0 7 31 8 3 5 2

回 安振球責				
松浦	8⅔	7	5	2 3
谷津田	⅓	1	0	0 0

回 安振球責				
尾山	9	7	3	2 2

▷本塁打＝森山2号(尾山)▷二塁打＝黒岩、黒木▷犠打＝熊1(前川)住1(中田)▷試合時間＝2時間15分

住金サヨナラ3連打

1点を追う熊谷組は九回、森山の本塁打で追いついたが、住友金属がその裏、佐藤、田中、家永の3連打でサヨナラ勝ち。

先行したのも住金。三回二死後、中田、畑山の連打と川畑の四球で満塁とし、佐藤が左前に2点適時打した。熊谷組は一回、住金・尾山の立ち上がりを攻め、二死一、二塁としたが後続がなく、その後は立ち直った尾山の丁寧な投球に六回まで2安打。ようやく七回二死一、三塁に黒岩が三塁線突破の二塁打を放って1点、九回には一死から森山が左中間に同点本塁打した。

熊谷組の先発・松浦は三回に2点を失ったあとは、五回に死球を1個与えただけと尾山と互角の投手戦。九回裏は制球が甘くなり、連打で無死一、二塁のピンチを招き、救援の谷津田が初球を中堅に痛打され、力尽きた。

▽10月26日

優勝戦(午後1時開始)

日本石油	1	0	0	0	0	0	0	1	2	4
住友金属	0	0	0	0	0	0	2	0	3	5

▶審判(球審)三宅(塁審)小林、岡本良、辻

【日本石油】	打	安	点	振	球
⑧ 坂口	4	0	1	0	0
④ 平田	5	4	1	0	0
⑨ 五十嵐	5	1	0	0	0
③ 徳永	4	2	0	1	0
⑤ 若林	4	2	2	0	0
⑥ 久慈	4	1	0	0	0
D 相田	4	3	0	0	0
RD江口	0	0	0	0	0
⑦ 田島	2	1	0	0	0
② 高柳	2	1	0	0	1

犠	併	残
4	1	8

【住友金属】	打	安	点	振	球
④ 樋口	4	0	0	0	0
⑦ 中田	4	0	0	0	0
⑨ 畑山	3	1	0	0	1
D 川畑	2	1	0	0	2
③ 佐藤	4	3	2	1	0
⑥ 田中	2	0	1	1	0
⑧ 家永	4	0	0	1	0
② 樋野	4	2	1	1	0
⑤ 松本	4	2	1	0	0

犠	併	残
1	2	5

	回	安	振	球	責
金沢	6⅔	6	3	1	2
秋村	2⅔	0	1	1	1
田口	⅔	3	0	2	2

	回	安	振	球	責
尾山	9	15	1	1	3

▷二塁打＝松本、畑山、佐藤2 ▷犠打飛＝日4(坂口、田島2、高柳)住1(田中) ▷失策＝日1(徳永) ▷捕逸＝樋野 ▷試合時間＝2時間42分

住金、日石の継投を突いて ―― 逆転サヨナラ勝ち

二転、三転の白熱した熱戦を住友金属がサヨナラで制した。住金は八回、先発尾山が日本石油に追いつかれ、九回表には2点のリードを許したが、その裏、打線が底力を見せつけた。

先頭の畑山が四球。ここで日石は二番手の秋村の救援に田口を送ったが、川畑も四球で無死一、二塁。佐藤の左翼フェンス直撃の二塁打で1点差とし、続く田中の敬遠四球で満塁。一死後、樋野の三遊間突破適時打で同点。二塁走者の田中は、左翼手の好返球に本塁寸前でタッチアウト。二死一、二塁となったが、松本が決勝の右前打を放った。守備でも再三の好プレーを見せ、尾山の力投に報いた。

日石は同点の九回一死二、三塁から坂口の左犠飛、平田の不規則安打に捕逸も絡んで2点。いったんは優勝を目前にしたが、金沢を救援した秋村、田口が崩れた。二、三、六回と無死の走者を出しながら後続がなく、七回途中まで好投した金沢を援護できなかったのも響いた。

監督談話

住友金属・高多倫正監督　尾山が最後までよく投げてくれた。終盤は疲れから球威が落ちたが、代える気はありませんでした。打線も若い尾山をもり立てようと必死に打ってくれた。頂点に立てるとは夢のよう。日本石油の方に勢いはあったが、最後まであきらめず食い下がって得た勝利です。

日本石油・林裕幸監督　選手は最後までよくやった。尾山君はいい投手だが、15安打で4点しか取れなかったのは私のさい配ミスです。金沢は頑張って投げてくれたが、七回途中で代えたのは限界と判断したから。攻撃のミスもあったし、サヨナラ負けの悔しさを忘れず、今度こそダイヤモンド旗を取ります。

監督ひと

住友金属　高多(たかた) 倫正(みちまさ)監督

チームのダイヤモンド旗獲得は最多の5回目。選手、マネジャー、監督としてその全部にかかわってきた。「僕はついているんです。ビッグタイトルだから狙ってはいたが、試合前に勝てると思ったことは一度もなかった。目前の試合だけに照準を定め、攻撃的に戦ってきた結果です」と柔和な顔をほころばせた。

準決勝の対熊谷組戦、リードされた七回、同点で迎えた九回と二度の無死一、二塁。送りバントも考えられるケースだが、いずれも強気に攻めて勝ちに結びつけた。「相手の投手力、見方の打者の情報、戦力などを瞬時に分析、作戦を立てるわけですが、それが私のセオリーです」

ソフトな語り口、優しい容ぼうに似合わず、一度決めたことはてこでも曲げぬ頑固一徹、土佐のいごっそう、そのものである。

土佐高時代、当時の籠尾良雄監督に、グラウンド内外で厳しく鍛えられた。野球も勉強も人以上に出来てやっと一人前、文武両道の伝統のなかではぐくまれ「あのころ野球の、人間としての基礎を学んだと思う。以来、どの世界でも強く生きていける自信が持てるようになった」という。

高校、慶大では外野手で主将を務めた。会社に入り8年間、選手、マネジャー生活のあと現場を離れ、しばらくは東京6大学の審判も経験している。

常ひごろ、選手には「野球も、仕事も目標を設定し、それに向けて何をすべきかを決めカウントダウンしていけ」と説く。日曜日の家族だんらんと晩酌が息抜き。夫人と女児3人。36歳。

徳島県生まれ。慶大から1977年住友金属入社。今年1月1日監督就任。労務部勤労室参事補。36歳。

(今堀　二郎)

(優勝戦)日本石油―住友金属　九回サヨナラ勝ちをし、高多監督を胴上げして喜ぶ住友金属ナイン。

"鋼の闘魂"住金逆転V

熱球

家永の歓喜のホームへのスライディングだ。五色のテープが三塁ベンチを飛び出したV戦士たちに絡まる。逆転、サヨナラ。「ミラクル住金」の実力日本一のフィナーレとなった。

ミラクルの予感はあった。七回二死二塁で日本石油の高柳が三遊間安打。中田左翼手が本塁へ好返球。二塁走者の相田が樋野捕手に強烈な体当たり。樋野は転倒しながらもボールを離さずタッチアウト。日石はどうしても追加点の欲しい場面。逆に住金は与えたくない。この激突が静かな投手戦を一変させた。名門同士の意地と意地、闘志と闘志がグラウンドに噴出した。

その裏、住友金属は不振をかこっていた畑山の二塁打をきっかけに逆転。日石は八回、4安打を集めて追いつく。九回には連投の尾山に下位打線からの攻撃で2点を挙げ、こぶしを突き上げる日石ベンチ。心は初の秋の王者となる胴上げ準備に移っていた。

住金が九回の守りを終えた。日石の2点目につながる捕逸をした樋野がベンチに戻ると、だれ一人、樋野を責めるようなそぶりはなく、攻めに集中していた。「申し訳ないと思っていたのに、ベンチの負ける気はしないという雰囲気に圧倒されました」。平田高(島根)から入社して2年目、まだ20歳の樋野は目を見張った。三塁手の松本も同じ思いだった。主軸の元全日本主将の筒井が大会直前の練習試合で右わき腹肉離れでリタイア。三塁の中田が外野にまわったため、今大会で初めて公式戦出場のチャンスを与えられたのだ。「高校時代、こんな盛り上がるベンチに座ったことはありません」

住金ベンチの気迫に日石の投手が畑山、川畑に連続四球。「バントなんて考えない、ヒットを打つと確信していた」と高多監督が最も頼りにする主将の佐藤が左越え二塁打で1点差。このあと一死満塁に樋野が初球を三遊間安打、サヨナラを目指した二塁からの走者は本塁返球にタッチアウトとなったが、なお二死一、二塁で松本がまたもや初球を右前へ弾き返し、二塁走者の家永を迎え入れて熱闘にピリオドを打った。

樋野も松本も初球を狙い打った。まさにベンチの勝負への執念が若い二人のバットを振らせたとしかいいようがない。「僕らもそうでした。1982年に都市対抗で優勝、83、84年に日本選手権で連続優勝したときは、年上の人達が僕らの活躍の場を作ってくれた。ベテランも若手も一生懸命に練習し、試合で強くなっていく。これが住金野球です」。佐藤主将の誇らしげな言葉が伝統の底力のすべてだった。

(村上　清司)

▶悔やむ好機に凡退◀
日石・五十嵐

㊐…「いいところでヒットが打てなかったのが悔しい」と、負け責任を一人で背負ったのは日本石油の三番・五十嵐。六回の先頭で右前打したものの、他の4打席はいずれも塁上に走者を置いていながら凡退を繰り返した。尾山投手の速球とカーブにタイミングが合わず、力負けしたもので「来季はどんな投手でも打ち込むようにしたい」と飛躍を誓った。

▶最後までツイていた◀
住金・家　永

㊐…「決勝のホームに滑り込んだ時は必死で、頭の中が空っぽだった。審判がセーフと言ってくれた瞬間"終わった"と力が抜けました」と住友金属の家永中堅手は笑顔いっぱい。前日はサヨナラ打を打っているが、この日は無安打。しかし、九回の満塁で内野ゴロを打って一塁に残り、サヨナラ勝ちの走者になり「最後までツイていた大会でした」。

▶アウトと思ったが…◀
日石・高　柳

㊐…住友金属は松本の右前適時打で決勝点を挙げたが、日石の五十嵐右翼手が好返球、二塁走者・家永の生還は本塁上でクロスプレーとなった。ルーキーながら攻守に活躍した日石の高柳捕手(駒大)は「自分ではアウトと思ったが、判定はセーフ、僕のタッチより走者の方が早くホームベースについたのでしょう。田口さん(投手)の調子は普通、相手の打者に打たれました」。

第16回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞　尾山敦投手(住友金属)　高岡商高(富山)から入って1年目の新鋭。5試合すべてに先発、2回戦から優勝戦までは4連投という離れ業で最高の栄誉に輝いたが、「自分の力で取ったものではありません。みんなのお陰でもらった賞」と謙虚だ。

4連投のこの日はさすがに疲れがあり、立ち上がりから押さえが効かず、苦しい投球。八、九回は球も走らず、「代えてくれないかな」と弱気になったが、「お前に任せた」と一歩もベンチを出ない高多監督の全面的な信頼に奮起して、15安打を浴びながら、バックの好守にも支えられて4点に抑えた。「大会前から全試合先発でいくと言われていましたし、ここまで任せてもらったら、投げるしかありません。ホームで2本も刺してくれたし、ヒット性の当たりを止めてもらったし、本当にバックのおかげです」と喜びをかみしめた。

期待されて入社したが、すぐに肩を壊して夏までは鳴かず飛ばず。それでもくさらず、暑い夏場を黙々と走り込んだ努力がやっと実った。「都市対抗の予選ではほとんど投げられず迷惑をかけたが、これで何とかお返しできたと思います。1年目でこんな賞をもらえるなんてまぐれですが、これを励みに頑張って、もっと信頼されるようになりたい」と、さわやかな笑顔。180㌢、75㌔。右投げ右打ち。労務部勤労室勤務。19歳。

◇敢闘賞　金沢健一投手(日本石油)　チーム一の長身が肩をすぼめて小さくなり、目から涙をあふれさせた。準々決勝で新日鉄室蘭を完封するなど3試合に先発して2完投。初の優勝戦進出への頼りになる右腕になったが、サヨナラで敗れて「(敢闘賞を)もらってもあんまりうれしくない」とニコリともしなかった。

住金との優勝戦は気迫が伝わってくるような力の投球だった。自慢の力のある速球で押しまくり、六回まで4安打無失点、三塁も踏ませなかった。しかし、七回、二塁打2本と四球などで同点に追いつかれ、無念の降板。「疲れはなかったが、球が高めにいってしまった」と口ごもるような言葉で話したが、「でも、大会を通じて、きょうの優勝戦の出来が今年一番よかった」と振り返った。棚倉高(福島)出の5年目。185㌢、85㌔。右投げ右打ち。東京支店総務課勤務。23歳。

◇打撃賞、首位打者賞　佐藤雄樹内野手(住友金属)　5試合で19打数10安打、5割2分6厘。準々決勝のNTT中国戦で先制の2点本塁打、九回には同点ソロ本塁打。この日も2点を追う九回無死一、二塁から1点差に追い上げ、サヨナラ勝ちへ結びつける左越え二塁打を放ち、好機に勝負強さを発揮したことが評価された。

「ひっかけて併殺にならないよう、球を引きつけ、打ち上げることだけを考えた」。入社した1982年に都市対抗野球で優勝し、83、84年と日本選手権を連覇。それ以降、チームが低迷しただけに、主将としてチームを引っ張る活躍ができたことを喜んだ。「うちのチームはリードされていても、みんなが最後まで勝つつもりで、ベンチのムードも暗くならない。主将の仕事は何もしてないですよ。僕自身はやっとある程度、打撃がわかってきたような気がする」。打撃賞、首位打者賞とも初の受賞。早大出。178㌢、80㌔。右投げ右打ち　本社業務部材料室勤務。29歳。

◇大会優秀選手

【投手】金沢健一(日本石油)尾山敦(住友金属)木村恵二(日本生命)
【捕手】高柳靖法(日本石油)樋野徹(住友金属)　**【一塁手】**　徳永耕治(日本石油)佐藤雄樹(住友金属)　**【二塁手】**平田望(日本石油)十河章治(日本生命)菅沢剛(熊谷組)　**【三塁手】**若林重喜(日本石油)中西亮介(大阪ガス)　**【遊撃手】**久慈照喜(日本石油)北口和正(NTT中国)　**【外野手】**佐藤和弘、黒木義美(熊谷組)坂口裕之(日本石油)家永裕章(住友金属)岡田仁(新日鉄室蘭)　**【指名打者】**相田武徳(日本石油)川畑伸一郎(住友金属)森山茂(熊谷組)

◇10回出場選手　中村好治(神戸製鋼)、田中祐司(住友金属)

◇審判委員功労　中西則夫、桃田晴彦

ニュー住金にルーキーパワー

「やったー」「日本一の復活だ」――。住友金属が「5年ぶりの頂点」を極めた時、大阪球場の三塁側スタンドに陣取った応援団2,000人は総立ちとなった。「おめでとう！V5達成」の横断幕と紙吹雪、五色のテープが西日に映える。グラウンドでは選手たちが跳びはねて喜びを爆発させた。高多倫正監督(36)から、コーチ、主将と次々に胴上げが続く。そして尾山敦投手(19)も。今春、高岡商を卒業したばかりの若きエース。宙に舞うその姿は"ニュー住金"の誕生をうたうようでもあった。

苦しいゲームを一つ一つものにしてきた今大会の住友金属の試合ぶりを凝縮したような劇的な幕切れだった。日本石油(関東・横浜市)に2点差をつけられた土壇場の九回裏、同点に追いつき二死一、二塁。今春、市立和歌山商を卒業した松本尚樹選手(19)のバットが快音を発し、二塁走者が本塁に突入した。際どいクロスプレー。球審の両手がサッと横に広がった。

先発メンバーのうち、新入社員は高校球児だった2人。1人がマウンドを守り抜き、1人が決勝打を放ったのだ。

「今夏の都市対抗野球の予選(敗退)で地獄を見、秋に全国の頂点に立てるとは」。高多監督はチームの変容が信じられないというような表情。

スタンドでは、かつて同社の副社長だった住友特殊金属社友の板垣安夫さん(79)＝兵庫県伊丹市＝が「会社の景気がようなると野球も強うなるんやな」と、うれしそう。住友金属は既に"鉄冷え"を脱し、バイオ、エレクトロニクス部門にも進出している。今年、タレントの山瀬まみさんを起用した「やわらか頭してまーす」のCF登場とともに、高多監督も野球部に復帰した。

第16回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月23日から　5日間　　札幌市営円山球場

東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽ **一回戦**　八甲ク（不戦勝）オール青森、自衛隊青森17－7全弘前▽**敗者復活戦**　全弘前（不戦勝）オール青森▽**準決勝**　自衛隊青森（不戦勝）八甲ク、三菱製紙八戸（不戦勝）全弘前▽**決勝**　三菱製紙八戸8－7自衛隊青森（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**▽ **一回戦**　東京製綱9－3宮城建設久慈ク、釜石野球団7－4住田ク▽**二回戦**　小野田セメント8－1オール釜石、オール不来方8－7オール江刺、岩手銀行7－0宮高ク、赤崎野球ク6－4高田ク、東京製綱11－5遠野ク、県経済連13－0岩手アイワ、釜石野球団13－3大槌球友、水工ク4－3雫石ク▽**準々決勝**　小野田セメント10－0オール不来方、岩手銀行7－2赤崎野球ク、県経済連4－0東京製綱、釜石野球団11－1水工ク▽**準決勝**　県経済連2－1小野田セメント、岩手銀行9－0釜石野球団（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　県経済連7－1岩手銀行

◇**秋田**▽ **一回戦**　秋田王冠ク11－4能代松陵ク、ＴＤＫ19－0秋田経法大ク、秋田あけぼの銀行（不戦勝）フェニックスク▽**準決勝**　秋田銀行11－0秋田王冠ク、秋田あけぼの銀行4－1ＴＤＫ▽**決勝**　秋田あけぼの銀行7－0秋田銀行（勝者は第二次予選へ）

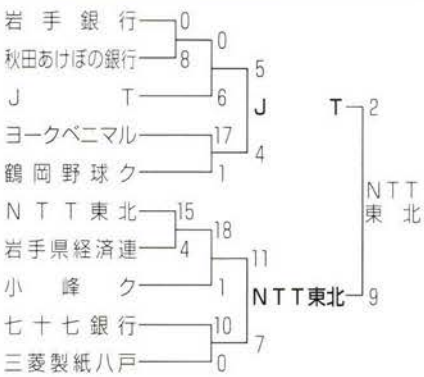
◇**宮城**▽ **一回戦**　オールカメイ4－2ＪＲ東日本東北、七十七銀行10－0十条製紙▽**準決勝**　ＪＴ18－5オールカメイ、ＮＴＴ東北8－1七十七銀行（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ＮＴＴ東北6－4ＪＴ▽**敗者復活一回戦**　七十七銀行5－1ＪＲ東日本東北、オールカメイ8－1十条製紙▽**第三代表決定戦**　七十七銀行12－9オールカメイ（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽ **一回戦**　日大山形ＯＢ6－4新庄球友ク、三川ク15－0米沢中央ク▽**決勝**　鶴岡野球ク4－3山形しあわせ銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽ **一回戦**　学石ＯＢ6－2小名浜ク、矢吹ク5－4ニュー相馬、ヨークベニマル13－1飯野ク、オールいわきク2－1同仁社、福島硬友ク6－5二本松ク、塙ク5－1トヤ野球ク、川俣ク5－3郡山ベースボールク、小峰ク12－4須賀川ク▽**準々決勝**　小峰ク9－6川俣ク、ヨークベニマル8－0オールいわきク、福島硬友ク10－0塙ク、学石ＯＢ4－3矢吹ク▽**準決勝**　ヨークベニマル（不戦勝）学石ＯＢ、小峰ク6－3福島硬友ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ヨークベニマル12－1小峰ク

▶二次予選

9月21日から　3日間　　岩手県営球場



関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽**リーグ戦**　日立製作所17－3鹿島石油、住友金属鹿島9－2鹿島石油（日立製作所、住友金属鹿島は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽ **一回戦**　全大宮6－3全三郷、かみかわク7－6全浦和▽**準々決勝**　大和ク19－0都幾川ク、本田技研19－1全大宮、エーザイ10－8川口球友ク、日本通運22－0かみかわク▽**準決勝**　本田技研14－3大和ク、日本通運12－0エーザイ（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本通運15－4本田技研

◇**千葉**▽**リーグ戦**　ＮＴＴ関東6－5川崎製鉄千葉、川鉄千葉14－5新日鉄君津、ＮＴＴ関東23－4新日鉄君津（勝者は第二次予選へ）

◇**東京**▽ **一回戦**　鷺宮製作所12－11三井銀行、日本ＩＢＭ8－7ＪＲ東日本▽**準々決勝**　熊谷組4－2明治生命、ＮＴＴ東京9－2鷺宮製作所、東京ガス4－1日本ＩＢＭ、朝日生命4－3プリンスホテル▽**準決勝**　熊谷組9－2ＮＴＴ東京、朝日生命7－4東京ガス（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　熊谷組10－3朝日生命▽**三位決定戦**　ＮＴＴ東京7－5東京ガス（勝者は第二次予選へ）▽**五、六位決定戦**　鷺宮製作所8－5プリンスホテル▽**七、八位決定戦**　明治生命10－2日本ＩＢＭ

◇**東京多摩**▽ **一回戦**　全調布14－1武蔵野ク▽**準決勝**　スリーボンド9－2全府中、東芝府中19－4全調布（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　スリーボンド6－3東芝府中

◇**神奈川**▽ **一回戦**　ウィーンク11－6横浜高島屋、三菱重工横浜15－3横浜球友ク、川崎ク15－14横浜金港ク▽**準々決勝**　日本石油12－0ウィーンク、三菱重工横浜13－3いすゞ自動車、三菱自動車川崎11－1日産自動車、東芝12－1川崎ク▽**準決勝**　日本石油9－2三菱重工横浜、東芝14－4三菱自動車川崎（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本石油6－3東芝▽**三位決定戦**　三菱自動車川崎2－1三菱重工横浜（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月28日から　4日間　　群馬・太田運動公園

中部大会

▶一次予選

◇**山梨**▽ **一回戦**　甲府ベースボールク12－1峡北ク、オール櫛形9－7桂ク、山梨球友ク14－0大月ク▽**準決勝**　甲府ベースボールク2－1市川ク、山梨球友ク4－2オール櫛形▽**決勝**　山梨球友ク15－12甲府ベースボールク（勝者は第二次予選へ）

◇**新潟**▽ **一回戦**　ニチエー6－0佐渡軍団、全新発田4－2白根野球団、ＫＤク10－3新津ク▽**準決勝**　ニチエー11－8全飯豊、

ＫＤク12－８全新発田▽**決勝**　ニチエー16－２ＫＤク(勝者は第二次予選へ)

◇**長野▽リーグ戦**　ＮＴＴ信越12－２全松本、ＴＤＫ千曲川17－７全松本(ＮＴＴ信越、ＴＤＫ千曲川は第二次予選へ)▽**第一代表決定戦**　ＮＴＴ信越７－２ＴＤＫ千曲川

◇**静岡▽一回戦**　天城ベースボールク10－５菊笠ク▽**二回戦**　中遠ク５－１協和発酵ク、河合楽器25－０浜松ウナボンズ、岳南ク14－８富士ク、ヤマハ２－１フジウンノ野球ク、本州ク９－３全三島、大昭和製紙10－０エースコンク、誠和ク４－３天城ベースボールク、関東自動車工業14－０浜商闘魂会▽**準々決勝**　河合楽器11－０中遠ク、ヤマハ７－０岳南ク、大昭和製紙11－０本州ク、関東自動車工業４－０誠和ク(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　河合楽器２－０関東自動車工業、ヤマハ３－０大昭和製紙▽**決勝**　ヤマハ４－１河合楽器

◇**富山▽リーグ戦**　ＮＴＴ富山15－０伏木海陸運送、北陸銀行14－１ＮＴＴ富山、北陸銀行８－０伏木海陸運送(北陸銀行、ＮＴＴ富山は第二次予選へ)

▶二次予選

9月22日から　3日間　浜松市営球場

近畿大会

▶一次予選

◇**滋賀▽一回戦**　日本ＩＢＭ野洲23－１近江八幡ク、全大津４－３瀬田工ＯＢク▽**決勝**　日本ＩＢＭ野洲14－４全大津(勝者は第二次予選へ)

◇**京都▽一回戦**　高島屋京都７－５京都市役所、第一紙行９－３京都信用金庫、三菱自動車京都７－３丸勝▽**準決勝**　日本新薬７－０高島屋京都、三菱自動車京都４－３第一紙行(準決勝出場４チームは第二次予選へ)▽**決勝**　三菱自動車京都４－３日本新薬

◇**大阪▽一回戦**　デュプロ11－４三和銀行▽**準々決勝**　日本生命５－３大阪ガス、松下電器７－４大和銀行、新日鉄堺９－１中山製鋼、ＮＴＴ関西10－７デュプロ(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　日本生命10－２ＮＴＴ関西、松下電器１－０新日鉄堺▽**決勝**　日本生命３－０松下電器▽**敗者復活一回戦**　大阪ガス３－２大和銀行、デュプロ７－０中山製鋼▽**第五代表決定戦**　大阪ガス10－０デュプロ(勝者は第二次予選へ)

気合入った30歳
―松下・石田が完全試合―

◎…大阪予選準決勝で松下電器・石田富士男投手が、新日鉄堺相手に完全試合を達成した。「打順が３巡目の七回から完全試合を意識した。野手がよく守ってくれたからできた記録です」。チーム最年長、８年目の30歳。三重・相可高から日体大、1982年に松下電器に入社。全日本メンバーの潮崎の活躍で、やや影が薄くなりかけていたが、今季は東京ドームで２回先発するなど好調を維持。「新日鉄堺には都市対抗予選で負けたし、僕も押し出し四球を出すなどしたので、今日は気合が入っていた」

◇**兵庫▽一回戦**　三菱重工神戸７－６小西酒造、川崎製鉄神戸10－１田村コピー、阿部企業３－２新日鉄広畑▽**準決勝**　阿部企業２－１三菱重工神戸、神戸製鋼５－２川鉄神戸(準決勝出場４チームは第二次予選へ)▽**決勝**　阿部企業７－４神戸製鋼▽**三位決定戦**　三菱重工神戸５－４川鉄神戸▽**敗者復活一回戦**　小西酒造７－４田村コピー▽**第五代表決定戦**　新日鉄広畑13－１小西酒造(勝者は第二次予選へ)

▶二次予選

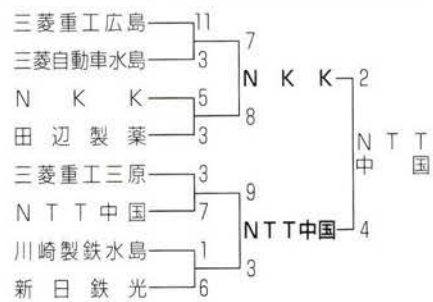
9月13日から　5日間　西京極球場

東海・北陸大会

9月13日から　5日間　石川県立球場

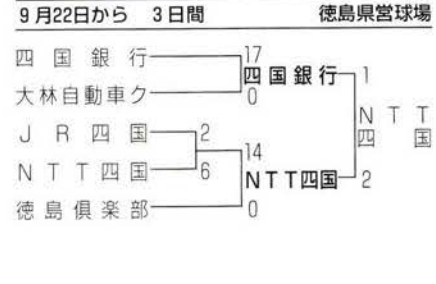
中国大会

9月15日から　3日間　岡山県営球場



四国大会

9月22日から　3日間　徳島県営球場



九州大会

9月22日から　3日間　長崎市営大橋球場

第16回大会出場選手等一覧（○は主将）

大昭和製紙北海道

監督	斉藤　勲	43	柳井商工高
投手	木本　謙	19	旭川大高
〃	野瀬　征宏	18	北見緑陵高
〃	加藤　宗之	21	札幌稲西高
〃	大崎　守	23	室蘭大谷高
〃	尾崎　浩幸	23	広島至誠高
〃	渡部　勝美	26	砂川南高
〃	佐々木智則	19	函館工
捕手	山崎　史博	26	北海学園大
〃	新明克比古	26	室蘭大谷高
〃	山本　隆成	20	北海道日大高
〃	横沢　滋	29	深川西高
内野	社　新吾	28	瀬戸内高
〃	阿相　信義	22	東北高
〃	酒井　司	25	留萌高
〃	○高木　吉夫	27	中央学院大
〃	太田　英次	22	北海学園大
〃	斉藤　豊	24	東京農大
〃	山中　智彰	23	北海道工大
外野	平　紀陽典	29	日大東北高
〃	佐藤　耕治	26	鬮越高
〃	北　延尚	22	広島盈進高
〃	日下　幸弘	23	広島至誠高
〃	木内九二生	22	拓殖大
〃	新里　真	23	日本大
〃	大宮　善輝	18	札幌第一高

新日本製鐵室蘭

監督	浜師　勝彦	37	伊達高
投手	別府　信介	20	明徳義塾高
〃	高橋　毅	19	美幌高
〃	伊藤　茂樹	21	旭川竜谷高
〃	今野　弘	23	北海高
〃	米山　浩一	29	専修大
〃	窪田　雅也	27	立教大
〃	真下　敏宏	27	北海高
捕手	平間　英樹	25	白糠高
〃	久村　孝	21	砂川北高
〃	田中　仁	19	北海道桜丘高
〃	長山　和英	26	神奈川大
〃	佐野　修二	32	市川高
内野	岡田　健一	22	旭川竜谷高
〃	坂尾　新一	26	東海大甲府高
〃	鹿田　和彦	33	旭川竜谷高
〃	鈴木　広之	22	水戸商高
〃	○鈴木　忠仁	28	札幌商高
外野	片山　昌昭	23	駒大岩見沢高
〃	沢田　良二	19	函大有斗高
〃	堀松　洋伸	31	東北高
〃	本間　義浩	24	北海高
〃	岡田　仁	34	室蘭工高
〃	馬場　巧司	27	室蘭大谷高
〃	桜井　清一	28	倶知安高

J　T

監督	横橋　秀俊	38	仙台商高
投手	相沢　弘明	20	石巻工高
〃	石川　明彦	21	名取高
〃	及川　弘昭	24	一関商工高
〃	加藤　淳	26	仙台商高
〃	日笠　弘明	23	亜細亜大
〃	小野　堅	29	宮城農高
〃	柳畑　雅人	23	福岡高
〃	佐藤　正樹	25	駒沢大
捕手	倉田紀久夫	26	亜細亜大
〃	星　伸一	29	仙台育英高
〃	及川　正則	26	広田水産高
内野	安斎　克則	26	福島商高
〃	藤原　順	26	秋田商高
〃	佐々木幸樹	20	大船渡高
〃	寺嶋　哲也	26	仙台育英高
〃	○菅原　隆浩	27	明治大
〃	山下　静夫	30	亜細亜大
〃	藤沢　法行	22	花巻北高
〃	及川　義彦	25	一関商工高
外野	鎌田　倫昌	19	弘前実高
〃	遠藤　昌宏	29	仙台商高
〃	原野　優	26	仙台育英高
〃	畠山　哲人	27	秋田商高
〃	高橋　良誠	22	黒沢尻工高
〃	渡辺　則昌	24	福島商高

NTT東北

監督	小窪　敬一	40	関東学院大
投手	宮本　武	24	東京農大
〃	大倉　浩悦	28	東北福祉大
〃	越田　仁孝	24	青森北高
〃	渡辺　智晴	22	勿来高
〃	山田　勉	23	東北学院大
〃	添田　光夫	24	平工高
捕手	猪狩　正弘	26	明治大
〃	山内　聡	25	青森北高
内野	○板井　博行	28	東京農大
〃	福地日出雄	32	東京農大
〃	藤木　豊	24	東北福祉大
〃	阿部　順悦	23	法政大
〃	柿久保健二	25	東洋大
〃	加藤　秀典	22	羽黒工高
〃	大竹　睦	26	帝京大
〃	菊田　善信	32	駒沢大
〃	唐沢　敬	24	東京農大
〃	伊藤　友喜	30	関東学院大
外野	戸羽　英之	23	一関商工高
〃	大塚　広己	19	能代商高
〃	夷塚　博	19	一関商工高
〃	佐藤　喜克	22	名取高
〃	三瓶　仁	22	学法石川高
〃	多田　浩	27	帝京大

本田技研

監督	田代　克業	36	中央大
投手	千々岩勝史	24	東洋大
〃	田村　勤	24	駒沢大
〃	中屋　桂介	27	長門高
〃	森　政明	26	創価大
〃	加藤　真二	23	米沢中央高
〃	田口　権一	22	PL学園高
〃	栗原　克典	21	樹徳高
〃	安藤　伸之	19	常総学院高
捕手	上田　治伸	27	駒沢大
〃	長谷川　寿	23	青山学院大
〃	宇田川丈昌	28	日本大
〃	長井　研介	32	中央大
内野	安藤　強	26	東海大
〃	朝山　憲重	24	PL学園高
〃	山田　仁寿	23	修徳高
〃	新井　潔	20	東農大二高
〃	西　俊児	25	専修大
〃	蔵品　憤一	19	春日部工高
〃	日野　伸一	25	東洋大
外野	荻原　俊文	28	亜細亜大
〃	鈴木　和芳	24	喜多方商高
〃	○柳川　明弘	29	近畿大
〃	岩井　重樹	19	中京高
〃	橋本　勉	25	青山学院大
〃	村上　利明	22	春日部工高

熊谷組

監督	久保田美郎	41	関西大
投手	仙田　聡	19	横浜商高
〃	苅田　誠二	22	越谷西高
〃	鈴木　哲	25	慶応大
〃	松浦　美興	25	国士舘大
〃	谷津田順一	28	中央大
捕手	黒岩　幸則	27	東海大
〃	東金　薫	18	岡山玉野光南高
〃	高橋　大造	23	日大一高
〃	土屋　浩二	18	福岡第一高
内野	森山　茂	28	専修大
〃	高野　詳宏	29	日本大
〃	堀尾　昭典	24	駒沢大
〃	大島　照之	25	国士舘大
〃	西田　満	23	龍谷大
〃	向山　隆康	31	日本大
〃	菅沢　剛	22	青山学院大
〃	波留　敏夫	18	京都大谷高
〃	富田　薫	24	中央大
外野	佐藤　敏一	24	福井工大
〃	佐藤　和弘	24	亜細亜大
〃	○清水　隆一	29	早稲田大
〃	黒木　義美	24	九州産大
〃	伊吹　淳一	26	法政大
〃	前川　忠由	22	専修大
〃	木村　重徳	28	法政大

東　芝

監督	大田垣耕造	40	青山学院大
投手	三原　昇	26	亜細亜大
〃	山崎　雄己	22	盈進高
〃	菊池　総	29	明治大
〃	木村重太郎	21	熊本工高
〃	北島　広行	26	東洋大
捕手	斉藤　敏夫	24	鶴見工高
〃	村上　泰造	26	九州産大
〃	高見　泰範	26	愛知工大
内野	葛城　弘樹	26	国士舘大
〃	南渕　時高	24	青山学院大
〃	西村　隆史	24	横浜商高
〃	丹波　健二	24	日体荏原高
〃	吉沢　明	23	土浦日大高
〃	後藤英一郎	26	亜細亜大
〃	渡辺　博	22	鶴見工高
〃	畠山　弘彰	24	法政大
外野	小林　薫	29	青山学院大
〃	田辺　浩昭	29	法政大
〃	○福本　勝幸	32	早稲田大
〃	多田　勇二	23	青山学院大
〃	前田　誠	28	駒沢大
〃	金敷　雅彦	27	明治大
〃	梁原　修志	30	苫小牧工高
〃	木村　哲久	21	尾道商高
〃	植山　和夫	21	倉敷工高

日本石油

監督	林　裕幸	34	東海大
投手	増永　祐一	23	鹿児島商工高
〃	木村　真樹	19	宇部商高
〃	高橋　憲幸	19	拓大紅陵高
〃	鈴木　健	20	羽黒工高
〃	保戸田勝利	25	帝京高
〃	田口　操	27	立正大
〃	秋村　謙宏	24	法政大
〃	金沢　健一	23	棚倉高
捕手	佐藤　健司	19	武相高
〃	佐藤　孝治	27	早稲田大
〃	高柳　靖法	23	駒沢大
〃	相田　武徳	23	早稲田大
内野	徳永　耕治	21	千葉工高
〃	平田　望	24	法政大
〃	森　真	25	神奈川大
〃	久慈　照嘉	20	東海大甲府高
〃	伊藤　義樹	26	中京高
〃	安岡　靖晃	25	明治大
〃	若林　重喜	23	立正大
外野	鈴木　俊行	20	桐蔭学園高
〃	○田島　信昭	30	帝京大
〃	坂口　裕之	24	明治大
〃	石川　正之	28	神奈川大
〃	五十嵐章人	21	前橋商高
〃	江口　和人	25	東海大

NTT信越

監督	柳沢　敏幸	39	小諸商高
投手	高野　正美	24	大宮高
〃	村井　勝美	20	岩国商高
〃	神田　達也	22	東京農大
〃	市原　勝人	24	日本大
〃	安藤奈賀男	32	松本工高
〃	田口　勝好	29	名古屋商科大
〃	北沢　昇	24	亜細亜大
〃	西島　雅人	23	法政大
捕手	高橋　昭二	27	松商学園高
〃	常盤　圭介	28	帝京大
〃	末川　一昭	24	徳山大
〃	関　克彦	23	中央大
内野	樽田　政信	22	関東学院大
〃	○藤嶋　一利	29	中央大
〃	土居　誠人	25	新田高
〃	田島　英孝	21	岩国商高
〃	福沢　剛	19	大宮東高
〃	三井　興司	19	丸子実高
〃	横井　信一	28	法政大
外野	渡辺　勇治	29	立正大
〃	青山　准	22	日本大
〃	松沢　浩史	25	愛知学院大
〃	田中　秀樹	22	亜細亜大
〃	佐藤　章夫	22	市尼崎高
〃	石田三知夫	28	長野商高

北陸銀行

監督	矢方　順	39	名古屋商科大
投手	田畑　一也	21	高岡第一高
〃	樋間　憲一	20	輪島実高
〃	坂井　隆広	19	富山商
〃	高野　尚	27	金沢高
〃	村井　洋介	25	明治学院大
〃	放生　勝	20	高岡向陵高
〃	高枝　岳人	22	金沢高
捕手	吉村　康成	28	駒沢大
〃	安田　薫	24	名古屋学院大
〃	見上　吉昭	30	専修大
内野	木村　弘信	21	高岡商高
〃	川江　義雄	26	京都産大
〃	荒山　善宣	24	金沢星稜高
〃	王生　幸夫	25	法政大
〃	高橋　玄	27	東洋大
〃	加藤　康昭	27	日体大
〃	堀　圭三	26	名古屋商科大
〃	坂部　範雄	28	同志社大
外野	高本　正成	30	東洋大
〃	竹内　正弘	27	富山商高
〃	○小泉　淳	29	京都産大
〃	田中　久幸	27	立教大
〃	後藤　真一	25	愛知学院大
〃	平井　義人	23	愛知学院大

トヨタ自動車

監督	井上　勉	35	立命館大
投手	高橋　伸行	26	立命館大
〃	安東　博史	19	江の川高
〃	鈴木　寛人	26	愛知学院大
〃	井口　和人	26	同志社大
〃	吉田　修	24	東邦高
〃	陳　明徳	26	明徳商職高
捕手	安田　憤一	21	美濃加茂高
〃	山中　繁	26	同志社大
〃	古田　敦也	24	立命館大
〃	戸崎　義人	23	東海大工高
内野	瀬谷　博之	21	学法石川高
〃	杉山　正司	27	駒沢大
〃	鶴田　勝利	23	享栄高
〃	呉　復連	28	台湾文化大
〃	関　恒俊	26	東海大
〃	蛭田　広則	25	東洋大
〃	飯田　淳史	20	浜松商高
〃	宮市　達也	25	立命館大
〃	池渕　弘	27	法政大
外野	石野　史昭	21	静岡学園高
〃	○間瀬　啓介	27	東海大
〃	横井　隆幸	23	法政大
〃	岡本　幸夫	25	中京商高
〃	寺山　正博	22	鹿児島商工高
〃	狩野　正人	24	九州東海大

西濃運輸

監督	林　教雄	39	佐野高
投手	松本　淳	24	八幡大
〃	松田　憤司	22	報徳学園高
〃	吉井　憲治	24	三本松高
〃	磯村　嘉宏	19	刈谷工高
〃	下里　隆博	25	静清工高
〃	田中　直喜	22	伊香高
〃	伊丹　浩之	25	神奈川大
捕手	山上　純一	28	八幡大
〃	小森　茂	24	大垣商高
〃	西村　正徳	20	柞島商高
内野	比嘉　康哲	29	九州共立大
〃	吉竹　正	24	龍谷大
〃	川野　浩幸	24	神奈川大
〃	鈴木　康之	25	神奈川大
〃	水野　英樹	27	名城大
〃	山本　政彦	23	箕島高
〃	阪本　徹	33	大商大
〃	○伊東　剛	25	専修大
〃	大和　良寿	23	法政大
外野	高橋　徹	23	福井商高
〃	硯　昌己	24	箕島高
〃	豆塚　秀記	23	箕島高
〃	駒井　弘史	23	龍谷大

松下電器

監督	鍛治舎　巧	38	早稲田大
投手	多田　　淳	24	大　商　大
〃	渡辺　一博	27	大　商　大
〃	石田富士男	30	日　体　大
〃	米沢　秀典	27	大阪学院大
〃	小間　　進	23	神港学園高
〃	潮崎　哲也	21	鳴　門　高
〃	二沢　孝誠	22	吉　備　高
捕手	大本　二郎	32	倉敷工高
〃	佐藤　元信	24	明　治　大
〃	水本　勝巳	21	倉敷工高
〃	滝口　英治	23	明　治　大
〃	上原　　仁	24	日　本　大
内野	伊達　将雄	23	青山学院大
〃	西島　信也	23	大阪学院大
〃	北口　正光	23	亜細亜大
〃	原井　和也	21	鐘　島　高
〃	○広岡　資生	29	早稲田大
〃	宇田　英樹	24	龍　谷　大
〃	山尾　修二	26	近　畿　大
外野	篠崎　宏道	30	近　畿　大
〃	桑本　善和	24	日　本　大
〃	大浜　兄樹	22	守　口　高
〃	木村　庄作	21	智弁和歌山高
〃	桑原　高志	20	池　田　高
〃	中本　　浩	23	亜細亜大

日本生命

監督	井尻　陽久	36	東　海　大
投手	新谷　　博	24	駒　沢　大
〃	木村　恵二	23	近　畿　大
〃	新田　雄司	25	専　修　大
〃	岩本　利仁	24	立命館大
〃	伊藤　伸幸	30	東京経大
〃	安達　博史	18	生野工高
捕手	浅倉　伸吉	25	東　海　大
〃	岡　　隆博	22	立命館大
〃	山上　和志	22	泉　州　高
ｺｰﾁ兼	内田　敏弘	31	法　政　大
内野	高比羅規人	27	近　畿　大
〃	中村　昭徳	28	専　修　大
〃	十河　章浩	22	近　畿　大
〃	川瀬　世資	21	桜　宮　高
〃	山中　利光	23	泉　州　高
〃	中井　良治	24	明　治　大
〃	佐藤　公宏	24	早稲田大
〃	江上　光治	23	早稲田大
〃	川村　祥一	23	福　岡　大
ｺｰﾁ兼	佐藤　　清	33	早稲田大
外野	高橋　智尚	24	明　治　大
〃	加古　恵介	25	立命館大
〃	児玉　卓也	28	東　海　大
〃	守屋　公雄	26	早稲田大
〃	○中橋　伸幸	30	愛知学院大

大阪ガス

監督	更紗　忠海	33	志度商高
投手	島田　　一	25	慶　応　大
〃	田中　豊記	24	羽曳野高
〃	西岡　　洋	20	興　南　高
〃	佐藤　尚巧	25	関　西　大
〃	萩原　健吾	28	関　西　大
〃	長野　哲也	27	大阪教育大
〃	南　　芳彦	23	福岡工大
捕手	中西　亮介	21	興　国　高
〃	新谷　一仁	22	京都商高
〃	上　　和秀	28	市和歌山商高
〃	黒木　隆司	19	PL学園高
内野	松田　竜二	25	近　畿　大
〃	竹村　　誠	28	同志社大
〃	西　　正文	29	尼崎小田高
〃	杉山　栄司	25	浪　商　高
〃	鍋島　好昭	30	近大付高
〃	佐々木孝一	24	早稲田大
〃	片山　哲郎	21	西　条　高
外野	折原　康伸	29	洲　本　高
〃	湯川　素哉	26	早稲田大
〃	沢田　　誠	25	京　都　大
〃	時信　正登	23	岡山南高
〃	○川端　秀宣	29	飾磨工高
〃	中内　章利	22	伊野商高
〃	植村　寛之	23	智弁学園高

住友金属

監督	高多　倫正	35	慶　応　大
投手	尾山　　敦	18	高岡商高
〃	横井　秀実	19	高　島　高
〃	小島　弘務	21	平　安　高
〃	森田　幸一	23	近　畿　大
〃	高橋　修二	32	高　知　高
〃	森澤　友博	19	土　佐　高
〃	森沢　洋水	20	安芸工高
〃	寺坂　友秀	21	笠　田　高
〃	小林　考史	18	東海大三高
捕手	西岡　良展	27	早稲田大
〃	川渕　雄二	18	高　知　高
〃	樋野　　徹	20	平　田　高
内野	樋口　一紀	21	柳　川　高
〃	福本　保彦	24	高　知　高
〃	松本　尚樹	18	市和歌山商高
〃	三宅　秀二	23	東　海　大
〃	中田　　等	28	同志社大
〃	田中　祐司	31	鳴　門　高
〃	川畑伸一郎	22	鹿児島商高
〃	○佐藤　雄樹	29	早稲田大
外野	筒井　大助	31	関西学院大
〃	中西　保友	18	鐘　島　高
〃	畑山　俊二	24	近　畿　大
〃	家永　裕章	23	向　陽　高
〃	高津　　淳	21	報徳学園高

神戸製鋼

監督	荒井　信久	36	明　治　大
投手	山崎　吉博	22	福岡大大濠高
〃	橋本　貴仙	19	育　英　高
〃	大寺　史人	24	立命館大
〃	西嶋　和之	27	龍　谷　大
〃	江坂　政明	22	平　安　高
〃	長渡　宏之	25	吉　備　高
捕手	川井　直之	27	金沢星稜高
〃	中村　謙吾	22	太　成　高
〃	秦　　英之	19	神港学園高
〃	宅間　　寛	26	立命館大
内野	川原崎　実	26	村野工高
〃	渡部　英樹	23	関西学院大
〃	○浦本　慶啓	33	亜細亜大
〃	嶽哦　和也	24	大　商　大
〃	武次　大志	21	下関商高
〃	戸塚　俊美	25	明　治　大
〃	能勢　勝嗣	28	近　畿　大
〃	木田　憲治	21	関　西　高
〃	中村　好治	36	専　修　大
外野	日川　雅夫	31	明　治　大
〃	宮長　貞行	23	市尼崎高
〃	若狭　健司	25	京都産大
〃	鈴木　英之	23	駒　沢　大
〃	丹波谷至邦	27	立命館大
〃	綾木　進一	20	八　頭　高

新日本製鐵広畑

監督	尾形　正己	35	山　崎　高
投手	桐野　太一	21	豊岡実高
〃	大東　一仁	26	山　崎　高
〃	黒石　康晴	23	市　川　高
〃	足達　尚人	23	東洋大姫路高
〃	山本　貢司	19	鐘面東高
〃	森川　正俊	19	吉　野　高
〃	藤高　俊彦	30	伊　香　高
捕手	那部良浩至	24	奈良商高
〃	的山　哲也	19	福　崎　高
〃	定詰　雅彦	23	広　陵　高
〃	応武　篤良	31	早稲田大
内野	大墨　弘幸	22	東洋大姫路高
〃	阿山　正人	22	東洋大姫路高
〃	林　　道義	25	香　寺　高
〃	○児玉　貴志	26	和歌山工高
〃	北野　悦司	23	和歌山工高
〃	砂田　弘樹	25	江津工高
〃	西村　雅文	33	竜　谷　高
外野	原田　三郎	25	志度商高
〃	青木　正和	23	明石商高
〃	福田　栄治	26	立命館大
〃	山前　　徹	21	江津工高
〃	杉本　拓也	21	熊本工高
〃	山脇　建己	27	同志社大
〃	尾形　正己	35	山　崎　高

N K K

監督	山内　　明	40	盈　進　高
投手	浜口　　守	30	弓削商船高専
〃	田代　敬治	27	八　幡　大
〃	塩山　康浩	24	熊本第一工高
〃	小川　拡保	23	向　上　高
〃	鎌田　一人	23	秋田経法大付高
〃	古賀　雅裕	22	佐賀学園高
捕手	白石　則幸	33	西　条　高
〃	○松井　智幸	30	明　治　大
〃	大倉　孝一	27	駒　沢　大
〃	長江　敏男	23	池　田　高
内野	羽二生俊之	31	横浜商高
〃	中田　光一	30	法　政　大
〃	岩野　好伸	29	東　洋　大
〃	西嶋　哲久	28	近　畿　大
〃	村上　文敏	27	駒　沢　大
〃	安永　利和	27	尼崎北高
〃	井口　竜也	25	武　相　高
〃	定岡　康彦	25	日　本　大
外野	金久保孝治	34	法　政　大
〃	島野　弘幸	33	武　相　高
〃	佐藤　洋一	30	二松学舎大付高
〃	小林　雅彦	27	近　畿　大
〃	苅部　　稔	27	古河一高
〃	横山　智生	23	駒　沢　大
〃	中山　英士	22	唐　津　商

NTT中国

監督	増永　芳紀	36	東　洋　大
投手	青野　　望	25	福　岡　大
〃	佐藤　　明	20	大　門　高
〃	矢野　哲嗣	21	近大福山高
〃	石川　　晃	27	下松工高
〃	佐々岡真司	22	浜田商高
〃	稲垣　　寛	23	日　体　大
捕手	佐藤　達也	28	福　岡　大
〃	木原英太郎	25	駒　沢　大
〃	高山　雅彦	32	亜細亜大
内野	下岡　秀荘	29	東　洋　大
〃	竹中　　学	21	岡山南高
〃	北口　和正	25	名古屋学院大
〃	千川　健二	24	近　畿　大
〃	原　則明	25	近　畿　大
〃	川口　美記	23	立　正　大
〃	樽岡　　靖	31	専　修　大
〃	篠原　　勝	28	東　洋　大
〃	登　　靖則	32	東　洋　大
外野	宇佐美忠志	27	亜細亜大
〃	○津江本　隆	28	法　政　大
〃	小原　祥司	22	広　陵　高
〃	河井　信護	32	国士舘大
〃	武田　茂人	26	東　洋　大
〃	増永　芳紀	36	東　洋　大
〃	岩山　節雄	32	駒　沢　大

NTT四国

監督	幸田　　優	40	駒　沢　大
投手	久利　周大	26	東　洋　大
〃	西川　慎一	23	大洲農高
〃	白井　宏範	26	駒　沢　大
〃	橋本　正英	19	大方商高
〃	西山　一宇	19	高　知　高
〃	神田　　敦	28	日　体　大
〃	山部　　太	19	八幡浜工高
ｺｰﾁ兼	滝下　茂信	31	穴　吹　高
捕手	白石　勇二	23	松山商高
〃	武田　和高	25	明徳義塾高
〃	芝　　和彦	25	近　畿　大
〃	夕部　孝豊	27	大方商高
内野	小谷　雄司	24	明徳義塾高
〃	山本　佳孝	25	同志社大
〃	河野　浩三	24	駒　沢　大
〃	竹島　　誠	27	九州東海大
〃	松本　秀敏	24	亜細亜大
〃	篠原　昭人	26	駒　沢　大
ｺｰﾁ兼	緒賀　克郎	30	東　洋　大
外野	松田　竜治	22	松山商高
〃	武田　正人	28	駒　沢　大
〃	○三好　利幸	26	北　条　高
〃	能田　悦夫	24	亜細亜大

四国銀行

監督	城下　照男	36	専　修　大
投手	山本　智久	33	池　田　高
〃	橋谷　正人	29	大　商　大
〃	浜田　孝伸	26	東　邦　大
〃	仙石　雅人	24	帝　京　大
〃	板垣　政史	24	中　央　大
捕手	宮本　章彦	29	東京経大
〃	末光　賢二	25	松山商科大
内野	薬師神一成	32	京都産大
〃	森　　正隆	31	明　治　大
〃	西　　弘顕	30	明　治　大
〃	○伊名　正道	29	東　洋　大
〃	森田　洋生	28	明　治　大
〃	谷岡　秀一	26	亜細亜大
〃	町田　明謙	24	東　海　大
外野	井上　幹也	28	愛知学院大
〃	宮本　雄二	26	神奈川大
〃	池内　　聡	26	専　修　大
〃	田中　靖秀	26	近　畿　大
〃	森田　建司	25	明　治　大

新日本製鐵大分

監督	一円　敏彦	42	春日出中
投手	安田　　勝	20	延岡工高
〃	渡辺　聖二	22	延岡工高
〃	浅野　英樹	18	高　知　高
〃	歳納　　修	22	佐伯豊南高
〃	井手上　弘	21	豊国学園高
〃	岩切　利浩	24	宮崎工高
捕手	本田　明浩	21	社　　高
〃	○平川　　隆	27	臼杵商高
〃	大橋　正幸	21	中津工高
内野	牧野　浩二	21	延岡工高
〃	加藤　英樹	21	豊国学園高
〃	神橋　孝治	24	大分商高
〃	永元　克明	26	柳ケ浦高
〃	末延　　洋	24	中津工高
〃	梶原主基男	24	八　幡　大
〃	岩崎　久則	20	大　分　高
〃	前谷　義幸	26	柳ケ浦高
〃	魚返　　晃	31	大分商高
外野	水田　哲朗	27	柳　川　高
〃	都　　昭也	18	喜　界　高
〃	槇　　利一	22	八幡大付高
〃	金山　幸喜	22	三本松高
〃	仮屋　孝仁	19	都　城　高
〃	矢野　準一	18	別府商高
〃	神田　親幸	31	鹿児島商高

本田技研熊本

監督	手島　晴幸	38	立　教　大
投手	山隈　博之	23	大　津　高
〃	久米　孝昇	18	鎮　西　高
〃	田代　尚幸	23	佐世保商高
〃	尾崎　定己	23	球磨農高
〃	山本　正幸	22	法　政　大
〃	内山　正博	23	青山学院大
〃	中武　靖郎	22	九州東海大
ｺｰﾁ兼	内田　和広	29	都城商高
捕手	吉田　浩幸	21	津久見高
〃	○得津　浩芳	24	九州東海大
〃	田中　忠勝	25	久留米商高
内野	清原　真二	29	柳ケ浦高
〃	浦野　　智	18	鎮　西　高
〃	竹田　満宗	22	豊国学園高
〃	松本　康宏	22	東　洋　大
〃	坂本　　正	23	熊本第二高
〃	浅川　秀明	22	九州東海大
〃	川道　二郎	22	東海大二高
〃	福田　雄一	18	鎮　西　高
外野	山本　修二	24	九州東海大
〃	久保　憲司	21	鳥　栖　高
〃	河野幸四郎	23	都城商高
〃	内村　　徹	23	熊本工高
〃	安藤　芳人	23	日田林工高
〃	園田　末男	34	PL学園高

第17回大会

1990年(平成2年)10月10日▶10月18日　グリーンスタジアム神戸

優勝＝日本生命 ――― (初優勝)

バランスの取れた日生、悲願の初優勝

グリーンスタジアム神戸に移って初めての大会は、バランスの取れた日本生命が危なげなく勝ち進んで出場12回目で悲願のダイヤモンド旗をつかんだ。日生を支えたのは、新谷、木村を軸にした強力投手陣。金属バットで「投手受難」といわれるなかで、2人とも力のある直球と鋭い変化球を低めに決めて、自責点0の快投を演じた。1、2回戦は低調だった打線も調子を上げ、終盤は投打のバランスのかみ合った理想的な状態となった。新谷はNTT東北戦で14奪三振の大会記録を作るなど、スピード、コントロールともに群を抜いていた。

日本石油は2年連続で優勝戦で涙を飲んだが、打線の破壊力は今大会ナンバーワン。若林や五十嵐らパワーヒッターがそろい、7本塁打と猛威をふるった。エースの鈴木も準決勝では3試合連続2ケタ安打の東芝を、速球とスライダーで抑え込み、全日本投手の貫録を見せた。優勝戦は連投の疲れから鈴木が先発できず、もう一人投手がいれば、と惜しまれる。

東芝は打線に切れ目がなく、2回戦、準々決勝と2試合連続のコールド勝ちした集中打はすごかったが、若手投手の育成が課題。河合楽器も打線はよかったが、投手力の弱さからベスト4に甘んじた。

ベスト8に残ったNTT北海道は、本格派右腕の島崎が140台の速球を武器に力投、NTT北陸は寺西が横手から速いテンポで直球と変化球を投げ込んで揺さぶる、うまい投球をした。本田技研鈴鹿は今大会屈指の左腕、湯舟が速球の威力を見せ、日産自動車は打線が光った。このほかではNTT東北、唯一の初出場NTT関西が目をひいた。

広いグリーンスタジアム神戸に移って、本塁打数は昨年の54本から38本に大幅に減少。その代わり三塁打が5本から13本、二塁打が66本から76本と増え、走塁面でスリリングなシーンが再三見られた。攻撃面では積極的な走塁が、守備では広い範囲をカバーする脚力と強肩、正確な中継プレーやカバーリングが要求され、一段のレベルアップが必要となった。

神戸に会場を移して初めての大会。出場26チームの選手たちが入場の後、一斉に行進。

大会審判

▷**委員長**＝米谷道雄 ▷**副委員長**＝山川脩司、三輪武、三宅享次 ▷**幹事**＝大村一彦、竹中清二、岡本好二、津田浩嗣 ▷**委員**＝小林勉、大橋慶三、木嶋一黄、桃田晴彦、中西則夫、辻喜正、長谷至康、永田兼治、丸屋琢美、伊東登、大石泰、梶浦照樹、宮奥欣司、樫根清一、赤井淳二、上井池憲治、上杉正、片岡成夫、広沢渉、巽正一、岡本良一、鹿多証道、浜田正二、生越芳明、榎田健一、美馬洋、中川雅夫、片山寄世史、宮本明、吉田龍男、東優孝、南垣勇、新阜定、北野雅行、中嶋健二、橘公政、中本尚、梅田泰洋

▽10月10日

第1試合＝1回戦(午前10時20分開始)

新日鉄八幡	020	001	000	3
三菱重工神戸	300	104	04X	12

▶審判(球審)小林(塁審)中西、鹿多、宮木

【新日鉄八幡】		打	安	点	振	球
④	松田	5	1	0	0	0
⑥	蛇嶋	4	1	0	0	1
⑤	佐野	4	1	0	2	1
⑧	丸谷夫	4	1	0	1	0
③	田中	3	1	0	0	1
D	加藤	3	2	1	0	0
⑨	藤崎	3	1	0	1	1
⑦	田村	2	0	0	0	1
H	境	1	0	0	1	0
7	葉山	0	0	0	0	0
②	山下	3	0	0	1	0
H	伊藤	1	0	0	1	0
犠併残	1 0 9	33	8	1	7	5

【三菱神戸】		打	安	点	振	球
⑨	水谷	4	1	1	0	0
H	木須	1	1	0	0	0
9	久保川	0	0	0	0	0
⑧	福田	4	1	2	0	0
D	山口	4	2	0	0	1
③	青田	4	2	2	0	1
②	清水	4	1	2	0	0
⑤	浜本	5	1	1	1	0
⑦	秋山	3	2	1	0	1
⑥	堀口	3	1	0	0	0
④	原田	3	1	1	1	1
犠併残	3 1 6	35	13	10	2	4

	回	安	振	球	責
愛甲	6	11	2	0	2
藤原	1⅓	0	0	2	1
森	⅔	2	0	2	2
千々松	9	8	7	5	2

▷本塁打＝秋山1号(愛甲)▷二塁打＝藤崎、浜本、山口、青田▷犠打飛＝新1(加藤)三3(福田、清水、堀口)▷盗塁＝新1(佐野)三2(福田、山口)▷失策＝新2(松田、佐野)三1(原田)▷与死球＝森(青田)▷暴投＝千々松▷捕逸＝山下▷試合時間＝2時間39分

広い球場もなんの

◎…三菱重工神戸、3年目の秋山が四回に大会第1号の本塁打を広いグリーンスタジアムの左翼席にほうり込んだ。「打った瞬間、打球を見失い一塁まで全力で走りました。まさか入るとは」と驚きながらも、新日鉄八幡を突き放す一打に会心の笑み。一回のチームメイト浜本の中越え大飛球がフェンス直撃の二塁打になったように、グリーンスタジアムは広い。秋山の一打は左翼ポール際に飛び込み、飛んだコースも良かった。「走者もいないし、中途半端なバッティングだけはやめよう」という思い切りの良さが飛距離を伸ばした。

第2試合＝1回戦(午後1時31分開始)

西濃運輸	530	020	012	13
本田技研熊本	002	100	102	6

▶審判(球審)片岡(塁審)桃田、梶浦、浜田

【西濃運輸】		打	安	点	振	球
④	比嘉	4	2	0	1	0
⑥	鈴木	5	3	0	1	0
⑦	豆塚	3	1	1	0	1
7	高橋	1	0	0	1	0
⑨	硯	5	3	5	0	0
D	伊東	5	2	2	0	0
⑧	伊藤	5	2	1	2	0
②	小森	5	3	3	0	0
③	水野	3	0	0	0	0
H5	吉竹	2	1	1	1	0
⑤3	川野	4	2	0	0	0
犠併残	1 1 4	42	19	13	6	1

【本田熊本】		打	安	点	振	球
⑧	久米	0	0	0	0	0
8	安藤	5	3	1	1	0
⑥	江上	3	0	1	2	0
H	内村	1	0	0	0	0
⑦	竹田	2	0	0	0	1
H7	福田	2	1	1	0	0
D	浅川	4	0	0	1	0
H	川道	1	0	0	1	0
⑨	内田	0	0	0	0	0
9	河野	5	2	1	1	0
⑤	浦野	4	0	0	0	1
③	山本修	4	2	1	1	0
④	松本	4	1	1	1	0
②	吉田	4	3	0	0	0
犠併残	1 3 9	39	12	6	8	2

	回	安	振	球	責
松田	9	12	8	2	4
尾崎	1⅔	5	1	0	3
中武	8	14	5	1	7

▷本塁打＝硯1号③(尾崎)小森1号(尾崎)2号(中武)伊東1号(中武)▷三塁打＝安藤▷二塁打＝豆塚、硯2、松本、山本修、伊藤、安藤、吉田、吉竹▷犠打飛＝西1(比嘉)本1(江上)▷盗塁＝西1(硯)▷失策＝西2(吉竹、川野)本1(松本)▷暴投＝松田▷試合時間＝2時間41分

第3試合＝1回戦(午後4時43分開始)

NTT北陸	112	111	000	7
川崎製鉄神戸	001	000	001	2

▶審判(球審)中本(塁審)美馬、東、永田(外審)北野、南垣

【NTT北陸】		打	安	点	振	球
⑦	広瀬	5	1	0	2	0
⑧	堺	4	2	0	0	1
④	祖泉	4	1	0	1	1
D	大川	5	2	2	0	0
③	平尾	4	0	0	2	0
⑨	川崎	4	2	1	0	0
⑥	尾前	3	1	1	0	0
6	籔内	0	0	0	0	0
②	下野	3	2	2	1	1
⑤	梅沢	2	0	0	1	0
犠併残	3 1 6	34	11	6	7	3

【川鉄神戸】		打	安	点	振	球
③	上村	4	1	0	1	0
⑥	堀田	3	0	0	0	1
⑦	米田	3	1	1	1	1
D	藤原安	4	0	0	0	0
⑧	村井	4	2	0	0	0
②	大城	3	0	0	1	0
2	門野	0	0	0	0	0
H	金	1	0	0	0	0
⑨	川中	4	1	1	1	0
⑤	田中	3	0	0	1	0
H	初田	1	0	0	0	0
④	島本	3	1	0	0	0
犠併残	0 0 6	33	6	2	5	2

	回	安	振	球	責
寺西	9	6	5	2	1
豊田	4⅔	9	4	0	4
宮内	4	2	3	1	1
籔	1	0	0	2	0

▷本塁打＝下野1号(豊田)尾前1号(宮内)▷三塁打＝村井、大川▷犠打飛＝N3(尾前、梅沢2)▷盗塁＝N5(堺4、祖泉)▷失策＝N2(祖泉、梅沢)川2(上村、田中)▷捕逸＝大城▷試合時間＝2時間21分

▽10月11日

第1試合＝1回戦(午前8時59分開始)

日産自動車	000	100	051	7
NTT中国	000	210	000	3

▶審判(球審)大橋(塁審)中川、辻、南垣

【日産自動車】		打	安	点	振	球
③	渡辺	5	3	2	0	0
⑧	田中	3	0	0	1	0
H	松本	1	0	0	0	0
H8	日置	1	0	0	0	0
⑦	下田	3	1	0	0	1
R7	小原	0	0	0	0	0
H7	竹内	1	0	0	0	0
⑨	鶴岡	5	2	0	1	0
⑤	上島	4	2	1	1	1
D	八木	4	3	1	1	1
⑥	安本	4	1	1	1	0
④	石川	4	2	0	0	1
②	阿部	4	0	2	0	1
犠併残	1 0 11	39	14	7	5	5

【NTT中国】		打	安	点	振	球
⑥	北口	4	0	0	0	0
④	千川	3	1	1	0	1
⑨	小原	4	1	0	1	0
⑤	原	4	1	0	2	0
③	篠原	3	1	2	1	0
⑦	武田	4	0	0	1	0
②	佐藤達	4	2	0	2	0
D	川口	3	0	0	1	0
⑧	大谷	0	0	0	0	0
8	津江本	2	0	0	0	1
犠併残	2 1 5	31	6	3	8	2

	回	安	振	球	責
和田	9	6	8	2	2
青野	7⅔	10	5	5	6
石川	1⅓	4	0	0	1

▷二塁打＝篠原、原、上島▷犠打飛＝日1(安本)N2(篠原、川口)▷盗塁＝日2(下田、鶴岡)N2(千川、津江本)▷失策＝日1(阿部)N1(篠原)▷試合時間＝2時間52分

バック信じて耐えた

◎…序盤、ストレートが走り上々の滑り出しだった日産自動車の和田は四回にNTT中国の篠原に逆転の2点二塁打を浴び、五回にも1点を許したが、以後立ち直って、6安打に抑えまずまずの投球ぶり。それでも、「一時は流れが相手に傾いて"まずいな"と考えました。でも、うちの選手は何とかしてくれると思い、信じて投げました」と逆転勝利にホッと胸をなでおろし、「出足はストレートが伸びていたんですが、四回の逆転された球は外角の力のない直球。ああいう球を投げてはやはりダメですね」と気持ちを引き締めていた。

第2試合＝1回戦(午後0時21分開始)

四国銀行	000	010	0	1
NTT東北	361	500	X	15

▶審判(球審)巽(塁審)樫根、新阜、丸屋

【四国銀行】		打	安	点	振	球
④	谷岡	3	0	0	0	0
⑥	森田洋	2	0	0	0	0
H6	町田	1	0	0	0	0
⑤	薬師神	3	2	0	0	0
⑧	田中	3	0	0	1	0
③	西	3	1	0	0	0
D	伊名	2	1	0	0	0
H	森善	1	0	0	0	0
⑨	森田建	3	3	0	0	0
②	宮本章	1	0	0	0	0
2	末光	1	0	0	0	0
H	宮本雄	1	0	0	0	0
⑦	井上	2	1	1	1	0
犠併残	0 0 4	26	8	1	2	0

【NTT東北】		打	安	点	振	球
⑨	夷塚	4	1	0	0	1
④	福地	3	1	2	0	2
⑦	三瓶	4	2	2	0	0
③	菊田	3	2	4	0	1
⑤	阿部	3	1	1	1	1
②	猪狩	4	2	5	1	0
⑧	戸羽	4	2	0	0	0
D	多田	3	1	1	1	0
HD	藤木	1	0	0	0	0
⑥	柿久保	4	2	0	1	0
犠併残	0 4 5	33	14	15	4	5

	回	安	振	球	責
橋谷	1⅔	7	1	3	8
板垣	4⅓	7	3	2	6
越田	7	8	2	0	1

▷本塁打＝猪狩1号③(橋谷)菊田1号③(板垣)井上1号(越田)▷三塁打＝夷塚▷二塁打＝三瓶2、戸羽▷盗塁＝N2(福地、柿久保)▷失策＝四1(森田洋)N1(福地)▷暴投＝板垣▷試合時間＝2時間14分

第3試合＝1回戦(午後3時1分開始)

東芝	101	011	100	5
NTT四国	000	000	012	3

▶審判(球審)岡本良(塁審)伊東、片山、宮奥(外審)中嶋、橘

【東芝】		打	安	点	振	球
⑧	前田	3	0	0	1	1
④	葛城	5	2	1	0	0
⑦	小林	5	2	0	1	0
7	田辺	0	0	0	0	0
③	丹波	3	0	0	2	2
⑨	松原	1	0	1	1	2
D	梁原	4	1	1	0	1
②	高見	3	2	1	0	2
⑤	吉沢	5	3	1	0	0
⑥	渡辺	4	1	0	2	0
犠併残	3 1 12	33	11	5	7	8

【NTT四国】		打	安	点	振	球
⑧	芝	2	0	0	0	1
H8	能田	2	1	0	0	0
⑦	松田	2	0	0	0	0
H	柴田	1	1	0	0	0
R7	武田正	0	0	0	0	0
③	山本	4	1	0	1	0
⑨	三好	4	0	0	0	0
⑤	松本	4	2	0	1	0
⑥	竹島	3	1	0	0	1
D	小谷	4	1	0	0	0
④	橋本久	4	0	0	1	0
②	武田和	2	0	0	1	0
H	河野	1	0	0	0	0
2	白石	1	0	1	0	0
犠併残	1 1 7	34	7	1	4	2

	回	安	振	球	責
三原	9	7	4	2	0
白井	6	10	3	4	4
西山	3	1	4	4	1

▷二塁打＝小林、渡辺▷犠打飛＝東3(前田、松原2)N1(松田)▷盗塁＝東1(吉沢)N1(能田)▷失策＝東2(丹波、渡辺)▷捕逸＝武田和▷試合時間＝2時間37分

さすがは「全日本」

◎…北京のアジア大会に出場したNTT四国のエース西山が七回から二番手として登板。3回投げて4奪三振、与四球4と成績はもうひとつだったが、チームに合流したのが10日ということを考えれば"さすが全日本"といってもよい。
西山も「アジア大会がいい経験になった。まだピッチングが粗いので、この冬じっくりと体を鍛えて悪い状態の時でもいいピッチングができるようにしたい」。

第4試合＝1回戦(午後6時8分開始)

NTT関東	031	110	000	6
新日鉄広畑	100	001	000	2

▶審判(球審)三宅(塁審)大石、中本、榎田(外審)中嶋、橘

【NTT関東】		打	安	点	振	球
⑧	小笠原	5	3	0	0	0
⑥5	野寺	5	2	1	0	0
④	杉村	4	2	1	0	1
⑦	市川	5	0	0	2	0
D	川村	5	2	1	2	0
⑨	中野	3	0	0	0	0
③	安斉	4	2	1	0	0
⑤	吉田	2	0	0	1	1
6	関口	1	1	0	0	0
②	池元	4	1	2	1	0
犠併残	1 2 8	38	13	6	6	2

【新日鉄広畑】		打	安	点	振	球
⑨	空木	5	1	0	1	0
④	大墨	4	0	0	1	0
⑧	杉本	3	2	0	0	1
⑤	砂田	3	0	0	1	1
⑦	原田	2	0	0	0	2
②	定詰	3	1	1	0	1
D	今村	4	0	0	1	0
③	林	3	1	0	0	1
R	北野	0	0	0	0	0
⑥	児玉	3	1	0	1	0
H	山脇	1	1	0	0	0
犠併残	0 1 8	31	7	1	5	6

	回	安	振	球	責
柳沢	3	2	2	4	1
小林	2⅓	1	0	2	1
遠藤	3⅔	4	3	0	0
藤高	5	12	3	2	5
黒石	4	1	3	0	0

▷本塁打＝川村1号(藤高)▷三塁打＝安斉▷二塁打＝杉本、小笠原、池元、定詰、空木▷犠打飛＝N1(中野)▷失策＝新1(藤高)▷暴投＝柳沢▷試合時間＝2時間25分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

日本生命＝優勝

十河(とうごう) 章浩(あきひろ)内野手
(現役、26歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

近大から入社して2年目。調子が悪く準々決勝まで2試合ノーヒットだった。初ヒットは準決勝の河合楽器戦の第三打席に放った遊撃内野安打。初戦から数えて11打席目、重苦しかった気分がやっと楽になり、最終打席で三遊間安打も出た。日本石油との優勝戦では「ここまで来たのだから、打てなくても気にするな」と開き直ることができ、試合前から浮き浮きしていた。最初の打席で先制左前打、第三打席で左越え2ラン、最後も走者一掃の左中間3点二塁打と固め打ちができ、打撃賞が転がりこんだ。優勝した昨年の都市対抗でも準々決勝までノーヒットだったのが、準決勝で3打数3安打。仲間に「十河はおいしいところだけ食べる」といわれるようになった。

社会人2年目に両足肉離れ。いまもだましだまし、野球を続けている。でもまだ老け込む年齢でもないので、とにかく頑張ります。

▽10月12日

第1試合＝1回戦(午前8時57分開始)

富士重工業	100	200	110		5
三菱重工三原	005	000	004		9

▶審判(球審)中本(塁審)大橋、鹿多、大石

	【富士重工】	打	安	点	振	球
⑦	市川	5	2	1	1	0
⑧	井上	4	1	0	0	1
④	矢沢	5	2	0	0	0
③	上野	4	2	1	2	1
D	野口	4	0	0	1	0
⑨	藤野	4	1	0	0	0
⑤	水久保	4	1	1	1	0
6	日野	0	0	0	0	0
②	長崎	4	2	2	1	0
⑥	加藤	2	0	0	0	1
H5	細内	1	0	0	1	0
犠併残	0 1 8	37	11	5	7	3

	【三菱三原】	打	安	点	振	球
D	早野	4	0	0	0	0
⑨	南谷	5	2	6	0	0
③	国只	2	1	0	0	2
⑤	小前	4	0	0	0	0
⑥	川村	4	2	2	1	0
②	坊西	4	1	1	1	0
⑦	山下	2	0	0	2	0
7	久保	1	0	0	1	1
④	小野田	3	1	0	1	1
⑧	林	2	2	0	0	1
犠併残	2 0 3	31	9	9	6	5

	回	安	振	球	責
飯野	8⅔	9	6	5	6
古田	4⅔	7	2	3	3
野村	5	4	5	0	1

▷本塁打＝市川1号(古田)南谷1号②、2号④(飯野)▷三塁打＝川村、長崎▷二塁打＝林、井上▷犠打飛＝三2(早野、林)▷失策＝富1(水久保)三1(川村)▷試合時間＝2時間36分

絶好球を思い切り

◎…史上初のサヨナラ満塁本塁打を放ったのが三菱重工三原の二番・南谷。5－5で迎えた九回二死満塁の好機に打席に。豪快に右中間のスタンドに運んだ。打った瞬間に「行った」と思わせる一撃だった。「九回、いい場面でまた打席が回ってくるのではないか、と思っていた。直球を狙っていたら絶好球が来たので思いきりバットを振りました。もちろん満塁サヨナラ本塁打なんて初めてです」としばらく興奮が収まらなかった。

第2試合＝1回戦(午後0時1分開始)

住友金属	103	000	000		4
NTT北海道	031	110	10X		7

▶審判(球審)吉田(塁審)辻、赤井、中川

	【住友金属】	打	安	点	振	球
④	樋口	4	1	0	0	0
⑦	中田	3	2	0	0	1
⑨	筒井	3	1	1	0	0
③	佐藤	2	1	3	0	1
D	川渕	2	1	0	0	0
RD	中西	0	0	0	0	0
HD	川畑	2	0	0	0	0
⑥	三宅	4	0	0	1	0
⑤	松本	4	1	0	0	0
⑧	家永	4	0	0	3	0
②	樋野	4	1	0	0	0
犠併残	2 0 5	32	8	4	4	2

	【NTT北海道】	打	安	点	振	球
⑧	橋本	4	3	1	0	0
⑥	寺田	4	0	0	1	1
⑦	井城	5	1	0	0	0
⑤	春木	3	1	1	0	1
②	池本	4	1	0	0	0
D	大村	3	2	1	0	1
⑨	鶴蔦	4	3	2	0	0
③	遠藤	4	1	0	0	0
④	飯沼	4	2	2	0	0
犠併残	1 0 8	35	14	7	1	3

	回	安	振	球	責
森田	4	8	1	1	5
寺坂	1	2	0	1	1
森沢友	2	3	0	1	1
尾山	1	1	0	0	0
島崎	9	8	4	2	4

▷本塁打＝佐藤1号②(島崎)▷二塁打＝中田、大村2、遠藤、橋本2、松本、井城、飯沼▷犠打飛＝住2(筒井、佐藤)N1(橋本)▷盗塁＝住2(佐藤、中西)▷試合時間＝2時間29分

第3試合＝1回戦(午後2時59分開始)

大昭和製紙北海道	400	201	100		8
NTT関西	000	300	031		7

▶審判(球審)中西(塁審)長谷、生越、丸屋(外審)南垣、北野

	【大昭和製紙】	打	安	点	振	球
④	高木	4	1	0	0	0
⑤	社	3	1	2	0	0
D	斉藤	2	0	0	1	1
HD	木内	2	1	0	0	0
⑧	平	5	1	0	1	0
⑦	阿相	3	1	0	0	1
②	横沢	4	1	1	0	0
③	山本	4	2	3	0	0
⑨	日下	3	1	0	0	0
⑥	富永	3	1	1	0	0
犠併残	5 1 5	33	10	7	2	2

	【NTT関西】	打	安	点	振	球
④	笹岡	2	0	0	0	0
H	泉	1	0	0	0	0
4	石井	2	1	0	0	0
⑥	成丸	5	2	0	1	0
⑨	新宅	5	4	0	0	0
⑧	中村	5	2	0	0	0
⑦	羽生	5	3	3	1	0
D	山崎	4	2	1	0	0
③	西田	4	2	2	1	0
⑤	山市	4	1	1	0	0
②	村本	3	0	0	1	0
2	高木	1	0	0	0	0
犠併残	1 1 8	41	17	7	4	0

	回	安	振	球	責
渡部	9	17	4	0	6
田渕	6	7	2	2	3
白井	1	3	0	0	1
岡本	2	0	0	0	0

▷本塁打＝西田1号(渡部)▷三塁打＝山本、羽生▷二塁打＝社▷犠打飛＝大5(高木、社2、日下、富永)N1(山崎)▷盗塁＝大2(阿相、富永)▷失策＝大2(社、渡部)N1(成丸)▷暴投＝田渕▷ボーク＝渡部、田渕▷試合時間＝2時間39分

▽10月14日

第1試合＝2回戦(午前9時49分開始)

三菱重工神戸	000	001	000		1
河合楽器	000	000	02X		2

▶審判(球審)木嶋(塁審)植田、南垣、北野

	【三菱神戸】	打	安	点	振	球
⑨	水谷	4	1	0	1	0
⑧	福田	3	0	0	1	1
D	山口	5	2	0	0	0
③	青田	5	0	0	1	0
②	清水	4	2	0	0	0
⑤	浜本	3	2	0	0	1
⑦	秋山	4	1	1	1	0
⑥	堀口	4	0	0	1	0
④	原田	3	3	0	0	1
犠併残	2 1 12	35	11	1	5	3

	【河合楽器】	打	安	点	振	球
⑥	盛	4	1	0	0	0
D	尾上	4	1	2	1	0
③	村瀬	3	0	0	0	1
⑤	鈴木	2	0	0	2	1
⑧9	樽井	3	0	0	0	0
④	清水	3	1	0	0	0
⑦	西原	2	1	0	0	1
⑨	吉村	3	0	0	0	0
R	中逵	0	0	0	0	0
2	加藤	0	0	0	0	0
②	安間	2	0	0	2	0
H8	牛尾	1	0	0	0	0
犠併残	0 0 4	27	4	2	5	3

	回	安	振	球	責
千々松	8	4	5	3	2
平田	9	11	5	3	1

▷二塁打＝尾上▷犠打飛＝三2(水谷、福田)▷盗塁＝三1(水谷)▷与死球＝千々松(鈴木)平田(浜本、原田)▷試合時間＝2時間26分

夏のうっぷん晴れた

◎…11安打されながらもコーナーを丹念につく粘りの投球で1点に抑えた河合楽器の平田投手。「都市対抗に出られなかったうっぷんをこの試合にぶつけた。2ケタ安打されましたが、長打を許さなかったのがよかった」と、大舞台の"1勝"に感慨深げ。入社3年目、右スリークオーターからのスライダーを武器に打たせて取る頭脳的投球に安定感が出てきた。「次はもっと冷静に投げられると思います」と、頼もしいセリフ。

第2試合＝2回戦(午後0時26分開始)

NTT北陸	000	102	000		3
西濃運輸	000	110	000		2

▶審判(球審)樫根(塁審)浜田、梶浦、三宅

	【NTT北陸】	打	安	点	振	球
⑦	広瀬	3	1	0	1	2
⑧	堺	5	0	0	2	0
④	祖泉	4	1	0	0	0
D	大川	3	1	0	1	0
③	平尾	4	2	0	0	0
⑨	川崎	3	1	2	1	1
⑥	尾前	4	1	1	2	0
②	下野	4	1	0	2	0
⑤	梅沢	3	1	0	0	0
犠併残	2 1 8	33	9	3	9	3

	【西濃運輸】	打	安	点	振	球
④	比嘉	4	1	0	1	0
⑥	鈴木	4	1	1	1	0
⑦	豆塚	4	1	0	0	0
⑨	硯	4	0	0	0	0
D	伊東	3	0	0	1	0
⑧	伊藤	3	0	0	0	0
②	小森	3	1	0	1	0
③	水野	2	0	0	1	0
H	高橋	1	0	0	0	0
5	吉竹	0	0	0	0	0
⑤3	川野	3	1	1	0	0
犠併残	0 1 2	31	5	2	5	0

	回	安	振	球	責
寺西	9	5	5	0	2
吉井	9	9	9	3	3

▷本塁打＝鈴木1号(寺西)▷二塁打＝川崎、梅沢▷犠打飛＝N2(梅沢、大川)▷失策＝西1(水野)▷与死球＝吉井(川崎)▷試合時間＝1時間58分

第3試合＝2回戦(午後2時39分開始)

日産自動車	233	000	13		12
北陸銀行	010	100	00		2

▶審判(球審)辻(塁審)生越、片山、大石(外審)新早、榎田

	【日産自動車】	打	安	点	振	球
⑧	日置	5	3	1	1	0
5	松本	0	0	0	0	0
⑦	竹内	1	0	1	1	2
7	小原	1	0	0	1	0
③4	渡辺	5	1	2	0	0
⑨	鶴岡	5	3	4	0	0
⑤	上島	3	1	0	1	2
R8	田中	0	0	0	0	0
D	八木	4	1	0	1	1
④	石川	3	0	0	2	0
H	下田	1	0	0	0	0
3	関	1	1	1	0	0
⑥	安本	5	4	2	0	0
②	阿部	2	1	1	0	1
H	岩崎	1	0	0	1	0
2	松尾	0	0	0	0	0
犠併残	2 1 9	37	15	12	8	6

	【北陸銀行】	打	安	点	振	球
⑥	王生	4	2	1	0	0
⑨	平井	2	0	0	0	1
H	木村	1	0	0	1	0
9	村田	0	0	0	0	0
⑦	後藤	4	0	0	1	0
③	荒山	4	2	0	0	0
④	岡田	3	0	0	1	1
D	安田	3	0	0	1	0
H	加藤	1	0	0	0	0
⑤	坂部	4	1	0	0	0
⑧	小泉	4	1	0	1	0
②	吉村	3	2	1	0	0
犠併残	0 0 9	33	8	2	5	2

	回	安	振	球	責
久保	8	8	5	2	2
放生	2	5	0	4	5
高枝	6	10	8	2	7

▷本塁打＝渡辺1号②(放生)鶴岡1号③(放生)2号(高枝)▷三塁打＝阿部▷二塁打＝坂部、吉村、八木、安本2、日置、王生▷犠打飛＝日2(竹内、阿部)▷盗塁＝日4(鶴岡、田中、安本、阿部)▷失策＝日2(石川、安本)北1(荒山)▷暴投＝高枝2▷試合時間＝3時間11分

第4試合＝2回戦(午後6時3分開始)

NTT東北	000	000	000		0
日本生命	110	000	00X		2

▶審判(球審)中西(塁審)東、橋、丸屋(外審)新早、榎田

	【NTT東北】	打	安	点	振	球
⑨	夷塚	3	0	0	2	1
④	福地	4	1	0	1	0
⑦	三瓶	4	4	0	0	0
③	菊田	4	1	0	2	0
⑤	阿部	4	0	0	1	0
②	猪狩	4	0	0	2	0
⑧	戸羽	4	1	0	1	0
D	藤木	4	0	0	3	0
⑥	柿久保	3	0	0	2	0
犠併残	0 1 8	34	7	0	14	1

	【日本生命】	打	安	点	振	球
④	大島	2	0	1	0	1
⑧	内匠	4	2	0	1	0
⑥	十河	3	0	0	0	1
③	佐藤清	4	1	1	2	0
⑦	高橋	4	1	0	0	0
D	熊添	4	2	0	1	0
⑨	赤沢	0	0	0	0	0
9	中橋	3	2	0	0	0
R9	守屋	0	0	0	0	0
⑤	中村	2	0	0	1	0
②	岡	1	0	0	0	2
犠併残	2 0 7	27	8	2	5	4

	回	安	振	球	責
大倉	8	8	5	4	1
新谷	9	7	14	1	0

▷二塁打＝三瓶2、戸羽、内匠、熊添▷犠打飛＝日2(大島、中村)▷暴投＝大倉2▷捕逸＝猪狩▷与死球＝大倉(大島)▷試合時間＝2時間20分

▽10月15日

第1試合＝2回戦(午前8時55分開始)

J　T	000	010	0		1
東　芝	505	000	1		11

▶審判(球審)梅田(塁審)小林、上杉、中嶋

	【J　T】	打	安	点	振	球
⑨	原野	3	0	0	1	0
⑧	渡辺	3	1	0	0	0
⑦	鎌田	3	0	0	0	0
⑤	寺嶋	3	1	0	1	0
D	高橋	3	0	0	1	0
③	藤沢	2	0	0	1	1
⑥	佐々木	1	1	0	0	0
H6	菅原	2	1	1	0	0
②	及川正	2	0	0	0	1
④	池谷	1	0	0	0	0
4	藤原	1	0	0	0	0
犠併残	0 0 4	24	4	1	4	2

	【東　芝】	打	安	点	振	球
⑧	前田	2	0	0	0	2
④	葛城	3	1	0	0	1
⑦	小林	3	2	1	0	0
R9	植山	2	0	0	0	0
③	丹波	4	2	2	0	0
⑨7	松原	4	2	3	1	0
D	梁原	3	2	0	0	0
RD	西村	0	0	0	0	0
②	高見	3	1	2	0	0
⑤	吉沢	3	1	0	1	1
⑥	渡辺	3	3	1	0	0
H	畠山	1	1	0	0	0
R	多田	0	0	0	0	0
犠併残	4 0 9	31	15	9	2	4

	回	安	振	球	責
佐藤	1⅓	5	1	0	3
及川弘	1⅓	6	0	2	2
加藤	3⅓	2	1	1	0
石村	⅔	2	0	1	1
三原	6	4	3	2	1
木村重	1	0	1	0	0

▷本塁打＝松原1号②(佐藤)2号(及川弘)高見1号②(佐藤)菅原1号(三原)▷二塁打＝渡辺(東)寺嶋▷犠打飛＝東4(前田、葛城、丹波、高見)▷盗塁＝東1(西村)▷失策＝J2(及川正、池谷)▷打撃妨害出塁者＝梁原▷与死球＝及川弘(葛城)加藤(吉沢)▷試合時間＝2時間15分

広角打法で猛打賞

◎…東芝・九番の左打者、遊撃手の渡辺が3打数3安打と大当たり。二回に左前へ流す好打でリズムに乗り、三回は右中間フェンス直撃の二塁打、四回には左前打と見事な広角打法を披露した。神奈川県の鶴見工高から入社して5年目。春先から調子がよく、ロッテに入った南渕の後のレギュラー入りを狙っていたが、練習中に自打球を右ひざに当てて骨折し、都市対抗出場もフイにした。それだけにこの大会にかける気迫はすさまじく、1年間の総決算の執念で"猛打賞"。

第2試合＝2回戦(午前11時42分開始)

本田技研鈴鹿	110	001	200		5
NTT関東	001	020	010		4

▶審判(球審)岡本良(塁審)吉田、大石、宮奥

	【本田鈴鹿】	打	安	点	振	球
④	旗手	3	0	0	0	2
⑧	間宮	4	2	0	0	0
D	大久保	5	2	2	0	0
⑤	岡崎	4	1	0	1	1
③	羽山	3	1	1	1	1
⑦	久芳	3	1	1	0	1
R9	高木	0	0	0	0	0
⑨7	右京	4	3	0	0	0
②	森田	3	1	0	0	0
⑥	荒川	3	0	0	1	0
犠併残	3 0 8	32	11	4	3	5

	【NTT関東】	打	安	点	振	球
⑧	小笠原	1	0	0	0	1
H	宮原	1	0	0	0	0
⑨	中野	1	0	0	0	0
H	荘司	1	0	0	1	0
⑥56	野寺	4	2	0	1	0
④	杉村	4	1	0	1	1
D	川村	4	2	3	2	1
⑨	市川	1	0	0	1	0
H7	宍倉	2	0	0	1	1
③	長井	4	1	1	0	0
⑦98	黒川	4	1	0	0	0
⑤	吉田	3	0	0	0	0
6	関口	0	0	0	0	0
H5	岩尾	1	0	0	1	0
②	池元	3	1	0	0	0
H	横山	1	0	0	1	0
犠併残	1 0 9	35	8	4	9	4

	回	安	振	球	責
湯舟	9	8	9	4	4
柳沢	1⅔	3	0	2	2
小林	3⅔	4	0	1	1
遠藤	3⅔	4	3	2	2

▷本塁打＝久芳1号(小林)大久保1号②(遠藤)長井1号(湯舟)▷二塁打＝右京、川村、黒川▷犠打飛＝本3(間宮、森田、荒川)N1(野寺)▷盗塁＝本1(間宮)N1(野寺)▷失策＝本2(荒川2)N1(吉田)▷暴投＝柳沢、湯舟▷与死球＝湯舟(川村)▷試合時間＝2時間43分

第３試合＝２回戦(午後２時54分開始)

三菱重工三原	1	3	0	0	0	0	0	0	4
ＮＴＴ北海道	1	0	0	2	1	0	0	0	5

▶審判(球審)赤井(塁審)鹿多、宮木、中川(外審)橋、北野

【三菱三原】打安点振球

Ｄ	早野	5	2	1	3	0
⑨	南谷	4	1	2	1	0
③	国只	3	1	1	1	1
⑤	小前	4	0	0	2	0
⑥	川村	4	0	0	0	0
②	坊西	3	1	0	0	1
⑦	87山下	3	1	0	0	1
④	小野田	3	0	0	1	0
Ｈ	市道	1	0	0	0	0
4	本藤	1	0	0	0	0
⑧	金広	0	0	0	0	0
7	久保	2	1	0	0	1
Ｈ	8林	1	0	0	0	0

犠 併 残
0 1 6

【ＮＴＴ北海道】打安点振球

⑧	橋本	4	0	0	1	1
⑥	寺井	4	1	1	0	1
⑦	佐藤清	4	2	0	0	1
⑤	Ｄ	3	0	0	1	1
②	池本	3	0	0	1	1
⑨	寺嶋	0	0	0	0	0
9	石遠	4	1	0	1	0
③	藤沼	3	0	0	2	1
④	飯	4	2	1	0	0

犠 併 残
3 0 10

	回	安	振	球	責
野村	6⅔	5	5	6	1
古田	2	3	2	1	1

	回	安	振	球	責
斉藤	1⅔	3	2	4	4
扇崎	7⅓	3	7	0	0

▷本塁打＝早野1号(斉藤) ▷二塁打＝国只 ▷犠打飛＝N3(寺田、春木、大村) ▷失策＝三3(南谷、川村、野村)N1(寺田) ▷暴投＝扇崎 ▷与死球＝野村(池本) ▷試合時間＝2時間47分

新人島崎、完ぺき救援

◎…底力を見せたNTT北海道の見事なサヨナラ勝ち。それをもたらしたのは、斉藤を救援した島崎(国士大)の新人とは思えない落ちついた快投だった。島崎が登板したのは、3点リードされた二回の二死一、二塁。「これ以上点はやれない。何が何でも抑えてみせる」。島崎は四番の小前を空振り三振に仕留めた。これが島崎に自信をもたらせた。

島崎が許した安打は、わずか3本だけだった。テキサス安打と暴投で迎えた七回の無死二塁が唯一の危機だったが、早野以下の上位打線を3連続三振に切って取った。うなりをあげるといった形容がピッタリの快速球で、これでチームのムードは一気に盛り上がり、サヨナラ劇に結びつけた。

第４試合＝２回戦(午後６時11分開始)

日本石油	0	0	2	1	0	1	0	0	4
大昭和製紙北海道	0	0	0	0	0	0	1	0	1

▶審判(球審)伊東(塁審)生越、片山、三宅(外審)北野、橋

【日本石油】打安点振球

Ｄ	久慈	5	1	1	1	0
④	平田	3	0	0	1	2
⑧	坂口	4	0	0	1	1
③	徳永	4	1	2	0	0
⑨	五十嵐	4	2	0	1	0
⑤	若林	3	1	0	0	1
⑦	田島	3	0	0	1	0
②	佐藤孝	4	1	1	2	0
⑥	伊藤	2	0	0	0	2

犠 併 残
1 1 8

【大昭和北海】打安点振球

④	高木	4	0	1	0	0
⑤	6社	3	1	0	0	1
Ｄ	斉藤	4	1	1	0	1
⑧	平	3	1	0	1	1
⑦	阿相	4	0	0	1	0
②	横沢	2	0	0	1	2
③	山本	4	1	0	0	0
⑨	日下	3	0	0	1	0
⑥	富永	2	0	0	0	0
Ｈ	木内	1	1	0	0	0
5	太田	1	0	0	0	0

犠 併 残
1 0 8

	回	安	振	球	責
鈴木	9	5	5	4	1

	回	安	振	球	責
大崎	4	3	3	5	3
桐木	1⅓	2	1	1	1
渡部	3⅔	1	3	0	0

▷本塁打＝佐藤孝1号(桐木) ▷二塁打＝徳永 ▷犠打飛＝日1(田島)大1(日下) ▷盗塁＝大2(社、平) ▷失策＝日1(若林) ▷与死球＝大崎3(平田2、坂口) ▷試合時間＝2時間50分

▽10月16日

第１試合＝準々決勝(午前８時58分開始)

ＮＴＴ北陸	0	0	0	0	0	1	0	0	1
河合楽器	5	0	0	0	0	0	0	0X	5

▶審判(球審)中西(塁審)赤井、南垣、片岡

【ＮＴＴ北陸】打安点振球

⑦	広瀬	4	0	0	0	0
⑧	堺	2	0	0	0	1
Ｈ	8前原	1	0	0	0	0
④	祖泉	4	1	0	0	0
Ｄ	大川	4	1	0	0	0
③	平尾	4	1	0	0	0
⑨	川崎	4	1	1	3	0
⑥	尾前	3	1	0	1	0
Ｈ	水本	1	0	0	1	0
②	下野	2	0	0	0	0
⑤	梅沢	2	0	0	0	1

犠 併 残
1 1 6

【河合楽器】打安点振球

⑥	盛	4	1	0	1	0
④	尾上	4	2	1	0	0
③	村瀬	4	2	0	0	0
⑨	樽井	2	0	0	0	2
⑤	清水	4	1	1	0	0
⑧	西原	3	2	1	1	1
Ｄ	吉村	3	2	2	0	0
②	安間	2	0	0	1	0
⑦	中	3	0	0	0	0

犠 併 残
2 0 5

	回	安	振	球	責
奥村	⅔	5	0	2	5
佐藤	7⅓	5	3	1	0

	回	安	振	球	責
平田	9	5	5	2	1

▷二塁打＝尾上、大川 ▷犠打飛＝N1(下野)河2(吉村、安間) ▷盗塁＝河2(村瀬2) ▷与死球＝奥村(西原)平田(梅沢) ▷試合時間＝2時間12分

第２試合＝準々決勝(午前11時43分開始)

日産自動車	0	0	0	0	1	0	0	0	1
日本生命	2	0	1	0	0	0	0	0X	3

▶審判(球審)小林(塁審)長谷、桃田、吉田

【日産自動車】打安点振球

⑧	日置	4	1	0	2	0
⑦	竹内	3	1	1	1	0
④	渡辺	3	2	0	0	0
⑨	鶴岡	3	0	0	0	1
⑤	上八木	3	0	0	0	1
ＤＨ	下田	3	0	0	2	0
③	闇中	3	1	0	0	0
Ｒ	田安	0	0	0	0	0
⑥	本瀬	2	0	0	0	2
Ｈ	松天	1	0	0	0	0
6	阿部	3	0	0	3	0
②	小原	3	1	0	0	0
Ｈ						

犠 併 残
1 0 8

【日本生命】打安点振球

④	大島	3	2	0	0	1
⑧	内匠	4	0	0	0	0
⑥	十河	3	0	0	1	1
③	佐藤清	4	2	1	0	0
⑦	高橋	3	0	1	0	0
Ｈ	児玉	0	0	0	0	1
7	中橋	0	0	0	0	1
Ｄ	熊添	3	1	0	0	0
⑨	赤守	3	0	0	0	1
9	川瀬	4	2	0	0	0
⑤	屋中	2	0	0	0	0
Ｈ	村	2	0	0	0	0
5	岡	3	0	0	1	0
②						

犠 併 残
1 0 7

	回	安	振	球	責
和田	8	7	4	4	3

	回	安	振	球	責
木村	9	5	12	3	0

▷犠打飛＝産1(闇)本1(中村) ▷失策＝本1(川瀬) ▷与死球＝和田(扇崎) ▷試合時間＝2時間48分

悔やまれる第１球

◎…「第1球を大島選手に当ててしまってリズムを狂わせた」と、日産自動車の和田は悔やんでも悔やみきれない様子。評判が高い日本生命、木村投手との投げ合いとあって「絶対先に点はやれない」という意識が手元を狂わせたようで「手が縮んでいた感じ。佐藤(清)さんには直球をタイムリーされたが、引き金は第1球の失投でした」と何度も首をかしげた。一方にも3安打で1点を許したが、四回以降はスライダーを多投して抑えただけに悔やまれる立ち上がりのミスだった。

第３試合＝準々決勝(午後２時58分開始)

東芝	0	1	4	0	2	0	4		11
本田技研鈴鹿	0	0	0	0	0	0	0		0

▶審判(球審)大橋(塁審)岡本良、鹿多、美馬(外審)榎田、橋

【東芝】打安点振球

⑧	前田	5	1	1	1	0
④	葛城	4	2	1	1	1
⑦	小林	1	0	0	0	3
Ｒ7	多田	0	0	0	0	1
③	丹松	5	3	1	1	0
⑨	村田	3	2	1	1	0
Ｈ	9原上	1	0	0	0	1
9	辺梁	3	1	1	0	1
Ｄ	原	3	1	1	0	1
ＨＤ	村見	4	2	2	1	0
②	高吉	4	2	2	1	0
⑤	吉渡	4	2	1	2	1
⑥	木村哲	0	0	0	0	1
Ｒ6	西村	0	0	0	0	0

犠 併 残
3 0 11

【本田鈴鹿】打安点振球

④	旗手	3	1	0	1	0
⑧	間宮	3	0	0	1	0
Ｄ	大久保	3	0	0	0	0
⑤	岡崎	3	0	0	1	0
③	羽山	3	2	0	0	0
⑦	芳	3	0	0	1	0
⑨	久右京	2	0	0	0	0
②	森田	1	0	0	0	1
Ｈ2	福原	1	0	0	1	0
⑥	荒川	1	0	0	0	0
Ｈ	今山	1	0	0	0	0
6	纐纈	0	0	0	0	0

犠 併 残
0 0 3

	回	安	振	球	責
菊池	7	3	6	0	0

	回	安	振	球	責
湯舟	4	6	3	3	5
吉村	2⅓	5	2	3	3
樋口	⅔	3	1	2	2

▷二塁打＝渡辺、梁原 ▷犠打飛＝東3(松原、高見、渡辺) ▷盗塁＝東5(葛城、松原2、高見、吉沢) ▷失策＝本1(福原) ▷与死球＝樋口(多田) ▷捕逸＝森田 ▷試合時間＝2時間7分

第４試合＝準々決勝(午後５時34分開始)

日本石油	0	1	0	3	0	0	3	1	8
ＮＴＴ北海道	4	0	0	0	0	0	0	0	4

▶審判(球審)辻(塁審)伊東、生越、宮奥(外審)榎田、橋

【日本石油】打安点振球

Ｄ	久慈	2	1	0	0	3
④	平田	4	1	0	1	0
⑧	坂口	4	0	1	0	1
③	徳永	4	1	0	1	1
⑨	五十嵐	4	2	1	0	0
⑤	若林	4	3	1	0	0
⑦	田島	2	1	1	0	0
②	佐藤孝	3	0	0	1	0
⑥	伊藤	3	0	1	2	0

犠 併 残
6 1 6

【ＮＴＴ北海道】打安点振球

⑧	橋本	4	1	1	1	1
⑥	寺井	4	1	0	3	0
⑦	柏木	1	0	0	1	1
Ｈ7	春木	1	0	0	0	0
⑤	竹沢	4	0	0	2	0
Ｄ	大池	3	0	0	1	1
②	仙内	3	2	1	0	0
Ｈ	寺嶋	0	0	0	0	1
⑨	鶴鳶	0	0	0	0	0
9	石黒	1	1	0	0	0
Ｈ9	遠藤	3	1	0	0	0
③	木沼	3	0	0	0	0
Ｈ	飯内	1	0	0	0	1
④	山	0	0	0	0	0
Ｈ						

犠 併 残
1 0 6

	回	安	振	球	責
増永	⅔	3	1	1	3
木村	8⅓	4	8	4	0

	回	安	振	球	責
斉藤	3⅓	5	0	2	4
小林	2⅔	2	3	3	2
島崎	2	2	1	0	1
佐藤	1	0	1	0	0

▷本塁打＝橋本1号(増永)五十嵐1号②(斉藤)2号②(島崎)若林1号(斉藤) ▷二塁打＝大村、石黒 ▷犠打飛＝日6(平田、五十嵐、田島2、佐藤孝、伊藤)N1(井城) ▷盗塁＝N1(井城) ▷失策＝日2(平田、坂口)N1(池本) ▷与死球＝木村2(大村、内山)斉藤(徳永) ▷試合時間＝2時間55分

▽10月17日

第１試合＝準決勝(午前９時59分開始)

日本生命	0	0	0	4	2	1	0	2	9
河合楽器	0	0	0	0	0	1	1	2	2

▶審判(球審)中西(塁審)生越、浜田、中川

【日本生命】打安点振球

④	大島	5	2	1	0	0
⑧	内匠	4	0	0	0	1
⑥	十河	5	2	2	2	0
③	佐藤清	5	2	3	1	0
Ｄ	熊添	5	4	2	1	0
⑨	守児中	4	2	1	1	0
7	中橋	3	1	0	0	2
⑤	中村	2	1	0	0	2
②	岡	2	2	0	0	0
2	内田	0	0	0	0	0

犠 併 残
3 3 8

【河合楽器】打安点振球

⑥	盛	4	0	0	0	0
④	尾上	3	0	0	1	1
③	村瀬	4	1	0	1	1
⑨	樽井	4	2	1	1	0
⑤	清水	4	1	0	0	2
⑧	西原	3	1	0	0	2
ＤＨ	吉村	1	1	1	0	0
ＲＤ	佐川	1	1	1	0	0
②	安牛	2	1	0	1	0
Ｈ2	尾上	1	0	0	0	0
2	加中	0	0	0	0	0
⑦	塗	3	0	0	0	0

犠 併 残
0 1 3

	回	安	振	球	責
新谷	7	1	7	1	0
伊藤	2	5	0	1	2

	回	安	振	球	責
野末	4⅔	6	5	2	4
徳永	1	2	0	2	2
竹之内	3⅓	6	0	2	3

▷本塁打＝熊添1号(竹之内) ▷三塁打＝児玉、佐藤清 ▷二塁打＝樽井 ▷犠打飛＝日3(守屋、中村、岡) ▷盗塁＝日4(大島2、内匠、十河) ▷暴投＝竹之内 ▷与死球＝竹之内(岡) ▷試合時間＝2時間53分

日生本領、〝足技〟急加速

日本生命が集中打に機動力を絡めて大量点を挙げ、新谷の好投で圧勝した。

日生は五回無死から児玉が左中間二塁打、中村四球のあと、岡の遊ゴロで中村が三封される間に児玉が還って先制。左前打の大島が、左翼手の返球のそれる間に好走して一、三塁。二死後、十河の遊撃内野安打で2者が生還、佐藤清も右中間へ三塁打し、計4点を入れ、野末をKOした。

日生は六回にも二番手徳永を攻め、守屋の安打と児玉の四球、送りバントで二、三塁。岡の右犠飛と、大島の一塁線へのバント安打で2点を加えた。七回には熊添が竹之内から左翼ポール際にソロアーチして勝負を決めた。

河合は新谷の速球にカーブ、スライダーを織り交ぜた投球に、交代する七回まで無得点。2度の走者も併殺に取られ、一番手の伊藤から八、九回に1点ずつ返したが手遅れ。連投を避けてエース平田を温存したのが裏目に出た。

第２試合＝準決勝(午後１時22分開始)

日本石油	1	0	2	1	0	2	3	0	2	11
東芝	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

▶審判(球審)大橋(塁審)辻、赤井、上杉

【日本石油】打安点振球

Ｄ	久慈	5	3	2	0	0
④	平田	5	3	0	0	0
⑧	坂口	5	3	2	0	0
③	徳永	4	1	0	0	1
⑨	五十嵐	5	2	1	0	0
⑤	若林	4	2	4	0	0
⑦	田島	4	2	0	0	0
Ｈ	高林	1	0	0	1	0
7	副島	0	0	0	0	1
②	佐藤孝	2	1	0	1	1
Ｈ2	佐藤健	1	0	0	0	0
⑥	伊藤	4	0	0	1	0

犠 併 残
2 1 6

【東芝】打安点振球

⑧	前田	2	0	0	0	0
Ｈ9	植山	2	0	1	1	1
④	葛城	3	0	0	1	1
⑦	小林	3	1	0	0	1
③	丹波	3	0	0	1	1
⑨	8松原	3	2	0	0	0
Ｄ	梁原	4	1	0	0	1
②	高見	3	0	0	1	1
⑤	吉沢	3	1	0	0	1
⑥	渡辺	1	0	0	0	0
Ｈ	畠山	1	0	0	1	0
6	後藤	0	0	0	0	0
Ｈ6	西村	2	0	0	1	0

犠 併 残
0 2 9

	回	安	振	球	責
鈴木	6⅔	4	4	7	1
高橋	2⅓	1	2	0	0

	回	安	振	球	責
三原	3⅓	6	1	0	4
木村重	1⅔	3	1	0	0
山崎	⅓	2	0	0	2
菊池	2⅔	6	0	2	4
福谷	1	0	1	0	0

▷本塁打＝坂口1号②(三原)若林2号(三原)3号②(菊池) ▷三塁打＝五十嵐 ▷二塁打＝佐藤孝、吉沢、五十嵐 ▷犠打飛＝日2(若林、佐藤孝) ▷盗塁＝日1(平田)東1(植山) ▷失策＝日1(佐藤孝)東2(松原、高見) ▷与死球＝菊池(佐藤孝) ▷試合時間＝2時間58分

鈴木力投、荒れ球で〝曲者〟退治

日本石油が3本塁打を含む17長短打を東芝5投手に浴びせ、エース鈴木が東芝打線を抑えて、一方的な勝利を収めた。

日本石油は一回、久慈、平田、坂口の3連打でつかんだ無死満塁は、徳永の遊ゴロ併殺の間の1点に終わったが、三回二死三塁に坂口が右越えに2点本塁打。四回は一死から若林が左越え本塁打して、東芝の先発・三原をKO。さらに攻撃の手を緩めず、六回は田島、佐藤孝の短長打の二死二、三塁に、久慈の遊撃不規則安打で2点。七回には五十嵐の三塁打で1点を取ったあと若林が左越え2ランを放つなど、着実に加点した。

2試合連続コールド勝ちしていた東芝は、鈴木の荒れ気味の投球に的が絞れなかった。二回一死一、二塁で高見が遊ゴロ併殺に倒れ、六回の二死満塁には梁原が遊直。七回一死二、三塁から植山の遊ゴロで1点を返すのがやっと。鈴木―高橋の継投に5安打と沈黙した。

▽10月18日

優勝戦(午後1時開始)

日本石油	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4
日本生命	3	0	0	2	2	4	0	0	X	11

▶審判(球審)三宅(塁審)小林、大橋、東

【日本石油】

	打	安	点	振	球
D 久 慈	4	1	0	1	0
④ 平 田	3	0	0	0	1
⑧ 坂 口	4	0	0	0	0
③ 徳 永	4	1	0	1	0
⑨ 五十嵐	4	2	1	0	0
⑤ 若 林	4	1	0	0	1
⑦ 田 島	2	0	0	0	1
H 副 島	1	0	0	1	0
② 佐藤孝	2	0	0	0	0
H 森	1	0	0	0	0
2 佐藤健	1	0	0	0	0
⑥ 伊 藤	3	1	0	0	0

犠 併 残
0 0 4 33 6 1 3 2

【日本生命】

	打	安	点	振	球
④ 大 島	4	1	0	0	1
⑧ 内 匠	3	1	1	0	0
⑥ 十 河	4	3	6	0	0
③ 佐藤清	4	0	1	1	0
D 熊 添	4	1	2	1	0
⑨ 山 上	0	0	0	0	0
7 高 橋	3	1	0	0	0
R9 守 屋	1	0	0	0	0
⑦ 赤 沢	0	0	0	0	0
97 中 橋	2	1	0	0	1
H7 児 玉	1	0	0	0	1
⑤ 中 村	3	1	0	0	1
② 岡	3	1	2	1	0

犠 併 残
2 1 3 32 10 11 3 4

	回	安	振	球	責
木 村	4	4	1	3	5
高 橋	3⅔	3	1	0	2
鈴 木	1	3	0	1	4
田 口	2⅓	0	1	0	0

	回	安	振	球	責
新 谷	5⅔	6	2	1	0
木 村	3⅓	0	1	1	0

▷本塁打＝十河1号②(高橋)▷二塁打＝熊添、岡、伊藤、若林、十河▷与死球＝木村2(中橋、中村)新谷(平田)▷犠打＝生2(内匠、岡)▷盗塁＝石1(坂口)生4(大島2、十河、中橋)▷失策＝石1(高橋)生2(新谷、岡)▷試合時間＝2時間30分

新谷―木村、必勝リレーで――日石かわす

好機に適時打が出て、着々と加点した日本生命が新谷―木村の必勝リレーで強打の日本石油打線をかわし、圧勝した。

日生は一回、無死一、二塁から、十河が左前へ先制打。佐藤清の右飛で一、三塁とし、熊添が左翼線へ2点二塁打した。

主導権を握った日生は四回、岡が左越え二塁打して2者を還した。

続く五回には十河が左翼に2ラン。3点差に詰め寄られた六回一死満塁に、十河が左中間に走者一掃の二塁打するなど4点を挙げ、大勢を決定づけた。

日石は新谷の低めを突くシュートに手こずり、五回までわずか2安打に抑えられていたが、六回一死満塁に、坂口の投ゴロを新谷が本塁へ悪送球し、2者が還った。なおも一、三塁で、坂口が二盗、捕手の二塁悪送球の間に三進、五十嵐の右前打でこの回4点を返したが、救援した木村の緩急をつけた巧みな投球に反撃の糸口をつかめなかった。

監督談話

日本生命・井尻陽久監督　六回にすぐ突き放したのがよかった。十河の2本の長打が効きました。日石の投手は疲れていたんでしょう。点差ほどに力の差はない。大会を通じて守りと足を生かしたうちの野球ができた。

日本石油・林裕幸監督　うちの投手事情から木村を先発させるしかなかった。昨年に続き準優勝ですが、選手はよく戦ってくれたと思う。大学(東海大)の先輩の井尻さんのように、私も立派なチームを作って日本一を目指したい。

監督ひと

日本生命　井尻(いじり) 陽久(はるひさ)監督

走者はどん欲に次の塁を狙う。投手はカウント2－0から打ち取りに行く。目標とする「攻撃的な野球」そのまま、すべてに積極的なさい配を振るって、グリーンスタジアム神戸に移った初の大会を制した。

「西の横綱」といわれ、常に社会人野球の強豪としての存在を誇示しなければならない日本生命。だが、1985年の都市対抗に優勝した直後から都市対抗、日本選手権の予選で敗退し続ける低迷期に落ち込んだ。名門復活を託されて監督に就いたのが、89年の秋。「まず守りを固めて」とチーム作りをスタートさせたが、なによりも選手たちが闘志をむき出しにするプレーを求めた。

「選手たちはいいものを持っているが、おとなしすぎる。だから、三振してバットをたたきつけるくらいの激しさを見せろ」と。チームの体制も、投打のコーチのほかに専門のトレーナーを置き、体調から食事の管理もし、相手の戦いぶりを偵察したり、高校、大学の試合を見て回るマネジャーを増員した。「強いチームにするには、教育(練習)と(選手の)補強が必要」。強固なスタッフの上に立って、選手を果敢に動かした。

東海大相模高で夏の甲子園に優勝。同高に進んだのは「当時、監督だった原貢さんの誘いに、子供ごころにも、野球に対する情熱を知らされたから」。すぐレギュラーになり、遊撃手で主軸を打った。これは東海大でも、日本生命でも変わらなかった。どこでもチームのけん引車だった。

「いい選手、コーチ、そして社内の大きなバックアップに支えられました。本当に運がいい、と思う」。選手時代からプレッシャーに強かった。監督になっても最後まで冷静だった。

和歌山県出身。70年夏の甲子園で優勝した東海大相模高の主将。東海大を経て日本生命に。89年から監督。38歳。　(笹尾　勝彦)

〔優勝戦〕日本生命－日本石油　一回裏、日本生命二死二塁、中橋の左前打で熊添がホームを突いたが、好返球にタッチアウト。(捕手・佐藤)

投打全開、日生雪辱の大旗

ここぞの時に果敢な〝足技〟

熱球

日本石油の最後の打者、佐藤健を三ゴロに仕留めるとマウンドの右腕、木村は高々と両手を突き上げた。「ウォー」という歓声とともにその木村をめがけてなだれこむ選手たち。昨年の準決勝で九回に逆転され、初の優勝戦進出を阻まれた日本石油を破っての優勝に、喜びはまた格別だった。

ともに大会を通じて自責点ゼロの快挙を成し遂げた新谷、木村の両右腕の好投とともに初Vへの大きな推進力となったのがルーキーたちのはつらつとしたプレーだった。先頭に立ったのが165㌢、65㌔の小柄な一番打者、大島(法大)。一回、2－3から四球で歩いた。定石なら続く内匠がバントで送る場面だ。しかし日石の先発、木村の警戒が甘いと見た大島は内匠への2球目に二塁を陥れた。さらに内匠のバントの時には好スタートでバッテリーを揺さぶり、捕手の野選を誘った。「相手のスキを突いてひとつでも前に進むのが僕の役目」。大島の加入は昨年までの日生の「おとなしいチームカラー」を一変させた。機動力を使った攻めで日石の先発、木村の気持ちをぐらつかせ十河の適時打、佐藤清の進塁打、夏以降めきめきと頭角を現してきた新人、熊添(東海大)の左翼線二塁打を引き出した。

六回、日生は4点を失い、試合の流れはやや日石に傾きかけたが、その裏にも大島の足が生きた。一死二塁に三遊間突破安打、一死一、三塁と好機を広げたあと、すぐに二盗、続く内匠の四球、十河の走者一掃の左中間二塁打に結びつけた。

3年目の木村と4年目の右腕、新谷の2人の投手を中心とした堅いディフェンスに加え、機動力で相手の攻守のリズムをかく乱できるようになったことが今年の日生の強さを物語る。今夏の都市対抗一回戦で逆転負けを喫したNTT東北にもこの大会で雪辱。すっかり借りを返してつかんだ初Vに、グラウンドを一周するナインの胸中は、この日の抜けるような青空のように澄みきっていた。　(江尻　進一)

まさに「優勝男」

日生・内匠

◎…「入社1年目で〝金メダル〟。高校、大学、社会人で日本一ですから強運としか言いようがありませんね」と、日本生命のルーキー内匠は自信にあふれた笑顔。PL学園高時代は3年の夏の甲子園、近大時代は3年、4年と連続で大学選手権を制し、社会人でも優勝。「優勝戦はこれで4戦4勝と負け知らずなんです。今大会は二番の責任も果たせたと思うし、高校、大学とは違った満足感いっぱいの日本一。残るは都市対抗だけです」と、威勢のいい言葉がポンポン飛び出した。

ズームアップ
木村真樹投手
日本石油・20歳

緊張して制球乱れる

だれもが驚いた先発起用だった。全日本メンバーでもあるエース鈴木が、最後のマウンドに登ると思われた。しかし、準優勝に泣いた昨年の雪辱をかけた林監督が必勝を期して送ったのは鈴木の1年後輩、木村だった。

先発を言い渡されたのは、前日の準決勝終了直後のベンチ。「いえ、別に驚きませんでした。鈴木さんが準決勝で投げていたし、僕が先発だろうと予想していた」と落ち着き払って答えた。たしかに準々決勝のNTT北海道戦では一回途中からのロングリリーフを4安打無失点に抑えチームの逆転劇を引き出すという好投はあった。しかし、林監督の思い切った起用は、肩の故障で今年3月からまる6カ月間、戦列から離れていたものの、昨秋、秋村(広島)、金沢(ダイエー)がプロ入りしたチームを支える新エースとして期待されていたのはむしろ木村だったからだ。NTT北海道戦で実質的な社会人デビューを飾り、この日で完全復調を示してもらいたいという願いもあった。

ところが、いきなりつまずいた。一回、先頭の大島に四球を与え、二盗を許すと、内匠の送りバントが捕手の野選を誘って無死一、二塁。守りのミスでつくったピンチに適時打、二塁打を浴びせられ3点を失った。二回からは「開き直って肩の力を抜き」(木村)8人連続で三振や凡打に仕留めて一人の走者も出さなかったが、四回二死からコースを狙いすぎて2連続死球を与え、二塁打で2点を失い、降板した。打たれた球はすべて甘いストレート。「みんな甘いコースに入った。コントロールがまったくだめで、力の半分も出せなかった」とチームメートに申し訳なさそうに、ため息をついた。

社会人2年目。宇部商高時代は3年の春と夏に甲子園を経験し、いずれもベスト8進出。全国大会での優勝戦のマウンドは、この日が初めて。「やはり緊張してボールが上ずってしまった。僕にはまだ甘いところがある」。来季への課題をしっかりと胸にしまい込んだ顔だった。

―3本塁打が自信に―
日石・若林

⑩…六回、それまで好投していた日本生命、新谷を降板させる二塁打を放った日本石油の若林は「(二塁から見ていて)救援の木村さんは球が走っていなかった。一気に逆転できる、と思ったが……。あと1本が出なかった」と唇をかんだ。"完封ペース"で投げていた新谷がこの回自らの失策で動揺したのにつけ込み、4点を挙げて3点差に迫る押せ押せのムードでの打席。思い切ってバットを振ったので新谷さんの内角直球に力負けしなかった。攻撃前の円陣で監督に『お前ら暗いぞ』と言われ、ベンチに気迫が戻った」という。後続が倒れ、優勝は逃したとはいえ、今大会最多の3本塁打を放ち、チーム準優勝の原動力になった。「都市対抗は4打数1安打2三振と不振だっただけに大舞台で活躍でき自信がついた。実り多い大会でした」と閉会式では晴れやかな表情に戻っていた。

第17回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞　新谷博投手(日本生命)　初戦(二回戦)のNTT東北戦で6者連続三振(タイ記録)を含む、毎回の14三振をとり、最多奪三振の新記録を作って完封勝利。「高校(佐賀商)時代のように三振を狙ってとれる"攻めの投球"ができるようになった。あの完封ですっかり自信がついた」

打者の手元でホップする速球、低めに制球されたスライダー、シュートを小気味良く投げ続け、準決勝の河合楽器戦では七回まで被安打1、二塁を踏ませない好球。連投の優勝戦でも五回まで2安打に抑えた。六回に自らの悪送球をきっかけに4点を許したのが、この大会初めての失点で、21イニング無失点と実に安定していた。「素晴らしい球威と切れを持っているのに"心"が弱くて」と、井尻監督に実力は高く評価されながらも、精神面の弱さを指摘されてきた。しかし、都市対抗以降「フラフラになるまで練習した。木村に負けるものか、とライバル心を燃やした」というように高校時代の「闘争心」をよみがえらせた。

「これまで賞には縁がなかったが、社会人野球の二大大会の一つでMVP。うれしいのひと言です」と、肩やひじの張りも忘れてさわやかな笑顔を見せた。佐賀商高から駒大を経て入社4年目。183㌢、77㌔、右投げ、右打ち。団体保険第一課勤務。26歳。

◇打撃賞　十河章浩遊撃手(日本生命)　「昨年、準決勝で敗れた日本石油を降して優勝でき、もう最高です。そのうえ賞をもらえるなんて……」と二重の喜びを手にした。とにかくけがの多い選手。両足に肉離れを起こしたのが2月中旬。かばいながらのシーズンインだった。

さらに、8月に全日本メンバーとしてカナダ遠征した際、キューバ戦で右足首をねん挫。予選やこの大会は、奥河清トレーナー(37)に患部を固定してもらって臨んでいた。初戦のNTT東北戦に無安打に終わったことから「けがを気にしてしまう。自分の力を思い切り出そう」と、前日の河合楽器戦からテーピングをやめた。

「(河合楽器戦で)三、五打席に安打出来て勘が戻ってきた」と、優勝戦の全力プレーに結びつけた。セールスポイントは打撃ではなく「守備と足」。優勝戦の六回に走者一掃の二塁打を放ったあと、三盗を決めて佐藤清の二ゴロで生還。その真価を見せつけた。近大出の2年目。175㌢、65㌔。右投げ、右打ち。団体保険第一課勤務。23歳。

◇首位打者賞　松原和也外野手(東芝)　4試合で11打数6安打、5打点。打率5割4分5厘をマークした。大分・国東(くにさき)高から九州国際大を経て今春入社。新人離れしたシャープな打撃を披露したのが二回戦のJT戦。第一打席でカーブを引っ張って右翼席へ。第二打席では速球をバックスクリーン右へライナーで運び、史上8回目の2打席連続本塁打を記録した。172㌢、75㌔と体は大きくないが、安定した下半身とリストの利いた打撃は、早くも東芝打線の主軸を担う強打者に成長している。右投げ、左打ち。昇降機事業部勤務。23歳。

◇敢闘賞　五十嵐章人右翼手(日本石油)　準決勝までの3試合で13打数6安打と打ちまくり、準々決勝のNTT北海道戦では2本塁打(タイ記録)を放つなど、強打と巧打を発揮。この日も2安打1打点を記録するなど五番打者としての力を披露した。

「いくら打っても、試合で負けてしまっては……。昨年も準優勝だったから、余計に悔しい」と出てくる言葉は重く、表情も険しかった。試合後に敢闘賞だと聞いても「賞をもらうのはうれしいには違いありませんが、でも……」と真の喜びはなかなか伝わって来なかった。

今季は6月末の都市対抗神奈川予選まで不調に陥っていたが、スタンスをやや狭くするなど工夫して本来の打撃が出来るようになった。

この日の二回の一、二塁間安打と1打点を挙げた六回の右前打は「両方ともストレートでした」と振り返った。

群馬県の前橋商高時代は投手で3年生の夏、甲子園に出場。1987年春に日石に入社し、1年半は投手だったが、公式戦の勝利ゼロ。その後、外野手へ転向、投手出身らしく強肩。180㌢、72㌔、右投げ左打ち。横浜製油所勤労課勤務。22歳。

◇大会優秀選手

【投手】木村恵二(日本生命)新谷博(日本生命)鈴木健(日本石油)　**【捕手】**高見泰範(東芝)岡隆博(日本生命)　**【一塁手】**佐藤清(日本生命)丹波健二(東芝)　**【二塁手】**大島公一(日本生命)尾上裕介(河合楽器)　**【三塁手】**若林重喜(日本石油)　**【遊撃手】**十河章浩(日本生命)伊藤義樹(日本石油)　**【外野手】**五十嵐章人(日本石油)鶴岡昌宏(日産自動車)松原和也(東芝)　**【DH】**熊添英樹(日本生命)久慈照嘉(日本石油)

◇10回出場選手　山本智久(四国銀行)、佐藤清(日本生命)

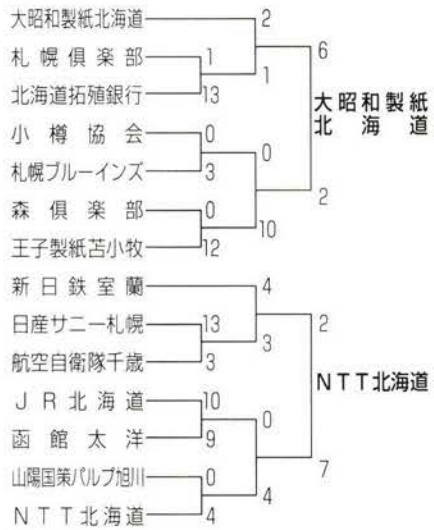
◇10年連続審判　小林勉、大橋慶三、吉田龍男

第17回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月11日から　5日間　　札幌市営円山球場



東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽**一回戦**　自衛隊青森14－0全弘前、八甲ク10－4南郷村硬球会▽**準決勝**　自衛隊青森13－0オール青森、三菱製紙八戸7－3八甲ク▽**決勝**　三菱製紙八戸4－1自衛隊青森（勝者は第2次予選へ）

◇**岩手**▽**一回戦**　赤崎野球ク3－2オール釜石、一関三星ク9－1岩手アイワ、雫石ク11－1東北ハーネス▽**二回戦**　東京製綱7－3遠野ク、宮城建設5－3オール不来方、水工ク14－1住田ク、釜石野球団4－3小野田セメント、赤崎野球ク4－3水沢駒形ク、県経済連10－0一関三星ク、岩手銀行7－3雫石ク、オール江刺4－3大槌球友▽**準々決勝**　東京製綱9－7宮城建設、県経済連9－0赤崎野球ク、釜石野球団12－5水工ク、岩手銀行11－1オール江刺▽**準決勝**　岩手銀行6－0釜石野球団、県経済連3－0東京製綱（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　県経済連4－3岩手銀行

◇**秋田**▽**一回戦**　フェニックスク6－5能代松陵ク、ＴＤＫ11－0秋田経法大ク、秋田あけぼの銀行4－2王冠ク▽**準決勝**　秋田銀行5－2フェニックスク、秋田あけぼの銀行8－7ＴＤＫ▽**決勝**　秋田あけぼの銀行17－2秋田銀行（勝者は第二次予選へ）

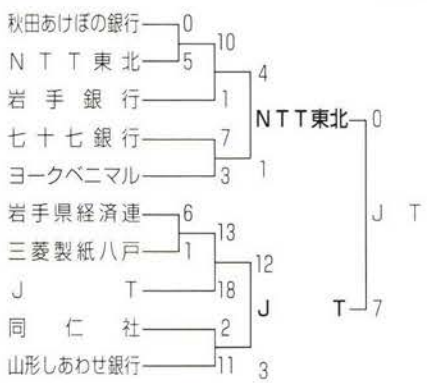
◇**宮城**▽**一回戦**　ＮＴＴ東北15－2オールカメイ、七十七銀行10－3十条製紙、ＪＲ東日本東北12－2日産サニー宮城、ＪＴ23－0白山ク▽**準決勝**　七十七銀行8－7ＮＴＴ東北、ＪＴ4－3ＪＲ東日本東北（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ＪＴ6－1七十七銀行▽**敗者復活一回戦**　オールカメイ21－7十条製紙、日産サニー宮城12－5白山ク▽**敗者復活二回戦**　ＪＲ東日本東北7－0オールカメイ、ＮＴＴ東北20－1日産サニー宮城▽**第三代表決定戦**　ＮＴＴ東北7－2ＪＲ東日本東北（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽**一回戦**　鶴岡野球ク12－1三川ク▽**準決勝**　山形しあわせ銀行3－1鶴岡野球ク、米沢中央ク7－3新庄球友ク▽**決勝**　山形しあわせ銀行23－3米沢中央ク（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽**一回戦**　ヨークベニマル（不戦勝）トヤ野球ク▽**二回戦**　小峰ク9－2矢吹ク、同仁社11－8学石ＯＢク、北斗野球ク15－11飯野ク、郡山ベースボールク10－1須賀川ク、会津若松ク14－6川俣ク、全白河野球ク8－1ニュー相馬、小名浜ク17－10福島硬友ク、ヨークベニマル22－0塙ク▽**準々決勝**　ヨークベニマル10－0会津若松ク、小峰ク13－7小名浜ク、同仁社4－3北斗野球ク、全白河野球ク8－5郡山ベースボールク▽**準決勝**　ヨークベニマル11－1小峰ク、同仁社9－0全白河野球ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ヨークベニマル15－1同仁社

▶二次予選

9月15日から　3日間　　県営宮城球場



関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽**リーグ戦**　日立製作所10－0鹿島石油、住友金属鹿島16－0鹿島石油（日立製作所、住友金属鹿島は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽**一回戦**　全浦和5－1大和ク、エーザイ8－2かみかわク▽**準々決勝**　川口球友ク13－11全三郷、日本通運11－2全浦和、全大宮15－9都幾川ク、本田技研11－0エーザイ▽**準決勝**　本田技研12－0全大宮、日本通運14－4川口球友ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本通運10－5本田技研

◇**千葉**▽**リーグ戦**　ＮＴＴ関東4－3川鉄千葉、ＮＴＴ関東4－3川鉄千葉、川鉄千葉5－4新日鉄君津（ＮＴＴ関東、川鉄千葉は第二次予選へ）

◇**東京**▽**一回戦**　鷺宮製作所14－3太陽神戸三井銀行、朝日生命14－3日本ＩＢＭ、東京ガス19－0リクルート▽**準々決勝**　プリンスホテル22－5明治生命、鷺宮製作所4－2ＪＲ東日本、ＮＴＴ東京11－9朝日生命、東京ガス8－6熊谷組▽**準決勝**　鷺宮製作所14－7プリンスホテル、ＮＴＴ東京6－3東京ガス（勝者は第二次予選へ）▽**第三代表決定戦**　東京ガス19－11プリンスホテル（勝者は第二次予選へ）

◇**東京多摩**▽**一回戦**　全調布16－9武蔵野ク▽**準決勝**　スリーボンド9－0（※没収試合）全調布、東芝府中9－2全府中（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　東芝府中3－1スリーボンド

※全調布は八番打者にＤＨを起用していたが、1度も打撃を完了せず、代打を使ったが、この行為は日本野球連盟内規の指名打者（ＤＨ）規則に反すると、没収試合となった。

◇**神奈川**▽**一回戦**　川崎ク17－5横浜高島屋、三菱自動車川崎22－0神奈川ク、横浜金港ク18－0横浜球友ク▽**準々決勝**　日産自動車14－2川崎ク、三菱自動車川崎11－5三菱重工横浜、日本石油7－3いすゞ自動車、東芝16－1横浜金港ク▽**準決勝**　日産自動車10－5三菱自動車川崎、東芝7－5日本石油（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日産自動車12－7東芝▽**三位決定戦**　日本石油10－9三菱自動車川崎（勝者は第二次予選へ）

◇**東京・神奈川**▽**敗者復活戦**　三菱自動車川崎（神奈川4位）3－1プリンスホテル（東京4位）

◇**山梨**▽**一回戦**　山梨球友ク9－5東海甲府ク、オール櫛形12－3峡北ク、大月ク13－5市川ク、甲府ベースボールク15－9桂ク▽**準決勝**　オール櫛形6－3山梨球友ク、大月ク17－14甲府ベースボールク▽**決勝**　オール櫛形10－0大月ク（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

8月21日から　2日間
9月17日から　4日間　　千葉マリンスタジアム

関東選抜リーグ決勝トーナメント

（8月22日、千葉マリンスタジアム）

〈決　勝〉

北信越大会

▶一次予選

◇**新潟**▽**一回戦**　長商ク6－3白根野球団、佐渡軍団12－3長岡ク、ニチエー14－0ＫＤク、新潟コンマーシャル3－2オール新発田▽**準々決勝**　全飯豊11－8長商ク、佐渡軍団15－7オール東、ニチエー12－2ＭＧク、新潟コンマーシャル14－13新津ク▽**準決勝**　ニチエー10－0新潟コンマーシャル、全飯豊9－4佐渡軍団▽**決勝**　ニチエー15－6全飯豊（勝者は第二次予選へ）

◇**長野**▽**リーグ戦**　ＮＴＴ信越15－0全松本、ＴＤＫ千曲川10－0全松本、ＮＴＴ信越12－1ＴＤＫ千曲川（ＮＴＴ信越、ＴＤＫ千

曲川は第二次予選へ）

◇**富山▽リーグ戦**　北陸銀行11－1伏木海陸運送、ＮＴＴ富山12－2伏木海陸運送、北陸銀行10－0ＮＴＴ富山（3チームとも第二次予選へ）

▶二次予選

9月1日から　2日間　　県営富山球場

東海大会

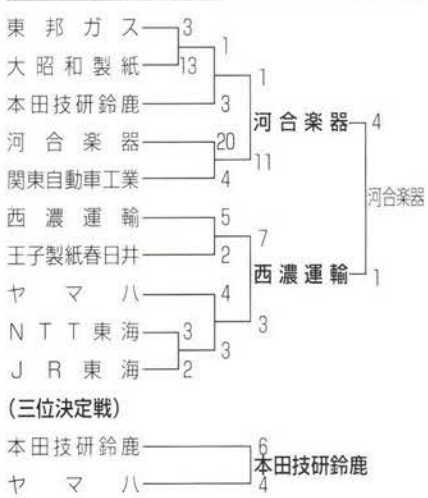
▶一次予選

◇**静岡▽一回戦**　本州ク6－4岳南ク、関東自動車工業9－2エースコンク、誠和ク11－6菊笠ク、大昭和製紙7－0全三島ク、天城ベースボールク2－1中遠ク、河合楽器12－1浜商闘魂会、富士ク5－4協和発酵ク、ヤマハ（不戦勝）フジウンノ野球ク▽**準々決勝**　関東自動車工業8－0本州ク、大昭和製紙4－0誠和ク、河合楽器7－1天城ベースボールク、ヤマハ11－0富士ク（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　関東自動車工業7－1大昭和製紙、ヤマハ12－0河合楽器▽**決勝**　ヤマハ9－0関東自動車工業

◇**東海▽一回戦**　ＪＲ東海7－6日通名古屋、三菱名古屋6－5サンジルシ醸造、王子製紙春日井6－5大仙、ＮＴＴ東海7－0新日鉄名古屋、トヨタ自動車5－3東海理化▽**準々決勝**　ＪＲ東海13－4王子製紙春日井、本田技研鈴鹿6－5三菱名古屋、西濃運輸4－0ＮＴＴ東海、東邦ガス7－6トヨタ自動車（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　本田技研鈴鹿9－7ＪＲ東海、西濃運輸3－0東邦ガス▽**決勝**　本田技研鈴鹿6－4西濃運輸▽**敗者復活戦**　王子製紙春日井5－3三菱名古屋、ＮＴＴ東海12－7トヨタ自動車（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月17日から　5日間　　小牧市民球場



近畿大会

▶一次予選

◇**滋賀▽一回戦**　全大津22－0近江八幡野球ク、日本ＩＢＭ野洲10－2瀬田工ＯＢク▽**決勝**　日本ＩＢＭ野洲10－0全大津（勝者は第二次予選へ）

◇**京都▽一回戦**　三菱自動車京都12－0京都市役所、高島屋京都8－2日産車体京都、第一紙行7－4丸勝▽**準決勝**　日本新薬8－6三菱自動車京都、第一紙行5－4高島屋京都（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本新薬11－0第一紙行

◇**大阪▽一回戦**　ＮＴＴ関西8－1三和銀行、新日鉄堺9－0大阪ベーシェンス▽**準々決勝**　日本生命7－1大和銀行、デュプロ7－6中山製鋼、ＮＴＴ関西7－3大阪ガス、松下電器12－0新日鉄堺（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日本生命7－0ＮＴＴ関西、松下電器6－2デュプロ▽**決勝**　日本生命4－2松下電器▽**敗者復活一回戦**　大阪ガス10－3大和銀行、新日鉄堺4－3中山製鋼▽**第五代表決定戦**　大阪ガス4－3新日鉄堺（勝者は第二次予選へ）

◇**兵庫▽一回戦**　阿部企業9－1田村コピー、神戸製鋼10－4三菱重工神戸、川鉄神戸8－0小西酒造▽**準決勝**　川鉄神戸5－4阿部企業、神戸製鋼5－4新日鉄広畑（準決勝出場4チームは第二次予選へ）▽**決勝**　川鉄神戸11－7神戸製鋼▽**三位決定戦**　新日鉄広畑12－2阿部企業▽**敗者復活一回戦**　三菱重工神戸4－2田村コピー▽**第五代表決定戦**　三菱重工神戸9－0小西酒造（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月17日から　4日間　　西京極球場ほか

中国大会

▶一次予選

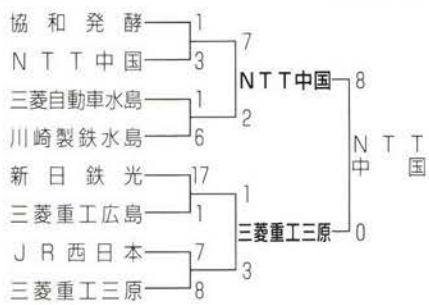
◇**岡山・鳥取▽リーグ戦**　三菱自動車水島13－4王子製紙米子、川鉄水島9－8三菱自動車水島、三菱自動車水島9－6王子製紙米子、川鉄水島6－2王子製紙米子、川鉄水島17－7三菱自動車水島、川鉄水島8－5王子製紙米子（三菱製紙水島、川鉄水島は第二次予選へ）

◇**広島▽一回戦**　ＪＲ西日本6－3ＮＫＫ、三菱重工広島5－4ＮＴＴ中国、山本鋼材8－5マツダ、三菱重工三原6－3常石鉄工▽**準決勝**　ＪＲ西日本4－1三菱重工広島、三菱重工三原9－0山本鋼材▽**決勝**　三菱重工三原10－3ＪＲ西日本▽**敗者復活一回戦**　ＮＴＴ中国3－0ＮＫＫ、マツダ10－3常石鉄工▽**同二回戦**　ＮＴＴ中国8－3山本鋼材、三菱重工広島9－0マツダ（勝者は第二次予選へ）

◇**山口▽リーグ戦**　五大化学6－1協和発酵、新日鉄光7－2田辺製薬、協和発酵8－7田辺製薬、新日鉄光6－1五大化学、協和発酵8－7五大化学、協和発酵8－4田辺製薬、田辺製薬10－6五大化学、新日鉄光9－2協和発酵（協和発酵、新日鉄光は第二次予選へ）

▶二次予選

9月14日から　3日間　　岡山県営球場



四国大会

9月15日から　3日間　　松山市営球場

九州大会

9月22日から　3日間　　熊本県営藤崎台球場

第17回大会出場選手等一覧（○は主将）

NTT北海道

監督	日比野　勇	42	北海学園大
投手	寺嶋　一洋	20	札幌第一高
〃	西田　博之	22	苫小牧工高
〃	永井　雅	22	札　幌　大
〃	高橋　直樹	24	国士舘大
〃	扇崎　毅	23	国士舘大
〃	佐藤　義勝	20	北海道桜丘高
〃	斉藤　英一	23	青森商高
〃	小林　伸博	31	北海道工高
捕手	遠藤　友彦	22	札幌清田高
〃	木村　秀樹	22	駒大岩見沢高
〃	池本　祥吾	27	釧路湖陵高
内野	飯沼　毅	25	国士舘大
〃	寺田　昭雄	33	国士舘大
〃	仙内　雅茂	19	砂川北高
〃	香木　伸一	25	駒大岩見沢高
〃	内山　茂仁	22	北　海　高
〃	高田　英季	20	函館大有斗高
〃	竹澤　聡	21	婦路工高
外野	大村　和彦	24	札　幌　大
〃	○井城　昇	29	札　幌　大
〃	石黒　倫樹	31	北海学園大
〃	鵜瀬　美貴	23	札　幌　大
〃	柏崎　健一	20	札幌手稲高
〃	橋本　和丸	26	北海道東海大

大昭和製紙北海道

監督	我喜屋　優	40	興　南　高
投手	野瀬　征宏	20	北見緑陵高
〃	加藤　宗之	23	札幌稲西高
〃	大崎　守	25	室蘭大谷高
〃	尾崎　浩幸	25	広島至誠高
〃	渡部　勝美	28	砂川南高
〃	桐木　孝司	19	北海道桜丘高
〃	香田　亮二	19	室蘭大谷高
捕手	山崎　史博	28	北海学園大
〃	新明克比古	27	室蘭大谷高
〃	藤山　誠	18	瀬戸内高
〃	横沢　滋	31	深川西高
内野	社　新吾	30	瀬戸内高
〃	阿相　信義	24	東　北　高
〃	酒井　司	27	留萌高
〃	○高木　吉夫	29	中央学院大
〃	太田　英次	23	北海学園大
〃	斉藤　誉	26	東京農大
〃	富永　茂樹	22	拓　殖　大
〃	山中　智彰	24	北海道工大
〃	山本　隆成	22	北海道日大高
外野	平　紀陽典	31	日大東北高
〃	新里　真	25	日　本　大
〃	日下　幸弘	25	広島至誠高
〃	木内九二生	23	拓　殖　大
〃	大宮　善輝	20	札幌第一高

J　T

監督	山下　静夫	31	亜細亜大
投手	相沢　弘明	22	石巻工高
〃	石川　朋彦	22	名　取　高
〃	日笠　弘明	25	亜細亜大
〃	及川　弘昭	25	一関商工高
〃	加藤　淳	27	仙台商高
〃	石村　浩司	23	東北福祉大
〃	小野　堅	30	宮城農高
〃	柳畑　雅人	24	福　岡　高
〃	佐藤　正樹	25	駒　沢　大
捕手	鳥居紀久夫	26	亜細亜大
〃	星　伸一	29	仙台育英高
〃	及川　正則	27	広田水産高
内野	池谷　昌彦	23	東北福祉大
〃	藤原　順	27	秋田商高
〃	佐々木幸樹	20	大船渡高
〃	○寺嶋　哲也	27	仙台育英高
〃	菅原　隆浩	23	明　治　大
〃	山下　静夫	31	亜細亜大
〃	藤沢　法行	22	花巻北高
〃	及川　義彦	25	一関商工高
外野	鎌田　倫昌	20	弘前実高
〃	原野　優	27	仙台育英高
〃	畠山　哲人	28	秋田商高
〃	高橋　良誠	23	黒沢尻工高
〃	渡辺　則昌	24	福島商高

NTT東北

監督	小窪　敬一	40	関東学院大
投手	宮本　武	25	東京農大
〃	竹内　昌也	19	本荘高
〃	大倉　浩悦	29	東北福祉大
〃	越田　仁孝	25	青森北高
〃	渡辺　智晴	22	勿来高
〃	山田　勉	23	東北学院大
〃	添田　光夫	24	平　工　高
捕手	○猪狩　正弘	27	明　治　大
〃	山内　聡	25	青森北高
〃	和田　猛	22	明　治　大
内野	高橋　大典	23	東　海　大
〃	福地日出雄	32	東京農大
〃	阿部　順悦	24	法　政　大
〃	柿久保健二	26	東　洋　大
〃	加藤　秀典	22	羽黒工高
〃	大竹　睦	27	帝　京　大
〃	菊田　善信	32	駒　沢　大
〃	唐沢　敬	25	東京農大
〃	伊藤　友喜	31	関東学院大
外野	藤木　譽	25	東北福祉大
〃	戸羽　英之	23	一関商工高
〃	大塚　広己	20	能代商高
〃	奥塚　博	20	一関商工高
〃	三瓶　仁	23	学法石川高
〃	多田　浩	28	帝　京　大

富士重工業

監督	茂木　啓司	43	松商学園高
投手	明戸　裕章	22	関東学院大
〃	八野田充彦	22	流通経済大
〃	飯野　勝利	25	国学院大
〃	向田　佳元	34	早稲田大
〃	毛束　幸正	21	国学院栃木高
捕手	秋山　徳治	23	湯巣高
〃	新田山欣之	19	足利学園高
〃	岩井　靖仁	20	浦和学院高
〃	長崎　徳好	29	信州工高
内野	細内　信昌	24	水城高
〃	日野　貴透	25	日　本　大
〃	鹿本　秀俊	25	日　本　大
〃	矢沢　征一	23	関東学院大
〃	富永　武雄	32	早稲田大
〃	水久保国一	22	日　本　大
〃	尾扇　健	23	帝　京　大
〃	上野　満	27	日　本　大
〃	加藤　研二	18	関東学園高
〃	田村　光生	26	立　正　大
外野	藤野二三夫	23	東京農大二高
〃	井上　肇	25	茨城東高
〃	○市川　司郎	29	東　洋　大
〃	川上　和久	22	鷲生高
〃	野口　広己	37	高崎商高
〃	杉山　智啓	24	中　京　大

NTT関東

監督	千葉　清	39	日　本　大
投手	キーナンディミ	18	成田北高
〃	鶏沢　一男	20	東海大浦安高
〃	立石　尚行	20	市立船橋高
〃	秋沢　光久	25	鹿沼商工高
〃	小林　宏明	25	足利工高
〃	柳沢　信之	19	真岡高
〃	遠藤　正史	27	日　本　大
捕手	川村　健司	21	秋　田　工
〃	池元　明文	26	神奈川大
〃	荏司　伸雄	23	大　洗　高
〃	宮原慎一郎	19	君津商高
内野	吉田　栄治	23	日　体　大
〃	関口　勝己	25	明　治　大
〃	安斉　達郎	26	日　本　大
〃	野寺　光秀	22	作新学院高
〃	岩尾　栄二	23	拓　殖　大
〃	杉村　司	25	東海大甲府高
〃	長井　秀夫	31	国士舘大
〃	横山　聖	23	東北学院大
〃	渡辺　久	34	東　洋　大
外野	黒川　雅史	27	東　洋　大
〃	中野　雅隆	32	亜細亜大
〃	小笠原俊樹	26	日　本　大
〃	宍倉　靖英	21	千葉敬愛高
〃	○市川　和男	29	国士舘大

日産自動車

監督	村上　忠則	41	津　名　高
投手	秋吉　章史	23	久留米商高
〃	山田　一宏	25	日　本　大
〃	和田　護	29	法　政　大
〃	久保　恭久	29	中　京　大
〃	一条　健介	21	藤嶺藤沢高
〃	石原　一智	25	早稲田大
〃	高橋　健司	26	浦和実高
捕手	○阿部　正弘	30	明　治　大
〃	松尾　和徳	24	明　治　大
〃	雲宝　正善	19	愛工大名電高
内野	安本　政弘	22	同志社大
〃	渡辺　等	26	今治西高
〃	上島　格	23	駒　沢　大
〃	松本秀一郎	26	日　体　大
〃	闇　隆二	25	東　洋　大
〃	石川　治紀	23	帝　京　大
〃	天瀬　和男	23	亜細亜大
〃	岩崎　仁	23	熊本工高
外野	八木　治郎	25	駒　沢　大
〃	田中　武宏	29	明　治　大
〃	日置　秀人	24	東　洋　大
〃	下田　和彦	23	取手二高
〃	鶴岡　昌宏	33	東　洋　大
〃	竹内　久生	33	法　政　大
〃	小原　崇	23	熊本工高

東　芝

監督	大田垣耕造	40	青山学院大
投手	三原　昇	26	亜細亜大
〃	石川　和久	19	日大三高
〃	山崎　雄己	23	盈進高
〃	菊池　総	30	明　治　大
〃	木村重太郎	22	熊本工高
〃	福谷　欣哉	18	川之江高
捕手	村上　泰造	26	九州産大
〃	高見　泰範	26	愛知工大
〃	松村　治男	25	帝　京　大
内野	西村　隆史	25	横浜商高
〃	髙城　弘樹	27	国士舘大
〃	渡辺　博	22	鶴見工高
〃	後藤英一郎	26	亜細亜大
〃	畠山　弘彰	25	法　政　大
〃	丹波　健二	25	日体荏原高
〃	吉沢　明	24	土浦日大高
〃	田宮　実	26	早稲田大
外野	小林　薫	29	青山学院大
〃	田辺　浩昭	29	法　政　大
〃	多田　勇二	24	青山学院大
〃	松原　和也	23	九州国際大
〃	前田　誠	29	駒　沢　大
〃	植山　和夫	22	鹿敷工高
〃	○梁原　修志	30	苫小牧工高
〃	木村　哲久	21	尾道商高

日本石油

監督	林　裕幸	35	東　海　大
投手	増永　祐一	24	鹿児島商工高
〃	鈴木　健	21	羽黒工高
〃	木村　真樹	20	宇部商高
〃	広本康一郎	19	岩国商高
〃	高橋　憲幸	19	拓大紅陵高
〃	保戸田勝利	26	帝　京　高
〃	田口　操	28	立　正　大
捕手	佐藤　孝治	28	早稲田大
〃	高柳　靖法	24	駒　沢　大
〃	佐藤　健司	19	武　相　高
〃	城市　幸弘	19	宇部商高
内野	高林　孝行	23	立　教　大
〃	徳永　耕治	22	千葉工高
〃	平田　望	25	法　政　大
〃	森　真	25	神奈川大
〃	久慈　照嘉	21	東海大甲府高
〃	伊藤　義樹	27	中　京　高
〃	若林　重喜	23	立　正　大
〃	相田　武徳	23	早稲田大
外野	副島　義隆	23	東　海　大
〃	○田島　信昭	31	帝　京　大
〃	坂口　裕之	25	明　治　大
〃	加藤　晋	23	横浜商科大
〃	五十嵐章人	22	前橋商高
〃	江口　和人	26	東　海　大

北陸銀行

監督	矢方　順	39	名古屋商大
投手	樋間　憲一	21	輪島実高
〃	坂井　隆広	20	富山商高
〃	高野　尚	28	金　沢　高
〃	村井　洋介	26	明治学院大
〃	放生　勝	21	高岡向陵高
〃	竹島　彰伸	23	日　体　大
〃	高枝　岳人	23	金　沢　高
捕手	吉村　康成	29	駒　沢　大
〃	安田　篤	25	名古屋学院大
〃	見上　吉昭	31	専　修　大
内野	木村　弘信	22	高岡商高
〃	岡田　一男	23	福井工大
〃	荒山　善宣	24	金沢星稜高
〃	王生　幸夫	26	法　政　大
〃	高橋　玄	27	東　洋　大
〃	加藤　康昭	27	日　体　大
〃	堀　圭三	27	名古屋商大
〃	坂部　範雄	29	同志社大
外野	高本　正成	30	東　洋　大
〃	竹内　正弘	28	富　山　商
〃	○小泉　淳	29	京都産大
〃	村田　昭二	23	愛知学院大
〃	後藤　真一	25	愛知学院大
〃	平井　義人	23	愛知学院大
〃	田中　久幸	28	立　教　大

NTT北陸

監督	水野　三夫	43	高岡商高
投手	上原　勝男	32	興　南　高
〃	佐藤　渉	19	弘前工高
〃	赤羽根俊幸	23	明　治　大
〃	奥村　久則	26	立　正　大
〃	寺西　秀人	25	京都産大
〃	中西　雅彦	22	帝　京　大
〃	比嘉　雄大	22	興　南　高
捕手	高橋　義晴	28	駒　沢　大
〃	甲斐　浩三	23	国士舘大
〃	○下野　博樹	29	福井工大
〃	坂田　大造	23	日　体　大
内野	梅沢　宏之	25	立　正　大
〃	祖泉　秀樹	25	高岡商高
〃	尾前　拓己	24	東　海　大
〃	鼓内　啓志	25	亜細亜大
〃	大川　清	24	日　体　大
〃	井村　忠士	24	日　体　大
〃	平尾　健二	23	大　商　大
外野	長谷川　勉	26	大　商　大
〃	前原　尚	25	東　洋　大
〃	広瀬　健一	25	東　海　大
〃	堺　一正	23	日　体　大
〃	川崎　博孝	19	多々良学園高
〃	水本　太	28	帝　京　大

河合楽器

監督	伊藤　升久	38	中　央　大
投手	平田　幸夫	25	中　央　大
〃	竹之内和志	25	専　修　大
〃	釘貫　勝成	19	松山商高
〃	宮下　衛治	23	中　京　大
〃	徳永　宏	22	鹿児島商高
〃	猪股　利成	20	東京学館新潟高
捕手	安間　大芳	29	中　央　大
〃	福山　貴之	19	南陽工高
〃	加藤　幹夫	23	浜松商高
内野	佐藤　正	19	聖隷学園高
〃	鈴木　智治	27	中　央　大
〃	川端　純也	23	創　価　大
〃	尾上　裕介	27	中　央　大
〃	石川　昭一	19	鹿児島実高
〃	盛　隆章	27	亜細亜大
〃	清水　達也	26	中　央　大
〃	斉藤　勝利	20	糸魚川高
コーチ兼	村瀬　耕次	32	中　京　大
外野	中邑　清匡	25	拓　殖　大
〃	樽井　徹	29	法　政　大
〃	西原　忠善	28	中　央　大
〃	○牛尾　浩	29	中　央　大
〃	佃　誠	18	宇部商高
〃	吉村　正之	22	中　央　大

西濃運輸

監督	林　教雄	40	佐野高
投手	西村　信之	22	龍谷大
〃	萩原　和幸	23	中　京　大
〃	松田　憤司	22	報徳学園高
〃	吉井　憲治	24	三本松高
〃	田中　直喜	23	伊香高
〃	大西　敏美	19	市岐阜商高
〃	伊丹　浩之	25	神奈川大
捕手	小森　茂	24	大垣商高
〃	西村　正徳	21	幹扇商高
内野	比嘉　康哲	29	九州共立大
〃	吉竹　正	25	龍谷大
〃	川野　浩幸	25	神奈川大
〃	鈴木　康之	26	神奈川大
〃	水野　英樹	28	名城大
〃	山本　政彦	24	鷺扇高
〃	三好　悟	22	九州国際大
〃	大和　良寿	23	法　政　大
〃	○伊東　剛	25	専　修　大
外野	高橋　徹	24	福井商高
〃	硯　昌己	25	鷺扇高
〃	伊藤　紀彦	25	享栄高
〃	豆塚　秀記	24	鷺扇高
〃	駒井　弘史	23	龍谷大

本田技研鈴鹿

監督	高橋　隆	39	法　政　大
投手	野崎　亮	24	宇治山田商高
〃	松本　賢治	20	三本松高
〃	石丸大三郎	24	東　海　大
〃	湯舟　敏郎	24	奈良産大
〃	樋口　英樹	29	桜井商高
〃	吉村　良彦	22	智弁学園高
〃	杉本　尚彦	24	東　海　大
捕手	福原　健司	23	駒　沢　大
〃	嘉生　剣	20	藤嶺藤沢高
〃	森田　昌章	27	愛知学院大
内野	荒川　透	26	駒　沢　大
〃	山中　茂直	30	法　政　大
〃	纐纈　昇	26	九州東海大
〃	肥田　泰彦	27	東　海　大
〃	旗手　浩二	23	法　政　大
〃	○岡崎　純一	29	県岐阜商高
〃	羽山　忠宏	25	東　海　大
〃	川口　弘行	23	奈良産大
外野	右京　哲	28	法　政　大
〃	大久保　隆	30	桜美林高
〃	今山　和之	23	智辯学園高
〃	高木　伸人	21	岐阜三田高
〃	間宮　健次	23	浜　松　商
〃	久芳　修平	25	日　体　大
〃	鏡原　圭治	19	三本松高

NTT関西

監督	岡沢　和弘	33	近　畿　大
投手	田中　久裕	22	添　上　高
〃	飯原　宏伸	22	大　商　大
〃	岡本　泰光	19	武庫荘高
〃	清水　圭男	24	愛知工大
〃	白井　泰之	25	日　体　大
〃	田渕　建昭	23	近　畿　大
捕手	東尾　栄一	20	滝川第二高
〃	高木　建一	24	東北福祉大
〃	村本　忠秀	26	駒　沢　大
内野	吉村　淳	28	近　畿　大
〃	戎丸　洋海	21	広島工高
〃	佐藤　広己	27	駒　沢　大
〃	山市　芳弘	25	近　畿　大
〃	笹岡　伸好	23	同志社大
〃	泉　秀和	26	近　畿　大
〃	西田　英資	24	長浜高
〃	石井　優	28	関西大
外野	○中村　優仁	27	天理高
〃	山崎　繁孝	23	近　畿　大
〃	新宅　則和	24	近　畿　大
〃	井上　浩二	23	北　条　高
〃	羽生　一範	25	高松工芸高

日本生命

監督	井尻　陽久	38	東　海　大
投手	新谷　博	26	駒　沢　大
〃	赤澤　秀樹	24	神戸学院大
〃	木村　恵二	25	近　畿　大
〃	新田　雄司	27	専　修　大
〃	岩本　利仁	26	立命館大
〃	伊藤　伸幸	32	東京経大
〃	平田　国久	23	立　教　大
〃	浅倉　伸吉	27	東　海　大
捕手	岡　隆博	24	立命館大
〃	山上　和志	24	泉州高
〃	内田　敏弘	33	法　政　大
内野	大島　公一	23	法　政　大
〃	○中村　昭徳	29	専　修　大
〃	十河　章浩	23	近　畿　大
〃	川瀬　世資	23	桜　宮　高
〃	中井　良治	26	明　治　大
〃	佐藤　公宏	26	早稲田大
〃	江上　光治	25	早稲田大
〃	熊添　英樹	23	東　海　大
〃	佐藤　清	34	早稲田大
外野	高橋　智尚	26	明　治　大
〃	内匠　政博	22	近　畿　大
〃	児玉　卓也	29	東　海　大
〃	守屋　公雄	27	早稲田大
〃	中橋　伸幸	32	愛知学院大

住友金属

監督	高多	倫正	37	慶応大
投手	黒木	卓	19	九州学院高
〃	横井	秀実	21	高鼻高
〃	小林	考史	20	東海大三高
〃	半田	高久	22	藤井寺工高
〃	森田	幸一	25	近畿大
〃	尾山	敦	20	高岡商高
〃	森澤	友博	21	土佐高
〃	森沢	洋水	22	安芸工高
〃	寺坂	友秀	23	笠田高
〃	高橋	修二	33	高知高
捕手	川渕	雄二	20	高知高
〃	楠野	徹	21	平田高
〃	長	正人	19	報徳学園高
内野	樋口	一紀	23	柳川高
〃	松本	尚樹	20	市和歌山商高
〃	三宅	秀二	25	東海大
〃	四田	勝康	33	浪商高
〃	佐藤	雄樹	31	早稲田大
外野	戸田	佳克	23	早稲田大
〃	○中田	等	30	同志社大
〃	川畑	伸一郎	23	鹿児島商高
〃	中西	保友	19	鷺島高
〃	家永	裕章	25	向陽高
〃	高津	淳	23	報徳学園高
〃	筒井	大助	32	関西学院大

川崎製鉄神戸

監督	真鍋	義之	35	神港学園高
投手	宮内	義則	26	鳴門工高
〃	増田	治	20	南宇和高
〃	立花	慎一	22	御坊商工高
〃	薮	浩昭	27	御坊商工高
〃	竹森	正展	23	大阪学院大
〃	藤原	忠	20	大阪桐蔭高
〃	畷田	次郎	23	東洋大姫路高
〃	石井	雅也	28	東洋大姫路高
捕手	初田	幸廣	24	尼崎工高
〃	大城	健	21	神港学園高
〃	門野	光輝	18	東洋大姫路高
内野	藤原	安弘	23	東海大山形高
〃	上村	真弘	29	田辺商高
〃	中山	薫	19	村野工高
〃	扇本	裕	26	報徳学園高
〃	堀田	幸造	26	大経大
〃	金	潤熙	19	松山商高
〃	田中	優嗣	24	大経大
〃	福本	正行	33	村野工高
外野	坂本	敏也	19	松山商高
〃	○川中	哲也	27	尽誠学園高
〃	米田	幸司	20	御影工高
〃	三谷	慎一	19	尼崎北高
〃	村井	勝	21	御影工高
〃	久原	博嘉	19	智辯学園高

三菱重工神戸

監督	竹内	保	44	市立神港高
投手	後藤	利幸	19	鳥羽高
〃	扇沢	真	26	東洋大
〃	吉川	克彦	26	舞子高
〃	小野	善之	24	関西学院大
〃	井上	高行	21	明石高
〃	千々松	誠二	25	村野工高
〃	佐藤	直樹	20	松山商高
〃	五十嵐	英樹	21	東海大工高
捕手	穴沢	浩一	19	滝川第二高
〃	清水	稔	25	近畿大
〃	山崎	守雄	18	生野工高
〃	木須	貴久	23	報徳学園高
内野	堀口	雅司	24	東洋大
〃	○山口	敏弘	28	東洋大
〃	山下	圭三	27	村野工高
〃	原田	正剛	24	伯方高
〃	浜本	和重	22	太成高
〃	青田	勝則	26	市川高
〃	戎井	昭彦	29	専修大
外野	秋山	洋満	20	松山商高
〃	松井	将之	20	仁川学院高
〃	水谷	義孝	27	育英高
〃	久保川	義彦	21	高知商高
〃	福田	英彦	23	東北福祉大
〃	溝田	賢仁	19	村野工高

新日本製鐵広畑

監督	尾形	正己	37	山崎高
投手	長谷野	正徳	19	専修大玉名高
〃	桐野	太一	23	豊岡実高
〃	黒石	康晴	24	市川高
〃	足達	尚人	23	東洋大姫路高
〃	森川	正俊	19	吉野高
〃	藤高	俊彦	31	伊香高
捕手	那部	良浩至	24	奈良商高
〃	牧野	昭宏	19	大阪工大高
〃	的山	哲也	20	福崎高
〃	定詰	雅彦	24	広陵高
内野	間扇	伸一	19	高松東高
〃	大墨	弘幸	23	東洋大姫路高
〃	阿山	正人	23	東洋大姫路高
〃	林	道義	25	香寺高
〃	○児玉	貴志	26	和歌山工高
〃	北野	悦司	24	和歌山工高
〃	砂田	弘樹	25	江津工高
〃	今村	寿宏	18	熊本工高
〃	西村	雅文	34	亀谷高
外野	原田	三郎	25	志度商高
〃	福田	栄治	26	立命館大
〃	空本	秀之	23	佛教大
〃	山前	徹	21	江津工高
〃	杉本	拓也	22	熊本工高
〃	山脇	建己	27	同志社大

三菱重工三原

監督	後藤	寿彦	37	慶応大
投手	横山	直人	20	高岡宇佐高
〃	金広	勝巳	25	竹原高
〃	竹ノ内	源司	25	愛知工大
〃	山本	純	27	同志社大
〃	古田	和徳	23	岡山商大
〃	野村	貴仁	21	高岡宇佐高
〃	中村	茂紀	20	崇徳高
捕手	坊西	浩嗣	21	岡山南高
〃	村上	達也	27	広島工高
〃	浜田	光明	18	岩国工高
〃	園田	正一	22	九州産大
内野	川村	建志	22	高知商高
〃	笹田	喜和	22	八幡浜高
〃	栗木	寛	24	近畿大
〃	本藤	浩徳	29	江津工高
〃	国只	輝夫	20	岡山南高
〃	小野田	勝弘	22	東洋大
〃	児馬	敏和	19	岡山山陽高
〃	小前	学	27	倉吉北高
外野	○久保	明	28	柳井高
〃	山下	真二	24	高知商高
〃	南谷	光清	27	駒沢大
〃	早野	公俊	19	熊本工高
〃	林	泰浩	21	崇徳高
〃	市道	正男	27	竹原高

NTT中国

監督	増永	芳紀	37	東洋大
投手	青野	望	26	福岡大
〃	佐藤	明	21	大門高
〃	矢野	哲嗣	21	近大付福山高
〃	石川	晃	28	下松工高
〃	大谷	孝司	23	近畿大呉
〃	稲垣	巌	24	日体大
捕手	佐藤	達也	28	福岡大
〃	本原	英太郎	26	駒沢大
〃	高山	雅彦	33	亜細亜大
内野	下岡	秀壮	29	東洋大
〃	竹中	学	22	岡山南高
〃	北口	和正	25	名古屋学院大
〃	千川	健二	25	近畿大
〃	○原	則明	26	近畿大
〃	川口	美記	24	立正大
〃	樽岡	靖	32	専修大
〃	篠原	勝	29	東洋大
〃	登	靖則	33	東洋大
外野	本間	俊匠	23	東洋大
〃	津江本	隆	29	法政大
〃	小原	祥司	23	広陵高
〃	河井	信誠	32	国士舘大
〃	武田	茂人	27	東洋大
〃	増永	芳紀	37	東洋大
〃	岩山	節雄	33	駒沢大

NTT四国

監督	幸田	優	41	駒沢大
投手	久利	周大	27	東洋大
〃	白井	宏範	27	駒沢大
〃	橋本	正英	20	大方商高
〃	西山	一宇	20	高知高
〃	神田	敦	29	日体大
〃	山部	太	19	八幡浜工高
〃	滝下	茂信	32	穴吹高
捕手	白石	勇二	24	松山商高
〃	武田	和高	26	明徳義塾高
内野	橋本	久	19	宇和島東高
〃	小谷	雄司	25	明徳義塾高
〃	山本	佳孝	26	同志社大
〃	河野	浩三	24	駒沢大
〃	竹島	誠	27	九州東海大
〃	武田	正人	29	駒沢大
〃	松本	秀敏	25	亜細亜大
〃	篠原	昭人	26	駒沢大
〃	柴田	要亮	18	宇和島東高
外野	西川	慎一	23	大洲農高
〃	○三好	利幸	27	北条高
〃	芝	和彦	26	近畿大
〃	能田	悦夫	25	亜細亜大
〃	松田	竜治	22	松山商高

四国銀行

監督	山本	智久	34	池田高
投手	山本	智久	34	池田高
〃	橋谷	正人	29	大商大
〃	浜田	孝伸	27	東邦大
〃	仙石	雅人	25	帝京大
〃	板垣	政史	25	中央大
捕手	宮本	章彦	30	東京経大
〃	末光	貴二	26	松山商大
〃	南部	洋伸	23	専修大
内野	薬師神	一成	33	京都産大
〃	森	正隆	32	明治大
〃	西	弘顕	31	明治大
〃	伊名	正道	30	東洋大
〃	○森田	洋生	29	明治大
〃	谷岡	秀一	27	亜細亜大
〃	町田	明謙	25	東海大
外野	井上	幹也	29	愛知学院大
〃	宮本	雄二	28	神奈川大
〃	田中	靖秀	27	近畿大
〃	池内	聡	27	専修大
〃	森田	建司	26	明治大
〃	森	善康	23	大経大

新日本製鐵八幡

監督	瀬藤	宣彦	46	小倉高
投手	丸谷	富美幸	31	日南振徳商高
〃	愛甲	博之	23	九州工大
〃	川口	力孝	20	西日本短大付高
〃	本山	和久	28	直方高
〃	森	幸喜	24	久留米大
〃	藤原	和久	23	高田高
〃	西村小次郎		19	筑紫工高
〃	池田	宣人	31	長崎北高
捕手	前川	公宏	27	八重山商工高
〃	黒田	淳二	19	筑紫工高
〃	山下	浩正	23	九州国際大
〃	村井	宏通	20	玉名工高
内野	蛇嶋	修二	24	東洋大
〃	○鉄見	浩次	28	早稲田大
〃	佐野	高明	25	大牟田高
〃	松田	孝徳	23	豊国学園高
〃	後藤	学	19	西日本短大付高
〃	田中	丈春	23	久留米商高
〃	伊藤	雄二	24	下関商高
外野	境	将伸	23	福岡大
〃	桑山	正彦	23	小倉工高
〃	田村	勝彦	27	八頭高
〃	加藤	雄一	34	鎌倉学園高
〃	丸谷	富美夫	26	日南高
〃	藤崎	靖彦	22	豊国学園高

本田技研熊本

監督	手島	晴幸	39	立教大
投手	松山	晃一	19	宮崎商高
〃	久米	孝昇	20	鎮西高
〃	尾崎	定己	24	球磨農高
〃	山本	正幸	23	法政大
〃	中武	靖郎	24	九州東海大
〃	福田	雄一	20	鎮西高
〃	内田	和広	31	都城商高
捕手	吉田	浩幸	22	津久見高
〃	得津	浩芳	25	九州東海大
内野	江上	竜赫	23	九州産業大
〃	浦野	智	20	鎮西高
〃	松本	康宏	23	東洋大
〃	坂本	正	25	熊本第二高
〃	浅川	秀明	25	九州東海大
〃	山本	修二	26	九州東海大
〃	川道	二郎	23	東海大二高
〃	中川	義彦	19	鳥栖高
外野	竹田	満宗	24	豊国学園高
〃	久保	憲司	23	鳥栖高
〃	河野幸	四郎	24	都城商高
〃	○内村	徹	25	熊本工高
〃	安藤	芳人	25	日田林工高

富士重工業が初V

―関東選抜リーグ　日本選手権出場権―

社会人野球関東選抜リーグ決勝トーナメント最終日は8月22日、千葉マリンスタジアムで富士重工業－日産自動車の決勝が行われ、富士重工業が2ケタ安打で日産自動車に競り勝ち初優勝した。

今年から優勝チームに、社会人野球日本選手権大会に関東地区代表としての出場権が与えられることになっており、富士重工業は26代表のトップを切って4年ぶり8回目の同大会出場権を獲得した。

▷決勝

（Aブロック一位）

富士重工業

0	1	0	3	0	1	0	0	1		6
0	2	0	0	3	0	0	0	0		5

日産自動車

（Bブロック一位）

唯一の初陣　NTT関西

―丸刈りで背水の陣、若手切り替えが奏功―

第2次予選、近畿大会で初出場のキップを手にいれた時、NTT関西の喜びようはすさまじかった。今大会出場26チーム中唯一の初陣。

前身の「電電近畿」時代の1965年の第36回都市対抗野球で全国制覇するなど社会人野球界の強豪として君臨したNTT関西も最近10年間は低迷。今夏の都市対抗予選で敗れると思い切って若手主体に部の方針を切り替え、期待に応えて投では2年目の右下手投げ、田渕、打ではルーキー笹岡（同大）らが今大会の予選に向けてメキメキと頭角を現し、ヤングNTTの旗頭になった。

低迷を続けている間、他のNTT勢が活躍しているのがいやでも耳に入った。「全員、丸刈り」。吉村マネジャーが堀井野球部長の命令を伝えたのは、今年の都市対抗予選で敗れた翌日の6月20日。部長以下29人全員が青光りする頭で出社すると、社内で大きな話題になった。「そこまでしなくても」「いや当然だ」

髪を切ったのには理由がある。電電公社時代から全国に11ある野球部の統廃合が持ち上がり、このところ低迷気味のNTT関西は今年、活動縮小のうわさすら流れた。実績を残さなければ、うわさは現実になる。丸刈りはそれを知っての悲壮なまでの決意だった。

そして7月初め、原田前監督から岡沢監督にバトンタッチ。この交代を機に若手の育成に積極的に乗り出し、投の柱だった10年目の田崎と5年目の山木、内野のかなめとして活躍してきた8年目の南谷は退部。若手にレギュラーポジションを譲った。若手の競争心をあおると同時に岡沢監督は「失敗を恐れずに思いきったプレーを」と練習で繰り返し選手に言って聞かせた。若さを前面に出した積極野球は徐々にチーム内に浸透、日本選手権第一次の大阪予選で都市対抗ベスト4の大阪ガスに快勝、二次の近畿予選では日本新薬、日本IBM野州を連破した。岡沢新監督は「野球はつくづくデリケートなスポーツ。ちょっとしたきっかけでチームが変わってしまう。初出場をステップに早く強さを本物にしたい」と初舞台のグリーン神戸を見すえる。

第18回大会

1991年(平成3年)10月10日▶10月19日　グリーンスタジアム神戸

優勝＝日本石油（初優勝）

猛打の日石、優勝戦進出3度目の初V

日本石油が看板の猛打を爆発させて念願の初優勝を達成した。坂口、徳永、若林を軸とする打線は切れ目がなく、5試合すべて2ケタ安打を記録。主軸の長打力に久慈、高林の足を絡ませ好機にたたみかける集中力は群を抜き、不安を抱えた投手陣をカバーした。5試合で失策1の堅守も光った。

準優勝の大阪ガスもよく鍛えられていた。打線は西、竹村、湯川らの好打者がそろい、粘りがあった。投手陣は左腕の西岡が、コーナー低めを突く制球に成長のあとを見せた。初めて臨んだ優勝戦で、緊張感が生んだ攻守のミスが命取りになった。特に立ち上がりの失策が大きく、守りの差で日石に敗れた。

三菱重工長崎とJTは準決勝で力尽きたが、きびきびした攻守で大会を盛り上げた。三菱長崎は先発の上園が五回まで踏ん張っている間に先行し、六回以降中川、本東の継投で逃げ切る型を持っていた。JTは好機に原野、鎌田らが長打で得点する効率のいい攻めが印象に残った。

プロでもなかなか本塁打の出ない広い球場だが、今大会は昨年より2本多い40本が記録され、さらにパワーアップした。半面、抜いた変化球に泳ぐ打者も目立った。筋力強化で得た力に任せ、上体で打つので緩い球に対応できない。ボールを引きつけ、腰の回転で打つ基本に戻ってもらいたい、　個々の選手では西、坂口、若林ら全日本メンバーと上園(鹿児島実高)を筆頭とするルーキーや若手の活躍が光った。上園は球威不足をコーナーワークで補い、新人とは思えぬ落ち着いたマウンドさばきだった。東芝の左腕、杉山(専大)は140*。を超す速球とカーブに威力があり、前回優勝の日本生命を完封した。社会人3年目、三菱自動車京都の伊藤智(花園高)も、140*。台の直球とスライダーが良かった。1年後に迫ったバルセロナ五輪を考えるとき、力のある投手の台頭は心強い。初戦で敗れた日本生命の杉浦(同大)、NTT四国の西山(高知高)らとともに、大きく伸びることを期待したい。

〔優勝戦〕日本石油－大阪ガス　八回表、日本石油無死一、三塁、相田の左前打で三塁から、徳永が同点のホームイン。

大会審判

▷委員長＝米谷道雄 ▷副委員長＝山川脩司、三宅享次 ▷幹事＝竹中清二、岡本好二、津田浩嗣、片岡成夫 ▷委員＝小林勉、大橋慶三、木嶋一黄、桃田晴彦、中西則夫、辻喜正、長谷至康、永田兼治、丸屋琢美、伊東登、大石泰、梶浦照樹、宮輿欣司、樫根清一、赤井淳二、上井池憲治、上杉正、広沢渉、岡本良一、鹿多証道、浜田正二、生越芳明、榎田健一、吉田能男、東優孝、南垣勇、新卓定、北野雅行、岸井健、橘公政、巽正一、美馬洋、中川雅夫、片山寄世史、宮木明、松村洋、井田保則、西尾由起治、夏目幸生

▽10月10日

第1試合＝1回戦(午前10時21分開始)

東芝	101	000	100	3
日本生命	000	000	000	0

▶審判(球審)小林(塁審)桃田、榎田、大石

【東芝】		打	安	点	振	球
⑤	畠山	4	0	0	0	1
④	葛城	4	4	0	0	0
⑧	前田	3	1	0	0	1
③	丹波	4	1	1	2	0
⑨	松原	4	1	1	1	0
D	梁原	2	0	0	1	1
RD	植山	1	0	0	0	0
⑦	多田	4	0	0	2	0
②	高見	4	1	0	0	0
⑥	西村	4	1	1	1	0
犠 併 残						
0 1 7		34	9	3	7	3

【日本生命】		打	安	点	振	球
④	大島	3	0	0	1	1
⑧	内匠	3	1	0	0	0
⑥	十河	3	0	0	1	1
③	佐藤清	3	0	0	3	0
H	川瀬	1	0	0	0	0
D	熊添	4	0	0	1	0
⑤	高橋	3	0	0	0	0
9	守屋	1	0	0	0	0
⑨	梶田	2	0	0	0	0
H5	中村昭	1	1	0	0	0
⑦	赤沢	0	0	0	0	0
7	中橋	3	3	0	0	0
②	岡	0	0	0	0	0
H	佐藤公	1	0	0	0	0
2	浅倉	0	0	0	0	0
犠 併 残						
3 0 6		28	5	0	6	2

	回	安	振	球	責
杉山	9	5	6	2	0
杉浦	6⅔	8	5	3	3
新谷	2⅓	1	2	0	0

▷本塁打＝西村1号(杉浦)▷二塁打＝丹波、葛城、高見▷犠打＝日3(岡2、内匠)▷盗塁＝日1(内匠)▷試合時間＝2時間25分

「これが実力です」

㊥…「大会前から調子は今ひとつで、それがそのまま出てしまった。高めばかりでコントロールが悪かった」 都市対抗一回戦敗退の巻き返しをと、日本生命は杉浦がエース新谷を差し置いて先発したが、その役割を果たせなかった。

一回一死一、三塁で四番丹波を打ち取りながら、松原にカーブを狙い打たれた。「今日は最初からオタオタしてしまった。初回を抑えていたらうちの打者も勢いに乗れたのに」と責任を感じている様子。

9月のアジア選手権で韓国戦に好投し、全日本がバルセロナ五輪出場を果たす立役者となった。「あの時は良すぎたんです。これが実力です」。悔しさが募るのか、自ちょう気味の言葉も。

第2試合＝1回戦(午後1時15分開始)

岩手銀行	001	100	000	2
NTT関東	200	030	02X	7

▶審判(球審)中西(塁審)夏目、片山、中川

【岩手銀行】		打	安	点	振	球
⑧	山蔭	3	0	0	1	1
④	大友	3	1	0	0	1
⑨	斉藤	4	1	1	1	0
D	荒川	4	0	0	1	0
⑥	菊池淳	3	0	0	1	1
②	気仙	2	0	0	0	0
H	熊谷	1	0	0	0	0
⑤	菅原浩	3	0	0	1	0
H	日山	0	0	0	0	1
③	鈴木嘉	3	2	1	1	0
H	安田	1	0	0	0	0
⑦	小田島	2	1	0	1	0
H	細川	1	0	0	0	0
犠 併 残						
2 1 7		30	5	2	7	4

【NTT関東】		打	安	点	振	球
⑧	小笠原	2	1	0	0	1
⑥	関口	3	2	0	0	0
④3	長井	4	1	3	1	0
D	岩尾	2	0	0	0	1
HD	小野	1	0	0	0	0
③	杉村	4	2	2	0	0
4	野寺	0	0	0	0	0
⑤	吉田	4	1	0	0	0
⑦	市川	3	0	0	0	0
H7	宍倉	1	1	2	0	0
⑨	笠原	3	0	0	0	1
②	池元	3	1	0	0	0
犠 併 残						
2 0 4		30	9	7	1	3

	回	安	振	球	責
鈴木治	7	7	1	3	5
高橋	1	2	0	0	2
佐藤	4	4	5	3	2
宮本	5	1	2	1	0

▷本塁打＝長井1号③(鈴木治)宍倉1号②(高橋)▷三塁打＝杉村▷二塁打＝吉田、小笠原▷犠打＝岩2(気仙、小田島)N2(関口、小笠原)▷盗塁＝N1(関口)▷暴投＝佐藤▷与死球＝宮本(日山)▷試合時間＝2時間22分

第3試合＝1回戦(午後4時7分開始)

川崎製鉄水島	100	003	010	5
大阪ガス	430	010	00X	8

▶審判(球審)木嶋(塁審)岡本、梶浦、宮奥(外審)北野、生越

【川鉄水島】		打	安	点	振	球
⑨	吉岡	4	2	0	2	1
⑧	天早	5	1	0	2	0
④	伊藤幸	3	0	1	2	1
H	竹下	1	0	0	0	0
③	加百	5	1	0	0	0
D	岩切	3	1	0	1	0
HD	中田	1	0	0	0	0
⑦	福島	3	1	0	1	1
②	小松	4	2	1	1	0
⑤	荒巻	4	1	0	0	0
⑥	神土	4	0	0	1	0
犠 併 残						
0 1 8		37	9	2	10	3

【大阪ガス】		打	安	点	振	球
⑥	竹村	4	2	1	0	1
D	松田	3	1	0	0	2
④	西	3	3	1	0	1
⑨	湯川	5	3	3	0	0
⑧	折原	4	1	1	0	0
⑦	植村	2	0	0	0	0
H7	中内	2	1	0	0	0
③	橋口	3	1	1	0	0
②	上	3	0	0	0	1
⑤	杉山	2	0	0	0	2
犠 併 残						
2 0 8		31	12	7	0	7

	回	安	振	球	責
山原	1⅔	6	0	3	7
小谷	4⅓	5	0	3	1
朝間	2	1	0	1	0
西岡	9	9	10	3	2

▷本塁打＝湯川1号②(山原)▷三塁打＝小松▷二塁打＝吉岡、小松、加百▷犠打＝大2(西、橋口)▷盗塁＝大4(竹村3、松田)▷失策＝大2(竹村、湯川)▷試合時間＝2時間41分

▽10月11日

第1試合＝1回戦(午前8時51分開始)

三菱重工長崎	300	300	013	10
新日鉄室蘭	000	000	000	0

▶審判(球審)広沢(塁審)長谷、岸井、浜田

【三菱長崎】		打	安	点	振	球
⑧	村上竜	3	0	0	1	1
⑤	村上和	3	0	0	2	2
D	原田	2	0	0	2	0
HD	関	1	0	0	1	1
⑥	小島	5	3	3	1	0
⑨	林	3	2	2	0	1
⑦	宮本	5	2	0	1	0
②	大久保	2	1	1	0	1
2	布村	0	0	0	0	0
③	洲加本	4	1	3	1	0
④	満園	3	1	0	1	1
犠 併 残						
4 3 5		31	10	9	10	7

【新日鉄室蘭】		打	安	点	振	球
⑧	船尾	1	0	0	1	3
④	加藤	4	1	0	1	0
⑨	近藤	3	1	0	0	1
D	桜井	4	0	0	1	0
③	馬場	3	2	0	1	1
⑦	岡田	4	1	0	1	0
⑥	橋本	4	0	0	0	0
②	平間	1	0	0	0	0
2	長山	2	0	0	0	0
H	盛田	1	0	0	0	0
⑤	政田	3	1	0	0	0
犠 併 残						
1 1 9		30	6	0	5	5

	回	安	振	球	責
上園	5	3	2	3	0
中川	3	3	3	2	0
本東	1	0	0	0	0
別府	4	3	4	4	5
武田	5	7	6	3	4

▷本塁打＝洲加本1号③(別府)▷三塁打＝小島▷二塁打＝宮本、近藤▷犠打＝三4(原田、林、大久保、村上竜)新1(政田)▷盗塁＝三4(小島、村上和、満園2)▷失策＝三1(小島)新1(橋本)▷与死球＝別府2(村上竜、村上和)武田(村上和)▷試合時間＝2時間40分

新人離れの落ち着き

○…三菱重工長崎の期待の新人投手、上園(鹿児島実高)が好投した。昨夏の甲子園、今夏の都市対抗と大舞台を踏んでいるだけに、新人離れした落ち着きで、縦のカーブとスライダーを散らして5回を散発の3安打に抑える見事な投球。「打線が好調なので、少々点を取られても取り返してくれると思って、気楽に投げました。真っすぐがもうひとつだったので、変化球主体に低めをついたのがよかった。自信なんてまだまだですが、自分なりのピッチングが出来たと思う」。

第2試合＝1回戦(午前11時51分開始)

NTT北陸	000	000	000	0
本田技研	103	110	10X	7

▶審判(球審)夏目(塁審)吉田、井田、土井池

【NTT北陸】		打	安	点	振	球
D	大川	4	2	0	0	0
⑧	堺	1	1	0	0	2
④	祖泉	4	1	0	2	0
③	平尾	4	1	0	1	0
⑦	広瀬	2	0	0	2	0
H7	野上	2	0	0	0	0
⑨	川崎	4	1	0	1	0
⑤	井村	4	2	0	0	0
②	下野	2	0	0	1	0
2	坂田	1	0	0	0	0
6	薮内	1	0	0	0	0
⑥	尾前	2	0	0	1	0
H	梅沢	1	0	0	0	0
2	高橋	0	0	0	0	0
犠 併 残						
1 0 8		32	8	0	8	2

【本田技研】		打	安	点	振	球
⑨	鈴木	5	3	1	0	0
④	朝山	3	2	0	0	1
⑧	岩井	4	1	2	2	1
③	山田	4	1	1	0	0
⑤	東宮	3	0	1	1	0
⑦	熊倉	3	1	0	1	1
D	山口	3	3	2	0	0
②	長谷川	3	0	0	1	0
⑥	高倉	4	1	0	1	0
犠 併 残						
4 1 8		32	12	7	6	3

	回	安	振	球	責
赤羽根	4	7	3	3	5
奥村	3	4	3	0	2
桜井	1	1	0	0	0
佐藤	9	8	8	2	0

▷本塁打＝山口1号(奥村)▷二塁打＝朝山、熊倉▷犠打飛＝N1(堺)本4(山口、東宮、長谷川、朝山)▷盗塁＝本5(朝山、鈴木2、岩井、山田)▷失策＝本1(東宮)▷暴投＝奥村▷試合時間＝2時間22分

第3試合＝1回戦(午後2時38分開始)

河合楽器	020	002	002	6
日産自動車	001	200	002	5

▶審判(球審)東(塁審)鹿多、赤井、南垣(外審)橘、生越

【河合楽器】		打	安	点	振	球
⑦	田原	4	1	0	0	1
⑧	中逵	3	1	0	1	1
③	村瀬	4	2	1	1	0
⑤	鈴木	5	1	1	1	0
④	清水	4	0	0	1	1
⑥	盛	3	3	0	0	2
D	尾上	1	0	0	0	1
HD	吉村	2	1	1	0	0
RD	川端	0	0	0	0	0
⑨	金子	0	0	0	0	0
9	長谷部	3	1	1	1	1
②	安間	4	0	1	2	0
犠 併 残						
5 1 12		33	10	5	7	7

【日産自動車】		打	安	点	振	球
⑧	日置	3	0	0	0	0
H	安本	1	0	0	0	0
8	田中	0	0	0	0	0
H	八木	1	1	0	0	0
⑦	青柳	4	1	0	0	1
D	鶴岡	4	1	1	0	1
③	上島	4	3	2	0	1
⑨	黒須	4	1	0	1	0
⑤	關	2	1	0	1	0
H5	松本	1	0	0	1	0
④	渡辺	4	1	1	1	0
⑥	天瀬	2	1	1	0	2
②	阿部	3	0	0	2	0
H	石田	1	0	0	0	0
犠 併 残						
2 0 9		34	10	5	6	5

	回	安	振	球	責
竹之内	3⅔	7	1	1	3
出羽	5	2	4	4	2
野末	⅓	1	1	0	0
和田	5⅔	6	2	5	0
一条	2⅓	1	2	2	0
久保	⅔	3	2	0	2
川尻	⅓	0	1	0	0

▷本塁打＝鈴木1号(久保)▷二塁打＝上島、青柳、渡辺、天瀬、中逵、盛、吉村、八木▷犠打飛＝河5(中逵、村瀬、尾上、長谷部、安間)日2(關、黒須)▷盗塁＝河2(盛2)▷失策＝日2(和田2、青柳)▷与死球＝和田2(盛、田原)▷試合時間＝3時間19分

抑え失敗に涙の沈黙

○…「勘弁してください」。日産自動車のベテラン左腕・久保は敗戦の責任を1人で背負い込み、目をうるませて沈黙した。最終回の反撃にかけ、九回三番手として登場。ところが制球を乱し、持ち味の変化球でかわす投球ができない。3長打を浴びて降板、チームに重くのしかかる得点を許し、最後の反撃もあと一歩及ばなかった。

▽10月13日

第1試合＝1回戦(午前8時55分開始)

日本石油	004	001	300	8
大昭和製紙北海道	004	000	000	4

▶審判(球審)桃田(塁審)西尾、新阜、吉田

【日本石油】		打	安	点	振	球
⑥	久慈	3	1	0	1	0
④	平田	4	1	0	0	1
⑧	坂口	5	1	0	0	0
③	徳永	4	3	4	0	0
⑤	若林	4	1	1	1	0
D	相田	4	2	3	1	0
⑦	村上	2	0	0	0	0
H9	加藤	2	0	0	0	0
②	高柳	3	0	0	1	1
⑨7	高林	4	2	0	1	0
犠 併 残						
2 0 4		35	11	8	5	2

【大昭和製紙】		打	安	点	振	球
④	高木	4	2	0	0	1
⑤6	社	4	1	0	0	0
⑧	平	3	1	0	1	2
③5	酒井	3	1	1	1	2
⑦	佐藤	4	1	1	1	0
D	山崎	2	0	0	0	0
HD	斉藤	3	0	0	0	0
②	横沢	3	0	0	0	1
⑨	日下	4	2	2	0	0
⑥	富永	2	0	0	0	1
H3	山本	1	0	0	0	0
犠 併 残						
2 0 11		33	8	4	3	7

	回	安	振	球	責
鈴木	2⅔	3	1	6	4
野村	6⅓	5	2	1	0
渡部	6⅔	11	3	1	5
桐木	2⅓	0	2	1	0

▷本塁打＝相田1号(渡部)徳永1号③(渡部)▷二塁打＝相田▷犠打飛＝日2(久慈2)大2(社、佐藤)▷盗塁＝日2(高林、高柳)大1(平)▷失策＝大1(富永)▷与死球＝渡部(平田)▷試合時間＝2時間53分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

日本石油＝優勝

徳永 耕治内野手
(現役、25歳)

(第20回記念 毎日新聞連載企画から)

大阪ガスとの優勝戦。八回、先頭打者として打席に立ったとき、絶対に塁に出るんだと自分に言い聞かせました。2－3で負けていましたが、そのまま敗れれば3年連続準優勝。だから何とかしなければ、という思いでいっぱいだったんです。

2球目でした。内角の球を引っ張ると、三塁手の頭上を抜けて左翼線への二塁打。それがきっかけで、若林さんと相田さんの連打で同点のホームイン。そのあとも攻撃が続いて逆転につながりました。4回目の出場で初の優勝に貢献でき、うれしかったのを覚えていますが、もうひとつ自分にとっての喜びがありました。山中・全日本監督(当時)が見に来られていたのですが、全日本の選手になるのが夢だっただけにアピールしようと懸命でした。それが通じて全日本の選手に。自分の野球人生を変える大会だったと思ってます。

第2試合＝1回戦(午後0時5分開始)

トヨタ自動車	103	001	001	6
神戸製鋼	130	421	00X	11

▶審判(球審)木嶋(塁審)赤井、井田、橘

【トヨタ自動車】		打	安	点	振	球
⑧	間瀬	5	2	0	1	0
②	吉鶴	5	2	0	1	0
⑨	横井	3	1	1	1	1
⑦	石野	4	1	1	2	1
⑤	田中	4	3	1	0	0
③	関	4	2	1	0	1
D	宮市	5	1	1	1	0
④	杉山	4	2	1	1	0
⑥	蛭田	1	0	0	0	0
H	狩野	1	0	0	0	0
6	安部	1	0	0	0	0
H	川島	1	0	0	1	0
6	瀬谷	0	0	0	0	0
犠併残	2 0 10	38	14	6	8	3

【神戸製鋼】		打	安	点	振	球
⑧	鈴木	5	3	1	1	0
⑤	戸塚	4	2	2	0	1
⑨	藤原	5	3	3	0	0
③	中村	4	3	3	0	0
④	河内山	4	0	0	0	0
D	戸崎	4	1	0	0	0
⑦	河野	2	0	0	1	1
②	秦	2	0	1	0	1
⑥	川原崎	4	2	1	0	0
犠併残	2 1 4	34	14	11	2	3

	回	安	振	球	責
近藤	2	7	1	0	3
永井	1⅔	3	0	2	4
鈴木	2⅓	4	0	1	3
石黒	2	0	1	0	0

	回	安	振	球	責
米	2⅓	5	3	3	4
大寺	3⅔	6	2	0	1
江坂	3	3	3	0	1

▷本塁打＝石野1号(江坂)▷三塁打＝藤原▷二塁打＝戸塚2、田中、間瀬2、横井、杉山、中村▷犠打飛＝神2(河野、秦)ト2(田中、横井)▷盗塁＝神3(鈴木、秦、藤原)▷失策＝ト1(横井)神1(戸塚)▷暴投＝米▷試合時間＝2時間46分

第3試合＝1回戦(午後3時10分開始)

三菱自動車京都	310	501	1	11
四国銀行	000	010	0	1

▶審判(球審)鹿多(塁審)巽、土井池、丸屋(外審)辻、岸井

【三菱京都】		打	安	点	振	球
⑥	西本	4	1	0	0	1
④	摂津	5	3	2	1	0
⑧	岡田周	4	1	1	0	0
⑨	上野山	3	2	4	0	1
⑤	塚田	3	2	2	0	1
③	岩崎	4	3	1	0	0
D	曽我	3	0	0	1	1
⑦	山本	3	0	0	0	0
H	後藤	1	1	0	0	0
R7	伊藤剛	0	0	0	0	0
②	森上	4	2	1	0	0
犠併残	0 1 6	34	15	11	2	4

【四国銀行】		打	安	点	振	球
⑦	井上	3	0	0	1	0
④	谷岡	3	0	0	1	0
⑨	森田建	3	2	0	0	0
⑧	田中	3	1	0	0	0
⑤	池内	3	0	0	1	0
③	西	2	0	0	1	0
H	伊名	1	0	0	1	0
D	宮本雄	3	1	1	2	0
②	末光	1	0	0	1	0
H2	南部	1	0	0	1	0
⑥	町田	1	0	0	0	1
犠併残	0 0 3	24	4	1	9	1

	回	安	振	球	責
伊藤智	6	4	6	1	1
田渕	1	0	3	0	0

	回	安	振	球	責
浜田	1⅔	6	0	0	4
板垣	4⅓	7	1	3	6
橋谷	1⅔	2	1	1	1

▷本塁打＝上野山1号③(浜田)、2号(板垣)森上1号(浜田)宮本雄1号(伊藤智)▷三塁打＝摂津、塚田▷二塁打＝岩崎、森田建、田中▷盗塁＝三2(岡田周、塚田)▷失策＝四1(南部)▷与死球＝板垣(西本)▷試合時間＝1時間54分

第4試合＝1回戦(午後5時23分開始)

川崎製鉄神戸	011	001	000	3
新日鉄八幡	010	000	010	2

▶審判(球審)中西(塁審)宮木、樫根、松村(外審)辻、岸井

【川鉄神戸】		打	安	点	振	球
⑤	上村	4	1	0	2	0
4	島本	1	0	0	1	0
⑥	中山	3	1	0	0	0
⑦	米田	3	0	1	1	0
③	金	4	1	0	1	0
⑧	山本	3	0	0	0	1
②	大城	2	1	0	0	1
⑨	川中	4	2	1	1	0
D	三谷	4	1	1	1	0
④5	奥野	4	0	0	2	0
犠併残	3 1 7	32	7	3	9	2

【新日鉄八幡】		打	安	点	振	球
④	松田	4	1	0	0	0
⑥	蛇嶋	4	1	0	0	0
③	伊藤	1	0	0	1	1
9	簗山	1	0	0	0	0
⑧	丸谷夫	3	1	1	1	0
⑦	田村	4	1	0	0	0
D	加藤	3	1	0	0	1
R	後藤	0	0	0	0	0
⑤	佐野	3	2	0	0	0
⑨3	田中	4	1	1	2	0
②	山下	2	0	0	0	0
H	境	1	0	0	0	0
2	前川	0	0	0	0	0
H	黒田	1	0	0	0	0
犠併残	3 0 7	31	8	2	4	2

	回	安	振	球	責
豊田	9	8	4	2	2

	回	安	振	球	責
愛甲	8	7	6	2	3
丸谷幸	1	0	3	0	0

▷二塁打＝佐野、上村、三谷、川中、蛇嶋▷犠打飛＝川3(中山、米田、大城)新3(簗山、丸谷夫、佐野)▷盗塁＝川2(山本、大城)新1(丸谷夫)▷与死球＝豊田(伊藤)▷試合時間＝2時間31分

エースの気概忘れず

◎…「大城のリードに助けられました」。川崎製鉄神戸・豊田は6年目にして日本選手権、都市対抗を通じて初の完投勝利を飾りながらも控えめだった。

東洋大姫路高3年の夏、甲子園で活躍した本格派。その後伸び悩んでいたが、「自分がエースだという気概は忘れないようにしていた」。

▽10月14日

第1試合＝2回戦(午前8時52分開始)

東芝	002	000	000	2
西濃運輸	000	011	02X	4

▶審判(球審)長谷(塁審)上杉、南垣、北野

【東芝】		打	安	点	振	球
⑤	畠山	4	2	0	1	1
④	葛城	5	1	2	0	0
⑧	前田	4	0	0	0	0
③	丹波	3	0	0	2	1
⑨	松原	4	0	0	1	0
D	梁原	4	1	0	1	0
⑦	多田	3	1	0	1	0
H	吉沢	1	1	0	0	0
②	高見	3	1	0	1	0
H	松村	1	0	0	0	0
⑥	西村	2	1	0	0	0
H	小林	0	0	0	0	1
R	渡辺	0	0	0	0	0
犠併残	1 0 9	34	8	2	7	3

【西濃運輸】		打	安	点	振	球
⑥	鈴木	3	1	1	0	0
④	比嘉	4	0	0	1	0
⑤	吉竹	4	2	1	0	0
⑦	硯	4	1	0	1	0
⑨	持田	3	2	2	0	0
②	小森	4	1	0	2	0
⑧	高橋	4	0	0	1	0
D	三好	1	0	0	1	0
HD	野田	2	1	0	0	0
③	川野	2	0	0	0	1
犠併残	2 0 6	31	8	4	6	1

	回	安	振	球	責
三原	6	5	4	1	2
木村	1⅓	3	1	0	1
杉山	⅔	0	1	0	0

	回	安	振	球	責
吉井	7	7	6	1	2
松田	2	1	1	2	0

▷本塁打＝持田1号(三原)▷三塁打＝葛城▷二塁打＝持田、畠山、野田、吉竹▷犠打＝東1(西村)西2(鈴木、持田)▷盗塁＝西1(吉竹)▷失策＝東2(丹波、杉山)▷試合時間＝2時間19分

ルーキー初本塁打

◎…「公式戦では初本塁打。まぐれです」と同点アーチをかけた西濃運輸の持田は照れた。六回二死無走者で、一発を狙ってもいい場面。高めの直球を思い切りたたくと、打球は右翼スタンドに一直線。"横綱"東芝を寄り戻す貴重な一発に「当てにいかず、強く振ったのが良かった」とニキビ顔をほころばせた。千葉・習志野高出身のルーキー。今大会予選からレギュラー起用された。「いつもチームの足を引っ張ってばかり。今日はいい仕事ができた」と喜色満面。

第2試合＝2回戦(午前11時40分開始)

大阪ガス	112	000	016	11
NTT関東	000	200	000	2

▶審判(球審)西尾(塁審)中西、浜田、伊東

【大阪ガス】		打	安	点	振	球
⑥	竹村	4	0	0	0	0
H	中西	1	1	0	0	0
R	佐藤	0	0	0	0	0
6	宮元	0	0	0	0	0
D	松田	4	2	1	1	1
④	西	5	4	0	0	0
⑨	湯川	5	4	2	0	0
⑦	植村	1	0	0	1	0
H7	中内	3	0	0	0	0
H	沢田	1	0	0	0	0
7	沢多	0	0	0	0	0
⑧	折原	4	2	5	1	0
③	橋口	4	2	2	1	0
H3	佐々木	1	0	0	1	0
⑤	杉山	4	0	0	0	1
②	上	4	2	1	0	0
犠併残	1 1 6	41	17	11	5	2

【NTT関東】		打	安	点	振	球
⑥	関口	3	0	0	0	0
④	野寺	4	2	1	1	0
D	杉村	4	1	0	0	0
③	長井	4	1	0	0	0
⑦	宍倉	4	2	1	0	0
⑤	吉田	3	0	0	0	1
⑨	岩尾	4	0	0	1	0
②	池元	2	0	0	0	0
H2	川村	1	0	0	0	0
⑧	小笠原	2	1	0	0	0
H	宮原	1	0	0	0	0
8	笠原	0	0	0	0	0
犠併残	1 1 5	32	7	2	2	1

	回	安	振	球	責
西岡	9	7	2	1	2

	回	安	振	球	責
秋沢	1⅓	4	2	1	2
宮本	1⅓	3	0	0	2
佐藤	4⅔	5	1	0	1
遠藤	⅔	1	1	0	1
柳沢	1	4	1	1	5

▷本塁打＝松田1号(秋沢)橋口1号(秋沢)野寺1号(西岡)上1号(遠藤)折原1号③(柳沢)▷三塁打＝折原▷二塁打＝宍倉、湯川、橋口、杉村、上▷犠打飛＝大1(折原)N1(関口)▷盗塁＝大2(中内、佐藤)▷試合時間＝2時間30分

第3試合＝2回戦(午後2時46分開始)

三菱重工長崎	000	400	100	5
NTT四国	000	000	101	2

▶審判(球審)巽(塁審)大橋、榎田、宮奥(外審)橋、岸井

【三菱長崎】		打	安	点	振	球
⑧	村上竜	4	1	0	1	0
⑤	村上和	4	2	0	0	0
D	原田	4	1	1	0	1
RD	竹崎	0	0	0	0	0
⑥	小島	5	0	0	2	0
⑨	林	4	1	0	1	1
⑦	宮本	4	0	0	0	0
②	大久保	3	2	0	0	0
H	森	1	0	0	1	0
2	布村	0	0	0	0	0
③	洲加本	4	2	1	2	0
④	満薗	4	2	3	0	0
犠併残	2 2 9	37	11	5	7	2

【NTT四国】		打	安	点	振	球
⑦	小松	3	2	0	0	1
⑧	大貝	2	0	0	1	1
⑨2	芝	4	0	0	1	0
⑤9	三好	4	1	1	1	0
⑥	竹島	3	1	0	0	1
④5	松本	3	1	0	1	1
R	河野	0	0	0	0	0
③	柴田	4	1	1	1	0
D	小谷	2	0	0	0	0
HD	橋本久	2	0	0	0	0
②	武田	1	0	0	0	0
9	能田	1	0	0	0	0
H4	丹下	1	0	0	0	0
犠併残	1 0 6	30	6	2	5	4

	回	安	振	球	責
上園	5	1	2	2	0
中川	2	3	2	0	1
本東	2	2	1	2	1

	回	安	振	球	責
西山	9	11	7	2	4

▷本塁打＝満薗1号③(西山)原田1号(西山)三好1号(本東)▷二塁打＝洲加本、竹島▷犠打＝三2(村上竜、村上和)N1(小松)▷盗塁＝N1(小松)▷失策＝三1(宮本)N1(松本)▷試合時間＝2時間29分

第4試合＝2回戦(午後5時46分開始)

日本新薬	000	000	001	1
本田技研	300	000	02X	5

▶審判(球審)赤井(塁審)鹿多、生越、新阜(外審)岸井、橘

【日本新薬】		打	安	点	振	球
⑧	中坪	2	0	0	0	0
H8	原田	2	0	0	0	0
⑥	中野	4	0	0	1	0
④	石橋	3	0	0	0	1
⑨	河原	4	2	0	0	0
D	岩橋	3	1	0	1	0
H	浅香	1	1	1	0	0
③	高松	4	0	0	2	0
②	岩本	4	0	0	1	0
⑤	田中	4	1	0	0	0
⑦	川口	2	1	0	0	0
犠併残	1 0 7	33	6	1	5	1

【本田技研】		打	安	点	振	球
⑨	鈴木	4	1	0	1	1
④	朝山	3	1	1	1	2
⑧	岩井	5	0	1	0	0
③	山田	5	1	0	0	0
⑤	東宮	3	0	1	2	0
⑦	熊倉	4	2	1	1	0
D	山口	4	1	1	0	0
②	長谷川	2	2	0	0	2
⑥	高倉	2	0	0	0	1
犠併残	2 0 11	32	8	5	5	6

	回	安	振	球	責
遠野	5	3	3	4	0
渡部	3	5	2	2	2

	回	安	振	球	責
佐藤	9	6	5	1	1

▷二塁打＝川口、朝山▷犠打飛＝日1(川口)本2(東宮、高倉)▷盗塁＝本2(山口、高倉)▷失策＝日3(田中、石橋2)▷暴投＝渡部▷捕逸＝長谷川▷試合時間＝2時間30分

チームを救った1本

◎…五回一死まで本田技研の右腕、佐藤にパーフェクトに抑えられていた日本新薬。チーム初の走者となったのは指名打者の岩橋。佐藤の54球目、直球を鮮やかに右前にはじき返した。「昨年、今年と不振でみんなに迷惑をかけてばかり。なんとかして出塁したかった。直球を狙ってました」。

中京大から入社して3年目、一昨年の右手のケガが尾を引き、入社したばかりのころの好調な打撃はまだ取り戻していないが、「完全ペース」で進んだ展開からチームを救ったこの1本の安打をきっかけに来季、猛打復活を目指す。

▽10月15日

第1試合＝2回戦(午前8時54分開始)

河合楽器	000	000	101	2
NTT信越	100	000	20X	3

▶審判(球審)広沢(塁審)西尾、南垣、北野

【河合楽器】		打	安	点	振	球
⑦	田原	3	0	0	1	0
H	石川	1	0	0	0	0
⑧	中達	3	0	0	1	1
③	村瀬	4	2	0	1	0
⑤	鈴木	3	0	0	0	1
④	清水	4	0	0	0	0
⑥	盛	3	0	0	1	1
⑨	西原	3	1	0	0	1
D	吉村	2	1	0	0	1
RD	尾上	0	0	0	0	0
HD	佃	1	1	0	0	0
RD	川端	0	0	0	0	0
②	安間	3	2	1	0	0
R	加藤	0	0	0	0	0
犠併残	2 0 8	30	7	1	4	5

【NTT信越】		打	安	点	振	球
⑧	青山	3	1	0	0	1
⑤	土居	3	0	0	0	0
⑦	田中	3	1	1	1	0
③	横井	4	2	0	0	0
D	丸山	2	0	0	0	0
HD	石田	2	1	0	1	0
⑨	松沢	2	0	0	1	0
H9	佐藤	2	0	0	0	0
⑥	谷口	3	2	0	0	0
④	藤嶋	2	0	0	0	0
②	高橋	3	1	2	0	0
犠併残	3 2 6	29	8	3	3	1

	回	安	振	球	責
竹之内	8	8	3	1	3

	回	安	振	球	責
村井	9	7	4	5	2

▷本塁打＝高橋1号②(竹之内)▷二塁打＝青山、横井、佃、安間▷犠打飛＝河2(田原、安間)N3(土居、田中、藤嶋)▷盗塁＝河1(尾上)▷失策＝河1(盛)▷暴投＝村井▷試合時間＝2時間14分

何とか切り抜けた

◎…辛うじて河合楽器の反撃をかわしたNTT信越・村井は「何とか、切り抜けられました」とホッとひと息。八回を除いて毎回走者、四球も5個と内容的にはいまひとつのピッチング。しかし、土俵際で踏みとどまれたのは「カーブのキレが良かったから」。緩急をつけ、スライダーを巧みに交ぜ、しのぎ切った。

第2試合＝2回戦(午前11時36分開始)

JT	001	120	000	4
川崎製鉄神戸	100	100	010	3

▶審判(球審)岡本好(塁審)東、伊東、松村

【JT】		打	安	点	振	球
⑨	佐藤奉	4	0	0	1	0
H7	鎌田	1	0	0	0	0
⑦8	渡辺	5	3	0	1	0
③	中田	5	1	0	0	0
⑤	寺嶋	4	1	1	2	0
⑧9	原野	4	1	2	1	0
D	高橋	3	1	0	1	0
HD	藤沢	1	0	0	0	0
④	長浜屋	4	1	0	3	0
⑥	菅原	4	3	1	0	0
②	及川正	4	1	0	0	0
犠併残	0 1 8	39	12	4	9	0

【川鉄神戸】		打	安	点	振	球
⑤	上村	4	2	1	1	1
⑥	堀田	4	1	0	0	1
⑦	米田	4	1	0	0	0
③	金	5	1	0	0	0
⑧	山本	3	0	0	1	1
②	大城	4	1	0	0	0
⑨	川中	3	1	1	0	1
D	久原	2	1	0	1	0
HD	藤原安	2	0	0	2	0
④	奥野	3	1	0	0	0
H4	島本	1	1	1	0	0
犠併残	1 0 10	35	10	3	5	4

	回	安	振	球	責
石村	7⅔	9	5	4	3
日笠	1⅓	1	0	0	0

	回	安	振	球	責
豊田	9	12	9	0	4

▷本塁打＝上村1号(石村)菅原1号(豊田)川中1号(石村)原野1号②(豊田)▷三塁打＝渡辺▷二塁打＝久原、上村▷犠打＝川1(米田)▷盗塁＝川1(島本)▷暴投＝石村▷試合時間＝2時間29分

第３試合＝２回戦(午後２時43分開始)

日本石油	0	4	3	0	0	0	0	2	0	9
神戸製鋼	0	1	0	0	2	0	0	3	0	6

▶審判(球審)上杉(塁審)赤井、片山、橋(外審)榎田、鹿多

【日本石油】打安点振球
⑥ 久 慈 5 2 2 0 0
④ 平 田 3 0 0 1 1
⑧ 坂 口 5 3 1 0 0
③ 徳 永 5 3 2 0 0
⑤ 若 林 4 2 0 1 1
D 相 田 3 0 0 2 1
HD木 下 1 0 0 0 0
⑦ 村 上 2 1 0 1 1
9 加 藤 2 0 0 0 0
② 高 柳 5 2 2 0 0
⑨7高 林 3 1 2 1 0

犠 併 残
2 1 8 38 14 9 6 4

【神戸製鋼】打安点振球
⑧ 鈴 木 4 0 0 2 1
⑤ 戸 塚 5 2 1 0 0
⑨ 藤 原 5 1 0 0 0
③2中 村 2 1 0 0 2
④ 河内山 2 1 0 0 0
D 戸 崎 4 2 4 0 0
⑦ 河 野 3 1 0 0 0
H7宮 長 1 0 0 0 0
② 秦 0 0 0 0 0
2 水 野 3 1 0 1 0
H3木 田 1 0 0 0 0
⑥ 川原崎 4 2 0 1 0

犠 併 残
2 3 6 34 11 5 4 3

	回	安振球責
高 橋	7⅓	10 2 3 5
野 村	1⅔	1 2 0 0
坂 本	2⅔	4 1 1 4
大 寺	⅓	3 0 2 2
江 坂	6⅔	7 5 1 2

▷本塁打＝戸崎1号③(高橋)▷三塁打＝久慈、坂口▷二塁打＝村上、川原崎、藤原、河内山▷犠打飛＝日2(平田、高林)神2(河内山2)▷盗塁＝日1(坂口)▷失策＝神2(戸塚、川原崎)▷捕逸＝高柳▷試合時間＝2時間58分

第４試合＝２回戦(午後６時11分開始)

三菱自動車京都	0	0	0	1	1	0	2	0	0	4
ＮＴＴ中国	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

▶審判(球審)大橋(塁審)吉田、辻、桃田(外審)鹿多、榎田

【三菱京都】打安点振球
⑥ 西 本 2 1 0 0 3
D 摂 津 4 0 0 1 0
⑧ 岡田周 4 1 1 1 0
⑨ 上野山 4 2 1 2 0
⑤ 塚 田 2 0 0 1 2
③ 岩 崎 3 0 0 2 0
⑦ 曽 我 2 0 1 1 0
H 後 藤 1 0 0 1 0
7 伊藤剛 0 0 0 0 0
④ 前 川 4 0 0 1 0
② 森 上 4 1 1 1 0

犠 併 残
3 0 7 30 5 4 11 5

【ＮＴＴ中国】打安点振球
④ 千 川 4 2 0 1 0
⑥ 北 口 4 2 0 2 1
⑧ 遠 藤 4 0 0 2 0
③ 篠 原 4 2 1 0 0
D 武 田 3 1 0 0 0
HD川 口 1 0 0 0 0
⑤ 原 4 0 0 1 0
⑨ 小 原 4 2 0 0 0
② 串 畑 2 0 0 0 0
2 佐藤達 2 0 0 1 0
⑦ 津江本 4 1 0 1 0

犠 併 残
1 0 10 36 10 1 8 1

	回	安振球責
田 渕	5	7 3 1 1
橋 本	3	3 3 0 0
伊藤智	1	0 2 0 0
石 川	6⅔	5 9 4 2
大 谷	2⅓	0 2 1 0

▷本塁打＝森上2号(石川)▷三塁打＝上野山▷二塁打＝上野山、篠原▷犠打＝三3(摂津、岩崎、曽我)N1(千川)▷盗塁＝三3(塚田、岡田周、西本)N1(北口)▷失策＝N2(串畑2)▷捕逸＝串畑▷試合時間＝2時間23分

喜び弾ける８年目

◎…NTT中国を突き放すだめ押しアーチを七回に放ったのが三菱自動車京都の九番、森上。先頭打者として打席に入り、初球を左中間のスタンドに運び、3点目をたたき出した。これでシーズンの本塁打はオープン戦を含めて９本目となり、自己のシーズン最多本塁打記録を塗り替えた。「投手陣の調子がいいので、打撃に神経を集中できるのがいい結果を生んでいる原因ではないでしょうか。打率もこれまでで最高のはず」と言う森上にとって、社会人８年目は思い出に残る１年になりそうだ。

▽10月16日

第１試合＝準々決勝(午前８時51分開始)

西濃運輸	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
大阪ガス	2	0	1	1	0	0	0	0	X	4

▶審判(球審)木嶋(塁審)辻、中川、南垣

【西濃運輸】打安点振球
⑥ 鈴 木 4 1 0 0 0
③ 川 野 4 0 0 1 0
⑨ 持 田 4 2 1 2 0
⑦ 硯 4 0 0 0 0
⑤ 吉 竹 4 2 1 1 0
⑧ 高 橋 4 1 0 1 0
② 小 森 2 1 0 1 0
H 伊 東 0 0 0 0 1
D 野 田 3 0 0 1 0
④ 比 嘉 2 0 0 0 1

犠 併 残
2 0 6 31 7 2 7 2

【大阪ガス】打安点振球
⑥ 竹 村 4 1 0 0 0
D 松 田 2 0 0 1 1
④ 西 3 1 0 0 1
⑨ 湯 川 4 2 1 2 0
⑦ 佐 藤 3 1 1 0 0
7 中 内 1 1 0 0 0
⑧ 折 原 3 0 0 2 0
③ 橋 口 2 0 0 0 1
H 中 西 1 0 0 0 0
3 佐々木 0 0 0 0 0
⑤ 杉 山 3 1 0 0 1
② 上 2 1 1 0 0

犠 併 残
3 0 7 28 8 3 5 4

	回	安振球責
松 田	3⅓	5 2 2 3
吉 井	4⅔	3 3 2 0
成 本	7⅔	6 5 1 2
萩 原	⅔	1 0 0 0
長 野	1⅓	0 2 1 0

▷二塁打＝湯川２、佐藤、持田▷犠打＝西2(小森、野田)大3(松田、折原、上)▷盗塁＝西1(吉竹)大2(竹村、西)▷失策＝西1(持田)▷暴投＝松田▷ボーク＝松田▷試合時間＝２時間26分

第２試合＝準々決勝(午前11時47分開始)

三菱重工長崎	3	0	0	0	0	0	1	0	0	4
本田技研	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

▶審判(球審)鹿多(塁審)岡本、宮木、浜田

【三菱長崎】打安点振球
⑧ 村上竜 4 3 0 0 0
⑤ 村上和 2 0 0 0 1
D 原 田 5 1 1 1 0
⑥ 小 島 2 1 2 1 0
⑨ 林 3 0 1 1 1
⑦ 宮 本 4 0 0 2 0
② 大久保 3 1 0 0 0
2 布 村 1 0 0 0 0
③ 洲加本 4 1 0 1 0
④ 滝 圓 3 1 0 0 1

犠 併 残
3 1 8 31 8 4 5 5

【本田技研】打安点振球
⑨ 鈴 木 3 1 0 0 1
④ 朝 山 3 0 0 0 1
⑧ 岩 村 4 0 0 1 0
③ 山 田 4 0 0 1 0
⑤ 東 宮 4 0 0 2 0
⑦ 熊 倉 3 1 0 0 0
H 荻 原 1 0 0 0 0
D 山 口 2 1 0 0 0
RD橋 本 0 0 0 0 0
HD日 野 1 0 0 0 0
② 長谷川 2 1 1 1 1
H 内 田 1 0 0 0 0
⑥ 高 倉 2 0 0 0 0
H6長 野 1 1 0 0 0

犠 併 残
0 0 7 31 5 1 7 4

	回	安振球責
上 園	5	4 2 2 0
中 川	2	1 1 2 0
本 東	2	0 4 0 0
栗 原	6⅔	7 4 3 4
佐 藤	2⅓	1 1 2 0

▷本塁打＝小島1号②(栗原)▷二塁打＝原田▷犠打＝三3(村上竜、村上和2)▷盗塁＝三1(村上竜)▷失策＝三1(林)▷試合時間＝2時間28分

自信を取り戻す一発

◎…一回に、KOパンチとなる２ランを放った三菱重工長崎の小島は「あそこに飛ぶようになれば、調子も上向きです」と声を弾ませた。アウトコースに沈むシンカーを十分引きつけて流し右中間席へ。今夏の都市対抗では３本塁打の活躍で久慈賞を獲得、全日本メンバーにも選ばれた。

しかし、今大会はこれまで３三振を喫するなど、満足いく打撃が出来ないまま。主砲復活を印象づける一発に「自信が戻った」と意気軒高。

第３試合＝準々決勝(午後２時48分開始)

Ｊ　Ｔ	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
ＮＴＴ信越	1	0	0	0	0	0	2	0	0	3

▶審判(球審)樫根(塁審)丸屋、東、美馬(外審)橋、岸井

【Ｊ　Ｔ】打安点振球
⑨ 佐藤幸 2 0 0 2 0
H7鎌 田 3 1 2 0 0
⑦8渡 辺 3 1 1 0 2
③ 中 田 4 0 0 0 1
⑤ 寺 嶋 4 2 0 0 1
⑧9原 野 4 2 0 0 0
D 高 橋 4 1 2 0 0
④ 長浜屋 4 0 0 0 0
⑥ 菅 原 1 1 0 0 3
② 及川正 1 0 0 1 0

犠 併 残
3 1 8 30 6 5 3 7

【ＮＴＴ信越】打安点振球
⑧ 青 山 4 1 2 0 0
⑤ 土 居 2 1 0 0 1
⑦ 田 中 4 0 0 1 0
③ 横 井 3 1 1 0 1
D 丸 山 4 1 0 1 0
⑥ 谷 口 3 0 0 0 0
H 石 田 1 0 0 0 0
6 樽 井 0 0 0 0 0
④ 藤 嶋 4 1 0 0 1
② 高 橋 3 1 0 0 0
⑨ 北 沢 0 0 0 0 0
9 松 沢 2 0 0 0 0
H9佐 藤 2 0 0 0 0

犠 併 残
1 0 6 32 6 3 3 3

	回	安振球責
及川弘	9	6 3 3 3
佃	4⅓	4 2 2 3
江 尻	2⅔	2 1 2 2
関	1	0 0 0 0
西 嶋	1	0 0 3 0

▷本塁打＝鎌田1号②(佃)高橋1号②(江尻)青山1号②(及川弘)▷二塁打＝土居、原野▷犠打＝J3(及川正3)N1(土居)▷盗塁＝N1(横井)▷失策＝J1(長浜屋)▷暴投＝及川弘、江尻▷試合時間＝2時間25分

第４試合＝準々決勝(午後５時45分開始)

日本石油	0	0	2	2	1	0	1	1	2	9
三菱自動車京都	0	1	0	1	1	0	0	2	3	8

▶審判(球審)大橋(塁審)生越、榎田、宮奥(外審)岸井、橋

【日本石油】打安点振球
⑥ 久 慈 4 1 0 0 0
④ 平 田 5 2 3 1 0
⑧ 坂 口 5 0 1 0 0
③ 徳 永 5 2 2 2 0
⑤ 若 林 5 3 0 2 0
D 相 田 4 0 0 2 2
⑦ 村 上 4 2 3 2 1
9 加 藤 0 0 0 0 0
② 高 柳 3 0 0 0 1
⑨7高 林 3 3 0 0 1

犠 併 残
3 1 8 38 14 8 7 3

【三菱京都】打安点振球
⑥ 西 本 5 1 1 0 0
D 摂 津 3 2 1 1 0
HD山 本 2 0 1 0 0
⑧ 岡田周 4 1 1 3 1
⑨ 上野山 5 3 2 2 0
⑤ 塚 田 3 0 0 1 0
H 後 藤 1 1 0 0 0
R5藤 村 0 0 0 0 0
③ 岩 崎 4 2 2 1 0
⑦ 曽 我 4 1 0 0 0
R 伊藤剛 0 0 0 0 0
④ 前 川 3 0 0 0 0
H 永 井 1 0 0 0 0
② 森 上 4 2 0 1 0

犠 併 残
0 0 5 39 13 8 10 1

	回	安振球責
鈴 木	7⅔	10 8 1 5
高 橋	⅓	0 1 0 0
野 村	1	3 1 0 0
伊藤智	6⅓	10 6 1 6
田 渕	2	3 1 1 3
大 里	⅔	1 0 1 0

▷本塁打＝岩崎1号(鈴木)村上1号②(伊藤智)、上野山3号②(鈴木)徳永2号②(田渕)▷二塁打＝若林2、岩崎、西本▷犠打＝日3(久慈、相田、高柳)▷盗塁＝日4(徳永、高林３)三3(西本、岡田周、上野山)▷失策＝日1(久慈)三1(森上)▷暴投＝田渕▷ボーク＝伊藤智▷試合時間＝3時間12分

▽10月18日

第１試合＝準決勝(午前９時53分開始)

三菱重工長崎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大阪ガス	0	0	3	0	0	0	1	1	X	5

▶審判(球審)鹿多(塁審)吉田、桃田、丸屋

【三菱長崎】打安点振球
⑧ 村上竜 4 0 0 0 0
⑤ 村上和 4 1 0 0 0
D 原 田 1 0 0 0 1
RD竹 崎 0 0 0 0 0
HD 関 1 0 0 0 1
⑥ 小 島 3 1 0 1 1
⑨ 林 4 0 0 1 0
⑦ 宮 本 4 2 0 1 0
② 大久保 1 0 0 0 0
2 布 村 1 0 0 0 0
③ 洲加本 3 0 0 1 0
④ 滝 圓 3 0 0 1 0

犠 併 残
2 0 6 29 4 0 5 2

【大阪ガス】打安点振球
⑥ 竹 村 4 2 1 1 0
D3松 田 3 1 0 1 1
④ 西 4 3 2 0 0
⑨ 湯 川 3 1 1 0 0
⑧ 折 原 2 0 0 2 1
H8中 内 3 1 0 0 0
⑦ 植 村 3 0 0 2 0
H7沢 多 3 1 1 0 0
③ 橋 口 2 0 1 0 0
H3中 西 1 0 0 0 1
1 西 岡 2 1 0 0 0
⑤ 杉 山 2 0 1 0 1
H5佐々木 1 0 0 1 0
② 上 3 0 0 0 0

犠 併 残
2 1 6 30 9 5 7 3

	回	安振球責
上 園	2⅓	3 1 2 3
中 川	1⅔	1 2 1 0
本 東	4	5 4 0 2
西 岡	9	4 5 2 0

▷二塁打＝宮本、西▷犠打飛＝三2(原田、大久保)大2(湯川、中西)▷盗塁＝大2(杉山、竹村)▷失策＝大1(杉山)▷試合時間＝2時間30分

西岡、３連続の完投

大阪ガスは三回、杉山の四球を足場にした一死二塁に竹村が中前打して先制。松田の四球のあと、西の右翼線二塁打で加点、三菱重工長崎の先発・上園をＫＯした。なお二、三塁で代わった中川から湯川が中犠飛して計３点を挙げ主導権を握った。七回には西の右前打で、八回は中西の右犠飛で効率良く加点した。

三菱重工長崎打線は、両サイドを制球良く突く西岡の投球に決定打を奪えず、散発４安打に封じられて完敗した。西岡は３試合連続完投で、初の完封勝ち。

第２試合＝準決勝(午後０時55分開始)

日本石油	0	0	1	4	3	1	0	0	1	10
Ｊ　Ｔ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

▶審判(球審)大橋(塁審)伊東、生越、美馬

【日本石油】打安点振球
⑥ 久 慈 5 1 2 1 0
6 伊藤幸 0 0 0 0 1
④ 平 田 4 2 1 0 1
4 木 下 1 1 1 0 0
⑧ 坂 口 5 1 1 0 0
③ 徳 永 5 3 2 0 0
⑤ 若 林 3 0 0 0 2
D 相 田 5 2 2 1 0
⑦ 村 上 5 1 0 1 0
R9加 藤 0 0 0 0 0
② 高 柳 3 2 0 0 1
⑨7高 林 4 2 0 1 0

犠 併 残
3 0 11 40 15 9 4 5

【Ｊ　Ｔ】打安点振球
⑦ 柳 畑 0 0 0 0 0
9 佐藤幸 1 0 0 0 0
H 藤 原 0 0 0 0 1
7 鎌 田 1 0 0 0 1
⑧78渡 辺 4 0 0 1 0
③ 中 田 3 0 0 0 1
⑤ 寺 嶋 4 0 0 1 0
⑧9原 野 4 1 1 1 0
D 高 橋 3 1 0 0 1
④ 長浜屋 2 1 0 0 0
H 菊 池 1 0 0 0 0
4 池 谷 2 0 0 0 0
⑥ 菅 原 2 0 0 0 1
② 及川正 1 0 0 1 0
H 藤 沢 1 0 0 1 0
2 倉 田 0 0 0 0 0

犠 併 残
1 0 6 28 3 1 4 5

	回	安振球責
高 橋	5	1 2 5 0
増 永	4	2 2 0 1
石 村	3⅔	9 3 2 5
日 笠	1	2 0 1 2
佐藤正	1⅓	2 2 0 0 1
及川弘	3	2 1 2 1

▷本塁打＝徳永3号②(石村)原野2号(増永)▷二塁打＝坂口、久慈▷犠打＝日3(坂口、高柳、高林)J1(菅原)▷失策＝J1(佐藤正)▷試合時間＝2時間42分

日石、猛打とどまらず

日本石油は三回、相田の三塁強襲安打で先制し、中盤には長打攻勢。四回二死から平田の右適時打で加点したあと、坂口が右中間二塁打、徳永が３号２ランを放って計４点。五回にも久慈の２点二塁打などで３点を加えて試合を決めた。

ＪＴは五回、日石・高橋の制球の乱れから３四球を得た二死満塁を生かせず、中盤のヤマ場で反撃機を逸した。六回から代わった増永も打ちあぐみ、八回までわずか１安打。九回、原野が左中間に本塁打して完封を免れるのがやっと。

▽10月19日

優勝戦(午後1時1分開始)

日本石油	2	0	0	0	0	0	0	2	0	4
大阪ガス	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3

▶審判(球審)木嶋(塁審)大橋、鹿多、美馬

【日本石油】	打	安	点	振	球
⑥ 久慈	4	2	0	0	1
④ 平田	4	2	0	0	0
⑧ 坂口	5	1	0	0	0
③ 徳永	5	1	0	0	1
⑤ 若林	4	2	0	2	1
D 相田	5	2	1	1	0
⑦ 村上	3	1	0	1	0
H 木下	0	0	0	0	1
9 加藤	0	0	0	0	0
② 高柳	4	1	0	2	0
⑨ 7高林	4	0	1	2	0
犠 併 残					
1 0 11	38	12	2	8	3

【大阪ガス】	打	安	点	振	球
⑥ 竹村	5	1	0	1	0
D 松田	5	2	0	0	0
④ 西	4	0	0	1	0
⑨ 湯川	4	3	1	0	0
⑦ 沢多	2	1	1	1	0
7 植村	0	0	1	0	0
⑧ 折原	3	1	1	0	0
③ 橋口	3	0	0	1	0
H 3佐々木	1	0	0	0	0
⑤ 杉山	2	1	0	0	2
② 上	3	0	0	0	0
犠 併 残					
4 1 8	32	9	3	3	2

	回	安	振	球	責
鈴木	9	9	3	2	3

	回	安	振	球	責
西岡	7⅔	11	8	1	2
成本	2	1	0	2	0

▷二塁打＝村上、徳永、若林▷犠打飛＝日1(平田)大4(沢多2、折原、上)▷盗塁＝日1(久慈)大2(竹村、湯川)▷失策＝大2(湯川、橋口)▷ボーク＝鈴木▷試合時間＝2時間57分

日石、8回に西岡攻略

一回表、日本石油の先頭・久慈を一塁手の悪送球で生かした大阪ガスに、動揺が見え、平田の右前打を処理した右翼手も、返球をミスして先制点を献上。併殺の間に平田も生還した。

地に足がつかなかったのは日石も同じ。その裏鈴木が竹村、松田に連打され、湯川の中前打、沢多の右犠飛であっという間の同点。

二回からは一転、引き締まった投手戦となった。西岡がキレのいいカーブを巧みに使い、緩急自在の投球を見せれば、鈴木は持ち前の140㌔台の速球でグイグイ押した。

緊迫戦に突破口を開いたのは大阪ガス。六回、右前打の先頭・湯川が二盗。沢多の送りバントが、野選を誘った一、三塁から折原が左前に勝ち越し打。しかし、日石は八回、球威の落ちた西岡を見逃さなかった。徳永の左翼線二塁打に、若林、相田が左前打で続き再び同点とし西岡をKO。なおも満塁から高林の内野ゴロで決勝点を奪った。

大阪ガスは九回、四球の先頭・杉山がボークとバントで三進。絶好機をつかんだが、鈴木の踏ん張りの前に後続が凡退、涙を飲んだ。

〔優勝戦〕大阪ガス－日本石油　初優勝が決定、抱き合って快挙を喜ぶ日本石油ナイン。

監督談話

日本石油・林裕幸監督　これほど粘り強かったとは…。鈴木も本当にいい粘り、意気込み、闘志を見せてくれた。

大阪ガス・更紗忠海監督　西岡はよく投げてくれたが、右打者の並ぶ八回は代え時だったかもしれない。

日石、スキを突いて若さの大ガス圧倒

熱球

日本石油にとって苦しい試合だった。一回、大阪ガスの守りの乱れに乗じて2点を先取する好スタートを切りながら二回、立ち直った西岡に3者三振に仕留められるなどチームの看板になっている徳永を中心とした打線が沈黙、中盤からは試合の流れが次第に大阪ガスに傾いていった。林監督の胸中にも暗雲が漂い始めていた。

しかし再び流れを変えるプレーが六回に出た。大阪ガスは折原の適時打で1点を勝ち越し、なお無死一、二塁の追加点機に橋口がバントを失敗、せっかくの押せ押せの勢いが止まってしまった。1点だけのリードは西岡には大きなプレッシャーとなり、七回からははっきりと球が高めに浮き、勝負球も切れを欠いた。沈黙していたとはいえ八回、日石打線はさすがに西岡の甘い球を見逃さなかった。徳永が左翼線二塁打で反撃の口火を切り、若林、相田が連打で続き同点。急きょ西岡を救援した成本も日石の気迫に押され、いきなり四球。この制球の乱れが決勝点に結びついてしまった。

「六回にもう1、2点取っていれば西岡はもっと楽な投球ができていたはず。一回の2失策も痛かったが、バントの失敗が響いた」と大阪ガスの更紗監督は試合後、惜敗の悔しさをかみしめた。相手のスキを突いて得点した日石と、重圧のかかる大試合で練習の成果を発揮できなかった大阪ガス。都市対抗で6回の最多優勝記録を持ちながら2年連続準優勝にとどまり、その無念さをバネに厳しい練習を繰り返し大会に臨んだ日石ナインの意地が、都市対抗、日本選手権を通じて初めて優勝戦にコマを進めた「若い大阪ガス」の勢いを押しつぶした。　（江尻　進一）

監督ひと

日本石油　林　裕幸監督

監督に就任した1989年のシーズンから3年連続の優勝戦進出で、やっと念願をかなえた。「こんな記録、珍しいと思う。しかし選手たちは本当に頑張り続けた。敬服する」。選手をたたえながら「もっと笑え」とみんなからいわれるほどの怖い顔に涙が浮かんだ。3年をかけた自身の喜びを抑えきれなかった。

日本選手権ではあと一歩の頂上がきわめられず、夏の都市対抗では一回戦敗退が続いた。「なぜ勝てないか」。悩み「気の研修会」にも通ってコーチ陣、選手との対話に活路を求めた。

高校、大学、社会人を通じて主将を務め、4年間のコーチ時代には都市対抗の優勝にも貢献。「オレの言う通りにやれ、と押しつけて満足していた。優勝経験はますます天狗にさせた」。常にチームを引っ張っている、という自負がそうさせた。が「振り返ると、だれもついてきていなかった」

暇を見つけてはコーチ陣と話し合い、練習をまかせきるようになった。「風が強い日、飛球の練習を、と思ってグラウンドに出るとコーチがやってくれている。選手の一球々々、真剣に取り組んでいた」。対話の成果に「こんどは勝てる」と臨んだ選手権だったそうだ。「結局は人間関係。でも、まだまだ人を動かす難しさを痛感する」といいながら、ポケットにしのばせた妻貴美江さんと二児の家族写真に、そっと手をやった。　（笹尾　勝彦）

ズームアップ

西岡　洋投手
大阪ガス・22歳

「気持ち先走った」

力投した大阪ガスの西岡投手

八回の3連打は、まるで悪夢でも見ている感じだったろう。この大会、自信を持って右打者の懐をえぐってきたスライダーがことごとく甘く入って、あっという間の降板。「1点リードしても意識しないようにしたのに…。気持ちは先走っていたんでしょうね。甘くはないですね。」あきらめと未練がいつまでも同居しているふうだった。

一回にいきなりエラーも絡み2安打で2失点。「あの時、野手の人たちに、もう点をやりませんから、点を取って下さい、とお願いしたんです」。二回以降は立ち直ったが、終盤丁寧さと集中力を欠いたようだ。

社会人4年目。今春全日本入りし、「日の丸をつけたんだから」と自信がつき、今大会ナンバーワン左腕として花開いた。だが、満足感に浸るわけにはいかないのだろう。「皆でいい酒を飲みたかった」。MVPを逃した男の、心からのつぶやきだった。

▶最終回でも146キロ◀ 日石・鈴木

㊐…胴上げ投手となった日本石油の鈴木は「一死三塁になった時は同点を覚悟した」と、最終回のピンチをしのいでホッとした表情。最後の打者への速球で146キロを出すなど、136球投げても威力は衰えず、伸びのある速球と切れのいいスライダーで徹底的に低めをついたのが奏効した。五輪予選前まで全日本メンバーだった貫録を示したが「球種も少ないし、制球力もない。球威が無ければ二、三流の投手」と照れた。

▶ミス帳消しの一打◀ 大ガス・湯川

㊐…「当事者だから何としても打ちたかった」と大阪ガス反撃の1点目をたたき出した湯川。というのは一回無死一塁の守りで右前打を三塁へ悪送球し、やらなくていい点を与えてしまったからだ。しかし、その裏一死二、三塁で中前適時打を放ち、ミスを帳消しに。これで勢いづくと、この日3安打と活躍。しかし、27歳のベテランで四番打者らしく「自分のヒット数が少なくても、チームに優勝の二文字が欲しかった」。

第18回大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　鈴木健投手**（日本石油）「優勝投手は初めて。それだけで十分なのに」と、各種大会でもとったことがない初のMVPに歓喜した。過去2度の先発（大昭和製紙北海道、三菱自動車京都）は序盤で大量援護を受けながら、制球を乱して途中降板。名誉ばん回の登板で、本領を発揮した。181㌢、82㌔。山形・羽黒工高から入社4年目、22歳。中央技術研究所に勤務。

◇**打撃賞　徳永耕治一塁手**（日本石油）　千葉工高から入社5年目。2年目から四番打者に定着、今大会では24打数12安打10打点と自慢のパワーを発揮、投手陣を強力に援護した。「優勝戦までの5試合は上出来。体（175㌢、75㌔）の割には打球がよく飛ぶが自分でもなぜかよく分かりません。もっと平均して打てるようになるのがこれからの目標」。中央技術研究所勤務。23歳。

◇**敢闘賞　西岡洋投手**（大阪ガス）　優勝戦まで5試合のうち4試合に先発、完投勝ち2回、完封勝ち1回と準優勝の原動力となった。

◇**首位打者賞　湯川素哉外野手**（大阪ガス）　5試合で21打数13安打8打点。打率6割1分9厘。京都・宇治高から早大を経て、入社6年目。1回戦の川崎製鉄水島戦で本塁打を含む3安打と好調なスタートを切り、毎試合安打を放ち、初めてまかされた四番の重責を果たした。「平常心を保てたのが好結果を生んでくれた」。179㌢、79㌔。右投げ、右打ち。北部支社勤務。27歳。

◇**大会優秀選手**

【投手】鈴木健（日本石油）、高橋憲幸（日本石油）、上園達二（三菱重工長崎）、佐藤剛（本田技研）、西岡洋（大阪ガス）　【捕手】森上弘之（三菱自動車京都）、上和秀（大阪ガス）　【一塁手】徳永耕治（日本石油）、岩崎武千法（三菱自動車京都）　【二塁手】西正文（大阪ガス）、平田望（日本石油）　【三塁手】若林重喜（日本石油）　【遊撃手】竹村誠（大阪ガス）、菅原隆浩（ＪＴ）　【外野手】高林孝行（日本石油）、上野山達夫（三菱自動車京都）、湯川素哉（大阪ガス）、村上竜太郎（三菱重工長崎）　【ＤＨ】山口高誉（本田技研）

◇**10回出場選手**

平紀陽典（大昭和製紙北海道）、梁原修志（東芝）、森正隆（四国銀行）

◇**10年連続出場審判**

長谷至康、鹿多証道、生越芳明、東優孝

Vの陰にトレーナー

谷川哲也さん

悲願の初優勝―。一昨年、昨年と優勝戦に進みながらどうしてもダイヤモンド旗に手が届かなかった日本石油がついに。一時はリードしながら惜しくも準優勝に終わった大阪ガスのナインにも、スタンドから温かい拍手が送られた。

日石優勝の原動力は毎試合2けた安打を放った打線。それを陰で支えてきたのがアスレチック・トレーナーの谷川哲也さん（30）。倉吉北高時代に主将として甲子園に出場、ベスト8入りし、社会人野球の川崎製鉄水島に進みながら、ヒザの故障で選手生活を断念した経験の持ち主。5年前に就任して以来、「けがを防ぎ、強くなる秘けつは体作り」と基礎体力作りの重要性を強調。年間計画をたてウエートトレーニングメニューを組み、選手たちを指導してきた。当初は、監督やコーチとトレーニング方法をめぐって衝突することも。しかし、けが人がほとんど出なくなり、選手の筋力は大幅にアップした。

一方、過去2回の出場はいずれもベスト8止まりだった大阪ガス。ビッグゲームでは初の優勝戦進出に、ナインもスタンドも一体になった。

この日は会社の創業86周年で、スタンドには西山磐相談役ら約5000人の応援団が詰めかけた。バックネット裏で声援を送った前監督の藤田正樹さん（34）は「今のチームはベテランが若手を引っ張って最高の状態。更紗忠海監督の指導のたまもの」と後輩監督をたたえた。

快進撃の立役者の一人、西正文二塁手（30）の妻記美代さん（29）は「アジア選手権予選で活躍したり、今大会も優勝戦までこれて、幸せな1年でした」と夫の活躍に満足そう。予選で調子の出なかったエースの西岡洋投手（22）を好リードで支えた上和秀捕手（30）の妻克美さん（26）も「腰の調子が悪く病院に通いながらの出場だったのでよく頑張ったね、と言ってあげたい」と労をねぎらった。

第18回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

8月21日から　5日間　　札幌市営円山球場

東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽ **一回戦**　全弘前18－5オール青森、南郷村硬球会15－5八甲ク▽**準決勝**　自衛隊青森12－3全弘前、三菱製紙八戸19－0南郷村硬球会▽**決勝**　自衛隊青森10－0三菱製紙八戸（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**▽ **一回戦**　住田ク7－3水工ク、小野田セメント10－1オール江刺、盛岡市立ク7－6岩手東芝、水沢駒形9－8雫石ク、岩手アイワ8－5東北ハーネス、東京製綱7－6釜石野球団、宮城建設11－6遠野ク▽**二回戦**　県経済連10－0住田ク、岩手銀行7－0盛岡市立ク、小野田セメント9－1オール釜石、水沢駒形6－3赤崎野球ク、岩手アイワ11－4盛岡ク、オール不来方12－5東京製綱、一関三星ク12－0久慈ク、宮城建設3－2北上球友▽**準々決勝**　県経済連4－0小野田セメント、宮城建設9－4岩手アイワ、岩手銀行14－1水沢駒形、オール不来方14－9一関三星ク▽**準決勝**　県経済連7－0宮城建設、岩手銀行8－0オール不来方（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　県経済連4－3岩手銀行

◇**秋田**▽ **一回戦**　秋田あけぼの銀行22－1王冠ク、八橋ユーランドク7－4秋田ベースボールク、秋田銀行20－6能代松陵ク、TDK22－0秋田経法大校友ク▽**準決勝**　TDK4－2秋田銀行、秋田あけぼの銀行11－3八橋ユーランドク▽**決勝**　秋田あけぼの銀行5－4TDK（勝者は第二次予選へ）

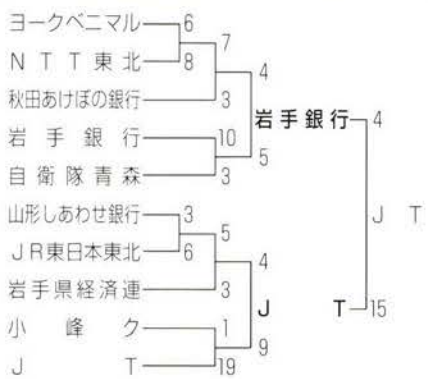
◇**宮城**▽ **一回戦**　日産サニー宮城11－4東北福祉大ク▽**準々決勝**　七十七銀行6－1カメイ、JT11－2日産サニー宮城、JR東日本東北16－6白山ク、NTT東北9－1十条製紙▽**準決勝**　JR東日本東北5－3JT、NTT東北4－3七十七銀行（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　NTT東北11－2JR東日本東北▽**敗者復活 一回戦**　東北福祉大ク7－4カメイ▽**同 二回戦**　東北福祉大ク7－5日産サニー宮城、十条製紙10－0白山ク▽**同 三回戦**　JT15－1十条製紙、七十七銀行13－0東北福祉大ク▽**第三代表決定戦**　JT10－9七十七銀行（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽ **一回戦**　鶴岡野球ク14－4新庄球友ク、山形しあわせ銀行9－0三川ク▽**決勝**　山形しあわせ銀行5－1鶴岡野球ク

◇**福島**▽ **一回戦**　学石OB3－2二本松ク、トヤ野球ク6－3川俣ク、矢吹ク17－3好間ク、小峰ク10－0飯野ク、保原ク6－5ニュー相馬▽**二回戦**　矢吹ク（不戦勝）北斗野球ク、ヨークベニマル（不戦勝）福島ク、小峰ク6－3同仁社、オールいわき18－8塙ク、小名浜ク9－8保原ク、学石OB3－2平工OB、郡山ベースボールク5－2トヤ野球ク、福島硬友ク7－3須賀川ク▽**準々決勝**　ヨークベニマル12－1矢吹ク、郡山ベースボールク5－1学石OB、小峰ク16－8オールいわき、小名浜ク4－2福島硬友ク▽**準決勝**　ヨークベニマル12－2郡山ベースボールク、小峰ク5－0小名浜ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ヨークベニマル19－0小峰ク

▶二次予選

8月24日から　3日間　　県営宮城球場



関東大会

▶一次予選

◇**茨城**▽**リーグ戦**　日立製作所12－2鹿島石油、住友金属鹿島13－2鹿島石油（日立製作所、住友金属鹿島は第二次予選へ）

◇**埼玉**▽ **一回戦**　川口球友ク8－2大和ク、全浦和14－7かみかわク▽**準々決勝**　エーザイ7－1都幾川ク、日本通運9－4川口球友ク、全大宮10－6全三郷、本田技研7－3全浦和▽**準決勝**　日本通運16－2エーザイ、本田技研20－2全大宮（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本通運10－3本田技研

◇**千葉**▽**リーグ戦**　NTT関東11－6新日鉄君津、NTT関東11－6川崎製鉄千葉、川鉄千葉6－2新日鉄君津（川鉄千葉とNTT関東は第二次予選へ）

◇**東京**▽ **一回戦**　東京ガス10－5太陽神戸三井銀行、リクルート9－8朝日生命、日本IBM6－6JR東日本＝引き分け再試合・日本IBM6－5JR東日本▽**代表決定戦**　NTT東京9－8明治生命、東京ガス4－3プリンスホテル、リクルート12－11鷺宮製作所、熊谷組9－1日本IBM（勝者は第二次予選へ）▽**敗者復活 一回戦**　プリンスホテル6－3明治生命、鷺宮製作所10－2日本IBM▽**第五代表決定戦**　プリンスホテル11－4鷺宮製作所（勝者は第二次予選へ）

◇**東京多摩**▽ **一回戦**　全府中9－0武蔵野ク▽**準決勝**　スリーボンド16－0全調布、東芝府中11－4全府中▽**決勝**　東芝府中6－5スリーボンド（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽ **一回戦**　いすゞ自動車12－2川崎ク、横浜金港ク10－4横浜高島屋、三菱自動車川崎15－0横浜球友ク、ウィーンク16－1神奈川ク▽**準々決勝**　東芝14－4横浜金港ク、いすゞ自動車6－5三菱重工横浜、日産自動車5－4三菱自動車川崎、日本石油16－1ウィーンク（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　東芝5－1いすゞ自動車、日本石油9－6日産自動車▽**決勝**　日本石油6－1東芝▽**三位決定戦**　いすゞ自動車5－3日産自動車▽**敗者復活 一回戦**　三菱重工横浜11－1横浜金港ク、三菱自動車川崎18－3ウィーンク▽**第五代表決定戦**　三菱自動車川崎5－4三菱重工横浜（勝者は第二次予選へ）

◇**山梨**▽ **一回戦**　甲府ベースボールク9－2市川ク、大月ク7－4山梨球友ク、東海甲府ク16－10桂ク▽**準決勝**　大月ク7－4甲府ベースボールク、オール櫛形8－1東海甲府ク▽**決勝**　オール櫛形8－1大月ク（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

8月22日から 5日間　群馬・太田運動公園野球場

北信越大会

▶一次予選

◇**新潟**▽ **一回戦**　ニチエー6－2全新発田▽**準決勝**　白根野球団11－8オール東、ニチエー13－3佐渡軍団▽**決勝**　ニチエー12－0白根野球団（勝者は第二次予選へ）

◇**長野**▽**リーグ戦**　NTT信越18－1全松本、TDK千曲川12－2全松本、NTT信越12－4TDK千曲川（NTT信越、TDK千曲川は第二次予選へ）

◇**富山**▽**リーグ戦**　北陸銀行11－1伏木海陸運送、NTT富山4－3伏木海陸運送、北陸銀行18－0NTT富山（3チームとも第二次予選へ）

▶二次予選

8月31日から　2日間　　金沢市民球場

東海大会

▶一次予選

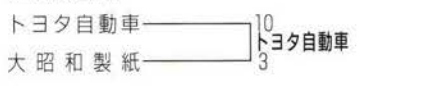
◇**静岡**▽一**回戦**　岳南ク４－３中遠ク、天城ベースボールク11－０浜松ウナボンズ、静岡硬式野球ク７－６富士ク▽二**回戦**　ヤマハ９－０岳南ク、協和発酵ク13－12本州ク、大昭和製紙11－１天城ベースボールク、ヤマハ発動機誠和ク11－１エースコンク、フジウンノ野球ク６－５中電硬式野球ク、関東自動車工業10－０菊笠ク、三島ク10－０浜商闘魂会、河合楽器10－３静岡硬式野球ク▽**準々決勝**　ヤマハ10－０協和発酵ク、大昭和製紙11－４ハマハ発動機誠和ク、河合楽器11－４三島ク、関東自動車工業８－１フジウンノ野球ク（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　ヤマハ14－５河合楽器、大昭和製紙15－７関東自動車工業▽**決勝**　大昭和製紙６－４ヤマハ

◇**東海**▽一**回戦**　東邦ガス４－３本田技研鈴鹿、トヨタ自動車12－０大仙、三菱名古屋11－４サンジルシ醸造、王子製紙春日井６－０新日鉄名古屋、日通名古屋８－４ＪＲ東海▽**準々決勝**　トヨタ自動車８－７東邦ガス、三菱名古屋４－３西濃運輸、王子製紙春日井12－２東海理化、ＮＴＴ東海11－３日通名古屋（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　三菱名古屋４－３トヨタ自動車、ＮＴＴ東海７－６王子製紙春日井▽**決勝**　ＮＴＴ東海８－３三菱名古屋▽**敗者復活戦**　西濃運輸７－０東邦ガス、東海理化５－３日通名古屋（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

8月28日から　5日間　　浜松市営球場

（三位決定戦）



近畿大会

▶一次予選

◇**滋賀**▽一**回戦**　全大津６－４瀬田工ＯＢ▽**決勝**　日本ＩＢＭ野洲７－０全大津（勝者は第二次予選へ）

◇**京都**▽一**回戦**　日産車体京都９－１島津製作所▽**準々決勝**　日本新薬24－３高島屋京都、三菱自動車京都３－２第一紙行、丸勝11－０京都市役所、日産車体京都８－５協和北ク（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　丸勝６－５三菱自動車京都、日本新薬14－０日産車体京都▽**決勝**　日本新薬８－７丸勝

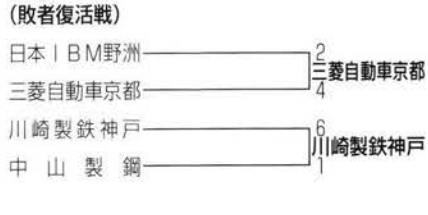
◇**大阪**▽一**回戦**　大和銀行12－１三和銀行、新日鉄堺５－２大阪ペーシェンス▽**準々決勝**　中山製鋼６－３松下電器、大阪ガス７－０デュプロ、ＮＴＴ関西10－１大和銀行、日本生命17－５新日鉄堺（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　中山製鋼３－１ＮＴＴ関西、日本生命11－４大阪ガス▽**決勝**　中山製鋼９－７日本生命▽**敗者復活一回戦**　大和銀行７－４松下電器、新日鉄堺８－４デュプロ▽**第五代表決定戦**　大和銀行８－３新日鉄堺（勝者は第二次予選へ）

◇**兵庫**▽一**回戦**　神戸製鋼９－２田村コピー、川崎製鉄神戸６－４阿部企業、三菱重工神戸５－３小西酒造▽**準決勝**　神戸製鋼５－４三菱重工神戸、川鉄神戸８－７新日鉄広畑（準決勝出場４チームは第二次予選へ）▽**決勝**　川鉄神戸５－４神戸製鋼▽**三位決定戦**　三菱重工神戸８－７新日鉄広畑▽**敗者復活一回戦**　阿部企業12－10田村コピー▽**第五代表決定戦**　小西酒造10－９阿部企業（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

8月27日から　5日間　　姫路球場

（敗者復活戦）



中国大会

▶一次予選

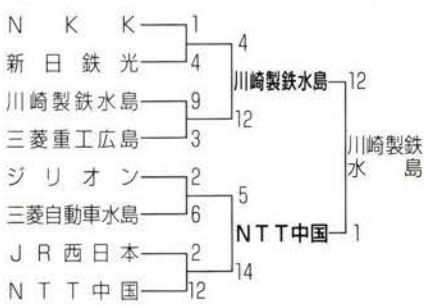
◇**岡山・鳥取**▽**リーグ戦**　川崎製鉄水島５－２三菱自動車水島、川鉄水島10－９王子製紙米子、三菱自動車水島８－６王子製紙米子、川鉄水島９－２王子製紙米子、三菱自動車水島20－９王子製紙米子、川鉄水島６－１三菱自動車水島（三菱自動車水島、川鉄水島は第二次予選へ）

◇**広島**▽一**回戦**　ＮＫＫ５－２山本鋼材、ＪＲ西日本７－６マツダ、三菱重工広島６－２常石鉄工、ＮＴＴ中国４－２三菱重工三原▽**準決勝**　ＮＫＫ６－１ＪＲ西日本、ＮＴＴ中国10－１三菱重工広島（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ＮＫＫ６－５ＮＴＴ中国▽**敗者復活一回戦**　山本鋼材７－５マツダ、三菱重工三原８－４常石鉄工▽**同二回戦**　三菱重工広島９－３山本鋼材、ＪＲ西日本９－６三菱重工三原（勝者は第二次予選へ）

◇**山口**▽一**次リーグ**　田辺製薬７－６航空自衛隊防府、ジリオン14－２航空自衛隊防府（田辺製薬、ジリオンは二次リーグへ）▽二**次リーグ**　田辺製薬12－４協和発酵、ジリオン６－４新日鉄光、新日鉄光６－４協和発酵、ジリオン10－６田辺製薬、新日鉄光11－４田辺製薬、ジリオン６－３協和発酵（ジリオン、新日鉄光は第二次予選へ）

▶二次予選

8月27日から　3日間　　下関球場

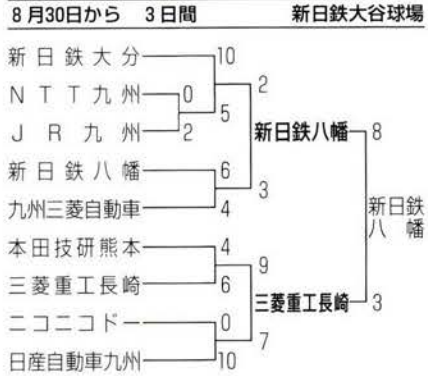


四国大会

8月24日から　2日間　　高知県営春野球場

九州大会

8月30日から　3日間　　新日鉄大谷球場



第18回大会出場選手等一覧（○は主将）

大昭和製紙北海道

監督	我喜屋　優	41	興南高
投手	岩舘　新一	18	稚内大谷高
〃	加藤　宗之	23	札幌稲西高
〃	大崎　守	25	室蘭大谷高
〃	小畑　拓也	22	拓殖大
〃	渡部　勝美	28	砂川南高
〃	桐木　孝司	19	北海道桜丘高
〃	福田　一優	22	広島盈進高
〃	野瀬　征宏	20	北見緑陵高
捕手	望月　秀久	24	九州東海大
〃	山崎　史博	28	北海学園大
〃	藤山　誠	19	瀬戸内高
〃	横沢　滋	31	深川西高
内野	社　新吾	30	瀬戸内高
〃	○酒井　司	27	留萌高
〃	高木　吉夫	29	中央学院大
〃	太田　英次	24	北海学園大
〃	斉藤　睦	26	東京農大
〃	富永　茂樹	23	拓殖大
〃	若松　英樹	22	拓殖大
〃	山本　隆成	22	北海道日大高
外野	平　紀陽典	31	日大東北高
〃	佐藤　耕治	28	關越高
〃	日下　幸弘	25	広島至誠高
〃	木内九二生	24	拓殖大
〃	大宮　善輝	20	札幌第一高

新日本製鐵室蘭

監督	田中　君男	49	船橋高
投手	別府　信介	22	明徳義塾高
〃	嘉手苅一弘	20	日体荏原高
〃	武田　勉	19	中標津高
〃	渡辺　公幸	20	佐渡農高
〃	高橋　彪	21	美幌高
〃	米山　浩一	31	専修大
捕手	鈴木　誠治	23	北海学園大
〃	野田　健司	19	東海大四高
〃	平間　英樹	27	白糠高
〃	長山　和英	28	神奈川大
〃	太田　毅	18	久留米工大付高
内野	加藤　茂樹	23	国際武道大
〃	橋本　秀樹	20	大宮東高
〃	梅田　貴市	23	中央学院大
〃	政田　幸雄	23	道都大
〃	鈴木　広之	24	水戸商高
〃	盛田　欣也	20	函大有斗高
外野	船尾　隆広	20	函大有斗高
〃	近藤　巌	23	中央大
〃	岡田　健一	24	旭川竜谷高
〃	田中　仁	21	北海道桜丘高
〃	黒木　和也	19	湯沢商工高
〃	○馬場　巧司	29	室蘭大谷高
〃	桜井　清一	30	倶知安高

岩手銀行

監督	佐々木直行	34	高田高
投手	浅利　薫	18	一関二高
〃	菊池　一民	19	遠野高
〃	岡田　星司	20	盛岡工高
〃	鈴木　治	25	高田高
〃	岩間　英次	18	花北商高
〃	高橋　英貴	19	黒沢尻北高
〃	菅原　孝一	28	花巻北高
捕手	○気仙　学昇	27	国士舘大
〃	熊谷　清喜	24	一関商工高
〃	向井　一	33	福岡高
内野	臼山　満	20	蜂巣高
〃	志和　誠	20	盛岡商高
〃	菊池　淳	30	岩谷堂高
〃	大友　優	23	水沢高
〃	安田　充伸	22	流通経済大
〃	鈴木　嘉正	25	法政大
〃	菅原　浩	24	秋田経法大
〃	小松　久男	32	久慈高
外野	山藤　章	26	東北学院大
〃	斉藤　幸二	24	福岡高
〃	細川　真一	19	盛岡商高
〃	荒川　俊哉	24	盛岡市立高
〃	小田島敦史	22	盛岡商高
〃	佐々木直行	34	高田高

J T

監督	山下　静夫	32	亜細亜大
投手	相沢　弘明	22	石巻工高
〃	石川　朋彦	23	名取高
〃	日笠　弘明	25	亜細亜大
〃	及川　弘昭	26	一関商工高
〃	加藤　淳	28	仙台商高
〃	石村　浩司	24	東北福祉大
〃	柳畑　雅人	25	福岡高
〃	佐藤　正樹	27	駒沢大
捕手	鹿田紀久夫	28	亜細亜大
〃	菊池　拓徳	19	能代商高
〃	佐藤　幸幸	19	秋田商高
〃	及川　正則	28	広田水産高
内野	池谷　昌彦	24	東北福祉大
〃	藤原　順	28	秋田商高
〃	佐々木幸樹	22	大船渡高
〃	○寺嶋　哲也	28	仙台育英高
〃	菅原　隆浩	29	明治大
〃	長浜屋　篤	23	東北福祉大
〃	藤沢　法行	24	花巻北高
〃	中田　英次	23	東北福祉大
外野	鎌田　倫昌	21	弘前実高
〃	原野　優	28	仙台育英高
〃	鈴木　和彦	19	東陵高
〃	高橋　良誠	24	黒沢尻工高
〃	渡辺　則昌	26	福島商高

本田技研

監督	中里　保人	43	亜細亜大
投手	岡村　高之	20	東海大菅生高
〃	安藤　伸行	21	常総学院高
〃	田口　権一	24	PL学園高
〃	佐藤　剛	20	川越工高
〃	栗原　克典	23	樹徳高
〃	雑波　俊明	19	日大鶴ケ丘高
捕手	上田　治伸	29	駒沢大
〃	長谷川　寿	25	青山学院大
〃	小池　亮	20	印旛高
〃	長井　研介	34	中央大
内野	○朝山　憲重	26	PL学園高
〃	山田　仁寿	25	修徳高
〃	高倉　忠幸	23	流通経済大
〃	岩崎　憲一	24	仙台大
〃	蔵品　慎一	21	春日部工高
〃	長野　義治	23	亜細亜大
〃	日野　伸一	27	東洋大
〃	東宮　立家	23	東北福祉大
外野	山口　高嶺	23	立教大
〃	荻原　俊文	30	亜細亜大
〃	鈴木　和芳	26	鹿多方商高
〃	内田　正行	24	法政大
〃	熊倉　登	24	駒沢大
〃	岩井　重樹	21	中央高
〃	橋本　勉	27	青山学院大

NTT関東

監督	千葉　清	41	日本大
投手	キーナンディミ	20	成田北高
〃	宮本　武	26	東京農大
〃	立石　尚行	21	市立船橋高
〃	秋沢　光久	26	鹿沼商工高
〃	中込　智久	19	古河一高
〃	柳沢　信之	20	真岡高
〃	佐藤　直也	23	拓殖大
〃	遠藤　正史	28	日本大
捕手	川村　健司	22	秋田工高
〃	池元　明文	27	神奈川大
〃	宮原慎一郎	20	君津商高
内野	吉田　栄治	24	日体大
〃	関口　勝巳	26	明治大
〃	吉松　令樹	23	日本大
〃	野寺　光秀	23	作新学院高
〃	岩尾　栄二	24	拓殖大
〃	杉村　司	26	東海大甲府高
〃	長井　秀夫	32	国士舘大
外野	小野　裕之	19	関東高
〃	笠原　督行	23	日本大
〃	○小笠原俊樹	27	日本大
〃	田中　克範	23	日体大
〃	宍倉　誠英	22	千葉敬愛高
〃	市川　和男	31	国士舘大

日産自動車

監督	村上　忠則	42	津名高
投手	川尻　哲郎	22	亜細亜大
〃	和田　護	30	法政大
〃	久保　恭久	30	中京大
〃	一条　健介	22	藤嶺藤沢高
〃	秋吉　章史	24	久留米商高
捕手	高橋　健司	27	浦和実高
〃	黒須　隆	23	東洋大
〃	松尾　和徳	25	明治大
〃	石田　則夫	21	前橋育英高
〃	○阿部　正弘	31	明治大
内野	安本　政弘	23	同志社大
〃	渡辺　等	27	今治西高
〃	上島　格	24	駒沢大
〃	松本秀一郎	27	日体大
〃	蘭　隆二	26	東洋大
〃	天瀬　和男	24	亜細亜大
〃	市原　靖志	25	中央大
外野	八木　治郎	26	駒沢大
〃	田中　武宏	30	明治大
〃	石原　一智	26	早稲田大
〃	日置　秀人	25	東海大
〃	青柳　信	23	明治大
〃	鶴岡　昌宏	34	東洋大
〃	竹内　久生	24	法政大
〃	小原　崇	24	熊本工高

東芝

監督	大田垣耕造	41	青山学院大
投手	三原　昇	27	亜細亜大
〃	山崎　雄巳	24	盈進高
〃	菊池　総	31	明治大
〃	石川　和久	20	日大三高
〃	木村重太郎	23	熊本工高
〃	杉山　賢人	22	専修大
〃	福谷　欣哉	19	川之江高
捕手	斎藤　敏夫	26	鶴見工高
〃	高見　泰範	28	愛知工大
〃	松村　治男	26	帝京大
内野	西村　隆史	26	横浜商高
〃	鷲城　弘樹	28	国士舘大
〃	渡辺　博	23	鶴見工高
〃	後藤英一郎	27	亜細亜大
〃	畠山　弘彰	26	法政大
〃	丹波　健二	26	日体荏原高
〃	吉沢　明	25	土浦日大高
外野	小林　薫	30	青山学院大
〃	田辺　浩昭	31	法政大
〃	松原　和也	24	九州国際大
〃	多田　勇二	25	青山学院大
〃	前田　誠	30	駒沢大
〃	植山　和夫	23	鹿児島工高
〃	○梁原　修志	31	苫小牧工高
〃	伴野　真也	20	横浜商大高

日本石油

監督	林　裕幸	36	東海大
投手	増永　祐一	25	鹿児島商工高
〃	鈴木　健	22	羽黒工高
〃	香田　政勝	23	九州国際大
〃	高橋　憲幸	21	拓大紅陵高
〃	吉武　史訓	23	九州国際大
〃	野村　昭彦	23	駒沢大
〃	松嶋　隆進	21	男鹿工高
捕手	佐藤　孝治	29	早稲田大
〃	高柳　靖法	25	駒沢大
〃	佐藤　健司	20	武相高
〃	田中　健二	22	横浜商科大
内野	徳永　耕治	23	千葉工高
〃	平田　望	26	法政大
〃	木下　俊生	23	九州国際大
〃	久慈　照嘉	22	東海大甲府高
〃	伊藤　義樹	28	中京高
〃	前田　健吾	18	関東第一高
〃	若林　重喜	24	立正大
〃	相田　武徳	24	早稲田大
外野	高林　孝行	24	立教大
〃	村上　清	23	青山学院大
〃	○坂口　裕之	26	明治大
〃	加藤　晋	24	横浜商科大
〃	泉　雅文	19	宇部商高
〃	吉武　和彦	23	法政大

NTT信越

監督	酉條　明博	36	専修大
投手	佃　守	22	亜細亜大
〃	神田　達也	24	東京農大
〃	関　勝宏	24	国士舘大
〃	村井　勝美	23	岩国商高
〃	江尻　勝栄	23	日本大
〃	北沢　昇	27	亜細亜大
〃	酉嶋　雅人	26	法政大
捕手	高橋　昭二	29	松商学園高
〃	吉木　利弘	22	神奈川大
内野	樽田　政信	24	関東学院大
〃	藤嶋　一利	32	中央大
〃	土居　誠人	28	新田高
〃	荒巻　浩平	20	柳川高
〃	福澤　剛	22	大宮東高
〃	谷口　光治	23	日体大
〃	丸山　督弘	24	亜細亜大
〃	三井　興司	21	丸子実高
〃	○横井　信一	31	法政大
外野	茂木　靖弘	20	日大明誠高
〃	青山　准	24	日本大
〃	松沢　浩史	27	愛知学院大
〃	田中　秀樹	24	亜細亜大
〃	田島　英美	20	柳川高
〃	佐藤　章夫	25	市立尼崎高
〃	石田三知夫	30	長野商高

NTT北陸

監督	水野　三夫	44	高岡商高
投手	上原　勝男	33	興南高
〃	佐藤　渉	20	弘前工高
〃	赤羽根俊孝	20	明治大
〃	奥村　久則	27	立正大
〃	桜井　久之	18	静岡学園高
〃	中西　雅彦	23	帝京大
〃	比嘉　雄大	23	興南高
捕手	高橋　義晴	29	駒沢大
〃	下野　博樹	30	福井工大
〃	坂田　大造	24	日体大
内野	川田　純康	23	奈良産大
〃	梅沢　宏之	26	立正大
〃	祖泉　秀樹	26	高岡商高
〃	尾前　拓己	25	東海大
〃	○薮内　啓志	26	亜細亜大
〃	大川　清	25	日体大
〃	井村　忠司	25	日体大
〃	平尾　健二	24	大商大
外野	上杉　直哉	19	寺井高
〃	広瀬　健一	26	東海大
〃	堺　一正	24	日体大
〃	野上　正人	19	小松明峰高
〃	川崎　博孝	20	多々良学園高
〃	東　哲也	19	高岡商高

河合楽器

監督	伊藤　升久	39	中央大
投手	野末　仰一	24	御殿場西高
〃	阿部憲太郎	23	名城大
〃	竹之内一志	26	専修大
〃	金子　台	19	鯨敷工高
〃	松村　光庸	22	立命館大
〃	出羽　正二	23	亜細亜大
〃	猪股　利成	21	東京学館新潟高
捕手	○安間　大芳	30	中央大
〃	弘田　和典	19	上宮高
〃	加藤　幹夫	24	浜松商
内野	佐藤　正	20	聖隷学園高
〃	鈴木　智治	28	中央大
〃	川端　純也	24	創価大
〃	尾上　裕介	28	中央大
〃	石川　昭一	20	鹿児島実高
〃	盛　隆章	28	亜細亜大
〃	清水　達也	27	中央大
〃	佃　誠	20	宇部商高
〃	村瀬　耕次	33	中京大
外野	中邑　清匡	26	拓殖大
〃	樽井　徹	30	法政大
〃	西原　忠善	29	中央大
〃	長谷部一彦	22	中央大
〃	田原　知典	23	亜細亜大
〃	吉村　正之	23	中央大

トヨタ自動車

監督	井上　勉	37	立命館大
投手	高橋　伸行	28	立命館大
〃	鈴木　義人	28	愛知学院大
〃	石黒　行兼	21	西京商高
〃	近藤　守	23	駒沢大
〃	永井　邦俊	20	吉良高
〃	井口　和人	27	同志社大
捕手	吉鶴　憲治	20	鹿児島商工高
〃	鈴置　真澄	24	東海大
内野	瀬谷　博之	23	学法石川高
〃	溝崎　武志	20	鹿児島商工高
〃	杉山　正司	28	駒沢大
〃	鶴田　勝利	24	享栄高
〃	田中大次郎	23	東海大
〃	安部　隆信	23	愛知学院大
〃	○関　恒俊	27	東海大
〃	蛭田　広則	27	東洋大
〃	宮市　達也	27	立命館大
〃	川扇　力	20	高岡商高
外野	石野　史昭	23	静岡学園高
〃	吉田　修	25	東邦高
〃	関瀬　啓介	29	東海大
〃	横井　隆幸	24	法政大
〃	岡本　幸夫	27	中京商高
〃	寺山　正博	23	鹿児島商工高
〃	狩野　正人	26	九州東海大

西濃運輸

監督	阪本　徹	35	大商大
投手	武藤　幸司	18	扇原中央高
〃	藤田　宗一	23	扇原中央高
〃	松田　慎治	25	報徳学園高
〃	吉井　憲治	26	三本松高
〃	田中　直嘉	24	伊香高
〃	福田　尚男	23	大商大
〃	中ノ瀬幸泰	19	高山工高
捕手	伊東　剛	26	専修大
〃	○小森　茂	25	大垣商高
〃	西村　正徳	22	杵島商高
内野	比嘉　康哲	30	九州共立大
〃	吉竹　正	26	龍谷大
〃	川野　浩幸	26	神奈川大
〃	鈴木　康之	27	神奈川大
〃	三好　悟	23	九州国際大
〃	野田　典弘	22	九州産大
外野	持田　満男	19	習志野高
〃	大西　敏美	20	市岐阜商高
〃	高橋　徹	25	福井商高
〃	硯　昌己	26	鷺島高
〃	奥田　健一	18	日体荏原高

三菱自動車京都

監督	郡　文章	36	同志社大
投手	橋本　智裕	22	扇砂高
〃	大里　真生	23	相洋高
〃	永田　晋一	23	同志社大
〃	中畑　靖之	25	土庄高
〃	香藤　勇二	18	神港学園高
〃	岡田　正裕	23	鳥取工高
〃	田渕　功晃	24	鳴門工高
〃	伊藤　智仁	20	花園高
捕手	永井　敦治	23	宇治高
〃	森上　弘之	26	PL学園高
〃	宮本　純也	19	小松扇西高
〃	内海　貴文	19	比叡山高
内野	摂津　孝平	23	八幡浜高
〃	辰己　正芳	19	北陽高
〃	前川　宏文	21	北嵯峨高
〃	藤村　達二	25	新田高
〃	西本　憲仁	24	東洋大
〃	塚田　和義	26	山城高
〃	岩崎武千法	28	龍谷大
〃	後藤　正和	21	徳島商高
外野	伊藤　剛史	27	近畿大
〃	曾我　浩二	23	龍谷大
〃	上野山達夫	22	御坊商工高
〃	山本　朗雄	21	市和歌山商
〃	○岡田　周三	29	東洋大姫路高

日本新薬

監督	後藤　昇	31	立命館大
投手	浜岡　正年	23	立命館大
〃	遠野　誠明	26	同志社大
〃	鴨井　伸昌	23	同志社大
〃	扇本　省二	25	関西大
〃	渡部　信	24	亜細亜大
〃	大野　誠二	28	出雲商高
〃	阪本　久志	28	智弁学園高
〃	奥村　正章	18	盾津高
捕手	岩本　誠太	25	亜細亜大
〃	後藤　昇	31	立命館大
内野	中野　貴之	23	立命館大
〃	石橋　幸彦	26	出雲商高
〃	田中　雅士	23	亜細亜大
〃	木村　和正	24	京都西高
〃	高松　伸章	30	同志社大
〃	岩橋　良知	25	中京大
外野	川口　慈忠	22	御所工高
〃	○寺坂　克哉	26	国士舘大
〃	中坪　将司	25	亜細亜大
〃	河原　真一	21	鳥羽高
〃	浅香　央	27	星稜高
〃	原田　英彦	31	平安高

日本生命

監督	井尻 陽久	39	東海	大
投手	新谷 博	27	駒沢	大
〃	赤澤 秀樹	25	神戸学院	大
〃	徳久 崇浩	20	高知	高
〃	新田 雄司	28	専修	大
〃	岩本 利仁	27	立命館	大
〃	杉浦 正則	23	同志社	大
捕手	浅倉 伸吉	28	東海	大
〃	岡 隆博	25	立命館	大
〃	山上 和志	25	泉州	高
内野	大島 公一	24	法政	大
〃	○中村 昭徳	30	専修	大
〃	十河 章浩	24	近畿	大
〃	川瀬 世資	24	桜宮	高
〃	中村 孝志	23	亜細亜	大
〃	佐藤 公宏	27	早稲田	大
〃	熊添 英樹	24	東海	大
〃	川村 祥一	26	福岡	大
〃	佐藤 清	35	早稲田	大
〃	江上 光治	26	早稲田	大
外野	梶田 茂生	23	筑波	大
〃	内匠 政博	24	近畿	大
〃	高橋 智尚	27	明治	大
〃	守屋 公雄	28	早稲田	大
〃	金谷 康成	22	関西	大
〃	中橋 伸幸	33	愛知学院	大

大阪ガス

監督	吏紗 忠海	35	志度商	高
投手	中島 博幸	19	西日本短大付	高
〃	西岡 洋	22	興南	高
〃	長野 哲也	29	大阪教育	大
〃	里田 太一	20	近大付	高
〃	田代 圭二	21	伊丹北	高
〃	秩原 健吾	30	関西	大
〃	成本 年秀	22	京産	大
捕手	橋口 博一	24	慶応	大
〃	新谷 一仁	24	京都商	高
〃	黒木 隆司	21	PL学園	高
〃	上 和秀	30	市和歌山商	高
内野	松田 竜二	27	近畿	大
〃	西 正文	30	尼崎小田	高
〃	杉山 栄司	27	浪商	高
〃	宮元 正明	20	近大付	高
〃	中西 亮介	23	興国	高
〃	佐々木孝一	26	早稲田	大
〃	竹村 誠	30	同志社	大
外野	折原 康伸	30	洲本	高
〃	湯川 素哉	27	早稲田	大
〃	澤多 弘也	19	初芝	高
〃	中内 章利	24	伊野商	高
〃	植村 寛之	24	智弁学園	高
〃	沢田 誠	27	京都	大
〃	佐藤 健一	18	池田	高

川崎製鉄神戸

監督	真鍋 義之	36	神港学園	高
投手	増田 治	21	南宇和	高
〃	薮 浩昭	28	御坊商工	高
〃	竹森 正展	24	大阪学院	大
〃	藤原 忠	21	大阪桐蔭	高
〃	眷田 次郎	24	東洋大姫路	高
〃	石井 雅也	29	東洋大姫路	高
〃	宮内 義則	27	鳴門工	高
捕手	初田 幸廣	25	尼崎工	高
〃	大城 健	22	神港学園	高
〃	門野 光輝	19	東洋大姫路	高
内野	奥野 政廣	22	東洋	大
〃	藤原 安弘	24	東海大山形	高
〃	上村 真弘	30	田辺商	高
〃	中山 薫	20	村野工	高
〃	堀田 幸造	27	大経	大
〃	金 潤熙	20	松山商	高
〃	扇本 裕	27	報徳学園	高
〃	福本 正行	34	村野工	高
外野	坂本 徹	20	松山商	高
〃	○川中 哲也	28	尽誠学園	高
〃	山本 聡	23	東洋	大
〃	米田 幸司	21	御影工	高
〃	三谷 慎一	20	尼崎北	高
〃	村井 勝	22	御影工	高
〃	久原 博嘉	20	智弁学園	高

神戸製鋼

監督	荒井 信久	37	明治	大
投手	山崎 吉博	24	福岡大大濠	高
〃	吉田 清澄	19	長崎海星	高
〃	米 正秀	19	西京	高
〃	野沢 伸広	21	神奈川大短期学部	
〃	大寺 史人	26	立命館	大
〃	坂本 博文	24	九州共立	大
〃	江坂 政明	24	平安	高
捕手	秦 英之	21	神港学園	高
〃	水野 武	24	国士舘	大
〃	宅間 篤	27	立命館	大
内野	川原崎 実	28	村野工	高
〃	渡部 英樹	24	関西学院	大
〃	戸崎 勝樹	20	東海大工	高
〃	河内山 大	23	神奈川	大
〃	◎戸塚 俊美	27	明治	大
〃	藤井 徹	19	高砂南	高
〃	木田 憲治	23	関西	高
〃	中村 謙吾	24	太成	高
外野	藤原 裕章	24	名古屋商科	大
〃	宮長 貞行	25	市尼崎	高
〃	遠藤 克也	21	神奈川大短期学部	
〃	鈴木 英之	24	駒沢	大
〃	河野 稔	24	亜細亜	大
〃	立川 紀文	19	柳ケ浦	高
〃	綾木 進一	21	八頭	高

川崎製鉄水島

監督	浦名 恒平	34	慶応	大
投手	大森 勝博	22	守口東	高
〃	共田 貴行	19	育英	高
〃	中井 拓己	24	奈良産	大
〃	朝間 信	24	高野山	高
〃	○山本 勲	29	専修	大
〃	山原 和敏	20	玉野光南	高
〃	岩尾 弘道	19	津山工	高
〃	小谷 茂実	21	紀北工	高
捕手	中田 忠尚	27	東洋	大
〃	岡田 智明	18	育英	高
〃	小松 敬志	24	大経	大
内野	神土 秀樹	33	倉敷工	高
〃	伊藤 秀樹	24	福井工	大
〃	竹下 和敏	23	専修	大
〃	吉川 斉	20	岡山理大	高
〃	加百 勝吾	23	岡山南	高
〃	荒巻 英隆	19	柳川	高
〃	福島 紀明	24	宇部商	高
〃	金城 正人	18	読谷	高
〃	伊藤 幸治	27	東洋	大
〃	後藤 剛	19	石川	高
外野	田井 博之	23	岡山商科	大
〃	天早 敏浩	25	境	高
〃	吉岡 悟	20	境	高
〃	岩切 浩志	23	奈良産	大

NTT中国

監督	増永 芳紀	38	東洋	大
投手	青野 望	27	福岡	大
〃	東 秀敏	22	徳山	大
〃	佐藤 明	22	大門	高
〃	矢野 哲嗣	22	近大付福山	高
〃	石川 晃	29	下松工	高
〃	大谷 孝治	24	近畿大	高
〃	稲垣 寛	25	日体	大
捕手	佐藤 達也	29	福岡	大
〃	木原英太郎	27	駒沢	大
〃	串畑 幸誠	23	流通経済	大
〃	高山 雅彦	34	亜細亜	大
内野	松永 崇	19	広島電大付	高
〃	竹中 学	23	岡山南	高
〃	北口 和正	26	名古屋学院	大
〃	千川 健二	26	近畿	大
〃	○原 則明	27	近畿	大
〃	川口 美記	24	立正	大
〃	篠原 勝	30	東洋	大
〃	登 靖則	34	東洋	大
外野	本間 俊匠	24	東洋	大
〃	津江本 隆	30	法政	大
〃	小原 祥司	24	広陵	高
〃	遠藤 聡	18	西条農	高
〃	武田 茂人	28	東洋	大
〃	増永 芳紀	38	東洋	大

NTT四国

監督	幸田 優	42	駒沢	大
投手	久利 周大	28	東洋	大
〃	西川 慎一	24	大洲農	高
〃	白井 宏範	28	駒沢	大
〃	橋本 正英	21	大方商	高
〃	西山 一宇	21	高知	高
〃	山部 太	20	八幡浜工	高
捕手	白石 勇二	25	松山商	高
〃	武田 和高	27	明徳義塾	高
〃	近藤 尚政	18	三島	高
〃	芝 和彦	27	近畿	大
内野	橋本 久	20	宇和島東	高
〃	小谷 雄司	26	明徳義塾	高
〃	山本 佳孝	27	同志社	大
〃	丹下 真一	19	松山商	高
〃	河野 浩三	25	駒沢	大
〃	○竹島 誠	28	九州東海	大
〃	松本 秀敏	26	亜細亜	大
〃	篠原 昭人	27	駒沢	大
〃	柴田 碧克	19	宇和島東	高
外野	大貝 恭史	19	鳴門	高
〃	三好 利幸	28	北条	高
〃	小松 永和	23	専修	大
〃	能田 悦夫	26	亜細亜	大
〃	松田 竜治	23	松山商	高

四国銀行

監督	山本 智久	35	池田	高
投手	仙石 雅人	26	帝京	大
〃	浜田 孝伸	28	東邦	大
〃	板垣 政史	26	中央	大
〃	尾崎 文男	22	帝京	大
〃	山本 智久	35	池田	高
〃	橋谷 正人	30	大商	大
捕手	末光 賢二	27	松山商科	大
〃	南部 洋伸	24	専修	大
内野	森田 洋生	30	明治	大
〃	○谷岡 秀一	28	亜細亜	大
〃	町田 明謙	26	東海	大
〃	池内 聡	28	専修	大
〃	西 弘顕	32	明治	大
〃	二宮 康高	23	大阪経	大
〃	森 正隆	33	明治	大
〃	伊名 正道	31	東洋	大
外野	田中 靖秀	28	近畿	大
〃	井上 幹也	30	愛知学院	大
〃	宮本 雄二	29	神奈川	大
〃	森 義康	24	大阪経	大
〃	森田 建司	27	明治	大

新日本製鐵八幡

監督	瀬藤 宣彦	47	小倉	高
投手	橋本 伸也	18	水俣	高
〃	丸谷富美幸	32	日南振徳商	高
〃	愛甲 博之	24	九州工	大
〃	坂田 英雄	20	玉名工	高
〃	笠原 俊彦	22	明治学院	大
〃	森 幸喜	25	久留米	大
〃	藤原 和久	24	高田	高
〃	西村小次郎	20	筑紫工	高
捕手	前川 公完	28	八重山商工	高
〃	黒田 淳二	20	筑紫工	高
〃	山下 浩正	24	九州国際	大
〃	村井 宏通	21	玉名工	高
内野	鉄見 浩次	29	早稲田	大
〃	○佐野 高明	26	大牟田	高
〃	松田 孝徳	24	鹿国学園	高
〃	蛇嶋 修二	25	東洋	大
〃	後藤 学	20	西日本短大付	高
〃	深谷 嘉晴	19	小倉工	高
〃	田中 丈春	24	久留米商	高
〃	伊藤 雄二	25	下関商	高
外野	丸谷富美夫	27	日南	高
〃	葉山 正彦	24	小倉工	高
〃	田村 勝彦	28	八頭	高
〃	加藤 雄一	35	鎌倉学園	高
〃	境 将伸	24	福岡	大

三菱重工長崎

監督	岩崎 勝則	43	長崎商	高
投手	上園 達二	19	鹿児島実	高
〃	中島 剛	22	長崎商	高
〃	本東 洋	24	鹿児島	高
〃	中川孝太郎	24	九州東海	大
〃	牧瀬 寅男	28	中種子	高
〃	伊藤 慎一	19	長崎商	高
〃	田嶋 裕之	23	九州東海	大
捕手	大久保哲也	29	九州産	大
〃	布村 正樹	28	久賀	高
〃	百武 拓郎	20	有田工	高
〃	薗田雄一郎	19	鹿児島実	高
内野	満薗 浩	25	鹿児島実	高
〃	村上 和幸	23	熊本工	高
〃	森 達也	24	九州東海	大
〃	山崎 伸幸	18	飯塚	高
〃	関 太	21	小浜	高
〃	洲加本弘樹	22	海星	高
〃	原田 能英	19	東海第五	高
外野	竹崎 清児	19	長崎海星	高
〃	○小鳥 啓民	27	早稲田	大
〃	宮本 義徳	26	大村工	高
〃	永川 貴之	19	島原南	高
〃	林 修治	35	佐世保工	高
〃	田崎 和彦	25	第一経済	大
〃	村上竜太郎	22	熊本工	大

バルセロナ五輪を前に、注目の選手たち

―豪打の丹波(東芝)、大物ルーキー杉浦(日生)ら―

打者 全日本の主砲、丹波健二(東芝)の豪打が楽しみ。ウエートトレーニングで鍛え上げ、178㌢、76㌔の体はパワーのかたまり。都市対抗では個人最多の9本塁打を放ち、これまでの4本を大きく塗り替えるとともに、個人大会通算本塁打も12の新記録をマーク、23打数16安打、6割9分9厘、22打点の猛打で橋戸賞(MVP)に輝いた。活躍を評価されて全日本に選ばれ、アジア選手権でも韓国戦で先制打を放つなど四番の重責を果たした。若林重喜、坂口裕之(日本石油)、小島啓民(三菱重工長崎)も全日本屈指の強打者。酒井司(大昭和製紙北海道)、吉竹正(西濃運輸)、中西亮介(大阪ガス)もパワーヒッター。酒井は予選で4本塁打、吉竹は5本塁打を放って夏秋出場の原動力となり、中西は代表決定戦で3ランを含む4安打、5打点と活躍した。好打で光るのが、高見泰範(東芝)、西正文(大阪ガス)、十河章浩、大島公一(日本生命)の全日本組。高見は球筋に逆らわずに打ち返し、勝負強さは抜群。西は小柄だが振りが鋭く、バント安打など小技も得意。アジア選手権の台湾戦では、五輪出場を決めるサヨナラ安打を放ってヒーローになった。十河、大島は全日本の一、二番を打ち好打、好走塁でバルセロナへの突破口を開いた。

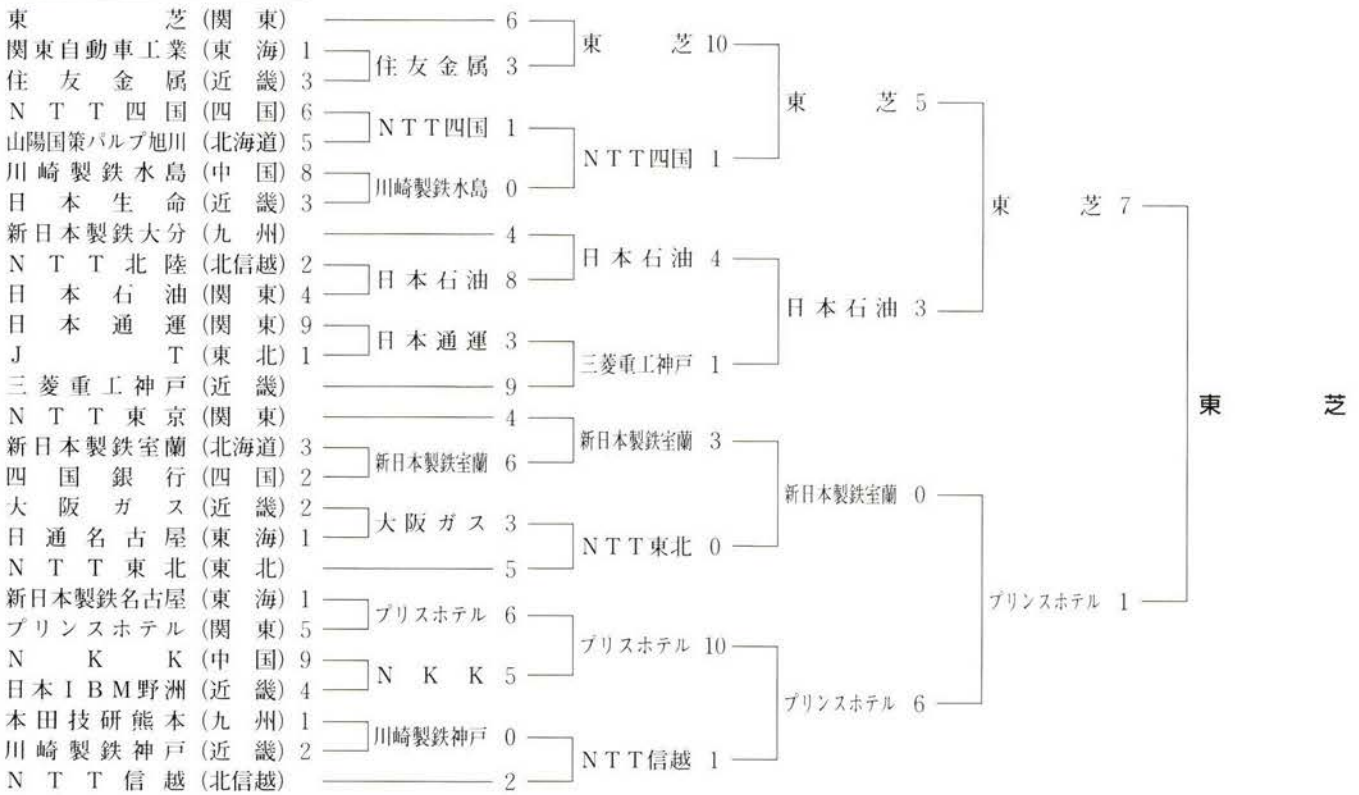
投手 バルセロナ五輪の出場権をかけたアジア選手権(北京)で好投、優秀投手賞に輝いた大物ルーキー、杉浦正則(同大―日本生命)が光る。肩を痛めて出遅れていたが、その間の徹底した走り込みが奏功し、一回り大きくなって夏場に復調。アジア予選では、負ければ五輪出場が絶望となる韓国戦に先発し、切れのいい直球とカーブ、スライダーで11三振を奪い、4安打の1点に抑えて救世主となった。新谷博(日本生命)、西山一宇(NTT四国)も全日本を支えた本格右腕。新谷は昨年の日本選手権のMVPで、直球とスライダーのコンビネーションが絶妙。西山は150㌔を超す速球と鋭いフォークを持ち、勝負どころで三振を取れる強みを持つ。「ビッグ3」に続くのが鈴木健(日本石油)、秋沢光久(NTT関東)、佃守(NTT信越)、上園達二(三菱重工長崎)ら。鈴木は速球とフォークがよく、全日本メンバーに選ばれたこともある逸材。秋沢と佃も速球が持ち味で、上園は新人ながら鹿児島実時代の甲子園出場経験を生かし、度胸十分。左腕では全日本メンバーのベテラン、渡部勝美(大昭和製紙北海道)が好調。100㌔前後のスローカーブを散らして打者の打ち気を外す投球術は心にくい。杉山賢人(東芝)、松田慎治(西濃運輸)、西岡洋(大阪ガス)、江坂政明(神戸製鋼)は伸び盛りの若手。杉山は新人ながら、緩急をつけた投球で都市対抗の優勝に貢献し、若獅子賞を獲得した。

新人 今大会で注目を集めそうなルーキーは、投では左の杉山(東芝)、右の杉浦(日本生命)が代表格だが、右の本格派で、すでにチームの大黒柱になっている佐藤(NTT関東)、重い速球を武器に成長が著しい米(よね＝神戸製鋼)、昨年の春夏、鹿児島実高のエースとして甲子園に出場、マウンド度胸のよさが光る上園(三菱重工長崎)らの投球にもスポットが当たりそう。打では近藤(新日鉄室蘭)、中田(JT)、東宮(本田技研)、河内山(神戸製鋼)、山本(川崎製鉄神戸)、岩切(川崎製鉄水島)、遠藤(NTT中国)らが中心打者として早くもチームに欠かせない存在になっている。東宮は東北福祉大から目立った存在、今年の都市対抗でも1回戦の協和発酵戦で3安打2打点。一回の第1打席でいきなり本塁打をたたき込んでいる。加藤(新日鉄室蘭)、青柳(日産自動車)、田中(トヨタ自動車)、梶田(日本生命)、大貝(NTT四国)らの巧打や俊足も見ものだ。

第19回大会

1992年(平成4年)10月10日▶10月17日　グリーンスタジアム神戸

優勝＝東　芝 ――――― (4年ぶり2回目)



東芝、巧打光る栄冠

都市対抗の覇者、日本生命が1回戦で負ける波乱のスタートを切った大会は、関東同士の優勝戦で幕を閉じた。コールドゲームが5年ぶりに1試合もなく、1点差試合が昨年より1試合多い6試合と、実力拮抗の中で、投打のバランスの良さが際立った東芝に、2度目のダイヤモンド旗がひるがえった。

東芝は持ち前の打力に小技が加わった。一番の小林、六番の多田がそれぞれ首位打者賞に輝いたのも、ニュー東芝打線を象徴した。投手も、全日本の杉山、ベテラン三原の左右の両エースで回転。常に二人でまかなうことができたのは投球術、スタミナなど投手の質の高さに対する自信の現れだった。

準優勝のプリンスホテルは佐藤友、山下和と左右の強打者を軸に打線がパワーアップした半面、投手陣の軸を作れず東芝との差が出た。

連覇を逃した日本石油は出場チーム最多の9本塁打。坂口、若林、徳永をバルセロナ五輪に送り込んだ打力は「さすが」とうならせた。新人エースの小桧山に負担がかかりすぎたのが4強止まりの原因。新風を吹き込んだのは新日鉄室蘭。4試合すべてに先発の2年目、武田が躍進の立役者。制球力にあふれた投球内容に豊かな将来性を感じる。

バルセロナ五輪組が話題を集める一方で、若手の活躍も目立った。投手は武田、小桧山のほか、防御率0.69の左腕・山部(ＮＴＴ四国)、完封一番乗りの江尻(ＮＴＴ信越)、救援で日本生命を抑え込んだ山原(川崎製鉄水島)、150㌔台の豪速球を連発した前田(プリンスホテル)らだ。打者は2年目の佐藤友や小林のほか、1試合2本塁打の大久保(日本石油)、一回戦でサヨナラ打の俣瀬(大阪ガス)がルーキーらしからぬ勝負強さを見せた。

〔優勝戦〕東芝―プリンスホテル　プリンスホテルを破り、喜びを爆発させる東芝ナイン。

大会審判

▷**委員長**＝米谷道雄▷**副委員長**山川脩司、大村一彦、三宅享次▷**幹事**＝竹中清二、岡本好二、津田浩嗣、片岡成夫、吉田龍男▷**委員**＝小林勉、大橋慶三、本嶋一黄、桃田晴彦、辻喜正、永田兼治、伊東登、大石泰、梶浦照樹、宮奥欣司、樫根清一、赤井淳二、上杉正、相沢孝行、野尻正博、山崎浩、南口正人、広沢渉、岡本良一、鹿多証道、浜田正二、生越芳明、榎田健一、東優孝、南垣勇、新阜定、北野雅行、岸井健、橘公政、長谷川文彦、美馬洋、中川雅夫、片山寄世史、宮木明、松村洋、井田保則、梅本吉徳、伏見文隆、北村泉、今井豊、梅田泰洋

▽10月10日

第1試合＝1回戦(午前10時15分開始)

関東自動車工業	0	0	1	0	0	0	0	0	1
住友金属	2	0	0	0	0	0	1	X	3

▶審判(球審)木島(塁審)樫根、生越、榎田

【関東自動車】打安点振球
⑧ 市川 5 2 0 0 0
④ 高本 2 1 0 1 0
⑨ 山本 2 1 0 1 2
② 舟見 2 0 0 0 2
⑤ 矢田 3 0 1 2 0
③ 三鬼 3 0 0 1 1
D 田中 4 0 0 2 0
⑦ 酒井 3 2 0 1 1
⑥ 柿添 3 0 0 0 0
H 米丸 1 0 0 1 0
犠 併 残
3 1 9 28 6 1 9 6

【住友金属】打安点振球
⑧ 中西 4 1 0 2 0
⑦ 後戸 2 1 0 0 2
⑨ 田宮 3 0 0 1 0
③ 内畑 4 3 2 1 0
⑤ 松本 4 0 0 1 1
⑥ 毛利 2 0 0 1 1
④ 渡辺 2 0 0 1 1
② 樋野 3 1 0 1 0
犠 併 残
2 2 6 27 7 3 8 4

	回	安	振	球	責
牧田	6	4	7	4	2
藤本	2	3	1	0	1
石井	3	2	2	4	1
田中	1	1	0	0	0
寺坂	5	3	7	2	0

▷本塁打＝宮内1号②(牧田)▷二塁打＝宮内▷犠打＝関3(矢田、高木2)住2(戸田、川畑)▷盗塁＝住1(後山)▷試合時間＝2時間26分

もうけものの一発

◎…一回に今大会第1号となる先制アーチを右中間席中段に放った住友金属の宮内は「二死なので楽な気持ちで打席に入ったら、打ちごろのカーブが真ん中に。もうけものでした」。宇部商高を出て2年目。高校時代は1年と3年のそれぞれ夏に甲子園に出場して本塁打を放っている強打者。主砲の川畑が今年、全日本入りしていたため、四番に抜てきされた。

第2試合＝1回戦(午後1時16分開始)

山陽国策パルプ旭川	0	0	1	0	1	1	2	0	0	5
NTT四国	2	1	1	0	0	0	1	1	0	6

▶審判(球審)中西(塁審)大石、宮木、梶浦

【山陽国策】打安点振球
③ 篠田 5 1 0 1 0
④ 二敷 4 1 0 0 1
⑦ 唐川 5 2 1 1 1
⑧ 曽川 5 2 2 1 0
6 鳥浜 0 0 0 0 0
② 米倉 4 0 1 2 1
⑤ 田中 4 2 0 0 0
⑨ 坂口 3 0 1 1 0
D 松浦 4 0 0 0 0
⑥ 8富田 2 1 0 0 2
犠 併 残
1 0 9 35 8 4 6 5

【NTT四国】打安点振球
⑧ 大貝 3 0 0 1 1
⑤ 松本 5 1 0 3 0
②9 芝 5 3 3 0 0
③ 柴田 4 1 0 1 0
D 三好 4 2 0 0 0
⑥ 竹島 4 1 1 0 0
⑦7丹下 4 2 1 0 0
⑦ 小松 2 1 0 0 0
H2 武田 2 1 1 0 0
④ 中村 3 1 0 0 0
犠 併 残
2 1 8 36 13 6 5 1

	回	安	振	球	責
牛丸	3	6	3	0	3
森井	5	6	1	0	1
影山	1/3	1	1	1	1
山部	5 2/3	4	5	4	1
石崎	1 1/3	2	0	1	2
西山	2	2	1	0	0
西川	1	0	0	0	0

▷本塁打＝芝1号②(牛丸)丹下1号(牛丸)曽川1号(山部)▷二塁打＝田中、丹下▷犠打飛＝山1(坂口)N2(大貝、中村)▷盗塁＝山3(二敷、富田2)N2(大貝、芝)▷失策＝山1(富田)N3(山部2、竹島)▷試合時間＝2時間48分

第3試合＝1回戦(午後4時39分開始)

日本生命	0	0	0	2	1	0	0	0	3
川崎製鉄水島	0	0	0	1	4	0	1	2	X	8

▶審判(球審)小林(塁審)吉田、南垣、北村(外審)北野、岸井

【日本生命】打安点振球
④ 大島 3 1 0 1 1
⑥ 十河 4 0 0 1 0
⑧ 内匠 4 2 1 0 0
③ 川村 4 1 0 0 0
⑨ 梶田 4 1 0 1 0
⑦ 金谷 4 1 0 1 0
② 岡 3 1 1 0 1
D 野辺 4 1 0 1 0
⑤ 中村昭 3 1 0 0 0
犠 併 残
0 0 5 33 9 2 5 2

【川鉄水島】打安点振球
⑨ 吉岡 5 2 0 1 0
④ 尾崎 4 1 0 1 1
⑦ 岩切 5 2 2 1 0
③ 加百 4 2 0 2 1
D 藤原 4 2 2 0 0
⑤ 伊藤 2 2 2 0 0
R5 竹下 1 1 1 0 0
② 小松 4 1 2 1 0
⑧ 天早 4 1 1 0 0
⑥ 吉松 3 0 0 1 1
犠 併 残
1 3 8 36 14 8 7 3

	回	安	振	球	責
岩本	4 2/3	8	1	3	4
池添	1/3	1	0	0	1
杉浦	3	5	6	0	3
小谷	4 1/3	8	2	2	2
山原	4 2/3	1	3	0	0

▷本塁打＝小松1号②(池添)岩切1号②(杉浦)▷三塁打＝川村▷二塁打＝岡、伊藤、吉岡、中村昭、加百▷犠打＝日1(伊藤)▷盗塁＝日3(大島、金谷、中村昭)▷失策＝川1(吉岡)▷試合時間＝2時間49分

◎…川崎製鉄水島が見事な集中力で、都市対抗の覇者・日本生命に一気の逆転勝ち。四回に3安打を集めて1点を返したあとの五回二死一、二塁から伊藤の左中間二塁打で同点にして岩本に代わった池添に小松が右中間本塁打を浴びせた。七、八回にも長打を絡めて追加点。日生は四回に4長短打で先制したが、さらに続いた得点機と五回に1点を取ったあとのチャンスを併殺でつぶし川鉄を突き放せなかったのが響いた。

▽10月11日

第1試合＝1回戦(午前8時55分開始)

NTT北陸	0	0	0	1	1	0	0	0	2
日本石油	3	0	0	0	0	0	1	0	X	4

▶審判(球審)赤井(塁審)小林、桃田、橘

【NTT北陸】打安点振球
⑧ 堺 3 2 0 0 1
⑤ 梅沢 3 1 1 1 0
④ 祖泉 3 1 1 2 0
D 大広 4 1 1 0 1
⑦ 川瀬 3 0 0 0 0
H7 上 1 0 0 0 0
東
③ 平尾 3 1 0 0 2
⑨ 川崎 4 0 0 2 1
② 下村前 2 0 0 1 0
H 井尾 1 0 0 0 0
⑥ 前 2 0 0 1 0
犠 併 残
2 0 6 30 6 2 12 3

【日本石油】打安点振球
⑨ 高林 4 0 0 0 0
④ 平田 3 2 0 1 1
⑧ 坂口 4 1 0 0 1
⑤ 若林 3 2 2 0 0
③ 徳永 4 1 1 0 0
D 久保 4 1 1 0 0
⑦ 上村 4 1 1 0 0
R 吉武和 4 0 1 0 0
7 佐野 0 0 0 0 0
② 高柳 4 1 0 1 0
⑥ 伊藤 4 0 0 1 0
犠 併 残
0 1 8 34 9 4 3 2

	回	安	振	球	責
伊藤	4 1/3	6	3	2	3
赤羽根	3 2/3	3	0	0	1
小桧山	9	6	12	3	2

▷本塁打＝徳永1号②(伊藤)梅沢1号(小桧山)▷二塁打＝堺、若林、高柳▷犠打＝N2(梅沢、尾前)▷盗塁＝N1(祖泉)日1(吉武和)▷失策＝N1(梅沢)▷暴投＝小桧山▷ボーク＝伊藤▷試合時間＝2時間22分

第2試合＝1回戦(午前11時49分開始)

J T	0	0	0	0	0	0	0	1	1
日本通運	0	1	2	2	0	2	0	2	X	9

▶審判(球審)大石(塁審)大橋、北野、松村

【J T】打安点振球
⑨ 佐藤茂 4 1 0 0 0
⑦ 渡辺 3 0 0 1 0
H 佐藤泰 1 1 0 0 0
7 鈴木 0 0 0 0 0
D 寺嶋 4 1 0 1 0
③ 中田 3 0 0 1 1
3 藤沢 0 0 0 0 0
⑧ 原野 4 3 0 0 0
⑤ 池谷 2 0 0 0 1
H 菊池 1 1 0 0 0
④ 長浜屋 4 0 0 1 0
② 及川正 4 1 1 0 0
⑥ 佐々木 2 0 0 1 1
H 倉田 1 0 0 0 0
犠 併 残
0 1 8 33 8 1 5 3

【日本通運】打安点振球
D 難波 4 3 0 0 1
⑥ 藪 4 1 2 0 1
⑧ 井出 4 3 3 0 1
⑨ 田中泰 5 2 2 1 0
③ 中村 4 2 1 1 0
H3 松尾 1 0 0 1 0
⑦ 中田 5 2 0 1 0
⑤ 佐藤 4 1 0 1 0
② 川崎 4 3 1 0 0
④ 宮下 3 0 0 0 0
犠 併 残
1 2 9 38 17 9 5 3

	回	安	振	球	責
佐藤正	3 1/3	9	1	1	5
及川弘	2 2/3	4	3	1	2
千葉	1	2	0	0	0
石村	1	2	1	1	2
黒川	9	8	5	3	1

▷三塁打＝佐藤(日)▷二塁打＝藪、難波、井出、田中泰▷犠打＝日1(宮下)▷盗塁＝日4(井出2、田中泰、中田)▷失策＝J1(佐々木)日1(佐藤)▷暴投＝石村、黒川▷試合時間＝2時間44分

第3試合＝1回戦(午後3時13分開始)

四国銀行	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
新日鉄室蘭	0	0	0	0	0	0	0	3	X	3

▶審判(球審)岡本良(塁審)樫根、吉田、宮木(外審)新阜、鹿多

【四国銀行】打安点振球
⑧ 田中 4 1 0 0 0
⑦ 森 4 0 0 1 0
D 安部 4 0 0 1 0
HD 宮本 2 2 0 0 0
⑨ 森田建 2 0 0 2 2
③ 池内 3 0 0 0 0
④ 谷岡 2 0 0 1 0
② 南部 3 0 0 0 0
⑤ 東谷田 3 0 0 1 0
⑥ 町 3 1 0 0 0
犠 併 残
2 2 3 28 4 1 5 2

【新日鉄室蘭】打安点振球
⑦ 岡田 4 0 0 1 0
④ 加藤 4 3 0 0 0
③ 近藤 3 0 0 2 1
D 鈴木広 4 1 0 0 0
⑨ 金子 2 0 0 1 2
R 田中尾 3 0 0 0 0
⑧ 船尾 4 2 0 1 0
⑤ 梅田 3 1 0 0 0
⑨ 黒木 4 1 0 1 0
⑥ 橋本 3 1 3 1 1
犠 併 残
1 3 7 31 9 3 7 4

	回	安	振	球	責
板垣	8 1/3	8	7	4	0
尾崎	1/3	1	0	0	0
武田	7	3	4	2	1
別府	2	1	1	0	0

▷二塁打＝橋本▷犠打＝四2(池内、谷岡)新1(梅田)▷盗塁＝新1(黒木)▷失策＝四1(町田)新2(梅田、橋本)▷暴投＝武田▷試合時間＝2時間16分

中国視察団が見学

◎…2000年五輪の誘致活動を展開する中国北京市の尚礼・同市豊台区長代行を団長とする野球場建設準備の視察団4人が11日、社会人野球日本選手権を開催中のグリーンスタジアム神戸を訪れ、球場施設を見学した。北京市の五輪開催が決まれば、同市内の豊台球場に隣接して1球場を新設する計画があり、一行はその準備のために日本を訪問、今後、西宮スタジアム、西京極、東京ドームなどを見学する予定。　団長らは「素晴らしい球場で学ぶことばかり」と感激していた。

第4試合＝1回戦(午後6時1分開始)

日通名古屋	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1
大阪ガス	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2

▶審判(球審)木嶋(塁審)辻、南垣、丸屋(外審)鹿多、新阜

【日通名古屋】打安点振球
④ 井上 4 1 0 1 0
⑦ 中山 3 0 0 2 0
⑧ 野口 3 0 0 0 1
⑧7 河野 3 0 0 1 1
D 鵜飼 4 0 0 0 0
⑨ 青木 3 1 0 1 1
③ 永沼 3 1 0 3 0
⑤ 中津 3 1 1 0 2
⑥ 川端 3 1 0 0 0
犠 併 残
2 0 8 29 6 1 8 5

【大阪ガス】打安点振球
⑥ 竹村 2 0 0 0 0
③ 松田 2 0 0 1 0
H5 杉山 2 0 0 1 0
⑨ 沢多 3 0 0 2 0
H9 中 1 0 0 0 0
⑤3 中西 3 1 0 0 1
⑧ 湯川 2 0 0 1 0
H8 折原 2 0 0 1 0
D 橋口 2 0 0 0 0
HD 西 2 1 0 0 1
⑦ 俣瀬 4 3 2 0 0
④ 宮元 4 2 0 0 2
② 上 2 1 0 0 1
犠 併 残
3 2 7 27 5 2 8 4

	回	安	振	球	責
竹内	6 1/3	2	6	2	1
前川	1/3	1	0	0	0
藤沢	1/3	0	1	0	0
結城	1 1/3	2	1	2	1
成本	8	6	7	3	1
坂本	1	0	1	2	0

▷三塁打＝川端▷二塁打＝青木、中西、俣瀬▷犠打＝日2(中山、川端)大3(竹村2、折原)▷盗塁＝日1(河野)大1(俣瀬)▷暴投＝藤沢、坂本▷試合時間＝2時間29分

今、語る思い出

20歳のダイヤモンド旗

東芝＝優勝
三原 昇投手
(現役、29歳)

(第20回記念、毎日新聞連載企画から)

「夏の借りを返す」。これが、あの年の合言葉。夏の都市対抗で一回戦負けし、その屈辱を日本選手権で晴らすつもりでした。

当時は僕と杉山(現・西武)が投の2本柱。初戦は杉山と僕のリレー、準々決勝は僕、準決勝は杉山が完投。そして優勝戦は僕が先発でした。5回目の出場で優勝戦の先発は初めて。うれしくて、疲れも吹っ飛びましたよ。

三回に味方が2点を先制。四回に一死二、三塁のピンチがありましたが、後続をシュートで内野ゴロに討ち取り無得点。あれで波に乗れた。シュートは大会期間中、ずっと切れていた。結局は七回途中で1点を失いマウンドを杉山に譲りましたが、彼があとをピシャリと抑えて優勝。東芝がまだ強いことを証明でき、ホッとしました。また望外のMVPもいただき、自分の名前が歴史に残ると思い、うれしかった。

今年は都市対抗も選手権も予選敗退と最悪。けど、これをバネに来年は春のスポニチ大会、都市対抗、日本選手権と史上初の春夏秋完全制覇を狙います。

▽10月12日

第１試合＝１回戦(午前８時58分開始)

新日鉄名古屋	000	000	010	1
プリンスホテル	120	002	00X	5

▶審判(球審)大橋(塁審)赤井、浜田、中川

【日鉄名古屋】		打	安	点	振	球
⑧	西島	4	0	0	0	0
④	真崎	4	1	0	0	0
⑨	林	3	1	0	2	1
③	杉山	4	2	1	1	0
⑦	古川	0	0	0	0	0
H7	竹脇	4	1	0	0	0
⑤	喜多	4	0	0	0	0
D	吉田	3	0	0	0	0
H	大溝	1	1	0	0	0
R	福井	0	0	0	0	0
⑥	梅屋	4	1	0	1	0
②	岩坪	4	2	0	1	0
犠 併 残	1 0 9	35	9	1	5	1

【プリンス】		打	安	点	振	球
⑨	山下修	2	0	0	0	0
9	小柳	2	0	0	0	0
⑧	相原	3	0	0	0	0
H	小林	1	0	0	1	0
8	高木	0	0	0	0	0
D	宮里	3	1	0	0	0
HD	佐藤友	1	0	0	0	0
③	山下和	3	1	1	0	0
H3	奥村伸	1	0	0	0	0
⑦	宮間	2	1	0	0	2
④	足立	2	1	1	0	2
⑤	斎藤慎	4	1	2	1	0
②	瀬戸山	4	1	1	1	0
⑥	奥村剛	2	1	0	0	1
犠 併 残	0 0 6	30	7	5	3	5

	回	安	振	球	責
陣内	5⅓	6	0	4	5
原田	2⅔	1	3	1	0
斎藤貴	8	8	3	1	1
前田	1	1	2	0	0

▷本塁打＝足立１号(陣内)瀬戸山１号(陣内)斎藤慎１号②(陣内)▷二塁打＝宮里、山下和、林▷犠打＝日1(西島)▷盗塁＝プ2(足立、奥村剛)▷試合時間＝２時間36分

第２試合＝１回戦(午後０時７分開始)

ＮＫＫ	200	050	011	9
日本ＩＢＭ野洲	200	000	002	4

▶審判(球審)東(塁審)伊東、鹿多、辻

【ＮＫＫ】		打	安	点	振	球
⑨	横山	3	1	0	0	1
D	菊谷	4	3	1	1	0
⑧	苅部	3	3	3	0	1
⑤	古毛堂	5	1	2	1	0
③	岩野	3	0	0	1	2
⑥	村上	5	1	0	1	0
②	大倉	4	2	0	0	1
⑦	重東	5	3	3	0	0
④	宮下	1	0	0	0	0
4	定岡	4	2	0	1	0
犠 併 残	3 1 9	37	16	9	5	5

【ＩＢＭ野洲】		打	安	点	振	球
⑧	渕田	4	0	0	1	1
④	木戸	3	2	0	0	0
H3	飯田	2	1	1	0	0
⑤	敷島	4	3	1	0	0
③	高田	3	0	0	1	0
H	小松崎	1	0	0	0	0
4	村上	0	0	0	0	0
⑨	井上	4	2	0	0	0
②	中西	3	0	0	1	1
⑦	藤原良	3	1	0	1	0
H	西田	1	0	0	0	0
D	太田代	4	0	0	1	0
⑥	深水	3	0	0	1	0
H	鈴木	1	1	1	0	0
犠 併 残	1 2 8	36	10	3	6	2

	回	安	振	球	責
古賀	9	10	6	2	3
林	2⅓	5	1	2	2
井戸	2⅔	4	2	2	1
稲田	4	7	2	1	1

▷本塁打＝鈴木１号(古賀)▷三塁打＝敷島、苅部▷二塁打＝苅部、重東、飯田▷犠打＝N3(苅部、菊谷、横山)日1(敷島)▷盗塁＝N2(横山、苅部)▷失策＝N1(宮下)日3(中西、井上、深水)▷試合時間＝２時間37分

第３試合＝１回戦(午後３時15分開始)

本田技研熊本	000	010	000	1
川崎製鉄神戸	000	010	01X	2

▶審判(球審)生越(塁審)上杉、岸井、梅本(外審)南垣、浜田

【本田熊本】		打	安	点	振	球
⑨	内村	4	0	0	1	0
⑤	岩崎	3	0	0	1	0
H	中川	1	0	0	1	0
⑥	江上	4	0	0	1	0
D	坂本	4	1	0	1	0
⑧	安藤	2	1	0	0	0
③	若林	2	0	0	1	0
⑦	福田	3	0	0	3	0
7	河野	0	0	0	0	0
②	吉田	2	1	0	1	1
④	浦野	3	1	1	0	0
犠 併 残	2 2 3	28	4	1	10	1

【川鉄神戸】		打	安	点	振	球
⑧	山本	3	0	0	1	1
④	島本	4	0	0	0	0
⑦	米田	4	1	0	1	0
⑨	久原	4	1	0	0	0
D	金	3	1	0	1	1
②	大城	3	0	0	1	1
③	川中	3	3	1	0	1
⑤	奥野	3	1	0	0	0
⑥	中山	2	1	1	0	0
犠 併 残	2 0 9	29	8	2	4	4

	回	安	振	球	責
中武	4⅔	3	2	1	1
玉城	1⅓	3	1	1	0
中原	2	2	1	2	1
豊田	9	4	10	1	1

▷二塁打＝安藤、吉田▷犠打＝本2(安藤、若林)川2(奥野、中山)▷盗塁＝川1(金)▷試合時間＝2時間12分

ビデオ研究が的中

◎…川崎製鉄神戸の豊田がベテランらしい投球を見せた。スライダー、シンカーを低めに集め、本田技研熊本から10奪三振、４安打、１失点に抑える好投。「きのう、ビデオで相手打線を研究したら、真っすぐに強そうなので変化球主体に投げた。うまくいきました」としてやったりの表情。高校３年の夏に東洋大姫路高のエースとして甲子園で活躍。その後伸び悩んだが、昨年の大会で都市対抗、日本選手権を通じて初の完投勝利を挙げた。

▽10月13日

第１試合＝２回戦(午前８時56分開始)

住友金属	000	100	110	3
東芝	411	000	00X	6

▶審判(球審)樫根(塁審)桃田、中川、岸井

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑧	中西	5	3	0	0	0
⑦	後山	3	0	0	1	0
H	中川	0	0	0	0	0
H	高津	1	1	0	0	0
R7	家永	1	0	0	0	0
④	松本	5	1	1	0	0
③	宮内	4	2	0	1	1
D	川畑	5	1	0	0	0
⑥	三宅	4	2	0	1	0
②	樋野	4	0	0	1	0
⑤	川渕	3	2	0	0	1
⑨	戸田	4	2	2	1	0
犠 併 残	0 1 11	39	14	3	5	2

【東芝】		打	安	点	振	球
D	小林	3	1	1	0	1
④	葛城	4	1	0	0	0
⑧	前田	4	1	1	1	0
⑤	畠山	4	2	3	0	0
③	谷口	4	0	0	1	0
⑦	多田	4	1	0	0	0
②	高見	4	1	0	0	0
⑨	松原	3	1	0	0	0
⑥	西村	3	2	0	0	0
犠 併 残	0 1 4	33	10	5	2	1

	回	安	振	球	責
寺坂	1⅔	5	0	1	5
尾山	6⅓	5	2	0	0
杉山	6⅔	10	5	2	2
三原	3	4	0	0	1

▷本塁打＝畠山1号③(寺坂)▷二塁打＝西村、小林、宮内▷盗塁＝住1(川畑)東1(小林)▷失策＝住1(三宅)▷試合時間＝2時間43分

第２試合＝２回戦(午後０時13分開始)

川崎製鉄水島	000	000	000	0
ＮＴＴ四国	000	100	00X	1

▶審判(球審)上杉(塁審)浜田、丸屋、今井

【川鉄水島】		打	安	点	振	球
⑧	山本	0	0	0	0	0
H8	天早	3	0	0	0	0
④	尾崎	3	1	0	1	0
H	吉川	1	0	0	1	0
4	神士	0	0	0	0	0
⑦	岩切	4	0	0	0	0
③	加百	3	1	0	0	1
⑤	伊藤	4	0	0	1	0
D	中田	3	0	0	0	1
②	小松	3	0	0	1	1
⑨	岩尾	0	0	0	0	0
9	吉岡	2	0	0	2	0
H	竹下	1	0	0	0	0
9	福島	0	0	0	0	0
⑥	吉松	2	1	0	0	1
犠 併 残	1 1 7	29	3	0	6	4

【ＮＴＴ四国】		打	安	点	振	球
⑨	丹下	3	0	0	1	0
⑤	橋本久	2	0	0	0	1
②	芝	2	0	0	0	0
③	柴田	3	1	1	1	0
D	三好	2	0	0	0	1
⑥	竹島	3	0	0	0	0
⑧	大貝	3	1	0	0	0
⑦	小松	2	0	0	1	0
④	中村	3	0	0	0	0
犠 併 残	2 0 2	23	2	1	3	2

	回	安	振	球	責
小谷	8	2	3	2	1
山部	8	2	5	4	0
西川	1	1	1	0	0

▷二塁打＝柴田、加百▷犠打＝川1(天早)N2(小松、芝)▷試合時間＝２時間

わき役燃えて2安打投球

◎…八回中指のマメがつぶれて出血。マウンドに未練を残して降板したが、NTT四国を15年ぶりの８強に押し上げたのは、まぎれもなく山部の左腕だった。

右の西山、左の山部。常に比較される４年目の同期。だが、主役はいつも五輪代表の西山だった。「自分の力をこの大会で絶対に見せたかった」。燃え上がる対抗意識が八回までの２安打投球を生んだ。

山部には球速より課題は制球力にあった。この日急きょ、走者がいなくてもセットポジションからの投球に変えた。４四球を与えたが、これまでのように高めにはっきりボールとわかる球はなかった。「１点リードという緊張の連続の中で、ボールの走りが悪くても抑えられたのが、最大の収穫です」

第３試合＝２回戦(午後２時48分開始)

日本石油	204	002	000	8
新日鉄大分	010	001	200	4

▶審判(球審)伊東(塁審)大橋、松村、梶浦(外審)南垣、橋

【日本石油】		打	安	点	振	球
⑨	高林	5	1	2	0	0
④	平田	2	0	0	1	1
4	木下	2	0	0	1	0
⑧	坂口	5	2	1	0	0
⑤	若林	4	1	1	0	1
③	徳永	4	3	4	0	0
D	大久保	4	2	0	0	0
RD	吉武和	0	0	0	0	0
⑦	村上	2	0	0	0	1
H	相田	1	0	0	1	0
7	佐野	0	0	0	0	0
②	高柳	3	0	0	1	0
⑥	伊藤	3	1	0	0	1
犠 併 残	1 1 5	35	10	8	4	4

【新日鉄大分】		打	安	点	振	球
⑧	都	3	1	2	0	1
⑥	姫野	4	2	0	1	0
③	永元	3	0	1	1	0
⑦	槙	4	1	1	2	0
D	矢野	4	2	0	0	0
④	前谷	1	1	0	0	0
4	梶原	2	0	0	2	0
②	平川	4	2	0	0	0
⑨	野口	2	0	0	2	0
H9	伊東	2	0	0	0	0
⑤	牧野	4	2	0	2	0
犠 併 残	2 1 5	33	11	4	10	1

	回	安	振	球	責
鈴木	7	10	8	1	4
春田	2	1	2	0	0
歳納	6	9	3	3	8
浅野	3	1	1	1	0

▷本塁打＝坂口１号(歳納)若林１号(歳納)槙１号(鈴木)徳永２号④(歳納)高木１号②(歳納)▷二塁打＝徳永、坂口、大久保２、牧野、都▷犠打＝日1(高柳)新2(前谷、永元)▷盗塁＝新2(都、姫野)▷試合時間＝２時間32分

第４試合＝２回戦(午後５時53分開始)

日本通運	010	110	000	3
三菱重工神戸	000	360	00X	9

▶審判(球審)鹿多(塁審)大石、榎田、新阜(外審)橘、南垣

【日本通運】		打	安	点	振	球
D	難波	4	1	0	0	1
⑥	籔	3	0	0	2	0
H6	田中敏	2	0	0	0	0
⑧	井出	4	1	1	1	0
⑨	田中泰	3	1	0	1	1
③	中村	3	0	0	2	0
H3	松尾	1	0	0	0	0
⑦	中田	4	4	0	0	0
⑤	佐藤	3	1	1	2	1
②	川崎	3	1	0	1	0
④	宮下	2	0	0	0	0
H4	島田	2	0	0	1	0
犠 併 残	1 1 8	34	9	2	10	3

【三菱神戸】		打	安	点	振	球
④	山口	3	0	1	0	0
H	藤田	1	0	0	0	0
4	永川	0	0	0	0	0
⑨	福田	0	0	0	0	0
9	椎名	3	2	0	0	2
D	鎌谷	2	1	0	1	2
HD	大谷	1	1	0	0	0
⑤	山野	4	2	1	0	0
③	青田	5	2	0	2	0
⑦	浜本	4	1	4	1	1
⑧	秋山	4	1	2	1	0
②	清水	3	1	0	0	1
⑥	堀口	3	2	1	0	0
犠 併 残	3 1 9	33	13	9	5	6

	回	安	振	球	責
新井	3⅔	4	0	3	3
橋本	1⅓	4	0	1	5
野尻	⅓	2	0	2	1
松下	3⅓	3	5	0	0
五十嵐	9	9	10	3	2

▷本塁打＝井出１号(五十嵐)▷三塁打＝中田▷二塁打＝浜本、中田▷犠打＝日1(川崎)三3(山口、堀口、山野)▷盗塁＝日2(難波、中田)三2(堀口、青田)▷失策＝三1(山野)▷暴投＝松下▷試合時間＝３時間２分

▽10月14日

第１試合＝２回戦(午前８時55分開始)

新日鉄室蘭	004	100	100	6
ＮＴＴ東京	200	110	000	4

▶審判(球審)辻(塁審)赤井、中川、南垣

【新日鉄室蘭】		打	安	点	振	球
⑦	岡田	3	2	3	0	1
④	加藤	3	1	0	0	1
③	近藤	4	0	0	0	0
D	鈴木広	4	1	2	1	0
②	金子	4	0	0	3	0
⑧	船尾	3	2	0	0	1
⑤	梅田	3	0	0	1	0
⑨	黒木	4	3	1	0	0
⑥	橋本	2	0	0	1	0
犠 併 残	3 0 3	30	9	6	6	3

【ＮＴＴ東京】		打	安	点	振	球
⑧	長堀	5	2	0	1	0
④	横川	3	1	1	0	1
⑦	中村	3	1	0	0	1
⑤	為永	4	1	1	2	0
⑥	伊藤	4	1	1	1	0
D	矢野	4	0	0	2	0
③	斉藤	4	1	0	0	0
⑨	比嘉	3	0	0	1	1
②	塩沼	4	2	0	0	0
R	加藤	0	0	0	0	0
犠 併 残	0 0 6	34	9	3	7	3

	回	安	振	球	責
武田	3⅓	3	2	3	3
嘉手苅	1⅔	3	0	0	1
別府	4⅔	3	5	0	0
今関	3⅓	5	3	2	5
石平	5⅔	4	3	1	1

▷本塁打＝岡田１号②(今関)鈴木広１号②(今関)▷二塁打＝塩沼、横川、黒木▷犠打＝新3(橋本２、梅田)▷盗塁＝新2(船尾、加藤)N2(長堀、中村)▷暴投＝武田、今関▷試合時間＝２時間33分

第２試合＝２回戦(午前11時51分開始)

大阪ガス	100	001	100	3
ＮＴＴ東北	100	102	10X	5

▶審判(球審)小林(塁審)生越、北野、井田

【大阪ガス】		打	安	点	振	球
⑥	竹村	5	2	1	0	0
③	松田	3	0	0	0	0
H3	佐々木	1	0	0	1	0
H	湯川	1	0	0	0	0
D	折原	4	1	1	0	0
⑤	中西	4	2	0	0	0
⑦	植村	3	1	1	0	1
⑧	中内	2	0	0	0	0
H9	佐藤	1	0	0	0	0
⑨8	保瀬	4	2	0	0	0
④	宮元	2	0	0	0	0
H4	西	1	0	0	0	1
②	上	3	0	0	0	0
H	杉山	1	0	0	0	0
犠 併 残	1 0 8	35	8	3	1	2

【ＮＴＴ東北】		打	安	点	振	球
⑨	夷塚	4	3	1	0	0
④	福地	2	0	0	1	0
③	三瓶	2	1	2	0	1
D	藤木	3	1	1	2	0
HD	横山	1	0	0	0	0
⑦	大塚	3	0	1	0	0
⑤	阿部	3	1	0	0	0
⑧	戸羽	2	0	0	0	1
②	猪狩	2	0	0	1	0
⑥	柿久保	3	0	0	0	0
犠 併 残	5 1 3	25	6	5	4	2

	回	安	振	球	責
坂本	6⅓	5	4	2	5
川俣	⅔	1	0	0	0
馬淵	1	0	0	0	0
竹内	9	8	1	2	3

▷本塁打＝竹村1号(竹内)三瓶1号(坂本)植村1号(竹内)▷三塁打＝夷塚▷二塁打＝夷塚、竹村▷犠打＝大1(中内)N5(福地2、三瓶、大塚、猪狩)▷盗塁＝大1(竹村)▷失策＝N2(福地、柿久保)▷試合時間＝2時間７分

NTT東北　竹内完投

◎…自信なのか、照れなのか。NTT東北、竹内は昨年準優勝の大阪ガスに完投勝ちしたというのに、「調子はふつうでした」と淡々。勝った瞬間も右手のコブシを軽く握り締めただけだった。140*。台の速球とカーブ、スライダーをうまく織り交ぜての111球。奪三振は１でも、内野ゴロが21。低めに集めて打たせてとった。

秋田・本荘高時代の二年の夏、甲子園に出場したが一回戦で敗退。入社して今年で３年目。「１年目は社会人に慣れ、２年目は場数を踏んで、３年目に力を出す」のマイプランが着実に進行した。

第3試合＝2回戦(午後2時29分開始)

N K K	1	0	0	0	0	4	0	0	0	5
プリンスホテル	0	0	1	1	0	0	1	3	X	6

▶審判(球審)大橋(塁審)丸屋、橋、梅本(外審)鹿多、櫻田

【N K K】	打	安	点	振	球
⑨ 横 山	5	1	0	0	0
D 菊 谷	3	0	0	0	0
⑧ 苅 部	4	1	0	0	0
⑤ 古毛堂	4	3	1	0	0
③ 岩 野	3	1	0	2	1
⑥ 村 上	3	1	1	0	0
② 大 倉	2	0	0	1	0
H 宮 下	0	0	0	0	1
2 久 門	1	0	0	0	0
⑦ 重 東	4	2	3	0	0
④ 定 岡	3	0	0	0	0
H 西 村	1	0	0	0	0
R 斉 藤	0	0	0	0	0
犠 併 残					
2 0 5	33	9	5	3	2

【プリンス】	打	安	点	振	球
④5足 立	2	1	1	0	3
⑨ 高 木	3	0	0	2	0
H 奥村伸	1	0	0	0	0
R97小 柳	1	0	0	0	0
D 宮 里	5	1	1	0	0
③ 山下和	4	1	1	0	0
⑦ 宮 間	2	0	0	0	1
H 田 辺	0	0	0	0	1
4 戸 栗	0	0	0	0	0
⑥ 奥村剛	4	2	0	0	0
⑤ 斎藤慎	3	0	0	0	0
H79佐藤友	1	1	3	0	0
② 瀬戸山	4	1	0	0	0
⑧ 相 原	3	3	0	0	0
犠 併 残					
1 0 9	33	10	6	2	5

	回	安	振	球	責
古 賀	6⅔	7	2	3	3
氏 師	⅓	1	0	1	2
田 中	1	2	0	1	1

	回	安	振	球	責
武 藤	6	7	2	2	5
斎藤貴	3	2	1	0	0

▷本塁打＝山下和1号(古賀)佐藤友1号③(田中)▷二塁打＝古毛堂、足立、重東、宮里▷犠打＝N2(菊谷、村上)プ1(相原)▷試合時間＝2時間36分

佐藤友代打3ラン

◎…プリンスホテルは2点差を追う八回、四球と投手強襲の内野安打で無死一、二塁の好機。NKKは三番手の田中に交代したが、プリンスは代打・佐藤友が直球を右翼席に打ち込む逆転3ラン。斎藤貴が最後を締めて、接戦にケリをつけた。

NKKは六回二死満塁から重東が走者一掃の二塁打を放って優位に立ったが、プリンスの勝負強さに屈した。

第4試合＝2回戦(午後5時25分開始)

川崎製鉄神戸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
N T T 信越	0	0	1	0	0	1	0	0	X	2

▶審判(球審)岡本良(塁審)吉田、新舎、片山(外審)櫻田、鹿多

【川鉄神戸】	打	安	点	振	球
⑧ 山 本	4	0	0	1	0
④ 島 本	4	1	0	0	0
⑦ 米 田	3	0	0	1	1
⑨ 久 原	2	0	0	1	0
R 坂 本	0	0	0	0	0
9 三 谷	2	0	0	0	0
D 金	4	0	0	2	0
② 大 城	3	1	0	1	0
③ 川 中	1	0	0	0	2
⑤ 奥 野	2	1	0	1	1
⑥ 中 山	2	0	0	2	0
犠 併 残					
1 0 5	27	3	0	9	4

【N T T 信越】	打	安	点	振	球
⑧ 青 山	4	0	0	1	0
④ 土 居	4	1	0	1	0
⑦ 田 中	4	2	0	0	0
③ 横 井	4	2	0	0	0
D 横 山	4	0	0	1	0
⑦9藤 木	3	1	0	0	1
⑤ 阿 部	4	2	0	0	0
⑧ 戸 羽	4	1	0	0	0
② 猪 狩	3	0	0	0	1
⑥ 柿久保	2	0	0	0	1
H 鈴 木	0	0	0	0	1
6 高 橋	0	0	0	0	0
犠 併 残					
2 0 8	31	10	1	4	1

	回	安	振	球	責
豊 田	8	10	4	1	2

	回	安	振	球	責
江 尻	9	3	9	4	0

▷犠打飛＝川1(中山)N2(高橋、丸山)▷盗塁＝N3(土居、田中、松沢)▷試合時間＝2時間16分

▽10月15日

第1試合＝準々決勝(午前8時54分開始)

N T T 四国	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
東 芝	3	0	0	0	0	0	7	X		10

▶審判(球審)木嶋(塁審)辻、浜田、松村

【N T T 四国】	打	安	点	振	球
⑧ 大 貝	4	1	0	1	0
⑤ 松 本	4	2	0	1	0
⑨ 芝	4	1	1	1	0
③ 柴 田	3	0	0	0	1
R 能 田	0	0	0	0	0
D 三 好	4	0	0	0	0
⑥ 竹 島	3	0	0	0	0
⑦ 丹 下	3	0	0	0	0
② 武 田	3	0	0	0	0
④ 中 村	3	0	0	0	0
犠 併 残					
0 1 4	31	4	1	3	1

【東 芝】	打	安	点	振	球
D 小 林	3	2	0	1	2
RD鈴木政	0	0	0	0	0
④ 葛 城	4	2	1	0	1
R 後 藤	0	0	0	0	0
4 吉 沢	0	0	0	0	0
⑧ 前 田	4	0	0	0	1
⑤ 畠 山	5	2	1	0	0
③ 谷 口	5	2	0	0	0
⑦ 多 田	3	2	2	0	0
② 高 見	3	0	0	0	1
⑨ 松 原	3	1	0	2	0
H 斎藤敏	1	1	2	0	0
R 9 植 山	0	0	0	0	0
⑥ 西 村	3	1	3	0	0
犠 併 残					
2 0 7	34	13	9	3	5

	回	安	振	球	責
久 利	5	7	2	2	3
西 川	2⅓	5	1	2	6
石 崎	⅔	1	0	1	1

	回	安	振	球	責
三 原	9	4	3	1	1

▷本塁打＝西村1号③(西川)▷二塁打＝多田、大貝▷犠打＝東2(西村、多田)▷盗塁＝東4(小林、鈴木政、後藤、畠山)▷暴投＝石崎▷試合時間＝2時間20分

第2試合＝準々決勝(午前11時47分開始)

日本石油	0	1	0	0	0	0	2	0	1	4
三菱重工神戸	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

▶審判(球審)伊東(塁審)岡本、中川、南垣

【日本石油】	打	安	点	振	球
⑨ 高 林	4	0	0	1	0
H 和 嶋	1	1	1	0	0
9 加 藤	0	0	0	0	0
④ 木 下	5	1	0	0	0
⑧ 坂 口	3	1	0	0	0
⑤ 若 林	4	0	0	1	0
③ 徳 永	3	0	0	1	1
D 大久保	4	3	3	0	0
⑦ 村 上	3	1	0	1	0
7 佐 野	0	0	0	0	0
② 高 柳	3	2	0	0	1
⑥ 伊 藤	3	1	0	1	0
犠 併 残					
3 1 7	33	10	4	5	2

【三菱神戸】	打	安	点	振	球
④ 山 口	4	2	0	0	0
⑨89椎 名	3	0	0	1	1
D 鎌	4	0	0	1	0
⑤ 山 野	3	1	0	0	1
③ 青 田	3	1	0	0	1
⑦ 浜 本	3	0	0	2	1
⑧ 秋 山	2	0	0	1	0
H 9 大 谷	1	0	0	0	0
8 久保川	0	0	0	0	0
H 永 川	1	0	0	0	0
② 清 水	2	0	1	0	0
⑥ 堀 口	3	0	0	1	0
犠 併 残					
1 0 6	29	4	1	6	4

	回	安	振	球	責
小桧山	9	4	6	4	0

	回	安	振	球	責
後 藤	7⅓	7	3	2	3
五十嵐	1⅔	3	2	0	1

▷本塁打＝大久保1号、2号②(後藤)▷二塁打＝高柳、村上▷犠打＝日3(伊藤、坂口、村上)三1(清水)▷失策＝日1(小桧山)▷試合時間＝2時間32分

不安的中でも充実

◎…三菱重工神戸の3年目、後藤は日石打線をよく抑えたが、打線の援護がなく、大久保の"2発"に沈んだ。「クリーンアップに気をつかいすぎて、その後の打者に打たれるんじゃないかと思っていたら、不安が的中してしまった」と後藤。しかし、6月の都市対抗予選以来、ずっと安定感を保っているだけに「今年は自分なりに満足のいくシーズン」と、表情は充実感でいっぱい。

第3試合＝準々決勝(午後2時50分開始)

N T T 東北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新日鉄室蘭	0	0	0	0	0	3	0	0	X	3

▶審判(球審)樫根(塁審)赤井、梶浦、梅本(外審)橋、岸井

【N T T 東北】	打	安	点	振	球
⑨ 夷 塚	3	0	0	1	0
H 唐 沢	1	0	0	0	0
7 大 塚	0	0	0	0	0
④ 福 地	4	1	0	0	0
③ 三 瓶	4	1	0	1	0
D 横 山	4	0	0	1	0
⑦9藤 木	3	1	0	0	1
⑤ 阿 部	4	2	0	0	0
⑧ 戸 羽	4	1	0	0	0
② 猪 狩	3	0	0	0	1
⑥ 柿久保	2	0	0	0	1
H 鈴 木	0	0	0	0	1
6 高 橋	0	0	0	0	0
犠 併 残					
0 1 8	32	6	0	3	3

【新日鉄室蘭】	打	安	点	振	球
⑦ 岡 田	1	0	0	0	3
④ 加 藤	3	1	0	0	0
③ 近 藤	4	0	1	2	0
D 鈴木広	3	1	2	1	0
② 金 子	3	0	0	1	0
⑧ 船 尾	3	1	0	1	0
⑤ 梅 田	3	0	0	3	0
⑨ 黒 木	3	0	0	0	0
⑥ 橋 本	3	1	0	0	0
犠 併 残					
1 4 3	26	4	3	8	3

	回	安	振	球	責
大 倉	5⅔	3	6	2	3
越 田	2⅓	1	2	1	0

	回	安	振	球	責
武 田	6⅔	4	2	3	0
別 府	2⅓	2	1	0	0

▷二塁打＝鈴木広▷犠打＝新1(加藤)▷盗塁＝N1(阿部)新2(岡田、橋本)▷失策＝N1(柿久保)新2(橋本、武田)▷暴投＝武田▷試合時間＝2時間23分

第4試合＝準々決勝(午後5時46分開始)

N T T 信越	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
プリンスホテル	0	0	1	0	4	0	0	5	X	10

▶審判(球審)鹿多(塁審)大橋、桃田、生越(外審)岸井、橘

【N T T 信越】	打	安	点	振	球
⑧ 青 山	4	1	0	2	0
④ 土 居	4	0	0	1	0
⑦ 田 中	4	0	0	3	0
③ 横 井	4	3	1	0	0
R 半 田	0	0	0	0	0
⑤ 丸 山	3	0	0	1	0
H 三 井	1	0	0	0	0
⑨ 松 沢	4	1	0	0	0
② 高 橋	4	2	0	0	0
D 福 沢	2	1	0	0	0
HD田 島	1	0	0	0	0
⑥ 樽 田	3	0	0	0	0
犠 併 残					
0 1 6	34	8	1	7	0

【プリンス】	打	安	点	振	球
⑤ 足 立	6	0	0	0	0
⑨ 高 木	3	0	0	1	0
H 8 田 辺	0	0	0	0	2
③ 奥村伸	5	2	1	1	0
⑦ 佐藤友	4	1	0	1	0
7 宮 間	1	1	2	0	0
D 山下和	3	2	0	0	0
HD小 林	2	0	0	0	0
⑥ 奥村剛	4	2	1	0	1
④ 戸 栗	5	4	2	0	0
② 瀬戸山	3	2	2	1	1
H 波多野	1	1	1	0	0
2 佐藤孝	0	0	0	0	0
⑧9相 原	2	1	0	1	0
H 9 小 柳	1	0	1	0	1
犠 併 残					
1 1 12	40	16	10	5	5

	回	安	振	球	責
村 井	4⅔	8	1	2	4
佃	⅔	1	1	1	0
木 村	⅔	0	2	0	0
関	⅔	2	1	0	0
神 田	⅓	2	0	2	3
小 柳	1	3	0	0	2

	回	安	振	球	責
佐藤康	6	6	5	0	1
武 藤	2⅔	2	2	0	0
前 田	⅓	0	0	0	0

▷二塁打＝瀬戸山、宮間、戸栗▷犠打＝プ1(相原)▷盗塁＝N1(横井)プ4(高木、田辺、瀬戸山、小柳)▷失策＝N1(横井)▷捕逸＝高橋▷試合時間＝2時間58分

▽10月16日

第1試合＝準決勝(午前9時56分開始)

東 芝	2	1	0	0	0	1	1	0	0	5
日本石油	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3

▶審判(球審)小林(塁審)東、伊東、鹿多

【東 芝】	打	安	点	振	球
D 小 林	3	1	1	1	1
④ 葛 城	4	1	1	0	1
R 前 田	0	0	0	0	0
⑧ 苅 部	4	1	1	0	0
⑤ 古毛堂	4	2	2	0	0
③ 岩 野	3	2	2	1	0
⑥ 村 上	3	1	0	0	0
② 大 倉	2	0	0	0	0
H 宮 下	0	0	0	0	0
2 久 門	1	0	0	0	0
⑦ 重 東	4	2	0	0	0
④ 定 岡	3	0	0	0	0
H 西 村	1	0	0	0	0
犠 併 残					
3 0 8	33	10	5	6	4

【日本石油】	打	安	点	振	球
⑨ 高 林	5	2	0	1	0
④6木 下	4	2	0	0	0
⑧ 坂 口	5	1	1	0	0
⑤ 若 林	4	2	2	0	1
③ 徳 永	3	0	0	3	0
D 大久保	4	0	0	0	0
⑦ 村 上	3	1	0	0	0
H 相 田	1	0	0	0	0
7 佐 野	0	0	0	0	0
② 高 柳	3	2	1	0	1
⑥ 伊 藤	3	0	0	0	0
H 佐藤健	1	0	0	0	0
4 和 嶋	0	0	0	0	0
犠 併 残					
1 0 10	37	10	3	4	2

	回	安	振	球	責
杉 山	9	10	4	2	3

	回	安	振	球	責
鈴 木	2⅓	5	2	3	3
春 田	4⅔	5	3	1	2
小桧山	2	0	1	0	0

▷本塁打＝若林2号②(杉山)高柳1号(杉山)▷三塁打＝村上▷二塁打＝小林、畠山、高林▷犠打＝東3(小林、谷口、西村)日1(木下)▷失策＝東1(畠山)▷試合時間＝2時間45分

杉山の力投で東芝競り勝つ

追いつ追われつの展開となったが、後半に粘り強い投球をみせた杉山の力投で東芝が競り勝った。

東芝は同点で迎えた六回、松原が右前打と犠打で二進したあと、葛城が左前へはじき返して勝ち越し。七回は二塁打の畠山を谷口が右前打で迎え入れた。二番手の右横手投げの春田に中盤苦しめられていたが、左打者が突破口を切り開く理想的な追加点だった。

日本石油は若林、高柳の本塁打で2度同点としたものの、毎回走者を出しながらあとひと押しができず、九回一死三塁も坂口、若林の中軸が杉山に抑えられた。

第2試合＝準決勝(午後1時14分開始)

新日鉄室蘭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
プリンスホテル	2	0	2	0	1	1	0	0	X	6

▶審判(球審)中西(塁審)上杉、橘、浜田

【新日鉄室蘭】	打	安	点	振	球
⑦ 岡 田	4	0	0	1	0
④ 加 藤	4	0	0	0	0
4 篠 田	0	0	0	0	0
③ 近 藤	4	0	0	0	0
D 鈴木広	4	1	0	0	0
② 金 子	2	0	0	0	0
H 吉田幹	1	0	0	0	0
2 田 中	0	0	0	0	0
H 太 田	1	0	0	0	0
⑧ 船 尾	1	0	0	0	0
H 9 鈴木誠	3	1	0	1	1
⑤ 梅 田	3	2	0	1	1
⑨8黒 木	3	0	0	0	0
⑥ 橋 本	3	3	0	0	0
犠 併 残					
1 1 8	33	7	0	3	1

【プリンス】	打	安	点	振	球
⑨7宮 間	4	0	0	1	1
R 7 高 木	0	0	0	0	0
⑤ 足 立	1	1	0	0	4
D 宮 里	1	1	0	0	1
HD奥村伸	1	0	0	0	0
HD斎藤慎	1	0	0	0	0
⑦ 佐藤友	4	2	1	2	0
9 小 柳	1	0	0	0	0
③ 山下和	4	3	2	0	0
⑥ 奥村剛	3	0	0	0	1
④ 戸 栗	4	1	1	0	0
② 瀬戸山	4	0	0	0	0
⑧ 相 原	1	0	0	0	0
H 8 田 辺	2	1	0	0	1
犠 併 残					
1 1 10	31	9	4	3	8

	回	安	振	球	責
武 田	2⅔	3	1	4	2
嘉手苅	2⅓	4	1	2	1
別 府	3	2	1	2	1

	回	安	振	球	責
白 井	9	7	3	1	0

▷二塁打＝山下和▷犠打＝新1(黒木)プ1(奥村伸)▷盗塁＝プ3(足立2、山下和)▷失策＝新2(梅田2)プ1(山下和)▷試合時間＝2時間27分

プリンス白井が室蘭完封

プリンスホテルが3連投の武田の立ち上がりをとらえた。一回一死後、足立、宮里の連続四球から佐藤友が中前、山下和が右前に連続適時打。疲れから高めに入るカーブを狙い打った。三回は足立の四球、宮里の安打などで一死一、二塁とし、2つの三塁手の悪送球で2点を加え武田をKO。五回は二番手の嘉手苅から戸栗が適時打、六回は別府から山下和が適時打し大差をつけた。

新日鉄室蘭は下位打者が好機を作ったが、上位が白井の外角へのシュートを打ちあぐみ、三回一死一、二塁の逸機が響き、零敗した。

▽10月17日

優勝戦（午後1時29分開始）

プリンスホテル	0	0	0	0	0	0	1	0	0
東芝	0	0	2	2	0	2	1	0	X

プリンスホテル	1	0	0	0	0	0	0	0	0
東芝	4	2	2	0	0	0	0	0	X

▶審判（球審）大橋（塁審）上杉、岡本、東

【プリンス】	打	安	点	振	球
⑧ 田辺	4	1	1	1	0
⑨ 小柳	3	1	0	1	1
2 佐藤孝	0	0	0	0	0
③ 奥村伸	2	0	0	0	1
H 9 宮間	1	0	0	0	0
⑦ 佐藤友	3	2	0	0	1
D 山下和	4	1	0	0	0
⑤ 4 足立	3	0	0	0	0
④ 戸栗	2	0	0	0	0
H 6 波多野	1	0	0	0	0
H 相原	1	0	0	0	0
② 瀬戸山	2	0	0	0	0
H 3 小林	1	1	0	0	0
H 宮里	1	0	0	0	0
⑥ 奥村剛	2	0	0	1	0
H 5 斎藤憐	1	0	0	0	1
犠 併 残					
1 0 8	31	6	1	3	4

【東芝】	打	安	点	振	球
D 小林	4	2	2	0	0
④ 葛城	5	3	4	0	0
⑧ 前田	4	0	0	1	1
⑤ 山口	5	0	0	1	0
③ 谷多	4	0	0	0	2
⑦ 田見	3	3	1	0	0
② 高原	4	1	0	0	2
⑨ 松西	2	1	0	1	0
⑥ 村	2	0	0	0	1
犠 併 残					
2 1 9	33	10	7	5	5

	回	安	振	球	責
武藤	4	7	3	1	4
斎藤貴	2	1	0	3	2
小川	3/3	2	2	0	1
佐藤康	1/3	0	0	0	0
前田	1	0	0	1	0

	回	安	振	球	責
三原	6 2/3	6	3	4	1
杉山	2 1/3	0	0	0	0

▷本塁打＝多田1号（小川）▷三塁打＝葛城▷二塁打＝小柳、葛城、小林、高見▷犠打飛＝プ1（足立）東2（小林、西村）▷盗塁＝東2（前田2）▷失策＝プ1（奥村伸）▷試合時間＝2時間40分

小林、葛城で6打点

効率良く得点を重ねた東芝が三原、杉山の好継投でプリンスホテルの反撃を許さず快勝した。

東芝は6打点をたたき出した一、二番の活躍が目立った。三回一死二塁に小林が左翼フェンス直撃の二塁打で先制。葛城も左中間への連続二塁打で加点した。四回にも二死一、二塁から小林、葛城の適時打、六回は葛城の三塁打で2点を加え、試合を決めた。プリンスホテルの武藤、斎藤貴の右投手はクリーンアップの左打者を抑えながら、打者一人に屈した。

プリンスホテルは四回の一死二、三塁の追撃機を逃したのが痛く、その後も三原の切れ味鋭いシュートに手を焼いた。七回、ようやく三原を捕らえて1点、なおも二死満塁と攻めたが、代わった杉山に抑えられた。

監督談話

東芝・大田垣耕造監督　最初のチャンスに若手の小林が打ち、ベテランが続くいい形になった。5点差で三原から杉山に代えたのは、長打で雰囲気が変わるのを恐れてのこと。4年前は打力だけで勝ったようなものだが、今回は投手も頑張った。ベンチ一体の勝利です。

プリンスホテル・石山建一監督　先発の武藤にもう少し期待していたが…。投手陣が四球から点をやったのは良くなかった。打線も三原君のシュートが分かっていながら手を出した。相手の方が役者がそろっていたということだ。杉山君という柱があるのは強い。

監督ひと

東芝　大田垣 耕造監督

「最高です」。推薦出場の今夏の都市対抗野球こそ大阪市・日本生命に1回戦で敗れたが、春の東京スポニチ大会はじめ出場した全国、地方の4大会全部に決勝進出、うち2大会に優勝し、締めくくりの日本選手権で頂点を極めた。

厳しい相手のマークをはねのけ、常に決勝まで進むのはどんなに難しいことか。「練習がすべて」といいきる。練習が選手を育て、たくましくすると。

軽快で、流れるようなプレーを見せても、いくつかミスする選手より、格好悪くても一生懸命、平凡なゴロを確実に処理する選手を登用。「目指すのは守りの野球。練習で息を抜く選手は見放すし、守りが悪い者は試合に出られないチームです」

投手出身だけに「ワンマンです。妥協せず、やりたいようにやっている」というが、好きな推理小説から人の心理をつかむ術を学び、米国の野球技術書を読んでは、選手に輪読させる。自身も知識吸収に努め、選手の技術向上の糧にさせる。シーズンオフには数カ月かけて選手と個人面談、互いの考えを理解しあう機会を持ち、チーム作りの土台にする。

「ボーっとしているのが一番」。つかの間、野球から離れるが、家族と過ごすことはめったになく、1男1女の父は「やめるまで駄目でしょう」とクールな笑みを見せた。

〈広島県尾道市出身。尾道商高で1967年選抜出場。青山学院大、東芝を通じ投手。87年秋から監督、翌年に都市対抗、日本選手権を連覇。本社勤労部長付。42歳。〉（笹尾　勝彦）

〔優勝戦〕東芝―プリンスホテル　六回裏東芝一死一、三塁、葛城右中間三塁打を放ち、三塁から松原、一塁から西村を本塁へ迎え入れる。（捕手・瀬戸山）

東芝、「総合力」の勝利
投打のバランス充実

熱球

クリーンアップが打てなくても野球は勝てる。東芝は頂点を極める大一番でこれを体現してみせた。

プリンスホテルの先発、武藤は今春のオープン戦で東芝を完封している。「さて何点取れるやら」。準決勝まで3試合にいずれも一回に得点してきた打線が一回、簡単に3人で攻撃を終わるのを見て、東芝・大田垣監督は少し気になった。しかし、打順が一巡する三回に小さな突破口から打線が活気づいた。

発端は松原の四球。武藤はその前に左が並ぶ東芝のクリーンアップに対し、丹念すぎるほどにコースを突いて打ち取っていた。八番ながら左の松原に対してもコースを突き過ぎた結果の四球だった。西村はきっちりバントで走者を進め、小林は1―2から内角低めのカーブを狙い打った。

続く葛城は2球目の直球を打って左中間を破った。四回も同様だ。小林は初球を、葛城は2球目をそえぞれ適時打。早いカウントで好球を見逃さなかった一、二番の速攻の勝利だった。結局、東芝のクリーンアップは無安打。「クリーンアップを意識しすぎて一、二番に集中力を欠いた」。都市対抗10年連続出場の瀬戸山捕手（プリンスホテル）は言った。

裏を返せば、主軸が抑えられても周囲にカバーできる力があることの証明。三原、杉山のエース格2人をつなぐ投手力でも、芯になる投手不在のプリンスを上回っていた。

4年前の大会、昨年の都市対抗。東芝は打線の爆発力だけで頂点に立った。しかし、今回は投打のバランスのよさで勝ち取ったダイヤモンド旗だ。前年優勝で臨んだ都市対抗で東芝は、優勝した日本生命に完敗。その悔しさを大田垣監督以下全員が保ち続けて神戸入りした。「スタートは都市対抗の1回戦負け」と葛城。今回、優勝候補で一回戦負けの日生がバネを与えた栄光でもあった。（堂馬　隆之）

12球団どこでもOK

東芝・杉山

㊤…七回二死満塁で三原を救援、以降1人の走者も許さなかった東芝杉山は「いい思い出がたくさんできました」と感慨深げ。1年目の昨年は都市対抗で優勝して若獅子賞を獲得。今年はバルセロナ五輪で銅メダルを取り、そして今回の優勝。専大時代は岡林（ヤクルト）の陰に隠れた存在だったが、社会人2シーズンでドラフト上位候補に成長した。「黒紙さん（コーチ）に9回を投げ切るコツを教えてもらいました」とチームに感謝。「評価してもらえれば12球団どこでもOKです」と、話していた。

ズームアップ

武藤潤一郎投手
プリンスホテル・23歳

来年へ〝貴重な敗戦〟

183㌢、75㌔。理想的な体格、下半身のバネ、球威、変化球の多彩さ。優勝戦の先発に起用するエースにかける期待は計り知れないものがあったはず。

東芝の主軸は左トリオ。一、二回。スライダーを低めに集めて、申し分のない立ち上がり。トリオに対しても大胆に内をついて2奪三振。ところがだ。三回、突然ボールが先行する。ひと山越した安心感がのぞいて八番打者に四球。バントを決められた後、一、二番に連続二塁打を浴びて2点を失った。四回も同じパターン。下位を出し一、二番にたたかれて、計4点を奪われて降板した。「何を言っても言い訳になる。辛抱しきれない自分が情けない」。信頼失墜のショックで視点が定まらなかった。

エースというのは、チームが苦しい時にこそ真価が問われる。技量以上に「精神面のタフさがほしい。武藤なら経験を積めば身につけられる」と、石山監督の期待は薄れていない。

「連投に耐えられるだけの体力と心をつけたい。最後の最後の悔しさは忘れません」。まだ2年目。敗戦は真の大黒柱への起点になるはずだ。

高輪プリンスホテル宴会サービス勤務。

—— 東芝、優勝慣れしてる ——

㊤…初のダイヤモンド旗を逃したプリンスホテルの瀬戸山主将は「チームは勢いに乗っていた。大旗が手の届くところまで来ていたのに」と意気消沈。投手陣が打ち込まれたのが敗因だけに、女房役としての後悔の言葉が続いた。「準決勝の白井のように、うまく投手を操れなかった。ボール球で打ち取るべきなのに、ストライクで勝負してしまった」。ただプリンスホテルは3度目の出場で、初の優勝戦進出と選手権では過去の実績がない。「これで優勝ではずうずうしいかも。東芝はさすが優勝慣れした戦いぶりだった」と"伝統"の差を痛感した様子だった。

第19回大会表彰選手

◇最高殊勲選手賞　三原昇投手（東芝）「都市対抗も含め、優勝戦の先発が初めてなら、ＭＶＰも初めて」と声を弾ませた。

2回戦で好救援。準々決勝は1失点完投。優勝戦も七回途中で降板したとはいえ1失点。球速は130キロ台前半だが、横手から大胆に内角をシュートで突いた。亜大卒7年目、投手陣最年長の28歳。「まだまだベテランじゃない」と話す通り、若々しく攻めの投球を貫いた。本社営業推進部業務担当。

◇打撃賞・首位打者賞　小林直人選手（東芝）「思い切りのよさが好結果につながった」。日大三高卒2年目の20歳。初々しく喜びを語った。

昨年は高校野球と段違いのスピード、パワーに圧倒されたが、今年は先頭打者。三回に先制の適時二塁打、四回も中前適時打を放ち、重責を果たした。ＤＨ出場だったが、本職は二塁手。「次の課題は守り」。一層の飛躍を誓った。本社エアコン営業部勤務。

◇敢闘賞・首位打者賞　佐藤友昭外野手（プリンスホテル）　2回戦のＮＫＫ戦で、代打逆転3ラン。本来四番打者だが、春にケガして以来、左投手が出ると代打を送られた。この日は四番で3打数2安打。「勝って賞をもらえば最高だったのに。首位打者にはなったけど、他の試合で四番としてもっと大きいのを打ってチームを盛り上げなければいけなかった」。今後は全試合に出場できるよう、左腕を苦にしないようにしたい、と課題を1つにした。23歳、中大卒2年目、新宿プリンスホテル人事課勤務。

◇首位打者賞　多田勇二外野手（東芝）　優勝戦は3打数3安打。「準決勝までたった3安打。首位打者なんてとても、と思っていたが」と受賞に驚いた。

二回の内野安打で波に乗り、四回は左前打、七回は前の打者へのカーブ攻めを見て取り、カーブを狙い打ちし本塁打。「甘い球が来ただけ」と謙そんしたが、読みの鋭さが初体験の首位打者につながった。青山学院大卒4年目、26歳。川崎市・小向工場総務部勤務。

◇大会優秀選手

【投手】三原昇、杉山賢人（以上東芝）武田勉（新日鉄室蘭）小桧山雅仁（日本石油）山部太（ＮＴＴ四国）　**【捕手】**高見泰範（東芝）高柳靖法（日本石油）　**【一塁手】**山下和輝（プリンスホテル）横井信一（ＮＴＴ信越）徳永耕治（日本石油）　**【二塁手】**葛城弘樹（東芝）戸栗和秀（プリンスホテル）　**【三塁手】**畠山弘彰（東芝）若林重喜（日本石油）　**【遊撃手】**西村隆史（東芝）橋本秀樹（新日鉄室蘭）　**【外野手】**多田勇二（東芝）佐藤友昭（プリンスホテル）船尾隆広（新日鉄室蘭）芝和彦（ＮＴＴ四国）　**【指名打者】**小林直人（東芝）大久保秀昭（日本石油）

◇10回出場選手　中橋伸幸（日本生命）、武田和高（ＮＴＴ四国）、三好利幸（ＮＴＴ四国）

◇10年連続審判　樫根清一

20年を振り返って

日本野球連盟
中国地区連盟専務理事
池田立人
（日本野球連盟理事）

早いもので日本選手権大会も20回の記念大会を迎えた。

大会は、様々な経過を経て昭和49年10月「阪神甲子園球場」で産声をあげた。その後「大阪球場」から「グリーンスタジアム神戸」へと舞台を移しつつも、日本選手権の名にふさわしい大会として発展。「ダイヤモンド旗」を目指して社会人野球の素晴らしい熱戦ドラマを、今後ともますます展開するものと期待している。

振り返ってみれば中国地区代表チームも、ある程度の成績を残している。特筆すべきは第7回大会（昭和55年）の日本鋼管福山。名投手・田村を中心とした見事なチームワークで初めて、中国路にダイヤモンド旗を翻してくれた。この他、第1回大会では日本鋼管福山が準優勝、三菱重工広島が準決勝に進出、第6回大会には協和発酵がベスト4入り。

ただ残念なことに最近の中国地区代表があまりいい成績を残していないのは、悔しい思いがする。今後、中国地区の代表チームの活躍を期待したい。

最後に当たってこの日本選手権についてお願いがある。都市対抗野球大会が終わって1か月ばかりの期間を置いて、直ちに各地区の予選が始まる。難しい時期だとは思うが、1次の都道府県予選並びに2次の地区予選、いわゆる底辺から盛大に開催されるよう細かく考慮してもらいたいものだ。

われわれ関係者はこの大会を大事にして、今後ますます発展させるよう努力したいものである。

第19回大会 地区大会成績

（太字チーム本大会出場チーム）

北海道大会

9月11日から　5日間　　札幌市営円山球場

東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽**一回戦**　八甲ク７－２オール青森▽**準決勝**　三菱製紙八戸８－３八甲ク、自衛隊青森11－１全弘前▽**決勝**　自衛隊青森２－０三菱製紙八戸（勝者は第二次予選へ）

◇**岩手**▽**一回戦**　ＪＡ県経済連11－０平泉ク、遠野ク８－５オール不来方、岩手銀行10－０高清物産花友ク、水沢駒形４－３オール釜石▽**二回戦**　アイワ岩手６－４宮城建設、雫石ク（不戦勝）住田ク、岩手銀行15－０大槌球友、久慈ク（不戦勝）東京製綱、水沢駒形10－３東北ハーネス、ＪＡ県経済連17－０九戸ク、小野田セメント８－２釜石野球団、岩手東芝９－０遠野ク▽**準々決勝**　ＪＡ県経済連７－０小野田セメント、アイワ岩手12－０岩手東芝、岩手銀行９－２久慈ク、水沢駒形12－５雫石ク▽**準決勝**　ＪＡ県経済連９－１アイワ岩手、岩手銀行10－４水沢駒形（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ＪＡ県経済連７－６岩手銀行

◇**秋田**▽**一回戦**　秋田ベースボールク11－７八橋ユーランドク、秋田経法大校友ク15－12ＪＲ秋田、秋田銀行８－０大曲ベースボールク▽**準決勝**　ＴＤＫ18－２秋田ベースボールク、秋田銀行７－０秋田経法大校友ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ＴＤＫ９－０秋田銀行

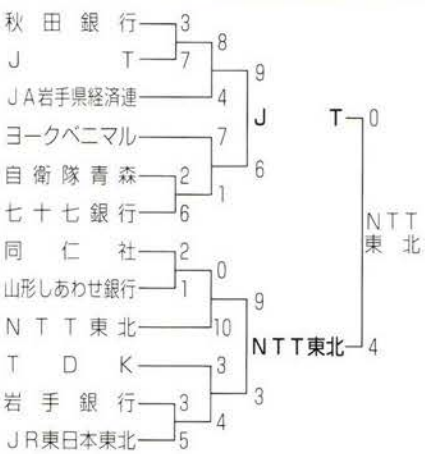
◇**宮城**▽**一回戦**　七十七銀行７－２十条製紙、ＪＴ８－５オールカメイ、ＮＴＴ東北16－０白山ク、ＪＲ東日本東北４－２日産サニー宮城▽**準決勝**　ＮＴＴ東北12－３ＪＲ東日本東北、ＪＴ16－５七十七銀行（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ＮＴＴ東北４－３ＪＴ▽**敗者復活一回戦**　十条製紙１－０オールカメイ、日産サニー宮城６－３白山ク▽**同二回戦**　ＪＲ東日本東北14－７十条製紙、七十七銀行10－０日産サニー宮城▽**第三代表決定戦**　七十七銀行３－１ＪＲ東日本東北（勝者は第二次予選へ）▽**敗者復活三回戦**　十条製紙５－２日産サニー宮城▽**第四代表決定戦**　ＪＲ東日本東北６－２十条製紙（勝者は第二次予選へ）

◇**山形**▽**一回戦**　山形しあわせ銀行18－３三川ク、米沢中央ク15－12東海大山形ＯＢ▽**準決勝**　山形しあわせ銀行11－８新庄球友ク、鶴岡野球ク９－４米沢中央ク▽**決勝**　山形しあわせ銀行８－２鶴岡野球ク（勝者は第二次予選へ）

◇**福島**▽**一回戦**　福島硬友ク８－５トヤ野球ク、全白河野球ク21－20飯野ク、学石ＯＢ19－16オールいわきク、北斗野球ク10－７矢吹ク、小峰ク12－８郡山フレンズ▽**二回戦**　ヨークベニマル９－２福島硬友ク、全白河野球ク６－３好間ク、北斗野球ク（不戦勝）郡山ベースボールク、小峰ク17－６ニュー相馬、保原ク９－６平工ＯＢ、学石ＯＢ10－６自衛隊福島、須賀川ク13－４川俣ク、同仁社６－３二本松ク▽**準々決勝**　北斗野球ク11－８須賀川ク、同仁社12－５小峰ク、ヨークベニマル10－０全白河野球ク、保原ク９－８学石ＯＢ▽**準決勝**　ヨークベニマル９－２保原ク、同仁社14－１北斗野球ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　ヨークベニマル３－２同仁社

▶二次予選

9月13日から　3日間　　県営宮城球場



関東大会

▶一次予選

◇**茨城、栃木、群馬**　都市対抗予選と兼ね日立製作所、住友金属鹿島（以上茨城）、全足利ク（栃木）、富士重工業（群馬）が第二次予選へ。

◇**埼玉**▽**一回戦**　かみかわク７－６都幾川ク、全大宮６－３全三郷▽**準々決勝**　鷺宮製作所狭山12－９川口球友ク、日本通運10－０かみかわク、大和ク５－４全浦和、本田技研23－０全大宮▽**準決勝**　日本通運11－０鷺宮製作所狭山、本田技研17－４大和ク（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　日本通運10－９本田技研

◇**千葉**▽**リーグ戦**　ＮＴＴ関東11－６新日鉄君津、川崎製鉄千葉６－５ＮＴＴ関東、川鉄千葉６－４新日鉄君津（川鉄千葉とＮＴＴ関東は第二次予選へ）

◇**東京**▽**代表決定戦**　鷺宮製作所10－９東京ガス、プリンスホテル13－７明治生命、ＮＴＴ東京９－４ＪＲ東日本、熊谷組８－４朝日生命（勝者は第二次予選へ）▽**敗者復活一回戦**　東京ガス３－２明治生命、朝日生命７－３ＪＲ東日本▽**第五代表決定戦**　東京ガス６－４朝日生命（勝者は第二次予選へ）

◇**東京多摩**▽**代表決定戦**　スリーボンド４－２東芝府中（勝者は第二次予選へ）

◇**神奈川**▽**一回戦**　横浜そごう19－０神奈川ク、三菱重工横浜10－６ウィーンク、いすゞ自動車18－０横浜高島屋、三菱自動車川崎５－１横浜球友ク、全川崎ク８－７横浜金港ク▽**準々決勝**　日本石油９－８横浜そごう、日産自動車18－13三菱重工横浜、三菱自動車川崎16－13いすゞ自動車、東芝18－２全川崎ク（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　日産自動車７－６日本石油、東芝６－３三菱自動車川崎▽**決勝**　東芝９－４日産自動車▽**三位決定戦**　三菱自動車川崎４－３日本石油▽**敗者復活一回戦**　三菱重工横浜５－４横浜そごう、いすゞ自動車11－０全川崎ク▽**第五代表決定戦**　いすゞ自動車９－５三菱重工横浜（勝者は第二次予選へ）

◇**山梨**▽**一回戦**　大月ク５－４オール櫛形▽**準決勝**　甲府ベースボールク25－３市川ク、山梨球友ク13－２大月ク▽**決勝**　山梨球友ク13－７甲府ベースボールク（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月19日から　5日間　　大宮市営球場

北信越大会

▶一次予選

◇**長野**▽**リーグ戦**　ＴＤＫ千曲川７－１全松本ク、ＮＴＴ信越13－０全松本ク、ＮＴＴ信越11－１ＴＤＫ千曲川（ＮＴＴ信越、ＴＤＫ千曲川は第二次予選へ）

◇**富山**▽**リーグ戦**　北陸銀行８－２ＮＴＴ富山、ＮＴＴ富山７－４伏木海陸運送、北陸銀行８－０伏木海陸運送（３チームとも第二

次予選へ）

◇**新潟**　予選を実施せずニチエーが推薦出場

▶二次予選

9月19日から　2日間　　長野県営球場

東海大会

▶一次予選

◇**静岡▽一回戦**　ヤオハンジャパン10－0中電硬式野球ク、河合楽器18－0エースコンク、ヤマハ発動機誠和ク14－4菊笠ク、関東自動車工業10－0浜商闘魂会、三島ク12－3協和発酵ク、ヤマハ11－0本州ク、フジウンノ野球ク11－1岳南ク、大昭和製紙14－2中遠ク▽**準々決勝**　河合楽器6－5ヤオハンジャパン、関東自動車工業11－1ヤマハ発動機誠和ク、ヤマハ10－0三島ク、大昭和製紙10－2フジウンノ野球ク（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　ヤマハ13－6大昭和製紙、河合楽器4－3関東自動車工業▽**決勝**　河合楽器8－1ヤマハ

◇**東海▽一回戦**　ＮＴＴ東海10－1西濃運輸、新日鉄名古屋12－5サンジルシ醸造、本田技研16－9東海理化、三菱重工自工名古屋12－3大仙、王子製紙春日井10－3ＪＲ東海、日通名古屋8－2昭和コンクリート▽**準々決勝**　ＮＴＴ東海12－9新日鉄名古屋、東邦ガス5－3本田技研鈴鹿、トヨタ自動車5－4三菱重工自工名古屋、王子製紙春日井9－5日通名古屋（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　東邦ガス13－6ＮＴＴ東海、王子製紙春日井6－4トヨタ自動車▽**決勝**　東邦ガス11－6王子製紙春日井▽**敗者復活戦**　新日鉄名古屋7－6本田技研鈴鹿、日通名古屋4－3三菱重工自工名古屋（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月20日から　4日間　　岡崎市民球場

（三位決定戦）

近畿大会

▶一次予選

◇**滋賀▽一回戦**　近江八幡ク12－4瀬田工ＯＢ、日本ＩＢＭ野洲17－0全大津▽**決勝**　日本ＩＢＭ野洲27－1近江八幡ク（勝者は第二次予選へ）

◇**京都▽一回戦**　三菱自動車京都12－1高島屋京都、日産車体京都3－1島津製作所、丸勝4－2第一紙行（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　三菱自動車京都10－4日本新薬、日産車体京都7－4丸勝▽**決勝**　三菱自動車京都8－1日産車体京都▽**三位決定戦**　日本新薬14－12丸勝（勝者は第二次予選へ）

◇**大阪▽一回戦**　松下電器5－3三和銀行、新日鉄堺16－0大阪ペーシェンス▽**準々決勝**　ＮＴＴ関西7－2新日鉄堺、大阪ガス9－2松下電器、日本生命16－0デュプロ、大和銀行4－2中山製鋼（勝者は第二次予選へ）▽**準決勝**　ＮＴＴ関西7－6大和銀行、日本生命9－4大阪ガス▽**決勝**　日本生命15－5ＮＴＴ関西▽**敗者復活一回戦**　中山製鋼2－0新日鉄堺、松下電器10－1デュプロ▽**第五代表決定戦**　松下電器8－6中山製鋼（勝者は第二次予選へ）

◇**兵庫▽一回戦**　小西酒造4－3川崎製鉄神戸、三菱重工神戸10－2阿部企業、新日鉄広畑15－6田村コピー▽**準決勝**　新日鉄広畑8－2小西酒造、三菱重工神戸12－10神戸製鋼（準決勝出場4チームは第二次予選へ）▽**決勝**　三菱重工神戸7－1新日鉄広畑▽**敗者復活一回戦**　川鉄神戸10－9阿部企業▽**三位決定戦**　神戸製鋼9－1小西酒造▽**第五代表決定戦**　川鉄神戸10－1田村コピー（勝者は第二次予選へ）

▶二次予選

9月19日から　5日間　　京都・西京極球場

（敗者復活戦）

中国大会

▶一次予選

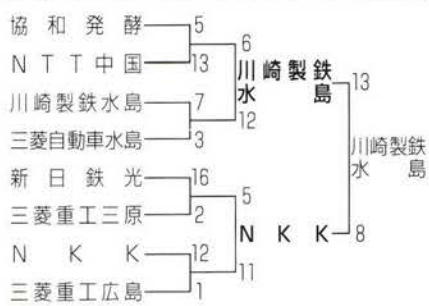
◇**岡山・鳥取▽リーグ戦**　三菱自動車水島7－4王子製紙米子、三菱自動車水島9－7川崎製鉄水島、川鉄水島10－0王子製紙米子、三菱自動車水島14－3王子製紙米子、川鉄水島7－5三菱自動車水島、川鉄水島9－6王子製紙米子（川鉄水島、三菱自動車水島は第二次予選へ）▽**第一代表決定戦**　川鉄水島5－3三菱自動車水島

◇**広島▽一回戦**　ＮＫＫ9－6常石鉄工、三菱重工三原10－9ＪＲ西日本、三菱重工広島15－0マツダ、ＮＴＴ中国7－3ヤマコー▽**準決勝**　三菱重工三原9－3ＮＫＫ、ＮＴＴ中国8－6三菱重工広島（勝者は第二次予選へ）▽**決勝**　三菱重工三原16－6ＮＴＴ中国▽**敗者復活一回戦**　ＪＲ西日本20－3常石鉄工、ヤマコー13－3マツダ▽**同二回戦**　三菱重工広島7－3ＪＲ西日本、ＮＫＫ9－3ヤマコー（勝者は第二次予選へ）

◇**山口▽リーグ戦**　協和発酵10－0航空自衛隊防府、新日鉄光23－0防府ク、新日鉄光24－5航空自衛隊防府、協和発酵11－1防府ク、協和発酵13－7新日鉄光、航空自衛隊防府8－6防府ク（新日鉄光、協和発酵は第二次予選へ）

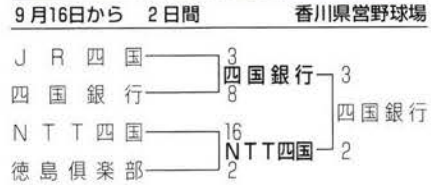
▶二次予選

9月23日から　3日間　　岡山県営球場



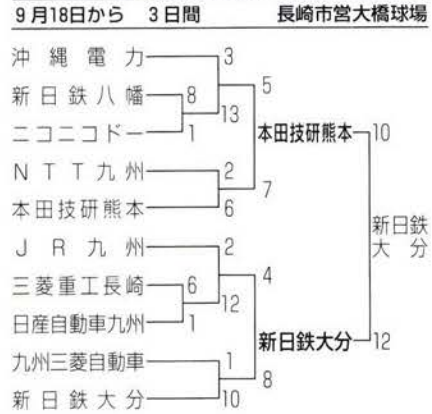
四国大会

9月16日から　2日間　　香川県営野球場



九州大会

9月18日から　3日間　　長崎市営大橋球場



第19回大会出場選手等一覧（○は主将）

山陽国策パルプ旭川

監督	向峯　斉	35	旭川竜谷高
投手	森井　洋光	27	苫小牧工高
〃	牛丸　秀章	31	旭川大高
〃	池田　幹夫	27	駒大苫小牧高
〃	川田　健	20	稚内大谷高
〃	渡辺　勝彦	26	駒大苫小牧高
〃	影山　祥啓	19	美幌高
捕手	岩舘　進	23	駒大岩見沢高
〃	米倉　誠	25	旭川大高
〃	上口　浩史	20	登別大谷高
内野	富田　学	27	苫小牧工高
〃	荒井　康徳	24	函館工高
〃	鳥浜　良和	21	苫小牧工高
〃	二敷　雄二	21	旭川実高
〃	田中　靖久	24	旭川竜谷高
〃	横浜　信勝	21	旭川実高
〃	佐々木功哲	21	富良野高
〃	篠田　法孝	23	旭川竜谷高
外野	唐川　幸治	21	旭川実高
〃	坂口　彰宏	29	旭川工高
〃	松浦　吉仁	20	北海高
〃	○曽川　功一	26	旭川大高

新日本製鐵室蘭

監督	田中　君男	50	県船橋高
投手	別府　信介	23	明徳義塾高
〃	川瀬　俊宏	19	千葉商大付高
〃	吉田　幸三	19	PL学園高
〃	渡辺　敏彦	19	室蘭大谷高
〃	三井　浩二	19	足寄高
〃	嘉手苅一弘	21	日体荏原高
〃	武田　勉	20	中標津高
〃	渡辺　公幸	21	佐渡農高
〃	高橋　毅	22	美幌高
〃	米山　浩一	32	専修大
捕手	金子　弘和	23	神奈川大
〃	田中　仁	22	北海道桜丘高
〃	長山　和英	29	神奈川大
〃	橋場　博	19	埼玉栄高
内野	加藤　茂樹	24	国際武道大
〃	橋本　秀樹	21	大宮東高
〃	梅田　貴市	24	中央学院大
〃	鈴木　広之	25	水戸商高
〃	盛田　欣也	21	函館大有斗高
〃	太田　毅	20	久留米工大付高
外野	船尾　隆広	21	函大有斗高
〃	近藤　厳	24	中央大
〃	鈴木　誠治	24	北海学園大
〃	○岡田　健一	25	旭川竜谷高
〃	吉田　幹人	23	神奈川大
〃	黒木　和也	20	湯沢商工高

J　T

監督	山下　静夫	33	亜細亜大
投手	鍋嶋　武秀	19	寺井高
〃	磯田　史人	19	東陵高
〃	日笠　弘明	25	亜細亜大
〃	及川　弘昭	26	一関商工高
〃	千葉　明夫	19	弘前実高
〃	加藤　淳	29	仙台商高
〃	石村　浩司	25	東北福祉大
〃	秋田　貴治	23	亜細亜大
〃	柳畑　雅人	26	福岡高
〃	佐藤　正樹	28	駒沢大
捕手	倉田紀久夫	29	亜細亜大
〃	菊池　拓徳	20	能代商高
〃	佐藤　孝幸	20	秋田商高
〃	及川　正則	29	広田水産高
内野	池谷　昌彦	25	東北福祉大
〃	佐々木幸樹	23	大船渡高
〃	○寺嶋　哲也	29	仙台育英高
〃	長浜屋　寛	24	東北福祉大
〃	藤沢　法行	25	花巻北高
〃	中田　英次	24	東北福祉大
〃	藤原　順	29	秋田商高
外野	佐藤　茂徳	23	東北福祉大
〃	鎌田　倫昌	22	弘前実高
〃	原野　優	29	仙台育英高
〃	鈴木　和彦	20	東陵高
〃	渡辺　則昌	27	福島商高

NTT東北

監督	小澤　敬一	42	関東学院大
投手	谷口　直純	23	仙台大
〃	竹内　昌也	20	本荘高
〃	加藤　高康	22	東海大
〃	大倉　浩悦	30	東北福祉大
〃	越田　仁孝	26	青森北高
〃	河村　文利	22	日本大
〃	山田　勉	25	東北学院大
〃	添田　光夫	26	平工高
捕手	猪狩　正弘	28	明治大
〃	和田　猛	24	明治大
〃	安孫子謹也	18	日大山形高
内野	高橋　大典	24	東海大
〃	福地日出雄	34	東京農大
〃	小山　国博	22	東北学院大
〃	阿部　順悦	26	法政大
〃	柿久保健二	27	東洋大
〃	佐藤　天	23	明治大
〃	鈴木　強	23	東京農大
〃	三瓶　仁	24	学法石川高
〃	唐沢　敬	26	東京農大
外野	藤木　豊	26	東北福祉大
〃	戸羽　英之	25	一関商工高
〃	横山　聖	25	東北学院大
〃	大塚　広己	21	能代商高
〃	夷塚　博	21	一関商工高

日本通運

監督	杉本　泰彦	33	東洋大
投手	松下　耕三	24	東洋大
〃	新井　富夫	27	駒沢大
〃	黒澤　淳一	23	東海大
〃	平子　浩之	23	東洋大
〃	竹田　泰信	24	流通経済大
〃	橋本　正行	24	日本大
〃	黒川　紀章	21	鹿沼商工高
〃	野尻　貴巨	19	日川高
捕手	村上　真司	26	明治学院大
〃	丸山　敬志	24	小倉工高
〃	川崎　義文	21	大分藤蔭高
内野	宮下　森	26	東海大
〃	籔　宏明	26	国学院大
〃	中村　勝義	26	春日部工高
〃	島田　祐貴	22	大宮東高
〃	田中　敏弘	23	明治大
〃	橋爪　和人	25	日体大
〃	佐藤　明	24	法政大
〃	松尾　公明	25	創価大
〃	赤川　正一	23	東海大
〃	平田　純	23	青森大
〃	中野　由丈	23	東洋大
外野	○田中　泰	28	東洋大
〃	井出　竜也	21	吉田高
〃	徳永　聡	22	拓大紅陵高
〃	難波　貴司	27	東海大
〃	前島　優治	25	城西大
〃	山口　陽	19	銚子商高
〃	中田　光治	24	東洋大
〃	奈須　要	23	東海大

プリンスホテル

監督	石山　建一	50	早稲田大
投手	市島　徹	23	早稲田大
〃	斎藤　貢	22	所沢商高
〃	佐藤　康弘	25	創価大
〃	武藤潤一郎	23	専修大
〃	小川　浩司	21	泉州高
〃	白井　弘泰	26	日大二高
〃	鈴木　和之	21	宇都宮工高
〃	前田　勝宏	21	神戸弘陵学園高
捕手	○瀬戸山満年	30	中京高
〃	佐藤　孝明	22	日本大
〃	音羽　昌顕	19	泉州高
〃	宮里多美男	32	興南高
内野	山下　修一	24	法政大
〃	戸栗　和秀	27	駒沢大
〃	斎藤慎太郎	25	早稲田大
〃	足立　修	28	早稲田大
〃	奥村　伸一	24	近畿大
〃	奥村　剛	25	明治大
〃	小林　昭一	25	同志社大
〃	山下　和輝	24	天理高
〃	波多野祐二	19	桐生工高
外野	相原　崇	22	日体大
〃	太田　弘一	20	東海大甲府高
〃	田辺　晃	28	日大二高
〃	宮間　豊智	25	法政大
〃	佐藤　友昭	23	中央大
〃	小柳　康	27	近畿大
〃	高木　慎一	28	法政大
〃	石田　勝彦	21	東海大相模高
〃	小田原　斉	18	延岡学園高

NTT東京

監督	藤原　誠二	35	国士舘大
投手	今関　勝	22	大楠高
〃	佐久間直人	19	網野高
〃	越田　孝也	25	関東学院大
〃	宮本　勝美	22	三瓶高
〃	正村　公弘	29	東海大
〃	力山　啓	28	帝京大
〃	石平　英一	25	駒沢大
〃	本間　秀和	24	関東学院大
〃	小林　秀央	25	亜細亜大
捕手	矢野　秀人	26	都城高
〃	桐原　信也	19	塩山高
〃	土肥　武	23	駒沢大
〃	塩沼　浩二	22	日大三高
内野	夏井　猛	23	関東学院大
〃	○為永　聖一	28	駒沢大
〃	平松　健太	23	国士舘大
〃	横川　正邦	24	東農大二高
〃	伊藤　雅樹	19	修徳高
〃	内山　克仁	26	駒沢大
〃	篠原　俊雄	24	千葉工大
〃	斉藤　久二	24	東洋大
外野	長堀　肇	31	東洋大
〃	比嘉　孝也	25	専修大
〃	久世　綱紀	29	九州産大
〃	加藤　貞明	24	東京農大
〃	早坂　俊一	24	日体大
〃	服部　誠	22	岡山理大付高
〃	中村　大伸	27	日体大
〃	野瀬　英則	20	大宮東高

東　芝

監督	大田垣耕造	43	青山学院大
投手	三原　昇	29	亜細亜大
〃	今井　隆徳	21	伊勢崎商高
〃	岡本　克道	19	柳ケ浦高
〃	山崎　雄巳	25	盈進高
〃	小泉　史生	20	横浜商高
〃	杉山　賢人	24	専修大
〃	石川　和久	21	日大三高
〃	斎藤　幸治	19	秋田経法大付高
〃	福谷　欣哉	21	川之江高
捕手	志賀　康雄	23	城西大
〃	斉藤　敏夫	27	鶴見工高
〃	高見　泰範	28	愛知工大
〃	松村　治男	27	帝京大
内野	西村　隆史	27	横浜商高
〃	○葛城　弘樹	29	国士舘大
〃	鈴木　肇	23	日体大
〃	唐沢　良一	23	帝京大
〃	谷口　英功	23	東洋大
〃	畠山　弘彰	27	法政大
〃	吉沢　明	26	土浦日大高
〃	中野　順二	20	江戸川学園取手高
〃	小林　直人	20	日大三高
外野	後藤　圭一	23	駒沢大
〃	松原　和也	25	九州国際大
〃	鈴木　政治	23	日本大
〃	伴野　貴也	21	横浜商大高
〃	前田　誠	31	駒沢大
〃	植山　和夫	24	倉敷工高
〃	多田　勇二	26	青山学院大
〃	木村　哲久	24	尾道商高

日本石油

監督	林　裕幸	37	東海大
投手	増永　祐一	26	鹿児島商工高
〃	野村　昭彦	24	駒沢大
〃	高橋　憲幸	22	拓大紅陵高
〃	吉武　史訓	24	九州国際大
〃	春田　政勝	24	九州国際大
〃	小桧山雅仁	23	慶応大
〃	鈴木　健	23	羽黒工高
〃	松嶋　隆進	22	男鹿工高
〃	川本　一洋	19	羽黒高
捕手	大久保秀昭	23	慶応大
〃	田中　健二	24	横浜商科大
〃	佐藤　孝治	30	早稲田大
〃	高柳　靖法	26	駒沢大
内野	木下　俊生	24	九州国際大
〃	徳永　耕治	24	千葉工高
〃	平田　望	27	法政大
〃	和嶋　利博	23	法政大
〃	伊藤　義樹	29	中京高
〃	前田　健吾	20	関東第一高
〃	佐藤　健司	22	武相高
〃	若林　重喜	25	立正大
〃	相田　武徳	26	早稲田大
外野	高林　孝行	25	立教大
〃	村上　清	24	青山学院大
〃	○坂口　裕之	27	明治大
〃	加藤　晋	25	横浜商科大
〃	泉　雅文	20	宇部商高
〃	佐野　由幸	23	東海大
〃	吉武　和彦	24	法政大
〃	山本　信也	19	鹿児島商高

NTT信越

監督	西條　明博	37	専修大
投手	佃　守	23	亜細亜大
〃	小柳　信章	22	東京農大
〃	神田　達也	25	東京農大
〃	関　勝宏	24	国士舘大
〃	村井　勝美	23	岩国商高
〃	木村　安孝	22	筑波大
〃	江尻　勝栄	23	日本大
捕手	高橋　昭二	30	松商学園高
〃	辻　利行	18	松商学園高
〃	小林　常治	22	日本大
〃	古木　利弘	23	神奈川大
内野	樽田　政信	25	関東学院大
〃	半田　敦	18	新潟明訓高
〃	○土居　誠人	28	新田高
〃	荒巻　浩平	20	柳川高
〃	福沢　剛	22	大宮東高
〃	谷口　光治	23	日体大
〃	丸山　督弘	24	亜細亜大
〃	横井　信一	31	法政大
外野	茂木　靖弘	20	日大明誠高
〃	青山　准	25	日本大
〃	松沢　浩史	28	愛知学院大
〃	田中　秀樹	25	亜細亜大
〃	田島　英美	20	柳川高
〃	三井　興司	22	丸子実高

NTT北陸

監督	水野　三夫	44	高岡商高
投手	伊藤　雄二	22	名古屋学院大
〃	桜井　久之	19	静岡学園高
〃	赤羽根俊幸	24	明治大
〃	川越　光司	22	徳山大
〃	佐藤　渉	20	弘前工高
〃	中西　雅彦	24	帝京大
〃	作田　真人	18	金沢高
〃	比嘉　雄大	24	興南高
捕手	高橋　義晴	30	駒沢大
〃	奥野聖太郎	22	大阪学院大
〃	下野　博樹	31	福井工大
〃	坂田　大造	25	日体大
内野	川田　純康	23	奈良産大
〃	○梅沢　宏之	26	立正大
〃	祖泉　秀樹	27	高岡商高
〃	尾前　拓己	25	東海大
〃	不破　一紀	22	中京大
〃	籔内　啓志	27	亜細亜大
〃	大川　清	25	日体大
〃	井村　忠司	25	日体大
〃	平尾　健二	25	大商大
外野	広瀬　健一	26	東海大
〃	堺　一正	24	日体大
〃	野上　正人	19	小松明峰高
〃	川崎　博孝	21	多々良学園高
〃	東　哲也	19	高岡商高

関東自動車工業

監督	森　修司	40	関東学院大
投手	藤本　泰輔	24	今治西高
〃	比嘉　良人	22	浦添工高
〃	松浦　隆行	22	藤枝北高
〃	牧田　仁	20	高野山高
〃	南方　宏城	19	笠田高
〃	様　友陽	25	富山第一高
〃	中尾　仁	19	大淀高
〃	夏井　宏	19	沼津学園高
捕手	舟見　義広	24	北陸大谷高
〃	仲川　幸治	20	東海大工高
〃	坂本　一美	25	修善寺工高
内野	米丸圭一郎	26	吉原商高
〃	柿添　茂一	23	大阪学院大
〃	田中　康晶	25	静岡学園高
〃	高木　健次	30	愛知学院大
〃	三鬼　賢常	31	愛知学院大
〃	杉山　克巳	25	東海大工高
〃	矢田　久	25	法政大
〃	永田　智洋	20	日本学園高
外野	酒井　政広	24	日体大
〃	大森　重春	21	富士学苑高
〃	○山本　光則	27	沼津城北高
〃	市川　正巳	25	浜北西高

日通名古屋

監督	久富　隆	38	名古屋商大
投手	伊藤　修次	24	中京大
〃	前川　恭範	19	弥富高
〃	山田　洋	19	大垣工高
〃	広瀬　和宏	23	愛知学院大
〃	竹内　俊二	29	名古屋学院大
〃	金田　剛士	24	愛知工大
〃	藤沢　隆幸	25	関商工高
〃	結城　圭三	24	三島高
捕手	河野　貴二	23	名古屋商大
〃	○田中　学	27	愛知学院大
〃	山川　光浩	22	沖縄水産高
内野	井上　成人	22	大垣商高
〃	辻本　仁嗣	24	中京大
〃	関根　裕司	23	大宮東高
〃	川端　剛	21	岐阜南高
〃	中津　直司	27	愛知学院大
〃	青木　克至	29	三重高
〃	金田　大介	22	弥富高
〃	堀　孝司	20	杜若高
〃	永沼　修一	30	愛知工大
外野	野口　昌彦	23	福井工大
〃	石塚　知教	24	同朋大
〃	伊藤　達也	25	中京大
〃	中山　正広	24	愛知学院大
〃	鵜飼　昭延	23	愛知学院大
〃	村松　勉	28	名古屋商大
〃	勝田　寛	29	三重高

新日本製鐵名古屋

監督	小俣　哲雄	34	専修大
投手	保坂　彰茂	25	東洋大
〃	陣内　学	22	尼崎小田高
〃	森　健郎	19	三重海星高
〃	中世古真弥	21	伊勢工高
〃	大石　栄喜	19	金足農高
〃	岩崎　充宏	22	青山学院大
〃	古川　勝巳	22	千葉経大
〃	原田　芳記	28	名古屋商大
捕手	吉田　良一	23	東洋大
〃	日比野公彦	19	愛工大名電高
〃	岩坪　善政	19	藤蔭高
内野	真崎　秀樹	24	東洋大
〃	梅岡　理治	20	豊橋商高
〃	木村　則昭	29	能代市立商高
〃	田中　忠男	22	東洋大
〃	金谷　玫均	18	明野高
〃	梅屋　仁	21	東邦高
〃	喜多　崇	23	中央大
〃	杉山　孝一	29	岐阜南高
〃	○大溝　一精	29	八戸高
外野	福井　崇	19	大宮東高
〃	岡村　遵	18	高知商高
〃	田中　剛	23	西武台高
〃	竹内　茂雄	26	国士舘大
〃	竹脇　賢二	18	鹿児島実高
〃	西島　義之	24	明治大
〃	林　尚克	18	東邦高

日本IBM野洲

監督	鴨田　勝雄	53	法政大
投手	稲田　雅之	26	日体大
〃	林　賢志	27	明治大
〃	佐藤　忠士	21	大分工高
〃	芝　光夫	26	法政大
〃	藤原　義紀	23	龍谷大
〃	片桐　浩樹	23	日体大
〃	竹中　伸和	22	岡山東商高
〃	八木　泰史	24	法政大
〃	井戸　英裕	29	日野高
捕手	野中　藤吉	21	佐賀商高
〃	鈴木　一	26	駒沢大
〃	中西　美之	25	近畿大
内野	村上　努	25	駒沢大
〃	深水　康博	25	近畿大
〃	敷島　太一	26	明治大
〃	飯田　孝雄	31	法政大
〃	木戸　正佳	23	同志社大
〃	高田　裕之	24	日体大
〃	梅田　武志	19	天理高
〃	三松　英明	22	明徳義塾高
〃	○太田代慎也	27	駒沢大
〃	小松崎雄志	30	天理大
外野	西田　篤司	21	八幡商高
〃	徳嶺　一	25	九州共立大
〃	井上　博志	24	九州国際大
〃	田嶋　清隆	25	高知商高
〃	渕田　誠	30	近畿大
〃	藤原　良一	29	同志社大

日本生命

監督	井尻　陽久	39	東海大
投手	池添　修世	22	関西大
〃	赤沢　秀樹	26	神戸学院大
〃	徳久　崇浩	20	高知高
〃	新田　雄司	28	専修大
〃	岩本　利仁	27	立命館大
〃	杉浦　正則	23	同志社大
〃	土井　善和	22	東海大
〃	安達　博史	21	生野工高
〃	松江　一浩	23	東海大
捕手	○浅倉　伸吉	28	東海大
〃	岡　隆博	25	立命館大
〃	山上　和志	25	泉州高
〃	江上　光治	26	早稲田大
内野	大島　公一	24	法政大
〃	中村　昭徳	31	専修大
〃	十河　章浩	25	近畿大
〃	川瀬　世資	24	桜宮高
〃	野辺　義輝	22	日体大
〃	高橋　智尚	27	明治大
〃	中井　良治	27	明治大
〃	吉田　勉	22	創価大
〃	川村　祥一	26	福岡大
〃	佐藤　清	36	早稲田大
外野	梶田　茂生	23	筑波大
〃	中村　孝志	23	亜細亜大
〃	内匠　政博	24	近畿大
〃	守屋　公雄	29	早稲田大
〃	金谷　康成	23	関西大
〃	熊添　英樹	24	東海大
〃	中橋　伸幸	33	愛知学院大

大阪ガス

監督	更紗 忠海	36	志度商高
投手	中島 博幸	20	西日本短大付高
〃	坂本 健二	19	瀬戸内高
〃	川俣 浩明	20	藤沢商高
〃	古塚 良平	19	西宮東高
〃	寺坂 昌彦	19	天理高
〃	長野 哲也	30	大阪教育大
〃	成本 年秀	24	京都産大
〃	里田 太一	21	近大付高
〃	馬淵 一志	19	倉吉北高
〃	田代 圭二	23	伊丹北高
捕手	橋口 博一	25	慶応大
〃	新谷 一仁	25	京都商高
〃	上 和秀	31	市和歌山商高
〃	黒木 隆司	22	PL学園高
内野	○松田 竜二	28	近畿大
〃	西 正文	32	尼崎小田高
〃	杉山 栄司	28	浪商高
〃	大宅 保任	19	天理高
〃	宮元 正明	21	近大付高
〃	中西 亮介	24	興国高
〃	佐々木孝一	27	早稲田大
〃	竹村 誠	31	同志社大
外野	俣瀬 直樹	19	鹿児島実高
〃	上野 修平	19	熊本工高
〃	沢多 弘也	20	初芝高
〃	中内 章利	25	伊野商高
〃	植村 寛之	26	智弁学園高
〃	佐藤 健一	20	池田高
〃	折原 康伸	32	洲本高
〃	湯川 素哉	29	早稲田大

住友金属

監督	高多 倫正	38	慶応大
投手	黒木 卓	20	九州学院高
〃	小林 孝史	21	東海大三高
〃	石井 大士	18	和歌山工高
〃	山路 剛弘	18	箕島高
〃	尾山 敦	21	高岡商高
〃	田中 義宣	23	八千代松陰高
〃	森沢 洋水	23	安芸工高
〃	寺坂 友秀	24	笠田高
〃	横井 秀実	22	高島高
〃	高橋 修二	35	高知高
捕手	岩瀬 貴昭	19	高岡商高
〃	川渕 雄二	21	高知高
〃	樋野 徹	23	平田高
〃	玉置 剛	19	市和歌山商高
内野	三宅 秀二	26	東海大
〃	渡辺 浩至	22	奈良産大
〃	松本 尚樹	21	市和歌山商高
〃	山田 晃之	18	伊都高
〃	吉村 崇貴	19	高岡商高
〃	宮内 洋	19	宇部商高
〃	高津 淳	24	報徳学園高
〃	中田 等	31	同志社大
外野	中川 亨	23	早稲田大
〃	長 正人	20	報徳学園高
〃	川畑伸一郎	25	鹿児島商高
〃	中西 保友	21	箕島高
〃	後山 聡	19	高知高
〃	○家永 裕章	26	向陽高
〃	本川 忠義	19	大分鶴崎高
〃	戸田 佳克	25	早稲田大

川崎製鉄神戸

監督	真鍋 義之	38	神港学園高
投手	増田 治	22	南宇和高
〃	安原 由就	23	熊本工大
〃	安藤 隆	23	亜細亜大
〃	上田 行秀	19	智弁学園高
〃	寺本比呂文	19	甲佐高
〃	藤原 忠	22	大阪桐蔭高
〃	豊田 次郎	25	東洋大姫路高
〃	宮内 義則	29	鳴門工高
捕手	初田 幸広	26	尼崎工高
〃	大城 健	24	神港学園高
〃	桑田 泰昭	19	明石高
内野	奥野 政広	24	東洋大
〃	藤原 安弘	25	東海大山形高
〃	中山 薫	20	村野工高
〃	堀田 幸造	29	大経大
〃	金 潤熙	20	松山商高
〃	島本 裕	28	報徳学園高
〃	上村 真弘	31	田辺商高
外野	坂本 徹	21	松山商高
〃	○川中 哲也	29	尽誠学園高
〃	山本 聡	24	東洋大
〃	米田 幸司	22	御影工高
〃	三谷 慎一	21	尼崎北高
〃	村井 勝	23	御影工高
〃	久原 博喜	21	智弁学園高

三菱重工神戸

監督	川辺 邦好	39	育英高
投手	紙野 泰妃	19	市神港高
〃	後藤 利幸	21	鳥羽高
〃	門脇 太	23	近畿大
〃	逢坂慎二郎	19	舞子高
〃	井上 高行	23	明石高
〃	照本 智洋	19	仁川学院高
〃	木林 敏郎	20	藤井寺工高
〃	五十嵐英樹	23	東海大工高
捕手	森吉 庸隆	19	柳川高
〃	清水 稔	27	近畿大
〃	山崎 守雄	21	生野工高
〃	久保川義彦	23	高知商高
内野	山野 司	24	近畿大
〃	○堀口 雅司	27	東洋大
〃	永川 重明	24	岡山商大
〃	青田 勝則	28	市川高
〃	鎌谷 通弘	24	九州国際大
〃	大谷慎一郎	24	近畿大
〃	山口 敏弘	30	東洋大
外野	福島 輝郎	20	育英高
〃	福田 英彦	26	東北福祉大
〃	藤田 昌人	20	倉敷工高
〃	椎名 勇	20	湘南学園高
〃	浜本 和重	24	太成高
〃	秋山 洋満	22	松山商高

川崎製鉄水島

監督	浦名 恒平	35	慶応大
投手	大森 勝博	23	守口東高
〃	共田 貴行	20	育英高
〃	海老原 優	19	鹿児島高
〃	朝間 信	25	高野山高
〃	中山 博識	23	慶応大
〃	山原 和敏	22	玉野光南高
〃	岩尾 弘道	20	津山工高
〃	小谷 茂実	23	紀北工高
〃	山本 勲	31	専修大
捕手	中田 忠尚	29	東洋大
〃	岡田 智明	20	育英高
〃	小松 敬志	25	大阪経大
内野	神土 秀樹	34	倉敷工高
〃	尾崎 晃久	23	近畿大
〃	竹下 和敏	24	専修大
〃	吉川 斉	22	岡山理大付高
〃	加百 勝吾	24	岡山南高
〃	荒巻 英隆	20	柳川高
〃	吉松 孝司	23	法政大
〃	伊藤 幸治	28	東洋大
〃	後藤 剛	20	沖縄石川高
〃	藤原 崇順	23	筑波大
外野	福島 紀明	25	宇部商高
〃	金城 正人	20	読谷高
〃	○天早 敏浩	26	境高
〃	吉岡 悟	21	境高
〃	安原 健一	19	岡山理大付高
〃	岩切 浩志	24	奈良産大

N K K

監督	山内 明	43	盈進高
投手	古賀 雅裕	24	佐賀学園高
〃	鎌田 一人	25	秋田経法大付高
〃	船木 聖士	18	尾道商高
〃	塩山 康浩	26	熊本第一工高
〃	氏師 孝典	20	小松島西高
〃	田中 功	24	秋田経法大付高
〃	千田 正一	23	福岡工大
〃	森内 栄次	19	福山工高
〃	宮田 昌	18	誠之館高
〃	本田 雄士	18	城西高
捕手	大倉 孝一	29	駒沢大
〃	新開 雅之	19	小松島西高
〃	長江 敏男	25	池田高
〃	久門 正美	23	愛知学院大
内野	定岡 康彦	27	日本大
〃	宮下 正一	19	鹿児島実高
〃	古毛堂 剛	22	亜細亜大
〃	菊谷 哲次	22	近畿大
〃	斉藤 千春	19	鎮西高
〃	○村上 文敏	29	駒沢大
〃	岩野 好伸	31	東洋大
〃	西村 一	20	広陵高
〃	中田 光一	32	法政大
〃	渡部 一治	36	駒沢大
外野	佐藤 規正	20	近大福山高
〃	重東 俊吾	19	尾道商高
〃	石井 将一	20	八幡工高
〃	横山 智生	25	駒沢大
〃	今道 和樹	18	瓊浦高
〃	刈部 稔	29	古河一高

NTT四国

監督	景浦 隆男	31	中央大
投手	久利 周大	29	東洋大
〃	西川 慎一	26	大洲農高
〃	古谷 英士	19	高松南高
〃	石崎 崇仁	19	宇和島東高
〃	橋本 正英	22	大方商高
〃	西山 一宇	22	高知高
〃	山部 太	22	八幡浜工高
捕手	○武田 和高	28	明徳義塾高
〃	近藤 尚政	20	三島高
〃	芝 和彦	28	近畿大
内野	橋本 久	21	宇和島東高
〃	清岡 知己	19	城山高
〃	中村 包	23	近畿大
〃	丹下 真一	20	松山商高
〃	河野 浩三	27	駒沢大
〃	竹島 誠	30	九州東海大
〃	松本 秀敏	27	亜細亜大
〃	三好 利幸	29	北条高
〃	篠原 昭人	28	駒沢大
〃	柴田 要亮	21	宇和島東高
外野	大貝 恭史	20	鳴門高
〃	小松 永和	23	専修大
〃	能田 悦夫	27	亜細亜大

四国銀行

監督	森田 洋生	30	明治大
投手	仙石 雅人	26	帝京大
〃	浜田 孝伸	29	東邦大
〃	板垣 政史	26	中央大
〃	尾崎 文男	23	帝京大
〃	玉真 敬朗	22	専修大
捕手	末光 賢二	27	松山商科大
〃	南部 洋伸	24	専修大
内野	二宮 康高	23	大阪経大
〃	谷岡 秀一	29	亜細亜大
〃	町田 明謙	26	東海大
〃	池内 聡	28	専修大
〃	東谷 勝司	22	大東文化大
〃	阿部 義明	22	高知大
〃	森田 洋生	30	明治大
外野	○田中 靖秀	28	近畿大
〃	井上 幹也	30	愛知学院大
〃	宮本 雄二	29	神奈川大
〃	安部 学司	22	流通経大
〃	森 喬康	24	大阪経大
〃	森田 建司	27	明治大

新日本製鐵大分

監督	永野 隆雄	41	飯塚商高
投手	木須 広樹	19	筑陽学園高
〃	吉川 秀幸	18	東海大五高
〃	浅野 英樹	21	高知高
〃	大平 竜二	20	大分東高
〃	米田 祐二	20	千葉商大付高
〃	蔵納 修	25	佐伯豊南高
捕手	伊東 雅経	18	佐伯鶴城高
〃	穴井 英樹	20	豊国学園高
〃	○平川 隆	30	臼杵商高
〃	西原 裕樹	19	佐賀商高
内野	牧野 浩二	24	延岡工高
〃	姫野 健治	24	国学院大
〃	矢野 準一	21	別府商高
〃	沼本 伸二	18	勝山高
〃	柳田 正造	18	佐伯豊南高
〃	永元 克明	29	柳ケ浦高
〃	小屋 忠義	19	小倉商高
〃	梶原主基男	27	九州国際大
〃	前谷 義幸	29	柳ケ浦高
外野	都 昭也	21	喜界高
〃	清水 勝典	21	福岡第一高
〃	西岡 杉雄	20	天理高
〃	野口 康順	19	佐世保実高
〃	楠 利一	25	九州国際大付高

本田技研熊本

監督	深町 浩二	39	法政大
投手	玉城 誠	18	豊見城南高
〃	尾崎 定己	26	球磨農高
〃	山本 正幸	25	法政大
〃	吉野 定幸	23	東洋大
〃	中武 靖郎	25	九州東海大
〃	中原 耕造	23	青山学院大
〃	岩本 年矢	19	熊本工高
〃	山野 孝典	18	熊本工高
〃	内川 義久	37	法政大
捕手	渡辺 正健	22	明治大
〃	吉田 浩幸	24	津久見高
〃	中川 義彦	20	鳥栖高
〃	園田 末男	37	PL学園高
内野	江上 寛恭	24	九州産大
〃	松崎 圭介	18	柳ケ浦高
〃	浦野 智	21	鎮西高
〃	松本 康宏	25	東洋大
〃	岩崎 憲一	24	仙台大
〃	○山本 修二	27	九州東海大
〃	若林 寛	22	法政大
外野	河野幸四郎	26	都城商高
〃	坂本 佳久	22	東洋大
〃	福田 雄一	21	鎮西高
〃	内村 徹	26	熊本工高
〃	安藤 芳人	26	日田林工高

“旋風”に期待 —— 初出場2チーム

山陽国策パルプ旭川 新会社出発へ弾みの一勝を

関東自動車工業 野球部存続の危機乗り越え

初出場は山陽国策パルプ旭川(北海道)と関東自動車工業(東海)の2チーム。日本選手権や都市対抗の常連チームを破って晴れ舞台への出場権を得た。

山陽国策パルプ旭川は来春に十条製紙と合併、「日本製紙」になるため、今のチーム名で戦うのも今大会が最後。向峯監督は「15年間のすべてを出し尽くす。新会社の出発に弾みをつけるためにもぜひ1勝を」という。

会社の再出発に花を添える今回の出場に全社一丸となって燃えている。大会には十条製紙からも駆けつけ、一足先に応援団が“合併”する。

関東自動車工業は1975年に創部したが、翌年には部員が7人になるなど存続の危機を迎えたことも。昨年から自主練習に比重を置く方針に変えたことが奏功し、今回の初出場に。一回戦の相手は今大会最多出場で、5回の優勝を誇る住友金属。「ふだん練習でやっていることを思いっきりできれば、勝敗は関係ありません」(森監督)。この無欲さが、古豪には一番怖いはずだ。

第20回記念大会

1993年(平成5年)10月10日▶10月17日　グリーンスタジアム神戸

優勝＝住友金属 ――― (4年ぶり6回目)

投打ガッチリ、住金「頂点」

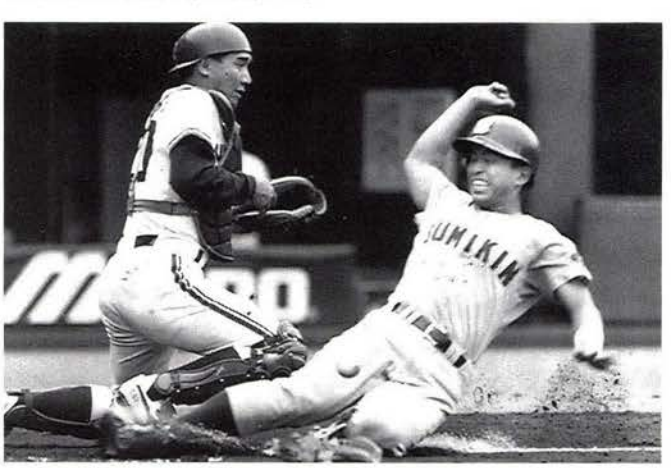
金属バットが登場して15年目の大会。採用以来「打高投低」傾向が強まり、大味な試合展開が目立っていた。しかし、今大会はコールドゲームが1試合だけ、本塁打数も前回より5本少ない27本。上位進出チームの特徴は安定した投手力を持ち、安打を連ねて試合の流れを引き込む「守り重視」の野球だった。

大会最多優勝記録を6回と更新した住友金属は右腕・尾山の力投が光った。5試合すべてに登板、優勝戦の完封を含め、4完投。フォーク、スライダーを軸に揺さぶる投球で防御率1.42。「技」で金属バットの威力を封じ込めた。打線も3割5分5厘のチーム打率で援護した。松本、川畑の全日本経験者がけん引車となり、バントや右狙いの進塁打を正確に決めて、得点力を高めた。投打のバランスの良さを基礎に、1年間を通じてチーム力を維持する努力が「秋に強い住金」の伝統を築いた。

日産自動車は北川、木寺の先発、川尻、一条の救援と投手のローテーションを確立し、初の優勝戦進出を果たした。北川が準々決勝で右腕に打球を受けて、優勝戦に登板できなかったのは誤算だが、5試合無失策の守備に支えられ、見事に守りの野球を展開した。ＮＴＴ東北も左腕、加藤の急成長が4強入の原動力になった。

今夏の都市対抗の優勝戦を争った日本石油、日本通運は明暗を分けた。ベスト4進出で面目を保った日本通運は難波、薮、井出、田中泰と続く上位打線の破壊力がすさまじかった。長打力だけでなく、準々決勝のＮＴＴ関西戦で1イニング8安打の大会タイ記録をマークするなど、振り切る打法は下位まで徹底されていた。一方、日本石油は投手陣の未整備が打線の大振りを招く悪循環で、2回戦で早々と姿を消した。西の雄として期待された日本生命も投打の歯車がかみ合わないまま敗退した。

初陣3チームは初戦敗退したが、内容は来季につながるものだった。ＪＡ岩手県経済連は日石相手に序盤をリード、ニチエーは日生を1安打に抑えてあわてさせ、三菱重工横浜もＮＴＴ東北に1点差まで詰め寄る健闘、熱戦譜に彩りを添えた。



〔優勝戦〕住友金属－日産自動車　六回裏住友金属二死二塁、中西の三遊間突破安打で、二塁から山田が還り6点目。(捕手・黒須)

大会審判

▷**委員長**＝米谷道雄 ▷**副委員長**＝山川脩司、大村一彦、三宅享次 ▷**幹事**＝竹中清二、岡本好二、津田浩嗣、片岡成夫、吉田龍男 ▷**委員**＝小林勉、大橋慶二、木嶋一黄、桃田晴彦、辻喜正、永田兼治、伊東登、大石泰、梶浦照樹、宮奥欣司、樫根清一、赤井淳二、上杉正、相沢孝行、野尻正博、山崎浩、南口正人、広沢渉、岡本良一、鹿多証道、浜田正二、生越芳明、榎田健一、東優孝、南垣勇、新卓定、北野雅行、岸井健、橘公政、長谷川文彦、美馬洋、中川雅夫、片山寄世史、宮本明、松村洋、井田保則、梅本吉徳、伏見文隆、北村泉、今井豊、梅田泰洋

▽10月10日

第1試合＝1回戦(午後0時8分開始)

日立製作所	000	103	011	6
新日鉄広畑	000	001	100	2

▶審判(球審)大橋(塁審)赤井、宮木、浜田

【日立製作所】		打	安	点	振	球
⑦	徳原	4	3	2	0	0
⑥	加藤	5	2	1	0	0
⑧	諸積	4	1	0	2	1
③	金城	5	1	0	4	0
⑤	恒吉	5	3	1	0	0
D	秋元	5	3	1	0	0
⑨	和久井	4	2	1	1	1
④	天川	4	1	0	1	0
②	松本	4	1	0	0	0
犠併残	1 0 10	40	17	6	8	2

【新日鉄広畑】		打	安	点	振	球
⑨	空木	3	0	0	0	1
⑤4	大墨	4	2	0	0	0
⑧	杉本	4	0	0	1	0
D	砂田	4	2	1	1	0
③	今村	3	0	0	2	1
⑦	原田	4	0	0	0	0
②	的山	3	0	0	2	0
⑥	大久保	4	1	0	1	0
④	住吉	2	0	0	1	0
H	久保	1	1	1	0	0
5	浜崎	1	0	0	0	0
犠併残	1 1 7	33	6	2	8	2

	回	安	振	球	責
斎藤	7	6	7	2	2
俵	2	0	1	0	0
薮田	4	7	4	0	1
足達	5	10	4	2	5

▷本塁打＝恒吉1号(足達)砂田1号(斎藤)▷二塁打＝恒吉、和久井、大墨、大久保、久保▷犠打＝日1(徳原)新1(的山)▷盗塁＝日1(諸積)▷暴投＝薮田▷試合時間＝2時間47分

第2試合＝1回戦(午後3時31分開始)

三菱重工長崎	200	032	101	9
NTT四国	001	000	030	4

▶審判(球審)東(塁審)榎田、南口、桃田(外審)長谷川、北野

【三菱長崎】		打	安	点	振	球
⑧	村上竜	5	5	2	0	1
⑤	森	3	1	0	1	0
④	村上和	2	0	0	0	3
⑦	小島	2	0	1	2	3
③	原田	5	3	4	1	0
R	米倉	0	0	0	0	0
3	洲加本	0	0	0	0	0
⑥	吉村	5	2	0	2	0
D	稲森	2	0	0	2	0
HD	柴田	3	1	1	0	0
②	大久保	5	1	0	1	0
⑨	吉元	5	1	0	1	0
犠併残	5 2 13	37	14	8	10	7

【NTT四国】		打	安	点	振	球
⑧	大貝	4	3	1	0	0
⑤	松本	2	1	1	0	1
②	芝	4	1	0	1	0
③	三好	4	0	0	1	0
D	柴田	4	1	0	2	0
④	橋本久	4	0	1	1	0
⑥	竹島	4	0	0	0	0
⑨	能田	4	3	0	0	0
⑦	丹下	1	0	0	0	1
H	武田	1	0	0	0	0
犠併残	3 0 6	32	9	3	5	2

	回	安	振	球	責
中川	7	5	4	2	1
後藤	2	4	1	0	1
西川	4⅔	7	7	3	5
山部	3⅓	5	2	3	1
石崎	1	2	1	1	1

▷本塁打＝村上竜1号(石崎)▷三塁打＝大貝▷二塁打＝大貝、松本▷犠打飛＝三5(森3、村上和、小島)N3(大貝、松本、丹下)▷盗塁＝三2(村上竜、村上和)N4(大貝、芝、三好、能田)▷失策＝三1(吉村)N2(芝、山部)▷暴投＝西川▷試合時間＝3時間3分

痛打され言葉少な

㊗…今大会屈指の左腕と注目を集めたNTT四国山部は二番手として五回途中から登板、3回1/3を投げたが5安打、3失点とさんざんの出来。課題の制球を気にするあまり、フォームが小さくなり、速球投手の面影はなかった。今秋のドラフト上位指名候補だけに、試合後のインタビューも進路に質問が集中。「今年は春から行く気でいました」とプロ入りに意欲をみせたが、「でもこんな投球では大きなことは言えません」と言葉少な。

第3試合＝1回戦(午後7時8分開始)

たくぎん	021	000	000	3
住友金属	300	140	00X	8

▶審判(球審)木嶋(塁審)梅田、橘、辻(外審)北野、長谷川

【たくぎん】		打	安	点	振	球
⑧	小泉	5	1	0	1	0
⑥	岩田	4	2	0	1	0
④	狐塚	4	2	0	0	0
⑤	田中	4	0	0	2	0
⑦	横山	3	1	0	1	1
③	大間	4	1	1	0	0
D	山上	3	0	0	1	0
HD	高橋	1	0	0	0	0
②	前川	3	0	0	1	0
H	河田	1	0	0	0	0
⑨	知念	4	1	2	0	0
犠併残	0 0 7	36	8	3	7	1

【住友金属】		打	安	点	振	球
⑧	後山	5	3	1	0	0
⑤	青木	4	2	1	1	0
④	松本	4	2	2	1	0
③	川畑	4	1	1	1	0
⑥	三宅	4	2	1	0	1
D	宮内	2	1	0	1	0
HD	川渕	2	0	0	0	0
⑦	中西	4	2	0	2	0
⑨	戸田	3	1	1	1	1
②	樋野	4	0	0	1	0
犠併残	3 0 9	36	14	7	8	2

	回	安	振	球	責
藤原	⅓	4	0	0	3
萩原	4	6	3	2	3
本田	3⅔	4	5	0	0
尾山	9	8	7	1	1

▷二塁打＝松本、知念、川畑、後山、狐塚、中西▷犠打飛＝住3(青木、松本、川畑)▷盗塁＝住1(戸田)▷失策＝た2(岩田、田中)住1(三宅)▷試合時間＝2時間49分

▽10月11日

第1試合＝1回戦(午前8時52分開始)

新日鉄名古屋	1	0	0	0	0	0	0	1
日本通運	1	4	0	0	2	2	2	11

▶審判(球審)赤井(塁審)樫根、野尻、桃田

【新日鉄名古屋】		打	安	点	振	球
⑧	西島	3	2	0	0	1
④	田中忠	2	1	0	1	0
⑨	林	3	0	0	1	0
③	杉山	3	2	1	1	0
⑤	喜多	3	1	0	0	0
D	三宅	3	1	0	0	0
⑦	真崎	2	0	0	2	0
H7	竹脇	1	1	0	0	0
⑥	梅屋	2	0	0	0	0
H6	梅岡	0	0	0	0	1
②	日比野	3	0	0	3	0
犠併残	1 0 6	25	8	1	8	2

【日本通運】		打	安	点	振	球
D	難波	4	3	1	1	1
⑥	薮	2	1	2	0	1
⑧	井出	2	1	3	1	2
⑨	田中泰	3	2	1	0	1
⑦	中田	2	0	0	2	2
⑤	田中敏	3	1	0	2	0
③	安	0	0	0	0	0
3	松尾	1	0	0	0	0
H3	中村	2	1	1	0	0
②	川崎	4	1	1	1	0
④	島田	1	0	0	0	0
H4	宮下	2	0	0	1	0
犠併残	5 1 7	26	11	9	8	7

	回	安	振	球	責
原田	1⅓	5	1	3	4
保坂	4	3	5	2	4
岩崎	1⅓	3	2	2	2
橋本	7	8	8	2	1

▷本塁打＝井出1号③(原田)田中泰1号(保坂)▷三塁打＝難波、薮▷二塁打＝難波▷犠打飛＝新1(田中忠)日5(薮2、田中敏、中村、宮下)▷盗塁＝日1(田中泰)▷失策＝新1(田中忠)日2(島田、宮下)▷暴投＝岩崎▽ボーク＝保坂▷試合時間＝2時間41分

第2試合＝1回戦(午後0時4分開始)

JA岩手県経済連	100	000	120	4
日本石油	000	050	30X	8

▶審判(球審)梅田(塁審)岡本良、梶浦、永田

【岩手県経済連】		打	安	点	振	球
D	小山田	2	0	0	0	1
H	星	0	0	0	0	1
RD	藤原	0	0	0	0	0
⑤	奥堂	1	0	0	0	1
H5	新田	1	0	0	0	0
④	熊谷	3	3	3	0	1
⑧	小守	4	0	0	1	0
⑨	佐藤広	4	0	0	0	0
9	佐藤匡	0	0	0	0	0
③	久保	4	1	0	0	0
⑦	鈴木	4	0	0	1	0
②	上平	3	1	0	0	0
2	宮川	0	0	0	0	0
H	米倉	1	0	0	0	0
⑥	藤倉	3	0	0	0	0
犠併残	1 0 4	30	5	3	2	4

【日本石油】		打	安	点	振	球
⑨	高林	4	0	1	1	1
④	平田	3	1	2	0	1
4	木下	0	0	0	0	0
⑧	坂口	1	0	1	0	2
⑤	若林	4	2	0	1	0
②	大久保	4	1	0	0	0
③	徳永	4	1	3	0	0
D	相田	4	2	0	1	0
⑥	伊藤	3	1	0	0	0
⑦	佐野	3	0	0	1	1
犠併残	2 1 5	30	8	7	4	5

	回	安	振	球	責
佐竹	6⅔	8	4	5	6
細越	1⅓	0	0	0	0
春田	9	5	2	4	3

▷本塁打＝徳永1号③(佐竹)熊谷1号②(春田)▷二塁打＝熊谷、平田、若林▷犠打＝J1(奥堂)日2(坂口、伊藤)▷盗塁＝日2(平田、坂口)▷失策＝J1(上平)日1(春田)▷試合時間＝2時間9分

日石5回に一挙逆転

㊗…1点を追う日本石油は五回、無死満塁から四球と平田の右翼線二塁打、犠飛などで5点を挙げて逆転。七回には徳永が左翼席上段に3ラン。JA岩手県経済連は一回、熊谷の二塁打で先制、八回には熊谷の右越え2ランで追い上げたが、春田をとらえきれなかった。

第3試合＝1回戦(午後2時50分開始)

三菱重工横浜	000	001	020	3
NTT東北	100	002	10X	4

▶審判(球審)小林(塁審)伊東、山崎、井田

【三菱横浜】		打	安	点	振	球
⑨	橘原	4	1	0	1	0
⑧	山崎	4	2	0	1	0
②	斉藤	3	1	1	2	0
D	細谷	3	0	0	1	1
⑥	松下	3	1	0	0	1
③	塩沢	4	0	0	2	0
⑤	加藤	4	0	0	0	0
④	野崎	4	1	0	0	0
⑦	逆井	0	0	0	0	0
7	菅沼	3	1	0	1	0
犠併残	1 1 5	32	7	1	8	2

【NTT東北】		打	安	点	振	球
⑨	夷塚	4	2	0	0	0
④	福地	2	0	0	0	0
③	三瓶	4	0	0	0	0
⑦	藤木	3	2	2	0	1
⑤	阿部	2	1	1	0	0
D	大塚	3	0	0	0	0
⑧	戸羽	3	1	1	0	0
②	猪狩	3	0	0	0	0
⑥	柿久保	3	0	0	0	0
犠併残	3 1 3	27	6	4	0	1

	回	安	振	球	責
石井	8	6	0	1	2
加藤	7⅔	7	7	1	3
越田	1⅓	0	1	1	0

▷本塁打＝戸羽1号(石井)▷三塁打＝菅沼、藤木▷犠打飛＝三1(斉藤)N3(福地2、阿部)▷失策＝三1(松下)▷暴投＝加藤、越田▷試合時間＝2時間14分

第4試合＝1回戦(午後5時40分開始)

ニチエー	000	000	010	1
日本生命	001	100	00X	2

▶審判(球審)吉田(塁審)東、松村、片山(外審)南垣、岸井

【ニチエー】		打	安	点	振	球
⑧	冨樫	4	2	0	0	0
⑥	鈴木	3	1	0	2	0
D	重山	3	0	1	1	1
⑨	渡辺	4	0	0	1	0
③	橋田	4	1	0	0	0
⑦	望月	4	0	0	1	0
②	近藤	4	1	0	0	0
⑤	木内	3	1	0	0	0
④	飯泉	3	1	0	1	0
犠併残	0 0 6	32	7	1	6	1

【日本生命】		打	安	点	振	球
⑨	金谷	3	0	1	0	0
⑧	梶田	4	0	0	0	0
⑥	十河章	3	0	0	0	1
③	川村	4	0	0	0	0
⑦	高橋	3	0	0	1	0
H	吉田	1	0	0	1	0
R7	守屋	0	0	0	0	0
D	中村孝	2	1	0	0	2
②	岡	3	0	0	0	1
④	中村昭	0	0	0	0	1
R4	野辺	1	0	0	0	2
⑤	小林	1	0	1	0	2
犠併残	1 1 9	25	1	2	2	9

	回	安	振	球	責
高山	7	1	1	9	2
三富	1	0	1	0	0
土井	9	7	6	1	1

▷犠打飛＝日1(金谷)▷盗塁＝二1(冨樫)日4(十河章、中村孝2、小林)▷失策＝二1(望月)日1(岡)▷暴投＝高山▽ボーク＝高山、三富▷捕逸＝近藤2▷打撃妨害出塁者＝鈴木▷試合時間＝2時間43分

負けても“勝者の弁”

㊗…9四死球を与えながら日本生命打線を七回まで1安打、2失点に抑えたニチエー・高山は「四死球が多いのはコースを粘り強くついた結果。満足のいく投球です」と惜敗にも晴れやかな表情。「チームにとっても、ぼく自身にとっても来季につながるゲームができた。負けてもうれしい」と笑みがこぼれっ放しだった。

応援団コンテストも住友金属が最優秀賞

見事な演技を披露する住友金属のチアリーダー。

第20回大会を記念して今年から応援団コンテストが始まり、五回終了後のグラウンドの整備時間を利用してチアリーダーたちがバックネット前で演技。審査員の投票の結果、住友金属＝写真＝が最優秀賞を獲得したほか、次の応援団が「三賞」に入った。

▷チームワーク賞　日本生命▷ユニーク賞　ヤマハ▷はつらつ賞　日本通運

▽10月12日

第1試合＝1回戦(午前8時57分開始)

ＮＴＴ九州	0	0	0	0	0	0	0	1	1
日産自動車	2	0	0	1	0	4	X		7

▶審判(球審)生越(塁審)梅田、中川、伏見

【ＮＴＴ九州】打安点振球
⑨ 角 2 0 0 0 2
⑤ 三浦 1 0 0 0 0
52荒武 1 1 0 0 1
③5嶋川 4 1 0 0 0
⑥ 佐藤 4 0 0 1 0
⑦ 嶋谷 2 0 0 2 0
Ｈ 木下 1 0 0 0 0
7 橘木 1 1 1 0 0
④ 井手 4 0 0 1 0
Ｄ 北郷 3 1 0 1 0
② 久藤 2 0 0 1 0
Ｈ 宅間 1 0 0 0 0
3 奥村寿 0 0 0 0 0
⑧ 中原 2 0 0 0 1
犠 併 残
1 0 5 28 4 1 6 4

【日産自動車】打安点振球
Ｄ 日置 3 1 0 2 1
ＲＤ安本 0 0 0 0 0
ＨＤ雲宝 1 1 1 0 0
ＲＤ早川 0 0 0 0 0
⑦ 青柳 5 0 0 0 0
⑨ 竹内 3 0 0 0 1
③ 上島 4 2 2 0 0
② 黒須 4 2 0 0 0
⑧ 井上 0 0 0 0 0
8 渡辺敦 3 1 1 0 0
⑤ 渡辺等 4 2 1 1 0
⑥ 天瀬 4 2 1 1 0
④ 大平 4 2 1 0 0
犠 併 残
1 2 7 35 1 3 7 4 2

回 安振球責
奥村高 4⅓ 4 3 1 2
野村 1⅔ 2 1 1 1
海老名 1 1 0 0 0
山村 1 6 0 0 4

回 安振球責
北川 9 4 6 4 1

▷本塁打＝上島1号(奥村高)②▷二塁打＝渡辺等▷犠打＝N1(三浦)日1(渡辺敦)▷盗塁＝日1(日置)▷失策＝N1(嶋谷)▷試合時間＝2時間38分

第2試合＝1回戦(午後0時11分開始)

川崎製鉄神戸	0	0	0	0	0	0	0		0
ヤ マ ハ	0	0	0	1	0	0	1	X	2

▶審判(球審)上杉(塁審)美馬、北村、梅本

【川鉄神戸】打安点振球
⑥ 堀田 3 0 0 0 1
④ 島本 4 2 0 0 0
2 初田 0 0 0 0 0
⑧ 山本 3 0 0 1 1
⑨ 金 3 2 0 0 1
⑦ 米田 4 0 0 0 0
Ｄ 久原 4 2 0 0 0
⑤ 奥野 4 0 0 1 0
③ 川中 3 0 0 2 0
3 藤原安 1 0 0 1 0
② 大城 1 0 0 0 1
Ｈ4上四元 1 1 0 0 0
犠 併 残
0 2 8 31 7 0 5 4

【ヤマハ】打安点振球
⑧ 松田 4 2 0 1 0
⑨ 寺田 3 1 0 0 0
⑤ 山路 4 1 0 0 0
Ｒ5吉田 0 0 0 0 0
③ 小川 2 1 0 1 2
Ｄ 桑原 3 0 0 1 0
Ｈ 後藤 1 0 1 0 0
ＲＤ右島 0 0 0 0 0
⑥ 渋谷 4 1 0 0 0
⑦ 野沢 3 1 1 1 0
④ 佐藤修 3 1 0 1 0
② 飛弾野 3 0 0 1 0
犠 併 残
1 1 7 30 8 2 6 2

回 安振球責
豊田 8 8 6 2 2

回 安振球責
田中 9 7 5 4 0

▷二塁打＝島本、金、野沢、久原▷犠打＝ヤ1(寺田)▷盗塁＝川1(山本)ヤ2(寺田、山路)▷失策＝川1(島本)▷試合時間＝2時間26分

第3試合＝1回戦(午後3時12分開始)

大昭和製紙北海道	0	2	0	0	0	0	3	1	1	0	1	8
四 国 銀 行	0	1	0	3	0	1	0	0	1	1	0	7

▶審判(球審)伊東(塁審)南口、南垣、今井(外審)長谷川、橋

【大昭和製紙】打安点振球
⑥ 富永 4 1 0 1 0
Ｈ8道原 3 3 2 0 0
⑦ 渡 4 0 0 0 1
7 日下 2 1 1 0 0
④ 高木 4 0 1 2 2
⑤ 酒井 6 1 0 2 1
Ｄ 佐藤 6 1 0 4 1
③ 山本 5 2 0 0 1
⑨ 小林 4 3 1 0 2
② 望月 3 1 2 1 2
⑧ 若松 2 0 0 1 1
Ｈ 斉藤 0 0 0 0 1
6 渡辺 2 1 0 0 0
犠 併 残
2 2 15 45 14 7 11 12

【四国銀行】打安点振球
⑥ 亀井 5 1 1 0 1
④ 谷岡 6 1 0 0 0
② 南部 5 1 0 0 0
2 吉田 1 0 0 0 0
⑨ 森田建 5 1 1 2 1
⑧ 田中 4 3 0 0 0
Ｒ8東谷 2 0 0 1 0
③ 安部 4 0 0 2 2
Ｄ 池内 6 3 0 1 0
ＲＤ二宮 0 0 0 0 0
⑦ 森 6 3 5 0 0
⑤ 町田 5 2 0 0 0
犠 併 残
0 1 10 49 15 7 6 4

回 安振球責
桐木 4⅔ 7 2 3 4
渡部 8 8 4 1 2

回 安振球責
板垣 7 6 7 7 2
大西 2⅔ 4 2 4 5
尾崎 3 4 2 1 1

▷本塁打＝森1号③(桐木)▷二塁打＝亀井、小林、道原▷犠打＝大2(高木、望月)▷盗塁＝大4(富永、渡、高木、渡辺)▷失策＝大2(道原、桐木)▷暴投＝大西3▷試合時間＝3時間47分

乱戦、大昭和北海道が制す

◎…今大会初の延長は計29安打、25残塁の乱戦。同点で迎えた十二回、大昭和製紙北海道は一死後、道原が右翼線二塁打。日下の中前打で一、三塁とし高木の投前スクイズで決勝点を挙げた。再三の好機を粗い攻めと走塁ミスを重ねて決定的なリードを奪えず、もつれた。

四国銀行は四回、森のバックスクリーンへの3点本塁打などで一時は逆転、終盤も驚異的な粘りをみせたが最後に力尽きた。

▽10月13日

第1試合＝2回戦(午前8時55分開始)

日立製作所	0	1	0	0	1	0	0	0	2
川崎製鉄水島	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)岡本▷塁審＝野尻、山崎、生越

【日立製作所】打安点振球
⑦ 徳原 4 2 0 1 0
⑥ 加藤 4 1 0 0 0
⑧ 諸積 4 2 0 0 0
③ 金城 4 0 0 2 0
⑤ 恒吉 4 2 0 0 0
Ｄ 秋元 3 0 0 1 0
ＨＤ清水 3 1 0 0 0
⑨ 和久井 4 1 1 1 0
④ 天川 3 1 1 0 0
② 松本 3 0 0 0 0
犠 併 残
0 0 5 34 9 2 5 0

【川鉄水島】打安点振球
Ｄ 岩切 4 0 0 0 0
④ 尾崎 2 2 0 0 1
Ｈ56伊藤 4 2 2 0 0
⑨ 小松 4 0 0 2 0
③ 原 3 1 0 1 0
5 4 竹下 3 3 0 0 0
⑦ 天中 3 2 0 0 0
⑧ 吉吉 3 0 0 1 0
⑥ 吉川 2 0 0 1 0
Ｈ5加百 1 0 0 1 0
犠 併 残
0 0 3 30 3 0 8 0

回 安振球責
大塚 7 3 4 0 0
斎藤 2 0 4 0 0

回 安振球責
朝間 9 9 5 0 2

▷本塁打＝天川1号(朝間)▷二塁打＝恒吉、藤原▷盗塁＝日3(諸積2、和久井)▷失策＝川1(中田)▷試合時間＝1時間58分

第2試合＝2回戦(午前11時30分開始)

三菱重工長崎	0	0	0	0	4	0	0	0	4
住友金属	1	1	0	0	3	2	4	0	X	11

▶審判(球審)中川(塁審)上杉、井田、北村

【三菱重長崎】打安点振球
④ 村上和 3 0 0 0 1
⑤ 森 2 0 0 0 0
Ｈ 貝塚 1 1 2 0 0
3 洲加本 1 0 0 0 0
⑧ 村上竜 4 2 1 0 0
⑦ 小島 4 3 2 1 0 1
③5原田 4 0 0 0 0 0
⑥ 吉村 3 2 0 0 0 0
6 山崎 0 0 0 0 0 0
Ｈ 下園 1 0 0 1 0
Ｄ 工藤 3 0 0 1 0
ＨＤ柴田 1 1 0 0 0
② 園田 1 0 0 0 0
Ｈ 布志木 1 0 0 0 0
2 大久保 1 0 0 0 0
Ｈ 稲森 1 1 0 0 0
⑨ 吉元 4 2 0 0 0
犠 併 残
0 2 5 34 11 4 2 2

【住友金属】打安点振球
⑧ 後山 3 0 1 0 3
⑤ 青木 4 2 1 0 0
④ 松本 5 3 2 0 0
③ 川畑 4 3 1 0 0
⑥ 三宅 4 1 0 2 1
Ｄ 宮内 3 1 0 1 0
ＲＤ田中厳 0 0 0 0 0
ＨＤ山田 2 2 3 0 0
⑦ 中西 4 1 1 0 1
⑨ 戸田 2 1 0 0 2
Ｈ9家永 1 0 0 1 0
② 樋野 2 1 1 0 1
犠 併 残
4 2 11 34 15 10 4 8

回 安振球責
上園 2 2 0 4 2
中島剛 2⅔ 4 0 2 2
関 ⅓ 1 2 0 1
後藤 2⅔ 5 0 2 4
牧瀬 ⅔ 3 1 0 2
中川 1 0 1 0 0

回 安振球責
尾山 9 11 2 2 4

▷三塁打＝貝塚、小島▷二塁打＝村上竜、川畑、青木2、三宅、山田2▷犠打飛＝住4(青木、川畑、樋野2)▷盗塁＝住1(戸田)▷暴投＝尾山、関▷試合時間＝2時間35分

大舞台で素質開花

◎…六回に代打で登場した住友金属の山田が2二塁打3打点の大活躍。「無我夢中で打ったのがよかった。公式戦で1試合長打2本は初めて。最高の気分です」。入社2年目の20歳。伊都高(和歌山)時代から注目されていた素質が大舞台で開花した。四田監督も「スイングの力強さはだれもが認める将来の主軸」と満足顔だった。

第3試合＝2回戦(午後2時35分開始)

日本通運	0	0	1	0	1	2	0	0	2	6
ＮＴＴ北陸	0	0	0	0	0	0	0	1		1

▶審判(球審)辻(塁審)梅本、今井、松村(外審)樫田、北野

【日本通運】打安点振球
Ｄ 難波 5 1 0 1 0
⑥ 薮 4 1 0 1 1
⑧ 井出 5 3 4 1 0
⑨ 田中泰 4 0 0 1 1
⑦ 中田 3 3 0 0 0
③ 安 3 0 0 0 1
3 中村 3 0 0 1 0
⑤ 田中敏 4 0 0 1 0
② 川崎 4 2 2 0 0
④ 宮下 4 1 0 1 0
犠 併 残
1 3 7 36 11 6 7 3

【ＮＴＴ北陸】打安点振球
⑧ 堺 4 2 0 0 0
Ｄ 野上 4 1 0 0 0
④ 祖泉 4 1 0 0 0
⑤ 平尾 4 0 1 0 2
⑤ 大川 3 1 0 0 1
⑨ 広瀬 3 0 0 1 1
⑦ 川田 2 1 0 0 1
Ｈ7東 0 0 0 0 0
Ｈ 不破 1 0 0 0 1
⑥ 尾前 3 0 0 0 1
② 高橋 2 0 0 1 1
犠 併 残
1 1 6 31 5 1 6 2

回 安振球責
黒川 9 5 6 2 1

回 安振球責
伊藤 8⅓ 10 7 3 6
赤羽根 ⅔ 1 0 0 0

▷本塁打＝川崎(日)1、2号(伊藤)井出2号②(伊藤)▷二塁打＝堺、中田2、祖泉▷犠打＝日1(薮)N1(大川)▷盗塁＝日1(井出)▷失策＝日3(田中敏2、中村)▷暴投＝黒川▷捕逸＝川崎(日)▷試合時間＝2時間21分

第4試合＝2回戦(午後5時33分開始)

ＮＴＴ関西	1	4	0	0	0	0	0	0	5
日本石油	0	0	0	0	1	0	0	0	1

▶審判(球審)鹿多(塁審)新卓、片山、橋(外審)北野、樫田

【ＮＴＴ関西】打安点振球
⑦ 羽生 4 1 0 1 0
⑧ 林 3 0 1 1 0
⑨ 新宅 4 1 2 1 0
⑤ 山大田 3 0 0 1 1
③ 井沢 4 1 0 0 0
Ｄ 竹山崎 2 2 0 0 0
ＨＤ丸西 4 2 0 0 0
⑥ 戌安 4 2 0 0 0
② 大原 4 1 1 1 0
犠 併 残
2 1 4 33 7 4 8 1

【日本石油】打安点振球
⑨ 高林 4 1 1 1 0
④ 平田 3 0 0 0 1
Ｒ 木下 0 0 0 0 0
⑧ 坂口 4 0 0 1 0
⑤ 若林 2 0 0 0 1
② 大久保 3 0 0 2 0
③ 徳永 3 0 0 1 0
Ｄ 相田 3 1 0 1 0
⑥ 伊藤 3 1 0 0 0
⑦ 佐野 2 0 0 0 0
Ｈ 和嶋 1 0 0 1 0
犠 併 残
0 0 2 28 3 1 7 2

回 安振球責
前田 9 3 7 2 1

回 安振球責
松嶋 1⅓ 5 3 1 4
増永 ⅔ 0 1 0 0
野村 7 2 4 0 0

▷本塁打＝高林1号(前田)▷二塁打＝新宅▷犠打＝N2(安西、林)▷盗塁＝N1(林)日1(若林)▷失策＝日3(伊藤、松嶋、大久保)▷試合時間＝2時間11分

会心、攻めの投球

◎…都市対抗優勝チームを相手に完投勝利を飾ったNTT関西の前田に「ナイスピッチング」とナインから次々声がかかった。「怖いですよ。並の振りじゃあないですから」。何度も日石打線に対する怖さを口にした。試合前は「七回で終わってしまうのでは(コールド負け)」と思ったそうだが、内角を速球でつき、追い込んだらフォークで仕留める攻めのピッチング。二回は五番大久保以下を3者連続奪三振にとった。六回、先頭の伊藤に左前打を許すまで、許した走者は四球の1人だけ。

社会人2年目。今年の都市対抗で大阪市・中山製鋼に補強され、東京ドームで先発したのが自信に。「思い切り投げようとした。真っすぐを信じてよかった」と、会心の投球を振り返った。

▽10月14日

第1試合＝2回戦(午前8時55分開始)

ＮＴＴ東北	1	0	3	0	2	1	0	1	0	8
新日本製鉄光	1	0	3	0	1	1	0	0	0	6

▶審判(球審)赤井(塁審)広沢、野尻、鹿多

【ＮＴＴ東北】打安点振球
⑨ 夷塚 3 1 0 0 1
④ 佐藤 4 2 1 0 0
③ 三瓶 5 3 2 0 0
⑦ 藤木 5 2 3 1 0
⑤ 阿部 3 1 0 1 2
Ｄ 大戸塚 4 2 1 0 0
⑧ 戸羽 5 0 0 1 0
② 猪狩 4 0 0 2 1
⑥ 柿久保 3 0 0 1 1
犠 併 残
3 1 9 36 11 7 6 5

【新日鉄光】打安点振球
⑥ 高村 4 2 1 0 1
④ 岩本 4 1 0 1 1
③ 浜口 6 4 0 0 0
⑧ 浜竹 5 2 2 1 0
⑦ 最上 4 1 0 0 0
⑤ 鳥羽 4 0 1 1 1
Ｄ 松本 5 2 0 1 0
ＲＤ島崎 0 0 0 0 0
② 東方 3 2 2 0 2
⑨ 貞元 4 1 0 1 1
犠 併 残
3 0 17 37 14 6 4 10

回 安振球責
河村 3 5 2 3 3
大倉 2⅔ 5 2 5 2
越田 3⅓ 4 0 2 0

回 安振球責
土井 7⅔ 11 4 4 4
一倉 1⅓ 0 2 1 0

▷本塁打＝藤木1号(土井)▷二塁打＝藤木、佐藤▷犠打飛＝N3(夷塚、佐藤、大塚)新3(高村、岩本、最上)▷盗塁＝N3(夷塚、三瓶、高村)新2(岩本、大塚)▷失策＝N1(河村)新4(浜口、鳥羽2、東方)▷試合時間＝3時間23分

第2試合＝2回戦(午後0時55分開始)

河合楽器	0	0	2	0	0	0	0	8	0	10
日本生命	1	0	0	0	0	0	1	0		2

▶審判(球審)大橋(塁審)浜田、伏見、岸井

【河合楽器】打安点振球
⑦ 田原 5 2 0 2 0
⑧ 中達 4 2 2 0 0
⑨ 長谷部 5 3 0 2 0
⑤ 鈴木 5 3 0 0 2
⑥ 清水 5 2 5 2 1
③ 吉村 5 3 1 1 0
④ 尾上 5 2 0 0 1
Ｄ 佐藤 5 2 0 0 1
ＨＤ盛 3 1 0 1 0
② 森田 4 1 2 1 0
犠 併 残
2 1 6 39 15 9 5 2

【日本生命】打安点振球
⑨ 金谷 5 1 0 0 0
⑧ 梶田 4 1 1 0 0
⑥ 十河章 3 1 2 0 0
③ 川村 3 1 0 1 1
⑦ 高橋 3 2 0 0 1
Ｄ 川瀬 1 0 0 0 1
ＨＤ中村孝 1 0 1 0 0
② 岡 3 0 0 1 0
Ｈ 守屋 1 0 0 0 1
2 十河正 0 0 0 0 0
④ 中村昭 0 0 0 0 1
Ｈ4野辺 3 2 0 0 0
⑤ 小林 2 0 0 0 1
Ｈ 天野 1 0 0 1 0
犠 併 残
1 2 8 30 6 2 4 6

回 安振球責
野末 9 6 4 6 2

回 安振球責
土井 5⅔ 5 4 1 2
杉浦 1⅔ 5 0 1 2
池添 1⅔ 5 1 0 1

▷本塁打＝梶田1号(野末)長谷部1号②(土井)▷二塁打＝田原、尾上、長谷部、森田▷犠打飛＝河2(中達、盛)日1(中村孝)▷盗塁＝日2(中村昭、小林)▷失策＝日2(川村、杉浦)▷試合時間＝3時間

第3試合＝2回戦(午後4時33分開始)

日産自動車	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
ヤ　マ　ハ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

▶審判(球審)樫根(塁審)岡本、美馬、長谷川(外審)新阜、生越

【日産自動車】打安点振球
D 日　置 3 0 0 0 0
HD石　田 1 0 0 1 0
⑦ 青　柳 4 1 0 0 0
⑨8竹　内 3 0 0 0 1
③ 上　島 3 0 0 0 1
② 黒　須 4 1 0 1 0
⑧ 渡辺敦 2 0 0 0 0
H9早　川 2 0 0 0 0
⑤ 渡辺等 4 1 1 1 0
⑥ 天　瀬 4 1 0 1 0
④ 大　平 3 1 0 2 0

【ヤマハ】打安点振球
⑨ 松　田 3 1 0 1 1
⑧ 佐藤允 0 0 0 0 0
8 右　島 3 1 0 0 0
H 中　村 0 0 0 0 1
R8寺　田 0 0 0 0 0
D 桑　原 3 0 0 0 0
HD後　藤 1 0 0 0 0
③ 小　川 4 0 0 0 0
⑥ 渋　谷 4 1 0 0 0
⑦ 野　沢 3 0 0 2 1
④ 佐藤修 3 2 0 0 0
H 山　路 1 1 0 0 0
R 藤　本 0 0 0 0 0
⑤ 吉　田 4 1 0 1 0
② 飛弾野 3 0 0 0 0

犠	併	残
0	1	6

犠	併	残
0	0	8

	回	安振球責
木　寺	6⅓	4 2 1 0
川　尻	2⅔	3 2 2 0

	回	安振球責
宮　本	5⅔	4 3 2 1
安　部	2⅓	1 2 0 0
常　徳	1	0 1 0 0

▷本塁打＝黒須、松田、天瀬、青柳 ▷盗塁＝日3(青柳、上島、渡辺等) ▷失策＝ヤ1(右島) ▷試合時間＝3時間

ライバル好投に発奮

◎…「同期の北川には負けたくなかった」と日産自動車の先発・木寺は七回一死まで三塁を踏ませない投球に満足そう。ライバル北川が初戦のNTT九州戦で1失点の完投。何かと比較されるだけに「川尻さんの救援を仰がず、完封したかった」。投手経験は中京大に進学してからでまだ6年。スローカーブを多投し、緩急をつけた投球に自信を持ち始めていた。

第4試合＝2回戦(午後8時4分開始)

大昭和製紙北海道	1	0	0	0	0	1	1	0	0	3
日本新薬	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

▶審判(球審)木嶋(塁審)上杉、南垣、松村(外審)生越、新阜

【大昭和製紙】打安点振球
⑦ 渡　42110
⑧ 道　原 4 1 0 1 0
④ 高　木 4 2 0 0 0
⑤ 酒　井 4 3 1 1 0
D 佐　藤 4 0 0 2 0
③ 山　本 3 1 0 1 1
⑨ 小　林 3 1 1 1 0
② 望　月 4 0 0 2 0
⑥ 富　永 4 0 0 1 0

【日本新薬】打安点振球
⑥ 上　村 3 1 0 1 1
D 中　野 4 1 0 0 0
④ 石　橋 3 1 0 0 1
⑧ 河　原 3 1 0 2 1
③ 岩　橋 3 0 1 2 0
② 岩　本 3 1 0 2 1
⑤ 田　中 4 0 0 1 0
⑨ 奥　2 0 0 0 0
H7山　本 2 0 0 1 0
⑦9川　口 1 0 0 0 2

犠	併	残
1	1	6

犠	併	残
1	1	7

	回	安振球責
桐　木	9	5 9 6 1

	回	安振球責
渡　部	7	8 7 0 3
遠　野	2	2 3 1 0

▷本塁打＝渡1号(渡部)小林1号(渡部) ▷二塁打＝岩本、山本(大) ▷犠打飛＝大1(小林)日1(岩橋) ▷暴投＝桐木2 ▷試合時間＝2時間24分

▽10月15日

第1試合＝準々決勝(午前8時53分開始)

日立製作所	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
住友金属	2	0	0	1	0	7	0	0	X	10

▶審判(球審)鹿多(塁審)大橋、中川、片山

【日立製作所】打安点振球
⑦ 徳　原 4 1 0 0 0
⑥ 加　藤 3 0 0 1 0
H2　原　1 0 0 1 0
⑧ 諸　積 4 2 0 2 0
③ 金　城 4 2 0 0 0
⑤ 恒　吉 4 2 0 1 0
D 秋　元 3 1 0 0 1
⑨ 和久井 3 0 0 0 0
④ 天　川 3 0 0 0 0
② 松　本 2 1 0 0 0
H 清　水 1 0 0 0 0
6 中　村 0 0 0 0 0

【住友金属】打安点振球
⑧ 後　山 4 1 0 0 1
⑤ 青　木 5 1 1 1 0
④ 松　本 3 0 1 0 1
③ 川　畑 4 3 1 0 1
⑥ 三　宅 4 1 2 1 1
D 山　田 3 2 2 1 1
⑦ 中　西 4 2 2 1 0
⑨ 戸　田 3 1 0 0 1
② 樋　野 4 2 1 1 0

犠	併	残
0	1	5

犠	併	残
1	3	7

	回	安振球責
俵	3⅔	6 2 1 3
斎　藤	2⅔	5 2 3 5
大　塚	⅓	2 0 2 2
福　田	2	0 1 0 0

	回	安振球責
尾　山	9	9 5 1 1

▷本塁打＝山田1号(俵) ▷二塁打＝恒吉、樋野、諸積 ▷犠打飛＝住1(松本) ▷試合時間＝2時間17分

第2試合＝準々決勝(午前11時45分開始)

NTT関西	0	0	0	0	4	0	0	2		6
日本通運	0	0	0	4	0	0	0	7	X	11

▶審判(球審)小林(塁審)樫根、大石、宮奥

【NTT関西】打安点振球
⑦ 羽　生 4 2 1 0 0
⑧ 林　4 1 0 1 1
⑨ 新　宅 0 0 2 0 3
⑤ 山　田 5 3 3 0 0
③ 大　井 5 2 0 1 0
D 笹　岡 2 0 0 1 0
HD山　崎 1 0 0 1 0
HD竹　沢 1 0 0 0 0
⑥ 戒　丸 4 0 0 0 0
④ 安　西 4 0 0 0 0
② 大　原 2 1 0 0 1
H 堀　内 1 0 0 0 0

【日本通運】打安点振球
D 難　波 5 1 0 0 0
⑥ 薮　5 1 0 0 0
⑧ 井　出 4 2 2 1 1
⑨ 田中泰 4 1 1 2 1
⑦ 中　田 4 2 3 0 0
⑤ 田中敏 4 2 2 0 0
③ 安　0 0 0 0 0
3 松　尾 2 0 1 0 0
H3中　村 1 0 0 1 0
② 川　崎 0 0 0 0 0
2 丸　山 4 2 1 1 0
④ 島　田 2 0 1 0 0
H4宮　下 1 1 0 0 0

犠	併	残
3	0	8

犠	併	残
2	0	5

	回	安振球責
白　井	3⅔	3 1 2 4
岡　本	1	1 0 0 0
前　田	3	4 3 0 4
田中久	⅔	4 1 0 0
辻　本	⅓	0 0 0 0

	回	安振球責
橋　本	4⅔	4 1 4 3
新　井	4⅔	5 2 1 1
松　下	⅓	0 1 0 0

▷本塁打＝山田1号②(新井) ▷三塁打＝中田、田中敏 ▷二塁打＝井出、田中敏、羽生2、大井、薮、田中泰 ▷犠打飛＝N3(羽生、新宅2)日2(松尾、島田) ▷盗塁＝N1(林) ▷暴投＝橋本、松下 ▷試合時間＝2時間50分

第3試合＝準々決勝(午後3時12分開始)

河合楽器	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
NTT東北	1	1	0	0	0	4	0	1	X	7

▶審判(球審)岡本(塁審)吉田、生越、浜田(外審)山崎、橋

【河合楽器】打安点振球
⑦ 田　原 4 1 0 0 0
⑧ 中　途 4 2 0 1 0
⑨ 長谷部 3 1 0 0 1
⑤ 鈴　木 4 0 0 2 0
⑥ 清　水 2 0 1 1 1
③ 吉　村 3 0 1 1 0
④ 尾　上 3 0 0 0 0
D 高　鍬 3 0 0 0 0
② 森　田 3 0 0 0 0

【NTT東北】打安点振球
⑨ 夷　塚 3 3 0 0 2
④ 福　地 2 1 1 0 0
4 佐　藤 0 0 0 0 0
③ 三　瓶 3 1 3 0 2
⑦ 藤　木 3 1 1 2 2
⑤ 阿　部 2 1 2 0 2
D 大　塚 4 1 0 0 0
⑧ 戸　羽 4 0 0 2 0
② 和　田 4 0 0 0 0
⑥ 柿久保 3 1 0 1 1

犠	併	残
2	3	4

犠	併	残
4	0	10

	回	安振球責
石　井	1⅓	1 0 5 2
松　村	3⅔	7 2 2 4
竹之内	1	0 1 0 0
野　末	2	1 2 2 1

	回	安振球責
加　藤	9	4 5 2 1

▷三塁打＝三瓶 ▷犠打飛＝河2(清水、吉村)N4(阿部、福地2、佐藤) ▷失策＝河1(清水)N1(福地) ▷暴投＝加藤 ▷捕逸＝森田 ▷試合時間＝2時間40分

第4試合＝準々決勝(午後6時25分開始)

大昭和製紙北海道	2	1	0	0	0	0	0	0	3
日産自動車	0	0	0	2	1	0	1	X	4

▶審判(球審)赤井(塁審)美馬、榎田、新阜(外審)橋、山崎

【大昭和製紙】打安点振球
⑦ 渡　30001
⑧ 道　原 3 1 0 0 0
④ 高　木 3 0 0 0 0
⑤ 酒　井 4 1 1 1 0
D 佐　藤 4 1 1 2 0
③ 山　本 3 0 0 0 0
⑨ 小　林 2 0 0 0 1
② 望　月 3 1 1 0 0
⑥ 富　永 3 0 0 0 0

【日産自動車】打安点振球
D 日　置 4 1 0 1 0
⑦ 青　柳 4 2 3 0 0
⑤ 渡辺等 4 0 0 0 0
③ 上　島 3 0 0 0 0
② 黒　須 3 0 0 2 0
⑧ 井　上 0 0 0 0 0
9 早　川 3 1 0 0 0
⑨8竹　内 3 0 0 0 0
⑥ 天　瀬 3 2 1 0 0
④ 大　平 2 0 0 0 0

犠	併	残
2	0	2

犠	併	残
1	0	2

	回	安振球責
渡部勝	8	6 3 0 4

	回	安振球責
北　川	4⅓	3 0 2 3
川　尻	4⅔	1 3 0 0

▷本塁打＝望月1号(北川)青柳1号②(渡部勝) ▷二塁打＝早川 ▷犠打＝大2(道原、高木)日1(大平) ▷盗塁＝大1(酒井) ▷試合時間＝2時間13分

3打点に会心の笑み

◎…四回に2ラン、八回に決勝点をたたき出した日産自動車の青柳は「八回は、前の打席で落ちる球にやられたので、狙っていた。体勢が崩れたけどうまく打てた」と会心の笑み。「渡部勝投手からは、そう点は取れないので食らいついていくことだけを考えた」。2回戦のヤマハ戦で9打席ぶりに安打。次第に調子を上げてきた。「打ち方は悪くないと思っていた。結果が出せてよかった」

▽10月16日

第1試合＝準決勝(午前10時開始)

住友金属	0	1	0	0	1	0	0	0	2	4
日本通運	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2

▶審判(球審)木嶋(塁審)樫根、赤井、新阜

【住友金属】打安点振球
⑧ 後　山 3 0 0 0 1
⑤ 青　木 4 0 0 1 0
④ 松　本 4 2 0 0 0
③ 川　畑 4 0 0 3 0
⑥ 三　宅 3 1 0 0 1
D 川　渕 4 1 0 0 0
⑦ 中　西 3 2 2 0 1
⑨ 戸　田 3 0 0 1 0
H 森　山 1 1 2 0 0
R9家　永 0 0 0 0 0
② 樋　野 4 0 0 1 0

【日本通運】打安点振球
D 難　波 4 2 0 0 0
⑥ 薮　4 0 1 0 0
⑧ 井　出 4 0 0 1 0
⑨ 田中泰 2 0 0 1 2
⑦ 中　田 3 0 0 1 0
⑤ 田中敏 4 0 0 3 0
③ 安　0 0 0 0 0
3 松　尾 3 1 1 0 0
② 川　崎 0 0 0 0 3
④ 島　田 3 0 0 1 0

犠	併	残
0	0	5

犠	併	残
1	1	4

	回	安振球責
石　井	7	3 7 5 2
尾　山	2	0 0 0 0

	回	安振球責
黒　川	8⅔	7 5 3 4
松　下	⅓	0 1 0 0

▷本塁打＝中西1号(黒川) ▷二塁打＝中西、三宅、森山 ▷犠打＝日1(中田) ▷盗塁＝住1(川畑)日1(難波) ▷試合時間＝2時間23分

継投の妙、日通振り切る

2－2の同点で迎えた九回、住友金属は二死から三宅の遊撃強襲二塁打と川淵の内野安打、四球で満塁。代打森山の左翼線二塁打で2点を勝ち越し。八回から石井を救援した二番手、尾山が一人の走者も許さず、リードを守り切った。

日本通運は黒川がコーナーを突き好投。七回に松尾の中前打でいったんは追いついたが、主軸打者が無安打に終わったのが痛かった。

第2試合＝準決勝(午後1時5分開始)

NTT東北	2	0	3	0	0	1	0	0	0	6
日産自動車	3	4	3	0	1	0	1	0	X	12

▶審判(球審)大橋(塁審)吉田、辻、浜田

【NTT東北】打安点振球
⑨ 夷　塚 4 1 0 1 1
④ 福　地 4 1 0 1 0
③ 三　瓶 5 2 4 0 0
⑦ 藤　木 4 1 0 2 0
⑤ 阿　部 4 1 1 1 0
D 大　塚 4 0 0 3 0
⑧ 戸　羽 4 3 0 1 0
② 猪　狩 3 0 0 1 0
⑥ 柿久保 0 0 0 0 2
H 唐　沢 1 1 1 0 0
R 小　山 0 0 0 0 0
6 高　橋 1 0 0 1 0

【日産自動車】打安点振球
D 日　置 3 1 0 0 1
RD安　本 0 0 0 0 0
⑦ 青　柳 5 3 3 0 0
⑤ 渡辺等 4 3 1 0 1
③ 上　島 3 1 0 0 2
② 黒　須 4 1 2 0 1
⑧ 北　川 0 0 0 0 0
9 早　川 4 1 3 0 0
⑨8竹　内 2 0 0 0 1
H 堺　1 0 0 1 0
8 渡辺敦 1 0 0 1 0
⑥ 天　瀬 3 0 1 0 1
④ 大　平 2 0 0 2 2

犠	併	残
2	0	6

犠	併	残
2	0	7

	回	安振球責
河　村	⅔	2 0 4 3
越　田	1	3 1 1 4
大　倉	6⅓	5 3 4 3

	回	安振球責
木　寺	2⅔	4 4 2 5
一　条	3	5 2 1 1
篠　塚	3⅓	1 5 0 0

▷本塁打＝三瓶1号②(木寺)早川1号②(越田) ▷三塁打＝黒須 ▷二塁打＝日置、渡辺等、三瓶、阿部、唐沢、戸羽 ▷犠打飛＝N2(福地、猪狩)日2(早川、日置) ▷盗塁＝日3(青柳、渡辺等2) ▷失策＝N1(柿久保) ▷試合時間＝3時間5分

日産3回まで大量10点

一回に2点を先取された日産自動車はその裏、日置、青柳の長短打と、犠飛をはさむ4連続四死球で3点を挙げ逆転、二回には黒須の2点三塁打、早川の左越え本塁打で4点を追加。2点差に迫られた三回には青柳の適時打、敵失などで3点、NTT東北を突き放した。

NTTは一回に三瓶の右越え2ランで先制。三回には三瓶の右越え二塁打などで3点を返したが、守りの乱れが大きく響いた。

狙い球を間違えた

◎…一回に先制2ラン、三回は2点二塁打と気をはいたNTT東北・三瓶は、四回二死満塁での凡退を悔やんだ。「狙い球を間違え、中途半端な打撃をしてしまった。あそこでもう1本打たないと、2大大会では勝ち残れない」と声を落とした。3年前はドラフト候補。今年の候補はエース加藤。「ベスト4止まりだったけれど、彼にはいい大会だった。プロで活躍してほしい」と、後輩に夢を託した。

▽10月17日

優勝戦（午後1時31分開始）

日産自動車	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住友金属	0	2	1	0	1	2	0	0	X 6

▶審判（球審）小林（塁審）木嶋、樫田、美馬

【日産自動車】

		打	安	点	振	球
D	日置	4	0	0	0	0
⑦	青柳	4	1	0	0	0
⑤	渡辺等	4	2	0	1	0
③	上島	4	0	0	1	0
②	黒須	3	0	0	1	0
⑨	早川	2	0	0	0	0
H8	渡辺敦	1	0	0	0	0
⑧9	竹内	3	2	0	0	0
⑥	天瀬	2	0	0	0	0
H	市原	1	0	0	0	0
6	安本	0	0	0	0	0
④	大平	2	0	0	0	0
H	雲宝	1	0	0	0	0

犠 併 残
0 1 4 3 1 5 0 3 0

【住友金属】

		打	安	点	振	球
⑧	後山	4	1	0	1	0
⑤	青木	4	1	0	0	0
④	松本	4	1	1	0	0
③	川畑	4	2	1	0	0
⑥	三宅	4	2	1	1	0
D	山中	4	1	1	0	0
⑦	西田	3	2	1	0	0
⑨	戸田	2	0	0	1	0
②	樋野	3	1	1	0	0

犠 併 残
1 0 3 3 2 1 1 5 2 0

	回	安	振	球	責
久保	2		2	0	0 2
川尻	3⅔	8	2	0	4
一条	1⅔	1	0	0	0
篠塚	⅓	0	0	0	0

	回	安	振	球	責
尾山	9	5	3	0	0

▷二塁打＝三宅、樋野、竹内、山田▷犠打飛＝住1（戸田）▷盗塁＝住1（後山）▷暴投＝久保▷捕逸＝黒須▷試合時間＝2時間13分

〔優勝戦〕住友金属―日産自動車　優勝決定、マウンドに駆け寄る住友金属の選手たち。

住金、着実に加点して快勝

住友金属が尾山の低めを丹念に突く投球と主軸の勝負強い打撃で快勝した。

住金は二回、川畑が中前打。続く三宅のフェンスを直撃する中越え二塁打、暴投などで2点を先取。三回は左前打の後山が二盗し、二死から松本の右前打で生還。主軸が序盤に日産自動車の久保、川尻を攻略して着々と得点を重ね、五回は樋野の二塁打で1点、六回も二死からの3連続長短打で2点を加えた。尾山は序盤、速球主体の投球、中盤以降は一転、スライダーを低めに集め、ゴロを打たせた。5試合連続登板の疲れを感じさせないみごとな制球力が光り、5安打、無四球で完封。三塁を踏ませなかった。

日産は九回二死後、青柳、渡辺等が連打する粘りを見せたが、尾山の変化球を打ちあぐみ、本塁を踏めなかった。変化球を左翼方向に流して2安打を放った竹内以外は大振りが目立ち、淡泊な攻めに終わった。

監督ひと

住友金属　四田（しだ） 勝康（よしみち）監督

かつて主将として返還し、受け取った社会人野球日本一の象徴「ダイヤモンド旗」が、目の前で家永主将に渡されるのを見て、万感胸に迫った。チームは第4回大会（1977年）で初優勝、以後優勝戦に駒を進めること4回、一度も負けていない。「自分が監督のときに負けたら、というプレッシャーはあったが、選手の戦いぶりを見て絶対負けないという自信の方が強かった。総和で負けても総積なら負けない」

古武士然としている。口調はソフトだが、負けず嫌いの性格と頑固一徹さが苦労した顔ににじみ出ている。入社して6年間、レギュラーの座はほど遠く、マネージャー、スコアラーとして裏から野球を勉強した。

レギュラーの夢がない控え選手ほどつらいものはない。「3年でいやになってしまう」といわれる中を「必ず出番が来る」と黙々と練習を続けて切り抜け、第8回大会では二番、二塁手の座を獲得した。3年前、60歳で病没した父、政一さんの「あと1年、あと1年。それで駄目ならやめればいい」の言葉と、入社した時の松阪広一野球団団長の「順境においておごらず、逆境において腐らず」の戒めが心の支えだった。

下積み選手の活躍を真っ先にたたえる。苦労を知っているからだ。敗れた日産自動車の村上忠則監督が「初対面でしたが、実に誠実な感じです」と評した的を射ている。

大阪市出身、浪商高（現大体大浪商高）から75年入社。今年1月監督就任。労務部勤労室勤務。妻と3女。36歳。　（相馬　卓司）

監督談話

住友金属・四田勝康監督　都市対抗野球予選敗退の悔しさをバネに練習してきたかいがあった。他の25チームより、ほんの少しだけ優勝への意欲が強かったのが勝因になったと思う。一番うれしい優勝です。

日産自動車・村上忠則監督　完敗。尾山投手を打てず、試合のヤマを作ることのないまま終わってしまった。しかし、若い投手がよく投げたし、大平、早川ら新人が活躍、大きな収穫があった。胸を張って帰れます

駆け引き絶好、円熟投球

尾山2度目MVP

熱球

ルーキーの若さにまかせて、がむしゃらに投げた4年前の優勝と違い、住友金属の尾山は円熟の投球術を披露した。打者との駆け引き、ボールを使うしたたかさ、試合の流れを読み取る冷静さ。自ら「状況変化に応じた社会人の投球」と評した顔は、自信にあふれていた。

落差は小さいが速球と変わらないスピードを持つフォーク。この日はそのウイニングショットをボール球にして日産自動車の強力打線を封じた。「フォーク狙いがバットの先にまで出ていた。前半はストレートを、後半はスライダーを増やして揺さぶった。今季最高の出来でした」

得点圏に走者を背負ったのは六回と九回の2度だけ。長打も二塁打1本。無四球、5安打、128球の完封劇は冷や汗をかく場面さえないほど完璧に近い投球だった。「自分に有利なカウントに常に追い込めた。やっとチームに貢献できた」

今年4月に左足こ関節をねんざ。下半身の崩れは肩、ひじの痛みにつながり、フォームまでばらばらになった。都市対抗予選、大阪ガスに補強された東京ドームでの都市対抗本番と、登板すれば連打を浴びる絶不調だった。しかし、夏以降、足の状態が回復するとともに、下半身を鍛えたルーキー時代を思い出し、懸命に走り込んだ。その結果が5試合すべてに登板して4完投。「連投は慣れている」とはいえ、精神面のたくましさは4年前にはなかった「大人の味」といえる。

優勝戦の完封は第10回大会で住金の現コーチ、高橋修二投手が達成して以来。日本選手権に強い住金の伝統は「夏以降もペースを崩さず、1年を通じて自分にあったメニューを維持する点にある」。この大会で3度最高殊勲選手賞日本選手権に輝いた高橋コーチの言葉が、尾山復活の基礎になっていたのだ。（藤岡　行弘）

ズームアップ

川尻 哲郎投手
日産自動車・24歳

「完全燃焼できず無念」

ゲームの流れを引き戻すのも、試合を壊すのも自分次第。「救援は大事な役割」と言い聞かせて、三回から先発の久保を継いでマウンドへ登った。

横手からの緩急をつける投球が身上だが、この日は制球、球の走りとも今一歩。投球モーションを速くしたり、遅くしたりと工夫はしたが、六回途中で降板するまで4失点。「緩い球を交え、タイミングを合わされないよう気をつけたのですが、コースが甘くなった」と無念の表情。悔いの残る優勝戦となってしまった。

しかし、日産の優勝戦進出は、川尻のリリーフエースとしての活躍があったからこそ。大昭和製紙北海道との準々決勝では、五回から最後まで投げ切り、許した走者は内野安打の1人だけ。直曲球がコーナーに集まる完ぺきな内容だった。

いすゞ自動車に補強された今夏の都市対抗で、4試合中3試合に救援で登板し、4強入りに貢献。「あのときは自分でも完全燃焼できたと思った。今大会もと、部屋に完全燃焼と書いて張っていたんですが」

亜大時代は東都リーグで4勝。投手力が課題と言われる日産で、20歳の北川、左腕の木寺とともにチームを支える。「自分が頑張らないと」という3年目。敢闘賞に選ばれ村上監督から祝福の握手を求められると、ようやく笑顔が戻った。

第20回記念大会表彰選手

◇**最高殊勲選手賞　尾山敦投手**(住友金属)　5試合すべてに登板して5勝、1完封、4完投。38イニングを投げて防御率1.42。抜群の制球力で通算4四球を与えただけ。富山・高岡商高から入社4年目の23歳。労務部勤労室。「いつでもストライクが取れるという自信が、自分の投球リズムを支えてくれた」

◇**敢闘賞　川尻哲郎投手**(日産自動車)　5試合中3試合に登板。二回戦、準々決勝で好投し、準優勝に貢献。亜大卒、24歳。追浜工場健康管理課勤務。「今日は調子が悪く打たれてしまったので、まさか賞をもらえるとは思わなかった。試合の流れを自分にやってしまった。でも準優勝には満足しています」

◇**打撃賞　川畑伸一郎一塁手**(住友金属)　打率4割5分。四番打者として優勝戦でも二回に中前打で出て、先制のホームを踏む。鹿児島商工高卒9年目の26歳。鋼片工場勤務。「今日は最初から気合が入ったし、どうしても打ちたかった。今年は挑戦する年と決め、自分にどれだけの力があるかを試した」

◇**首位打者賞　恒吉成樹三塁手**(日立製作所)　3試合で13打数7安打、5割3分8厘。うち本塁打1、二塁打3。シャープな振りが目を引いた。国学院大卒2年目の24歳。原子力製造部勤務。「ドームの時期に調子が悪くて迷惑をかけたので、最後でいいところを見せたかった。今後もけがをせずに確実な打撃を心掛けたい」

◇**大会優秀選手**

【投手】 尾山敦(住友金属)、黒川紀章(日本通運)　**【捕手】**川崎義文(日本通運)、黒須隆(日産自動車)　**【一塁手】**川畑伸一郎(住友金属)、三瓶仁(ＮＴＴ東北)　**【二塁手】**松本尚樹(住友金属)　**【三塁手】**恒吉成樹(日立製作所)、渡辺等(日産自動車)　**【遊撃手】**天瀬和男(日産自動車)、三宅秀二(住友金属)　**【外野手】**徳原康晴(日立製作所)、中西保友(住友金属)、井出竜也(日本通運)、夷塚博(ＮＴＴ東北)、道原孝博(大昭和製紙北海道)　**【指名打者】**難波貴司(日本通運)

◇**10回出場選手**

福地日出雄(ＮＴＴ東北)、森田洋生(四国銀行)、井上幹也(四国銀行)

◇**審判委員功労賞**

辻喜正、岡本良一、美馬洋、中川雅夫、宮本明

祝、20周年

日本野球連盟
東北地区連盟会長
長沢正夫
(日本野球連盟理事)

社会人野球日本選手権大会が20周年を迎えられましたことは、関係者の一員として誠にご同慶にたえません。

連盟理事会で、近畿連盟主管の下、甲子園球場で開催することを宣言した佐伯達夫先生のあの穏やかにも毅然としたお姿が目の当たりに浮かんでまいります。

当時は、あの大甲子園スタンドにぽつりぽつりの観客しかなく、本当に続けてやっていけるのかと危惧したものでしたが、大阪球場に移ってからはある程度の観客動員もでき、日本選手権大会としての実感が沸いてまいりました。そしてグリーンスタジアム神戸に移ってからは、社会人野球日本一、アマチュア野球王座を目指した大会、夏の都市対抗野球に続く秋の社会人野球の祭典として定着。これは近畿連盟各位の弛まぬ努力の賜物と存じ、心から敬意を表するものであります。

東北地区連盟としては、毎年、必ずやダイヤモンド旗を東北の地に、と念じて代表を送っていますが、いまだに実現をみておりません。でもチャンスがないわけではありませんでした。第13回大会(1986年)ではNTT東北が、第18回大会(1991年)ではJTが準決勝進出を果たしております。

東北地区としては、かつての強豪、盛岡鉄道、新日鉄釜石が会社の合理化のため早くに姿を消し、さらに第20回大会の代表、JA岩手県経済連が冷害と日本の米政策のあおりを受け、休部のやむなきに至りました。

1993年9月13日、東北各県代表チームを迎え第20回大会東北予選が、宮城県営野球場で開幕されましたが、当日は偶然にも小生81歳の誕生日でした。開会式の冒頭に花束の贈呈を受け、翌日の毎日新聞宮城版に記事が掲載されました。私は1947年から岩手県野球連盟の事務局や審判の仕事を続けていますが、その記事に「東北野球界の戦後の復興発展に尽力してきた苦労を知っている関係者にとって、区切りの第20回大会に行われた花束贈呈は単なるセレモニーに終わらせない思いが込められていた」と書いていただきました。

東北はチーム登録数が全国1の102。さらに21世紀に向け各チームの強化を願い、いつかは東北の地にダイヤモンド旗の翻ることを夢見ております。

北海道大会

9月8日から　5日間　　札幌市営円山球場

東北大会

▶一次予選

◇**青森**▽**一回戦**　オール青森ク５－４南郷村硬球会、全弘前８－４八甲ク▽**準決勝**　三菱製紙八戸12－２オール青森ク、自衛隊青森10－３全弘前▽**決勝**　自衛隊青森６－１三菱製紙八戸(勝者は第二次予選へ)

◇**岩手**▽**一回戦**　オール不来方10－３赤崎野球ク、岩手銀行12－４小野田セメント、アイワ岩手７－６遠野ク、ＪＡ県経済連(不戦勝)住田ク▽**二回戦**　水沢駒形11－２東北ハーネス、岩手東芝18－６高清物産花友ク、久慈ク10－９一関三星ク、雫石ク10－８水工ク、アイワ岩手13－０オール釜石、ＪＡ県経済連３－０オール江刺、岩手銀行10－１平泉ク、宮城建設９－０オール不来方▽**準々決勝**　ＪＡ県経済連９－０雫石ク、岩手銀行９－７水沢駒形、宮城建設14－５岩手東芝、アイワ岩手７－２久慈ク▽**準決勝**　岩手銀行７－１宮城建設、ＪＡ県経済連10－０アイワ岩手(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　ＪＡ県経済連４－１岩手銀行

◇**秋田**▽**一回戦**　王冠ク12－４大曲ベースク、ＴＤＫ16－３秋田ベースク、秋田銀行18－２八橋ユーランドク、ＪＲ秋田４－３能代松陵ク▽**準決勝**　ＴＤＫ12－３王冠ク、秋田銀行８－１ＪＲ秋田(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　ＴＤＫ６－２秋田銀行

◇**宮城**▽**一回戦**　日産サニー宮城16－15東北福祉大ク、七十七銀行13－３ＳＡク▽**準々決勝**　ＪＲ東日本東北10－０オールカメイ、ＮＴＴ東北10－０日産サニー宮城、七十七銀行13－０白山ク、ＪＴ６－３日本製紙石巻▽**代表決定戦**　七十七銀行11－８ＪＴ、ＮＴＴ東北３－２ＪＲ東日本東北(勝者は第二次予選へ)▽**第一代表決定戦**　ＮＴＴ東北４－０七十七銀行▽**敗者復活一回戦**　ＳＡク11－１東北福祉大ク、オールカメイ５－０日本製紙石巻▽**同二回戦**　白山ク10－７ＳＡク、オールカメイ７－０日産サニー宮城▽**同三回戦**　ＪＲ東日本東北11－１白山ク、ＪＴ５－１オールカメイ(勝者は第二次予選へ)▽**第三代表決定戦**　ＪＴ７－３ＪＲ東日本東北

◇**山形**▽**一回戦**　三川ク７－３鶴岡野球ク、米沢中央ク８－２東海大山形ＯＢク▽**準決勝**　山形しあわせ銀行10－０三川ク、米沢中央ク３－２新庄球友ク▽**決勝**　しあわせ銀行７－１米沢中央ク(勝者は第二次予選へ)

◇**福島**▽**一回戦**　会津若松野球ク16－２矢吹ク、保原ク10－０須賀川ク、オールいわきク４－０川俣ク、福島硬友ク１－０小名浜ク、自衛隊福島(不戦勝)トヤ野球ク▽**二回戦**　学石ＯＢク10－３飯野ク、郡山ベースク16－１棚倉都々古ク、小峰ク８－４自衛隊福島、同仁社９－２オールいわきク、福島硬友ク７－４二本松ク、保原ク９－２北斗野球ク、ヨークベニマル15－２会津若松野球ク、ニュー相馬10－０好間ク▽**準々決勝**　同仁社16－８福島硬友ク、ヨークベニマル10－０学石ＯＢ、ニュー相馬７－５保原ク、郡山ベースク13－３小峰ク▽**準決勝**　ヨークベニマル９－０ニュー相馬、郡山ベースク12－３同仁社(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　ヨークベニマル５－４郡山ベースク

▶二次予選

9月13日から　3日間　　県営宮城球場

関東大会

▶一次予選

◇**埼玉**▽**一回戦**　全大宮３－２川口球友ク、かみかわク20－３大和ク▽**準々決勝**　新神戸電機埼玉５－４全浦和、日本通運14－０全大宮、鷺宮製作所狭山23－１全三郷、本田技研19－５かみかわク▽**準決勝**　日本通運11－１新神戸電機埼玉、本田技研16－２鷺宮製作所狭山(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　日本通運８－６本田技研

◇**千葉**▽**リーグ戦**　新日鉄君津４－０川崎製鉄千葉、川鉄千葉３－２ＮＴＴ関東、ＮＴＴ関東10－７新日鉄君津(３チーム同率で再リーグ戦)▽**再リーグ戦**　新日鉄君津16－３川鉄千葉、ＮＴＴ関東６－５川鉄千葉、ＮＴＴ関東18－10新日鉄君津(ＮＴＴ関東、新日鉄君津は第二次予選へ)

◇**東京**▽**一回戦**　ＮＴＴ東京２－０さくら銀行、明治生命４－３リクルート、朝日生命13－０日本ＩＢＭ▽**代表決定戦**　朝日生命４－３東京ガス、プリンスホテル８－７ＮＴＴ東京、熊谷組７－６ＪＲ東日本、鷺宮製作所10－４明治生命(勝者は第二次予選へ)▽**敗者復活戦**　明治生命３－１ＮＴＴ東京、ＪＲ東日本９－４東京ガス▽**代表決定戦**　ＪＲ東日本９－４明治生命(勝者は第二次予選へ)

◇**多摩**▽**一回戦**　全府中２－１全調布、シダコーポレーション12－３武蔵野ク▽**準決勝**　東芝府中17－２全府中、スリーボンド８－４シダコーポレーション▽**決勝**　東芝府中８－１スリーボンド(勝者は第二次予選へ)

◇**神奈川**▽**一回戦**　ウィーンク８－１神奈川ク、横浜そごう10－０横浜高島屋、日産自動車11－１横浜金港ク、全川崎５－４横浜球友ク▽**準々決勝**　三菱自動車川崎18－２ウィーンク、三菱重工横浜13－９横浜そごう、日産自動車14－６東芝、いすゞ自動車25－１全川崎ク(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　日産自動車14－１いすゞ自動車、三菱重工神戸12－５三菱自動車川崎▽**決勝**　三菱重工横浜８－４日産自動車▽**三位決定戦**　三菱自動車川崎３－２いすゞ自動車

◇**山梨**▽**一回戦**　甲府ベースク15－14市川ク、桂ク14－10東海甲府ク、大月ク５－３オール櫛形▽**準決勝**　桂ク(不戦勝)甲府ベースク、山梨球友ク10－３大月ク▽**決勝**　山梨球友ク19－１桂ク(勝者は第二次予選へ)

▶二次予選

9月18日から　5日間 群馬・太田運動公園野球場

北信越大会

▶一次予選

◇**新潟**▽**一回戦**　柏崎マリン８－３新発田中央、ニチエー20－２白根野球団、佐渡軍団12－９オール長岡、新津ク７－３オール新発田▽**準々決勝**　オール東13－10柏崎マリン、ニチエー16－６全飯豊、にいがたＫＤ８－６佐渡軍団、新津ク11－３ＭＧク▽**準決勝**　ニチエー11－１オール東、にいがたＫＤ９－４新津ク(勝者は第二次予選へ)▽**決勝**　ニチエー19－３にいがたＫＤ

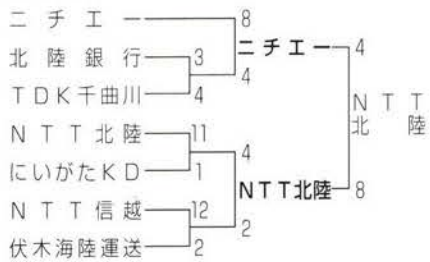
◇**長野**▽**リーグ戦**　ＮＴＴ信越26－１全松本、ＴＤＫ千曲川７－６全松本、ＮＴＴ信越12－５ＴＤＫ千曲川(ＮＴＴ信越、ＴＤＫ千曲川は第二次予選へ)

◇**富山**▽**三回戦制**　北陸銀行５－１伏木海

陸運送、北陸銀行３－０伏木海陸運送(両チームとも第二次予選へ)

▶二次予選

9月18日から　2日間　　新潟市営鳥屋野球場



東海大会

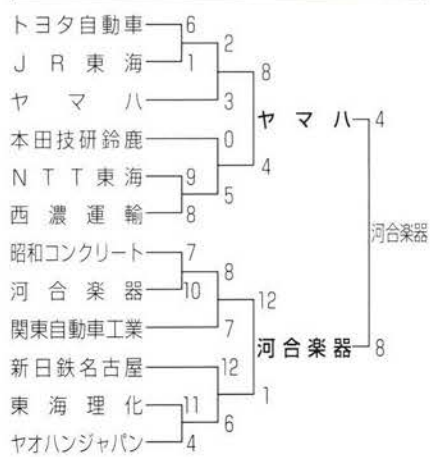
▶一次予選

◇**静岡**▽一回戦　ヤオハンジャパン12－1岳南ク、大昭和製紙７－０中遠ク、三島ク６－５誠和ク、関東自動車工業10－０静岡硬式野球ク、富士ク18－６菊笠ク、河合楽器11－０浜松ウナボンズ、エースコンク９－６中電硬式野球ク、ヤマハ７－０協和発酵ク▽**準々決勝**　ヤオハンジャパン６－２大昭和製紙、関東自動車工業10－０三島ク、河合楽器５－０富士ク、ヤマハ13－２エースコンク(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　関東自動車工業６－１ヤオハンジャパン、ヤマハ10－０河合楽器▽**決勝**　ヤマハ16－５関東自動車工業

◇**東海**▽一回戦　トヨタ自動車４－０東海理化、本田技研鈴鹿10－９日通名古屋、西濃運輸９－２サンジルシ醸造、新日鉄名古屋５－１JR東海、NTT東海５－１大仙、昭和コンクリート19－７三菱重工名古屋▽**準々決勝**　本田技研鈴鹿９－６トヨタ自動車、西濃運輸12－６王子製紙春日井、新日鉄名古屋５－２東邦ガス、昭和コンクリート７－０NTT東海(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　本田技研鈴鹿６－５西濃運輸、新日鉄名古屋６－１昭和コンクリート▽**敗者復活一回戦**　東海理化２－１日通名古屋、大仙７－５三菱重工名古屋▽**同二回戦**　トヨタ自動車19－１王子製紙春日井、NTT東海６－１東邦ガス、東海理化10－１サンジルシ醸造、JR東海７－４大仙(勝者は第二次予選へ)

▶二次予選

9月16日から　5日間　　浜松市営球場



(敗者復活戦)

近畿大会

▶一次予選

◇**滋賀**▽一回戦　日本IBM野洲13－０瀬田工OBク、SSSベースク11－４近江八幡野球ク▽**決勝**　日本IBM野洲17－０SSSベースク(勝者は第二次予選へ)

◇**京都**▽一回戦　日産車体京都10－０高島屋、日本新薬14－３島津製作所、三菱自動車京都13－５第一紙行▽**準決勝**　日産車体京都３－１丸勝、三菱自動車京都６－５日本新薬(４チームは第二次予選へ)▽**決勝**　三菱自動車京都８－５日産車体京都▽**三位決定戦**　日本新薬７－４丸勝

◇**大阪**▽一回戦　三和銀行６－１新日鉄堺、松下電器13－０大阪ベーシェンス▽**準々決勝**　NTT関西５－２デュプロ、中山製鋼８－５日本生命、大和銀行22－０三和銀行、大阪ガス７－３松下電器(勝者は第二次予選へ)▽**準決勝**　大和銀行８－３NTT関西、中山製鋼７－５大阪ガス▽**決勝**　大和銀行４－３中山製鋼▽**敗者復活一回戦**　デュプロ14－０三和銀行、日本生命８－６松下電器▽**第五代表決定戦**　日本生命14－２デュプロ(勝者は第二次予選へ)

◇**兵庫**▽一回戦　三菱重工神戸５－４小西酒造、田村コピー３－２阿部企業、新日鉄広畑５－０川崎製鉄神戸▽**準決勝**　新日鉄広畑９－７三菱重工神戸、神戸製鋼７－０田村コピー(準決勝出場チームは第二次予選へ)▽**決勝**　神戸製鋼３－２新日鉄広畑▽**敗者復活一回戦**　小西酒造２－１阿部企業▽**順位決定戦**　川鉄神戸７－０小西酒造(勝者は第二次予選へ)、三菱重工神戸６－２田村コピー

▶二次予選

9月11日から　7日間　　姫路市営球場

(敗者復活戦)

中国大会

▶一次予選

◇**岡山・鳥取**▽一回戦　王子製紙米子７－４三菱自動車水島▽**第一代表決定戦**　川鉄水島13－２王子製紙米子(勝者は第二次予選へ)▽**第二代表決定戦**　三菱自動車水島７－２王子製紙米子(勝者は第二次予選へ)

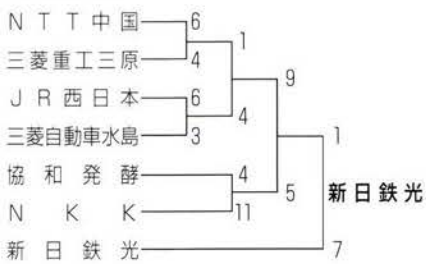
◇**広島**▽一回戦　NKK４－３三菱重工広島、NTT中国10－１ヤマコー、三菱重工三原13－１マツダ、JR西日本８－１常石鉄工▽**準決勝**　NKK10－４NTT中国、三菱重工三原４－１JR西日本(勝者は第二次予選へ)▽**第一代表決定戦**　NKK７－６三菱重工三原▽**敗者復活一回戦**　三菱重工広島７－３ヤマコー、常石鉄工13－３マツダ▽**第三代表決定戦**　JR西日本９－４三菱重工広島(勝者は第二次予選へ)▽**第四代表決定戦**　NTT中国９－３常石鉄工(勝者は第二次予選へ)

◇**山口**▽**リーグ戦**　協和発酵19－８航空自衛隊防府、新日鉄光23－３航空自衛隊防府、協和発酵９－８新日鉄光(協和発酵、新日鉄光は第二次予選へ)

▶二次予選

9月15日から　6日間　　岡山県営球場

(敗者復活戦)

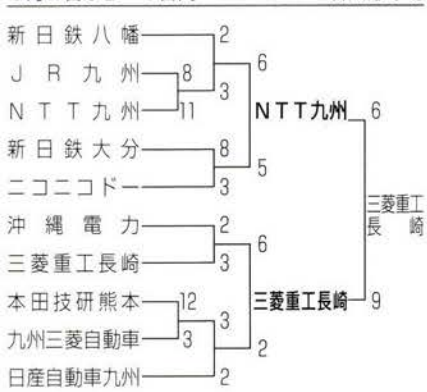


四国大会

9月11日から　2日間　　県営徳島球場

九州大会

9月17日から　3日間　　新大分球場



第20回大会出場選手等一覧（○は主将）

たくぎん

監督	大滝	敏之	39	駒沢大
投手	萩原	康	24	法政大
〃	藤原	恵大	20	八幡商高
〃	藤田	健司	19	鹿児農林高
〃	小扇	英司	23	法政大
〃	本田	博紀	23	拓殖大
〃	樋渡	真一	26	秋田商高
〃	戸村	薫	19	旭川工高
〃	荻原	充史	22	釧路北高
捕手	河田	孝明	24	徳山大
〃	前川	静嗣	25	三重高
〃	小扇	満紀	23	中京大
内野	狐塚	賢治	27	駒沢大
〃	岩田	哲明	28	滝高
〃	田中	義則	26	法政大
〃	土井	公之	24	亜細亜大
〃	大間	啓	28	筑波大
〃	高橋	伸二	23	東海大四高
〃	山上	吉樹	21	東海大四高
〃	山下	晃永	23	駒沢大
外野	小沢	永俊	25	岐阜第一高
〃	木村	尚大	20	八幡商高
〃	○横山	靖史	28	法政大
〃	斎野	修二	19	東北高
〃	小泉	正樹	23	東北福祉大
〃	知念	剛	25	日本大

大昭和製紙北海道

監督	我喜屋	優	42	興南高
投手	岩舘	新一	20	椎内大谷高
〃	香田	亮二	21	室蘭大谷高
〃	三根	剛	20	横浜商大高
〃	加藤	宗之	25	札幌稲西高
〃	小畑	拓也	24	拓殖大
〃	渡部	勝美	30	砂川南高
〃	桐木	孝司	21	北海道桜丘高
捕手	望月	秀久	26	九州東海大
〃	加川	賢治	22	拓殖大
内野	小林	司	26	明治大
〃	渡辺	輝	19	室蘭大谷高
〃	○酒井	司	29	留萌高
〃	片野	正祥	20	苫小牧工高
〃	高木	吉夫	31	中央学院大
〃	荒木	慶大	19	西日本短大付高
〃	野呂	君郎	18	北海高
〃	富永	茂樹	25	拓殖大
〃	山本	隆成	24	北海道日大高
外野	斉藤	巌	28	東京農大
〃	若松	秀樹	24	拓殖大
〃	佐藤	耕治	30	鬮越高
〃	北須賀	俊郎	23	大阪体大
〃	日下	幸弘	27	広島至誠高
〃	渡	竈	19	北照高
〃	道原	孝博	22	九州共立大

JA岩手県経済連

監督	玉田	美千男	36	専修大
投手	玉山	暢悦	24	東北学院大
〃	北	智之	18	宮古工高
〃	佐竹	雅之	26	岩手大
〃	細越	賢也	27	黒沢尻工高
〃	古舘	記由	35	一戸高
〃	土市	隆之	35	東海大
捕手	宮川	憲幸	19	大曲農高
〃	上平	勉	34	富士短大花巻高
〃	米倉	勇二	21	三沢高
内野	藤倉	隆	29	盛岡市立高
〃	熊谷	亨	33	盛岡市立高
〃	藤原	秀樹	20	花北商高
〃	久保	正和	23	盛岡市立高
〃	新田	勝彦	21	花巻東高
〃	菅田	公平	20	花巻東高
〃	奥堂	輝彦	25	福岡高
〃	小山田	和也	19	一関商工高
外野	佐藤	匡	20	一関商工高
〃	小守	勝	26	一戸高
〃	星	敬	25	黒沢尻工
〃	佐藤	広之	26	弘前実高
〃	千葉	進	33	立教大
〃	鈴木	淳	22	東京農大

NTT東北

監督	小澤	敬一	43	関東学院大
投手	谷口	直純	24	仙台大
〃	加藤	高康	23	東海大
〃	大扇	浩悦	31	東北福祉大
〃	越田	仁孝	27	青森北高
〃	河村	文利	23	日本大
〃	山田	勉	26	東北学院大
〃	添田	光夫	27	平工高
捕手	猪狩	正弘	29	明治大
〃	相田	猛	25	明治大
〃	安孫子	達也	19	日大山形高
内野	高橋	大典	25	東海大
〃	福地	日出雄	35	東京農大
〃	小山	国博	23	東北学院大
〃	阿部	順悦	26	法政大
〃	○柿久保	健二	28	東洋大
〃	佐藤	天	24	明治大
〃	鈴木	強	24	東京農大
〃	三瓶	仁	25	学法石川高
〃	唐沢	敬	27	東京農大
〃	板橋	友喜	33	関東学院大
外野	藤木	巌	27	東北福祉大
〃	戸羽	英之	26	一関商工高
〃	横山	聖	26	東北学院大
〃	大塚	広己	22	能代商高
〃	夷塚	博	22	一関商工高

日立製作所

監督	山田	智千	47	御所工高
投手	依	則朗	23	東海大
〃	生駒	雅紀	18	吉備高
〃	斎藤	充弘	24	日体大
〃	福田	和幸	25	東海大
〃	大久保	博嘉	23	国土舘大
〃	大塚	康一	25	国学院大
捕手	原	利安	22	国際武道大
〃	清水	拓	24	東海大
〃	松本	佳久	24	明治学院大
〃	武田	安則	18	鳴門高
内野	森田	準	28	東海大
〃	中村	仁	28	法政大
〃	秋元	邦夫	26	日体大
〃	加藤	亮	22	国学院大
〃	天川	務	23	東海大
〃	恒吉	成樹	23	国学院大
〃	金城	博明	25	法政大
〃	小宮	康正	23	法政大
外野	諸橋	兼司	23	法政大
〃	○徳原	康晴	26	国学院大
〃	飯塚	賢一	24	日体大
〃	上村	征治	21	筑紫工
〃	和久井	勇人	30	東海大
〃	若原	浩二	22	日体大
〃	増沢	直樹	22	東海大

日本通運

監督	杉本	泰彦	34	東洋大
投手	松下	耕三	25	東洋大
〃	新井	富夫	28	駒沢大
〃	黒澤	淳一	24	東海大
〃	乙幡	昌夫	23	城西大
〃	橋本	正行	25	日本大
〃	黒川	紀章	22	横浜商工高
捕手	安	潤一	19	水戸商高
〃	丸山	敬志	25	小扇工高
〃	川崎	義文	22	大分緑陽高
内野	宮下	森	27	東海大
〃	萩	宏明	27	国学院大
〃	中村	勝義	27	春日部工高
〃	扇田	祐貴	23	大宮東高
〃	田中	敏弘	24	明治大
〃	佐藤	明	25	法政大
〃	松尾	公明	26	創価大
〃	赤川	正一	24	東海大
〃	平田	純一	24	青森大
〃	中野	由丈	24	東洋大
外野	田中	泰	29	東洋大
〃	井出	竜也	22	吉田高
〃	○難波	貴司	28	東海大
〃	前扇	優治	26	城西大
〃	中田	光治	25	東洋大
〃	奈須	一憲	24	東海大

日本石油

監督	林	裕幸	38	東海大
投手	増永	祐一	27	鹿児島商工高
〃	野村	昭徳	25	駒沢大
〃	高橋	憲幸	23	拓大紅陵高
〃	香田	政勝	25	九州国際大
〃	川本	一洋	20	羽黒高
〃	松嶋	隆進	23	男鹿工高
捕手	大久保	秀昭	24	慶応大
〃	田中	健二	25	横浜商科大
〃	高柳	靖法	27	駒沢大
〃	佐藤	孝治	31	早稲田大
内野	木下	俊生	25	九州国際大
〃	徳永	耕治	25	千葉工高
〃	平田	望	28	法政大
〃	和嶋	利博	24	法政大
〃	伊藤	義樹	30	中京高
〃	若林	重喜	27	立正大
〃	前田	健吾	21	関東第一高
〃	相田	武徳	27	早稲田大
外野	高林	孝行	26	立教大
〃	遊佐	兆正	19	東海大相模高
〃	○坂口	裕之	28	明治大
〃	藤沢	章雄	26	東京大
〃	佐野	由幸	24	東海大
〃	古武	和彦	25	法政大
〃	山本	信也	20	鹿児島商

三菱重工横浜

監督	里木	雅彦	32	国土舘大
投手	古川	英二	21	東海大工高
〃	松浦	哲郎	19	沼津城北高
〃	吉澤	正	28	東海大
〃	佐々木	敏廣	26	青山学院大
〃	石井	貴	22	藤嶺藤沢高
捕手	斉藤	裕次郎	22	静岡学園高
〃	橋原	剛	24	流通経大
〃	清水	剛	21	鶴生高
〃	沢田	良一	20	柳ケ浦高
内野	加藤	哲也	27	青山学院大
〃	○松下	安男	26	鹿児島商工高
〃	望山	一生	27	富士宮西高
〃	遠藤	早人	21	東海大工高
〃	野崎	俊之	27	国土舘大
〃	逆井	正徳	21	西武台千葉高
〃	塩澤	伸之	22	作新学院高
〃	石附	篤彦	19	浦和学院高
〃	遠藤	英樹	19	富士宮農高
外野	菅沼	正幸	25	成田高
〃	細谷	享市	29	東海大
〃	山崎	寿茂	26	九州産大
〃	青木	和宏	30	東洋大
〃	阪本	雅孝	24	九州産大
〃	礒田	浩三	23	大東文化大
〃	府川	康二	20	神田高

日産自動車

監督	村上	忠則	44	津名高
投手	井上	薫	21	相武台高
〃	篠塚	真一	22	千葉大宮高
〃	久保	恭久	33	中京大
〃	一条	健介	24	藤嶺藤沢高
〃	川尻	哲郎	25	亜細亜大
〃	木寺	徹	24	中京大
〃	北川	哲也	20	鳴星国際学園高
捕手	黒須	隆	23	東洋大
〃	阿部	正弘	34	明治大
内野	安本	政弘	26	同志社大
〃	○渡辺	等	29	今治西高
〃	上扇	格	26	駒沢大
〃	大平	幸治	24	明治大
〃	市原	靖志	27	中央大
〃	闇	隆二	28	東洋大
〃	石田	則夫	23	前橋育英高
〃	天瀬	和男	26	亜細亜大
〃	早川	健一郎	20	東海大相模高
〃	阿部	哲也	20	上浦三高
外野	竹内	久生	26	法政大
〃	青柳	信	25	明治大
〃	霞宝	正義	23	愛工大名電高
〃	日置	秀人	27	東海大
〃	渡辺	敦	23	亜細亜大
〃	堺	克俊	24	駒沢大

ニチエー

監督	斉藤	与志朗	37	日本大
投手	三露	一彦	31	日本大
〃	高山	日出雄	27	酒田南高
〃	小林	清和	25	吉田商高
〃	堀	悟	23	順天堂大
〃	松井	啓祐	19	日本文理高
捕手	川合	正行	23	高田工
〃	番場	省二	29	中越高
〃	内藤	定夫	31	吉田商高
〃	近藤	貴志	21	中越高
内野	飯泉	伸一	24	中央学院大
〃	橋田	敏行	23	新潟工高
〃	木内	隆行	21	西武台千葉高
〃	鈴木	惣一	25	羽黒工高
〃	富岡	悟	28	城西大
〃	染井	典明	20	岩井西高
〃	長田	仁史	25	富士大
外野	富樫	一	29	中条工高
〃	大橋	和義	20	東京学館新潟高
〃	○渡辺	真	29	城西大
〃	八幡	憲之	19	新発田農高
〃	柏橋	浩	20	新発田農高
〃	望月	隆	32	城西大
〃	重山	覚	25	順天堂大

NTT北陸

監督	北川	良	35	専修大
投手	伊藤	雄二	23	名古屋学院大
〃	桜井	久之	20	静岡学園高
〃	赤羽根	俊幸	25	明治大
〃	川越	光司	23	徳山大
〃	佐藤	渉	21	弘前工高
〃	中西	雅彦	25	帝京大
〃	樋口	喬清	22	大阪学院大
捕手	奥野	聖太郎	23	大阪学院大
〃	坂田	大造	26	日体大
〃	高橋	義晴	31	駒沢大
内野	川田	純康	24	奈良産大
〃	祖泉	秀樹	28	高岡商高
〃	尾前	拓己	26	東海大
〃	不破	一紀	23	中京大
〃	長谷川	大介	24	新湊高
〃	大川	清	26	日体大
〃	井村	忠司	26	日体大
〃	○梅沢	宏之	27	立正大
〃	平尾	健二	26	大商大
外野	堺	一正	25	日体大
〃	広瀬	健一	27	東海大
〃	野上	正人	20	小松明峰高
〃	川崎	博孝	22	多々良学園高
〃	東	哲也	20	高岡商高

ヤマハ

監督	山本	秀樹	38	名城大
投手	安部	誠二	23	立命館大
〃	本多	和幸	19	北照高
〃	西原	英基	26	近畿大
〃	宮本	幸広	26	帝京大
〃	藤村	勝一	26	静岡西高
〃	田中	英樹	21	美濃加茂高
〃	常徳	健	23	明徳義塾高
捕手	富永	哲司	30	浜名高
〃	桑原	正之	25	近畿大
〃	飛弾野	清治	23	国士舘大
〃	佐藤	允紀	35	関東学院大
内野	藤本	豊樹	24	関東学院大
〃	佐藤	修司	24	中央大
〃	山路	哲生	27	東北福祉大
〃	渋谷	寿成	27	富士大
〃	小川	泰生	27	近畿大
〃	○吉田	憲幸	30	亜細亜大
〃	本村	芳治	20	久留米商高
外野	中村	和彦	33	駒沢大
〃	松田	浩司	23	近畿大
〃	寺田	健記	25	浜松商高
〃	金指	幸男	30	駒沢大
〃	右扇	学	25	専修大
〃	後藤	政広	29	掛川西高
〃	野沢	洋久	28	中央大

河合楽器

監督	村瀬	耕次	35	中京大
投手	野末	仰一	26	御殿場西高
〃	阿部	憲太郎	25	名城大
〃	石井	隆之	20	大井川高
〃	竹之内	和志	28	専修大
〃	松村	光庸	25	立命館大
〃	出羽	正二	25	亜細亜大
捕手	竹本	龍二	24	九州共立大
〃	安間	大芳	32	中央大
〃	森田	一弘	24	亜細亜大
〃	濱口	俊明	23	近畿大
内野	佐藤	正	23	聖隷学園高
〃	鈴木	智治	31	中央大
〃	尾上	裕介	30	中央大
〃	中矢	充	19	近大付高
〃	盛	隆章	30	亜細亜大
〃	○清水	達也	29	中央大
〃	弘田	和典	21	上宮高
〃	眞方	秀一	19	日南学園高
外野	志村	幸広	23	京都産大
〃	中達	清匡	28	拓殖大
〃	青木	真一郎	24	関東学院大
〃	高鍬	克巳	19	寺井高
〃	長谷部	一彦	25	中央大
〃	田原	知典	25	亜細亜大
〃	吉村	正之	26	中央大

新日本製鐵名古屋

監督	小俣	哲雄	34	専修大
投手	岩崎	充宏	23	青山学院大
〃	大城	勝好	18	沖縄尚学高
〃	保坂	彰茂	26	東洋大
〃	陣内	学	23	尼崎小田高
〃	森	健郎	20	三重海星高
〃	大石	栄嘉	20	金足農高
〃	吉川	勝巳	23	千葉経大
〃	原田	芳記	28	名古屋商大
捕手	日比野	公彦	20	愛工大名電高
〃	頓宮	範親	18	広島電機大付高
〃	岩坪	善政	20	大分緑陽高
内野	梅屋	仁	22	東邦高
〃	真崎	秀樹	25	東洋大
〃	梅岡	理治	21	豊橋商高
〃	三宅	雅規	22	福井工大
〃	田中	忠男	23	東洋大
〃	金谷	玟均	19	明野高
〃	嘉多	崇	24	中央大
〃	杉山	孝一	29	岐阜南高
〃	木村	則昭	29	能代市立商高
外野	岡村	遵	19	高知商高
〃	○竹内	茂雄	26	国士舘大
〃	竹脇	賢二	19	鹿児島実高
〃	西扇	義之	25	明治大
〃	林	尚克	19	東邦高

日本新薬

監督	後藤	昇	33	立命館大
投手	遠野	誠明	29	同志社大
〃	鴨井	伸昌	25	同志社大
〃	海部	信	26	亜細亜大
〃	足立	宏之	19	松江商高
〃	田村	秀生	24	天理大
〃	扇本	省二	27	関西大
捕手	谷口	宏	24	中京大
〃	岩本	誠太	28	亜細亜大
〃	後藤	昇	33	立命館大
内野	中野	貴之	26	立命館大
〃	石橋	幹彦	29	出雲商高
〃	田中	雅士	26	亜細亜大
〃	上村	匡史	23	九州共立大
〃	奥	隆彰	20	南部高
〃	岩橋	良知	27	中京大
〃	福田	博之	23	岡山商大
外野	川口	赫忠	24	御所工高
〃	寺坂	克哉	29	国士舘大
〃	中坪	将司	27	亜細亜大
〃	河原	貴一	23	鳥羽高
〃	山本	勝宇	25	天理大

日本生命

監督	井尻	陽久	41	東海大
投手	池添	修世	24	関西大
〃	新田	雄司	30	専修大
〃	杉浦	正則	25	同志社大
〃	高木	貴	23	関西大
〃	土井	善和	24	東海大
〃	安達	博史	23	生野工高
捕手	岡	隆博	27	立命館大
〃	山上	和志	27	泉州高
〃	十河	正人	23	近畿大
〃	浅倉	伸吉	30	東海大
内野	小林	博幸	23	亜細亜大
〃	十河	尊浩	27	近畿大
〃	川瀬	世資	26	桜宮高
〃	野邊	義輝	24	日体大
〃	中井	良治	29	明治大
〃	吉田	勉	24	創価大
〃	○川村	祥一	28	福岡大
〃	中村	昭徳	32	専修大
外野	梶田	茂生	25	筑波大
〃	金谷	康成	25	関西大
〃	中村	孝志	25	亜細亜大
〃	天野	義明	23	駒沢大
〃	高橋	智尚	29	明治大
〃	熊添	英樹	26	東海大
〃	守屋	公雄	31	早稲田大

NTT関西

監督	岡沢 和弘	37	近 畿	大
投手	岡本 泰光	22	武庫荘	高
〃	国森 隆行	24	近 畿	大
〃	飯原 宏伸	26	大 商	大
〃	内井 泰之	28	日 体	大
〃	辻本 武之	24	近 畿	大
〃	前田 克也	24	大 商	大
〃	田渕 建昭	27	近 畿	大
〃	田中 久裕	25	流 通	高
捕手	高木 建一	27	東北福祉	大
〃	田中 陽	24	福井工	大
〃	大原 周作	20	PL学園	高
〃	村本 忠秀	29	駒 沢	大
内野	安西 成人	25	法 政	大
〃	山田 正浩	24	関 西	大
〃	大井 憲治	24	明 治	大
〃	戎丸 洋海	25	広島工	高
〃	堀内 勝也	21	新 田	高
〃	笹岡 伸好	26	同志社	大
〃	西田 英資	27	長 浜	高
外野	林 定雄	23	明 治	大
〃	山崎 繁孝	26	近 畿	大
〃	羽生 一範	28	高松工芸	高
〃	竹沢 聡	24	婚 路 工	高
〃	○新宅 則和	27	近 畿	大
〃	中村 優仁	30	天 理	高

川崎製鉄神戸

監督	生田日出男	44	明石南	高
投手	根木 一男	19	鹿止社	高
〃	山内 直樹	24	大阪教育	大
〃	上田 行秀	20	智弁学園	高
〃	寺本比呂文	20	甲 佐	高
〃	藤原 忠	23	大阪桐蔭	高
〃	嶺田 次郎	26	東洋大姫路	高
〃	宮内 義則	30	鳴門工	高
捕手	坪田 浩武	19	九州城北	高
〃	初田 幸廣	27	尼崎工	高
〃	大城 健	25	神港学園	高
〃	奥田 泰昭	20	明石	高
〃	奥野 政廣	25	東 洋	大
内野	藤原 安弘	26	東海大山形	高
〃	十四元 健	23	東 洋	大
〃	中山 義	22	村野工	高
〃	安藤 隆	24	伸 細 伸	大
〃	堀田 幸造	30	大阪経	大
〃	島本 裕	29	報徳学園	高
外野	川中 哲也	30	尽誠学園	高
〃	金 潤熙	22	松山商	高
〃	山本 聡	25	東 洋	大
〃	米田 幸司	23	御影工	高
〃	中野 誠志	19	尼崎産	高
〃	三谷 憤一	22	尼崎北	高
〃	久原 博喜	22	智弁学園	高

新日本製鐵広畑

監督	尾形 正己	40	山 崎	高
投手	長谷野正徳	22	専修大北名	高
〃	桐野 太一	26	岩 国 実	高
〃	萩田 安彦	20	上 宮	高
〃	田中 裕一	23	大阪教育大	
〃	足達 尚人	27	東洋大姫路	高
〃	高橋一太郎	25	立 教	大
〃	新谷 克之	23	佛 教	大
捕手	的山 哲也	23	福 崎	高
〃	富田 欣徹	20	滝川第二	高
〃	上田 和也	19	神戸弘陵	高
内野	間島 伸一	22	高松東	高
〃	浜崎 洋志	21	育 英	高
〃	大畠 弘幸	26	東洋大姫路	高
〃	阿山 正人	26	東洋大姫路	高
〃	住吉 盛男	20	東洋大姫路	高
〃	大久保 通	25	奈良産大	
〃	砂田 弘樹	29	江津工	高
〃	今村 寿宏	22	熊本工	高
外野	杉本 拓也	25	熊本工	高
〃	原田 三郎	28	志度商	高
〃	空本 秀之	26	佛 教	大
〃	森下 勝也	23	熊本工	高
〃	上岡 秀彰	24	佛 教	大
〃	小野 譲	21	柳ケ浦	高
〃	久保 良成	23	大 商	大

住友金属

監督	四田 勝康	36	浪 商	高
投手	島山 浩正	22	岡山商大	
〃	石井 大土	19	和歌山工	高
〃	山路 剛弘	19	箕 島	高
〃	尾山 敦	22	高岡商	高
〃	田中 義宣	23	八千代松陰	高
〃	芝野 泰広	22	東 海	大
〃	寺坂 友秀	25	笠 田	高
〃	横井 秀実	23	高 島	高
捕手	岩瀬 貴昭	20	高岡商	高
〃	川渕 雄二	22	高 知	高
〃	樋野 徹	24	平 田	高
内野	田中 厳徳	22	大阪経法大	
〃	三宅 秀二	27	東 海	大
〃	青木 一也	18	市和歌山商	高
〃	渡辺 浩至	23	奈良産大	
〃	森山 直樹	23	関西学院	大
〃	松本 尚樹	22	市和歌山商	高
〃	宮内 洋	20	宇部商	高
〃	川畑伸一郎	26	鹿児島商	高
外野	山田 晃之	19	伊 都	高
〃	長 正人	21	報徳学園	高
〃	中西 保友	22	箕 島	高
〃	後山 聡	20	高 知	高
〃	○家永 裕章	27	向 陽	高
〃	戸田 佳克	26	早稲田	大

川崎製鉄水島

監督	松下 和統	35	中 央	大
投手	大森 勝博	24	守口東	高
〃	岡田 卓三	23	近 畿	大
〃	共田 貴行	21	育 英	高
〃	木村 勝久	19	丸亀商	高
〃	朝間 信	26	高野山	高
〃	中山 博識	24	慶 応	大
〃	小谷 茂実	24	紀北工	高
捕手	中田 忠尚	30	東 洋	大
〃	岡田 智明	21	育 英	高
〃	○小松 敬志	26	大 経	大
内野	藤原 崇順	24	筑 波	大
〃	尾崎 晃久	24	近 畿	大
〃	竹下 和敏	25	専 修	大
〃	吉川 斉	23	岡山理大付	高
〃	加百 勝吾	25	岡山南	高
〃	荒巻 英隆	21	柳 川	高
〃	吉松 孝司	24	法 政	大
〃	後藤 剛	21	沖縄石川	高
〃	伊藤 幸治	29	東 洋	大
〃	神土 秀樹	35	倉 敷 工	高
外野	福島 紀明	26	宇部商	高
〃	天早 敏浩	27	境	高
〃	金城 正人	21	読 谷	高
〃	吉岡 悟	22	境	高
〃	岩切 浩志	25	奈良産	大

新日本製鐵光

監督	菅原 文男	41	川越工	高
投手	中川 浩二	20	柳井商	高
〃	土井 雅弘	21	下松工	高
〃	崎野 義和	22	柳 川	高
〃	分藤 賀弘	24	九州産	大
〃	木村 真樹	23	宇部商	高
〃	一倉 輝男	30	宇部工	高
〃	森 慎二	19	岩国工	高
捕手	岩崎 浩二	21	南陽工	高
〃	東方 和之	30	中津工	高
〃	松本 洋	24	久留米	大
〃	山本 秀文	24	下関商	高
内野	高村 良嘉	23	下松工	高
〃	釜賀 明志	20	東海大二	高
〃	鳥羽 仁	24	九州産	大
〃	大榎田 誠	27	八 幡	大
〃	浜口 大作	27	宇部商	高
〃	岩本 修治	25	福 岡	大
〃	宮本 和明	23	福 岡	大
〃	大久保 剛	20	光	高
〃	内布 昭博	35	東海大二	高
外野	○竹内 武美	31	鳥取城北	高
〃	直元 哲也	21	熊本工	高
〃	最上 貴美	28	徳 山	大
〃	三浦 省吾	22	響	高
〃	扇崎 陽一	25	九州産	大

NTT四国

監督	景浦 隆男	44	中 央	大
投手	久利 周大	30	東 洋	大
〃	西川 憤一	27	大洲農	高
〃	石崎 崇人	20	宇和島東	高
〃	橋本 正英	23	大方商	高
〃	古谷 英士	20	高松南	高
〃	山部 太	23	八幡浜工	高
捕手	武田 和高	29	明徳義塾	高
〃	近藤 尚政	21	三 島	高
〃	芝 和彦	29	近 畿	大
内野	清岡 知己	20	城 山	高
〃	中村 包	24	近 畿	大
〃	河野 浩三	28	駒 沢	大
〃	竹島 誠	31	九州東海	大
〃	松本 秀敏	28	亜 細 亜	大
〃	橋本 久	22	宇和島東	高
〃	三好 利幸	30	北 条	高
〃	篠原 昭人	30	駒 沢	大
〃	柴田 要亮	22	宇和島東	高
外野	大貝 恭史	21	鳴 門	高
〃	丹下 真一	21	松山商	高
〃	小松 永和	24	専 修	大
〃	○能田 悦夫	28	亜 細 亜	大

四国銀行

監督	森田 洋生	31	明 治	大
投手	大西 敏文	22	立命館	大
〃	板垣 政史	27	中 央	大
〃	尾崎 文男	24	帝 京	大
〃	玉真 敬郎	23	専 修	大
捕手	末光 賢二	28	松 山	大
〃	南部 洋伸	25	専 修	大
〃	吉田 佳史	23	関西学院	大
内野	亀井 剛	22	東北福祉	大
〃	二宮 康高	24	大 経	大
〃	谷岡 秀一	30	亜 細 亜	大
〃	町田 明謙	27	東 海	大
〃	池内 聡	29	専 修	大
〃	東谷 勝司	23	大東文化	大
〃	安部 学司	23	流 通 経	大
〃	森田 洋生	31	明 治	大
外野	○田中 靖秀	29	近 畿	大
〃	井上 幹也	31	愛知学院	大
〃	森 善康	25	大 経	大
〃	森田 建司	28	明 治	大
〃	阿部 義明	23	高 知	大

三菱重工長崎

監督	山口 圭一	41	福 岡	大
投手	上園 達二	20	鹿児島実	高
〃	関 太	22	小 浜	高
〃	中島 剛	23	長崎商	高
〃	中川孝太郎	25	九州東海	大
〃	後藤 隆之	22	九州東海	大
〃	牧瀬 寛男	30	中種子	高
捕手	大久保哲也	30	九州産	大
〃	貝塚 政秀	18	長崎日大	高
〃	百武 拓郎	21	有田工	高
〃	園田雄一郎	20	鹿児島実	高
内野	米倉 速斗	18	唐津商	高
〃	村上 和幸	25	熊本工	高
〃	森 達也	25	九州東海	大
〃	下園 朋裕	19	鹿児島実	高
〃	吉村 忠治	23	九州東海	大
〃	山崎 伸幸	20	飯 塚	高
〃	洲加本弘樹	23	長崎海星	高
〃	原田 能英	20	東海大五	高
〃	稲森 正	23	鹿児島商	高
外野	○小扇 啓民	29	早稲田	大
〃	柴田 哲也	19	福岡大大濠	高
〃	布志木浩之	18	大牟田	高
〃	村上章太郎	23	熊本工大	高
〃	工藤 智博	26	熊本鎮西	高
〃	吉元 伸二	22	東海第五	高

NTT九州

監督	松本 敏郎	33	亜 細 亜	大
投手	海老名修正	26	九州東海	大
〃	奥村 高次	29	八 幡	大
〃	山村康二郎	20	熊本工	高
〃	桑原 誠樹	21	玉 龍	高
〃	野村 祐一	26	津久見	高
〃	山下 淳司	21	大矢野	高
〃	山本 義博	23	九州東海	大
〃	竹内 康之	29	九州東海	大
〃	徳留 慶	24	専 修	大
捕手	久藤 栄彦	25	九州共立	大
〃	荒武 龍治	32	明 治	大
内野	○井手 千秋	30	立 正	大
〃	三浦 正久	24	国士舘	大
〃	足立 博之	23	津久見	高
〃	佐藤 誠	26	九州東海	大
〃	嶋川 栄治	27	阿蘇農	高
〃	奥村 寿文	30	鎮 西	高
外野	角 利信	30	鹿児島商工	高
〃	木下 誠	25	亜 細 亜	大
〃	橘木 和久	28	亜 細 亜	大
〃	嶋谷 守保	29	九州東海	大
〃	加藤 明宏	26	九州東海	大
〃	中原 渉	24	福 岡	大
〃	北郷 敬一	24	九州国際	大
〃	宅間 勝彦	23	鹿児島商	工高

ないないづくし情熱が力

―― 初出場　ニチエー ――

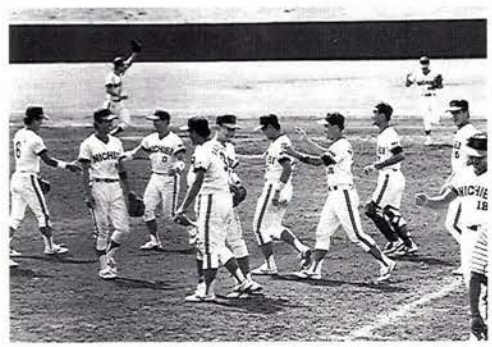
ニチエー（北信越・新潟）は都市対抗の出場もなく、社会人野球のビッグ大会には初出場。硬式転向18年目で悲願を成し遂げ、「この大会から野球部の新しい歴史が始まる。新たな出発を飾るにふさわしい試合を」とナインは燃えている。

地元新潟・鳥屋野球場での二次予選。TDK千曲川を降した就任６年目の斉藤与志朗監督(37)の目からは熱い涙がこぼれ落ちた。「これまでの苦労やお世話になった人たちの顔が次々に思い浮かんできて、知らず知らず泣けてしまった」。逆境を乗り越えてつかんだ代表の座だった。

他の社会人チームのように練習時間と場所が確保されているわけではない。医薬品卸販売会社の同社は野球部員も他の社員同様、午前９時半から午後５時半までは勤務が原則。医療機器部課長の斉藤監督以下26人の部員は営業に、配送に目まぐるしく仕事を片づけてからやっと練習に。

同社にはグラウンドはなく、会社の駐車場が練習場代わり。ブルペンは部員自らトタン張りの屋根を作り、土を運び込んで作った"自家製"だ。投手はここで投げ込み、打者はネットに向かってティーバッティングをするのがやっと。土、日曜日に他の会社や高校のグラウンドなどを借り、フリー打撃や守備練習を行っているが、練習量の不足は埋めようもない。有力新人の補強も思うようには進まない。まさにないないづくしだが、渡辺真主将(29)は「他のチームに絶対負けないのは野球への情熱」と言い切る。

選手の意欲に応え"環境改善"の動きも出始めている。二次予選後、２日間だけだが、勤務中に練習時間が認められた。室内練習場の新設計画の話も持ち上がっている。「実はもう設計図も用意してあるんですよ。今回の出場が計画実現の後押しになってくれるかも」。斉藤監督の夢は大きく膨らんでいる。



北信越二次予戦で初代表の座を手にし喜ぶニチエーナイン

煌めくダイヤ
20年の軌跡

東の都市対抗とともに社会人野球の二大イベントとして定着した社会人野球日本選手権大会は"はたち"の記念大会を迎えた。さまざまな人生模様を刻んできた歳月のこれまでと、これから――。

（1993年10月12日～15日、毎日新聞夕刊掲載。敬称略。）

ひとすじ

引退後、審判に転身

社会人野球の選手生命は長くはない。30歳を超えると「引退」の二文字が頭にちらつく。会社の社員として再スタートするか、会社を去るか。そのなかでグラブとバットを置いてもなお、野球に情熱を傾け続ける男たちもいる。

日本生命社員、赤井淳二(42)。8年前、チーム最年長の34歳で引退。以来、審判のマスクをかぶる。担当は社会人野球、関西大学連盟リーグ、そして春・夏の甲子園と幅広い。日本選手権が始まった1974年に入社。その年から内野手で出場した。翌年の第2回大会では、対丸善石油(当時)戦で逆転のスリーラン。プロ野球からの誘いもあった。しかし、社会人野球を続けることを選んだ。そして12年。

現役最後の85年、都市対抗で初の優勝。「一緒に喜んでくれる人たちがこんなにいる。自分たちだけでプレーしているんじゃないと実感した」。審判の話があったときも、すんなり受け入れることができた。「人格的な面も要求される。けれど、これまでの野球人生が生かされていると思うと、うれしくなる」

第二の野球人生として審判を選んだ赤井淳二さん(左端)＝93年10月10日第1試合の日立製作所－新日鉄広畑戦で

今年も、赤井はグリーンスタジアム神戸に来た。日本選手権の審判としての"出場"は来年、現役時代の9回に並ぶ。

一方、会社の中に審判部を持つ三菱重工長崎のようなチームもある。野球部OB10数人で結成。元監督の宮脇茂(43)もその1人。総務部に勤めるかたわら、チームの練習試合をはじめ、高校野球の審判などもこなす。マネジャーの三浦敏朗(31)は「休みをつぶして来てくれて、頭が下がる」と感謝するが、宮脇らは特別に感じない様子で球場に駆けつける。

日本選手権を担当するのは、日本野球連盟近畿地区連盟に登録している41人の審判委員。7年前、赤井1人だった加盟チームからの審判は、現在約10人に増え、次第に定着しつつある。

五輪

プロ入りと並ぶ夢――

ロサンゼルス、ソウル、バルセロナ五輪の野球で、日本は金、銀、銅3つのメダルを獲得した。これまで地味な印象だったアマチュア野球は、一躍注目を浴びるようになり、社会人、学生の選手にとって、オリンピックの野球はプロ野球と並ぶ大きな目標になりつつある。

ソウル(1988年)、バルセロナ五輪と連続出場した大阪ガスの西正文(32)は、「オリンピックはこれまで経験したどの大会にも増して最高の舞台だった」と振り返る。

1979年、大阪ガスに入社。俊足好打の名選手として高い評価を受けた。幼いころから「プロ野球へのあこがれ」はあった。しかし自分がどこまでやれるのか。

自分を育ててくれた社会人野球界のために生きることを選んだ西は、プロへ進む夢を捨て、代わりに2つのメダルを手に入れた。ソウル五輪の決勝で、アメリカのジム・アボット投手と対決、打ち取られ最後の打者となったこと。そして4年後、チーム最年長の31歳でバルセロナに出場し、苦しい予選を勝ち抜き、銅メダルを獲得したこと。「心の底から素直に野球を楽しめた」という。

五輪出場選手らで作る親ぼく会「五輪の会」の59人のうち、すでに7割以上がプロ入りした。西はバルセロナの同僚だった日本生命の杉浦を思って言う。「彼にはプロの世界で活躍して欲しい。僕は、野球人生をかけるに値する最高の場が、アマチュアの世界にもあることを若い選手に伝えたい」

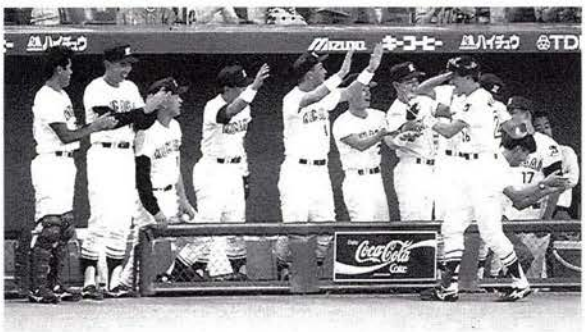
バルセロナ五輪で米国を破って銅メダルが決定。抱き合って喜ぶ全日本チームのナイン＝92年8月5日

96年のアトランタ五輪を目指す全日本チーム監督、川島勝司(50)は「同じスポーツをしながら、学生、社会人、プロと、組織が分かれていた日本の野球が、五輪をきっかけに、一つの旗の下に団結するチャンスが来た」と言う。

91年には学生、社会人が一つになった全日本アマチュア野球連盟が結成された。これまでほとんどが社会人選手で占められていた全日本レベルの海外遠征チームにも、学生が加わるようになってきた。

休部

試練の再スタート



93年の都市対抗でベスト8入りを果たした熊谷組。休部後の選手たちの選択は―＝東京ドームで93年7月

9月下旬に流れた社会人野球の名門、熊谷組の野球部休部のニュースは、余りにも突然だった。それだけに各企業チームに与えた衝撃も大きかった。明日は我が身…。

今月初め、神港学園(神戸市)監督、北原光広(40)に電話がかかった。熊谷組の野球部にいる元教え子からの、身の振りかたを相談する電話だった。懐かしい声を聞きながら、北原は若いころの自分を思い出した。身につまされもした。

1976年に鐘淵化学に入社。将来を期待された本格派の投手として日夜練習に励んでいた。ところが、翌77年に経営不振などから休部が決定。「その日は悔しさと将来の不安で頭がいっぱいだった」と振り返る。

有力メンバーは野球を選び、他の企業に次々と移籍。他の4、5人は会社を辞めた。そのなかで、北原は一社員として働くことを決め、会社に残った。東京のチームからの話もあったが、家庭の事情で関西を離れられなかったからだ。

それでも、野球の虫がうずいた。仕事のかたわらボーイズリーグの監督を始め、4年後、現在の神港学園の監督に就任。以来、春2回、夏1回の甲子園に導いた。

今では、「鐘化の6年間はいい経験だった」と思う。熊谷組の元教え子には、「周りの人とよく相談しろ。けれど、一日でも長く野球を続けてくれ」とアドバイスした。

鐘化は第2回日本選手権の出場チーム。第1回優勝の三協精機野球部も今はない。今回出場しているチームでは大昭和製紙北海道が81―82年に休部経験を持つ。当時部員だった監督の我喜屋優(43)は「日本選手権準優勝を果たし、そこへ休部宣告。レギュラーが10人ほどごっそり抜けた。復部しても、以前の力に戻るのに4、5年かかった」と言う。

企業と共にあるチームの"宿命"ともいえるが、回復のきざしが見えない不況の今、名門チームでも部費の削減が続く。その一方で、毎年約15チームが日本野球連盟に新加盟する。

ドラフト

光と陰のはざまで

ドラフトが変わる。今年から社会人、大学野球選手の逆指名が球団側の1、2位指名に限って可能になる。ドラフト会議(11月20日)直前の日本選手権は、選手の力を見極める最後の大舞台。プロのスカウトたちの熱いまなざしが光る。

社会人か、プロか。日本選手権が終わるとドラフト会議がもうすぐだ＝92年11月の会議

日本選手権が始まった1974年、長嶋茂雄が現役を引退した。その年、無名の投手が社会人野球から巨人に入った。電電四国(現・NTT四国)の大本則夫(42)。速球が武器の本格派。73年に電電四国に入社。その直後に肩やひじを壊し、大舞台での登板は、2年目の日本選手権の1イニングだけ。被安打1、四死球2、自責点ゼロの記録が残る。

それでも大会後、プロの2チームから打診があった。幸い、好きな球団の巨人が5位で指名。「年齢的に最後のチャンス。飛びこんでみようと思った」。しかし、不運にも故障が続き、一軍のマウンドに立つことなく、ロッテへトレード、そして退団。3年間のプロ生活だった。

今は、千葉や神奈川ですし、和菓子の製造販売業「富士見屋」の経営に忙しい。「プロへの道を選んだことに悔いはない。チャンスにはどんどんトライすればいい。社会人のチームにも新陳代謝は必要」と話す。

昨年夏、18年ぶりにNTT四国のグラウンドを訪れた。監督は、当時一緒にプレーした景浦隆男(44)。懐かしさとともに、わずか2年間の思い出がよみがえった。

同じ年に松下電器から阪急(現・オリックス)に入った現コーチ、山口高志(43)。直前の日本選手権では、60人のスカウトの注目を集めた。その2年前はヤクルト入りを拒否、しかし「2年たってプロに行く腹は決めていた。日本選手権が最後、という気持ちで臨んだ」と言う。

ドラフト制が導入されて28年。プロとアマ、お互いが意識しあうなかで、これまでもさまざまな試行錯誤が繰り返された。「別々の組織として考えず、Jリーグのような組織の一本化で、野球界を発展させるべきだ」(日本生命)という声が高まっているのも事実だ。

第1回優勝の三協精機の訪豪からスタート

優勝チームの海外遠征

単独チーム日本一に輝いた優勝チームは、第1回の三協精機を始め、過去9回に渡り海外遠征を行い、各国との親善や野球の普及に努めてきた。三協精機の訪豪は、社会人チームとしては前年の日産自動車に続いて4回目。豪州で盛んなスポーツと言えば、ラグビー、テニス、クリケットなどで、野球はまだ発展途上と見られていた。しかし第1戦でパースに3－7と思わぬ敗戦を喫し、そのパワーに驚かされた。下手投げの投手が初戦に4本塁打を浴び「豪州には下手投げがいないはずなのに」と不思議に思ったという話も。こどものころから親しんでいるクリケットでは、いつもワンバウンドのボールを打っているので、下からのボールには強かったのだ。各地で対戦チームから戦術や技術の熱心な質問を受け、またこどもたちを対象に野球教室を開くなど、交流の実を挙げて3週間の日程を終え帰国した。第2回の鐘淵化学は、2連勝のあと合作金庫に敗れたが、このとき2番手で登板したのが、後に中日に入った郭源治だった。

親善試合ではなく、大会に参加して公式戦を戦ったのは、第15回の本田技研熊本と第20回の住友金属。都市対抗優勝に続いて"夏秋連覇"を達成した東芝に代わって海外遠征の栄誉を担った本田技研熊本は、野球の普及を目的に創設された第1回ＩＢＡ(国際野球連盟)会長杯に参加。ブエノスアイレスのナショナルスタジアムで韓国、ブラジル、アルゼンチン、台湾と戦い、韓国、台湾に敗れ三位。しかし南アのケープタウンで行われた第5回大会に出場の住友金属は、予選リーグを全勝で突破。決勝では南アを34－6と大差で破って優勝した。大会は地元の新聞にも大きく取り上げられ、野球を通しての国際交流に大きく寄与した。

◇優勝チームの遠征◇　(※は準優勝チーム)

第1回(1974年)	三協精機	豪州	9勝1敗
第2回(1975年)	鐘淵化学	台湾	2勝1敗
第7回(1980年)	日本鋼管福山	豪州	6勝3敗
第13回(1986年)	ＮＴＴ東海	中国	5勝
第15回(1988年)	※本田技研熊本	アルゼンチン(IBA会長杯)	3位
第16回(1989年)	住友金属	豪州	4勝4敗
第17回(1990年)	日本生命	豪州	9勝
第18回(1991年)	日本石油	豪州	3勝3敗
第20回(1993年)	住友金属	南ア(IBA会長杯)	優勝

この9回の遠征の中から、1993年12月上旬、住友金属とともに南アフリカを訪れた毎日新聞大阪本社運動部、落合博記者の同行レポートを掲載する。

南ア野球事情

第5回IBA会長杯国際大会　住金遠征同行記

日本チームに惨敗したが……

世界への大きな一歩

試合は総天然芝のグラウンドで行われた(日本－フランス戦)

圧倒的な強さで優勝を飾った住金ナイン

南アフリカで野球？何の知識も持たないまま、第5回IBA(国際野球連盟)会長杯国際野球大会が開かれた南アフリカのケープタウンを訪れた。アパルトヘイト(人種隔離政策)の廃止に伴って、政治、経済、スポーツなどの分野で国際舞台への復帰を進めている南アフリカ。初めて接近遭遇した南アでの野球取材は、見るもの聞くものが驚きと発見の連続だった。**(落合　博)**

会場のグッドウッド球場はダイヤモンドまですべて芝生。初日は地元の南アがアフリカカップ優勝の栄誉をひっさげて、優勝候補の住友金属と対戦するとあって、スタンドは約1000人の観客でいっぱいだった。

試合は0－10で南アの大敗。隣で観戦していた地元紙「ザ・アーガス」のレニー・クラインチェス記者は「これが世界の野球だ。日本はスピードと軍隊のような正確さで南アを封じ込めた」と書いた。最初のうちは住金の選手が見せるファインプレーに拍手を送っていた観客も最後のほうは、あまりのレベルの違いに黙り込んでしまった。

それでも、「しっかりした、洗練された野球をやっている」というのが住金・四田監督の感想だった。役員として同行した原田富

米仕込みの洗練された技

大リーグ目指す選手も

士雄・近畿野球連盟理事も「打撃は踏み込んで打つアメリカンスタイル。セーフティーバントを試みるなど勉強はしている。投手の制球と守備を磨けば、侮れないチームになる」と話していた。

アメリカからコーチを招いたこともあり、南アの選手は大リーグへの夢を持っている。この試合にも出場したピーター・ニーマン捕手は大リーグのアトランタ・ブレーブスと契約し、来季から2Aでプレーすることになっているという。南アからは2人目と聞いて、言葉や文化の壁があるにしても、日本から大リーグに挑戦する選手がもっと出て来ていい。

◆女性スコアラー大活躍

250人中、男性は2人だけ

住金とフランスとの試合が始まる前、バックネット裏のスタンド上段で、紺色のジャンパーを着た2人の女性を見かけた。聞けば、スコアラーだという。数少ない女性スコアラーとばかり思ったら、南アには250人のスコアラーがいるが、男性は2人しかいないそうだ。

大会を支えたボランティアの女性スコアラー

無報酬のボランティア。試合が始まると、1人が日本、1人がフランスに分かれてスコアを記入していた。国際試合を担当できるのはナショナルスコアラーの資格を持つ人で、厳しい試験があるという。2人ともその資格を持ち、12年と9年のキャリアがあると誇らしげに答えた。

翌日、男性スコアラーの1人、レックス・マックニーさんに会った。キャリア12年。年齢は60歳前後。「数字を扱う仕事だから年を取って固くなりかけた頭にいいんだよ。私は野球をしたことがないけど、息子はやってる。スコアラーが女性ばかりの理由？そんなこと分からない」

同じ質問をロンバード会長にしてみたが、「男性はネット裏でスコアをつけるより、グラウンドでプレーしている方が好きだからさ」とはぐらかされた。（平成5年12月 日付け毎日新聞夕刊）

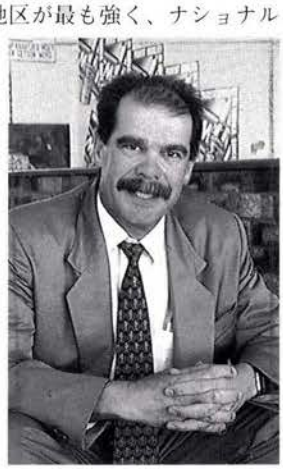
南アフリカ野球連盟 B・ロンバード会長に聞く

PRと底辺拡大が第一

南アフリカ野球連盟のブライアン・ロンバード会長に南アの野球事情などについて聞いた。

――南ア野球の現状は。

競技人口は約1万人。その8割は子供だ。ケープタウンには60チームあり、南ア全体では150ぐらいある。大会は年齢別に7つに分かれ、クラブの全国大会もある。最も大きいのはインタープロビンシャル大会で、6チームが参加する。ケープタウンがある西地区が最も強く、ナショナルチーム22人中、10人が西地区出身者だ。



――いつから野球を。

1910年ごろから始まったが、レベルはとても低かった。50年代からポピュラーになり、この2、3年で人気が出て来た。強化策としてアメリカからコーチを招いたこともある。

――黒人の選手は。

ナショナルチームには3人いる。全員ケープタウンの選手だ。将来、黒人選手はもっと増えるだろう。以前は白人と黒人の2つに分かれていた連盟も2年前に一緒になった。特に西地区の黒人チームは強く、ケープタウンのチームにはいい選手がたくさんいる。

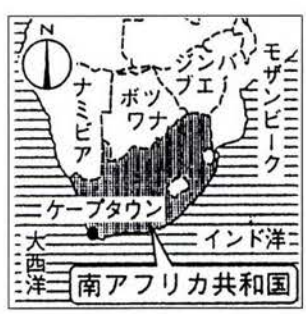
――将来の課題は。

夏はクリケット、冬はラグビーとサッカーが人気を集めている中で野球を普及させるのは難しい。グラウンドがなく、スポンサーもつかない状況だが、第一に底辺の拡大に努めたい。第二にナショナルチームの試合をテレビで放送してもらうとかして、一般の人に野球を知ってもらいたい。野球をやる人が増えれば、レベルも上がるだろう。

略歴

若いころは遊撃手。会長に就任する4年前まではナショナルチームのコーチを務めた。現在はケープタウン大学の卒業生らで作るVOBクラブに所属し、35歳以上のチームで投手をやっている。公認会計士。53歳。

南アフリカ



アフリカ大陸の南端に位置する共和国。17世紀から移住して来たオランダ人の植民地となったが、ボーア戦争を経て、英国の支配下に入った。金やダイヤモンド採掘のために多くの黒人が労働者として連れてこられ、その際、人種隔離政策が取られた。

日本の面積の約3倍に当たる112万平方㌔に約3379万人（黒人2490万人、白人491万人、カラード307万人、インド系91万人）が住む多民族国家。首都はプレトリア。通貨はランド（1ランドは33円）。オランダ語から派生したアフリカーンス語と英語が公用語として使われている。

1995年にはラグビーのワールドカップ開催が予定されており、さらに2004年の夏季五輪誘致に向け、ケープタウンが運動を進めている。

大会全出場チーム一覧および戦績（◎は優勝、●は準優勝、④はベスト4、⑧はベスト8）

区域	出場チーム	出場回数	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回	第十二回	第十三回	第十四回	第十五回	第十六回	第十七回	第十八回	第十九回	第二十回
北海道	新日鉄室蘭	11	○		○	○				○		○		○	○		○	⑧		○	④	
	大昭和製紙北海道	13	⑧	○			④	⑧	○	●			○			○	○	○	○	○		⑧
	たくぎん	8		●	④	○	◎	⑧	⑧		○											○
	新王子製紙苫小牧	4									○	○			○	○						
	NTT北海道	3											○	○					⑧			
	日本製紙旭川	1																			○	
東北	八戸市水道部	1					○															
	盛岡鉄道局	1	○																			
	岩手銀行	3				○					○									○		
	新日鉄釜石	5				○		○			○		○		○							
	TDK	3	○	○	○																	
	秋田相互銀行	3		○						○						○						
	JR東日本東北	4			○		○	○	○													
	オールいわきクラブ	1							○													
	ヨークベニマル	2								○		○										
	JT	8										○	○	○			○	○	○	④	○	
	NTT東北	8												○	④	○	○	○	○		⑧	④
	JA岩手県経済連	1																				○
関東	日立製作所	3	⑧										⑧									⑧
	住友金属鹿島	2			○										○							
	富士重工業	8				○	○	○	⑧	◎			○		○				○			
	日本通運	5		○							●		●								○	④
	本田技研	7						○				○	⑧	◎		④		○		⑧		
	NTT関東	5	○							⑧	④								○	○		
	NTT東京	3	○			○															○	
	鷺宮製作所	2		○		○																
	東京ガス	2			⑧		●															
	リッカー	1							○													
	日本鋼管	2		○	○																	
	日産自動車	6					⑧				○	⑧							⑧	○		●
	三菱自動車川崎	4						○						○	○		○					
	東芝	9							○	⑧		●		④			◎	○	④	○	◎	
	日本石油	9								○				⑧		○	④	●	●	◎	④	○
	明治生命	1									○											
	東芝府中	1										○										
	プリンスホテル	3													○	④					●	
	熊谷組	2														●		④				
	スリーボンド	1															○					
	三菱重工横浜	1																				○
北信越	三協精機	5	◎	⑧	○	⑧	○															
	NTT信越	9	⑧			⑧		○				○	○			○		○		⑧	⑧	
	北陸銀行	2																○	○			
	NTT北陸	5													⑧				⑧	○	○	○
	ニチエー	1																				○
東海	河合楽器	10		○					⑧	④		○		⑧	⑧		○		④	○		⑧
	ヤマハ	10			○		○	⑧	●		⑧		⑧	●		○	○					○
	大昭和製紙	2								○					○							
	ヤマハ発動機	1									◎											
	日通名古屋	2		○																	○	
	新日鉄名古屋	4			◎					○											○	○
	NTT東海	5				○		○					④	○	◎							
	新王子製紙春日井	4					○				○					○	○					
	JR東海	5							○	○	○	⑧	○									
	三菱重工名古屋	1							○													
	西濃運輸	8	○	○	○		○	○										⑧	○	⑧		
	本田技研鈴鹿	6	○			○						○		○		○			⑧			
	東海理化	1															○					
	トヨタ自動車	2																○		○		
	関東自動車工業	1																			○	

区域	出場チーム	出場回数	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回	第十二回	第十三回	第十四回	第十五回	第十六回	第十七回	第十八回	第十九回	第二十回
近畿	三菱自動車京都	4			⑧	○									⑧					⑧		
	大丸	2			⑧		○															
	日本新薬	3										○								○		○
	日本IBM野洲	4											○			⑧	○				○	
	松下電器	15	○	⑧	○	④	④	●	④	○	⑧	⑧	④	⑧		○	○	○				
	日本生命	15	○	④				○	⑧	④	⑧	④	○	○	○			④	◎	○	○	○
	新日鉄堺	8		○					○	⑧	④	○	○			⑧	⑧					
	鐘淵化学	3	○	◎		⑧																
	川崎重工	2								○	○											
	神戸製鋼	12			○	④	⑧	⑧	④	○		○	⑧	④			○	○		○		
	川崎製鉄神戸	8					⑧				○			⑧	④				○	○	○	○
	三菱重工神戸	9	⑧		○		⑧	○	○					○	○				○		⑧	
	新日鉄広畑	6										④			○	⑧		○	○			○
	住友金属	15	○	④		◎		◎		○	⑧	◎	◎	○		⑧	○	◎	○		○	◎
	阿部企業	1													●							
	中山製鋼	1														◎						
	大阪ガス	4															⑧	⑧		●	○	
	NTT関西	2																	○			⑧
中国	三井造船玉野	1				○																
	NKK	8	●						◎			⑧		○		○	⑧	○			○	
	三菱重工広島	7	④	⑧			○	○		○	○					○						
	NTT中国	6					○						○				○	⑧	○	○		
	協和発酵	4			○			④		⑧					○							
	田辺製薬	1							○													
	新日鉄光	6		○	⑧	○						○	○									○
	三菱重工三原	2									○								○			
	川崎製鉄水島	4												○						○	○	○
	三菱自動車水島	1													○							
四国	JR四国	2	④				○															
	大倉工業	4			○		○		○		○											
	NTT四国	13	○			●						○	○	○	○	○	○	○	○	○	⑧	○
	丸善石油	5		○		○		○	○	○												
	伊豫銀行	1		⑧																		
	愛媛相互銀行	1			○																	
	四国銀行	13						○		○	○		○	○	⑧	○	④	○	○	○	○	○
九州	新日鉄八幡	7	○					○					○		○		⑧		○	○		
	JR九州	2		○		○																
	日鉱佐賀関	4			●		○					○			○							
	NTT九州	6	○				○	④		○						○						○
	九州産交	6		○	④	⑧			○	○	○											
	熊本鉄道局	1							○													
	大分鉄道局	2									○			○								
	本田技研熊本	6										○		○			●	○	○		○	
	三菱重工長崎	3											○							④		○
	日産自動車九州	1														○						
	新日鉄大分	2																○			○	

北海道拓殖銀行→たくぎん
山陽国策パルプ旭川→日本製紙旭川
王子製紙苫小牧→新王子製紙苫小牧
専売東北、日本たばこ→JT
仙台鉄道局→JR東日本東北
オールパール常交→オールいわきクラブ
日本楽器→ヤマハ
国鉄名古屋→JR東海
三菱名古屋→三菱重工名古屋
王子製紙春日井→新王子製紙春日井
日本鋼管福山→NKK
国鉄四国→JR四国
門司鉄道局→JR九州

（廃部したチームは出場時の名前で掲載）

試　合

▶最短時間
5（1978） 1時間40分　神戸製鋼ー電電九州

▶最長時間
8（1981） 4時間57分　電電九州ー新日鉄名古屋（延長20回）

▶最長延長戦
8（1981） 20回　電電九州ー新日鉄名古屋

本塁打

▶満塁
7（1980） ①荒井（神戸製鋼） 対大昭和製紙北海道
9（1982） ②岡田（日本通運） 対日本楽器
11（1984） ③高橋（国鉄名古屋） 対日本IBM野洲
〃 ④中村（日本楽器） 対富士重工業
〃 ⑤伊藤（日本通運） 対電電北海道
〃 ⑥中村（神戸製鋼） 対日本通運
15（1988） ⑦森田建（四国銀行） 対新日鉄室蘭
〃 ⑧武田（NTT中国） 対大阪ガス＝代打
〃 ⑨ 西（四国銀行） 対NKK
〃 ⑩高見（東　芝） 対本田技研熊本
16（1989） ⑪徳永（日本石油） 対神戸製鋼
〃 ⑫中西（大阪ガス） 対熊谷組
17（1990） ⑬南谷（三菱重工三原） 対富士重工業＝サヨナラ
19（1992） ⑭徳永（日本石油） 対新日鉄大分

▶サヨナラ
4（1977） ①直村（門司鉄道管理局） 対新日鉄釜石＝延長14回
7（1980） ②小川（河合楽器） 対大倉工業
〃 ③東田（河合楽器） 対東芝
〃 ④木原（松下電器） 対日本生命
9（1982） ⑤岡田（日本通運） 対岩手銀行＝8回コールド
12（1985） ⑥大須賀（河合楽器） 対本田技研熊本＝代打
13（1986） ⑦本村（新日鉄八幡） 対三菱自動車川崎＝延長10回
〃 ⑧ 西（四国銀行） 対新日鉄広畑＝延長11回
〃 ⑨浜名（川崎製鉄神戸） 対NTT北陸＝延長10回
14（1987） ⑩船越（新日鉄広畑） 対日本石油＝延長11回
16（1989） ⑪徳永（日本石油） 対神戸製鋼＝8回コールド
〃 ⑫黒木（熊谷組） 対トヨタ自動車＝8回コールド
17（1990） ⑬南谷（三菱重工三原） 対富士重工業＝満塁

▶先頭打者
14（1987） ①荻原（本田技研） 対NTT信越
15（1988） ②鈴木（日本石油） 対新日鉄八幡
16（1989） ③渡辺（J　T） 対新日鉄大分
〃 ④古竹（西濃運輸） 対日本生命
17（1990） ⑤市川（富士重工業） 対三菱重工三原
〃 ⑥早野（三菱重工三原） 対NTT北海道
〃 ⑦橋本（NTT北海道） 対日本石油
18（1991） ⑧上村（川鉄神戸） 対J　T
19（1992） ⑨竹村（大阪ガス） 対NTT東北

▶大会通算最多
15（1988） 75

▶大会通算チーム最多
15（1988） 16　四国銀行

▶大会通算個人最多
11（1984） 6　伊藤（日本通運） 対電電四国1、電電北海道2、神戸製鋼2、電電東海1

▶1試合最多
16（1989） 8　四国銀行（6）ーNTT東北（2）

▶1試合チーム最多
16（1989） 6　四国銀行　対NTT東北

▶1イニングチーム最多
15（1988） 3　東　芝　対NTT四国

▶1試合個人最多
6（1979） 2　村上（大昭和製紙北海道） 対三菱重工神戸
7（1980） 〃 山内（日本鋼管福山） 対オール常交
9（1982） 〃 岡田（日本通運） 対岩手銀行
10（1983） 〃 米田（日産自動車） 対電電信越
〃 〃 花野（日本生命） 対日産自動車
11（1984） 〃 伊藤（日本通運） 対電電北海道
〃 〃 石田（松下電器） 対三菱重工長崎
〃 〃 島田（松下電器） 対　〃
〃 〃 伊藤（日本通運） 対神戸製鋼
〃 〃 中村（神戸製鋼） 対日本通運
12（1985） 〃 岡崎（本田技研鈴鹿） 対川崎製鉄神戸
13（1986） 〃 中西（NTT東海） 対協和発酵
〃 〃 西（四国銀行） 対新日鉄広畑
〃 〃 木戸（NTT東海） 対NTT東北
〃 〃 山本（阿部企業） 対川崎製鉄神戸
14（1987） 〃 菊田（NTT東北） 対日産自動車九州
〃 〃 雨堤（本田技研） 対四国銀行
〃 〃 長井（本田技研） 対日本IBM野洲
15（1988） 〃 飯田（日本IBM野洲） 対王子製紙春日井
〃 〃 徳永（日本石油） 対神戸製鋼
〃 〃 折原（大阪ガス） 対NTT中国
〃 〃 田中（四国銀行） 対NKK
16（1989） 〃 徳永（日本石油） 対神戸製鋼
〃 〃 森田建（四国銀行） 対NTT東北
〃 〃 佐藤（住友金属） 対NTT中国
17（1990） 〃 小森（西濃運輸） 対本田技研熊本
〃 〃 南谷（三菱重工三原） 対富士重工業
〃 〃 鶴岡（日産自動車） 対北陸銀行
〃 〃 松原（東　芝） 対J　T
〃 〃 五十嵐（日本石油） 対NTT北海道
〃 〃 若林（日本石油） 対東　芝
18（1991） 〃 上野山（三菱自動車京都） 対四国銀行
19（1992） 〃 大久保（日本石油） 対三菱重工神戸
20（1993） 〃 川崎（日本通運） 対NTT北陸

▶個人連続試合
11（1984） 4　伊藤（日本通運） 対電電四国、電電北海道、神戸製鋼、電電東海

▶個人2打席連続
6（1979） 村上（大昭和製紙北海道） 対三菱重工神戸
10（1983） 花野（日本生命） 対日産自動車
11（1984） 伊藤（日本通運） 対電電北海道
13（1986） 中西（NTT東海） 対協和発酵
14（1987） 長井（本田技研） 対日本IBM野洲
15（1988） 飯田（日本IBM野洲） 対王子製紙春日井
〃 梁原（東　芝） 対NTT四国、日本たばこ
16（1989） 徳永（日本石油） 対神戸製鋼
17（1990） 松原（東　芝） 対J　T
20（1993） 川崎（日本通運） 対NTT北陸

▶チーム2連続本塁打
6（1979） 大昭和製紙北海道（高梨、村上） 対三菱重工神戸
11（1984） 日立製作所（国山、内田） 対国鉄名古屋
13（1986） 阿部企業（前田、山本） 対川崎製鉄神戸
14（1987） 王子製紙春日井（篠崎、近藤） 対熊谷組
15（1988） 東芝（小林、畠山） 対NTT四国
〃 四国銀行（田中、谷岡） 対新日鉄室蘭
〃 本田技研熊本（川道、久保） 対新日鉄堺
〃 東　芝（南渕、丹波） 対日本石油
16（1989） 本田技研（朝山、西） 対NTT四国
〃 四国銀行（森田建、宮本章） 対NTT東北
17（1990） 日本石油（五十嵐、若林） 対NTT北海道
19（1992） 日本石油（坂口、若林） 対新日鉄大分

安　打

▶大会通算最多
15（1988） 492

▶1試合最多
15（1988） 35 NTT中国（20）ー東海理化（15）

▶1試合最少
3（1976） 4　日鉱佐賀関（2）ー日本楽器（2）

▶1試合チーム最多
15（1988） 20 NTT中国 対東海理化
〃 〃 東　芝 対日本たばこ

▶1イニングチーム最多
2（1975） 8　鐘淵化学　対住友金属
7（1980） 〃 日本楽器　対北海道拓殖銀行
11（1984） 〃 国鉄名古屋　対日本IBM野洲
〃 〃 電電中国　対神戸製鋼
12（1985） 〃 東　芝　対日本鋼管福山
16（1989） 〃 新日鉄室蘭　対松下電器
20（1993） 〃 日本通運　対NTT関西

▶1イニング連続安打
2(1975) 7 鐘淵化学 対住友金属の7回
6(1979) 〃 住友金属 対神戸製鋼の8回
17(1990) 〃 NTT東北 対四国銀行の2回

▶毎回
8(1981) 東 芝 対四国銀行
〃 日本生命 対電電九州
＝7回コールド
11(1984) 日本楽器 対富士重工業
〃 神戸製鋼 対電電中国
12(1985) 松下電器 対三菱自動車川崎
〃 本田技研 対川崎製鉄神戸
＝6回コールド
16(1989) 松下電器 対NTT信越
19(1992) 川崎製鉄水島 対日本生命
〃 日本通運 対ＪＴ
〃 住友金属 対東芝
20(1993) 日立製作所 対新日鉄広畑

二塁打

▶大会通算最多
17(1990) 76

▶1試合最多
12(1985) 9 神戸製鋼(7)—NTT東海(2)
17(1990) 〃 西濃運輸(5)—本田技研熊本(4)
〃 〃 NTT北海道(7)—住友金属(2)

▶1試合チーム最多
12(1985) 7 神戸製鋼 対NTT東海
17(1990) 〃 NTT北海道 対住友金属

▶1イニングチーム最多
10(1983) 4 王子製紙苫小牧 対電電四国の3回

三塁打

▶大会通算最多
17(1990) 13

▶1試合最多
4(1977) 3 電電東海(2)—神戸製鋼(1)

▶1試合チーム最多
2 延べ18チームが記録

▶1イニングチーム最多
2(1975) 2 鐘淵化学 対九州産交
5(1978) 〃 東京ガス 対三菱重工広島
6(1979) 〃 住友金属 対神戸製鋼
15(1988) 〃 日本石油 対東芝
17(1990) 〃 日本生命 対河合楽器
18(1991) 〃 三菱自動車京都 対四国銀行
20(1993) 〃 三菱重工長崎 対住友金属
〃 〃 日本通運 対NTT関西

得点

▶大会通算
15(1988) 257

▶チーム大会通算
15(1988) 51 東 芝

▶1試合最多得点
15(1988) 25 NTT中国(15)—東海理化(10)

▶1試合チーム最多
11(1984) 18 松下電器 対三菱重工長崎
＝7回コールド

▶1イニングチーム最多
13(1986) 10 NTT東海 対協和発酵の9回

その他の打撃記録

▶全員安打
16(1989) 日本石油 対神戸製鋼
〃 熊谷組 対トヨタ自動車
20(1993) 日立製作所 対新日鉄広畑

▶先発全員安打全員得点
12(1985) 日本楽器 対大分鉄道管理局
15(1988) 東 芝 対日本たばこ

▶1試合チーム最多塁打
15(1988) 35 NTT中国 対東海理化

▶1試合個人最多塁打
7(1980) 11 山内(日本鋼管福山)
対オール常交

▶1試合チーム最多犠打
7(1980) 6 北海道拓殖銀行 対田辺製薬
＝延長10回
11(1984) 〃 電電東海 対新日鉄堺
〃 〃 住友金属 対日本通運
16(1989) 〃 日本石油 対新日鉄室蘭
17(1990) 〃 日本石油 対NTT北海道

▶1イニングチーム最多犠打
4(1977) 3 住友金属 対九州産交
7(1980) 〃 北海道拓殖銀行 対田辺製薬
8(1981) 〃 国鉄名古屋 対協和発酵
10(1983) 〃 国鉄名古屋 対神戸製鋼
14(1987) 〃 NTT東北 対日産自動車九州
17(1990) 〃 大昭和製紙北海道 対NTT関西
18(1991) 〃 河合楽器 対日産自動車
※第4回、第8回、第17回、第18回は連続記録

▶1試合チーム最多盗塁
3(1976) 6 三菱自動車京都
対仙台鉄道管理局
6(1979) 〃 三菱重工神戸 対本田技研
7(1980) 〃 日本鋼管福山 対オール常交
〃 〃 神戸製鋼 対河合楽器
15(1988) 〃 大昭和製紙北海道 対新日鉄八幡

▶1試合個人最多盗塁
6(1979) 5 川辺(三菱重工神戸) 対本田技研

投手

▶最多奪三振
17(1990) 14 新谷(日本生命) 対NTT東北
※参考記録＝3(1976) 14 児玉(新日鉄光)
対大倉工業＝延長11回 ▷6(1979) 14
鈴木(電電信越) 対丸善石油＝延長13回

▶連続奪三振
4(1977) 6 斉藤(新日鉄釜石)
対門司鉄道管理局
16(1989) 〃 木村(日本生命) 対西濃運輸
17(1990) 〃 新谷(日本生命) 対NTT東北
19(1992) 〃 小桧山(日本石油) 対NTT北陸

▶毎回奪三振
17(1990) 新谷(日本生命) 対NTT東北
＝計14個

▶全員三振奪取
16(1989) 金沢健一(日本石油) 対新日鉄室蘭
＝計10人(11奪三振)

▶連続試合完封
1(1974) 2 大塚(三協精機)
対松下電器、大昭和製紙北海道
3(1976) 〃 門倉(九州産交)
対ＴＤＫ、三協精機
4(1977) 〃 福間(松下電器)
対本田技研鈴鹿、鐘淵化学
5(1978) 〃 松沼(東京ガス) 対神戸製鋼、大昭和製紙北海道
12(1985) 〃 伊東(本田技研)
対川崎製鉄神戸、東芝

▶最多与四死球
7(1980) 10 鈴木秀(オール常交)
対日本鋼管福山

▶無四球試合
4(1977) 三協精機(伊藤)—神戸製鋼(登記)
※3投手以上＝1(1974) 鐘淵化学(宮田)—西濃運輸(早川、柴田、宮本) ▷4(1977) 松下電器(福間)—本田技研鈴鹿(前村、金本、名和) ▷20(1993) 日立製作所(大塚、伊藤)—川崎製鉄水島(朝間)、日産自動車(久保、川尻、一条、篠塚)—住友金属(尾山)

▶最多投球数
17(1990) 163 鈴木(日本石油)
対大昭和北海道
※参考記録＝4(1977) 248 門倉(九州産交) 対鷺宮製作所＝延長19回

▶最少投球数
3(1976) 69 浅井(ＴＤＫ) 対九州産交

守備

▶1試合チーム最多失策
8(1981) 5 川崎重工 対大昭和製紙北海道
10(1983) 〃 松下電器 対住友金属
13(1986) 〃 四国銀行 対NTT東北

▶1試合チーム最多併殺
13(1986) 5 川崎製鉄神戸 対新日鉄釜石

本塁打記録（左端の数字は通算本塁打）

▶第1回大会

1	1	岡本	道夫	日本鋼管福山
2	2	金原	晴夫	ＴＤＫ
3	3	我喜屋	優	大昭和製紙北海道
4	4	塚本	巧	国鉄四国
5	5	山本	功児	本田技研鈴鹿
6	6	星山	和久	三協精機
7	7	岡本	道夫	日本鋼管福山 2試合連続
8	8	中井	順二	日本生命
9	9	吉川	丈一	三菱重工広島
10	10	外囿	郁夫	鐘淵化学 ランニング
11	11	小野寺重之		日立製作所
12	12	末永	成典	鐘淵化学 代打
13	13	田村	忠義	日本鋼管福山 投手
14	14	古川	達雄	三菱重工広島

▶第2回大会

15	1	中出	謙二	新日鉄堺
16	2	福永	純一	丸善石油
17	3	若松	実	三菱重工広島 投手
18	4	前橋多美雄		日通名古屋
19	5	持主	雅仁	伊予銀行
20	6	菅	豊	拓殖銀行
21	7	峯本	達雄	新日鉄堺 代打
22	8	山下	隆士	丸善石油
23	9	赤井	淳二	日本生命
24	10	伊藤	俊明	秋田相互銀行 代打
25	11	豊国	利一	三協精機
26	12	佐々木幸治		三菱重工広島
27	13	野村	茂	日本生命
28	14	佐伯	国司	九州産交
29	15	佐藤	治夫	鐘淵化学

▶第3回大会

30	1	中井	照也	大倉工業
31	2	都築	義晴	住友金属鹿島
32	3	山口	円	松下電器
33	4	湯野	清二	日鉱佐賀関
34	5	柳原	信彦	協和発酵
35	6	楢原	明	大丸
36	7	梅原	良樹	〃
37	8	木村	司	日鉱佐賀関
38	9	吉田	秀雄	新日鉄名古屋
39	10	長沢	和雄	大丸
40	11	村上	学	新日鉄光 代打
41	12	湯野	清二	日鉱佐賀関 通算2本目

▶第4回大会

42	1	古賀	博樹	神戸製鋼
43	2	東野	幸雄	富士重工
44	3	井上	新一	九州産交 1イニング
45	4	坂東	一彦	〃 1イニング
46	5	直村	盛治	門司鉄道管理局 14回サヨナラ
47	6	田中	昌宏	三協精機
48	7	大村	雅文	神戸製鋼
49	8	川上	謙治	住友金属

▶第5回大会

50	1	川越	雄一	電電九州
51	2	小林	裕一	〃
52	3	渡辺	茂	東京ガス
53	4	城戸	勉	電電中国
54	5	岩沢	建一	日産自動車
55	6	樋江井忠臣		三協精機
56	7	高梨	英夫	大昭和製紙北海道
57	8	大村	雅文	神戸製鋼 通算2本目
58	9	山中	秀明	日産自動車 代打

▶第6回大会

59	1	竹中	円	三菱重工神戸
60	2	上久保一平		本田技研
61	3	加藤	雄一	新日鉄八幡 1イニング
62	4	下村	肇	〃 1イニング
63	5	堀田	晴一	拓殖銀行 投手
64	6	田伏	清美	〃
65	7	山本	文晴	〃
66	8	山極	憲三	西濃運輸
67	9	柴田	克己	電電九州
68	10	湯之戸孝修		電電東海
69	11	高梨	英夫	大昭和製紙北海道 連続
70	12	村上	忠則	〃 連続
71	13	村上	忠則	〃
72	14	岡田	敏裕	三菱重工神戸
73	15	山田	勉	松下電器
74	16	竹崎	恭二	日本楽器
75	17	沢熊	辰己	新日鉄八幡
76	18	古嶋	正人	協和発酵
77	19	三上	広見	新日鉄釜石
78	20	高岡	茂夫	拓殖銀行
79	21	日高	明彦	新日鉄釜石
80	22	内海	昌之	日本楽器 代打
81	23	山田	勉	松下電器 通算2本目
82	24	梅田隆比克		拓殖銀行
83	25	鍛治舎	巧	松下電器
84	26	田中	祐司	住友金属

▶第7回大会

85	1	野口	和生	河合楽器
86	2	小川	淳司	〃 逆転サヨナラ
87	3	関	弘己	日本鋼管福山 1イニング
88	4	山内	明	〃 1イニング 通算2本目
89	5	山内	明	〃
90	6	高橋	哲夫	国鉄名古屋
91	7	荒井	信久	神戸製鋼 満塁
92	8	山崎	博行	〃
93	9	高梨	英夫	大昭和製紙北海道 通算3本目
94	10	若林	浩	神戸製鋼 代打
95	11	東田都志男		河合楽器 サヨナラ
96	12	白水登樹二		リッカー
97	13	木原	弘人	松下電器
98	14	山内	明	日本鋼管福山 通算3本目
99	15	佐名木睦夫		〃
100	16	武居	邦生	日本楽器
101	17	松川	正樹	松下電器
102	18	木原	弘人	〃 通算2本目 サヨナラ
103	19	今岡	逸朗	日本鋼管福山
104	20	松川	正樹	松下電器 通算2本目
105	21	関	弘己	日本鋼管福山 通算2本目
106	22	渡部	一治	〃

▶第8回大会

107	1	鈴木	秀男	富士重工
108	2	乃一	官	四国銀行
109	3	村上	忠則	大昭和製紙北海道 通算3本目
110	4	岡本	哲司	神戸製鋼
111	5	阪本	徹	河合楽器
112	6	菊地	恭一	東芝
113	7	宮崎	剛	〃
114	8	村上	忠則	大昭和製紙北海道 通算4本目
115	9	梁原	修志	〃
116	10	高梨	英夫	〃 通算4本目
117	11	川越	雄一	電電九州 通算2本目
118	12	佐藤	清	日本生命
119	13	清水	信英	新日鉄堺
120	14	蝦沢	道明	富士重工
121	15	高梨	英夫	大昭和製紙北海道 通算5本目
122	16	阪本	徹	河合楽器 通算2本目
123	17	村田	博幸	富士重工

▶第9回大会

124	1	阿部	一行	王子製紙苫小牧
125	2	若松	茂樹	三菱重工広島 通算2本目
126	3	田代	文博	九州産交
127	4	山本	一孝	〃
128	5	鶴岡	昌宏	日産自動車
129	6	中西	孝吉	新日鉄堺
130	7	浦	誠哉	〃
131	8	浦東	靖	〃
132	9	渡辺	博	三菱重工三原
133	10	辻	発彦	日本通運
134	11	岡田	吉富	日本通運
135	12	牛島	浩彰	〃
136	13	岡田	吉富	〃 通算2本目
137	14	田中	祐司	住友金属 通算2本目
138	15	片山	雅彦	電電関東
139	16	若山	哲男	日産自動車
140	17	岡田	吉富	日本通運 満塁、通算3本目（1大会2人目）
141	18	坂本	照彦	電電関東
142	19	三好	一幸	住友金属

▶第10回記念大会

143	1	石井	馨	王子製紙苫小牧
144	2	松田	裕之	本田技研
145	3	植田	利幸	国鉄名古屋 1イニング
146	4	林	洋	〃 1イニング
147	5	後藤	哲夫	新日鉄室蘭
148	6	栗山	和行	住友金属
149	7	山本宗三郎		河合楽器
150	8	森本	進	国鉄名古屋 先頭打者
151	9	林	洋	〃 通算2本目 1イニング
152	10	高橋	哲夫	〃 1イニング 通算2本目
153	11	武智	勇治	東芝
154	12	藤嶋	一利	電電信越
155	13	米田	保伸	日産自動車
156	14	箱山	和宏	電電信越
157	15	米田	保伸	日産自動車 通算2本目
158	16	坂野	彰宏	国鉄名古屋
159	17	早瀬	万豊	日本生命 投手
160	18	花野	巧	〃 連続打席
161	19	花野	巧	〃 通算2本目
162	20	夜久	幸治	新日鉄広畑 投手
163	21	筒井	大助	住友金属
164	22	佐藤	雄樹	〃
165	23	尾形	正己	新日鉄広畑
166	24	三好	一幸	住友金属 通算2本目
167	25	森田	昇	日本生命

▶第11回大会

168	1	福本	高典	新日鉄八幡
169	2	原野	優	専売東北 1イニング
170	3	大内	俊治	〃 1イニング
171	4	浦本	慶啓	神戸製鋼
172	5	金丸	昭彦	日本通運
173	6	伊藤由紀夫		〃
174	7	高橋	哲夫	国鉄名古屋 満塁 通算3本目
175	8	坂上	博文	日本ＩＢＭ野洲
176	9	岩田	忠典	〃
177	10	林	修治	三菱重工長崎
178	11	長井	研介	本田技研
179	12	浦	誠哉	新日鉄堺 通算2本目
180	13	武居	邦生	日本楽器 通算2本目
181	14	劉	秋農	〃 投手
182	15	中村	和彦	〃 満塁
183	16	日川	雅夫	神戸製鋼
184	17	小林	貢	〃
185	18	伊藤由紀夫		日本通運 通算2本目
186	19	伊藤由紀夫		〃 2打席連続 通算3本目、満塁
187	20	日比野	勇	電電北海道
188	21	岩井	敏幸	日本通運
189	22	岡田	吉富	〃 通算4本目
190	23	佐藤	雄樹	住友金属
191	24	松隈	憲治	〃
192	25	国山	尊典	日立製作所 2者連続
193	26	内田	強	〃 2者連続
194	27	島田	行雄	松下電器
195	28	石田富士男		〃 投手
196	29	石田富士男		〃 投手1試合2本 通算2本目
197	30	島田	行雄	〃 1試合2本 通算2本目
198	31	雨堤	浩久	本田技研
199	32	伊藤由紀夫		日本通運 通算4本目
200	33	中村	好治	神戸製鋼
201	34	望月	伸一	日本通運
202	35	岡田	吉富	〃 通算5本目

203	36	中村　好治	神戸製鋼		1試合2本 通算2本目、満塁
204	37	伊藤由紀夫	日本通運		1試合2本 通算5本目
205	38	岡本　哲司	神戸製鋼		通算2本目
206	39	遠藤　芳信	日立製作所		
207	40	北野　敏史	松下電器		
208	41	平岡　靖彦	〃		
209	42	島田　行雄	〃		通算3本目
210	43	柿沼　章文	日本通運		
211	44	湯之戸孝修	電電東海		通算2本目
212	45	伊藤由紀夫	日本通運		通算6本目
213	46	柿沼　章文	〃		通算2本目
214	47	筒井　大助	住友金属		通算2本目
		▶第12回大会			
215	1	荻　浩文	大分鉄道局		
216	2	内山　仁志	日本楽器		
217	3	佐藤　正則	〃		
218	4	中西　親志	ＮＴＴ東海		
219	5	丹波谷至邦	神戸製鋼		
220	6	森田　範三	ＮＴＴ東海		
221	7	石元　浩三	ＮＴＴ四国		
222	8	阿部　稔	四国銀行		
223	9	趙　士強	本田技研鈴鹿		
224	10	大須賀　健	河合楽器		サヨナラ
225	11	宮崎　剛	東芝		通算2本目
226	12	福本　勝幸	〃	1イニング	
227	13	安斉　定男	〃		
228	14	村上　文敏	日本鋼管福山		
229	15	片岡　定治	東芝		
230	16	佐藤　雄樹	住友金属		通算3本目
231	17	三好　一幸	〃		通算3本目
232	18	佐藤　正則	日本楽器		通算2本目
233	19	内山　仁志	〃		通算2本目
234	20	島田　行雄	松下電器		通算4本目
235	21	林　寿郎	〃		
236	22	広岡　資生	〃		
237	23	大本　二郎	〃		
238	24	高野　清秀	神戸製鋼	1イニング	
239	25	日川　雅夫	〃	通算2本目	
240	26	西上　健治	川崎製鉄水島		
241	27	丹波谷至邦	神戸製鋼		通算2本目
242	28	対馬　昭男	日本石油		
243	29	岡崎　純一	本田技研鈴鹿		
244	30	中谷　亨	川崎製鉄神戸		代打
245	31	石津　明弘	〃		
246	32	岡崎　純一	本田技研鈴鹿		1試合2本
247	33	松本　芳一	三菱重工神戸		
248	34	村瀬　耕次	河合楽器		
249	35	鈴木　智治	〃		通算2本目
250	36	福本　勝幸	東芝		
251	37	岡田　仁	新日鉄室蘭		
252	38	梁原　修志	東芝		通算2本目
253	39	篠崎　宏道	松下電器		
254	40	武居　邦生	日本楽器		通算3本目
255	41	曽根原博志	日本石油		
256	42	入内島　保	本田技研		
257	43	荻原　俊文	〃		
258	44	前田　誠	東芝		
259	45	村瀬　耕次	河合楽器		通算2本目
260	46	鈴木　栄一	東芝		代打
261	47	中村　好治	神戸製鋼		通算3本目
262	48	広瀬　哲朗	本田技研		
263	49	山越　吉洋	〃		
264	50	広瀬　哲朗	〃		通算2本目
265	51	荻原　俊文	〃		通算2本目
		▶第13回大会			
266	1	中西　親志	ＮＴＴ東海		通算2本目
267	2	中西　親志	〃		2打席連続 通算3本目
268	3	岡本　達朗	協和発酵		
269	4	辻　慶人	ＮＴＴ東海		
270	5	並木　保彦	河合楽器		
271	6	佐藤　清	日本生命		通算2本目
272	7	沢田　義文	王子製紙苫小牧		
273	8	羽田野達彦	日鉱佐賀関		
274	9	富永　武雄	富士重工業		
275	10	八木　裕	三菱自動車水島		
276	11	若槻　弘之	新日鉄釜石		
277	12	本村　正一	新日鉄八幡		サヨナラ
278	13	並木　保彦	河合楽器		通算2本目
279	14	村瀬　耕次	〃		通算3本目
280	15	中藤　義雄	プリンスホテル		
281	16	多田　浩	ＮＴＴ東北		
282	17	羽田野達彦	日鉱佐賀関		通算2本目
283	18	菊田　善信	ＮＴＴ東北		
284	19	小羽　保治	阿部企業	1イニング	
285	20	山本　清二	〃		
286	21	西　弘顕	四国銀行		
287	22	西　弘顕	〃		1試合2本サヨナラ 通算2本目
288	23	中谷　亨	川崎製鉄神戸		通算2本目
289	24	田沢　一仁	新日鉄釜石		
290	25	吉田　幸也	〃		
291	26	森田　範三	ＮＴＴ東海		通算2本目
292	27	沢田　郡拡	〃		
293	28	菊田　善信	ＮＴＴ東北		通算2本目
294	29	岡田　周三	三菱自動車京都		
295	30	石津　明弘	川崎製鉄神戸		通算2本目
296	31	新座　良一	ＮＴＴ北陸		
297	32	浜名　敬一	川崎製鉄神戸		サヨナラ
298	33	木戸　均	ＮＴＴ東海		
299	34	木戸　均	〃		1試合2本 通算2本目
300	35	前田　勝司	阿部企業		2者連続
301	36	山本　清二	〃		通算2本目
302	37	山本　清二	〃		1試合2本 通算3本目
303	38	小羽　保治	〃		通算2本目
304	39	中西　親志	ＮＴＴ東海		通算4本目
		▶第14回大会			
305	1	東　良一	日産自動車九州	1イニング	
306	2	鈴木　勝則	〃		
307	3	福地日出雄	ＮＴＴ東北		
308	4	菊田　善信	〃		通算3本目
309	5	菊田　善信	〃		1試合2本 通算4本目
310	6	阿相　信義	大昭和製紙北海道		
311	7	雨堤　浩久	本田技研		通算2本目
312	8	金子　誠一	〃		
313	9	西　弘顕	四国銀行		通算3本目
314	10	雨堤　浩久	本田技研		1試合2本 通算3本目
315	11	西　俊児	〃		
316	12	中村　和彦	ヤマハ		通算2本目
317	13	佐藤　正則	〃		通算3本目
318	14	京屋　建司	秋田相互銀行		
319	15	岩野　好伸	日本鋼管福山		
320	16	板東　照雄	ＮＴＴ四国		
321	17	宮里　太	熊谷組		
322	18	小野　亨	ＮＴＴ東北		
323	19	松井　弥	中山製鋼		
324	20	若井　基安	日本石油		
325	21	杉本　拓也	新日鉄広畑		
326	22	船越　敏彦	〃		サヨナラ
327	23	荻原　俊文	本田技研		先頭打者 通算2本目
328	24	金子　誠一	〃		通算2本目
329	25	宮坂　重雄	ヤマハ		
330	26	浦東　靖	新日鉄堺		通算2本目
331	27	後藤　政広	ヤマハ		
332	28	岡田　和則	日本鋼管福山		代打
333	29	篠崎　浩行	王子製紙春日井		投手
334	30	近藤　岩男	〃		2者連続
335	31	黒岩　幸則	熊谷組		
336	32	高野　詳宏	〃		
337	33	佐藤　和弘	〃		
338	34	長井　研介	本田技研		通算2本目
339	35	雨堤　浩久	〃		通算4本目 1イニング
340	36	長井　研介	〃		2打席連続 通算3本目
341	37	小川　博文	プリンスホテル		
342	38	中島　輝士	プリンスホテル		
343	39	清水　隆一	熊谷組		
344	40	伊吹　淳一	〃		代打
345	41	筒井　大助	住友金属		通算3本目
346	42	小川　博文	プリンスホテル		通算2本目
		▶第15回記念大会			
347	1	多田　浩	ＮＴＴ東北		通算2本目
348	2	猪狩　正弘	〃		1イニング
349	3	坂本　正	本田技研熊本		
350	4	村瀬　耕次	河合楽器		通算4本目
351	5	太田代慎也	日本ＩＢＭ野洲		
352	6	仙波　泰三	王子製紙春日井		先頭打者
353	7	棚橋　祐司	〃		
354	8	飯田　孝雄	日本ＩＢＭ野洲		
355	9	飯田　孝雄	〃		2打席連続 通算2本目
356	10	薬師神一成	四国銀行		
357	11	西　弘顕	〃		通算4本目
358	12	宮本　章彦	〃		
359	13	谷岡　秀一	〃		
360	14	斉藤　徹	三菱自動車川崎		
361	15	平野　逸男	〃		
362	16	田中　靖秀	四国銀行		
363	17	丸谷富美夫	新日鉄八幡		
364	18	高木　吉夫	大昭和製紙北海道		
365	19	伊藤　雄二	新日鉄八幡		
366	20	藤崎　靖彦	〃		
367	21	高野　清秀	神戸製鋼		通算2本目
368	22	小阪田　宏	ヤマハ		
369	23	北口　和正	ＮＴＴ中国		
370	24	宇佐美忠志	〃		
371	25	下岡　秀荘	〃		代打
372	26	大谷　薫	東海理化		
373	27	松本　秀敏	ＮＴＴ四国		
374	28	梁原　修志	東芝		通算3本目
375	29	小林　薫	〃		代打
376	30	畠山　弘彰	〃		2者連続 1イニング3本
377	31	河野幸四郎	本田技研熊本		
378	32	石原　貢	新日鉄堺		
379	33	飯田　孝雄	日本ＩＢＭ野洲		通算3本目
380	34	岩野　好伸	ＮＫＫ		通算2本目
381	35	苅部　稔	〃		
382	36	藤原　良一	日本ＩＢＭ野洲		
383	37	森田　建司	四国銀行		満塁
384	38	鈴木　忠仁	新日鉄室蘭		
385	39	宮本　章彦	四国銀行		通算2本目
386	40	田中　靖秀	〃		通算2本目
387	41	谷岡　秀一	〃		2者連続 通算2本目
388	42	西岡　良展	住友金属		代打
389	43	徳永　耕治	日本石油		
390	44	丹波谷至邦	神戸製鋼		通算3本目
391	45	鈴木　慶裕	日本石油		
392	46	徳永　耕治	〃		1試合2本 通算2本目
393	47	折原　康伸	大阪ガス		
394	48	宇佐美忠志	ＮＴＴ中国		通算2本目
395	49	武田　茂人	〃		代打満塁
396	50	折原　康伸	大阪ガス		1試合2本 通算2本目
397	51	北口　和正	ＮＴＴ中国		通算2本目
398	52	原野　優	日本たばこ		通算2本目
399	53	及川　正則	〃		1イニング
400	54	梁原　修志	東芝		通算4本目
401	55	福本　勝幸	〃		通算3本目
402	56	川道　二郎	本田技研熊本		2者連続
403	57	久保　憲司	〃		
404	58	西　弘顕	四国銀行		満塁 通算5本目
405	59	田中　靖秀	〃		通算3本目
406	60	宮本　雄二	〃		
407	61	田中　靖秀	〃		1試合2本 通算4本目
408	62	薬師神一成	〃		通算2本目
409	63	鈴木　慶裕	日本石油		先頭打者 通算2本目
410	64	丸谷富美夫	新日鉄八幡		通算2本目
411	65	坂口　裕之	日本石油		

本塁打記録（左端の数字は通算本塁打）

412	66	安岡	靖晃	日本石油	
413	67	鉄見	浩次	新日鉄八幡	
414	68	南渕	時高	東芝	
415	69	谷岡	秀一	四国銀行	通算3本目
416	70	宮本	雄二	〃	通算2本目
417	71	安藤	芳人	本田技研熊本	
418	72	徳永	耕治	日本石油	通算3本目
419	73	南渕	時高	東芝	通算2本目
420	74	丹波	健二	〃	2者連続
421	75	高見	泰範	〃	満塁
	▶第16回大会				
422	1	山田	仁寿	本田技研	
423	2	竹島	誠	ＮＴＴ四国	
424	3	河野	浩三	〃	
425	4	朝山	憲重	本田技研	2者連続
426	5	西	俊児	〃	通算2本目
427	6	渡辺	則昌	ＪＴ	先頭打者
428	7	鈴木	英之	神戸製鋼	
429	8	徳永	耕治	日本石油	通算4本目、満塁
430	9	日川	雅夫	神戸製鋼	通算3本目
431	10	徳永	耕治	日本石油	2打席連続サヨナラ 通算5本目
432	11	中本	浩	松下電器	
433	12	福沢	剛	ＮＴＴ信越	代打
434	13	安田	篤	北陸銀行	
435	14	竹田	満宗	本田技研熊本	
436	15	森田	建司	四国銀行	通算2本目
437	16	宮本	章彦	〃	2者連続
438	17	町田	明謙	〃	通算3本目
439	18	谷岡	秀一	〃	1イニング2本 通算4本目
440	19	森田	建司	〃	1試合2本 通算3本目
441	20	戸羽	英之	ＮＴＴ東北	
442	21	薬師神一成		四国銀行	通算3本目
443	22	夷塚	博	ＮＴＴ東北	
444	23	古田	敦也	トヨタ自動車	1イニング
445	24	間瀬	啓介	〃	
446	25	砂田	弘樹	新日鉄広畑	
447	26	川瀬	世資	日本生命	
448	27	河野	浩三	ＮＴＴ四国	通算2本目
449	28	伊東	剛	西濃運輸	
450	29	鈴木	康之	〃	
451	30	寺嶋	哲也	ＪＴ	
452	31	金久保孝治		ＮＫＫ	
453	32	篠崎	宏道	松下電器	通算2本目
454	33	北口	和正	ＮＴＴ中国	通算3本目
455	34	丹波	健二	東芝	通算2本目
456	35	小林	薫	〃	通算2本目
457	36	中西	亮介	大阪ガス	
458	37	松田	竜二	〃	
459	38	森山	茂	熊谷組	
460	39	古田	敦也	トヨタ自動車	通算2本目
461	40	黒木	義美	熊谷組	サヨナラ
462	41	吉竹	正	西濃運輸	先頭打者
463	42	中村	昭徳	日本生命	
464	43	水野	英樹	西濃運輸	
465	44	児玉	卓也	日本生命	
466	45	若林	重喜	日本石油	
467	46	佐藤	雄樹	住友金属	通算4本目
468	47	篠原	勝	ＮＴＴ中国	
469	48	佐藤	雄樹	住友金属	1試合2本 通算5本目
470	49	樋野	徹	〃	1イニング
471	50	佐藤	和弘	熊谷組	通算2本目
472	51	中西	亮介	大阪ガス	満塁 通算2本目
473	52	黒木	義美	熊谷組	通算2本目
474	53	高野	詳宏	〃	通算2本目
475	54	森山	茂	〃	通算2本目
	▶第17回大会				
476	1	秋山	洋満	三菱重工神戸	
477	2	硯	昌己	西濃運輸	1イニング
478	3	小森	茂	〃	
479	4	伊東	剛	〃	通算2本目
480	5	小森	茂	〃	1試合2本 通算2本目
481	6	下野	博樹	ＮＴＴ北陸	
482	7	尾前	拓己	〃	
483	8	猪狩	正弘	ＮＴＴ東北	通算2本目
484	9	菊田	善信	〃	通算5本目
485	10	井上	幹也	四国銀行	
486	11	川村	健司	ＮＴＴ関東	
487	12	市川	司郎	富士重工業	先頭打者
488	13	南谷	光清	三菱重工三原	
489	14	南谷	光清	〃	満塁本塁打
490	15	佐藤	雄樹	住友金属	通算5本目
491	16	西田	英資	ＮＴＴ関西	
492	17	鈴木	康之	西濃運輸	通算2本目
493	18	渡辺	等	日産自動車	
494	19	鶴岡	昌宏	〃	通算2本目
495	20	鶴岡	昌宏	〃	1試合2本 通算3本目
496	21	松原	和也	東芝	1イニング
497	22	高見	泰範	〃	通算2本目
498	23	松原	和也	〃	2打席連続 通算2本目
499	24	菅原	隆浩	ＪＴ	代打
500	25	久芳	修平	本田技研鈴鹿	
501	26	大久保	隆	〃	
502	27	長井	秀夫	ＮＴＴ関東	
503	28	早野	公俊	三菱重工三原	先頭打者
504	29	佐藤	孝治	日本石油	
505	30	橋本	和丸	ＮＴＴ北海道	先頭打者
506	31	五十嵐章人		日本石油	2者連続
507	32	若林	重喜		通算2本目
508	33	五十嵐章人		〃	1試合2本 通算2本目
509	34	熊添	英樹	日本生命	
510	35	坂口	裕之	日本石油	通算2本目
511	36	若林	重喜	〃	通算3本目
512	37	若林	重喜	〃	1試合2本 通算4本目
513	38	十河	章浩	日本生命	
	▶第18回大会				
514	1	西村	隆史	東芝	
515	2	長井	秀夫	ＮＴＴ関東	通算2本目
516	3	宍倉	靖英	〃	代打
517	4	湯川	素哉	大阪ガス	
518	5	洲加本弘樹		三菱重工長崎	
519	6	山口	高誉	本田技研	
520	7	鈴木	智治	河合楽器	通算2本目
521	8	相田	武徳	日本石油	
522	9	徳永	耕治	〃	通算6本目
523	10	石野	史昭	トヨタ自動車	
524	11	上野山達夫		三菱自動車京都	
525	12	森上	弘之	〃	
526	13	宮本	雄二	四国銀行	通算3本目
527	14	上野山達夫		三菱自動車京都	1試合2本 通算2本目
528	15	持田	満男	西濃運輸	
529	16	松田	竜二	大阪ガス	通算2本目
530	17	橋口	博一	〃	
531	18	野寺	光秀	ＮＴＴ関東	
532	19	上	和秀	大阪ガス	1イニング
533	20	折原	康伸	〃	通算3本目
534	21	満薗	浩	三菱重工長崎	
535	22	原田	能英	〃	
536	23	三好	利幸	ＮＴＴ四国	
537	24	高橋	昭二	ＮＴＴ信越	
538	25	上村	真弘	川崎製鉄神戸	先頭打者
539	26	菅原	隆浩	ＪＴ	通算2本目
540	27	川中	哲也	川崎製鉄神戸	
541	28	原野	優	ＪＴ	通算3本目
542	29	戸崎	勝樹	神戸製鋼	
543	30	森上	弘之	三菱自動車京都	通算2本目
544	31	小島	啓民	三菱重工長崎	
545	32	鎌田	倫昌	ＪＴ	代打
546	33	高橋	良誠	〃	
547	34	青山	准	ＮＴＴ信越	
548	35	岩崎武千法		三菱自動車京都	
549	36	村上	清	日本石油	
550	37	上野山達夫		三菱自動車京都	通算3本目
551	38	徳永	耕治	日本石油	通算7本目
552	39	徳永	耕治	〃	通算8本目
553	40	原野	優	ＪＴ	通算4本目
	▶第19回大会				
554	1	宮内	洋	住友金属	
555	2	芝	和彦	ＮＴＴ四国	
556	3	丹下	真一	〃	
557	4	曽川	功一	山陽国策パルプ旭川	
558	5	小松	敬志	川崎製鉄水島	
559	6	岩切	浩志	〃	
560	7	徳永	耕治	日本石油	通算9本目
561	8	梅沢	宏之	ＮＴＴ北陸	
562	9	足立	修	プリンスホテル	1イニング
563	10	瀬戸山満年		〃	
564	11	斎藤慎太郎		〃	
565	12	鈴木	一	日本ＩＢＭ野洲	代打
566	13	畠山	弘彰	東芝	通算2本目
567	14	坂口	裕之	日本石油	通算3本目
568	15	若林	重喜	〃	2者連続 通算5本目
569	16	槇	利一	新日鉄大分	
570	17	徳永	耕治	日本石油	満塁 通算10本目
571	18	高林	孝行	〃	
572	19	井出	竜也	日本通運	
573	20	岡田	健一	新日鉄室蘭	1イニング
574	21	鈴木	広之	〃	
575	22	竹村	誠	大阪ガス	先頭打者
576	23	三瓶	仁	ＮＴＴ東北	
577	24	植村	寛之	大阪ガス	
578	25	山下	和輝	プリンスホテル	
579	26	佐藤	友昭	〃	代打
580	27	西村	隆史	東芝	通算2本目
581	28	大久保秀昭		日本石油	
582	29	大久保秀昭		〃	1試合2本
583	30	若林	重喜	〃	通算6本目
584	31	高柳	靖法	〃	
585	32	多田	勇二	東芝	
	▶第20回記念大会				
586	1	恒吉	成樹	日立製作所	
587	2	砂田	弘樹	新日鉄広畑	通算2本目
588	3	村上竜太郎		三菱重工長崎	ランニング
589	4	井出	竜也	日本通運	通算2本目
590	5	田中	泰	〃	
591	6	徳永	耕治	日本石油	通算11本目
592	7	熊谷	亨	ＪＡ岩手県経済連	
593	8	戸羽	英之	ＮＴＴ東北	通算2本目
594	9	上島	格	日産自動車	
595	10	森	善康	四国銀行	
596	11	天川	務	日立製作所	
597	12	川崎	義文	日本通運	
598	13	川崎	義文	〃	2打席連続 通算2本目
599	14	井出	竜也	〃	通算3本目
600	15	高林	孝行	日本石油	通算2本目
601	16	藤木	豊	ＮＴＴ東北	ランニング
602	17	梶田	茂生	日本生命	
603	18	長谷部一彦		河合楽器	
604	19	渡	寛	大昭和製紙北海道	
605	20	小林	司	〃	
606	21	山田	晃之	住友金属	
607	22	山田	正浩	ＮＴＴ関西	
608	23	望月	秀久	大昭和製紙北海道	
609	24	青柳	信	日産自動車	
610	25	中西	保友	住友金属	
611	26	三瓶	仁	ＮＴＴ東北	通算2本目
612	27	早川健一郎		日産自動車	

	優勝	準優勝
第1回	三協精機	日本鋼管福山
第2回	鐘淵化学	北海道拓殖銀行
第3回	新日鉄名古屋	日鉱佐賀関
第4回	住友金属	電電四国
第5回	北海道拓殖銀行	東京ガス
第6回	住友金属	松下電器
第7回	日本鋼管福山	日本楽器
第8回	富士重工業	大昭和製紙北海道
第9回	ヤマハ発動機	日本通運
第10回	住友金属	東芝
第11回	住友金属	日本通運
第12回	本田技研	日本楽器
第13回	NTT東海	阿部企業
第14回	中山製鋼	熊谷組
第15回	東芝	本田技研熊本
第16回	住友金属	日本石油
第17回	日本生命	日本石油
第18回	日本石油	大阪ガス
第19回	東芝	プリンスホテル
第20回	住友金属	日産自動車

	最高殊勲選手
第1回	大塚喜代美・投手（三協精機）
第2回	宮田典計・投手（鐘淵化学）
第3回	水谷啓昭・投手（新日鉄名古屋）
第4回	森繁和・投手（住友金属）
第5回	高岡茂夫・内野手（北海道拓殖銀行）
第6回	高橋修二・投手（住友金属）
第7回	田村忠義・投手（日本鋼管福山）
第8回	向田佳元・投手（富士重工業）
第9回	鈴木政明・投手（ヤマハ発動機）
第10回	高橋修二・投手（住友金属）
第11回	高橋修二・投手（住友金属）
第12回	伊東昭光・投手（本田技研）
第13回	笠井孝志登・投手（NTT東海）
第14回	藤野悦勝・投手（中山製鋼）
第15回	南渕時高・内野手（東芝）
第16回	尾山敦・投手（住友金属）
第17回	新谷博・投手（日本生命）
第18回	鈴木健・投手（日本石油）
第19回	三原昇・投手（東芝）
第20回	尾山敦・投手（住友金属）

	敢闘賞
第1回	田村忠義・投手（日本鋼管福山）
第2回	山口敏男・投手（北海道拓殖銀行）
第3回	藤沢公也・投手（日鉱佐賀関）
第4回	小原慶司・投手（電電四国）
第5回	松沼博久・投手（東京ガス）
第6回	鍛治舎巧・内野手（松下電器）
第7回	久保真一郎・投手（日本楽器）
第8回	川瀬隆俊・投手（大昭和製紙北海道）
第9回	加藤正次・投手（日本通運）
第10回	川端順・投手（東芝）
第11回	伊藤由紀夫・内野手（日本通運）
第12回	高田博久・投手（日本楽器）
第13回	陽介仁・投手（阿部企業）
第14回	谷津田順一・投手（熊谷組）
第15回	尾崎定己・投手（本田技研熊本）
第16回	金沢健一・投手（日本石油）
第17回	五十嵐章人・外野手（日本石油）
第18回	西岡洋・投手（大阪ガス）
第19回	佐藤友昭・外野手（プリンスホテル）
第20回	川尻哲郎・投手（日産自動車）

	打撃賞
第1回	酒井信芳・内野手（三菱重工広島）
第2回	川内幸男・外野手（鐘淵化学） 宇山秀明・外野手（住友金属）
第3回	福島寿利・外野手（新日鉄名古屋）
第4回	吉田和幸・内野手（神戸製鋼）
第5回	小林達也・外野手（日産自動車）
第6回	三好一幸・外野手（住友金属）
第7回	山崎博行・外野手（神戸製鋼）
第8回	菊地恭一・外野手（東芝）
第9回	辻発彦・内野手（日本通運）
第10回	田辺浩昭・外野手（東芝）
第11回	平岡靖彦・外野手（松下電器）
第12回	山越吉洋・内野手（本田技研）
第13回	木戸均・外野手（NTT東海）
第14回	森脇勝二・内野手（中山製鋼）
第15回	高見泰範・捕手（東芝）
第16回	佐藤雄樹・内野手（住友金属）
第17回	十河章浩・内野手（日本生命）
第18回	徳永耕治・内野手（日本石油）
第19回	小林直人・内野手（東芝）
第20回	川畑伸一郎・内野手（住友金属）

	首位打者賞
第12回	雨堤浩久・外野手（本田技研） 13打数6安打・462
第13回	多田浩・外野手（NTT東北） 12打数7安打・583
第14回	山本真也・内野手（中山製鋼） 14打数7安打・500
第15回	田辺浩昭・外野手（東芝） 11打数7安打・636
第16回	佐藤雄樹・内野手（住友金属） 19打数10安打・526
第17回	松原和也・外野手（東芝） 11打数6安打・545
第18回	湯川素哉・外野手（大阪ガス） 21打数13安打・619
第19回	小林直人・内野手（東芝） 13打数6安打・462
〃	多田勇二・外野手（東芝） 13打数6安打・462
〃	佐藤友昭・外野手（プリンスホテル） 13打数6安打・462
第20回	恒吉成樹・内野手（日立製作所） 13打数7安打・539

地方連盟加盟チーム（平成6年4月現在）

社名
日本野球連盟北海道地区連盟
北海道野球連盟札幌支部
たくぎん
NTT北海道
航空自衛隊千歳
JR北海道
和弘食品（休部）
小樽野球協会
札幌倶楽部
札幌・広島ウインブレーザーズ
札幌ブルーインズ
北海道野球連盟室蘭支部
新日本製鐵室蘭
新王子製紙苫小牧
ヴィガしらおい
北海道野球連盟旭川支部
旭川自衛隊
日本製紙旭川
北海道野球連盟函館支部
函館太洋倶楽部
森倶楽部
日本野球連盟東北地区連盟
青森県野球連盟
自衛隊青森
三菱製紙八戸
オール青森
全弘前倶楽部
南郷村硬球会
青森ベースボールクラブ
岩手県野球連盟
アイワ岩手
岩手銀行
JA岩手県経済連
岩手東芝
北上ベースボール倶楽部
小野田セメント
東北ハーネス
宮城建設
赤崎野球クラブ
一戸桜陵クラブ

社　　名
一関三星倶楽部
前沢野球倶楽部
大槌球友硬式野球クラブ
オ　ー　ル　江　刺
オール釜石野球倶楽部
オール軽米野球部
オ　ー　ル　不　来　方
釜　石　野　球　団
北　　上　　球　　友
久　慈　ク　ラ　ブ
九　戸　ク　ラ　ブ
雫　石　ク　ラ　ブ
水　工　ク　ラ　ブ
住田硬式野球クラブ
高清物産花友クラブ
高　田　ク　ラ　ブ
遠　野　ク　ラ　ブ
平　泉　ク　ラ　ブ
福　高　ク　ラ　ブ
水沢駒形野球倶楽部
宮　高　倶　楽　部
盛　岡　倶　楽　部
盛岡市立クラブ
盛　友　ク　ラ　ブ
宮城県野球協会
N　T　T　東　北
J R東日本東北
J　　T
日本製紙石巻
七　十　七　銀　行
日産サニー宮城
阿部接骨院クラブ
石巻太平洋クラブ
石巻日和倶楽部
S　・　A　ク　ラ　ブ
オ　ノ　ヤ　ク　ラ　ブ
オ　ー　ル　カ　メ　イ
熱海自動車クラブ
気仙沼クラブ
仙　商　ク　ラ　ブ
仙台青葉倶楽部
東北福祉大学クラブ
白　山　ク　ラ　ブ

地方連盟加盟チーム（平成6年4月現在）

社　　名
秋田県野球連盟
秋　田　銀　行
J　R　秋　田
T　D　K
秋田王冠クラブ
秋田経法大校友クラブ
秋田ベースボールクラブ
ユーランドホテル八橋クラブ
大曲ベースボールクラブ
能代松陵クラブ
山形県野球連盟
山形しあわせ銀行
新庄球友クラブ
鶴岡野球クラブ
東海大山形ＯＢ
日大山形ＯＢ
三　川　ク　ラ　ブ
米沢中央クラブ
福島県野球協会
自　衛　隊　福　島
同仁社硬式野球部（休部）
ヨークベニマル
会津若松野球クラブ
飯塚病院クラブ
飯　野　ク　ラ　ブ
岩瀬書店クラブ
小名浜クラブ
学石Ｏ・Ｂクラブ
いわき菊田クラブ
オールいわきクラブ
川　俣　ク　ラ　ブ
郡山フレンズ
郡山ベースボールクラブ
小　峰　ク　ラ　ブ
須賀川クラブ
全白河野球クラブ
平工ＯＢ野球クラブ

社　　名
棚倉都々古クラブ
トヤ野球クラブ
福島クラブ
福島硬友クラブ
北斗野球クラブ
保原クラブ
二本松クラブ
ニュー相馬クラブ
矢吹クラブ
好間クラブ
日本野球連盟北信越地区連盟
長野県野球連盟
ＮＴＴ信越
ＴＤＫ千曲川
全松本クラブ
新潟県野球連盟
ニチエー
ＭＧクラブ
オール新発田クラブ
オール長岡野球倶楽部
オール東
柏崎マリンジェッターズ
五泉クラブ
佐渡軍団
新発田中央クラブ
白根野球団
全飯豊
長岡球友クラブ
新潟クラブ野球団
にいがたＫＤ
新潟コンマーシャル倶楽部
新津クラブ
新潟工業クラブ
富山県野球連盟
ＮＴＴ富山(休部)
伏木海陸運送
北陸銀行

地方連盟加盟チーム（平成6年4月現在）

社　　名
石川県野球連盟
ＮＴＴ北陸
日本野球連盟関東地区連盟
茨城県野球連盟
鹿島石油
住友金属鹿島
日立製作所
大宮クラブ
全鹿島野球クラブ
全神栖硬式野球クラブ
全東海野球団
全日立商高エイトカイ
全水戸野球クラブ
鉾田硬式野球クラブ
栃木県野球連盟
宇都宮クラブ
宇都宮大学ＯＢクラブ
作新クラブ
全足利クラブ
全宇都宮野球クラブ
全大田原
全鹿沼野球部
栃木野球倶楽部
栃木クラブ
防長ベースボールクラブ
群馬県野球連盟
富士重工業
全伊勢崎硬建クラブ
伊勢崎レッドソックス
大泉硬友野球クラブ
太田球友野球クラブ
全太田野球倶楽部
オール高崎野球倶楽部
桐生硬友クラブ
全前橋野球倶楽部
埼玉県野球連盟
鷲宮製作所狭山
日本通運
本田技研
かみかわ野球クラブ
川口球友クラブ
全浦和野球団

社　　名
全大宮野球団
全三郷硬式野球部
都幾川倶楽部野球団
新神戸電機埼玉
大和クラブ
千葉県野球連盟
NTT関東
川崎製鉄千葉
新日本製鐵君津
東京都野球連盟東京都支部
朝日生命
NTT東京
熊球(ゆうきゅう)クラブ
鷺宮製作所
JR東日本
さくら銀行
佐藤工務店
東京ガス
日本アイ・ビー・エム
プリンスホテル
明治生命
リクルート
東京自彊術CLUB
WIEN '94
東京都野球連盟多摩支部
シダックス硬式野球部
スリーボンド(休部)
東芝府中
全調布硬式野球倶楽部
全府中野球倶楽部
航空自衛隊府中
武蔵野クラブ
神奈川県野球協会
いすゞ自動車
東芝
日産自動車

地方連盟加盟チーム（平成6年4月現在）

社　　名
日　本　石　油
三菱自動車川崎
三　菱　重　工　横　浜
横　浜　そ　ご　う
横浜高島屋（休部）
住友電気工業横浜
WIEN BASEBALL CLUB
神　奈　川　ク　ラ　ブ
全　川　崎　ク　ラ　ブ
横　浜　球　友　ク　ラ　ブ
横　浜　金　港　ク　ラ　ブ
山　梨　県　野　球　連　盟
市　川　ク　ラ　ブ
大　月　ク　ラ　ブ
オ　ー　ル　櫛　形
桂　　ク　　ラ　　ブ
甲府ベースボールクラブ
東　海　甲　府　ク　ラ　ブ
山　梨　球　友　ク　ラ　ブ
日本野球連盟東海地区連盟
静　岡　県　野　球　協　会
河　　合　　楽　　器
関　東　自　動　車　工　業
大昭和製紙（休部）
ヤオハンジャパン
ヤ　　マ　　ハ
エースコンクラブ
岳　南　ク　ラ　ブ
菊　笠　ク　ラ　ブ
協　和　発　酵　ク　ラ　ブ
静岡硬式野球倶楽部
中　遠　ク　ラ　ブ
中電硬式野球クラブ
浜　商　闘　魂　会
浜松ウナポンズ
フジウンノ野球クラブ
富　士　ク　ラ　ブ
三　島　ク　ラ　ブ
ヤマハ発動機 誠和クラブ

社　　名
吉原クラブ
愛知県野球連盟
NTT東海
新王子製紙春日井
JR東海
新日本製鐵名古屋
大仙
東海理化
東邦ガス
トヨタ自動車
日通名古屋
三菱自動車岡崎
三菱重工名古屋
一光
岐阜県野球連盟
昭和コンクリート
西濃運輸
三重県野球連盟
サンジルシ醸造
本田技研鈴鹿
オール三重クラブ
奥伊勢クラブ
日本野球連盟近畿地区連盟
滋賀県野球連盟
日本アイ・ビー・エム野洲
甲賀総合科学専門学校
近江八幡野球クラブ
瀬田工OBクラブ
全大津野球団
京都府野球連盟
島津製作所
第一紙行
高島屋京都
日産車体・京都
日本新薬
丸勝
三菱自動車京都
京都信用金庫(休部)
大丸(休部)
鴨沂クラブ

地方連盟加盟チーム（平成6年4月現在）

社名
東山クラブ
洛友クラブ(休部)
大阪府野球連盟
NTT関西
大阪ガス
三和銀行
新日本製鐵堺
大和銀行
デュプロ
中山製鋼
松下電器
日本生命
大阪ペーシェンスクラブ
兵庫県野球連盟
阿部企業
川崎製鉄神戸
神戸製鋼
小西酒造
新日本製鐵広畑
田村コピー
三菱重工神戸
川崎重工(休部)
和歌山県野球連盟
住友金属
日本野球連盟中国地区連盟
岡山県野球連盟
川崎製鉄水島
三菱自動車水島
広島県野球連盟
NKK
NTT中国
JR西日本
常石鉄工
マツダ
三菱重工広島
三菱重工三原
ヤマコー
リースキン広島
スポーツ医学専門学校
大竹総合科学専門学校

社　　名
鳥取県野球連盟
新王子製紙米子
山口県野球連盟
協和発酵
航空自衛隊防府
新日本製鐵光
防府クラブ
日本野球連盟四国地区連盟
香川県野球連盟
JR四国
愛媛県野球連盟
NTT四国
徳島県野球連盟
徳島野球倶楽部
高知県野球連盟
四国銀行
日本野球連盟九州地区連盟
福岡県野球連盟
九州三菱自動車
JR九州
新日本製鐵八幡
日産自動車九州
大分県野球連盟
新日鐵大分
日鉱佐賀関(休部)
熊本県野球連盟
NTT九州
ニコニコドー
本田技研熊本
長崎県野球連盟
三菱重工長崎
沖縄県野球連盟
沖縄電力
琉球銀行クラブ

あとがき

社会人野球日本選手権大会は、1974年に始まった比較的新しいスポーツイベントです。とはいえ昨年11月、第20回の大きな節目の大会を迎えるまでに歴史を積み重ねて参りました。この間、日本のアマチュア野球は国際舞台に確固たる地位を築き、世界のトップクラスの実績を残しています。その戦力的中核を担ったのが、社会人野球。日本選手権ははるかに長い伝統を誇る都市対抗野球大会とともに、日本野球界のレベル向上に大きな役割を果たしてきた、と言えましょう。

日本選手権の年史としては、第10回大会開催後に編さん発行した「10年史」があります。しかし20年の節目としては追加版の形を取らず、10年史にはなかった出場選手一覧、一次予選記録などを掲載して資料面の充実を図るとともに、読みやすさも考慮して編集しました。

製作に当たり、正確な記述、記録記載に努めましたが、誤りがありましたら、毎日新聞大阪本社クリエイティブ本部(〒530-51大阪市北区梅田3の4の5、☎06-346-8371 Fax 06-346-8372)へご一報下されば幸いです。

この年史の編さんに際して、ご協力をいただいた日本野球連盟をはじめ連盟加盟チーム、選手、大会関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

《20年史編さん担当者》
〔毎日新聞大阪本社運動部〕鳥居宏司、相馬卓司、江尻進一、藤岡行弘、落合博、斉藤雅春、大坪康巳、内藤和彦、村上桂子
〔毎日新聞大阪本社クリエイティブ本部〕町田雅保、須賀潔、藤田孝二、南洋

社会人野球日本選手権大会20年史

1994年7月発行

編集　毎日新聞社

発行　毎日新聞社
日本野球連盟

©毎日新聞社